

西暦年	月	日	旧暦年	月	日	日付の直後の天気欄記入事項と(関連するその他の事項)
1821年	1月1日	文政3年	11月27日	曇	(去る23日広須組広苑村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓村預け)	
1821年	1月2日	文政3年	11月28日	曇	今晩丑の刻より雨時々降 夜二入 昨夜雪降 二寸程積ル (古懸不動尊御出汗・五山で先例の通り御祈祷)	
1821年	1月3日	文政3年	11月29日	曇	今日雪少し降	
1821年	1月4日	文政3年	12月1日	曇	今日雪少し降	
1821年	1月5日	文政3年	12月2日	曇	午の刻頃より雨降 夜二入 戌の刻頃止ム	
1821年	1月6日	文政3年	12月3日	曇	昨夜雪降 七寸程積 卯の刻頃より雨時々降 夜二入 戌の刻頃止ム 今晩寅二刻小寒二入ル	
1821年	1月7日	文政3年	12月4日	曇		
1821年	1月8日	文政3年	12月5日	曇	(赤石組御代官間山鉄五郎等に御賞) 下から続く 徘徊はまで通り、御山の内より木を盗み出した男に6鞭居村徘徊はまで通り)	
1821年	1月9日	文政3年	12月6日	曇	(博打をした6人に3鞭宛居村徘徊はまで通り・関係者に過料、沼崎村の乱暴者を当分牢居とする、偽手紙で酒肴を語り取った男に3鞭弘前町払い、手段米?の男に6鞭居町 上に続く	
1821年	1月10日	文政3年	12月7日	曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム (去月27日までに十三湯が氷閉・船通路相成り申さず)	
1821年	1月11日	文政3年	12月8日	快晴	昨夜雪少し降 下から続く 庄屋の取立てに不満で何をしたのかな・3人の男に9鞭宛居村払い・関係者にも過料)	
1821年	1月12日	文政3年	12月9日	曇	昨夜雪二寸程積 (何か分らないが生活苦で不届きな男に6鞭居村徘徊はまで通り・関係者に3鞭や過料、村方の争論に介入した青女子村の社人の社職取放ち居村払い、 上に続く	
1821年	1月13日	文政3年	12月10日	曇	今晩雪降 一寸余積 午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム	
1821年	1月14日	文政3年	12月11日	曇	昨夜雪少し降	
1821年	1月15日	文政3年	12月12日	曇	今日雪少し降	
1821年	1月16日	文政3年	12月13日	曇	今日雪降 二寸程積	
1821年	1月17日	文政3年	12月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪吹 下から続く 建家等焼失・火元村預け)	
1821年	1月18日	文政3年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 (勘定人その他にに御賞(金200疋・南鐐3片・金300疋・銀9兩・銀7兩・銀5兩・金100疋)、内南大橋御入用の石取に関連して御賞、去る11日油川組石神村で出火・ 上に続く	
1821年	1月19日	文政3年	12月16日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (盗み徒の男に3鞭養い親預け、締りのない御山締め方方に12鞭居村徘徊はまで通り・関係者に6鞭居村徘徊はまで通りや過料)	
1821年	1月20日	文政3年	12月17日	快晴		
1821年	1月21日	文政3年	12月18日	快晴	辰の七刻大寒二入	
1821年	1月22日	文政3年	12月19日	曇		
1821年	1月23日	文政3年	12月20日	晴	(人事異動)	
1821年	1月24日	文政3年	12月21日	曇	昨夜雪少し降	
1821年	1月25日	文政3年	12月22日	曇		
1821年	1月26日	文政3年	12月23日	快晴	(何か分らないが悪巧みをし不法の掛け合い打擲の不届き男2人に15鞭居村徘徊はまで通り・9鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)	
1821年	1月27日	文政3年	12月24日	晴		
1821年	1月28日	文政3年	12月25日	曇	今日雪少し降 (去る21日深浦町館町で出火・類焼3軒)	
1821年	1月29日	文政3年	12月26日	曇		
1821年	1月30日	文政3年	12月27日	曇	昨夜雪吹 五寸程積	
1821年	1月31日	文政3年	12月28日	晴	昨夜雪少降る (御屋形が侍従になった)	
1821年	2月1日	文政3年	12月29日	晴		
1821年	2月2日	文政3年	12月30日	晴		
1821年	2月3日	文政4年	正月1日	晴	(古懸(平出)不動尊御出汗・五山で先例の通り御祈祷)	
1821年	2月4日	文政4年	正月2日	曇	辰の刻頃より雨降 午の刻頃止	
1821年	2月5日	文政4年	正月3日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積	
1821年	2月6日	文政4年	正月4日	曇	今日雪忝寸余積 (当寒造り仕込米1俵に付き18文目5分で酒1升1文目2分1厘2毛余に当たる・酒1升を1文目2分5厘に仰せ付ける)	
1821年	2月7日	文政4年	正月5日	晴		
1821年	2月8日	文政4年	正月6日	晴		
1821年	2月9日	文政4年	正月7日	晴	(七種の御祝儀)	
1821年	2月10日	文政4年	正月8日	晴	(御徒目付古川某が松前で出奔)	
1821年	2月11日	文政4年	正月9日	曇	巳の刻頃より雨雪降 午の刻過ぎ止 (去ル6日夜油川組細越村で出火・類焼とも2軒建馬等焼失・火元百姓他村預け)	
1821年	2月12日	文政4年	正月10日	曇	昨夜雪降 四寸程積	
1821年	2月13日	文政4年	正月11日	晴		
1821年	2月14日	文政4年	正月12日	晴	今晩子の刻過ぎより雨降 寅の刻過ぎ止	
1821年	2月15日	文政4年	正月13日	曇	卯の刻過ぎより小雨降 巳の刻過ぎ止	
1821年	2月16日	文政4年	正月14日	快晴		
1821年	2月17日	文政4年	正月15日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止 卯の刻過ぎ雷鳴 則刻止	
1821年	2月18日	文政4年	正月16日	曇	今日雪降 二寸程積 (笠原八郎兵衛が御休息女中の内御中老格御側女中某を後妻に下し置かれる、人事異動)	
1821年	2月19日	文政4年	正月17日	曇	今日雪少降	
1821年	2月20日	文政4年	正月18日	曇	巳の刻頃より雨降 夜二入 亥の刻過ぎ止	
1821年	2月21日	文政4年	正月19日	曇	今日雪降 三寸程積	
1821年	2月22日	文政4年	正月20日	曇	(木村奎之助を御持筒足輕頭に對馬文太を御中小姓に等の人事異動、今日對馬文太が乱心御城中で安田吉弥江手傷・町同心を呼上げ文太を搦捕り手錠・吉弥に駕籠、江戸で御賞)	
1821年	2月23日	文政4年	正月21日	曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入 戌の刻止 (安田吉弥が死亡)	
1821年	2月24日	文政4年	正月22日	曇	今日雪吹	
1821年	2月25日	文政4年	正月23日	曇	今日雪少降	
1821年	2月26日	文政4年	正月24日	曇	辰の刻頃より雨降 夜二入 戌の刻頃止 未の刻頃雷鳴 則刻止 (昨23日田舎館組境松村で出火・建家外馬屋等焼失・火元居村預け)	
1821年	2月27日	文政4年	正月25日	曇	頃日再帰寒し	
1821年	2月28日	文政4年	正月26日	曇	昨夜雪少降	

1821年	3月1日	文政4年	正月27日	晴	(内南大橋……)
1821年	3月2日	文政4年	正月28日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 酉の刻過ぎ止
1821年	3月3日	文政4年	正月29日	曇	今日雪少降 (此の度の侍従(昇任)に関する配当を325人に15文宛申付け)
1821年	3月4日	文政4年	2月1日	曇	日蝕六分 申ノ一刻 今暁風強し (去月28日昼後潟組浜松村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1821年	3月5日	文政4年	2月2日	曇	(誰かの五十回御忌法事関連大赦として坊主ども等の徘徊御免)
1821年	3月6日	文政4年	2月3日	曇	今日雪降 二寸程積
1821年	3月7日	文政4年	2月4日	曇	今暁雪降 二寸余積 (旧ろう?御用銅などを積んで能代湊を出た佐竹様の御用船が深浦沖で荷打ち・深浦町の者共え売払う事件があった)
1821年	3月8日	文政4年	2月5日	快晴	(旧ろう御昇進に付き鯉ヶ沢町の者共より冥加金の申し出・早速飛び付き2415両と5貫目を江戸御常用金の不足に回す、御山伐り荒しとして横内組瀧澤山下乡の者に過料錢2貫400文など)
1821年	3月9日	文政4年	2月6日	曇	今日雪少降
1821年	3月10日	文政4年	2月7日	晴	
1821年	3月11日	文政4年	2月8日	快晴	戌の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止 (人事異動)
1821年	3月12日	文政4年	2月9日	曇	未の刻頃より雨時々降 夜二入 申の刻過ぎ雷鳴 則刻止
1821年	3月13日	文政4年	2月10日	快晴	昨夜より之雨今暁丑の刻頃止
1821年	3月14日	文政4年	2月11日	晴	
1821年	3月15日	文政4年	2月12日	曇	今暁卯の刻頃より雨降 則刻止 (去る11月12日夜碇ヶ間勤番目付が染藍6箇背負う者発見・品物捨て逃亡・御関所外にも26箇あり・発見者に下される)
1821年	3月16日	文政4年	2月13日	快晴	
1821年	3月17日	文政4年	2月14日	曇	今暁丑の刻より雨降 申の刻頃止
1821年	3月18日	文政4年	2月15日	曇	今暁丑の刻過ぎより雨降 午の刻頃止 (岩木川出水・駒越渡し場馬船往来差留める)
1821年	3月19日	文政4年	2月16日	曇	昨夜雪少降 (去る11日十三潟が大湊川尻より高根沖小股川尻まで残らず水明ける・去年は2月26日夕より翌27日朝まで・日数に引合16日早く節に引合27日早い)
1821年	3月20日	文政4年	2月17日	曇	(昨夜木部屋焼失の貴田十郎右衛門が出仕を差しひかえている)
1821年	3月21日	文政4年	2月18日	曇	
1821年	3月22日	文政4年	2月19日	曇	午の刻頃小雨降 則刻止 ((日付不明)駒越組兼平村で出火・建家種粃等焼失・火元居村預け、盗人に加担した男3人に3鞭居町徘徊はまで通り・類似の者に3鞭弘前町払い)
1821年	3月23日	文政4年	2月20日	曇	昨夜雪少降
1821年	3月24日	文政4年	2月21日	曇	今日雪少降
1821年	3月25日	文政4年	2月22日	曇	
1821年	3月26日	文政4年	2月23日	曇	今日雪少降
1821年	3月27日	文政4年	2月24日	曇	昨夜雪少降
1821年	3月28日	文政4年	2月25日	晴	下から続く 碇ヶ間から送り返したのに帰って盗み徒の男を当分の内牢居・その宿をした男に過料錢1貫800文)
1821年	3月29日	文政4年	2月26日	快晴	(去る4月弘前の所々の湯屋から衣類盗みの男に3鞭弘前町払い、去る8月和徳町で往来の女に不法したらしい男に30日の戸ノ、御家中の出奔の使用人に過料錢1貫800文、 上に続く
1821年	3月30日	文政4年	2月27日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止ム
1821年	3月31日	文政4年	2月28日	曇	亥の刻過ぎ小雨降 則刻止 (真壽院様御法事の配当として(座等・盲女に?)15文宛下し置かれる)
1821年	4月1日	文政4年	2月29日	曇	巳の刻過ぎ雨降 (菜種油1升値段4文目だったものを4文目6分に申し付ける)
1821年	4月2日	文政4年	2月30日	曇	今日雪少降 (御家中相馬某の倅出奔)
1821年	4月3日	文政4年	3月1日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜に入 酉の刻頃止ム (旧ろう御昇進に付き上納の冥加金品:金子482両(在方180・蟹田17・弘前125・青森160)・米660俵・錢306貫文)
1821年	4月4日	文政4年	3月2日	曇	今日雪少降 (昨夜百石町の御家中の居宅で木小屋焼失)
1821年	4月5日	文政4年	3月3日	晴	
1821年	4月6日	文政4年	3月4日	晴	昨夜雪少降 (去る3月野火が入り大小1046本の杉を焼失した碇ヶ間町の百姓より25文宛高無より10文宛・名主と庄屋より錢600文宛の過料とする)
1821年	4月7日	文政4年	3月5日	曇	
1821年	4月8日	文政4年	3月6日	曇	今暁丑の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止ム (岩木川出水・人馬往来差留める)
1821年	4月9日	文政4年	3月7日	晴	
1821年	4月10日	文政4年	3月8日	晴	
1821年	4月11日	文政4年	3月9日	晴	(未申御櫓之所より内東小橋之所迄御堀……)
1821年	4月12日	文政4年	3月10日	快晴	今暁霜強し (御昇進冥加金品(4人から):金22両・米60俵)
1821年	4月13日	文政4年	3月11日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 下から続く 下し置かれる、去る2日の大風で青森御蔵の内西大蔵並びに安方町御蔵が吹倒れる、甲斐守殿より川鱒1尺下される)
1821年	4月14日	文政4年	3月12日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 (去る11月高杉組櫓木村の者共が時疫で難渋・高杉村の在医に施薬させる・何れも快気・先例の通り1帖4分積で薬種代146文目4分を 上に続く
1821年	4月15日	文政4年	3月13日	快晴	(僧侶不似合いの行状として坊主が3人禁足)
1821年	4月16日	文政4年	3月14日	晴	申の刻過ぎより雨降 夜に入 (酒値段1升に付き1文目3分・1合売り8文ツツ商売するよう申し付ける、昨12日藤代組木筒村で出火・建家等焼失・火元村預け)
1821年	4月17日	文政4年	3月15日	曇	昨夜より之雨今日寅の刻過ぎ止 (石渡川4歩の出水・馬船差留める・駒越渡し場では両船とも差留める、一昨13日屋金木組喜良市村で出火・類焼3軒・火元他村預け、昨晚坊主禁足)
1821年	4月18日	文政4年	3月16日	快晴	(杣取り後に捨て置いた木品を拾い集めた中里村の男12人に6鞭宛居村徘徊はまで通り、御山に忍び入り盗み杣の男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1821年	4月19日	文政4年	3月17日	曇	酉の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1821年	4月20日	文政4年	3月18日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 昨夜より之風今日に及ぶ 強し (岩木川出水・駒越渡し場往来差留める)
1821年	4月21日	文政4年	3月19日	曇	(去る7月銅屋町で喧嘩・治療費を払い償み・戸ノ、去る14日屋岩崎村で出火・家数40軒ほど焼失)
1821年	4月22日	文政4年	3月20日	曇	昨夜雪少降 (盗み徒の男に3鞭親預け、詐欺の類かな男に3鞭居町徘徊はまで通り・関係者に戸ノ、御中小姓對馬文太が成田六左衛門宅で今晩切腹・詳細な経緯・関係者も処分)
1821年	4月23日	文政4年	3月21日	曇	酉の刻過ぎより雨降 則刻止 (人事異動、去る16日後潟組阿弥陀川村で出火・建家等馬1疋焼失・火元高無居村預け)
1821年	4月24日	文政4年	3月22日	快晴	
1821年	4月25日	文政4年	3月23日	晴	(去る20日浦町村で出火・居宅等焼失・火元高無村預け)
1821年	4月26日	文政4年	3月24日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 (盗み徒酒肴ねたれ取りの男2人を懲らしめの為当分牢居とする、御昇進に関する冥加(4人)金25両錢500目)
1821年	4月27日	文政4年	3月25日	晴	
1821年	4月28日	文政4年	3月26日	曇	
1821年	4月29日	文政4年	3月27日	曇	今暁寅の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止
1821年	4月30日	文政4年	3月28日	快晴	戌の刻過ぎより雨降 (人事異動、去る17日青森安方町から漁に出た3人が行方不明・去る18日木造新田牛潟村海辺に乗員のない船が2艘寄る)

1821年	5月1日	文政4年	3月29日 曇 昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止
1821年	5月2日	文政4年	4月1日 快晴 (大坂表で実体のない米の売買?博打同様との用語あり、当御発駕日限来月3日と仰せ出される)
1821年	5月3日	文政4年	4月2日 快晴 (和徳枅形近辺より薬王院裏通りまで土洩川で松明を焼き往來する者あり・止める様触れ、御山の木の伐り荒らしがあり多くの村中・庄屋等に過料・流木を盗み取った男共に過料)
1821年	5月4日	文政4年	4月3日 快晴 (角田某を勘定奉行兼役に、空米売買御制禁の公儀御触れあり、御山伐り荒しの不締りに付き多数の村に過料)
1821年	5月5日	文政4年	4月4日 快晴 (岩崎村の類焼の者共32軒に御手当て1軒に付き1俵ツツ下し置かれる、昨夜小嶋村で出火・火元堰役慎)
1821年	5月6日	文政4年	4月5日 快晴
1821年	5月7日	文政4年	4月6日 快晴 (對馬文太事件時に立ち去った小笠原某の身上召上げ永の暇(3月20日の処分に洩れたのかな?))
1821年	5月8日	文政4年	4月7日 快晴 子の刻頃より雨時々降
1821年	5月9日	文政4年	4月8日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 申の刻頃止 (三厩出張の人数を弘前に引上げよとの指示)
1821年	5月10日	文政4年	4月9日 晴 (人事異動、蟹田町奉行所に忍び込み盗みの町同心見習いに30鞭大場御構い10里四方追放、土蔵切破り盗みの男に30鞭大場御構い10里四方追放)
1821年	5月11日	文政4年	4月10日 晴 (当月6日平内領狩場沢口より入った仙台の嘉兵衛と申す者を早速弘前江引上げを申し付ける)
1821年	5月12日	文政4年	4月11日 晴 (杣取りの後から木を盗み出した男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1821年	5月13日	文政4年	4月12日 快晴
1821年	5月14日	文政4年	4月13日 快晴 (去る10日夜広須組沼館村で出火・早速取鎮める・火元居村預け、御昇進に付き青森町中より冥加金120両差上げる)
1821年	5月15日	文政4年	4月14日 快晴 (去月23日江戸発の御閑札役が今日到着)
1821年	5月16日	文政4年	4月15日 快晴 (津輕頼母を御旅中迄罷り登るよう仰せ付けられる・同人与力小田桐某を召し連れる) 下から続く を御旅中森岡辺迄派遣・御鉄砲10文目筒5挺持参)
1821年	5月17日	文政4年	4月16日 曇 巳の刻過ぎより小雨降 (去る8日朝今別町浜名の男女が丸木舟で鮭漁中に南風に流される・空舟が流れ寄せ助船を含め8人が行方不明、御小姓組等18人御手筒警固以下10人 上に続く
1821年	5月18日	文政4年	4月17日 曇 昨夜戌の刻過ぎより乃雨今日に及ぶ 巳の刻頃止 (先頃平内より御引上げの者(仙台の嘉兵衛)が宿変更の希望・揚屋の内女入置く一間の掃除仕り敷物相改め納得の上 欄外(*)に続く
1821年	5月19日	文政4年	4月18日 快晴 (福館村の喜三郎が冥加金1貫文差上げる、御閑所外中の番所と御境通りに御中小姓早道獵師等8人を派遣)
1821年	5月20日	文政4年	4月19日 快晴
1821年	5月21日	文政4年	4月20日 曇 辰の刻頃より小雨降 則刻止
1821年	5月22日	文政4年	4月21日 快晴
1821年	5月23日	文政4年	4月22日 快晴
1821年	5月24日	文政4年	4月23日 晴
1821年	5月25日	文政4年	4月24日 晴
1821年	5月26日	文政4年	4月25日 快晴
1821年	5月27日	文政4年	4月26日 曇 午の刻より雨降 雷鳴 則刻止 未の刻過ぎより雷鳴 雹 雨降 雷雨夜二入 (昨日柏木館山の内に煙・50間余×40間余焼失)
1821年	5月28日	文政4年	4月27日 曇 昨夜より乃雷雨今晚卯の刻頃止 (鯉ヶ沢え遠使差立てる) 下から続く 西館宇膳屋敷脇・大手御門と仰せ付けられる)
1821年	5月29日	文政4年	4月28日 曇 (26日昼八時頃堀越組高田村の田圃で男が落雷死、大間越よりの遠使到着・今日八時過ぎ大間越御飯屋に御着座・御着城は浜の町・紺屋町・亀甲町・蔵主町・寺町・本町・ 上に続く
1821年	5月30日	文政4年	4月29日 曇 (御着城八時半過ぎ)
1821年	5月31日	文政4年	5月1日 曇
1821年	6月1日	文政4年	5月2日 快晴
1821年	6月2日	文政4年	5月3日 晴
1821年	6月3日	文政4年	5月4日 快晴
1821年	6月4日	文政4年	5月5日 快晴
1821年	6月5日	文政4年	5月6日 快晴
1821年	6月6日	文政4年	5月7日 快晴 未の刻過ぎより雷鳴 則刻止
1821年	6月7日	文政4年	5月8日 快晴 未の刻より雨降 則刻止 (去る4日夜南浮田村で出火・建家等焼失・火元庄屋居村預け)
1821年	6月8日	文政4年	5月9日 曇 未の刻過ぎより雨時々降
1821年	6月9日	文政4年	5月10日 晴 昨夜より乃雨今日に及ぶ 辰の刻頃止
1821年	6月10日	文政4年	5月11日 快晴 申の刻過ぎより雨降 夜二入 (当御雇船が去る22日上総の国で水船になる)
1821年	6月11日	文政4年	5月12日 曇 昨夜より之雨今日に及ぶ 酉の刻過ぎ止 (西浜海岸通・碇ヶ関通りに骨折りの獵師・小又鬼に御手当て?)
1821年	6月12日	文政4年	5月13日 晴 未の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止
1821年	6月13日	文政4年	5月14日 曇 辰の刻過ぎより雨降 則刻止
1821年	6月14日	文政4年	5月15日 晴 (堀五郎左衛門を手廻一番組頭に等の人事異動、今回の帰国に関する御賞・御賞的なもの多数に)
1821年	6月15日	文政4年	5月16日 晴
1821年	6月16日	文政4年	5月17日 晴 巳の刻頃地震少シ (青森町で博打・口論手傷の江戸男を碇ヶ関口より送り返す)
1821年	6月17日	文政4年	5月18日 曇 未の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 (一昨16日常盤組十川村で出火・居宅並びに隣家小屋焼失・火元居村預け)
1821年	6月18日	文政4年	5月19日 晴 亥の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止
1821年	6月19日	文政4年	5月20日 晴 巳の刻より雨降 則刻止 (江戸で喧嘩・5人で1人を強く怪我させた男が手錠つきの駕籠で弘前下がり)
1821年	6月20日	文政4年	5月21日 曇 巳の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止
1821年	6月21日	文政4年	5月22日 曇 未の刻過ぎより雨降 夜二入 (鍛冶町土場近所で花火・注意しても雑言……)
1821年	6月22日	文政4年	5月23日 曇 昨夜より之雨卯の刻過ぎ止 辰の刻過ぎ雨降 夜二入 子の刻止
1821年	6月23日	文政4年	5月24日 曇 (縁組の話が色々出ている、当月初め松平越中守様御領分海岸に異国船・大筒にて打払う、御賞)
1821年	6月24日	文政4年	5月25日 晴
1821年	6月25日	文政4年	5月26日 晴 (御能初、御昇進の祝儀として笠原八郎兵衛などに銀5枚ツツなどを下し置かれる)
1821年	6月26日	文政4年	5月27日 曇 丑の刻過ぎより雨降 申の刻頃止
1821年	6月27日	文政4年	5月28日 晴 (連日御能かな?)
1821年	6月28日	文政4年	5月29日 晴
1821年	6月29日	文政4年	5月30日 曇 申の刻過ぎより雨降 夜二入 (商人躰にいたし南部者が御閑所を通る例が多い・疑わしきものは御閑所口より返すようにしている)
1821年	6月30日	文政4年	6月1日 曇 昨夜より之雨寅の刻過ぎ止
			(*) 同所に移す・揚屋番人同心3人を6人とし昼夜2人とする)

1821年	7月1日	文政4年	6月2日 曇	未の刻過ぎより雨降 則刻止
1821年	7月2日	文政4年	6月3日 曇	
1821年	7月3日	文政4年	6月4日 曇	卯の刻過ぎより雨少シ降 則刻止 (深浦に流れ着いた佐竹家の銅を隠し売った事件で深浦町同心4人と商人7人を手鎖付きで江戸に送る・道中の付添は苗字を名乗り大小を帯びる等)
1821年	7月4日	文政4年	6月5日 晴	午の刻過ぎより雨少シ降 則刻止
1821年	7月5日	文政4年	6月6日 晴	酉の刻頃より雨降 今暁卯の刻過ぎ止 下から続く 深浦町同心等の護送の詳細あり:途中で病死の場合は塩詰めにして仮埋葬江戸江飛脚等々)
1821年	7月6日	文政4年	6月7日 晴	(青田の内笛吹くなどの触れ、5月25日に野辺地より公儀御用銅を積み出帆の大坂船が27日鰯ヶ沢沖で水船となる・28日橋舟に乗り移り暮六時頃乗組みの8人が小泊領に漂着、 上に続く)
1821年	7月7日	文政4年	6月8日 晴	
1821年	7月8日	文政4年	6月9日 曇	辰の刻頃雨降 則刻止
1821年	7月9日	文政4年	6月10日 曇	辰の刻過ぎより大雨降 午の刻過ぎ止 (御郭御門内え他領者見物等に罷通る・外南御門・外東御門・亀甲御門・西坂御門は厳しく究明するよう申し付ける、隠れ炭焼きの村・庄屋に過料)
1821年	7月10日	文政4年	6月11日 晴	
1821年	7月11日	文政4年	6月12日 晴	(無刻印の桧を買った村・その庄屋に過料)
1821年	7月12日	文政4年	6月13日 快晴	(去る2月に博打・先年も同様の男に6鞭弘前御構い居村払い・関係五人組に過料)
1821年	7月13日	文政4年	6月14日 快晴	
1821年	7月14日	文政4年	6月15日 快晴	(笹森某を町奉行に・平沢三右衛門に御加増40俵等の人事異動)
1821年	7月15日	文政4年	6月16日 晴	亥の刻頃より雨降
1821年	7月16日	文政4年	6月17日 快晴	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止 未の刻過ぎより雷鳴 雨降 同刻過ぎ雷止 亥の刻頃止
1821年	7月17日	文政4年	6月18日 曇	午の刻より雨降 雷鳴 夜二入 (去月28日油川別段締まり役並びに勤番目付が白米30俵取り押さえる・関係庄屋に預け置く・白米は取り押さえた者共に下し置かれる)
1821年	7月18日	文政4年	6月19日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 下から続く 昨19日岩木川5歩の出水・駒越仮橋流失、去る16日夜青森町中米町で失火・取鎮める・火元戸ノ)
1821年	7月19日	文政4年	6月20日 曇	亥ノ六刻土用二入 (後潟村で24俵・内真部村で11俵・脇本村で2俵を取り押さえる・取り押さえた者共に下し置かれる、松前詰め of 掃除小人が病死・同人子を新規召抱え、 上に続く)
1821年	7月20日	文政4年	6月21日 曇	未の刻過ぎより雨降 則刻止 (人事異動)
1821年	7月21日	文政4年	6月22日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止
1821年	7月22日	文政4年	6月23日 曇	下から続く 証拠がないことを申立てた男に小売酒家業御取放30鞭大場御構い10里四方追放家財は妻子に・この仲間4人に18鞭居村村払い)
1821年	7月23日	文政4年	6月24日 晴	下から続く 19鞭居町徘徊はまで通り、博打の男に3鞭居町徘徊はまで通り・博打宿を貸した女に過料・同五人組に過料、禰宜町の前同様不埒の者を弘前町払い、 上に続く)
1821年	7月24日	文政4年	6月25日 快晴	申の刻頃雨少降 同刻止 下から続く 神殿を修復した神社の別当等に禁足・過料、杣取り後で盗伐りの男に6鞭居町徘徊はまで通り・過料、当3月に博打・傷害の男2人 上に続く)
1821年	7月25日	文政4年	6月26日 曇	辰の刻過ぎより雨降 子の刻頃止 (御郡内式歳駒は先年まで斃馬の分皮剥ぎ取らず尾耳ばかり切り取り上納していたが皮尾耳とも上納するよう申し付ける、無刻印の材木で 上に続く)
1821年	7月26日	文政4年	6月27日 快晴	
1821年	7月27日	文政4年	6月28日 曇	巳の刻頃より雨時々降 (大鰐村より初穂差出す)
1821年	7月28日	文政4年	6月29日 曇	昨夜より乃雨今暁寅の刻頃止
1821年	7月29日	文政4年	7月1日 曇	(人事異動)
1821年	7月30日	文政4年	7月2日 曇	巳の刻過ぎより雨降 夜二入
1821年	7月31日	文政4年	7月3日 曇	(3人に慎:其の方共儀出仕制限御定めも之の有る所度々遅刻に及び勤め方不屈き……)
1821年	8月1日	文政4年	7月4日 晴	子の刻過ぎより雨時々降
1821年	8月2日	文政4年	7月5日 曇	昨夜より乃雨今日に及ぶ 時々降
1821年	8月3日	文政4年	7月6日 曇	(天気不正に付き神明宮で日和上げ御神楽を差上げる、松前詰め of 御中小姓黒滝某が病死)
1821年	8月4日	文政4年	7月7日 晴	(人事異動)
1821年	8月5日	文政4年	7月8日 曇	今暁丑の刻より雨降 酉の刻頃止(曇今暁丑刻より雨降酉刻頃止) (人事異動)
1821年	8月6日	文政4年	7月9日 晴	
1821年	8月7日	文政4年	7月10日 晴	(大赦(追放並びに大場御構い)・牧野左次郎の倅栄太郎等の蟄居御免)、木綿隠し商売の男・五人組・庄屋に過料)
1821年	8月8日	文政4年	7月11日 晴	(牧野栄太郎を御手廻り二番組に等の人事異動、深浦町同心等を(6月)27日に松平伯耆守様に召し連れる)
1821年	8月9日	文政4年	7月12日 晴	(御賞:南鐐3片・銀9両・金100疋・鳥目1貫500文・同300文など)
1821年	8月10日	文政4年	7月13日 晴	
1821年	8月11日	文政4年	7月14日 晴	
1821年	8月12日	文政4年	7月15日 晴	
1821年	8月13日	文政4年	7月16日 曇	
1821年	8月14日	文政4年	7月17日 快晴	
1821年	8月15日	文政4年	7月18日 晴	(森岡金吾を御手廻り二番組に等の人事異動、桧の切株等が見つかった3村の者共に過料)
1821年	8月16日	文政4年	7月19日 晴	
1821年	8月17日	文政4年	7月20日 晴	(乳井市郎左衛門が病死)
1821年	8月18日	文政4年	7月21日 晴	(去る18日夜九時半頃より三厩町で出火・17軒焼失・御飯屋御番所に別状なし・公儀御用状並びに御荷物とも焼失・同所名主に慎を申し付ける)
1821年	8月19日	文政4年	7月22日 晴	未の刻過ぎより雨降 則刻止
1821年	8月20日	文政4年	7月23日 晴	
1821年	8月21日	文政4年	7月24日 晴	(当出盛り菜種1俵36匁9分4厘・水油値段5文目2分に仰付ける)
1821年	8月22日	文政4年	7月25日 晴	今暁丑の刻過ぎより雨降 寅の刻過ぎ止
1821年	8月23日	文政4年	7月26日 曇	今暁丑の刻より時々降 未の刻過ぎ止
1821年	8月24日	文政4年	7月27日 晴	
1821年	8月25日	文政4年	7月28日 晴	(大鰐組御代官より御初米7俵例年の通り差出す、人事異動、御賞)
1821年	8月26日	文政4年	7月29日 快晴	
1821年	8月27日	文政4年	7月30日 快晴	
1821年	8月28日	文政4年	8月1日 快晴	(人事異動)
1821年	8月29日	文政4年	8月2日 快晴	
1821年	8月30日	文政4年	8月3日 快晴	
1821年	8月31日	文政4年	8月4日 快晴	

1821年	9月1日	文政4年	8月5日 曇	巳の刻頃より小雨降 申の刻頃止 今日風強し	
1821年	9月2日	文政4年	8月6日 曇	今晚丑の刻より雨降 卯の刻頃止	
1821年	9月3日	文政4年	8月7日 晴	下から続く 三之丸大橋先までとしそれより内は相通す間じきこと等々)	
1821年	9月4日	文政4年	8月8日 曇	今晚丑の刻頃雨降 則刻止 下から続く 漆方取扱いの者の付き添いで・各商店の手代は予め店が渡す手札持参・御上下の節御雇いの他領者は雇い頭が御門に相断り	上に続く
1821年	9月5日	文政4年	8月9日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 (外南・外東・四之北・西坂御門の番所状目:江戸勝手も面々を含み御家中が召し連れる者も他国者を差留める・町方の者も吟味の上相通す・漆かきは	上に続く
1821年	9月6日	文政4年	8月10日 晴		
1821年	9月7日	文政4年	8月11日 晴		
1821年	9月8日	文政4年	8月12日 快晴	(後潟組根岸村の男が松前ホロイツミに流される・同所詰公儀お役人の助けで……、辰巳御櫓より未申之御櫓迄の内矢狭付き白壁の堀土台下の面石居二仰せ付けられ……)	
1821年	9月9日	文政4年	8月13日 快晴		
1821年	9月10日	文政4年	8月14日 快晴		
1821年	9月11日	文政4年	8月15日 快晴	(今日八幡宮神輿通御・五時御供揃えで三之丸御屋形に御出・同所で御囃子、御目見以下御留守居支配原田某が昨14日出奔・人相書きあり)	
1821年	9月12日	文政4年	8月16日 曇	辰の刻過ぎ雨降 則刻地震少シ 未の刻雨止	
1821年	9月13日	文政4年	8月17日 晴	昨夜子の刻頃地震少	
1821年	9月14日	文政4年	8月18日 晴	今晚子の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (昨夜四半時頃大間越町奉行として詰め合い中の今井某宅が焼失、三厩町の火元(7月18日か)の慎み免許)	
1821年	9月15日	文政4年	8月19日 晴		
1821年	9月16日	文政4年	8月20日 曇	酉の刻頃より雨時々降 今晚卯の刻頃止	
1821年	9月17日	文政4年	8月21日 曇	辰の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止 (人事異動)	
1821年	9月18日	文政4年	8月22日 曇	(一粒金丹3剤を広瀬某・和田某に調合させる、三厩町の出火(7月18日)で公儀御用状等が焼失してもめている)	
1821年	9月19日	文政4年	8月23日 晴	卯の刻頃地震 則刻止	
1821年	9月20日	文政4年	8月24日 晴	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 (去る5日4人乗りの松前船に1人が乗って風合瀬村前浜に流れ寄せる・3人行方不明、この節痼病一般に流行・在医から施薬させる)	
1821年	9月21日	文政4年	8月25日 快晴	(別段御用格別として7人に御賞)	
1821年	9月22日	文政4年	8月26日 曇	下から続く 某が破牢出奔・人相書きあり)	
1821年	9月23日	文政4年	8月27日 曇	(この節痼病一般流行・薬王院と大行院に痼病退散の重き御祈禱を仰せ付ける) 下から続く 半鐘五つ静かに打ち申すべきこと、昨27日黒石役人が御刑法伺いの福士屋	上に続く
1821年	9月24日	文政4年	8月28日 晴	(人事異動、御郭外十三町(弘前近郊に13町?)出火之節太鼓と半鐘打交候様・太鼓壱つ半鐘壱つ宛ドンチャンドンチャンと打候様、御郭内出火の節早半鐘打続候様、鎮火の節	上に続く
1821年	9月25日	文政4年	8月29日 晴	(今般の昇進に伴う大赦で永牢中の約20人を3里四方追放等の条件付で出牢・揚屋の者も類似的の御免・牢屋空に?、和田某・橋本某・百川某(何年か昔の強盗事件関係者)等には御免なし)	
1821年	9月26日	文政4年	9月1日 快晴	(人事異動、御賞)	
1821年	9月27日	文政4年	9月2日 曇	(人事異動)	
1821年	9月28日	文政4年	9月3日 晴		
1821年	9月29日	文政4年	9月4日 晴		
1821年	9月30日	文政4年	9月5日 曇	(鯨ヶ沢町の商人三国屋某が不埒の商売の吟味中出奔、青森出帆の江戸御廻船の筑前船が28日に南部尻谷領で御米300俵余荷打ち・勘定小頭等が(見分のため)出立)	
1821年	10月1日	文政4年	9月6日 晴		
1821年	10月2日	文政4年	9月7日 晴	(笠原八郎兵衛が江戸に出立)	
1821年	10月3日	文政4年	9月8日 晴		
1821年	10月4日	文政4年	9月9日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 子の刻頃止 (人事異動)	
1821年	10月5日	文政4年	9月10日 曇	巳の刻頃より小雨降 則刻止 未の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止	
1821年	10月6日	文政4年	9月11日 快晴	未の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (三之丸御馬場で馬術高覧、鶴の包丁高覧)	
1821年	10月7日	文政4年	9月12日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨時々降 巳の刻過ぎ止 (今朝御家中の弟変死)	
1821年	10月8日	文政4年	9月13日 晴		
1821年	10月9日	文政4年	9月14日 晴		
1821年	10月10日	文政4年	9月15日 曇	(人事異動、内南大橋等の御普請に関する御賞)	
1821年	10月11日	文政4年	9月16日 晴	(三国屋・梅屋仕込み味噌売賃値段:銭10文目に付き目形7貫500目)	
1821年	10月12日	文政4年	9月17日 晴	未の刻小雨時々降 夜二入	
1821年	10月13日	文政4年	9月18日 曇	昨夜より乃雨今日に及ぶ 時々降 今晚岩木山江初雪見る	
1821年	10月14日	文政4年	9月19日 曇	昨夜より乃雨今晚卯の刻止 申の刻頃より雨降 夜二入 子の刻頃止	
1821年	10月15日	文政4年	9月20日 曇	辰の刻過ぎ少々地震	
1821年	10月16日	文政4年	9月21日 曇	辰の刻頃地震	
1821年	10月17日	文政4年	9月22日 晴	(沢山の御家中が連日病死している)	
1821年	10月18日	文政4年	9月23日 晴		
1821年	10月19日	文政4年	9月24日 曇	(今日御家老御用人が西湖乃間で御夕御膳御相伴仰せ付けられる)	
1821年	10月20日	文政4年	9月25日 曇	午の刻頃より雨降 夜二入 戌の刻頃止	
1821年	10月21日	文政4年	9月26日 晴	戌の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止 (今日三之丸御屋形で御囃子)	
1821年	10月22日	文政4年	9月27日 曇	午の刻頃より雨降 夜二入	
1821年	10月23日	文政4年	9月28日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入	
1821年	10月24日	文政4年	9月29日 曇	昨夜より乃雨今日に及ぶ 時々降 夜二入	
1821年	10月25日	文政4年	9月30日 曇	昨夜より乃雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (初鯉2尺明日高岡に、去る28日金木新田豊岡村で出火・居宅焼失・火元社司慎み)	
1821年	10月26日	文政4年	10月1日 晴	昨夜より之雨今晚卯の刻頃止 (人事異動、御賞、多分御家中の高橋某に男子なく大鰐村百姓の二男を養子にしている、福眞清左衛門が頭寒強く総髪願いゝ了)	
1821年	10月27日	文政4年	10月2日 曇		
1821年	10月28日	文政4年	10月3日 晴	(去月22日碓ヶ関の間道を忍び通った秋田の男2人を荷物御取り上げの上送り返す)	
1821年	10月29日	文政4年	10月4日 晴		
1821年	10月30日	文政4年	10月5日 曇	今晚卯の刻より雨時々降 申の刻過ぎ止	
1821年	10月31日	文政4年	10月6日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入	

1821年 11月1日 文政4年	10月7日 曇	昨夜より乃雨今日に及ぶ 申の刻過ぎ止
1821年 11月2日 文政4年	10月8日 晴	申の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止 (十三町長濱に鯨寄せる・長さ9尋)
1821年 11月3日 文政4年	10月9日 晴	(三組頭の申し出で痢病流行に付き野稽古見合わせる)
1821年 11月4日 文政4年	10月10日 晴	(鯨ヶ沢の男が無理心中に失敗)
1821年 11月5日 文政4年	10月11日 曇	巳の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 (今日三之丸御屋形で御囃子)
1821年 11月6日 文政4年	10月12日 晴	
1821年 11月7日 文政4年	10月13日 曇	寅の刻頃より雨時々降 夜二入
1821年 11月8日 文政4年	10月14日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止 (去11月大鰐組居土村の者共が時疫・在医に施薬を申し付け快気・薬代を尋ねたら自分施薬にしたいとのこと・奇特の者に付き御賞南鐐5片)
1821年 11月9日 文政4年	10月15日 曇	(人事異動)
1821年 11月10日 文政4年	10月16日 晴	酉の刻過ぎより雨降 戌の刻頃止
1821年 11月11日 文政4年	10月17日 曇	今晚丑の刻頃より雨時々降 巳の刻頃止 午の刻過ぎ雷鳴 雨時々降 夜二入
1821年 11月12日 文政4年	10月18日 晴	昨夜より乃雨今晚寅の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより雨降 (御廻船用向きが完了して近々出立の津軽屋三右衛門支配人に先例の通り御手当金5両)
1821年 11月13日 文政4年	10月19日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (金木組大沢内村の高無が妻子引き連れ出奔、近年御献上の鮑が不漁で小泊並びに三厩の西の5ヶ村で平日の鮑漁を差留める)
1821年 11月14日 文政4年	10月20日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (今日三之丸御屋形で御囃子)
1821年 11月15日 文政4年	10月21日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 戌の刻過ぎ止ム (御家中の病死が多い)
1821年 11月16日 文政4年	10月22日 晴	未の刻頃より雨降 申の刻頃止
1821年 11月17日 文政4年	10月23日 晴	午の刻雨少降 則刻止 酉の刻過ぎより雨降 丑の刻過ぎ止
1821年 11月18日 文政4年	10月24日 晴	戌の刻過ぎより雨降 夜二入
1821年 11月19日 文政4年	10月25日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止 (間山鉄五郎等に御賞)
1821年 11月20日 文政4年	10月26日 曇	
1821年 11月21日 文政4年	10月27日 曇	戌の刻過ぎ小雨降 則刻止
1821年 11月22日 文政4年	10月28日 晴	
1821年 11月23日 文政4年	10月29日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入 亥の刻過ぎ止 (亀甲町に捨子・町内に預け置き養育)
1821年 11月24日 文政4年	10月30日 曇	
1821年 11月25日 文政4年	11月1日 曇	(桜庭某を錠口役兼郡奉行に等の人事異動、御賞、この度一列御次第の内繰り上げ役々：御小姓組の頭等々、御用銅に付き江戸に御呼出の上入牢の深浦町同心花田某が去る16日病死)
1821年 11月26日 文政4年	11月2日 曇	今晚寅の刻過ぎ小雨降 即刻止 (新酒1升到付き1文目3分に仰せ付ける)
1821年 11月27日 文政4年	11月3日 晴	(今日波之間で御囃子)
1821年 11月28日 文政4年	11月4日 曇	(当月10日より24日まで15日間の新穀日々付き相場：米1俵代22文目)
1821年 11月29日 文政4年	11月5日 曇	
1821年 11月30日 文政4年	11月6日 曇	
1821年 12月1日 文政4年	11月7日 晴	午の刻過ぎ地震 則刻止 (御家中の家来が慈雲院境内で縊死)
1821年 12月2日 文政4年	11月8日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨降 辰の刻頃止 (松前表で御刑法が済み村送り中の男を浪岡村で取り逃がす・人相書きあり：せい5尺3寸位など)
1821年 12月3日 文政4年	11月9日 曇	昨夜雪降 六寸位積る (今日初雪に付きご機嫌伺い申上げる、去月23日亀甲町の捨子を預かりたい者が現れ1月に1人扶持銭10文目宛差し違わすこととする)
1821年 12月4日 文政4年	11月10日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 戌の刻頃止 (当新粒油値段1升到付き5文目5分に仰せ付ける)
1821年 12月5日 文政4年	11月11日 晴	(今日梅之間で御囃子、8月3日青森出帆の御廻船の遠州船が9月19日南部宮古浦・当月3日仙台荒浜沖まで行ったが4日に大風雨に田代嶋辺りで破船)
1821年 12月6日 文政4年	11月12日 晴	(人事異動)
1821年 12月7日 文政4年	11月13日 曇	
1821年 12月8日 文政4年	11月14日 曇	
1821年 12月9日 文政4年	11月15日 曇	(去る12日青森安方町で出火・2軒焼失・御仮屋別状なし、駒越組紙漉沢村の者共が時疫・町医に施薬を仰せ付ける)
1821年 12月10日 文政4年	11月16日 曇	
1821年 12月11日 文政4年	11月17日 晴	(昨16日夜高杉組独鉦村で出火・類焼1軒・火元庄屋、去る12日夜小泊村で出火・居宅焼失・翌日の記録で馬2疋焼失火元村預け、去る13日曉野内町で出火・火元戸ノ)
1821年 12月12日 文政4年	11月18日 曇	
1821年 12月13日 文政4年	11月19日 曇	巳の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 (上方取組古米1俵1貫242文・新米1俵1貫212文に)
1821年 12月14日 文政4年	11月20日 晴	未の刻過ぎ小雨降 夜二入 亥の刻過ぎ止 (今日梅之間で御囃子)
1821年 12月15日 文政4年	11月21日 晴	
1821年 12月16日 文政4年	11月22日 晴	酉の刻過ぎより雨降 子の刻過ぎ止
1821年 12月17日 文政4年	11月23日 曇	
1821年 12月18日 文政4年	11月24日 晴	
1821年 12月19日 文政4年	11月25日 晴	
1821年 12月20日 文政4年	11月26日 曇	卯の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止
1821年 12月21日 文政4年	11月27日 曇	
1821年 12月22日 文政4年	11月28日 曇	(新屋村極難の者時疫・尾崎村在医から施薬)
1821年 12月23日 文政4年	11月29日 曇	
1821年 12月24日 文政4年	12月1日 晴	(武田弥学より志なひ(竹刀)試合の高覧は済んだが木刀にたん本(たんぼ)付け頬面並びに小手を用いる試合の高覧願ひ・了、御目見以下が門弟を引きつれて高覧の席に出てよいか・了)
1821年 12月25日 文政4年	12月2日 曇	
1821年 12月26日 文政4年	12月3日 曇	(去月28日木造新田床前村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1821年 12月27日 文政4年	12月4日 曇	
1821年 12月28日 文政4年	12月5日 晴	(御家中に御手当て・100石に100目、去月29日より当月朔日までに十三潟が残らず氷張る)
1821年 12月29日 文政4年	12月6日 曇	
1821年 12月30日 文政4年	12月7日 曇	今日雪降 三寸位積る (当9月に重き御祈禱を仰せ付けた各寺に御布施(銀2枚・金200疋・同100疋))
1821年 12月31日 文政4年	12月8日 晴	(御賞、人事異動)

1822年	1月1日	文政4年	12月9日	曇	今暁卯の刻過ぎ雷鳴 則刻止 雨時々 未の刻過止 (御賞(金200疋・金1歩))
1822年	1月2日	文政4年	12月10日	晴	(御賞(金200疋・金1両・鳥目700文・同300文・同1貫文、酒狂いで自身番の者等を打擲した掃除小人の身上召上げ永の暇)
1822年	1月3日	文政4年	12月11日	曇	今暁雪降 七寸程積 (人事異動、町同心28人その他に御賞、廻船1艘に付き(多分借料)銀20貫目・10艘200貫目は金に直し3300両余)
1822年	1月4日	文政4年	12月12日	曇	今日雪少降 (御賞(金500疋・銀3両・金700疋・銀7両・南鐐3片・金2歩2朱・鳥目1貫文・同700文・銀9両・鳥目1貫800文・南鐐5片・鳥目5貫文等々)が多い・どうしてもいららす)
1822年	1月5日	文政4年	12月13日	曇	今夕雪余程積
1822年	1月6日	文政4年	12月14日	晴	巳の一刻寒二入 (御賞)
1822年	1月7日	文政4年	12月15日	曇	今日雪時々降
1822年	1月8日	文政4年	12月16日	曇	今日申の刻過ぎより雪少降 (一昨14日夜駒越組葛原村で出火・建家焼失・火元村預け)
1822年	1月9日	文政4年	12月17日	曇	今日雪時々降 (御賞)
1822年	1月10日	文政4年	12月18日	晴	
1822年	1月11日	文政4年	12月19日	晴	
1822年	1月12日	文政4年	12月20日	曇	今日雪時々降 (御賞、松前志摩守に彼の地一円を前のごとお返しくださる・当藩は渡海口に(兵を)備え置くようになる)
1822年	1月13日	文政4年	12月21日	曇	今日雪時々降 (御賞)
1822年	1月14日	文政4年	12月22日	晴	(御賞(金1000疋・同300疋・鳥目3貫文・同500文等)、人事異動)
1822年	1月15日	文政4年	12月23日	晴	頃日寒氣強し (御賞)
1822年	1月16日	文政4年	12月24日	曇	今日雪時々降
1822年	1月17日	文政4年	12月25日	曇	
1822年	1月18日	文政4年	12月26日	曇	昨夜雪降 (無益の遊民(生国姓名紛らわしき浪人・諸勸進・薦僧・六十六部・俳諧師・書画師・淨瑠璃語り等)の閑所・間道の通行を改めて禁じている)
1822年	1月19日	文政4年	12月27日	曇	今日雪時々降 (今日梅之間で御囃子)
1822年	1月20日	文政4年	12月28日	晴	(人事異動、御賞)
1822年	1月21日	文政4年	12月29日	曇	
1822年	1月22日	文政4年	12月30日	曇	
1822年	1月23日	文政5年	正月1日	晴	
1822年	1月24日	文政5年	正月2日	晴	
1822年	1月25日	文政5年	正月3日	晴	酉の刻過ぎより雪降る (今晚御謡初、御吉例金200両を御金奉行より差出す)
1822年	1月26日	文政5年	正月4日	曇	今日雪降 一尺位積る (例年の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)
1822年	1月27日	文政5年	正月5日	晴	
1822年	1月28日	文政5年	正月6日	曇	雪少シ降 (今日梅之間で御囃子)
1822年	1月29日	文政5年	正月7日	曇	
1822年	1月30日	文政5年	正月8日	晴	
1822年	1月31日	文政5年	正月9日	曇	
1822年	2月1日	文政5年	正月10日	曇	昨夜より之雪一寸余積る 時々降
1822年	2月2日	文政5年	正月11日	晴	昨夜より之雪五寸位積る 今日寒氣強シ (毛内左門次郎を諸手足輕頭に等の人事異動)
1822年	2月3日	文政5年	正月12日	晴	未の刻より雪時々降 夜二入 今日寒氣強シ
1822年	2月4日	文政5年	正月13日	曇	今暁午の刻過ぎ地震少々 則刻止ム 昨夜より之雪今日二至 時々降 尤四寸位積る
1822年	2月5日	文政5年	正月14日	晴	昨夜より之雪今日二至 四寸位積 尤辰の刻頃止ム
1822年	2月6日	文政5年	正月15日	晴	今朝余寒強シ 亥の刻過ぎ地震少々 則刻止ム (人事異動)
1822年	2月7日	文政5年	正月16日	晴	今暁雪降 四寸位積る 今日余寒強シ
1822年	2月8日	文政5年	正月17日	曇	(御国許近來熟作候得共米価下落致し且夏頃より痼病流行……10石に付き金1両の積を持って御手当て、(江戸で)御賞)
1822年	2月9日	文政5年	正月18日	晴	
1822年	2月10日	文政5年	正月19日	晴	
1822年	2月11日	文政5年	正月20日	曇	辰の刻頃地震少々 則刻止ム
1822年	2月12日	文政5年	正月21日	晴	
1822年	2月13日	文政5年	正月22日	晴	
1822年	2月14日	文政5年	正月23日	曇	(今日御慰之御囃子)
1822年	2月15日	文政5年	正月24日	曇	
1822年	2月16日	文政5年	正月25日	晴	今日余寒強シ (増館組吉野田・郷山前・樽沢・増館の4ヶ村で時疫・富柳村の在医が施業)
1822年	2月17日	文政5年	正月26日	晴	
1822年	2月18日	文政5年	正月27日	曇	昨夜雪降 三寸位積る 今日雪少シ降
1822年	2月19日	文政5年	正月28日	晴	
1822年	2月20日	文政5年	正月29日	曇	雪少シ降る (去る寒造米1俵平均20目であり酒値段1升1文目3分に仰せ付ける)
1822年	2月21日	文政5年	正月30日	曇	昨夜雪降 一寸位積る 今日雪少シ降
1822年	2月22日	文政5年	閏正月1日	晴	辰の刻頃地震少々 (人事異動)
1822年	2月23日	文政5年	閏正月2日	曇	午の刻頃雨降 夜二入 亥の刻過ぎ止ム
1822年	2月24日	文政5年	閏正月3日	曇	今日雪吹
1822年	2月25日	文政5年	閏正月4日	曇	今日雪吹
1822年	2月26日	文政5年	閏正月5日	曇	今日雪少し降 頃日余寒強シ
1822年	2月27日	文政5年	閏正月6日	曇	雪少降 (御慰之御囃子、(前後の状況は判らないが)役人が見分してから片付ける死亡内訳:水溺死・吹倒死・雪なて死・木ニ打れ死・狼ニ懸けられ相果候者・倒死・う(く?)わす死)
1822年	2月28日	文政5年	閏正月7日	晴	

1822年	3月1日	文政5年	閏正月8日	曇	
1822年	3月2日	文政5年	閏正月9日	曇	雪少シ降 (御賞)
1822年	3月3日	文政5年	閏正月10日	晴	
1822年	3月4日	文政5年	閏正月11日	晴	
1822年	3月5日	文政5年	閏正月12日	晴	(去る秋横内組浦町組で痢病・大野村の在医に施薬させる・薬料を申し出ないので御賞南鐐1片を下し置かれる)
1822年	3月6日	文政5年	閏正月13日	晴	
1822年	3月7日	文政5年	閏正月14日	晴	
1822年	3月8日	文政5年	閏正月15日	晴	
1822年	3月9日	文政5年	閏正月16日	曇	今暁寅の刻頃より雨降 申の刻頃止ム
1822年	3月10日	文政5年	閏正月17日	晴	
1822年	3月11日	文政5年	閏正月18日	晴	
1822年	3月12日	文政5年	閏正月19日	曇	
1822年	3月13日	文政5年	閏正月20日	曇	雪少シ降 (御慰の御囃子、当年は格別厚雪に付き……)
1822年	3月14日	文政5年	閏正月21日	曇	雪少シ降
1822年	3月15日	文政5年	閏正月22日	曇	巳の刻頃雨少シ降 則刻止ム
1822年	3月16日	文政5年	閏正月23日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入る (昨夜高杉村で出火・建家馬2疋等焼失・火元百姓村預け)
1822年	3月17日	文政5年	閏正月24日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止ム (今日芙蓉之間で剣術高覧)
1822年	3月18日	文政5年	閏正月25日	晴	(江戸御常用品不足・3月払いが?1250両・送るための為替金400両のほかなし・之を御家中に預けて登らせる)
1822年	3月19日	文政5年	閏正月26日	晴	
1822年	3月20日	文政5年	閏正月27日	晴	(御家中甲冑兵士前にて新規出来1領に付き1貫500目充にて1ヵ年に12領出来・右代錢100石以上の族より1ヵ年70目宛当秋より御差引……)
1822年	3月21日	文政5年	閏正月28日	晴	
1822年	3月22日	文政5年	閏正月29日	曇	(去る24日夜宇田村で出火・類焼とも3軒焼失、当御廻船上乗り85人・下乗り76人を仰せ付ける)
1822年	3月23日	文政5年	2月1日	曇	(人事異動、宇田村の火元は類焼があり他村預け)
1822年	3月24日	文政5年	2月2日	曇	今暁子の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム
1822年	3月25日	文政5年	2月3日	曇	今暁丑の刻過ぎ地震少々 則刻止
1822年	3月26日	文政5年	2月4日	曇	昨夜雪少シ降 (今日御舞台で御慰の御能)
1822年	3月27日	文政5年	2月5日	曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入る 亥の刻過ぎ止ム
1822年	3月28日	文政5年	2月6日	晴	(一昨4日夜水野尾村(俵元新田)で出火・建家等焼失・火元高無村預け、去る朔日暮より翌2日朝までに十三湯の大湊川尻より高根沖小俣川尻まで残らず氷明ける)
1822年	3月29日	文政5年	2月7日	晴	
1822年	3月30日	文政5年	2月8日	晴	
1822年	3月31日	文政5年	2月9日	曇	申の刻過ぎ雷雨 雷則刻止 雨夜二入 亥の刻過ぎ止ム
1822年	4月1日	文政5年	2月10日	曇	
1822年	4月2日	文政5年	2月11日	曇	昨夜雪少シ降
1822年	4月3日	文政5年	2月12日	曇	今日風強シ (昨晚藤崎村で出火・類焼外馬屋とも3軒焼失・火元他村預け)
1822年	4月4日	文政5年	2月13日	晴	
1822年	4月5日	文政5年	2月14日	晴	(一昨12日富田村樹木派で出火・家だけ焼失かな・火元居村預け)
1822年	4月6日	文政5年	2月15日	曇	未の刻より雨降 則刻止ム (人事異動、実貞出情相勤めた町同心加勢に御酒代鳥目500疋(鳥目の疋単位は知らない)充下し置かれる)
1822年	4月7日	文政5年	2月16日	曇	
1822年	4月8日	文政5年	2月17日	晴	
1822年	4月9日	文政5年	2月18日	曇	午の刻頃雨時々降 申の刻過ぎ止ム 亥の刻過ぎより雨時々降る
1822年	4月10日	文政5年	2月19日	曇	昨夜より之雨今日時々に及ぶ 午の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨及今日時々午刻過ぎ止ム)
1822年	4月11日	文政5年	2月20日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降る (去る12日浪岡組中野村の1家6人出奔、郡奉行が申し出るには新偽銭?が多く入り込んでいる)
1822年	4月12日	文政5年	2月21日	曇	昨夜より之雨今暁に及ぶ 寅の刻頃止ム 未の刻頃より雨時々降 夜二入 亥の刻止ム (昨夜五時過ぎ東長町に捨子・貰い乳で育てよう申し付ける)
1822年	4月13日	文政5年	2月22日	晴	
1822年	4月14日	文政5年	2月23日	曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム
1822年	4月15日	文政5年	2月24日	曇	(一昨22日夜藤崎村で出火・居宅焼失・火元村預け)
1822年	4月16日	文政5年	2月25日	曇	巳の刻頃雨降 雷鳴 則刻止ム 雨茂止ム (昨夜富田村で木小屋焼失・火元村預け)
1822年	4月17日	文政5年	2月26日	曇	午の刻過ぎ雨降 則刻止ム
1822年	4月18日	文政5年	2月27日	晴	(今夜五時過ぎ元長町の御家中の木部屋より出火・類焼・潰家あり・火元入寺慎み)
1822年	4月19日	文政5年	2月28日	晴	酉の刻より雨降 夜二入
1822年	4月20日	文政5年	2月29日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降る 夜二入る 戌の刻頃止ム
1822年	4月21日	文政5年	2月30日	曇	
1822年	4月22日	文政5年	3月1日	晴	
1822年	4月23日	文政5年	3月2日	晴	(今日剣術高覧)
1822年	4月24日	文政5年	3月3日	曇	午の刻頃より小雨降 申の刻過ぎ止ム (人事異動)
1822年	4月25日	文政5年	3月4日	晴	
1822年	4月26日	文政5年	3月5日	晴	今日午の刻過ぎ地震少々
1822年	4月27日	文政5年	3月6日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入る 戌の刻頃止ム (今日御舞台で御慰御能仰せ出される)
1822年	4月28日	文政5年	3月7日	晴	
1822年	4月29日	文政5年	3月8日	晴	(南部大膳太夫内の本堂・長内から津軽越中守内の田中太郎五郎・笹森次左衛門に手紙、その返書は逆順となり笹森・田中から長内・本堂にあてている)
1822年	4月30日	文政5年	3月9日	曇	

1822年	5月1日	文政5年	3月10日 曇	(昨夜藤代組小友村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け、昨日八時頃駒越組村市村で出火・類焼とも12軒焼失・火元高無)	
1822年	5月2日	文政5年	3月11日 晴		
1822年	5月3日	文政5年	3月12日 晴		
1822年	5月4日	文政5年	3月13日 快晴	(増館組4ヶ村の者共時疫・富柳村の在医に施薬を仰せ付ける、9日村市村の12軒焼失の火元は他村預け、將軍とその息子の称号が変わったのかな?)	
1822年	5月5日	文政5年	3月14日 快晴		
1822年	5月6日	文政5年	3月15日 晴	戌の刻過ぎより雨降 (昨夜四時頃浪岡組長沼村で出火・居宅並びに外馬屋焼失・火元村預け)	
1822年	5月7日	文政5年	3月16日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 午の刻過ぎ止ム (岩木川・石渡川6歩の出水→7歩の出水になる→まもなく落水)	
1822年	5月8日	文政5年	3月17日 晴		
1822年	5月9日	文政5年	3月18日 晴	(人事異動、御賞)	
1822年	5月10日	文政5年	3月19日 晴		
1822年	5月11日	文政5年	3月20日 曇	午の刻過ぎ小雨降 未の刻過ぎ止ム ((日付不明)金木組蒔田村で出火・類焼1軒あり・火元他村預け)	
1822年	5月12日	文政5年	3月21日 晴	(秋田出生の盗人を碇ヶ関口送り返し)	
1822年	5月13日	文政5年	3月22日 曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止ム	
1822年	5月14日	文政5年	3月23日 曇	今晩丑の刻過ぎ雨降 則刻過ぎ雷鳴 則刻止ム 雨卯の刻過ぎ止ム	
1822年	5月15日	文政5年	3月24日 曇		
1822年	5月16日	文政5年	3月25日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム	
1822年	5月17日	文政5年	3月26日 晴	亥の刻過ぎより雨時々降る (御発駕御祝儀の御料理事、桜庭半兵衛を大組足輕頭に等の人事異動、去る5日茶臼館寛院で仏像8体が盗まれる)	
1822年	5月18日	文政5年	3月27日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム (去年久田村の100歳の祖母に生涯2人扶持を下し置かれる・今年は小泊村の母が100歳で同様とする)	
1822年	5月19日	文政5年	3月28日 曇	今晩丑の刻過ぎより雨時々降 戌の刻頃止ム (去る22日桶屋町に捨子・養育したい旨了承する)	
1822年	5月20日	文政5年	3月29日 曇	下から続く 昨今日出生の男子捨子・貰い乳の上置かれた家が育てることとする)	
1822年	5月21日	文政5年	4月1日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降る (笹森勘解由が先祖の名として多喜右衛門と改名、頃日天気打ち続き不正に付き丹後者詮索・居合わせれば早速送り返す、昨夜五時過ぎ東長町に	上に続く
1822年	5月22日	文政5年	4月2日 曇	子の刻過ぎより雨降 則刻過ぎ止ム	
1822年	5月23日	文政5年	4月3日 曇		
1822年	5月24日	文政5年	4月4日 晴	(人事異動)	
1822年	5月25日	文政5年	4月5日 曇	未の刻過ぎ雨降 申の刻過ぎ止ム (病気の御家中が姉婿宅に乗り込み2人に手傷を負わせる・一間所に入れておく)	
1822年	5月26日	文政5年	4月6日 曇	(今日梅之間で御囃子)	
1822年	5月27日	文政5年	4月7日 曇		
1822年	5月28日	文政5年	4月8日 曇	午の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止ム	
1822年	5月29日	文政5年	4月9日 曇		
1822年	5月30日	文政5年	4月10日 曇		
1822年	5月31日	文政5年	4月11日 晴	(四ツ時益御機嫌能(江戸に)御発駕遊ばされる)	
1822年	6月1日	文政5年	4月12日 快晴	(屋形様碇ヶ関御飯屋江御着座)	
1822年	6月2日	文政5年	4月13日 曇	(高倉六郎次郎が相模と改名)	
1822年	6月3日	文政5年	4月14日 晴		
1822年	6月4日	文政5年	4月15日 曇	卯の刻過ぎより雷雨 則刻止 未の刻頃より雷雨 則刻雷止 雨時々降 夜二入る (今井新兵衛を御馬廻番頭に等の人事異動)	
1822年	6月5日	文政5年	4月16日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る	
1822年	6月6日	文政5年	4月17日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜入る (家屋敷売り払い小屋掛けのために仕立て山を伐り荒らした男の代庄屋に過料銭600文)	
1822年	6月7日	文政5年	4月18日		
1822年	6月8日	文政5年	4月19日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 同刻より風強シ 辰の刻頃止ム (人事異動、御賞)	
1822年	6月9日	文政5年	4月20日 快晴	(人事異動)	
1822年	6月10日	文政5年	4月21日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 酉の刻頃止ム (御賞)	
1822年	6月11日	文政5年	4月22日 晴	下から続く 杉を徒伐りの男2人に3鞭宛居村徘徊はまで通り)	
1822年	6月12日	文政5年	4月23日 曇	卯の刻過ぎより雨降 申の刻頃止ム (去る11月酒狂いで女房を刀の鞘で叩いた所鞘が抜けて傷を負わせた外背負っていた子供を切殺した男に15鞭居町徘徊はまで通り、山の	上に続く
1822年	6月13日	文政5年	4月24日 快晴		
1822年	6月14日	文政5年	4月25日 晴	(後潟組中師村の鍛冶一家が出奔)	
1822年	6月15日	文政5年	4月26日 快晴		
1822年	6月16日	文政5年	4月27日 快晴	(去る24日川原平村で出火・建家外馬屋焼失・火元居村預け)	
1822年	6月17日	文政5年	4月28日 晴	(人事異動)	
1822年	6月18日	文政5年	4月29日 快晴		
1822年	6月19日	文政5年	5月1日 曇	(木作新田牛潟村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け、去る秋駒越組紙漉沢村で時疫、昨日松木平村で出火・類焼とも6軒焼失・火元高無他村預け)	
1822年	6月20日	文政5年	5月2日 晴		
1822年	6月21日	文政5年	5月3日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム	
1822年	6月22日	文政5年	5月4日 曇	(去る朔日猿賀組高賀野村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)	
1822年	6月23日	文政5年	5月5日 晴		
1822年	6月24日	文政5年	5月6日 曇	(去月6日江戸で諸手足輕が松井町の下女を突き殺し自害)	
1822年	6月25日	文政5年	5月7日 晴	(一昨4日夜飯詰組松野木村で出火・類焼なし)	
1822年	6月26日	文政5年	5月8日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入る 下から続く 出火・焼失1軒・火元居村預け)	
1822年	6月27日	文政5年	5月9日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (去る7月大赦で出奔人106人(弘前11・青森6・鰐ヶ沢3・深浦1・蟹田1・碇ヶ関2・在方の者82)を御免、去る7日広須組出崎村で	上に続く
1822年	6月28日	文政5年	5月10日 晴		
1822年	6月29日	文政5年	5月11日 曇	今晩寅の刻時々東風強吹 夜二入る	
1822年	6月30日	文政5年	5月12日 曇	昨夜より之東風今日に及ぶ 夜二入る	

1822年	7月1日	文政5年	5月13日 曇	昨夜より之東風今日に及ぶ時々強吹 酉の刻過ぎ止ム (去る朔日屋形様は御老中様方御廻動遊ばされず御着府)
1822年	7月2日	文政5年	5月14日 晴	
1822年	7月3日	文政5年	5月15日 快晴	未の刻過ぎより灰降 申の刻過ぎ止ム
1822年	7月4日	文政5年	5月16日 曇	
1822年	7月5日	文政5年	5月17日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止ム
1822年	7月6日	文政5年	5月18日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (百沢寺並びに下居宮に風雨順次の御祈禱を仰せ付ける)
1822年	7月7日	文政5年	5月19日 曇	(当4月砲術高覧の際の御賞)
1822年	7月8日	文政5年	5月20日 晴	
1822年	7月9日	文政5年	5月21日 快晴	(三廐詰め者頭等の人事異動)
1822年	7月10日	文政5年	5月22日 晴	
1822年	7月11日	文政5年	5月23日 快晴	(所々で盗み徒・一昨年出奔・関所忍通り立ち返りの男に3鞭弘前町払い)
1822年	7月12日	文政5年	5月24日 晴	未の刻頃より雨降 則刻過ぎ止ム
1822年	7月13日	文政5年	5月25日 晴	今晩寅の刻過ぎより雨降 辰の刻頃止ム
1822年	7月14日	文政5年	5月26日 快晴	
1822年	7月15日	文政5年	5月27日 快晴	未の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム (御家中の家来が南溜池で溺死、田方湯水に付き御穀神に御祈禱を仰せ付ける・神明宮で御神楽)
1822年	7月16日	文政5年	5月28日 快晴	(南溜池で水浴び魚釣を停止の触れ)
1822年	7月17日	文政5年	5月29日 快晴	
1822年	7月18日	文政5年	6月1日 曇	(慈雲院が日光寺組田中村の郷土工藤某から田方4町1反8畝余を代銭10貫目で買い取った・この立増米年々50俵充て相納めるとなっていたが……、江戸登りの御家中に御賞)
1822年	7月19日	文政5年	6月2日 快晴	(花火に注意のお触れが出ている、田方湯水・長勝寺で重き御祈禱を仰せ付ける、去月7日江戸で御召馬口取加勢の男を打擲した草履取りの御給分召上げ永の暇)
1822年	7月20日	文政5年	6月3日 晴	今晩寅の六刻土入 (この節旱魃・葉玉院並びに最勝院で重き御祈禱)
1822年	7月21日	文政5年	6月4日 快晴	
1822年	7月22日	文政5年	6月5日 快晴	(去る朔日尾崎村で出火・類焼とも11軒外馬屋10ヶ所矢竹林1ヶ所(15間×1間)等焼失・火元高無他村預け、3500俵積の仙台船が南部八戸沖で破船)
1822年	7月23日	文政5年	6月6日 快晴	
1822年	7月24日	文政5年	6月7日 快晴	
1822年	7月25日	文政5年	6月8日 快晴	(人事異動、御賞、青田の内笛吹くなどの触れ、伊藤某和田某に一粒金丹2剂調合を申し付ける)
1822年	7月26日	文政5年	6月9日 快晴	(四社に風雨順時の重き御祈禱を仰せ付ける)
1822年	7月27日	文政5年	6月10日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (照り続きに付き八幡宮で雨天の御祈禱を差し上げる)
1822年	7月28日	文政5年	6月11日 晴	(多くの寺が自分物入りで(先の祈禱に靈験がなかったことを踏まえ反省して?)雨天御祈禱)
1822年	7月29日	文政5年	6月12日 快晴	
1822年	7月30日	文政5年	6月13日 快晴	
1822年	7月31日	文政5年	6月14日 晴	亥の刻過ぎより雨降 (去月28日大間越沖合いで日之丸御用銅積船が破船)
1822年	8月1日	文政5年	6月15日 曇	昨夜よりの雨今晩に及ぶ 寅の刻過ぎ止ム (道中出精として御賞、人事異動、去月29日御相撲2人が出奔)
1822年	8月2日	文政5年	6月16日 晴	(大円寺境内で切り殺された女がある)
1822年	8月3日	文政5年	6月17日 快晴	
1822年	8月4日	文政5年	6月18日 晴	
1822年	8月5日	文政5年	6月19日 晴	(昨夜御家中居宅で出火・3坪ほど焼失・御奉公遠慮)
1822年	8月6日	文政5年	6月20日 曇	巳の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 雨午の刻頃止ム (大鰐村加賀助兵左衛門より初穂差上げる、御賞)
1822年	8月7日	文政5年	6月21日 晴	(人事異動)
1822年	8月8日	文政5年	6月22日 曇	午の刻過ぎより雷雨強シ 未の刻頃雷止 申の刻頃雨止ム
1822年	8月9日	文政5年	6月23日 曇	巳の刻過ぎより雷雨 則刻雷止 申の刻過ぎ雨止ム
1822年	8月10日	文政5年	6月24日 曇	午の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (18日出火対応者・御徒横岡奎太夫等に御賞、昨14日七時過ぎ碇ヶ関大落沢の内砂子沢に山火事・早速駆け付け相鎮める)
1822年	8月11日	文政5年	6月25日 晴	(十三町で鎮火の節半鐘五つを静かにを太鼓ばかり静かに打つようにする) 下から続く 難船有りの節諸品拾い乱暴の男に30鞭宛(9人)・15鞭(11人)居村徘徊はまで通り)
1822年	8月12日	文政5年	6月26日 曇	卯の刻頃小雨降 則刻止ム (一昨年11月根岸崎に着岸破船の節拾い物を届けなかった男3人に15鞭と3鞭(2人)居村徘徊はまで通り・他にも過料、去る3月牛潟村浦湊に 上に続く
1822年	8月13日	文政5年	6月27日 晴	頃日残暑強シ
1822年	8月14日	文政5年	6月28日 曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止ム
1822年	8月15日	文政5年	6月29日 曇	未の刻頃雷雨 則刻雷止ム 申の刻頃雨止ム
1822年	8月16日	文政5年	6月30日 晴	午の刻過ぎ雷雨 未の刻過ぎ雷雨止ム
1822年	8月17日	文政5年	7月1日 晴	辰の刻頃雷 則刻止 (人事異動)
1822年	8月18日	文政5年	7月2日 晴	
1822年	8月19日	文政5年	7月3日 晴	
1822年	8月20日	文政5年	7月4日 快晴	(去月朔日秋田戸賀沖で荷物を私欲し求めて水船になった船あり)
1822年	8月21日	文政5年	7月5日 晴	戌の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止ム (御賞、去る3日赤田組鶴田村で出火・建家外馬屋等焼失・火元村預け、人事異動)
1822年	8月22日	文政5年	7月6日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻止ム
1822年	8月23日	文政5年	7月7日 曇	未の刻頃雨降 申の刻頃雷鳴 則刻止 雨申の刻過ぎ止ム (去る10月より相馬村藤倉沢金山に働く男が金穿の者共に打ち殺される)
1822年	8月24日	文政5年	7月8日 曇	(座当に配当:325人に15文充下される、去る2日鰯ヶ沢で出火・早速鎮火)
1822年	8月25日	文政5年	7月9日 曇	下から続く 植付け7月6日鎌入(79日目)で去年より3日早い・去年は7月中より3日前当年は7月6日中に付き去年に引合3日遅い:意味不明)
1822年	8月26日	文政5年	7月10日 曇	今晩丑の刻頃雨降 寅の刻頃止 巳の刻過ぎより雨降 則刻止ム (大鰐村加賀助兵左衛門より初米7俵差上げる・去年は5月朔日植付け7月23日鎌入(82日目)当年は4月16日 上に続く
1822年	8月27日	文政5年	7月11日 晴	(御賞)
1822年	8月28日	文政5年	7月12日 晴	(当出盛り菜種買い入れ1俵26文目9分1厘・水油1升3文目9分2厘に当たるので1升を4文目に仰せ付ける、人事異動、御賞)
1822年	8月29日	文政5年	7月13日 晴	
1822年	8月30日	文政5年	7月14日 曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入 子の刻頃止ム(曇 巳刻頃より雨時々降夜二入の子刻頃止ム)
1822年	8月31日	文政5年	7月15日 快晴	(岩木川出水・駒越渡し場の両船とも往来差留める)

1822年	9月1日	文政5年	7月16日 晴	亥の刻過ぎより雨降る
1822年	9月2日	文政5年	7月17日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 卯の刻過ぎ雷鳴 則刻止 巳の刻過ぎ雨止ム
1822年	9月3日	文政5年	7月18日 曇	酉の刻頃小雨降 則刻止ム (昨夜大組足軽小山内某が酒飲みに里帰りの女(伯母)を切り殺す・某は咽を突き存命)
1822年	9月4日	文政5年	7月19日 晴	頃日朝夕涼し
1822年	9月5日	文政5年	7月20日 晴	(御賞)
1822年	9月6日	文政5年	7月21日 快晴	
1822年	9月7日	文政5年	7月22日 快晴	
1822年	9月8日	文政5年	7月23日 曇	巳の刻過ぎより雷雨 則刻雷止 雨夜二入る (津軽屋の支配人が御廻船用向き相済む・来月朔日出立に付き先例の通り御手当金5両下さる)
1822年	9月9日	文政5年	7月24日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム (御山の内より松木過分伐り荒しの犯人不明・村方に過料)
1822年	9月10日	文政5年	7月25日 曇	未の刻頃雨時々降 夜二入る 亥の刻止ム
1822年	9月11日	文政5年	7月26日 曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1822年	9月12日	文政5年	7月27日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム (去る24日広須組家調村で出火・建家穀物等焼失・火元村預け)
1822年	9月13日	文政5年	7月28日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 巳の刻過ぎ止ム
1822年	9月14日	文政5年	7月29日 曇	
1822年	9月15日	文政5年	8月1日 曇	辰の刻頃より雨降 午の刻頃止ム
1822年	9月16日	文政5年	8月2日 晴	(百沢寺より苔の実差上げる)
1822年	9月17日	文政5年	8月3日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 則刻止ム
1822年	9月18日	文政5年	8月4日 曇	辰の刻より雨降 申の刻頃止ム
1822年	9月19日	文政5年	8月5日 晴	
1822年	9月20日	文政5年	8月6日 晴	
1822年	9月21日	文政5年	8月7日 晴	(江戸の用人三橋左十郎が大病、江戸で御賞(金500疋・同1両、金300疋、南鐐5片・金200疋・南鐐3片等)
1822年	9月22日	文政5年	8月8日 曇	今晩寅の刻頃雨降 辰の刻頃止ム
1822年	9月23日	文政5年	8月9日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム
1822年	9月24日	文政5年	8月10日 曇	今晩寅の刻頃より雨降り 巳の刻過ぎ止ム
1822年	9月25日	文政5年	8月11日 晴	
1822年	9月26日	文政5年	8月12日 曇	酉の刻頃より雨降 戌の刻頃止ム
1822年	9月27日	文政5年	8月13日 晴	頃日冷氣 (去る3月牛潟村浦濱に難船の節不屈きの男に15鞭居村徘徊是迄通り、常刀偽役人の男に27鞭7里四方追放家屋敷等は妻子に) 下から続く 御賞鳥目3貫文下々位熊皮)
1822年	9月28日	文政5年	8月14日 晴	今晩丑の刻頃より雨降 卯の刻頃止ム 今朝岩木山初めて雪見ル (当年熊を3疋取った者(一ツ森村の獵師頭辰蔵上位1疋中位2疋・居土村獵師頭源十郎下位2疋下々位1疋)に 上に続く
1822年	9月29日	文政5年	8月15日 快晴	今朝霜強シ (去月25日上使を以て屋形様が御鷹の雲雀を初めて御拝領)
1822年	9月30日	文政5年	8月16日 晴	
1822年	10月1日	文政5年	8月17日 晴	
1822年	10月2日	文政5年	8月18日 晴	(死者の埋葬でもめている・判らん)
1822年	10月3日	文政5年	8月19日 曇	申の刻頃より雨降 時々 夜二入る
1822年	10月4日	文政5年	8月20日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止ム
1822年	10月5日	文政5年	8月21日 晴	
1822年	10月6日	文政5年	8月22日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入る (7月25日の御鷹の雲雀初拝領の御祝儀として座当並びに盲女に配当15文充て325人に)
1822年	10月7日	文政5年	8月23日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止む 未の刻過ぎ雨降 則刻止ム(曇 昨夜より之雨及今日卯刻過止未刻過雨降則刻止ム)
1822年	10月8日	文政5年	8月24日 晴	(4月5日朝の負傷者が今12日より出勤)
1822年	10月9日	文政5年	8月25日 曇	午の刻頃より雨降 夜二入る 亥の刻過ぎ止ム
1822年	10月10日	文政5年	8月26日 晴	
1822年	10月11日	文政5年	8月27日 晴	
1822年	10月12日	文政5年	8月28日 曇	
1822年	10月13日	文政5年	8月29日 晴	下から続く 江戸で小野某を勘定奉行兼役小笠原良八を御小姓組に等の人事異動)
1822年	10月14日	文政5年	8月30日 晴	(日時不明の野火:金木組相内村(300×100間)・同村(250×50間)・磯松村(300×200間)・今泉村(350×150間)・相内大田村(200×80間)・小泊村(35間×100間)・……、 上に続く
1822年	10月15日	文政5年	9月1日 曇	午の刻頃小雨降 則刻止ム 未の刻頃地震少々 (喜多村源八と津軽金蔵を御用人に等の人事異動)
1822年	10月16日	文政5年	9月2日 晴	(藤崎組常盤組の御検見人に福眞才助等の手割が決まる、去月21日夜油川村代某の門口に捨子・某が?養育する、当8月中日々付相場平均値段金1両代111文目2分)
1822年	10月17日	文政5年	9月3日 曇	今晩寅の刻頃地震少々 (酒の上で御家中に不屈きをした百姓に15鞭居村徘徊是まで通り)
1822年	10月18日	文政5年	9月4日 曇	午の刻頃小雨降 即刻止 酉の刻過ぎ雷鳴 戌の刻雷止ム (去月18日藤崎村川越某の門前に女子の捨子・同人養い置く)
1822年	10月19日	文政5年	9月5日 曇	今晩寅の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1822年	10月20日	文政5年	9月6日 曇	酉の刻頃より雨降 同刻過ぎ雷鳴 即刻雷止 雨夜二入る
1822年	10月21日	文政5年	9月7日 曇	昨夜より之雨今晩に及ぶ 寅の刻過ぎ止 酉の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (高岡江御献備の初鮭御台所頭差出す、御用人高杉左兵衛病死)
1822年	10月22日	文政5年	9月8日 晴	今晩卯の刻頃小雨降 即刻止ム
1822年	10月23日	文政5年	9月9日 快晴	
1822年	10月24日	文政5年	9月10日 快晴	子の刻頃小雨降 即刻止ム (御家中の面々登城の節無僕の族諸士休息所に刀差し置き申すべく候所……)
1822年	10月25日	文政5年	9月11日 快晴	
1822年	10月26日	文政5年	9月12日 快晴	
1822年	10月27日	文政5年	9月13日 曇	今晩丑の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止ム
1822年	10月28日	文政5年	9月14日 曇	今晩丑の刻過ぎより雨時々降 寅の刻過ぎ雷鳴 即刻雷止ム 雨巳の刻過ぎ止ム (油川・鰯ヶ沢・脇本で別段締まり役が手段米を見つける)
1822年	10月29日	文政5年	9月15日 曇	昨夜雪降 二寸程積る
1822年	10月30日	文政5年	9月16日 曇	今晩寅の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (人事異動)
1822年	10月31日	文政5年	9月17日 曇	昨夜亥の刻過ぎより雨降 今朝卯の刻過ぎ止ム (甲斐守様より川鮭1尺充て下される、御用人三橋左十郎病死)

1822年	11月1日	文政5年	9月18日 快晴		
1822年	11月2日	文政5年	9月19日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (御台所で不祥事?多くの役人が役下げ等を受けている)	
1822年	11月3日	文政5年	9月20日 曇	巳の刻頃より雨降 時々 夜二入る(曇 巳刻頃より雨降時々夜二入る)	
1822年	11月4日	文政5年	9月21日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止ム	
1822年	11月5日	文政5年	9月22日 快晴		
1822年	11月6日	文政5年	9月23日 晴	西の刻過ぎ地震少々 子の刻頃地震少々	
1822年	11月7日	文政5年	9月24日 快晴	(三国屋某・桜?屋某の昨秋仕込み味噌の売り貸し値段:銭10文目に付き目方7貫500目値段)	
1822年	11月8日	文政5年	9月25日 曇	巳の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ雷鳴 則刻雷止ム 雨夜二入る	
1822年	11月9日	文政5年	9月26日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨及今日辰刻過止ム)	
1822年	11月10日	文政5年	9月27日 晴	下から続く 徘徊是まで通り・関係者9人も過料)	
1822年	11月11日	文政5年	9月28日 曇	今晩丑の刻過ぎより雨時々降 午の刻頃止 亥の刻頃雨降 子の刻頃止ム 下から続く ・火元高無居村預け、当3月岩木川の流木隠しを内済にした男2人に9・3鞭居村	上に続く
1822年	11月12日	文政5年	9月29日 晴	(造酒屋共から酒1升につき1文目4分5厘の申し出・米1俵が20目に当たり是まで通り1文目1分に仰付ける、去る27日夜浦町組野沢村の寄郷大柳部村で出火・建家外馬屋焼失	上に続く
1822年	11月13日	文政5年	9月30日 晴	子の刻頃より雨降る	
1822年	11月14日	文政5年	10月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 申の刻頃止ム	
1822年	11月15日	文政5年	10月2日 晴		
1822年	11月16日	文政5年	10月3日 曇	西の刻頃より雨降る	
1822年	11月17日	文政5年	10月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止ム (犯人不明の槍伐り株があり横内組久栗坂村中の者共に過料、当春野火が入った24の村の五人組等に過料)	
1822年	11月18日	文政5年	10月5日 曇	午の刻過ぎ雨降 夜二入る 下から続く (親子)に30鞭10里四方追放大場御構い家屋敷は妻子に・この盗品を質入した男に過料)	
1822年	11月19日	文政5年	10月6日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止ム (当春宇田村の出火の節衣類盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り、去る10月偽名で在方所々に忍び入り土蔵切破り盗み徒の男2人	上に続く
1822年	11月20日	文政5年	10月7日 曇	昨夜雪少々降	
1822年	11月21日	文政5年	10月8日 曇	昨夜雪降 貳寸程積る (人事異動、高杉組鬼沢村並びに藤井村で時疫・高杉村の在医から施薬、去る12月に不届きな借金取りに過料)	
1822年	11月22日	文政5年	10月9日 曇		
1822年	11月23日	文政5年	10月10日 晴		
1822年	11月24日	文政5年	10月11日 曇	巳の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム	
1822年	11月25日	文政5年	10月12日 曇		
1822年	11月26日	文政5年	10月13日 晴	西の刻過ぎより雷雨 雷戌の刻頃止ム 雨時々降る	
1822年	11月27日	文政5年	10月14日 曇	昨夜より之雨今晩に及ぶ 寅の刻頃止 巳の刻過ぎより雨降	
1822年	11月28日	文政5年	10月15日 晴	(去る10日木作新田下車力村で出火・建家穀物焼失建馬焼死・火元居村預け)	
1822年	11月29日	文政5年	10月16日 曇	辰の刻過ぎ雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止ム (当7月酒飲みで喧嘩鷹口で相手を手負いにした男に18鞭居村払い)	
1822年	11月30日	文政5年	10月17日 曇	雪少シ降 (公儀御呼出で江戸に居た深浦町の名主が出奔・同人代を早速登らせる、津軽頼母に御加増100石・笠原八郎兵衛に50石御馬廻組頭兼帯等の人事異動、貴田十郎左衛門が病死)	
1822年	12月1日	文政5年	10月18日 曇	昨夜雪降 三寸位積る	
1822年	12月2日	文政5年	10月19日 曇		
1822年	12月3日	文政5年	10月20日 晴		
1822年	12月4日	文政5年	10月21日 曇	巳の刻頃より小雨降 午の刻頃止ム	
1822年	12月5日	文政5年	10月22日 曇	昨夜雪少々降 (当月11日より25日迄附相場1俵代23文目8分日々附相場平均値段)	
1822年	12月6日	文政5年	10月23日 晴		
1822年	12月7日	文政5年	10月24日 曇	戌の刻過ぎより雨降 (当4月に盗み徒の腰縄付き男を預り取逃がした男4人に過料(1貫200文充)・庄屋を呵置く)	
1822年	12月8日	文政5年	10月25日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (酒値段増(1升)1文目3分5厘・1合売りは8文に)	
1822年	12月9日	文政5年	10月26日 曇	下から続く 銭117文で売払う・世話になった酒田の役人たちにお礼も払う)	
1822年	12月10日	文政5年	10月27日 曇	(去る24日浪岡組三嶋村で出火・建家馬屋穀物焼失・火元百姓村預け) 下から続く 荷打ちの上鶴ヶ岡領酒田表に入津・正米濡れ米とも2951俵を代金392両2歩仁朱	上に続く
1822年	12月11日	文政5年	10月28日 曇	昨夜雪降 二寸位積 (去る秋疫病並びに痢病に付き尾上村の在医から施薬・5500帖余の薬で鳥目20貫文の御賞を下し置かれる) 下から続く 大坂御廻船が難船・	上に続く
1822年	12月12日	文政5年	10月29日 曇	昨夜雪降 二寸位積る (去る4日北御蔵で作業していた大工の弟子が弁当食べてすぐ気分が悪化・そのまま帰ったが元寺町で死亡) 下から続く 8月19日鰯ヶ沢出帆の	上に続く
1822年	12月13日	文政5年	11月1日 晴	(人事異動、当夏季候次順の節御祈禱を勤めた多くの寺・神職修験に銀5枚・金100〜300疋・銀3両南鐐3片下される、去る25日夜風合瀬村で墓守が出火、御米3750俵等を積み	上に続く
1822年	12月14日	文政5年	11月2日 曇	頃日寒気強シ	
1822年	12月15日	文政5年	11月3日 曇	昨夜雪少々降	
1822年	12月16日	文政5年	11月4日 曇	今日雪降 三寸程積る	
1822年	12月17日	文政5年	11月5日 曇	今日雪少々降 (今日九時半時亀甲町で出火、去る朔日板柳御蔵柱屋根40坪程が吹き剥げる、江戸常用金不足・13日に1000両御登)	
1822年	12月18日	文政5年	11月6日 曇	今日雪降 貳寸程積る	
1822年	12月19日	文政5年	11月7日 曇	(当月朔日襲月舎利濱に60歳位の死亡男が金子を付けて流寄せる・金子等は村役に預け置く、一昨日亀甲町の火元判明・戸ノ、去る2日夜九時頃十三町で出火・30軒類焼・火元馬追慎み)	
1822年	12月20日	文政5年	11月8日 曇	今日雪少シ降 (去る4日暮より翌朝まで十三淵の大湊川尻より小股川尻まで残らず氷張る・日数に引合24日早く節に引き合い去年より8日早い、江戸表御常用金差支色々苦勞している)	
1822年	12月21日	文政5年	11月9日 曇	今日雪少シ降 (十三町の出火に対し焼失1軒に御米2俵充て御手当てを下し置かれる、粒油値段銭1文目に付き1升5合5タ5才に相当・5文目1分5厘に1升?……)	
1822年	12月22日	文政5年	11月10日 曇	昨夜雪三寸余降積 未の刻過ぎ地震少々 冬至巳の三刻入	
1822年	12月23日	文政5年	11月11日 晴	昨夜雪降 七寸余積る	
1822年	12月24日	文政5年	11月12日 曇	(来る15日初鯉2本高岡に差上げる、昨11日藤代組石渡村で出火・建家穀物焼失・火元居村預け)	
1822年	12月25日	文政5年	11月13日 晴	(作事吟味役が鰯ヶ沢浪除石の取出し方不締りとして勤料召上げ御目見以下御留守居支配に役下げ)	
1822年	12月26日	文政5年	11月14日 晴		
1822年	12月27日	文政5年	11月15日 晴		
1822年	12月28日	文政5年	11月16日 晴		
1822年	12月29日	文政5年	11月17日 曇		
1822年	12月30日	文政5年	11月18日 曇		
1822年	12月31日	文政5年	11月19日 曇	(間違った大小暦を売り出した者がある・出版差留め20日の戸ノ、当5月一ノ森村寄郷狐森村で松20口取押える・8人に1貫500目充て上納させる・同村庄屋にも過料)	

1823年	1月1日	文政5年	11月20日	曇	(一昨18日柏木組滝井村で出火・建家穀物とも焼失・火元林守慎み、黒石役人から松前に1600石江戸に3600石都合5200石の津出願い・年内1200石来春3000石津出を申し付けている)
1823年	1月2日	文政5年	11月21日	曇	(一昨19日夜高杉組高杉村で出火・去る13日まで十三湯が前後とも残らず氷張る、この節金價格別下落・当分金1両に付き114匁定価と仰せ付ける)
1823年	1月3日	文政5年	11月22日	晴	(当月朔日大風で豊月村領で海死8人流寄せる)
1823年	1月4日	文政5年	11月23日	曇	
1823年	1月5日	文政5年	11月24日	曇	未の刻過ぎ雨少降 申の刻過ぎ止ム
1823年	1月6日	文政5年	11月25日	曇	寒入る
1823年	1月7日	文政5年	11月26日	曇	今日申の刻過ぎより雪 五寸程降
1823年	1月8日	文政5年	11月27日	曇	(征矢年々2000本宛出来の儀去年仰せ付けられ……、粒油値段1升に付き5文目1分5厘に仰せ付けられ候処当夏干損に付き不熟・1升につき5文目3分に値上げしたのかな?)
1823年	1月9日	文政5年	11月28日	曇	今日雪少シ降
1823年	1月10日	文政5年	11月29日	曇	今日雪少シ降 下から続く 弘前に国下がりの際岩谷堂に寄る事・道中の家来として掃除小人を2人宛貸すこと・道案内に御家中を附ける事等の厚遇)
1823年	1月11日	文政5年	11月30日	曇	下から続く 大吉・嘉兵衛に200石御留守居組・徳兵衛に100石御留守居支配に召しだされる・小嶋嘉兵衛・佐々木次郎三郎(元大吉)・菊池常三郎(徳兵衛)と名乗る・ 上に続く
1823年	1月12日	文政5年	12月1日	晴	(十三町の大火?に関し3人1寺から補助鳥目1貫文金300疋・奇特の者なので御賞、去る4日仙台江刺郡片岡村の岩谷堂町鍛冶嘉兵衛・大吉・徳兵衛を松平陸奥守様より貰受・ 上に続く
1823年	1月13日	文政5年	12月2日	曇	(尾崎組小国村の高無が92歳で農業・若者共に農事働き方を教授する者あり・御賞鳥目2貫文を下し置かれる、詮議の筋あり表坊主を召捕り揚り屋入り1人・他出差留め1人)
1823年	1月14日	文政5年	12月3日	晴	(昨日の表坊主の内揚り屋入り1人は出奔・他出差留め1人は揚り屋入りとする、4月5日乱心傷害の御家中の20俵召上げ蟄居・養子を御目見以下御留守居支配に)
1823年	1月15日	文政5年	12月4日	曇	(大目付山本三郎左衛門を御用人・加勢の佐藤栄吉を表祐筆勤料1人扶持等の人事異動、松前方御用に御賞、昨年9月9日夜奥州白川で旅籠屋の後家を殺し金子を盗んだ男の人相書きあり)
1823年	1月16日	文政5年	12月5日	曇	今日雪少シ降
1823年	1月17日	文政5年	12月6日	曇	(当7月17日夜酒により伯母を殺害した小山内某を町中引き回し取上御仕置き場で獄門)
1823年	1月18日	文政5年	12月7日	曇	今日雪少シ降
1823年	1月19日	文政5年	12月8日	晴	
1823年	1月20日	文政5年	12月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積る
1823年	1月21日	文政5年	12月10日	晴	昨夜雪少し降 (表坊主2人入牢)
1823年	1月22日	文政5年	12月11日	曇	(郡所物書き格山田左九郎等に御賞)
1823年	1月23日	文政5年	12月12日		
1823年	1月24日	文政5年	12月13日	曇	今日雪降 二寸程積る
1823年	1月25日	文政5年	12月14日	晴	下から続く 手段米に取り組み(未遂)の男に15鞭外ヶ浜四ヶ組払い浦々住居御構い)
1823年	1月26日	文政5年	12月15日	曇	今日雪少降 下から続く 傷害の男に24鞭5里四方追放、去る7月雇われて飛脚に行った節早瀬野間道を忍通り秋田の馬喰共の案内をした男に15鞭居村徘徊はまで通り、 上に続く
1823年	1月27日	文政5年	12月16日	曇	今日雪少シ降 (当4月に伯母・不明時に伯父を打擲の髪結男に18鞭居町徘徊はまで通り・その女房に3鞭居町徘徊はまで通り、当8月岩木山参詣帰りに和徳町で喧嘩し脇差で 上に続く
1823年	1月28日	文政5年	12月17日	晴	
1823年	1月29日	文政5年	12月18日	晴	(人事異動、御賞)
1823年	1月30日	文政5年	12月19日	曇	
1823年	1月31日	文政5年	12月20日	曇	今日雪少シ降 (多数に御賞、黒石領大川平村の弁慶が御当領獵師と組合熊を4疋狩取る)
1823年	2月1日	文政5年	12月21日	曇	(多数に御賞)
1823年	2月2日	文政5年	12月22日	曇	今日雪少シ降
1823年	2月3日	文政5年	12月23日	曇	
1823年	2月4日	文政5年	12月24日	晴	
1823年	2月5日	文政5年	12月25日	曇	今日雪少シ降 (御賞)
1823年	2月6日	文政5年	12月26日	曇	今日雪少シ降 (御山に忍び入り先年奉公先より出奔の男に3鞭弘前町徘徊御免・その親を長柄の者から掃除小人に役下げ)
1823年	2月7日	文政5年	12月27日	曇	(当10月23日夜酒を飲み狼藉の男を止めようとした男に怪我をさせた男3人に2人は弘前町払い他の1人は居村払いの上弘前御構い)
1823年	2月8日	文政5年	12月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積る (人事異動、10月25日油川出帆の客船が破船)
1823年	2月9日	文政5年	12月29日	曇	(酒値段1升に付き1文目6分の申し出に1文目4分5厘に申付ける、黒石領大川平の弁慶を本獵師に取立てる、去る25日五所川原村で出火・建家等焼失・火元村預け、小嶋嘉兵衛等到着)
1823年	2月10日	文政5年	12月30日	曇	
1823年	2月11日	文政6年	正月1日	晴	
1823年	2月12日	文政6年	正月2日	晴	
1823年	2月13日	文政6年	正月3日	曇	今日雪少降 (昨朝和徳組富田村の染屋利兵衛の藍場より火漏れる・南側少々焼失母屋別状なし・火元代官にて呵置く)
1823年	2月14日	文政6年	正月4日	晴	
1823年	2月15日	文政6年	正月5日	晴	
1823年	2月16日	文政6年	正月6日	曇	今日雪少降
1823年	2月17日	文政6年	正月7日	曇	昨夜雪降 一寸程積
1823年	2月18日	文政6年	正月8日	曇	今日雪少降
1823年	2月19日	文政6年	正月9日	曇	今日雪少降
1823年	2月20日	文政6年	正月10日	曇	
1823年	2月21日	文政6年	正月11日	曇	今日雪少降 (公儀から呼び出し・深浦町同心工藤某・轟木村の喜助・銅屋町の長次郎・下川原の弟?吉、人事異動・御賞、藤田兼三郎を小嶋嘉兵衛等3人の御国表親類同様とする)
1823年	2月22日	文政6年	正月12日	曇	今日雪吹
1823年	2月23日	文政6年	正月13日	曇	今日雪少降
1823年	2月24日	文政6年	正月14日	曇	
1823年	2月25日	文政6年	正月15日	晴	
1823年	2月26日	文政6年	正月16日	曇	今日雪降 二寸程積
1823年	2月27日	文政6年	正月17日	曇	昨夜雪降 一尺五寸程積
1823年	2月28日	文政6年	正月18日	曇	今日雪三寸程積

1823年	3月1日	文政6年	正月19日	晴	
1823年	3月2日	文政6年	正月20日	晴	
1823年	3月3日	文政6年	正月21日	晴	
1823年	3月4日	文政6年	正月22日	晴	
1823年	3月5日	文政6年	正月23日	曇	今日雪少降
1823年	3月6日	文政6年	正月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積
1823年	3月7日	文政6年	正月25日	曇	巳の刻頃より雨降 夜二入 亥の刻頃止
1823年	3月8日	文政6年	正月26日	曇	今日雪降 二寸程積
1823年	3月9日	文政6年	正月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (去る22日夜広須組芦沼村で出火・居宅穀物等焼失・火元庄屋村預け)
1823年	3月10日	文政6年	正月28日	曇	今日雪少降 (当間正月21日に元主人の倅夫婦に傷をつけて逃げた男の人相書きあり)
1823年	3月11日	文政6年	正月29日	曇	
1823年	3月12日	文政6年	正月30日	晴	(公儀御呼出の4人は朔朔日出立・出立までは手鎖の上腰縄付き)
1823年	3月13日	文政6年	2月1日	晴	西の刻過ぎ地震少 亥の刻過ぎ地震 則刻止 (江戸表の御常用金が不足・開発方御除き金の内5000両出さなければ……と勘定奉行が申し出ている)
1823年	3月14日	文政6年	2月2日	曇	今晩寅の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 (公儀御呼出の御用銅の件の付き添いの心得あり)
1823年	3月15日	文政6年	2月3日	晴	
1823年	3月16日	文政6年	2月4日	曇	昨夜雪少降
1823年	3月17日	文政6年	2月5日	晴	(駒越組居森平村の獵師忌?三郎が去年中熊3疋取る・鳥目3貫文と下々位の熊皮下し置かれる)
1823年	3月18日	文政6年	2月6日	曇	西の刻過ぎより雨降
1823年	3月19日	文政6年	2月7日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止
1823年	3月20日	文政6年	2月8日	晴	
1823年	3月21日	文政6年	2月9日	曇	今日雪少降 (去る7日猿賀組大袋村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1823年	3月22日	文政6年	2月10日	曇	昨夜雪降 貳寸程積
1823年	3月23日	文政6年	2月11日	曇	今日雪少降
1823年	3月24日	文政6年	2月12日	晴	(何か金をかき集めている?話があるが判らない、小笠原良八を御近習小姓に等の人事異動)
1823年	3月25日	文政6年	2月13日	晴	
1823年	3月26日	文政6年	2月14日	曇	今日雪少降 (松前で刑法を行われ浪岡に送り返し中に浪岡村大橋から飛び降り行方不明の男の付き添いに過料・庄屋等にも罰)
1823年	3月27日	文政6年	2月15日	晴	
1823年	3月28日	文政6年	2月16日	曇	
1823年	3月29日	文政6年	2月17日	曇	今日雪少降
1823年	3月30日	文政6年	2月18日	晴	
1823年	3月31日	文政6年	2月19日	晴	昨夜雪少降 (去る秋高杉組鬼沢・藤井村で時疫・高杉村の在医に施薬させる・全快)
1823年	4月1日	文政6年	2月20日	晴	(当両都御廻船上乗り80・下乗り73人申し付ける)
1823年	4月2日	文政6年	2月21日	晴	
1823年	4月3日	文政6年	2月22日	曇	
1823年	4月4日	文政6年	2月23日	曇	今晩丑の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止
1823年	4月5日	文政6年	2月24日	晴	
1823年	4月6日	文政6年	2月25日	晴	
1823年	4月7日	文政6年	2月26日	晴	
1823年	4月8日	文政6年	2月27日	曇	下から続く 氷明ける・去当年日数引合23日遅く節に引合12日遅い、横内組瀧沢村で出火・類焼18軒建馬5疋焼死等・火元村預け)
1823年	4月9日	文政6年	2月28日	曇	今晩寅の刻頃雨降 即刻止 (去る13日夜広須組家調村で出火・建家馬家等焼失・火元百姓村預け、去る23日暮より翌朝迄十三湯の大湊川尻より高根川沖小股川尻迄残らず 上に続く
1823年	4月10日	文政6年	2月29日	晴	(去る26日油川村明誓寺より出火・本堂庫裏寺庵等焼失代官御役所等24軒類焼・火元禁足・郷蔵の屋根が27日に燃え上がる・中の4歩ほど焼失、赤石組長平・湯船村間で山論)
1823年	4月11日	文政6年	3月1日	曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1823年	4月12日	文政6年	3月2日	曇	昨夜より之雨今朝卯の刻過ぎ止 (去る12日笠原八郎兵衛等が御繰合御用で大坂に、先年道中で出奔の表坊主を召捕り去月26日掃除方牢屋で詮議・御小納戸金を盗み取ったと白状)
1823年	4月13日	文政6年	3月3日	晴	(去月29日夜広須組家調村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)
1823年	4月14日	文政6年	3月4日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (一昨2日夜赤石組田浦村で出火・類焼32軒・火元他村預け、御省略中御道中対の御鑓御持たせ御止・当年より再開か?)
1823年	4月15日	文政6年	3月5日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (石渡川出水・往来成難い、去る春山役人廻山時に野火の跡があった10村の庄屋に過料、八幡宮下社家長利友之進が悪者宿等で取放・他にも罰)
1823年	4月16日	文政6年	3月6日	曇	申の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止
1823年	4月17日	文政6年	3月7日	晴	(土岐某を大目付役知50石等の人事異動、横内組瀧沢村の類焼18軒(2月28日記載)に御手当て御米1俵充て)
1823年	4月18日	文政6年	3月8日	晴	
1823年	4月19日	文政6年	3月9日	快晴	
1823年	4月20日	文政6年	3月10日	快晴	
1823年	4月21日	文政6年	3月11日	晴	(昨夜尾崎組新館村で出火・類焼とも2軒焼失馬3疋焼斃・火元他村預け、高杉村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け)
1823年	4月22日	文政6年	3月12日	曇	辰の刻過ぎより小雨降 巳の刻過ぎ止
1823年	4月23日	文政6年	3月13日	曇	今日雪降 二寸程積
1823年	4月24日	文政6年	3月14日	曇	(漆木32万9480本・1本より1升成りの積りにて1ヵ年出高1俵5斗入りにて6589俵余にて1俵5文目値段・右代銭98貫840目余……判らない)
1823年	4月25日	文政6年	3月15日	晴	(2日の赤石組田浦村の類焼の者の内極難の22軒に御手当御米1俵充て下し置かれる)
1823年	4月26日	文政6年	3月16日	曇	
1823年	4月27日	文政6年	3月17日	曇	亥の刻過ぎより雨時々降 (3000石余開田の平沢三右衛門を御使い番格高100石勤料30俵の人事異動、昨夜報恩寺の境内善入院出火・留守居の檀家焼死・火元禁足)
1823年	4月28日	文政6年	3月18日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 子の刻頃止
1823年	4月29日	文政6年	3月19日	曇	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止
1823年	4月30日	文政6年	3月20日	晴	

1823年	5月1日	文政6年	3月21日 晴	(昨夜浪岡組本郷村で出火・居宅馬屋等焼失・火元百姓村預け)
1823年	5月2日	文政6年	3月22日 晴	
1823年	5月3日	文政6年	3月23日 晴	
1823年	5月4日	文政6年	3月24日 晴	
1823年	5月5日	文政6年	3月25日 快晴	(深浦町奉行に湯元某等の人事異動)
1823年	5月6日	文政6年	3月26日 快晴	
1823年	5月7日	文政6年	3月27日 快晴	
1823年	5月8日	文政6年	3月28日 快晴	(金木組中里村で出火・類焼とも2軒焼失・火元鍛冶他村預け)
1823年	5月9日	文政6年	3月29日 快晴	(野火付けるなどのお触れ)
1823年	5月10日	文政6年	3月30日 曇	
1823年	5月11日	文政6年	4月1日 曇	巳の刻頃小雨降 則刻止 (去る29日尾崎村領鉛山金堀小屋1軒焼失)
1823年	5月12日	文政6年	4月2日 晴	
1823年	5月13日	文政6年	4月3日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入
1823年	5月14日	文政6年	4月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 巳の刻頃止
1823年	5月15日	文政6年	4月5日 晴	戌の刻過ぎより雨時々降 (囚人川村休歌(3月2日記述の表坊主)今日到着)
1823年	5月16日	文政6年	4月6日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止
1823年	5月17日	文政6年	4月7日 晴	
1823年	5月18日	文政6年	4月8日 晴	(去る5日赤石組柳田村で出火・類焼とも3軒焼失・火元高無他村預け)
1823年	5月19日	文政6年	4月9日 快晴	(去る6日朝6時過ぎ木造新田蓮花田村で出火・物置農具等焼失・火元戸ヱ、去る5日金井ヶ沢で出火・類焼3軒、公儀御呼出の御用銅の件の江戸の調書?あり、人事異動)
1823年	5月20日	文政6年	4月10日 快晴	
1823年	5月21日	文政6年	4月11日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降る 未の刻頃止 (岩木山硫黄山出火・鎮火)
1823年	5月22日	文政6年	4月12日 快晴	(あちこちの宿場の人馬賃・船賃の増が続いている)
1823年	5月23日	文政6年	4月13日 快晴	
1823年	5月24日	文政6年	4月14日 快晴	
1823年	5月25日	文政6年	4月15日 快晴	(人事異動、(家老)渡辺将監殿並びに(用人)高倉相模がこの度江戸登りに付き道中不時金将監殿30両相模15両御預け)
1823年	5月26日	文政6年	4月16日 晴	
1823年	5月27日	文政6年	4月17日 晴	
1823年	5月28日	文政6年	4月18日 曇	申の刻頃より雷雨 則刻止 雨夜二入 (先日岩木嵩硫黄平出火の節の働きに御賞)
1823年	5月29日	文政6年	4月19日 曇	昨夜より之雨今日二及 今晩寅の刻頃止
1823年	5月30日	文政6年	4月20日 曇	未の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止
1823年	5月31日	文政6年	4月21日 晴	今晩丑の刻頃雨降 則刻止 (この度お買い上げて小嶋嘉兵衛を在府町・佐々木次郎三郎を若党町・菊池常三郎を長坂町に仰せ付ける)
1823年	6月1日	文政6年	4月22日 晴	(仙台湯の原の者に牛31疋御払い・去る18日碇ヶ関御関所を通り秋田領で野宿・その牛の9匹が行方不明・大鰐組唐牛・石川両村に逃げて来ていた・もう一度関所を通す手続きをしている)
1823年	6月2日	文政6年	4月23日 晴	
1823年	6月3日	文政6年	4月24日 快晴	下から続く 別状なし、則夜庄内船(9人乗り)が赤石村領で破船・海死2人行方不明4人、去る19日大坂船が大間越領で破船・上陸13人海死4人、去る19日赤石組に御用銅船が破船)
1823年	6月4日	文政6年	4月25日 快晴	(黒石領大川平村獵師弁慶と申す者が去る秋上中熊2疋狩取る・御賞鳥目3貫文と下々位の熊皮1枚下し置かれる、去る19日夜泉州船(16人乗り)が舞戸村領に流れ寄せる・ 上に続く
1823年	6月5日	文政6年	4月26日 快晴	(19日江戸御廻船の内筑前船が南部領シツかりと申すところで破船・御家中荷物海失・海死1人、去る19日赤石組柳田村領に大坂の御用銅船が破船)
1823年	6月6日	文政6年	4月27日 快晴	
1823年	6月7日	文政6年	4月28日 快晴	(去る19日金井ヶ沢で大風・破船13艘・海死13人、19日深浦町で若狭・越前船が十三町領下濱に押し流される・海死1人)
1823年	6月8日	文政6年	4月29日 晴	
1823年	6月9日	文政6年	5月1日 曇	(昨晩田舎館組垂柳村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)
1823年	6月10日	文政6年	5月2日 晴	亥の刻過ぎより雨降 (中沢村の仮子で唐牛村の男が去年中下位の熊3疋狩取る・御酒代鳥目3貫500文を下し置かれる・獵師ではないので熊皮は下されない)
1823年	6月11日	文政6年	5月3日 曇	昨夜より雨 今日及 辰の刻頃止 申の刻過ぎより雨降 夜二入
1823年	6月12日	文政6年	5月4日 曇	昨夜より雨今日二及 時々降 申の刻過ぎ止 (年々御払い材木1000石目にて代金110両・これを100両にすると両替がおおよそ114文目立で2間六寸角1本が5文目7分となる……)
1823年	6月13日	文政6年	5月5日 晴	
1823年	6月14日	文政6年	5月6日 曇	今晩丑の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止
1823年	6月15日	文政6年	5月7日 曇	(赤石組関・柳田両村領前浜で先頃破船の死骸11人が寄せあがる、碇ヶ関で材木並びに流木を田圃に隠し置いた男(13人?)に過料1貫200文)
1823年	6月16日	文政6年	5月8日 曇	(山の木を伐り荒らしたのかな過料)
1823年	6月17日	文政6年	5月9日 曇	
1823年	6月18日	文政6年	5月10日 晴	(深浦で当御廻船が破船・3328俵を海中より取上げる・取上げ米を入札・1俵6文目5厘)
1823年	6月19日	文政6年	5月11日 晴	
1823年	6月20日	文政6年	5月12日 晴	申の刻過ぎより雨降 (この節青森表に悪者・投げ火等あり)
1823年	6月21日	文政6年	5月13日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ未の刻過ぎ止
1823年	6月22日	文政6年	5月14日 曇	未の刻過ぎ雨時々降 夜二入 (去る24日笠原八郎兵衛等が御繰合御用から帰る・5人扶持五葉御紋御上下銀3枚硯箱などを渡している)
1823年	6月23日	文政6年	5月15日 曇	昨夜より雨今日二及 時々降 (松山某和田某に一粒金丹剤の調合を仰せ付ける)
1823年	6月24日	文政6年	5月16日 晴	
1823年	6月25日	文政6年	5月17日 曇	巳の刻過ぎより雨少降 則刻止
1823年	6月26日	文政6年	5月18日 晴	(盗み徒と早瀬野間道を忍び通った秋田仙北の男を碇ヶ関口送り返し)
1823年	6月27日	文政6年	5月19日 曇	
1823年	6月28日	文政6年	5月20日 曇	辰の刻頃より小雨降 巳の刻頃止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1823年	6月29日	文政6年	5月21日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨降 夜二入 (青森で殺人・犯人捕まる)
1823年	6月30日	文政6年	5月22日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 (何人かの庄屋に御賞)

1823年	7月1日	文政6年	5月23日 晴
1823年	7月2日	文政6年	5月24日 快晴
1823年	7月3日	文政6年	5月25日 快晴
1823年	7月4日	文政6年	5月26日 快晴
1823年	7月5日	文政6年	5月27日 快晴 (先ごろの硫黄山出火に関する御賞)
1823年	7月6日	文政6年	5月28日 快晴 (去る15日高倉相模が江戸で御家老に・藤田権三郎を大寄合格御用人手伝に等の人事異動、屋形様が病気で御下向せず名代津軽甲斐守をそのまま在邑……、御賞)
1823年	7月7日	文政6年	5月29日 快晴 (去る11月に博打の上負けた銭を出さない男共の衣類を取った男4人に6・3・3・3鞭居村徘徊はまで通り・庄屋等関係者にも過料)
1823年	7月8日	文政6年	6月1日 曇
1823年	7月9日	文政6年	6月2日 快晴 (この節大暑・土用前ではあるが羽織御免)
1823年	7月10日	文政6年	6月3日 快晴
1823年	7月11日	文政6年	6月4日 快晴
1823年	7月12日	文政6年	6月5日 晴
1823年	7月13日	文政6年	6月6日 晴
1823年	7月14日	文政6年	6月7日 曇 卯の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 (青田の内笛吹くなどの触れ、去る3日金木組薄市村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1823年	7月15日	文政6年	6月8日 晴
1823年	7月16日	文政6年	6月9日 晴
1823年	7月17日	文政6年	6月10日 晴 (昨夜桜庭某の次男が出奔、屋形様が来春までの内に御隠居御願を仰せ出される、御献上の馬の見分がよろしくないと多数が叱られている)
1823年	7月18日	文政6年	6月11日 晴
1823年	7月19日	文政6年	6月12日 快晴 (郡奉行山形某等を長柄奉行格に等の人事異動)
1823年	7月20日	文政6年	6月13日 晴 巳の刻土用二入 (此の頃旱魃に付き田方湯水・惣組より神明宮江御神楽等差上げる、頃日照続き・四社に風雨順次の重き御祈禱を仰せ付ける、最勝院が自分物入りで五穀成就の御祈禱)
1823年	7月21日	文政6年	6月14日 晴 戌の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止
1823年	7月22日	文政6年	6月15日 曇
1823年	7月23日	文政6年	6月16日 晴 未の刻過ぎ雷鳴 則刻止
1823年	7月24日	文政6年	6月17日 曇 申の刻過ぎ雨降 則刻止 (百沢下居宮で風雨順次の重き御祈禱を仰せ付ける)
1823年	7月25日	文政6年	6月18日 曇 未の刻過ぎ雷雨 則刻止 (昨晚御持鍵の門口で同居人が切りかけられて死亡・他に5人にも・犯人町同心を捕らえる)
1823年	7月26日	文政6年	6月19日 晴 (大鰐村加賀助より例年の通り初穂差上げる、誰かの(法事の?)御布施・導師に銀1枚・寺庵4人に銭7文目充・所化1人に5文目・道心1人に2文目下し置かれる)
1823年	7月27日	文政6年	6月20日 晴
1823年	7月28日	文政6年	6月21日 快晴
1823年	7月29日	文政6年	6月22日 快晴
1823年	7月30日	文政6年	6月23日 快晴 (去る9日夜十三町で出火、先ごろより日照り続き・五山で雨乞い御祈禱を仰せ付ける)
1823年	7月31日	文政6年	6月24日 快晴 未の刻過ぎ地震少々 申の刻過ぎ地震少々 酉の刻過ぎ地震少々
1823年	8月1日	文政6年	6月25日 快晴 (人事異動)
1823年	8月2日	文政6年	6月26日 晴
1823年	8月3日	文政6年	6月27日 快晴 (去る9日十三町で出火・類焼の11軒の者共に御米2俵充御手当てとして下し置かれる)
1823年	8月4日	文政6年	6月28日 快晴
1823年	8月5日	文政6年	6月29日 快晴
1823年	8月6日	文政6年	7月1日 曇 卯の刻過ぎ地震少々 卯の刻雷雨 則刻止
1823年	8月7日	文政6年	7月2日 晴 (去月29日飯詰組戸沢村で出火・建家外馬屋等焼失建馬3疋焼死類焼2軒・火元他村預け、今日暮六時過ぎ猿賀村深砂(沙?)宮御堂出火・早速鎮火)
1823年	8月8日	文政6年	7月3日 快晴
1823年	8月9日	文政6年	7月4日 快晴 (去月29日金木組磯松村で出火・類焼13軒・火元高無他村預け)
1823年	8月10日	文政6年	7月5日 快晴 (御賞)
1823年	8月11日	文政6年	7月6日 快晴
1823年	8月12日	文政6年	7月7日 快晴
1823年	8月13日	文政6年	7月8日 快晴 (御賞、人事異動、去る20日交代下がりの勘定人等が栗橋川洪水で往来差留め・逗留、御賞)
1823年	8月14日	文政6年	7月9日 快晴 (長勝寺で雨乞いの御祈禱を仰せ付ける)
1823年	8月15日	文政6年	7月10日 曇 午の刻過ぎ雷雨 則刻止 (人事異動、御賞)
1823年	8月16日	文政6年	7月11日 曇 申の刻過ぎより雷雨 酉の刻過ぎ雷止 雨夜二入 亥の刻過ぎ止 (去る酉年(今年は未年)願出もなく家内を引き連れ松前に罷り越去る8月帰帆の節も断り無の男に3鞭青森徘徊はまで通り)
1823年	8月17日	文政6年	7月12日 曇 寅の刻過ぎより雨 辰の刻過ぎ止 (大鰐村の加賀助と兵左衛門より初米8俵差上げる)
1823年	8月18日	文政6年	7月13日 快晴
1823年	8月19日	文政6年	7月14日 快晴
1823年	8月20日	文政6年	7月15日 快晴 (先年江戸表で不屈きの湯浅某を……)
1823年	8月21日	文政6年	7月16日 曇 未の刻頃雷鳴 則刻止
1823年	8月22日	文政6年	7月17日 晴
1823年	8月23日	文政6年	7月18日 晴
1823年	8月24日	文政6年	7月19日 晴
1823年	8月25日	文政6年	7月20日 快晴 (江戸で人事異動、御中小姓吉野某の倅が出奔)
1823年	8月26日	文政6年	7月21日 晴 (金木組磯松村の類焼の者13軒に御手当て御米1俵充て下し置かれる)
1823年	8月27日	文政6年	7月22日 晴
1823年	8月28日	文政6年	7月23日 曇 巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (役筋不似合いの足軽目付の勤料召上げ諸手足軽に役下げ)
1823年	8月29日	文政6年	7月24日 曇 昨夜より之雨今日及ぶ 卯の刻過ぎ止
1823年	8月30日	文政6年	7月25日 晴
1823年	8月31日	文政6年	7月26日 晴

1823年	9月1日	文政6年	7月27日 曇	
1823年	9月2日	文政6年	7月28日 曇	卯の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止
1823年	9月3日	文政6年	7月29日 曇	
1823年	9月4日	文政6年	7月30日 曇	卯の刻過ぎより雷雨 巳の刻頃止 (当出盛り菜種1俵に付き25文目6分8厘8毛・1升を3文目6分に申し付ける)
1823年	9月5日	文政6年	8月1日 晴	(外南御門脇の御堀がこの節の湯水で見入り?も宜しからず候に付き……)
1823年	9月6日	文政6年	8月2日 晴	(百沢寺より苔実一包差出す、去る夏十三湯に水綿(みずわた:海綿だろう)が生じた・今年はない)
1823年	9月7日	文政6年	8月3日 曇	酉の刻過ぎより雨時々降
1823年	9月8日	文政6年	8月4日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 巳の刻頃止 申の刻過ぎ小雨降 夜二入 (間道から南部椀と玉煙草を持ち込み逃げた南部商人を捕らえるのに揉めている)
1823年	9月9日	文政6年	8月5日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 巳の刻過ぎ止 (津軽屋三右衛門の支配人が御廻船御用が終わり出立に付き例年通り御手当金5両を下し置かれる)
1823年	9月10日	文政6年	8月6日 曇	
1823年	9月11日	文政6年	8月7日 晴	
1823年	9月12日	文政6年	8月8日 晴	
1823年	9月13日	文政6年	8月9日 晴	戌の刻頃より雨時々降
1823年	9月14日	文政6年	8月10日 曇	昨夜より雨今曉に及 寅の刻過ぎ止 巳の刻過ぎ小雨降 午の刻頃止
1823年	9月15日	文政6年	8月11日 曇	今曉丑の刻頃より小雨時々降 巳の刻過ぎ止 (昨夜江戸詰め中の御家中宅が出火) 下から続く 御賞、人事異動)
1823年	9月16日	文政6年	8月12日 曇	(近衛左府様・禁裏様・御所様・屋形様・御前様・若殿様・御姫様とも平出、先年和田太左衛門一件の節乞食手に引渡した毛内有右衛門家来の庄兵衛がこの節他国致し居り候か、 上に続く
1823年	9月17日	文政6年	8月13日 曇	辰の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止
1823年	9月18日	文政6年	8月14日 曇	巳の刻過ぎより小雨降 午の刻過ぎ止 (両濱にて米大豆津出御印代之までの通り米1俵6文目大豆1俵5文目立に申し付ける)
1823年	9月19日	文政6年	8月15日 曇	(水油値段を1分増しの3文目7分に申し付ける)
1823年	9月20日	文政6年	8月16日 曇	戌の刻過ぎより雨降
1823年	9月21日	文政6年	8月17日 曇	昨夜より之雨今日に及 巳の刻過ぎ止 酉の刻過ぎより雨降
1823年	9月22日	文政6年	8月18日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 申の刻過ぎ止
1823年	9月23日	文政6年	8月19日 晴	(亀甲御蔵奉行に福眞才助を等の人事異動、一昨夜五時過ぎ西の郭御裏通り川端にある田茂木の内より火が燃え出す、去る6月駒越組村市村で山に伐り荒しあり・村の9人と庄屋に過料)
1823年	9月24日	文政6年	8月20日 晴	(去る3月に隠し津出玄米40俵の関係者に過料、昨夜四時嵩の湯元より出火・湯小屋5軒馬屋1軒焼失・火元戸ノ)
1823年	9月25日	文政6年	8月21日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入 (八幡宮祭礼を来月15日とする、江戸で人事異動、御鷹の雲雀を貰ってやたら喜んでいる)
1823年	9月26日	文政6年	8月22日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 未の刻過ぎ止
1823年	9月27日	文政6年	8月23日 曇	酉の刻より雷鳴 戌の刻過ぎ止
1823年	9月28日	文政6年	8月24日 曇	酉の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止
1823年	9月29日	文政6年	8月25日 曇	亥の刻地震少し
1823年	9月30日	文政6年	8月26日 曇	辰の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止 (博打とその宿の13人に3鞭充居町(村)徘徊はまで通り)
1823年	10月1日	文政6年	8月27日 曇	今曉寅の刻頃少々地震
1823年	10月2日	文政6年	8月28日 曇	今曉寅の刻過ぎより雨降 今朝岩木山江初雪見る
1823年	10月3日	文政6年	8月29日 曇	戌の刻過ぎより雨時々降
1823年	10月4日	文政6年	9月1日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申の刻過ぎ止 (菜種油値段増で3文目7分に申し付ける)
1823年	10月5日	文政6年	9月2日 晴	酉の刻過ぎ地震少々
1823年	10月6日	文政6年	9月3日 晴	今曉丑の刻過ぎより雷雨 寅の刻過ぎ止
1823年	10月7日	文政6年	9月4日 晴	(去冬以来金價14匁定價に仰せ付けられ?……、村送り中の秋田出生の男が金木村で病死・仮葬)
1823年	10月8日	文政6年	9月5日 快晴	(一昨夜土手町秋田屋前に捨子・秋田屋が養育)
1823年	10月9日	文政6年	9月6日 晴	今曉寅の刻過ぎ雷雨 則刻霰降 則刻止 (屋形様御不快に付き甲斐守殿が是まで通り在邑いたさせ暫く御滞府御養生)
1823年	10月10日	文政6年	9月7日 快晴	一昨夜新鍛冶町に捨子・置かれた家が養育)
1823年	10月11日	文政6年	9月8日 快晴	(屋形様が御鷹の雲雀拝領祝いの御手当てを座当どもに15文充下し置かれる)
1823年	10月12日	文政6年	9月9日 快晴	(勘定奉行角田某を長柄奉行格に等の人事異動)
1823年	10月13日	文政6年	9月10日 快晴	(去る7日昼八時頃油川組飛鳥村で出火・火元高無村預け)
1823年	10月14日	文政6年	9月11日 快晴	
1823年	10月15日	文政6年	9月12日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止
1823年	10月16日	文政6年	9月13日 曇	今曉丑の刻過ぎ雨降 寅の刻過ぎ止 (不屈きの早道の者を御目見以下御留守居支配に役下げ)
1823年	10月17日	文政6年	9月14日 曇	酉の刻頃より雨時々降
1823年	10月18日	文政6年	9月15日 晴	昨夜より之雨今曉寅の刻過ぎ止 亥の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 子の刻過ぎ雨止 (今日八幡宮神輿通御)
1823年	10月19日	文政6年	9月16日 晴	
1823年	10月20日	文政6年	9月17日 晴	
1823年	10月21日	文政6年	9月18日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入 子の刻過ぎ止(曇 卯刻過ぎより雨降夜二入子刻過ぎ)
1823年	10月22日	文政6年	9月19日 曇	辰の刻頃より雨時々降 戌の刻過ぎ止
1823年	10月23日	文政6年	9月20日 曇	午の刻過ぎより時々雨降 夜二入 (去る17日夜広田組喰川村で出火・建家焼失馬焼死・火元百姓居村預け)
1823年	10月24日	文政6年	9月21日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申の刻過ぎ雷鳴 則刻止 夜二入(曇 昨夜より之雨今日ニ及時々降申刻過雷鳴則刻止夜二入)
1823年	10月25日	文政6年	9月22日 曇	今曉丑の刻過ぎより雷鳴 寅の刻過ぎ止 昨夜より之雨今日ニ及 時々降 戌の刻過ぎ止 (昨夜土手町の通りに捨子・松森町の者に預け養育)
1823年	10月26日	文政6年	9月23日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 酉の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止(曇 辰刻過小雨降即刻止酉刻過より雨降亥刻過止)
1823年	10月27日	文政6年	9月24日 晴	
1823年	10月28日	文政6年	9月25日 快晴	
1823年	10月29日	文政6年	9月26日 晴	亥の刻過ぎより雨時々降 則刻過ぎより雷鳴 寅の刻過ぎ雷止
1823年	10月30日	文政6年	9月27日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 申の刻止
1823年	10月31日	文政6年	9月28日 曇	(去る24日木造新田上福原村で出火・建家穀物焼失・火元居村預け)

1823年 11月1日 文政6年	9月29日 晴	
1823年 11月2日 文政6年	9月30日 晴	申の刻過ぎ雨降 夜二入 戌の刻過ぎ止 (高岡献備の初鯉2尺御台所頭が差出す)
1823年 11月3日 文政6年	10月1日 曇	今晩寅の刻過ぎより時々雨降 申の刻過ぎ止 (群書類従(塙保己一が書いた当時の百科事典)が今便で送られて来ている)
1823年 11月4日 文政6年	10月2日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 (甲斐守様より川鯉1尺充て下される)
1823年 11月5日 文政6年	10月3日 曇	巳の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止
1823年 11月6日 文政6年	10月4日 曇	今日雪少降 (朔日昼九時頃報恩寺の末寺無量院の本尊十一面観音が御出汗)
1823年 11月7日 文政6年	10月5日 晴	(板塀などに落書きさせるなどのお触れ、小嶋嘉兵衛が佐々木次郎三郎の上順として召抱えられたが小嶋の申し出でで佐々木を上順とする、江戸で人事異動・御賞)
1823年 11月8日 文政6年	10月6日 晴	
1823年 11月9日 文政6年	10月7日 晴	(去月19日青森を出帆の遠州の御廻船が22日南部領沖で荷打ち25日南部領鮫ヶ崎浦に入津・見分に勘定小頭を派遣)
1823年 11月10日 文政6年	10月8日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 巳の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止 (去る6日夜飯詰組野里村で出火・物置外馬屋他人の稲草等焼失・火元石岡某に慎み)
1823年 11月11日 文政6年	10月9日 曇	今日雪少降 (日付が判らないが当御廻船の江戸船が尻矢沖辺りで荷打ち・田之?濱と申す所に入津・見分に人を派遣)
1823年 11月12日 文政6年	10月10日 曇	亥の刻頃地震
1823年 11月13日 文政6年	10月11日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 卯の刻頃止 (人事異動)
1823年 11月14日 文政6年	10月12日 晴	
1823年 11月15日 文政6年	10月13日 晴	戌の刻過ぎより小雨降 則刻止 (勤方行き届かない牢奉行を勤料の内10俵召上げ御目巳以下御留守居支配に役下げ)
1823年 11月16日 文政6年	10月14日 晴	
1823年 11月17日 文政6年	10月15日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入 酉の刻過ぎ雷鳴 則刻止 (去る11日夜深浦濱町から出火・類焼とも39軒焼失土蔵1ヶ所焼失)
1823年 11月18日 文政6年	10月16日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入(曇 昨夜より雨及今日時々降夜二入)
1823年 11月19日 文政6年	10月17日 曇	昨夜より雨今日二及 時々降 夜二入(曇 昨夜より雨今日二及時々降夜二入) (深浦出火の火元松岡屋某に慎み)
1823年 11月20日 文政6年	10月18日 晴	昨夜より(之が入っているのかも)雨今晩丑の刻過ぎ止 (石渡川が4歩半の出水・馬船小船とも往来相成りかねる)
1823年 11月21日 文政6年	10月19日 晴	亥の刻過ぎより雨時々降
1823年 11月22日 文政6年	10月20日 曇	昨夜より雨今日二及 時々降 巳の刻過ぎ止 申の刻過ぎ雨 夜二入
1823年 11月23日 文政6年	10月21日 曇	昨夜より雨今晩寅の刻過ぎ止
1823年 11月24日 文政6年	10月22日 曇	今日雪降 二寸程積 (町同心警固長利某を俵子10俵勤料増で牢奉行に等の人事異動、当寒造(1升代)1文目4分5厘値段に仰せ付ける、(11日)深浦の出火で神明宮天満宮が類焼)
1823年 11月25日 文政6年	10月23日 曇	
1823年 11月26日 文政6年	10月24日 晴	(深浦の焼失の39軒に御手当て1軒に付き御米2俵充下し置かれる)
1823年 11月27日 文政6年	10月25日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止 (去る8日より22日までの新穀日々附相場平均(1俵)25文目)
1823年 11月28日 文政6年	10月26日 曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻頃止
1823年 11月29日 文政6年	10月27日 曇	酉の刻過ぎより雨時々降 (深浦町出火の際の防ぎ方格別として深浦町同心等に御賞、和徳町の娘が青森の遊女になり6月23日に大町の男と出奔仙台領牡鹿郡石之巻に……)
1823年 11月30日 文政6年	10月28日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止
1823年 12月1日 文政6年	10月29日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (当3月21日夜最勝院寺庵宝成院に忍び入り袈裟衣金子等を盗んだ男に27鞭7里四方追放家財は妻子に)
1823年 12月2日 文政6年	11月1日 晴	(御賞)
1823年 12月3日 文政6年	11月2日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止
1823年 12月4日 文政6年	11月3日 晴	
1823年 12月5日 文政6年	11月4日 曇	
1823年 12月6日 文政6年	11月5日 晴	子の刻過ぎより雨時々降
1823年 12月7日 文政6年	11月6日 曇	昨夜より雨今日及 午の刻頃止
1823年 12月8日 文政6年	11月7日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 巳の刻過ぎ雷鳴 則刻止 (去る2日夜横内組深持村で出火・建家外馬屋高札焼失建馬焼死・火元高無居村預け、江戸で多数に御賞)
1823年 12月9日 文政6年	11月8日 曇	昨夜より之雨今晩丑の刻過ぎ止 今日雪少降
1823年 12月10日 文政6年	11月9日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (当年格別の旱損にて……)
1823年 12月11日 文政6年	11月10日 曇	昨夜雪少降 下から続く 当7月に屋敷内の無刻印の材木の持ち主に過料)
1823年 12月12日 文政6年	11月11日 曇	今日雪少々降 (人事異動、御賞、……御用の書物並びに古日記の類町方反古に数多く売買ありの旨相聞こえ候・御日記方より差出候様にも相聞こえ候間答書を出させる、 上に続く
1823年 12月13日 文政6年	11月12日 曇	今日雪少降 (和田太左衛門の件に関して乞食手に下された毛内の家来庄兵衛を他国から召し連れる・不埒な乞食頭丁助に慎み)
1823年 12月14日 文政6年	11月13日 晴	戌の刻頃より雨時々降 則刻雷鳴 亥の刻止
1823年 12月15日 文政6年	11月14日 曇	昨夜より雨今日二及 辰の刻頃止 (御日記物書き加勢中田某の他出差留め、昨夜(御家中?)竹屋某宅内に捨子・出入りの者に養育させる)
1823年 12月16日 文政6年	11月15日 晴	酉の刻頃より雨時々降 (当粒油値段1俵平均28文目につき1升5文目1分に仰せ付ける)
1823年 12月17日 文政6年	11月16日 曇	昨夜より雨今日二及 辰の刻頃止 今日雪少降
1823年 12月18日 文政6年	11月17日 曇	
1823年 12月19日 文政6年	11月18日 曇	昨夜雪少降
1823年 12月20日 文政6年	11月19日 晴	昨夜雪少降 (召捕り預けた男に出奔された庄屋等に過料、御日記物書き加勢中田某揚屋入り)
1823年 12月21日 文政6年	11月20日 晴	子の刻頃より雨降 (新酒値段1升到付き1文目5分に仰せ付ける)
1823年 12月22日 文政6年	11月21日 曇	昨夜より雨今日二及 辰の刻頃止
1823年 12月23日 文政6年	11月22日 晴	昨夜雪二寸程積 (御賞)
1823年 12月24日 文政6年	11月23日 晴	
1823年 12月25日 文政6年	11月24日 曇	(去る19日暮より20日まで十三湯が大湊川尻より小又川尻まで残らず氷張る・去年より16日遅く節に引合4日遅い)
1823年 12月26日 文政6年	11月25日 曇	今晩寅の刻過ぎ雨降 辰の刻過ぎ止
1823年 12月27日 文政6年	11月26日 曇	今日雪少降
1823年 12月28日 文政6年	11月27日 曇	昨夜雪四寸程積 今日雪降 二寸程積
1823年 12月29日 文政6年	11月28日 曇	今日雪少降 (人事異動)
1823年 12月30日 文政6年	11月29日 曇	今日雪少降 (初鯉高岡江御献備、屋形様が去る13日に御鷹の雁を御拝領(ありがたいことなんだろうな)、御次第繰上げ)
1823年 12月31日 文政6年	11月30日 晴	今日雪少降

1824年	1月1日	文政6年	12月1日	晴	今日雪少降 (此の度芙蓉の間御廊下詰めに)
1824年	1月2日	文政6年	12月2日	曇	今日雪少降
1824年	1月3日	文政6年	12月3日	曇	卯の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 今日雪少し降
1824年	1月4日	文政6年	12月4日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (高岡金・御軍用金・冥加金とも都合2000両御下げ?)
1824年	1月5日	文政6年	12月5日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 二寸余積
1824年	1月6日	文政6年	12月6日	曇	今日雪少降 戌の八刻寒二入
1824年	1月7日	文政6年	12月7日	曇	今日雪少降 (人事異動)
1824年	1月8日	文政6年	12月8日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 (御鷹の雁御拝領に伴う座当共えの御配当:325人に15文宛)
1824年	1月9日	文政6年	12月9日	曇	昨夜雪少降 (元盗み徒で刑法を行われ一昨年大赦で釈放されたが御構い地に入り込んだ男に3鞭10里四方追放大場御構い)
1824年	1月10日	文政6年	12月10日	曇	昨夜雪少降 (当6月御山伐荒しの男4人に6鞭ツツ居村徘徊はまで通り・五軒組合の者共に過料)
1824年	1月11日	文政6年	12月11日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1824年	1月12日	文政6年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 頃日寒気強し
1824年	1月13日	文政6年	12月13日	曇	今日雪少降
1824年	1月14日	文政6年	12月14日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1824年	1月15日	文政6年	12月15日	曇	昨夜雪少々降 今日雪少降 (当6月江戸御屋敷を出奔の掃除小人に6鞭弘前町徘徊はまで通り)
1824年	1月16日	文政6年	12月16日	晴	(衣類盗みの男に3鞭居町徘徊はまで通り、同役不和合の足軽目付を御城付足輕に役下げ)
1824年	1月17日	文政6年	12月17日	曇	卯の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止 今日雪少降
1824年	1月18日	文政6年	12月18日	曇	(屋形様今以て御不快・来る4月まで御滞府、人事異動、御賞)
1824年	1月19日	文政6年	12月19日	晴	昨夜雪少降
1824年	1月20日	文政6年	12月20日	曇	巳の刻頃雨降 午の刻頃止 (人事異動)
1824年	1月21日	文政6年	12月21日	晴	(人事異動)
1824年	1月22日	文政6年	12月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積
1824年	1月23日	文政6年	12月23日	晴	(この度江戸で御家老御用人より来年より3ヵ年は知行の内2歩通り差上げたいと願ひ奉った・御満足に思召され聞き届けられた・国許でも願ひ書を出すこととする、沢與左衛門を隠居させる)
1824年	1月24日	文政6年	12月24日	曇	昨夜雪少降 (高野村の御目見郷士楠美某が値段もよろしい豊後岡大豆の増殖に成功)
1824年	1月25日	文政6年	12月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積 (多数に御賞(南鐐5片・金200疋・南鐐3片・金100疋・銀9両・銀5両・鳥目2貫文等))
1824年	1月26日	文政6年	12月26日	曇	昨夜雪少降 二寸程積 下から続く 江戸聖堂で松代肥後守の家来狩野某が3人の武家に手傷を負わせる・(御家中?)黒滝某が取り押さえる)
1824年	1月27日	文政6年	12月27日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (人事異動、御賞、去る7日三廩に潤懸中の船が破船・関係者に御賞) 下から続く にて172疋増、古懸(平出)不動尊御出汗、去る3日 上に続く
1824年	1月28日	文政6年	12月28日	曇	昨夜より雨今日二及 時々降 巳の刻過ぎ止 (御賞、去る朔日笠原八郎兵衛を御家老平岡群蔵を御馬廻組頭格にとの人事異動、去る7月より当6月までの牛馬の増減:駒駄 上に続く
1824年	1月29日	文政6年	12月29日	晴	
1824年	1月30日	文政6年	12月30日	曇	
1824年	1月31日	文政7年	正月1日	晴	(十三の水戸口に砂利が押し上げている・雪消の節の水湛回避のため先年の通り穿明ける事とする)
1824年	2月1日	文政7年	正月2日	晴	
1824年	2月2日	文政7年	正月3日	曇	今晩寅の刻より小雨時々降 夜二入 (御吉例金を御金奉行が持参・明日立ちの飛脚で差登、一粒金丹のありあわせなし・菊池某和田棒に調合を申し使わす)
1824年	2月3日	文政7年	正月4日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止
1824年	2月4日	文政7年	正月5日	快晴	
1824年	2月5日	文政7年	正月6日	晴	昨夜雪降 三寸程積 子の刻頃より雨時々降
1824年	2月6日	文政7年	正月7日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止
1824年	2月7日	文政7年	正月8日	曇	
1824年	2月8日	文政7年	正月9日	晴	
1824年	2月9日	文政7年	正月10日	晴	
1824年	2月10日	文政7年	正月11日	晴	
1824年	2月11日	文政7年	正月12日	曇	今晩卯の刻頃地震少 今日雪少降
1824年	2月12日	文政7年	正月13日	晴	
1824年	2月13日	文政7年	正月14日	曇	今日雪少降
1824年	2月14日	文政7年	正月15日	曇	今日雪少降 (人事異動)
1824年	2月15日	文政7年	正月16日	晴	
1824年	2月16日	文政7年	正月17日	晴	(去る14日金木新田茂木村で出火・類焼とも4軒焼失・火元他村預け)
1824年	2月17日	文政7年	正月18日	晴	(江戸で御賞)
1824年	2月18日	文政7年	正月19日	晴	
1824年	2月19日	文政7年	正月20日	曇	未の刻頃より小雨時々降 夜二入
1824年	2月20日	文政7年	正月21日	曇	昨夜より雨今日及 時々降 夜二入(曇 昨夜より雨今日及時々降夜二入)
1824年	2月21日	文政7年	正月22日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入(曇 昨夜より之雨及今日時々降夜二入)
1824年	2月22日	文政7年	正月23日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入(曇昨夜より雨及今日時々降夜二入)
1824年	2月23日	文政7年	正月24日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻頃止 (寒造り仕込み米諸懸かり物を入れ1俵23文目余・酒1升代1文目6分5厘に仰せ付けられたく申し出る・1文目5分値段に申し付ける)
1824年	2月24日	文政7年	正月25日	曇	
1824年	2月25日	文政7年	正月26日	曇	
1824年	2月26日	文政7年	正月27日	晴	(御家中から知行の2歩を差上げることに屋形様のご満足とお聞き届けになった・町在にも御用金(弘前13000両ほど・在方10000両ほど・青森1500両ほど・鰯ヶ沢600両ほど)を仰せ付ける)
1824年	2月27日	文政7年	正月28日	曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 夜二入 (去る25日世良沢村で出火・建家等焼失・火元村預け)
1824年	2月28日	文政7年	正月29日	晴	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止 (御日記方の中田某が御用向きの反古を御櫓より持参し土手町藤屋某に売り払った・他にも同類が居る、江戸で常用金不足の悲鳴が来ている)
1824年	2月29日	文政7年	正月30日	曇	今日雪少降

1824年	3月1日	文政7年	2月1日 晴	(御家中の風儀が何となく緩んでいるから文武をとの指示、当田流剣術には試合がない・御馬廻り山崎某の存念で内々に面小手竹具足などを用いて稽古している)
1824年	3月2日	文政7年	2月2日 晴	
1824年	3月3日	文政7年	2月3日 晴	今日雪少降
1824年	3月4日	文政7年	2月4日 晴	
1824年	3月5日	文政7年	2月5日 曇	戌の刻過ぎより雨時々降
1824年	3月6日	文政7年	2月6日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻頃止 今日雪少降(曇 昨夜より雨及今日午刻頃止今日雪少降)
1824年	3月7日	文政7年	2月7日 曇	昨夜雪少降 (御家中渡し方歩引き御差引き大部調べ:米6071石4斗7升5合4タ・銭19貫951文目7分1厘)
1824年	3月8日	文政7年	2月8日 晴	
1824年	3月9日	文政7年	2月9日 曇	辰の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止 (3ヵ年知行2歩通り差上げのことを御聞き届けられたが100石以下の面々は御国許1歩通江戸表は5厘通御免とする、江戸で人事異動、御賞)
1824年	3月10日	文政7年	2月10日 曇	(知行米差上げに我意を申し募った御手廻組頭堀五郎左衛門の役儀召放し慎み・御用取扱い心得違い等の御用人津軽金蔵の役儀召放しち蛭居親類対面差留める)
1824年	3月11日	文政7年	2月11日 晴	(去る7日昼より翌8日朝まで十三湯が残らず氷明ける)
1824年	3月12日	文政7年	2月12日 曇	(進藤太郎左衛門を御用人に等の人事異動)
1824年	3月13日	文政7年	2月13日 曇	
1824年	3月14日	文政7年	2月14日 晴	申の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止
1824年	3月15日	文政7年	2月15日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入 (御代官加勢を良く勤めた原子某を御手廻組に等の人事異動、御賞)
1824年	3月16日	文政7年	2月16日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止
1824年	3月17日	文政7年	2月17日 曇	巳の刻過ぎより雨降 申の刻頃止 (江戸表御常用が当4月中まで9889両余御不足……、人事異動、御賞)
1824年	3月18日	文政7年	2月18日 曇	昨夜雪少降 (知行等の2歩引きの詳細あり)
1824年	3月19日	文政7年	2月19日 曇	昨夜雪少降 (人事異動、御賞)
1824年	3月20日	文政7年	2月20日 曇	昨夜雪少降 (知行等を2歩通り差上げる申し出でを御聞き届けられ300石以上は2歩・100石相当以上は2歩・それ以下は1歩引きとする)
1824年	3月21日	文政7年	2月21日 曇	(当4月までの御常用が不足で来月2日2000両を勘定小頭に持たせて江戸に出す)
1824年	3月22日	文政7年	2月22日 曇	今日雪少降 午の刻頃地震少し
1824年	3月23日	文政7年	2月23日 晴	
1824年	3月24日	文政7年	2月24日 曇	未の刻過ぎより雨降 夜入 (青森塩町の松村屋・同人抱え女花岸大町の松屋の弟君平を迎えに仙台に行った者が帰る)
1824年	3月25日	文政7年	2月25日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜入 (取り押さえた者共を預り出奔された庄屋・五人組に過料、来月2日に江戸に立つはずの2000両の都合が付かず高岡金の1000両を当分拝借)
1824年	3月26日	文政7年	2月26日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻頃止 今日雪少降
1824年	3月27日	文政7年	2月27日 曇	
1824年	3月28日	文政7年	2月28日 曇	(平沢三右衛門が病死)
1824年	3月29日	文政7年	2月29日 曇	今日雪少降 (若殿様が去る15日より御麻疹・多くの社寺で御祈祷等)
1824年	3月30日	文政7年	2月30日 晴	
1824年	3月31日	文政7年	3月1日 晴	(昨夜五つ時頃(大光寺組)杉館村で出火・建家外馬屋焼失・火元村預け)
1824年	4月1日	文政7年	3月2日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (御家中御給分歩引きにつき御差引き高米4511石6斗1升8合9タ銭11貫808文目2分3厘となる:御家中の総給がわかるかな?)
1824年	4月2日	文政7年	3月3日 晴	
1824年	4月3日	文政7年	3月4日 曇	
1824年	4月4日	文政7年	3月5日 晴	子の刻過ぎより雨時々降
1824年	4月5日	文政7年	3月6日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻頃止
1824年	4月6日	文政7年	3月7日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 巳の刻過ぎ雷鳴 則刻止 (御登金4000両を交代登りの御中小姓に預け当月中旬に登らせる)
1824年	4月7日	文政7年	3月8日 曇	昨夜より雨 今晚丑の刻頃止 今日雪少降 下から続く 嫡子でありながら母と別居?の男に9鞭弘前町徘徊はまで通り、博打の男に3鞭弘前徘徊はまで通り)
1824年	4月8日	文政7年	3月9日 曇	昨夜雪降 式寸程積 (新田等の開発に尽力の者共に任郷士・御目見・御賞、御献上の鮭不漁に付き……、一昨8日夜土手町に盗賊・土蔵切破り反物着類42品盗み取られる、
1824年	4月9日	文政7年	3月10日 曇	昨夜雪少降
1824年	4月10日	文政7年	3月11日 曇	今日雪少降
1824年	4月11日	文政7年	3月12日 曇	今日雪少降 (昨夜五時前鍛冶町より土手町江の通小路から出火・居宅と類焼4軒土蔵1ヶ所木部屋1軒焼失・火元入寺慎)
1824年	4月12日	文政7年	3月13日 晴	戌の刻頃より雨時々降 即刻雷鳴 亥の刻頃止
1824年	4月13日	文政7年	3月14日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止
1824年	4月14日	文政7年	3月15日 晴	酉の刻頃より雨時々降 (若殿様御麻疹が去月26日御順快)
1824年	4月15日	文政7年	3月16日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 今日雪少降
1824年	4月16日	文政7年	3月17日 曇	(人事異動)
1824年	4月17日	文政7年	3月18日 曇	昨夜雪少降
1824年	4月18日	文政7年	3月19日 晴	昨夜雪少降 (昨夜四時頃駒越組深山村で出火・建屋等焼失・火元居村預け)
1824年	4月19日	文政7年	3月20日 晴	子の刻頃より雨降
1824年	4月20日	文政7年	3月21日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 (御用人山本三郎左衛門が江戸表え出立、11日夜出火の男の入寺慎免許)
1824年	4月21日	文政7年	3月22日 晴	昨夜雪降 式寸程積
1824年	4月22日	文政7年	3月23日 晴	
1824年	4月23日	文政7年	3月24日 曇	今暁子の刻頃より雨降 寅の刻頃止 (去る20日夜金木組長富村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け、甲斐守殿より川鱸1尺宛拝受)
1824年	4月24日	文政7年	3月25日 曇	
1824年	4月25日	文政7年	3月26日 曇	今日雪少降
1824年	4月26日	文政7年	3月27日 晴	(昨夜九半時頃常盤組若松村で出火・類焼とも3軒焼失他に外馬屋穀物等焼失・火元百姓他村預け)
1824年	4月27日	文政7年	3月28日 晴	(野火が入った雲谷村中に過料・百姓1軒に30文宛高無1軒に15文宛、同じく飯詰村など数十の村民と庄屋等に)
1824年	4月28日	文政7年	3月29日 晴	
1824年	4月29日	文政7年	4月1日 晴	(人事異動、御賞)
1824年	4月30日	文政7年	4月2日 晴	申の刻頃小雨降 則刻止

1824年	5月1日	文政7年	4月3日	晴	
1824年	5月2日	文政7年	4月4日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入
1824年	5月3日	文政7年	4月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止
1824年	5月4日	文政7年	4月6日	晴	
1824年	5月5日	文政7年	4月7日	晴	
1824年	5月6日	文政7年	4月8日	曇	辰の刻頃小雨降 則刻止 戌の刻過ぎより雨降 (御賞)
1824年	5月7日	文政7年	4月9日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止
1824年	5月8日	文政7年	4月10日	晴	(野火が入った多くの村の住民・庄屋等に過料、蟹田・大間越・深浦・十三・野内町から上納金:当時の町の有力者が判る)
1824年	5月9日	文政7年	4月11日	曇	(今別・碓ヶ関町からの上納金)
1824年	5月10日	文政7年	4月12日	晴	亥の刻過ぎより雨降 下から続く 去々11月種市村の家に忍入り木綿等を盗取った男に9鞭居村徘徊はまで通り・盗み取られた木綿から隠し商売が発覚し本人・五人組・庄屋に過料)
1824年	5月11日	文政7年	4月13日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜入 (一度契約の材木を他に売った?男に15鞭居町徘徊はまで通り・間道を忍通りこの話をつけようとした男2人に12鞭居町徘徊はまで通り、 上に続く
1824年	5月12日	文政7年	4月14日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止
1824年	5月13日	文政7年	4月15日	晴	(人事異動、去る12日夜藤代組大川村で出火・物置と貯糶44俵焼失・火元戸ノ)
1824年	5月14日	文政7年	4月16日	曇	
1824年	5月15日	文政7年	4月17日	晴	
1824年	5月16日	文政7年	4月18日	曇	今暁子の刻頃より雨降 丑の刻過ぎ止
1824年	5月17日	文政7年	4月19日	晴	
1824年	5月18日	文政7年	4月20日	曇	午の刻頃より雨時々降 戌の刻頃止 (町奉行田中太郎五郎を者頭格に等の人事異動、昨昼九時五十石町の御家中宅が焼失・類焼8軒潰家1軒・火元御奉公遠慮の伺いの通り仰せ付ける)
1824年	5月19日	文政7年	4月21日	晴	
1824年	5月20日	文政7年	4月22日	晴	(體孝院様(旧藩主津軽信明)33回忌御忌に付き大赦:居町・居村徘徊御免8人・その他)
1824年	5月21日	文政7年	4月23日	晴	
1824年	5月22日	文政7年	4月24日	晴	亥の刻頃より雨降 (昨21日昼四時頃尾崎組小杉村で出火・建家焼失・火元鍛冶職村預け)
1824年	5月23日	文政7年	4月25日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (人事異動)
1824年	5月24日	文政7年	4月26日	晴	(去る7月5日夜祢ふた之節乱暴をした青森の男共に6・3・3鞭居町徘徊はまで通り・慎み等も)
1824年	5月25日	文政7年	4月27日	晴	
1824年	5月26日	文政7年	4月28日	晴	
1824年	5月27日	文政7年	4月29日	晴	
1824年	5月28日	文政7年	5月1日	晴	亥の刻頃より雨降 (人事異動、(日付不明)十三町近くの磯松村前浜で鰻ヶ沢の5人乗りの船が破船・船頭海死米50俵等流失)
1824年	5月29日	文政7年	5月2日	曇	昨夜より雨今日ニおよび巳の刻止(「より」が一体である以外はこのように書いてある)
1824年	5月30日	文政7年	5月3日	晴	
1824年	5月31日	文政7年	5月4日	晴	亥の刻頃より雨降 (この度金銀吹直二付き……)
1824年	6月1日	文政7年	5月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入止
1824年	6月2日	文政7年	5月6日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止
1824年	6月3日	文政7年	5月7日	晴	(類被りするなどのお触れ)
1824年	6月4日	文政7年	5月8日	晴	(甲斐守様は当年参府・この度は御名交代代にも相成る)
1824年	6月5日	文政7年	5月9日	晴	(南部様が去月22日江戸表出立に付き甲斐守殿は当月中旬にも出立の積り)
1824年	6月6日	文政7年	5月10日	曇	巳の刻過ぎ雨時々降 夜二入
1824年	6月7日	文政7年	5月11日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (南部家の役人から弘前の町奉行に南部大膳大夫が先月22日江戸表を出て盛岡に着いたことを伝えてきている)
1824年	6月8日	文政7年	5月12日	曇	卯の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 雨巳の刻過ぎ止 (当年苗薄立ちにて残らず植塞ぎ之覚東無二付き稗苗用候之儀惣組御代官より申し出る)
1824年	6月9日	文政7年	5月13日	曇	卯の刻雨降 即刻止
1824年	6月10日	文政7年	5月14日	晴	(去る4日女房に切付剃刀で切腹した秋田の男が死亡)
1824年	6月11日	文政7年	5月15日	曇	亥の刻過ぎより雨降
1824年	6月12日	文政7年	5月16日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止
1824年	6月13日	文政7年	5月17日	曇	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 下から続く 御賞(鳥目3貫文下々位熊皮1枚宛)下し置かれる)
1824年	6月14日	文政7年	5月18日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止 (村送りで秋田陣場に向かう仙台の男が山中で死亡、甲斐守が今日黒石を発足) 下から続く 駒越組川原平村の獵師が当春熊3疋狩取り 上に続く
1824年	6月15日	文政7年	5月19日	曇	巳の刻頃より雨降 則刻止 (先ごろ五十石町出火の節早速相詰格別骨折り働いた髪結の者並びに和徳町詰人夫町人夫の者共111人に御酒代を下し置かれる、猿賀組袋村・ 上に続く
1824年	6月16日	文政7年	5月20日	晴	
1824年	6月17日	文政7年	5月21日	晴	(人事異動、去る14日夜国上寺御堂に盗賊)
1824年	6月18日	文政7年	5月22日	曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入 (江戸御常用が当5月より来年4月中迄御不足別帳調への表:11062両余)
1824年	6月19日	文政7年	5月23日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入
1824年	6月20日	文政7年	5月24日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止 (4月13日記述の問題の解決法あり・吉五郎納得いたし候様ニ双方と母平和二相済候様仕度……:当時も平和という用語があった!)
1824年	6月21日	文政7年	5月25日	晴	亥の刻頃より雨降 (去る21日油川組細越村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)
1824年	6月22日	文政7年	5月26日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入
1824年	6月23日	文政7年	5月27日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止
1824年	6月24日	文政7年	5月28日	快晴	
1824年	6月25日	文政7年	5月29日	快晴	(頃日氣候不順・明晦日御穀神で風雨順次の御神楽)
1824年	6月26日	文政7年	5月30日	快晴	(江戸御小納戸より拝借7000両の内去る冬200両を江戸表で上納残り6800両を年々500両……:判らんが大変)
1824年	6月27日	文政7年	6月1日	快晴	(出精の代官に御賞)
1824年	6月28日	文政7年	6月2日	快晴	
1824年	6月29日	文政7年	6月3日	曇	(去月5日遠州船が御廻船で荷打ちの上相州三崎湊に入津・勘定小頭等派遣)
1824年	6月30日	文政7年	6月4日	晴	(当春横内組宮崎村の獵師が熊上中下の3疋狩取り御賞(鳥目3貫文と下々位の熊皮)下し置かれる)

1824年	7月1日	文政7年	6月5日 晴	(人事異動、御賞)
1824年	7月2日	文政7年	6月6日 晴	
1824年	7月3日	文政7年	6月7日 晴	(青田の内笛吹くなどの触れ、去る5日木作新田薦槌村?で出火・建家穀物等焼失・火元村預け)
1824年	7月4日	文政7年	6月8日 晴	(茂森町の男が死亡したとの連絡が秋田よりある)
1824年	7月5日	文政7年	6月9日 晴	(去る21日暁江戸の津梁院が出火残らず焼失)
1824年	7月6日	文政7年	6月10日 晴	
1824年	7月7日	文政7年	6月11日 晴	(人事異動)
1824年	7月8日	文政7年	6月12日 晴	
1824年	7月9日	文政7年	6月13日 晴	
1824年	7月10日	文政7年	6月14日 曇	巳の刻頃小雨降 則刻止 (新庄領船形御本陣御飛脚宿が大破・御金20両拝借願い・格段の御沙汰を以って金3両下し置かれる)
1824年	7月11日	文政7年	6月15日 晴	(竹内衛士を大組足軽頭に等の人事異動、御賞)
1824年	7月12日	文政7年	6月16日 晴	
1824年	7月13日	文政7年	6月17日 晴	(頃日照り続きに付き四社で風雨順次の御祈禱を仰付ける、御用銅の儀に付き深浦船潤屋?某が公儀より呼び出し、小田原城大久保家の家来が敵討ちをしたという16ページに渡る記事あり)
1824年	7月14日	文政7年	6月18日 晴	
1824年	7月15日	文政7年	6月19日 晴	
1824年	7月16日	文政7年	6月20日 晴	(人事異動、この度1朱の歩判金新規吹き立て・この歩判16を以って金1両)
1824年	7月17日	文政7年	6月21日 晴	
1824年	7月18日	文政7年	6月22日 晴	戌の刻頃より小雨降 則刻止 (田畑旱損・大行院で雨乞いの重き御祈禱を仰せ付ける、去る19日夜高根村で出火・建家土蔵等焼失・火元村預け)
1824年	7月19日	文政7年	6月23日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻頃止 午の刻頃より雨降 夜二入 子の刻頃止ム(曇 今晩寅刻頃より雨降卯刻頃止午刻頃より雨降夜二入子刻頃止ム)
1824年	7月20日	文政7年	6月24日 晴	(人事異動)
1824年	7月21日	文政7年	6月25日 曇	卯の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止 午の刻頃雨降 夜二入
1824年	7月22日	文政7年	6月26日 曇	今晩寅の刻頃雷鳴 則刻止 昨夜より雨今日ニ及 卯の刻頃止
1824年	7月23日	文政7年	6月27日 晴	(御用銅の件の深浦町廻船宿宇次郎の付き添い登りの心得あり・例えば箸は三寸箸)
1824年	7月24日	文政7年	6月28日 晴	
1824年	7月25日	文政7年	6月29日 晴	
1824年	7月26日	文政7年	7月1日 晴	
1824年	7月27日	文政7年	7月2日 晴	
1824年	7月28日	文政7年	7月3日 晴	下から続く ゆすりたかり?の男に3里四方追放、衣類盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1824年	7月29日	文政7年	7月4日 曇	亥の刻頃より雨降 6日から続く 去る3月仲間仲間の品を盗んだ男に3鞭黒石表に送返し、黒石で破牢の上奉公婿入り博打の男に3鞭黒石表に送返し、 上に続く
1824年	7月30日	文政7年	7月5日 曇	昨夜雨 今晩寅の刻頃止 (去る4月柳田村領桜澤前沖で御用銅を積んだ加州の船が破船・海失の御用銅(大銅78枚・小銅70)を去月28日海中より引き上げる)
1824年	7月31日	文政7年	7月6日 曇	寅の刻頃より雨降 則刻止 (去る11月酒飲み乱暴・人夫に交って不法に関所を抜けた男に9鞭居町徘徊是まで通り、当2月に下土手町で衣類奪い取った男に3鞭弘前町払い、 4日に続く
1824年	8月1日	文政7年	7月7日 曇	午の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (一昨5日上木作村で出火・居宅穀物等焼失・火元村預け)
1824年	8月2日	文政7年	7月8日 曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止
1824年	8月3日	文政7年	7月9日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1824年	8月4日	文政7年	7月10日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止
1824年	8月5日	文政7年	7月11日 曇	申の刻過ぎより小雨降 夜二入 子の刻頃止 (大鰐村加賀助兵左衛門より初穂差上げる)
1824年	8月6日	文政7年	7月12日 曇	辰の刻頃より小雨降 午の刻頃止
1824年	8月7日	文政7年	7月13日 晴	
1824年	8月8日	文政7年	7月14日 晴	
1824年	8月9日	文政7年	7月15日 晴	(御賞)
1824年	8月10日	文政7年	7月16日 晴	
1824年	8月11日	文政7年	7月17日 晴	
1824年	8月12日	文政7年	7月18日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止 (揚屋から男が逃亡)
1824年	8月13日	文政7年	7月19日 晴	
1824年	8月14日	文政7年	7月20日 晴	
1824年	8月15日	文政7年	7月21日 晴	(博打・借金・謀判の奥内村庄屋が出奔)
1824年	8月16日	文政7年	7月22日 晴	
1824年	8月17日	文政7年	7月23日 晴	
1824年	8月18日	文政7年	7月24日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 巳の刻頃止 (人事異動)
1824年	8月19日	文政7年	7月25日 晴	
1824年	8月20日	文政7年	7月26日 晴	
1824年	8月21日	文政7年	7月27日 曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止
1824年	8月22日	文政7年	7月28日 曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止
1824年	8月23日	文政7年	7月29日 曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止
1824年	8月24日	文政7年	8月1日 曇	午の刻頃小雨降 則刻止 未の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止 (大鰐村加賀助兵左衛門より初米8俵差上げる)
1824年	8月25日	文政7年	8月2日 曇	午の刻頃小雨降 則刻止 (百沢寺より岩木山苔実差上げる、水練指南骨折りの御徒横岡奎太夫等に御賞)
1824年	8月26日	文政7年	8月3日 晴	
1824年	8月27日	文政7年	8月4日 晴	
1824年	8月28日	文政7年	8月5日 晴	
1824年	8月29日	文政7年	8月6日 曇	卯の刻過ぎより雨降 巳の刻頃止 申の刻過ぎより雨降 夜二入
1824年	8月30日	文政7年	8月7日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止 巳の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 (当江戸御廻船永久丸が南部領で難船・鵜ヶ崎に入津・見分に勘定小頭等を派遣)
1824年	8月31日	文政7年	8月8日 曇	卯の刻頃小雨降 則刻止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (去る10月2日に赤石村より鰺ヶ沢町に送る男を取り逃がした赤石村の男2人代庄屋に過料・逃げた男は広戸村で捕まる)

1824年	9月1日	文政7年	8月9日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 亥の刻過ぎ止
1824年	9月2日	文政7年	8月10日	曇	巳の刻過ぎ雨少降 則刻止
1824年	9月3日	文政7年	8月11日	曇	
1824年	9月4日	文政7年	8月12日	曇	未の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止
1824年	9月5日	文政7年	8月13日	曇	(去月14日揚屋から出奔(去月18日記述)された町同心の勤料5俵差し引き御城付き足輕に役下げ)
1824年	9月6日	文政7年	8月14日	曇	
1824年	9月7日	文政7年	8月15日	曇	今晚寅の刻頃小雨降 則刻止 辰の刻過ぎより時々降 夜二入 (明16日頃日天気不勝に付き五穀神で日和上げの御神楽差上げる)
1824年	9月8日	文政7年	8月16日	曇	
1824年	9月9日	文政7年	8月17日	曇	酉の刻頃より雨降 戌の刻過ぎ止
1824年	9月10日	文政7年	8月18日	曇	
1824年	9月11日	文政7年	8月19日	晴	
1824年	9月12日	文政7年	8月20日	晴	
1824年	9月13日	文政7年	8月21日	曇	午の刻頃より小雨降 申の刻過ぎ止
1824年	9月14日	文政7年	8月22日	晴	申の刻頃雷鳴 則刻止 下から続く 出奔した男に12鞭兄預け・出奔の抱女に9鞭主人(前記の不届きな男)に引渡し
1824年	9月15日	文政7年	8月23日	晴	亥の刻過ぎより雨降 夜二入 (去る4月小盗みの男に3鞭弘前町払い、去る6月松屋某の弟が抱女を召し連れ出奔の際の尋ね方が不届きな男に12鞭居町徘徊はまで通り・左の 上に続く
1824年	9月16日	文政7年	8月24日	曇	昨夜より雨 今晚寅の刻過ぎ止 巳の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 (13日より15日までの大雨東風で洪水・浦町横内両組の川添いの村々で田方8町3反2畝ほど・畑4町7反歩ほど水湛)
1824年	9月17日	文政7年	8月25日	晴	酉の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止
1824年	9月18日	文政7年	8月26日	晴	(当2月偽名で衣類を奪い取り後悔し……の男に3鞭弘前町払い、去月16日に踊り見物の御家中の子供が喧嘩死亡者1人)
1824年	9月19日	文政7年	8月27日	晴	
1824年	9月20日	文政7年	8月28日	曇	巳の刻頃小雨降 則刻止 午の刻過ぎより雨降 申の刻頃止 (江戸で表右筆佐藤栄吉などに御賞(金2歩仁朱・同1歩仁朱・同100疋・銀6両・同3両・南鐐7片など))
1824年	9月21日	文政7年	8月29日	曇	今晚寅の刻過ぎ雨降 即刻止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻頃止
1824年	9月22日	文政7年	8月30日	晴	
1824年	9月23日	文政7年	閏8月1日	晴	(大目付土岐渡人を大寄合格に寺社奉行取扱に等の人事異動)
1824年	9月24日	文政7年	閏8月2日	晴	(去月15日の浦町横内組の出水・田方川成7町2反2畝3歩程・同水押上8町9反5畝10歩程・畑方川成2町4反4畝程・同石砂押上5町3反1畝15歩・同水押上59町2反14歩)
1824年	9月25日	文政7年	閏8月3日	晴	
1824年	9月26日	文政7年	閏8月4日	晴	(兼平十太夫を寺社奉行取扱に等の人事異動、常用等が不足・御廻船も難船で……出費を抑えているように見えない)
1824年	9月27日	文政7年	閏8月5日	晴	
1824年	9月28日	文政7年	閏8月6日	曇	卯の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 下から続く 牢居300日御片付けは追って仰付け・この庄屋五人組に過料1貫800文と1貫200文宛)
1824年	9月29日	文政7年	閏8月7日	晴	(一粒金丹有合せなし・石黒某和田某に5判調合仰付け、去る午年(今年は申年)弘前表より鯨ヶ沢迄駄下米40俵取潰(道中で横領くらの意か)の男に此の節より改めて 上に続く
1824年	9月30日	文政7年	閏8月8日	晴	(奇応?丸2剤を手塚某に調合仰せ付け、昨夜(御家中?)台所より出火・居宅焼失) 下から続く (5月14日記載の)5月4日死亡の男の女房が母子4人とも残りたいという・認める)
1824年	10月1日	文政7年	閏8月9日	曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入 亥の刻過ぎ止 (このたび新金銀通用・古金銀は来酉2月まで通用・以後古金銀通用停止、去る5月?鯨ヶ沢に白木綿を隠し荷揚げの男共に戸ノ等、 上に続く
1824年	10月2日	文政7年	閏8月10日	曇	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 申の刻過ぎ小雨降 則刻止 (去月15日屋形様が御鷹の雲雀拝領、御用人山本三郎左衛門が江戸で病死、去る12月3日に公儀学問所で 欄外(*)に続く
1824年	10月3日	文政7年	閏8月11日	曇	
1824年	10月4日	文政7年	閏8月12日	晴	(人事異動)
1824年	10月5日	文政7年	閏8月13日	晴	酉の刻過ぎより小雨時々降 夜入 (勤め方不心得の御徒目付を御目見以下御留守居支配に役下げ)
1824年	10月6日	文政7年	閏8月14日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止
1824年	10月7日	文政7年	閏8月15日	曇	今晚丑の刻頃雨降 則刻止 (人事異動、去る夏高杉村領御山に野火・雑木1万本余焼く・庄屋等に過料)
1824年	10月8日	文政7年	閏8月16日	晴	
1824年	10月9日	文政7年	閏8月17日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止 巳の刻頃雨降 則刻止
1824年	10月10日	文政7年	閏8月18日	晴	
1824年	10月11日	文政7年	閏8月19日	晴	今晚寅の刻頃雨降 則刻止 (三國屋・梅屋の仕込み味噌売り貸し値段去年と同じ銭10文目に付き目方6貫500目値段、去々年より金価114文定め)
1824年	10月12日	文政7年	閏8月20日	曇	未の刻過ぎ雨少降 則刻止 (別段御用懸引取りに御賞)
1824年	10月13日	文政7年	閏8月21日	曇	未の刻過ぎより雷雨 則刻止 雨時々降 夜二入 戌の刻頃止
1824年	10月14日	文政7年	閏8月22日	曇	未の刻過ぎ雷雨 雷則刻止 雨申の刻過ぎ止
1824年	10月15日	文政7年	閏8月23日	曇	辰の刻過ぎより雷雨 夜二入 雷子の刻頃止 下から続く 異国船に糶米奪取られる・他の御廻船も仙台と南部境東の方沖合いで異国船見懸ける、当御廻船の内2艘で荷打ち)
1824年	10月16日	文政7年	閏8月24日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 (昨21日夜五時半時藤崎組飯田村で出火・建家外馬屋等焼失・火元庄屋村預け、当5月11日出帆の御廻船が仙台領金花山沖で 上に続く
1824年	10月17日	文政7年	閏8月25日	晴	
1824年	10月18日	文政7年	閏8月26日	曇	卯の刻過ぎより小雨降 巳の刻頃止
1824年	10月19日	文政7年	閏8月27日	晴	(福真才助を赤田組検見に等の都合22手を派遣)
1824年	10月20日	文政7年	閏8月28日	晴	(高岡御献備の初鮭を御台所頭より差出す)
1824年	10月21日	文政7年	閏8月29日	晴	(松の切株があった3村・隠し炭釜があった1村の住民・庄屋に過料)
1824年	10月22日	文政7年	9月1日	晴	
1824年	10月23日	文政7年	9月2日	晴	(一昨晩一番町小見せに包みに火を入れ捨て置く事件あり)
1824年	10月24日	文政7年	9月3日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止
1824年	10月25日	文政7年	9月4日	曇	巳の刻頃より雷雨 雷則刻止 雨未の刻過ぎ止
1824年	10月26日	文政7年	9月5日	晴	下から続く 盗み取った掃除小人の御給分召上げ弘前町払い家財は家内の者に)
1824年	10月27日	文政7年	9月6日	曇	卯の刻過ぎより雨降 巳の刻止 亥の刻頃より雨時々降 (先年金米銭語り取り刑法を行われ兄預けになって再犯の男に15鞭五里四方追放・兄は過料1貫200文、偽って弁当等を 上に続く
1824年	10月28日	文政7年	9月7日	曇	今朝岩木山江雪初て見ゆる 昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 未の刻頃より雨降 夜二入 亥の刻頃止 (去る10月堤村の土蔵を切破り盗みの男が不明日時に死亡・関係者に慎み等)
1824年	10月29日	文政7年	9月8日	曇	(甲斐守様より川鮭1尺宛拝受)
1824年	10月30日	文政7年	9月9日	曇	今晚寅の刻頃より雷雨 雷則刻止 雨卯の刻過ぎ止
1824年	10月31日	文政7年	9月10日	晴	

(*) 乱心の狩野某を捕り押さえた(12月27日記述)黒瀧藤太を知行50石御馬廻に仰せ付ける等の人事異動)

1824年	11月1日	文政7年	9月11日 快晴 (今日三之丸御馬場で射芸見分)
1824年	11月2日	文政7年	9月12日 快晴 (昨10日高杉組鼻和村で出火・建家1軒焼失・火元村預け)
1824年	11月3日	文政7年	9月13日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻頃止
1824年	11月4日	文政7年	9月14日 曇 卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻頃止 (去月25日竜濱沖合いで三厩の船の水主が海死)
1824年	11月5日	文政7年	9月15日 曇
1824年	11月6日	文政7年	9月16日 曇 未の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1824年	11月7日	文政7年	9月17日 曇 昨夜より雨 今晩寅の刻頃止 (一昨夜駒越組国吉村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)
1824年	11月8日	文政7年	9月18日 曇
1824年	11月9日	文政7年	9月19日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (御用人藤田が江戸に出入)
1824年	11月10日	文政7年	9月20日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻頃止
1824年	11月11日	文政7年	9月21日 曇 巳の刻頃より雨時々降 申の刻頃止
1824年	11月12日	文政7年	9月22日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (御鷹の雲雀拝領の御祝儀として座当盲女共299人に15文宛下し置かれる)
1824年	11月13日	文政7年	9月23日 晴
1824年	11月14日	文政7年	9月24日 曇 卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 子の刻頃止
1824年	11月15日	文政7年	9月25日 曇
1824年	11月16日	文政7年	9月26日 曇 今日雪少降
1824年	11月17日	文政7年	9月27日 曇 昨夜雪少降
1824年	11月18日	文政7年	9月28日 曇 午の刻頃より雨時々降 夜二入
1824年	11月19日	文政7年	9月29日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻頃止ム
1824年	11月20日	文政7年	9月30日 曇 (昨28日九半時頃揚屋入りの男が雪隠の穴から逃亡)
1824年	11月21日	文政7年	10月1日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止
1824年	11月22日	文政7年	10月2日 曇 午の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止
1824年	11月23日	文政7年	10月3日 曇 辰の刻頃より雨時々降 夜二入 戌の刻過ぎ止
1824年	11月24日	文政7年	10月4日 晴
1824年	11月25日	文政7年	10月5日 曇 辰の刻頃より雨時々降 夜二入
1824年	11月26日	文政7年	10月6日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻頃止 亥の刻過ぎより雨降
1824年	11月27日	文政7年	10月7日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻頃止
1824年	11月28日	文政7年	10月8日 晴 (人事異動)
1824年	11月29日	文政7年	10月9日 晴 (勘定奉行申し出で候・米147200石程・内18540石程但当毛引並びに諸品成共・引残而108660石程・右(本書では左)は田畑当御收納高仮積相調べ候表前書之通………意味不明)
1824年	11月30日	文政7年	10月10日 曇 昨夜雪降 一寸程積
1824年	12月1日	文政7年	10月11日 曇 今日雪少々降 (古懸(平出で尊敬を表して)不動尊御出汗・御神楽を仰せ付ける・五山に御祈禱を仰せ付ける)
1824年	12月2日	文政7年	10月12日 曇 今日雪許降 式寸程積 (横内組久栗坂・原別村の漁師共(数十艘)が蟹田村領で漁事、去る9日夜牛湯村で出火・建家稲草焼失・火元村預け)
1824年	12月3日	文政7年	10月13日 晴 (酒狂いで強請り数人に負傷させた男に24鞭5里四方追放)
1824年	12月4日	文政7年	10月14日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 亥の刻頃止 (当御廻船の遠州船が破船・上乗り下乗りとも溺死、先頃(9月30日記述)揚屋より出奔の相内村の男が広須組豊田村で捕まる)
1824年	12月5日	文政7年	10月15日 晴
1824年	12月6日	文政7年	10月16日 曇 今晩丑の刻より雨時々降 夜二入 戌の刻過ぎ止
1824年	12月7日	文政7年	10月17日 晴 昨夜雪少降 (国上寺不動尊(平出・欠字なし)が御持ちになっている剣の長さの記述あり)
1824年	12月8日	文政7年	10月18日 曇 卯の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ雷鳴 雷則刻止 雨申の刻頃止
1824年	12月9日	文政7年	10月19日 曇 今日雪少々降 下から続く 御定め引き・残って30目6分9厘2毛が一番相場)
1824年	12月10日	文政7年	10月20日 曇 昨夜雪降 式寸程積 頃日寒強し (米1俵に付き:弘前御蔵29文目7分8厘8毛立・青森御蔵34文目立・鰯ヶ沢御蔵31文目1分8厘8毛立・3ヶ所平均31文目8分9厘2毛内1文目2分 上に続く
1824年	12月11日	文政7年	10月21日 曇 今日雪少降 (去月9日御屋形で刀1腰紛失・拾い質入した掃除小人を手錠の上駄駕籠で弘前に返す)
1824年	12月12日	文政7年	10月22日 晴
1824年	12月13日	文政7年	10月23日 晴
1824年	12月14日	文政7年	10月24日 曇 今日雪少降 (小泊村長松弟万太が今もって存命なんだそう、当月7日より21日まで新米日々附相場平均値段:米1俵代26匁5分)
1824年	12月15日	文政7年	10月25日 曇 昨夜雪降 式寸程積 下から続く この仲間2人に磔と刎首獄門、6月17日暮諸人に手傷死亡者を出した男(苗字あり)を斬罪)
1824年	12月16日	文政7年	10月26日 曇 今日雪少降 (去る午年(今年は申年)7月12日当番の節合鍵で御小納戸御物置に度々進入御金盗み取る・去る辰年江戸詰めの際も同様の男に町内引き回しの上磔・ 上に続く
1824年	12月17日	文政7年	10月27日 曇 (増館組水木村で極難の者共傷寒相煩う・施薬を仰付ける、去る25日増館組水木村で出火・建家等焼失・火元修験禁足、(9月30日・10月14日記述)逃亡者を揚屋番が捕らえたので慎みのみ)
1824年	12月18日	文政7年	10月28日 晴 (新酒1升に付き1文目4分5厘商売仰せ付ける、油1升に付き来月朔日より2月中まで5文目値段に仰せ付ける)
1824年	12月19日	文政7年	10月29日 曇 今日雪少降 (人事異動)
1824年	12月20日	文政7年	11月1日 曇 昨夜雪降 式寸程積
1824年	12月21日	文政7年	11月2日 曇 今日雪時々降 下から続く 当御廻船遠州船の上乗・下乗・船頭・水主とも6人海死)
1824年	12月22日	文政7年	11月3日 曇 今日雪少降 (去る辰年(今年は申年)秋田領より深浦に着船の御用銅船の関係者4人に判決:中追放1・死罪3人内1人は既に病死・その他は御呵並びに過料、人事異動、 上に続く
1824年	12月23日	文政7年	11月4日 曇 昨夜雪降 一寸位積 未の刻過ぎ地震少々
1824年	12月24日	文政7年	11月5日 晴 (去月29日暮より翌昨日までに十三潟の水漲る・去年に比べ日数引合20日早く節に引合去年と同じ)
1824年	12月25日	文政7年	11月6日 曇 昨夜雪少々降 今日雪少々降
1824年	12月26日	文政7年	11月7日 曇 未の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (一昨5日常盤組亀ヶ岡村で出火・類焼とも2軒等焼失1歳の男子焼死・火元村預け)
1824年	12月27日	文政7年	11月8日 晴 戌の刻頃より雨時々降 (蒔苗葉を大組足輕頭に等の人事異動、去る辰年深浦着御用銅船関連で:中追放1人深浦町同心・重追放1人廻船小宿・遠島1人(既に病死)同所 欄外(*)に続く
1824年	12月28日	文政7年	11月9日 曇 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 亥の刻頃止 (去る5日夜油川村で男が脇差で暴れ傷害・自損)
1824年	12月29日	文政7年	11月10日 晴
1824年	12月30日	文政7年	11月11日 曇 巳の刻過ぎより小雨降 申の刻過ぎ止
1824年	12月31日	文政7年	11月12日 曇 辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入
			(*)・死罪4人(内1人は既に病死町同心)・所払い敲手鎖等9人・過料4人)

1825年	1月1日	文政7年	11月13日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻頃止
1825年	1月2日	文政7年	11月14日	曇	昨夜雪少降 (高岡献備の初鱈2本を御台所頭が差出す)
1825年	1月3日	文政7年	11月15日	晴	戌の刻過ぎより小雨降 則刻止
1825年	1月4日	文政7年	11月16日	曇	
1825年	1月5日	文政7年	11月17日	曇	昨夜雪少々降 (深浦の御用銅関連で庄屋等に戸丩等の罰)
1825年	1月6日	文政7年	11月18日	曇	今晚丑ノ七刻寒ニ入
1825年	1月7日	文政7年	11月19日	曇	昨夜雪降 三寸位積 卯の刻過ぎ雨少々降 即刻止
1825年	1月8日	文政7年	11月20日	曇	昨夜雪少々降 下から続く 酒1升到付き1文目5分値段に仰せ付ける)
1825年	1月9日	文政7年	11月21日	曇	昨夜雪降 式尺余積 今日雪少々降 (御手廻組頭津軽右近を御用人兼帯に等の人事異動、昨19日明油川組新城村で出火・建家穀物等焼失馬1疋焼死・火元高無村預け、 上に続く
1825年	1月10日	文政7年	11月22日	曇	昨夜雪降 式寸位積 今日雪少々降
1825年	1月11日	文政7年	11月23日	曇	今日雪少降
1825年	1月12日	文政7年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積
1825年	1月13日	文政7年	11月25日	曇	
1825年	1月14日	文政7年	11月26日	曇	今日雪少々降 戌の刻頃地震少々
1825年	1月15日	文政7年	11月27日	晴	
1825年	1月16日	文政7年	11月28日	晴	昨夜雪降 式寸程積 頃日寒強し
1825年	1月17日	文政7年	11月29日	曇	今日雪少々降
1825年	1月18日	文政7年	11月30日	曇	今日雪少々降
1825年	1月19日	文政7年	12月1日	晴	
1825年	1月20日	文政7年	12月2日	曇	昨夜雪少々降 今日雪少々降 (昨日藤崎組辻村で出火・建家焼失・火元村預け)
1825年	1月21日	文政7年	12月3日	晴	
1825年	1月22日	文政7年	12月4日	曇	今日雪式寸程積
1825年	1月23日	文政7年	12月5日	曇	今日雪降 五寸程積
1825年	1月24日	文政7年	12月6日	曇	昨夜雪降 三寸程積
1825年	1月25日	文政7年	12月7日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少々降 (屋形様が10月28日上使を以って御鷹御拝領)
1825年	1月26日	文政7年	12月8日	曇	今日雪少々降 (去月晦日までに十三湯が残らず氷張る)
1825年	1月27日	文政7年	12月9日	晴	昨夜雪降 三寸程積
1825年	1月28日	文政7年	12月10日	曇	今日雪少々降
1825年	1月29日	文政7年	12月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (人事異動、御賞、御本城廻り御屋祢雪下ろし御手伝いを諸組より仰せ付ける、去る2日夜赤石組吉村?で出火・居宅と子胤師拝借の鉄砲焼失・火元居村預け)
1825年	1月30日	文政7年	12月12日	晴	今日雪少々降 (開発増の御賞)
1825年	1月31日	文政7年	12月13日	晴	(御家老渡辺将監が病死)
1825年	2月1日	文政7年	12月14日	曇	今日雪降 式寸程積
1825年	2月2日	文政7年	12月15日	晴	昨夜雪少々降 (御賞、去る14日三厩領浜名村で木綿等を触れ売りした青森町の男に過料・関係者にも戸丩等の罰)
1825年	2月3日	文政7年	12月16日	曇	今日雪少降 (去月17日江戸相立ち候蜜柑御荷物今日到着)
1825年	2月4日	文政7年	12月17日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 式寸程積 (御賞、去る6日後潟組蓬田村阿弥陀川村の3人に鱈漁中に海死、御鷹の雁御拝領に付き座当盲女都合299人に15文宛下し置かれる)
1825年	2月5日	文政7年	12月18日	晴	今日雪少降 (御賞)
1825年	2月6日	文政7年	12月19日	晴	昨夜雪降 式寸程積 (御賞)
1825年	2月7日	文政7年	12月20日	晴	今日雪少降 (山田左九郎等に御賞、当寒作り酒1升1文目5分値段に仰せ付ける)
1825年	2月8日	文政7年	12月21日	晴	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少降 (40ページ以上にわたる多数の御賞、増館組水木村の極難の者共20軒が傷寒・御施薬仰せ付ける、参勤の節御定め以上の馬を雇うなどの触れ?)
1825年	2月9日	文政7年	12月22日	晴	今日雪少降 (去る20日明六時鰯ヶ沢町で出火・庇焼失・火元戸丩、間道を通り他領の椀類買入れた男に15鞭居町徘徊是迄通り、永泉寺等4寺を退院させ他の3寺に慎み、 欄外(*)に続く
1825年	2月10日	文政7年	12月23日	晴	
1825年	2月11日	文政7年	12月24日	曇	昨夜雪少降 (御賞、去る19日夜本行寺内?の庵焼失・火元本行寺禁足:29日に記述で庵は芦屋村にあり禁足は庵主)
1825年	2月12日	文政7年	12月25日	晴	
1825年	2月13日	文政7年	12月26日	晴	(去る未12月大鰯湯年で僧侶共入り博打の男共に3鞭居町徘徊是迄通り、小盗み等の男に3鞭倅(御留守居支配)預け・この仲間に3鞭親(大組警固)預け・この仲間に3鞭弘前町払い)
1825年	2月14日	文政7年	12月27日	曇	午の刻過ぎ小雨時々降 夜ニ入 (飯詰組前田之目村の仁右衛門の母が当年94歳で子孫曾孫まで59人・この母に生涯1人扶持・仁右衛門に鳥目2貫文下される)
1825年	2月15日	文政7年	12月28日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 (福真才助がどこかの御蔵奉行、御賞、江戸表御常用御不足に付き……、昨15日若殿様四品仰せ付けられる)
1825年	2月16日	文政7年	12月29日	曇	今日雪少降 (一昨26日木作新田入江村で出火・建家穀物焼失・火元百姓居村預け、酒1升1文目7分5厘の申し出に1文目6分値段に仰せ付ける)
1825年	2月17日	文政7年	12月30日	晴	
1825年	2月18日	文政8年	正月1日	晴	
1825年	2月19日	文政8年	正月2日	曇	去るの刻頃小雨降 則刻止ム
1825年	2月20日	文政8年	正月3日	晴	(御吉例金御金奉行より差出す、人事異動)
1825年	2月21日	文政8年	正月4日	晴	昨夜雪少々降
1825年	2月22日	文政8年	正月5日	曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1825年	2月23日	文政8年	正月6日	曇	昨夜雪降 今日雪少シ降 (御用人西館宇膳が江戸に出生)
1825年	2月24日	文政8年	正月7日	曇	昨夜雪少々降 今日雪降 二寸程積る ((日時不明)田舎館組諏訪堂村で出火・建家穀物焼失・火元高無村預け)
1825年	2月25日	文政8年	正月8日	晴	
1825年	2月26日	文政8年	正月9日	晴	
1825年	2月27日	文政8年	正月10日	晴	(昨晚茂森町に倒死の者・顔の内に疵)
1825年	2月28日	文政8年	正月11日	晴	

(*) 昨2日当六月御呼び出しの深浦町の男の手錠御免、青森から御米等を積み7月22日出帆の大坂船の御廻船が閏8月26日仙台領金花山沖で荷打の上気仙郡細浦に入津・勘定小頭を派遣)

1825年	3月1日	文政8年	正月12日	晴	昨夜雪少々降る	
1825年	3月2日	文政8年	正月13日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少々降	
1825年	3月3日	文政8年	正月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少々降	
1825年	3月4日	文政8年	正月15日	曇	今日雪少シ降 (去る9日夜出奔の男の人相書き(せい5尺3寸位……))	
1825年	3月5日	文政8年	正月16日	晴	昨夜雪降る 八寸程積る	
1825年	3月6日	文政8年	正月17日	曇	今日雪降 六寸程積る (江戸で人事異動・御賞)	
1825年	3月7日	文政8年	正月18日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 一寸程積る	
1825年	3月8日	文政8年	正月19日	曇	昨夜雪三寸程 今日雪二寸程積る (旧臘13日病死の渡辺将監に関する香典白銀30両下し置かれる)	
1825年	3月9日	文政8年	正月20日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少々降 (人事異動)	
1825年	3月10日	文政8年	正月21日	晴	昨夜雪少々降	
1825年	3月11日	文政8年	正月22日	曇	今日雪少々降	
1825年	3月12日	文政8年	正月23日	晴		
1825年	3月13日	文政8年	正月24日	晴	昨夜雪少々降	
1825年	3月14日	文政8年	正月25日	晴		
1825年	3月15日	文政8年	正月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少々降る	
1825年	3月16日	文政8年	正月27日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少々降る	
1825年	3月17日	文政8年	正月28日	曇	昨夜雪二寸程積 今日雪少々降 (御城代津軽式部を芙蓉之間御廊下詰め・津軽廷尉を御用人兼帯に等の人事異動)	
1825年	3月18日	文政8年	正月29日	晴		
1825年	3月19日	文政8年	正月30日	晴	(古金銀通用は当酉2月中・その後は通用停止、去る7月流木89本隠し上げの村の者共に過料)	
1825年	3月20日	文政8年	2月1日	曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (去月28日金木組今泉村で出火・類焼3軒その他焼失・火元借家他村預け)	
1825年	3月21日	文政8年	2月2日	晴	寅の刻過ぎ地震少シ (昨夜五半時頃平岡町で居宅出火・火元慎み)	
1825年	3月22日	文政8年	2月3日	晴	下から続く 出奔、人事異動)	
1825年	3月23日	文政8年	2月4日	晴	(去月11日江戸で藤田権三郎を御用人にとの人事異動、一昨夜八時頃高杉組高屋村で出火・居宅等焼失・火元居村預け、去る7月江戸御廻船下乗りの掃除小人が仙台細浦	上に続く
1825年	3月24日	文政8年	2月5日	晴		
1825年	3月25日	文政8年	2月6日	晴		
1825年	3月26日	文政8年	2月7日	晴	昨夜雪少々降	
1825年	3月27日	文政8年	2月8日	晴		
1825年	3月28日	文政8年	2月9日	晴		
1825年	3月29日	文政8年	2月10日	晴	(去る辰年の銅の隠し上げに関して関係者に罰・慎み戸ペ)	
1825年	3月30日	文政8年	2月11日	晴	(去る9日夜蓮川村の全竜寺が焼失)	
1825年	3月31日	文政8年	2月12日	晴		
1825年	4月1日	文政8年	2月13日	曇	今晚寅の刻より雨降 即刻止 今日雪三寸程積る	
1825年	4月2日	文政8年	2月14日	曇	未の刻頃小雨降 即刻止ム	
1825年	4月3日	文政8年	2月15日	曇		
1825年	4月4日	文政8年	2月16日	晴	昨夜雪少シ降	
1825年	4月5日	文政8年	2月17日	晴	下から続く、松木盗伐の男に過料900文・600文・庄屋に1貫800文)	
1825年	4月6日	文政8年	2月18日	曇	卯の刻頃小雨降 即刻止 巳の刻過ぎより小雨降 申の刻頃止ム (昨夜猿賀組尾上村で出火・大家10軒余の大火、松伐株46本の村に過料4貫600文・同15本の村に1貫500文	上に続く
1825年	4月7日	文政8年	2月19日	晴	(一昨17日夜猿賀組尾上村の出火・建家14軒土蔵4ヶ所そのほか焼失・昨昼八半時過ぎ鎮火・火元他村預け) 下から続く 赤石組一つ森村獵師頭辰蔵が去る申年	欄外(*)に続く
1825年	4月8日	文政8年	2月20日	晴	(去る16日暮より翌17日朝まで十三湯の大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は2月7日より翌8日朝まで氷明ける・当年は日数に引合10日遅く節に引合29日遅い、	上に続く
1825年	4月9日	文政8年	2月21日	晴	(昨夜東長町に捨子・一番町の者に預け置く)	
1825年	4月10日	文政8年	2月22日	晴	(真寿院様(旧藩主信寧の妻)御法事に付き御配当：座当盲女299人に15文充て下し置かれる、一昨20日藤代組妙堂崎村で出火・建家1軒焼失・火元村預け、一昨20日夜	欄外(**)に続く
1825年	4月11日	文政8年	2月23日	晴		
1825年	4月12日	文政8年	2月24日	晴		
1825年	4月13日	文政8年	2月25日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム (日付け不明に金木組永富派太郎八が家内4人建馬1疋連れて出奔、石渡川4歩半の出水・両船とも往来差留め)	
1825年	4月14日	文政8年	2月26日	晴	(去る7月6人連れて独鉦村の家に入り込み狼藉手傷を負わせた男共に9鞭3鞭(2人)居村徘徊はまで通り・過料1貫文充(3人)) 下から続く 居宅焼失・火元入寺の上慎み)	
1825年	4月15日	文政8年	2月27日	晴	(去る22日赤石組で出火・類焼共16軒丸木船川崎船橋船とも11艘焼失・火元他村預け、一昨夜御蔵町で出火・居宅焼失・火元入寺の上慎み、一昨夜品川町で出火・日雇いの	上に続く
1825年	4月16日	文政8年	2月28日	曇	今日雪降 四寸程積る	
1825年	4月17日	文政8年	2月29日	晴	酉の刻頃小雨降 即刻止ム (去る未の2月(今年は酉年)居村領の山から松木盗み取った3人に6鞭宛居村徘徊はまで通り)	
1825年	4月18日	文政8年	3月1日	晴		
1825年	4月19日	文政8年	3月2日	曇	辰の刻より雨時々降 申の刻頃止ム (昨晩常盤組若松村で出火・建家外馬屋穀物等焼失・火元百姓村預け)	
1825年	4月20日	文政8年	3月3日	晴		
1825年	4月21日	文政8年	3月4日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入 戌の刻頃止ム (去る朔日屋形様御隠居御願ひ若殿様江御家督御願ひを仰せ出される)	
1825年	4月22日	文政8年	3月5日	曇	今日雪少シ降 (甲斐守様より川鯉1尺充て下される、開発方御除き金の内5000両をこの度御登らせ仰付けられ候間……殿様の個人財産だった新田の金をようやく使えるようになった?)	
1825年	4月23日	文政8年	3月6日	晴	昨夜雪少シ降	
1825年	4月24日	文政8年	3月7日	晴	(尾上村の出火の際格別働いた27人に御賞)	
1825年	4月25日	文政8年	3月8日	晴	下から続く 赤石組黒崎村の類焼16軒の内15軒は極難・1軒に付き米1俵充て下し置かれる)	
1825年	4月26日	文政8年	3月9日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 未の刻頃止ム (津軽廷尉を多膳に改名、去る5日八時頃鰯ヶ沢で大風・加州船が湾内で破船・11人中7人海死、同所の船今朝柱切荷打ち、去月22日	上に続く
1825年	4月27日	文政8年	3月10日	晴	(国吉村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け) 下から続く 亦々盗み徒の男を乞食手下に仰せ付ける)	
1825年	4月28日	文政8年	3月11日	晴	(去る8日夜木作新田大館村で出火・建家穀物受取手形等焼失・火元居村預け、文化10年盗み徒で鞭親預け・文政3年入牢大赦で出牢10里四方追放・去る午11月(今年は酉年)	上に続く
1825年	4月29日	文政8年	3月12日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 夜二入 戌の刻過ぎ止 酉の刻頃雷鳴 即刻止ム (岩木川出水6歩に相成る・引き続く8歩余に相成る・9歩まで増水後落水)	
1825年	4月30日	文政8年	3月13日	晴	(昨夜御家中の居宅が焼失・手水に手燭の火を落とした?)	
(*)熊4疋・同組松原村の獵師長治が3疋狩取る・御賞鳥目3貫文充て下々位の熊皮1枚充て下し置かれる)						
(**)八時過ぎ木造新田車力村で出火・類焼とも2軒焼失建馬2疋牛1疋焼死・火元他村預け、富田村領桜林之内に入り込み伐り荒しがある・止めろとの触れ)						

1825年	5月1日	文政8年	3月14日	晴	
1825年	5月2日	文政8年	3月15日	晴	(人事異動)
1825年	5月3日	文政8年	3月16日	晴	(馬を殺し皮を剥いだ男に15鞭田舎館組払い)
1825年	5月4日	文政8年	3月17日	曇	辰の刻頃より時々小雨降 未の刻頃止ム (昨16日夜乳井村で出火・類焼とも5軒焼失・火元百姓他村預け、一昨夜本町に男子捨て子・前の家に養育を申し付ける)
1825年	5月5日	文政8年	3月18日	曇	酉の刻頃小雨降 即刻止ム
1825年	5月6日	文政8年	3月19日	曇	辰の刻頃小雨降 則刻止ム
1825年	5月7日	文政8年	3月20日	曇	今晚卯の刻頃小雨降 則刻止ム
1825年	5月8日	文政8年	3月21日	晴	
1825年	5月9日	文政8年	3月22日	晴	
1825年	5月10日	文政8年	3月23日	曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 夜二入 亥の刻頃止ム
1825年	5月11日	文政8年	3月24日	晴	
1825年	5月12日	文政8年	3月25日	曇	申の刻頃より時々降 夜二入る(曇 申刻頃より時々降夜二入る)(人事異動)
1825年	5月13日	文政8年	3月26日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨及今日辰刻過止ム)(柏木館山より柏木盗み取りの男2人に過料1貫800文ツツ、山伐り荒しの18程の村中・庄屋等に過料)
1825年	5月14日	文政8年	3月27日	晴	(百沢村空き地に温泉出る・4人が自分物入りで堀上げる)
1825年	5月15日	文政8年	3月28日	晴	(西館某を蟹田町奉行にとの人事異動)
1825年	5月16日	文政8年	3月29日	晴	
1825年	5月17日	文政8年	3月30日	晴	
1825年	5月18日	文政8年	4月1日	晴	(人事異動、御賞、古金銀通用を当2月までとしていたが遠国で行き届かない所もあろうから7月を限りに変更、来月(今月のこと)23日に江戸発駕の旨仰せ出される)
1825年	5月19日	文政8年	4月2日	曇	辰の刻頃より雨降 未の刻頃止 午の刻頃雷鳴 即刻止ム
1825年	5月20日	文政8年	4月3日	晴	(当2月22日博打の宿の男に3鞭居町徘徊是迄通り・博打の男共6人に3鞭宛居町徘徊是迄通り・関係五人組名主に過料戸ノ)
1825年	5月21日	文政8年	4月4日	晴	(去る29日昼碇ヶ関村領境林場所より野火入る・東西20間南北50間ほど焼失)
1825年	5月22日	文政8年	4月5日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入る(曇 巳刻過より雨時々降 夜二入る) 下から続く 3鞭居町徘徊是迄通り)
1825年	5月23日	文政8年	4月6日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る 戌の刻頃止ム(曇 昨夜より之雨及今日時々降夜二入る戌刻頃止ム)(当2月御家中渡しの流木を細木と太木を取り替えた男に 上に続く
1825年	5月24日	文政8年	4月7日	晴	
1825年	5月25日	文政8年	4月8日	曇	昨夜亥の刻過ぎ小雨降 即刻止 卯の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1825年	5月26日	文政8年	4月9日	曇	今晚寅の刻過ぎ雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜二入る (去る9月捕えた木盗人に逃げられた男共・代庄屋に過料、過分に伐り荒しのあつた2村中・庄屋に過料)
1825年	5月27日	文政8年	4月10日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る (秋田表に馬を隠し売った大間越町同心等の揚屋入りを入牢仰せ付けられる)
1825年	5月28日	文政8年	4月11日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る 亥の刻過ぎ止ム (岩木川出水・両船とも往来差留める)
1825年	5月29日	文政8年	4月12日	晴	
1825年	5月30日	文政8年	4月13日	曇	今晚寅の刻過ぎ小雨降 即刻止 未の刻頃小雨降 即刻止ム(曇 今晚寅刻過小雨降即刻止未刻頃小雨降即刻止ム)
1825年	5月31日	文政8年	4月14日	晴	
1825年	6月1日	文政8年	4月15日	晴	(昨夜常盤組水沼村で出火・居宅等焼失・火元百姓居村預け)
1825年	6月2日	文政8年	4月16日	曇	巳の刻頃小雨降 即刻止ム (去る11月手段米の男に12鞭・9鞭(2人)居町徘徊是迄通り、去る11月無手形米を抑えられた男3人に6鞭宛居町徘徊是迄通り・関係者4人に過料・戸ノ)
1825年	6月3日	文政8年	4月17日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム (御賞、御停止の品を売買の碇ヶ関・黒石・黒石の男に改めて300日・200日・100日の牢居)
1825年	6月4日	文政8年	4月18日	曇	辰の刻より小雨時々降 夜二入る 戌の刻過ぎ止ム (御発駕御日限御日延来月4日と仰せ出される、佐藤栄吉が江戸で表右筆かな?)
1825年	6月5日	文政8年	4月19日	晴	(金木組毘沙門村に牛蒡尾馬・秋田表江御片付け、異国船対応に大間越・深浦・金井ヶ沢・鰺ヶ沢・十三・小泊・龍濱崎・鷹野崎・蟹田・青森の10箇所兼ねて大筒御備あり)
1825年	6月6日	文政8年	4月20日	晴	
1825年	6月7日	文政8年	4月21日	晴	
1825年	6月8日	文政8年	4月22日	曇	未の刻頃より小雨降 即刻止ム (去る10日屋形様御隠居・若殿様御家督となる、屋形様を侍従様・若殿様を屋形様と唱え奉る)
1825年	6月9日	文政8年	4月23日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 夜二入る (公儀仰渡書では隠居仰せ付けられたのは父越中守・嫡子大隅守に蝦夷地警固となっている:侍従から越中守に格下げ?大隅守で四品?)
1825年	6月10日	文政8年	4月24日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る
1825年	6月11日	文政8年	4月25日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム
1825年	6月12日	文政8年	4月26日	晴	
1825年	6月13日	文政8年	4月27日	晴	(野火を入れた村中に過料(赤石組風合瀬村600間×30間百姓1軒より30文高無1軒15文宛・100間×40間の堀越組一野渡村では百姓1軒より15文高無1軒10文宛)・庄屋五人組にも過料)
1825年	6月14日	文政8年	4月28日	晴	
1825年	6月15日	文政8年	4月29日	曇	
1825年	6月16日	文政8年	5月1日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入る
1825年	6月17日	文政8年	5月2日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (去月29日柏木村で出火・建家外馬屋焼失・火元村預け、流木を隠し上げた男に過料)
1825年	6月18日	文政8年	5月3日	晴	
1825年	6月19日	文政8年	5月4日	晴	(今晚七つ時頃(御家中?苗字あり)の木小屋焼失、この度御家中冥加のため差上げ候歩引き御用捨(容赦)仰せ付けられ候間……、御隠居御家督に付き座当盲女229人に15文宛配当)
1825年	6月20日	文政8年	5月5日	晴	
1825年	6月21日	文政8年	5月6日	晴	
1825年	6月22日	文政8年	5月7日	晴	
1825年	6月23日	文政8年	5月8日	晴	
1825年	6月24日	文政8年	5月9日	晴	
1825年	6月25日	文政8年	5月10日	晴	(当3月捕え預けられた者に逃げられた木造村の男3人に過料900文宛、去月18日盗み徒で召捕った米沢出生の男を碇ヶ関より送り返す)
1825年	6月26日	文政8年	5月11日	晴	
1825年	6月27日	文政8年	5月12日	晴	(去月23日江戸発の御関札役が今日到着)
1825年	6月28日	文政8年	5月13日	晴	下から続く 江戸で人事異動、御賞(江戸の表右筆に佐藤栄吉)
1825年	6月29日	文政8年	5月14日	晴	(去月朔日青森出帆の当御廻船豆州船が房州布良崎沖で御米荷打ち・同日出帆の遠州船が17日仙台沖で荷打ち21日浦賀湊に入津・両方の見分のため勘定小頭等を差登す、 上に続く
1825年	6月30日	文政8年	5月15日	晴	

1825年	7月1日	文政8年	5月16日 晴	戌の刻頃より雨降る（横内組浅虫村で田方の権利?でもめたらしい・判決あり、昨3日藤田権三郎を御側御用人兼帯に等の人事異動、5月14日記述の荷打ち内容あり）
1825年	7月2日	文政8年	5月17日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 夜二入る
1825年	7月3日	文政8年	5月18日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る（小笠原良八を侍従様御付に等の人事異動）
1825年	7月4日	文政8年	5月19日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る
1825年	7月5日	文政8年	5月20日 曇	昨夜より之雨今日時々降 申の刻止ムム（曇 昨夜より之雨今日時々降申刻止ムム）
1825年	7月6日	文政8年	5月21日 曇	
1825年	7月7日	文政8年	5月22日 曇	下から続く 田中太郎五郎に銀3枚此の替り金2両（銀3枚と金2両がほぼ同等・贈り物には金ではなく銀であることが判る）
1825年	7月8日	文政8年	5月23日 曇	辰の刻頃より雨降 則刻止ム（鴨野某より御吉例の通り御着差上げる、紺屋町名主より御吉例の通り點差上げる、御着城七つ時過ぎ、佐竹様から御用銅に関するお礼が届く、上に続く
1825年	7月9日	文政8年	5月24日 晴	
1825年	7月10日	文政8年	5月25日 晴	
1825年	7月11日	文政8年	5月26日 晴	
1825年	7月12日	文政8年	5月27日 晴	（青田の内笛吹くなどの触れ）
1825年	7月13日	文政8年	5月28日 晴	
1825年	7月14日	文政8年	5月29日 晴	（去る26日夜舞戸村で出火・建家焼失・火元村預け）
1825年	7月15日	文政8年	5月30日 晴	（去る6月7日夜碇ヶ関の土蔵を破り衣類を盗み取ったらしい男2人を拷問にかけたが毛頭覚えなしと言うので出牢させる）
1825年	7月16日	文政8年	6月1日 晴	
1825年	7月17日	文政8年	6月2日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 酉の刻止ム（一粒金丹7割の調合を和田某・伊崎某に仰せ付ける）
1825年	7月18日	文政8年	6月3日 曇	
1825年	7月19日	文政8年	6月4日 晴	申の刻過ぎ小雨降 即刻止ム（外馬場で御献上の御馬高覧）
1825年	7月20日	文政8年	6月5日 曇	今晩寅の刻過ぎより小雨時々降 申の刻頃より雷鳴 戌の刻頃止ム
1825年	7月21日	文政8年	6月6日 曇	昨夜より之雨今晚に及ぶ 卯の刻頃止 今晩寅の刻頃雷鳴 即刻止ム
1825年	7月22日	文政8年	6月7日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入る
1825年	7月23日	文政8年	6月8日 曇	昨夜より之雨今晚に及ぶ 寅の刻頃止 申の刻頃より雨降 夜二入る
1825年	7月24日	文政8年	6月9日 晴	昨夜より之雨今晚に及ぶ 寅の刻過ぎ止ム（三之丸御馬場で射術高覧）
1825年	7月25日	文政8年	6月10日 曇	申の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1825年	7月26日	文政8年	6月11日 晴	今晩寅の刻地震少々（人事異動）
1825年	7月27日	文政8年	6月12日 晴	（昨11日松前よりの飛脚が油川を通る・松前勇武津(ユウフツ)に異国船着岸）
1825年	7月28日	文政8年	6月13日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止ム（山田某等3人の娘を詮議の筋ありとして差留める）
1825年	7月29日	文政8年	6月14日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入る
1825年	7月30日	文政8年	6月15日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 申の刻止ム（御賞(下向供下がり)の人数が見えるか)、先頃より天気不正に付き明日神明宮で御神楽）
1825年	7月31日	文政8年	6月16日 晴	（去る13日浪岡組赤坂村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け）
1825年	8月1日	文政8年	6月17日 晴	（銀子1枚に付き金3歩積り……）
1825年	8月2日	文政8年	6月18日 晴	（三之丸御馬場で射術高覧）
1825年	8月3日	文政8年	6月19日 晴	（和田太左衛門の次男が鰯ヶ沢富根町で捕まる）
1825年	8月4日	文政8年	6月20日 晴	今晩寅の刻頃雨降 即刻止（今日初穂差上げる、人事異動）
1825年	8月5日	文政8年	6月21日 曇	今晩寅の刻より雨降 辰の刻過ぎ止 戌の刻頃より雨降（檜林春庵という名で和田鎮六(太左衛門の次男)が捕まった）
1825年	8月6日	文政8年	6月22日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止ム（檜林春庵とその妻等6人を入牢させる、当月5日頃箱館近在沖合いで異国船を見受けたとの風説あり）
1825年	8月7日	文政8年	6月23日 曇	申の刻頃より雨降 即刻止ム
1825年	8月8日	文政8年	6月24日 晴	（百沢下居宮・深砂宮で風雨順次の御祈禱を仰せ付ける）
1825年	8月9日	文政8年	6月25日 晴	下から続く 今別町3歩3厘4毛8:碇ヶ関だけは町が付いていない・野内町の3厘4厘は記載どおり・意味は判らないが人口比を表しているのか?)
1825年	8月10日	文政8年	6月26日 晴	（御昇進・御隠居・御家督・御入部御祝の御料理並びに御能） 下から続く 十三町3歩2厘8毛8・碇ヶ関2歩2厘6・大間越町1歩5・野内町1歩3厘4厘3・蟹田町1歩4厘9毛5・上に続く
1825年	8月11日	文政8年	6月27日 晴	（去る11日宮沢某を御用人に人事異動、郷中間高224人(内在方20人9歩9厘8毛・弘前町4人5歩6厘6毛6・青森町1人7歩7厘6毛8・鰯ヶ沢町9歩3厘7毛3・深浦町4歩2厘7毛6・上に続く
1825年	8月12日	文政8年	6月28日 晴	（御能初め、油1升に付き5文目5分に仰せ付ける、薄暑に相成り候間両社と五穀神に五穀成就の御祈禱を仰せ付ける）
1825年	8月13日	文政8年	6月29日 曇	
1825年	8月14日	文政8年	7月1日 晴	（御能初め）
1825年	8月15日	文政8年	7月2日 晴	（この度国友東四郎方で百目筒出来）
1825年	8月16日	文政8年	7月3日 晴	（今日寺社に御料理頂戴御能見物仰せ付けられる）
1825年	8月17日	文政8年	7月4日 晴	下から続く 釜石湊に入津・見分御用立会目付を派遣）
1825年	8月18日	文政8年	7月5日 晴	西の刻頃雨降 即刻止ム（頃日薄暮に付き五山で五穀成就の御祈禱を仰せ付ける、人事異動、去月12日青森出帆の御米2500俵積み御廻船が23日に南部領で難船荷打ち・上に続く
1825年	8月19日	文政8年	7月6日 晴	（御能(四つ時過ぎから夜五つ時頃)）
1825年	8月20日	文政8年	7月7日 曇	巳の刻過ぎより小雨降 未の刻頃止ム（木村奎之助を旗奉行に等の人事異動）
1825年	8月21日	文政8年	7月8日 曇	巳の刻頃より雨時々降 戌の刻頃止ム
1825年	8月22日	文政8年	7月9日 晴	未の刻頃より小雨降 夜二入る
1825年	8月23日	文政8年	7月10日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 辰の刻頃止ム（曇 昨夜よりの雨及今日辰刻頃止ム）（天気不勝続きに付き大行院で五穀成就御祈禱を仰せ付ける）
1825年	8月24日	文政8年	7月11日 晴	（御賞(金1歩仁朱・銀6両・鳥目1貫200文など)） 下から続く ・南部家出府も延引）
1825年	8月25日	文政8年	7月12日 晴	（山鹿次郎作を側用人に加増50石役知増100石などの人事移動） 下から続く ・同所役人共残らず逃去る・去月25日盛岡表より人数差向ける・その後折々沖合に相見える 上に続く
1825年	8月26日	文政8年	7月13日 晴	（去月上旬?仙台船2艘が異国船に出会い乱暴される、南部八戸沖合に異国船が潤懸・その後行方不明・23・4日頃八戸領宮古嶽が崎釜石前沖で10艘ばかり潤懸・夜中大勢上陸 上に続く
1825年	8月27日	文政8年	7月14日 晴	
1825年	8月28日	文政8年	7月15日 晴	（御賞）
1825年	8月29日	文政8年	7月16日 晴	
1825年	8月30日	文政8年	7月17日 晴	
1825年	8月31日	文政8年	7月18日 曇	申の刻頃より小雨降 戌の刻止ム（御徒横岡奎太夫等に水練指南に関して御賞）

1825年	9月1日	文政8年	7月19日 晴	(南部八戸領海岸に異国人上陸・当月7日17人を召捕り盛岡に達す・9日江戸表に注進、御初米を是まで7俵充て差上げてきたが9俵充てとする)
1825年	9月2日	文政8年	7月20日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 酉の刻頃止ム (大鰐村嘉々助(加賀助)より例年の通り初米差上げる)
1825年	9月3日	文政8年	7月21日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止ム (人事異動、御賞)
1825年	9月4日	文政8年	7月22日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1825年	9月5日	文政8年	7月23日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1825年	9月6日	文政8年	7月24日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム
1825年	9月7日	文政8年	7月25日 晴	
1825年	9月8日	文政8年	7月26日 晴	
1825年	9月9日	文政8年	7月27日 曇	申の刻頃小雨降 即刻止ム (江戸で?御賞)
1825年	9月10日	文政8年	7月28日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入る 亥の刻頃止ム
1825年	9月11日	文政8年	7月29日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入る 止ム(曇 未刻過ぎより雨時々降夜二入る止ム)
1825年	9月12日	文政8年	7月30日 曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降
1825年	9月13日	文政8年	8月1日 曇	申の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止ム (津軽右近を城代に等の人事異動、山田左九郎を買い物役格に勤料1兩増)
1825年	9月14日	文政8年	8月2日 曇	未の刻頃より雨降 夜二入る (昨夜駒越組中畑村で出火・建家土蔵等焼失・火元庄屋居村預け)
1825年	9月15日	文政8年	8月3日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム
1825年	9月16日	文政8年	8月4日 曇	卯の刻過ぎ雨降 夜二入る
1825年	9月17日	文政8年	8月5日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム (頃日天気不正に付き丹後者詮索、此の頃天気不勝に付き神明宮で御神楽差上げる)
1825年	9月18日	文政8年	8月6日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻頃止ム (今日御慰の御能、菜種値段5文目5分を6文目値段に仰せ付ける)
1825年	9月19日	文政8年	8月7日 晴	
1825年	9月20日	文政8年	8月8日 晴	
1825年	9月21日	文政8年	8月9日 晴	(今日三之丸馬場で射術高覧)
1825年	9月22日	文政8年	8月10日 晴	(身持ちの宜しくない釜菰某の妹三上某の娘山田某の妹に大場御構い十里四方追放・兄たちに慎み、同様の町娘20人にも大場御構い十里四方追放など・親にも戸へ等)
1825年	9月23日	文政8年	8月11日 晴	
1825年	9月24日	文政8年	8月12日 晴	
1825年	9月25日	文政8年	8月13日 晴	
1825年	9月26日	文政8年	8月14日 曇	酉の刻過ぎより雨降 亥の刻止ム
1825年	9月27日	文政8年	8月15日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (五つ時頃三之丸御物見え(そのように書いてないが八幡宮祭礼)神興通御否御帰城、人事異動)
1825年	9月28日	文政8年	8月16日 晴	(今日三之丸馬場で先日の射術残り高覧、一昨夜四時半頃赤田組境村で出火・居宅外馬屋焼失・火元百姓村預け)
1825年	9月29日	文政8年	8月17日 晴	(一昨14日酒狂いの者あり召捕る・御家中の倅共・1人は出奔)
1825年	9月30日	文政8年	8月18日 曇	今晚寅の刻より小雨降 申の刻止ム (当江戸御廻船の江戸船が南部領で難風にあい御米荷打ちの上釜石湊に入津・手段がましき趣あり)
1825年	10月1日	文政8年	8月19日 晴	(去る17日夕七時頃浪岡組柳久保村で出火・類焼とも建家2軒外馬屋焼失・火元他村預け)
1825年	10月2日	文政8年	8月20日 曇	卯の刻頃より小雨降 未の刻過ぎ止ム
1825年	10月3日	文政8年	8月21日 曇	巳の刻頃小雨降 即刻止ム
1825年	10月4日	文政8年	8月22日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1825年	10月5日	文政8年	8月23日 晴	
1825年	10月6日	文政8年	8月24日 晴	
1825年	10月7日	文政8年	8月25日 晴	
1825年	10月8日	文政8年	8月26日 晴	(所々酒宴の席で売女同様の娘6人(町娘5人大組足軽の妹1人)を十里四方追放大場御構い)
1825年	10月9日	文政8年	8月27日 曇	巳の刻過ぎより雨降 夜二入る (当作鉢が良くない所もある・早く検見を申し出るようにとの触れあり)
1825年	10月10日	文政8年	8月28日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 午の刻止ム(曇 昨夜より之雨今日に及ぶ午刻止ム) 下から続く 松前、下蝦夷地ユウフツ(6月12日記述の勇武津)と申す所に異国船入津風説書……)
1825年	10月11日	文政8年	8月29日 曇	巳の刻頃より雷雨 則刻止 雨時々降 夜二入る 下から続く 帆柱3本黒船30人程乗組・去る2日御用番青山下野守外に届ける、南部に異国船上陸は誤報・大筒で打払い 上に続く
1825年	10月12日	文政8年	9月1日 曇	今朝岩木山二初て雪見得る 昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止ム(曇 今朝岩木山二初而雪見得る昨夜より之雨及今日辰刻頃止ム) 下から続く タバコの交換?・ 上に続く
1825年	10月13日	文政8年	9月2日 晴	卯の刻より雨時々降 未の刻過ぎ止ム (当江戸御廻船の遠州船が当6月21日南部久慈沖で異国船から出た伝聞船の6人中5人が船に乗り移り書物等を見せたが判らなかった・ 上に続く
1825年	10月14日	文政8年	9月3日 晴	
1825年	10月15日	文政8年	9月4日 晴	(不行状の女共を使って妄りがましき不屈きの蕎麦屋等12人に戸へ) 下から続く 1俵につき820文充て(意味不明だが数値に間違いなし)で売払う・去月10日佐州表出立……)
1825年	10月16日	文政8年	9月5日 曇	申の刻過ぎより小雨時々降 夜に入る (当7月4日鰯ヶ沢でお米2000俵積み出帆の大坂御廻船が同月21日に佐州小木湊沖で難風・新谷崎に乗り上げ破船・1990俵揚米に・ 上に続く
1825年	10月17日	文政8年	9月6日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 戌の刻過ぎ止ム (間道を忍通り江戸登りの男に5里四方追放) 下から続く 江戸御廻船が南部鰻ヶ崎に潤懸中同所近郷不熟作 欄外(*)に続く
1825年	10月18日	文政8年	9月7日 晴	(三国屋某梅屋某仕込み味噌値段銭10文目に付6貫800目で御家中望みの者に貸渡す、去る3日夜油川村で出火・小屋焼失・火元戸へ、御米4000俵を積み7月27日青森出帆の 上に続く
1825年	10月19日	文政8年	9月8日 晴	(三瀬?漁場より初鮭1尺差上げる)
1825年	10月20日	文政8年	9月9日 晴	戌の刻頃小雨降 即刻止ム (藤田莊助を用人に等の人事異動)
1825年	10月21日	文政8年	9月10日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 申の刻頃止ム (多数に役下げなど・事情は判らない)
1825年	10月22日	文政8年	9月11日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 未の刻頃止ム
1825年	10月23日	文政8年	9月12日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 亥の刻過ぎ止ム
1825年	10月24日	文政8年	9月13日 晴	
1825年	10月25日	文政8年	9月14日 晴	(一昨12日夜金木組八幡村で出火・建家木小屋焼失・火元居村預け)
1825年	10月26日	文政8年	9月15日 曇	今晚寅の刻頃雨降 即刻止ム (今日外馬場で御建駒高覧)
1825年	10月27日	文政8年	9月16日 晴	酉の刻頃小雨降 即刻止
1825年	10月28日	文政8年	9月17日 曇	辰の刻頃より小雨降 未の刻過ぎ止ム 今日雪少し降 (御賞、初鮭2尺高岡に御献備、一昨16日夜増館組松枝村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け)
1825年	10月29日	文政8年	9月18日 曇	
1825年	10月30日	文政8年	9月19日 晴	
1825年	10月31日	文政8年	9月20日 晴	

(*)なので江戸表相場で申し受けたいとの申し入れ・断っている)

1825年	11月1日	文政8年	9月21日 晴	
1825年	11月2日	文政8年	9月22日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入る
1825年	11月3日	文政8年	9月23日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 戌の刻頃止ム
1825年	11月4日	文政8年	9月24日 晴	酉の刻頃より雨降 戌の刻過ぎ雷鳴 (御賞、人事異動)
1825年	11月5日	文政8年	9月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 亥の刻頃止ム(曇 昨夜より之雨今日二及時々降亥刻頃止ム) (先頃悪戸村の男が亀差上げる・御酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1825年	11月6日	文政8年	9月26日 曇	今日雪少シ降 (岩木川出水駒越渡往来差留り候処落水ニ相成人馬往来相成候旨達之)
1825年	11月7日	文政8年	9月27日 曇	午の刻頃小雨降 即刻止ム
1825年	11月8日	文政8年	9月28日 晴	
1825年	11月9日	文政8年	9月29日 晴	
1825年	11月10日	文政8年	10月1日 晴	(人事異動、御賞)
1825年	11月11日	文政8年	10月2日 晴	
1825年	11月12日	文政8年	10月3日 曇	卯の刻頃小雨降 即刻止ム
1825年	11月13日	文政8年	10月4日 曇	戌の刻頃小雨降 即刻止ム (人事異動)
1825年	11月14日	文政8年	10月5日 曇	今晚寅の刻頃小雨時々降 夜二入る (去月28日釜より出火で塩小屋道具とも焼失) 下から続く 類焼とも2軒稲草焼失・火元(27日の記述で百姓)他村預け)
1825年	11月15日	文政8年	10月6日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る (粒油の作鉢宜しからず) 下から続く 鶴見里村で出火・建家等焼失・火元居村預け、昨6日大鰐組石川村で出火・ 上に続く
1825年	11月16日	文政8年	10月7日 曇	昨夜より之雨今日および 申の刻頃止ム(曇 昨夜より之雨今日および申刻頃止ム) (江戸から到着の御用物を西湖之間で御家老御用人に拝見仰せ付ける、一昨5日夜広須組 上に続く
1825年	11月17日	文政8年	10月8日 曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日ツ雪少々降 (功樹院(南部光信)様300回御忌に当たるので長勝寺に名代を派遣)
1825年	11月18日	文政8年	10月9日 曇	今日雪少々降
1825年	11月19日	文政8年	10月10日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 午の刻頃止ム
1825年	11月20日	文政8年	10月11日 晴	
1825年	11月21日	文政8年	10月12日 晴	
1825年	11月22日	文政8年	10月13日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入る
1825年	11月23日	文政8年	10月14日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止ム (碓ヶ関湯野沢にて銀出方1ヶ月ニ300目位・御買上の上紙御蔵に上納を仰せ付ける) 下から続く 居宅等焼失・火元村預け)
1825年	11月24日	文政8年	10月15日 曇	辰の刻より小雨時々降 申の刻過ぎ止ム (人事異動、買物役格郡所物書き山上七郎左衛門の射芸に御酒御吸物を下し置かれる、今晚八時頃藤崎村寄せ郷白子屋敷で出火・ 上に続く
1825年	11月25日	文政8年	10月16日 晴	亥の刻頃雷鳴 即刻止ム (去る13日夜九時過ぎ常光寺裏乞食小屋出火・八時過ぎ鎮火)
1825年	11月26日	文政8年	10月17日 晴	今晚寅の刻頃より雨降 即刻止ム
1825年	11月27日	文政8年	10月18日 晴	
1825年	11月28日	文政8年	10月19日 曇	(今日家老高倉相模が宇和野に置ける砲術見分の名代)
1825年	11月29日	文政8年	10月20日 晴	昨夜雪降 一寸程積る (御賞、当年諸国とも不作・別けても南部表で不作(9月7日の事件の記述あり))
1825年	11月30日	文政8年	10月21日 晴	
1825年	12月1日	文政8年	10月22日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 (昨夜報恩寺に盗賊・屏風を盗まれる)
1825年	12月2日	文政8年	10月23日 晴	酉の刻頃より雨降 夜二入る
1825年	12月3日	文政8年	10月24日 曇	昨夜よりノ雨今日二および巳の刻過ぎ止 今日雪少々降(曇 昨夜よりノ雨今日二および巳の刻過ぎ止今日雪少々降) (新酒仮値段1升を1文目7分・1合を10文に仰せ付ける)
1825年	12月4日	文政8年	10月25日 曇	昨夜雪降 一寸程積る ((切支丹)類族小泊村出生万太の存命の様子が例年通り松前役人より届く)
1825年	12月5日	文政8年	10月26日 晴	
1825年	12月6日	文政8年	10月27日 曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入る (去る14日侍従様を右京太夫に改める) 下から続く 日々附米1俵相場平均値段は33文目5分)
1825年	12月7日	文政8年	10月28日 曇	昨夜より之雨今晚に及ぶ 寅の刻頃止ム 今日雪少シ降 (人事異動) 下から続く 49文目7分8厘9毛・鯨ヶ沢43文目8分8厘9毛)内御定め役引2分、去る12日より26日迄の 上に続く
1825年	12月8日	文政8年	10月29日 曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪少シ降 亥の刻頃より雨降 (御賞、各御蔵米1俵の一番相場平均44文目2分5厘5毛:45文目4分5厘5毛(弘前42文目6分8厘9毛・青森 上に続く
1825年	12月9日	文政8年	10月30日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降
1825年	12月10日	文政8年	11月1日 曇	未の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止ム (人事異動、梅之間で御囃子)
1825年	12月11日	文政8年	11月2日 晴	
1825年	12月12日	文政8年	11月3日 晴	戌の刻過ぎより雨降
1825年	12月13日	文政8年	11月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降る 申の刻過ぎ止ム (水油1升を7文目9分に仰せ付ける)
1825年	12月14日	文政8年	11月5日 晴	(今日外馬場で馬術高覧)
1825年	12月15日	文政8年	11月6日 晴	
1825年	12月16日	文政8年	11月7日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (組手代等に御賞、長勝寺門前に壁破り侵入した者あり・牢揚屋共大勢入っておりこの上居所なし・番人付置宿預け)
1825年	12月17日	文政8年	11月8日 曇	卯の刻過ぎより小雨降 午の刻頃止ム
1825年	12月18日	文政8年	11月9日 晴	昨夜雪少シ降
1825年	12月19日	文政8年	11月10日 曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪少々降 (侍従様屋形様の御名改め御配当299人に15文宛4貫485文を八百都城哉?に下し置かれる)
1825年	12月20日	文政8年	11月11日 曇	昨夜雪降 七寸程積る 今日雪少シ降
1825年	12月21日	文政8年	11月12日 晴	
1825年	12月22日	文政8年	11月13日 曇	未の刻頃より小雨降 酉の刻頃止ム
1825年	12月23日	文政8年	11月14日 晴	(当新酒仮値段1升の1文目7分を2文目にしよう申し出で・1升を1文目8分・1合売りの分は11文に仰せ付ける)
1825年	12月24日	文政8年	11月15日 晴	(御賞)
1825年	12月25日	文政8年	11月16日 曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止 同刻過ぎより雷鳴 即刻止ム
1825年	12月26日	文政8年	11月17日 晴	(明18日高岡に初鱈2尺御献備、昨夜柏木組夕顔関村で出火・外馬屋等焼失・火元代庄屋村預け)
1825年	12月27日	文政8年	11月18日 晴	(青森より初鱈2尾差出す、先日和解したはずの赤石組長平村と湯船村で山争い、大赦があり多数の蟄居御免・出牢・追放御免)
1825年	12月28日	文政8年	11月19日 曇	未の刻頃より雨降
1825年	12月29日	文政8年	11月20日 曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少シ降る
1825年	12月30日	文政8年	11月21日 曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 三寸程積る
1825年	12月31日	文政8年	11月22日 曇	昨夜雪降 今日雪降 二寸程積る

1826年	1月1日	文政8年	11月23日	晴	(去る18日昼八時頃上新町で失火・早速取鎮める・火元に慎申し付ける、黒石役人より南部松前に4300石の津出願い・了承?、米の運賃のことを書いてあるのかな?:判らん)
1826年	1月2日	文政8年	11月24日	曇	申の刻頃より小雨降 亥の刻頃止ム
1826年	1月3日	文政8年	11月25日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少シ降 (御賞)
1826年	1月4日	文政8年	11月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少々降
1826年	1月5日	文政8年	11月27日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 二寸程積る
1826年	1月6日	文政8年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 一寸程積る (人事異動、去る14日夜三蔵町の庵主が乱心・生国岩城檜葉郡に送り返す・それまで本寺今別町本覚寺に預ける、鰯ヶ沢で当年出来不足)
1826年	1月7日	文政8年	11月29日	曇	昨夜雪少降 巳の刻頃雷鳴 即刻止 ムの刻過ぎより小雨降 酉の刻止ム 下から続く 残らず氷張る当年は日数に引合23日遅く説に引合12日遅い)
1826年	1月8日	文政8年	12月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪少シ降る (人事異動、御賞、当月22日暮より翌23日朝まで十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は10月29日暮より翌朔日朝まで 上に続く
1826年	1月9日	文政8年	12月2日	曇	昨夜雪降 七寸程積る 今日雪降
1826年	1月10日	文政8年	12月3日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪少降
1826年	1月11日	文政8年	12月4日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪少降 (蟹田町八幡宮境内が先年の大地震で地盤が下がり満水の節町中に往来できなくなった……)
1826年	1月12日	文政8年	12月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 三寸程積る
1826年	1月13日	文政8年	12月6日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 二寸程積る
1826年	1月14日	文政8年	12月7日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 四寸程積る
1826年	1月15日	文政8年	12月8日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 六寸程積る
1826年	1月16日	文政8年	12月9日	曇	昨夜雪降 七寸程積る 今日雪少シ降 (今日知行御書出下し置かれる・御家中の面々登城して頂戴する)
1826年	1月17日	文政8年	12月10日	晴	昨夜雪降 一寸程積る (人事異動)
1826年	1月18日	文政8年	12月11日	曇	昨夜雪少シ降 今日雪降 三寸程積る
1826年	1月19日	文政8年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 四寸程積る (去る5日津軽甲斐守殿(黒石の領主)の隠居願いの通り・家督新之助殿に下し置かれる)
1826年	1月20日	文政8年	12月13日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少降
1826年	1月21日	文政8年	12月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 三寸程積る
1826年	1月22日	文政8年	12月15日	晴	昨夜雪降 五寸程積る (別段締まり役等に御賞)
1826年	1月23日	文政8年	12月16日	晴	昨夜雪降 四寸程積る (今日御慰の御囃子)
1826年	1月24日	文政8年	12月17日	晴	(当年は町在とも6月7日より飯料なし……、米1俵津出御印16文目・大豆1俵12文目とする)
1826年	1月25日	文政8年	12月18日	曇	今日雪少降
1826年	1月26日	文政8年	12月19日	曇	今日雪少シ降
1826年	1月27日	文政8年	12月20日	曇	昨夜雪降 今日雪少シ降
1826年	1月28日	文政8年	12月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積る (御賞)
1826年	1月29日	文政8年	12月22日	晴	昨夜雪降 三寸程積る 下から続く 永の暇、御白砂前御櫓(こんな名前の櫓あり?)より……、去月5日夜長勝寺門前の物置を切破った掃除小人の御給分召し上げ弘前払い)
1826年	1月30日	文政8年	12月23日	晴	(御日記等を多数売払いの中田某・長谷川某の知行召上げ永の暇・その上司を御目見以上御留守居支配に役下げ・関係者に憤み、御廻船の御米隠売りの上乗りの御給分召上げ 上に続く
1826年	1月31日	文政8年	12月24日	晴	(民間を含め郡所物書き山上某等の多数に御賞・御手当)
1826年	2月1日	文政8年	12月25日	晴	昨夜雪少降
1826年	2月2日	文政8年	12月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少シ降 (御賞、去る23日浪岡組中野村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1826年	2月3日	文政8年	12月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 三寸程積る (今日御舞台で御慰の御能、人事異動)
1826年	2月4日	文政8年	12月28日	曇	昨夜雪降 今日雪少降 (人事異動)
1826年	2月5日	文政8年	12月29日	曇	昨夜雪降 六寸程積る (当11月鶴田村に碗を持込んだ秋田能代の男を早速帰国させる)
1826年	2月6日	文政8年	12月30日	晴	
1826年	2月7日	文政9年	正月1日	曇	昨夜雪少降
1826年	2月8日	文政9年	正月2日	晴	昨夜雪少降
1826年	2月9日	文政9年	正月3日	晴	亥の刻頃雨降 則刻止 (御吉例金200両御金奉行が差出す、漁師頭2人がひらめを1折宛差出す、今晚御謡初め)
1826年	2月10日	文政9年	正月4日	晴	(大鰯村加賀助より七種差上げる)
1826年	2月11日	文政9年	正月5日	晴	
1826年	2月12日	文政9年	正月6日	晴	
1826年	2月13日	文政9年	正月7日	晴	(今日七種の御祝儀)
1826年	2月14日	文政9年	正月8日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (今日梅之間で御慰の御囃子)
1826年	2月15日	文政9年	正月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (黒石の新之助の官名が左近将監となる)
1826年	2月16日	文政9年	正月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1826年	2月17日	文政9年	正月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (今日御具足の御祝、人事異動)
1826年	2月18日	文政9年	正月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1826年	2月19日	文政9年	正月13日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1826年	2月20日	文政9年	正月14日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積 (去る6日夜藤代組木筒村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1826年	2月21日	文政9年	正月15日	曇	今日雪降 二寸程積
1826年	2月22日	文政9年	正月16日	晴	昨夜雪降 四寸程積 (茨城屋・鴻池等に贈り物をしている、御賞)
1826年	2月23日	文政9年	正月17日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積
1826年	2月24日	文政9年	正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 下から続く 此の節より摺立の上御家中渡……)
1826年	2月25日	文政9年	正月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (惣酒屋共が酒を1升2文目1分に申し出る・是までの通り1文目8分に仰せ付ける) 下から続く 永々差置き候ては帰って御損失に付き 上に続く
1826年	2月26日	文政9年	正月20日	曇	今日雪少降 (去る15日手段がましき漁船を油川別段締まり役が発見・どうなったのかは判らない、文化13年北之丸二之御蔵入分5124俵同年三之丸二之御蔵入分4074俵・ 上に続く
1826年	2月27日	文政9年	正月21日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (兼平帯刀を大寄合格加増50石等の人事異動、御賞)
1826年	2月28日	文政9年	正月22日	晴	昨夜雪降 一寸程積

1826年	3月1日	文政9年	正月23日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (旧臘28日大坂の両家(茨木屋と鴻池か)そのほか御館入りの者共江またまた借金の申し込み?明年中25000両の請書)
1826年	3月2日	文政9年	正月24日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1826年	3月3日	文政9年	正月25日	晴	
1826年	3月4日	文政9年	正月26日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪少降
1826年	3月5日	文政9年	正月27日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降
1826年	3月6日	文政9年	正月28日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (今日御舞台で御慰御能)
1826年	3月7日	文政9年	正月29日	晴	
1826年	3月8日	文政9年	正月30日	曇	今日雪少降
1826年	3月9日	文政9年	2月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (毛内有右衛門が改名願いを出した・殿中でも珍しい名と評判になっている・願い書きを返した)
1826年	3月10日	文政9年	2月2日	晴	
1826年	3月11日	文政9年	2月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1826年	3月12日	文政9年	2月4日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少降
1826年	3月13日	文政9年	2月5日	晴	昨夜雪降 六寸程積
1826年	3月14日	文政9年	2月6日	晴	
1826年	3月15日	文政9年	2月7日	晴	
1826年	3月16日	文政9年	2月8日	晴	
1826年	3月17日	文政9年	2月9日	晴	昨夜雪少降
1826年	3月18日	文政9年	2月10日	晴	
1826年	3月19日	文政9年	2月11日	曇	(茨木屋安五郎鴻池新十郎などに羽二重・銀・御時服などを下し置かれる・正月23日の請書の対応か?)
1826年	3月20日	文政9年	2月12日	晴	
1826年	3月21日	文政9年	2月13日	晴	
1826年	3月22日	文政9年	2月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積
1826年	3月23日	文政9年	2月15日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少降
1826年	3月24日	文政9年	2月16日	晴	(昨夜鍛冶町の小見世に捨子あり)
1826年	3月25日	文政9年	2月17日	晴	(昨16日夜高杉村で出火・御蔵別状なし)
1826年	3月26日	文政9年	2月18日	曇	辰の刻頃小雨降 則刻止 申の刻頃より雨降 戌の刻頃止
1826年	3月27日	文政9年	2月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (一昨17日夜高杉村四ツ屋派で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け・火元の名前から17日の記述と共通か?)
1826年	3月28日	文政9年	2月20日	晴	昨夜雪少降
1826年	3月29日	文政9年	2月21日	晴	昨夜雪少降 (昨夜堀越組門外村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け)
1826年	3月30日	文政9年	2月22日	晴	
1826年	3月31日	文政9年	2月23日	晴	
1826年	4月1日	文政9年	2月24日	晴	辰の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止 (石渡川四歩の出水・馬船往来相成りかねる)
1826年	4月2日	文政9年	2月25日	晴	
1826年	4月3日	文政9年	2月26日	曇	戌の刻頃より雨降
1826年	4月4日	文政9年	2月27日	曇	昨夜より之雨 今日及 時々降 夜二入(曇 昨夜より之雨今日及時々降夜二入)
1826年	4月5日	文政9年	2月28日	晴	昨夜より雨 今暁寅の刻過ぎ止
1826年	4月6日	文政9年	2月29日	晴	
1826年	4月7日	文政9年	3月1日	晴	今暁寅の刻頃小雨降 即刻止 (人事異動)
1826年	4月8日	文政9年	3月2日	曇	今暁寅の刻頃小雨降 即刻止
1826年	4月9日	文政9年	3月3日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止
1826年	4月10日	文政9年	3月4日	曇	申の刻頃より小雨降 戌の刻過ぎ止
1826年	4月11日	文政9年	3月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1826年	4月12日	文政9年	3月6日	曇	辰の刻過ぎより小雨降 酉の刻過ぎ止
1826年	4月13日	文政9年	3月7日	晴	
1826年	4月14日	文政9年	3月8日	晴	下から続く 暮れより翌17日朝まで残らず氷明ける・日数引合17日遅く節に引合5日遅い)
1826年	4月15日	文政9年	3月9日	晴	酉の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止 酉の刻過ぎより雷鳴 亥の刻過ぎ止 (去る3日暮より翌4日朝までに十三湯大湊川尻より高根沖小俣川尻まで氷明ける・去年は2月16日 上に続く
1826年	4月16日	文政9年	3月10日	晴	
1826年	4月17日	文政9年	3月11日	晴	
1826年	4月18日	文政9年	3月12日	晴	(堀越組清水森村で出火・居宅外馬屋とも焼失・火元百姓居村預け)
1826年	4月19日	文政9年	3月13日	晴	
1826年	4月20日	文政9年	3月14日	晴	
1826年	4月21日	文政9年	3月15日	晴	(今日御系譜が着く)
1826年	4月22日	文政9年	3月16日	晴	(昨夜掛落林村で出火・建家穀物焼失・人馬怪我なし・火元百姓)
1826年	4月23日	文政9年	3月17日	曇	午の刻頃小雨降 即刻止
1826年	4月24日	文政9年	3月18日	晴	酉の刻過ぎ地震少し(剣術高覧)
1826年	4月25日	文政9年	3月19日	曇	午の刻過ぎ小雨降 即刻止 今暁丑の刻頃雷鳴 即刻止 (昨日の残りの剣術高覧)
1826年	4月26日	文政9年	3月20日	晴	(去る18日鰯ヶ沢七石町で出火・類焼とも7軒焼失・火元日数5日の憤)
1826年	4月27日	文政9年	3月21日	晴	
1826年	4月28日	文政9年	3月22日	晴	(今日御供揃えて四社並びに両御寺に御社参御佛参、一昨夜夜悪戸村より野火・取鎮める)
1826年	4月29日	文政9年	3月23日	晴	辰の刻過ぎ地震少し
1826年	4月30日	文政9年	3月24日	曇	卯の刻頃より雨降 即刻止 巳の刻過ぎ地震強し(留書加勢の佐藤栄吉に御賞金200疋・加勢引取り、御系譜付き添いの17人に御賞、昨夜駒越組番館村で出火・建家焼失・火元村預け)

1826年	5月1日	文政9年	3月25日 曇	辰の刻過ぎ地震少し
1826年	5月2日	文政9年	3月26日 曇	今晩寅の刻頃地震少し (御発駕御祝儀の御料理・御能見物)
1826年	5月3日	文政9年	3月27日 晴	
1826年	5月4日	文政9年	3月28日 晴	
1826年	5月5日	文政9年	3月29日 晴	
1826年	5月6日	文政9年	3月30日 晴	
1826年	5月7日	文政9年	4月1日 晴	(人事異動、一昨29日晚東長町に捨子・前の家に養育を申し付ける)
1826年	5月8日	文政9年	4月2日 晴	西の刻頃より小雨降 (人事異動) 下から続く 火元居村預け、一昨日夜金木組高根村で出火・居宅外馬屋等焼失・火元居村預け)
1826年	5月9日	文政9年	4月3日 曇	昨夜より雨 今日二及 時々降 午の刻過ぎ止 (去月24日大坂船が手段品(木綿228反)・品は取上げ船は以来入津差留め、昨日2日田舎館組畑中村で出火・居宅穀物等焼失 上に続く
1826年	5月10日	文政9年	4月4日 晴	(人事異動、御賞)
1826年	5月11日	文政9年	4月5日 曇	今晩と寅の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止 申の刻頃より雨時々降 夜二入 亥の刻頃止
1826年	5月12日	文政9年	4月6日 晴	(御馬上にて四時過ぎ御発駕遊ばされる)
1826年	5月13日	文政9年	4月7日 晴	(今晩戌の刻過ぎ碇ヶ関御飯屋江御着座:今晩が6日か7日かわからないが戌の刻は夜22時頃)
1826年	5月14日	文政9年	4月8日 晴	
1826年	5月15日	文政9年	4月9日 晴	(盗み徒度々の男を揚屋から出し親元に、弘前払いの男に弘前御構い、この他にも大赦関係で刑を行わなくなっている)
1826年	5月16日	文政9年	4月10日 晴	(去る5月所々の酒店江祢たれ込(ねだれ込みとでも読むのかな:多分強請りの類)無代銭にて酒を飲みまわった松前江差の男を三厩湊口より松前に送還、酒値上げ申請を認めていない)
1826年	5月17日	文政9年	4月11日 晴	下から続く 新たに300日の牢居それが済んだ後に取上御仕置場で30鞭10里四方追放大場御構い・関係者に戸ノ等)
1826年	5月18日	文政9年	4月12日 晴	(昨夜田舎館組堂野前村で出火・建家等焼失・火元高無村預け、昨夜増館組杉村で出火・馬2疋類焼2軒焼失・火元他村預け、諸手形私曲の三国屋某の家財等を銀主に渡し 上に続く
1826年	5月19日	文政9年	4月13日 晴	(2月6日に貞昌寺境内の富突の節見物人の背負う財布を切解き銭を盗み取った男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1826年	5月20日	文政9年	4月14日 曇	未の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止
1826年	5月21日	文政9年	4月15日 晴	(去る12日夜深浦本町で出火・丸屋5軒半焼1軒・御飯屋等に別状なし・火元町預け、一昨12日夜御家中?宅の間で出火・居宅焼失・伺いの通り御奉公遠慮)
1826年	5月22日	文政9年	4月16日 晴	
1826年	5月23日	文政9年	4月17日 晴	
1826年	5月24日	文政9年	4月18日 晴	(博打を打ち揚屋に入っている男共を親元引取り30日宛の慎み戸ノ等・五人組等の関係者にも戸ノ)
1826年	5月25日	文政9年	4月19日 晴	亥の刻頃より小雨時々降 (去る17日金木組高根村で出火・居宅外馬屋焼失・火元村預け)
1826年	5月26日	文政9年	4月20日 曇	昨夜より之雨今日二および巳の刻過ぎ止
1826年	5月27日	文政9年	4月21日 曇	今晩寅の刻より雨時々降 午の刻頃止 (一昨年御用金を仰せ付けられ上納を格別に行った鰯ヶ沢町の塩屋某など9人に御料理等を下し置かれる)
1826年	5月28日	文政9年	4月22日 晴	
1826年	5月29日	文政9年	4月23日 晴	
1826年	5月30日	文政9年	4月24日 晴	
1826年	5月31日	文政9年	4月25日 曇	申の刻頃小雨降 即刻止
1826年	6月1日	文政9年	4月26日 曇	今晩寅の刻頃より小雨降 午の刻頃止
1826年	6月2日	文政9年	4月27日 曇	今晩寅の刻頃小雨降 即刻止 未の刻頃より雨時々降 夜に入
1826年	6月3日	文政9年	4月28日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻過ぎ止 (当御発駕御用格別として山上七郎左衛門長嶺村獮師三四郎久吉村小又鬼長太等に御賞) 下から続く 青森松森町で出火・火元戸ノ)
1826年	6月4日	文政9年	4月29日 晴	(御用人西館宇膳が従弟の(家老)高倉相模病死に付き仕なし、去る18日高倉相模が道中桑折の駅で病死・明晦日五半時御目見以上の面々登城を仰せ付けられる、去る22日 上に続く
1826年	6月5日	文政9年	4月30日 晴	(油川村寄せ郷新派村に盗賊・家人に手傷)
1826年	6月6日	文政9年	5月1日 曇	戌の刻過ぎより雨時々降
1826年	6月7日	文政9年	5月2日 晴	
1826年	6月8日	文政9年	5月3日 晴	(盗み徒で揚屋入りの男2人に3鞭弘前町払い、不筋の取扱をした元庄屋に30鞭10里四方追放大場御構い財産は関所(けっしょ:没収すること))
1826年	6月9日	文政9年	5月4日 晴	
1826年	6月10日	文政9年	5月5日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (御賞(金1両・金300疋・金100疋・銀6両・銀4両等)、今晚古河駅御止宿之御日割りの所仙台様御止宿に着き……:旅行日程が変わっているのかな?)
1826年	6月11日	文政9年	5月6日 晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 (当2月五十石町等で盗みの男に3鞭弘前払い、盗み徒博打酒祢たれの男に弘前町払い)
1826年	6月12日	文政9年	5月7日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 (屋形様今朝(26日)千住之駅御発駕それより直ちに御老中様方御廻勤・御機嫌能く午の刻過ぎ御着府、津軽多膳・兼松図書・山鹿次郎作がお供で江戸着)
1826年	6月13日	文政9年	5月8日 晴	
1826年	6月14日	文政9年	5月9日 曇	今晩虎の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止
1826年	6月15日	文政9年	5月10日 晴	(去る7日唐傘柳村で出火・建家焼失・火元居村預け、一昨夜木作新田川泊村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1826年	6月16日	文政9年	5月11日 曇	申の刻頃小雨降 即刻止
1826年	6月17日	文政9年	5月12日 晴	
1826年	6月18日	文政9年	5月13日 曇	下から続く 梶を押える・共に犯人逃亡、昨夜堀越村で出火・建家並びに外馬屋焼失・火元村預け)
1826年	6月19日	文政9年	5月14日 曇	辰の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止 (脇本別段所前を忍び通って触れ売りの十三町の男に戸ノ・関係者にも罰、無手形米を脇本の別段廻りが押える・犯人逃亡、2ヶ所で無刻印の 上に続く
1826年	6月20日	文政9年	5月15日 晴	
1826年	6月21日	文政9年	5月16日 晴	
1826年	6月22日	文政9年	5月17日 曇	巳の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止 (似せ金銀通用の2人を召捕りにいったら他出中)
1826年	6月23日	文政9年	5月18日 曇	未の刻過ぎより小雨降 酉の刻頃止 (屋形様当11月御婚礼遊ばされるべき……)
1826年	6月24日	文政9年	5月19日 曇	卯の刻過ぎより雨降 子の刻頃止
1826年	6月25日	文政9年	5月20日 晴	
1826年	6月26日	文政9年	5月21日 晴	
1826年	6月27日	文政9年	5月22日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入 (博打の大館の男2人を碇ヶ関送り返し・乞食小屋引き回し面体を見知らせ重ねて入り込みの節召捕りを申し出るようにいう、左近将監殿今日在着)
1826年	6月28日	文政9年	5月23日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻過ぎ止
1826年	6月29日	文政9年	5月24日 晴	(広瀬某和田某に一粒金丹5劑調合を申し遣わす)
1826年	6月30日	文政9年	5月25日 晴	

1826年	7月1日	文政9年	5月26日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止 (御家中宅に忍び入り手向かいの男に30鞭10里四方追放大場御構い、博打の男に3鞭弘前町徘徊はまで通り・部屋を貸した男に過料)
1826年	7月2日	文政9年	5月27日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止
1826年	7月3日	文政9年	5月28日 晴	(青田の内笛吹くなどの御目付触れ)
1826年	7月4日	文政9年	5月29日 晴	亥の刻頃小雨降 即刻止ム (藤田権三郎を侍従様(先代)御付御用人並びに御側御用人兼帯にとの人事異動、参府関連で御家老付き表右筆佐藤栄吉等に御賞)
1826年	7月5日	文政9年	6月1日 曇	巳の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止 (大坂御繰り合わせ御用出精として役上げ・御賞)
1826年	7月6日	文政9年	6月2日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1826年	7月7日	文政9年	6月3日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止
1826年	7月8日	文政9年	6月4日 晴	
1826年	7月9日	文政9年	6月5日 曇	午の刻頃より雨降 申の刻頃止
1826年	7月10日	文政9年	6月6日 晴	
1826年	7月11日	文政9年	6月7日 晴	頃日暑気強し (盗み徒の横手町の男を送り返す)
1826年	7月12日	文政9年	6月8日 晴	
1826年	7月13日	文政9年	6月9日 曇	卯の刻頃雨降 即刻止 巳の刻過ぎより雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜二入 (去る6日明七時高根村で出火・建家並びに穀物焼失・火元百姓居村預け)
1826年	7月14日	文政9年	6月10日 晴	
1826年	7月15日	文政9年	6月11日 快晴	
1826年	7月16日	文政9年	6月12日 晴	
1826年	7月17日	文政9年	6月13日 曇	申の刻過ぎより雷雨 雷亥の刻頃止 雨夜二入 (常々博打の盗み徒男に9鞭弘前町御構い居村徘徊はまで通り・博打男に3鞭・五軒組合の者共に過料・その他慎み等)
1826年	7月18日	文政9年	6月14日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 未の刻頃止
1826年	7月19日	文政9年	6月15日 晴	
1826年	7月20日	文政9年	6月16日 晴	
1826年	7月21日	文政9年	6月17日 晴	(来月14日より紙漉町で晴天7日江戸角力興行札銭1人に付き7分・上棧敷1間4文目・下棧敷は3文目、御賞)
1826年	7月22日	文政9年	6月18日 晴	(牢屋番人13軒の者共に御手当として御米1石3斗下し置かれる)
1826年	7月23日	文政9年	6月19日 晴	
1826年	7月24日	文政9年	6月20日 晴	(例年の通り大鰐加賀助より初穂差上げる)
1826年	7月25日	文政9年	6月21日 晴	
1826年	7月26日	文政9年	6月22日 晴	
1826年	7月27日	文政9年	6月23日 曇	申の刻過ぎ雨降 酉の刻過ぎ止
1826年	7月28日	文政9年	6月24日 晴	
1826年	7月29日	文政9年	6月25日 晴	
1826年	7月30日	文政9年	6月26日 曇	申の刻過ぎ雷鳴 即刻止
1826年	7月31日	文政9年	6月27日 曇	申の刻過ぎ小雨降 即刻止
1826年	8月1日	文政9年	6月28日 曇	今曉虎の刻頃雨降 即刻止 巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止 未の刻頃雷鳴 即刻止 (御賞)
1826年	8月2日	文政9年	6月29日 曇	巳の刻過ぎ雷鳴 即刻止
1826年	8月3日	文政9年	6月30日 曇	下から続く 広船村獺師子市郎その他5人も熊を刈り取り御酒代鳥目1貫文)
1826年	8月4日	文政9年	7月1日 曇	戌の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止 (赤石組一ツ森村獺師頭辰蔵と駒越組田代村の獺師五郎治が熊刈り取り御賞(鳥目3貫文と下々位の熊皮1枚宛)・唐牛村獺師勘之丞と 上に続く
1826年	8月5日	文政9年	7月2日 曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻頃止 (去月26日御奥御普請皆出来に伴う人事異動・御賞)
1826年	8月6日	文政9年	7月3日 曇	巳の刻過ぎより小雨降 未の刻過ぎ止
1826年	8月7日	文政9年	7月4日 曇	午の刻過ぎ雨降 未の刻過ぎ止
1826年	8月8日	文政9年	7月5日 曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止
1826年	8月9日	文政9年	7月6日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻頃止
1826年	8月10日	文政9年	7月7日 曇	卯の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 未の刻過ぎ雷鳴 即刻止
1826年	8月11日	文政9年	7月8日 晴	下から続く 松平和泉守様江の届けの写しを差下す)
1826年	8月12日	文政9年	7月9日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止 (去る3日青森表出帆の筑前船が7日に南部領久慈沖で異国船に行逢う・小船に異国人7人が乗組み御廻船に乗り移り船中見廻シ程なく元船え漕ぎ戻る 上に続く
1826年	8月13日	文政9年	7月10日 曇	未の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止 (藤崎組深味村で御検地の節不埒の男7人に大赦があり6・3・3・3・3・6鞭居村徘徊はまで通り・大田村・板屋野木村にも類似あり、27鞭あり理由不明)
1826年	8月14日	文政9年	7月11日 曇	卯の刻頃小雨降 即刻止 (横内組駒籠村蛇抜沢で鉛山見立てる・試穿する) 下から続く に付き7匁6分に申し付ける)
1826年	8月15日	文政9年	7月12日 晴	巳の刻過ぎより小雨降 戌の刻過ぎ止 (大鰐村加賀助・平左衛門より初米13俵差上げる、水練指南で御徒4人に御賞・銀5両充、高倉相模関連香典:白銀30両、締油値段1升 上に続く
1826年	8月16日	文政9年	7月13日 晴	(百沢下居宮で日と揚御祈禱を仰付、丹後者詮索・居合せば送返、当年孕米格別不足二付両濱津出御印米1俵16匁大豆1俵12文目に申付候所……米1俵8文目大豆1俵7匁立に申付ける)
1826年	8月17日	文政9年	7月14日 晴	(貸し方の催促人2人が一番町で研師の母を打擲・犯人を子供に預け慎)
1826年	8月18日	文政9年	7月15日 晴	
1826年	8月19日	文政9年	7月16日 曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止
1826年	8月20日	文政9年	7月17日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止 (人事異動)
1826年	8月21日	文政9年	7月18日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止
1826年	8月22日	文政9年	7月19日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 巳の刻過ぎ止 (御家中の族切支丹御改証文並びに人別増減書き上げの儀は例年8月中に相限り差出す・遅滞の者多い)
1826年	8月23日	文政9年	7月20日 晴	
1826年	8月24日	文政9年	7月21日 晴	
1826年	8月25日	文政9年	7月22日 曇	(御手船を大坂表より青森湊江相廻候説隠岐の国外浦と申す所で時化に合い所々破損) 下から続く 沖合いに異国船1艘颯(帆と同じ)通)
1826年	8月26日	文政9年	7月23日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 下から続く 注意事項?あり・御本城辰巳之御櫓江納め置き候御記録……、江戸で人事異動、松前東蝦夷地サル場所之内ハイと申す 上に続く
1826年	8月27日	文政9年	7月24日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻頃止 申の刻頃小雨降 夜二入 (捕らえた胡乱の者に逃げられた撫牛子村庄屋に過料・類似の油川村庄屋に過料・関係者にも罰、日記方への 上に続く
1826年	8月28日	文政9年	7月25日 曇	今曉寅の刻頃より小雨時々降 午の刻頃止 (去る11月乱心の三蔵町観音堂の庵主を錠ヶ関口まで送り返す)
1826年	8月29日	文政9年	7月26日 曇	
1826年	8月30日	文政9年	7月27日 曇	
1826年	8月31日	文政9年	7月28日 曇	(渡辺金八郎が先祖の名将監と改名、頃日打続天気不勝に付き両社に日和揚御祈禱・護穀神で日和揚御神楽を仰せ付ける、御家中に炭流木御貸渡し・銭10文目に付き大木10本の割合)

1826年	9月1日	文政9年	7月29日 晴	
1826年	9月2日	文政9年	8月1日 曇	辰の刻頃雨小降 即刻止 (他領者が入っている・願いなしに雇うな泊めるなどの触れ)
1826年	9月3日	文政9年	8月2日 晴	(去月29日夜百沢村で木小屋焼失・岩木山参詣の男の建馬1疋怪我・火元戸ノ)
1826年	9月4日	文政9年	8月3日 晴	下から続く 10ヵ年割り利息付け御廻米で渡す)
1826年	9月5日	文政9年	8月4日 曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入 下から続く 江戸で御賞・人事異動、御奥御殿向き御普請此の度皆出来・請負金高18170両(当年正金渡し9170両・残り9000両は当年より 上に続く
1826年	9月6日	文政9年	8月5日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入 (大坂御館入りの商人どもに昔は歳暮として御時服並びに上下等を下していたが省略後止めた・今年の下され物の中に「干ぜんまひ」、 上に続く
1826年	9月7日	文政9年	8月6日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入
1826年	9月8日	文政9年	8月7日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 未の刻過ぎ止ム (一昨夜浦町組大野村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け)
1826年	9月9日	文政9年	8月8日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入 (去る3日金木組高根村で出火・建家焼失・火元村預け)
1826年	9月10日	文政9年	8月9日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申の刻過ぎ止
1826年	9月11日	文政9年	8月10日 晴	(昨朝(7日朝?)碇ヶ関出立の用人藤田権三郎が峠下川々の出水で足止め・碇ヶ関御関所前の橋も大水・仮橋を通る際馬と口取りが落ち口取り死亡、御金付き添い下がりの者共に御賞)
1826年	9月12日	文政9年	8月11日 曇	申の刻頃より雨降 夜二入
1826年	9月13日	文政9年	8月12日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻二及 時々降 夜二入 今晩寅の刻雷鳴 即刻止 (後湯組六枚橋村で一家出奔)
1826年	9月14日	文政9年	8月13日 曇	卯の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (去月27日津軽多膳が江戸表で御家老職に・松野茂左衛門を御用人に等の人事異動、松前東蝦夷地ニイカツ場所より海上4里ほど並びに 上に続く
1826年	9月15日	文政9年	8月14日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 申の刻頃雨降 亥の刻頃止(曇 昨夜より之雨今晩寅刻過止申刻頃雨降亥刻頃止) (打ち続く天気不正折々大雨等・五山に日和揚重き御祈禱を仰付ける)
1826年	9月16日	文政9年	8月15日 晴	
1826年	9月17日	文政9年	8月16日 晴	
1826年	9月18日	文政9年	8月17日 晴	(去る14日森山村で出火・居宅穀物等焼失・火元高無居村預け、当5月蒔苗村の盲人が高屋村の百姓の子を小刀で手負わせる・三味線の教授の謝が遅れて……)
1826年	9月19日	文政9年	8月18日 曇	今晩寅の刻頃小雨降 即刻止 子の刻頃地震少々
1826年	9月20日	文政9年	8月19日 晴	
1826年	9月21日	文政9年	8月20日 曇	今晩寅の刻頃雷雨時々降 夜二入 雷已の刻頃止
1826年	9月22日	文政9年	8月21日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入 (去る18日夜板屋野木村で出火・建家焼失・隣家1軒潰れ家に相成る・火元居村預け)
1826年	9月23日	文政9年	8月22日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 戌の刻頃止 丑の刻頃地震少し 下から続く 同所より1里ほど東方沖合いに異国船各1艘の届け)
1826年	9月24日	文政9年	8月23日 曇	卯の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (去月27日津軽多膳が江戸表で御家老職に・松野茂左衛門を御用人に等の人事異動、松前東蝦夷地ニイカツ場所より海上4里ほど並びに 上に続く
1826年	9月25日	文政9年	8月24日 晴	下から続く 博打の男5人に3鞭宛居町徘徊是迄通り・関係者に過料等、当3月百田村で傷害の伝馬の男2人等7人(双方)に過料)
1826年	9月26日	文政9年	8月25日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止ム 下から続く (普通は30日以内だが3日以内の上納とある・間違い?)・取り逃がした番人8人に21鞭宛居村徘徊はまで通り、 上に続く
1826年	9月27日	文政9年	8月26日 曇	辰の刻頃より小雨降 巳の刻頃止 (奉公先から盗みの男に3鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り、当3月に浪岡村で土蔵切破り盗みの男を預り取り逃がした親に過料1貫800文 上に続く
1826年	9月28日	文政9年	8月27日 晴	(人事異動、当月11日夜金井ヶ沢沖合いで風強く船艀頭が海落、三之丸御形御裏罪人引出候通路並びに橋下共出来……)
1826年	9月29日	文政9年	8月28日 曇	今晩寅の刻より小雨降 即刻止 午の刻過ぎ小雨時々降 即刻止 下から続く 山欠崩れ・御本陣の座敷のみ残る:対策)
1826年	9月30日	文政9年	8月29日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入 (三国屋某と大津屋某の仕込み味噌値段10文目に付き目形6貫目で御家中に売賃仰せ付けられる、去る25日夜大雨にて三厩町後通り所々 上に続く
1826年	10月1日	文政9年	8月30日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻頃止 今朝岩木山江雪見る (碇ヶ関の間道を通り油川村で家に忍び込み浅手とはいえ負傷させた男を碇ヶ関口送り返し)
1826年	10月2日	文政9年	9月1日 晴	(人事異動、藤代組島町村の小蝶事津き(津きが本名)が弘前町に寄宿して猿ヶ敷事はしていないと言う・送り返したのに茶屋町にまた止宿・不埒として三里四方追放・親と茶屋に過料と慎み)
1826年	10月3日	文政9年	9月2日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止
1826年	10月4日	文政9年	9月3日 晴	
1826年	10月5日	文政9年	9月4日 晴	(人事異動、浅利伊左五郎家出火・焼失・伺いの通り御奉公遠慮)
1826年	10月6日	文政9年	9月5日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 卯の刻過ぎ止 卯の刻過ぎ雷鳴 即刻止
1826年	10月7日	文政9年	9月6日 晴	
1826年	10月8日	文政9年	9月7日 晴	
1826年	10月9日	文政9年	9月8日 晴	
1826年	10月10日	文政9年	9月9日 晴	下から続く 是迄通り、駄下げ米と村貯え米を私曲した庄屋に私曲米弁納相立ち且大赦以前の罪科二付此の度は格段の御沙汰を以って15鞭居村徘徊はまで通り)
1826年	10月11日	文政9年	9月10日 晴	(神宮寺の鐘の銘:猿賀山御寶前寄進(改行)大施奥州津軽惣領主(改行)藤原朝臣右京大夫為信) 下から続く の大間越町の問屋に荷物御取り上げの上6鞭居町徘徊 上に続く
1826年	10月12日	文政9年	9月11日 曇	辰の刻過ぎより雨降 未の刻頃止 (去る4日在府町の火災に突場に相詰めなかった髪結い2人に戸ノ5日、家業でないのに金貸しその同類に戸ノ) 下から続く 隠上げ 上に続く
1826年	10月13日	文政9年	9月12日 曇	未の刻過ぎより雨降 申の刻頃止 (去月21日河野六郎を御用人に野上亘?を御側御用人に等の人事異動、御賞) 下から続く 大場御構い・関係者に戸ノ等、荷物 上に続く
1826年	10月14日	文政9年	9月13日 晴	(青森で手段米の男に15鞭青森町払いの上外ヶ浜浦々並びに横内浦町後湯油川4ヶ組居住御構い・関係者に過料等、御構地立入の茂森町菓子杜氏の娘に3鞭10里四方追放 上に続く
1826年	10月15日	文政9年	9月14日 晴	(別段御用4人に御賞、去る10日夜横内組合子沢村で出火・類焼とも2軒と穀物を焼失・火元他村預け)
1826年	10月16日	文政9年	9月15日 晴	(人事異動、御賞)
1826年	10月17日	文政9年	9月16日 晴	
1826年	10月18日	文政9年	9月17日 晴	今晩霜強し (当時銭不足二付月々御買上米代銭之内7歩通銭渡3歩通銭渡・金渡の分は2朱銀で渡すようにする:何を意味するか不明)
1826年	10月19日	文政9年	9月18日 晴	(当6月23日駒越川原で若者どもの喧嘩傷害沙汰あり・親に引き取り慎など)
1826年	10月20日	文政9年	9月19日 晴	(当時(十三町に)有人数809人)
1826年	10月21日	文政9年	9月20日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (藤代組開発下取扱の川越某が同村川原地で当年出作の薩摩芋を江戸表の御二方様に差上げる、昨夜亥の上刻国上寺の不動尊・二童子が御出汗)
1826年	10月22日	文政9年	9月21日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳の刻頃止
1826年	10月23日	文政9年	9月22日 晴	
1826年	10月24日	文政9年	9月23日 晴	(当4月三世寺渡しで他人に悪口殴られて使った金を落としたと嘘を言った男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1826年	10月25日	文政9年	9月24日 晴	
1826年	10月26日	文政9年	9月25日 晴	
1826年	10月27日	文政9年	9月26日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入
1826年	10月28日	文政9年	9月27日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申の刻頃止
1826年	10月29日	文政9年	9月28日 晴	酉の刻過ぎ雷雨 丑の刻頃止
1826年	10月30日	文政9年	9月29日 晴	(御台所頭より初鯉2尾差出す、当2月新田村前浜で隠津出手段米・役人に手向かいの男が出奔・その仲間(らしい)男を証拠なしとして出牢・庄屋等の関係者に過料)
1826年	10月31日	文政9年	10月1日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (両濱米大豆津出御印代:米1俵8文目・大豆1俵7文目)

1826年	11月1日	文政9年	10月2日 晴	(去月4日在府町出火の際の町々髪結共42人・和徳町45・鍛冶町50・本町2・東長町3・茂森町5・椿町2・富田町6・亀甲町5・紺屋町9人の人夫に御賞・髪結は火消しの技術者か? 下に続く
1826年	11月2日	文政9年	10月3日 晴	上から続く、秋田出生の男2人を碇ヶ関送り返し・1人は前にも送り返している)
1826年	11月3日	文政9年	10月4日 曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止 (白川御本陣芳賀某より家作のため80両の拝借願い・金5両下し置かれる)
1826年	11月4日	文政9年	10月5日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (当7月岩木山裾野草刈場で藤代組町田村の者共と猿賀組大袋村の者共が喧嘩・双方に手負・双方和談に及び内済)
1826年	11月5日	文政9年	10月6日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳の刻頃止
1826年	11月6日	文政9年	10月7日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻頃止 (昨夜鍛冶町支配で小屋焼失、4月18日?勤番目付が出帆まで廻切手紙を取上げておいた奥内村浜前で潤懸中の船が出帆し過料・問屋も過料)
1826年	11月7日	文政9年	10月8日 晴	
1826年	11月8日	文政9年	10月9日 晴	今曉霰少降 (去月3日河合作左衛門・田井友衛を御用人に等の人事異動)
1826年	11月9日	文政9年	10月10日 晴	
1826年	11月10日	文政9年	10月11日 曇	辰の刻頃より雨時々降 子の刻頃止 (去る8日昼飯詰組神山村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1826年	11月11日	文政9年	10月12日 晴	(去年不熟作として隠伏りの男に取り木御取上げの上過料900文)
1826年	11月12日	文政9年	10月13日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 取の刻頃止
1826年	11月13日	文政9年	10月14日 曇	今曉寅の刻頃より雨降 卯の刻頃止 (米1俵27文目4分で酒1升が1文目5分5厘2毛に相当・1升を1文目5分6厘に1合を9文充てに申し付ける)
1826年	11月14日	文政9年	10月15日 晴	
1826年	11月15日	文政9年	10月16日 晴	
1826年	11月16日	文政9年	10月17日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止 (日市に附上げる肴が途中で売払われる?・押えている、6月13日今木組(金木組だろうな)薄市村で洪水・流れ散る材木を取り集めた庄屋等に御酒代を下し置かれる)
1826年	11月17日	文政9年	10月18日 晴	(去る6日銃姫様(御七歳未満)御遠行)
1826年	11月18日	文政9年	10月19日 曇	午の刻頃より雨降 亥の刻頃止 (昨17日夜高館村山中の法嶺院に参詣泊まっていた木造村の男が寺の隠居等3人殺害し召捕られる)
1826年	11月19日	文政9年	10月20日 曇	辰の刻過ぎより小雨降 巳の刻過ぎ止 戌の刻頃雷鳴 即刻止 (昨3日侍従様が太川端の新御殿に御移、江戸で人事異動・御賞)
1826年	11月20日	文政9年	10月21日 曇	(一昨18日油川組鶴賀坂村で出火・建家穀物等焼失・火元村預け)
1826年	11月21日	文政9年	10月22日 晴	
1826年	11月22日	文政9年	10月23日 曇	今日霰少降 (堀五郎左衛門を御用人兼帯に・平沢小作を新田奉行に等の人事異動)
1826年	11月23日	文政9年	10月24日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 亥ノ刻頃止 (去る18日青森寺町の鍛冶が失火・火元慎み、当月5日より19日までの新穀日々附け相場平均値段:米1俵27文目)
1826年	11月24日	文政9年	10月25日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (人事異動)
1826年	11月25日	文政9年	10月26日 曇	今日雪少降 (5月10日夜常源寺より盗みの男に3鞭弘前町払い)
1826年	11月26日	文政9年	10月27日 曇	今日雪少降
1826年	11月27日	文政9年	10月28日 晴	
1826年	11月28日	文政9年	10月29日 晴	(酒1升を1文目6分に1合を10文に仰せ付ける)
1826年	11月29日	文政9年	11月1日 晴	(去月26日より当月26日までの粒油新値段平均が4斗入り1俵が38文目8分・御定法で1升が6文目4厘8毛・1升を6文目に仰せ付ける、去月28日朝銅屋町で出火・居宅焼失・火元慎み)
1826年	11月30日	文政9年	11月2日 曇	卯の刻頃小雨降 即刻止 午の刻過ぎより雨降 夜二入
1826年	12月1日	文政9年	11月3日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 酉の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨今日及時々降酉刻過止) (今日八時頃御家中の書学稽古所より出火・火元御奉公遠慮伺い・遠慮に及ばずと申し遣わす)
1826年	12月2日	文政9年	11月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (銃姫様御遠行につき配当座当盲女299人に15文充て下し置かれる、小泊村の長松(キリシタン)の弟万太が存命と例年通り松前から報告あり)
1826年	12月3日	文政9年	11月5日 晴	
1826年	12月4日	文政9年	11月6日 曇	今曉寅の刻頃より雨時々降 夜二入
1826年	12月5日	文政9年	11月7日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入
1826年	12月6日	文政9年	11月8日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 戌の刻過ぎ止 (隠れ炭焼きの横内組浅虫村の者共に炭30俵御取上げの上過料銭30目・庄屋に過料銭600文)
1826年	12月7日	文政9年	11月9日 晴	(当3月家の壁を切破って盗みの男に2鞭居村徘徊はまで通り、5年前に盗賊間道忍び出当3月秋田者と偽り関所を入った男に9鞭弘前町徘徊はまで通り)
1826年	12月8日	文政9年	11月10日 曇	今曉寅の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (当6月岩木川出水・流出木流失・川沿いの村々家探し見付ける・木品取上げ過料)
1826年	12月9日	文政9年	11月11日 曇	(和田鎮六江隨身の者共……4ページほど書いてあるが判らん)
1826年	12月10日	文政9年	11月12日 曇	(去る8日夜飯詰組金山村で稲乳ニツ焼失・火元戸ノ、当月2日相良町の出火(3日記述)に働いた髪結18人に鳥目1貫800文人夫23人に2貫文の御酒代を下し置かれる)
1826年	12月11日	文政9年	11月13日 晴	
1826年	12月12日	文政9年	11月14日 晴	
1826年	12月13日	文政9年	11月15日 晴	(昨夜四時頃御蔵町で裏通り底3坪くらい焼失・火元戸ノ、黒石役人より年内4500石の津出申し出・年内1300石来春3000石都合4300石を認めている)
1826年	12月14日	文政9年	11月16日 曇	申の刻過ぎ小雨降 即刻止
1826年	12月15日	文政9年	11月17日 曇	未の刻頃小雨降 即刻止
1826年	12月16日	文政9年	11月18日 晴	酉の刻頃より雨時々降
1826年	12月17日	文政9年	11月19日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 酉の刻過ぎ止
1826年	12月18日	文政9年	11月20日 晴	昨夜雪降 五寸程積
1826年	12月19日	文政9年	11月21日 晴	(御献上の塩鱒を御台所頭が差出す、御賞)
1826年	12月20日	文政9年	11月22日 晴	
1826年	12月21日	文政9年	11月23日 晴	昨夜霰少降 (田安様の御姫様が来る23日御引移り即日御婚姻、江戸で人事異動・御賞) 下から続く で出火・居宅等焼失・火元高無居村預け)
1826年	12月22日	文政9年	11月24日 曇	巳の刻頃より小雨時々降 夜二入 (家老監物・大目付間宮求馬等に勤方不行き届きに付き慎、14日晴山某門前に捨子・介抱者に御手当て銀5両下し置かれる、去る21日尾上村 上に続く
1826年	12月23日	文政9年	11月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入 下から続く 御收納米夫喰米等を私曲の藤崎組手代2人と川部村庄屋に田畑家財等關所の上300日牢居その後追って御片付仰付られ候様)
1826年	12月24日	文政9年	11月26日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申の刻頃止 (寺社取扱宜しからず猶又4月居宅焼失の節寺院より不筋の手伝等申受けた家中の動料召上げ御目見以上御留守居支配に役下、 上に続く
1826年	12月25日	文政9年	11月27日 曇	酉の刻頃より雨降
1826年	12月26日	文政9年	11月28日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入 (角田某を勘定奉行兼役にとの人事異動、去る24日油川組飛鳥村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)
1826年	12月27日	文政9年	11月29日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜に入 (去る8日夜飯詰組金山村で出火・稲草焼失・役筋見分、8月12日夜に岩槻で2人殺害男の人相書き、借金返済が遅れた男に戸ノ・関係者に過料)
1826年	12月28日	文政9年	11月30日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻頃止 今日雪少降 (高岡御献備の初鱈を御台所頭が差出す) 下から続く で出火・類焼2軒・火元慎み)
1826年	12月29日	文政9年	12月1日 曇	昨夜雪一寸程積 今日雪少降 (御賞(金500疋・同1両・南鎗5片・金100疋・金200疋・銀5両・銀3両・鳥目2貫500文・同1貫500文・鳥目700文・同1貫文等)、去月27日青森堤町 上に続く
1826年	12月30日	文政9年	12月2日 曇	今日雪少降 (御賞)
1826年	12月31日	文政9年	12月3日 曇	今日雪少降 ((来年より3か年の内知行米・御給分の内2歩通り差上げ奉り度く候)というような案文を示している、多分全員がそのように書いて給与の20%返上)

1827年	1月1日	文政9年	12月4日	曇	昨夜雪四寸程積 今日雪少降 (御賞)	
1827年	1月2日	文政9年	12月5日	晴	昨夜雪少降 (御賞)	
1827年	1月3日	文政9年	12月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 下から続く 去る2日青森松森町で出火・類焼並びに潰れ家2軒あり・火元慎み)	
1827年	1月4日	文政9年	12月7日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (山田左九郎等に御賞、当7月一番町に掛取りに行き借主の母を打擲した男を妻子とも在方帰し過料1貫800文・同行して留めなかった男に慎み10日、	上に続く
1827年	1月5日	文政9年	12月8日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積	
1827年	1月6日	文政9年	12月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降	
1827年	1月7日	文政9年	12月10日	晴	(御賞) 下から続く 五人組に戸ノ10日・娘の親に戸ノ10日、高杉組御用銭を不当に取り扱った組手代の田畑家財等關所の上300日牢居その後追って御片付仰付られ候様)	
1827年	1月8日	文政9年	12月11日	晴	今日雪少降 (御賞、高岡に御献備雉子が手を尽くしても刈取れない・真鴨を仰せ付ける、鰯ヶ沢の娘紺屋町の男の妹を寄宿させ毎夜若者共相集めた一番町の男を戸ノ30日・	上に続く
1827年	1月9日	文政9年	12月12日	晴	(当月6日暮より翌7日朝までに十三潟の大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る)	
1827年	1月10日	文政9年	12月13日	晴		
1827年	1月11日	文政9年	12月14日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降 (御賞)	
1827年	1月12日	文政9年	12月15日	曇	今日雪少降 (新製甲冑出来に付等で御賞)	
1827年	1月13日	文政9年	12月16日	曇	今日雪少降	
1827年	1月14日	文政9年	12月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (御代官等に御賞、日付不明に駒越組国吉村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け)	
1827年	1月15日	文政9年	12月18日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少降 頃日寒強し 下から続く その前に御閑所を忍び行き帰りの男に30鞭十里四方追放)	
1827年	1月16日	文政9年	12月19日	晴	(不埒の商いの碇ヶ関・黒石2人の男に24鞭碇ヶ関町・黒石町御構い5里四方追放・青森米町の男に9鞭居町徘徊是迄通り、当2月2日屋川合村川原地で不法を申しかけ打擲	上に続く
1827年	1月17日	文政9年	12月20日	晴		
1827年	1月18日	文政9年	12月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 酉の刻頃より小雨時々降 (去る15日迄十三潟が前後とも氷閉:意味不明)	
1827年	1月19日	文政9年	12月22日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 未の刻頃止 (当8月召捕った手段荷の關係者に逃亡された金井ヶ沢・鴨村の庄屋・關係者の親に過料)	
1827年	1月20日	文政9年	12月23日	晴	(津軽監物等の慎御免、弘前町払いの男があちこちで盗み秋田往復の際間道を通って15鞭弘前町払い、弘前町払いの男が弘前表に立ち入り盗み徒で6鞭弘前町払い、	欄外(*)に続く
1827年	1月21日	文政9年	12月24日	晴	(去ル21日藤代組野木村で出火・建家焼失・火元村預け)	
1827年	1月22日	文政9年	12月25日	曇	未の刻過ぎより小雨降 申の刻頃止	
1827年	1月23日	文政9年	12月26日	曇	今日雪少降	
1827年	1月24日	文政9年	12月27日	晴	(津軽監物の御奉公差扣(差控え)御免、御賞)	
1827年	1月25日	文政9年	12月28日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (御賞、座当盲女に御祝儀として15文充て下し置かれる、去月27日侍従様御賄料15000石差上げられ候・右御使者笠原八郎兵衛相勤め申し候)	
1827年	1月26日	文政9年	12月29日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1827年	1月27日	文政10年正月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少シ降		
1827年	1月28日	文政10年正月2日	晴	昨夜雪少し降		
1827年	1月29日	文政10年正月3日	晴			
1827年	1月30日	文政10年正月4日	曇	昨夜雪少シ降 今日雪少降		
1827年	1月31日	文政10年正月5日	曇	今日雪降 二寸程積 頃日寒強し		
1827年	2月1日	文政10年正月6日	晴			
1827年	2月2日	文政10年正月7日	晴	昨夜雪一寸程積ル (七種の御祝儀)		
1827年	2月3日	文政10年正月8日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少降		
1827年	2月4日	文政10年正月9日	曇	昨夜雪二寸程積		
1827年	2月5日	文政10年正月10日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降		
1827年	2月6日	文政10年正月11日	晴	昨夜雪少降		
1827年	2月7日	文政10年正月12日	曇	昨夜雪二寸程積		
1827年	2月8日	文政10年正月13日	曇	昨夜雪降 三寸程積		
1827年	2月9日	文政10年正月14日	曇	申の刻頃より雨降 戌の刻頃止		
1827年	2月10日	文政10年正月15日	晴	(人事異動)		
1827年	2月11日	文政10年正月16日	晴			
1827年	2月12日	文政10年正月17日	晴			
1827年	2月13日	文政10年正月18日	曇	巳の刻頃雨降 則刻止 戌の刻過ぎより雨降		
1827年	2月14日	文政10年正月19日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入		
1827年	2月15日	文政10年正月20日	曇	昨夜より之雨今日辰の刻過ぎ止 今日吹雪強し		
1827年	2月16日	文政10年正月21日	晴	昨夜雪降 三寸程積		
1827年	2月17日	文政10年正月22日		(日記の保存なし:前後の日付けと干支が矛盾なし)		
1827年	2月18日	文政10年正月23日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降		
1827年	2月19日	文政10年正月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (旧冬江戸表で御鷹の雁御拝領に付き御祝儀として座当盲女299人に15文宛配当)		
1827年	2月20日	文政10年正月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降		
1827年	2月21日	文政10年正月26日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降		
1827年	2月22日	文政10年正月27日	曇	午の刻頃雨降 即刻止 (去る秋居宅類焼の道中金山茶屋御本陣より15両拝借願ひ・御手当て3両を下し置かれる)		
1827年	2月23日	文政10年正月28日	晴	(御賞、人事異動、後藤平五左衛門の御役御免が福眞弥兵衛に言い渡されている?)		
1827年	2月24日	文政10年正月29日	曇	今晩寅の刻頃雷鳴 則刻止 辰の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (当10月8日夜内真部別段締まり役が手段米(白米13畝と玄米4俵)を押える・犯人逃亡、御賞)		
1827年	2月25日	文政10年正月30日	曇	今日雪少降 (御賞、盗み徒間道忍び通りの男に3里四方追放)		
1827年	2月26日	文政10年 2月1日	曇	今日雪少降 (昨夜本町三丁目で出火・居宅焼失・火元入寺の上慎、酒1升を1文目7分にと申請・1文目6分とする)		
1827年	2月27日	文政10年 2月2日	曇	今日雪少降		
1827年	2月28日	文政10年 2月3日	晴			

(*) 当5月に10里四方追放大場御構い男が御構地に立ち入り盗み・徒し6鞭元の如く10里四方追放大場御構い、田畑の売買に偽証文を作った垂柳村庄屋と五人組に21・24鞭居村徘徊是まで通り・この件で儲けた男の田方御取り上げその他の財産關所300日牢居その後御片付仰付けられる・日数の10日前に申し出るよう牢奉行に申し付ける、喰川村の博打男2人に3鞭居村徘徊是まで通り・關係者にも過料、藤代組川村の山論で喧嘩があり負傷させた男に24鞭5里四方追放・負傷した方に慎み20日、去月23日堀五郎左衛門を御馬廻組頭用人兼帯にとの人事異動)

1827年	3月1日	文政10年	2月4日 曇	今日雪少降	
1827年	3月2日	文政10年	2月5日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 (昨2日後潟組清水村で出火・建家農具等焼失・火元高無村預け、一間所中で養生中の御家中の父が歿死)	
1827年	3月3日	文政10年	2月6日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 未の刻頃止 (今晚暁軽目付和田某が脇差で自害)	
1827年	3月4日	文政10年	2月7日 晴	昨夜雪少降 (御馬廻平沢小作が病死)	
1827年	3月5日	文政10年	2月8日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1827年	3月6日	文政10年	2月9日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 巳の刻頃地震少し (江戸で人事異動、表祐筆佐藤栄吉・御徒横岡左衛門等に御賞)	
1827年	3月7日	文政10年	2月10日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (盗み徒博打の秋田出生の男を碓ヶ関口送返・送返の節乞食小屋を引回し面体見知らせる・この男を留めた男その五人組等への戸ノ等)	
1827年	3月8日	文政10年	2月11日 曇	(釜泡某を勘定奉行にとの人事異動)	
1827年	3月9日	文政10年	2月12日 晴	昨夜雪少降 (知行御給分の2歩通り3か年の内差上げたいとの願い書が尊聴に達し御聞届け仰せ出され候……)	
1827年	3月10日	文政10年	2月13日 晴	昨夜雪少降	
1827年	3月11日	文政10年	2月14日 晴	(当御廻船の上乗り59人下乗り59人を申し付ける) 下から続く 申す者が御国表に秤座御取立願いを昔出す・判らないがもめている	
1827年	3月12日	文政10年	2月15日 晴	(奈良庄司を御手廻格勘定奉行手伝いに等の人事異動、福土某が軍用金を差上げたいと願い出・御給分高100石に召し直され御馬廻格に仰せ付けられる、松前表の脇泰助と	上に続く
1827年	3月13日	文政10年	2月16日 晴		
1827年	3月14日	文政10年	2月17日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入	
1827年	3月15日	文政10年	2月18日 曇	昨夜之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止 (人事異動)	
1827年	3月16日	文政10年	2月19日 曇	今日雪少降 (去る16日金木組喜良市村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)	
1827年	3月17日	文政10年	2月20日 晴	(花田某を寺社役加勢にとの人事異動)	
1827年	3月18日	文政10年	2月21日 晴		
1827年	3月19日	文政10年	2月22日 晴	昨夜雪降 一寸程積 (去る19日朝まで十三潟大湊川尻より残らず氷明ける・節に引合26日早い(閏月のある暦で比較する無意味さが理解されたのか日付の比較なし))	
1827年	3月20日	文政10年	2月23日 曇	今日雪少降 (去11月博打の男共4人に6鞭と3鞭(3人)・宿の大家に過料1貫800文・大家の五軒組合に過料3貫600文・その他戸ノ)	下から続く 焼失・火元庄屋他村預け)
1827年	3月21日	文政10年	2月24日 晴	昨夜雪少降 酉の刻過ぎより小雨時々降 亥の刻過ぎ止(晴 昨夜雪少降酉刻過ぎより小雨時々降亥刻過止) (去ル20日夜横内組戸山村で出火・類焼共8軒焼失外馬屋建馬	上に続く
1827年	3月22日	文政10年	2月25日 晴	(人事異動、炭の隠し焼きの男5人に炭340俵御取り上げの上過料銭30日)	
1827年	3月23日	文政10年	2月26日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積	
1827年	3月24日	文政10年	2月27日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (申し立てなしに紺屋灰焚出の田代村の男に過料1貫800文)	
1827年	3月25日	文政10年	2月28日 晴		
1827年	3月26日	文政10年	2月29日 曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入	
1827年	3月27日	文政10年	3月1日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 今日雪少し降	
1827年	3月28日	文政10年	3月2日 曇	今日雪少降 (去る9日表右筆佐藤栄吉を留書表右筆・勤料10俵増に)	
1827年	3月29日	文政10年	3月3日 曇	今日雪少降	
1827年	3月30日	文政10年	3月4日 晴	(先頃今別領山崎村前浜に寄鯨)	
1827年	3月31日	文政10年	3月5日 曇	午の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止 申の刻頃雷鳴 則刻止	
1827年	4月1日	文政10年	3月6日 晴		
1827年	4月2日	文政10年	3月7日 晴	(去る3日五所川原村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓村預け、当御発駕金に1000両御常用御不足に500両を江戸に登す)	
1827年	4月3日	文政10年	3月8日 晴	(3・4両月の内油1升6文目8分値段・5月より7文目6分に)	
1827年	4月4日	文政10年	3月9日 晴	申の刻過ぎ雷鳴 雷則刻止 雨亥の刻過ぎ止む (去る4日赤石組漆原村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け、去る7日金木組高根村で出火・類焼とも17軒焼失・火元他村預け)	
1827年	4月5日	文政10年	3月10日 曇	今日雪少降 (去る7日追良瀬村と広村の村境の前浜に切れ懸かり鯨?が流寄せる)	
1827年	4月6日	文政10年	3月11日 曇	昨夜雪降 一寸程積	
1827年	4月7日	文政10年	3月12日 晴		
1827年	4月8日	文政10年	3月13日 晴		
1827年	4月9日	文政10年	3月14日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 亥の刻頃止 (人事異動)	
1827年	4月10日	文政10年	3月15日 晴	(人事異動)	
1827年	4月11日	文政10年	3月16日 晴	(御役儀不似合いとして桜庭某が御留守居組に役下げ・その他も役下げあり)	
1827年	4月12日	文政10年	3月17日 晴	(昨晚四時過ぎ土手町で木部屋焼失)	
1827年	4月13日	文政10年	3月18日 晴		
1827年	4月14日	文政10年	3月19日 晴		
1827年	4月15日	文政10年	3月20日 晴	(当月27日渡しの御給分より御差引を仰せ付けられる、野火2ヶ所の村に過料(百姓1軒50文・高無1軒35文ツツ)野火1ヶ所の村の百姓1軒25文高無1軒10文宛・同様の村が19・庄屋等にも)	
1827年	4月16日	文政10年	3月21日 曇	酉の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止 (十三潟の水戸口の工事をしている)	
1827年	4月17日	文政10年	3月22日 晴		
1827年	4月18日	文政10年	3月23日 晴	(去12月芝居で喧嘩し制動の役人に不法の男に9鞭居村徘徊是まで通り・同様の男2人に6鞭ツツ居村徘徊是まで通り) 下から続く 類焼とも23軒焼失・火元他村預け)	
1827年	4月19日	文政10年	3月24日 曇	午の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止 (去る19日赤石組濱横沢村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け、田母神弥門揚り屋より開放、去る20日夜金木組磯松村で出火・	上に続く
1827年	4月20日	文政10年	3月25日 晴	(去10月炭窯願い出もなく隠し焼きの男2組5人に過料銭30日、去12月5日夜隠し津出手段米4俵と9俵の村の庄屋1人五人組10人に過料(900文と600文ツツ))	
1827年	4月21日	文政10年	3月26日 晴		
1827年	4月22日	文政10年	3月27日 晴	(来月20・21日頃御国許への御暇を仰せ出だされる、御家中の大小の鞆皮は御目見以上が黄印御目見以下が赤印らしい・御目見以上の嫡子等でも見習い等で家来の形の場合は赤印)	
1827年	4月23日	文政10年	3月28日 晴	(去る26日夜神宮寺の配下工藤某の居宅焼失・火元禁足)	
1827年	4月24日	文政10年	3月29日 晴	(去る26日夜藤代組笹館村で出火・建家焼失・火元居村預け)	
1827年	4月25日	文政10年	3月30日 晴		
1827年	4月26日	文政10年	4月1日 曇	巳の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (人事異動、御賞)	
1827年	4月27日	文政10年	4月2日 晴		
1827年	4月28日	文政10年	4月3日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止	
1827年	4月29日	文政10年	4月4日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻頃止	
1827年	4月30日	文政10年	4月5日 晴	(去る2日夜板屋野木村で出火)	

1827年	5月1日	文政10年	4月6日 晴	(去る末年(今年は亥年:3年前かな)喜良市山で30000本伐り荒しに気付かなかった山役人5人に役下げ慎等・庄屋に6鞭居村徘徊はまでどおり・関係者に6鞭3人・3鞭5人	欄外(*)に続く
1827年	5月2日	文政10年	4月7日 曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻頃止 酉の刻頃雨降 子の刻過ぎ止	
1827年	5月3日	文政10年	4月8日 曇	巳の刻過ぎより雨降 午未の刻過ぎ止 今日霰少降 (先ごろ類焼の金木組高根村の16軒に御救い1俵充て下し置かれる)	
1827年	5月4日	文政10年	4月9日 晴		
1827年	5月5日	文政10年	4月10日 曇	申の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止 (去る酉年御廻船上乗りで行方不明の御手筒足軽の子を諸手足軽に召抱える・同船の下乗りの御持ち鍵中間も同様)	
1827年	5月6日	文政10年	4月11日 曇	未の刻過ぎ雨降 則刻止	
1827年	5月7日	文政10年	4月12日 晴	(江戸表新御殿御入用の石を求め探させている、去々月4日青森湊手附交代中の諸手足軽に(偽役人と見て?)不法をした子供たちの親10人に15日の慎又は戸♂)	
1827年	5月8日	文政10年	4月13日 曇	申の刻頃より雨降 夜に入 (昨年青森で諸品語り取り捕まって連行中に逃げ去り通りがかりに又諸品語り取った男に6鞭弘前御構い、盗み徒と間道忍通り数度男に15鞭	欄外(**)に続く
1827年	5月9日	文政10年	4月14日 曇	昨夜より之雨今日時々降 夜二入 今暁風強し (去る3日磯松村前浜で鮮漁に出た3人が海死、上十川村の男揚屋で牢死)	
1827年	5月10日	文政10年	4月15日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 申の刻頃止 (昨夜風雨で御城中廻り諸番所廻りとも痛損の場所数ヶ所)	
1827年	5月11日	文政10年	4月16日 晴	(公方様御昇進内府様御位階に付去月18日屋形様登城・御機嫌よく御退出、来月3日4日頃江戸御発駕と仰せ出される、江戸で御賞、去月晦日夜御徒小頭福士某の路用金が盗まれる)	
1827年	5月12日	文政10年	4月17日 晴		
1827年	5月13日	文政10年	4月18日 晴		
1827年	5月14日	文政10年	4月19日 晴		
1827年	5月15日	文政10年	4月20日 曇	巳の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止 (西館宇膳が歯痛・出仕なし)	
1827年	5月16日	文政10年	4月21日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 巳の刻過ぎ止	
1827年	5月17日	文政10年	4月22日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 午の刻過ぎ止	
1827年	5月18日	文政10年	4月23日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止	
1827年	5月19日	文政10年	4月24日 晴	(昨夜五時頃富田村で出火・木小屋焼失・火元戸♂)	
1827年	5月20日	文政10年	4月25日 晴		
1827年	5月21日	文政10年	4月26日 曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止 戌の刻雨降 亥の刻過ぎ止	
1827年	5月22日	文政10年	4月27日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入 (去る14日大風にて諏訪堂村で潰れ家3軒)	
1827年	5月23日	文政10年	4月28日 晴		
1827年	5月24日	文政10年	4月29日 晴	(去る25日夜青森上寺町で出火・否や取り鎮める(否取鎮))	
1827年	5月25日	文政10年	4月30日 晴	下から続く 御発駕延引・関札打ち等先行者は引き返す)	
1827年	5月26日	文政10年	5月1日 晴	下から続く 真木割・夜中拍子木・月代そり等の停止・表御門東御門西の方御門は大門小門とも「ゑひ」(えび錠)おろし西の方御門小門出入り致すべき事等を命じている、	上に続く
1827年	5月27日	文政10年	5月2日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止 下から続く 御家老御用人が休日であるが出仕・この度の公儀御昇進御位階の節屋形様が登城の節御轅御用による、屋形様御差扣中に付	上に続く
1827年	5月28日	文政10年	5月3日 曇	辰の刻頃より小雨降 申の刻頃止 (去月晦日三ツ目内村で出火・隣家の外馬屋も焼失・火元高無他村預け、去月25日江戸発の早打が今朝6時到着・去月25日(屋形が)逼塞・	上に続く
1827年	5月29日	文政10年	5月4日 晴		
1827年	5月30日	文政10年	5月5日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止	
1827年	5月31日	文政10年	5月6日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 戌の刻過ぎ止	
1827年	6月1日	文政10年	5月7日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1827年	6月2日	文政10年	5月8日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 申の刻頃雨降 即刻止	
1827年	6月3日	文政10年	5月9日 曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止	
1827年	6月4日	文政10年	5月10日 曇	鳥の刻過ぎ小雨降 即刻止	
1827年	6月5日	文政10年	5月11日 曇	今暁寅の刻頃より小雨時々降 未の刻頃止 下から続く 及ばずとの事、一昨27日川合作左衛門に御役儀召し放し慎み、人事異動)	
1827年	6月6日	文政10年	5月12日 晴	(当4月油川勤番目付が紛らわしき玄米8俵取り押さえる・人馬逃げ去る・勤番に下し置かれる、昨28日笠原八郎兵衛平岡群蔵山鹿次郎作に御奉公遠慮・津軽多膳等は遠慮に	上に続く
1827年	6月7日	文政10年	5月13日 曇	未の刻頃雨降 即刻止	
1827年	6月8日	文政10年	5月14日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1827年	6月9日	文政10年	5月15日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止	
1827年	6月10日	文政10年	5月16日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止 午の刻頃より雷雨 雷則刻止 雨申の刻過ぎ止 (黒石藩でも長屋の窓を閉める等の対応をしている、南部梶売り払いの男2人に過料)	
1827年	6月11日	文政10年	5月17日 晴		
1827年	6月12日	文政10年	5月18日 快晴	下から続く 鍵持たせず立会目付なしの2人のみを派遣する・御逼塞中であり月代を剃らずに罷り越し候様……)	
1827年	6月13日	文政10年	5月19日 晴	(当5月2日内真部出帆の御廻船が松前江山沖でお米600俵荷打ち当月12日に南部八戸鮫浦に入津・(普通は)勘定小頭槍を持ち上下3人と立会目付が見分に行くが御逼塞中で	上に続く
1827年	6月14日	文政10年	5月20日 晴	亥の刻頃雨降 即刻止	
1827年	6月15日	文政10年	5月21日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止 戌の刻頃雨降 則刻止 下から続く 庄屋に過料1貫500文・馬の持ち主出奔)	
1827年	6月16日	文政10年	5月22日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止 未の刻頃より小雨時々降 亥の刻頃止 (去る9月別段廻りが米14俵馬7疋を取押え村の庄屋に預けた・この馬が残らず離れ行方不明となった・	上に続く
1827年	6月17日	文政10年	5月23日 曇	未の刻頃より雨降 申の刻頃止	
1827年	6月18日	文政10年	5月24日 曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止	
1827年	6月19日	文政10年	5月25日 晴	(小泊村の長松の従弟で(切支丹)類族の梅と申す女が去る23日病死・死骸を両目付で検分するよう申し付ける)	
1827年	6月20日	文政10年	5月26日 晴		
1827年	6月21日	文政10年	5月27日 晴		
1827年	6月22日	文政10年	5月28日 晴	(笠原八郎兵衛が7日平岡群蔵山鹿次郎作が9日に遠慮御免、当御雇船筑前船2艘が仙台領花湊濱村沖合い東名濱沖瀬で破船)	
1827年	6月23日	文政10年	5月29日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1827年	6月24日	文政10年	6月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入	
1827年	6月25日	文政10年	6月2日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止	
1827年	6月26日	文政10年	6月3日 晴	卯の刻過ぎ地震少し	
1827年	6月27日	文政10年	6月4日 曇	午の刻より雨時々降 夜二入	
1827年	6月28日	文政10年	6月5日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止	
1827年	6月29日	文政10年	6月6日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入	
1827年	6月30日	文政10年	6月7日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止	
				(*)・158人の柚子に5人ツツ夫役(労働を5人日しろとの事?)	
				(**) 弘前払い、去11月樹木派で博打紛いのことをした男5人に3鞭居町徘徊は迄通り・関係者に過料)	

1827年	7月1日	文政10年	6月8日	曇	(此の頃天気不正に付き丹後者詮索・居合わせれば送り返す)	
1827年	7月2日	文政10年	6月9日	快晴		
1827年	7月3日	文政10年	6月10日	晴		
1827年	7月4日	文政10年	6月11日	晴	(当正月塩鯉5駄を買い入れ悪戸村で取押えられた青森の男に鯉御取り上げの上30日間戸⚔)	
1827年	7月5日	文政10年	6月12日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1827年	7月6日	文政10年	6月13日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降	
1827年	7月7日	文政10年	6月14日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 午の刻頃止 (北之御丸御門に薨れ狐・足軽目付が見分・前々の通り取り片付ける)	
1827年	7月8日	文政10年	6月15日	曇	申の刻頃地震少し	
1827年	7月9日	文政10年	6月16日	快晴		
1827年	7月10日	文政10年	6月17日	曇	未の刻頃より雨降 申の刻頃止	
1827年	7月11日	文政10年	6月18日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止	
1827年	7月12日	文政10年	6月19日	晴		
1827年	7月13日	文政10年	6月20日	晴	巳の刻頃地震少し	
1827年	7月14日	文政10年	6月21日	晴	下から続く 運賃四が一引上げ今後雇用しないとした、両都御廻船上乘15人下乗18人増仰せ付けられる)	
1827年	7月15日	文政10年	6月22日	晴	亥の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 (一昨19日木造新田富范村で出火・建家外馬屋穀物等焼失・火元庄屋居村預け、当大坂御廻船が兵庫澗懸の節水主の者共抜米・差扣中に付	上に続く
1827年	7月16日	文政10年	6月23日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止	
1827年	7月17日	文政10年	6月24日	曇		
1827年	7月18日	文政10年	6月25日	曇		
1827年	7月19日	文政10年	6月26日	曇		
1827年	7月20日	文政10年	6月27日	曇		
1827年	7月21日	文政10年	6月28日	曇	申の刻過ぎ小雨降 即刻止	
1827年	7月22日	文政10年	6月29日	晴		
1827年	7月23日	文政10年	6月30日	晴		
1827年	7月24日	文政10年	閏6月1日	晴		
1827年	7月25日	文政10年	閏6月2日	晴		
1827年	7月26日	文政10年	閏6月3日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入	
1827年	7月27日	文政10年	閏6月4日	曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 巳の刻頃止	
1827年	7月28日	文政10年	閏6月5日	曇	申の刻頃雷雨 即刻止	
1827年	7月29日	文政10年	閏6月6日	曇	未の刻過ぎ雷雨 即刻止	
1827年	7月30日	文政10年	閏6月7日	曇	亥の刻過ぎより雨降 (去る朔日深浦湊に日の丸御城米積船入津)	
1827年	7月31日	文政10年	閏6月8日	曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 辰の刻頃止	
1827年	8月1日	文政10年	閏6月9日	晴		
1827年	8月2日	文政10年	閏6月10日	晴	亥の刻頃雨降 即刻止	
1827年	8月3日	文政10年	閏6月11日	晴		
1827年	8月4日	文政10年	閏6月12日	晴		
1827年	8月5日	文政10年	閏6月13日	曇	未の刻頃より小雨時々降 亥の刻頃止	
1827年	8月6日	文政10年	閏6月14日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (去る4日日の丸御城米積船が深浦から出帆) 下から続く 見当てれば容赦なく役下げとする)	
1827年	8月7日	文政10年	閏6月15日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (去る6日江戸を立ち7日振りの飛脚が午の刻過ぎ到着:6日に屋形様の御逼塞御免、御持筒足軽共が半甲を小さくしている・今後	上に続く
1827年	8月8日	文政10年	閏6月16日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入 (別段御用の者共に御賞) 下から続く 土岐渡人を寄合に役下げ)	
1827年	8月9日	文政10年	閏6月17日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 申の刻頃より小雨時々降 夜二入(曇 昨夜より之雨及今日辰刻過ぎ申刻頃より里小雨時々降夜二入) (寺社方取扱不筋の寺社奉行	上に続く
1827年	8月10日	文政10年	閏6月18日	曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (護穀神で風雨順次の御祈禱を仰せ付ける)	
1827年	8月11日	文政10年	閏6月19日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 今晩寅の刻頃雷鳴 即刻止 (この節薬種相場1俵平均25文目7分2厘・明油1升4文目7分と申し付ける)	
1827年	8月12日	文政10年	閏6月20日	曇	今晩寅の刻過ぎより小雨時々降 巳の刻頃止 (人事異動)	
1827年	8月13日	文政10年	閏6月21日	晴	亥の刻過ぎより雨時々降 (大鰐村加賀助兵左衛門より御初米出穂差出す・去年の節に引合19日遅い、当3月山役人が廻山の節檢の切株5本見当てる・庄屋に過料600文)	
1827年	8月14日	文政10年	閏6月22日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止	
1827年	8月15日	文政10年	閏6月23日	晴	(当6月他村の家に踏み込み乱暴・庄屋を打擲の男に15鞭橋雲寺門前(居村)徘徊はまで通り・その他6・3・3鞭居村徘徊はまで通り・過料18人ほど)	
1827年	8月16日	文政10年	閏6月24日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入 (去る21日大光寺組金屋村で出火・類焼とも3軒焼失・火元他村預け)	
1827年	8月17日	文政10年	閏6月25日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 (5月19日青森出帆の当御雇い遠州船が6月朔日鹿島沖合いで御米80俵等荷打ち・なぜか(逼塞中?)荷打ちを届けず代金弁済する)	
1827年	8月18日	文政10年	閏6月26日	晴		
1827年	8月19日	文政10年	閏6月27日	晴		
1827年	8月20日	文政10年	閏6月28日	曇	今晩寅の刻雷雨 雷則刻止 雨時々降 辰の刻頃止 (手段米を積み込み出奔男の船の間屋に戸⚔10日・米は別段役に下し置かれる)	
1827年	8月21日	文政10年	閏6月29日	晴	(先年御寄付(御が付されているが欠字平出なし・欠字になっていれば御屋形様の寄付だろうが)の金屏風を盗み取られた報恩寺に慎み)	
1827年	8月22日	文政10年	7月1日	晴	(人事異動)	
1827年	8月23日	文政10年	7月2日	晴	(御賞) 4日から続く 去月16日広須・木造両組村々水湛207町8步余)	
1827年	8月24日	文政10年	7月3日	曇	未の刻過ぎより雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜二入 (一昨年8月弘前払いを仰せ付けられ否や御構い地に立ち入り不届きの浪人木村某を弘前払い)	
1827年	8月25日	文政10年	7月4日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 未の刻頃より小雨時々降 夜二入 (大間越役人より差出された書状を呟に入れて忘れた?男に過料1貫200文・庄屋に過料600文、	2日に続く
1827年	8月26日	文政10年	7月5日	晴	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 (当仕付高149町7反7畝28步右は(縦書きであるからこの数値は左の意)田方畑方6416町8反5歩の旨申出達之:意味不明)	
1827年	8月27日	文政10年	7月6日	晴	下から続く 去る17日川合作右衛門の半知召上げ隠居・倅に高150石国元引越し、江戸で御賞)	
1827年	8月28日	文政10年	7月7日	曇	辰の刻過ぎより雷雨 雷即刻止 雨時々降 申の刻頃止 (去月20日江戸表の柳原御中屋敷を御用・右替地品川戸越村にとの連絡あり、普門庵脇の杉に落雷・伐取り下される、	上に続く
1827年	8月29日	文政10年	7月8日	晴	(隠売りの男の品々御取り上げ過料銭100目・その五人組に過料50目、親の悪口を言われたと乱暴し慎30日・殴られた女房も慎10日)	
1827年	8月30日	文政10年	7月9日	晴		
1827年	8月31日	文政10年	7月10日	晴		

1827年	9月1日	文政10年	7月11日 晴	(去る申年(今年は亥年) 藤崎組深味村等の御検見の節手段取巧米150俵余私曲の元庄屋に30鞭10里四方追放大場御構い、同年高杉組十腰内村で乱暴の男に9鞭居村徘徊はまで通り)
1827年	9月2日	文政10年	7月12日 晴	亥の刻頃より雨降 (大鰐村加賀助兵左衛門より御初米差出す)
1827年	9月3日	文政10年	7月13日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 未の刻頃止 今日風強し
1827年	9月4日	文政10年	7月14日 晴	(江戸で人事異動・御賞)
1827年	9月5日	文政10年	7月15日 晴	
1827年	9月6日	文政10年	7月16日 晴	亥の刻過ぎ小雨降 即刻止 (昨夜御持鍵が背戸の小屋出火・呵申し付け置く、去る2日御米3570俵その他を積んで青森出帆の筑前船が4日尻屋沖で御米800俵荷打ち)
1827年	9月7日	文政10年	7月17日 曇	辰の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 雨時々降 夜二入 下から続く 当御発駕御日限来る12日と仰せ出される・関札打ちも今日出発)
1827年	9月8日	文政10年	7月18日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止 (当大坂御廻船が去月11日3900俵積で鰻ヶ沢を出帆・当月10日舩作村を過ぎ大時化で破船・橋船で14日朝全員舩作村に漂着、 上に続く
1827年	9月9日	文政10年	7月19日 曇	巳の刻頃より小雨降 即刻止
1827年	9月10日	文政10年	7月20日 晴	
1827年	9月11日	文政10年	7月21日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止 (去る13日松前船が舩作村沖合いで破船・2人が海死6人が木柄に取り付き田野沢村に流れ寄せる、人事異動)
1827年	9月12日	文政10年	7月22日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 未の刻頃止 (去る17日日之丸御城米船20人乗りが深浦湊に入津・順風なく滞船中)
1827年	9月13日	文政10年	7月23日 晴	下から続く 積み去月29日出帆の大坂の御廻船が去る12日越後粟島沖合いで帆柱切り捨て御米15・600俵打ち捨て・橋船で飛島に着岸、屋形様が去る12日江戸を御発駕)
1827年	9月14日	文政10年	7月24日 曇	巳の刻頃より大雨時々降 夜二入 下から続く 鍛冶町より富田・住吉宮への橋が流失、土手町大橋並びに東長町大橋共土留め石垣が崩れ橋痛損、御米1300石その他を 上に続く
1827年	9月15日	文政10年	7月25日 曇	昨夜より之大雨今日に及ぶ 夜二入 (岩木川6歩余の出水人配置・8歩出水人増員・9歩余の出水で御馬を三之丸に牽上げる、土淵川洪水・北横町大橋と御徒町橋が流失、 上に続く
1827年	9月16日	文政10年	7月26日 晴	昨夜より之大雨今晩寅の刻頃止 (今晩七時半御本城御裏御失場脇土居ならび土塀並木共10間余欠崩、碇ヶ関街道所々橋痛損、去12月博打の男に6鞭弘前徘徊は通り、 欄外(*)に続く
1827年	9月17日	文政10年	7月27日 晴	下から続く 御鷹待ちの者共12人が船で渡り帰る途中で2人水死、平川が洪水で岩崎仮橋を取払う・3人水死、鰻ヶ沢で橋脇など崩れる・家半潰れ1軒・土砂災害も小屋などを潰している)
1827年	9月18日	文政10年	7月28日 曇	今晩寅の刻頃より小雨時々降 巳の刻過ぎ止 (去る25日大雨被害: 田方45町4反歩程・畑方6町歩・川欠9ヶ所・大小橋15ヶ所・土居6ヶ所・水門7ヶ所・留切5ヶ所、藤崎真那板林 上に続く
1827年	9月19日	文政10年	7月29日 曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止 戌の刻頃より雷雨 即刻止 (去る25日深浦町の出水被害: 潰家3軒・半潰家1軒・流失家2軒・半潰木小屋2軒・土蔵流失1ヶ所・橋流失3ヶ所・ 欄外(**)に続く
1827年	9月20日	文政10年	7月30日 晴	
1827年	9月21日	文政10年	8月1日 晴	亥の刻頃より小雨時々降
1827年	9月22日	文政10年	8月2日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (昨晚土手町に女子捨子・養育を申し付ける、御城付者頭申し出で候: 胴長御太鼓御着御当日より釣轡を申し出の通り仰せ付ける)
1827年	9月23日	文政10年	8月3日 曇	午の刻頃より小雨時々降 夜二入 (八時過ぎ御着城)
1827年	9月24日	文政10年	8月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止
1827年	9月25日	文政10年	8月5日 晴	(御賞(銀5両・銀3両・金鍔4片)) 下から続く 新田で854町3反歩程・金木新田367町6反歩程・金木組村々529町7反歩程・広田組村々833町1反歩1畝15歩・堤破損3ヶ所家7軒流失)
1827年	9月26日	文政10年	8月6日 晴	(御賞、先日殺された法嶺院の後住を……分かん) 下から続く 桑野木田1丈4尺・豊田1丈6尺・繁田1丈8尺高い、去月25日洪水の田方水湛・破損場所: 広須木造 上に続く
1827年	9月27日	文政10年	8月7日 晴	(去月25日夜より同27日四時頃まで水湛の村74ヶ村・田方新開とも2千2・3百町(内7歩通り位落水)) 下から続く 板屋野木村1丈・五所川原1丈6尺・神原1丈8尺8寸・ 上に続く
1827年	9月28日	文政10年	8月8日 曇	辰の刻頃より小雨降 即刻止 (広須木造両組村々で99軒に御米100俵御救に差出す、五所川原村の流失7軒の者共極難・御救に御米15俵差出す、去月25日洪水は平水より 上に続く
1827年	9月29日	文政10年	8月9日 曇	申の刻頃雨降 則刻止 (三国屋大津屋の仕込み味噌売賃値段は錢10文目に付き目方6貫500目とし望みの族に売出す)
1827年	9月30日	文政10年	8月10日 曇	申の刻頃雨降 即刻止
1827年	10月1日	文政10年	8月11日 晴	
1827年	10月2日	文政10年	8月12日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 (御賞、5月8日に油川勤番目付が隠津出米を背負う者を発見声をかける・米投げて逃走・犯人を知らないという庄屋等に過料・米は取上げ勤番目付に下し置かれる)
1827年	10月3日	文政10年	8月13日 晴	
1827年	10月4日	文政10年	8月14日 晴	今晩寅の刻頃地震少し 卯の刻頃地震少し 辰の刻頃地震少し 巳の刻頃地震少し (当5月十三から鰻ヶ沢に向かう小廻り船から無刻印の碇・残らず取上げ船頭2人に30日憤み)
1827年	10月5日	文政10年	8月15日 晴	
1827年	10月6日	文政10年	8月16日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止
1827年	10月7日	文政10年	8月17日 快晴	
1827年	10月8日	文政10年	8月18日 快晴	(土岐善作の勤料召上げ御手廻に帰役・翌日親渡人も御奉公遠慮)
1827年	10月9日	文政10年	8月19日 晴	
1827年	10月10日	文政10年	8月20日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 巳の刻過ぎ止 (今日雨天に付八幡宮神輿通御御延引)
1827年	10月11日	文政10年	8月21日 曇	未の刻頃小雨降 即刻止 (八幡宮御祭礼・五時御供揃えで三之丸御物見所え入る・九時過ぎ御祭礼が滞りなく相済む)
1827年	10月12日	文政10年	8月22日 晴	
1827年	10月13日	文政10年	8月23日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止
1827年	10月14日	文政10年	8月24日 晴	(四社に御社参・御帰城七時過ぎ、昨23日岩木川出水・駒越渡し場の人馬往来差留める・落水にて(水位が下がっての意)長船馬船とも通路相成る)
1827年	10月15日	文政10年	8月25日 晴	(五半時兩御寺に御仏参・八時過ぎ御帰城)
1827年	10月16日	文政10年	8月26日 晴	
1827年	10月17日	文政10年	8月27日 晴	(去月25日の洪水で居宅大破の御家中に春日町で土地を拝領錢200目を拝借させている)
1827年	10月18日	文政10年	8月28日 晴	(今日御舞台で御慰めの御囃子)
1827年	10月19日	文政10年	8月29日 晴	
1827年	10月20日	文政10年	8月30日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入 (江戸詰めから国詰めを命じられた川合又市一家が江戸を7日に立ち昨晚23日ぶりの到着)
1827年	10月21日	文政10年	9月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 戌の刻頃止 (人事異動)
1827年	10月22日	文政10年	9月2日 曇	
1827年	10月23日	文政10年	9月3日 晴	
1827年	10月24日	文政10年	9月4日 晴	戌の刻頃地震少し
1827年	10月25日	文政10年	9月5日 晴	(今日五時半御供揃えで革秀寺に御仏参・御帰城八時過ぎ、人事異動)
1827年	10月26日	文政10年	9月6日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入 今晩風強し
1827年	10月27日	文政10年	9月7日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 戌の刻過ぎ止 (冥加軍用金の内1200両差上げた田中某を高100石馬廻格に仰付ける、いつ遭難したのか不明だが大坂廻船が3250俵積み込んでいる)
1827年	10月28日	文政10年	9月8日 晴	(去月25日の洪水で家を流失した深浦濱町の5人に御米1俵宛下し置かれる)
1827年	10月29日	文政10年	9月9日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止
1827年	10月30日	文政10年	9月10日 晴	
1827年	10月31日	文政10年	9月11日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (人事異動、去る5日夜油川に洞懸中の3艘が風雨で破船)

(*) 隠し荷揚げの男に3鞭居村徘徊はまで通り・関係の庄屋に過料、追放から立ち返った男に3鞭元の如く3里四方追放、刀盗み未遂の男に3鞭居村徘徊はまでどおり)

(**) 砂押上げ家1軒、広田組喰川村で土居破損並びに流失家7軒男女共3人水死行方不明1人痛家50軒、廻米の津軽屋等に御賞、屋形様が痔疾腹瀉で小山駅に1日逗留・日程変更)

1827年	11月1日	文政10年	9月12日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	夜二入	今日霰少し降	下から続く	去々年良い馬を見せて駄馬を売り渡した?男に9鞭馬喰御取放しの上居村徘徊是まで通り、欄外(*)に続く
1827年	11月2日	文政10年	9月13日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	夜二入	(当月5日の大風で青森澗懸中の7艘破船・水主1人海死、頃日天気不正・両社並びに護穀神に於いて日和揚の御祈禱を仰付ける、	上に続く	
1827年	11月3日	文政10年	9月14日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	酉の刻頃止	(松の木220本を隠し切りの合子沢村の者共に過料7貫300文・庄屋に900文)		
1827年	11月4日	文政10年	9月15日 晴	(小山内武左衛門を寺社奉行に等の人事異動)					
1827年	11月5日	文政10年	9月16日 曇	巳の刻頃より小雨時々降	申の刻頃止	(丹後者詮索、御米都合2900俵余御用銭9貫900目余を私曲した藤崎組元手代2人と川部村元庄屋に30鞭宛10里四方追放大場御構い)			
1827年	11月6日	文政10年	9月17日 晴						
1827年	11月7日	文政10年	9月18日 晴						
1827年	11月8日	文政10年	9月19日 曇	辰の刻頃より雨降	未の刻過ぎ止				
1827年	11月9日	文政10年	9月20日 曇	申の刻頃より小雨時々降	夜二入	(今日御舞台で御慰め御能・老年の福眞弥兵衛等に御能見物お酒等を下し置かれる、当御下向御道中御供の横岡奎左衛門等に御賞)			
1827年	11月10日	文政10年	9月21日 曇	昨世より之雨今日に及ぶ	時々降	夜二入			
1827年	11月11日	文政10年	9月22日 曇	昨世より之雨今日に及ぶ	時々降	未の刻過ぎ止	(御手船八幡丸と能徳丸が9日10日の風雨で三厩湊で破船)		
1827年	11月12日	文政10年	9月23日 曇	今晚寅の刻頃より小雨時々降	夜二入	(古証文をごまかして小作料1630俵を納めなかった垂柳村の男に30鞭10里四方追放大場御構い)			
1827年	11月13日	文政10年	9月24日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	夜二入			
1827年	11月14日	文政10年	9月25日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	未の刻頃止	今日霰少し降		
1827年	11月15日	文政10年	9月26日 曇	今日霰少し降					
1827年	11月16日	文政10年	9月27日 曇	申の刻頃より雨時々降	夜二入				
1827年	11月17日	文政10年	9月28日 曇	今晚寅の刻過ぎ雷鳴	即刻止	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	(八幡宮の祭礼の武具持ち・洪水被害修理を参勤下がりに間に合わせた者・別段御用の者等に御賞・御酒)	
1827年	11月18日	文政10年	9月29日 曇	今日霰少し降					
1827年	11月19日	文政10年	10月1日 曇	今晚寅の刻頃より雨降	辰の刻頃止	今日雪少降	(人事異動)		
1827年	11月20日	文政10年	10月2日 曇	昨夜雪少降	今日雪少降	(外馬場で馬術高覧)			
1827年	11月21日	文政10年	10月3日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降	申の刻頃止	亥の刻頃地震少し	(昨朝初雪・今日御機嫌伺い申上げる)		
1827年	11月22日	文政10年	10月4日 曇	午の刻頃より雨時々降	戌の刻頃止				
1827年	11月23日	文政10年	10月5日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降	申の刻過ぎ止	(人事異動、去る3日夜飯詰組金山村領下松野木村で出火・建家稲草等焼失・火元居村預け、古懸不動尊御出汗・御神楽等を仰せ付ける)			
1827年	11月24日	文政10年	10月6日 晴	(当3月土手町の博打場で金を強請り取った男に9鞭同類4人に3鞭弘前町徘徊是まで通り・関係者に過料、身持ちが悪い娘の相手の?を男が傷害・女に15鞭居村徘徊是まで				欄外(**)に続く	
1827年	11月25日	文政10年	10月7日 晴	(江戸で去る11日杉山東市を寄合格御用人見習いととの人事異動)					
1827年	11月26日	文政10年	10月8日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨時々降	戌の刻頃止				
1827年	11月27日	文政10年	10月9日 曇	昨夜雪少降	今日雪降	一寸程積			
1827年	11月28日	文政10年	10月10日 曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少降			
1827年	11月29日	文政10年	10月11日 曇	午の刻頃より雨時々降	夜二入	(不締まりを摘発した御廻船上乗りの諸手足軽を御目見以下御留守居支配に下乗りの掃除小人を御持鍵中間に仰せ付ける)			
1827年	11月30日	文政10年	10月12日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	夜二入			
1827年	12月1日	文政10年	10月13日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	卯の刻過ぎ止	午の刻過ぎより雨時々降	夜二入	(古懸不動尊御出汗・去る5日の通り申し使わず、五山で御祈禱を仰せ付けられる)	
1827年	12月2日	文政10年	10月14日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	申の刻過ぎ止	(石渡川4歩の出水・馬船往来相成りかねる)		
1827年	12月3日	文政10年	10月15日 晴	(今日梅の間で御囃子、御賞)					
1827年	12月4日	文政10年	10月16日 晴						
1827年	12月5日	文政10年	10月17日 晴	(諸寺院に風儀を正せとの口達)					
1827年	12月6日	文政10年	10月18日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降	申の刻頃止				
1827年	12月7日	文政10年	10月19日 曇	午の刻頃より雨時々降	夜二入	(松前から送り返された男を取り逃がした前田村の代庄屋・番人に過料)			
1827年	12月8日	文政10年	10月20日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	未の刻過ぎ止	(去る16日下湯口村で出火・建家外馬屋建馬焼失・火元居村預け、新古米相場平均1俵24文目7分・酒1升を1文目4分1合を8文に仰付ける)		
1827年	12月9日	文政10年	10月21日 曇	巳の刻頃より雨時々降	未の刻頃止	下から続く	にも被害、米一番相場(1俵に付き):3ヶ所平均36匁1分8厘8毛(内御定め役引1文目2分)があり34匁9分8厘8毛)		
1827年	12月10日	文政10年	10月22日 曇	巳の刻過ぎより雨降	未の刻頃止	今日雪少降	今夜風強し	下から続く	7厘に、昨晚大風・八幡宮境内杉5本西光寺門脇杉1本真教寺表門脇の杉1本風折・富田御屋敷
1827年	12月11日	文政10年	10月23日 曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降	二寸程積	(去月15日より当月15日迄30日附菜種相場平均4斗入1俵28文目4分6厘・油1升が5文目6分7厘3毛相当・来月朔日より5文目6分	上に続く
1827年	12月12日	文政10年	10月24日 晴						
1827年	12月13日	文政10年	10月25日 曇	今晚寅の刻頃より雨降	午の刻頃止	(7月洪水の被害:御本城御裏大土居欠崩土塀倒損等)			
1827年	12月14日	文政10年	10月26日 晴	(去る戌10月(昨年10月)17日夜高館村法嶺院で住僧など4人を打殺し2人に深手を負わせ銭衣類等を盗み取った木造村銀蔵の処置方法肆(みせ・晒し方)方その場所などの記述あり)					
1827年	12月15日	文政10年	10月27日 曇	申の刻頃より小雨降	酉の刻頃止	(瀨辺地村の男が郷沢村の男に手傷氣絶させ懷より金子24兩3歩奪い取る・親の廁の内に金高も改めず埋め置く)			
1827年	12月16日	文政10年	10月28日 晴	下から続く	親和田太左衛門と上外崎村の奈良岡家に強勢で押し入り強盗その後出奔の和田鎮六を町中引廻しの上取上で磔)				
1827年	12月17日	文政10年	10月29日 曇	卯の刻頃より小雨時々降	巳の刻頃止	(去る戌(去年)10月17日夜高館村領法嶺院で住僧など4人を打殺した男を町中引廻しの上取上で磔、去る亥年(12年前:今年も亥年)		上に続く	
1827年	12月18日	文政10年	11月1日 曇	今日霰少し降	(去月24日夜横内組戸山村で出火・類焼4軒稲草とも焼失・火元郷土慎:士分に対しては扱いが違う?、八幡宮祭礼に供奉する持ち物の様子あり)				
1827年	12月19日	文政10年	11月2日 晴	(外馬場で馬術高覧)					
1827年	12月20日	文政10年	11月3日 晴	戌の刻過ぎより雷雨	雷則刻止	雨時々降			
1827年	12月21日	文政10年	11月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	未の刻頃止	(頃日酒1升が1文目4分を1文目6分に1合10文ツツに申し付ける)		
1827年	12月22日	文政10年	11月5日 曇	今日雪少降	未の八刻冬至	(青森より直上の鰯2尾を御台所頭が差上げる、古懸不動尊御出汗・御神楽・五社で御祈禱等)			
1827年	12月23日	文政10年	11月6日 晴	下から続く	50俵勘定小頭格とする)				
1827年	12月24日	文政10年	11月7日 曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降	三寸程積	(前田・片谷某を200俵御馬廻格御勝手方御繰り合わせ御用取扱に(以下用向き同じ)・2人を150俵2人を100俵御中小姓格・28人を	上に続く
1827年	12月25日	文政10年	11月8日 曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少降			
1827年	12月26日	文政10年	11月9日 曇	今日雪降	二寸程積	(人事異動、去る6日夜五時頃青森大町の借家で失火・取鎮める・火元戸メその大家慎)			
1827年	12月27日	文政10年	11月10日 曇	昨夜雪少降	今日雪少降				
1827年	12月28日	文政10年	11月11日 曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪降	頃日寒強し	(人事異動)	
1827年	12月29日	文政10年	11月12日 曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少降			
1827年	12月30日	文政10年	11月13日 曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少降	(人事異動)		
1827年	12月31日	文政10年	11月14日 晴	昨夜雪少降	(高岡江御献備の鰯2尾御台所頭差出す、小泊村長松の従弟類族むめが此の度病死・長松に係る存命の者がなくなった、御賞)				

(*)盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り、黒石で土蔵を切破り黒石で両度まで破牢の男に永牢・同類にも同様)

(**)通り・傷害した男に24鞭黒石町御構いの上5里四方追放・共犯に24鞭居村御構いの上5里四方追放・この仲間たちに過料)

1828年	1月1日	文政10年	11月15日	晴	(今日梅の間で御慰の御囃子、人事異動、当月10日暮より翌11日朝まで十三潟の大湊川尻より小侯川尻迄残らず氷張る・去年は12月6日暮より・日数引合今年は27日早く節に引合8日早い)
1828年	1月2日	文政10年	11月16日	晴	昨夜雪少降 (山方締まり役などが役下げなどの罰を受けている)
1828年	1月3日	文政10年	11月17日	晴	
1828年	1月4日	文政10年	11月18日	晴	昨夜雪少降 (1人を50俵勘定小頭格に・もう1人重田伝十郎は遅刻し慎)
1828年	1月5日	文政10年	11月19日	晴	
1828年	1月6日	文政10年	11月20日	曇	辰の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止 戌の五刻寒に入
1828年	1月7日	文政10年	11月21日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 申の刻頃止 (古懸不動尊御出汗・5日の通りに) 下から続く 下し置かれ御祈禱を仰せ付ける)
1828年	1月8日	文政10年	11月22日	晴	(間山鉄五郎を御手廻格勘定奉行手伝勤料10俵下し置かれる等の人事異動、伊東・和田某に一粒金丹5劑調合を仰せ付ける、蔵館村の高伯寺本尊の大日尊が御出汗・金100疋 上に続く)
1828年	1月9日	文政10年	11月23日	晴	(笠原八郎兵衛が今日江戸に出生、来る26日に金4000両を江戸に登す)
1828年	1月10日	文政10年	11月24日	曇	昨夜雪一寸程積 今日雪降 二寸程積 (高岡に御献備の雉子がまだ取れない・替りに真鴨を仰せ付ける、昨晚暮六半時東長町の背戸之木部屋で出火・火元戸ノ)
1828年	1月11日	文政10年	11月25日	曇	昨夜雪少降
1828年	1月12日	文政10年	11月26日	晴	
1828年	1月13日	文政10年	11月27日	晴	(杉の伐り株45本の小沢村の者に過料銭3貫文・34本の原ヶ平村に2貫260文)
1828年	1月14日	文政10年	11月28日	晴	(十三潟が前後共27日迄二残らず氷張り船通路相成らず) 下から続く きの犯人に逃げられた男3人に15鞭宛居村徘徊はまでどおり・犯人を世話した男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1828年	1月15日	文政10年	11月29日	晴	亥の刻頃より小雨降 (他国者を偽り養子にした男を夫役(夫役・労働奉仕?)15人仰せ付けられる・その庄屋慎、去る10月馬を盗み売った?男に21鞭居村徘徊頃まで通り・縄付 上に続く)
1828年	1月16日	文政10年	11月30日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 巳の刻頃止
1828年	1月17日	文政10年	12月1日	曇	今日雪降 二寸程積 (人事異動) 下から続く 同半漬3軒・堂社破損3ヶ所・堂漬1ヶ所・町破損家291軒・漬家17軒・漬小屋18軒・漬厩6ヶ所・町家半漬2軒・倒木962本人馬怪我なし)
1828年	1月18日	文政10年	12月2日	晴	昨夜雪降 七寸程積 (今日剣術・和術高覧) 12月4日から続く 2282本・人馬に怪我なし、津軽左近将監領分の被害:陣屋住居土蔵土塀等所々・侍屋敷破損23軒・ 上に続く
1828年	1月19日	文政10年	12月3日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (大鰐組の沢々で伐り株あり・(多分村の住民に)過料銭9貫300文・庄屋に過料900文、当冬貫御払米1俵30日立にて御払相立ち候旨達之:何を示しているのか)
1828年	1月20日	文政10年	12月4日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (座当・盲女合わせて306人か・御二方に關し15文宛で9貫180文下し置かれている) 下から続く 溜池破損3ヶ所・堂破損1ヶ所・倒木 12月2日に続く
1828年	1月21日	文政10年	12月5日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (9月5・6日の大風雨被害の幕府報告:漬家93軒・漬小屋16軒・漬厩6軒・半漬家32軒・破損家107軒・破損小屋11軒・土蔵破損36ヶ所・厩破損2ヶ所・ 上に続く)
1828年	1月22日	文政10年	12月6日	晴	昨夜雪少降 亥の刻過ぎより雨降
1828年	1月23日	文政10年	12月7日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止 今日雪吹強し (不明日時に十三町の4人乗りの船が松前白神沖で2人が海死その後破船)
1828年	1月24日	文政10年	12月8日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1828年	1月25日	文政10年	12月9日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (去る6日木造新田漆館村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け、偽証文作りとそれで儲けた男2人に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者過料)
1828年	1月26日	文政10年	12月10日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 二寸程積
1828年	1月27日	文政10年	12月11日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 二寸程積 頃日寒強し
1828年	1月28日	文政10年	12月12日	晴	(去る9日夜浦町村で出火・建家建馬等焼失・火元居村預け)
1828年	1月29日	文政10年	12月13日	曇	今日雪少降
1828年	1月30日	文政10年	12月14日	晴	
1828年	1月31日	文政10年	12月15日	晴	戌の刻過ぎより小雨時々降 (唐牛三左衛門を大組足輕頭に等の人事異動)
1828年	2月1日	文政10年	12月16日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止 今日雪降 三寸程積
1828年	2月2日	文政10年	12月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (人事異動、手形に謀筆の男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1828年	2月3日	文政10年	12月18日	曇	昨夜雪降 四寸積 今日雪降 二寸程積
1828年	2月4日	文政10年	12月19日	晴	昨夜雪降 四寸程積 (所々で盗み徒の男に6鞭弘前町払い・この仲間に過料銭1貫500文)
1828年	2月5日	文政10年	12月20日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1828年	2月6日	文政10年	12月21日	晴	
1828年	2月7日	文政10年	12月22日	曇	今日雪少降
1828年	2月8日	文政10年	12月23日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 四寸程積 (人事異動、御賞、盗人を知って泊めた鍛冶に15鞭居町徘徊は迄通り、町払いを戻って又盗みの男に9鞭弘前町払い)
1828年	2月9日	文政10年	12月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 (人事異動、鯉生立方を7カ年勤め結果も良かった掃除小人に帯刀御免)
1828年	2月10日	文政10年	12月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (人事異動、8月5日揚屋当番の町同心が逃げられる・勤料の内俵子5俵差し引かれ御城付足輕に役下げ)
1828年	2月11日	文政10年	12月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一尺三寸程積 (酒1升を1文目6分に仰せ付ける・寒中30日米相場平均1俵24匁2分7厘、宇田村前浜で大根漁?:なんだ)
1828年	2月12日	文政10年	12月27日	曇	今日雪少降 (今日御舞台で御慰の御囃子、人事異動、御賞)
1828年	2月13日	文政10年	12月28日	曇	今日雪少降 (竹内衛士を旗奉行に等の人事異動、非常に多数への御賞、奢侈などを禁じている)
1828年	2月14日	文政10年	12月29日	晴	
1828年	2月15日	文政11年正月1日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降	
1828年	2月16日	文政11年正月2日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1828年	2月17日	文政11年正月3日	晴	(御吉例金200両を御金奉行が差出す、漁師頭鴨野某島野某が御嘉例の如く平目一折差上げる、今晚御謡初め・申の刻過ぎ登城)	
1828年	2月18日	文政11年正月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 七寸程積ル (御嘉例の通り大鰐村加賀助より七種差上げる)	
1828年	2月19日	文政11年正月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積ル	
1828年	2月20日	文政11年正月6日	曇	雪少し降	
1828年	2月21日	文政11年正月7日	晴	(今日七草の御祝儀・由緒の面々登城)	
1828年	2月22日	文政11年正月8日	曇	今日雪少し降	
1828年	2月23日	文政11年正月9日	曇	昨夜雪降 四寸程積ル 今日雪少し降 (昨夜本町に捨て子・有った所に養育させる、旧ろう23日北本所大川端酒井様下屋敷御相對替御願いの通り仰せを蒙る・御祝儀)	
1828年	2月24日	文政11年正月10日	曇	昨夜雪少し降 巳の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止ム	
1828年	2月25日	文政11年正月11日	晴	(笠原近江(八郎兵衛の長男)を留守居二番組頭に役知300石・間宮求馬を用人に等の人事異動)	
1828年	2月26日	文政11年正月12日	曇		
1828年	2月27日	文政11年正月13日	曇	昨夜雪降 七寸程積ル 今日雪降 四寸程積ル	
1828年	2月28日	文政11年正月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降	
1828年	2月29日	文政11年正月15日	曇	昨夜雪少し降 今晚寅の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止ム	

1828年	3月1日	文政11年正月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1828年	3月2日	文政11年正月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降 (去る12月(15日以前)南部脇沢で鰯を積み出帆の江戸船が時化で宇鉄上磯通梨子木澗で破船・海死2人・見分なしに火葬して咎められている)
1828年	3月3日	文政11年正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル
1828年	3月4日	文政11年正月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	3月5日	文政11年正月20日	曇	今日雪降 五寸程積ル
1828年	3月6日	文政11年正月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1828年	3月7日	文政11年正月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御収納勘定を12月中に差出した御代官等に御賞、去る18日夕十三町で出火・類焼とも2軒・火元慎)
1828年	3月8日	文政11年正月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積
1828年	3月9日	文政11年正月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 五寸程積ル
1828年	3月10日	文政11年正月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降
1828年	3月11日	文政11年正月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1828年	3月12日	文政11年正月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1828年	3月13日	文政11年正月28日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (家老津軽監物に加増100石、十三潟水戸口穿明方が失敗しているのかな?)
1828年	3月14日	文政11年正月29日	曇	今日雪少し降
1828年	3月15日	文政11年正月30日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 辰の刻頃小雨降 則刻止ム
1828年	3月16日	文政11年 2月1日	晴	酉の刻過ぎより小雨時々降 子の刻頃止ム (人事異動)
1828年	3月17日	文政11年 2月2日	曇	今日雪降 二寸程積ル
1828年	3月18日	文政11年 2月3日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 四寸程積ル (一昨年より去年秋までの青森御蔵奉行2人・同御蔵立会に勤め申言行慎まずとして慎)
1828年	3月19日	文政11年 2月4日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降 (刻印なしに材木を出した2人に過料1貫500文・買い受けた男に過料1貫500文・関係者にも過料)
1828年	3月20日	文政11年 2月5日	晴	
1828年	3月21日	文政11年 2月6日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1828年	3月22日	文政11年 2月7日	晴	(他領者を申し立てもなくし宿させた男に慎み・過料)
1828年	3月23日	文政11年 2月8日	晴	
1828年	3月24日	文政11年 2月9日	晴	(人事異動、一昨7日昼頃猿賀組日沼村で出火・建家焼失・火元村預け、増上寺献上の漬蔵に関して御賞)
1828年	3月25日	文政11年 2月10日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム (御賞、元来4000石宛津出を黒石役人から4500石を申出・多分蹴っている、檜鼠尾?を隠し伐り潤懸かり船に蜜々売払った4人に過料1貫200文宛)
1828年	3月26日	文政11年 2月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪一寸程積ル (人事異動) 下から続く 畑(1町7反余)の持主に隠畑御取り上げの上12鞭居村徘徊はまで通り・その庄屋役取放しの上12鞭、 欄外(*)に続く
1828年	3月27日	文政11年 2月12日	曇	今日雪少し降 (無刻印の証を隠し売りの男から証を取上げの上戸ノ30日・庄屋を呵置く) 下から続く 過料銭1貫800文・この五軒組合に過料3貫600文、無検地の過分の 上に続く
1828年	3月28日	文政11年 2月13日	晴	(去る9月26日と徳町某の背戸小屋で博打の男3人に9鞭9鞭6鞭居町徘徊は迄通り・居た男に3鞭居町徘徊は迄通り・居て前科?のある男に9鞭居町徘徊は迄通り・小屋の持主に 上に続く
1828年	3月29日	文政11年 2月14日	晴	酉の刻頃より雨時々降
1828年	3月30日	文政11年 2月15日	曇	昨夜より雨 今日に及ぶ 時々降 夜二入(曇 昨夜より雨及今日時々降夜二入) (御奉公見習いと組入の申し出の節武芸の添書きを付けるらしい、小山平司を御手廻5番組に等の人事異動)
1828年	3月31日	文政11年 2月16日	曇	昨夜より雨 今日に及ぶ 時々降 戌の刻過ぎ止ム (去る7月前科があつて博打をした男2人に6鞭ツツ3里四方追放・1人に9鞭居村徘徊はまで通り・その他にも罰)
1828年	4月1日	文政11年 2月17日	曇	申の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止ム
1828年	4月2日	文政11年 2月18日	曇	
1828年	4月3日	文政11年 2月19日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入ル 下から続く 飯盛り女を突き殺し他にも傷害の御目見以下御留守居支配熊谷某の御給分召上げ御国下がりの上人・家財は養母に)
1828年	4月4日	文政11年 2月20日	晴	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (平内小湊に禅宗と浄土宗の2寺があつた・浄土真宗の他国者が浄土宗の寺で浄土真宗の行動をした?・他の住民も改宗・もめている、人事異動 上に続く
1828年	4月5日	文政11年 2月21日	曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止 今日雪少し降 下から続く 節に引合19日遅い)
1828年	4月6日	文政11年 2月22日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻頃止ム (去る18日夕より翌19日朝まで十三潟が大湊川尻より高根沖小俣川尻迄残らず氷明・去年は18日より19日朝迄に氷明遅速なし・ 上に続く
1828年	4月7日	文政11年 2月23日	曇	(当両都御廻船の上乗60人・下乗61人を申遣わす)
1828年	4月8日	文政11年 2月24日	曇	申の刻過ぎ小雨降 則刻止ム
1828年	4月9日	文政11年 2月25日	曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (碓ヶ関の山に杉伐株10本・町中の者共に過料銭2貫文)
1828年	4月10日	文政11年 2月26日	晴	
1828年	4月11日	文政11年 2月27日	晴	
1828年	4月12日	文政11年 2月28日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止ム (数年にわたり御収納米一番皆済の大間越村の男に御賞鳥目1貫500文下し置かれる、先頃御渡しの天竺国の稲種を蒔き付ける様手配)
1828年	4月13日	文政11年 2月29日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ刻過ぎ止む(2度あるが書き間違い?) (岩木川出水・駒越渡し場で長船馬船とも往来差留める、南溜池に男が溺死、去る20日江戸御上屋敷全焼)
1828年	4月14日	文政11年 3月1日	曇	(人事異動、御賞(南鐐3片・鳥目2貫500文・銀7両・鳥目1貫800文・同1貫200文))
1828年	4月15日	文政11年 3月2日	曇	酉の刻過ぎより雨時々降 (奉行の申し出:去作案外の減石・孕米過分不足……・作躰定めるまでは津出御差留め)
1828年	4月16日	文政11年 3月3日	曇	昨夜より雨 今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止ム
1828年	4月17日	文政11年 3月4日	晴	
1828年	4月18日	文政11年 3月5日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 今日雪少し降 (去る2日夜常盤組葛野村で出火・類焼あり・火元百姓他村預け) 下から続く 組繁田村で野火(200間×150間位)・代官にて呵置く)
1828年	4月19日	文政11年 3月6日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止 申の刻頃より雨時々降 夜二入 (昨夜新町裏通りの物置小屋焼失・火元戸ノ、去る2日夜深郷田村で裏通の木小屋焼失、去月27日広須 上に続く
1828年	4月20日	文政11年 3月7日	曇	昨夜より雨 今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム
1828年	4月21日	文政11年 3月8日	曇	未の刻頃より小雨時々降 酉の刻頃止ム (人事異動)
1828年	4月22日	文政11年 3月9日	晴	申の刻頃地震少し
1828年	4月23日	文政11年 3月10日	晴	(今日西之郭御馬場で御打毬・御家老御用人に拝見仰せ付け、野火入りの村の者共に過料・百姓1軒に付25文高無1軒に10文ツツ・庄屋五人組にも過料)
1828年	4月24日	文政11年 3月11日	晴	(西館宇膳を家老職手伝い城代格附人料金60両40人扶持・大道寺宇左衛門添田儀左衛門と津軽金蔵を用人役知300石附人料金20両20人扶持にとの人事異動)
1828年	4月25日	文政11年 3月12日	晴	(去る10日夜広田組平井村で出火・建家等焼失・火元(持ち主か家守か不明)居村預け、御長屋が焼失した笠原八郎兵衛等数10人に御手当て50両〜3両を下し置かれる)
1828年	4月26日	文政11年 3月13日	晴	
1828年	4月27日	文政11年 3月14日	晴	(当正月10日夜蓬田村で手段がましき者を……・庄屋に過料銭600文)
1828年	4月28日	文政11年 3月15日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 戌の刻過ぎ止ム (人事異動、弘前秤座役所の免状(文政10亥年9月)あり)
1828年	4月29日	文政11年 3月16日	晴	(去る11月11日夜照源寺から盗みの男に3鞭弘前町払い)
1828年	4月30日	文政11年 3月17日	晴	(人事異動)

(*)隠畑開発協力者2人に3鞭宛居村徘徊はまで通り・五軒組合の者共に過料5貫400文・関連し騒立てた村民11人に過料銭600文宛、人別員外(皮師)の子を御給人の養子に差出した男に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者にも罰・穢多非人の取扱が書かれている珍しい例)

1828年	5月1日	文政11年	3月18日	晴	
1828年	5月2日	文政11年	3月19日	晴	
1828年	5月3日	文政11年	3月20日	晴	
1828年	5月4日	文政11年	3月21日	晴	(人事異動、土手町名主が江戸の御上屋敷御焼失に付き冥加金200両差上げたいとのこと) 下から続く 賄料積の遠州船の1艘が破船船頭等4人溺死)
1828年	5月5日	文政11年	3月22日	曇	(九ツ時揃えて剣術高覧、今屋九ツ時頃嵩硫黄山より出火・今日九ツ半時鎮火) 下から続く 居町徘徊是迄通り、去月27日当御雇い遠州船が相州根崎横瀬嶋で破船・ 上に続く
1828年	5月6日	文政11年	3月23日	曇	未の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (去々年9月偽役人として(広須組)豊川村で金子等盗取り賄を申し付ける等の後出奔の男に30鞭10里処方追放大場御構い・この同類に9鞭 上に続く
1828年	5月7日	文政11年	3月24日	晴	今日雪少し降 (剣術に関する御賞、土手町名主が御上屋敷焼失に付200両・新田方御用達が夫喰米1000俵差上げ御賞、牢屋の建直しは大工の身穢二なり鞍差大工船大工がするんだって)
1828年	5月8日	文政11年	3月25日	曇	(一昨23日田舎館組東光寺村で出火・建家外馬屋焼失・火元居村預け、去る11月預け置いた者共逃亡で戸ノ10日、隠木54本の男4人の木品取り上げ過料銭1貫800文・関係者にも過料)
1828年	5月9日	文政11年	3月26日	曇	卯の刻頃より雨時々降 夜二入ル (今日梅之間で御囃子、昨日駒越村寄郷百姓町で厠焼失・火元戸ノ) 下から続く 建家建馬4疋等焼失・火元村預け)
1828年	5月10日	文政11年	3月27日	曇	昨夜より雨 今日に及ぶ 辰の刻頃止ム (24日夜九時頃蔵館村で出火・家58軒・湯小屋13中3ヶ所焼失・折節南風強く下の方江……、去る25日夜俵元新田浅井村で出火・ 上に続く
1828年	5月11日	文政11年	3月28日	晴	(人事異動、赤田組灰沼村の街道で男が病死、萱町豆腐屋背戸の小屋焼失・火元戸ノ)
1828年	5月12日	文政11年	3月29日	晴	(去る24日大鰐組蔵館村の火災結果・家68軒・土蔵3ヶ所・家財等残らず焼失、親の申しつけを守らず家出・女子勾引の男2人に6鞭居町徘徊はまで通り)
1828年	5月13日	文政11年	3月30日	晴	下から続く ・大豆98俵・粟75俵・小豆7俵・蕎麦28俵3斗・麦99俵・稗44俵・御印札2枚(染屋蕎麦切家業)・馬札15枚・火元他村預け)
1828年	5月14日	文政11年	4月1日	晴	(人事異動、去月24日蔵館村の火災・建家69軒・外馬屋47軒・湯小屋10ヶ所・土蔵3ヶ所・土蔵屋根10ヶ所・木小屋9ヶ所・雨覆い3ヶ所・苗代246人役分・米345俵2斗・粃59俵 上に続く
1828年	5月15日	文政11年	4月2日	晴	(寿昌院の墓所の杉に縊死の男(35・6歳)あり)
1828年	5月16日	文政11年	4月3日	曇	未の刻過ぎより小雨降 申の刻過ぎ止ム 申の刻頃雷鳴 則刻止ム
1828年	5月17日	文政11年	4月4日	晴	
1828年	5月18日	文政11年	4月5日	晴	
1828年	5月19日	文政11年	4月6日	晴	下から続く 山役人警護代を永の暇)
1828年	5月20日	文政11年	4月7日	晴	(所々で女子を買入れ(芝居役者大谷九左衛門の娘を代金30兩)秋田に送っていた能代男を送り返す・秋田能代売女屋支配人等の関係者にも罰、隠し流木の注進が遅滞した 上に続く
1828年	5月21日	文政11年	4月8日	曇	巳の刻頃小雨降 則刻止ム
1828年	5月22日	文政11年	4月9日	晴	(人事異動、去る7日夜広須組沼崎村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1828年	5月23日	文政11年	4月10日	晴	
1828年	5月24日	文政11年	4月11日	曇	午の刻頃雨降 則刻止ム (勘当町払いの男を一宿させた親に戸ノ20日)
1828年	5月25日	文政11年	4月12日	晴	(去る8日夜金木組薄市村で出火・類焼とも6軒焼失馬1疋焼斃・火元他村預け)
1828年	5月26日	文政11年	4月13日	晴	(人事異動、不明日に広須組駒田村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1828年	5月27日	文政11年	4月14日	晴	(昨年ので流木84竿2歩を原別村領に隠し置いた庄屋11人に過料900文ツツ・その村の柚子共に過料銭532文)
1828年	5月28日	文政11年	4月15日	曇	申の刻頃より小雨時々降 夜二入
1828年	5月29日	文政11年	4月16日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	5月30日	文政11年	4月17日	晴	
1828年	5月31日	文政11年	4月18日	晴	
1828年	6月1日	文政11年	4月19日	晴	
1828年	6月2日	文政11年	4月20日	晴	
1828年	6月3日	文政11年	4月21日	晴	
1828年	6月4日	文政11年	4月22日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入ル
1828年	6月5日	文政11年	4月23日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム
1828年	6月6日	文政11年	4月24日	晴	(和田鎮六の南部宮古出生の妻に鎮六より御取り上げの金子2兩1歩を下し置かれ衣類共渡し碇ヶ関口まで送り返す)
1828年	6月7日	文政11年	4月25日	晴	(今日九ツ半時剣術高覧)
1828年	6月8日	文政11年	4月26日	晴	酉の刻過ぎより雨時々降
1828年	6月9日	文政11年	4月27日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム (昨屋高杉村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1828年	6月10日	文政11年	4月28日	晴	
1828年	6月11日	文政11年	4月29日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 辰の刻過ぎ止ム (当2月朔日茂森町で博打の諸手足輕の親に3鞭倅渡し・同類3人に3鞭居町徘徊はまで通り・宿や五人組にも過料等)
1828年	6月12日	文政11年	5月1日	晴	(人事異動)
1828年	6月13日	文政11年	5月2日	晴	
1828年	6月14日	文政11年	5月3日	晴	(来る23日御発駕と仰せ出される)
1828年	6月15日	文政11年	5月4日	晴	酉の刻雷鳴 則刻止 亥の刻頃より雷雨 則刻止 雨時々降
1828年	6月16日	文政11年	5月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 酉の刻過ぎより雨時々降
1828年	6月17日	文政11年	5月6日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止ム 未の刻過ぎ地震少し
1828年	6月18日	文政11年	5月7日	晴	
1828年	6月19日	文政11年	5月8日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 酉の刻頃止ム (御賞)
1828年	6月20日	文政11年	5月9日	曇	辰の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止ム
1828年	6月21日	文政11年	5月10日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	6月22日	文政11年	5月11日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (御発駕延引・日限は追ってと仰せ出される)
1828年	6月23日	文政11年	5月12日	曇	申の刻頃雨降 則刻止ム (大鰐村より初さげ差出す)
1828年	6月24日	文政11年	5月13日	曇	未の刻頃小雨降 則刻止ム
1828年	6月25日	文政11年	5月14日	晴	
1828年	6月26日	文政11年	5月15日	晴	(小笠原良八を御付勘定奉行と御付御錠口役の兼約を仰せ付ける等の人事異動、御賞)
1828年	6月27日	文政11年	5月16日	晴	
1828年	6月28日	文政11年	5月17日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 (大鰐村より初茄子差上げる)
1828年	6月29日	文政11年	5月18日	晴	今晚寅の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止ム 下から続く 1貫200文・庄屋に過料600文)
1828年	6月30日	文政11年	5月19日	曇	午の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止ム (御山所で過分の伐り荒しあり・その村の者共に過料銭190目・庄屋に過料600文、流失木の過分の隠し木で過料4貫200文と 上に続く

1828年	7月1日	文政11年	5月20日 曇	卯の刻過ぎより雷雨 雷則刻止ム 雨時々降 巳の刻頃止ム
1828年	7月2日	文政11年	5月21日 晴	(人事異動)
1828年	7月3日	文政11年	5月22日 晴	亥の刻過ぎ地震少し
1828年	7月4日	文政11年	5月23日 晴	
1828年	7月5日	文政11年	5月24日 晴	下から続く 居町徘徊はまで通り)
1828年	7月6日	文政11年	5月25日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (今夕剣術和術高覧、座当頭明き跡に城豊と申す座当官位六ツにて座当頭とする・2人扶持下し置かれる)、 下から続く 3人に6鞭ツツ 上に続く
1828年	7月7日	文政11年	5月26日 曇	午の刻頃より雨降 夜二入ル (御賞、7月洪水9月大風の節難渋の者共に補助米を差出した奇特の者共39人に御酒等下し置かれる、博打盗み徒男に6鞭弘前町払い、博打の 上に続く
1828年	7月8日	文政11年	5月27日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止ム
1828年	7月9日	文政11年	5月28日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 申の刻頃止ム (人事異動)
1828年	7月10日	文政11年	5月29日 曇	今晩寅の刻過ぎより小雨時々降 午の刻過ぎ止ム (去る13日南部八戸沖に異国船2艘相見え翌14日八戸近辺白浜と申す所に上陸いたし候・翌15日出帆・乱妨なし、当年柄?全体減石)
1828年	7月11日	文政11年	5月30日 晴	
1828年	7月12日	文政11年	6月1日 晴	(人事異動、夜宮の節火花・小筒など打ち放しするなどの触れ、最近意味のない?急飛脚が多い・全然遅れている(20日江戸発の7日振りの飛脚が今日到着))
1828年	7月13日	文政11年	6月2日 晴	
1828年	7月14日	文政11年	6月3日 晴	(この節在町売出来なし・町貯え糶の内寛政艸2850俵を摺り立てこの売り払い代を持って当新穀買入れ収め置くようにする、昨夜酒屋玉田屋前に捨子・寛仙町の男に養育を申し付ける)
1828年	7月15日	文政11年	6月4日 晴	
1828年	7月16日	文政11年	6月5日 曇	巳の刻頃より大雨時々降 夜二入ル (岩木川4歩余の出水・矢来押し破り流木300巻位流失?)
1828年	7月17日	文政11年	6月6日 曇	昨夜より雨今晩に及ぶ 寅の刻頃止ム (当3月25日袋宮寺境内で酒を飲み怪我をして相手を訴えた男に15鞭居町徘徊はまで通り)
1828年	7月18日	文政11年	6月7日 晴	(一昨5日平川洪水・石河(川)村大橋痛損・長嶺村福嶋橋大鰐大橋とも流失、青田の内苗刈くなどの触れ、今日も27日江戸発7日振りの飛脚が到着)
1828年	7月19日	文政11年	6月8日 晴	戌の刻頃より雨降 土用入ル
1828年	7月20日	文政11年	6月9日 曇	昨夜より雨 今日及 夜二入ル (大道寺宇左衛門を隼人と改名)
1828年	7月21日	文政11年	6月10日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入ル (石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来相成り兼ねる、丹後者の詮索送り返しを命ず、去る5日の洪水で和徳組下湯口村の男が水死)
1828年	7月22日	文政11年	6月11日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入ル (12日神明宮で日和揚げの御神事)
1828年	7月23日	文政11年	6月12日 晴	
1828年	7月24日	文政11年	6月13日 晴	
1828年	7月25日	文政11年	6月14日 晴	
1828年	7月26日	文政11年	6月15日 晴	(人事異動、当月7日新寺町水門尻に捨て赤子)
1828年	7月27日	文政11年	6月16日 曇	未の刻過ぎより雷雨 雷酉の刻頃止 雨夜二入ル
1828年	7月28日	文政11年	6月17日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入ル (長勝寺で風雨順次の御祈禱を仰付ける、岩木川出水・今九時頃より両船共往来差留め、去る15日金木組不動村で出火・建家焼失・火元村預け)
1828年	7月29日	文政11年	6月18日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入ル (頃日天気不晴に付き嵩並びに湯段の共湯治人差留め、無刻印の木を用いた男等に過料・銭1貫200文等、去る4月横内組諏訪沢村等で潰家5軒)
1828年	7月30日	文政11年	6月19日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム (人事異動)
1828年	7月31日	文政11年	6月20日 晴	(今日八ツ時三之丸新御馬場で乗馬高覧、当春より増館組目鹿沢・佐野・赤茶村で時疫・浪岡組中野村阿曾玄安御施葉仰せ付ける)
1828年	8月1日	文政11年	6月21日 晴	
1828年	8月2日	文政11年	6月22日 晴	未の刻過ぎより雨降 夜二入ル
1828年	8月3日	文政11年	6月23日 晴	(当2月松の2尺5寸桎1200枚を鍛冶町土場から盗み取った掃除小人を御給分召上げ永の暇弘前払い)
1828年	8月4日	文政11年	6月24日 晴	(今日大鰐村加賀助兵左衛門より初穂差上げる、異国船蝦夷地江入津の儀三厩詰め並びに浦々江心得方申し遣わす:意味不明だが)
1828年	8月5日	文政11年	6月25日 晴	未の刻過ぎ地震少し (大久保村の男が亀を差上げる・御酒代鳥目1貫文下し置かれる)
1828年	8月6日	文政11年	6月26日 晴	(浜ノ町川原で竹森又吉が火術、江戸御廻米の内4600石目地払い(意味不明:江戸で売らずに藩内で売る?)、女子勾引売渡の男2人に9鞭居町徘徊はまで通り・秋田の男を碇ヶ関口送り返し)
1828年	8月7日	文政11年	6月27日 晴	頃日暑強し
1828年	8月8日	文政11年	6月28日 晴	
1828年	8月9日	文政11年	6月29日 晴	7月1日から続く 御救い米200俵位下し置かれたが不足・1日3合つもりを持って御救い下し置かれるようにする?)
1828年	8月10日	文政11年	6月30日 晴	(去る5・11・17日の出水で水湛:藤代組60町歩・広須組92町歩・木造新田201町歩・広田組306町歩・赤田組88町歩・金木組同新田200町歩くらい・メて947町歩位と申し出る)
1828年	8月11日	文政11年	7月1日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 午の刻頃止ム 未の刻頃風強し (御賞、国上寺(真言宗)衆徒大蔵院跡職倅良玄江相統願いの通り仰付けられ候……、去作不熟にて在方難渋・ 6月29日に続く
1828年	8月12日	文政11年	7月2日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止ム
1828年	8月13日	文政11年	7月3日 曇	午の刻過ぎより小雨時々降 夜二入ル (今朝よりの雨天で平川出水・七時頃より往来差留、当江戸御廻船の上乗10人下乗17人増申付ける、一昨朔日昼より大風・稲草への差障りを見分)
1828年	8月14日	文政11年	7月4日 晴	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (昨日の風で御郭廻り並びに裏通りに風折れの松柳・足軽目付立会の上伐り取る)
1828年	8月15日	文政11年	7月5日 晴	
1828年	8月16日	文政11年	7月6日 晴	(今晩八ツ時御鷹野御供揃えで鰯ヶ沢に日帰りで出発・御帰城夜九つ時頃)
1828年	8月17日	文政11年	7月7日 晴	(御足痛御全快・御発駕来月6日と仰せ出される)
1828年	8月18日	文政11年	7月8日 晴	
1828年	8月19日	文政11年	7月9日 曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入ル 下から続く 去る10日東蝦夷地サル場所三里程沖に異国船1艘見受ける)
1828年	8月20日	文政11年	7月10日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入ル (昨昼頃より雨天で藤崎川出水・セツ時過ぎより船留め、去る6日夜横内組松森村で蚊燻火より出火・建家等焼失・火元居村預け、 上に続く
1828年	8月21日	文政11年	7月11日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 戌の刻過ぎ止ム
1828年	8月22日	文政11年	7月12日 晴	未の刻過ぎ雷雨 則刻止ム (横岡左衛門等御徒4人に水練指南出精として御賞、当年中熊皮1枚下々熊皮2枚狩取り上納の猿賀組袋村の猟師長左衛門に御賞3貫文と下々位熊皮1枚)
1828年	8月23日	文政11年	7月13日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降
1828年	8月24日	文政11年	7月14日 晴	
1828年	8月25日	文政11年	7月15日 晴	酉の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (当大坂御廻船の上乗りが御用が済み道中鳥井本?で盗賊に出会い金を巻き上げられる)
1828年	8月26日	文政11年	7月16日 晴	
1828年	8月27日	文政11年	7月17日 晴	酉の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止 (今日大鰐村加賀助と平左衛門が御初米差上げる)
1828年	8月28日	文政11年	7月18日 晴	下から続く 宮古浦に入津・勘定小頭と立会御徒目付を派遣)
1828年	8月29日	文政11年	7月19日 晴	(去月28日青森出帆の江戸御廻船尾州船(青森御蔵米3390俵御膳糶10俵ほかに杉板196枚釘6箇積入)が当月9日南部沖合いで難風・御米900俵程並びに板荷打ち・11日南部 上に続く
1828年	8月30日	文政11年	7月20日 晴	
1828年	8月31日	文政11年	7月21日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 (石渡川4歩半の出水・両船とも往来差留める、去る18日暁七時頃三厩町で出火・火元船間屋親類引取り相償)

1828年	9月1日	文政11年	7月22日 晴	(御用金14000両(在方7000・弘前4000・青森2000・鯉ヶ沢1000両)を申し付ける)
1828年	9月2日	文政11年	7月23日 晴	
1828年	9月3日	文政11年	7月24日 晴	
1828年	9月4日	文政11年	7月25日 曇	未の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止ム
1828年	9月5日	文政11年	7月26日 晴	(今日三之丸御屋形で駒寄せ高覧)
1828年	9月6日	文政11年	7月27日 晴	(今日四つ時御供揃えて悪戸村瀬戸焼き高覧・浜之町川原で御徒水練高覧)
1828年	9月7日	文政11年	7月28日 曇	辰の刻頃より小雨降 夜二入ル (人事異動、御賞、御舞台で御慰の御能御囃子)
1828年	9月8日	文政11年	7月29日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (駒越川出水・四時半より長船馬船とも往来差留める)
1828年	9月9日	文政11年	8月1日 晴	(御徒横岡奎左衛門等数人をを御徒小頭格に等の人事異動、二朱判吹き直しに付古二朱版は来年まで通用)
1828年	9月10日	文政11年	8月2日 曇	午の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (百沢寺より苔実差上げる、御発駕の6日より胴短の時太鼓に釣り替える)
1828年	9月11日	文政11年	8月3日 晴	
1828年	9月12日	文政11年	8月4日 晴	(津軽頼母(多分家老)の御役職御免、去る2日夜俵元新田米田村で出火・萱家1軒焼失・火元高無居村預け)
1828年	9月13日	文政11年	8月5日 晴	
1828年	9月14日	文政11年	8月6日 曇	未の刻頃小雨降 則刻止ム (四ツ時過ぎ御馬上で御発駕)
1828年	9月15日	文政11年	8月7日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム (昨晚戌の刻過ぎ屋形様が碇ヶ関御飯屋に御着座)
1828年	9月16日	文政11年	8月8日 晴	
1828年	9月17日	文政11年	8月9日 晴	(新御殿より拝借上納格段の思召しを以って当年より5000石充上納仰せ付けられ一統有難き仕合せに存知奉り候・尤その後5000石届石にて上納之儀仰せ付けられ候間……:意味不明)
1828年	9月18日	文政11年	8月10日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入ル (去る7日夜油川組安田村で出火・類焼1軒外馬屋等焼失・火元他村預け)
1828年	9月19日	文政11年	8月11日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止ム 今晚寅の刻頃より雷鳴 卯の刻過ぎ止ム (高橋辰蔵が秤座取建方相済む)
1828年	9月20日	文政11年	8月12日 曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止ム (岩木川出水・通路?差留める)
1828年	9月21日	文政11年	8月13日 晴	(去る10日黒石表の神事見物の際御家中が喧嘩・届け出ている)
1828年	9月22日	文政11年	8月14日 晴	
1828年	9月23日	文政11年	8月15日 晴	亥の刻過ぎより小雨時々降 夜二入ル (人事異動、御賞、申し付けた御用金の上納遅滞の造酒屋に戸ⓧ)
1828年	9月24日	文政11年	8月16日 晴	昨夜より雨 今晚寅の刻頃止ム
1828年	9月25日	文政11年	8月17日 晴	(8月5日深浦出帆の大坂御廻船(1180石と1600石積)が11日に秋田船川並びに戸賀沖で難風・破船)
1828年	9月26日	文政11年	8月18日 晴	(八幡御蔵奉行に福真才助等の配置、昨夜松森町で殺人)
1828年	9月27日	文政11年	8月19日 曇	今晚寅の刻頃より小雨時々降 亥の刻頃止ム
1828年	9月28日	文政11年	8月20日 晴	(一昨16日夜横内組作道村で出火・類焼5軒穀物等焼失・火元他村預け)
1828年	9月29日	文政11年	8月21日 晴	
1828年	9月30日	文政11年	8月22日 晴	
1828年	10月1日	文政11年	8月23日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜入ル(曇 未刻過ぎより雨時々降夜入ル)
1828年	10月2日	文政11年	8月24日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 亥の刻過ぎ止ム (石渡川4歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる)
1828年	10月3日	文政11年	8月25日 曇	辰の刻頃小雨降 則刻止ム
1828年	10月4日	文政11年	8月26日 快晴	(一昨夜誓願寺前の小見世に生後50日くらの男子捨子・乳持ちの女房を持つ男に預け養育を申し付ける)
1828年	10月5日	文政11年	8月27日 快晴	
1828年	10月6日	文政11年	8月28日 快晴	
1828年	10月7日	文政11年	8月29日 晴	
1828年	10月8日	文政11年	8月30日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 午の刻過ぎ止ム (一昨28日夜鷺坂村で出火・建家等焼失・火元高無村預け) 下から続く 村の者共に過料銭3貫文・庄屋に過料銭600文)
1828年	10月9日	文政11年	9月1日 曇	巳の刻過ぎより雨降 夜に入 (御賞、御山に野火入の村の者共に過料銭1貫文・庄屋に過料1貫200文、当5月御山で栓皮剥取5本の村の者共に過料銭1貫文、御山に栓切株の 上に続く
1828年	10月10日	文政11年	9月2日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入ル (鬼沢村と高杉村で境界争い・代官郡所役方山方締役が出会い見分等) 下から続く 無縁寺の白道院に葬)
1828年	10月11日	文政11年	9月3日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (当6月(15日の記事)南溜池水門尻より拾上げた捨子が今朝病死・拾上げた足輕の菩提寺の墓地に入れたいと申し出たが 上に続く
1828年	10月12日	文政11年	9月4日 快晴	
1828年	10月13日	文政11年	9月5日 快晴	(当3月23日取上村端で秋田出生の男と喧嘩した秋田出生の尾太銅山金名子(男)兩人に碇ヶ関口送返)
1828年	10月14日	文政11年	9月6日 曇	辰の刻頃小雨降 則刻止 未の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム
1828年	10月15日	文政11年	9月7日 晴	
1828年	10月16日	文政11年	9月8日 快晴	(去月26日御老中様方御廻勤の上屋形様御着府、御廻船の内御手船長久丸伊之助船が船中で異国船に逢い御手船江乗り移り候得共別けて異事なしと同船上乗りの報告あり)
1828年	10月17日	文政11年	9月9日 快晴	
1828年	10月18日	文政11年	9月10日 曇	酉の刻過ぎ小雨降 申の刻頃止ム 酉の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム 亥の刻過ぎより雨時々降 (駒越組砂子瀬村から2町8反歩の御検見願い・遠く小面積であり勘定小頭を見分に遣わす)
1828年	10月19日	文政11年	9月11日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム
1828年	10月20日	文政11年	9月12日 晴	
1828年	10月21日	文政11年	9月13日 曇	申の刻頃雷鳴 則刻止 同刻より雨時々降 亥の刻頃止ム (強請かな大小一腰借受……3鞭弘前町徘徊はまで通り・1人は過料と親返し、御馬見所の量を盗む等の男に21鞭3里四方追放)
1828年	10月22日	文政11年	9月14日 曇	下から続く 充・、これを売った男に代金御取上げの上戸ⓧ・関係する庄屋2人に過料銭600文ツツ)
1828年	10月23日	文政11年	9月15日 曇	今晚寅の刻頃雷鳴 則刻止 同刻より雨時々降 夜に入 (当7月6日御停止品(南部碗20人前など)を馬に積み関所を通ろうとした男3人に品々御取上げの上過料銭1貫200文 上に続く
1828年	10月24日	文政11年	9月16日 曇	今朝岩木山二雪見 昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入ル
1828年	10月25日	文政11年	9月17日 曇	昨夜より雨 今晚寅の刻頃止ム (明18日高岡江初鮭2尾御献備につき台所頭が差出す)
1828年	10月26日	文政11年	9月18日 晴	
1828年	10月27日	文政11年	9月19日 晴	(村預けにした男を取り逃がした男3人に過料銭900文ツツ・その庄屋に過料銭600文)
1828年	10月28日	文政11年	9月20日 晴	
1828年	10月29日	文政11年	9月21日 晴	
1828年	10月30日	文政11年	9月22日 晴	
1828年	10月31日	文政11年	9月23日 晴	今晚寅の刻頃小雨降 則刻止ム

1828年	11月1日	文政11年	9月24日 晴	(去る21日夜藤代組妙堂崎村で出火・建家稲草焼失・火元居村預け)
1828年	11月2日	文政11年	9月25日 晴	(左近将監殿より川鮭1尺宛(町奉行2人にそれぞれの意)拝受、亀甲町に捨子・同町の菱屋某に預け養育を申し付ける、意味不明だが銀札5万両などの記述あり)
1828年	11月3日	文政11年	9月26日 曇	卯の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム 辰の刻頃より雨降 夜ニ入ル
1828年	11月4日	文政11年	9月27日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止ム 今暁風強し
1828年	11月5日	文政11年	9月28日 晴	
1828年	11月6日	文政11年	9月29日 晴	
1828年	11月7日	文政11年	10月1日 晴	
1828年	11月8日	文政11年	10月2日 曇	辰の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム (一昨日赤石組芦菴村武左衛門派で出火・建家稲草焼失・火元百姓居村預け)
1828年	11月9日	文政11年	10月3日 晴	
1828年	11月10日	文政11年	10月4日 快晴	(老舎の和田斧太郎(文化12年の強盗団の一人)が今暁牢死)
1828年	11月11日	文政11年	10月5日 曇	卯の刻過ぎより小雨降 夜ニ入ル 下から続く 即刻止申刻過雷鳴則刻止亥刻過雷鳴則刻止
1828年	11月12日	文政11年	10月6日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入 辰の刻過ぎ雷鳴 即刻止 申の刻過ぎ雷鳴 則刻止 亥の刻過ぎ雷鳴 則刻止(曇 昨夜より雨及今日時々降夜ニ入 辰刻過雷鳴 上に続く
1828年	11月13日	文政11年	10月7日 曇	昨夜より雨今日及 時々降 夜ニ入ル(曇 昨夜より雨今日及時々降夜ニ入ル) (石渡川4歩半の出水・両船とも往来相成りかねる、昨晚御箱持の女房が縊死)
1828年	11月14日	文政11年	10月8日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止ム 未の刻地震少し (当6月14日に浅虫村より継送中の男を取り逃がした男とその庄屋に過料銭1貫200文宛)
1828年	11月15日	文政11年	10月9日 曇	
1828年	11月16日	文政11年	10月10日 晴	
1828年	11月17日	文政11年	10月11日 晴	今暁寅の刻地震少し
1828年	11月18日	文政11年	10月12日 晴	(一昨年収めの粃8750俵が格別粗生宜しからずこれをすりたて米にし代わりに当集納米を粃収めに仰せ付ける)
1828年	11月19日	文政11年	10月13日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム (江戸で山鹿次郎作に50石御加増等の人事異動、この度調達金35000両(笠原八郎兵衛が手配)・貸主と金額もある、26日に江戸で藤田莊助病死)
1828年	11月20日	文政11年	10月14日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降
1828年	11月21日	文政11年	10月15日 晴	戌の刻頃より雨時々降
1828年	11月22日	文政11年	10月16日 曇	昨夜より雨 今暁寅の刻過ぎ止ム (博打度々と盗みの男2人に9鞭・6鞭居村徘徊はまで通り・ばくちの男2人に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)
1828年	11月23日	文政11年	10月17日 曇	
1828年	11月24日	文政11年	10月18日 曇	(去る5日戌の下刻御内證様(屋形様御実母様)が御死去)
1828年	11月25日	文政11年	10月19日 晴	(昨17日飯詰組松野木村寄せ郷若山村で出火・茅家1軒焼失・火元村預け)
1828年	11月26日	文政11年	10月20日 曇	今暁寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止 申の刻頃より雨時々降 夜ニ入ル
1828年	11月27日	文政11年	10月21日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止ム
1828年	11月28日	文政11年	10月22日 晴	(当月6日より同20日まで15日の新穀日々附相場平均値段:米1俵代27文目4分)
1828年	11月29日	文政11年	10月23日 曇	申の刻頃小雨降 則刻止 戌の刻頃より雨時々降 下から続く 油1升5文目8分値段に仰せ付ける)
1828年	11月30日	文政11年	10月24日 晴	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 酉の刻頃小雨降 則刻止む (去月15日より当月15日迄30日間の平均粒油相場:粒油4斗入り1俵28文目9分8厘3毛・来月朔日より 上に続く
1828年	12月1日	文政11年	10月25日 晴	(米1俵平均39文目7分8厘8毛(弘前35匁2分8厘8毛・青森39文目7分8厘8毛・鯉ヶ沢36匁2分7厘だが青森値段のみとする)内1文目2分役引き:1俵が38文目5分8厘8毛)
1828年	12月2日	文政11年	10月26日 曇	
1828年	12月3日	文政11年	10月27日 曇	
1828年	12月4日	文政11年	10月28日 晴	
1828年	12月5日	文政11年	10月29日 晴	酉の刻過ぎ地震少し (一昨余平井村で出火・類焼が5軒その他焼失・火元他村預け)
1828年	12月6日	文政11年	10月30日 晴	
1828年	12月7日	文政11年	11月1日 晴	亥の刻頃より小雨降 (一昨29日夜高杉組蒔苗村で出火・居宅外馬屋焼失・火元居村預け、去月28日明七時頃五所川原御蔵近辺平井村で出火・類焼とも5軒焼失)
1828年	12月8日	文政11年	11月2日 晴	昨夜より雨 今暁寅の刻頃止ム (御家中二男が乱心他家の二男に手傷・一間所に入れさせる、割木過伐の3ヶ村・4ヶ村の者共に過伐残らず御取上の上過料銭419・923文目・庄屋にも過料)
1828年	12月9日	文政11年	11月3日 曇	(昨日の記述で座当共304人に15文宛4貫560文を下し置かれる) 下から続く 椀取上げの上過料銭1貫500文・この椀は印を打ち取押えた国産方小使に下し置かれる)
1828年	12月10日	文政11年	11月4日 曇	昨夜霰少し降 今日雪降 七寸程積 亥の刻頃雷鳴 則刻止ム (一昨昼常盤組中嶋村で出火・建家焼失・火元高無居村預け、当6月に無印三ツ椀65人前を預っていた庄屋に 上に続く
1828年	12月11日	文政11年	11月5日 曇	昨夜雪降 四寸程積 (新古米相場30日平均が1俵26匁2分にあたる・当新酒1升1文目5分7毛1合1分5厘に申し付ける)
1828年	12月12日	文政11年	11月6日 曇	今暁寅の刻頃雷鳴 則刻止ム 同刻より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	12月13日	文政11年	11月7日 曇	
1828年	12月14日	文政11年	11月8日 晴	(去る3日夜横内組松森村で出火・居宅御収納米粃共焼失・火元高無居村預け、最近城中で物がなくなっているらしい)
1828年	12月15日	文政11年	11月9日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	12月16日	文政11年	11月10日 晴	(去る5日出奔の雇小人の人相書き:せい5尺1寸位・面体丸く黒き方・股にこぼれ桜(こぼれ桜)に福之字之ほりあざ有……)
1828年	12月17日	文政11年	11月11日 曇	
1828年	12月18日	文政11年	11月12日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積ル
1828年	12月19日	文政11年	11月13日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1828年	12月20日	文政11年	11月14日 晴	(近来に至り木綿小間物当御停止の品の触れ売りがある・見当てれば取り押さえるよう申し遣わす)
1828年	12月21日	文政11年	11月15日 晴	
1828年	12月22日	文政11年	11月16日 曇	未の刻頃より雨時々降 夜ニ入ル
1828年	12月23日	文政11年	11月17日 曇	昨夜より雨 今暁寅の刻頃止 申の刻頃より雨時々降 夜ニ入ル (今朝五時頃高杉村で出火・1軒稲草等焼失・火元百姓居村預け(一部は翌日の記録))
1828年	12月24日	文政11年	11月18日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜ニ入ル (山鹿次郎作・都谷森甚之丞・野呂典司を御用人に戸沢半左衛門・武田準左衛門を勘定奉行にとの人事異動)
1828年	12月25日	文政11年	11月19日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止 酉の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止ム (昨夜九時頃(翌日17日夜と記述)浪岡村で出火・建家並びに小屋1棟焼失・火元百姓居村預け)
1828年	12月26日	文政11年	11月20日 曇	馬の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1828年	12月27日	文政11年	11月21日 曇	今日雪少し降 (両濱の米・大豆津出御印は米1俵8文目大豆1俵7文目であったが米1俵10文目大豆1俵9文目とする)
1828年	12月28日	文政11年	11月22日 晴	
1828年	12月29日	文政11年	11月23日 快晴	
1828年	12月30日	文政11年	11月24日 晴	
1828年	12月31日	文政11年	11月25日 快晴	

1829年	1月1日	文政11年	11月26日	晴	(門弟に教授が宜しくない御目見以上成田某を御目見以下に役下げ)	
1829年	1月2日	文政11年	11月27日	晴	(御国入り御停止を仰せ付けられた品:和嶋(輪島)越中塗り物・量表・上品の茶煙草・下り酒・瀬戸物類・串柿橙薩摩藩の類・草履木履(きぐつ)草鞋(そうがい:わらじ)附木曲ケ物の類)	
1829年	1月3日	文政11年	11月28日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 今日雪少し降 (人事異動、福眞弥兵衛が山上と苗字を改める、一昨26日夜藤崎組鳥町村(藤代組?)で出火・建家焼失・火元居村預け)	
1829年	1月4日	文政11年	11月29日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル (当冬賈い御払い米鰯ヶ沢37文目値段にて12000俵御払い相済む・青森御払い米は安に付き相済まず)	
1829年	1月5日	文政11年	11月30日	曇	(初鰯2本高岡に献上) 下から続く 切破った郷士にこの手入れの際夫役100人相勤めるよう申し付ける・多分土手を破ることで村を水害から守った?)	
1829年	1月6日	文政11年	12月1日	曇	未の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止ム (軽者より御取立の(奉行等が)者が増え役知・勤料が増え隠居料も出ている・これを止めるとのこと、御賞、当7月洪水の節用水堰根留	上に続く
1829年	1月7日	文政11年	12月2日	曇		
1829年	1月8日	文政11年	12月3日	快晴	下から続く 御買上船名嘉祥丸と相改める、用人山鹿次郎作の本家山鹿小太郎が7月6日出奔)	
1829年	1月9日	文政11年	12月4日	晴	(去月6日御家中の弟が牢から逃げる・人相書き:年34・せい4尺9寸位等々、笠原八郎兵衛に加増200石、人事異動、津軽屋支配人孝兵衛取持ちの1100石積新船1艘を550両で	上に続く
1829年	1月10日	文政11年	12月5日	晴		
1829年	1月11日	文政11年	12月6日	晴		
1829年	1月12日	文政11年	12月7日	曇	今晚寅の刻頃雷鳴 則刻止 昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (人事異動、御賞) 下から続く 弘前町徘徊はまで通り、村方に押入り騒がせた男2人に3鞭宛居町徘徊はまで通り)	
1829年	1月13日	文政11年	12月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル (日時不明増館組松枝村・浪岡組中野村で出火・建家焼失・火元村預け、5月22日夜大工道具等を盗んだ男に3鞭弘前払い、当7月喧嘩・傷害の男に15鞭	上に続く
1829年	1月14日	文政11年	12月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル	
1829年	1月15日	文政11年	12月10日	曇	昨夜雪降 五寸程積ル (当月5日の暮より翌6日朝まで十三湯大湊川尻より小侯川尻まで残らず氷張る・去年は11月10日暮より翌11日朝まで当年は日数引合26日遅く節に引合16日遅い)	
1829年	1月16日	文政11年	12月11日	晴	昨夜雪少し降 (当9月に御山の木を伐り家普請に使った原子村の男に過料1貫800文・御山の木を伐った男に過料銭5貫200文・これらの庄屋に過料銭900文)	
1829年	1月17日	文政11年	12月12日	晴	(御賞、人事異動、去る7日昼四時頃より野内町の鰯漁師が大風浪高で海死・破船)	
1829年	1月18日	文政11年	12月13日	晴		
1829年	1月19日	文政11年	12月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル (高岡御献備雄子の代りの鴨雄雄を御台所頭が差出す) 下から続く 田方の中を通るようになる・田方2町9反歩余押埋)	
1829年	1月20日	文政11年	12月15日	曇	昨夜雪降一尺四寸程積ル 今日雪少し降 (この節厚雪に付非番の足輕に雪下げ御手伝いを命ず、当月5日夜四ツ時頃か国吉村堂ヶ平山突崩(高さ80間・幅70間程)・岩木川が	上に続く
1829年	1月21日	文政11年	12月16日	晴	昨夜雪少し降 (盗み徒の男に3鞭弘前払い・この仲間に6鞭居村徘徊はまで通り、当7月20日夜兄を負傷させた男に傷害の男に9鞭居村徘徊頃まで通り・風儀を乱した娘に	欄外(*)に続く
1829年	1月22日	文政11年	12月17日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (一昨15日赤田組板屋野木村で出火・建家焼失・火元居村預け)	
1829年	1月23日	文政11年	12月18日	晴	昨夜雪一寸程積ル	
1829年	1月24日	文政11年	12月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (去る7日清水村の7人が鰯漁中に大風で2人死亡5人が行方不明) 下から続く 当春御買戻し予定の金を払えない勘弁といっている)	
1829年	1月25日	文政11年	12月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 今日吹雪強し 22日から続く 火元村預け、津出御印の儀これ迄米1俵10文目立大豆9文目立を米12文目立大豆10文目立に仰付け、	上に続く
1829年	1月26日	文政11年	12月21日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (去冬御払米の内当春御買戻しに相成り候分40215俵1俵30目立にてこの節御返し……分かれん、江戸で人事異動)	
1829年	1月27日	文政11年	12月22日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 今日雪少し降 (鰯去年大漁・当年不漁、増館組樽沢村で32人が時疫(女鹿沢・赤茶・佐野・郷山前村でも)・施薬、昨21日杉銀?村で出火・建家室焼失・	20日に続く
1829年	1月28日	文政11年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (盗み徒の男に6鞭弘前払い)	
1829年	1月29日	文政11年	12月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (来る27日毎年の通り訴状箱差上げる)	
1829年	1月30日	文政11年	12月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動、郡所物書山上七郎左衛門等に御賞(金100疋・銀5両・鳥目1貫文・南鐐1片・金1歩2朱等)、上方表中国越後辺迄不作・松前表孕米不足)	
1829年	1月31日	文政11年	12月26日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 今日吹雪強し	
1829年	2月1日	文政11年	12月27日	曇	昨夜雪降 五寸程積ル 今日雪少降 (勤務出精として山上才助等に銀子1枚その他のを下しおかれる)	
1829年	2月2日	文政11年	12月28日	曇	昨夜吹雪強し 今日雪少し降 (御賞、去る26?日赤石組小森村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け)	
1829年	2月3日	文政11年	12月29日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 今日雪降 一寸程積ル	
1829年	2月4日	文政12年正月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪降 二寸程積る		
1829年	2月5日	文政12年正月2日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 三寸程積る 昨夜吹雪強シ		
1829年	2月6日	文政12年正月3日	曇	昨夜雪降 八寸程積る 今日雪降 三寸程積る (この節厚雪に付き各組1人の足輕中間を早期(朝六時)出勤させる)		
1829年	2月7日	文政12年正月4日	晴	昨夜雪少し降		
1829年	2月8日	文政12年正月5日	曇	昨夜雪降 五寸程積る 今日雪降 三寸程積る		
1829年	2月9日	文政12年正月6日	曇	昨夜雪降 八寸程積る 今日雪少降		
1829年	2月10日	文政12年正月7日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積る ((旧臘28日付)今晚八半時頃鰯ヶ沢七ツ石町で出火・類焼潰れ家とも12軒・火元慎、旧臘20日江戸発の8日振りの飛脚が今日到着)		
1829年	2月11日	文政12年正月8日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 五寸程積る		
1829年	2月12日	文政12年正月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 三寸程積る		
1829年	2月13日	文政12年正月10日	晴	昨夜雪降 二寸程積る		
1829年	2月14日	文政12年正月11日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少降		
1829年	2月15日	文政12年正月12日	曇	昨夜雪降 五寸程積る 今日雪少シ降		
1829年	2月16日	文政12年正月13日	曇	昨夜雪降 五寸程積る 今日雪少降		
1829年	2月17日	文政12年正月14日	曇	今日雪少降		
1829年	2月18日	文政12年正月15日	曇	昨夜雪降 七寸程積る 今日雪降 二寸程積る		
1829年	2月19日	文政12年正月16日	曇	昨夜雪降 一尺五寸程積る 今日雪降 三寸程積る		
1829年	2月20日	文政12年正月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 三寸程積る (雪下御手伝いは非番の者度も共残らず罷り出るようにする)		
1829年	2月21日	文政12年正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少降		
1829年	2月22日	文政12年正月19日	曇	今日雪少降		
1829年	2月23日	文政12年正月20日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (去月11日拝領の雁肉を家老用人等に頂戴仰せ付ける、人事異動) 下から続く 和徳組黒滝村で出火・居宅焼失・火元居村預け)		
1829年	2月24日	文政12年正月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積る (去る12月より30日附相場平均1俵につき米1俵26匁3分6厘6毛に相当・当寒造り酒値段は1升が1文目5分5厘1合売りは10文宛、昨日	上に続く	
1829年	2月25日	文政12年正月22日	晴	昨夜雪降 二寸程積る		
1829年	2月26日	文政12年正月23日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 五寸程積る		
1829年	2月27日	文政12年正月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積る 今日雪少シ降る		
1829年	2月28日	文政12年正月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 一寸程積る		

(*) 9鞭居村徘徊はまで通り・この相手の男に9鞭居町徘徊はまで通り・村の娘に町の男が……村の男が町の男を傷害・町の男の弟が敵討ち……と言う事件らしいのだ・村の庄屋役御取り放し・喧嘩に同道した者たちにも罰、御徒の父と馴合い所々に忍び居た町方の妻に30鞭中15鞭親元引取りの上残り鞭数は贖銭(30貫文)里元親類に引擔させる・この相手の御目見以上の親に対する罰は例がなく保留率に・普通なら30鞭10里四方追放大場御構いに相当、能代表に他人の娘を売った男に30鞭10里四方追放大場御構い家財は妻子に、南部地より偽銀未遂間道忍び通った男に12鞭居村徘徊はまで通り)

1829年	3月1日	文政12年正月26日	晴	
1829年	3月2日	文政12年正月27日	曇	今日雪降 三寸程積る
1829年	3月3日	文政12年正月28日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 四寸程積る (御賞)
1829年	3月4日	文政12年正月29日	曇	今日雪少降
1829年	3月5日	文政12年 2月1日	曇	今日雪少降
1829年	3月6日	文政12年 2月2日	曇	申の刻頃小雨降 即刻止ム (座当盲女に15文宛下し置かれる)
1829年	3月7日	文政12年 2月3日	晴	
1829年	3月8日	文政12年 2月4日	曇	未の刻過ぎ小雨降 酉の刻過ぎ止ム (昨夕ニ之丸御馬場後ろが欠崩)
1829年	3月9日	文政12年 2月5日	晴	昨夜雪少シ降
1829年	3月10日	文政12年 2月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 二寸程積る
1829年	3月11日	文政12年 2月7日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 一寸程積る (寒造り酒1升を1文目6分・1合売りはこれまでと同様10文宛に仰せ付ける)
1829年	3月12日	文政12年 2月8日	晴	(江戸で人事異動)
1829年	3月13日	文政12年 2月9日	晴	(黒石役人より500石の津出増願い・了)
1829年	3月14日	文政12年 2月10日	晴	
1829年	3月15日	文政12年 2月11日	晴	
1829年	3月16日	文政12年 2月12日	曇	昨夜雪少降 今日雪少シ降
1829年	3月17日	文政12年 2月13日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 一寸程積る (3人ほど役下げ等になっている)
1829年	3月18日	文政12年 2月14日	晴	昨夜雪少シ降
1829年	3月19日	文政12年 2月15日	晴	
1829年	3月20日	文政12年 2月16日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入る
1829年	3月21日	文政12年 2月17日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 酉の刻過ぎ止ム (石渡川4歩半の出水で両船往来なり兼ねる)
1829年	3月22日	文政12年 2月18日	曇	昨夜風強シ 昨夜霰少シ降 今日風強シ 今日霰少降(曇 昨夜風強シ昨夜霰少シ降今日風強シ今日霰少降) (一昨夜常盤村で出火・建家焼失・火元村預け)
1829年	3月23日	文政12年 2月19日	曇	昨夜雪少シ降 (御賞)
1829年	3月24日	文政12年 2月20日	曇	辰の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止ム (当時(現在)の相庭(相場)1俵につき28文目5分くらい・御印代15文目を加えれば43匁5分に相当)
1829年	3月25日	文政12年 2月21日	曇	昨夜より雪降 今日に及ぶ 時々降 (去る16日赤石川出水・大然町(村ではなく町とある)で建家流失・他にも痛家)
1829年	3月26日	文政12年 2月22日	曇	昨夜雪少シ降 今日雪少シ降
1829年	3月27日	文政12年 2月23日	快晴	
1829年	3月28日	文政12年 2月24日	曇	今日雪少降 (御鷹の雁御拝領の御配当に座当盲女1人につき15文充惣人数分5貫40文下し置かれる(座当盲女は336人となる))
1829年	3月29日	文政12年 2月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少シ降 (増組組樽沢村で疫病・御施薬・医者に薬代として408文目6分下し置かれる)
1829年	3月30日	文政12年 2月26日	曇	
1829年	3月31日	文政12年 2月27日	曇	昨夜霰少降
1829年	4月1日	文政12年 2月28日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1829年	4月2日	文政12年 2月29日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1829年	4月3日	文政12年 2月30日	快晴	
1829年	4月4日	文政12年 3月1日	晴	(人事異動、御賞、昨夜藤崎組林崎村で出火・建家穀物等焼失・火元庄屋戸ノ、古仁朱判(古い2朱判)通用は丑年(今年)3月より停止)
1829年	4月5日	文政12年 3月2日	曇	辰の刻頃小雨降 即刻止ム (当両都御廻船上乗62人下乗80人を申し付ける、昨夜五時過ぎ報恩寺の木部屋焼失・禁足)
1829年	4月6日	文政12年 3月3日	晴	(一昨朔日屋頃木造新田遠山里村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1829年	4月7日	文政12年 3月4日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1829年	4月8日	文政12年 3月5日	曇	午の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1829年	4月9日	文政12年 3月6日	曇	今日雪少シ降 巳の刻過ぎより雨時々降 酉の刻頃止ム (御小納戸山になった山から松を切り出した男に木を御取り上げの上過料3貫文)
1829年	4月10日	文政12年 3月7日	曇	
1829年	4月11日	文政12年 3月8日	晴	下から続く 海失の跡に偽り売払い・船は難船を偽り戸賀沖に乗り捨て・橋船で大間越に上陸という事件があったらしい)
1829年	4月12日	文政12年 3月9日	晴	下から続く 去年は2月18日夕より翌19日朝まで氷明け申し候今年は日数に引合18日遅く節に引合6日遅い、去る午年(今年は丑年)沖船頭と乗組員が申し合わせ荷物を
1829年	4月13日	文政12年 3月10日	曇	辰の刻頃より小雨降 夜二入る (酒値段1升1文目6分5厘を5厘値段増とする、当月6日昼九時より翌7日朝六時頃まで十三湯大湊川尻より高根沖小俣川尻まで残らず氷明ける・
1829年	4月14日	文政12年 3月11日	曇	昨夜より之雨今日におよひ辰の刻過ぎ止ム (昨日石渡川が4歩半の出水・両船とも往来差留める)
1829年	4月15日	文政12年 3月12日	晴	下から続く 是まで通り)
1829年	4月16日	文政12年 3月13日	晴	(酒代等ねたれ受け(強請りたかりの類?)た男に3鞭居町徘徊はまで通り、所々で女子勾引の男に30鞭10里四方追放大場御構い・27鞭7里四方追放居町御構い・15鞭居村徘徊
1829年	4月17日	文政12年 3月14日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (左近将監殿より川鱒1尺拝受、石渡川4歩半の出水・両船とも往来成りかねる)
1829年	4月18日	文政12年 3月15日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 昨夜風強し 今日雪少シ降 (昨6日十三湯前後とも残らず氷明ける)
1829年	4月19日	文政12年 3月16日	晴	
1829年	4月20日	文政12年 3月17日	晴	(去る15日大鰐組鯖石村で出火・建家焼失・火元鍛冶職居村預け)
1829年	4月21日	文政12年 3月18日	快晴	(堀五郎左衛門が屋敷の一部を笠原八郎左衛門に譲っている、津出御印米1俵15文目を米1俵20目大豆1俵15文目に引き上げる)
1829年	4月22日	文政12年 3月19日	快晴	
1829年	4月23日	文政12年 3月20日	曇	申の刻頃小雨降 即刻止ム (去る17日夜木造村で出火・類焼1軒・火元兩人他村預け)
1829年	4月24日	文政12年 3月21日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム 今日霰少シ降 (当大坂御廻船が鰯ヶ沢で御蔵米を積み当月13日出帆し14日戸賀沖で荷打ち深浦にかえる)
1829年	4月25日	文政12年 3月22日	曇	
1829年	4月26日	文政12年 3月23日	晴	
1829年	4月27日	文政12年 3月24日	晴	(隠し釜の男を叱り置く、隠し商の男に過料)
1829年	4月28日	文政12年 3月25日	晴	(当月20日夜原別村で出火・29軒焼失)
1829年	4月29日	文政12年 3月26日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入る (盗人に3鞭弘前町払い、博打で他出差留め中出奔の男に6鞭居町徘徊はまで通り)
1829年	4月30日	文政12年 3月27日	晴	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止ム (用人津軽金蔵が駒越組堂ヶ平川筋見分に罷り越す、石渡川4歩の出水・両船とも往来なり兼ねる)

1829年	5月1日	文政12年	3月28日 晴	(赤石組の村々で風損虫付で過分の減石の上……、当御免駕日限は来月6日と仰せ出される)
1829年	5月2日	文政12年	3月29日 晴	
1829年	5月3日	文政12年	4月1日 快晴	(去る8月の高杉組十面沢村の時疫の御施薬の薬料179文目6分を担当医者に下し置かれる)
1829年	5月4日	文政12年	4月2日 快晴	
1829年	5月5日	文政12年	4月3日 快晴	下から続く 木造新田にもあり百姓1軒につき50文高無30文宛などの過料、この節癩瘡(天然痘)流行・大行院で御祈禱)
1829年	5月6日	文政12年	4月4日 快晴	下から続く 金木組長富新町で出火・類焼とも4軒穀物等焼失・火元他村預け、油川組孫内村に2ヶ所野火跡・百姓1軒に付き30文高無15文宛・油川組・浪岡組・飯詰組・ 上に続く
1829年	5月7日	文政12年	4月5日 曇	(鮑献上の小泊村の者共が龍濱崎嶺に押しかける・三厩上磯の村々も不漁で越境漁師は30人までを守れ献上鮑の7歩通りは三厩領から上納させる等ともめている、去る朔日夜 上に続く
1829年	5月8日	文政12年	4月6日 曇	今晚寅の刻頃小雨降 即刻止 辰の刻頃より小雨時々降 午の刻過ぎ止 申の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (博打親不孝去12月夜中に三味線借受強要等の御持鍵中間を掃除小人に役下げ)
1829年	5月9日	文政12年	4月7日 曇	(駒越組国吉村領堂ヶ平村の欠崩れ場所工事皆出来・川幅15間に仰付けられたが30間にした、隠し(炭焼き)釜の男共12人に過料釜1枚に30目(最大120目)、上方松前で 欄外(*)に続く
1829年	5月10日	文政12年	4月8日 曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止 今日風強し
1829年	5月11日	文政12年	4月9日 曇	下から続く 洞懸中不筋の申し入れがあるかもしれない・船を走らせろ)
1829年	5月12日	文政12年	4月10日 曇	戌の刻頃より雨降 (岩木川の蛇籠柴杭を抜取る者がある、船頭に対する演説書に:諸国一統米払底の由にてこの節米価も格別引上げ候・然れば御廻船着岸までの内の湊で 上に続く
1829年	5月13日	文政12年	4月11日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム (昨9日赤田組大牧村で出火・類焼とも3軒その他焼失・火元他村預け、日時不明の火元御家中齊藤某に慎み)
1829年	5月14日	文政12年	4月12日 晴	
1829年	5月15日	文政12年	4月13日 晴	
1829年	5月16日	文政12年	4月14日 晴	(一昨11日暮六時頃飯詰組松野木村寄せ郷下新里村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け)
1829年	5月17日	文政12年	4月15日 曇	
1829年	5月18日	文政12年	4月16日 快晴	
1829年	5月19日	文政12年	4月17日 晴	(交代下がりの面々この未出立分御金なし・都合が付くまで延引、江戸で人事異動・御賞)
1829年	5月20日	文政12年	4月18日 晴	戌の刻頃雨降 (御賞)
1829年	5月21日	文政12年	4月19日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 (一昨17日飯詰組石田坂村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1829年	5月22日	文政12年	4月20日 晴	(江戸表でこの度出火・諸職人払底・御上屋敷御普請が……御国から職人を登らせている、野火入れの村々に過料(百姓1軒より50文宛高無25文宛)、屋形様去る6日江戸御免駕)
1829年	5月23日	文政12年	4月21日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止 同刻雷鳴 即刻止ム
1829年	5月24日	文政12年	4月22日 晴	申の刻頃雷雨 即刻止ム (去る18日夜横内組濱館村で出火・類焼とも2軒焼失・火元2軒(両家の間から出火)共他村預け)
1829年	5月25日	文政12年	4月23日 晴	(屋形様が少々御風氣・二本松御屋所御止宿明後日に出る)
1829年	5月26日	文政12年	4月24日 晴	
1829年	5月27日	文政12年	4月25日 曇	巳の刻頃より雨降 午の刻頃止ム
1829年	5月28日	文政12年	4月26日 曇	
1829年	5月29日	文政12年	4月27日 晴	酉の刻頃より雨時々降
1829年	5月30日	文政12年	4月28日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻頃止ム (今日八ツ時過ぎ御着城、国上寺に癩瘡安全悪魔退散の御祈禱を仰せ付ける)
1829年	5月31日	文政12年	4月29日 晴	(御馬場で御馬高寛)
1829年	6月1日	文政12年	4月30日 晴	亥の刻頃より雨降
1829年	6月2日	文政12年	5月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降る (人事異動)
1829年	6月3日	文政12年	5月2日 晴	下から続く 御着城の節千歳山で過酒の御家中3人に慎)
1829年	6月4日	文政12年	5月3日 曇	今晚丑の刻頃より小雨時々降る (去る晦日浦町組大野村で出火・類焼とも2軒その他焼失・火元百姓他村預け、下向中に御入用金150両を預った勘定人米沢某が行方不明、 上に続く
1829年	6月5日	文政12年	5月4日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止ム (米沢某と諸手足軽阿部某の人相書き:米沢29歳位せい中せい・阿部39歳位5尺5寸位等々)
1829年	6月6日	文政12年	5月5日 曇	
1829年	6月7日	文政12年	5月6日 曇	(この度江戸に60人の大工を登らせる・跡家内共江米2俵銭30目充月々渡す・渡し方の検討をしている)
1829年	6月8日	文政12年	5月7日 曇	
1829年	6月9日	文政12年	5月8日 曇	
1829年	6月10日	文政12年	5月9日 曇	(鹿内某・田中某が軍用金の内600両を冥加として差上げる)
1829年	6月11日	文政12年	5月10日 曇	卯の刻過ぎより雨降
1829年	6月12日	文政12年	5月11日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 夜に入る (神明宮で風雨順時の御神楽差上げる、江戸で人事異動・御賞)
1829年	6月13日	文政12年	5月12日 曇	昨夜より之雨今日二および未の刻過ぎ止ム
1829年	6月14日	文政12年	5月13日 晴	
1829年	6月15日	文政12年	5月14日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止ム (開発方御貯え金の内この度3000両御登せ仰せ付けられ候)
1829年	6月16日	文政12年	5月15日 曇	午の刻頃より小雨降 未の刻頃止 (御慰の御囃子・暮六つ時相済、津軽主水を手廻一番組頭に等の人事異動、御賞)
1829年	6月17日	文政12年	5月16日 晴	
1829年	6月18日	文政12年	5月17日 晴	
1829年	6月19日	文政12年	5月18日 曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入る
1829年	6月20日	文政12年	5月19日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム (今某を碇ヶ関町奉行にとの人事異動、百沢下居宮に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)
1829年	6月21日	文政12年	5月20日 晴	酉の刻頃より雨降 夜二入る (去る6日西御門当番の御持筒足軽が心得違いで在医を西御門より武者屯まで通す・勤料の内俵子10俵召上げ長柄の者に役下げ、青田の内笛吹くなどの触れ)
1829年	6月22日	文政12年	5月21日 曇	昨夜より雨今日二および辰の刻頃止 未の刻頃雨降 即刻止ム (6日医者が通ったのは西御郭) 下から続く (罰)を受け当正月10日芝居楽屋で乱暴の男共に 欄外(**)に続く
1829年	6月23日	文政12年	5月22日 晴	下から続く に過料、商取引に手段の男に6鞭居村徘徊はまで通り・共犯のその子に3鞭、妻の妹と密通の男に12鞭・女に9鞭弘前町徘徊はまで通り、一昨年博打で御刑法 上に続く
1829年	6月24日	文政12年	5月23日 晴	(盗み徒の男に3鞭弘前払い、5月10日夜十三町で木綿50反ほど等を盗み博打の男に15鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り、博打等の男に3鞭居村徘徊はまで通り・その仲間 上に続く
1829年	6月25日	文政12年	5月24日 曇	今晚丑の刻頃より雨時々降 夜二入る (長勝寺に風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1829年	6月26日	文政12年	5月25日 曇	昨夜より雨今日二および時々降 夜二入る (丹後者詮索送り返しの触れ)
1829年	6月27日	文政12年	5月26日 晴	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻頃止ム
1829年	6月28日	文政12年	5月27日 晴	(人事異動)
1829年	6月29日	文政12年	5月28日 晴	(人事異動、御賞、去る26日大目付の門に無名の訴状が貼り付けてある・願いの筋があれば今日より3日の内に名を書き願を出すべし願い人がなければ焼き捨てるとの立て札を立てる)
1829年	6月30日	文政12年	5月29日 晴	

(*) 米価引上げ候につき……下タ米1俵40目値段にて引立て候につき……)

(**)3鞭宛居町徘徊はまで通り、依怙最頂・賄賂・音物等申し受けの御家中30人位に役儀召放等)

1829年	7月1日	文政12年	6月1日 曇	下から続く 土蔵の戸前押し破り6俵余盗み取られる)
1829年	7月2日	文政12年	6月2日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 辰の刻頃止ム (大鰐村より初茄子真瓜木瓜大角豆を差出す、流木願高より75棚過伐の村に過料銭470目・類似の罰多数、当月10日頃浪岡村貯米 上に続く
1829年	7月3日	文政12年	6月3日 晴	(去月25日南部船が柳田村領白沢村前浜にて破船・水主2人海死、当3月岩館村田圃で鉄砲で殺生の男に過料銭1貫800文、当2月に高網(鳥網の一種)を張り置いた男に過料銭1貫500文)
1829年	7月4日	文政12年	6月4日 曇	辰の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止ム (一昨2日夜広須組上木造村で出火・類焼とも4軒焼失・火元日雇い他村預け)
1829年	7月5日	文政12年	6月5日 晴	(文化9年熊本の殺人で昔手配あり・当正月15日に倅が敵討ち、花火・小筒の打揚げ等を止めろとの触れ)
1829年	7月6日	文政12年	6月6日 曇	申の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1829年	7月7日	文政12年	6月7日 晴	(昨6日夜駒越組黒土村で出火・類焼とも3軒焼失・火元御用人夫で居合せ申さず帰村後代官が呵置く、去る4日赤石組大宮村で出火・類焼3軒・火元他村預け)
1829年	7月8日	文政12年	6月8日 曇	午の刻過ぎ小雨降 未の刻過ぎ止ム (御賞、人事異動)
1829年	7月9日	文政12年	6月9日 曇	
1829年	7月10日	文政12年	6月10日 曇	申の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止ム
1829年	7月11日	文政12年	6月11日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止 午の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム (御慰の御能)
1829年	7月12日	文政12年	6月12日 晴	
1829年	7月13日	文政12年	6月13日 晴	(一昨年10月より昨年9月までの勤め中不締まりとして御蔵立会2人・奉行4人をを御留守居組に役下げ・他にも役下げあり)
1829年	7月14日	文政12年	6月14日 晴	
1829年	7月15日	文政12年	6月15日 晴	(今日御舞台で御慰の御能、間山鉄五郎を10俵御加増奥通り等の人事異動、御繰合せ方調達金高として鳴海栄作等25人に30000両ほど割付)
1829年	7月16日	文政12年	6月16日 晴	
1829年	7月17日	文政12年	6月17日 晴	
1829年	7月18日	文政12年	6月18日 曇	卯の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止ム 辰の刻頃雷鳴 即刻止 戌の刻過ぎ地震少シ (岩木川出水・両船とも差留める)
1829年	7月19日	文政12年	6月19日 晴	辰の刻頃より雨時々降 午の刻頃止 亥の初刻土用二入 (流木をごまかしている者共に過料)
1829年	7月20日	文政12年	6月20日 晴	
1829年	7月21日	文政12年	6月21日 晴	
1829年	7月22日	文政12年	6月22日 曇	今晩寅の刻頃小雨降 即刻止 辰の刻過ぎより雷雨時々 午の刻過ぎ止ム
1829年	7月23日	文政12年	6月23日 曇	卯の刻頃より雷雨時々 未の刻過ぎ止ム
1829年	7月24日	文政12年	6月24日 曇	巳の刻過ぎより雷鳴 午の刻頃より雨降 未の刻頃止ム
1829年	7月25日	文政12年	6月25日 曇	((多分町民)8人を御繰合せ方勘定小頭格俵子50俵に申渡す、材木積み御雇船運賃は昨年まで100石に付16両3歩・願により当年限り18両1歩に仰せ付ける)
1829年	7月26日	文政12年	6月26日 晴	
1829年	7月27日	文政12年	6月27日 晴	
1829年	7月28日	文政12年	6月28日 晴	(人事異動、御賞)
1829年	7月29日	文政12年	6月29日 晴	
1829年	7月30日	文政12年	6月30日 晴	(屋敷内・人家近い寺社の夜宮で花火などするなどの触れ、今晩七つ時赤田組大性村で出火・外馬屋等焼失建馬2疋焼失・火元戸 ㄨ)
1829年	7月31日	文政12年	7月1日 晴	(人事異動、御繰り合わせ方を仰せ付けられた者(5人)近來不如意として(貸している金はいらないからと)御免願を出す・了とする)
1829年	8月1日	文政12年	7月2日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止ム
1829年	8月2日	文政12年	7月3日 晴	(御徒小頭格御徒横岡空左衛門を御目見以上御留守居支配に役下げ)
1829年	8月3日	文政12年	7月4日 曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1829年	8月4日	文政12年	7月5日 曇	今晩丑の刻頃より雨降 辰の刻頃止 午の刻頃より小雨降 未の刻頃止ム
1829年	8月5日	文政12年	7月6日 快晴	(渴酒?何だ(ビールではないな)値段清酒より2割下げ……)
1829年	8月6日	文政12年	7月7日 快晴	
1829年	8月7日	文政12年	7月8日 晴	(今日大鰐村より初穂差上げる、去年11月牢舎から佐藤某に逃げられた牢奉行の給分召上げ永の暇)
1829年	8月8日	文政12年	7月9日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1829年	8月9日	文政12年	7月10日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム (去る6月無刻印の木品を売り・買取った男4人に木品御取上げの上過料銭1貫500文、無手形米を十三町に附下げの男2人に米御取上げの上過料銭1貫200文)
1829年	8月10日	文政12年	7月11日 曇	午の刻頃より雷鳴 申の刻頃止ム (人事異動、当月3日まで30日間の菜種相場平均4斗入り1俵36文目9分5厘:水油1升が6文目6分5厘6毛に相当・1升を6文目7分1合売りは6分4文とする)
1829年	8月11日	文政12年	7月12日 曇	(先年ソウヤ表御固め中に病死の子御馬廻与力桜庭某の跡式を祖父の勤めを考慮して孫に俵子20俵動料そのまま御馬廻与力則役)
1829年	8月12日	文政12年	7月13日 曇	午の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止ム
1829年	8月13日	文政12年	7月14日 晴	
1829年	8月14日	文政12年	7月15日 晴	(去る12日夜増館村で出火・建家等焼失・火元代庄屋居村預け)
1829年	8月15日	文政12年	7月16日 曇	未の刻頃雨降 申の刻過ぎ止 今日雷鳴強し
1829年	8月16日	文政12年	7月17日 曇	今晩丑の刻頃より雨降 午の刻頃止 今日雷鳴強シ (岩木川出水・駒越渡し場並びに石渡川往来差留める)
1829年	8月17日	文政12年	7月18日 晴	
1829年	8月18日	文政12年	7月19日 晴	
1829年	8月19日	文政12年	7月20日 晴	(当年上方筋で過分の米価引上げ……)
1829年	8月20日	文政12年	7月21日 曇	卯の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止ム (御賞、人事異動)
1829年	8月21日	文政12年	7月22日 曇	
1829年	8月22日	文政12年	7月23日 曇	未の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止ム (人事異動、刻印のない証40000枚を売り払った男に6鞭倅(諸手足軽白取某)渡し・関係者にも罰)
1829年	8月23日	文政12年	7月24日 晴	(御賞)
1829年	8月24日	文政12年	7月25日 晴	
1829年	8月25日	文政12年	7月26日 晴	(去る秋の御用金を出した町民等500人くらい?に御料理・御目見等々のゴマすり)
1829年	8月26日	文政12年	7月27日 晴	
1829年	8月27日	文政12年	7月28日 晴	(今日大鰐村加賀助と兵左衛門が御初米差上げる、夫喰米・貯米・諸上納銭・御検見取立て銭等の私曲そのほか博打等の庄屋を役御取放し・五人組にも罰)
1829年	8月28日	文政12年	7月29日 晴	
1829年	8月29日	文政12年	8月1日 晴	
1829年	8月30日	文政12年	8月2日 晴	(百沢寺より苔実差上げる、板留街道ガムシ坂を龍田坂と申し唱えるよう仰せ付ける、去る28日夜五時頃金木組喜良市村で出火・建家外馬屋等焼失・火元居村預け)
1829年	8月31日	文政12年	8月3日 晴	(昨夜富田辺りで出火)

1829年	9月1日	文政12年	8月4日 晴	卯の刻頃小雨降 即刻止ム (この度世上通用のため南鐘1朱銀が去る10日より通用)
1829年	9月2日	文政12年	8月5日 晴	午の刻過ぎ雨少シ降 (住吉宮大鳥居屋根が花火で焼損(日時不明)取り替える)
1829年	9月3日	文政12年	8月6日 晴	
1829年	9月4日	文政12年	8月7日 晴	(御繰り合わせ方御用取扱の6人が調達金(10000両ほど)を差上げたいとのこと・聞き届ける) 下から続く 大豆は是まで通り8文目に仰せ付ける)
1829年	9月5日	文政12年	8月8日 曇	辰の刻頃小雨降 巳の刻頃止ム (当6月五所川原御蔵の米を鰯ヶ沢に駄下げの男が1俵から1升余宛抜き取る・犯人が出奔して馬主?が返す、津出御印1俵25文目を15文目 上に続く
1829年	9月6日	文政12年	8月9日 晴	(当御廻船の内勢州船が下総の国沖合で御米荷打ち)
1829年	9月7日	文政12年	8月10日 晴	(去る8日夜浦町組濱田村で蚊遣火より出火・居宅外馬屋雑穀等焼失・火元百姓居村預け)
1829年	9月8日	文政12年	8月11日 曇	今晚子の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止 (御賞、今晚和徳村で出火・小屋焼失・火元庄屋戸ノ)
1829年	9月9日	文政12年	8月12日 快晴	
1829年	9月10日	文政12年	8月13日 快晴	(過伐の2村と庄屋に過料、流木を隠した村に過料)
1829年	9月11日	文政12年	8月14日 快晴	
1829年	9月12日	文政12年	8月15日 曇	午の刻過ぎより小雨時々降 夜二入る
1829年	9月13日	文政12年	8月16日 曇	昨夜より之雨今晚丑の刻頃止ム (後潟組の村々で当2月4月に手段米摘発・村の庄屋に過料銭600文)
1829年	9月14日	文政12年	8月17日 快晴	
1829年	9月15日	文政12年	8月18日 晴	
1829年	9月16日	文政12年	8月19日 晴	
1829年	9月17日	文政12年	8月20日 晴	(八幡宮祭礼、相撲見物・暮六時前相済む)
1829年	9月18日	文政12年	8月21日 曇	今晚丑の刻頃より雨時々降 夜二入る (昨明六ツ時赤田組鶴田村で出火・建家等焼失・火元居村預け) 下から続く 見分に勘定小頭を派遣)
1829年	9月19日	文政12年	8月22日 曇	昨夜より雨今日ニおよひ時々降 (去る20日御米1700石鉛20箇を積み鰯ヶ沢を出帆の御手船清福丸が広戸村沖合で遭難?深浦より橋船で澗の内に引入れる・濡れ米3500俵位・ 上に続く
1829年	9月20日	文政12年	8月23日 晴	戌の刻過ぎより雨降 (岩木川出水・今八時半頃より馬船往来差留める、盗みで捕まって博打は命のある限りするが盗みはしないと頑張る男あり・6鞭の上親預け、博打男に過料銭1貫200文)
1829年	9月21日	文政12年	8月24日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 今晚丑の刻頃雷鳴 即刻止ム
1829年	9月22日	文政12年	8月25日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (山の伐り荒しがあった村の庄屋等多数に過料銭600文等)
1829年	9月23日	文政12年	8月26日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止ム
1829年	9月24日	文政12年	8月27日 晴	今晚子の刻頃雨降 即刻止ム
1829年	9月25日	文政12年	8月28日 晴	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 戌の刻頃より雨時々降 (無刻印の松木を売った男に過料銭2貫文・買った男共に2貫文・庄屋にも600文)
1829年	9月26日	文政12年	8月29日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止 亥の刻過ぎより雨時々降 (来月朔日日蝕に付月並み出仕の面々明六時揃と仰せ付けられる)
1829年	9月27日	文政12年	8月30日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止ム
1829年	9月28日	文政12年	9月1日 快晴	日食辰の四刻より午の初刻ニ終る (ただし日食六分、津軽金蔵の御役御免等の人事異動、この度吹立ての南鐘一種銀は来る10日より通用)
1829年	9月29日	文政12年	9月2日 快晴	
1829年	9月30日	文政12年	9月3日 快晴	(当御廻船勢州船が下総国沖合いで荷打ち後隠し上げと上乘が申し上げる・去月27日その下乗の者が深川売り場より出奔・委細の儀は得と詮議)
1829年	10月1日	文政12年	9月4日 晴	(昨夜九時頃浪岡組本郷村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1829年	10月2日	文政12年	9月5日 曇	今晚寅の刻頃より小雨降 辰の刻頃止 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入る
1829年	10月3日	文政12年	9月6日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ巳の刻頃止ム
1829年	10月4日	文政12年	9月7日 曇	酉の刻頃より雨降
1829年	10月5日	文政12年	9月8日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ辰の刻過ぎ止ム (手段米の男共に過料銭1貫800文など)
1829年	10月6日	文政12年	9月9日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 巳の刻頃止ム (昨夜四時過ぎ平岡町で出火・建家焼失類焼あり・火元慎)
1829年	10月7日	文政12年	9月10日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入る (大道寺隼人を馬廻二番組頭・用人兼帯にとの人事異動)
1829年	10月8日	文政12年	9月11日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ時々降 夜二入る (喜多村尚吉を御側役に等の人事異動、養蚕御用等で御賞)
1829年	10月9日	文政12年	9月12日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ辰の刻頃止ム
1829年	10月10日	文政12年	9月13日 晴	今晚丑の刻頃より雨降 辰の刻頃止 亥の刻頃小雨降 即刻止ム (盗みの男に3鞭弘前御構い、盗み重犯の男に6鞭弘前町払い)
1829年	10月11日	文政12年	9月14日 晴	今晚寅の刻頃雨降 即刻止ム
1829年	10月12日	文政12年	9月15日 曇	申の刻過ぎ雨降 即刻止ム (人事異動、御賞)
1829年	10月13日	文政12年	9月16日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (油川組沖館村で9月より3月中隠津度々、勤め方不埒の深浦町同心の御給分召上げ永の暇)
1829年	10月14日	文政12年	9月17日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム
1829年	10月15日	文政12年	9月18日 晴	
1829年	10月16日	文政12年	9月19日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1829年	10月17日	文政12年	9月20日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム
1829年	10月18日	文政12年	9月21日 晴	
1829年	10月19日	文政12年	9月22日 晴	
1829年	10月20日	文政12年	9月23日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 巳の刻頃止ム (御賞)
1829年	10月21日	文政12年	9月24日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止ム
1829年	10月22日	文政12年	9月25日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 夜二入る (昨24日夜原別村で出火・建家外馬屋等焼失・火元庄屋戸ノ)
1829年	10月23日	文政12年	9月26日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ酉の刻頃止ム
1829年	10月24日	文政12年	9月27日 晴	
1829年	10月25日	文政12年	9月28日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃雷鳴 雷即刻止 雨戌の刻頃止ム (人事異動)
1829年	10月26日	文政12年	9月29日 晴	(高岡御献備の初鮭2尾を御台所頭が差出す、三国屋・大津屋の去年仕込み味噌の売り貸し値段:銭10文目に付き目方6貫100目値段で御家中等で望みの者に売り貸す)
1829年	10月27日	文政12年	9月30日 晴	(加役として平館湊目付に御馬廻山上才助を仰せ付ける)
1829年	10月28日	文政12年	10月1日 曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止ム (人事異動)
1829年	10月29日	文政12年	10月2日 曇	亥の刻頃より雨降 同刻雷鳴 即刻止ム
1829年	10月30日	文政12年	10月3日 曇	昨夜より雨今日ニおよひ時々降 夜二入る 亥の刻頃雷鳴 即刻止ム
1829年	10月31日	文政12年	10月4日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ時々降 巳の刻過ぎ止ム

1829年	11月1日	文政12年	10月5日 晴	下から続く	等の男に6鞭弘前町払い、盗みの男に3鞭弘前町御構い居村徘徊是迄通り、間道を通った男に12鞭居町徘徊是まで通り、庄屋を不当に訴訟の男に6鞭居村徘徊是迄通り)
1829年	11月2日	文政12年	10月6日 快晴	(隠伏の男2人に御取上の上6鞭居村徘徊是まで通り・この仲間数人に過料銭1貫800文等、女子勾引の相談・悪者の宿の男2人に6鞭宛弘前徘徊是まで通り、金子3両盗取り	上に続く
1829年	11月3日	文政12年	10月7日 曇	未の刻頃より小雨降	申の刻頃止ム (人事異動)
1829年	11月4日	文政12年	10月8日 快晴	(今日九つ時下馬場で御打毬あり)	
1829年	11月5日	文政12年	10月9日 快晴	(笠原八郎兵衛の先祖のことが書いてある、秋田久保田の飛脚宿から家財焼失に付き100両の拝借又は馬の取扱願い・断ったみたい)	
1829年	11月6日	文政12年	10月10日 曇		
1829年	11月7日	文政12年	10月11日 快晴	戌の刻頃より雨降	
1829年	11月8日	文政12年	10月12日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止	今日雪降 一寸程積る (左近将監殿より川鯉1尺充て拝受)
1829年	11月9日	文政12年	10月13日 曇	昨夜雪少シ降	(一粒金丹御有合せ不足に付き5劑調合を仰せ付ける)
1829年	11月10日	文政12年	10月14日 晴		
1829年	11月11日	文政12年	10月15日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降	申の刻過ぎ止 午の刻頃雷鳴 即刻止ム (人事異動)
1829年	11月12日	文政12年	10月16日 快晴		
1829年	11月13日	文政12年	10月17日 晴		
1829年	11月14日	文政12年	10月18日 快晴	亥の刻頃より雨降	下から続く 養子を勤めた諸手足輕を御城付足輕に役下げ)
1829年	11月15日	文政12年	10月19日 曇	昨夜より之雨今暁卯の刻頃止ム	(石渡川4歩の出水・馬船往来差留める、駒越渡場出水・石渡川4歩半の出水・両船とも往来差留める) 下から続く 名前を偽り甥の
1829年	11月16日	文政12年	10月20日 曇	(本行寺・法立寺・真教寺・法源寺不行状隠居等、去る8月17日夜無刀外出し木挽の子の不法を打捨てた御目見以上御留守居支配を御給分召上げ永の暇・その弟を長柄の者に、	上に続く
1829年	11月17日	文政12年	10月21日 曇	今日雪少シ降	下から続く 追放等、当7月28日夜隠し津出の男2人に15鞭所払い4ヶ組並びに浦々住居御構い・この庄屋五人組に過料)
1829年	11月18日	文政12年	10月22日 曇	今日霰少シ降	下から続く 同所足輕と争論・大小を奪い取られた御留守居支配花田某の御給分取上げ永の暇・弟を長柄の者に・黒石の足輕も永の暇黒石表追放・仲間も
1829年	11月19日	文政12年	10月23日 曇	昨夜雪少シ降	(当正月29日王余沢村出訴の節対応が適切として御賞・庄屋に役御取り放しの上3鞭、本行寺に続き受源院も隠居、去る8月黒石表の祭礼見物で酒狂いの上
1829年	11月20日	文政12年	10月24日 曇	未の刻頃より雨降	戌の刻頃止 今日雪少シ降 下から続く 138946石程)
1829年	11月21日	文政12年	10月25日 曇	昨夜雪少シ降	今日雪少シ降 (当月5日より19日迄新穀日々付相場平均値段:1俵に付き29文目、田畑当御収納飯積り米148526石余・当毛引並びに諸品成共9580石程・引残
1829年	11月22日	文政12年	10月26日 曇	昨夜雪降	一寸程積る 今日雪少シ降 (初雪の御機嫌伺いを申し上げる)
1829年	11月23日	文政12年	10月27日 曇	今日雪少シ降	(新古米附相場日数20日平均1俵28文目に相当・酒1升は1文目5分7厘4毛に付き当新酒飯値段1升を1文目6分に1合売りは10文宛に仰せ付ける)
1829年	11月24日	文政12年	10月28日 晴	昨夜雪降	一寸程積 (人事異動、419棚余過伐の者共に過料として100000本の小杉を明年より植付けけるよう庄屋には過料銭1貫800文)
1829年	11月25日	文政12年	10月29日 曇	今日雪少降	(開発方御用金1000両を御登仰せ付けられる) 下から続く に付き40日内1文目2分御定役引き・差引38文目8分)
1829年	11月26日	文政12年	11月1日 曇	(松前表で塩引きの類を積み入れた越後船が去月20日十三湊領明神宮沖で破船・9人中6人海死、美服は着用すると表医者以上に書状として渡す、弘前青森2ヶ所平均米1俵	上に続く
1829年	11月27日	文政12年	11月2日 曇	昨夜戌の刻頃より雨時々降	今日ニおよび午の刻頃止ム 今日雪少降 下から続く 手段米の男に15鞭所払い外ヶ浜4ヶ組並びに浦々住居御構い、盗人に3鞭居村徘徊是まで通り)
1829年	11月28日	文政12年	11月3日 曇	午の刻頃雨降	即刻止 亥の刻頃より雨降 同刻雷鳴 即刻止 昨夜雪降 一寸程積る (桧の皮剥ぎ・杉の切株等が見つかり過料、湯野沢鉛山大水抜き御普請が認められる、
1829年	11月29日	文政12年	11月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 申刻頃止ム (石渡川4歩半の出水・両船とも往来成兼ねる、相撲取り6人に新御殿より御扶持(5人扶持から2人半扶持))
1829年	11月30日	文政12年	11月5日 晴	昨夜雪降	二寸程積る
1829年	12月1日	文政12年	11月6日 晴	(去月25日山崎村前浜に松前船乗り上げ破損、去月20日越後船が須郷御境(秋田県境)で破船・7人中5人海死)	
1829年	12月2日	文政12年	11月7日 曇	(御賞)	
1829年	12月3日	文政12年	11月8日 曇	今暁寅の刻より雨時々降	酉の刻頃止ム (去る5日夜藤代組鳥町村で出火・居宅稲草焼失・火元居村預け)
1829年	12月4日	文政12年	11月9日 晴	昨夜雪降	五寸程積る
1829年	12月5日	文政12年	11月10日 晴	昨夜雪少降	
1829年	12月6日	文政12年	11月11日 晴	昨夜より雨	今暁寅の刻頃止ム
1829年	12月7日	文政12年	11月12日 快晴		
1829年	12月8日	文政12年	11月13日 晴		
1829年	12月9日	文政12年	11月14日 曇	昨夜戌の刻頃より雨降	今暁寅の刻頃止ム
1829年	12月10日	文政12年	11月15日 曇	昨夜亥の刻頃小雨降	即刻止ム
1829年	12月11日	文政12年	11月16日 晴		
1829年	12月12日	文政12年	11月17日 曇	未の刻過ぎより雨降	去るの刻過ぎ止ム (この度小泊村長松の弟松前横間村の(切支丹)類族万太が病死)
1829年	12月13日	文政12年	11月18日 曇	戌の刻過ぎ小雨降	即刻止ム
1829年	12月14日	文政12年	11月19日 曇	巳の刻過ぎより雨降	未の刻頃止ム
1829年	12月15日	文政12年	11月20日 曇	今暁寅の刻頃より雨時々降	午の刻頃止ム (金繰りに困っているという情報が江戸から来ている) 下から続く 6文目8分5厘に申し付ける)
1829年	12月16日	文政12年	11月21日 曇	昨夜雪少降	(親孝行2人に褒美2貫文宛、当粒油附相場当月27日までの30日平均で粒油4斗入り1俵が34匁6分・油1升が6文目8分3厘1毛に付き11月昨日より来年2月中1升を
1829年	12月17日	文政12年	11月22日 晴	申の刻頃より雨時々降	夜二入る ((17日記述の)万太の死亡状況の記載あり)
1829年	12月18日	文政12年	11月23日 曇	昨夜より雨今日ニおよび申の刻頃止	今日雪少降
1829年	12月19日	文政12年	11月24日 曇	昨夜雪少降	今日雪少シ降る (去る22日夜尾崎組新屋村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1829年	12月20日	文政12年	11月25日 曇	今日雪降	一寸程積る
1829年	12月21日	文政12年	11月26日 曇	昨夜雪降	二寸程積る
1829年	12月22日	文政12年	11月27日 曇	今暁丑の刻冬至ニ入	戌の刻頃より雨降
1829年	12月23日	文政12年	11月28日 曇	昨夜より雨	今暁寅の刻頃止 今日霰少シ降 (人事異動)
1829年	12月24日	文政12年	11月29日 曇	昨夜雪降	二寸程積る (去る26日広田組種井村で出火・居宅稲草焼失・火元村預け)
1829年	12月25日	文政12年	11月30日 曇	(昨29日大鰐村で出火・建家等焼失・火元居村預け)	
1829年	12月26日	文政12年	12月1日 曇	(青森より初鯉2尾差上げる、開発方数十人その他に御賞、去月29日夜後潟村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)	
1829年	12月27日	文政12年	12月2日 晴		
1829年	12月28日	文政12年	12月3日 晴	亥の刻過ぎ電降 (今日御能)	下から続く 銅屋道具を見当てる・関係者3人は判ったが外出中)
1829年	12月29日	文政12年	12月4日 曇	今暁丑の刻頃より雨時々降	(去月29日朝四時頃丸木舟で金井ヶ沢を出た漁師7人が難船2人死亡、碇ヶ関辺りで南鐮廣銀が使われる・油川に狢に入った男が大范沢の岩穴で
1829年	12月30日	文政12年	12月5日 晴	(去る2日広須組蓮川村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓村預け、去る2日青森新町で出火・否や(いなや・直ちに)取鎮める・相騒がせ候に付き火元慎)	上に続く
1829年	12月31日	文政12年	12月6日 曇	昨夜雪降	四寸程積る

1830年	1月1日	文政12年	12月7日	晴	(人事異動、片谷某が御繰り合わせ方御免願い・これまで調達の分は冥加として差上げたいとのこと・5人扶持を下し置かれ年頭御目見仰せ付ける)
1830年	1月2日	文政12年	12月8日	晴	下から続く 候様仰せ付けられたき儀を申し出る……、一昨7日屋広須組再賀派で出火・建家穀物焼失・火元居村預け、去る4日横内組原別村から鱈漁に出た4人が水船・1人海死)
1830年	1月3日	文政12年	12月9日	晴	昨夜雪降 四寸程積る (高岡江初鱈2尾など差出す、弘前町々風呂屋に男湯女湯仕分けを申し付けた・難洪の風呂屋もあり早速はできず出来まで月6度充日を定め女ばかり入り 上に続く
1830年	1月4日	文政12年	12月10日	晴	
1830年	1月5日	文政12年	12月11日	晴	(人事異動、御賞、山田左九郎を勘定小頭格に1両1人扶持勤料増)
1830年	1月6日	文政12年	12月12日	曇	今日雪少シ降 辰の三刻寒ニ入る
1830年	1月7日	文政12年	12月13日	曇	今日霰少降
1830年	1月8日	文政12年	12月14日	曇	今晚丑の刻過ぎより雨降 寅の刻過ぎ止ム (雉子代りの真鴨2羽を高岡に御神供)
1830年	1月9日	文政12年	12月15日	曇	今晚丑の刻過ぎより雨降 寅の刻頃止ム (人事異動) 下から続く 5里四方追放大場御構い)
1830年	1月10日	文政12年	12月16日	曇	昨夜雪降 四寸程積る 今日雪降 二寸程積る (駄下げ米を不正に扱った鰺ヶ沢御蔵立会(御手廻)を御目見以上御留守居支配に役下げ・奉行(御馬廻)2人に憤・関係者2人に 上に続く
1830年	1月11日	文政12年	12月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (津軽内膳が病死)
1830年	1月12日	文政12年	12月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積る (人事異動)
1830年	1月13日	文政12年	12月19日	曇	今日雪少降 (寺の僧・代官が叱られている)
1830年	1月14日	文政12年	12月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 二寸程積る (去る14日赤石組深浦前浜に切懸鯨が流寄せる)
1830年	1月15日	文政12年	12月21日	曇	昨夜雪降 一尺程積
1830年	1月16日	文政12年	12月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪少降 (去る20日本町村で出火・建家並びに外馬屋穀物等焼失・火元高無居村預け) 下から続く 男5人に20鞭充弘前町払い)
1830年	1月17日	文政12年	12月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 (当6月19日手段米の男に所払い外ヶ濱4ヶ組並びに浦々住居御構い、当6月23日愛宕宮の夜宮の節町娘に薬王院墓所で不屈きの 上に続く
1830年	1月18日	文政12年	12月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積る 今日雪降 1尺2寸程積る (去る21日木造新田牛潟村で出火・建家建馬1疋等焼失・火元百姓居村預け、昨晚茂森町で納豆室より出火・火元憤)
1830年	1月19日	文政12年	12月25日	晴	昨夜雪降 七寸程積る (当月17日暮より翌18日朝迄に十三潟の大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は12月5日暮より翌6日朝迄に氷張る・日数に引合13日遅く 欄外(*)に続く
1830年	1月20日	文政12年	12月26日	晴	(一昨年7月に帛帆の節瀬辺地村で水主に傷を負わせ浜茄子に縛り付け金子23両1歩を奪い取った船頭を取上御仕置場で磔、去る7月29日夜相撲見物の帰りに傷害の御持鍵中間を押込)
1830年	1月21日	文政12年	12月27日	晴	(師範家・兵学武芸出精の面々に御囃子見物仰せ付ける、当年92歳の尾崎組高無に御褒美)
1830年	1月22日	文政12年	12月28日	晴	(原子某を長柄奉行格に等の人事異動、御賞(数え切れないが100人位)、当耕作始終の儀・種浸2月14日より3月22日迄・相発(芽が出たのかな?)3月9日より4月15日迄・ 欄外(**)に続く
1830年	1月23日	文政12年	12月29日	晴	(来る正月4日より歌舞伎芝居興行、去当年豊作・米価相応となり……然る所(米で給与を貰っている)御家中・御給人は難洪、去る3日江戸の用人藤田権三郎が病死)
1830年	1月24日	文政12年	12月30日	曇	
1830年	1月25日	文政13年正月1日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1830年	1月26日	文政13年正月2日	晴		
1830年	1月27日	文政13年正月3日	快晴	(御吉例金200両を御金奉行より差出す、漁師頭2人が御魚差上げる、今晚御謡初・番頭以上申の后刻登城)	
1830年	1月28日	文政13年正月4日	曇	今晚子の刻頃雨降 則刻止 今日雪降 壹寸程積 (大鰯村加賀助より七種差上げる)	
1830年	1月29日	文政13年正月5日	曇	今日雪降 五寸程積	
1830年	1月30日	文政13年正月6日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積	
1830年	1月31日	文政13年正月7日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 壹寸程積 (今日七草・御由緒の面々登城)	
1830年	2月1日	文政13年正月8日	曇	辰の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止	
1830年	2月2日	文政13年正月9日	曇	昨夜吹雪強し 雪貳寸程積 今日雪降 貳寸程積 頃日寒強し	
1830年	2月3日	文政13年正月10日	曇	今日雪降 三寸程積	
1830年	2月4日	文政13年正月11日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 貳寸程積 (人事異動、昨10日駒越組葛原村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)	
1830年	2月5日	文政13年正月12日	曇	昨夜雪降 四寸程積	
1830年	2月6日	文政13年正月13日	曇	今日雪少降	
1830年	2月7日	文政13年正月14日	曇	今日雪少降	
1830年	2月8日	文政13年正月15日	曇	今日雪降 四寸程積	
1830年	2月9日	文政13年正月16日	晴		
1830年	2月10日	文政13年正月17日	晴	(去る11日暮六時頃十三町で出火・早速取鎮める・炭入小屋焼失・火元鍛冶阿置く)	
1830年	2月11日	文政13年正月18日	曇	今日雪少降	
1830年	2月12日	文政13年正月19日	曇	(海岸警備で御賞)	
1830年	2月13日	文政13年正月20日	晴	(切支丹類族万太の記事あり・塩詰めにして置いた・83歳など)	
1830年	2月14日	文政13年正月21日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今晚寅の刻過ぎより雨時々降	
1830年	2月15日	文政13年正月22日	曇	昨夜雪降 貳寸程積 今日雪少降	
1830年	2月16日	文政13年正月23日	晴	昨夜雪少降 (今日梅の間で御慰の御囃子、工藤定五郎を御目付役に等の人事異動)	
1830年	2月17日	文政13年正月24日	晴		
1830年	2月18日	文政13年正月25日	晴		
1830年	2月19日	文政13年正月26日	晴		
1830年	2月20日	文政13年正月27日	曇	昨夜雪降 貳寸程積 今日雪少積 (不明日に増館組水木村で出火・建家外馬屋建馬焼失・火元百姓居村預け)	
1830年	2月21日	文政13年正月28日	曇	今日雪少降	
1830年	2月22日	文政13年正月29日	晴		
1830年	2月23日	文政13年	2月1日	曇	昨夜雪少降 卯の刻過ぎより雹降 辰の刻頃止 (下沢小左衛門を御手廻格御加増俵子10俵1人扶持などの人事異動)
1830年	2月24日	文政13年	2月2日	曇	今日雪少降
1830年	2月25日	文政13年	2月3日	晴	昨夜雪少降 (去る1日常盤組小畑村で出火・建家外馬屋種枘馬1疋焼失・火元村預け、旧臘24日夜水木村の出火で粃4俵焼失・立会目付に見分を依頼する)
1830年	2月26日	文政13年	2月4日	曇	(大坂関係の人事異動、去る2日大鰯組石川村で出火・建家外馬屋穀物等焼失馬1疋斃れる・火元高無居村預け)
1830年	2月27日	文政13年	2月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1830年	2月28日	文政13年	2月6日	曇	昨夜雪少降
(*) 節に引合遅速なし、高源院様(信枚)200回瑞厳院様(誰だ・この頃に死んだ殿様なし)100回光園院様(先代藩主の側室で現藩主の生母)1周忌に伴う大赦:45人に出牢させ10里四方追放など)					
(**) 田植5月2日より29日迄・出穂7月6日より8月2日迄・稲刈8月16日より9月28日迄・村納9月7日より11月20日迄)					

1830年	3月1日	文政13年	2月7日	曇	今日雪七寸程積（笠原近江を馬廻組頭に等の人事異動）
1830年	3月2日	文政13年	2月8日	曇	（当正月より駒越組相馬村で時疫・頃日段々病人増・施薬）
1830年	3月3日	文政13年	2月9日	晴	（人事異動、御賞）
1830年	3月4日	文政13年	2月10日	快晴	
1830年	3月5日	文政13年	2月11日	快晴	（兼平帯刀を留守居組頭に役知の内50石加贈等の人事異動）
1830年	3月6日	文政13年	2月12日	快晴	（青森町の青山喜左衛門が太刀打村で夜盗を企てた・未遂で逃亡・この仲間4人は勘定人の親など御家中関係者・変な事件）
1830年	3月7日	文政13年	2月13日	快晴	
1830年	3月8日	文政13年	2月14日	曇	申の刻頃より雨降 戌の刻頃止
1830年	3月9日	文政13年	2月15日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 酉の刻頃止
1830年	3月10日	文政13年	2月16日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 貳寸程積
1830年	3月11日	文政13年	2月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積（当兩都廻船の上乗99人下乗88人を申付けける）
1830年	3月12日	文政13年	2月18日	晴	昨夜雪少降（一昨年大坂表で合船の清福丸を安全丸と改名）
1830年	3月13日	文政13年	2月19日	曇	昨夜雪降 貳寸程積 今日雪降 三寸程積
1830年	3月14日	文政13年	2月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降
1830年	3月15日	文政13年	2月21日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雹降（人事異動）
1830年	3月16日	文政13年	2月22日	晴	
1830年	3月17日	文政13年	2月23日	曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止（去る6月14日熊野宮近辺で町民に手傷を負わせ偽りを申し述べた御徒代目付の御給分召上げ永の暇）
1830年	3月18日	文政13年	2月24日	曇	今日雪少降
1830年	3月19日	文政13年	2月25日	晴	昨夜雪降 貳寸程積
1830年	3月20日	文政13年	2月26日	曇	亥の刻頃より雨降
1830年	3月21日	文政13年	2月27日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻頃止 今日雹降
1830年	3月22日	文政13年	2月28日	曇	昨夜霰少降
1830年	3月23日	文政13年	2月29日	曇	昨夜雪少降 今日霰降
1830年	3月24日	文政13年	3月1日	曇	
1830年	3月25日	文政13年	3月2日	曇	（去月27日タより翌28日朝迄十三湯大湊川尻より高根沖小俣川尻迄残らず氷明ける・去年は3月6日昼より翌朝までに氷明ける・当年は日数に引合10日早く節に引合19日早い）
1830年	3月26日	文政13年	3月3日	曇	今日雪少降
1830年	3月27日	文政13年	3月4日	晴	
1830年	3月28日	文政13年	3月5日	晴	（郡所物書藤田某とその倅が出奔・人相書きで手配：53歳5尺5寸くらい太り候方・倅20歳5尺5寸くらい中肉の方等々）
1830年	3月29日	文政13年	3月6日	曇	午の刻頃より小雨時々降 酉の刻過ぎ止ム
1830年	3月30日	文政13年	3月7日	晴	
1830年	3月31日	文政13年	3月8日	快晴	
1830年	4月1日	文政13年	3月9日	快晴	
1830年	4月2日	文政13年	3月10日	曇	未の刻過ぎより小雨時々降 夜二入
1830年	4月3日	文政13年	3月11日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻頃止（人事異動）
1830年	4月4日	文政13年	3月12日	曇	昨夜雪少降
1830年	4月5日	文政13年	3月13日	曇	昨夜雪少降（牢舎の者共この節大勢・昨日他領の3人を入牢させたとこ女牢1間塞がり他の人数を2ヶ牢に振り分ける・この上の入牢は居所なし・今後は?揚屋入りにする）
1830年	4月6日	文政13年	3月14日	晴	
1830年	4月7日	文政13年	3月15日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止（当御発駕御日限来月12日と仰せ出される、人事異動、御賞）
1830年	4月8日	文政13年	3月16日	曇	昨夜雪少降（昨夜増館組赤茶村で出火・建家焼失・火元居村預け）
1830年	4月9日	文政13年	3月17日	晴	昨夜雪降 四寸程積（御賞）
1830年	4月10日	文政13年	3月18日	曇	午の刻過ぎより雹降 夜二入止（主人の帳面を持ち出奔の仙台城下出生の男を硯ヶ閑送り返し）
1830年	4月11日	文政13年	3月19日	曇	（御発駕金の都合がまだ付いていない?） 下から続く 申付けける?、昨夜猿賀組尾上村で出火・類焼1軒あり・火元他村預け）
1830年	4月12日	文政13年	3月20日	晴	（勤め方が不届きな青森湊目付の知行30石召上げ御目見以上御留守居組に） 下から続く 入切手等も持参せず船手申合せ隠乗の者もある・書類をしっかりとるよう 上に続く
1830年	4月13日	文政13年	3月21日	曇	今晚寅の刻頃雨降 則刻止 未の刻頃より雨降 夜二入（近年松前表に渡海する者共が2月中旬より小泊村に千四・五百人斗集まる・数日逗留中博打酒宴争論など・御関所 上に続く
1830年	4月14日	文政13年	3月22日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降（剣術・和術高覧、御賞）
1830年	4月15日	文政13年	3月23日	晴	
1830年	4月16日	文政13年	3月24日	晴	今晚風強し（一昨22日柏木組常海橋村で味噌煮釜より出火・建家等焼失・火元居村預け）
1830年	4月17日	文政13年	3月25日	晴	（去る9月材木15000石目杣入りの利益1100両と貸し出した500両が今日上納される）
1830年	4月18日	文政13年	3月26日	晴	今夜亥の刻頃小雨降 則刻止（杉山上総を用人兼帯に等の人事異動、御賞、一昨24日広須組豊川村で出火・建家等焼失・火元居村預け）
1830年	4月19日	文政13年	3月27日	曇	卯の刻過ぎより小雨降 則刻止
1830年	4月20日	文政13年	3月28日	曇	今晚丑の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1830年	4月21日	文政13年	3月29日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止ム
1830年	4月22日	文政13年	3月30日	曇	午の刻頃より小雨降 申の刻頃止 今日雪少降
1830年	4月23日	文政13年	閏3月1日	曇	昨夜雪降 五寸程積（人事異動）
1830年	4月24日	文政13年	閏3月2日	晴	
1830年	4月25日	文政13年	閏3月3日	曇	午の刻頃より雨降 夜二入（今日御慰の御能、人事異動、江戸で北川族を御附御側御用人に仰せ付けられ御役知100石・小笠原良八を勘定奉行兼役役知50石下し置かれる）
1830年	4月26日	文政13年	閏3月4日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入
1830年	4月27日	文政13年	閏3月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止（人事異動、御発駕来る12日?、津輕将監殿より川鯉1尺充拝受、頃日天気不正・明5日神明宮で日和上御神事差上げる）
1830年	4月28日	文政13年	閏3月6日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入（去る3日夜九時頃鰯ヶ沢漁師町で出火・類焼潰家共13軒で鎮火・火元慎）
1830年	4月29日	文政13年	閏3月7日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止（人事異動、去る5日金木組小栗崎村で出火・類焼とも4軒焼失・火元百姓他村預け）
1830年	4月30日	文政13年	閏3月8日	晴	（人事異動）

1830年	5月1日	文政13年閏3月9日	曇	卯の刻過ぎより小雨降 辰の刻頃止 巳の刻過ぎより時々雨降 夜二入
1830年	5月2日	文政13年閏3月10日	晴	昨夜風強し
1830年	5月3日	文政13年閏3月11日	快晴	戌の刻過ぎより雨降
1830年	5月4日	文政13年閏3月12日	曇	昨夜より之雨今暁丑の刻頃止 昨夜風強し (別段御用に御賞、去る8日暮六時頃平岡町に捨子・駒越町の男に預け養育、一昨10日夜広田組川山村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)
1830年	5月5日	文政13年閏3月13日	晴	
1830年	5月6日	文政13年閏3月14日	曇	申の刻頃より雨降 夜二入
1830年	5月7日	文政13年閏3月15日	曇	昨夜之雨今日に及ぶ 未の刻頃止 (御賞、岩木川出水・五時頃より通路差留める、頃日天気不正に付き下居宮で日和揚の御祈禱を仰せ付ける)
1830年	5月8日	文政13年閏3月16日	快晴	(夫喰米・公用人夫の一部を私用した元庄屋に郷士役召し放ち居村より7里四方追放大場御構い) 下から続く 近来乞食共衣類廻り等兎角奢侈になり正民二 欄外(*)に続く
1830年	5月9日	文政13年閏3月17日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止 午の刻頃雷鳴 則刻止 (去る14日赤石組目内崎村で出火・類焼13軒・火元百姓他村預け) 下から続く 菜緒下駄御免願い・ 上に続く
1830年	5月10日	文政13年閏3月18日	晴	戌の刻頃より雨降 (去る13日夜浪岡組三嶋村で出火・屋敷内の建家外馬屋村貯土蔵等焼失・火元庄屋村預け、乞食頭丁助が御用で呼ばれ冬・春秋の悪路の節足ではなく 上に続く
1830年	5月11日	文政13年閏3月19日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻頃止 酉の刻頃より雨降 (浪岡村郷蔵の屋根が切破られ貯粉9俵位が盗み取られる、長勝寺に日和揚大般若御祈禱を仰せ付ける)
1830年	5月12日	文政13年閏3月20日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 下から続く 5貫文下し置かれる)
1830年	5月13日	文政13年閏3月21日	快晴	(去る4日の大雨で金木組長富新村の大溜池を押破る・その手配に御賞、後潟組小国村獵師八平と大川平村獵師松蔵組合で熊5疋・その後1疋狩取る・下々1枚充御酒代鳥目 上に続く
1830年	5月14日	文政13年閏3月22日	曇	丑の刻頃より雨降 巳の刻頃止 (一昨19日浦町組小館村で出火・建家外馬屋穀物等焼失・火元高無居村預け)
1830年	5月15日	文政13年閏3月23日	晴	(去る20日夜角力名成瀬川が夫婦連れで出奔・人相書き・年齢32歳・背5尺5寸位・女房沢年齢20歳・背4尺8寸位肥候方等々)
1830年	5月16日	文政13年閏3月24日	晴	
1830年	5月17日	文政13年閏3月25日	晴	(去る13日夜赤石組目内崎村で出火・類焼とも13軒焼失・組貯米で救い方申し付ける)
1830年	5月18日	文政13年閏3月26日	曇	(深砂宮に御奉納の近衛様御筆御額を御側役が持参し寺社奉行へ相渡す)
1830年	5月19日	文政13年閏3月27日	曇	申の刻頃小雨降 則刻止
1830年	5月20日	文政13年閏3月28日	曇	申の刻頃雷雨 則刻止
1830年	5月21日	文政13年閏3月29日	曇	申の刻頃雨降 則刻止 (去る26日昼八時頃横内組松森村で出火・建家外馬屋飯米等焼失・火元高無居村預け、金木屋某が当年より10年毎年100両充都合1000両を冥加として収める申し出)
1830年	5月22日	文政13年	4月1日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 未の刻頃霰降 (人事異動)
1830年	5月23日	文政13年	4月2日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止 (頃日天気不正に付き住吉宮で日和揚御祈禱)
1830年	5月24日	文政13年	4月3日 曇	午の刻過ぎ雨降 則刻止 (去る昨日赤石組田浦村前浜に長さ8尋胴回り5尋位で切懸ある鯨寄せる)
1830年	5月25日	文政13年	4月4日 曇	辰の刻過ぎより雨降 巳の刻過ぎ止 (塩鱒等を盗んだ下男に憤)
1830年	5月26日	文政13年	4月5日 晴	
1830年	5月27日	文政13年	4月6日 快晴	(江戸で旧冬才覚に骨折りとして津軽屋に100俵10人扶持増・12人に100俵充て増・その手代等にも3人扶持増等) 下から続く 宅に呼び出し話を聞く?)
1830年	5月28日	文政13年	4月7日 曇	今暁子の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止 (広田組藻川・鶴ヶ岡両村で領地繰合之儀に付き兼て御取扱に罷成居候処・両村の者共大勢東御門前に昨日罷り出でる・同組御代官 上に続く
1830年	5月29日	文政13年	4月8日 曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止
1830年	5月30日	文政13年	4月9日 曇	
1830年	5月31日	文政13年	4月10日 曇	
1830年	6月1日	文政13年	4月11日 晴	
1830年	6月2日	文政13年	4月12日 晴	(去る9日三厩町で角力名鳴瀬川夫婦を召捕る、一昨日の夜四時頃浪岡組杉沢村で出火・建家外馬屋穀物等焼失、昨夜四時過ぎ紺屋町で出火・小屋焼失、最近偽?南鐙が入り込んでいる)
1830年	6月3日	文政13年	4月13日 曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入 (三社並びに稲荷に重き御祈禱を仰せ付ける、3里四方追放を無視して帰った男に3鞭3里四方追放、去る12月15日晚自身番に下駄で傷害の 欄外(**)に続く
1830年	6月4日	文政13年	4月14日 晴	昨夜より雨 今日丑の刻頃止
1830年	6月5日	文政13年	4月15日 晴	
1830年	6月6日	文政13年	4月16日 晴	
1830年	6月7日	文政13年	4月17日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (水主の者共の手段を通報した上乘下乗をそれぞれ昇任)
1830年	6月8日	文政13年	4月18日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (昨夜九時頃和徳町で出火・物置2ヶ所焼失・火元慎)
1830年	6月9日	文政13年	4月19日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止 (浪人等3人が徘徊・碇ヶ関口より送り返す、9日に召捕った夫婦に逃げられる、五山に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)
1830年	6月10日	文政13年	4月20日 晴	(去月28日木作新田下牛潟村で1家出奔、横内組戸山村で類焼とも8軒同4軒の出火2件あり・付け火等のうわさ)
1830年	6月11日	文政13年	4月21日 快晴	(去る17日昼九時頃大間越町で出火・類焼とも31軒小屋3ヶ所板倉1ヶ所焼失)
1830年	6月12日	文政13年	4月22日 快晴	
1830年	6月13日	文政13年	4月23日 快晴	(……文化14年禁裏御即位ニ付……の禁裏を平出としている・台頭とすべきものだろうに)
1830年	6月14日	文政13年	4月24日 晴	(湯野沢銀吹き方吟味格別として昇任、打揚げ物は6月7月に限る・花火は5月28日頃より8月28日頃までに限るとの御目付触れ、伊勢御供米年々57俵大坂御廻船で登せる)
1830年	6月15日	文政13年	4月25日 曇	午の刻頃より雨降 夜二入 (女6人で善光寺参りに出て1人が仙台領に残され金を奪い取られて……子供が召使をつれ迎えに行く)
1830年	6月16日	文政13年	4月26日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻頃止
1830年	6月17日	文政13年	4月27日 快晴	
1830年	6月18日	文政13年	4月28日 曇	今暁丑の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止
1830年	6月19日	文政13年	4月29日 晴	
1830年	6月20日	文政13年	4月30日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入 (大間越大火の御手当て1軒に付き御米1俵充深浦御蔵より下し置かれる)
1830年	6月21日	文政13年	5月1日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻頃止
1830年	6月22日	文政13年	5月2日 晴	
1830年	6月23日	文政13年	5月3日 晴	(一昨17日(いつのこと?) 昼九時頃飯詰組野里・神山村で西の方より黒雲大風雨・天上に靄(普通あいと読み云の盛んな様:たつ巻?) 居り候由・雷雨強く電交じりの雨も・潰れ家1軒か)
1830年	6月24日	文政13年	5月4日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止 (天気不正に付き岩木嵩並びに湯段とも湯治人御差留)
1830年	6月25日	文政13年	5月5日 快晴	(昨昼九時頃藤代村で出火・小屋焼失) 下から続く 不承知の女と姦通の男に15鞭親預け)
1830年	6月26日	文政13年	5月6日 晴	(御奉公見習い願いに対し芸道ご詮議・練熟してから申し出るといわれる、売女同様の女6人に5鞭充弘前町徘徊はまで通り(子供?は親預け)・これらを買った男共に3鞭充等の罰 上に続く
1830年	6月27日	文政13年	5月7日 快晴	
1830年	6月28日	文政13年	5月8日 晴	
1830年	6月29日	文政13年	5月9日 曇	昨夜戌の刻より雨降 今日二およひ時々降 夜二入
1830年	6月30日	文政13年	5月10日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜に入 (*) 紛らわしいと認めない、丹後者詮索・送り返しを命ず) (**) 男に3鞭弘前町徘徊はまで通り、去る12月21日茂森新町で盗みの男に3鞭弘前町御構居村徘徊はまで通り、不正の大鰐組元手代を7里四方追放、盗みの男に3鞭居町徘徊はまで通り)

1830年	7月1日	文政13年	5月11日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止 申の刻頃雨降 酉の刻過ぎ止
1830年	7月2日	文政13年	5月12日	晴	
1830年	7月3日	文政13年	5月13日	曇	(藤崎村で掃除小人の親1家が出奔)
1830年	7月4日	文政13年	5月14日	曇	(大鰐村加賀助より初大角豆差上げる)
1830年	7月5日	文政13年	5月15日	曇	(御家中知行米の二歩を亥年(文政10年)より冥加として差上げたが巳年(文政16年?)までそのまま続けるとの家老口達)
1830年	7月6日	文政13年	5月16日	曇	巳の刻頃より小雨時々降 夜二入
1830年	7月7日	文政13年	5月17日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止
1830年	7月8日	文政13年	5月18日	晴	(大鰐村加賀助より初茄子差上げる)
1830年	7月9日	文政13年	5月19日	曇	辰の刻頃雨降 則刻止 戌の刻頃雨降 則刻止 (大鰐村加賀助より初真瓜・胡瓜差上げる、大間越隠道を入り盗み徒の仙台出生の男を破ヶ間口送返し)
1830年	7月10日	文政13年	5月20日	曇	午の刻頃雨降 則刻止 申の刻頃雨降 則刻止ム (黒石領中野村徘徊の仙台出生の男を狩場沢口より返送する・賈金銀取扱仙台出生かどうかを問い合わせる、御発駕御入用金など切迫)
1830年	7月11日	文政13年	5月21日	曇	今晩寅の刻頃より雨降 巳の刻頃止 (隠津出をとめる手段をいろいろ検討している(30ページにわたる))
1830年	7月12日	文政13年	5月22日	晴	
1830年	7月13日	文政13年	5月23日	晴	(富田御屋敷に忍び入り盗み徒の男に3鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り)
1830年	7月14日	文政13年	5月24日	晴	
1830年	7月15日	文政13年	5月25日	曇	
1830年	7月16日	文政13年	5月26日	曇	辰の刻頃雨降 則刻止 申の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止
1830年	7月17日	文政13年	5月27日	曇	巳の刻過ぎ雨降 則刻止 (仙台領で1人になり金を奪われた田沢村百姓女房はつが仙台領で手厚い保護を受け帰る、青田の内笛吹くなどの触れ、御郭廻に猥に落書あり)
1830年	7月18日	文政13年	5月28日	晴	(人事異動)
1830年	7月19日	文政13年	5月29日	晴	
1830年	7月20日	文政13年	6月1日	晴	今晩丑の八刻土用入 (人事異動)
1830年	7月21日	文政13年	6月2日	晴	
1830年	7月22日	文政13年	6月3日	晴	未の刻頃より雷鳴 申の刻過ぎ止
1830年	7月23日	文政13年	6月4日	晴	巳の刻過ぎより雷鳴 申の刻頃止
1830年	7月24日	文政13年	6月5日	晴	(増館村11軒の者共時疫・若干もめて施薬)
1830年	7月25日	文政13年	6月6日	晴	
1830年	7月26日	文政13年	6月7日	快晴	(人事異動)
1830年	7月27日	文政13年	6月8日	晴	(昨夜九時過ぎ油川村で出火・類焼とも60軒余・今朝五時頃鎮火)
1830年	7月28日	文政13年	6月9日	快晴	
1830年	7月29日	文政13年	6月10日	晴	
1830年	7月30日	文政13年	6月11日	快晴	(悪者と知らずに泊めた男に過料銭1貫200文、去る6日夜油川村伝馬町で出火(既報)類焼60軒余・火元他村預け)
1830年	7月31日	文政13年	6月12日	快晴	(去る12月尾崎村の大工一家が出奔)
1830年	8月1日	文政13年	6月13日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 酉の刻頃止 (随意の勤め方あり笠原八郎兵衛・同近江の御役職召放慎・添田儀左衛門に御役召放慎・山鹿次郎作に慎)
1830年	8月2日	文政13年	6月14日	曇	昨夜戌の刻頃より雨時々降 今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止 (去る4日大組警固林某が出奔)
1830年	8月3日	文政13年	6月15日	曇	(人事異動)
1830年	8月4日	文政13年	6月16日	曇	(その時々々の権威に阿り(おもねり・機嫌をとり)として工藤某を役下げ)
1830年	8月5日	文政13年	6月17日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入
1830年	8月6日	文政13年	6月18日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 申の刻頃止 (大鰐村加賀助と兵左衛門より御初米の出穂差上げる)
1830年	8月7日	文政13年	6月19日	曇	午の刻頃より小雨降 則刻止 (藤代組川村より出穂差上げる、先日油川出火の節女斗の家に手伝い・物を持ち出して行方不明・捕まる)
1830年	8月8日	文政13年	6月20日	晴	下から続く 5日早く他の何かと比較して2日早い)
1830年	8月9日	文政13年	6月21日	晴	午の刻頃雷鳴 則刻止 (大鰐村加賀助と兵左衛門より御初米出穂差出す・去年は5月2日植付け66日目で差上げ当年は4月17日植付け61日目で差上げる・当年は日数に引合 上に続く)
1830年	8月10日	文政13年	6月22日	晴	(白川駅御出入問屋の居宅が4月11日夜に焼失・金200両を拝借したいとのこと・行列方で1000疋下し置かれるようにする)
1830年	8月11日	文政13年	6月23日	晴	(当菜新種附相場30日平均で4斗入り1俵30目2分6厘6毛・水油1升が5文目6分6厘8毛に相当・1升を5文目5分に商売するよう申し付ける、勘定小頭格山田左九郎を長柄の者に役下げ)
1830年	8月12日	文政13年	6月24日	快晴	頃日暑強し
1830年	8月13日	文政13年	6月25日	晴	(鯿ヶ沢町の久保屋某が麦稈(ばっかん・麦わら)で作る濁酒3000石を仕込み売り出したい・値段は清酒より2割下にしたいとの申し出・了とする、一戸某の博打をした親が出奔)
1830年	8月14日	文政13年	6月26日	曇	辰の刻過ぎより雨降 則刻止
1830年	8月15日	文政13年	6月27日	晴	
1830年	8月16日	文政13年	6月28日	快晴	(大道寺次郎市・野呂典司を馬廻組頭・竹内衛士を留守居熊頭・毛内有衛門・工藤伝兵衛を用人に等の人事異動)
1830年	8月17日	文政13年	6月29日	快晴	戌の刻雷鳴 則刻止
1830年	8月18日	文政13年	7月1日	曇	巳の刻頃より小雨時々降 未の刻頃止 (大田勘解由を用人に等の人事異動、両替屋共に当時銭払底、稀なる高年・女102歳生涯1人扶持・90歳以上12人(男6女6)に御賞2貫文)
1830年	8月19日	文政13年	7月2日	晴	
1830年	8月20日	文政13年	7月3日	快晴	下から続く の途中子ムロ(根室)沖で異国船2艘見うける)
1830年	8月21日	文政13年	7月4日	快晴	頃日暑強し (去る亥年(文政10年)御繰合方に取立の石見某が既調達分を冥加として差上の上御免願い・了生涯3人扶持) 下から続く 御手船がタナシリ(クナシリ?) 上に続く
1830年	8月22日	文政13年	7月5日	晴	今晩子の刻頃小雨降 則刻止 午の刻過ぎより小雨降 則刻止 (間山鉄五郎を寄合格郡奉行にとの人事異動、この度銭払底に付き1朱4文宛の切賃とする、去月19日松前様 上に続く)
1830年	8月23日	文政13年	7月6日	晴	未の刻頃雨降 則刻止
1830年	8月24日	文政13年	7月7日	快晴	(人事異動)
1830年	8月25日	文政13年	7月8日	快晴	
1830年	8月26日	文政13年	7月9日	曇	巳の刻過ぎより雨降 夜二入
1830年	8月27日	文政13年	7月10日	快晴	昨夜より雨 今晩丑の刻頃止 (目形7分が御定法の1朱銀が5・6分よりないものが出回っているらしい)
1830年	8月28日	文政13年	7月11日	晴	(御賞)
1830年	8月29日	文政13年	7月12日	晴	戌の刻頃雨降 則刻止 (御初米代官より差出す)
1830年	8月30日	文政13年	7月13日	曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入 申の刻頃地震少し
1830年	8月31日	文政13年	7月14日	晴	昨夜雨今日に及ぶ 辰の刻頃止

1830年	9月1日	文政13年	7月15日	曇	巳の刻頃雨降 則刻止 今夕風強し
1830年	9月2日	文政13年	7月16日	快晴	
1830年	9月3日	文政13年	7月17日	曇	
1830年	9月4日	文政13年	7月18日	快晴	(小納戸米積の遠州船が6月7日夜より8日まで大風雨・常州鹿島沖で米荷打ち13日に相州浦賀湊に入津・金1両に付き8斗3升4合で御払い)
1830年	9月5日	文政13年	7月19日	快晴	(無刻印の木の売買でいろいろ罰せられている)
1830年	9月6日	文政13年	7月20日	曇	巳の刻頃より雨時々降 戌の刻頃止 (御発駕日限来月13日と仰せ出される、去る16日夜4時頃十三町で出火・建家40軒余焼失)
1830年	9月7日	文政13年	7月21日	快晴	
1830年	9月8日	文政13年	7月22日	晴	
1830年	9月9日	文政13年	7月23日	晴	(青女子村の養子で養母と姦通・入牢、江戸詰め中出奔の男3人に9鞭弘前徘徊御免の上倅等引渡し、新田方物書等を役下げ)
1830年	9月10日	文政13年	7月24日	晴	(山方締役・勘定人に御賞、去る16日十三町の出火の類焼とも57軒土蔵1ヶ所焼失・火元豆腐家菩提寺で慎)
1830年	9月11日	文政13年	7月25日	晴	(長柄の者山田左九郎病死・その子を掃除小人に新規召抱え、厳しく御制禁の処瀬溜池に今以って釣致す者あり……、去る23日夜4時頃広田組鶴ヶ岡村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け)
1830年	9月12日	文政13年	7月26日	晴	
1830年	9月13日	文政13年	7月27日	曇	今晩寅の刻頃より小雨降 卯の刻過ぎ止 (駒越組兼平村の男が生き亀差上げる)
1830年	9月14日	文政13年	7月28日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止 戌の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜二入 (人事異動)
1830年	9月15日	文政13年	7月29日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 申の刻頃より雨時々降 夜二入
1830年	9月16日	文政13年	7月30日	晴	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 (5月26日夜東御蔵の内東側の御蔵が切破られる・御米2・3俵盗み取られた?)
1830年	9月17日	文政13年	8月1日	快晴	戌の刻頃より雨降 亥の刻頃止 (大道寺隼人を家老小笠原良ハを大寄合格用人手伝に等の人事異動、先年居宅焼失の尾花沢御本陣御金50両拝借願い・断っているらしい)
1830年	9月18日	文政13年	8月2日	曇	亥の刻頃より雨降 (岩木山の苔の実を百沢寺より差出す・御発駕御小納戸金よりの1000両の内の600両で御切米を渡す・御発駕金が400両しかなく困っている)
1830年	9月19日	文政13年	8月3日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止 巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1830年	9月20日	文政13年	8月4日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 酉の刻頃止
1830年	9月21日	文政13年	8月5日	曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止 (去月6日晚付人殺害の大館家中が手配される・年齢26・7歳勢5尺1・2寸)
1830年	9月22日	文政13年	8月6日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (十三町の焼失57軒がいずれも極究・御米170俵拝借願い・御米1軒に1俵充御手当て下し置かれ他にも支援)
1830年	9月23日	文政13年	8月7日	曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 (仙台に母を迎えに行った田沢村の男が空戻り・母はつは出奔)
1830年	9月24日	文政13年	8月8日	晴	
1830年	9月25日	文政13年	8月9日	晴	今晩丑の刻頃雷鳴 則刻止 (村送り中の秋田大館の男が柏木町村で病死)
1830年	9月26日	文政13年	8月10日	曇	(この度西郭西御門へ切仰せ付けられ候に付き……)
1830年	9月27日	文政13年	8月11日	曇	今晩子の刻過ぎ小雨降 則刻止 (頃日天気不正・丹後者詮索送り返しの触れ、当春より飯詰組持子沢村で時疫)
1830年	9月28日	文政13年	8月12日	曇	
1830年	9月29日	文政13年	8月13日	快晴	下から続く 岩木川出水10歩余御用人罷り越す)
1830年	9月30日	文政13年	8月14日	曇	(6月10日夜広田組吹畑村の妻子3人が家出) 16日から続く 波渡・御馬廻組頭溝江に命ずる・追加できる部隊は津軽主水・高倉主税・西の郭防ぎ方堀五郎左衛門・ 上に続く
1830年	10月1日	文政13年	8月15日	曇	卯の刻頃より雨時々降 巳の刻過ぎ止 (御家老から万端儉約の口達、勘定奉行等の人事異動、この度格段の御省略として登城の際?の供数を制限している)
1830年	10月2日	文政13年	8月16日	曇	今晩丑の刻頃より雨降 未の刻過ぎ洪水 申の刻過ぎ雨止 酉の刻頃より雨時々降 (今日洪水に付き明日立広敷女中・今日立飛脚を日延、岩木川水防対策を御手廻組頭 14日に続く
1830年	10月3日	文政13年	8月17日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 酉の刻過ぎ止 (人事異動、昨16日長柄の者の産褥の妻子2人流死・駒越橋続きで4・5軒・新町橋際で2・3軒・紺屋町で1・2軒流失)
1830年	10月4日	文政13年	8月18日	晴	(駒越渡場が今五時頃より長船竿越しの旨達す、昨17日八時過ぎ藤崎川落水・船渡し往来回復・今九時より岩木川落水・両船とも通路・樋口村の上土居300間等多くの土居が切れる)
1830年	10月5日	文政13年	8月19日	曇	巳の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (居宅流失の御家中等に御米18俵下し置かれる、両社並びに護穀神で日和湯の御祈禱を仰せ付ける)
1830年	10月6日	文政13年	8月20日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻頃止
1830年	10月7日	文政13年	8月21日	晴	今日岩木山二雪初て見 (人事異動)
1830年	10月8日	文政13年	8月22日	曇	辰の刻頃雨降 則刻止
1830年	10月9日	文政13年	8月23日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 (当御発駕を来月朔日と仰せ出される) 下から続く 亀が岡村でそれぞれ一家が家出)
1830年	10月10日	文政13年	8月24日	晴	申の刻頃より雨時々降 戌の刻頃より時々雷鳴 (去る16日の洪水で駒越組御所村の高無の居宅等流失・御救い御米1俵下し置かれる) 下から続く 車力村・旧冬同組 上に続く
1830年	10月11日	文政13年	8月25日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 (近年雉子払底・雌雄2羽の替りに塩鰯2本御献備仰せ付ける、去る23日青森松森町で出火・類焼2軒潰家2軒・火元慎、当3月木作新田 上に続く
1830年	10月12日	文政13年	8月26日	曇	亥の刻頃より雨降 (去る16日の洪水で御召馬担当の22人に御米1俵充御手当て、5ヶ村8人の者共に御救御米6俵・9人の御家中に御米1俵充下し置かれる、亀甲御蔵の濡糶も出している)
1830年	10月13日	文政13年	8月27日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 酉の刻頃止 (御台所頭より初鮭1尺差出す、住吉宮に日和湯の御祈禱を仰せ付ける、増館村の者共当春より時疫)
1830年	10月14日	文政13年	8月28日	晴	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (去る25日暁七半時頃青森安方町で小屋が雷火で3尺斗燃え上がる・早速取鎮める、去月12日蟹田を出帆の遠州船が15日夜仙台領沖で荷打ち)
1830年	10月15日	文政13年	8月29日	晴	酉の刻頃雨降 則刻止 (御賞、50石町裏通りに小児の死骸・(16日流死の)長柄の者の子として渡す、広須組蓮川両村田方去る24日夜風雨にて稲粒落損候旨……)
1830年	10月16日	文政13年	8月30日	曇	亥の刻過ぎより小雨降
1830年	10月17日	文政13年	9月1日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 (御馬上にて八つ過ぎ御発駕)
1830年	10月18日	文政13年	9月2日	快晴	(非常の大赦・26人を出牢の上弘前御免など・延々とその判定基準などが書いてある)
1830年	10月19日	文政13年	9月3日	曇	今晩寅の刻頃雷雨強し 則刻止 雨辰の刻頃止
1830年	10月20日	文政13年	9月4日	快晴	戌の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃雷鳴 則刻止
1830年	10月21日	文政13年	9月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (去る2日夜赤石組風合瀬村に落雷・建家稲草焼失男1人建馬4疋焼死)
1830年	10月22日	文政13年	9月6日	快晴	
1830年	10月23日	文政13年	9月7日	快晴	(水害の御米1俵を上納した御家中2人に御賞金100疋充、和田某・手塚某に一粒金丹5剂調合を仰せ付ける)
1830年	10月24日	文政13年	9月8日	快晴	(左近将監殿より川鮭1尺充拝受)
1830年	10月25日	文政13年	9月9日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止 午の刻頃雨降 則刻止
1830年	10月26日	文政13年	9月10日	曇	午の刻頃小雨降 則刻止
1830年	10月27日	文政13年	9月11日	曇	卯の刻頃より雨降 辰の刻頃止 午の刻頃雨降 則刻止 (御検見人(山上才助等)26手)
1830年	10月28日	文政13年	9月12日	曇	(人事異動)
1830年	10月29日	文政13年	9月13日	晴	
1830年	10月30日	文政13年	9月14日	晴	今晩寅の刻過ぎ地震少し
1830年	10月31日	文政13年	9月15日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 申の刻頃止

1830年	11月1日	文政13年	9月16日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1830年	11月2日	文政13年	9月17日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (初鯉2本高岡御神供、大鰐組久吉村で銀を吹きたてて詮議・去る3日出奔の男2人の人相書き:63歳せい5尺くらい・43歳せい5尺3寸位等々)	
1830年	11月3日	文政13年	9月18日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 申の刻頃止	
1830年	11月4日	文政13年	9月19日 快晴		
1830年	11月5日	文政13年	9月20日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入	
1830年	11月6日	文政13年	9月21日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 酉の刻過ぎより雨時々降	
1830年	11月7日	文政13年	9月22日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入	
1830年	11月8日	文政13年	9月23日 曇	昨夜より之雨今晩卯の刻過ぎ止	
1830年	11月9日	文政13年	9月24日 晴	酉の刻頃より雨時々降	
1830年	11月10日	文政13年	9月25日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止	
1830年	11月11日	文政13年	9月26日 晴		
1830年	11月12日	文政13年	9月27日 晴	今晩寅の刻頃雨降 則刻止	
1830年	11月13日	文政13年	9月28日 曇	巳の刻頃雨降 則刻止	
1830年	11月14日	文政13年	9月29日 曇		
1830年	11月15日	文政13年	10月1日 曇	昨夜雪降 一寸程積 卯の刻過ぎ雷鳴 則刻止 今日雪少降	
1830年	11月16日	文政13年	10月2日 曇	今晩寅の刻過ぎ雨降 則刻止	
1830年	11月17日	文政13年	10月3日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 夜二入	
1830年	11月18日	文政13年	10月4日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入	
1830年	11月19日	文政13年	10月5日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止	
1830年	11月20日	文政13年	10月6日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積	
1830年	11月21日	文政13年	10月7日 晴	昨夜雪降 一寸程積 (三国屋某大津屋某の去る秋仕込み味噌銭10文目に付き目形6貫目値段で去年の通り売賃) 下から続く 御廻勤御機嫌良く御着府)	
1830年	11月22日	文政13年	10月8日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 八寸程積 (去る3月に十三町奉行よりの銭送り状箱・深浦町奉行よりの銭送り状箱の内の金子紛失・犯人不明、去月21日屋形様御老中様方	上に続く
1830年	11月23日	文政13年	10月9日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 亥の刻頃雷鳴 則刻止	
1830年	11月24日	文政13年	10月10日 曇	昨夜雪降 七寸程積 今日風強し 今日雪少降	
1830年	11月25日	文政13年	10月11日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 未の刻頃止	
1830年	11月26日	文政13年	10月12日 晴	今晩寅の刻頃雨降 則刻止 亥の刻頃より雨降 (持子沢村の時疫残らず快気・施薬の佐々木某に薬代料94匁下し置かれる、米御印13文目大豆御印8文目値段にする)	
1830年	11月27日	文政13年	10月13日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止	
1830年	11月28日	文政13年	10月14日 曇	卯の刻頃より雨降 未の刻頃止 辰の刻頃雷鳴 則刻止 今日雪少降	
1830年	11月29日	文政13年	10月15日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積	
1830年	11月30日	文政13年	10月16日 曇	昨夜風強 今晩寅の刻頃雨降 則刻止 今日霰少し降 (勘定奉行武田準左衛門を長柄奉行格に勤料5人扶持増等の人事異動、御賞)	
1830年	12月1日	文政13年	10月17日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降	
1830年	12月2日	文政13年	10月18日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (人事異動)	
1830年	12月3日	文政13年	10月19日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (元家老笠原八郎兵衛の慎御免・塾居・知行の内500石召上げられ倅近江に家督、人事異動)	
1830年	12月4日	文政13年	10月20日 曇	巳の刻過ぎ雨降 則刻止 今日雪少降 下から続く 青森51文目3分7厘8毛・鯉ヶ沢46文目4分))	
1830年	12月5日	文政13年	10月21日 晴	下から続く 船殻入札払い:銭2貫105匁で御払い、弘前・青森・鯉ヶ沢の三ヶ所平均(米1俵):46文目8分2厘6毛(48文目2厘2毛(1文目2分お定め役):弘前46文目3分・	上に続く
1830年	12月6日	文政13年	10月22日 曇	辰の刻頃より雨降 午の刻頃止 今日雪少降 下から続く 同19日までの新米日々附相場平均値段(1俵):31文目8分、去月22日御手船安全丸が深浦で洞懸中に破船・	上に続く
1830年	12月7日	文政13年	10月23日 曇	昨夜風強し 雪式寸程積 今日雪少降 (金子2兩持参の上廣二歩金2切南鐙19片と取り替えた男に居村御構いの上5里四方追放) 下から続く 申し付ける、当月5日より	上に続く
1830年	12月8日	文政13年	10月24日 曇	昨夜雪降 一寸程積 (9月18日より当月18日までの粒油附相場平均:4斗入り1俵28文目3分・水油1升5文目6分2厘6毛に相当・11月朔日より来2月中は1升を5文目6分5厘に	上に続く
1830年	12月9日	文政13年	10月25日 晴	酉の刻頃小雨降 則刻止 (新酒値段:1升1文目6分・1合売り10文充)	
1830年	12月10日	文政13年	10月26日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積	
1830年	12月11日	文政13年	10月27日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 七寸程積	
1830年	12月12日	文政13年	10月28日 曇	昨夜雪降 式寸程積 今日雪降 一寸程積	
1830年	12月13日	文政13年	10月29日 晴	昨夜雪降 一寸程積 戌の刻頃雨降 則刻止	
1830年	12月14日	文政13年	10月30日 晴	(当江戸御廻船遠州船が仙台領金花(華)山沖で荷打ち・南部領田之濱に落船(意味不明))	
1830年	12月15日	文政13年	11月1日 曇	未の刻頃より雷鳴 申の刻過ぎ止 申の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止 (米148257石程・内13327石程但し当毛引並びに諸品成共・残って134930石程)	
1830年	12月16日	文政13年	11月2日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (去月晦日飯詰組一ノ坪村で出火・建家等焼失・火元が願もなく他の組に住みもめている)	
1830年	12月17日	文政13年	11月3日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積	
1830年	12月18日	文政13年	11月4日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (先ごろの洪水に付き東長町三国屋某等から救合のため米50俵など渡される、昨14日津軽多膳に遠慮、(多分)商人多数に御賞)	
1830年	12月19日	文政13年	11月5日 晴	(津軽監物に遠慮)	
1830年	12月20日	文政13年	11月6日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止	
1830年	12月21日	文政13年	11月7日 曇	今日雪降 三寸程積	
1830年	12月22日	文政13年	11月8日 曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 五寸程積	
1830年	12月23日	文政13年	11月9日 曇	昨夜雪降 二寸程積 辰の刻頃雨降 則刻止 (当新酒仮値段1升を1文目7分に仰せ付け1合売りは11文充とする)	
1830年	12月24日	文政13年	11月10日 晴	戌の刻頃より雨時々降	
1830年	12月25日	文政13年	11月11日 晴	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止 (去る8日夜四半時過青森新町で出火・類焼4軒潰家1軒・火元慎、去る7日暮六半時頃蜷貝町で網小屋焼失・火元戸ノ)	
1830年	12月26日	文政13年	11月12日 晴	今晩寅の刻頃雨降 則刻止 戌の刻頃より雨時々降 下から続く 建家外馬屋等焼失・火元庄屋と代庄屋不明で共に居村預け)	
1830年	12月27日	文政13年	11月13日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止 今晩寅の刻過ぎ雷鳴 即刻止 今日雪降 式寸程積ル 下から続く 引合23日早い、一昨11日夜八つ時頃金木組川蔵村で出火・	上に続く
1830年	12月28日	文政13年	11月14日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (初鯉2本御台所頭より、去る6日暮より翌7日朝まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・当年は去年より40日早く節に	上に続く
1830年	12月29日	文政13年	11月15日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (去る12日木作新田栄田村で出火・建家土蔵等焼失・火元郷土を慎)	
1830年	12月30日	文政13年	11月16日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止	
1830年	12月31日	文政13年	11月17日 晴	昨夜雪少降	

1831年	1月1日	文政13年	11月18日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日風強し (昨16日晝七時紺屋町に捨子・前の家の者に養育させる、昨17日夜田舎館組垂柳村で出火・建家等焼失火元高無居村預け)
1831年	1月2日	文政13年	11月19日	曇	昨夜雪降	七寸程積	今日雪降 三寸程積
1831年	1月3日	文政13年	11月20日	曇	昨夜雪降	二寸程積	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1831年	1月4日	文政13年	11月21日	晴	昨夜より之雨	今暁寅の刻過ぎ止	(去る17日浦町組上野村で出火・建家等のほか他人の外馬屋等焼失・火元帯刀御免を慎)
1831年	1月5日	文政13年	11月22日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降 (昨夜六時過ぎ元長町銅屋の細工小屋焼失・火元慎、増館組吉野田村で時疫・施薬)
1831年	1月6日	文政13年	11月23日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 一尺程積 未二刻寒二入
1831年	1月7日	文政13年	11月24日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 三寸程積
1831年	1月8日	文政13年	11月25日	曇	昨夜雪降	六寸程積	今日雪降 三寸程積
1831年	1月9日	文政13年	11月26日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 三寸程積 下から続く 下乗1人溺死・米一切揚らず、8月7日青森出帆の御手船嘉祥丸も荷打・上総の国奥津湊に入津)
1831年	1月10日	文政13年	11月27日	晴	昨夜雪降	二寸程積	辰の刻過ぎ地震少し 下から続く 寅年)まではまで通りとの宣言、8月14日青森出帆の御手船万歳丸が上総沖で大時化22日鹿島郡高野浦で破船・ 上に続く
1831年	1月11日	文政13年	11月28日	晴	昨夜雪少降	下から続く	同破損家560軒・溺死男4人・同女3人・牛馬怪我なし、当9月までの御合力歩引(御家中への返済見込みのない藩の借金)を来る巳の年(今年は 上に続く
1831年	1月12日	文政13年	11月29日	晴	下から続く	破損21・溜池破損99・用水堰押破336・川欠121・街道欠崩47・堤押破274・山崩15・堂破損2・材木流失19450本・在町流家22軒・同潰家3軒・同半潰家7軒・	上に続く
1831年	1月13日	文政13年	11月30日	曇	今日雪降	二寸程積	下から続く 番所流失1・橋流失1・水穿2・堀〇(土偏に分?)押埋所々・以下在町橋大小流失383・同破損45・水門流失7・用水堰流失399・水門 上に続く
1831年	1月14日	文政13年	12月1日	曇	今日雪降	二寸程積	亥の刻過ぎ地震少 (当8月15日より16日までの大雨被害：平水より1丈9尺余の出水・城内堀土居欠崩6・土留欠崩5・柵立破損4・土堀流失1・埋門流失1・ 上に続く
1831年	1月15日	文政13年	12月2日	晴	辰の刻頃地震少	戌の刻頃より雨時々降	
1831年	1月16日	文政13年	12月3日	曇	昨夜より雨	今日に及ぶ 時々降 酉の刻頃止 酉の刻過ぎ雷鳴 則刻止	
1831年	1月17日	文政13年	12月4日	曇	昨夜風強	雪二寸程積	今日雪少降 (御省略中の退出時：3月より9月は九時半・10月より2月は八時に退出・御用あれば格別、書付は朝四時より四時半までに差出せとの指示)
1831年	1月18日	文政13年	12月5日	晴	今暁丑の刻頃雨降	則刻止	戌の刻過ぎより雨降
1831年	1月19日	文政13年	12月6日	曇	昨夜より雨	今暁寅の刻頃止	
1831年	1月20日	文政13年	12月7日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日吹雪強し (十三湯が去月29日までに残らず氷閉)
1831年	1月21日	文政13年	12月8日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪少降 頃日寒強し
1831年	1月22日	文政13年	12月9日	晴	昨夜雪降	式寸程積	
1831年	1月23日	文政13年	12月10日	曇	今日雪降	三寸程積	
1831年	1月24日	文政13年	12月11日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 五寸程積 (孝行者等に御褒美、昨夜四時頃堀越組清水森村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1831年	1月25日	文政13年	12月12日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降 二寸程積 (無刻印の木を見逃した代官小使を掃除小人に役下げ)
1831年	1月26日	文政13年	12月13日	曇	昨夜雪少降	今日雪降 三寸程積	
1831年	1月27日	文政13年	12月14日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪少降 (去る3日ハツ時過ぎ十三渡し船覆る・8人中2人溺死)
1831年	1月28日	文政13年	12月15日	曇	昨夜雪少降	今日雪少降	
1831年	1月29日	文政13年	12月16日	曇	今日雪少降	酉の刻頃より雨降 亥の刻頃雷鳴強し	
1831年	1月30日	文政13年	12月17日	曇	昨夜より雨	今暁寅の刻頃止 今暁風強し 今日吹雪強し	
1831年	1月31日	文政13年	12月18日	晴	昨夜雪降	四寸程積	
1831年	2月1日	文政13年	12月19日	晴			
1831年	2月2日	文政13年	12月20日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪少降 頃日寒強し
1831年	2月3日	文政13年	12月21日	晴			
1831年	2月4日	文政13年	12月22日	曇	昨夜雪少降	今日雪少降	(一昨20日夜五時前青森町奉行所勝手より出火・西風烈しく大火・四時頃取鎮める)
1831年	2月5日	文政13年	12月23日	曇	今日雪降	三寸程積	
1831年	2月6日	文政13年	12月24日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日吹雪強し
1831年	2月7日	文政13年	12月25日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降 三寸程積 (いろいろな御賞)
1831年	2月8日	文政13年	12月26日	曇	昨夜雪少降	今日雪少降	
1831年	2月9日	文政13年	12月27日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪降 二寸程積
1831年	2月10日	文政13年	12月28日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降 三寸程積 (いろいろな御賞、米穀払底・酒造りは例年の3分の2にとの公儀書付、寒造酒値段1升を1文目8分・1合売りは是まで通り11文に仰せ付ける)
1831年	2月11日	文政13年	12月29日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 三寸程積 (御移徒(屋敷を移ること?)に付いて配当・座当共417人に15文充6貫250文下し置かれる)
1831年	2月12日	文政13年	12月30日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降 四寸程積
1831年	2月13日	天保2年	正月1日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降 三寸程積
1831年	2月14日	天保2年	正月2日	晴	昨夜雪降	二寸程積	
1831年	2月15日	天保2年	正月3日	晴	昨夜雪降	一寸程積	
1831年	2月16日	天保2年	正月4日	晴	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降
1831年	2月17日	天保2年	正月5日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降 二寸程積
1831年	2月18日	天保2年	正月6日	曇	昨夜雪少降	今日雪降 二寸程積	頃日寒強 (旧臘16日江戸城で年号を天保と御改を仰せ出される、去る11日西館宇膳を御家老職に等の人事異動、江戸で多数に御賞)
1831年	2月19日	天保2年	正月7日	曇	昨夜雪少降	今日雪降 三寸程積	
1831年	2月20日	天保2年	正月8日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降
1831年	2月21日	天保2年	正月9日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降
1831年	2月22日	天保2年	正月10日	晴			
1831年	2月23日	天保2年	正月11日	曇	辰の刻頃より雨降	巳の刻過ぎ止	(昨10日暮六時半時本町に捨子・60日くらいの子・前の家に養育させておく)
1831年	2月24日	天保2年	正月12日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降	申の刻頃止 (土岐渡人病死)	
1831年	2月25日	天保2年	正月13日	曇	昨夜吹雪強し	今日吹雪強し	
1831年	2月26日	天保2年	正月14日	晴			
1831年	2月27日	天保2年	正月15日	曇	昨夜雪少降	今日雪降 五寸程積	
1831年	2月28日	天保2年	正月16日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪降 二寸程積

1831年	3月1日	天保2年	正月17日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降	三寸程積	(造酒米三步一減を命ず)
1831年	3月2日	天保2年	正月18日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降		
1831年	3月3日	天保2年	正月19日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪降	三寸程積	(御上屋敷御普請皆出来に付きの御賞等、江戸で人事異動)
1831年	3月4日	天保2年	正月20日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	一寸程積	(諸湊並びに三御関所出入り御役銭去る丑10月より当寅9月中迄取調之表金2875両1歩3朱と銭8文目2分1厘之旨達之:意味不明で書いている)
1831年	3月5日	天保2年	正月21日	曇	西の刻頃雨降	即刻止	(人事異動、御賞)		
1831年	3月6日	天保2年	正月22日	曇	昨夜吹雪強し	雪三寸程積	今日吹雪強し	(江戸で御賞(金200疋・南鐐3片・銀3両)、新御殿ではこれまで日々4・5人の御用使いを2人に減らす・その他(個々に記述あり)も節約する)	
1831年	3月7日	天保2年	正月23日	曇	昨夜雪少降				
1831年	3月8日	天保2年	正月24日	曇					
1831年	3月9日	天保2年	正月25日	曇	今日雪降	二寸程積			
1831年	3月10日	天保2年	正月26日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	四寸程積	
1831年	3月11日	天保2年	正月27日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	三寸程積	頃日寒強し(去る11月13日に江戸で拝領の鷹の雁肉を明28日に高岡に献備:今じゃ鳥インフルエンザの元だな)
1831年	3月12日	天保2年	正月28日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降	一寸程積	(人事異動、旧冬より常盤組水沼村で時疫・山崎某に施薬を申し付ける)
1831年	3月13日	天保2年	正月29日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪降	一尺程積	
1831年	3月14日	天保2年	2月1日	曇	昨夜雪少降				
1831年	3月15日	天保2年	2月2日	曇	今晩寅の刻頃より雨降	巳の刻過ぎ止	今日雪少降		
1831年	3月16日	天保2年	2月3日	晴					
1831年	3月17日	天保2年	2月4日	曇	昨夜雪少降	今日雪少降			
1831年	3月18日	天保2年	2月5日	曇	今日雪降	二寸程積	(江戸で人事異動)		
1831年	3月19日	天保2年	2月6日	曇	昨夜吹雪強し	雪二寸程積	今日雪降	一寸程積	
1831年	3月20日	天保2年	2月7日						
1831年	3月21日	天保2年	2月8日	曇	昨夜雪少降	今日雪少降	(一昨6日奥内別段締まり役御中小姓が自害)		
1831年	3月22日	天保2年	2月9日	晴			(自害の御中小姓は船問屋から金を借りて……・船問屋父子等入牢、寒造り酒値段1升に付き1文目9分小売の儀は是まで通り)		
1831年	3月23日	天保2年	2月10日	晴					
1831年	3月24日	天保2年	2月11日	晴	昨夜霰少降	(人事異動、去る8日木作新田小中野村で仏壇灯明より出火・建家等焼失・火元居村預け、去月23日夜十三湯水戸口が押埋……分からも)			
1831年	3月25日	天保2年	2月12日	晴		(去る10日朝五時前青森大工町で出火・類焼1軒・火元慎、当月5日朝蟹田湊領二ツ屋村の6人乗り漁船が宇田沖合いで鮎(分からない)漁中に大風・南部沖合いで破船・3人海死)			
1831年	3月26日	天保2年	2月13日	晴					
1831年	3月27日	天保2年	2月14日	曇	今晩寅の刻頃より雨降	夜二入			
1831年	3月28日	天保2年	2月15日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降	申の刻頃止	(昨日暮六時過ぎ本町三丁目に捨子・30日斗過ぎた女子・金木屋出入の乳持の者に預け置く、岩木川出水・駒越渡場両船共差留める、御賞)	
1831年	3月29日	天保2年	2月16日	晴					
1831年	3月30日	天保2年	2月17日	晴					
1831年	3月31日	天保2年	2月18日	晴	西の刻過ぎより雨時々降	下から続く	勤料下し置かれる・間山鉄五郎に勤料増50俵等の人事異動、大石庄司等に役下げ)		
1831年	4月1日	天保2年	2月19日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ(及今日ではなく今日及としている)	時々降	巳の刻頃止	(御賞、武田準左衛門に御加増20石・奈良庄司に御役料の内俵子30俵御加増の外俵子15俵	上に続く
1831年	4月2日	天保2年	2月20日	晴	今晩寅の刻頃雨降	即刻止			
1831年	4月3日	天保2年	2月21日	晴	西の刻過ぎより雨時々降				
1831年	4月4日	天保2年	2月22日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	午の刻頃止		
1831年	4月5日	天保2年	2月23日	晴					
1831年	4月6日	天保2年	2月24日	曇					
1831年	4月7日	天保2年	2月25日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降	午の刻頃止	(別段締り役に御賞)		
1831年	4月8日	天保2年	2月26日	晴	下から続く	当両都御廻船の上乗98人下乗35人を仰せ付ける)			
1831年	4月9日	天保2年	2月27日	晴		(去る23日夜中まで十三湯水明船通路相成る、先年御借上げ仰せ付けられ候貯糶3600俵余・1ヶ年500俵充返済予定で丑寅卯年は済んだがその後御廻米も過分の増石で滞る、		上に続く	
1831年	4月10日	天保2年	2月28日	曇	午の刻頃より雨時々降	夜二入			
1831年	4月11日	天保2年	2月29日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止	(去る26日夜横内組宮田村で出火・建家穀物等焼失・火元村預け)			
1831年	4月12日	天保2年	2月30日	晴					
1831年	4月13日	天保2年	3月1日	晴					
1831年	4月14日	天保2年	3月2日	曇	申の刻過ぎより雨降	夜二入	(昨夜藤崎組林崎村で出火・建家馬屋等焼失・火元居村預け、去月晦日夕七時頃赤石組舞戸村で火煙上がる・早速取鎮める・火元戸ノ)		
1831年	4月15日	天保2年	3月3日	曇	昨夜より之雨今日及	巳の刻過ぎ止			
1831年	4月16日	天保2年	3月4日	晴	(東蝦夷地の内ウラヤコタン(ウラヤコタン:浜中町にあり)申す所の沖合いに異国船が見えたの報(日時なし))				
1831年	4月17日	天保2年	3月5日	曇	申の刻過ぎより雨降	夜二入	(江戸で御賞)		
1831年	4月18日	天保2年	3月6日	曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止				
1831年	4月19日	天保2年	3月7日	晴	(鉛を銀と偽った秋田出生の男を碇ヶ関口送り返し)				
1831年	4月20日	天保2年	3月8日	晴	戌の刻頃雨降	(去る5日夜高杉組糠坪村で出火・住居焼失・火元後家親預け)			
1831年	4月21日	天保2年	3月9日	曇	昨夜より之雨今日卯の刻過ぎ止				
1831年	4月22日	天保2年	3月10日	晴	下から続く	人数よりも打合候趣に付き(松前より)二番手人数差向候の段申来・猶海岸心得の段黒石表江も申し遣わす、津軽左近将監殿より川鯉1尺充送られる)			
1831年	4月23日	天保2年	3月11日	晴	(東蝦夷地アッケン場所の内ウラヤコタンと申す所の沖合いに滞船の異国船去月24日(12日の記述で未の中刻過ぎ)橋船にて汀に漕ぎ寄せ鉄砲打懸候に付き同所詰合			上に続く	
1831年	4月24日	天保2年	3月12日	晴	西の刻過ぎ地震少し	(一昨10日猿賀組追子野木村で出火・類焼19軒・委細は追って)			
1831年	4月25日	天保2年	3月13日	曇	亥の刻過ぎより雨降	(偽役人として金子を騙し取った男に家財御取り上げの上15鞭黒石町徘徊はまで通り)			
1831年	4月26日	天保2年	3月14日	曇	昨夜より之雨今日二及	巳の刻過ぎ止	(松前東蝦夷地に見えた異国船が見えなくなった)		
1831年	4月27日	天保2年	3月15日	曇	(8月洪水の節川岸近くの牢屋から囚人を解き放ち逃亡者なし全員無事にした町同心を御目見以下御留守居支配とする、不明日に金木組深郷田村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)				
1831年	4月28日	天保2年	3月16日	曇	辰の刻頃より小雨時々降	未の刻頃止			
1831年	4月29日	天保2年	3月17日	曇	(11日の猿賀組追子野木村で出火に馬1疋も焼死・焼失の者に米1俵充浅瀬石村の男が補助・火元他村預け)				
1831年	4月30日	天保2年	3月18日	晴	(今別町本覚寺の安置の秘仏2軀が盗まれた話が出ている)				

1831年	5月1日	天保2年	3月19日 曇	辰の刻過ぎより雨降 午の刻頃止 (先頃常盤組水沼村の者共時疫・快気、盗みで送り返した南部男が立ち返る・送り返す)
1831年	5月2日	天保2年	3月20日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (秋田に奉公に出て無断で逃げ帰った娘関連で鰺ヶ沢の関係者が軽い罰、去月28日小笠原良八に御用間違として遠慮・2日御免、人事異動)
1831年	5月3日	天保2年	3月21日 曇	昨夜より雨今晚寅の刻頃止 巳の刻頃小雨降 即刻止
1831年	5月4日	天保2年	3月22日 曇	
1831年	5月5日	天保2年	3月23日 曇	辰の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止 (盗み沢山の男に3鞭弘前町払い)
1831年	5月6日	天保2年	3月24日 曇	(本行寺の関係者が変な祈禱をして怪我?他領出御差留め)
1831年	5月7日	天保2年	3月25日 晴	(去る23日夜広田組唐笠柳村で出火・建家並びに村貯え米焼失・火元庄屋居村預け)
1831年	5月8日	天保2年	3月26日 晴	亥の刻過ぎより雨降
1831年	5月9日	天保2年	3月27日 曇	昨夜より之雨今日及 巳の刻過ぎ止
1831年	5月10日	天保2年	3月28日 晴	
1831年	5月11日	天保2年	3月29日 晴	下から続く 村の類焼・潰家22軒の内潰屋1軒を除き御米1俵充下し置かれる)
1831年	5月12日	天保2年	4月1日 晴	(湯ノ沢鉛山を自分物入で穿取った山田某を御馬廻格に・金10両2人扶持御加増等の人事異動、木造村から鰺ヶ沢御蔵向け駄下げ米38俵中14俵が手段米・判らん、追子野木 上に続く
1831年	5月13日	天保2年	4月2日 晴	下から続く 刃物を交換しホロト申す所に送り返す・勤番人の小物も1人親船江差置く?拉致されたということ?)
1831年	5月14日	天保2年	4月3日 晴	(当(江戸)御発駕御日限来る(去月20日江戸発の飛脚で知らされているから4月)26日と仰せ出される) 下から続く 蝦夷人を親船に連れ参り蝦夷人の刃物と異国人の 上に続く
1831年	5月15日	天保2年	4月4日 晴	酉の刻過ぎより雨降 夜二入 下から続く 50人程が出崎の山に登る・松前様勤番人と双方鉄砲打ち合う・その後勤番人が西の方ノコヘリベツに引揚相固める・ 上に続く
1831年	5月16日	天保2年	4月5日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻過ぎ止 下から続く 是まで通り・甥方に行かないよう申付ける、蝦夷地の異国船は26日に橋船でウラヤコタンより出崎目当てに漕参り 上に続く
1831年	5月17日	天保2年	4月6日 曇	辰の刻頃より雨時々降 午の刻頃止 (去月23日江戸で津軽多膳に200石加増小笠原良八を御用人に等の人事異動、甥の家に寝徒込米銭等掠取雑言の男に3鞭弘前徘徊 上に続く
1831年	5月18日	天保2年	4月7日 晴	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (昨夜和徳組津賀野村で出火・建家並びに隣家の物置屋根が類焼・火元村預け)
1831年	5月19日	天保2年	4月8日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 巳の刻過ぎ止 (去る8月の洪水で牢屋番人13軒の者共の家財が過半流失・御銭50目充拝借仰付けられる、宿々の幕打ちは御徒頭以上を独礼以上斗とする)
1831年	5月20日	天保2年	4月9日 晴	(去る秋増館組吉野田村で時疫、昨8日夜大光寺村で出火・類焼とも3軒・火元他村預け、去月26日屋形様江戸発駕、江戸で御賞・人事異動)
1831年	5月21日	天保2年	4月10日 晴	
1831年	5月22日	天保2年	4月11日 晴	(昨10日昼四時尾崎組新屋村で出火・類焼とも3軒・火元百姓他村預け、屋形様痔疾で1日遅れている)
1831年	5月23日	天保2年	4月12日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入時々降
1831年	5月24日	天保2年	4月13日 曇	昨夜より雨 今日二及 午の刻過ぎ止 (屋形様が山形でまた遅れているのかな?)
1831年	5月25日	天保2年	4月14日 曇	辰の刻過ぎより時々雨降 未の刻頃止 (土手町の小見世に出生間もない女子捨てて子・前の家の男に養育を申し付ける)
1831年	5月26日	天保2年	4月15日 晴	(屋形様痔疾としてまた1日御日延)
1831年	5月27日	天保2年	4月16日 晴	
1831年	5月28日	天保2年	4月17日 晴	
1831年	5月29日	天保2年	4月18日 晴	酉の刻過ぎより雨降 (八時過ぎ御着城)
1831年	5月30日	天保2年	4月19日 曇	昨夜より之雨今日及 卯の刻過ぎ止 酉の刻過ぎより雨降
1831年	5月31日	天保2年	4月20日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止
1831年	6月1日	天保2年	4月21日 晴	(両度まで送り返したのに否や間道を忍び入りさり乍らさしたる罪状もない南部男を当分入牢)
1831年	6月2日	天保2年	4月22日 曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止 (例年の通り屋敷取持ちの御家中に芦を御貸し渡し・後払いだから売ることを貸すといっている)
1831年	6月3日	天保2年	4月23日 曇	辰の刻頃雷鳴 即刻止 同刻より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1831年	6月4日	天保2年	4月24日 晴	(当2月晦日出奔の鰺ヶ沢の男の人相書き・当卯35歳・せい5尺位等21種の特徴を示す)
1831年	6月5日	天保2年	4月25日 晴	(誓願寺前の小見世に女子の捨てて子・同町の乳持ち江預け養育させる)
1831年	6月6日	天保2年	4月26日 晴	(人事異動、御賞)
1831年	6月7日	天保2年	4月27日 晴	
1831年	6月8日	天保2年	4月28日 曇	申の刻頃雨降 即刻止
1831年	6月9日	天保2年	4月29日 晴	
1831年	6月10日	天保2年	5月1日 曇	未の刻過ぎ雷雨 即刻止 雨時々降 夜に入 (人事異動、御賞)
1831年	6月11日	天保2年	5月2日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止
1831年	6月12日	天保2年	5月3日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止
1831年	6月13日	天保2年	5月4日 曇	
1831年	6月14日	天保2年	5月5日 晴	
1831年	6月15日	天保2年	5月6日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止
1831年	6月16日	天保2年	5月7日 曇	辰の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (馬盗人男にこの節より改めて300日の牢居・その後30鞭10里四方追放大場御構い)
1831年	6月17日	天保2年	5月8日 曇	
1831年	6月18日	天保2年	5月9日 晴	(昨夜松井某門前に生後3・40日の捨子・乳持ちの者に預け養育させる)
1831年	6月19日	天保2年	5月10日 晴	(去る8日暮六半頃金木新田藤枝村寄せ郷芦部村で出火・建家土蔵等馬2疋焼失・火元村預け)
1831年	6月20日	天保2年	5月11日 晴	
1831年	6月21日	天保2年	5月12日 晴	
1831年	6月22日	天保2年	5月13日 晴	
1831年	6月23日	天保2年	5月14日 晴	
1831年	6月24日	天保2年	5月15日 晴	戌の刻頃より雨降 (去る12日夕金木組高根村領田野沢派で出火・建て家米雑穀等焼失・火元百姓村預け)
1831年	6月25日	天保2年	5月16日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止
1831年	6月26日	天保2年	5月17日 晴	
1831年	6月27日	天保2年	5月18日 晴	(当春喜良市村の獵師の弟子が熊3疋狩り取る・鳥目3貫文と下々位の熊皮1枚下し置かれる、刻印のない船を乗り回した男に過料600文、十三町奉行が買入れ米値段1俵33文目立?)
1831年	6月28日	天保2年	5月19日 晴	
1831年	6月29日	天保2年	5月20日 晴	申の刻頃雨降 即刻止 (頃日照り続き・護穀神で風雨順時の御神楽)
1831年	6月30日	天保2年	5月21日 曇	午の刻頃雷雨 即刻止 雨時々降 夜二入

1831年	7月1日	天保2年	5月22日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 巳の刻過ぎ止 (過分の伐り荒しの村人に過料3貫200文・庄屋に600文)
1831年	7月2日	天保2年	5月23日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止 (夜着・刀盗みの男に3鞭親返し)
1831年	7月3日	天保2年	5月24日 晴	
1831年	7月4日	天保2年	5月25日 晴	(去る21日夜広須組楽田村で出火・居宅穀物等焼失・火元居村預け)
1831年	7月5日	天保2年	5月26日 曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止
1831年	7月6日	天保2年	5月27日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 戌の刻過ぎ止 (隠し津出度々言い逃れの男に過料銭1貫500文)
1831年	7月7日	天保2年	5月28日 晴	(検見に手段(多分田方を少なく年貢も少なく)した庄屋等の村役取返し)
1831年	7月8日	天保2年	5月29日 晴	(願の3倍の流木を過伐奥に隠し置いた村に過料銭562文目、山を切りあらされた村に過料銭8貫文・庄屋に600文)
1831年	7月9日	天保2年	6月1日 曇	辰の刻過ぎ地震少し (人事異動、近來百姓町人が身分不相応の大造之葬式・墓所に壮大な石碑・院号居士号等・これらを止める様公儀の御書付が来ている、湯ノ沢鉛山で水抜き工事)
1831年	7月10日	天保2年	6月2日 曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入
1831年	7月11日	天保2年	6月3日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻過ぎ止
1831年	7月12日	天保2年	6月4日 晴	
1831年	7月13日	天保2年	6月5日 曇	下から続く が言い渡され大赦で揚り屋出を仰せ付けられ間も無く立ち返って悪事をした男に9鞭弘前徘徊はまで通り、博打男に3鞭弘前徘徊はまで通り・博打の宿主等に20日押込等)
1831年	7月14日	天保2年	6月6日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止 (質座に称太連込(強請)その他の男共に6鞭充居町徘徊はまで通り・同類に3鞭亥町徘徊はまで通り、先年10里四方追放大場御構い 上に続く
1831年	7月15日	天保2年	6月7日 晴	(青田の内笛吹くなどの触、去る5日横内組戸山村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け、去月26日御米2750俵を積み青森出帆の遠州船が6月朔日夜南部尻屋崎で破船・勘定小頭等派遣)
1831年	7月16日	天保2年	6月8日 晴	
1831年	7月17日	天保2年	6月9日 晴	亥の刻過ぎより雨降
1831年	7月18日	天保2年	6月10日 曇	昨夜より之雨今日二及 亥の刻過ぎ止
1831年	7月19日	天保2年	6月11日 曇	卯の刻頃より小雨降 巳の刻頃止 (人事異動)
1831年	7月20日	天保2年	6月12日 晴	辰の七刻土用入 (去月17日御米4125俵を積み鯉ヶ沢を出帆の大坂御廻船が同22日佐渡沖と覚敷き所から深浦まで戻り濡れ米あり・勘定小頭を見分に派遣、伐株があった村の者共に過料)
1831年	7月21日	天保2年	6月13日 晴	
1831年	7月22日	天保2年	6月14日 晴	
1831年	7月23日	天保2年	6月15日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 申の刻過ぎより小雨降 夜二入 (人事異動)
1831年	7月24日	天保2年	6月16日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入
1831年	7月25日	天保2年	6月17日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 亥の刻頃止
1831年	7月26日	天保2年	6月18日 晴	
1831年	7月27日	天保2年	6月19日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1831年	7月28日	天保2年	6月20日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻過ぎ止 下から続く 長老4人に銭5文目充・小僧1人に銭3文目)
1831年	7月29日	天保2年	6月21日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止 辰の刻過ぎ雷鳴 即刻止 (頃日天気不正に付き丹後者詮索・早速送帰すよう触れ、御布施・導師に銀1枚・和尚7人に銭7文目充、 上に続く
1831年	7月30日	天保2年	6月22日 晴	
1831年	7月31日	天保2年	6月23日 晴	
1831年	8月1日	天保2年	6月24日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止
1831年	8月2日	天保2年	6月25日 曇	午の刻過ぎ小雨降 即刻止
1831年	8月3日	天保2年	6月26日 曇	今晚寅の刻頃雨降 即刻止 午の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (去月(4月か)12日東蝦夷地シヤマニ場所沖合い南の方に異国船2艘見える・その後見えなくなる)
1831年	8月4日	天保2年	6月27日 晴	
1831年	8月5日	天保2年	6月28日 曇	巳の刻過ぎ雨降 即刻止 戌の刻過ぎより雨降 (大鰐村加賀助兵左衛門が御初米の出穂差上げる、大道寺隼人が大病、岩木川出水・駒越渡場の両船とも往来差留める)
1831年	8月6日	天保2年	6月29日 曇	昨夜より之雨今日二及 夜二入(曇 昨夜より之雨今日二及夜二入)
1831年	8月7日	天保2年	6月30日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止 (去る12日打放した花火が屋根に落ち少々焼く・打上げた子供の親に10日間の懷、大筒を巻立てている・鋳型に金属を入れて作るのではないらしい)
1831年	8月8日	天保2年	7月1日 晴	(人事異動、去る28日夜横内組宮田崎村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け) 下から続く 脇差で切付けられ傷2ヶ所・手代は尺取差?で抵抗し逃げる重傷、家老大道寺隼人病死)
1831年	8月9日	天保2年	7月2日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (昨朔日朝五時過ぎ27・8歳の帯刀の男が本町金木屋で買物・(茂森町)派の稲見屋向迄手代に持たせる・蘭庭院裏通りより山の観音堂迄に 上に続く
1831年	8月10日	天保2年	7月3日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻過ぎ止 (神明宮で惣組代官が御神差差上げる、商人以外の婦人は盆踊りに出るな等の触れ)
1831年	8月11日	天保2年	7月4日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止
1831年	8月12日	天保2年	7月5日 晴	(去月2日夜今月朔日まで30日間の新菜種附相場:4斗入り1俵27文目6分1厘・油1升が4文目9分7厘7毛に相当・油1升を5文目に仰せ付ける)
1831年	8月13日	天保2年	7月6日 晴	
1831年	8月14日	天保2年	7月7日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止 申の刻頃雨降 即刻止 亥の刻頃雨降 即刻止 (龍田・広瀬・加茂・貴船の4社に晴雨並びに季候順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1831年	8月15日	天保2年	7月8日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入 (4月13日夜今別町から盗人を連行中蟹田町宿で逃げられた番人等に戸へ)
1831年	8月16日	天保2年	7月9日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 申の刻頃止 巳の刻頃雷鳴 即刻止(曇 昨夜より之雨及今日時々降申刻頃止巳刻頃雷鳴即刻止)
1831年	8月17日	天保2年	7月10日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入
1831年	8月18日	天保2年	7月11日 曇	昨夜より雨 今日二及 辰の刻過ぎ止 (一粒金丹の有合せ不足・5剤の調合を仰せ付ける、御本城中之口前沢之井の御手入)
1831年	8月19日	天保2年	7月12日 晴	戌の刻頃雨降 即刻止ム
1831年	8月20日	天保2年	7月13日 晴	卯の刻過ぎ雨降 即刻止
1831年	8月21日	天保2年	7月14日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止
1831年	8月22日	天保2年	7月15日 曇	
1831年	8月23日	天保2年	7月16日 晴	
1831年	8月24日	天保2年	7月17日 曇	(人事異動、一昨15日夜木造新田筒木坂村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓村預け)
1831年	8月25日	天保2年	7月18日 晴	(去月19日松前の東在箱館附臼尻場所沖合いに異国船1艘見えたと江戸からの報)
1831年	8月26日	天保2年	7月19日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止
1831年	8月27日	天保2年	7月20日 曇	辰の刻過ぎより小雨降 巳の刻頃止 (御初米7俵御代官より差出す)
1831年	8月28日	天保2年	7月21日 晴	
1831年	8月29日	天保2年	7月22日 晴	
1831年	8月30日	天保2年	7月23日 晴	(境内の杉の隠し伐りの役人に12鞭寺内門前徘徊はまで通り)
1831年	8月31日	天保2年	7月24日 晴	頃日残暑強し

1831年	9月1日	天保2年	7月25日 晴	(今曉茶畑町で蚊遣りより出火・居宅焼失・火の見番が在火と見て鐘を撞かず・阿置く、塩1升4分5厘を5分にする、両濱津出御印代是まで米1俵に10文目を10文目大豆1俵6文目立)
1831年	9月2日	天保2年	7月26日 晴	(当5月28日無手形米2俵を馬に乗せて取り押さえられた男に米馬とも御取り上げの上6鞭居村徘徊頃まで通り)
1831年	9月3日	天保2年	7月27日 曇	未の刻過ぎ雷雨強し 即刻止
1831年	9月4日	天保2年	7月28日 曇	午の刻過ぎ雷雨強し 未の刻過ぎ止
1831年	9月5日	天保2年	7月29日 曇	未の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止
1831年	9月6日	天保2年	8月1日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 下から続く 見えた・エトモ持ち場の内シラライユウブツ境ベツベツと申す所沖合い並びにその他江も異国船が見え・去る)
1831年	9月7日	天保2年	8月2日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 (苔実2包百沢寺より差出す、昨年洪水の水死者あり長勝寺で16日に大施餓鬼法要、東蝦夷地エトモその他江も異国船が 上に続く
1831年	9月8日	天保2年	8月3日 晴	
1831年	9月9日	天保2年	8月4日 曇	(無刻印の松を売っていた木を取上げ女の家に過料1貫500文充など)
1831年	9月10日	天保2年	8月5日 晴	(去月25日猿賀組八幡崎村の郷蔵の貯斛5俵が盗み取られる・疑わしい者は妻子引き連れ行方不明)
1831年	9月11日	天保2年	8月6日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入 時々降 戌の刻過ぎ地震少シ
1831年	9月12日	天保2年	8月7日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午の刻頃止
1831年	9月13日	天保2年	8月8日 晴	
1831年	9月14日	天保2年	8月9日 晴	亥の刻過ぎより雨降
1831年	9月15日	天保2年	8月10日 曇	昨夜より雨今日二及 時々降 午の刻頃止
1831年	9月16日	天保2年	8月11日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 巳の刻過ぎ止
1831年	9月17日	天保2年	8月12日 曇	今晩寅の刻頃雷雨 雷即刻止 雨時々降 午の刻頃止 (人事異動、御賞)
1831年	9月18日	天保2年	8月13日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1831年	9月19日	天保2年	8月14日 晴	(去る12日曉七時頃後方村に落雷・雷火で外馬屋焼失)
1831年	9月20日	天保2年	8月15日 晴	(八幡宮祭礼・五つ時三ノ丸御物見処江御出)
1831年	9月21日	天保2年	8月16日 晴	
1831年	9月22日	天保2年	8月17日 晴	(人事異動)
1831年	9月23日	天保2年	8月18日 晴	(人事異動、御賞)
1831年	9月24日	天保2年	8月19日 曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入 (去月朔日病死の大道寺に御香典白銀30両(丁銀3枚で良かったかな?)
1831年	9月25日	天保2年	8月20日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳の刻過ぎ止ム (大田勘解由御役御免願ひ・了)
1831年	9月26日	天保2年	8月21日 晴	(御用が相済み23日出立の津軽屋支配人に金5両下し置かれる)
1831年	9月27日	天保2年	8月22日 晴	卯の刻過ぎ雷鳴 即刻止 (津軽出雲を御手廻組頭に等の人事異動)
1831年	9月28日	天保2年	8月23日 曇	申の刻頃より雨降 夜二入 (今曉七時御供揃えで海岸の固め見分に青森まで御出)
1831年	9月29日	天保2年	8月24日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 巳の刻過ぎ止
1831年	9月30日	天保2年	8月25日 晴	(人事異動)
1831年	10月1日	天保2年	8月26日 晴	
1831年	10月2日	天保2年	8月27日 晴	(人事異動) 下から続く 見えなくなる、当江戸御廻船18人乗組み石巻船が7月14日奥州折之濱出帆・沖合で難風・破船一同舁に乗り移り伊豆の国神津嶋に漂着)
1831年	10月3日	天保2年	8月28日 晴	(去月27日東蝦夷地ウス場所の内ラビルツツと申す所の沖江異国船1艘相見え陸近く乗寄せ橋船2艘に異国人16人程乗組み上陸・松前家人数より鉄砲打放・元船に乗り移り 上に続く
1831年	10月4日	天保2年	8月29日 曇	申の刻過ぎ雷鳴 即刻止 酉の刻過ぎより雨降
1831年	10月5日	天保2年	8月30日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 (人事異動、当4月に身延に参詣に行った女3人の内1人が秋田御領川口村迄帰り大病・村役付き添いで迎えに行ったが御当領蔵館で死亡)
1831年	10月6日	天保2年	9月1日 曇	卯の刻過ぎ雨降 即刻止
1831年	10月7日	天保2年	9月2日 晴	
1831年	10月8日	天保2年	9月3日 晴	(今曉御家中の娘が南溜池で水死、去る6月11日夜御家中に米等を盗み取られたと訴え無実であった御馬廻与力の身上召上げ永の暇)
1831年	10月9日	天保2年	9月4日 曇	未の刻頃より雨降 夜二入 (洪水の際の流木を隠し上げ板等にした男共に過料)
1831年	10月10日	天保2年	9月5日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 酉の刻頃止 (初鮭1尺御台所頭より差出、塗師の親出奔、江戸で酒に酔い喧嘩の足軽を役下げ)
1831年	10月11日	天保2年	9月6日 晴	
1831年	10月12日	天保2年	9月7日 晴	
1831年	10月13日	天保2年	9月8日 曇	申の刻頃より小雨時々降 夜二入
1831年	10月14日	天保2年	9月9日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 未の刻過ぎ止ム
1831年	10月15日	天保2年	9月10日 曇	
1831年	10月16日	天保2年	9月11日 晴	(当3月山役人が蒔田神原両村で割木18棚取押える・1棚16文目充に売払う・無刻印なので売上代金取上げ過料銭600文充) 下から続く 金1000両を来る15日に上納)
1831年	10月17日	天保2年	9月12日 晴	(御賞、昨11日夜赤田組板屋野木村で出火・建家焼失・火元居村預け、先年牢拔けの佐藤典司が若党町で追詰められ喉に傷、去8月より当7月中迄湯野沢鉛山御利益 上に続く
1831年	10月18日	天保2年	9月13日 晴	(去る11月夕飯ごろより翌朝まで賽を振り博打の男6人に3鞭宛居村徘徊はまで通り・庄屋五軒組合等にも過料)
1831年	10月19日	天保2年	9月14日 曇	申の刻頃より小雨降 夜二入
1831年	10月20日	天保2年	9月15日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入 (乞食共の夜廻り料の話あり)
1831年	10月21日	天保2年	9月16日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰の刻頃止
1831年	10月22日	天保2年	9月17日 曇	(高岡江御献備の鮭2尾御台所頭差出す、佐藤典司が昨夜牢舎で死亡、去る13日後方組で出火・類焼共3軒焼失・火元高無他村預け、御国表当年孕米不足……)
1831年	10月23日	天保2年	9月18日 曇	今晩寅の刻頃より時々降 辰の刻過ぎ止
1831年	10月24日	天保2年	9月19日 曇	未の刻頃より小雨降 酉の刻頃止
1831年	10月25日	天保2年	9月20日 晴	
1831年	10月26日	天保2年	9月21日 曇	
1831年	10月27日	天保2年	9月22日 晴	
1831年	10月28日	天保2年	9月23日 晴	
1831年	10月29日	天保2年	9月24日 晴	申の刻過ぎより雨降 戌の刻頃止
1831年	10月30日	天保2年	9月25日 晴	(左近将監殿より川鮭1尺充拝受)
1831年	10月31日	天保2年	9月26日 曇	卯の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止

1831年	11月1日	天保2年	9月27日 晴	(無刻印の松を売っていた男2人の木品御取上げ過料1貫500文充)
1831年	11月2日	天保2年	9月28日 晴	酉の刻過ぎより雨時々降
1831年	11月3日	天保2年	9月29日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申の刻過ぎ止 今日霰少し降
1831年	11月4日	天保2年	10月1日 曇	
1831年	11月5日	天保2年	10月2日 晴	(老母に孝行の者共に御賞)
1831年	11月6日	天保2年	10月3日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止
1831年	11月7日	天保2年	10月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1831年	11月8日	天保2年	10月5日 曇	昨夜雪少降
1831年	11月9日	天保2年	10月6日 晴	
1831年	11月10日	天保2年	10月7日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 午の刻頃止 酉の刻過ぎより雨時々降
1831年	11月11日	天保2年	10月8日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止 今日霰少降 (屋形様の海岸通御固所見分の節格別骨折りとして御賞(金200疋・南鐐3片・金100疋・銀5両))
1831年	11月12日	天保2年	10月9日 曇	今日雪少降
1831年	11月13日	天保2年	10月10日 曇	(6日夜金木組相内村寄せ郷板割沢村で出火・類焼とも2軒稲乳等焼失・火元他村預け)
1831年	11月14日	天保2年	10月11日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜二入 (人事異動、御賞、目良流砲術:小筒並びに大筒九十九貫目玉筒まで……)
1831年	11月15日	天保2年	10月12日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 巳の刻過ぎ止 今日雪少降 (昨夜五時頃堀越組門前村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1831年	11月16日	天保2年	10月13日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積
1831年	11月17日	天保2年	10月14日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (町奉行所御取立の青森町年寄り等に御賞)
1831年	11月18日	天保2年	10月15日 曇	今晩寅の刻頃より雷鳴 卯の刻頃止 申の刻頃雨降 即刻止 (津軽出雲・大道寺次郎市を用人兼帯にとの人事異動)
1831年	11月19日	天保2年	10月16日 晴	
1831年	11月20日	天保2年	10月17日 曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻頃止 (人事異動)
1831年	11月21日	天保2年	10月18日 曇	
1831年	11月22日	天保2年	10月19日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降 (山崎屋某と茨城屋某に一粒金丹20粒充・奈良庄司が登坂の節お預け)
1831年	11月23日	天保2年	10月20日 晴	(勘定奉行奈良庄司を寄合格にとの人事異動、御賞)
1831年	11月24日	天保2年	10月21日 曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止 酉の刻過ぎより小雨時々降 下から続く 青森44文目6分2毛・鯔ヶ沢41文目6分7厘)内1文目2分が御定役引き)
1831年	11月25日	天保2年	10月22日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 (海岸御出の節関連で御賞、弘前並びに両濱一番相場御払い米(1俵)入札:41文目4分7厘(3ヶ所平均42匁6分7厘(弘前御蔵米41文目6分8厘・ 上に続く
1831年	11月26日	天保2年	10月23日 曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止 (博打をしなかったと言い張る御持鐘仲間を掃除小人に役下げ・博打の男共に戸々等)
1831年	11月27日	天保2年	10月24日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止 (新古米30日平均が1俵で30日5分・御定法で酒1升が1文目6分6厘8毛になる・1升を1文目7分1合売りは10文宛と仰せ付ける)
1831年	11月28日	天保2年	10月25日 晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降
1831年	11月29日	天保2年	10月26日 曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪少降
1831年	11月30日	天保2年	10月27日 曇	昨夜雪降 一寸程積 下から続く 去る25日油川組細越村で出火・建家建馬3疋稲草等焼失・火元高無村預け)
1831年	12月1日	天保2年	10月28日 晴	(人事異動、御賞、当粒油出盛り30日値段平均1俵27文目6分6毛・水油1升が5文目4分8厘9毛に当たる・11月朔日より来2月中1升を5文目4分に1合は5分2文に仰せ付ける、 上に続く
1831年	12月2日	天保2年	10月29日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1831年	12月3日	天保2年	10月30日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1831年	12月4日	天保2年	11月1日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (用人小笠原良八を御留守居組頭格にとの人事異動)
1831年	12月5日	天保2年	11月2日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積
1831年	12月6日	天保2年	11月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積
1831年	12月7日	天保2年	11月4日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (養蚕方御用等に御賞)
1831年	12月8日	天保2年	11月5日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1831年	12月9日	天保2年	11月6日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (今日大筒鑄立て方御見分)
1831年	12月10日	天保2年	11月7日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1831年	12月11日	天保2年	11月8日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積
1831年	12月12日	天保2年	11月9日 曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 四寸程積
1831年	12月13日	天保2年	11月10日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (御献上の鯉高覧・少々御不快に付き監物が名代として見分
1831年	12月14日	天保2年	11月11日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (当新酒飯値段:1升を1文目7分1合を10文充を申し出でにより1升を1文目7分5厘1合売りは是まで通り10文に仰せ付ける)
1831年	12月15日	天保2年	11月12日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1831年	12月16日	天保2年	11月13日 晴	
1831年	12月17日	天保2年	11月14日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (御賞、西御郭に飼いた真鶴1羽が殞(死ぬ))
1831年	12月18日	天保2年	11月15日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 (去る10日夜広須組芦沼村で出火・建家稲草等焼失・火元百姓居村預け)
1831年	12月19日	天保2年	11月16日 晴	昨夜雪少降
1831年	12月20日	天保2年	11月17日 晴	(人事異動)
1831年	12月21日	天保2年	11月18日 晴	
1831年	12月22日	天保2年	11月19日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今晩寅の刻頃より雷雨 卯の刻頃止 今日雪少し降
1831年	12月23日	天保2年	11月20日 曇	昨夜吹雪強し 雪降 三寸程積 今日霰降 風強 (去る16日亀甲明き御蔵の内4間×24間御蔵1ヶ所が雪潰れ)
1831年	12月24日	天保2年	11月21日 晴	
1831年	12月25日	天保2年	11月22日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1831年	12月26日	天保2年	11月23日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (何か判らないが盗みの男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1831年	12月27日	天保2年	11月24日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1831年	12月28日	天保2年	11月25日 晴	(去る丑年(今年は卯年)油川組鶴ヶ坂村の獵師太兵衛が熊3疋狩取る・御賞御酒代3貫文と下々位の熊皮1枚、御馬廻格長尾某の三男貞助の捜査が始まる)
1831年	12月29日	天保2年	11月26日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (女子を松前表に勾引の男を10里四方追放大場御構い・その手引きの男に30日押込)
1831年	12月30日	天保2年	11月27日 曇	昨夜雪少降 (昨26日朝五時田舎館組東光寺村で出火・建家半分馬屋等焼失、質座等で乱暴した草履取等を永の暇役下げ等)
1831年	12月31日	天保2年	11月28日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (去る24日赤石組大宮村で出火・建家焼失・火元百姓村預け、一昨年5月に取押えた盗み杣の木を本年7月の洪水で流失の村の住民庄屋等に過料)

1832年	1月1日	天保2年	11月29日	晴	
1832年	1月2日	天保2年	11月30日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 辰の刻過ぎ止 (来月朔日高岡江初鱈2本献ずる、当9月12日夜小沢村で盗み(2両2歩1朱その後返した)男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1832年	1月3日	天保2年	12月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1832年	1月4日	天保2年	12月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1832年	1月5日	天保2年	12月3日	晴	頃日寒強し
1832年	1月6日	天保2年	12月4日	晴	戌の二刻寒二入 (岩木川御普請等に関し御賞)
1832年	1月7日	天保2年	12月5日	晴	
1832年	1月8日	天保2年	12月6日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (御侍鍵中間の妹を勾引同様にした足輕の給分召上げ永の暇一間所入り) 下から続く 当田畑御收納仮積の旨申し出る
1832年	1月9日	天保2年	12月7日	曇	今日雪少し降 (去月27日迄十三潟が氷閉・船々の往来相成らず、米148257石程の内当毛引(けびき:不作の際の減税)並びに諸品成とも8870石程・残って139387石程が 上に続く
1832年	1月10日	天保2年	12月8日	晴	(去る5日夕増館組吉野田村で出火・建家馬とも焼失・火元高無村預け)
1832年	1月11日	天保2年	12月9日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 二寸程積
1832年	1月12日	天保2年	12月10日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降 (古懸山不動尊御出汗、去る6日夜南浮田村で出火・建家等焼失・火元高無村預け)
1832年	1月13日	天保2年	12月11日	晴	(伴勇蔵を御目付に等の人事異動、御賞)
1832年	1月14日	天保2年	12月12日	晴	(奉公先の刀衣類等を盗んだ男に3鞭弘前払い、引越しの手伝いの途中で盗みの男に3鞭弘前町払い)
1832年	1月15日	天保2年	12月13日	晴	
1832年	1月16日	天保2年	12月14日	曇	亥の刻頃より雨降
1832年	1月17日	天保2年	12月15日	曇	昨夜より之今日二及 時々降 申の刻過ぎ止(曇 昨夜より之今日二及時々降申刻過止) (代官等に御賞)
1832年	1月18日	天保2年	12月16日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積 (武者屯御門の開閉に落ち度の太組与力2人が御目見以下御留守居支配・太組足輕にそれぞれ役下げ)
1832年	1月19日	天保2年	12月17日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 一尺五寸程積
1832年	1月20日	天保2年	12月18日	曇	昨夜雪降 九寸程積 (当8月7日夜新町の家から女袴つ盗み出した男に3鞭弘前町払い)
1832年	1月21日	天保2年	12月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1832年	1月22日	天保2年	12月20日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪少降 (弘前町名主等に御賞)
1832年	1月23日	天保2年	12月21日	曇	今日雪少降 (御賞)
1832年	1月24日	天保2年	12月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (多数の小人に帯刀御免、当5月尾太出銅の内より締取上納分山吹銀目形33文目9分御小納戸納め仰せ付けられる)
1832年	1月25日	天保2年	12月23日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (袋宮寺が悪者共を集め酒盛り・隠居・関係者にも役下げなどの罰、同役不和合等で役下げ2人)
1832年	1月26日	天保2年	12月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (佐藤栄吉を御馬廻格に等の人事異動、御賞)
1832年	1月27日	天保2年	12月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (7月朔日(記述は2日)金木屋手代に切りつけた長尾定之丞三男貞助を牢居300日その後追って御片付)
1832年	1月28日	天保2年	12月26日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (当3月に鳳松院で酒に酔い男を雇い他の寺に入りこみ乱暴の寶泉院を脱衣の上弘前追放・喧嘩して入り込まれた寺は隠居・いた2寺は慎・雇われ男は弘前町払い)
1832年	1月29日	天保2年	12月27日	曇	今日雪少し降 (人事異動、御賞、去る24日金木組嘉瀬村で出火・建家穀物等焼失・火元大工居村預け)
1832年	1月30日	天保2年	12月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降 (御家中の高年の祖母等に銀10両・金200疋充等下される、御賞多数)
1832年	1月31日	天保2年	12月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1832年	2月1日	天保2年	12月30日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1832年	2月2日	天保3年	正月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一尺二寸程積
1832年	2月3日	天保3年	正月2日	曇	
1832年	2月4日	天保3年	正月3日	晴	(御吉例金200両御金奉行より差出す、今晚御謡初・番頭以上登城)
1832年	2月5日	天保3年	正月4日	晴	
1832年	2月6日	天保3年	正月5日	晴	
1832年	2月7日	天保3年	正月6日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積
1832年	2月8日	天保3年	正月7日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (今日七種の御祝儀、今日一二之御餅鏡並びに三日月御供頂戴、津賀野村津軽坂村を鶴賀坂と御改、不明日に種里村八幡宮の灯籠より火移り拝殿斗焼失)
1832年	2月9日	天保3年	正月8日	晴	
1832年	2月10日	天保3年	正月9日	晴	
1832年	2月11日	天保3年	正月10日	晴	
1832年	2月12日	天保3年	正月11日	曇	昨夜雪降 二寸程積 辰の刻過ぎ雨降 則刻止 (添田岩太郎を諸手足輕頭に等の人事異動)
1832年	2月13日	天保3年	正月12日	晴	昨夜雪少降 (今朝東長町の矢場で御弓射初)
1832年	2月14日	天保3年	正月13日	晴	(今朝八幡宮で御鉄砲打初)
1832年	2月15日	天保3年	正月14日	晴	(昨12日・今13日青森御飯屋で諸手足輕が御弓射初・御鉄砲打初)
1832年	2月16日	天保3年	正月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (御賞、人事異動)
1832年	2月17日	天保3年	正月16日	晴	
1832年	2月18日	天保3年	正月17日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1832年	2月19日	天保3年	正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (寒造り酒値段相場割合で1升1文目6分1厘2毛・1升を1文目6分1合売りは是まで通り10文宛と仰せ付ける、江戸で御老女などに勤料増)
1832年	2月20日	天保3年	正月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積
1832年	2月21日	天保3年	正月20日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積
1832年	2月22日	天保3年	正月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1832年	2月23日	天保3年	正月22日	晴	
1832年	2月24日	天保3年	正月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日吹雪強し
1832年	2月25日	天保3年	正月24日	曇	昨夜雪少降
1832年	2月26日	天保3年	正月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1832年	2月27日	天保3年	正月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今晚寅の刻過ぎより雹降 申の刻過ぎ止
1832年	2月28日	天保3年	正月27日	曇	今日雪少降
1832年	2月29日	天保3年	正月28日	曇	今日雪降 一寸程積

1832年	3月1日	天保3年	正月29日	曇	(去る27日暮六時過ぎ西大工町今泉某屋敷裏通りの木部屋雪漬)
1832年	3月2日	天保3年	正月30日	晴	
1832年	3月3日	天保3年	2月1日	曇	昨夜雪少降 今晩寅の刻頃より小雨降 辰の刻過ぎ止 今日雪少降 (御山で過伐の村の庄屋等に過料)
1832年	3月4日	天保3年	2月2日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 一寸程積
1832年	3月5日	天保3年	2月3日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1832年	3月6日	天保3年	2月4日	曇	(軽き者に稀なる心掛けとして武芸に格別出精の掃除頭伊藤某に御賞鳥目3貫文)
1832年	3月7日	天保3年	2月5日	晴	
1832年	3月8日	天保3年	2月6日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1832年	3月9日	天保3年	2月7日	曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 午の刻頃止 (寒造酒値段引上げ・1升を1文目8分に)
1832年	3月10日	天保3年	2月8日	曇	今日雪少降 (去る5日昼飯詰組松野木村寄せ郷福岡村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け)
1832年	3月11日	天保3年	2月9日	曇	今日雪少降
1832年	3月12日	天保3年	2月10日	曇	昨夜雪少降 (夜中に手段米と思われる米を持ち出した庄屋に過料錢1貫500文)
1832年	3月13日	天保3年	2月11日	曇	
1832年	3月14日	天保3年	2月12日	曇	昨夜雪少降
1832年	3月15日	天保3年	2月13日	曇	昨夜雪少降 今日午の刻地震少 今日雪少降
1832年	3月16日	天保3年	2月14日	曇	(去る11日喜良市村で出火・居宅等焼失・火元鍛冶居村預け)
1832年	3月17日	天保3年	2月15日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今晩寅の刻地震少 巳の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止 (人事異動、寄合で集まり酒を飲みその家の母を打擲した男に押込20日・鉄篋の柄で反撃した子に戸ノ5日)
1832年	3月18日	天保3年	2月16日	曇	今日雪少降 戌の刻頃地震少し
1832年	3月19日	天保3年	2月17日	晴	(願いなしに自分見継山より雑木伐り取男に過料錢1貫200文)
1832年	3月20日	天保3年	2月18日	晴	
1832年	3月21日	天保3年	2月19日	晴	
1832年	3月22日	天保3年	2月20日	晴	今晩寅の刻過ぎ地震少し (去る17日広田組桜田村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1832年	3月23日	天保3年	2月21日	晴	(昨夜9時過ぎ誓願寺前岩見屋小見世に去る秋出生位の男子が捨子・町内乳持ち江預け置く)
1832年	3月24日	天保3年	2月22日	曇	
1832年	3月25日	天保3年	2月23日	晴	(牢内の百川寛平(文化12年4月和田太左衛門事件の一味)を御慈悲を以って出牢・弟文平預け他出差留)
1832年	3月26日	天保3年	2月24日	晴	(昨23日揚屋入りの長尾定之助三男貞助病死、当両都御廻船上乘り104人下乗り84人を仰せ付ける)
1832年	3月27日	天保3年	2月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 (両親に孝行等の男2人に御賞、去る22日夜横内組宮崎村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓居村預け)
1832年	3月28日	天保3年	2月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (奉公先から衣類金子等盗みの者に6鞭親(御城付足軽)御引き渡し、窃盗未遂の男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1832年	3月29日	天保3年	2月27日	晴	
1832年	3月30日	天保3年	2月28日	曇	午の刻頃雨降 即刻止ム (人事異動、昨20日までに十三湯の水明通路相成る)
1832年	3月31日	天保3年	2月29日	曇	今日雪少降
1832年	4月1日	天保3年	3月1日	曇	昨夜雪降 七寸程積 午の刻頃地震少し
1832年	4月2日	天保3年	3月2日	晴	
1832年	4月3日	天保3年	3月3日	晴	
1832年	4月4日	天保3年	3月4日	晴	
1832年	4月5日	天保3年	3月5日	晴	
1832年	4月6日	天保3年	3月6日	晴	
1832年	4月7日	天保3年	3月7日	晴	
1832年	4月8日	天保3年	3月8日	晴	今晩寅の刻頃より小雨降 卯の刻過ぎ止
1832年	4月9日	天保3年	3月9日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止
1832年	4月10日	天保3年	3月10日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1832年	4月11日	天保3年	3月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今晩寅の刻頃地震少し (当月7日昼より翌8日朝まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず水明ける・日数引合去年より11日遅く節に引合1日早い)
1832年	4月12日	天保3年	3月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 午の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 戌の刻頃地震少し
1832年	4月13日	天保3年	3月13日	曇	今晩寅の刻頃地震少し (一昨夜大鰐組石川村で出火・12軒焼失・委細は追々、盗馬2疋を170目宛で売り払った男に30鞭10里四方追放大場御構、盗み質入の男に9鞭弘前徘徊はまで通り)
1832年	4月14日	天保3年	3月14日	晴	
1832年	4月15日	天保3年	3月15日	曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 (人事異動、昨14日三ツ目内山で出火・杣取役所等が類焼、去る10日石川村の出火の者共難渋・御救い米1人に付き御米1俵ツツ)
1832年	4月16日	天保3年	3月16日	晴	
1832年	4月17日	天保3年	3月17日	晴	(去る14日大鰐組三ツ目内村寄せ郷高野新田村の出火は類焼とも26軒・火元他村預け、この節偽式分金並びに歩金入り込む・注意喚起の触れ)
1832年	4月18日	天保3年	3月18日	晴	
1832年	4月19日	天保3年	3月19日	曇	
1832年	4月20日	天保3年	3月20日	晴	(家内和合等で御賞)
1832年	4月21日	天保3年	3月21日	晴	戌の刻過ぎより雨降
1832年	4月22日	天保3年	3月22日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨及今日時々降未刻過止)
1832年	4月23日	天保3年	3月23日	晴	
1832年	4月24日	天保3年	3月24日	晴	
1832年	4月25日	天保3年	3月25日	快晴	
1832年	4月26日	天保3年	3月26日	快晴	(御発駕御日限来月21日と仰せ出される)
1832年	4月27日	天保3年	3月27日	晴	(酒が過ぎた御家中2人が役下げ)
1832年	4月28日	天保3年	3月28日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (昨25日昼八時半時広須組吉出村で出火・建家穀物等焼失・火元庄屋村預け)
1832年	4月29日	天保3年	3月29日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止
1832年	4月30日	天保3年	3月30日	晴	(左近将監様より川鱗1尺ツツ拝受)

1832年	5月1日	天保3年	4月1日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (人事異動、岩木川出水にて駒越渡場長船とも往来差留める、高野新田で物置小屋より出火杣取役所並びに2尺5寸桎等焼失)	
1832年	5月2日	天保3年	4月2日	晴	下から続く 負わせた男に18鞭弘前払い)	
1832年	5月3日	天保3年	4月3日	晴	(大組御持筒足軽の野稽古を農事に差触るとして秋まで取延、貰い受けた病牛馬の皮を剥ぎ商売した男2人に15鞭宛居村徘徊是まで通り、去る11月14日酒の上で親子に手傷を	上に続く
1832年	5月4日	天保3年	4月4日	晴		
1832年	5月5日	天保3年	4月5日	晴	(先日焼失の大罌組高野新田の6軒・尾崎組尾崎村で29軒に1俵ツツ御救い米下し置かれる、去る2日夜金木組小田川村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)	
1832年	5月6日	天保3年	4月6日	晴		
1832年	5月7日	天保3年	4月7日	晴		
1832年	5月8日	天保3年	4月8日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (岩木川出水・駒越渡場両船とも往来差留める)	
1832年	5月9日	天保3年	4月9日	曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止	
1832年	5月10日	天保3年	4月10日	曇		
1832年	5月11日	天保3年	4月11日	曇		
1832年	5月12日	天保3年	4月12日	晴	亥の刻過ぎより小雨時々降	
1832年	5月13日	天保3年	4月13日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 戌の刻頃止 (南溜池に溺死の女1人、潤懸中の松前船から衣類を盗み取った男に9鞭居村徘徊是まで通り)	
1832年	5月14日	天保3年	4月14日	晴	(去る10日木造新田駒田村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け、御徒町川端町で男が自殺)	
1832年	5月15日	天保3年	4月15日	晴		
1832年	5月16日	天保3年	4月16日	晴		
1832年	5月17日	天保3年	4月17日	曇		
1832年	5月18日	天保3年	4月18日	曇	(高年の者15人(78歳から95歳:男4・女11)を弘前に呼び集めている)	
1832年	5月19日	天保3年	4月19日	晴		
1832年	5月20日	天保3年	4月20日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入	
1832年	5月21日	天保3年	4月21日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 昨夜風強し (去る9日小泊の漁師が青岩沖で難船2人とも海死)	
1832年	5月22日	天保3年	4月22日	晴	(97歳から81歳の高年に御賞鳥目1貫文宛下し置かれる)	
1832年	5月23日	天保3年	4月23日	晴	(当御発駕日限来月3日と仰せ出される、去る21日夜浪岡組本郷村で出火・類焼とも2軒焼失・火元百姓他村預け)	
1832年	5月24日	天保3年	4月24日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止 (去る22日夜広須組穂積村で味噌煮釜より出火・建家穀物等焼失・火元居村預け、破船中の御手船長久丸の新規合船は断念か?)	
1832年	5月25日	天保3年	4月25日	曇	(一昨23日夜柏木組梅田村で味噌煮釜より出火・建家外馬屋とも焼失・火元庄屋居村預け)	
1832年	5月26日	天保3年	4月26日	晴		
1832年	5月27日	天保3年	4月27日	晴	(来月朔日津軽多膳に大坂登りを仰せ付ける・途中の本間様にも挨拶)	
1832年	5月28日	天保3年	4月28日	晴		
1832年	5月29日	天保3年	4月29日	晴		
1832年	5月30日	天保3年	5月1日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 巳の刻過ぎ止 (人事異動、4月18日に集めた高年8人に御賞鳥目2貫文宛)	
1832年	5月31日	天保3年	5月2日	曇	今晩寅の刻頃より雷雨 卯の刻過ぎ止 巳の刻頃より雨時々降 (小山内武左衛門を留守居組頭に等の人事異動、去月28日夜浦町組野沢村で出火・建家外馬屋等焼失・火元居村預け)	
1832年	6月1日	天保3年	5月3日	晴	(御馬上にて九時過ぎ御発駕)	
1832年	6月2日	天保3年	5月4日	晴	下から続く 木綿類を隠し背負い触れ売りの男の諸品金子御取り上げ過料銭100目・五軒組合にも過料銭25文目ツツ)	
1832年	6月3日	天保3年	5月5日	晴	(一昨年大罌村田中乙次郎に蒔き付けを仰せ付けた天竺稲は出穀3升位・一合3夕差出す・土地不相応にもあるべきか甚だ不出来・御止めにはせず種絶えないよう仰せ付ける、	上に続く
1832年	6月4日	天保3年	5月6日	晴		
1832年	6月5日	天保3年	5月7日	晴	下から続く 居宅を除き取壊し・畳天井板等は明御蔵に入れる)	
1832年	6月6日	天保3年	5月8日	曇	巳の刻過ぎより雷雨 雷午の刻過ぎ止 雨時々降 申の刻過ぎ止 (耳が遠く庄屋に談合もなく秣場の伐取の五人組の五人組役を取放す、常盤山御取壊しの内御菜園守の	上に続く
1832年	6月7日	天保3年	5月9日	晴	下から続く 弘前の付け木屋共から硫黄70俵を岩木嵩より取出したいとの申し出・そのように申しつける)	
1832年	6月8日	天保3年	5月10日	曇	(昨7日赤石組柳田村の前浜で6尋斗(ばかり)の鯨を生け捕る・村方に下し置かれる、去る6日夜浦町組金濱村で出火・建家穀物等焼失・隣家の外馬屋も焼失・火元居村預け、	上に続く
1832年	6月9日	天保3年	5月11日	曇	申の刻頃より小雨降 則刻止 (人事異動)	
1832年	6月10日	天保3年	5月12日	曇	今晩寅の刻頃雨降 即刻止 辰の刻過ぎ雨降 巳の刻過ぎ止 下から続く 10里四方追放・御中小姓の子に俵子40俵2人扶持)	
1832年	6月11日	天保3年	5月13日	曇	今日風強し 巳の刻より雨時々降 酉の刻頃止 (一昨年12月に手段米隠し津出の男2人に9鞭居村徘徊是まで通り・箆絡された御徒の身上召上げ永の暇大場御構い弘前より	上に続く
1832年	6月12日	天保3年	5月14日	晴		
1832年	6月13日	天保3年	5月15日	晴	(昨9日より時疫のお雇い坊主が御屋敷内の井の中に落ち死亡、屋形様が刈和野横手駅あたりで御止宿・江戸からの飛脚が予定変更でうろうろ)	
1832年	6月14日	天保3年	5月16日	晴	(奉公先の御家中家から着類盗み等の男に9鞭弘前払い、所々で盗みの男に3鞭居村徘徊是まで通り)	
1832年	6月15日	天保3年	5月17日	晴	(人事異動、去る13日夜油川湊支配田沢村で出火・外馬屋1軒焼失、7日に生け捕った鯨は女鯨681貫目に付き御役銭68文目1分を取立てる)	
1832年	6月16日	天保3年	5月18日	曇	卯の刻頃より雨時々降 夜二入 (原別村別段所前を吸入りの米4斗5升を馬3匹に積んで通った男3人に馬は返し過料銭1貫500文など)	
1832年	6月17日	天保3年	5月19日	晴	昨夜より之雨今日二及 辰の刻過ぎ止 戌の刻頃雷鳴 即刻止	
1832年	6月18日	天保3年	5月20日	晴	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止 (御米3875俵等を積み当月10日青森出帆の江戸船が11日南部領佐井沖合で東風・帆柱吹き折れ三馬屋沖懸・15日に青森に戻り入津)	
1832年	6月19日	天保3年	5月21日	晴		
1832年	6月20日	天保3年	5月22日	晴	(人事異動、去月26日品川入津の当御廻船の上乗り坂本某が江戸屋敷に着き病死)	
1832年	6月21日	天保3年	5月23日	晴	(去る10月板屋野木村で博打の男2人に3鞭宛居村徘徊是まで通り)	
1832年	6月22日	天保3年	5月24日	晴	(一粒金丹有合せ不足・和田某・伊東某に5剋の調査を仰せ付ける)	
1832年	6月23日	天保3年	5月25日	晴		
1832年	6月24日	天保3年	5月26日	晴		
1832年	6月25日	天保3年	5月27日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止	
1832年	6月26日	天保3年	5月28日	晴	(人家近き所の火花小筒打ち放し等御停止の触れ)	
1832年	6月27日	天保3年	5月29日	晴		
1832年	6月28日	天保3年	6月1日	晴	(龍濱(竜飛)崎大筒台場の1貫目球筒試し打ち痛損・引替に1貫目球筒なく唐金の500目玉筒を申出る)	
1832年	6月29日	天保3年	6月2日	晴		
1832年	6月30日	天保3年	6月3日	晴		

1832年	7月1日	天保3年	6月4日 曇	今晩寅の刻頃小雨降 即刻止 未の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻頃止
1832年	7月2日	天保3年	6月5日 曇	未の刻雨降 即刻止
1832年	7月3日	天保3年	6月6日 曇	卯の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1832年	7月4日	天保3年	6月7日 晴	
1832年	7月5日	天保3年	6月8日 晴	亥の刻過ぎより雨降 (人事異動)
1832年	7月6日	天保3年	6月9日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 辰の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止ム (去月24日屋形様が御老中様方御廻動後江戸御着府)
1832年	7月7日	天保3年	6月10日 晴	(青田の内笛吹くなどの触れ)
1832年	7月8日	天保3年	6月11日 晴	
1832年	7月9日	天保3年	6月12日 晴	亥の刻過ぎより小雨時々降 (一昨10日夜浪岡組高館村で出火・建家外馬屋とも焼失・火元居村預け)
1832年	7月10日	天保3年	6月13日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 亥の刻過ぎ止
1832年	7月11日	天保3年	6月14日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入 下から続く 小野若狭に八幡宮二ノ鳥居前西側に居宅取立て・東表口40間西裏口36間南北側38間)
1832年	7月12日	天保3年	6月15日 晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 (御買い下げ篠巻綿10000把この節着船・御目見以上望みの者に8把・それ以下の者に4把宛御貸渡し(1把に付き3文目9分5厘)を仰せ付ける、 上に続く
1832年	7月13日	天保3年	6月16日 晴	(去月25日当御廻船大坂船が常州鹿島沖で御米500俵荷打ち・28日銚子湊に入津・勘定小頭と御徒目付を見分に遣わす)
1832年	7月14日	天保3年	6月17日 晴	
1832年	7月15日	天保3年	6月18日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止
1832年	7月16日	天保3年	6月19日 晴	
1832年	7月17日	天保3年	6月20日 晴	
1832年	7月18日	天保3年	6月21日 快晴	
1832年	7月19日	天保3年	6月22日 快晴	下から続く 味噌煮釜より出火・類焼とも24軒外馬屋2軒穀物等焼失・火元他村預け)
1832年	7月20日	天保3年	6月23日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止 未の刻過ぎ雨降 則刻止 申の刻過ぎより雨降 夜二入(曇 辰刻過雨降即刻止未刻過雨降則刻止申刻過より雨降夜二入) 下から続く 平村で 上に続く
1832年	7月21日	天保3年	6月24日 晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 申の刻過ぎ雷鳴 即刻止 酉の刻過ぎ地震少し (去る18日昼九時頃後潟組板木沢村で出火・建家焼失・火元居村預け、去る19日後潟組大川 上に続く
1832年	7月22日	天保3年	6月25日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 巳の刻過ぎより雨降 夜二入 (当月5日掃除小人の養父出奔)
1832年	7月23日	天保3年	6月26日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止 (去月15日かせ糸目方480目を盗取り代銭40目に質入の男に3鞭弘前町払い、秣場の件で騒立の新屋村の男に18鞭居村徘徊是まで通り)
1832年	7月24日	天保3年	6月27日 曇	卯の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止 (鯨ヶ沢町塩屋某とその手代に御賞) 下から続く を5人に増やし欠本・傷損・誤字等を正すことにする)
1832年	7月25日	天保3年	6月28日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (一昨26日夜広田組川山村で出火・建家物置等焼失・火元居村預け、日記の清書が既に50年ほどの滞高にござ候として清書方兩人 上に続く
1832年	7月26日	天保3年	6月29日 曇	戌の刻頃より雨降 (去る2日御家中の大叔父が出奔)
1832年	7月27日	天保3年	7月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 午の刻頃雨降 則刻止 (伐り荒しの山の4村に過料7貫200文など32貫文程・庄屋にも)
1832年	7月28日	天保3年	7月2日 曇	卯の刻過ぎより雨降 巳の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨降 夜二入 (頃日天気不正・明日護穀神日和揚御神楽を差上げる)
1832年	7月29日	天保3年	7月3日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止 (岩木川4歩の出水)
1832年	7月30日	天保3年	7月4日 晴	(天気不正に付き丹後者詮索・見当てれば早速送り返しに触れ)
1832年	7月31日	天保3年	7月5日 曇	卯の刻頃より雨降 夜二入 (去月14日御持鐘中間が出奔、両社に日和揚げの御祈禱を仰せ付ける・明6日下居宮で日和揚げ御神事を差上げる)
1832年	8月1日	天保3年	7月6日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 巳の刻頃より小雨時々降 戌の刻頃止ム (昨夜四半時頃より岩木川出水・駒越渡し場両船往來差留める)
1832年	8月2日	天保3年	7月7日 曇	午の刻過ぎ小雨降 即刻止
1832年	8月3日	天保3年	7月8日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止 巳の刻過ぎ雨降 午の刻過ぎ止 (去月24日より天気不正続き数百町歩が水湛・五山並びに下居宮で日和揚重御祈禱・4社に御祈禱を仰せ付ける)
1832年	8月4日	天保3年	7月9日 晴	
1832年	8月5日	天保3年	7月10日 晴	(去る8日夜八時過ぎ和徳村郷蔵壁打破り(差渡し6寸くらい)・郷蔵守が疵を得ながら守る)
1832年	8月6日	天保3年	7月11日 晴	酉の刻過ぎより雨降
1832年	8月7日	天保3年	7月12日 晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 (銭を返済されても手形を返さなかった男に15鞭居町徘徊是まで通り)
1832年	8月8日	天保3年	7月13日 晴	
1832年	8月9日	天保3年	7月14日 晴	
1832年	8月10日	天保3年	7月15日 晴	辰の刻過ぎ雨降 即刻止 頃日暑強し
1832年	8月11日	天保3年	7月16日 晴	
1832年	8月12日	天保3年	7月17日 快晴	(一昨夜東長町の屋敷の庭に捨子・町内の者に養育方申し付ける)
1832年	8月13日	天保3年	7月18日 晴	(大鰐村加賀助と兵左衛門が御初米出穂を昨日差出す・去年は4月24日植付62日で差上げ当年は5月8日植付68日目で差上げる・日数に引合6日遅く説に引合9日遅い)
1832年	8月14日	天保3年	7月19日 晴	
1832年	8月15日	天保3年	7月20日 晴	
1832年	8月16日	天保3年	7月21日 晴	(去る8日夜郷蔵を守った男に御酒代鳥目2貫文を下し置かれる)
1832年	8月17日	天保3年	7月22日 晴	(一昨20日夜金木組下毘沙門村で味噌煮釜より出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)
1832年	8月18日	天保3年	7月23日 晴	
1832年	8月19日	天保3年	7月24日 曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止 (秣場の伐り荒し等で2村に過料13・14貫文)
1832年	8月20日	天保3年	7月25日 晴	(遠山里村で時疫・御施設)
1832年	8月21日	天保3年	7月26日 晴	
1832年	8月22日	天保3年	7月27日 晴	酉の刻頃より雨降 (女子勾引と疑わしい男2人を取り逃がした亀ヶ岡村仮庄屋に過料銭1貫200文・取り逃がした担当にも過料等、隠商の五人組の五人組役取放し過料銭75文目)
1832年	8月23日	天保3年	7月28日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (当新菜種附相場出盛30日平均銭1文目に付き1升2合8タ3才に相当・水油1升が5文目6分1厘5毛に相当・水油1升値段5文目6分に仰せ付ける)
1832年	8月24日	天保3年	7月29日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 巳の刻頃止 (五山に五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1832年	8月25日	天保3年	7月30日 晴	今晩寅の刻頃雨降 即刻止
1832年	8月26日	天保3年	8月1日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 (無刻印の木を2本盗み出した男の子に10日押込・その親の五軒組合の4人に過料4貫200文、盗み袖の男を取り逃がした番人など6人に過料等)
1832年	8月27日	天保3年	8月2日 晴	(百沢寺より苔の実差上げる)
1832年	8月28日	天保3年	8月3日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入
1832年	8月29日	天保3年	8月4日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 時々雨 午の刻過ぎ止 (醬油値上げ願ひ:1升を1文目8分値段に・1文目6分5厘に仰せ付ける、岩木川が去月下旬より追々出水……)
1832年	8月30日	天保3年	8月5日 晴	(100目筒を作るのに必要な炭が出ている・1挺に1203俵半)
1832年	8月31日	天保3年	8月6日 晴	

1832年	9月1日	天保3年	8月7日 晴	下から続く	17日分100文積菜銭1貫700文・同駅より弘前まで行駄駕籠料同1貫760文・都合銭6貫860文金に直し1兩と2匁3分3厘之処に1兩1朱外不時金2歩2を朱救援者に預ける)
1832年	9月2日	天保3年	8月8日 晴	戌の刻頃より雨降	(四社に風雨順時五穀成就の御祈祷を仰せ付ける、当御廻船上乗りが御用が済んで院内駅に病氣逗留・17日分旅竈銭3貫400文・右(本書では左)同様
1832年	9月3日	天保3年	8月9日 晴	昨夜より雨今日に及ぶ	卯の刻過ぎ止 今日風強し
1832年	9月4日	天保3年	8月10日 曇	午の刻過ぎより雨降	未の刻頃止
1832年	9月5日	天保3年	8月11日 曇	今晩寅の刻頃雨降	即刻止 辰の刻過ぎより雨降 戌の刻頃止
1832年	9月6日	天保3年	8月12日 晴	未の刻頃より雨降	申の刻過ぎ止 (初米・去年は4月24日植付7月16日鎌入で81日目・当年は5月8日植付8月7日鎌入で88日目・去年との比較で7日遅い・7月中(節との比較?)
1832年	9月7日	天保3年	8月13日 晴		上に続く
1832年	9月8日	天保3年	8月14日 晴	午の刻過ぎより雨時々降	申の刻頃止
1832年	9月9日	天保3年	8月15日 晴	今晩寅の刻頃より雨降	卯の刻過ぎ止 (御賞)
1832年	9月10日	天保3年	8月16日 晴		
1832年	9月11日	天保3年	8月17日 晴		
1832年	9月12日	天保3年	8月18日 曇	今晩寅の刻頃より雨降	未の刻過ぎ止
1832年	9月13日	天保3年	8月19日 曇		
1832年	9月14日	天保3年	8月20日 曇	卯の刻過ぎ雨降	即刻止 申の刻過ぎより雨降 夜二入
1832年	9月15日	天保3年	8月21日 晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止	
1832年	9月16日	天保3年	8月22日 晴		
1832年	9月17日	天保3年	8月23日 曇	今晩寅の刻過ぎ雷雨	雷則刻止 雨時々降 辰の刻頃止 酉の刻頃雨降 即刻止
1832年	9月18日	天保3年	8月24日 曇	今晩寅の刻過ぎ雷雨	雷則刻止 雨時々降 夜二入
1832年	9月19日	天保3年	8月25日 曇	今晩寅の刻過ぎ雷鳴	即刻止 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止
1832年	9月20日	天保3年	8月26日 曇	申の刻過ぎより雨降	夜二入
1832年	9月21日	天保3年	8月27日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	卯の刻過ぎ止
1832年	9月22日	天保3年	8月28日 曇	今晩寅の刻頃より雨降	卯の刻過ぎ止
1832年	9月23日	天保3年	8月29日 晴	(江戸で御賞、鰯ヶ沢で御米を積み6月19日出帆の大坂船が去月23日岩城中之湊沖合いで御米300石余荷打ち漂流・去る4日浦賀表に入津・見分に勘定小頭と御徒目付を派遣、	上に続く
1832年	9月24日	天保3年	9月1日 晴	亥の刻過ぎより小雨降	
1832年	9月25日	天保3年	9月2日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	午の刻頃止 (去月29日屋四時田舎館組馬場尻村で出火・建家等焼失・火元居村預け、土手町で御家中の子が乱心刃物を振り回す)
1832年	9月26日	天保3年	9月3日 曇	午の刻頃雨降	即刻止 戌の刻頃より雨時々降 (盗みの男に3鞭御弘前御構い、去る12月5日無手形米1石1斗5升を積忍び通った男に馬2疋と米を御取り上げ6鞭居村徘徊是までどおり)
1832年	9月27日	天保3年	9月4日 曇	卯の刻頃雷鳴	即刻止 昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 酉の刻頃止 (桧の切株264本の村に過料銭52貫800文・松切株825本の村に1貫800文・雑木90本の村に2貫100文庄屋にも過料)
1832年	9月28日	天保3年	9月5日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降	申の刻頃止 (御賞、去る秋出奔の男の人相書き:当辰35歳・背5尺1寸位・月代常体ただし少々はけ候方等々)
1832年	9月29日	天保3年	9月6日 晴	(金子5兩等を盗んだ男に9鞭親引渡し居町徘徊是まで通り)	
1832年	9月30日	天保3年	9月7日 晴		
1832年	10月1日	天保3年	9月8日 晴		
1832年	10月2日	天保3年	9月9日 快晴		
1832年	10月3日	天保3年	9月10日 快晴	申の刻頃地震少し	
1832年	10月4日	天保3年	9月11日 晴	(人事異動)	
1832年	10月5日	天保3年	9月12日 曇	卯の刻頃より雨時々降	夜二入 卯の刻過ぎ地震少し (去月22日御米930石を鰯ヶ沢で積み込み出帆の当大坂御廻船が痛船になる・船作りに15兩貸す)
1832年	10月6日	天保3年	9月13日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 夜二入
1832年	10月7日	天保3年	9月14日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 夜二入 (小泊村で献上用の匏不足・外ヶ浜漁師も出来ない)
1832年	10月8日	天保3年	9月15日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	未の刻過ぎ止 今晩丑の刻過ぎ地震少し
1832年	10月9日	天保3年	9月16日 晴		
1832年	10月10日	天保3年	9月17日 快晴	(この節弘前に売り出し米なし・小売米として御米2000俵の御払いを申し出るが御払いできるお米一切なし・大坂御廻船の御登りを明春まで見合わせた御米を早くお払いできるようにする)	
1832年	10月11日	天保3年	9月18日 晴		
1832年	10月12日	天保3年	9月19日 晴		
1832年	10月13日	天保3年	9月20日 晴		
1832年	10月14日	天保3年	9月21日 晴	(一野坪村の庄屋が私曲ありとして庄屋宅に多数で押しかけた頭取の五人組の五人組役取放し・その他3人は他村預け・関係者にも過料、別段御用に6人等に御賞)	
1832年	10月15日	天保3年	9月22日 晴		
1832年	10月16日	天保3年	9月23日 晴		
1832年	10月17日	天保3年	9月24日 晴	今晩寅の刻過ぎ小雨降	即刻止 (左近将監様より川鮭1尺ツツ拝受、昨23日百沢村で出火・建家木小屋共焼失・火元居村預け、喧嘩で住民を傷害風邪で死亡させた秋田者を碇ヶ関送り返し)
1832年	10月18日	天保3年	9月25日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降	戌の刻過ぎ止 (一昨23日夜浦町組高田村で出火・類焼とも3軒焼失)
1832年	10月19日	天保3年	9月26日 晴	今朝岩木山二雪見る	
1832年	10月20日	天保3年	9月27日 晴		
1832年	10月21日	天保3年	9月28日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降	亥の刻頃止
1832年	10月22日	天保3年	9月29日 曇	午の刻頃より雨時々降	夜二入
1832年	10月23日	天保3年	9月30日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	卯の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (初鮭2本を高岡に上げる)
1832年	10月24日	天保3年	10月1日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 夜二入
1832年	10月25日	天保3年	10月2日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 巳の刻頃止 未の刻頃地震少し 申の刻過ぎより雨降 夜二入 戌の刻頃雷鳴 則刻止ム (当田畑作毛5・6歩か?)
1832年	10月26日	天保3年	10月3日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 夜二入
1832年	10月27日	天保3年	10月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ	時々降 亥の刻過ぎ止 (青森岡在より41文目迄買越す・途中の失費もあり1俵に付き45文目に相当、蟹田今別は当年新造酒皆無、神明宮に御神楽差上げる)
1832年	10月28日	天保3年	10月5日 曇		
1832年	10月29日	天保3年	10月6日 晴		
1832年	10月30日	天保3年	10月7日 快晴	下から続く	他の3村にも・同じく庄屋4人にも過料、糧草(かてぐさ:普通は食用にしない非常用の草))を用いる話が出ている、津留同様御印代1俵25文目に引き上げる、江戸で御賞)
1832年	10月31日	天保3年	10月8日 曇	辰の刻頃小雨降	即刻止 (一昨6日夜横内組深持村で出火・類焼共2軒外馬屋等焼失・火元他村預け、40間×17間の野火入りの村の百姓1軒より25文高無1軒より10文の過料・

1832年	11月1日	天保3年	10月9日	晴	
1832年	11月2日	天保3年	10月10日	曇	戌の刻頃より雨降 (一昨8日夜田舎館組境松村で出火・建家焼失・火元庄屋居村預け) 下から続く 10里四方追放大場御構い・関係する手代2人に15日宛押込)
1832年	11月3日	天保3年	10月11日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 未の刻頃地震少し (人事異動) 下から続く 余を私曲した広須組の元庄屋の田畑家屋敷御取上日数500日牢居その後30鞭 上に続く
1832年	11月4日	天保3年	10月12日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (高杉組榎木村の百姓共熱病相煩う・施薬、5ヶ年季に仰付けられ丑年(今年は辰年)季明けの15町歩余の田方からの御收納米132俵 上に続く
1832年	11月5日	天保3年	10月13日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 未の刻頃雪降
1832年	11月6日	天保3年	10月14日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (去月24日夜高杉組貯郷蔵が切破られ米4俵粃2俵盗み取られる・郷蔵守を戸丩、町々小売米不足・和徳町の重立ち5人が玄米40俵を差出す)
1832年	11月7日	天保3年	10月15日	曇	未の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止 (青森付近と弘前を往復の家中の道路は3月から9月が大豆ヶ坂(まめさか)通10月から2月が鶴ヶ坂通に決まっている・3月に鶴ヶ坂を 欄外(*)に続く
1832年	11月8日	天保3年	10月16日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 今暁風強し 今日曇降
1832年	11月9日	天保3年	10月17日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1832年	11月10日	天保3年	10月18日	晴	酉の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止 (去る15日朝赤石組支配南浮田村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け)
1832年	11月11日	天保3年	10月19日	晴	戌の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止 下から続く (検見なし:平年作と認定)こととする・今年是不熟で再検見をすべし?と検見人も申し上げたが認められなかった、大廻検見に任せる?)
1832年	11月12日	天保3年	10月20日	曇	(藤崎組の検見の際杵糲(検見の代表地点を決めた範囲の糲か:多分少なければ作柄が悪く税が減免される)を盗んだ子供がある・直様召捕り入牢御定法通り一村差除く 上に続く
1832年	11月13日	天保3年	10月21日	晴	(小麦が格別高値で菓子値上げ願・竹流し1枚代2文を3文・饅頭10枚代5文目を6文目に等の名前・値段あり、去る17日夜金木組磯松村で秣釜より失火・類焼共7軒焼失・火元他村預け)
1832年	11月14日	天保3年	10月22日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 夜二入
1832年	11月15日	天保3年	10月23日	晴	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止
1832年	11月16日	天保3年	10月24日	曇	(御献上の鮭御台所頭が差出す、当月13日の風雨で十三湯が湖込二相成る・木造新田等の5ヶ村の稲草流失、当作体存外減石)
1832年	11月17日	天保3年	10月25日	晴	
1832年	11月18日	天保3年	10月26日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1832年	11月19日	天保3年	10月27日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止
1832年	11月20日	天保3年	10月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (吉沢庄三郎を郡奉行に等の人事異動、当年作柄所取立て不容易候間郡所貸付夫喰利米の上納御免を仰せ付ける、此の度仁朱の歩判吹き立てる)
1832年	11月21日	天保3年	10月29日	晴	
1832年	11月22日	天保3年	11月1日	曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止
1832年	11月23日	天保3年	11月2日	曇	今暁寅の刻過ぎ小雨降 即刻止 午の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止 (案外の減石で貯え糲取立てを休年)
1832年	11月24日	天保3年	11月3日	曇	今暁寅の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム
1832年	11月25日	天保3年	11月4日	曇	(去る17日夜金木組磯松村の出火で難渋の7軒に御手当て1人に御米1俵宛下し置かれる、去月12日より同26日まで新米日々附相場平均値段米1俵代35文目5分・この値段で御差引)
1832年	11月26日	天保3年	11月5日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1832年	11月27日	天保3年	11月6日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 下から続く 4分9厘7毛・御定め役1文目2分で65匁6分9厘7毛(青森御蔵62匁6分2厘・弘前72匁1分8厘3毛・鯉ヶ沢62匁2分8厘8毛))
1832年	11月28日	天保3年	11月7日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻頃止 (大光寺組本町村の庵寺に止宿の秋田扇田出生の男が病死・秋田扇田に書状差し遣わず、御米3ヶ所平均値段(1俵)64文目 上に続く
1832年	11月29日	天保3年	11月8日	晴	
1832年	11月30日	天保3年	11月9日	晴	亥の刻過ぎより小雨時々降 下から続く 8厘に相当・1升を来る2月中7文目値段に仰せ付ける)
1832年	12月1日	天保3年	11月10日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止む 巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム (当新粒油出盛日数30日附相場平均4斗入り1俵35文目3分8厘3毛に相当・水油1升が6文目9分 上に続く
1832年	12月2日	天保3年	11月11日	曇	昨夜雪少し降 (御賞、土用中に至り手も薄暑冷風吹き続く・御損耗も分かり申さず少なからざる損耗にいたる申すべし・公儀御届向きも追々)
1832年	12月3日	天保3年	11月12日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止
1832年	12月4日	天保3年	11月13日	曇	今日雪少し降 (賈金取扱の男2人に6鞭宛本所(このように書いてある)徘徊はまで通り、桧26本の皮をはいだ男に6鞭居村徘徊はまで通り)
1832年	12月5日	天保3年	11月14日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1832年	12月6日	天保3年	11月15日	晴	(去る10日夜四時頃横内組作道村の郷蔵の屋根切破り(3尺×2尺5寸)糲が盗み取られる、深浦村中山で越後の男が自害)
1832年	12月7日	天保3年	11月16日	曇	今日雪降 二寸程積ル
1832年	12月8日	天保3年	11月17日	晴	(当年は田方不作その上畑方も不熟)
1832年	12月9日	天保3年	11月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る9月尾上村日雇が家内6人連れて出奔)
1832年	12月10日	天保3年	11月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 辰の刻過ぎ地震少し
1832年	12月11日	天保3年	11月20日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積
1832年	12月12日	天保3年	11月21日	曇	昨夜雪降 三寸程積 下から続く より当月12日まで附相場日数30日平均米1俵34匁2分5厘に相当・酒1升が1文目8分9毛に相当・酒1升を2匁値段に申し付ける)
1832年	12月13日	天保3年	11月22日	晴	(豆腐の隠れ家業で道具を取押えられ謹んで居るべき所渡世難渋でこの道具で又また作業を始めた男の道具御取上げ過料銭50日・この五軒組合の者共にも、新出米去月12日 上に続く
1832年	12月14日	天保3年	11月23日	曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (古懸不動尊御出汗・御神楽・御祈禱などを申し付ける、今別町本覚寺の秘仏を盗んだ男に6鞭親に引渡、方々で盗みの男に18鞭弘前町御構い居村払い)
1832年	12月15日	天保3年	11月24日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 今日雪降 五寸程積 (古懸不動尊又々御出汗) 下から続く 引合3日遅い、津軽屋の支配人が御廻船の用向が終わり28日に出立・御手当金5兩)
1832年	12月16日	天保3年	11月25日	曇	今日雪降 二寸程積 (21日暮より翌22日朝迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月7日暮より翌8日朝まで氷張る・当年は日数に引合14日遅く節に 上に続く
1832年	12月17日	天保3年	11月26日	曇	巳の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 今日雪降 二寸程積
1832年	12月18日	天保3年	11月27日	曇	(木造新田遠山里村の時疫が全快、8月29日夜に故なく抜刀し住民に切りかかった御家中の子の他出差留め親預け)
1832年	12月19日	天保3年	11月28日	曇	(伐り荒らしがあった山下村の庄屋・百姓共に過料銭121貫400文)
1832年	12月20日	天保3年	11月29日	晴	
1832年	12月21日	天保3年	11月30日	晴	戌の刻過ぎより雨時々降 (黒石役人より松前等に廻米3000石津出御免の申し出・2000石を申し付ける)
1832年	12月22日	天保3年	閏11月1日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 未の刻頃止
1832年	12月23日	天保3年	閏11月2日	晴	
1832年	12月24日	天保3年	閏11月3日	曇	昨夜より雪少し降 午の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止 戌の刻過ぎ地震少し
1832年	12月25日	天保3年	閏11月4日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (大根子村の庄屋等に御賞)
1832年	12月26日	天保3年	閏11月5日	晴	昨夜雪降 三寸程積 (御賞)
1832年	12月27日	天保3年	閏11月6日	晴	頃日寒強し
1832年	12月28日	天保3年	閏11月7日	晴	昨夜雪降 五寸程積 (去月27日夜油川別段役が手段米取押える・油川組の別段役増強?)
1832年	12月29日	天保3年	閏11月8日	晴	未の刻過ぎ地震少し
1832年	12月30日	天保3年	閏11月9日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 者共に御賞、国産として南部碗を売買した男達に碗を御取り上げ過料銭600文ツツ)
1832年	12月31日	天保3年	閏11月10日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積ル 頃日寒強し (造酒は三ヶー減石するよう申し付ける、高杉組榎木村で時疫・御施薬し全快、大川水除堤出来に関し金木新田の 上に続く

(*) 通る者あり止めるとの触れ、当7月2日の岩木川の流木留揚げ隠置きで御目見以下御留守居支配の御奉公遠慮・紺屋町の男3人に過料銭5貫400文)

1833年	1月1日	天保3年	閏11月11日	曇	昨夜雪降	八寸程積	今日雪降	六寸程積 (養蚕方に御賞)	下から続く	町払い、御構い地に立ち入り盗みの男に3鞭御弘前町払い、盗み等の男2人に3鞭宛弘前御構い)			
1833年	1月2日	天保3年	閏11月12日	晴	昨夜雪降	三寸程積	(去る5日夜鯉ヶ沢浜町で酒狂い等で喧嘩・9日に双方死亡)				下から続く	その五軒組合にも1貫200文宛、盗み出した質札を用いた等の男に6鞭弘前	上に続く
1833年	1月3日	天保3年	閏11月13日	曇	昨夜雪降	二寸程積	(賈南録使用の嫌疑があり他出差し止め中に外出し銭掠取りの男に3鞭居村徘徊はまで通り、吟味の筋あり倅を預けられ逃げられた親に過料銭1貫200文・					上に続く	
1833年	1月4日	天保3年	閏11月14日	曇	昨夜雪降	一寸程積	(初鯉式本御台所頭から)						
1833年	1月5日	天保3年	閏11月15日	曇	今日雪少し降								
1833年	1月6日	天保3年	閏11月16日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今暁丑の二刻寒に入	今日雪降	三寸程積				
1833年	1月7日	天保3年	閏11月17日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少し降	(用人が3人とも風氣(風邪)で出仕なし)					
1833年	1月8日	天保3年	閏11月18日	晴	昨夜雪降	一寸程積							
1833年	1月9日	天保3年	閏11月19日	晴	(用人3人の病氣同じ・御留守居組頭も全部病気で御馬廻組頭に泊まり助番を仰せ付けたが病気で堀五郎左衛門(御手廻組頭)が泊まる)								
1833年	1月10日	天保3年	閏11月20日	曇	昨夜雪降	二寸程積							
1833年	1月11日	天保3年	閏11月21日	曇	今日雪降	二寸程積							
1833年	1月12日	天保3年	閏11月22日	曇	昨夜雪降	八寸程積	今日雪降	三寸程積	子の刻頃地震少し (御賞(金200疋・金1歩2朱・金100疋・銀5兩))				
1833年	1月13日	天保3年	閏11月23日	曇	今日雪少し降	(養父と喧嘩の男に養子引取15鞭5里四方追放)							
1833年	1月14日	天保3年	閏11月24日	晴	昨夜吹雪強し	雪三寸程積	今日雪降	二寸程積					
1833年	1月15日	天保3年	閏11月25日	曇	昨夜雪降	七寸程積	今日雪降	四寸程積	(病気の用人が全部揃う、当月15日朝十三湊領長濱に三ヶ二通り肉のない鯨が流寄せる)				
1833年	1月16日	天保3年	閏11月26日	曇	昨夜雪降	一尺三寸程積	頃日寒強し						
1833年	1月17日	天保3年	閏11月27日	晴									
1833年	1月18日	天保3年	閏11月28日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降						
1833年	1月19日	天保3年	閏11月29日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪降	三寸程積					
1833年	1月20日	天保3年	閏11月30日	曇	昨夜雪少し降	(この節時疫流行・大行院で時疫退散の御祈禱を仰せ付ける、去る26日広須組芦沼村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)							
1833年	1月21日	天保3年	12月1日	曇	昨夜雪降	三寸程積							
1833年	1月22日	天保3年	12月2日	晴	昨夜雪少し降								
1833年	1月23日	天保3年	12月3日	晴	昨夜雪少し降	(奈良庄司を長柄奉行格に等の人事異動)							
1833年	1月24日	天保3年	12月4日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降							
1833年	1月25日	天保3年	12月5日	曇	昨夜雪降	四寸程積							
1833年	1月26日	天保3年	12月6日	曇	昨夜雪少し降	下から続く 勘当の倅が狼藉として入親が牢を願っている)							
1833年	1月27日	天保3年	12月7日	曇	昨夜雪吹強し	雪二寸程積	今日雪吹強し	三寸程積	(去る4日昼藤代組妙堂崎村で出火・建家焼失・火元高無村預け、戸沢村の桧伐荒の過料は当年格別悪作で上納を緩和、			上に続く	
1833年	1月28日	天保3年	12月8日	曇	昨夜雪降	三寸程積							
1833年	1月29日	天保3年	12月9日	晴	昨夜雪降	一寸程積							
1833年	1月30日	天保3年	12月10日	曇	今日雪少し降	(去月22日屋形様が御鷹の雁を御拝領遊ばされたので御目見以上が明11日四時以前に登城するようにとの大目付の触れ)							
1833年	1月31日	天保3年	12月11日	晴	昨夜雪降	二寸程積	(御賞、杉切株・桧皮剥ぎ・桧切株等が見つかった村・その庄屋に過料)						
1833年	2月1日	天保3年	12月12日	晴	今日雪少し降	(去る2日夜(赤石組)久田村の墓守が出火・村中残らず罷り出で取り防ぐ・1軒焼失、米148257石内41332石程が田畑当毛引並びに諸品成とも・残って106925石程)							
1833年	2月2日	天保3年	12月13日	晴									
1833年	2月3日	天保3年	12月14日	曇	昨夜雪降	五寸程積							
1833年	2月4日	天保3年	12月15日	曇	今日雪降	三寸程積	(津軽出雲の御用人兼帯御免等の人事異動)					下から続く	(田畑当毛引並びに仕付け荒共尤津軽左近将監殿(黒石の殿様)分も篋め罷有候)・平均5歩6厘7毛)
1833年	2月5日	天保3年	12月16日	曇	昨夜雪降	七寸程積	今日雪少し降	(盗みの男に3鞭弘前御構い、家出の妻を捜しに悪事の男に3鞭弘前町徘徊はまで通り・離縁は勝手次第)				下から続く	6斗6升4合 上に続く
1833年	2月6日	天保3年	12月17日	曇	今日雪少し降	(公儀御届:高242353石5斗2升内137372石5斗2升2合(71005石8斗5升8合(諸品成並びに荒其外位下銀納成年季休後収納御免高稗植付別面廻共)・66366石							上に続く
1833年	2月7日	天保3年	12月18日	曇	昨夜雪降	六寸程積	今日雪降	二寸程積					
1833年	2月8日	天保3年	12月19日	曇	昨夜雪降	一尺五寸程積	今日雪降	一尺程積	(雪積弥増二相成り候間御城中雪下之儀早速申し付けらるべき旨御目付江申遣す)				
1833年	2月9日	天保3年	12月20日	曇	今日雪少し降								
1833年	2月10日	天保3年	12月21日	曇	(村貯え糶の増等で多数に御賞(弘前藩庁日記の60枚位かな))								
1833年	2月11日	天保3年	12月22日	晴	下から続く 種々の盗みの男に3鞭弘前町御構い)								
1833年	2月12日	天保3年	12月23日	晴	頃日余寒強し	(似せ役人・狼藉乱暴の男に30鞭10里四方追放大場御構い、刀等を盗んだ御家中の弟に3鞭弘前町払い、鑓盗み御構いの弘前立ち入りの男に3鞭弘前町払い、							上に続く
1833年	2月13日	天保3年	12月24日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	(御賞、当御廻船の内紀州船が房州沖で破船・上乗り下乗りは御用が済んだら夏服・手当てを下し置かれる、去る2日金子を持逃げの諸手足軽を召捕る)					
1833年	2月14日	天保3年	12月25日	曇	昨夜吹雪強し	今日雪少し降	(浦町横内組村々で時疫・施薬、去る12日浦町組大野村の百姓の祖母が104歳で病死)						
1833年	2月15日	天保3年	12月26日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降						
1833年	2月16日	天保3年	12月27日	晴	(御賞)	下から続く 平均39文目に相当酒1升が1文目9分8厘7毛に相当・三ヶ一減石もあり1升を2匁1分1合売り13文値段に申し付ける)							
1833年	2月17日	天保3年	12月28日	晴	(止むを得ざる事として御家中歩通御借上げのお聞き届けを仰せ付けられる、去月江戸表で拝受の御鷹の雁を御家中で頂戴する、御賞、当寒造の仕込米買入37文目5分に相当・								上に続く
1833年	2月18日	天保3年	12月29日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	(当麦蒔付反別卯年分が617町9反3畝10歩当年分が943畝10歩・去年より321町5反2歩通二御座候……(意味不明・当年分の「畝」は					欄外(*)に続く
1833年	2月19日	天保3年	12月30日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降	一寸程積						
1833年	2月20日	天保4年	正月1日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	五寸程積	(旧臘29日夜四ツ半赤田組鶴田村で出火・建家等焼失・火元戸ヅ)				
1833年	2月21日	天保4年	正月2日	晴									
1833年	2月22日	天保4年	正月3日	晴	(御金奉行が御吉例金を差出す)								
1833年	2月23日	天保4年	正月4日	曇	昨夜雪降	四寸程積	今日雪降	三寸程積					
1833年	2月24日	天保4年	正月5日	曇	昨夜雪降	二寸程積							
1833年	2月25日	天保4年	正月6日	晴	(赤石組田野沢村前浜に流れ寄せた鯨にヲサ(意味不明・このように書いてある)がないのだそう)								
1833年	2月26日	天保4年	正月7日	曇	今日吹雪強シ	雪三寸程積	(七種の御祝儀)						
1833年	2月27日	天保4年	正月8日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	二寸程積					
1833年	2月28日	天保4年	正月9日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降						

(*)「町」の誤記かもしれないがそれでも数値が合わない)・当業種蒔付卯卯年分509町5反2畝15歩当年分が618町5反1畝6歩・去年より108町9反8畝21歩通二御座候)

(*)「町」の誤記かもしれないがそれでも数値が合わない)・当業種蒔付け卯年分509町5反2畝15歩当年分が618町5反1畝6歩・去年より108町9反8畝21歩通二御座候)

1833年	3月1日	天保4年	正月10日	晴	
1833年	3月2日	天保4年	正月11日	曇	今日雪少降
1833年	3月3日	天保4年	正月12日	曇	今日雪降 一寸程積
1833年	3月4日	天保4年	正月13日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 頃日余寒強シ (10日夜御家中重田某の甲冑が盗みとられる・手配)
1833年	3月5日	天保4年	正月14日	曇	今日雪少降 (秋田で盗賊した庄内男を追って久保田の隠密が手下とも3人で弘前に来ている、江戸で人事異動・御賞)
1833年	3月6日	天保4年	正月15日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 一寸程積 (太田惣吉を勘定奉行手伝いととの人事異動、旧臘27日上野御普請御用を仰せ付けられる、秋田の盗賊の召捕り方を丁助に申しつけ昨夜召捕る)
1833年	3月7日	天保4年	正月16日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1833年	3月8日	天保4年	正月17日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (松前表より種籾の買越し沖出を求めて来ている)
1833年	3月9日	天保4年	正月18日	晴	昨夜雪少降
1833年	3月10日	天保4年	正月19日	曇	昨夜雪少シ降 巳の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 午の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム 今日風強シ
1833年	3月11日	天保4年	正月20日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1833年	3月12日	天保4年	正月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積
1833年	3月13日	天保4年	正月22日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 一尺程積る
1833年	3月14日	天保4年	正月23日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積ル
1833年	3月15日	天保4年	正月24日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降
1833年	3月16日	天保4年	正月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1833年	3月17日	天保4年	正月26日	晴	
1833年	3月18日	天保4年	正月27日	晴	昨夜雪少降
1833年	3月19日	天保4年	正月28日	曇	申の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止ム (人事異動、蟹田湊領宇田村前沖大根と申す所は諸魚の生立の場所・引網漁事年限にて御差留め・もめているが分からない)
1833年	3月20日	天保4年	正月29日	曇	昨夜雪吹強シ 今日雪少降
1833年	3月21日	天保4年	2月1日	曇	今日雪降 四寸程積 (庄内出生の盗賊召捕りで髪結並びに乞食3人に御酒代を下し置かれる、碇ヶ関に町貯え米の拝借を申し付ける、上野御普請出銀高:金14782兩余と仰せ渡される)
1833年	3月22日	天保4年	2月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積ル (去る8月23日誓願寺前で御留守居組の倅と御目見以下御留守居支配が喧嘩・以下が手傷・倅は他出差留め親預け以下は慎)
1833年	3月23日	天保4年	2月3日	晴	今日雪少降
1833年	3月24日	天保4年	2月4日	曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (隠津出の関係五人組庄屋に過料、御鷹の雁御拝領の御祝儀として座当59人盲女286人に1人に2分5厘で99文目5分下し置かれる)
1833年	3月25日	天保4年	2月5日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻過ぎ止ム
1833年	3月26日	天保4年	2月6日	曇	今日雪少シ降
1833年	3月27日	天保4年	2月7日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (黒石藩の3000石の津出願を2000石にしていたが3000石を認めている)
1833年	3月28日	天保4年	2月8日	曇	(旧臘10日目鹿沢村より継送りの(秋田出身の)男が和徳町で病死)
1833年	3月29日	天保4年	2月9日	晴	
1833年	3月30日	天保4年	2月10日	曇	
1833年	3月31日	天保4年	2月11日	晴	下から続く 質入した男に30鞭10里四方追放大場・外ヶ浜4ヶ組御構い・関係者にも罰、一昨年秋居村領山より検盗み伐りの男14人に6・9・12・15又は18鞭居村徘徊はまで通り)
1833年	4月1日	天保4年	2月12日	晴	昨夜霰少シ降 (近国去年作跡秋田南部辺り迄も劣作にて米穀格別高値の様子に候えば近国徘徊の悪者共……・厳しく規制しろと申し付ける、一昨年4月に松前様の荷物を 上に続く
1833年	4月2日	天保4年	2月13日	晴	(去る20日津軽主水を御家老職手伝い御城代格にとの人事異動、昨年御領分薄暑にて氣候不順・平均5分6厘7毛の御損毛と去る18日に松平和泉守(御老中)に届ける
1833年	4月3日	天保4年	2月14日	晴	(去る10日夜五つ半時金木新田浅井村で出火・建家1軒焼失・火元漆守(苗字つき)に慎申し付ける)
1833年	4月4日	天保4年	2月15日	晴	
1833年	4月5日	天保4年	2月16日	晴	酉の刻過ぎより雨時々降
1833年	4月6日	天保4年	2月17日	曇	昨夜より雨今日二およひ卯の刻頃止 今日雪降 一寸程積ル
1833年	4月7日	天保4年	2月18日	晴	昨夜雪降 五寸程積ル (去る16日夜九時過ぎ後潟組奥内村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、16日朝五時頃上飯詰村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け)
1833年	4月8日	天保4年	2月19日	晴	
1833年	4月9日	天保4年	2月20日	晴	亥の刻過ぎより小雨降 (一昨夜五つ時頃和徳町名主の小見世に生後50日くらいの子捨子・北横町の乳持ちの者に預け養育させる)
1833年	4月10日	天保4年	2月21日	曇	昨夜より雨今日におよひ時々降 未の刻過ぎ止ム
1833年	4月11日	天保4年	2月22日	晴	(去る19日夜赤石組追良瀬村で出火・類焼とも9軒建馬3疋焼失・火元他村預け、木造新田下牛潟村に時疫・御施薬)
1833年	4月12日	天保4年	2月23日	晴	
1833年	4月13日	天保4年	2月24日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入る 下から続く 建家等焼失・火元居村預け)
1833年	4月14日	天保4年	2月25日	晴	昨夜より雨今日に及び辰の刻過ぎ止ム(晴 昨夜より雨今日に及び辰刻過止ム) (岩木川出水・駒越渡場両船共往来差留める、去る20日夜木作新田千代田村で出火・ 上に続く
1833年	4月15日	天保4年	2月26日	曇	巳の刻頃小雨降 即刻止 今日雪降 七寸程積る
1833年	4月16日	天保4年	2月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積る
1833年	4月17日	天保4年	2月28日	晴	申の刻頃より雨降 酉の刻頃止ム (三之丸御屋形御庭に置いた侍従様(先代寧親)の御肖像はこの度薬王院に御遷座、去る10月検見の節粹籾を掴み取った男に押込30日)
1833年	4月18日	天保4年	2月29日	晴	
1833年	4月19日	天保4年	2月30日	晴	未の刻頃雨降 即刻止ム (当月25日昼より翌26日朝まで十三潟大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・日数引合去年より12日早く節に引合7日遅い)
1833年	4月20日	天保4年	3月1日	晴	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1833年	4月21日	天保4年	3月2日	晴	(油屋どもが粟種値段々引立3月より5月中の粒油値段1升を7文目に申立・6文目5分に申し付ける、去月晦日夜上飯詰村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け)
1833年	4月22日	天保4年	3月3日	晴	午の刻過ぎ地震少シ (昨27日までに十三潟前後の水明ける)
1833年	4月23日	天保4年	3月4日	晴	(赤石組追良瀬村の類焼の者共9軒に御救い米1俵充下し置かれる)
1833年	4月24日	天保4年	3月5日	晴	
1833年	4月25日	天保4年	3月6日	晴	(去る閏11月15日油川村の隠津出し男に15鞭所払い外ヶ浜並びに浦々住居御構い・五軒組合の者共と庄屋に過料) 下から続く 千代田村の1家3人出奔)
1833年	4月26日	天保4年	3月7日	晴	申の刻過ぎより雨降 即刻止ム (昨6日三之北御番中の御馬廻与力が大病・駕籠にて宿下り、申4日夜赤石組岩崎村で出火・70軒余焼失・近山より木の伐取りを許す、木造新田 上に続く
1833年	4月27日	天保4年	3月8日	曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム (去る4日夜広須組沼崎村で味噌煮釜より出火・建家等焼失・火元居村預け、以下支配佐々木某が自宅で狼藉者(借金取り)に 欄外(*)に続く
1833年	4月28日	天保4年	3月9日	晴	(昨年11月3日夜若者共13・4人に村中に触れさせ翌日川原地に一同より集まり柳切取りの頭取に3鞭居村徘徊はまで通り、人事異動、御賞)
1833年	4月29日	天保4年	3月10日	晴	
1833年	4月30日	天保4年	3月11日	晴	

(*) 出会いまもなく死亡・狼藉者4人(内1人は出頭?)は捕まる)

1833年	5月1日	天保4年	3月12日 晴	亥の刻頃より雨時々降 (当両都御廻船の上乗り88人下乗り79人を仰せ付ける)
1833年	5月2日	天保4年	3月13日 曇	昨夜より雨今日におよひ時々降 夜二入る (岩木川出水・今四時頃より両船とも通路差留める)
1833年	5月3日	天保4年	3月14日 曇	昨夜より雨今晩寅の刻頃止ム 昨夜風強シ 下から続く 5尺3寸位など、去る12日金木組長富新村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1833年	5月4日	天保4年	3月15日 晴	(一昨13日暮六時半時大牢中の男が発狂怪我人もあるらしい・戸を少し開けたら大勢が出て濱館某と仙台の某が逃去る・御用刀1本も見えない・手配の人相書き:5尺2寸位と 上に続く
1833年	5月5日	天保4年	3月16日 晴	午の刻頃地震少シ 子の刻過ぎより雨降 下から続く 去る12日夜飯詰組一野坪村で出火・建家1軒焼失・火元百姓居村預け、去る13日夜青森米町小路で小店 欄外(*)に続く
1833年	5月6日	天保4年	3月17日 曇	昨夜より雨今日ニおよひ時々降 夜二入る (去る13日夜の牢抜けの3人が死に物狂いで手向かい・やむを得ないこととして捕らえるために打擲した・今晩2人今屋1人が死亡した、 上に続く
1833年	5月7日	天保4年	3月18日 曇	昨夜より雨今日ニおよひ時々降 巳の刻頃止ム
1833年	5月8日	天保4年	3月19日 晴	(大鰐組乳井薬師堂両村の者共御小納戸山で双方大勢で喧嘩・医者が何人も必要な負傷者数)
1833年	5月9日	天保4年	3月20日 晴	(昨夜八時頃鰺ヶ沢七ツ石町で出火・類焼潰家共26軒で鎮火・火元不明、別段御用に御賞)
1833年	5月10日	天保4年	3月21日 晴	(去る17日乳井薬師堂村の者共の喧嘩の内両村の5人を腰縄付きで他村預け、一昨19日屋浪岡組柳久保村領に野火・飛火で建家28軒建馬2疋穀物等焼失、桧の切株等があった村に過料)
1833年	5月11日	天保4年	3月22日 晴	(去る4日夜富田御屋敷物置の錠前きり破られる)
1833年	5月12日	天保4年	3月23日 温	今晩寅の刻頃より小雨時々降 未の刻過ぎ止む
1833年	5月13日	天保4年	3月24日 晴	
1833年	5月14日	天保4年	3月25日 曇	今晩寅の刻頃より小雨時々降 未の刻過ぎ止ム 戌の刻頃より雨降
1833年	5月15日	天保4年	3月26日 曇	昨夜より雨今晩寅の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨降 夜二入る
1833年	5月16日	天保4年	3月27日 曇	昨夜より雨 今日ニおよひ時々降 申の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より雨今日ニおよひ時々降申刻過ぎ止ム)
1833年	5月17日	天保4年	3月28日 曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止ム (鰺ヶ沢七ツ石町で出火の火元を町同心柴田某と笠島屋暴双方の裏より出火と認定・双方憤)
1833年	5月18日	天保4年	3月29日 曇	下から続く ×21間位)焼失・仮取建居小屋(4間×9間位)焼失・同所四・五の御蔵屋根残らず剥取・二の御蔵屋根は三ヶニ通剥ぎ取る)
1833年	5月19日	天保4年	4月1日 曇	未の刻頃より小雨降 申の刻過ぎ止ム 亥の刻頃より雨降 (今日暮六時頃三ノ御丸粃倉出火・鎮火、以下3日記載の内容:三之御蔵(4間×21間)焼失・同所摺場懸小屋(4間 上に続く
1833年	5月20日	天保4年	4月2日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止 辰の刻頃小雨降 即刻止ム (去月29日夜中里村で出火・類焼とも24軒焼失・火元他村預け、江戸上方往來の節餞別土産等を止めろとの触れ)
1833年	5月21日	天保4年	4月3日 晴	(三ノ御丸粃倉出火の内容報告あり:4月1日に記述)
1833年	5月22日	天保4年	4月4日 晴	亥の刻頃小雨降 即刻止ム (去月18日夜の鰺ヶ沢七ツ石町の26軒に御救い米1俵充)
1833年	5月23日	天保4年	4月5日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 未の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止ム
1833年	5月24日	天保4年	4月6日 晴	
1833年	5月25日	天保4年	4月7日 晴	(去る四日後潟組広瀬村で出火・類焼とも3軒駄馬2疋焼失・火元夫婦少々怪我・火元火怪我に付居村預け養生申し付ける、同夜尾崎組新谷(屋)村で出火・類焼とも4軒焼失・火元他村預け)
1833年	5月26日	天保4年	4月8日 曇	辰の刻頃小雨降 即刻止ム (去秋浦町組高田村の出火に関し他出差止中の男が去月12日家族引連れ出奔、一粒金丹五剤を和田某手塚某に調査させる、御発駕を来月6日と仰せ出される)
1833年	5月27日	天保4年	4月9日 曇	今晩寅の刻過ぎ雷鳴 雷強シ 即刻止 雨時々降 申の刻頃止ム (野火が入った21?村に過料、松の切株369本が見付かった村に過料)
1833年	5月28日	天保4年	4月10日 曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入る (昨9日晩七時頃川合村で落雷・建馬雷死)
1833年	5月29日	天保4年	4月11日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻止ム (先月19日野火から焼失の28軒に御救い米御米1俵充下し置かれる)
1833年	5月30日	天保4年	4月12日 晴	今朝霜強し
1833年	5月31日	天保4年	4月13日 晴	巳の刻過ぎ地震少々
1833年	6月1日	天保4年	4月14日 曇	
1833年	6月2日	天保4年	4月15日 曇	(当月10日御米3250俵その他を積み青森出帆の当御廻船の勢州船が南部奥戸浦に流れ寄せる・やむなく少々荷打ち・元船乗り捨て橋船上陸・勘定小頭等派遣)
1833年	6月3日	天保4年	4月16日 晴	(去る8月27日夜若者共同道で村の家に入り乱暴の男に3鞭一組払い、盗み多数の男に3鞭弘前町御構い、盗みの男に3鞭弘前町払い)
1833年	6月4日	天保4年	4月17日 晴	(頃日天気不正・明18日御穀神で御神楽)
1833年	6月5日	天保4年	4月18日 晴	酉の刻頃小雨降 即刻止ム
1833年	6月6日	天保4年	4月19日 曇	戌の刻頃より雨時々降 (屋形様去る6日江戸御発駕)
1833年	6月7日	天保4年	4月20日 曇	昨夜より之雨今日ニおよひ夜二入る
1833年	6月8日	天保4年	4月21日 曇	昨夜より雨今日ニおよひ午の刻過ぎ止ム
1833年	6月9日	天保4年	4月22日 晴	
1833年	6月10日	天保4年	4月23日 晴	(留書表右筆佐藤栄吉等に御賞、屋形様が白河の駅で御持病・逗留せずそのまま進んだ?)
1833年	6月11日	天保4年	4月24日 晴	(昨日の粃倉の出火に関し御賞、男女時告別入湯を日割りに戻したい……、屋形様が22日刈和野駅に御止宿・今日1日御逗留・1日延着予定)
1833年	6月12日	天保4年	4月25日 曇	巳の刻頃より小雨降 午の刻頃止ム
1833年	6月13日	天保4年	4月26日 晴	
1833年	6月14日	天保4年	4月27日 晴	(ハツ半時過ぎ御馬上で御着城)
1833年	6月15日	天保4年	4月28日 晴	
1833年	6月16日	天保4年	4月29日 晴	
1833年	6月17日	天保4年	4月30日 晴	
1833年	6月18日	天保4年	5月1日 晴	(大泊前浜で桧角寸甫にて1000石目を積込み去月13日出帆の江戸船が南部領蛇浦沖で破船・元船乗り捨て23日に蛇浦に上陸)
1833年	6月19日	天保4年	5月2日 晴	
1833年	6月20日	天保4年	5月3日 晴	
1833年	6月21日	天保4年	5月4日 晴	(似せ銀の通用で詮議中の男傷寒(今のインフルエンザ?)・親類五軒組合の監視の上宿下がりの上養生させる)
1833年	6月22日	天保4年	5月5日 晴	(木作新田下午潟村(下午潟の誤り)で6人が時疫・施薬・近くに医者がなく苦勞している)
1833年	6月23日	天保4年	5月6日 晴	
1833年	6月24日	天保4年	5月7日 晴	
1833年	6月25日	天保4年	5月8日 晴	
1833年	6月26日	天保4年	5月9日 晴	
1833年	6月27日	天保4年	5月10日 晴	
1833年	6月28日	天保4年	5月11日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止ム (去閏11月浦町横内領組の貯粃の内139俵盗み取られる)
1833年	6月29日	天保4年	5月12日 晴	
1833年	6月30日	天保4年	5月13日 晴	

(*) 屋根失火・火元慎、一昨15日昼四時頃増館組目鹿沢村寄郷沖范地村で出火・類焼とも9軒・火元他村預け、同日昼九時過ぎ広田組五所川原村で出火・類焼とも3軒焼失・火元他村預け)

1833年	7月1日	天保4年	5月14日	晴	下から続く 並びに護穀神におみて御祈祷)	
1833年	7月2日	天保4年	5月15日	曇	卯の刻頃雨降 即刻止ム (揚屋入りの者共の内傷寒相煩い大病の者共多い・5人宿下ケ、先頃より照続きで湯水・植付できない田方も多い・護穀神で御神楽差上げ両社 上に続く	
1833年	7月3日	天保4年	5月16日	晴		
1833年	7月4日	天保4年	5月17日	晴		
1833年	7月5日	天保4年	5月18日	晴	(千歳山掃除に御賞、明後20日より17ヶ日の間大行院で時疫退散の御祈祷)	
1833年	7月6日	天保4年	5月19日	晴		
1833年	7月7日	天保4年	5月20日	晴	(明21日下居宮で雨乞いの御神楽・御祈祷差上げる)	
1833年	7月8日	天保4年	5月21日	晴	(人事異動)	
1833年	7月9日	天保4年	5月22日	曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入る (御賞、惣組御代官より明23日神明宮で雨乞いの御神事差上げる、去秋より浦町横内両組で時疫・施薬、長勝寺で雨乞い御祈祷・五山四社住吉宮でも)	
1833年	7月10日	天保4年	5月23日	曇	昨夜より雨 今暁寅の刻過ぎ止ム	
1833年	7月11日	天保4年	5月24日	晴		
1833年	7月12日	天保4年	5月25日	曇	未の刻過ぎ雨降 申の刻過ぎ止ム 亥の刻頃より雨降 (侍従様御不例・諸神社江御祈祷仰せ付けられる)	
1833年	7月13日	天保4年	5月26日	曇	昨夜より雨 今暁寅の刻頃止 辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入る	
1833年	7月14日	天保4年	5月27日	曇	昨夜より雨 今日二およひ卯の刻過ぎ止ム	
1833年	7月15日	天保4年	5月28日	曇	(下向道中の御賞)	
1833年	7月16日	天保4年	5月29日	曇	今暁寅の刻頃雨降 即刻止ム 未の刻頃小雨降 即刻止ム	
1833年	7月17日	天保4年	6月1日	晴	(奥瀬和次郎を勘定奉行に等の人事異動、4月朔日の三之丸靱御蔵出火に関し御賞)	
1833年	7月18日	天保4年	6月2日	晴		
1833年	7月19日	天保4年	6月3日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入る	
1833年	7月20日	天保4年	6月4日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 夜二入る (青田の内笛吹くなどの触れ、岩木川出水・駒越渡場今八時頃より往来差留める) 下から続く 男に3鞭居町徘徊はまで通り)	
1833年	7月21日	天保4年	6月5日	曇	昨夜より之雨今日二およひ夜二入る (岩木川出水・駒越矢来押破る・目屋野沢出流木が夥しく流れ散々になる、明6日護穀神で日和揚の御神楽差上げる、去11月何かした 上に続く	
1833年	7月22日	天保4年	6月6日	曇	未の刻頃雨降 即刻止ム	
1833年	7月23日	天保4年	6月7日	晴	(岩木川洪水で樋口矢来木38倉流木330巻位流散・その後又々矢来18倉流木40巻位流散)	
1833年	7月24日	天保4年	6月8日	晴	(去る5日風雨で蟹田川洪水・大橋12・3間ほど落ちる)	
1833年	7月25日	天保4年	6月9日	曇		
1833年	7月26日	天保4年	6月10日	晴		
1833年	7月27日	天保4年	6月11日	曇	(その後も去作不熟・御手伝い御用等で差支えがあり式步通りの差上げは来る末年(今年は巳年)まで御借米・勘弁いたし質素にとの家老口達)	
1833年	7月28日	天保4年	6月12日	晴	(角田宇源司を大間越町奉行に等の人事異動)	
1833年	7月29日	天保4年	6月13日	曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム (去8月26日夜土手町より衣類大半紙盗みの御徒の弟に3鞭弘前払い)	
1833年	7月30日	天保4年	6月14日	晴	(秋田久保田町に5カ年季勤めで給金9両を受取り同年の内に出席……)	
1833年	7月31日	天保4年	6月15日	曇	(去7月岩木川出水の節流木を21人が隠し上げ・過料)	
1833年	8月1日	天保4年	6月16日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入る	
1833年	8月2日	天保4年	6月17日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 夜二入る (明18日神明宮に日和揚御神楽差上げる、四社並びに護穀神・最勝院に季候順暑の御祈祷を仰せ付ける)	
1833年	8月3日	天保4年	6月18日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 申の刻過ぎ止ム (別段御用に御賞、丹後者詮議・居たら送り返すよう指示)	
1833年	8月4日	天保4年	6月19日	晴		
1833年	8月5日	天保4年	6月20日	晴		
1833年	8月6日	天保4年	6月21日	晴		
1833年	8月7日	天保4年	6月22日	晴		
1833年	8月8日	天保4年	6月23日	晴		
1833年	8月9日	天保4年	6月24日	曇	今暁丑の刻過ぎより雨降 辰の刻頃止ム (去る22日夜四時過ぎ舞戸村で出火・類焼潰家とも6軒焼失・火元他村預け、笠原近江に蟄居御免) 下から続く 3鞭居町徘徊はまで通り)	
1833年	8月10日	天保4年	6月25日	曇	卯の刻過ぎより雨降 辰の刻頃止ム 下から続く 上げる、去る10月10・12日に生馬の皮剥ぎ一昨年盗みの男に6鞭居村徘徊はまで通り、騙取った品を偽名で質入の男に 上に続く	
1833年	8月11日	天保4年	6月26日	曇	(27日より五山で順暑の御祈祷、侍従様の御剃髪御名改めの御祝儀に座当60・盲女289人に15文宛下し置かれる、惣御代官より明後28日日和揚げ順暑の御神楽を下居宮に差 上に続く	
1833年	8月12日	天保4年	6月27日	晴	(天気不正に付き岩木嵩並びに湯段の湯治御差留め)	
1833年	8月13日	天保4年	6月28日	晴	(青森町で売出し米皆無・御払いを申し出でて500俵を御払い・御蔵有合せ分と遠州船に積み入れの分の陸揚げを青森町奉行から申し入れる)	
1833年	8月14日	天保4年	6月29日	晴		
1833年	8月15日	天保4年	7月1日	晴	(昨年作秣不熟作・此の節米払底・酒味噌の津出御差留め、去月26日夜後湯組清水村で出火・類焼もある・火元他村預け)	
1833年	8月16日	天保4年	7月2日	晴		
1833年	8月17日	天保4年	7月3日	晴	酉の刻過ぎ雨降 戌の刻過ぎ止ム	
1833年	8月18日	天保4年	7月4日	晴		
1833年	8月19日	天保4年	7月5日	曇		
1833年	8月20日	天保4年	7月6日	曇	午の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止ム	
1833年	8月21日	天保4年	7月7日	晴	戌の刻過ぎ雨降 即刻止ム (当月中旬より弘前町で小売米差支・御米御払い申出の内500俵を1俵45文目立にて代金即納の上御払い仰付ける、去る12月よりの浦町横内組の時疫が快気)	
1833年	8月22日	天保4年	7月8日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (去月14日丑半侍従様御逝去・公儀江の御届けは27日丑の中刻と御届)	
1833年	8月23日	天保4年	7月9日	曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止ム 下から続く 1俵45文目立てにて又御払い、今暁八半時過ぎ本町五丁目で物置小屋焼失・火元慎)	
1833年	8月24日	天保4年	7月10日	晴	(当秋菜種附相場出盛り30日平均銭1文目に付1升5タ8才に相当・水油1升到付6文目8厘7厘に相当・水油1升到付6文目8分値段に仰付ける、弘前町に小売米なし・500俵を 上に続く	
1833年	8月25日	天保4年	7月11日	曇	未の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止ム	
1833年	8月26日	天保4年	7月12日	曇	(去秋より時疫の中野村に今も・施薬、4日夜広須組の貯靱入りの郷蔵が切破られ靱11俵余が盗み取られる)	
1833年	8月27日	天保4年	7月13日	晴		
1833年	8月28日	天保4年	7月14日	曇	午の刻頃より雨降 夜二入る (今日より病中ながら津軽多膳が御用番助勤・本来が津軽多膳であつたのがその助勤の西館宇膳も病気に成つたため)	
1833年	8月29日	天保4年	7月15日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 夜二入る	
1833年	8月30日	天保4年	7月16日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 夜二入る 酉の刻頃雷鳴 即刻止ム	
1833年	8月31日	天保4年	7月17日	曇	昨夜より之雨今日二およひ時々降 申の刻頃止ム	

1833年	9月1日	天保4年	7月18日 晴	未の刻過ぎ雨降 申の刻過ぎ止ム (来月朔日の岩木山参詣は勝手次第・鳴物は用いぬよう仰付ける、諸組田方に稲虫多く出る・下居宮・護穀神に五穀成就・稲虫退散の	欄外(*)に続く
1833年	9月2日	天保4年	7月19日 曇	寅の刻過ぎ地震少し	
1833年	9月3日	天保4年	7月20日 曇	午の刻頃雨降 申の刻過ぎ止ム	
1833年	9月4日	天保4年	7月21日 曇	今晩寅の刻頃雨降 即刻止ム (天気不正に付き神明宮八幡宮和徳稲荷宮深砂宮で日和揚げ五穀成就の重千御祈禱を仰せ付ける)	
1833年	9月5日	天保4年	7月22日 曇	戌の刻頃より雨降 雷鳴 即刻止ム (惣組田方江水白虫附く・鐘太鼓を用いた虫送りを許す、侍従様の御法号を報恩寺長勝寺に通す道順などあり)	
1833年	9月6日	天保4年	7月23日 晴		
1833年	9月7日	天保4年	7月24日 晴		
1833年	9月8日	天保4年	7月25日 晴	(当月4日夜横内組筒井村の貯倉の錠前が切破られ粃12俵が盗み取られる)	
1833年	9月9日	天保4年	7月26日 晴		
1833年	9月10日	天保4年	7月27日 晴	(岩木川出水・両船往来差留める)	
1833年	9月11日	天保4年	7月28日 晴		
1833年	9月12日	天保4年	7月29日 曇	酉の刻頃より雨時々降 下から続く わせている・長々御滞船に付き乗り合せ1人に付き1両充御手当て)	
1833年	9月13日	天保4年	7月30日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降 酉の刻頃止ム (御中陰之内座当共無家業にて難儀・1人に200文積にて御手当て・座当共に15文充配当、当大坂御廻船2艘の出帆を見合	上に続く
1833年	9月14日	天保4年	8月1日 曇	(去月5日油川組村々で出水・田畑痛損川欠橋々流失)	
1833年	9月15日	天保4年	8月2日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 未の刻頃止ム (石渡川が出水・4歩半にて両船往来差留める)	
1833年	9月16日	天保4年	8月3日 曇	辰の刻頃より雨降 夜二入る	
1833年	9月17日	天保4年	8月4日 曇	昨夜より之雨今日二および巳の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より(よりの合字)之雨今日二および巳刻過止ム)	
1833年	9月18日	天保4年	8月5日 晴		
1833年	9月19日	天保4年	8月6日 曇	午の刻過ぎ雷雨 雷即刻止ム 雨時々降 夜二入る(曇 午刻過雷雨雷即刻止ム雨時々降夜二入る)	
1833年	9月20日	天保4年	8月7日 曇	寅の刻過ぎより時々雷雨 申の刻過ぎ雷雨 即刻止 酉の刻過ぎ雨降 即刻止ム	
1833年	9月21日	天保4年	8月8日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止ム	
1833年	9月22日	天保4年	8月9日 晴	(御初米明10日に上納・4月22日植付8月7日に103日で鎌入)	
1833年	9月23日	天保4年	8月10日 晴	(大鰐村より御初米差上げる、当4月20日夜浪岡組長沢村で1家9人が出奔、昨年大坂表で大金才覚・御廻米10000石充差向けるとの約束があった(今年取れるはずの米は飢饉に廻せない))	
1833年	9月24日	天保4年	8月11日 晴		
1833年	9月25日	天保4年	8月12日 晴	(酒1升を9分増の3匁値段とする)	
1833年	9月26日	天保4年	8月13日 晴	下から続く 大寄合以上が平日出仕の節羽織袴着用:意味不明・御家老たちの平日は駕籠を使用せず歩行に・等々急に飢饉対策が動き出している)	
1833年	9月27日	天保4年	8月14日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止ム 申の刻頃小雨降 即刻止ム (昨晩五半時頃鍛冶町の小見世に女の捨子・同町の乳持ちの者に預け置き養育させる、当年作躰不熟に付き	上に続く
1833年	9月28日	天保4年	8月15日 曇	(去る8日堀越組小栗山村の1家7人が出奔、当作定躰不熟に付き二之丸御馬10疋御減、尾花沢御本陣から家作仕りたいとして30両拝借願い・金5両下し置かれる)	
1833年	9月29日	天保4年	8月16日 晴	(去作減石の上当作躰不熟・両都御廻米陸上御備仰付け・穀物は一切津留・今後御払い米なし・糧の儀は魚類海藻その外を用い来春まで・御買越米も手配中、山で糧取りを許す)	
1833年	9月30日	天保4年	8月17日 晴		
1833年	10月1日	天保4年	8月18日 曇	(鮭初漁(初鮭))に付き御台所頭が差出す、当作不熟につき百姓共渴命に及ぶ・御郡在にて2才駒など500疋他払いを認める、去秋仕込味噌売賃値段10文目に付き目形5貫目)	
1833年	10月2日	天保4年	8月19日 曇	今晩風強し 辰の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止ム (大田某を勘定奉行手伝いにとの人事異動、此の1年間の稲の状況の記述あり)	
1833年	10月3日	天保4年	8月20日 晴	(当作は天明の大凶作同様・家中一統の知行御切米御扶持共引上げ4合扶持を申し付ける・召使等の人数も含む・菜錢渡し1000石に220目100石に30目13石3人扶持に7文目など支給)	
1833年	10月4日	天保4年	8月21日 晴	(条件を明示して山への立入等を許す)	
1833年	10月5日	天保4年	8月22日 晴	(頃日野畑に徒者入り込み作物盗み取る)	
1833年	10月6日	天保4年	8月23日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 午の刻頃止ム (小泊港に長崎御用銅積み入れの破船がいる・南部役人が来ている、酒に差水して売る例がある)	
1833年	10月7日	天保4年	8月24日 晴		
1833年	10月8日	天保4年	8月25日 晴		
1833年	10月9日	天保4年	8月26日 晴	(富田御屋敷当分㍻切)	
1833年	10月10日	天保4年	8月27日 晴	(去月09日夜油川村百姓共大勢申合せ村貯蔵を切破り粃を残らず盗み取る・出奔者の人相書:34歳・せい5尺1寸位等々)	
1833年	10月11日	天保4年	8月28日 晴	下から続く ・半坪斗燃え上がる、郡奉行間山鉄五郎の御役召放(憤)	
1833年	10月12日	天保4年	8月29日 曇	今晩子の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止ム (去月9日夜油川村の郷蔵切破り村貯え粃盗み取り他村預けになっていた男を入牢させる、今晩七時過ぎ誓願寺前で出火	上に続く
1833年	10月13日	天保4年	9月1日 曇	今晩寅の刻より雨降 午の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨降 夜二入 (町奉行山形宇兵衛を郡奉行兼任に等多数の人事異動、男女が入混じらないよう湯屋は日割だった・	欄外(**)に続く
1833年	10月14日	天保4年	9月2日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 今日岩木山二雪見る 下から続く 所々で盗みの男に3鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り)	
1833年	10月15日	天保4年	9月3日 曇	未の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止 (河野六郎・武田準左衛門に急下がり仰付ける、馬に干置きの煎餅を痛められたとして廃疾同様に打擲の男に30鞭10里四方追放大場御構い、	上に続く
1833年	10月16日	天保4年	9月4日 曇	(勘当の娘等9人を許している)	
1833年	10月17日	天保4年	9月5日 曇	午の刻頃霰降 即刻止 申の刻頃止 (御家中の借財分返済は面扶持中猶予させる)	
1833年	10月18日	天保4年	9月6日 曇	(山を伐荒しの村々に過料)	
1833年	10月19日	天保4年	9月7日 曇	(高岡献備鮭2尺御台所頭が差出す、在勤の面々に5合扶持菜錢増を申し付ける)	
1833年	10月20日	天保4年	9月8日 晴	(勘当が許されている)	
1833年	10月21日	天保4年	9月9日 晴	(格段の御省略に伴い当年の八幡宮御祭礼は御止メ)	
1833年	10月22日	天保4年	9月10日 晴	(新たな召抱えは理由を付して申し出るよう触れ)	
1833年	10月23日	天保4年	9月11日 曇	(湯野沢銀山の8月中出銀は10貫913文目5分)	
1833年	10月24日	天保4年	9月12日 晴		
1833年	10月25日	天保4年	9月13日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 (検見を数十年願出なかったとして24村に御賞、所々で盗みの下社家の弟に3鞭弘前払い、粃御蔵出火の関係者に役下げ等の罰)	
1833年	10月26日	天保4年	9月14日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止	
1833年	10月27日	天保4年	9月15日 晴	(人事異動)	
1833年	10月28日	天保4年	9月16日 曇		
1833年	10月29日	天保4年	9月17日 曇	今晩寅の刻頃雨降 即刻止 (高倉主税を手廻組頭に等の人事異動、当御領分の者共の由で妻子引き連れ数百人が秋田領に入り込んでいる)	
1833年	10月30日	天保4年	9月18日 晴		
1833年	10月31日	天保4年	9月19日 曇	今晩寅の刻過ぎ小雨降 即刻止 (鶴ヶ坂村領蓬萊沢御牧場を此の度御止・母駄の内7疋を御牧頭に下し置かれる、当作不熟で来耕作種粃不足・もち米の種も植えるようにする)	
				(*)御祈禱を仰付ける。新庄領金山駅の御本陣から家作のため40両拝借願い・御手当金5両を下し置かれる)	
				(**)混浴を当分(飢饉生活苦の間?)許す、道中で他散の百姓に行逢った場合御救米等もあり国に帰るよう言わせる、在方勤務者は食い扶持持参・在方は汁香の物斗差出すよう申し付ける)	

1833年	11月1日	天保4年	9月20日 晴	
1833年	11月2日	天保4年	9月21日 曇	午の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止
1833年	11月3日	天保4年	9月22日 晴	戌の刻過ぎより雨降 子の刻頃止
1833年	11月4日	天保4年	9月23日 晴	未の刻頃霰降 即刻止 (去る18日夜八時頃細越村産神観音堂が失火・拝殿本堂等焼失・村役どもを呵置く、本町の宮崎某に累代出精御用柄として御米10俵下し置かれる)
1833年	11月5日	天保4年	9月24日 晴	(人事異動、勘当の娘等を差許している)
1833年	11月6日	天保4年	9月25日 晴	下から続く 郷蔵1棟が大風で焼失、昨25日朝横内組野尻村で出火・類焼25軒外馬屋穀物等焼失・火元他村預け)
1833年	11月7日	天保4年	9月26日 曇	今晚寅の刻ころ雨降 即刻止 巳の刻頃雨降 即刻止 (当2月より木造新田下牛潟村で時疫・林村の在医野崎某が御施薬・残らず全快、去る23日屋浦町村々貯蔵が出火 上に続く
1833年	11月8日	天保4年	9月27日 曇	(座当頭が御手当てを求めている)
1833年	11月9日	天保4年	9月28日 晴	(御家老等が初雪御機嫌伺い、買越米の為に用人工藤伝兵衛が登坂) 下から続く 6鞭居町徘徊はまで通り)
1833年	11月10日	天保4年	9月29日 晴	(左近将監殿より川鮭1尺充拝受、去23日昼七時頃より赤石組深谷村支配細ヶ平村の貯郷蔵より出火・粃10俵余焼失・村役ならひ前夜番人を呵置く、他人の娘の奉公……男に 上に続く
1833年	11月11日	天保4年	9月30日 曇	(去る26日夜広須組川除村で出火・建家物置等焼失・火元村預け、誓願寺前岩見屋居宅内に捨子・町内乳持の者に預け養育させる、在方の者12人帰国に付き粥炊出し等を行い本所に返す)
1833年	11月12日	天保4年	10月1日 曇	卯の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (津軽出雲を用人兼帯・笠原近江を用人手伝いに等の人事異動)
1833年	11月13日	天保4年	10月2日 曇	(人事異動、御当領の者の由で(秋田)久保田表の施行所(せぎょうしよ:施しを与える所)に入りたいという者あり)
1833年	11月14日	天保4年	10月3日 晴	(御賞、当年粒油不作)
1833年	11月15日	天保4年	10月4日 曇	今晚子の刻頃より雨降 卯の刻頃止 申の刻頃雨降 即刻止ム (去月27日龍濱崎に漁事の小泊村の男海死)
1833年	11月16日	天保4年	10月5日 晴	酉の刻頃より雨降 (去る2日夜金木組薄市村で出火・類焼とも8軒外馬屋等焼失・火元他村預け、去る2日駒越組大秋村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1833年	11月17日	天保4年	10月6日 曇	昨夜より雨今日ニ及 辰の刻頃止 今日雪降 一寸程積 (鯉ヶ沢町奉行が貯米蒸米(糶:ほしいいのことか)郷蔵収めの分を小売米に仰せ付けられたき旨申し出る・了承する)
1833年	11月18日	天保4年	10月7日 曇	今日雪少し降
1833年	11月19日	天保4年	10月8日 曇	
1833年	11月20日	天保4年	10月9日 晴	(当作鮓不熟に付き当寒造り酒は86軒で全面差留、去る7日屋増館組久井名館村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓居村預け)
1833年	11月21日	天保4年	10月10日 晴	申の刻頃雨降 戌の刻頃止 (昨晚本町伊勢屋方に捨子・乳持ちの者に預け置く)
1833年	11月22日	天保4年	10月11日 曇	辰の刻頃より雨降 申の刻頃止 (家老津軽多膳・用人野呂典司・前用人小笠原良八・用人河野六郎・用人工藤伝兵衛・勘定奉行奈良莊司その他の役職召放ち愼を申し付けられる)
1833年	11月23日	天保4年	10月12日 晴	(大道寺次郎市を家老に300石加増・津軽出雲を用人御免)
1833年	11月24日	天保4年	10月13日 晴	
1833年	11月25日	天保4年	10月14日 曇	今朝風強し 巳の刻頃雨降 即刻止 申の刻頃より雨降 夜二入 (古懸不動尊御出汗・五山に御祈禱を仰せ付ける)
1833年	11月26日	天保4年	10月15日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止 今日雪少降
1833年	11月27日	天保4年	10月16日 曇	今日雪少し降 (当月3日夜出火の金木組薄市村の火災で難渋に付き御手当て願ひ・同組村備えの内を以て……、本町白崎方に捨子・乳持ちの者に預け置く、在方質返し?)
1833年	11月28日	天保4年	10月17日 曇	(盛岡金吾・笠原近江・唐牛三左衛門を用人兼帯等の人事異動、養蚕方多数に御賞)
1833年	11月29日	天保4年	10月18日 曇	今日雪少し降 (本町の小店に捨子・小店方にて介抱を申し付ける、召使いを含めて4合扶持にしたら御家中の下男下女が急増した) 下から続く 等が書かれた口達あり・精神論?)
1833年	11月30日	天保4年	10月19日 晴	(鯉ヶ沢滞船中の若州船船頭に米の買越(移入)を依頼・8月17日夜出帆9月25日米・大豆・根花(ねばな・蕨粉)等400石を積み無運賃で積下がる・奇特の者として御賞、倒死・他散 上に続く
1833年	12月1日	天保4年	10月20日 晴	酉の刻過ぎより雨降 (元勘定奉行?間山鉄五郎・用人毛内有衛門を御役召放ち愼)
1833年	12月2日	天保4年	10月21日 晴	昨夜より之雨今晚丑の刻頃止 (家老大道寺次郎市を玄蕃と改名、去る19日夜碇ヶ関で出火・建家1軒馬1疋焼失・火元親類預け)
1833年	12月3日	天保4年	10月22日 晴	
1833年	12月4日	天保4年	10月23日 晴	下から続く 柏木組牡丹森村で出火・建家稲草農具等焼失)
1833年	12月5日	天保4年	10月24日 曇	(去る21日金木組深郷田村で出火・建家焼失・火元居村預け、昨23日夜堀越組小比内村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、粃・蕎麦等を補助の2人に御賞、去る21日夜 上に続く
1833年	12月6日	天保4年	10月25日 曇	未の刻頃地震強し 戌の刻頃より雨降 (当6月油川で手段米(白米3斗3升7合入り6俵)・取押えた勤番目付に下し置かれる、当月14日十三領金谷で破船の南部大畑船が山賊?に乗込まれる)
1833年	12月7日	天保4年	10月26日 曇	昨夜より之雨今晚丑の刻頃止 (岩木川出水・駒越渡し場両船共往来差留める、珍田雄祐之助等を御役召放ち愼) 下から続く 焼失・原因不明37俵焼失)
1833年	12月8日	天保4年	10月27日 曇	(去る23日夜柏木組桜田村で出火・建家焼失・火元高無居村預け、去る24日暁方大鰐組長峰村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、去月23日屋浦町村等の貯粃の板蔵 上に続く
1833年	12月9日	天保4年	10月28日 曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止 午の刻頃より雨降 夜二入 (人事異動)
1833年	12月10日	天保4年	10月29日 曇	
1833年	12月11日	天保4年	11月1日 曇	昨夜雪降 二寸程積ル (別段御用に御賞、飯詰村の者共が此の節時疫・石畑村の在医を通じて施薬)
1833年	12月12日	天保4年	11月2日 曇	(人事異動)
1833年	12月13日	天保4年	11月3日 曇	今日雪少し降 (昨夜誓願寺門前岩見屋小店に捨子・同町の者に預け置き養育させる、御咎めの御門にまかり越した等の理由で厳しい罰が下されている)
1833年	12月14日	天保4年	11月4日 曇	今日雪少し降
1833年	12月15日	天保4年	11月5日 曇	今日雪降 六寸程積ル (三国屋・大津屋仕込みの味噌・値段も書いていないしもめている、金木組長富村で病氣に施薬・時疫でないが新村で難渋しているから)
1833年	12月16日	天保4年	11月6日 曇	今日雪降 三寸程積ル
1833年	12月17日	天保4年	11月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (此の度在方に11箇所御救小屋取立て来秋熟昨まで袖乞並びに病倒の者を見当て次第介抱方仰せ付けられる・着物がなく凍死対策も)
1833年	12月18日	天保4年	11月8日 曇	昨夜雪降 二寸程積ル (唐牛三左衛門を本名の多田と改名)
1833年	12月19日	天保4年	11月9日 曇	今日雪降 三寸程積ル (青森町の漁師が貰入した鰯網を漁ができるように返させている、御咎めの門にという処罰が多い)
1833年	12月20日	天保4年	11月10日 曇	今日雪少し降 今晚丑の刻過ぎ地震少し (角田平左衛門を本名宇佐美に改名、昨日の処罰申渡し中に不法の男に暇入牢・その子も揚り屋入り、御咎めの門に出入り等で罰)
1833年	12月21日	天保4年	11月11日 曇	昨夜雪少し降 (去る7日家老津軽監物が御役御免願ひ・返される、多数の人事異動、御賞、去月26日地震の節小泊村海中塩差引高浪・人馬怪我なし)
1833年	12月22日	天保4年	11月12日 曇	(山上弥兵衛に10俵1人扶持加増長柄奉行格に・去る卯年(今年は巳年)7月23日江川太郎左衛門屋敷内で乱心者と取押えた御徒を御徒小頭に等の人事異動)
1833年	12月23日	天保4年	11月13日 曇	(菓子屋どもより申し出で昨年から高くしている菓子値段を継続、去る11日夜金木組嘉瀬村で出火・火元居村預け)
1833年	12月24日	天保4年	11月14日 晴	(人事異動、御収納米は俵ごとに差れを付すようにする・昔俵に石を入れた例もあり)
1833年	12月25日	天保4年	11月15日 晴	(当月9日暮六時頃より翌10日朝までに十三潟大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月21日暮より翌22日朝まで・当年は日数に引合12日早く節に引合8日遅い)
1833年	12月26日	天保4年	11月16日 晴	(去月26日夕七時頃の地震で内藤紀伊守領分を通行中の御家中溺死・その小物行方不明、小笠原良八に永の暇三橋某預け・河野六郎の身上召上げ渡辺某預け俵に 欄外(*)に続く
1833年	12月27日	天保4年	11月17日 晴	(溝江伝左衛門を御用人兼帯・木村奎之助を御用人に・笠原近江に加増100石・山上才助を御手廻一番組に等の非常に多数の人事異動、屋敷も動かしている)
1833年	12月28日	天保4年	11月18日 晴	(多数の屋敷異動、去る14日夜木造新田平瀧村で出火・建家等焼失・火元居村預け、昨夜六時半岡某宅で出火・騒いだが大したことはなかった?、小笠原良八が三橋某屋敷から入牢)
1833年	12月29日	天保4年	11月19日 曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入 (人事異動、川口某を間山鉄五郎に与したとして身上召上げ永の暇揚り屋入り)
1833年	12月30日	天保4年	11月20日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 申の刻頃止ム (人事異動、御賞)
1833年	12月31日	天保4年	11月21日 曇	昨夜雪降 五寸程積 (人事異動)

(*) 新たに30石・板橋収蔵半知召上げ堀某預け俵に半知・奈良庄司と間山鉄五郎の身上召上げ永の暇入牢・太田惣吉の身上召上げ永の暇揚り屋入り・野呂典司を竹内某工藤伝兵衛を笹森某預け知行の内170石召上げそれぞれの俵に・毛内有衛門を石山某預け知行の内270石召上げ俵に・珍田祐之助の御給分の内40俵2人扶持召上げられ隠居・その他多数に罰)

1834年	1月1日	天保4年	11月22日	曇	昨夜雪降 式寸程積
1834年	1月2日	天保4年	11月23日	晴	(人事異動、津軽多膳・野呂典司・毛内有衛門・工藤伝兵衛は一問所で末世(工藤については生涯:違い不明)まで蟄居を命じられる)
1834年	1月3日	天保4年	11月24日	晴	(人事異動、去る20日夜油川組沖館村で仏壇灯明から出火・建家等焼失・火元居村預け、米1俵を定価80目に申し付ける)
1834年	1月4日	天保4年	11月25日	曇	酉の刻過ぎより雨降
1834年	1月5日	天保4年	11月26日	晴	昨夜より之雨今晚丑の刻頃止ム (人事異動、不明日に藤崎(代?) 組妙堂崎村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、小笠原良八・奈良庄司・間山鉄五郎を牢前で斬罪)
1834年	1月6日	天保4年	11月27日	曇	昨夜雪吹強し 雪二寸程積 (人事異動、森内左兵衛の佐左門・佐々木判部左衛門の孫三郎を5人扶持で新規召抱え、一問所押込御免等多数あり)
1834年	1月7日	天保4年	11月28日	曇	昨夜雪少し降 (非常に多数の人事異動、御賞)
1834年	1月8日	天保4年	11月29日	曇	午の刻頃より雨降 夜二入 (御賞(銀3枚・金300疋・金200疋)、人事異動) 下から続く 町同心が逃亡者を捕らえる、津軽出雲の御役召放し慎・隠居の添田儀左衛門を生涯蟄居)
1834年	1月9日	天保4年	11月30日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止 (御用向きを仰付けられそれを受けた町民達に湯漬・菓子等を振舞っている、御賞、当6月19日揚り屋当番の節木造村の男を取逃がし慎中の 上に続く
1834年	1月10日	天保4年	12月1日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1834年	1月11日	天保4年	12月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1834年	1月12日	天保4年	12月3日	曇	今日雪少し降 (人事異動、去月19日暁柳島御屋敷表御門焼失)
1834年	1月13日	天保4年	12月4日	曇	今日雪少し降 (赤田組板屋野木村の極窮の者共が時疫・施薬、碓ヶ関町に時疫)
1834年	1月14日	天保4年	12月5日	曇	
1834年	1月15日	天保4年	12月6日	曇	今日雪少し降 (鯨ヶ沢町奉行だった菊池某に買越米扱い骨折り精勤として銀子2枚・他にも御賞)
1834年	1月16日	天保4年	12月7日	晴	昨夜雪降 一尺程積 (粒油値段から水油1升が11文目9厘5毛に相当・これを1升を8文目値段に仰せ付けられる)
1834年	1月17日	天保4年	12月8日	晴	(去る25日夜金木組中里村で出火・類焼とも4軒焼失、去月晦日7時頃高杉組十腰内村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け)
1834年	1月18日	天保4年	12月9日	曇	今日雪少し降 下から続く 9914石3斗程、牢内の9人に大赦で出牢・食料寒中凌ぎが出来ないなら来春まで揚屋に残してもよい・揚屋の9人も同様・他の町の牢でも同様)
1834年	1月19日	天保4年	12月10日	晴	今日雪少し降 (碓ヶ関町の時疫の療治のため薬を配る?、十三町前後の湯残らず氷、当御收藏飯積:米148257石ほど内138342石7斗程が当毛引き並びに諸品成・残りが 上に続く
1834年	1月20日	天保4年	12月11日	曇	今日雪降 二寸程積ル (人事異動) 下から続く 駒越組砂子瀬村の彌師市兵衛が去年12月に熊3疋刈取る・鳥目3貫文並びに下々位の熊皮1枚(今有合せなく後で)下し置かれる)
1834年	1月21日	天保4年	12月12日	曇	今日雪少し降 (人事異動、北国筋は一統津留め・竹谷伝六は加州表の材木取組みの伝で九州に買積船を差し向け15950俵買い付け来早春積下がる・手付金217両2歩、 上に続く
1834年	1月22日	天保4年	12月13日	曇	今日雪少し降
1834年	1月23日	天保4年	12月14日	曇	今日雪少し降 (飯詰組原子・持子沢・高野村で時疫・施薬、去月晦日藤代組十腰内村の火災(8日に記述)の火元は他村預け)
1834年	1月24日	天保4年	12月15日	晴	
1834年	1月25日	天保4年	12月16日	曇	今日雪降 七寸程積 (武田準左衛門の身上召上げ入牢)
1834年	1月26日	天保4年	12月17日	曇	今日雪吹強し 雪二寸程積 (人事異動・御賞)
1834年	1月27日	天保4年	12月18日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少し降 (昨夜東長町に三歳くらいの女子の捨子・元寺町の大工に預け置く)
1834年	1月28日	天保4年	12月19日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (去る3日津軽主水の御家老職手伝い御免・平岡群蔵・山鹿次郎作・杉山小藤太の御役召放)
1834年	1月29日	天保4年	12月20日	曇	(当8月に後湯組郷蔵が切り破られ粗4俵盗まれる・犯人不明・郷蔵守を戸丩、武田準左衛門を斬罪)
1834年	1月30日	天保4年	12月21日	曇	今日雪少し降 (人事異動、非常に多くの者に御賞)
1834年	1月31日	天保4年	12月22日	曇	今日雪少し降
1834年	2月1日	天保4年	12月23日	晴	(御賞、当月9日夜油川組三内村で出火・建家種粃等焼失・火元居村預け)
1834年	2月2日	天保4年	12月24日	曇	昨夜雪少し降 (人事異動、御賞、他参の者の帰参がこのほどなくなった・碓ヶ関の施行小屋の取毀しを命ずる)
1834年	2月3日	天保4年	12月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (数百軒に度々補助の青森町村林某に年頭御目見、御賞) 下から続く を下し置かれる、御賞)
1834年	2月4日	天保4年	12月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当4・5月頃より浪岡組中野村で時疫・施薬・此節全快、飯詰俵元両組で時疫・施薬、碓ヶ関町の時疫が快気・御薬1帖4分として348帖代金500疋 上に続く
1834年	2月5日	天保4年	12月27日	曇	今日雪少し降 (御賞、青森町中時疫流行)
1834年	2月6日	天保4年	12月28日	曇	今日雪少し降 (人事異動、笠原八郎兵衛に御城代隠居席江罷出年頭並びに御上下の節御目見、御賞、尾太銅鉛山・湯野沢銀山……)
1834年	2月7日	天保4年	12月29日	曇	
1834年	2月8日	天保4年	12月30日	曇	(去る20日夜境松村の米留が屋根付きの雪船をとらえる・米4斗入り1俵3斗4升入り1俵4斗4升入り2俵2斗入り1俵・6・7人が逃げ去る・米等は担当に)
1834年	2月9日	天保5年	正月1日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積 申の刻過ぎ地震少し
1834年	2月10日	天保5年	正月2日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 五寸程積
1834年	2月11日	天保5年	正月3日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 一尺五寸程積 (御吉例金200両を御金奉行が差上げる、今晚御誂初・御番頭以上申の後刻登城)
1834年	2月12日	天保5年	正月4日	晴	(大鰐村より七種1台差上げる)
1834年	2月13日	天保5年	正月5日	曇	午の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止
1834年	2月14日	天保5年	正月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積
1834年	2月15日	天保5年	正月7日	晴	(今日七種の御祝儀・御由緒の面々登城、今日一二の御持鏡並びに三日月御供頂戴)
1834年	2月16日	天保5年	正月8日	晴	
1834年	2月17日	天保5年	正月9日	晴	
1834年	2月18日	天保5年	正月10日	晴	(去月19日夜広須組蓮沼村で郷蔵が切破られる・番人が追いかけたが取り逃がす、当月朔日にも切破られ逃げ込んだ家の男を捕らえ詮索中・粗は1俵も盗み取られていない)
1834年	2月19日	天保5年	正月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 戌の刻頃より西より東へ白雲さす (人事異動、昨10日昼九つ時半頃駒越組真土村で出火・居宅焼失・火元高無村預け)
1834年	2月20日	天保5年	正月12日	曇	昨夜雪降 五寸程積
1834年	2月21日	天保5年	正月13日	晴	昨夜雪少し降
1834年	2月22日	天保5年	正月14日	晴	(昨夜武州川越の男(佐々木某を切害)が牢死)
1834年	2月23日	天保5年	正月15日	曇	今日雪少し降 (人事異動)
1834年	2月24日	天保5年	正月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 四寸程積
1834年	2月25日	天保5年	正月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る11日夜金木新田福浦村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓居村預け、江戸より飛脚の大組足軽新屋某が道中で落馬・小坂駅で逗留中)
1834年	2月26日	天保5年	正月18日	晴	
1834年	2月27日	天保5年	正月19日	晴	
1834年	2月28日	天保5年	正月20日	晴	(旧臘20日蟹田湊領瀬辺地村前浜で(油川組)十三森村の漁船が破船、去る11月25日松前に向かった鯨ヶ沢船が27日南部領奥戸浦で破船)

1834年	3月1日	天保5年	正月21日	晴	(御賞、去る13日夜金木組相内太田村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓居村預け、三厩湊で飯料不足・偶然松前の買越船が落船?米の買入れ交渉・糶米(船員の食料) 欄外(*)に続く
1834年	3月2日	天保5年	正月22日	曇	今日雪少し降
1834年	3月3日	天保5年	正月23日	曇	今日雪少し降 今日雪降 一寸程積 (旧臘24日夜油川別段役が手段船取調べ中に船出帆・船頭の妻と5軒組合の者共を腰縄付きに・田畑糶引渡の時節で腰縄差許し農事以外他出差留め)
1834年	3月4日	天保5年	正月24日	曇	午の刻頃より雨降 申の刻頃止 今日雪少し降 (人事異動)
1834年	3月5日	天保5年	正月25日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (牢舎の内佐々木某が病死、今別町極究の者共にこれまで貯え高の内5ヶ1を後潟組貯糶より相渡す、古懸不動尊御出汗・関連祈祷等)
1834年	3月6日	天保5年	正月26日	曇	今日雪少し降
1834年	3月7日	天保5年	正月27日	曇	(御家中の病死者多い、駒越組鳥居野村・柏木組村々で時疫・施薬)
1834年	3月8日	天保5年	正月28日	曇	昨夜雪少し降 (尾太・湯野沢両金山仕込酒に200俵追加・御蔵米1俵を90目値段とし代銭則納で御払い・この酒1升を4文目2分値段で御買上とする)
1834年	3月9日	天保5年	正月29日	晴	(去る11日北川族を御用人にとの人事異動)
1834年	3月10日	天保5年	2月1日	晴	(浦町横内両組で時疫・施薬・快気、去月21日横内組宮崎村で出火・建家建馬1疋その他焼失)
1834年	3月11日	天保5年	2月2日	曇	今日雪少し降 酉の刻頃雨降 即刻止 亥の刻頃地震少し
1834年	3月12日	天保5年	2月3日	曇	
1834年	3月13日	天保5年	2月4日	晴	戌の刻頃より雨降 (飯詰組野里村の郷蔵の屋根が切破られ糶2俵が盗み取られる、碇ヶ関町の貯糶172俵1斗7升3タを11月上旬より12月までに1日2合積を以て割渡し皆払)
1834年	3月14日	天保5年	2月5日	曇	昨夜よりの雨今日に及び辰の刻過ぎ止ム
1834年	3月15日	天保5年	2月6日	晴	
1834年	3月16日	天保5年	2月7日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (御家中の病死者多い、五山で時疫退散の重き御祈祷・この御守り札を下し置かれる)
1834年	3月17日	天保5年	2月8日	晴	(今夜九ツ時過ぎ御徒町川端町で御家中宅が出火)
1834年	3月18日	天保5年	2月9日	曇	申の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム (御賞、去る6日金木新田川内村で出火・建家焼失・火元高無居村預け
1834年	3月19日	天保5年	2月10日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (添田岩五郎の慎御免・知行の内200石召上げ御留守居組に、津軽出雲の慎御免塾居・家督は高400石を倅(御留守居組)に)
1834年	3月20日	天保5年	2月11日	晴	(鎌・鎌各1万挺を郡奉行を通じて与える、今村某宅に止宿の男が病死、秋田より入込の人を腰兵糧持たせ碇ヶ関まで送り返す)
1834年	3月21日	天保5年	2月12日	晴	(去る4日後潟組金野沢村で出火・建家焼失・火元居村預け、一昨10日暁金木村で出火・建家外馬屋焼失・火元百姓居村預け)
1834年	3月22日	天保5年	2月13日	曇	辰の刻頃より雨時々降 夜に入 (金木組長富村開発方御貯糶入れ置く郷蔵土屋根切破られ糶2俵盗み取られる、金木村の盗みの男を入牢、人事異動)
1834年	3月23日	天保5年	2月14日	曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過ぎ止ム
1834年	3月24日	天保5年	2月15日	晴	(船に横込む1人分の糶米の基準?:御廻船船頭米3斗5升・水主3斗・買船2斗5升・加賀よりこの方船頭水主1斗5升・秋田南部松前船7升充・青森廻り南部船3升充・地船1斗5升:意味不明)
1834年	3月25日	天保5年	2月16日	晴	下から続く 土蔵4箇所・揚げていた船1艘(30日の記述で買越米を積下がつた若州船)を焼失・今朝五ツ時頃鎮火・火元不明、去る7日夜矢ノ倉御屋敷が類焼)
1834年	3月26日	天保5年	2月17日	晴	(去る13日夜金木村で出火・類焼とも3軒外馬屋立馬1疋焼失・火元百姓他村預け) 下から続く 四ツ半時頃鰯ヶ沢七ツ石町で出火・東風烈しく185軒と神明宮・勤番所・ 上に続く
1834年	3月27日	天保5年	2月18日	晴	戌の刻過ぎより雨降 (鰯ヶ沢町で出火の報あり) 下から続く 1俵90目の代金即納で100俵御払いを仰せ付ける、3月朔日より油値段1升到付き8匁に仰せ付ける、昨夜 上に続く
1834年	3月28日	天保5年	2月19日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入 (鰯ヶ沢町の御救い人796人に3月中まで45日分1人に1日2合積りで71石6斗4升(179俵4升)御救米を・外御払い受けの者85人に 上に続く
1834年	3月29日	天保5年	2月20日	晴	昨夜より之雨今日二及 辰の刻頃止 (親孝行の百姓に米1俵と鳥目1貫文の御賞) 下から続く 野内町の郷蔵の封印を切って一部を配分している)
1834年	3月30日	天保5年	2月21日	曇	今日雪少し降 (去る春より後潟組小橋・六枚橋・後潟・蓮田・阿弥陀川で時疫・施薬・薬代があり快気かな、去る17日夜金木組中里村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、 上に続く
1834年	3月31日	天保5年	2月22日	曇	今日雪少し降
1834年	4月1日	天保5年	2月23日	晴	昨夜雪少し降 (去る18日までに十三湯前後とも残らず氷明け船の通路相成る、鰯ヶ沢出火の火元判明・慎、頃日宇和野邊の麦畑に悪者が入り込み生麦を刈り取る)
1834年	4月2日	天保5年	2月24日	曇	辰の刻頃より雨降 夜に入 (尾太銅鉛山関連で俵子50俵増などの人事異動)
1834年	4月3日	天保5年	2月25日	曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止ム (去る22日油川組滝村で出火・類焼2軒・火元百姓他村預け、当正月12日黒石平内領浅虫御番所前で種糶と偽り玄米を運ぶ者・米を御取上、藤先寺で小火)
1834年	4月4日	天保5年	2月26日	晴	昨夜雪少し降 (去る8月より1人に付き米1合5タ充ての窮民御救い方・去る12月より5タ増の2合充としていたが、……)
1834年	4月5日	天保5年	2月27日	晴	(諸白酒値段は並酒値段の5分増の1升を5文目で買い上げる) 下から続く 値段が大体4斗入り1俵が100目・来月昨日より小売値段を1文目に付き6合とする)
1834年	4月6日	天保5年	2月28日	曇	(去る25日夜横内組諏訪野沢村で出火・類焼2軒・火元他村預け、岩木川出水・駒越渡し場両船とも今晩時より差留める) 30日から続く 1文目に付き8合であったが買越米 上に続く
1834年	4月7日	天保5年	2月29日	曇	今日雪少し降 (秋田から来た袖乞の男女24人を土手と徳両町の宿屋に預け置く、去る26日暮六ツ時頃大光寺組松崎村で出火・建家土蔵外馬屋等焼失・火元今井某に慎)
1834年	4月8日	天保5年	2月30日	曇	昨夜雪少し降 (早瀬野間道を来た木綿売りの秋田男の木綿御取上げ碇ヶ関口送帰す。去る13日夜居土村の脇道番所で米を打ち捨てて逃げた者あり、町々小売米是迄 28日に続く
1834年	4月9日	天保5年	3月1日	晴	今日雪少し降 (似せ銀のようなものを持ち込んだ秋田の男を碇ヶ関口送り返し、買越米に努力の小泊村並郷土を代々並郷土に等との人事異動?)
1834年	4月10日	天保5年	3月2日	晴	(油川後潟組の村々で種糶不足・稗を植付けることにした・なるべく早稲の稲も植え納税するよう申し付ける?、昨昨日糶御蔵渡の節他人に渡す米を盗んだ家中有る・揚屋入り)
1834年	4月11日	天保5年	3月3日	晴	(去月24日買い越米を積んだ船が秋田領渡鹿湊で役人と称する者に米を理不尽に押買される・渡鹿湊に人を派遣) 下から続く 杉沢村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け)
1834年	4月12日	天保5年	3月4日	晴	(一昨2日昼九時頃飯詰組神山村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け、去る朔日夜四時頃赤石組舞戸村で出火・類焼とも8軒半潰れ家2軒・火元他村預け、去る29日夜浪岡組 上に続く
1834年	4月13日	天保5年	3月5日	晴	(帰国した広田組五所川原村の男に大間越町奉行所が粥の焚出し・途中ひねり飯並びに送り状添え本所江返す) 下から続く 外馬屋等焼失・火元百姓居村預け、 欄外(**)に続く
1834年	4月14日	天保5年	3月6日	晴	今晩丑の刻頃雷鳴 即刻止 寅の刻過ぎ雨降 卯の刻過ぎ止 (一昨4日夜浪岡組杉沢村で出火・類焼とも2軒外馬屋1軒・火元他村預け、去る2日夜尾崎組新館村で出火・建家 上に続く
1834年	4月15日	天保5年	3月7日	晴	(黒石に御米1500俵を賃している・御札の使者あり、鰯ヶ沢の大火に関し竹屋某が丸太1200本補助、秋田表より入込の袖乞175人を迎えの者に引渡・1人にひねり飯3合積を以て申し付ける)
1834年	4月16日	天保5年	3月8日	晴	(御買越米を納める蔵の記述あり)
1834年	4月17日	天保5年	3月9日	晴	(去る7日夜尾崎組新屋村御山で山火事・取鎮める)
1834年	4月18日	天保5年	3月10日	晴	(去月13日山鹿次郎作と杉山小藤太の身上召上げ御国下がり一間所で生涯塾居・その倅に30石充下し置かれ御留守居組に、秋田能代の船が深浦佐渡嶋と申す所で破船・4人全員海死)
1834年	4月19日	天保5年	3月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積ル (人事異動)
1834年	4月20日	天保5年	3月12日	曇	今日霰少し降 (昨今年時疫流行・薬が品切れ)
1834年	4月21日	天保5年	3月13日	曇	(去る10日飯詰組の者共30人ばかりが弘前表に罷り上る・庄屋の救い米渡しが不分明とのこと・途中で3人を召捕る)
1834年	4月22日	天保5年	3月14日	晴	(秋田戸賀湊で押買にあった船が沢山)
1834年	4月23日	天保5年	3月15日	晴	
1834年	4月24日	天保5年	3月16日	晴	
1834年	4月25日	天保5年	3月17日	晴	今晩丑の刻頃雷雨 即刻止 (人事異動)
1834年	4月26日	天保5年	3月18日	晴	(去る4日夜浦町組ハツ役村で出火・類焼とも2軒その他焼失・火元他村預け)
1834年	4月27日	天保5年	3月19日	晴	(買越米の代金取立て等で御賞、左近将監様より川鱒1尺充拝受)
1834年	4月28日	天保5年	3月20日	晴	(飯詰村の庄屋の救い方不分明の件(13日に記述)の頭取2人を入牢)
1834年	4月29日	天保5年	3月21日	晴	
1834年	4月30日	天保5年	3月22日	晴	(一昨20日夜三目内村で出火・5軒焼失・(25日の記述で)火元他村預け、鰯ヶ沢で此の節金払底・買越米代を払う節銭で船手江……意味不明)

(*)の内3斗5升入り50俵を元値段で払い呉れる)

(**) 去る朔日夜横内組野尻村で出火・建家外馬屋種糶等焼失・火元居村預け、去月17日の鰯ヶ沢の大火に御手当て米200俵下し置かれる、湯野沢出銀3ヶ月分を御小納戸に差出す)

1834年	5月1日	天保5年	3月23日 曇	(広須組繁田村の男が買越米代金調達に付き不埒・金子38両2朱を御取り上げ)
1834年	5月2日	天保5年	3月24日 曇	(買越米の内深浦町に150石御払い……)
1834年	5月3日	天保5年	3月25日 曇	下から続く 5分に相当・1俵の代銭として46文目5分に仰せ付ける)
1834年	5月4日	天保5年	3月26日 曇	(百姓共への御救い米1合5タを5タ増に仰出される、当3月10日まで売払い米400俵余を町方小売米の内より相払う・銭1文目に付き白米8合売り・玄米4斗入り1俵に付き47文目 上に続く
1834年	5月5日	天保5年	3月27日 曇	(去る12月25日飯詰・俵元新田両組貯糶置き候野里村郷蔵を切破り糶を盗み取った男4人の人相書き・年34丈5尺4寸位・年48丈5尺1寸位・年31丈5尺5寸位・年39丈5尺1寸位等々)
1834年	5月6日	天保5年	3月28日 晴	(人事異動、御賞)
1834年	5月7日	天保5年	3月29日 晴	(御買越米代調達金初納より当月25日までの分・8862両3歩2朱と銭1文目1分6厘を上納)
1834年	5月8日	天保5年	3月30日 晴	
1834年	5月9日	天保5年	4月1日 晴	(昨夜爰月大筒方の御家中の居宅出火・半分ほど焼失、昨夜の出火の節鐘撞しなかった櫓番の諸手足軽2人に慎み)
1834年	5月10日	天保5年	4月2日 晴	
1834年	5月11日	天保5年	4月3日 晴	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1834年	5月12日	天保5年	4月4日 晴	(板屋野木村吹田某が御買越米代調達金の外に御奥別段御用はできないと御免願ひ、去る29日夜亀ヶ岡の郷蔵土屋根切破り糶釣上ヶ候所を夜番が追う・逃げられる・盗み取られていない)
1834年	5月13日	天保5年	4月5日 晴	卯の刻過ぎ地震少 酉の刻過ぎより雨降
1834年	5月14日	天保5年	4月6日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム
1834年	5月15日	天保5年	4月7日 晴	(黒石牢屋出来・2人を当領の牢屋より引移す、去月20日夜木造新田畔屋・筒木坂両村で出火・17軒焼失・御手当て御米1俵充ての例に添えないのかな、去る11月18日入牢の男傷寒で牢死)
1834年	5月16日	天保5年	4月8日 曇	午の刻頃より雨降 未の刻頃止ム (人事異動、土測川の大円寺下より和徳稲荷宮下まで松明を燈しハツ目取あり・松明の部分だろうか停止?)
1834年	5月17日	天保5年	4月9日 曇	酉の刻頃雨降 即刻止ム (和徳組原々平村領館山に倒死の男1人・広田組五所川原村領堤上に倒死の男1人、当春黒石藩に御米1500俵御買越米代2000両を貸している)
1834年	5月18日	天保5年	4月10日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止ム (5日に無記述の4日夜の和徳出火対応・御買越米代皆納等に御賞、先頃家蔵焼失の大光寺組松崎村の今井某から御米300俵等拝借願・御米10俵下し置かれる)
1834年	5月19日	天保5年	4月11日 晴	(笠原近江に100石加増・手廻組頭兼帯等の人事異動、去る4日夜和徳町で出火・両側31軒焼失・火元入寺の上慎、一昨9日夜柏木組梅田村で出火・建家1軒焼失 欄外(*)に続く
1834年	5月20日	天保5年	4月12日 晴	
1834年	5月21日	天保5年	4月13日 晴	下から続く 1日1合5タ、楮町の田圃に秋田者が死亡)
1834年	5月22日	天保5年	4月14日 曇	戌の刻過ぎより雨降 (昨夜九時過ぎ頃松森町で出火・隣家類焼・火元入寺の上慎、秋田表より罷越の袖乞の者大勢になる・楮町畑地に3間×10間の施行小屋を建てる・玄米 上に続く
1834年	5月23日	天保5年	4月15日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (人事異動、高杉組十腰内村で時夜) 下から続く 徘徊はまで通り、津軽主水の御役召放債)
1834年	5月24日	天保5年	4月16日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (去る11月より当3月まで5か月分の湯野沢出銀を登らせる・足軽2人と湯野沢下役普通1人を銀高が多く2人とする、所々で盗みの男に3鞭居町 上に続く
1834年	5月25日	天保5年	4月17日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム
1834年	5月26日	天保5年	4月18日 曇	((屋形様の)昨日御帰城なく御逗留、去る8日堀越組新里村で出火・類焼とも7軒焼失、御家中からの依頼でその御家中の次男を揚屋入り)
1834年	5月27日	天保5年	4月19日 曇	(御帰城(予定)の報に家老が七つ時頃再登城・夜九時過ぎ御帰城、揚屋内の3人を牢屋に移す)
1834年	5月28日	天保5年	4月20日 曇	
1834年	5月29日	天保5年	4月21日 晴	(白道院施行所で秋田綴子村の男が病死・同寺に仮葬)
1834年	5月30日	天保5年	4月22日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入 (御買越米代金調達皆済者に御賞、一昨20日夜浪岡組吉内村で出火・類焼とも3軒焼失・火元高無他村預け)
1834年	5月31日	天保5年	4月23日 曇	昨夜より之雨今日に及 巳の刻頃止ム (今朝赤石組漆原村の男が牢死)
1834年	6月1日	天保5年	4月24日 晴	(遠馬などで突然の御逗留等に屋形様に苦情を申し上げている、西坂御門番人が抜下りと言って1人が早く退下・時刻を守るようにさせる、去る17日夜駒越組国吉村で出火・建家焼失)
1834年	6月2日	天保5年	4月25日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻頃止ム 下から続く 北の丸御門番の御留守居与力加勢を御目見以下御留守居支配に、不案内の者を出した与力筆頭を御目見以下 欄外(**)に続く
1834年	6月3日	天保5年	4月26日 曇	(去る14日内南御門・内東御門番御手廻与力4人が乱心者を見落し城内に入れ御目見以下御留守居支配に、外南御門・外北御門・三の北御門番人の御馬廻与力8人に慎、 上に続く
1834年	6月4日	天保5年	4月27日 快晴	下から続く 藤崎村で見つかり11本は不明、14日に城内に入込みの乱気者を隠居の上押込・倅に家督(御目見以上・以下なら新規召抱え)金2両2人扶持御目見以下御留守居支配)
1834年	6月5日	天保5年	4月28日 快晴	(去る14日佐藤某が乱心して御城内に入ったのを取押えた御城代与力・北坂下御門番の御持筒足軽等に御賞・御加増) 下から続く 切払われ盗み取られる・9本は 上に続く
1834年	6月6日	天保5年	4月29日 晴	(御家中の子弟・親等が御家中に預けられ他出差留14人?あり、百沢下居宮で3月から8月まで毎月朔日に風雨順時・五穀成就の御祈祷を仰付ける、昨28日夜藤崎村領で銭が 上に続く
1834年	6月7日	天保5年	5月1日 晴	(御賞、当月28日御発駕予定)
1834年	6月8日	天保5年	5月2日 晴	
1834年	6月9日	天保5年	5月3日 曇	今晚寅の刻より雨降 (人事異動、御賞、一昨朔日駒越組水木在家村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1834年	6月10日	天保5年	5月4日 曇	昨夜より之雨今日二及 午の刻過ぎ止
1834年	6月11日	天保5年	5月5日 晴	今晚丑の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止ム (買越米積下がりの加州船が秋田八森村前浜で破船)
1834年	6月12日	天保5年	5月6日 曇	今晚丑の刻より雨降 夜二入
1834年	6月13日	天保5年	5月7日 曇	昨夜より之雨雨今日及 時々降 申の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨雨今日及時々降申刻過止) (人事異動)
1834年	6月14日	天保5年	5月8日 曇	(14日三世寺より筏を組み下がった3人が15日夜十三湯で大時化で死亡) 下から続く 唐鐸を差上げる、大鐸村等の男が間道を忍び入った秋田男に暴行銭等を盗む・1人は捕まる)
1834年	6月15日	天保5年	5月9日 曇	戌の刻頃より雨降 (御賞) 下から続く 例が複数ある、岩木川出水・駒越渡場で両船共今九時半頃より往来差止、油川村平井某が買越米代金上納日延べ願ひと共に 上に続く
1834年	6月16日	天保5年	5月10日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 申の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨今日及時々降申刻過止) (竹内茂左衛門を勘定奉行に等の人事異動、御家中が兄を預かりその兄が出奔という 上に続く
1834年	6月17日	天保5年	5月11日 曇	
1834年	6月18日	天保5年	5月12日 晴	(昨夜八時頃出火・御家中佐藤宅が焼失)
1834年	6月19日	天保5年	5月13日 晴	
1834年	6月20日	天保5年	5月14日 晴	(間道を忍び入った秋田の商人を取押え持参の商品(かんさし30本など)を取上げ・取押えの面々に下し置かれる)
1834年	6月21日	天保5年	5月15日 晴	(去月26日秋田比内郡の袖乞男が青森博労町で病死、富田村領樹木派裏通り畑之内に者倒死)
1834年	6月22日	天保5年	5月16日 晴	
1834年	6月23日	天保5年	5月17日 晴	
1834年	6月24日	天保5年	5月18日 晴	
1834年	6月25日	天保5年	5月19日 晴	(御家中三上某宅で今晚?出火・八時半時出火否(いなや)鎮火、鐘撞きの件で櫓番の者が叱られている)
1834年	6月26日	天保5年	5月20日 晴	(銭1文目につき白米6合売りにて玄米1俵が63文目に当たる・御蔵米90目の所に……理解不能)
1834年	6月27日	天保5年	5月21日 晴	(人事異動、御賞)
1834年	6月28日	天保5年	5月22日 晴	(去月13日居土村脇道番人が玄米4呎押える)
1834年	6月29日	天保5年	5月23日 曇	辰の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止
1834年	6月30日	天保5年	5月24日 晴	(広須組兼館村より藤代組川村まで送り来る秋田鷹野黒村の男が病死・その子は白道院に差し送る、昨日黒石の男が牢死)

(*)・火元居村預け、去る8日夜横内組駒込村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け、上田惣蔵を御役召放し手錠の上慎・相沢村で牢居を仰せ付けられる)

(**)御留守居支配に慎、西坂御門番人の諸手警固等3人に慎、中辻番人御持鍵警固代2人に押込、北の丸御門番の御留守居与力加勢を御旗警固に)

1834年	7月1日	天保5年	5月25日 曇	辰の刻雨降 則刻止
1834年	7月2日	天保5年	5月26日 晴	(当3月8日夜久井名館村から種籾盗みなどの男2人に6鞭居村徘徊はまで通り、去る12月夜着等を盗んだ男に3鞭居町徘徊はまで通り)
1834年	7月3日	天保5年	5月27日 晴	戌の刻頃より雨降 (去る23日揚屋の男逃亡翌24日召捕る・当番に慎逃亡者は入牢)
1834年	7月4日	天保5年	5月28日 曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入 (広須組並びに木造新田の者共が去る秋牛馬撃ち殺し食用にした、偽金を遣った秋田大館の男を鰺ヶ沢で召捕り弘前に移す)
1834年	7月5日	天保5年	5月29日 曇	昨夜より之雨今日および辰の刻頃止 今暁子の刻頃より雷鳴 卯の刻頃止 (曇 昨夜より之雨今日および辰刻頃止今暁子刻頃より雷鳴卯刻頃止) (岩木川出水・流木200巻位流散)
1834年	7月6日	天保5年	5月30日 曇	
1834年	7月7日	天保5年	6月1日 曇	辰の刻頃地震少し 午の刻頃地震少し 未の刻過ぎより雨降 戌の刻頃止 (町内近所で花火をしないよう触れ)
1834年	7月8日	天保5年	6月2日 曇	(弘前表で塩弘底、大光寺村で時疫・施薬、亀甲町の小見世に50日位の男子の捨子・同町の大工に預け養育させる、去月22日居土村の脇道で玄米3斗取上げ・犯人逃亡)
1834年	7月9日	天保5年	6月3日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 (昨2日四時頃平館沖江六里斗先江異国船漂流の旨申し出で候間七時御家老御用人大目付残らず出仕・尤襄月より茂相達し候・右の趣御通行先江申上げる)
1834年	7月10日	天保5年	6月4日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (人事異動、青田の内笛吹くな丹後者は送り返せとの御目付触れ、在方続き方不足米が56200俵余・買越米麦作まで入れても15800俵余不足)
1834年	7月11日	天保5年	6月5日 曇	昨夜より之(雨か)今日に及ぶ 申の刻頃止 (曇 昨夜より之及今日申刻頃止) 下から続く 山本三郎左衛門・山口某にも罰、津軽主水の半知召上げ蟄居・倅を御留守居組に)
1834年	7月12日	天保5年	6月6日 曇	巳の刻頃より雨降 夜二入 (花田栄作の身上召上げ永の暇入牢、野呂才助を実家永預け一間所蟄居・その子の身上召上げ5人扶持御目見以上御留守居支配に、石山喜兵衛・ 上に続く
1834年	7月13日	天保5年	6月7日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入
1834年	7月14日	天保5年	6月8日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止 (岩木川出水・今日九半頃より駒越渡場往来差留める・水防に高屋主計・牧野左次郎隊(大組足軽)が出る・表矢来65倉の内47倉押し流す)
1834年	7月15日	天保5年	6月9日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止 (昨8日岩木川出水で樋口村領表矢来押し破り流木流散・家扒(流木の家捜しでしょうか)方を2手派遣する)
1834年	7月16日	天保5年	6月10日 晴	(屋形様の帰城予定日だったが明日に延引・板柳村に止宿、明8日神明宮で日和揚げの御神楽差上げる)
1834年	7月17日	天保5年	6月11日 晴	(屋形様御帰城、去月23日もちのき村から米を秋田に運ぼうとした男を揚り屋入り)
1834年	7月18日	天保5年	6月12日 晴	(常盤組で秋田早口村の女が差送り中病死)
1834年	7月19日	天保5年	6月13日 晴	
1834年	7月20日	天保5年	6月14日 曇	未の刻頃より雨降 夜二入
1834年	7月21日	天保5年	6月15日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止 (石渡川4歩の出水・馬船往来なり兼ねる)
1834年	7月22日	天保5年	6月16日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (御賞、両社五山に日和揚げ御祈禱を仰せ付ける)
1834年	7月23日	天保5年	6月17日 曇	昨夜より之雨今暁寅ノ刻頃止 午の刻頃雷鳴 則刻止
1834年	7月24日	天保5年	6月18日 晴	
1834年	7月25日	天保5年	6月19日 晴	(御賞、秋田大館佐竹大炊助から領分不作として御米御無心・やわらかく断っている)
1834年	7月26日	天保5年	6月20日 曇	申の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (去る2日早瀬野村おろろ木沢でで玄米4斗2升5合等を背負った男を発見・逃亡、虹貝村水之沢出口・居土村間道で類似の事件あり)
1834年	7月27日	天保5年	6月21日 晴	頃日暑気強し
1834年	7月28日	天保5年	6月22日 晴	
1834年	7月29日	天保5年	6月23日 晴	
1834年	7月30日	天保5年	6月24日 晴	(夫喰米田方1反歩に付米2升積りを以って4ヶ度にて8升渡し方仰せ付けられ……)
1834年	7月31日	天保5年	6月25日 晴	今暁地震少し
1834年	8月1日	天保5年	6月26日 晴	頃日暑気強し
1834年	8月2日	天保5年	6月27日 晴	(去る22日8時過ぎ牛潟村(木造新田)に出火・建家等焼失・火元居村預け)
1834年	8月3日	天保5年	6月28日 晴	(今日大鰐村より初穂差上げる・去年は4月22日植付87日目で差上げ当年は4月28日植付60日で差上げる・当年は日数に引合27日早く節に引合32日早い)
1834年	8月4日	天保5年	6月29日 曇	(此の節の秋田袖乞は130人余……)
1834年	8月5日	天保5年	7月1日 晴	
1834年	8月6日	天保5年	7月2日 晴	(岩木山境内に死亡人あり)
1834年	8月7日	天保5年	7月3日 晴	
1834年	8月8日	天保5年	7月4日 晴	(青森御通行中の屋形様より大暑に付御延引の報が届く)
1834年	8月9日	天保5年	7月5日 晴	(去る朔日赤石組濱横沢村で出火・居宅焼失・火元庄屋慎) 下から続く (大鰐組)早瀬野村で衣類を背負った秋田綴子村等の男3人を捕らえる)
1834年	8月10日	天保5年	7月6日 晴	(屋形様夜九時御帰城、(大鰐組)嶋田村で夜廻が米8斗6升5合を持った者に逃げられる・秋田領に引越しと相見える・米は夜廻に、揚屋内で傷寒の5人を宿下がりとする、去る6日 上に続く
1834年	8月11日	天保5年	7月7日 晴	
1834年	8月12日	天保5年	7月8日 晴	
1834年	8月13日	天保5年	7月9日 晴	(屋形様の御通行に関する御賞、大鰐で盗みの南部出生の女を碇ヶ関口に送り返す)
1834年	8月14日	天保5年	7月10日 晴	
1834年	8月15日	天保5年	7月11日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入 午の刻頃雷鳴 則刻止 (人事異動、7日夜早瀬野村で荷物(白米5升5合身欠緋9把)を捨てた逃亡者あり) 下から続く 五穀成就の御祈禱を仰付)
1834年	8月16日	天保5年	7月12日 曇	卯の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止 (人事異動、津軽監物病死、袖乞の者共の御養扶持を暑中難儀に付2合5夕に、天気合に付き両社並びに五山下居宮住吉護穀神に風雨順次 上に続く
1834年	8月17日	天保5年	7月13日 晴	(去る9日夜蟹田町で出火・10軒焼失・1軒に御米1俵充御手当て下し置かれる、当菜種格別出後に相成・6月20日より7月5日まで15日附相場平均で計算すると水油1升が 欄外(*)に続く
1834年	8月18日	天保5年	7月14日 曇	
1834年	8月19日	天保5年	7月15日 曇	午の刻頃より雨降 申の刻頃止
1834年	8月20日	天保5年	7月16日 晴	
1834年	8月21日	天保5年	7月17日 晴	(一昨14日夜木造新田里見村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1834年	8月22日	天保5年	7月18日 晴	
1834年	8月23日	天保5年	7月19日 晴	
1834年	8月24日	天保5年	7月20日 晴	(今日御初米差上げる・去年は4月22日植付104日目の8月7日鎌入れ・当年は4月28日植付76日目の7月15日鎌入れ・当年は昨年より28日早く節に引合34日早い、昨日黒石の男牢死)
1834年	8月25日	天保5年	7月21日 曇	巳の刻頃雨降 則刻止
1834年	8月26日	天保5年	7月22日 晴	
1834年	8月27日	天保5年	7月23日 晴	(人事異動、昨夜傷寒の花田栄作が牢死)
1834年	8月28日	天保5年	7月24日 晴	(去る19日夜(大鰐組)大沢村で出火・建家外馬屋焼失・火元居村預け、蔵を切り破った木造村の男を入牢、深浦に病人を乗せた越後船が入る・病死し寶泉寺に葬る)
1834年	8月29日	天保5年	7月25日 曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入 (去る18日松前表で囚人9人が逃げ去る・算用師川尻に囚人の乗船らしい船が乗り捨てられている・1人は松前で捕まったらしい)
1834年	8月30日	天保5年	7月26日 曇	昨夜よりの雨今暁二及ひ申の刻過ぎ止ム
1834年	8月31日	天保5年	7月27日 曇	(御帰城の処御見合わせ明28日御帰城遊ばされるよう仰せ出される、去る23日飯詰組野里村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
				(*) 5文目8厘余に相当・1升に付5文目値段に仰せ付ける、去月13日襄月前浜に異国船漕ぎ寄せ上陸の者ある節直ちに出向かなかった三厩詰者頭岡左内を御役召放慎)

1834年	9月1日	天保5年	7月28日	晴	
1834年	9月2日	天保5年	7月29日	晴	
1834年	9月3日	天保5年	8月1日	曇	(去る9日の蟹田町の火災で濱に積み立てていた2尺炬1070500枚焼失)
1834年	9月4日	天保5年	8月2日	曇	
1834年	9月5日	天保5年	8月3日	曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止
1834年	9月6日	天保5年	8月4日	晴	(人事異動)
1834年	9月7日	天保5年	8月5日	晴	(御賞、去る2日七時頃尾崎組新屋村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け)
1834年	9月8日	天保5年	8月6日	晴	(人事異動) 下から続く 年齢36・7歳背5尺2寸余・年齢27歳中背痩せ型・年齢32・3歳背5尺3寸位・年齢40歳位背5尺4寸位・年齢34・5歳背5尺4寸位・夷人年齢25・6歳等々)
1834年	9月9日	天保5年	8月7日	曇	(先日松前から逃亡の囚人中2人が捕まる・捕手士2人徒2人足軽7人都合10人渡海してくる、秋田五十目村(五城目村?)の男が黒石で病死、松前から逃亡の囚人の人相書き: 上に続く)
1834年	9月10日	天保5年	8月8日	晴	(秋田者養育に2合5タを3合扶持にする、去月17日一野坪村八幡宮境内で秋田の袖乞男が病死・母の願で寺に葬る・親と娘は白道院に送る、此の度米1升を1文目4分5厘に仰せ付ける)
1834年	9月11日	天保5年	8月9日	曇	
1834年	9月12日	天保5年	8月10日	曇	(酒屋共1町に1軒(酒)簞1本充て仕込ませる・酒値段は1升到付3文目に仰せ付ける、当2月14日蝦夷地濱マシケ沖合いで鮭場稼ぎの小泊村と十三町の者2人海死)
1834年	9月13日	天保5年	8月11日	曇	未の刻頃より雨降 夜二入
1834年	9月14日	天保5年	8月12日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 巳の刻頃雷鳴 則刻止(曇 昨夜より雨及今日時々降夜二入巳刻頃雷鳴則刻止) (屋形様在々御通行のため今夕七時御機嫌能く御発駕)
1834年	9月15日	天保5年	8月13日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 (異国人上陸時の対応が不適切だった(7月13日記述)岡左内の知行70石召上げ隠居・倅を御留守居組に)
1834年	9月16日	天保5年	8月14日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止
1834年	9月17日	天保5年	8月15日	曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止 (明日より刈入に付両社並びに五山下居宮住吉護穀神に日和揚御祈禱を仰せ付ける)
1834年	9月18日	天保5年	8月16日	曇	申の刻頃より雨降 亥の刻頃止 酉の刻頃雷鳴 即刻止 (公儀の隠し目付けと称する胡乱な男が野内關所に来る・捕らえて報告している)
1834年	9月19日	天保5年	8月17日	曇	(去る7日夜三蔵中浜町で出火・火元御用で御飯屋手入れ中で9歳女子死亡・その促差し置く、青森の酒屋も酒簞1本充酒造を申し付ける・1升は3文目値段)
1834年	9月20日	天保5年	8月18日	曇	(三蔵中浜町の出火は類焼戸も8軒焼失・御手当として御米1俵充下し置かれる)
1834年	9月21日	天保5年	8月19日	曇	今晚寅の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止 (昨日仙台の男が牢死)
1834年	9月22日	天保5年	8月20日	晴	(水練の指南に御賞、在方の造酒屋共にも簞1本充酒を仕込ませる)
1834年	9月23日	天保5年	8月21日	晴	
1834年	9月24日	天保5年	8月22日	晴	(去月朔日亀甲町の捨子は禰宜町に貰われる、去る20日駒越組紙漉沢村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け、飯料不足か牢舎の内で死亡者多い・3合3タ6才渡しに仰せ付ける)
1834年	9月25日	天保5年	8月23日	晴	
1834年	9月26日	天保5年	8月24日	晴	(去る8日碓ヶ関町の夜回りで町下川向で怪しき者・米5俵2斗7升を捨てて逃亡)
1834年	9月27日	天保5年	8月25日	晴	(当作格別豊作につき……御収納米の余分の販売は自由だがその記帳・管理を申し付けているらしい、去る10日より秋田者に対する賄いを2合5タより3合にして喜ばれている)
1834年	9月28日	天保5年	8月26日	晴	(去月11日病死の喜多村監物に対する香典は白銀30両、佐藤某牢死)
1834年	9月29日	天保5年	8月27日	晴	(松前牢抜けの1人が本庄で召捕られる) 下から続く 木造新田丸山村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1834年	9月30日	天保5年	8月28日	曇	亥の刻過ぎより雷雨 雷則刻止 (当10月中まで菜種油1升到付き値段を1文目増の6文目に来3月より5文目に戻す、当月21日に着岸の米が不要で酒造り米に廻す、去る25日夜 上に続く)
1834年	10月1日	天保5年	8月29日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 申の刻頃止ム (神明宮に日和揚の御神楽を申し付ける)
1834年	10月2日	天保5年	8月30日	晴	
1834年	10月3日	天保5年	9月1日	晴	
1834年	10月4日	天保5年	9月2日	晴	
1834年	10月5日	天保5年	9月3日	晴	
1834年	10月6日	天保5年	9月4日	曇	辰の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止
1834年	10月7日	天保5年	9月5日	晴	(宿川原村の端に30余歳の女と子供が倒死)
1834年	10月8日	天保5年	9月6日	なし	(日記は存在するが天気の記述なし)
1834年	10月9日	天保5年	9月7日	晴	(一昨日伴野某が牢死)
1834年	10月10日	天保5年	9月8日	晴	
1834年	10月11日	天保5年	9月9日	曇	申の刻過ぎより雨降 亥の刻頃止
1834年	10月12日	天保5年	9月10日	晴	
1834年	10月13日	天保5年	9月11日	曇	今朝岩木山ニ雪初而見エル (一昨夜秋田の男が牢死、真吹(まぶき:銅の精錬法の1)並びに尻銅共1箇につき270目値段大解銅1箇に付370目・銀目形1文目に付き3文目値段)
1834年	10月14日	天保5年	9月12日	晴	
1834年	10月15日	天保5年	9月13日	曇	
1834年	10月16日	天保5年	9月14日	晴	(高岡江の御献上初鮭2尺)
1834年	10月17日	天保5年	9月15日	晴	(一昨夜男2人牢死)
1834年	10月18日	天保5年	9月16日	晴	
1834年	10月19日	天保5年	9月17日	晴	(家老・用人・大目付中多数が病気で出仕なし)
1834年	10月20日	天保5年	9月18日	晴	
1834年	10月21日	天保5年	9月19日	晴	(藤嶋村の船が宇鉄村で破船・船頭以外の2人死亡、塩の小売値段1升7分5厘・俵売りは21文目に申付ける)
1834年	10月22日	天保5年	9月20日	曇	(役筋で送り返しの男を取り逃がした庄屋に過料銭1貫200文、江戸御登せ米1000石等を積み9日朝鰺ヶ沢を出た越前船が松前表で荷打ち・破船)
1834年	10月23日	天保5年	9月21日	曇	
1834年	10月24日	天保5年	9月22日	曇	
1834年	10月25日	天保5年	9月23日	曇	今晚丑の刻頃より雨降 寅の刻頃止
1834年	10月26日	天保5年	9月24日	曇	戌の刻頃より雨降 亥の刻頃止
1834年	10月27日	天保5年	9月25日	曇	今晚丑の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止 (去る9日夜金木組深郷田村の高無が妻子引き連れ家出、去る18日に捕らえた秋田男は盗みをしており碓ヶ関口送り返し)
1834年	10月28日	天保5年	9月26日	晴	下から続く ついて御馬廻組頭・御城代与力御番所北之丸御門御番所武者屯御番所の担当については御城代並びに御留守居組頭に○を仰せ付ける)
1834年	10月29日	天保5年	9月27日	晴	(当月27日渡しの面扶持を御返しの上昨年8月までの通り分引き御拝借を仰せ付けられる、内東内南御門の担当について御手廻組頭・外東外南三之北四之北御門の担当に 上に続く)
1834年	10月30日	天保5年	9月28日	晴	
1834年	10月31日	天保5年	9月29日	晴	(元勘定奉行笹森某の身上召上げ永の暇入牢・津軽金蔵を剃髪一間所生涯蟄居・喜多村某の御役召放)

1834年	11月1日	天保5年	10月1日 晴	(對馬刑部を大寄合格寺社奉行に等の人事異動、昨夜庄内の男牢死)
1834年	11月2日	天保5年	10月2日 曇	
1834年	11月3日	天保5年	10月3日 曇	今暁子之?刻頃地震少し 申の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (去月29日夕七時頃油川村新派村で出火・類焼等なし) 下から続く 死亡、昨夜大組足輕の勘当の倅が牢死)
1834年	11月4日	天保5年	10月4日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止ム (去る20日松前を出帆の深浦船が22日夜5時頃鳥居崎沖の瀬で破船・1人海死、去る5日十三船が能代領で破船・7人中4人 上に続く
1834年	11月5日	天保5年	10月5日 晴	申の刻過ぎより雨降 夜二入 下から続く ・霧で見えなくなる)
1834年	11月6日	天保5年	10月6日 曇	(人事異動、米1俵45文目位の相場で……、東蝦夷地子モロ御持場の内コエトエイと申す所の遠沖に去月7日帆柱2本帆二つの異国船が霧の晴間より見える・南風で東に向かう 上に続く
1834年	11月7日	天保5年	10月7日 曇	戌の刻過ぎより雨降
1834年	11月8日	天保5年	10月8日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入る (山上七郎左衛門を金1兩2歩御加増御代官に等の人事異動、御賞)
1834年	11月9日	天保5年	10月9日 曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止ム
1834年	11月10日	天保5年	10月10日 晴	(御発駕ならびに豊年御祝の御能、笠原近江に100石加増家老職に、御発駕金御都合成りかね……)
1834年	11月11日	天保5年	10月11日 晴	(湯野沢銀山の関係者に御賞、一粒金丹3劑調合を仰せ付ける、耕田山・尾太山の名称変更、左近将監殿より川鮭1尺……)
1834年	11月12日	天保5年	10月12日 晴	
1834年	11月13日	天保5年	10月13日 晴	申の刻過ぎ雨降 即刻止ム (去る7日夜八時より翌日昼八時までの東風で八幡宮屋根等が破損)
1834年	11月14日	天保5年	10月14日 晴	(昨13日紙御蔵で出火)
1834年	11月15日	天保5年	10月15日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入る (人事異動)
1834年	11月16日	天保5年	10月16日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 午の刻過ぎ止ム (今日御発駕の予定が明日六時過ぎ出発とする)
1834年	11月17日	天保5年	10月17日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (今日暮れ六つ時頃益々ご機嫌よく御発駕遊ばされ恐悦奉り候・今日(昨日のことか?)は御台所に逗留)
1834年	11月18日	天保5年	10月18日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 未の刻過ぎ止ム 今日雪少シ降
1834年	11月19日	天保5年	10月19日 曇	昨夜雪少降 戌の刻過ぎ地震少シ (人事異動、屋形様益々御機嫌よく今暁鰻ヶ沢江御着座、藤代村の男が琉球芋を仕立差上げる、去月22日江戸出立の諸手足輕が25日喜連川駅で病死)
1834年	11月20日	天保5年	10月20日 晴	昨夜雪降 二寸程積ル
1834年	11月21日	天保5年	10月21日 曇	今暁トラの刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1834年	11月22日	天保5年	10月22日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少シ降 (屋形様の行程が書いてある・分からん)
1834年	11月23日	天保5年	10月23日 晴	(津輕頼母等に罰(実兄笹森某に諫めをしなかった御手廻組の織田某を御目見以下御留守居支配に役下げ等を含む))
1834年	11月24日	天保5年	10月24日 晴	今暁寅の刻頃小雨降 即刻止ム (年々在浦で恵比須講・厳しく御差留め、貞昌寺位牌堂の床下に不浄の者住居・床の土を取り捨て掃除)
1834年	11月25日	天保5年	10月25日 晴	今暁丑の刻頃より雨降 寅の刻過ぎ止ム (人事異動)
1834年	11月26日	天保5年	10月26日 曇	今暁寅の刻頃より雨降 辰の刻頃止ム 卯の刻頃雷鳴 即刻止ム (屋形様が頭痛・今日(24日)1日森岡駅に御逗留)
1834年	11月27日	天保5年	10月27日 曇	
1834年	11月28日	天保5年	10月28日 晴	(御家中の曾祖父が出走)
1834年	11月29日	天保5年	10月29日 晴	申の刻頃より雨降 酉の刻頃止ム (当8月晦日赤石村の後家と娘が出走)
1834年	11月30日	天保5年	10月30日 曇	昨夜雪降 八寸程積
1834年	12月1日	天保5年	11月1日 晴	
1834年	12月2日	天保5年	11月2日 晴	下から続く 紺屋町で繋いだ馬から荷物を盗んだ男に3鞭居村徘徊はまで通り、去る3月に牢抜けをされた牢奉行を御旗警固に役下げ)
1834年	12月3日	天保5年	11月3日 曇	昨夜雪少シ降 午の刻頃雨降 申の刻過ぎ止ム (去る10月十三湊領金屋に乗揚げた南部船に乱暴した3人に15鞭7人に12鞭宛居村徘徊はまで通り・1人に過料5貫400文、 上に続く
1834年	12月4日	天保5年	11月4日 晴	
1834年	12月5日	天保5年	11月5日 曇	昨夜雪少シ降 今日雪少シ降
1834年	12月6日	天保5年	11月6日 晴	
1834年	12月7日	天保5年	11月7日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (人事異動)
1834年	12月8日	天保5年	11月8日 晴	下から続く 来2月まで1升7文目値段に申し付ける)
1834年	12月9日	天保5年	11月9日 曇	昨夜雪少シ降 卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (伊勢大神宮に御供え米1カ年50俵・昨年凶作で金1000疋) 下から続く 相場平均で水油1升が7文目5分9厘余・ 上に続く
1834年	12月10日	天保5年	11月10日 曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止ム (大津屋が塩1俵25文目7分値段で引き受ける・小売塩1升につき7分に仰せ付ける、出盛粒油の10月朔日より20日までの 上に続く
1834年	12月11日	天保5年	11月11日 曇	昨夜雪少シ降 亥の刻頃より雨時々降
1834年	12月12日	天保5年	11月12日 晴	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止ム (9月9日に鰻ヶ沢で御米2480俵などを積んだ江戸御廻船が御米荷打ち松前で水船になる、屋形様が2日に山方止宿・明日1日御逗留)
1834年	12月13日	天保5年	11月13日 晴	
1834年	12月14日	天保5年	11月14日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止む
1834年	12月15日	天保5年	11月15日 曇	今日雪少降 (大鰐組久吉村に時疫50人余・施薬)
1834年	12月16日	天保5年	11月16日 晴	昨夜雪降 貳寸程積ル (隠し津出の件で一寸した罰)
1834年	12月17日	天保5年	11月17日 曇	昨夜雪少シ降 (当5月縄付の男に逃げられた4人に押し込め)
1834年	12月18日	天保5年	11月18日 晴	昨夜雪降 貳寸程積 (娘勾引の男3人に一寸した罰)
1834年	12月19日	天保5年	11月19日 晴	(黒石役人が当年内津出米2000石を申し出る・津留め中なので後)
1834年	12月20日	天保5年	11月20日 曇	昨夜雪少シ降 今日雪少シ降 (当10月13日の紙御蔵出火対応に関し御賞、人事異動)
1834年	12月21日	天保5年	11月21日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積
1834年	12月22日	天保5年	11月22日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (近年熊不狽につき……手当てを)
1834年	12月23日	天保5年	11月23日 曇	今日雪少降
1834年	12月24日	天保5年	11月24日 曇	今日雪少シ降 (人事異動、去る19日夜油川村で出火・建家外馬屋稲草等焼失・火元居村預け)
1834年	12月25日	天保5年	11月25日 晴	今日雪少降
1834年	12月26日	天保5年	11月26日 曇	昨夜雪少シ降 今日雪少シ降 下から続く 男から衣類を剥取った男に3鞭居村徘徊はまで通り、当5月2日早瀬野間道で役人と称し金品を取上げた4人に15鞭居村徘徊はまで通り)
1834年	12月27日	天保5年	11月27日 曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル 下から続く 徘徊はまで通り、母に不法等の男に3鞭居町徘徊はまで通り、盗み男に3鞭居町徘徊はまで通り、牢舎中の 上に続く
1834年	12月28日	天保5年	11月28日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (多分代官達と養蚕126人の者共に御賞、御家中に雇われて盗みの男に3鞭居町徘徊はまで通り、手付金を騙し取った男に3鞭居町 上に続く
1834年	12月29日	天保5年	11月29日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (初鰯2本高岡江御献備)
1834年	12月30日	天保5年	12月1日 晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少シ降
1834年	12月31日	天保5年	12月2日 曇	昨夜雪少シ降 今日雪少降(曇 昨夜雪少シ降今日雪少降) (人事異動、当春青獅子を丸の俣の狩取を命じた・獵師が差上げ御賞金200疋、去月28日までに十三潟が前後とも残らず氷張る)

1835年	1月1日	天保5年	12月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル 頃日寒強し (門外村で畑作物の盗・居宅の取壊等で6鞭1人・3鞭男女3人・庄屋役御取放、刎6俵等を盗んだ4人に3鞭居村徘徊是まで通り)
1835年	1月2日	天保5年	12月4日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 三寸程積
1835年	1月3日	天保5年	12月5日	晴	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降
1835年	1月4日	天保5年	12月6日	晴	頃日寒強し
1835年	1月5日	天保5年	12月7日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積 (屋形様が去月15日千住駅御発駕それより直ちに御老中様御廻勤・御着府)
1835年	1月6日	天保5年	12月8日	曇	今日雪降 一寸程積 (去る3日屋金木村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け、湯野沢銀山の下役等に御賞)
1835年	1月7日	天保5年	12月9日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降 (去月20日江戸で須藤某を御用人に等の人事異動、当5月23日にもちのき村から秋田に米2俵を背負って間道を通った男に15鞭居町徘徊是まで通り)
1835年	1月8日	天保5年	12月10日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (御賞)
1835年	1月9日	天保5年	12月11日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少シ降 (秋田本庄村の男病死)
1835年	1月10日	天保5年	12月12日	晴	(御賞、所々で盗み一間所押し破りの男に3鞭弘前御構い居村徘徊頃まで通り)
1835年	1月11日	天保5年	12月13日	晴	
1835年	1月12日	天保5年	12月14日	晴	昨夜雪少降
1835年	1月13日	天保5年	12月15日	晴	昨夜雪少シ降
1835年	1月14日	天保5年	12月16日	曇	今日雪少降 (蜜柑御荷物去月17日江戸出立昨夜到着)
1835年	1月15日	天保5年	12月17日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少シ降
1835年	1月16日	天保5年	12月18日	曇	昨夜雪降 一尺一寸程積 今日雪降 三寸程積 (御賞、人事異動、去月14日別段役が舞戸村で米1俵押える・人は逃亡・米は別段役に下し置かれる)
1835年	1月17日	天保5年	12月19日	晴	(去る2日に上使を以て御鷹の雁を拝領)
1835年	1月18日	天保5年	12月20日	晴	(御賞)
1835年	1月19日	天保5年	12月21日	曇	昨夜雪少降 (船頭深浦町長兵衛の人相書き・丈五尺位にて中肉年齢40歳等々)
1835年	1月20日	天保5年	12月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今晩寅の刻頃小雨降 即刻止 今日雪少降 (御賞、横内組久栗坂村の男が大亀差上げる・鳥目1貫文下し置かれる)
1835年	1月21日	天保5年	12月23日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る17日夜金木組川内村・嘉瀬村でそれぞれ出火・建家穀物等焼失・火元2人は居村預け)
1835年	1月22日	天保5年	12月24日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (此の度鉄砲組と称する組ができ御徒に近い格)
1835年	1月23日	天保5年	12月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 下から続く 養蚕のために支給された桑苗をみだりに薪にし・皮を剥ぎ売り払い・根を穿ち皮を剥いで紙漉きに持ち込む等を止めろとの目付触れ、男牢死)
1835年	1月24日	天保5年	12月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (屋形様が去る16日に侍従に昇任、去る19日夜駒越組国吉村で出火・建家1軒焼失・火元居村預け、来る28日広居茂三郎の富札開札を正月15日に延期、 上に続く
1835年	1月25日	天保5年	12月27日	晴	
1835年	1月26日	天保5年	12月28日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 四寸程積 (御賞)
1835年	1月27日	天保5年	12月29日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (人相書き・当午35歳・せい五尺位等々、松前の男を村送り中油川組飛鳥村で病死)
1835年	1月28日	天保5年	12月30日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1835年	1月29日	天保6年	正月1日	晴	昨夜雪降 五寸程積
1835年	1月30日	天保6年	正月2日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積
1835年	1月31日	天保6年	正月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 六寸程積 (御吉例金200両を御金奉行より差出す・明日立ちの飛脚で差登す)
1835年	2月1日	天保6年	正月4日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日吹雪強シ 雪七寸程積
1835年	2月2日	天保6年	正月5日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 (御馬廻役格佐藤栄吉を大納戸役格勤料の内10俵1人扶持を御加増等の人事異動)
1835年	2月3日	天保6年	正月6日	曇	今日雪少降
1835年	2月4日	天保6年	正月7日	晴	申の刻頃地震少し
1835年	2月5日	天保6年	正月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1835年	2月6日	天保6年	正月9日	晴	(去る23日笠原近江に200石加増・その親恕休(八郎兵衛の号)を御家老隠居同様とし薬王院における御先代様侍座を以前に戻す、学問所で出来の略暦を例年の通り差登す、人事異動)
1835年	2月7日	天保6年	正月10日	曇	今日雪少降 (御賞)
1835年	2月8日	天保6年	正月11日	曇	今日雪少降
1835年	2月9日	天保6年	正月12日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1835年	2月10日	天保6年	正月13日	曇	今日雪少降 午の刻頃より雨時々降 夜二入
1835年	2月11日	天保6年	正月14日	曇	昨夜より之雨今日二及 巳の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨今日二及巳刻過ぎ止ム) 下から続く 打ち留めるよう役人を遣わす、古懸不動尊御出汗・御神楽等の手続き)
1835年	2月12日	天保6年	正月15日	曇	昨夜吹雪少し 雪三寸程積 今日雪少降 (旧臘2日江戸で拝領の雁肉の頂戴を仰せ付けられる、高杉組鬼沢・堂ヶ沢両村領に頃日暮頃より狼が数十疋下山・次第によっては 上に続く
1835年	2月13日	天保6年	正月16日	晴	
1835年	2月14日	天保6年	正月17日	晴	昨夜雪降 貳寸程積 (去る4日朝松前船が沖館村前沖に漂着)
1835年	2月15日	天保6年	正月18日	曇	今日雪少降 (人事異動)
1835年	2月16日	天保6年	正月19日	曇	今日雪少降
1835年	2月17日	天保6年	正月20日	曇	昨夜雪少降
1835年	2月18日	天保6年	正月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る14日昼後渦組広瀬村で出火・居宅等焼失・建馬2疋焼斃・火元居村預け)
1835年	2月19日	天保6年	正月22日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積
1835年	2月20日	天保6年	正月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1835年	2月21日	天保6年	正月24日	曇	(去る19日木造新田上福原村で出火・建家1軒馬1疋穀物等焼失・火元居村預け、酒(1升)を4分下げて1文目8分として御家中望みの者に売り貸しする事とする)
1835年	2月22日	天保6年	正月25日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム 未の刻頃雷鳴 即刻止ム
1835年	2月23日	天保6年	正月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1835年	2月24日	天保6年	正月27日	曇	
1835年	2月25日	天保6年	正月28日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1835年	2月26日	天保6年	正月29日	晴	昨夜雪降 一寸程積
1835年	2月27日	天保6年	2月1日	曇	卯の刻頃より小雨降 巳の刻過ぎ止ム
1835年	2月28日	天保6年	2月2日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (鬼沢村等の狼は役人に近づかず鉄砲を打てない・狼取りの毒薬を斃馬の肉に塗り付け置き一昨28日の夜まで狼3疋狩取る・他に狼見えないとのこと)

1835年	3月1日	天保6年	2月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 五寸程積	
1835年	3月2日	天保6年	2月4日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (去る28日土手町松屋某に預けた秋田者12人を送り遣っている)	
1835年	3月3日	天保6年	2月5日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1835年	3月4日	天保6年	2月6日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1835年	3月5日	天保6年	2月7日 曇	(御昇進と御雁拝領の御祝儀として座当109人・盲女295人に配当・1人に付き15文ツツ鳥目6貫600文(おかしな計算だがこう書いてある)を下し置かれる)	
1835年	3月6日	天保6年	2月8日 曇	今日雪少降 (熊が不猟で苦労している)	
1835年	3月7日	天保6年	2月9日 曇	今日雪少降 (米屋どもが御家中に貸付の分を差上げている、無手形米を動かして捕まっている者多い)	
1835年	3月8日	天保6年	2月10日 晴	(堅雪になって秋田から間道を袖乞の者が入り込んでいる)	
1835年	3月9日	天保6年	2月11日 曇	午の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止ム (熊が不猟で獺師に米1俵ツツ下し置かれる)	
1835年	3月10日	天保6年	2月12日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 辰の刻過ぎ地震少し (去る6月婁月村に異国船着岸の節1貫目玉100を打ち払った?早速鑄立てる、別段役が取押え預けた馬を逃がした男を押込10日)	
1835年	3月11日	天保6年	2月13日 曇	今日雪少降 (森岡金吾を御手廻組頭に加増100石)	
1835年	3月12日	天保6年	2月14日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 八寸程積 (去る10日夜木造新田下相野村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓居村預け) 下から続く 判らないが和徳村の男に3鞭弘前御構い)	
1835年	3月13日	天保6年	2月15日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (人事異動、去々巳年不作で面扶持中諸木仕立方停止・所々に木を植える計画が見える) 下から続く 元八幡宮下社家に3鞭家に引渡、何をしたか 上に続く	
1835年	3月14日	天保6年	2月16日 晴	(盗みの男に3鞭居村徘徊はまで通り、酒酔いで町人に傷をつけた盗みもした御家中の弟に3鞭兄に引き渡し、盗みの男に3鞭弘前御構い黒石送り返し、玄米3俵白米2俵を盗んだ 上に続く	
1835年	3月15日	天保6年	2月17日 曇	辰の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止ム	
1835年	3月16日	天保6年	2月18日 曇	昨夜雪吹強シ 雪二寸程積 (当10月無届け大豆24俵を運送中の8人の大豆御取り上げ15日充の押込、去る10月23日明番下りの節追手御門上番御目付方に……・追手御門の例は珍しい)	
1835年	3月17日	天保6年	2月19日 晴	下から続く 建家穀物等焼失・火元居村預け)	
1835年	3月18日	天保6年	2月20日 曇	(人事異動) 下から続く 3口1包4分積膏薬1員5分充○16度1度4分積にて代料763文目渡し方申し付ける:意味が分らず拾っている、去る17日夜藤崎組林崎村で出火・ 上に続く	
1835年	3月19日	天保6年	2月21日 曇	卯の刻頃雨降 辰の刻過ぎ止ム (飯詰組金山並びに川代田村・俵元新田末広村富升村の極究の者共時疫・去る11月より御施薬・此の節全快・煎薬1849帖散薬33包油薬7貝迄 上に続く	
1835年	3月20日	天保6年	2月22日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降 (当両都御廻船上乗り98人下乗り70人それぞれ仰せ付けられる)	
1835年	3月21日	天保6年	2月23日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降	
1835年	3月22日	天保6年	2月24日 晴		
1835年	3月23日	天保6年	2月25日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降	
1835年	3月24日	天保6年	2月26日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降	
1835年	3月25日	天保6年	2月27日 曇	下から続く 風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)	
1835年	3月26日	天保6年	2月28日 曇	昨夜雪少降 (去る25日追良瀬村領上切沢で赤石組松原村の獺師長治・小又鬼仁兵衛・猿賀組浅瀬(石?)村獺師清作の3人が牝熊3疋狩取る、頃日天気不勝・両社に 上に続く	
1835年	3月27日	天保6年	2月29日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積	
1835年	3月28日	天保6年	2月30日 晴	(笠原近江屋敷の改修内容がある、去る25日朝六時過ぎ鰺ヶ沢の漁師11人が山瀬風強く同タ八時頃田之沢村前浜に難船・1艘1人行方不明)	
1835年	3月29日	天保6年	3月1日 晴	(人事異動、一粒金丹有合せ不足・和田某伊藤某に3劑(翌日2劑追加)調合申し付ける。菜種油1升を5分増の5文目5分に申し付ける)	
1835年	3月30日	天保6年	3月2日 曇	今晚寅の刻過ぎより雨降 卯の刻過ぎ止ム (去月25日昼四時頃後潟組砂ヶ森村で干立ての糧昆布から出火・6軒焼失・火元他村預け、停止品蕎麦を松前に送ろうとした夫婦に押込め5日等)	
1835年	3月31日	天保6年	3月3日 曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 五寸程積	
1835年	4月1日	天保6年	3月4日 曇	今日雪少降 下から続く 迎えに出今後袖乞等しないよう申し付ける)	
1835年	4月2日	天保6年	3月5日 晴	戌の刻過ぎより雨時々降 (去る10月22日貞昌寺床下で火を起こした男に火付けではないとして押込30日・両親とも病死し当時(現在の意)人別帖外・兄等身寄りの者に揚屋前に 上に続く	
1835年	4月3日	天保6年	3月6日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (盗みで御構いの男が御構い地に立ち入る・3鞭弘前御構い兄引渡し)	
1835年	4月4日	天保6年	3月7日 晴	(一昨昼九時過ぎ萱町で出火・家焼失・火元入寺慎、人事異動)	
1835年	4月5日	天保6年	3月8日 晴		
1835年	4月6日	天保6年	3月9日 晴		
1835年	4月7日	天保6年	3月10日 曇	辰の刻過ぎより雨降 即刻止 酉の刻過ぎより雨降 下から続く 1俵を取押えられた男にこの米御取上げの上日数15日押込)	
1835年	4月8日	天保6年	3月11日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム (去る12月より今に広須組出野里村出崎両村で時疫・施薬、岩木川出水・駒越渡場で長船馬船とも今11日明六時より往来差留める、無手形米 上に続く	
1835年	4月9日	天保6年	3月12日 曇		
1835年	4月10日	天保6年	3月13日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入る	
1835年	4月11日	天保6年	3月14日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午の刻頃止 今日風強シ 霞少シ降 下から続く 去る11日明け方までに十三町前後の潟が残らず氷明き船の通路相成る)	
1835年	4月12日	天保6年	3月15日 曇	昨夜雪少降 (御制禁の木綿等を上磯方面に運んだ者達の品物御取上げ20日の押込等、頃日天気不正・八幡宮で御神楽差上げる、去る14日四時頃より鰺ヶ沢で洞懸船が破船、 上に続く	
1835年	4月13日	天保6年	3月16日 曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入る (秋田表に抜米が御関所口などを通り出ているらしい・弘前は危機を脱して居るが秋田はまだ?、人事異動)	
1835年	4月14日	天保6年	3月17日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム 下から続く 上げ風雨順時の御祈禱)	
1835年	4月15日	天保6年	3月18日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止ム (神明宮・下居宮・五穀神で日和上げの御祈禱) 下から続く 17日遅い、酒を薄めて売っている?、頃日天気不正・四社で日和 上に続く	
1835年	4月16日	天保6年	3月19日 曇	(当月12日暮六時頃より翌13日朝迄に十三潟大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は2月16日暮より翌17日朝まで氷明ける・当年は日数に引合26日遅く節に引合 上に続く	
1835年	4月17日	天保6年	3月20日 晴		
1835年	4月18日	天保6年	3月21日 曇	今晚寅の刻頃雨降 午の刻頃止 (丹後者の詮索・送り返し)	
1835年	4月19日	天保6年	3月22日 晴	戌の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (昨夜御家中の居宅焼失)	
1835年	4月20日	天保6年	3月23日 曇	卯の刻過ぎ雨降 即刻止ム ((用人溝口伝左衛門病死)	
1835年	4月21日	天保6年	3月24日 晴	下から続く 建家外馬屋米7俵等焼失・火元百姓居村預け)	
1835年	4月22日	天保6年	3月25日 晴	酉の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止ム (去る21日夜尾崎組新屋村で出火・類焼9軒外馬屋等焼失・火元百姓他村預け、去る20日夜常盤組西中野目村寄郷吉向村で出火・ 上に続く	
1835年	4月23日	天保6年	3月26日 曇	未の刻過ぎより小雨降 申の刻過ぎ止ム	
1835年	4月24日	天保6年	3月27日 晴		
1835年	4月25日	天保6年	3月28日 晴	(人事異動、一昨26日夜赤田組福野田村で味噌煮釜から出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)	
1835年	4月26日	天保6年	3月29日 曇		
1835年	4月27日	天保6年	3月30日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止ム	
1835年	4月28日	天保6年	4月1日 晴	(岩木川が4歩半の出水・両船とも今六時より往来差留める、土手町に指南車で商いをするもの……)	
1835年	4月29日	天保6年	4月2日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入る (去る21日焼失の新屋村の9軒に御米1俵充御手当てを下し置かれる、左近将監殿より川鱒1尺充町奉行に贈られる)	
1835年	4月30日	天保6年	4月3日 曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (森岡山城を家老手伝加増100石役知200石・戸沢半左衛門を大寄合格御用人手伝に等の人事異動)	

1835年	5月1日	天保6年	4月4日 晴	酉の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (土門某奥瀬某を大寄合格御用人手伝に等の人事異動、去る昨日浪岡組中野村で味噌煮釜より出火・類焼共4軒焼失・火元百姓他村預け、欄外(*)に続く
1835年	5月2日	天保6年	4月5日 曇	今暁風強し (沖糶米売り払いの分は1俵31文目立値段相崩し申さざる……) 下から続く 男に3鞭弘前払い、去年3月9日の飯詰組の55人の騒動の元を作った男に3鞭・庄屋等にも罰)
1835年	5月3日	天保6年	4月6日 晴	(廣2歩金15両などを遣った男3人に家財は妻子に下し置かれ300日の牢居の上取上御仕置場で30鞭10里四方追放大御構、一昨年12月から度々他人の渡米を騙し取った 上に続く
1835年	5月4日	天保6年	4月7日 晴	
1835年	5月5日	天保6年	4月8日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム (此の節の(江戸の?)米相場42文目・御約定通式割下仕候えば1俵32匁6分に相当)
1835年	5月6日	天保6年	4月9日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入る (去月20日?駒越組?の獵師達が10人の手伝で赤石組山内で6尺余・去月19日駒越組砂子瀬村の獵師が乙富山で手伝8人とともに大熊刈り取る・共に御賞)
1835年	5月7日	天保6年	4月10日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 卯の刻過ぎより小雨降 夜二入る (人事異動、御賞)
1835年	5月8日	天保6年	4月11日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 辰の刻頃止ム 下から続く 12月12日小島江1艘相見え外南部沖え残る3艘が下蝦夷地で漂船)
1835年	5月9日	天保6年	4月12日 曇	辰の刻頃雨降 即刻止ム (去月25日砂ヶ森村火災の6軒の者共に御米1俵充御手当て下し置かれる、人事異動、去る11月中旬の頃下蝦夷地エトロップに異国船4艘滞船・その後 上に続く
1835年	5月10日	天保6年	4月13日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入る
1835年	5月11日	天保6年	4月14日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申の刻止 (蟹田町の男が無手形米の輸送で別段役に捕まり御取上、野木村で借財取延べて若干の罰、今冬より御蔵米附相場1俵24文目に仰付けられる)
1835年	5月12日	天保6年	4月15日 晴	(去る8日屋金木組嘉瀬村で出火・外馬屋と他人の建家焼失・火元他村預け、金木組小泊村青岩と下前村に鯨2本流れ寄せる・9日7半時過ぎ深浦湊領沢部村にも流れ寄せる)
1835年	5月13日	天保6年	4月16日 晴	
1835年	5月14日	天保6年	4月17日 晴	
1835年	5月15日	天保6年	4月18日 晴	亥の刻過ぎより雨降
1835年	5月16日	天保6年	4月19日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入る
1835年	5月17日	天保6年	4月20日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止ム (当2月久栗坂の別段役に米を取押えられた清水川村の男に20日押込御米取上げ別段役に、大泊前浜で平館村の船が難船・1人海死)
1835年	5月18日	天保6年	4月21日 曇	未の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム
1835年	5月19日	天保6年	4月22日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入る (菜種油これまでの5文目を7文目6分に油屋共が申し出る・6文目値段に仰せ付ける、去る3日の出水で駒越町土場前の土居が50間位流失)
1835年	5月20日	天保6年	4月23日 晴	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止ム
1835年	5月21日	天保6年	4月24日 曇	(人事異動)
1835年	5月22日	天保6年	4月25日 晴	(去る22日赤石組深谷村で出火・類焼9軒馬1疋焼斃・火元他村預け)
1835年	5月23日	天保6年	4月26日 曇	午の刻過ぎ地震少し
1835年	5月24日	天保6年	4月27日 曇	
1835年	5月25日	天保6年	4月28日 曇	
1835年	5月26日	天保6年	4月29日 曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 巳の刻過ぎ止ム
1835年	5月27日	天保6年	5月1日 晴	(当春駒越組村市村の獵師園某が熊6疋・赤石組松原村の獵師長治も3疋刈り取る・前者に5貫文と下々位の熊皮後者に3貫文と下々位の熊皮を下し置かれる)
1835年	5月28日	天保6年	5月2日 曇	(古川某を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動、屋形様お足痛に付御旅行が難・暫く御免駕延引)
1835年	5月29日	天保6年	5月3日 晴	(御蔵巻(意味不明)を取放たれ他人に書かせた訴状を出したのかな?男2人に3鞭充居村徘徊はまで通り、去る12月内南下馬の訴状を剥ぎ取った男に戸ヰ、盗盗み男に3鞭弘前町御構い)
1835年	5月30日	天保6年	5月4日 晴	
1835年	5月31日	天保6年	5月5日 晴	
1835年	6月1日	天保6年	5月6日 晴	
1835年	6月2日	天保6年	5月7日 晴	(去月20日小泊村七つ石に女鯨流寄せる、赤石組沢部村前浜に寄せ鯨)
1835年	6月3日	天保6年	5月8日 快晴	
1835年	6月4日	天保6年	5月9日 快晴	
1835年	6月5日	天保6年	5月10日 晴	
1835年	6月6日	天保6年	5月11日 晴	申の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1835年	6月7日	天保6年	5月12日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1835年	6月8日	天保6年	5月13日 晴	(江戸免駕を来る12日と仰せ出される、5月朔日立ち道中8日振りの飛脚が今日着いている・多分又叱られる・殆ど毎回こんなもの)
1835年	6月9日	天保6年	5月14日 曇	
1835年	6月10日	天保6年	5月15日 曇	辰の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止ム (昨年の金繰りに頑張ってくれた津軽屋三平に米の下相場31文目より3割半引きの1俵20目1分5厘で600俵御払い)
1835年	6月11日	天保6年	5月16日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1835年	6月12日	天保6年	5月17日 晴	(後湯組大川平村の獵師松蔵が熊3疋狩取る・内1疋は稀なる熊で胆生目86文目皮もそれに準ずる、青森湊常燈新規取立て、赤石組深谷村の火災の類焼9軒に御手当て米1俵充)
1835年	6月13日	天保6年	5月18日 晴	(去る10日木造新田入江村で出火・建家穀物等焼失・火元高無居村預け、去る13日夜大鰐組古懸村で出火・建家穀物等焼失・火元居村預け)
1835年	6月14日	天保6年	5月19日 晴	(十三町の忠左衛門が秋田から素麺の拵え方の伝授を受け家業とする)
1835年	6月15日	天保6年	5月20日 晴	
1835年	6月16日	天保6年	5月21日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム (去7月禰宜町に借金取りに行き石で傷つけた男に押込15日・傷つけられた男に10日)
1835年	6月17日	天保6年	5月22日 曇	辰の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止ム
1835年	6月18日	天保6年	5月23日 晴	
1835年	6月19日	天保6年	5月24日 晴	(屋形様今もって不快・御名代左近将監殿を差下される)
1835年	6月20日	天保6年	5月25日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1835年	6月21日	天保6年	5月26日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入る
1835年	6月22日	天保6年	5月27日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 未の刻過ぎ止 今暁丑の刻過ぎ雷鳴 寅の刻過ぎ止ム
1835年	6月23日	天保6年	5月28日 晴	(人事異動)
1835年	6月24日	天保6年	5月29日 曇	(一昨年より昨年の時疫流行に対処した医8人に御目見など多数に(名誉)賞を与えている)
1835年	6月25日	天保6年	5月30日 曇	未の刻頃より小雨フ 即刻過ぎ止ム (去10日油川組田沢村に婦人倒れ居る・薬を与えたが病死・同道の女子は同村の者に預け置く)
1835年	6月26日	天保6年	6月1日 晴	(人事異動、左近将監様が去る17日江戸出立来る3日碇ヶ関御泊、黒石が去年御米1500俵を拝借・1俵90目値段)
1835年	6月27日	天保6年	6月2日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻頃止ム (御蔵米3025俵蕎麦55俵等を積んだ当江戸御廻船(三州船)が荷打ちの上5月23日どこかに入津)
1835年	6月28日	天保6年	6月3日 晴	(他散者共の呼寄せに勘定小頭等を派遣している)
1835年	6月29日	天保6年	6月4日 晴	
1835年	6月30日	天保6年	6月5日 晴	(人事異動)
			(*)	岩木川出水・両船とも今朝六時より往来差留める)

1835年	7月1日	天保6年	6月6日	晴	
1835年	7月2日	天保6年	6月7日	曇	
1835年	7月3日	天保6年	6月8日	晴	
1835年	7月4日	天保6年	6月9日	晴	
1835年	7月5日	天保6年	6月10日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入る
1835年	7月6日	天保6年	6月11日	晴	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム 下から続く 6分安い、人家に近い所で火花小筒停止の触れ)
1835年	7月7日	天保6年	6月12日	曇	(赤石組深谷村の類焼(4月22日のこと)の9軒が難渋・杉90本の伐取を仰せ付ける、篠巻綿5000把を荷揚げ・御目見以上望みの者に御貸渡・1把に付3文目9分値段で一昨年より 上に続く
1835年	7月8日	天保6年	6月13日	曇	巳の刻過ぎより雨 午の刻過ぎ止ム
1835年	7月9日	天保6年	6月14日	晴	(去る10日赤石組沖村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1835年	7月10日	天保6年	6月15日	曇	(青田の内笛吹くなどの触れ)
1835年	7月11日	天保6年	6月16日	晴	酉の刻過ぎより雨降
1835年	7月12日	天保6年	6月17日	晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (江戸御廻船の運賃は100石目に付き18兩3歩に取究める、米の移出値段などが書かれているらしいが分からない)
1835年	7月13日	天保6年	6月18日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止ム 卯の刻過ぎより雷鳴 辰の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより雨降
1835年	7月14日	天保6年	6月19日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 巳の刻過ぎ止ム 申の刻頃より雨降 夜二入る
1835年	7月15日	天保6年	6月20日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム 辰の刻過ぎより小雨降 申の刻過ぎ止ム (大光寺組小和森村で出火・類焼とも2軒焼失・火元他村預け、当2月平内領で無刻印米を運び御取り上げの上罰)
1835年	7月16日	天保6年	6月21日	曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻過ぎ止ム (頃日天気不勝に付き四社で日和揚げ御祈禱)
1835年	7月17日	天保6年	6月22日	晴	(頃日天気不正に付き高岡で日和揚げ五穀成就の御祈禱を仰せ付ける、上田惣蔵(浪岡村に幽閉中?の御家中)の家人が御国下がり・鍛冶町に住み生涯捨扶持として2人扶持)
1835年	7月18日	天保6年	6月23日	晴	
1835年	7月19日	天保6年	6月24日	晴	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止ム
1835年	7月20日	天保6年	6月25日	晴	未の刻過ぎ地震少し (当3月夏目左近将監妻を殺害逃亡の男の人相書き:当未35歳・丈5尺余・所持する刀の身長3尺2寸位(柄頭からこじりまでの長さをこういったのかな?)等々)
1835年	7月21日	天保6年	6月26日	晴	
1835年	7月22日	天保6年	6月27日	曇	今晚寅の刻過ぎより雨時々降 午の刻頃止ム (当月19日鰯ヶ沢出帆の江戸御廻船が南部領で破船・橋船で上陸)
1835年	7月23日	天保6年	6月28日	晴	
1835年	7月24日	天保6年	6月29日	曇	卯の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム 下から続く 合計1文目5分つつ下し置かれていたが此の度止める)
1835年	7月25日	天保6年	6月30日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止ム (去る午年(去年天保5年)4月より御用心向き御締合(のため?)乞食共一夜16人ツツ夜回り仰付ける・一夜に1文目ツツ御手当て町方より5分 上に続く
1835年	7月26日	天保6年	7月1日	晴	
1835年	7月27日	天保6年	7月2日	晴	
1835年	7月28日	天保6年	7月3日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入(松前表シヤマニ(様似?)沖を異国船通ると江戸表に報告、笠原近江の親意休(八郎兵衛)が病死)
1835年	7月29日	天保6年	7月4日	晴	昨夜より雨 今晚寅の刻過ぎ止 (石渡川4歩半の出水・馬船小船とも往来なり兼ねる) 6日から続く 9鞭居町徘徊頃まで通り・その相手に12鞭還俗親元引渡し)
1835年	7月30日	天保6年	7月5日	曇	(平内領の白米1俵42匁玄米1俵38文目で青森の米値段と釣合わず青森付近から米の隠買い、一昨3日夜樋口村表矢来12蔵押破り流木大凡100巻流散・3手を派遣し回収に努める)
1835年	7月31日	天保6年	7月6日	曇	午の刻頃小雨降 則刻止 申の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止 (盗みの男3人に6・3・3鞭弘前払い、大病で宿下中他出悪事の男に9鞭居町徘徊はまで通り、僧侶と姦通の女に 4日に続く
1835年	8月1日	天保6年	7月7日	晴	
1835年	8月2日	天保6年	7月8日	曇	
1835年	8月3日	天保6年	7月9日	曇	午の刻過ぎ小雨降 則刻止 亥の刻過ぎより雨降
1835年	8月4日	天保6年	7月10日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止 (一昨年他散した領内の男女6人を江戸表で御養いの上此の度御国下がり)
1835年	8月5日	天保6年	7月11日	曇	未の刻過ぎより雨降 夜二入 (神明宮で風雨順時の御神楽)
1835年	8月6日	天保6年	7月12日	曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 夜二入 巳の刻頃地震少し (人事異動、岩木川出水・駒越渡場今日九つ半より両船とも往来差留める、頃日天気不勝・護穀神で重御祈禱を仰せ付ける)
1835年	8月7日	天保6年	7月13日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入 (頃日天気不勝に付き護穀神並びに住吉宮で風雨順時五穀成就の重御祈禱を仰せ付けられる)
1835年	8月8日	天保6年	7月14日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入 (一昨12日の雨にて藤崎川9歩半の出水・仮橋流失人馬往来差止め・昨13日朝より落水に付き長船を持って歩行だけ往来させる)
1835年	8月9日	天保6年	7月15日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 夜二入 (頃日天気不勝に付き丹後者詮索・見当てれば送り返し触れ)
1835年	8月10日	天保6年	7月16日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 夜二入 下から続く 20日迄踊らせるよう申し出・そのように仰せ付ける)
1835年	8月11日	天保6年	7月17日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止 (岩木川出水にて今朝六時過ぎより両船とも往来差留める・今九時より長船通路に成る、天気不正で盆踊りなしは人気も相塞がり候間 上に続く
1835年	8月12日	天保6年	7月18日	曇	(頃日雨天積にて薄暑に相成る・明19日五穀神で御神楽)
1835年	8月13日	天保6年	7月19日	曇	(御賞)
1835年	8月14日	天保6年	7月20日	晴	(廣銀を使った古懸村の男の屋敷等を妻子に300日牢居追って御片付け・藤崎村の男は家財欠所以下同じ・関係者にも罰)
1835年	8月15日	天保6年	7月21日	晴	(沖合いで拾上げた橋船を半年後に無刻印で乗り回した男達と事務が不適切だった庄屋にそれぞれ過料1貫500文充、大光寺組館田村と尾崎組唐竹村の者共が秣刈り取りでもめ負傷者あり)
1835年	8月16日	天保6年	7月22日	晴	(昨日大鰐村加賀助と兵左衛門より御初米出穂差上げる・5月10日植付72日目で差上げ昨年は4月28日植付60日で差上げる・当年は日数に引合12日遅く節に引合12日遅い)
1835年	8月17日	天保6年	7月23日	快晴	
1835年	8月18日	天保6年	7月24日	晴	
1835年	8月19日	天保6年	7月25日	曇	辰の刻過ぎより雨降 則刻止 (21日の記述の秣場は長峰村領・負傷者の療治済む)
1835年	8月20日	天保6年	7月26日	晴	頃日残暑強し (家内に死に絶えて盗みの男に3鞭町役御引渡・6鞭庄屋引渡し・盗みと偽りが多い男に9鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り)
1835年	8月21日	天保6年	7月27日	晴	(去月14日東蝦夷地シヤマニ場所より3里余沖合いに異国船1艘見える、御賞) 下から続く 見分の者を廻す)
1835年	8月22日	天保6年	7月28日	晴	(当2月金木組小泊村の鰯場行きの佐之助船が松前表で破船・乗合16人全員海死、当江戸御廻船の遠州船が6月19日に鰯ヶ沢を出帆し八戸領鮫ヶ浦で船火事・宮古浦の難船 上に続く
1835年	8月23日	天保6年	7月29日	晴	
1835年	8月24日	天保6年	閏7月1日	曇	未の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム (松前鰯場行に不埒ありとして2人が罰せられている、鳴沢銀山?)
1835年	8月25日	天保6年	閏7月2日	曇	(江戸に送る米価1俵45文目立・江戸の米相場は春より2割下がっている)
1835年	8月26日	天保6年	閏7月3日	曇	未の小刻過ぎより雨時々降 酉の刻頃止 下から続く (北上川?)橋などの大橋が大鉢落損・水死人も数人との報)
1835年	8月27日	天保6年	閏7月4日	曇	(去月13日頃より南部表天気不正・五戸辺りより三戸在で大洪水・福岡大橋が落ち龍願寺に1丈余も水上がる・盛岡沼宮内洪民八戸辺りより田畑水損・森岡夕顔瀬橋北神川 上に続く
1835年	8月28日	天保6年	閏7月5日	曇	卯の刻頃雨降 則刻止ム 申の刻頃雨降 即刻止ム (一昨3日夜増館組目鹿沢村で蚊屋より出火・建家等焼失・火元高無居村預け、今別町の今年の昆布の生立悪く雨天で干せない)
1835年	8月29日	天保6年	閏7月6日	曇	戌の刻過ぎより雨降
1835年	8月30日	天保6年	閏7月7日	曇	昨夜より雨今日ニ及 午の刻過ぎ止ム
1835年	8月31日	天保6年	閏7月8日	曇	申の刻過ぎ雨降 則刻止ム (去月10日瀬戸子村沖に洞懸中の不審船・漁船で引き連れ前浜につなぎ船中を改めようとしたら碇を切って出帆逃亡・漁船では追いつけない)

1835年	9月1日	天保6年	閏7月9日	曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (東長町支配の盲女鍼匠すみ祢が御家中に貸し付けた錢を冥加に差上げたいと申し出る・生涯2人扶持を下し置かれる)
1835年	9月2日	天保6年	閏7月10日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム 午の刻雨降 則刻止ム (積荷の抜米事件が多い)
1835年	9月3日	天保6年	閏7月11日	曇	午の刻過ぎ雷雨 則刻止ム (江戸で人事異動)
1835年	9月4日	天保6年	閏7月12日	曇	(来る15日御初米を差上げたいとの申し出であり) 下から続く 8分4文に仰せ付ける)
1835年	9月5日	天保6年	閏7月13日	晴	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止ム 下から続く までの30日平均で4斗入り1俵48文目6分に相当し水油1升が8文目7分4厘6毛に相当・1升を8文目7分1合売りは 上に続く
1835年	9月6日	天保6年	閏7月14日	晴	(例年新酒仕込の時節・古酒が不捌ぎで持ち越し多い、当年里漆山漆の実が多い) 下から続く 用人奥瀬和次郎が一学と改名、当新菜種相場6月20日より去月19日 上に続く
1835年	9月7日	天保6年	閏7月15日	晴	(今日大鰐組御代官より御初米差上・5月10日植付7月11日に鎌入日数91日・去年は4月28日植付7月15日鎌入日数76日・当年は15日遅く節に引合17日遅い、人事異動、 上に続く
1835年	9月8日	天保6年	閏7月16日	晴	
1835年	9月9日	天保6年	閏7月17日	快晴	
1835年	9月10日	天保6年	閏7月18日	快晴	(成沢銅山?)
1835年	9月11日	天保6年	閏7月19日	快晴	今晩寅の刻頃地震少し 頃日残暑強し (護穀神並びに住吉宮で五穀成就の御祈禱を仰せ付けられる)
1835年	9月12日	天保6年	閏7月20日	曇	卯の刻頃より雨時々降 巳の刻過ぎ止ム 今晩寅の刻頃地震少し (小売搗米(つきこめ:白米)錢1文目に付き1升3合充だった・頃日米値段少々引下り今日より1升3合5タ充に申し付ける)
1835年	9月13日	天保6年	閏7月21日	曇	
1835年	9月14日	天保6年	閏7月22日	曇	昨夜風強し 今晩寅の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止 (在方のクレームで米値段を今日より1升2合充に売払い申付ける、頃日天気不正・24日に神明宮で五穀成就の御祈禱を申し付ける)
1835年	9月15日	天保6年	閏7月23日	曇	午の刻頃雨降 則刻止ム
1835年	9月16日	天保6年	閏7月24日	晴	今晩寅の刻過ぎ雨降 則刻止ム 酉の刻頃雨降 即刻止ム (大坂御廻船7艘が深浦に入津・滞船・作舩が定まっていないから出せない)
1835年	9月17日	天保6年	閏7月25日	晴	今晩寅の刻頃雨降 則刻止ム (明日より1文目に付き白米1升1合充にする、黒石の飛脚1人が落馬・残る1人は落馬した男が着いても未着・前田屋敷村あたりの堰で黒石飛脚羽織拾う)
1835年	9月18日	天保6年	閏7月26日	晴	
1835年	9月19日	天保6年	閏7月27日	曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入
1835年	9月20日	天保6年	閏7月28日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎ雨降 則刻止ム (間道を米を運んでいた男の米取上げ押込30日・野内御閑所で米小豆等を取押えられた男の米御取上げ小豆等は返す)
1835年	9月21日	天保6年	閏7月29日	晴	(今日より1文目に付き白米1升充売払うよう仰せ付ける、過伐の村々に過伐の分御取り上げ過料錢1貫615文・関係庄屋4人にも過料1貫200文充)
1835年	9月22日	天保6年	8月1日	曇	辰の刻頃より雨時々降 未の刻過ぎ止ム (当月22日小泊湊で日之丸御印船が破船、……御用長屋並びに追手先御長屋御手入……、利息2歩半以上が不法等の記事)
1835年	9月23日	天保6年	8月2日	晴	
1835年	9月24日	天保6年	8月3日	晴	(この度作舩)見分を山上才助等に仰せ付ける)
1835年	9月25日	天保6年	8月4日	曇	辰の刻過ぎより小雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1835年	9月26日	天保6年	8月5日	晴	辰の刻過ぎ地震少し (石渡御蔵奉行?に山上才助)
1835年	9月27日	天保6年	8月6日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1835年	9月28日	天保6年	8月7日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (駒越組中畑村で出火・類焼とも3軒焼失・火元高無)
1835年	9月29日	天保6年	8月8日	曇	昨夜より雨 今日におよび時々降 夜二入
1835年	9月30日	天保6年	8月9日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 巳の刻過ぎ止ム (永々滞船で米を積めず材木をつまされて不満が出ている:運賃が少ないのかな?)
1835年	10月1日	天保6年	8月10日	快晴	(人事異動、屋形様全快なら来月御初駕)
1835年	10月2日	天保6年	8月11日	快晴	
1835年	10月3日	天保6年	8月12日	晴	
1835年	10月4日	天保6年	8月13日	曇	今晩寅の刻頃より雷雨 則刻雷止ム 雨卯の刻頃止ム
1835年	10月5日	天保6年	8月14日	曇	
1835年	10月6日	天保6年	8月15日	晴	(去る12月広須組出野里上崎両村で時疫・施薬・全快・薬内容なども、去る11日夜赤石組目内崎村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1835年	10月7日	天保6年	8月16日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 申の刻過ぎより雷鳴 戌の刻過ぎ止ム
1835年	10月8日	天保6年	8月17日	曇	昨夜より雨今晩寅の刻頃止ム 辰の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎ霰降(曇 昨夜より雨今晩寅刻頃止ム辰刻過ぎより雨降未刻過ぎ止ム巳刻過ぎ霰降)
1835年	10月9日	天保6年	8月18日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (当年三国屋某大津屋某仕込の味噌錢10文目に目形6貫目値段で御家中等の望みの者に売貸・量は制限している、一昨16日夜九つ頃 欄外(*)に続く
1835年	10月10日	天保6年	8月19日	晴	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止ム 未の刻過ぎ止ム (森岡山城を家老に等の人事異動、一橋家から鷹を所望されている、津軽屋三平のこれまでの 欄外(**)に続く
1835年	10月11日	天保6年	8月20日	曇	(山漆5斗入り1俵に付代錢17文目1分実メ同二付代錢17文目・里漆実前同様……)
1835年	10月12日	天保6年	8月21日	晴	戌の刻過ぎより雨降 (田舎館組畑中村の川原で流死の男・先月25日記述の黒石に向かう飛脚であった)
1835年	10月13日	天保6年	8月22日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム (この節米値段引き下げ・古米1俵が32文目・町々小売米1文目に付1升充に売払を昨日より1升5タ宛にする)
1835年	10月14日	天保6年	8月23日	晴	酉の刻過ぎより雷雨 戌の刻過ぎ止ム
1835年	10月15日	天保6年	8月24日	晴	酉の刻過ぎ雨降 則刻止ム (去る10日暁古懸村で出火・類焼1軒・火元国上寺役人他村預け、一昨日夜藤代組石渡村で重傷を負わせた男を召捕る)
1835年	10月16日	天保6年	8月25日	曇	今晩寅の刻頃雨降 則刻(曇今晩寅刻頃雨降則刻) (一昨23日広須組永田村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1835年	10月17日	天保6年	8月26日	曇	申の刻頃より雷雨 則刻雷止 雨医の刻過ぎ止ム 下から続く 建家等焼失・火元高無居村預け)
1835年	10月18日	天保6年	8月27日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム 申の刻頃より雨降 夜二入 (漆の実と偽り米を運んだ男の米取上げ馬返し過料1貫200文、去る24日暮赤石組一ツ森村で出火・ 上に続く
1835年	10月19日	天保6年	8月28日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム 今朝岩木山2雪見ゆる 酉の刻過ぎ雷雨 雷則刻止 雨時々降 (16日鯉ヶ沢町火災の慎み免許、当年不作)
1835年	10月20日	天保6年	8月29日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 申の刻過ぎ止ム (莫大の金子を差上げた津軽屋三平に200石加増都合700石を永々子々孫々に至る迄安堵)
1835年	10月21日	天保6年	8月30日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入 (町々小売米錢1文目に付1升5タを1升1合充にする、津軽屋の手代支配人に御手当金5両を下し置かれる、初鮭2尺高岡江御献備)
1835年	10月22日	天保6年	9月1日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過ぎ止ム 午の刻頃雷鳴 則刻止ム 戌の刻過ぎより雨時々降
1835年	10月23日	天保6年	9月2日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 午の刻過ぎ止ム
1835年	10月24日	天保6年	9月3日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入 未の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム
1835年	10月25日	天保6年	9月4日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 夜二入
1835年	10月26日	天保6年	9月5日	曇	昨夜より雨今晩寅の刻頃止 (丹後者の詮索送り返しの触れ)
1835年	10月27日	天保6年	9月6日	曇	戌の刻頃より雨降
1835年	10月28日	天保6年	9月7日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (去る21日多田三左衛門が病死)
1835年	10月29日	天保6年	9月8日	晴	亥の刻過ぎより雨降 (飼葉と偽り隠し米輸送の男の米取上げ馬返し過料1貫200文、当年は八幡宮に神輿御止め来月15日に御宮で重御神楽を仰せ付ける)
1835年	10月30日	天保6年	9月9日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 未の刻過ぎ止ム (牧野左次郎を大目付に等の人事異動)
1835年	10月31日	天保6年	9月10日	曇	亥の刻過ぎより雨降

(*)鯉ヶ沢新町で出火・西風烈しく類焼潰家共8軒焼失・火元慎み)

(**)御用立て金が12万7569両余・これを永久に差上げたいとの申し出で、当作舩不熟の様子・買越米の手配をする)

1835年	11月1日	天保6年	9月11日 曇	昨夜より雨今晩寅の刻過ぎ止 辰の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止 (尾崎組の検見人に山上才助等)
1835年	11月2日	天保6年	9月12日 晴	戌の刻頃雨降 則刻止ム
1835年	11月3日	天保6年	9月13日 曇	
1835年	11月4日	天保6年	9月14日 曇	
1835年	11月5日	天保6年	9月15日 曇	戌の刻頃より雨降
1835年	11月6日	天保6年	9月16日 晴	昨夜より雨今晩寅の刻頃止ム (秋田者の手引きで米2俵を早瀬野間道口で渡した男に15鞭居村徘徊はまで通り)
1835年	11月7日	天保6年	9月17日 晴	(当作鉢格別劣作) 下から続く 御取り上げ馬返し過料1貫200文充)
1835年	11月8日	天保6年	9月18日 晴	(秋田者に米等を渡した広須組再賀村の男に過料1貫200文・その米稗を背負い間道を忍び通った秋田の男の品御取り上げ碇ヶ関送り出し、梨子類として隠し米の男共も米 上に続く
1835年	11月9日	天保6年	9月19日 晴	(去る8日夜八時頃久栗坂村で出火・船道具の小屋焼く、5月12日に喧嘩の駒越町の男2人に戸 へ)
1835年	11月10日	天保6年	9月20日 晴	
1835年	11月11日	天保6年	9月21日 曇	戌の刻頃より雨降
1835年	11月12日	天保6年	9月22日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止
1835年	11月13日	天保6年	9月23日 晴	(盗みの男に3鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り)
1835年	11月14日	天保6年	9月24日 曇	午の刻頃雨降 則刻止ム (7月7日に十三町の寺から盗みの僧を送り返す)
1835年	11月15日	天保6年	9月25日 曇	戌の刻頃雨降 則刻止 (去る21日夜四半時平館湊で出火・風激しく建家15軒御番所1ヶ所漁船1艘等焼失・10月7日の記述で火元他村預け)
1835年	11月16日	天保6年	9月26日 曇	
1835年	11月17日	天保6年	9月27日 晴	(去る18日夕七時頃広須組楽田村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け)
1835年	11月18日	天保6年	9月28日 曇	戌の刻過ぎより雨降 (嵩の硫黄が漸く目方17貫220目しか穿出せない・この後10年くらい休むことにしたのか?、一粒金丹3剤の調合を命ずる)
1835年	11月19日	天保6年	9月29日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 辰の刻過ぎ止ム
1835年	11月20日	天保6年	10月1日 晴	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止
1835年	11月21日	天保6年	10月2日 晴	
1835年	11月22日	天保6年	10月3日 曇	午の刻頃より雨降 夜に入 下から続く 稲乳に出火・火元慎み)
1835年	11月23日	天保6年	10月4日 曇	昨夜より之雨今日に及 午の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨今日に及午刻過止) (去月25日夜猿賀組尾上村で出火・類焼23軒・火元他村預け、去月28日晩青森上新町で背戸 上に続く
1835年	11月24日	天保6年	10月5日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積る (今日初雪に候えども御留守に付御機嫌伺いなし、御買 へ米を冥加のため差上げたいとの記録があるが「御買 へ米」とは何だ)
1835年	11月25日	天保6年	10月6日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降
1835年	11月26日	天保6年	10月7日 曇	今日霰降
1835年	11月27日	天保6年	10月8日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃止 (別役役に手段米を取押えられて押込・戸 へ)
1835年	11月28日	天保6年	10月9日 晴	(去る朔日広須組繁田村で出火・建家土蔵建馬稲乳焼失、当年不熟作・濁酒仕込みを嚴重に御差留める、去月17日夜赤石村の錠前破りの人相書き:22・3歳位・せい5尺2寸位等々)
1835年	11月29日	天保6年	10月10日 晴	
1835年	11月30日	天保6年	10月11日 晴	
1835年	12月1日	天保6年	10月12日 晴	戌の刻過ぎより雨降 (当昨鉢格別劣作・来出穀まで指図なしの津出差留め)
1835年	12月2日	天保6年	10月13日 曇	昨夜より之雨今日に及 巳の刻過ぎに止ム(曇 昨夜より之雨今日に及巳刻過に止ム)
1835年	12月3日	天保6年	10月14日 曇	(去る9日夜駒越組藤川村で出火・建家建馬1疋雑穀等焼失・火元高無居村預け) 下から続く 御米1俵充下し置かれる)
1835年	12月4日	天保6年	10月15日 曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (昨14日夕和徳町で出火・早速取鎮める・火元慎み、松前箱館で糧米手に入らず鰯ヶ沢で1俵56文目立てで御払い、平館村の焼失10軒に 上に続く
1835年	12月5日	天保6年	10月16日 曇	申の刻頃より雨降 夜に入
1835年	12月6日	天保6年	10月17日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻頃止 巳の刻過ぎ雨降 即刻止ム (尾崎組大坊村の鳥取りが生鶴1羽上納・代銭50目下し置かれる)
1835年	12月7日	天保6年	10月18日 晴	(土手町橋下土淵川添に赤子の死骸)
1835年	12月8日	天保6年	10月19日 曇	巳の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 (去月15日兼松図書を御用人にとの人事異動、真字式歩判通用停止・新規100文銭通用、御賞)
1835年	12月9日	天保6年	10月20日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1835年	12月10日	天保6年	10月21日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (当年の御收藏高この節御検見引き相究候に付取調べ候所9万石程に御減石にて4歩通りの御收藏)
1835年	12月11日	天保6年	10月22日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (去る18日夜藤崎村で出火・類焼とも3軒雑穀稲草建馬等焼失・稲草の分は役筋が見分、一昨19日夜堀越組大清水村で出火・建家焼失・火元借宅居村預け)
1835年	12月12日	天保6年	10月23日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (……昨年は未曾有の豊熟……1000石以上6歩・30石以下3歩通りの歩引を仰せ付ける、飛脚下り中の大組足輕が出奔・御給分召上げ家財欠所)
1835年	12月13日	天保6年	10月24日 曇	戌の刻過ぎより雨降 下から続く 場合灯台)を去年御取建・鰯ヶ沢深浦と同様?客船水主1人に付常燈料10文充上納させる?、買締米という用語、11日に高倉主税を御用人兼帯とする)
1835年	12月14日	天保6年	10月25日 曇	昨夜より之雨今日におよび未の刻過ぎ止 辰の刻頃雷鳴 即刻過ぎ止 (去る22日昼四時頃高杉村で出火・建家馬等焼失・火元高無居村預け、青森湊の常燈(じょうとう:この 上に続く
1835年	12月15日	天保6年	10月26日 晴	昨夜風強し 雪降 一寸程積 (去月23日赤石組松原村の獵師が1人で熊取る・酒代鳥目800文を下し置かれる) 下から続く 1俵28文目御払い仰せ付けられ……)
1835年	12月16日	天保6年	10月27日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止 (当年劣作に付造酒御差留め・青森町村林某等に例外的に認める・米1俵60目値段で賃付、湯野沢銀山……この節米価下値にて 上に続く
1835年	12月17日	天保6年	10月28日 晴	(人事異動)
1835年	12月18日	天保6年	10月29日 曇	未の刻頃より雨時々降 戌の刻過ぎ止ム (御買 へ米を冥加として差上げたいとの申し出・聞き届けている)
1835年	12月19日	天保6年	10月30日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (俵子金給に付いた扶持で3人扶持以上は3歩引きそれ以下は御用捨)
1835年	12月20日	天保6年	11月1日 曇	昨夜雪少し降 卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1835年	12月21日	天保6年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (江戸勤番中盗みの男の御給分召上げ永の暇当分入牢)
1835年	12月22日	天保6年	11月3日 曇	今日雪少降 下から続く 水油1升が9文目7厘9毛に相当・1升を8文目7分値段に申し付ける)
1835年	12月23日	天保6年	11月4日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一尺程積 (藩内13軒に酒造を認めたが他の酒屋から不平、粒油出盛り去月15日より当月15日まで日数30日付相場平均から計算すると 上に続く
1835年	12月24日	天保6年	11月5日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (一昨年の凶作時に米買い入れに尽力の竹谷某にも造酒を認める)
1835年	12月25日	天保6年	11月6日 曇	昨夜雪降 二寸程積
1835年	12月26日	天保6年	11月7日 晴	(嵩に湯治中に博打の松前男を勝金御取上げ三厩湊口送り返す)
1835年	12月27日	天保6年	11月8日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積 下から続く 朝まで氷張る・去年に引合23日早く節に引合4日早い、揚屋に品物を持込ませた町同心の勤料10俵召上げ長柄の者に役下げ)
1835年	12月28日	天保6年	11月9日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積 (当月2日明け六つ時頃より翌3日暮六時頃まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月25日暮れ頃より翌26日 上に続く
1835年	12月29日	天保6年	11月10日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 頃日寒強し
1835年	12月30日	天保6年	11月11日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積
1835年	12月31日	天保6年	11月12日 曇	昨夜雪降 五寸程積

1836年	1月1日	天保6年	11月13日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1836年	1月2日	天保6年	11月14日	曇	(これまで代官には御賄が居勤1日2升充廻郷1日3升充を下し置かれていた・居勤御賄を3歩引きとする、昨15日初鰯2本を高岡に御献備)
1836年	1月3日	天保6年	11月15日	曇	今日雪少し降
1836年	1月4日	天保6年	11月16日	曇	今日雪降 三寸程積
1836年	1月5日	天保6年	11月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る5日までに十三町の前後の潟が残らず氷張る)
1836年	1月6日	天保6年	11月18日	曇	今日雪降 三寸程積 酉の七刻寒に入
1836年	1月7日	天保6年	11月19日	曇	昨夜吹雪強し 雪五寸程積ル 今日雪降 四寸程積ル (来る8日笠原近江が御国表に立帰る)
1836年	1月8日	天保6年	11月20日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 三寸程積 (堀五郎左衛門を御城代にとの人事異動、西蝦夷地ヒクニ(美国?)場所で小泊村の船員が中里村の船員に手傷を負わせ死亡させる)
1836年	1月9日	天保6年	11月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 下から続く 12日後潟組元宇鉄村の漁師3人が帰帆しない)
1836年	1月10日	天保6年	11月22日	曇	昨夜雪少降 (去る13日夜油川組安田村で出火・家財穀物等焼失・火元百姓居村預け、去る14日朝木造新田館岡村で出火・建家等焼失馬1疋焼斃・火元高無居村預け、去る 上に続く
1836年	1月11日	天保6年	11月23日	曇	今日雪降 三寸程積ル
1836年	1月12日	天保6年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積
1836年	1月13日	天保6年	11月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (酒を造らせるとの申し出・隠造者多い・酒造道具封印の確認役を派遣する)
1836年	1月14日	天保6年	11月26日	晴	頃日寒強し
1836年	1月15日	天保6年	11月27日	曇	
1836年	1月16日	天保6年	11月28日	晴	昨夜雪少し降 (昨夜四時頃品川町で出火)
1836年	1月17日	天保6年	11月29日	曇	今日雪降 二寸程積
1836年	1月18日	天保6年	12月1日	曇	昨夜雪少し降 (御賞(銀5両・4両・鳥目1貫文・600文))
1836年	1月19日	天保6年	12月2日	曇	
1836年	1月20日	天保6年	12月3日	曇	今日雪少し降 頃日寒強し 下から続く を贈った代庄屋に過料1貫800文、一粒金丹有り合わせ不足・3劑差らせる)
1836年	1月21日	天保6年	12月4日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 戌の刻頃地震強し (去月16日津軽因幡が御家老職・奥瀬一学古川忠左衛門を御用人に等の人事異動、無刻印木の詮議に賄賂 上に続く
1836年	1月22日	天保6年	12月5日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今暁丑の刻頃地震少し 下から続く 徘徊はまで通り、南部者と夫婦になった親類の娘を屋敷内に借宅させて過料銭1貫200文・五人組庄屋にも過料銭600文充)
1836年	1月23日	天保6年	12月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (隣家の後家を鳶口で打擲の男に9鞭居村徘徊はまで通り、盗賊を止宿盗品を貰った男に3鞭家元引渡し、沢山乱暴した男に3鞭居村 上に続く
1836年	1月24日	天保6年	12月7日	曇	今日雪少し降 (人事異動、森山村狛師清蔵・久田村丑・松神村小又鬼喜八・正道尻村助四郎が3月に狩取った熊1疋を隠置・何れも松前表に罷越している・庄屋2人に過料銭1貫200文充)
1836年	1月25日	天保6年	12月8日	曇	昨夜吹雪強し 雪五寸程積 今日雪降 三寸程積 (金木組同新田村々当田畑作鉢の儀は一円皆無にて去々巳年同様に付……)
1836年	1月26日	天保6年	12月9日	晴	(秋田角之館(角館?)の男が村送りに油川組鶴ヶ坂村で病死)
1836年	1月27日	天保6年	12月10日	曇	巳の刻頃より雨降 戌の刻過ぎ止
1836年	1月28日	天保6年	12月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1836年	1月29日	天保6年	12月12日	曇	今日雪少し降 (造酒願・断る)
1836年	1月30日	天保6年	12月13日	曇	
1836年	1月31日	天保6年	12月14日	曇	(鳳松院等が女を連れ込んでいる)
1836年	2月1日	天保6年	12月15日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1836年	2月2日	天保6年	12月16日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (乱暴者に6鞭居町徘徊はまで通り)
1836年	2月3日	天保6年	12月17日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積
1836年	2月4日	天保6年	12月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1836年	2月5日	天保6年	12月19日	曇	(金貨しの乱暴な取立て屋3人を預け、今別町奉行と多くの代官が当作鉢不熟として御本山より伐り取で窮民救い願・木の値段などがあるが判らない)
1836年	2月6日	天保6年	12月20日	曇	(人事異動)
1836年	2月7日	天保6年	12月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (去々月28日早瀬野村別段役取押えの秋田者を取逃がした宿と番人の3人に過料銭1貫200文充) 下から続く 受取対策、盗人に3鞭弘前払い)
1836年	2月8日	天保6年	12月22日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降 (無刻印の木を買った大工に戸ノ20日・売った男に過料(30日以内に納める罰金)銭1貫500文) 下から続く 、松前地の緋取殺人の 上に続く
1836年	2月9日	天保6年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日吹雪強し 雪三寸程積 (無刻印の柁木舞を取扱った男に過料銭900文、密造酒を造っていた3軒の酒(3籌・2籌・新酒4尺桶2本元造3尺桶3本)御取上げ押込 上に続く
1836年	2月10日	天保6年	12月24日	曇	頃日寒強し (……湯野沢出銀付添い登り……、度々寺院に不法を持ちかけた町同心を掃除小人に役下げ)
1836年	2月11日	天保6年	12月25日	曇	今日雪降 三寸程積
1836年	2月12日	天保6年	12月26日	曇	卯の刻過ぎ地震少し 今日雪降 二寸程積 (早瀬野間道で盗賊の頭に18鞭居村払い) 下から続く 盗まれた男3人に過料900文充)
1836年	2月13日	天保6年	12月27日	晴	(2月4日和徳町で乱暴の男に戸ノ20日、酒の元造の酒を御取上げ戸ノ15日、輸送中の米を投げ捨てて逃げた例が沢山、僧と後家の悲恋?罰せられている、去月13日預り馬を 上に続く
1836年	2月14日	天保6年	12月28日	晴	今暁寅の刻過ぎ地震少し (去月18日油川村の漁船が行方不明・南部横浜領吹越村に流れ着く・2人死亡)
1836年	2月15日	天保6年	12月29日	晴	(酒1升を2文目6分5厘値段に仰せ付けられる、赤石組御代官申し出により極究の者共の救い方として木を伐らせる)
1836年	2月16日	天保6年	12月30日	曇	今日雪降 五寸程積る (去る21日後潟組宇鉄村で出火・居宅等焼失・火元居村預け)
1836年	2月17日	天保7年	正月1日	曇	昨夜雪降 一尺三寸程積 今日雪降 一尺五寸程積る (古懸不動尊御出汗・前々の通り御神楽等を仰せ付ける)
1836年	2月18日	天保7年	正月2日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 五寸程積
1836年	2月19日	天保7年	正月3日	晴	(御金奉行が御吉例金を差し出す)
1836年	2月20日	天保7年	正月4日	晴	
1836年	2月21日	天保7年	正月5日	晴	
1836年	2月22日	天保7年	正月6日	曇	
1836年	2月23日	天保7年	正月7日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪少し降 (七種の御祝儀、一昨5日増館組水木村で出火・建家馬屋馬1疋等焼失・火元百姓居村預け)
1836年	2月24日	天保7年	正月8日	曇	昨夜雪少降
1836年	2月25日	天保7年	正月9日	晴	
1836年	2月26日	天保7年	正月10日	曇	午の刻過ぎ雨降 則刻止 今日雪少降
1836年	2月27日	天保7年	正月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 五寸程積
1836年	2月28日	天保7年	正月12日	晴	昨夜雪少降
1836年	2月29日	天保7年	正月13日	曇	巳の刻過ぎ雨降 則刻止

1836年	3月1日	天保7年	正月14日	曇	
1836年	3月2日	天保7年	正月15日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 五寸程積 (三馬屋領算用師に加州(この場合加賀・カナダではない)船漂着、盗杣・無刻印の木が多いらしい)
1836年	3月3日	天保7年	正月16日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 五寸程積
1836年	3月4日	天保7年	正月17日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積
1836年	3月5日	天保7年	正月18日	曇	昨夜雪少降
1836年	3月6日	天保7年	正月19日	曇	今日雪降 五寸程積
1836年	3月7日	天保7年	正月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (昨年12月3日戸沢新左衛門を大寄合格御用人手伝にとの人事異動、御領分当羊年氣候不順二付実不宜・御収蔵に至り6分3厘の御損耗)
1836年	3月8日	天保7年	正月21日	曇	戌の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止
1836年	3月9日	天保7年	正月22日	曇	昨夜吹雪強し 雪二寸程積 今日雪少降
1836年	3月10日	天保7年	正月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1836年	3月11日	天保7年	正月24日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (去る21日夜八つ頃広田組平井村で出火・居宅焼失・火元高無居村預け)
1836年	3月12日	天保7年	正月25日	晴	
1836年	3月13日	天保7年	正月26日	曇	今日雪少降
1836年	3月14日	天保7年	正月27日	晴	
1836年	3月15日	天保7年	正月28日	曇	
1836年	3月16日	天保7年	正月29日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積
1836年	3月17日	天保7年	2月1日	曇	昨夜雪少降
1836年	3月18日	天保7年	2月2日	晴	(町奉行所等への盗み・預け中両度の逃げ去り・野内間道忍び通り・立ち戻り盗みの男に21鞭三里四方追放居町御構)
1836年	3月19日	天保7年	2月3日	曇	申の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止ム 下から続く 悪路の節過分廻郷致しの節正民の姿ニ紛らわせ殊に御仕置者ありの節正民……:11ページにわたる乞食の生活?の記述)
1836年	3月20日	天保7年	2月4日	晴	(去る9月隠津出の疑いのある阿弥陀川村庄屋等を取逃がした6人に過料1貫200文充、乞食共首懸袋は染布木綿を用い十手取縄を帯シ朔望には手当ての多少を寝徒(強請?) 上に続く
1836年	3月21日	天保7年	2月5日	晴	((よく分からないが)米1俵40目値段で渡し残り米は22文目立にて渡し方仰せ付けられる)
1836年	3月22日	天保7年	2月6日	晴	
1836年	3月23日	天保7年	2月7日	曇	(去る朔日夜油川村で出火・建家外馬屋等焼失・火元他村預け(そんなのないはず))
1836年	3月24日	天保7年	2月8日	曇	
1836年	3月25日	天保7年	2月9日	晴	
1836年	3月26日	天保7年	2月10日	晴	申の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止 (今朝松森町の小屋焼失・火元入寺の上慎み・この家主は戸メ)
1836年	3月27日	天保7年	2月11日	晴	
1836年	3月28日	天保7年	2月12日	曇	申の刻頃より雨降 夜に入 下から続く 買い・打ち殺し多数が過料等の罰・御容赦もある)
1836年	3月29日	天保7年	2月13日	曇	昨夜より雨今日におよひ時々降 午の刻頃止ム 未の刻地震少し (一昨日の年12月に自分の建馬を打ち殺し食料にした千代田村の男に9鞭居村徘徊はまで通り・馬を盗み・ 上に続く
1836年	3月30日	天保7年	2月14日	晴	(松前で鮭漁の男を傷害の者を連行して担当が去る9日蝦夷地出帆・同日三旣着)
1836年	3月31日	天保7年	2月15日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜に入 (去る5日喧嘩傷害の髪結い男に12鞭居町徘徊はまで通り・関係者にも罰) 下から続く 、乱暴を制止しなかった庄屋等にも罰)
1836年	4月1日	天保7年	2月16日	曇	昨夜より雨今日におよひ時々降 午の刻頃止 昨夜風強し (三之御丸西坂御門左右柵立等に風被害、去る9月国上寺門前の百姓宅で乱暴の男に6鞭と3鞭居村徘徊はまで通り 上に続く
1836年	4月2日	天保7年	2月17日	晴	
1836年	4月3日	天保7年	2月18日	晴	(松前で鮭漁の男に傷害致死の男7人が引き取られ揚り屋入り) 下から続く 洪水で流失の鷹匠町五十石町境橋を石橋に出来)
1836年	4月4日	天保7年	2月19日	曇	卯の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム 今日雪少し降 下から続く 3月12日暮より翌13日朝迄残らず氷明ける・当年は日数に引合27日早く節に引合11日早い、先年 上に続く
1836年	4月5日	天保7年	2月20日	曇	昨夜風強し 雪少し降 今日風強し 雪少し降 戌の刻頃雨降 即刻止ム (当月15日暮れ六時頃より翌16日朝迄十三湯の大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は 上に続く
1836年	4月6日	天保7年	2月21日	曇	昨夜雪少し降 今日風強し 霰降
1836年	4月7日	天保7年	2月22日	曇	(一昨20日夜猿賀組下浅瀬石村で出火・類焼1軒小屋も焼失・火元他村預け、当正月4日本町で女房が井戸に落ち死亡(相当の訳あり)、両都御廻船の上乗り36人下乗り36人を仰付ける)
1836年	4月8日	天保7年	2月23日	曇	昨夜風強し 即刻頃より雨時々降 夜に入 今日風強し (錫1箇を盗み取った男に3鞭弘前御構いの上居村徘徊はまで通り) 下から続く 去る3月川船に米21俵 欄外(*)に続く
1836年	4月9日	天保7年	2月24日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止ム (隠し商売の男2人に品物御取上げの上過料100目と50目・関係者にも罰、岩木川出水・今七時半より駒越渡し場の両船とも往来差留める、 上に続く
1836年	4月10日	天保7年	2月25日	晴	(昨夜御家中宅出火・残らず焼失)
1836年	4月11日	天保7年	2月26日	晴	
1836年	4月12日	天保7年	2月27日	晴	
1836年	4月13日	天保7年	2月28日	曇	
1836年	4月14日	天保7年	2月29日	晴	(去る20日昼九時半頃浦町組荒川村で出火・類焼とも2軒焼失・火元百姓他村預け、一昨夜八時頃藤代組町田村で出火・建家等焼失・火元居村預け、去る26日夜九時過ぎ松森町で小火)
1836年	4月15日	天保7年	2月30日	曇	卯の刻過ぎより雨降 夜に入
1836年	4月16日	天保7年	3月1日	曇	昨夜より雨今日に及ぶ 酉の刻過ぎ止 昨夜風強し
1836年	4月17日	天保7年	3月2日	曇	卯の刻頃より雨時々降 去るの刻過ぎ止
1836年	4月18日	天保7年	3月3日	晴	(柏木館山野火入りの節に関する御賞、去る朔日夜油川村で出火・類焼とも4軒焼失・御救い米(1軒に1俵充)種粃を渡す)
1836年	4月19日	天保7年	3月4日	曇	卯の刻頃より雨降 申の刻過ぎ止 (去る28日夜板柳村で出火・建家1軒焼失・(7日の記述で)居村預け)
1836年	4月20日	天保7年	3月5日	曇	(丹後者詮索・送り返しの御目付触れ) 下から続く 入れず乱暴の男に9鞭居村徘徊はまで通り)
1836年	4月21日	天保7年	3月6日	曇	今晚寅の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止 (神明宮・八幡宮・護穀神・下居宮・住吉宮並びに四社に五穀成就風雨順時の御祈禱を仰せ付ける、御代官小使の制動も聞き 上に続く
1836年	4月22日	天保7年	3月7日	晴	
1836年	4月23日	天保7年	3月8日	晴	
1836年	4月24日	天保7年	3月9日	晴	下から続く 逃がしの宿3人に戸メ15日充、無手形米を取押さえられた3人に米御取上げの上過料600文充・こんな例があと3人、去る朔日夜下十川村で出火・建家等焼失・火元庄屋)
1836年	4月25日	天保7年	3月10日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止 (清酒2樽白酒2樽を酢4樽と申し出た船間屋に酒御取上げの上戸メ20日、濁主造込みの濁酒御取り上げの上戸メ30日、囚人取り 上に続く
1836年	4月26日	天保7年	3月11日	曇	
1836年	4月27日	天保7年	3月12日	晴	(左近将監殿より町奉行に川鱒1尺充拝受)
1836年	4月28日	天保7年	3月13日	曇	午の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止 (南部野辺地より御停止品を持込みの男に品物御取上げの上12鞭居村徘徊はまで通り、盗み詐欺御構地立入りの男に6鞭弘前御構い従弟預け)
1836年	4月29日	天保7年	3月14日	曇	未の刻頃より雨時々降 夜二入 (昨夜佐藤民部?今晚も男が牢死)
1836年	4月30日	天保7年	3月15日	曇	昨夜より雨今晚寅の刻過ぎ止 未の刻頃より雨時々降 夜二入 今日風強し

(*)小豆2俵を隠し輸送の男3人に米小豆御取上げの上過料1貫200文充、松前の博打男の宿主に過料1貫200文、国吉村で元庄屋等が茂合銭御救頼に私曲・過料1貫800文等・騒いだ者共あり)

1836年	5月1日	天保7年	3月16日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 時々降 午の刻頃止 昨夜風強し	
1836年	5月2日	天保7年	3月17日 晴	(去る9日屋赤石組岩崎村で出火・類焼1軒・火元他村預け、今別町で板蔵破りの秋田の男2人を入牢)	
1836年	5月3日	天保7年	3月18日 晴	(去る15日夜広田組喰川村で出火・建家等焼失・火元居村預け、明19日護穀神で御神楽)	
1836年	5月4日	天保7年	3月19日 晴	(水油払底で製法魚油1升二付5文目6分・並魚油1升二付4文8分値段(こちらの方は目が付かない文:間違いかも))	
1836年	5月5日	天保7年	3月20日 晴	(去る15日の大風で高杉組十面沢村で潰家から出火・類焼1軒・火元他村預け) 下から続く 12人くらの木品御取上げ過料)	
1836年	5月6日	天保7年	3月21日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 巳の刻頃止 (今21日屋四時頃より岩木嵩硫黄山より出火・今八ッ時鎮火) 下から続く 柏木館野で出火・鎮火、無刻印の材木を取扱の	上に続く
1836年	5月7日	天保7年	3月22日 晴	(小泊脇元下前3ヶ村の鮎場行船44艘が12月20日出帆・残りの2艘(12人と15人乗り)が28日出帆・糶米の件でもめている、大勢(74人)寄合った大工の頭取2人に戸ノ20日充、	上に続く
1836年	5月8日	天保7年	3月23日 晴	25日から続く 重立のほか中家に以上に米12000俵の調達を申し付ける)	
1836年	5月9日	天保7年	3月24日 曇	卯の刻過ぎ雨降 則刻止 未の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (16カ所野火が入って各村に過料・百姓より錢25文宛高無1軒より10文充など・この庄屋五人組にも過料戸ノ等)	
1836年	5月10日	天保7年	3月25日 晴	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止 (寛政年中より一昨年迄の在方貯艚40000俵余村貯も相応の俵数あった・去る巳年(天保4年)の連作で食いつくし昨年の不熟作で米なし・	23日に続く
1836年	5月11日	天保7年	3月26日 晴	下から続く 5軒・火元荒物屋入寺慎、隠し炭焼の炭と木を御取上げの上過料錢90目・庄屋に過料錢600文)	
1836年	5月12日	天保7年	3月27日 晴	(去る20日屋八時頃油川組孫内村で出火・建家等焼失・去る22日屋八ッ時頃横内組小館村で出火・建家外馬屋等焼失・火元共に居村預け) 下から続く 類焼24軒潰屋	上に続く
1836年	5月13日	天保7年	3月28日 曇	卯の刻過ぎ雨降 則刻止 未の刻頃より雨降 戌の刻過ぎ止 下から続く 製魚油1升6文目5分並魚油1升5文目5分値段仰せ付けられる、一昨夜五時過ぎ茂森町で出火・	上に続く
1836年	5月14日	天保7年	3月29日 晴	昨夜風強し 巳の刻過ぎ地震少し (去る11月荷物に米を隠して運んだ男2人の米御取上げ馬は返し過料錢1貫500文充、犯人?を取逃がした名主に戸ノ15日、頃日願ひ出の通り	上に続く
1836年	5月15日	天保7年	4月1日 晴		
1836年	5月16日	天保7年	4月2日 晴	亥の刻過ぎより雨降 (秋田者を預かり逃亡された3人に過料1貫200文宛、濁酒が見つかり過料錢1貫800文等細かいごたごた)	
1836年	5月17日	天保7年	4月3日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ未の刻過ぎ止ム 下から続く 建家外馬屋等焼失・火元居村預け)	
1836年	5月18日	天保7年	4月4日 晴	酉の刻過ぎより雨降 (御目見より御留守居支配の子が雇われて借金取りに?、松前に働きに行く男と米を押える・逃亡されて庄屋が過料錢1貫200文、和徳組撫牛子村で出火・	上に続く
1836年	5月19日	天保7年	4月5日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 申の刻過ぎ止ム	
1836年	5月20日	天保7年	4月6日 曇		
1836年	5月21日	天保7年	4月7日 晴	(諸組村々を對馬・浅井兩人が相廻り中家以上重立共持蔵並びに木部屋等迄相〇(手偏に入か)菜種持ち合わせ御座候えば其儘封印致し其内締油家業の者……)	
1836年	5月22日	天保7年	4月8日 晴		
1836年	5月23日	天保7年	4月9日 晴	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止	
1836年	5月24日	天保7年	4月10日 曇	昨夜風強し 午の刻頃より雨時々降 夜に入 今日風強し (3月26日の火災の際の働きに御賞等、去る7日夜大鰐組駒木村で出火・類焼3軒土蔵外馬屋等焼失・火元他村預け)	
1836年	5月25日	天保7年	4月11日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止ム 昨夜風強し	
1836年	5月26日	天保7年	4月12日 曇	戌の刻過ぎより雨降 (去月29日小泊村領下磯青岩と申す所に鯨が流れ寄せる・尾頭なし)	
1836年	5月27日	天保7年	4月13日 曇	昨夜よりの雨今日に及 未の刻過ぎ止ム	
1836年	5月28日	天保7年	4月14日 晴	(虫で分からない山で居小屋焼失当2月出生の子供2人焼死、去る10日鰺ヶ沢浦で風雨強く浪高になる・都合6艘が浜辺に打上げ・1人海死)	
1836年	5月29日	天保7年	4月15日 晴	(当年江戸表江材木1万石目御登らせ仰せ付けられ候に付き……、在町浦々に調達金(在方3000・弘前町方4000・青森450・鰺ヶ沢200・十三30・深浦20・蟹田20・今別20両)を命ずる)	
1836年	5月30日	天保7年	4月16日 曇		
1836年	5月31日	天保7年	4月17日 晴	(去る10日夜九時頃田野沢村沖に庄内船が破船・海死3人)	
1836年	6月1日	天保7年	4月18日 曇	(昨10日暮六時頃深浦湊で鰺ヶ沢船が破船、昨10日屋八半時頃深浦湊で越前船が破船、10日夜八時頃深浦の大波で常州船が破船)	
1836年	6月2日	天保7年	4月19日 晴	(無手形米輸送の男の御米御取上げ馬は返し戸ノ30日、無手形米輸送の男の御米御取上げ米以外は返し過料錢1貫800文、酒を輸送中の男の御酒御取上げの上過料錢1貫200文)	
1836年	6月3日	天保7年	4月20日 曇	(去る午年御家中借財御引受仰せ付けられ候に付き……、大鰐組駒木村で出火・類焼とも5軒焼失・火元高無・御米1俵宛下し置かれる、去る12日夕七時頃横内組 欄外(*)に続く	
1836年	6月4日	天保7年	4月21日 晴	(当2月17日よる夏井田村前浜で米1俵取押える・飛鳥村庄屋に過料錢600文、野火が入った村・その庄屋に過料)	
1836年	6月5日	天保7年	4月22日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止 (昨晚茂森町住居の芝居役者の女房が自分の娘を突き殺す)	
1836年	6月6日	天保7年	4月23日 曇	今晩寅の刻頃雨降 即刻止ム	
1836年	6月7日	天保7年	4月24日 晴	(去る21日夜四時頃浪岡組柳久保村で出火・建家1軒焼失・火元高無居村預け)	
1836年	6月8日	天保7年	4月25日 曇	午の刻頃より雨降 夜に入 (米穀附け下げの男の小豆1斗5升を御取上げ味噌は御返しの上過料錢1ノ200文(ノという単位は初めて)、隠し米を御取上げ過料錢1貫500文)	
1836年	6月9日	天保7年	4月26日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入	
1836年	6月10日	天保7年	4月27日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ卯の刻過ぎ止ム (去る25日夜金木組藤枝村で出火・建家等焼失・火元居村預け)	
1836年	6月11日	天保7年	4月28日 曇	卯の刻過ぎ雨降 即刻止ム 戌の刻頃より雨降 (去る10日夜金井ヶ沢湊で安宅船が破船・6人中5人が海死)	
1836年	6月12日	天保7年	4月29日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ巳の刻過ぎ止 (蕎麦津出の件4斗入り1俵に付き御役錢5文目を4文目とする)	
1836年	6月13日	天保7年	4月30日 曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止ム	
1836年	6月14日	天保7年	5月1日 晴	(去月15日野上亘を御用人に等の人事異動)	
1836年	6月15日	天保7年	5月2日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止ム (山上弥兵衛に老年まで武芸出精として銀2枚下し置かれる・他にも意味不明の下し置かれ方あり)	
1836年	6月16日	天保7年	5月3日 曇	今晩寅の刻頃雨降 則刻止 巳の刻過ぎより雷鳴 申の刻過ぎ止	
1836年	6月17日	天保7年	5月4日 曇	卯の刻過ぎより雨降 夜二入 辰の刻過ぎ雷鳴 則刻止	
1836年	6月18日	天保7年	5月5日 晴	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (……御米1俵28文目値段で上納……、この度在中家以上に調達金を仰せ付けたところ米金銭で上納したいとのこと・米1俵を28目立で御蔵納め可とする)	
1836年	6月19日	天保7年	5月6日 曇	辰の刻過ぎ雨降 則刻止 (笠原近江が急下がりを仰せ付けられ去月7日江戸出立・道中で不快) 下から続く 去る2日夜大鰐組石川村で出火・類焼とも3軒焼失・火元高無他村預け)	
1836年	6月20日	天保7年	5月7日 曇	卯の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止 (御領分で丹後者の詮索・見当てれば早速送り返すとの御目付触れ、左近将監様は来る10日出立の予定が不融通?何か手当て?分かん、	上に続く
1836年	6月21日	天保7年	5月8日 曇	(明後10日神明宮で日和揚げ御神楽差上げる、去る7月の岩木川洪水に伴う流木を隠し上げの12人に過料錢1貫200文充・関係する庄屋7人に過料錢600文充)	
1836年	6月22日	天保7年	5月9日 晴	(売女を召抱えた女を押込め15日)	
1836年	6月23日	天保7年	5月10日 曇	(津軽左近将監今日発足)	
1836年	6月24日	天保7年	5月11日 晴	(笠原近江が病氣療養で月代執願・了承、青田の内笛吹くなどの御目付触れ)	
1836年	6月25日	天保7年	5月12日 晴	(横内村山中で米を持つ南部者3人見当で2人捕らえる・米を取上げ2人は関所外に送り返す、大坂の銅座で調べたら御国銅に銀が含まれていて……)	
1836年	6月26日	天保7年	5月13日 曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入 辰の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム (博打の男4人に3鞭充居町徘徊はまで通り)	
1836年	6月27日	天保7年	5月14日 曇	昨夜より雨今日に及ぶ 卯の刻頃止 (当申年積登らせに相成るべき銅鉛の詳細あり・銅170箇と鉛620箇)	
1836年	6月28日	天保7年	5月15日 晴	(去る12日夜四時頃鰺ヶ沢町田中町で出火・東風烈しく類焼とも27軒焼失・火元慎)	
1836年	6月29日	天保7年	5月16日 曇	申の刻過ぎより雨降 夜二入	
1836年	6月30日	天保7年	5月17日 曇	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (去る14日夜堀越組門外村で出火・建家1軒焼失・火元高無居村預け、下居宮で御祈禱と神事を申し付ける)	
				(*)筒井村で出火・建家等焼失・火元居村預け)	

1836年	7月1日	天保7年	5月18日	曇	
1836年	7月2日	天保7年	5月19日	曇	(去る秋より濁酒造り込み御差留め・在方より濁酒造り込み希望・断る) 下から続く 小歌流行、当月16日目野沢出水・出流木(が)番館中矢来2倉押し破る)
1836年	7月3日	天保7年	5月20日	晴	(去る16日夜金木組深郷田村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け、御郭廻りの土塀板塀白壁に落書きするな御堀に石を投げ込む等の触れ) 下から続く と申す 上に続く
1836年	7月4日	天保7年	5月21日	曇	(野内より送返の秋田出生の親子を取逃がした庄屋に過料1貫200文、無手形米附下の男の米取上げ過料1貫200文、間道を米を背負った男の米取上げ戸 ㄥ 30日、子志や連 上に続く
1836年	7月5日	天保7年	5月22日	曇	
1836年	7月6日	天保7年	5月23日	曇	
1836年	7月7日	天保7年	5月24日	曇	(外ヶ浜4ヶ組え下し置かれ候御救い木の内……、無手形米附上の男の米御取上げ過料銭1貫200文)
1836年	7月8日	天保7年	5月25日	晴	(黒石表より酒を買越の男に酒御取り上げの上過料銭1貫200文・売った男にも罰、去る20日夜飯舘村で出火・土蔵の雨鞘等と他家の建家外馬屋焼失・火元郷土慎、遠近に米等の置き忘れ)
1836年	7月9日	天保7年	5月26日	曇	卯の刻過ぎ地震少し (博打の男4人に3鞭充居村徘徊はまで通り・会場を貸し博打の松前出身の僧を三蔵湊口送り返し、間道を忍び通り親元に帰った女に12鞭親引渡し、 欄外(*)に続く
1836年	7月10日	天保7年	5月27日	晴	(無手形米御取上げの上過料銭1貫500文、間道を通った男の米御取上げ戸 ㄥ 30日、手形より1斗余過米・過米分御取上げ過料銭1貫500文、預け人に逃げられた庄屋に過料1貫200文)
1836年	7月11日	天保7年	5月28日	曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム (無刻印の木を売った男に過料1貫500文・戸 ㄥ 20日、当月9日当江戸御廻船の筑前船が南部宮古沖で7・800俵荷打ち・見分に勘定小頭等を派遣する)
1836年	7月12日	天保7年	5月29日	曇	(岩木川の蛇籠(じゃかご:河川の護岸のための中に栗石等を入れた竹・鉄線製の駕籠)・柴・杭を抜き取るなどの触れ、無通の水油輸送した男共に水油御取上げ戸 ㄥ 15日等の罰)
1836年	7月13日	天保7年	5月30日	晴	昨夜風強し 下から続く 無位1枚が上納されこれを下し置かれる、近来の養子取組は筋目のほか持参金によるものが多いと聞こえ……、明2日護穀神で風雨順時の御神楽差上げる)
1836年	7月14日	天保7年	6月1日	曇	西の刻過ぎより雨降 (狛師共え御賞として下し置かれる下々位の熊皮が午年(今年は申年)の渡残し1枚と未年の4枚が有り合わせがなく渡していなかった・当年下々位の4枚と 上に続く
1836年	7月15日	天保7年	6月2日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 夜に入 (在方調達金の内米納を1俵28文目としたが下々通用米が1俵30匁であり4斗入り1俵を30匁とする)
1836年	7月16日	天保7年	6月3日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 申の刻過ぎ止ム 下から続く :罰を伴う間米1俵の値段が26文目という珍しい記録)
1836年	7月17日	天保7年	6月4日	曇	(乱暴して他出留めの男2人が又乱暴し戸 ㄥ 30日・20日、黒石に米2俵を売った男に米代銭52文目御取上げの上過料1貫200文・御本領より米2俵を買調えの黒石の男に軽戸 ㄥ、 上に続く
1836年	7月18日	天保7年	6月5日	曇	今晩寅の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1836年	7月19日	天保7年	6月6日	曇	西の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1836年	7月20日	天保7年	6月7日	曇	(湯野沢銀山に関して御賞) 下から続く 米を売った男とその五軒組合に過料銭1貫200文充または900文・取逃がした番人に過料銭1貫200文または600文充)
1836年	7月21日	天保7年	6月8日	曇	(無手形米輸送の男に米御取上げ馬返し過料1貫500文、運び手が逃亡し米1俵・粟種5升等を拾う?・運び手が逃亡できずに捕まった例も多数) 下から続く この南部者に 上に続く
1836年	7月22日	天保7年	6月9日	曇	今晩寅の刻頃より雨降 卯の刻過ぎ止ム 卯の刻過ぎ雷鳴 則穀止ム 未の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (南部者等9人を取逃がした横内組庄屋2人に過料銭1貫200文充・ 上に続く
1836年	7月23日	天保7年	6月10日	曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止ム 下から続く 今後の入津差留め、町々の飴売り共が唐人笛と申すものを吹く・青田の内は吹かせないようにする)
1836年	7月24日	天保7年	6月11日	曇	西の刻過ぎより雨降 (神明宮で日和上重御祈禱を仰せ付ける、丹後者の詮索・送り返しの御目付触れ) 下から続く 米と粟を隠積の船から隠積の品御取上げ 上に続く
1836年	7月25日	天保7年	6月12日	曇	昨夜よりの雨今日におよび午の刻過ぎ止ム (米を背負った男の米取上げ戸 ㄥ 30日、深浦で船手の糶米を確保すれば町の飯料がない?、石渡川4歩半の出水・両船共往来ならず、 上に続く
1836年	7月26日	天保7年	6月13日	曇	(昨日午の下刻下居宮並びに大堂本尊御出汗・古懸不動尊の節と同様に仰せ付けられる、石渡川落水・両船とも往來相成る)
1836年	7月27日	天保7年	6月14日	曇	(米を取押えられた日雇いの男に過料銭1貫500文兄引取・その兄と宿にもも過料銭1貫200文充、黒石領の者が浅瀬石村で玄米1俵32文目位に取究め買調えている)
1836年	7月28日	天保7年	6月15日	曇	(一昨10日夜浪岡組竹鼻村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、御役銭を相厭い間道を烟草(煙草)を持ち込んだ男に12鞭野内御閑所口送り返し)
1836年	7月29日	天保7年	6月16日	曇	
1836年	7月30日	天保7年	6月17日	曇	
1836年	7月31日	天保7年	6月18日	曇	(水油1升が7文目6厘4毛に相当・1升を7文目値段に申し付ける、頃日天気不正に付き嵩並びに湯段田代下モ湯共湯治引き払い仰せ付けられる、火付けの同類多数捕まる)
1836年	8月1日	天保7年	6月19日	曇	
1836年	8月2日	天保7年	6月20日	曇	(当年駒越組川原平村の狛師孫六が熊4疋狩取る・御賞として鳥目3貫文下々位の熊皮1枚下し置かれる) 下から続く 庄屋になるため不法の土堂村の男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1836年	8月3日	天保7年	6月21日	晴	(黒石に米を運んだ男に過料銭1貫200文・関係者に過料銭900文充、米を取上げた南部男を取逃がした宿番人の4人に過料銭1貫200文充) 下から続く その仲間に6鞭、 上に続く
1836年	8月4日	天保7年	6月22日	晴	(庄屋が茂合を私曲したと不当に申し出た土堂村の3人に過料1貫800文・1貫200文、この仲間の御蔵町の町民に戸 ㄥ 10日) 下から続く 男に15鞭居村徘徊はまで通り・ 上に続く
1836年	8月5日	天保7年	6月23日	晴	(盗人の諸手警固の倅に3鞭親に引渡し、盗み売り払いの男に6鞭弘前町御構いの上黒石表に送出、去年5月青森芝居小屋で博打の男に3鞭居町徘徊はまで通り、喧嘩で傷害の 上に続く
1836年	8月6日	天保7年	6月24日	晴	(大館より賈銀を持ち込んだ男を送り返し今後の立ち入り禁止を申渡す)
1836年	8月7日	天保7年	6月25日	晴	
1836年	8月8日	天保7年	6月26日	曇	申の刻過ぎより雨降る 夜二入 (煙草34連等を盗んだ男に3鞭弘前御構いの上居村徘徊はまで通り)
1836年	8月9日	天保7年	6月27日	曇	昨夜より之雨今日に及び辰の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨今日に及び辰の刻過ぎ止ム)
1836年	8月10日	天保7年	6月28日	晴	
1836年	8月11日	天保7年	6月29日	晴	
1836年	8月12日	天保7年	7月1日	曇	卯の刻過ぎ雨降 則刻止ム 巳の刻過ぎより雨時々降 夜に入
1836年	8月13日	天保7年	7月2日	曇	昨夜より雨 今晩寅の刻過ぎ止ム (濁り酒造り込みの男に濁り酒と柄杓を御取上げ樽は返し過料銭1貫500文、離縁の妻が男子三つ子出産・成長の内1人扶持宛3人に下し置かれる)
1836年	8月14日	天保7年	7月3日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム 今日風強し
1836年	8月15日	天保7年	7月4日	曇	
1836年	8月16日	天保7年	7月5日	晴	
1836年	8月17日	天保7年	7月6日	曇	(これまで調達米並びに組村貯米を持って救い方を申し付けていたが貯糶を用いることを了承する、分からないが誰かに9鞭居村徘徊はまで通り)
1836年	8月18日	天保7年	7月7日	曇	午の刻過ぎより雨降 夜二入
1836年	8月19日	天保7年	7月8日	曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 夜二入 (石渡川4歩半の出水・両船とも往來なり兼ねる)
1836年	8月20日	天保7年	7月9日	曇	昨夜より之雨今日二及ぶ 卯の刻過ぎ止(曇 昨夜より之雨及今日二卯刻過止) 下から続く 差上げる・去年より日数に引合7日遅く節に引合9日遅い、深浦湊に入船中の船員が病死)
1836年	8月21日	天保7年	7月10日	晴	(秋田より賈金を持ち込んだ男の宿をした男を腰縄付きにしていたが70歳余でもあり農事の外他出留めとする) 下から続く 72日目で差上げ当年は4月23日植付75日目 で 上に続く
1836年	8月22日	天保7年	7月11日	曇	(鯉ヶ沢町類焼(5月12日出火として15日に記述)の者28人に1人に御銭20目分の材木柅木舞を下し置かれる) 下から続く 御初米出穂差上げる・去年は5月10日植付 上に続く
1836年	8月23日	天保7年	7月12日	曇	(御初穂を差出、村方割返銭を私極曲し出奔密かに立帰りの男に大赦以前として放免、当2月19日蝦夷地ヒクニに向かった4艘が破船・20人が海死、大鰐村加賀助兵左衛門が 上に続く
1836年	8月24日	天保7年	7月13日	晴	
1836年	8月25日	天保7年	7月14日	晴	
1836年	8月26日	天保7年	7月15日	晴	
1836年	8月27日	天保7年	7月16日	晴	亥の刻過ぎ雨降 則刻止ム
1836年	8月28日	天保7年	7月17日	晴	
1836年	8月29日	天保7年	7月18日	曇	頃日残暑強し 未の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止ム (去る16日夜踊り見物の女房とその妹の帰りを待伏せし川原で……その上背負い子供に怪我させた男10人を召捕る)
1836年	8月30日	天保7年	7月19日	曇	巳の刻過ぎより雨降 午の刻過ぎ止ム (頃日雨天続にて薄暑・護穀神で陽気発動の御神楽を差上げる)
1836年	8月31日	天保7年	7月20日	曇	卯の刻過ぎ小雨降 則刻止ム (当御廻米積で頃日着船あり・代わりに材木を1000石目を積みいれる)
					(*) 博打の青森目明しに9鞭居町徘徊はまで通り・これと博打の男2人に3鞭居町徘徊頃まで通り)

1836年	9月1日	天保7年	7月21日	曇	
1836年	9月2日	天保7年	7月22日	晴	
1836年	9月3日	天保7年	7月23日	曇	今晚寅の刻過ぎ雨降 則刻止ム 辰の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム
1836年	9月4日	天保7年	7月24日	曇	(去る21日夜九つ頃油川村で失火・折節風烈しく大よそ100軒位類焼・以下追々)
1836年	9月5日	天保7年	7月25日	曇	申の刻過ぎ雨降 則刻止 (町々にて是まで小売米銭1文目に尽き1升1合を1升5タに仰せ付ける)
1836年	9月6日	天保7年	7月26日	晴	申の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止ム
1836年	9月7日	天保7年	7月27日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム
1836年	9月8日	天保7年	7月28日	晴	下から続く 値段として44軒分1貫56文目を下し置かれる、深砂宮で日和揚秋暑打続五穀豊熟の重御祈禱を仰せ付ける)
1836年	9月9日	天保7年	7月29日	曇	今晚寅の刻頃雨降 則刻止ム 下から続く 1万本本値段で代600目、去る21日の油川の出火:本家並びに借宅74軒焼失・44軒に救い米が必要・米を出せず1俵24文目 上に続く
1836年	9月10日	天保7年	7月30日	曇	今晚寅の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (杉3尺椋20万枚一割半下で代2貫210文目・桧2尺5寸椋20万枚本値段で代2貫600目・桧5尺木舞1万本本値段で代500目・桧6尺木舞 上に続く
1836年	9月11日	天保7年	8月1日	曇	昨夜より雨 今日および未の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より雨今日および未の刻過ぎ止ム)
1836年	9月12日	天保7年	8月2日	晴	(当春菜種出盛り相場平均4斗入り1俵37文目9分9厘に相当水油1升6文目8分4厘に相当・1升を6文目8分値段に申し付ける)
1836年	9月13日	天保7年	8月3日	曇	卯の刻過ぎより雷雨 雷辰の刻過ぎ止 雨夜二入 (一昨朔日行方不明の専求院の弟子が青女子村で縊死)
1836年	9月14日	天保7年	8月4日	曇	昨夜より雨 今晚寅の刻頃止ム (笠原近江のめまいが快気明日から出勤)
1836年	9月15日	天保7年	8月5日	晴	(深浦湊で南部大畑の水主が病死、大道寺玄蕃・佐藤栄吉が(12日に)江戸急立帰登り)
1836年	9月16日	天保7年	8月6日	晴	下から続く 当年の作畵が不明で残りの積み込みでもめている・8月12日記述の積み込み8月24日記述の破船と続く)
1836年	9月17日	天保7年	8月7日	晴	(今日大鰐村加賀助より御初米差上げる、町々俵売り米1俵36・7文目・銭1文目に付き1升売り申付ける、鳥の海硫黄吹出す、当大坂御廻米15000石の内9580石積入れ相済む・ 上に続く
1836年	9月18日	天保7年	8月8日	晴	(去月21日油川村の馬屋共72軒焼失の火元他村預け)
1836年	9月19日	天保7年	8月9日	晴	
1836年	9月20日	天保7年	8月10日	晴	(粒油が高いので魚油で代用する:魚油は匂うが背に腹はということ)
1836年	9月21日	天保7年	8月11日	曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜二入
1836年	9月22日	天保7年	8月12日	曇	昨夜よりの雨今日および午の刻頃止ム 未の刻頃より雨降 夜に入 (米の積み込みを待って永く滞船の3艘に材木等2170石を積み込むよう申し付ける)
1836年	9月23日	天保7年	8月13日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎより雨降 夜二入
1836年	9月24日	天保7年	8月14日	曇	昨夜よりの雨今日および卯の刻過ぎ止ム 午の刻頃より雨時々降 夜二入 (在方より袖乞之もの多く出る・町で見当て次第送り返す)
1836年	9月25日	天保7年	8月15日	晴	昨夜より雨 今晚寅の刻頃止ム (此の節より他散の者あるかも・御閑所問道の御締りを厳重にとの指示) 下から続く 28文目立に仰せ付ける)
1836年	9月26日	天保7年	8月16日	曇	(三厩町の者共に青森御蔵より1俵に付き46文目で50俵代銭上納の上御払い、青森町にも250俵を1俵46文目で御払い、御家中三渡御買上の儀は1俵24文目立であったが 上に続く
1836年	9月27日	天保7年	8月17日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻頃止ム
1836年	9月28日	天保7年	8月18日	晴	下から続く ほとんど強制的に米を買い取られる・300俵陸上げし代金300両を受け取る)
1836年	9月29日	天保7年	8月19日	曇	酉の刻過ぎより雨降 (大光寺組本町村に極難の者33人・死命のほど計難し・救合いを指示、町方小売米銭1文目に付き9合に申し付ける) 下から続く の内で大勢に 上に続く
1836年	9月30日	天保7年	8月20日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム 午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (青森で御米3875俵を積んだ廻船が5月に南部釜石で難船荷打ち・残る2400俵を積み仙台領越喜来村? 上に続く
1836年	10月1日	天保7年	8月21日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 夜二入 午の刻過ぎ雷鳴 則刻止ム 酉の刻頃より雷鳴 戌の刻過ぎ止ム
1836年	10月2日	天保7年	8月22日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ巳の刻過ぎ止ム (山上才助等を在方作舩別手見分に仰せ付ける、丹後者の詮索送り返しの触れ)
1836年	10月3日	天保7年	8月23日	曇	巳の刻頃より雨降 即刻止ム 戌の刻過ぎより雨降
1836年	10月4日	天保7年	8月24日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 酉の刻過ぎ止ム (青森町の濁酒売りの男を戸ヰ、銅鉛84箇を米の代りに積み込んだ越前船が13日夜大風で破船)
1836年	10月5日	天保7年	8月25日	晴	今朝岩木山に雪見ゆる (売賃し味噌が両家とも不足昨年7割・銭10文目代に付目形5貫500目値段で売賃し・上限あり)
1836年	10月6日	天保7年	8月26日	曇	今朝霜降 巳の刻過ぎより雨降 夜二入 下から続く 対し値段とも同様に800俵、塩1升5分を6分5厘に申し付ける、黒石から御米1000俵拝借願い・新穀まで300俵貸す、他散者多い)
1836年	10月7日	天保7年	8月27日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 夜に入 (昨夜新町の小店に捨子・同町の者に預け養育させる、油川の調達金が大火で御免願い・了) 下から続く 4ヶ組で3000俵に 上に続く
1836年	10月8日	天保7年	8月28日	曇	昨夜よりの雨今日および未の刻過ぎ止 卯の刻頃より雷鳴 午の刻過ぎ止 (今別町で300俵払い米願・江戸御廻米の内50俵を1俵50目立(青森相場54・5文目)で御払い・外ヶ浜 上に続く
1836年	10月9日	天保7年	8月29日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入
1836年	10月10日	天保7年	9月1日	曇	昨夜より之雨今日二及ヒ時々降 夜二入 酉之刻頃より雷鳴 亥之刻過ぎ止ム (両濱への調達金の内米納とした2000俵中200俵しか集まっていない、神明宮・八幡宮で日和揚の御祈禱)
1836年	10月11日	天保7年	9月2日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻過ぎ止ム 今日霰少シ降
1836年	10月12日	天保7年	9月3日	晴	(小売り米1文目に1升を9合とする)
1836年	10月13日	天保7年	9月4日	晴	下から続く 和徳組富田村弥助の娘が6月18日に男子3人出生(7月2日に記述)・3人に名を下し置かれる・松吉竹吉梅吉、去月26日田中左司馬を勘定奉行兼任に等の人事異動)
1836年	10月14日	天保7年	9月5日	晴	(糶米として船積の場合1俵60目立・白米で積込みの場合は6文目増?、碇ヶ関町・野内町に弘前・青森御蔵米の内より30俵を1俵50目立で御払い、去る3日御鷹之雲雀を拝領、 上に続く
1836年	10月15日	天保7年	9月6日	曇	午の刻過ぎ雨降 即刻止ム (御家老代津軽式部宅で申渡し:笠原近江に御役職召し放ち・憤)
1836年	10月16日	天保7年	9月7日	曇	(白米の小売米は1人に付き3合売りとする(意味は分らないがつい先だってまで3合5タ)
1836年	10月17日	天保7年	9月8日	晴	(去る5日昼飯詰組金山村で出火・建家等焼失・火元居村預け、作が酷いらしい・刈り取って検見をするが今年は青立ち)
1836年	10月18日	天保7年	9月9日	晴	(在方御用に山上才助等を派遣) 下から続く 酒1升を1文目5分値段に申し付ける、皆無作の村多い)
1836年	10月19日	天保7年	9月10日	曇	辰之刻過ぎ小雨降 即刻止 酉之刻過ぎより雨降 (初鯉2尺明11日高岡江御献備、昨夜六時過ぎ紺屋町湯屋で出火・類焼3軒潰家2軒・火元入寺の上償、どんな酒か不明だが 上に続く
1836年	10月20日	天保7年	9月11日	曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 夜二入 (一昨夜九つ時過ぎ鯉ヶ沢釣町で出火・暁嵐で類焼5軒潰家3軒・火元兩人憤) 下から続く ・火元他村預け、立金目付の御手廻に山上才助)
1836年	10月21日	天保7年	9月12日	曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降 夜に入 卯の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム (去る2日夜赤石組風合瀬村で出火・居宅等焼失・火元高無居村預け、去る8日夜飯詰村で出火・類焼あり 上に続く
1836年	10月22日	天保7年	9月13日	晴	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム 下から続く ぜんまい・細布・薩摩芋・酢・醤油、昨夜九つ時新寺町で出火・類焼1軒潰家2軒半潰3軒・火元入寺の上償)
1836年	10月23日	天保7年	9月14日	晴	(他領出は縦令船手の土産たりとも御差止め入る分は無役で勝手次第:米・麦・稗・蕎麦・蕨粉・粟・大豆・小豆・糶・吉野葛・素麺・饅頭・片栗・味噌・昆布・心太草?・彘古・干 上に続く
1836年	10月24日	天保7年	9月15日	快晴	(今日江戸で先日拝領の雲雀頂戴、仰せ付けられた御買米を断って差上げた増組福福館村年頭御目見之物三上喜三郎等500人余に御賞、在方風説の趣二は当作凶作の姿……)
1836年	10月25日	天保7年	9月16日	快晴	
1836年	10月26日	天保7年	9月17日	晴	(検見組御手割として3人宛69組207人が出ている・こんな多数は記憶にない)
1836年	10月27日	天保7年	9月18日	曇	午之刻過ぎより雨降 夜に入 (松木平村が難洪に付き栗の木200本の伐り取願い・栗は御停止木(腐食しない用材として珍重された)に付き他の木の伐り取を申し出るよう申し付ける)
1836年	10月28日	天保7年	9月19日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過ぎ止ム (町々小売米払底・1人につき3合宛売り払いを2合5タ宛とする)
1836年	10月29日	天保7年	9月20日	曇	辰之刻過ぎより雨時々降 未之刻止ム 戌之刻過ぎより雨時々降 (船の糶米の積入れ量を1日(1人)5合を4合とした、白米1文目に付き8合値段とする)
1836年	10月30日	天保7年	9月21日	曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 酉の刻頃止ム 卯之刻過ぎより雷鳴 辰之刻過ぎ止 (今別・三厩両町で渴命・御救い材木20000石目伐り取り願・場所に制限をつけて認めているらしい)
1836年	10月31日	天保7年	9月22日	晴	(御鷹の雲雀拝領の関する配当:1人に付き15文積りを以って94文目2分5厘下し置かれる)

1836年	11月1日	天保7年	9月23日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1836年	11月2日	天保7年	9月24日 曇	(飢渴相凌ぎ難い窮民数万人……組貯・村貯米も尽きた・御検見もまだで刈り取りもできない)
1836年	11月3日	天保7年	9月25日 曇	亥之刻過ぎより雨降 下から続く 南部領二河目(二川目)で破船・糧米等失ったが近辺も米穀払底・青森御蔵米の内より10俵送る、当作格別不熟・作人が4歩田主6歩別けの上……)
1836年	11月4日	天保7年	9月26日 晴	昨夜より之雨今日二及 卯之刻過ぎ止ム (此の節在浦々米相場平均仕り候得共大凡64文目位に相当・以来御払い米1俵60目立御払い、8月4日に江戸出帆の当江戸御廻船が 上に続く
1836年	11月5日	天保7年	9月27日 晴	
1836年	11月6日	天保7年	9月28日 なし	(日記は保存されているが天気の記事なし)
1836年	11月7日	天保7年	9月29日 晴	(1人に付き2合宛売り払うよう申し付ける)
1836年	11月8日	天保7年	9月30日 曇	巳之刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム (頃日御用心向き宜しからず別段御用を30人に申し付ける) 下から続く 75文目平均74文目位・御払い米は1俵70目値段に仰せ付ける)
1836年	11月9日	天保7年	10月1日 晴	(是まで渡し居り候救い米当分差扣(控)え……、塩並びに米穀の積下げ依頼・その代わりに荏種100俵の移出を了承する?、弘前米相場摺り米に御座候えば1俵72・3文目青森は 上に続く
1836年	11月10日	天保7年	10月2日 曇	今晚寅の刻頃より雷雨 雷鳴即刻止 雨時々降 辰の刻過ぎ止 昨夜風強し 今日雪少し降 (蟹田町より米御払い願ひ・1俵を60目立で25俵御払い・青森町にも150俵、 欄外(*)に続く
1836年	11月11日	天保7年	10月3日 曇	昨夜雪少し降 風強し 今日雪少し降
1836年	11月12日	天保7年	10月4日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止 (誓願寺裏通りに4歳ばかりの男子捨子・誓願寺前に預け養育させる)
1836年	11月13日	天保7年	10月5日 晴	
1836年	11月14日	天保7年	10月6日 曇	昨夜雪少し降 午の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止
1836年	11月15日	天保7年	10月7日 曇	昨夜雪少し降
1836年	11月16日	天保7年	10月8日 曇	卯の刻過ぎより雷雨 雷即刻止 雨時々降 午の刻過ぎ止 下から続く 町々小売米1文目に付き8合売りを7合売りに仰せ付ける)
1836年	11月17日	天保7年	10月9日 曇	今日雪少し(湯野沢銀山並びに乙富(昔は尾太)銅鉛山用の酒仕込み古米100俵を許す) 12日から続く 此の節90目余・定価を古米1俵70目立新米1俵55匁立とする、 上に続く
1836年	11月18日	天保7年	10月10日 曇	今日雪降 一寸程積 下から続く 1俵70目立で御払い、杣飯米等なく鰯ヶ沢駄上米800俵の内550俵を山に差し向ける)
1836年	11月19日	天保7年	10月11日 曇	作や雪降 二寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (当作存外の不熟・全体去る巳の年(天保4年)よりは劣悪作勝、黒石領より御米300俵拝借願ひ・青森駄上米の内100俵を 上に続く
1836年	11月20日	天保7年	10月12日 曇	(浪岡・目鹿沢両村に御米15俵前繰り拝借・30俵追加願ひの内10俵の拝借を仰せ付ける、去月朔日原別村の4人乗りの漁船が出漁・4人海死、在町浦々売買米際限なく引立て 9日に続く
1836年	11月21日	天保7年	10月13日 曇	(去る5日夜誓願寺前岩見屋の小店に4歳位の男子捨子・同町に預け養育させる、御払い米願・検見方も相済まず27日渡より御家中渡し方差し支える)
1836年	11月22日	天保7年	10月14日 曇	(湯野沢銀山関係の御賞、鰯ヶ沢町の2人が米穀買越方取組の心当があるとして秋田庄内表まで罷り越したいとして切手紙を求める・了)
1836年	11月23日	天保7年	10月15日 晴	(蟹田町川尻に溺死者1人、御切米が正金渡して家内が多い者に米が渡せないでいる御払い米を仰せ付ける) 下から続く 取りおいた10石3斗の粃の蔵出し、菜銭等金額の詳細あり)
1836年	11月24日	天保7年	10月16日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (去る巳年(天保4年)之御振合に従って面扶持と菜銭を申し付ける) 下から続く 売りを5分に申付ける、野内町で去る午年(天保5年)に 上に続く
1836年	11月25日	天保7年	10月17日 曇	昨夜より雨今晚寅の刻過ぎ止 申の刻頃より雨時々降 夜に入 (当新粒油日数30日平均で4斗入り1俵26文目8分6厘6毛水油1升に付き5文目3分4厘8毛に相当・2月までの1升 上に続く
1836年	11月26日	天保7年	10月18日 曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 戌の刻過ぎ止ム 今日雪降
1836年	11月27日	天保7年	10月19日 曇	昨夜雪少し降 卯の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止ム (一昨夜松井某門前東長町金木屋某の庭先にそれぞれ2歳ばかりの女子捨子・鍛冶町と大工町の者に養育させる)
1836年	11月28日	天保7年	10月20日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (味噌は10文目に付き5貫500目・塩値段は1升が6分5厘、小売米1人につき1合5夕積りの売り払いを2合とする)
1836年	11月29日	天保7年	10月21日 曇	昨夜よりの雨今日および時々降 申の刻過ぎ止ム 卯の刻頃雷鳴 即刻止
1836年	11月30日	天保7年	10月22日 晴	
1836年	12月1日	天保7年	10月23日 曇	申の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止ム
1836年	12月2日	天保7年	10月24日 曇	今晚風強し 今日雪少し降 (昨夜御家中宅の勝手廻り焼失、古懸不動尊御出汗・御神楽等を申し付ける)
1836年	12月3日	天保7年	10月25日 曇	今日雪少し降
1836年	12月4日	天保7年	10月26日 曇	作や雪降 三寸程積ル 今日雪降 一尺五寸程積ル
1836年	12月5日	天保7年	10月27日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (去る24日昼七時頃赤田組石野村で出火・火元高無居村預け、蟹田町奉行から御救い木伐り取りの願・条件を付けたかな?)
1836年	12月6日	天保7年	10月28日 曇	昨夜雪降 二寸程積ル (一昨夜五時頃駒越町で出火・隣家の土蔵の屋根に燃え移る・火元戸ノ、去る24日夜四時頃広田組沖館飯詰(沖飯詰?)村で出火・居宅焼失・火元百姓居村預け)
1836年	12月7日	天保7年	10月29日 曇	(小売米値段銭1文目に付き白米7合を6合に申し付ける)
1836年	12月8日	天保7年	11月1日 晴	
1836年	12月9日	天保7年	11月2日 曇	亥の刻頃雨降 即刻止 (松前で当年不漁・諸国も不作で他邦からの住民を帰している、牢舎内の大田某が重病・宮田某に御預けの上一間所で養生させる)
1836年	12月10日	天保7年	11月3日 曇	(弘前御蔵納めの儀30000俵是非論上納申付くべき旨存じ奉り候尤右にも相拘らず……、雑穀納め(米1俵相当?):大豆2俵・蕎麦2俵・大麦1俵3斗・粟取替え?)
1836年	12月11日	天保7年	11月4日 曇	巳の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止 今日雪少し降 (去る5日夜盗みのため御廻船に忍び入り召捕られた男あり)
1836年	12月12日	天保7年	11月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積ル (赤石組沢部村で雷火・出作の稲草焼失)
1836年	12月13日	天保7年	11月6日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 四寸程積ル (去月23日夜今別町で板倉1ヶ所焼失・火元戸ノ)
1836年	12月14日	天保7年	11月7日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (雑穀納め(米1俵の替り):大豆2俵・麦1俵3斗・蕎麦2俵1斗・粟1俵、月並み講釈当分止めるとの触れ)
1836年	12月15日	天保7年	11月8日 晴	酉の刻過ぎより雨降
1836年	12月16日	天保7年	11月9日 曇	昨夜よりの雨今日二および辰の刻過ぎ止 未の刻過ぎより雨降 酉の刻過ぎ止 (昨夜六半頃富田新割町で浪人が抜き打ちに切られる、古懸不動尊御出汗・御神楽御祈禱等を行わせる)
1836年	12月17日	天保7年	11月10日 曇	昨夜雪降 五寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (去月16日深浦湊江本庄の船が米500俵を積み入津・町役が船の主人に申し訳が立つ書状を渡し100俵買い受ける・400俵は鰯ヶ沢町に売る)
1836年	12月18日	天保7年	11月11日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (青森御仮屋詰め者頭等の面扶持菜銭が記載されている)
1836年	12月19日	天保7年	11月12日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 五寸程積ル (諸寺院・神社に対する面扶持の記載あり)
1836年	12月20日	天保7年	11月13日 曇	昨夜雪降 三寸程積ル 下から続く 申し来り候に付き試に50俵水油2斗入り30樽御役御免で碓ヶ間口通を申し出る・類似が他に2件あり、江戸までの船運賃が100石に付き19兩2歩)
1836年	12月21日	天保7年	11月14日 曇	昨夜風強し (味噌の売買は銭10文目に付き5貫500目値段を4貫目にとの申し出で・はなつける、鍛冶町名主代が秋田表の知合いから新米300俵を水油と取組(信用取引?)の儀 上に続く
1836年	12月22日	天保7年	11月15日 晴	(養蚕に関する御賞、小泊等3か村の松前鮮場行の飯料3000俵拝借願ひ・幸い此の節秋田引越し米買入手順御座候間条件を付して拝借を申しつける)
1836年	12月23日	天保7年	11月16日 晴	
1836年	12月24日	天保7年	11月17日 晴	(高岡御献備の初鰯を御台所頭が差出す、去る14日夜飯詰村で出火・類焼とも5軒焼失・火元他村預け)
1836年	12月25日	天保7年	11月18日 曇	(去る15日夜本町に2才位の男子捨子・前の家に養育させる)
1836年	12月26日	天保7年	11月19日 曇	(御目見以下まで一様面扶持菜銭渡しにして来た・検見が済み存外の御減石で月々渡り方も既に30000俵程不足・家内の者共には3合扶持を仰せ付ける)
1836年	12月27日	天保7年	11月20日 曇	昨夜雪少し降 申の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止
1836年	12月28日	天保7年	11月21日 曇	昨夜雪降 五寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル (去る17日夜田舎館村で出火・建家焼失・火元高無居村預け) 下から続く 日数に引合8日早く節に引合4日早い)
1836年	12月29日	天保7年	11月22日 曇	昨夜雪降 五寸程積ル (当月9日朝より翌10日朝まで十三湊の大湊川尻より小侯川尻まで残らず氷張る・去年は11月2日明け六つ時頃より翌3日暮六時頃まで氷張る・当年は 上に続く
1836年	12月30日	天保7年	11月23日 曇	
1836年	12月31日	天保7年	11月24日 曇	

(*) 去月29日金木新田長泥新村?で出火・建家等焼失・火元居村預け)

1837年	1月1日	天保7年	11月25日	晴	下から続く	……(米を)百姓共手元に差置候ては喰潰眼前二付……、仙台領に入津の御廻船御米の押買い300俵は認めたが出帆させてくれない・江戸と相談し全部売り2400両を差登)
1837年	1月2日	天保7年	11月26日	曇	今日雪降 三寸程積ル	(此の春から休んでいた青森町で30日間の浄瑠璃興行を許す・札銭1人前3分宛、去る19日夜広須組上木造村で出火・建家雑穀稲草等焼失・火元百姓、 上に続く
1837年	1月3日	天保7年	11月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	下から続く 浪人(9日の記述と同一らしい)等4人殺害)
1837年	1月4日	天保7年	11月28日	曇	昨夜雪降 四寸程積ル 今日雪少し降	(飯詰村の類焼者5人の当作不熟皆無に付御手当て米1俵宛申し出る・米がないので米2斗宛とする) 下から続く 富田村に盗賊・ 上に続く
1837年	1月5日	天保7年	11月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降	頃日寒強し(先頃大間越町に他散の者大勢押立参る、去る25日夜金木組高根村で出火・稲草等焼失・火元百姓他村預け、昨夜和徳組 上に続く
1837年	1月6日	天保7年	11月30日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降	今晩子の刻寒に入ル 下から続く 届きかね去る巳年(天保4年)の通り小屋取建ての申し出・仮小屋を建て1人1合の粥)を与え返すようにする)
1837年	1月7日	天保7年	12月1日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積	碓ヶ関口・大間越口に他散心懸の者此節帰国の者追日大勢・此の内空腹疲労に及び本所に帰兼ね宿願う者共は町役に・とても行き 上に続く
1837年	1月8日	天保7年	12月2日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 三寸程積	
1837年	1月9日	天保7年	12月3日	晴		
1837年	1月10日	天保7年	12月4日	晴	(養蚕関係に御賞) 下から続く	・130俵4人扶持・無扶持160俵・金給18両6人扶持・20両5人扶持・御扶持方25人扶持・こんなの沢山、此の度請質錢高を石高等で定め手形で貸出す)
1837年	1月11日	天保7年	12月5日	曇	(去月10日頃黒石領葛川村の百姓家に 大勢引込み家内の者を追払い百姓を打殺し米40俵位盗み取られたとの噂・虚説) 下から続く	110俵6人扶持・120俵5人扶持 上に続く
1837年	1月12日	天保7年	12月6日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 一尺五寸程積	(正月飾りの松は近郷の者共に伐り取られてない・取る場所を変える、高100石相当・高80石3人扶持・俵子100俵8人扶持・ 上に続く
1837年	1月13日	天保7年	12月7日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 八寸程積	(不明日に飯詰村で出火・建家外馬屋共焼失・火元百姓、去月20日夜前田村前浜で鯖漁船が破船、青森町に火縄様の物で戸 欄外(*)に続く
1837年	1月14日	天保7年	12月8日	曇	今日雪少降	
1837年	1月15日	天保7年	12月9日	曇	(今朝四時頃風気(風邪の筈)で寝ていた御家中小鹿某屋敷にその大叔父が切り込み殺害)	
1837年	1月16日	天保7年	12月10日	曇	今日雪少々降 (御収納米として恵米入り混じり手段取巧持ち込んだ日沼村の男を揚屋入り)	
1837年	1月17日	天保7年	12月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (人事異動、江戸で將軍宣下等の動きあり) 下から続く	召捕り究明致し候様申し付くべき旨町奉行江申し遣わす)
1837年	1月18日	天保7年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 五寸程積	(此の度御家中江貢返し仰せ付けられ候処町々仲買取売跡之者質札持参之上触売同様御家中相廻り候旨相聞こえ候間詮議之上 上に続く
1837年	1月19日	天保7年	12月13日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日吹雪強シ	下から続く 秋田からの買越米で酒造願い・食料に廻せと断る)
1837年	1月20日	天保7年	12月14日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少降	(去月25日火災の金木組高根村の3人飯詰村の1人から御救い米1俵宛願い・米がなく1人に2斗宛下し置かれる、黒石領の酒造屋から 上に続く
1837年	1月21日	天保7年	12月15日	晴	(買メ米を莫加として差上げた4人に御賞、39人の座当に靱御藏有合せの碎け米10俵糺(しいな:十分に突っていない糲)15俵6斗を願いにより下し置かれる)	
1837年	1月22日	天保7年	12月16日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日寒強シ	(去る11日夜横内組駒籠村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1837年	1月23日	天保7年	12月17日	曇	今日雪少降	
1837年	1月24日	天保7年	12月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積	
1837年	1月25日	天保7年	12月19日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降	(今別町の百姓共近年打ち続く不熟で種粃の持ち合わせがない)
1837年	1月26日	天保7年	12月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積	午の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止ム (御家中渡し米を盗み取った男2人が捕まる)
1837年	1月27日	天保7年	12月21日	晴		
1837年	1月28日	天保7年	12月22日	曇	昨夜吹雪強 雪三寸程積 今日雪降 三寸程積	吹雪強 下から続く 去月晦日津軽屋三平支配人が自分一己の我意二相募り不埒至極として御扶持方御引上御屋敷出入り差留める)
1837年	1月29日	天保7年	12月23日	曇	昨夜吹雪強 雪八寸程積 今日吹雪強 雪四寸程積	(去る20日昼藤崎組前田屋敷村で出火・建家建馬等焼失・火元百姓居村預け、昨晚御家中笹森某宅で出火・居宅焼失、 上に続く
1837年	1月30日	天保7年	12月24日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少降	(笠原近江の役職召放ち詮議中・慎・御一字御取上・家格御取放・身上召上一間所蟄居・倅を新たに300石御留守居組に、三浦新太郎・ 欄外(**)に続く
1837年	1月31日	天保7年	12月25日	晴	(人事異動)	
1837年	2月1日	天保7年	12月26日	晴	(山形宇兵衛を郡奉行兼役に等の人事異動、津軽式部の御役を免する)	
1837年	2月2日	天保7年	12月27日	晴	(去る20日玉田屋物置から糲5斗入り2俵大豆1俵を盗んだ男あり、去月28日夜浦町村郷蔵を切破り糲6俵盗み取った男あり)	
1837年	2月3日	天保7年	12月28日	晴	(近年違作の国柄多く江戸入津米無数米価雑穀とも此の節甚だ高値に相成り……) 下から続く	より南部送り返し、隠津出容疑の8人等を揚屋からその他7人を牢舎・揚屋から出す)
1837年	2月4日	天保7年	12月29日	曇	(一昨夜堀越組福田村で出火・建家外馬屋とも焼失・火元居村預け、揚屋入りの者多い・1坪に7人で都合60人が限界(揚屋の面積が分かる)、廣銀細工を疑われた男を碓ヶ関口 上に続く	
1837年	2月5日	天保8年	正月1日	晴	今日雪少し降	
1837年	2月6日	天保8年	正月2日	曇		
1837年	2月7日	天保8年	正月3日	曇	今晩寅の刻頃より雨降 午の刻過ぎ止ム 今日雪少し降	(御金奉行より御吉例金差出す、旧臘(昨年12月)28日夜柏木組桜田村で出火・建家1軒焼失・火元高無居村預け)
1837年	2月8日	天保8年	正月4日	晴	(日記の保存なし)	
1837年	2月9日	天保8年	正月5日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1837年	2月10日	天保8年	正月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1837年	2月11日	天保8年	正月7日	曇	昨夜雪少し降 (七種の御祝儀)	
1837年	2月12日	天保8年	正月8日	曇	今日雪少し降	
1837年	2月13日	天保8年	正月9日	晴		
1837年	2月14日	天保8年	正月10日	曇	昨夜雪一寸程積ル 今日雪降 二寸程積	
1837年	2月15日	天保8年	正月11日	晴		
1837年	2月16日	天保8年	正月12日	晴		
1837年	2月17日	天保8年	正月13日	晴		
1837年	2月18日	天保8年	正月14日	晴		
1837年	2月19日	天保8年	正月15日	曇	今日雪降 二寸程積ル (人事異動、去る11日暮れ六つ時頃大鰐組長峰村で軒下に積み置いた鍛冶炭より出火・建家等焼失・火元鍛冶居村預け)	
1837年	2月20日	天保8年	正月16日	曇	昨夜雪降 四寸程積ル 今日雪少し降	(津軽式部昨夜病死)
1837年	2月21日	天保8年	正月17日	晴		
1837年	2月22日	天保8年	正月18日	曇	昨夜雪少し降	
1837年	2月23日	天保8年	正月19日	曇	昨夜吹雪強し 雪一尺程積 今日雪降 一尺五寸程積	
1837年	2月24日	天保8年	正月20日	晴		
1837年	2月25日	天保8年	正月21日	晴	昨夜雪少し降	
1837年	2月26日	天保8年	正月22日	晴	下から続く 御留守居が持参、人事異動)	
1837年	2月27日	天保8年	正月23日	曇	今日雪少し降 (昨夜蝦名某の居宅焼失) 下から続く	御收藏二至9分1厘之御損耗(平年の9%しか入らなかった?)との届書を去る19日に御用番松平和泉守様に 上に続く
1837年	2月28日	天保8年	正月24日	曇	昨夜雪少し降 (去る20日夜柏木組桜田村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、此の節町々で濁酒隠造者あり・役筋を派遣する、御領分当申年氣候不順二付稔不宜・ 上に続く	

(*)を焼き盗徒者あり、去月28日北川族の御用人兼役御免等の人事異動・多数の出張命令?、内府様御麻疹・公方様隠居、御家老付き表右筆に佐藤某吉、江戸で去る19日家老大道寺玄蕃病死、去月26日明楽飛驒守殿より諸国穀留め等致さず融通宜しき様にとの達し)

(**)倉光某・久慈某・一戸某・成田某・佐藤某・豊島某・斎藤某・樋口某・竹内某・毛内某・小川某・新岡某・斎藤某・山崎某・小山内某・藤岡某・成田某に蟄居等のそれなりの罰)

1837年	3月1日	天保8年	正月25日	晴	
1837年	3月2日	天保8年	正月26日	晴	
1837年	3月3日	天保8年	正月27日	晴	(去る21日夜尾崎組町居村で出火・建家外馬屋等焼失・類焼1軒・火元他村預け)
1837年	3月4日	天保8年	正月28日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 (人事異動)
1837年	3月5日	天保8年	正月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1837年	3月6日	天保8年	正月30日	曇	今日雪少し降
1837年	3月7日	天保8年	2月1日	晴	(去月23日夜飯詰村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1837年	3月8日	天保8年	2月2日	曇	昨夜雪少し降 (去る28日暮広須組蓮花田村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、大鰐組島田・早瀬野・虹貝の3村御救いに杉松の伐り取りを許す・浦町・横内組等にも許したらしい)
1837年	3月9日	天保8年	2月3日	曇	
1837年	3月10日	天保8年	2月4日	曇	(獵に入る獵師の願により米を貸す・代銭は1俵につき100目値段とする、昨夜四つ半頃平岡町で出火・小屋焼失・火元日雇戸 ㄞ)
1837年	3月11日	天保8年	2月5日	曇	午の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ止 (天明の飢饉時と同様に楳町畑地に3間×10間の小屋を立取て・1日式食で黒米1合積りを持って粥を炊き出す、手仕事を望めば買い上げ等を行う)
1837年	3月12日	天保8年	2月6日	晴	
1837年	3月13日	天保8年	2月7日	曇	今晩寅の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止ム (去る4月26日夜後潟組中沢村中程に漁船・手段14俵等を押える・28日犯人逃亡・番人への罰は御用捨、多くの組で御救い木伐りを許す)
1837年	3月14日	天保8年	2月8日	曇	今日雪少し降 (御家中の一問所内の弟が衣類飯料等を盗み取り出奔、金子30兩を八幡崎村八幡宮烏居側に置き置かなければ庄屋並びに一村焼失との胡乱の紙面あり・何もなかった)
1837年	3月15日	天保8年	2月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (湯野沢銀山の出銀の代金を払わず山から文句?)
1837年	3月16日	天保8年	2月10日	晴	亥の(刻?)過ぎより雨降 夜に入 同断(晴亥の過ぎより雨降夜に入同断)
1837年	3月17日	天保8年	2月11日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 申の刻頃止 (去る5日夜横内組松森村で出火・建家等焼失・火元居村預け、濁酒輸送の男に御用捨・牢舎が満員なのかな?)
1837年	3月18日	天保8年	2月12日	曇	昨夜風強し 雪二寸程積 今日雪少し降 (木作御蔵が切破られ御米盗み取られる・犯人召捕る、伐り取りを許したり御礼金上納などで材木の量の単位として「石目」が度々出てくる)
1837年	3月19日	天保8年	2月13日	今日	雪降 二寸程積ル(今日雪降二寸程積ル) (昨夜亀甲町小見世江女子捨子・同町の者に養育させる、牢屋番人13軒困窮・碎け米を1軒に1斗宛下し置かれる、1俵80目余の米を買い調える)
1837年	3月20日	天保8年	2月14日	曇	昨夜吹雪強し 雪五寸程積ル 今日雪少し降 (御賞、去る9日夜四時頃藤崎組和泉村で出火・建家等焼失・火元居村預け、外濱灘通並びに深沢辺山合等にて倒死の者あり)
1837年	3月21日	天保8年	2月15日	曇	下から続く 碓ヶ関町金15兩・大間越町8兩・野内町7兩・蟹田町7兩・今別町20兩、鷹場で鉄砲打つなどの触れ、昨16日夜田舎館組堂野前村で出火・建家等焼失・ 欄外(*)に続く
1837年	3月22日	天保8年	2月16日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降 (弘前町に金5000兩米10000俵の米金兩様の御借上げの演説) 下から続く 金700兩米700俵・深浦町金50兩・十三町金50兩・ 上に続く
1837年	3月23日	天保8年	2月17日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る12日夜藤崎組前田屋敷村で出火・建家建馬種粃等焼失・火元居村預け、在町・九浦に命じた御借上げ・青森町金1100兩米1100俵・鯉ヶ沢町 上に続く
1837年	3月24日	天保8年	2月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪少し降 (南部で浪人百姓共が騒ぎ立ての風聞・碓ヶ関町奉行が山中両番所の御鉄砲の内痛損分の引替え等の対応、小売米新米1合5夕 欄外(**)に続く
1837年	3月25日	天保8年	2月19日	曇	下から続く 御家中菜錢渡しが数月滞っている)
1837年	3月26日	天保8年	2月20日	晴	(米500俵雜穀200俵差上げた油川村の男に御賞、去月28日鯉ヶ沢湊支配出来嶋村江鯨流寄せる、去る17日夜大光寺組館田村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓居村預け、 上に続く
1837年	3月27日	天保8年	2月21日	曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 戌の刻頃止ム 3月21日から続く 両船共往来差用ける、横岡奎左衛門の倅幸太郎が京都へ、各地の山の木の伐り取りを許し許しのない伐り荒らしも多い)
1837年	3月28日	天保8年	2月22日	曇	昨夜風強し 今日雪少し降 3月20日から続く 塩飽の船が青森に酒4斗入り3樽上げる・2斗入り1樽に付き御役錢6文目を上納するよう仰せ付ける)
1837年	3月29日	天保8年	2月23日	曇	今日吹雪強し 下から続く 無役(無課税) 此のほかの他領と出入り物については御定役上納の上としている)
1837年	3月30日	天保8年	2月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 下から続く ・小豆・粟・稗・蕎麦・糲・味噌・饅飴・素麺・片栗粉・葛の粉・蕨粉・昆布・細糸・若免・てん草・ゑご・塩の20品は御当領に入る分は9月中 上に続く
1837年	3月31日	天保8年	2月25日	曇	今日雪少し降 3月19日から続く 火元居村預け、木造新田倚木坂村で建馬1疋盗み取られる・犯人2人は出奔、多くの村で難洪の者共に杉等を伐らせている、米・麦・大豆 上に続く
1837年	4月1日	天保8年	2月26日	晴	下から続く とする・去月26日佐藤栄吉儀数年来御用向実貞出付相動候二付動料之内俵子5俵御加増外5俵動料増等の人事異動)
1837年	4月2日	天保8年	2月27日	晴	(去月16日屋形様が御鷹の雁拝領・明28日御目見以上登城を仰せ付けける、乞食頭丁助が三厩湊より松前渡航を願ひ出る、去月15日御家老付並びに留書表右筆は45俵3人扶持 上に続く
1837年	4月3日	天保8年	2月28日	曇	未の刻過ぎより雨降 夜に入 (鯉ヶ沢町の御借上げ対象者の(の一部?)の氏名あり)、昨夜御家中の居宅焼失・類焼あり)
1837年	4月4日	天保8年	2月29日	晴	昨夜より雨 今晩寅の刻頃止ム (大道寺玄蕃が去る秋江戸で病死したので御香典銀30兩下し置かれる、去る23日夜広須組近岡村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1837年	4月5日	天保8年	3月1日	晴	(人事異動、山上才助等に御検見方出精で御賞、今六つ半頃より駒越村渡場が両船共往来差込み・四時頃より長船通路、一昨27日飯詰村一野坪村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1837年	4月6日	天保8年	3月2日	曇	昨夜雪少し降 (去る朔日夜赤石山道村で出火・建家種粃等焼失・火元百姓居村預け、去月28日浪岡組上十川村郷蔵番小屋で出火・屋根周りで鎮火粃等に別状なし、 欄外(***)に続く
1837年	4月7日	天保8年	3月3日	曇	今日雪少し降 (広田組で廃田になりそうな分を引き受け耕作の郷士等に御賞、去る28日金木新田宮川村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1837年	4月8日	天保8年	3月4日	曇	今日雪少し降 今日雪降 二寸程積ル (去る朔日夜飯詰組太刀打村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、去る2日夜尾崎組で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)
1837年	4月9日	天保8年	3月5日	晴	(火災被害の飯詰組沓野坪村・金木組藤枝村の男に御米2斗宛下し置かれる)
1837年	4月10日	天保8年	3月6日	晴	下から続く 川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・日数引合去年より19日遅く節に引合8日遅い、尾崎組大坊村新屋村で出火・建家建馬等焼失・火元高無百姓他村預け)
1837年	4月11日	天保8年	3月7日	晴	(高杉組独鉦村で女子の三つ子生まれる・昨年7月に富田村の男子の三つ子には成長まで1人に付き1人扶持とした、当月4日暮六ツ時頃より翌5日明ヶ六時頃まで十三湯大湊 上に続く
1837年	4月12日	天保8年	3月8日	晴	(火災にあった金木村より宮川村の5人に御救い米1俵のところを2斗宛下し置かれる、閼屋横行して濁酒等が押えられている・独鉦村の女三つ子は当月4・5・6日にいずれも病死)
1837年	4月13日	天保8年	3月9日	曇	(閼屋等を沢山捕らえ逃げられる、大津屋・三国屋が金30兩・20兩を差上げ調達金上納御免願ひ・調達金を命ずる、御鷹の雁拝領に関する座当等への配当1人に付き15文計95文目2分5厘)
1837年	4月14日	天保8年	3月10日	曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (去る9月赤石組沢部村に雷火、去る5日4日夜金木組喜良市村横内組八重田・四つ石村で出火・建家等焼失類焼6軒・2軒・火元 欄外(****)に続く
1837年	4月15日	天保8年	3月11日	曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止ム (三州で山本嘉左衛門と申す者水死、去る8日大光寺組田中村で出火・建家等焼失・火元葛西某居村預け、浦町組大別内村等から木の伐り出し願ひ・了)
1837年	4月16日	天保8年	3月12日	晴	(金150兩粃1000俵を窮民のために差上げた鳴海某に御賞、左近将監殿より町奉行に川鯉1借宛拝受、昨11日夜八ツ時過ぎ堀越組門外村で出火・建家8軒焼失)
1837年	4月17日	天保8年	3月13日	晴	(昨夜ハツ時過ぎ鉄砲町で出火・小屋焼失、昨夜元寺町小見世に捨て子・同町の某に養育させる)
1837年	4月18日	天保8年	3月14日	曇	酉の刻過ぎより雨降 16日から続く 外崎村で出火・類焼5軒・火元他村預け)
1837年	4月19日	天保8年	3月15日	晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止ム (去る11日夜堀越組門外村で出火の火元他村預け、施行(小屋)で御養の内病死の者4・5日前より8・9人、米積下船数艘が青森湊に入津)
1837年	4月20日	天保8年	3月16日	曇	未の刻頃より雨降 夜に入同断 (去る10日夜蟹田湊領近郷瀬辺村で出火・居宅焼失、去月5・9日木造御蔵から御米2俵2斗盗み取られる・取押え回収、昨15日夜堀越組 14日に続く
1837年	4月21日	天保8年	3月17日	曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 今日雪少し降 (去る8日迄十三湯前後共残らず押明船々通路相成、5日の喜良市村の火災の御救米2俵申出・2斗下し置かれる、 欄外(****)に続く
1837年	4月22日	天保8年	3月18日	曇	昨夜風強し (昨夜五つ時頃和徳町長屋で出火・居宅等焼失・火元呵置く、金木並びに同新田で2400町歩ほどは種粃なし、12日夜平小湊村で出火・家85軒等焼失)
1837年	4月23日	天保8年	3月19日	曇	戌の刻過ぎより雨降 (御迎え登り(何人か知らない)中3人が途中の駅で病氣養生・返す、16日夜10日夜増館村後潟組瀬辺地村で出火・建家建馬等建家穀物等焼失・ 2月25日に続く
1837年	4月24日	天保8年	3月20日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 申の刻過ぎ止 (去る13日夜中里村で出火・建家焼失・火元居村預け・10日藤枝村で出火・火元高無に御米2斗下し置き罰は記載なし、 2月22日に続く
1837年	4月25日	天保8年	3月21日	晴	下から続く 糲等で沢山捕まる、去る18日長柄の者が居宅焼失・火元呵置く、去る19日夜和徳組向外瀬村で出火・建家建馬等焼失・火元居村預け、岩木川出水・ 2月21日に続く
1837年	4月26日	天保8年	3月22日	晴	戌の刻頃より雨降 (赤石組出木嶋村前濱に寄せ鯨・肉切取り御役錢上納、堀越組門外村で出火・類焼潰れ家とも7人(軒?)・御手当て米1人に付2斗宛下し置かれる、間米・稗・ 上に続く
1837年	4月27日	天保8年	3月23日	曇	昨夜よりの雨今日におよび巳の刻頃止 (尾崎組柏木村の庄屋が御制動筋を取り乱し人氣動揺させたとして入牢)
1837年	4月28日	天保8年	3月24日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (13日出火の金木組中里村の火元に御救い米2斗下し置かれる、黒石役人から500俵拝借願ひ・200俵を貸す)
1837年	4月29日	天保8年	3月25日	曇	昨夜よりの雨今日におよび巳の刻過ぎ止 今日雪少し降
1837年	4月30日	天保8年	3月26日	晴	(昨夜九つ時頃新寺町で出火・類焼3軒潰家1軒・火元御給人に付町奉行では憤みを申し付けない、去る22日駒越組中畑村で出火・建家種粃等焼失・火元居村預け)

(*) 火元百姓居村預け、別段役が押えた財布入りの小豆5升3合等が記載されている (**) 大豆1合宛・古米は1合大豆1合宛売り払うようにする、在方に御借上げ?金5000兩米10000俵)

(***) 去る28日夜金木組で出火・類焼3軒・火元百姓他村預け (****) 居村・他村・他村預け (*****) 鯉ヶ沢町の小売米が買越米が入って秋迄もちそう・その金を作るのに苦労している)

1837年	5月1日	天保8年	3月27日 晴	(江戸結めの佐藤栄吉が子(乳児)を産んだ妻を離縁・乳母の召抱えを了承)	下から続く	丹後者詮索・送り返しに触れ)
1837年	5月2日	天保8年	3月28日 晴	酉の刻過ぎより雨降 (米値段1俵が70目・これから作る酒は1升が3文目1分5厘に相当、青森に越中米が入ったが購入の代金銭がない・味噌2斗入り1800樽と交換を許している、	上に続く	
1837年	5月3日	天保8年	3月29日 曇	昨夜よりの雨今日および卯の刻頃止	巳の刻過ぎより雨時々降	夜に入同断 (去る26日夜浅瀬石村で出火・家穀物等焼失・火元居村預け、質流れを止めていたが質屋が苦しいらしい)
1837年	5月4日	天保8年	3月30日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降	申の刻過ぎ止	今日雹降 (一昨28日広田組喰川村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け、御法事に伴う座当共への配当1人に15文都合95匁2分5厘)
1837年	5月5日	天保8年	4月1日 曇	(明2日神明宮に御神楽差上げる)		
1837年	5月6日	天保8年	4月2日 晴			
1837年	5月7日	天保8年	4月3日 晴	(……極窮いたし既に他散者茂少なからず死亡の儀茂之有……、昨2日暮れ六つ頃新寺町で浪人一家等が口論の上傷害)	下から続く	火元居村預け、不法な木の伐り出しあり)
1837年	5月8日	天保8年	4月4日 晴	(金1歩は米1斗之相当にて……)	下から続く	去る朔日大光寺組荒田村で出火・類焼共4軒等焼失・火元百姓他村預け、去る2日夜増館組水木村で出火・建家等焼失・
1837年	5月9日	天保8年	4月5日 曇	卯の刻頃より雨降	即刻止ム	(去る2日夜飯詰組高野村で出火・建家等焼失・火元居村預け、去月16日夜増館村・多分22日中畑村の出火に御手当て米2斗宛下し置かれる、
1837年	5月10日	天保8年	4月6日 晴			上に続く
1837年	5月11日	天保8年	4月7日 曇	(牢を打破り出奔の黒石出生の男2人を入牢、魚油入り混じり油を水油値段で売る者あり、揚屋中の4人が傷寒・大病に付宿下がりを申し付ける)	下から続く	火元高無者共に居村預け)
1837年	5月12日	天保8年	4月8日 晴	(揚屋中の5人が傷寒・大病に付宿下がり、去る3日夜金木組薄市村で出火・類焼共都合10軒焼失・火元百姓他村預け、去る6日田舎館村常盤組徳下村で出火・建家等焼失・	上に続く	
1837年	5月13日	天保8年	4月9日 晴	13日から続く	(多分6日・8日記述)田舎館村の火元に御手当て米2斗下し置かれる、去る10日夜駒越組沢田村で出火・類焼3軒・火元他村預け、昨夜平岡町で庇から煙立つ・消す)	
1837年	5月14日	天保8年	4月10日 晴	(去る8日夜湯野沢銀山の居小屋が3軒焼失)	下から続く	平井村で小火・役筋の封印焼失、多分2日出火の高野村の火元に御米2斗下し置かれる)
1837年	5月15日	天保8年	4月11日 晴	(去る7日夜増館組久井名館村で出火・建家等焼失・火元居村預け、昨10日夜七つ時過ぎ鯉ヶ沢田中町で出火・類焼舞戸村にもあり34軒焼失・火元慎、去月28日屋広田組	上に続く	
1837年	5月16日	天保8年	4月12日 晴	(去る3日夜油川村寄郷新派村で出火・外馬屋等焼失類焼1軒・火元他村預け、去る4日夜五時頃・八時頃横内組幸畑村・宮崎村で出火・建家等焼失幸畑村は類焼1軒・火元他村居村預け)		
1837年	5月17日	天保8年	4月13日 晴	(御銚子屋菱屋某に元遣入用米2俵拝借を仰せ付け代金は1俵70目とする、例年の通り小畑村に蔵の上納を申し付けたら米40俵拝借なしには力が出ない・米を何とかした、	9日に続く	
1837年	5月18日	天保8年	4月14日 晴	下から続く	者の公儀人相書き、去月20日中畑十兵衛を御元々兼役御役料俵子10俵償、表右筆佐藤栄吉をこれまで同格で御元方勘定小頭に等の人事異動、正月15日津軽支部病死)	
1837年	5月19日	天保8年	4月15日 晴	(去る12日曉広田組喰川村で出火・類焼8軒・火元他村預け、大鰐組久吉村付近に野火・暮合鎮火)	下から続く	市中所々放火乱法候者共並びに去る11月甲州の殺人
1837年	5月20日	天保8年	4月16日 晴	戌の刻過ぎより雨降	下から続く	(100俵5人扶持御役料60俵)を仰せ付けられる、去る10日夜浦町組古館村で出火・建家馬1疋等焼失・火元居村預け、当2月19日大坂
1837年	5月21日	天保8年	4月17日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止	酉の刻過ぎ雨降	即刻止ム (和徳組向外瀬村大光寺組荒田村の火災の被災者4人に御救米2斗宛下し置かれる、田中勝衛が江戸表で御元々
1837年	5月22日	天保8年	4月18日 曇	戌の刻過ぎより雨降	亥の刻頃止ム	下から続く
1837年	5月23日	天保8年	4月19日 曇	去るの刻過ぎ雷雨	即刻止ミ雨	夜に入 (町奉行本多東作を御元々・御目見以下御留守居支配配乳井市郎左衛門を御元方勘定小頭(勤料2両2人扶持)に等の人事異動、去る
1837年	5月24日	天保8年	4月20日 曇	昨夜よりの雨今日に及	辰の刻過ぎ止	(大塩平八郎等の8人並びに甲州者の人相書き、沢田村の類焼とも3軒・喰川村の類焼とも3軒に御手当米2斗宛下し置かれる、江戸に3000両登す)
1837年	5月25日	天保8年	4月21日 曇	戌の刻頃より雨降	(去る16日夜久井名館村で出火・建家焼失・火元居村預け、当春に町浦々に御借上げ仰せ付けられた米金の内半分通は当御下向御入用……)	
1837年	5月26日	天保8年	4月22日 曇	昨夜よりの雨今日および時々降	申の刻頃止ム	(去る19日夜大鰐組乳井村で出火・類焼共2軒等焼失・火元百姓他村預け、外崎村等の火災の9人に御手当て米2斗宛、
1837年	5月27日	天保8年	4月23日 曇	(去る17日夜広須組本増村で出火・類焼とも2軒焼失・火元高無他村預け、去る11日夜浦町組大柳辺村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け、今日江戸登り金3000両中2000両登す)		欄外(*)に続く
1837年	5月28日	天保8年	4月24日 晴	今朝霜強し (和徳町枌形に倒死の者あり)	下から続く	出火・建家土蔵等焼失・火元居村預け、御目付部屋・日記方・表右筆部屋に近年立ち入る者あり・御用の外入室禁止である)
1837年	5月29日	天保8年	4月25日 曇	(火災にあった赤石組芦荻村・大鰐組乳井村・増館組久井名館村の都合4人に御手当て米2斗宛、他領産の榾柮33・小豆・蕎麦等を取り押さえる、去る22日夜尾崎組岩館村で	上に続く	
1837年	5月30日	天保8年	4月26日 晴			
1837年	5月31日	天保8年	4月27日 晴	(去る24日夜藤崎組前田屋敷村で出火・建家外馬屋まで焼失・火元百姓居村預け)		
1837年	6月1日	天保8年	4月28日 曇			
1837年	6月2日	天保8年	4月29日 晴	(去る23日夜広須組豊田村で出火24日夜高杉組糠坪村で出火・共に建家等焼失・火元百姓と高無居村預け、昨28日向外瀬村で投げ火の男2人を召捕り入牢、去る26日夜原別村で出火)		
1837年	6月3日	天保8年	5月1日 晴	11日から続く	火元居村預け、……御家中扶助米過分不足に付……)	
1837年	6月4日	天保8年	5月2日 曇	(去月26日原別村の出火で建家等焼失・家主が松前表に居り女共を呵り置く)	4日から続く	・建家等焼失・火元居村預け、去月10日朝十三湊神神明宮下濱に寄籠)
1837年	6月5日	天保8年	5月3日 曇	辰の刻過ぎより雨降	夜に入同断 (昨夜御家中で出火、大鰐村の2人尾崎組岩館村1人柏木組大俵村の1人から御米1俵宛の願い・2斗宛下し置かれる)	
1837年	6月6日	天保8年	5月4日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降	夜に入同断 (深浦湊領横磯村沖合で能代船6人乗が水船・助命、鶏糞の買入船あり・4斗入1俵が6文目、去る28日夜藤代組土堂村で出火	2日に続く
1837年	6月7日	天保8年	5月5日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降	未ノ刻過ぎ止ム	(濁酒等(詳細あり)を取押える、大鰐組の4人が土蔵破り等・逃亡、岩木川出水・駒越渡場両船とも往来差留め、御下向入用金もう少し)
1837年	6月8日	天保8年	5月6日 曇	(去月29日夜木造新田中野村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、松木屋某大坂屋某の調達上納が遅滞?に付家財封印・類焼預け)		
1837年	6月9日	天保8年	5月7日 晴	(人事異動、一粒金丹の原料の記載あり、去る2日夜田舎館組東光寺村で出火・建家等焼失・火元居村預け、去る4日造道村で出火・鎮火、竹嶋?は外国の件あり、杉等伐り取り願い多数・了)		
1837年	6月10日	天保8年	5月8日 曇	今晩寅ノ刻頃より雨時々降	夜に入	午ノ刻過ぎ雷鳴
1837年	6月11日	天保8年	5月9日 晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止	(去る3日金木新田の柏木堰堀いで常盤組柳村の男が絞め殺され衣類馬1疋盗み取られる、糠坪村土堂村の男2人に御手当て米2斗宛下し置かれる)	
1837年	6月12日	天保8年	5月10日 曇	(去る4日夜横内組造道村で出火・類焼5軒・火元借宅他村預け、古米1俵に付120日値段で青森江駄下、去る7日朝飯詰組で出火・建家焼失・火元居村預け、常盤組で時疫・	8日に続く	
1837年	6月13日	天保8年	5月11日 晴	(火災の新田村瀬辺地村左閼村の3人に御手当て米2斗ツツ下し置かれる、去る8日夜常盤組小畑村で出火・建家等焼失・火元在医慎、去る6日夜赤石組南浮田村で出火・	5月1日に続く	
1837年	6月14日	天保8年	5月12日 晴	(龍濱崎(竜飛崎)大筒方御番所の飯炊きが昨年不熟作で集まらない、去る9日夜高杉組建石村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け、一昨10日夜油川村で出火・類焼共19軒焼失)		
1837年	6月15日	天保8年	5月13日 晴	下から続く	出崎村で出火・建家等焼失・火元居村預け)	
1837年	6月16日	天保8年	5月14日 晴	(去る10日夜赤田組鶴田村で出火・建家と類焼3軒あり・火元他村預け、去る9日夜油川組田沢村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)	下から続く	去る12日夜広須組
1837年	6月17日	天保8年	5月15日 曇	卯の刻過ぎより小雨降	巳の刻頃止	午の刻過ぎより雷雨
1837年	6月18日	天保8年	5月16日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止	午の刻過ぎ雨降	即刻止 (……元米疲労之者共此節二至倒死之者所々二有之……、去る10日夜木造新田車力村で出火・建家建馬1疋焼失・
1837年	6月19日	天保8年	5月17日 曇	午の刻過ぎより雨降	夜に入	(昨夜町大工が乱心・斧鑕で子供2人殺害1人負傷)
1837年	6月20日	天保8年	5月18日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降	未の刻頃止	(山役人警固福眞久之助に勤料増、天気不正に付き百沢寺に日和揚げ風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1837年	6月21日	天保8年	5月19日 曇	戌の刻過ぎより雨降	夜に入	(6日に居宅焼失の飯詰村高無・南浮田村の百姓に米2斗宛下し置かれる、長崎俵物取扱役屋船の持込酒の内5挺(樽の数)を陸揚げ)
1837年	6月22日	天保8年	5月20日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ申の刻過ぎ止	(13日夜油川組滝村で出火・建家外馬屋等焼失・火元居村預け、10日油川村の火災は類焼共22軒内2軒潰家其の他借家8軒焼失・火元他村預け)	
1837年	6月23日	天保8年	5月21日 曇	午の刻過ぎより雨降	申の刻頃止	(赤田組鶴田村の火災の4人に御手当て米2斗ツツ、天気不正に付き24日に岩木山下居宮で御神楽差上げる)
1837年	6月24日	天保8年	5月22日 晴	(酒田表の米価は金10両に5斗入り6俵程度、昨夜四つ時御家中の居宅焼失)		
1837年	6月25日	天保8年	5月23日 曇	午の刻過ぎより小雨降	未の刻過ぎ止	(去る17日屋高杉組苗苗村で出火・建家馬屋共焼失・火元居村預け)
1837年	6月26日	天保8年	5月24日 曇	未の刻過ぎより雷雨	雷即刻止	雨夜に入
1837年	6月27日	天保8年	5月25日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止	(青田の内笛吹くなどの触れ、昨夜亀甲町で居宅燃え上がる、去る22日夜常盤組小畑村で出火・建家等焼失)	
1837年	6月28日	天保8年	5月26日 晴	(去る21日昼飯詰組神山村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)	下から続く	23日晩駒越組中畑村で出火・建家焼失・火元居村預け)
1837年	6月29日	天保8年	5月27日 曇	巳の刻過ぎより雨降	夜に入	(去る24日晚居土村で出火・脇道御番所類焼、昨夜八時半頃大門寺前で出火・御給人宅等2軒焼失・火元が御給人に付町方からの罰なし、去る
1837年	6月30日	天保8年	5月28日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降	未の刻頃止	
			(*)	去る17日柏木組大俵村木造新田岡部村で出火・共に建家等焼失・火元共に高無居村預け、当耕作仕付け方で山上才助等が廻郷・夫喰米等の手配をしている)		

1837年	7月1日	天保8年	5月29日 晴	6月1日から続く 撫牛子村等で所々火付けを疑われる男を入牢、屋敷内で花火小筒等を打ち放つなどの触れ)
1837年	7月2日	天保8年	5月30日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜に入 (去る23日夜居土村で出火の類焼共4軒・火元他村預け、去る23日夜内真部村で出火・翌6月1日の記事で類焼1軒・火元他村預け)
1837年	7月3日	天保8年	6月1日 曇	昨夜より雨今日におよひ時々降 巳の刻過ぎ止ム (去月22日夜油川細越村で出火・建家土蔵等焼失・火元居村預け) 下から続く 田沢村で病死、去る3月 5月29日に続く
1837年	7月4日	天保8年	6月2日 曇	亥の刻頃より雨降 (去月2日夜常盤組榑村の百姓を殺害(5月9日の記事)したと見られる中嶋村の男が行方不明・見当て次第召し取ることとする、村送り中の松前男が油川組 上に続く
1837年	7月5日	天保8年	6月3日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ巳の刻過ぎ止ム (昨夜より大雨・今朝兩船場渡差止り候・出水高7歩5厘・屋八時半時追々落水) 下から続く 唐牛村で出火・類焼とも9軒焼失・火元他村預け)
1837年	7月6日	天保8年	6月4日 曇	(去月28日夜金木組毘沙門村で出家(出火の誤り?)・建家等焼失・火元百姓居村預け、昨夜御家中上田某の居宅焼失、和徳組大和沢村山街道に女1人倒死、去月26日大鰐組 上に続く
1837年	7月7日	天保8年	6月5日 曇	巳の刻過ぎより雨時々降 夜に入 (昨夜御家中柿崎某の居宅焼失隣家類焼) 11日から続く 建家等焼失、頃日に至り米価過分引立一向相場なし・新米150日古米170日位で貰喰い)
1837年	7月8日	天保8年	6月6日 曇	昨夜より少雨 今日におよひ夜に入 (一昨4日夜東長町で出火) 下から続く 原ヶ平村領加茂社近辺に倒死の者・去月28日一ノ渡村領尾神沢入口に倒死)
1837年	7月9日	天保8年	6月7日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム 戌の刻過ぎより雨降 (去月21日夜御家中の居宅焼失・学園所から借りた本の代金は後日上納) 下から続く 居村預け、堀越組 上に続く
1837年	7月10日	天保8年	6月8日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ巳の刻過ぎ止ム (屋形様が当月3日江戸御発駕、嶋田某を大寄合格御用人に等の人事異動、去る3日尾崎組新館村で出火・建家等焼失・火元高無 上に続く
1837年	7月11日	天保8年	6月9日 曇	午の刻過ぎより雨降 夜に入 (昨夜新寺町で出火・類焼1軒半焼1軒潰家1軒・火元日雇い入寺の上儀、今晚七頃御家中の木小屋出火)
1837年	7月12日	天保8年	6月10日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ辰の刻過ぎ止ム (岩木川出水・駒越渡場両船とも今五半頃より往来差止める、一昨8日夜油川村で出火・家数おおよそ17軒、丹後者詮索送り返しの触れ)
1837年	7月13日	天保8年	6月11日 晴	(去る7日夜広須組再寅村で出火・建家等焼失・火元居村預け、去月26日出火の唐牛村の被災者9人と類似的37人に御米2斗充下し置かれる、去月26日夜横内村で出火・ 6月5日に続く
1837年	7月14日	天保8年	6月12日 晴	
1837年	7月15日	天保8年	6月13日 曇	巳の刻過ぎ雨降 即刻止ム (盗みを白状の上投げ火の疑いのある男を入牢)
1837年	7月16日	天保8年	6月14日 晴	下から続く 松前で中里村の男を切り殺した小泊の男が今朝卒死)
1837年	7月17日	天保8年	6月15日 晴	(人事異動、昨12日夜九時頃尾崎組新館村で出火・居宅建馬2疋等焼失・火元百姓居村預け、去る12月揚り屋入りを仰付けられ病氣養生中同所引上げの男が去る6日夜家出、 上に続く
1837年	7月18日	天保8年	6月16日 曇	(代官町中頃に15・6歳の子女倒死、時疫流行の際の薬に関する公儀御書付、昔青森町34人に調達米金を仰せ付けた・金子は何とかなっても米には苦労している)
1837年	7月19日	天保8年	6月17日 辰	の刻過ぎより雨降 巳の刻過ぎ止ム(辰刻過ぎより雨降巳刻過ぎ止ム) (竹嶋渡海御差留め高札の数寸面が分からずようやく作業に就く、昨16日夕七時頃駒越町で出火・早速取り消す)
1837年	7月20日	天保8年	6月18日 曇	巳の刻過ぎより雨降 夜に入 (油川組村々の出火の被災者5人に御手当て米2斗充下し置かれる、原子村野合で盗賊・30兩取られる・嘘であった)
1837年	7月21日	天保8年	6月19日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 巳の刻過ぎ止ム (熊野宮で時疫退散の御祈禱、大鰐組の村から桧の伐り出し願ひ・了)
1837年	7月22日	天保8年	6月20日 曇	巳の刻過ぎ雨降 即刻止ム
1837年	7月23日	天保8年	6月21日 晴	(火災に遭った尾崎組新館村の2人に御手当て米2斗充下し置かれる)
1837年	7月24日	天保8年	6月22日 晴	(昨20日夜藤代組范中村で出火・建家等焼失・火元居村預け、19日夜浦町組濱田村で出火・建家隣家の外馬屋等焼失・火元他村預け)
1837年	7月25日	天保8年	6月23日 晴	下から続く 居村・他村預け、去る21日夜広田組千年村で出火・建家建馬2疋焼失・火元百姓居村預け、木作新田富范村の者共が塩の炊出願ひ・当年限りで御役塩御免とする)
1837年	7月26日	天保8年	6月24日 晴	(大鰐組三つ目内高野新田折上新田の者共が桧の伐り取り願ひ・1200本伐り取り小杉12000本植付させる) 26日から続く 田沢村で出火・類焼共2・1・2軒焼失・火元他村 上に続く
1837年	7月27日	天保8年	6月25日 晴	午の刻過ぎより雷雨 未の刻過ぎ止ム (……此の頃に至り所々に倒死の者あり……、昨夜四時頃御家中宅の本部屋が焼失、古懸村から見継山より杉250本伐り取り願ひ・100本を許す)
1837年	7月28日	天保8年	6月26日 曇	未の刻過ぎ雷雨 即刻止ム 申の刻過ぎ少雨降 即刻止ム (この節時疫流行・大円寺で時疫退散の重き御祈禱を仰せ付ける) 下から続く 戸門村・14日細越村・15日 24日に続く
1837年	7月29日	天保8年	6月27日 晴	今晚寅の刻頃より雷雨 卯の刻頃止ム (去る8日夜油川村で出火・類焼共都合17軒焼失・火元他村預け、先頃の出水で広須組葦川鶴ヶ岡村付近で水湛400町歩程、12日油川組 上に続く
1837年	7月30日	天保8年	6月28日 晴	
1837年	7月31日	天保8年	6月29日 晴	(去る16日夜浪岡村で出火・建家焼失・火元居村預け、去る22日夜後潟組清水村で塩焚釜より出火・類焼2軒・火元他村預け、屋形様の江戸御発駕を19日から23日に延引)
1837年	8月1日	天保8年	7月1日 晴	申の刻過ぎより雷雨 酉の刻過ぎ止ム (三厩領龍濱(竜飛)崎の献上鮑漁師から御米30俵拝借願ひ・何とか貸し出している)
1837年	8月2日	天保8年	7月2日 曇	辰の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止ム 4日から続く 砕米の内1軒に2斗宛下し置かれる)
1837年	8月3日	天保8年	7月3日 晴	(漁中村の出火者に御手当て米2斗下し置かれる、1300石積船江戸までの運賃は286兩(100石22兩の定め)・他に切石代?等107兩余・計443兩余を払っている)
1837年	8月4日	天保8年	7月4日 晴	(この節熱病流行、松木屋某の調達金上納が遅滞・家財封印親類預け・親類が土手町名主前田某方に皆納・親類預け御免) 下から続く 5文目宛、牢屋番人12軒に 2日に続く
1837年	8月5日	天保8年	7月5日 晴	(去月23日御発駕予定が26日に変更、去る2日九時頃小繋屋?某家前に捨子・乳持の者に預け養育申付ける、昨日鍛冶町土場町で男首総死、菜種(津出)御印代5斗入1俵に付 上に続く
1837年	8月6日	天保8年	7月6日 晴	(油川組戸門細越田沢油川4ヶ村の火災の35軒の者共1軒に2斗宛下し置かれる)
1837年	8月7日	天保8年	7月7日 晴	頃日残暑強し (来る12日屋形様が江戸御発駕との報、江戸で御賞(金1歩3朱・銀3兩)・人事異動) 下から続く 牢屋屋で男2人病死)
1837年	8月8日	天保8年	7月8日 晴	(去月13日江戸出立の佐藤栄吉等が5日到着、去る4日夜浪岡村で出火・類焼4軒・火元他村預け、11月6日に浪人小林某に手傷・28日夜その家族共切害の男の他出差留め、 上に続く
1837年	8月9日	天保8年	7月9日 晴	(越後出生の者8人が5年以前ヲロシヤ国江漂着・5人が病死し3人が去る9月エトロフ嶋江渡海・この節風待ち)
1837年	8月10日	天保8年	7月10日 曇	頃日残暑雷雨 即刻止ム 頃日残暑強し (熟作迄の内4合扶持(を続け)菜銭はこれまでの渡しに3増倍に仰せ付ける)
1837年	8月11日	天保8年	7月11日 曇	未の刻過ぎ雨 即刻止ム (去る昨日夜横内組で出火・建家外馬屋焼失・火元居村預け、去る8日夜駒越組百沢村で出火・類焼4軒・火元他村預け)
1837年	8月12日	天保8年	7月12日 曇	未の刻頃より雷雨 雷即刻止ム 雨夜二入 (大鰐村加賀助兵左衛門が御初米出穂差上げる、牢舎・揚屋でそれぞれ1人が病死)
1837年	8月13日	天保8年	7月13日 曇	昨夜よりの雨今日二におよひ時々降 夜二入
1837年	8月14日	天保8年	7月14日 曇	昨夜よりの雨今日二におよひ巳の刻過ぎ止む 戌の刻頃より雨時々降 下から続く 柴田村で出火・建家等焼失・火元高無他村預け、駒越組砂子瀬村で高無の居宅が雷火で焼失)
1837年	8月15日	天保8年	7月15日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止ム (去る11日夜増館組目鹿沢村で出火・建家外馬屋焼失・火元他村預け、去る10日夜木造新田 上に続く
1837年	8月16日	天保8年	7月16日 晴	
1837年	8月17日	天保8年	7月17日 晴	(人事異動、高島屋の小店に捨て子・髪結い某に預け養育させたが病死、去る15日夜駒越組新法師村で出火・建家等焼失・火元高無居村預け)
1837年	8月18日	天保8年	7月18日 晴	(町医百川某を俵子40俵2人扶持で牢奉行にとの人事異動)
1837年	8月19日	天保8年	7月19日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (男牢死、3月に火災に遭った尾崎組新屋村2人と大坊村4人に御手当て米2斗充下し置かれる)
1837年	8月20日	天保8年	7月20日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 巳の刻過ぎ止ム
1837年	8月21日	天保8年	7月21日 晴	(御元方別段締り役以下支配秋元某等39人を任命、古米(1俵か)118文目・新米97匁値段にて買調え……)
1837年	8月22日	天保8年	7月22日 晴	未の刻過ぎより雨降 夜二入 (御元方御用懸に御徒目付鳴海某等15人を任命)
1837年	8月23日	天保8年	7月23日 曇	昨夜より雨今日二におよひ時々降 夜二入 (屋形様が12日発駕・越谷駅で御逗留の報)
1837年	8月24日	天保8年	7月24日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止ム 午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (調達米不納で他出差留め家蔵封印の板屋野木村竹浪某が何をしたのか御免となっている)
1837年	8月25日	天保8年	7月25日 晴	(屋形様が宇都宮で両3日御逗留の報) 下から続く 外馬屋焼失・火元他村預け)
1837年	8月26日	天保8年	7月26日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入 下から続く (平出)御着城之御積二付其旨申候候:ヨタク殿様に対する思いが見えるかな?、去る25日夜増館組目鹿沢村で出火・建家 上に続く
1837年	8月27日	天保8年	7月27日 曇	昨夜よりの雨今日二におよひ時々降 夜二入 (昨晚御道中宇都宮より御飛脚到着之処宇都宮駅去19日被遊(平出)御発駕候旨申来奉恐悅候遊而其旨御触差出申候尤来月3日 上に続く
1837年	8月28日	天保8年	7月28日 晴	昨夜より之雨今晚寅の刻頃止ム
1837年	8月29日	天保8年	7月29日 晴	(闇物資の取扱いあり・物資取上げ以外は罰なし、蕎麦・菜畑に盗人、買越し米仮値段1俵130文目)
1837年	8月30日	天保8年	7月30日 曇	辰の刻過ぎ雨降 即刻止ム (盗人男女4人召捕る) 下から続く 1日2合等を仰せ付ける、大納戸役格御元方勘定小頭に佐藤栄吉、大坂町奉行から米価高値に付廻米増の要請)
1837年	8月31日	天保8年	8月1日 晴	(山形駅よりの飛脚で山形駅で御不快・1日逗留の報、下向入用金を集めたらしい、御元締めに権限を集めている、この節袖乞の者400人位・救い小屋を取立て郡所有米を以って 上に続く

1837年	9月1日	天保8年	8月2日 晴	(当年植付の稗が刈取りの時節・早速刈り取らせる)
1837年	9月2日	天保8年	8月3日 晴	(岩木山苔の実等を差上げる)
1837年	9月3日	天保8年	8月4日 晴	酉の刻過ぎより雨降 (秋田領若崎川出水・(屋形様が)晦日横手駅に止宿、御初米稔・7日に差上げる)
1837年	9月4日	天保8年	8月5日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降 夜二入(曇 昨夜より之雨今日二および時々降夜二入)
1837年	9月5日	天保8年	8月6日 曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 夜に入(曇 昨夜よりの雨今日におよび時々降夜に入) (一昨4日綴りに御止宿・5日大館にて御止宿・今日碇ヶ関御着座・明7日御着城の報)
1837年	9月6日	天保8年	8月7日 曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 酉の刻過ぎ止ム (七半時御着城・西湖の間で御召替え山吹の間江御着座)
1837年	9月7日	天保8年	8月8日 晴	
1837年	9月8日	天保8年	8月9日 晴	
1837年	9月9日	天保8年	8月10日 晴	(当年塩払底……)
1837年	9月10日	天保8年	8月11日 晴	今晚寅の刻頃雨降 即刻止ム (誓願寺後通の御救い小屋入りの者300人余、去月17日盗みの男を召捕る・吟味中揚屋入り)
1837年	9月11日	天保8年	8月12日 曇	未の刻過ぎ雨降 即刻止ム (尾崎組赤石組の矢竹を伐取らせる、無刻印の木・榎・栓皮・木舞等あり・当人逃亡・刻印の上入れ払い)
1837年	9月12日	天保8年	8月13日 晴	下から続く より駒越渡し場の両船とも往来差止める)
1837年	9月13日	天保8年	8月14日 曇	卯の刻過ぎより雨降 戌の刻過ぎ止ム 亥の刻頃より雨時々降 下から続く 旧功を思召され50俵充下し置かれ御元方御用達を仰せ付けられる、岩木川出水・今六時頃 上に続く
1837年	9月14日	天保8年	8月15日 曇	昨夜風強 昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止ム 辰の刻過ぎより小雨降 午の刻頃止ム 亥の刻頃より雨降 (今日(八幡宮の)神與通行日延、宮崎屋八十吉等10人の先祖の 上に続く
1837年	9月15日	天保8年	8月16日 曇	昨夜より之雨今日におよび時々降 夜二入 (男2人牢死)
1837年	9月16日	天保8年	8月17日 曇	昨夜よりの雨今日二および卯の刻過ぎ止ム 未の刻頃より小雨降 即刻止ム 戌の刻頃より雨時々降
1837年	9月17日	天保8年	8月18日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止ム 卯の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎより晴 戌の刻より雨時々降 稲妻折々
1837年	9月18日	天保8年	8月19日 晴	昨夜よりの雨今日におよび辰の刻過ぎ止 今晩寅の刻過ぎより雷鳴 辰の刻過ぎ止ム 巳の刻頃より風立つ 晴 午の刻過ぎ風止ム (去る7日夜建馬1疋盗み則夜打殺した男を入牢)
1837年	9月19日	天保8年	8月20日 晴	(人事異動、御賞、闇物資・無刻印木の御取上げ)
1837年	9月20日	天保8年	8月21日 晴	申の刻過ぎより曇 戌の刻過ぎより雨時々降 亥の刻頃大雨 (今日四時御供揃にて大仕切口(どこかな)より富田御屋敷江御出、湯野沢銀山・乙富銅鉛山との記述、盗徒の5人を揚屋入り)
1837年	9月21日	天保8年	8月22日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止ム 午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 (土手町菱屋某の小店に捨子・新割町の者に養育させる) 下から続く 病気で出牢養生させる)
1837年	9月22日	天保8年	8月23日 曇	昨夜より之雨今晩寅の刻過ぎ止ム 巳の刻過ぎより雨 未の刻過ぎ止ム 同刻より晴 (豊巻村(田倉館組薑蔦村?)で百姓が作人の家に踏み込み靱を取りもめる、入牢中の女が 上に続く
1837年	9月23日	天保8年	8月24日 晴	今晩寅の刻過ぎ雨降 即刻止ム (早稲の穂を抜き食料や売米にする者あり)
1837年	9月24日	天保8年	8月25日 晴	(御賞、薬種として熊胆と麒麟血あり)
1837年	9月25日	天保8年	8月26日 晴	(片谷某の御給分召上御格式御取返し家屋敷等御取上家財欠所に仰せ付ける)
1837年	9月26日	天保8年	8月27日 晴	
1837年	9月27日	天保8年	8月28日 晴	(鯉ヶ沢町塩家某等26人を御元方御用達に命ずる、来月15日に八幡宮の重御神楽を仰せ付ける) 下から続く 御長柄福真文之助が袋宮寺街道の自分の畑で手傷を負う)
1837年	9月28日	天保8年	8月29日 晴	今晚寅の刻過ぎより小雨降 卯の刻頃止ム (今日西湖の間大仕切口より御出二付此方御先立等なし) 9月2日から続く 不払・盗み徒の者揚屋入り、去る29日暮六時頃 上に続く
1837年	9月29日	天保8年	8月30日 晴	未の刻頃より曇 (竹嶋渡海御差留め立て札の認め方は御右筆なのだ) 下から続く 弥兵衛の倅才助の男子が幼少で病氣・工藤専助弟鉄太郎を婿にする)
1837年	9月30日	天保8年	9月1日 晴	(今日富田御屋敷江九時御供揃え御出・大仕切口より御出付御用人大目付御先立なし、山上才助を使蕃格郡奉行手伝い勤料100俵並びに御役料50俵に等の人事異動、山上 上に続く
1837年	10月1日	天保8年	9月2日 晴	未の刻過ぎより折々曇 (御次より用人御先立にて玄関より御出、去月28日夜紺屋町高森某の・29日夜本町大坂屋前に捨子・夫々乳持ちの者に養育申し付ける、事代の 8月29日に続く
1837年	10月2日	天保8年	9月3日 曇	折々晴 未の刻頃小雨降 即刻止ム 申の刻過ぎ小雨降 即刻止ム
1837年	10月3日	天保8年	9月4日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 (御元メ申出候青森町奥村屋某儀が同所御払米の儀委細申出之通値段之儀は1俵に付85文目立にて1000俵御払い……)
1837年	10月4日	天保8年	9月5日 曇	卯の刻頃より雷鳴折々 巳ノ刻頃より他ム 昨夜よりの雨今日二および時々降 申の刻過ぎ止ム 未の刻過ぎ西風吹 即刻止ム (大工道具を盗んだ男を揚屋入り、革秀寺で手槍等盗まれる)
1837年	10月5日	天保8年	9月6日 快晴	(人事異動、浪岡組王余魚沢村等の見地・検見を代官の申し出で勘定小頭の見分のみとする、奥羽御巡見使の内意あり・黒田・中根・岡田の3人)
1837年	10月6日	天保8年	9月7日 快晴	下から続く 傷害の者あり・犯人召捕り被害者は治療させる、去る5日昼五時頃飯詰組神山村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1837年	10月7日	天保8年	9月8日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 申の刻過ぎ止ム 酉の刻過ぎより小雨時々降 (去月15日大間越御間所外浜で十三町の船が破船・全員6人無事、一昨6日夜五時頃鯉ヶ沢町で 上に続く
1837年	10月8日	天保8年	9月9日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降 未の刻過ぎ止ム(曇 昨夜より之雨今日二および時々降未刻過ぎ止ム)
1837年	10月9日	天保8年	9月10日 曇	終日曇 卯の刻過ぎより小雨降 辰の刻過ぎ止ム(曇 終日曇卯刻過ぎより小雨降辰刻過ぎ止ム) (去る5日夜常盤組若松村で稲番が稲穂を切る者を発見・双方負傷・犯人は死亡)
1837年	10月10日	天保8年	9月11日 曇	終日曇 申の刻過ぎ東風吹 即刻止ム 酉の刻頃より雨時々降 (所々盗徒・稲穂切の男を召捕る・吟味中揚屋入・入牢、去月14日七半時頃より青森湊で東風強く大時化・7艘が前浜で破船)
1837年	10月11日	天保8年	9月12日 曇	午の刻過ぎより西風吹 申の刻頃止ム 昨夜よりの雨今日におよび時々降 戌の刻過ぎ止ム
1837年	10月12日	天保8年	9月13日 曇	折々晴 卯の刻頃小雨降 即刻止ム (人事異動)
1837年	10月13日	天保8年	9月14日 曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (去る14日(どこかで)出水・角丸太2500石目位流散・1000石目位流失)
1837年	10月14日	天保8年	9月15日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降 巳の刻頃止ム 午の刻頃より折々晴 (喜多村監物を手廻二番組頭に等・本多東作を城附足軽頭に人事異動、碇ヶ関百姓を召捕る)
1837年	10月15日	天保8年	9月16日 晴	(当作躰相応の出来作二有之旨相聞こえ候間……、今日立ち江戸表江御金1000兩御登せ仰せ付けられる)
1837年	10月16日	天保8年	9月17日 快晴	戌の刻過ぎ小雨降 即刻止 (去る12日夜赤石組鬼袋村で出火・類焼とも3軒焼失・火元他村預け、所々で馬を盗み取り食料にした横内組桑原村の男を召捕り入牢させる)
1837年	10月17日	天保8年	9月18日 曇	今晚丑の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨時々降 午の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより折々晴 寅の刻頃西風吹 即刻止 戌の刻頃より雨時々降 亥の刻頃より風吹 (大病の強姦男を揚屋出し養生)
1837年	10月18日	天保8年	9月19日 曇	昨夜よりの雨今日二および時々降 夜二入同断 今晚子の刻頃より雨風吹 丑の刻過ぎ止ム (丹後者詮索・送り返しの触れ、調達金の上納手段無の鳴海某の田畑残らず取上げ)
1837年	10月19日	天保8年	9月20日 晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 今朝若木山雪初めて見ゆる 戌の刻頃より雨時々降 (面扶持御用捨本渡御せ付けられる、相応の熟作とはいふ焼田・稗の植付など 欄外(*)に続く
1837年	10月20日	天保8年	9月21日 晴	昨夜よりの雨今日におよび辰の刻頃止ム 下から続く 横岡奎左衛門が御留守居支配として検見署者に)
1837年	10月21日	天保8年	9月22日 晴	(秋田牛島の御本陣が去る午年(今年は酉年)焼失・御手当て5両を下し置かれる、越後船が鯉ヶ沢渡領長濱で破船・全員無事、掃除小人高屋村の甚吉が下川原焼を作り始めた? 上に続く
1837年	10月22日	天保8年	9月23日 快晴	(御元方勘定人見習(2人扶持)を13人に仰せ付ける、旧功を思召し6人に米穀商売家業を仰せ付ける)
1837年	10月23日	天保8年	9月24日 快晴	(大仕切口より御帰城、当新穀より五穀を来月朔日より御上に御買入れ・相対に売買すれば双方欠所・米代等は御買上手形で渡すとの触れ)
1837年	10月24日	天保8年	9月25日 曇	今晚子の刻頃より雷鳴折々 寅の刻頃止ム 卯の刻頃より雷鳴折々 午の刻過ぎ止ム 今晚丑の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止ム (去月24日小泊船が十三町付近?で破船1人海死)
1837年	10月25日	天保8年	9月26日 晴	下から続く 白粟28文目・白餅粟30目・上大豆16文目・上小豆23文目・大麦13文目5分・小麦28文目・蕎麦13文目・白稗28文目・種油28文目・粒油20目等々、米穀商売を157人に命ず)
1837年	10月26日	天保8年	9月27日 曇	未の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止ム 下から続く 通用を仰せ付ける、御元方御用達を仰せ付けている、御元メ定め of 買入1俵値段?: 上米30目・上餅米35文目・ 上に続く
1837年	10月27日	天保8年	9月28日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜二入 酉の刻過ぎより東南風強し 酉の刻雷鳴 即刻止 戌の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム (来春御払米の御入金迄の内御用達手形を正金銭同様の 上に続く
1837年	10月28日	天保8年	9月29日 曇	昨夜より之雨今日二および時々降 亥の刻過ぎ止ム 今晚子の刻頃より東南風強し 辰の刻過ぎ止ム 申の刻過ぎより東南風強し (去月11日鱸作村前濱で大坂船破船、 欄外(**)に続く
1837年	10月29日	天保8年	10月1日 曇	昨夜より之風今晩丑の刻頃止 卯の刻過ぎより小雨時々降 亥の刻過ぎ止 今日霰少し降
1837年	10月30日	天保8年	10月2日 晴	
1837年	10月31日	天保8年	10月3日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 午の刻過ぎ止 未の刻頃より折々晴

(*) 御収蔵は減石の見通し、先祖の旧功を思召し弘前町29軒・青森町25軒・鯉ヶ沢町9軒に米穀商売家業を仰せ付ける、去る12月出奔の碇ヶ関の男の人相書き・せい5尺4寸位等・木綿しらす着用)

(**) 誓願寺後通の御救い小屋の窮民が残らず帰村・取り壊す)

1837年	11月1日	天保8年	10月4日 晴	(当8月27日鰯ヶ沢別役役が菜種20俵(4斗7升5合入り)を抑える・持主は逃亡・品物は別役役に、刻印のない木なども押えている)
1837年	11月2日	天保8年	10月5日 快晴	
1837年	11月3日	天保8年	10月6日 晴	11月5日から続く 米1俵弘前30目鰯ヶ沢31文目青森32文目・以下地方分省略大豆18文目・大麦13文芽・蕎麦11文目)
1837年	11月4日	天保8年	10月7日 快晴	亥の刻過ぎより雨降 (当10月より以後御給人子弟に給代を支払う:上1人に付き110文目・小者1人55文目等々)
1837年	11月5日	天保8年	10月8日 曇	今日霰少し降 昨夜よりの雨今日二およひ卯の刻過ぎ止 今暁丑の刻頃より西南風吹 卯の刻過ぎ止 辰の刻過ぎより折々晴 (御元方別段締役に御留守居組横嶋某等10人に仰せ付ける)
1837年	11月6日	天保8年	10月9日 晴	(去月28日破船の越後船から3人の死骸が流れ寄せる・深浦宝泉寺に葬る、海岸別段締役に2人に仰せ付ける) 下から続く 本堂本尊御出汗・神楽等申し付ける)
1837年	11月7日	天保8年	10月10日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 申の刻過ぎ西北風吹 即刻止ム 下から続く 9人死亡、昨17日朝赤石組舞戸村で刃傷事件、今18日辰の上刻百沢下居宮並びに 上に続く
1837年	11月8日	天保8年	10月11日 曇	今日霰少し降 昨夜よりの雨今日二およひ時々降 未の刻過ぎ止 申の刻頃雷鳴 即刻止 今雪降 一寸程積 下から続く 松前出帆の羽州船が小泊付近で破船・11人中 上に続く
1837年	11月9日	天保8年	10月12日 晴	昨夜雪降 一寸程ツモル 18日から続く 11文目・粒油25文目・鉄砲豆20目・碁石豆18文目・青鶴豆18文目・鶴の子豆19文目・菓子豆16文目・小角豆30目等々、去月27日 上に続く
1837年	11月10日	天保8年	10月13日 晴	亥の刻頃小雨降 即刻止 (この度御徒見分に追手先御長屋武芸御見分所を拝借している(数少ない追手の例))
1837年	11月11日	天保8年	10月14日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 酉の刻過ぎ止 申の刻頃雷鳴 即刻止 (去る6日夜赤石組舞戸村で出火・類焼とも30軒焼失・火元高無処分不明、板屋野木村の男を米穀商売家業に申し付ける)
1837年	11月12日	天保8年	10月15日 曇	昨夜雪少し降 今暁丑の刻頃より西南風吹 卯の刻過ぎ止 今日雪少し降 (窮民をいずれも本所に引取らせたので施行小屋取壊し)
1837年	11月13日	天保8年	10月16日 曇	折々晴 (文政7年(15年くらい昔)だより造っていた鑄筒(300目玉筒2挺・200目玉筒3挺・100目玉筒10挺・50目玉筒10挺・30目玉筒10挺)が皆出来し上納)
1837年	11月14日	天保8年	10月17日 晴	昨夜霜降 午の刻過ぎより曇 (日記物書見習3人に仰せ付ける。革秀寺の御手鑑等を盗んだ男を召捕・入牢、当年より5ヶ年間諸湊入御役銭三ヶ御免)
1837年	11月15日	天保8年	10月18日 曇	今暁丑の刻過ぎより雨降 酉の刻頃止 戌の刻過ぎ雨降 即刻止 今暁寅の刻頃より東南風吹 卯の刻頃止ム (御元々の御買占(多分1俵の)定価:中餅米32文目・蕎麦 12日に続く
1837年	11月16日	天保8年	10月19日 曇	辰の刻過ぎより雨降 午の刻頃止ム (付木屋共に岩木嵩之硫黄45貫目を取らせる、古懸不動尊御出汗・神楽等を行わせる)
1837年	11月17日	天保8年	10月20日 晴	酉の刻過ぎより雨時々降 下から続く 松前船が破船・乗り合いの者別条なし)
1837年	11月18日	天保8年	10月21日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻(虫)止ム (虫虫虫)より雨時々(虫) (御用金・調達米の上納残りは残らず御免とする・ただし前田・武田・伊香は除く) 下から続く 曇月湊で 上に続く
1837年	11月19日	天保8年	10月22日 曇	昨夜よりの雨今日二およひ時々降 申の刻頃止ム 戌の刻過ぎより雨降 (小泊湊近くの脇元村薬師堂下濱に去月27日新潟出帆の越後船が破船6人中4人が流れ着く、去月28日 上に続く
1837年	11月20日	天保8年	10月23日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過ぎ止 辰の刻頃小雨降 即刻止ム 巳の刻頃より晴 下から続く 豆腐(3寸四方高さ2寸)1分)
1837年	11月21日	天保8年	10月24日 晴	昨夜霜降 (御賞) 下から続く 醬油1升1文目2分・酢1升8分・粒水油1升4文目8分5厘(1合売り5分)・菜種水油1升4文目7分(1合売り4分4文宛)・味噌目形5貫800目10文目 上に続く
1837年	11月22日	天保8年	10月25日 快晴	昨夜霜降 (8日曇月に年齢37・8歳位の男に死骸が流れ寄せる・仮葬、去月27日三蔵宇鉄東風泊で油川船が破船・乗員3人別条なし、御元々が申出の定価:酒1升代1文目6分・ 上に続く
1837年	11月23日	天保8年	10月26日 晴	折々曇 戌の刻過ぎより雨時々降 下から続く 前浜に破船・2人海死、同日曇月湊で松前船が破船・乗員無事)
1837年	11月24日	天保8年	10月27日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過ぎ止 今暁子の刻過ぎより雷鳴 丑の刻頃強し 寅の刻過ぎ止ム (日付不明に脇元村領前浜に羽州亀田の船が流寄せる2人海死、去月28日曇月 上に続く
1837年	11月25日	天保8年	10月28日 曇	今日雪少し降 (去月28日夜舞戸村に越後船破船・6人中4人海死、去月29日岩崎村に加茂・加州船破船・共に乗員無事、深浦前浜に箱館船破船・乗員無事、昨27日夜御家中木部屋出火)
1837年	11月26日	天保8年	10月29日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (盗徒の男2人を召捕揚屋入り、御用達預り手形の贋版木を作って?長柄の者入牢) 下から続く 等焼失・火元居村預け)
1837年	11月27日	天保8年	10月30日 曇	昨夜雪降 一寸程積 本日雪少し降 (米穀商売家業を25人に申し付ける、西御郭御馬場南之外薬屋祢廻並西御門内丸太建之……、去る26日猿賀組下浅瀬石村で出火・建家 上に続く
1837年	11月28日	天保8年	11月1日 曇	昨夜雪降 一寸程積 本日雪降 三寸程積 (沢兵部を持筒足軽頭に等の人事異動、頃日に至り無名の言上書度々あり)
1837年	11月29日	天保8年	11月2日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積 (見聞き方(目明し)1人扶持・御用の節帯刀御免、去る21日夜横内組で出火・建家等焼失・火元百姓、調達金納入不能として入牢中の2人を出牢)
1837年	11月30日	天保8年	11月3日 晴	昨夜雪少し降 未の刻過ぎより曇(晴 昨夜雪少し降未刻過ぎり曇)
1837年	12月1日	天保8年	11月4日 晴	未の刻過ぎより曇 (御元々が申し出候頃日に至り御用達預り手形を直安に売買いたし又は直安に買溜等致し候者茂有之……藩札?が値崩れ、新穀相場米1俵代70目・ただし平均値段)
1837年	12月2日	天保8年	11月5日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (通用米にて30目値段(何を意味するか不明)・大豆18文目・小豆25文目・菜種35文目・粒油30目、両濱にて売り払いの御買上値段 10月6日に続く
1837年	12月3日	天保8年	11月6日 曇	昨夜雪少し降 午の刻頃より折々晴
1837年	12月4日	天保8年	11月7日 曇	今日雪少し降 (去る22日野内町支配が出火・火元戸々、昨6日屋簷代組鳥町村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1837年	12月5日	天保8年	11月8日 曇	今日雪降 一寸程積 (人事異動)
1837年	12月6日	天保8年	11月9日 晴	昨夜雪降強し 雪一寸程積 今日雪少し降 下から続く 破船の本庄船で2人海死、米穀家業の追加11人、刻印のない木を取押えている・犯人は逃げ去る)
1837年	12月7日	天保8年	11月10日 晴	午の刻より曇 (9月28日の夜十三町の22艘の船が松前で破船・全員無事、9月29日十三湊に越後船乗り上げ・磯松村前浜に流れ寄せた船で2人が海死・9月10日十三前沖で 上に続く
1837年	12月8日	天保8年	11月11日 晴	(闇米11俵を取押えている) 下から続く 共1升を5文目9分1合を6分充・小豆32文目・小麦40目・鉄砲豆22文目・碁石豆20目・青鶴豆20目・鶴の子豆21文目・菓子豆18文目に改定)
1837年	12月9日	天保8年	11月12日 曇	昨夜雪降 式寸程積 辰の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (錠ヶ関村百姓勝助は公儀からの御尋者、西之御郭より四之郭江之埋樋を兼平石で……、御買上定価菜種粒油 上に続く
1837年	12月10日	天保8年	11月13日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ辰の刻頃止む 今日雪少し降 (去る8日夜金木新田福井村で出火・居宅焼失・火元居村預け)
1837年	12月11日	天保8年	11月14日 晴	午の刻過ぎより時々晴 (去月28日夜金木組尾別村で出火・建家土蔵等焼失・火元百姓居村預け)
1837年	12月12日	天保8年	11月15日 晴	午の刻頃より折々曇 (人事異動、御賞、米穀商売家業の者4人補充、馬を打殺し喰料にした男の共犯2人を入牢) 下から続く 当毛引高7473石2斗9升7合(仕付田方記述なし))
1837年	12月13日	天保8年	11月16日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 下から続く 当引高5424石4斗4升7合4タ(仕付田方14979石5斗2升2合の内)・田舎館藤崎飯詰広田の4ヶ組と俵元金木組新田の 上に続く
1837年	12月14日	天保8年	11月17日 曇	昨夜よりの雨今暁子の刻過ぎ止ム 昨夜雪少し降 今日霰少し降 (一昨15日暮前和徳町の小店に4歳位の女子捨子・町内に預置き養育、浦町横内油川後潟の4ヶ組の御検見 上に続く
1837年	12月15日	天保8年	11月18日 晴	昨夜雪少し降 酉の刻頃より小雨降 亥の刻過ぎ止ム
1837年	12月16日	天保8年	11月19日 晴	(新酒値段1升を2文目に申し付ける、味噌商売を6人に申付ける)
1837年	12月17日	天保8年	11月20日 晴	未の刻過ぎより折々曇 (長勝寺で時夜退散の御祈祷)
1837年	12月18日	天保8年	11月21日 晴	(杉沢某を元々役に等の人事異動、濁酒で何人か捕まっているが取上げられただけになっている)
1837年	12月19日	天保8年	11月22日 晴	申の刻過ぎ雨降 則刻止 亥の刻過ぎ雨降 則刻止 (刻印のない木を取上げられている-こちらは逃げ去る) 下から続く 大廻見分引高7899石7斗1升4合(高41655石1升8合の内))
1837年	12月20日	天保8年	11月23日 曇	(御印附御蔵米1俵95匁値段、一昨21日浪岡組五本松村で出火・建家等焼失・火元居村預け) 下から続く 多くの犯罪をうやむやにしている、駒越高杉藤代赤田猿賀組 上に続く
1837年	12月21日	天保8年	11月24日 曇	昨夜霰少し降 今日雪少し降 (昨23日暁藤代組鳥町村で出火・類焼共3軒借家2人(軒?)馬1疋焼失・火元他村預け、密造酒御取上げ、新酒値段1升1文目8分を2文目に値上げ、 上に続く
1837年	12月22日	天保8年	11月25日 晴	酉の刻過ぎより雨降 亥の刻過ぎ雷鳴 即刻止 (預手形は4通であったが3欠預・2欠預・5分預を追加発行)
1837年	12月23日	天保8年	11月26日 曇	昨夜より雨 今暁寅の刻止 今日雪少し降 (密造濁酒御取上げの上御用捨4人・こんな例がほとんど毎日・これまでも省略多い)
1837年	12月24日	天保8年	11月27日 晴	昨夜雪少し降 (去る22日暁後潟組阿弥陀川村で出火・建家等焼失・火元居村預け、津軽出雲昨夜病死、和徳堀越大鰐尾崎大光寺組の大廻見分当毛引:7904石8斗1升6合)
1837年	12月25日	天保8年	11月28日 晴	(御用達通用切手形は正金同様といってきた・頃日正金で隠し売買したり小銭がないと釣を出さない切手形の5懸け7懸け等と唱え相場を引下げのような事態が生じている)
1837年	12月26日	天保8年	11月29日 晴	卯の刻過ぎ虫虫(地震か)少し (密造酒で多数が捕まっているが品物を取上げられて釈放されている)
1837年	12月27日	天保8年	12月1日 晴	今朝霜降 (御代官12人に御賞、去月28日夜浪岡組高屋敷村で出火・建家土蔵等焼失・火元居村預け)
1837年	12月28日	天保8年	12月2日 晴	(去る29日生鰯を取押える)
1837年	12月29日	天保8年	12月3日 晴	今朝霜降 下から続く 白米御払い相場が110文目余であるが白米1俵95文目で売り払うよう申付ける、去月12日上宇鉄湊で松前船が破船・乗合い別条なし)
1837年	12月30日	天保8年	12月4日 晴	未の刻頃より曇 酉の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (当作雑穀の類枯庭・明年出作の頃まで色大豆並びに大小麦・粒油・菜種は平等売り?、船中糶米は当時(現在)の 上に続く
1837年	12月31日	天保8年	12月5日 曇	昨夜よりの小雨今暁寅の刻頃止ム (当9月6日夜鰯ヶ沢新地で住人の抱子の衣類を剥取ろうとしてこの住人等に手傷を負わせた掃除小人等3人を召捕り揚屋入り)

1838年	1月1日	天保8年	12月6日	晴	(去月28日夜浦町組大野村で出火・建家土蔵等焼失・火元百姓居村預け)	
1838年	1月2日	天保8年	12月7日	曇	昨夜雪少し降 未の刻過ぎより雨降 酉の刻頃止ム 下から続く 南部澗で十三領分磯松村の船が破船・3人中1人海死)	
1838年	1月3日	天保8年	12月8日	晴	昨夜雪少し降 馬の刻過ぎより折々曇 (高杉組中別所村の男が所々より馬を盗み打殺し食料にする・入牢、常盤組田圃で藤崎組の百姓が稲穂切中深手・死亡、当9月27日に	上に続く
1838年	1月4日	天保8年	12月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (青森町同心幸林吉蔵が病氣その子勇次郎を15俵1人扶持で同心に、去る5日夜広須組千蔵村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け)	
1838年	1月5日	天保8年	12月10日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1838年	1月6日	天保8年	12月11日	晴	昨夜雪少し降 未の刻頃より折々曇	
1838年	1月7日	天保8年	12月12日	晴	未の刻過ぎより折々曇 (餅米格別払底・この節より年内限り餅米平等売買(意味不明:うるち米と餅米の値段を同じにする?)仰せ付けられる・1俵の値段は45文目とする)	
1838年	1月8日	天保8年	12月13日	晴	昨夜雪少し降	
1838年	1月9日	天保8年	12月14日	曇	今日雪降 二寸程積 (去る10日夜増館組吉野田村と飯詰組福岡村で出火・共に建家穀物等焼失・火元百姓と不明男居村預け)	
1838年	1月10日	天保8年	12月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (去る12日晚尾崎組町居村で出火・建家粃稻乳外馬屋等焼失・類焼1軒あり・火元百姓他村預け)	
1838年	1月11日	天保8年	12月16日	曇	昨夜雪ス 二寸程積る (東長町片谷清次郎本店で作っていた御用達預通用手形を御巡検使が来るので古学校の内大手先西北角御長屋で作るようにする)	
1838年	1月12日	天保8年	12月17日	晴	(別段役が方々で赤小豆・駒・玄米・黒大豆・粃粉・米・蓑等を取上げる・犯人は殆ど全員逃亡、袖乞の者を居村に送り返すよう努力している) 下から続く 薄雪のためか雉子の上納なし)	
1838年	1月13日	天保8年	12月18日	晴	昨夜雪降 二寸程積 戌の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ雷鳴 即刻止ム (黒石の隠売商人6人を揚屋入等に、去る14日夜藤代組廻関村で出火・建家等焼失・火元居村預け	上に続く
1838年	1月14日	天保8年	12月19日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止	
1838年	1月15日	天保8年	12月20日	曇	今日雪降 一寸程積 (刻印のない木を沢山押えている)	
1838年	1月16日	天保8年	12月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1838年	1月17日	天保8年	12月22日	曇	(大奉紙にて残高の手形出来(10文目・15文目・20目)・御用達預手形出来(10文目・15文目・20目)、広居某が歌舞伎興行を申し出る・了承)	
1838年	1月18日	天保8年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、御賞)	
1838年	1月19日	天保8年	12月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 今日雪少し降 (この度代銭渡しの上御代官手にて歩無米30000俵御買入・これで来耕作並びに難渋の者共え手当てするよう仰せ付けられなかった?)	
1838年	1月20日	天保8年	12月25日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 今日雪少し降 下から続く 付け難い、男が傷寒で牢死)	
1838年	1月21日	天保8年	12月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル (この度米穀相対売買を仰せ付けられた米穀家業の者共が買い入れ不能?、当作存外の減石・御買取に相成っても津出を仰せ	上に続く
1838年	1月22日	天保8年	12月27日	晴	亥の刻過ぎより雨降 (多数の木を住民が伐り荒らしている・止むを得ないとして御用捨) 下から続く 同見習い10人等々100ページ弱に渡り多数に御賞、御給分 欄外(*)に続く	
1838年	1月23日	天保8年	12月28日	曇	昨夜よりの雨今日におよび巳の刻頃止ム 今日雪少し降 今暁子の刻過ぎより東南風吹 丑の刻過ぎ止ム (人事異動、佐藤栄吉等御元方勘定小頭11人・同勘定人20人・	上に続く
1838年	1月24日	天保8年	12月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (御賞、町目付・海岸御締方勤め中の御家中の手先を勤めている男2人に召捕り方の節一刀御免)	
1838年	1月25日	天保8年	12月30日	曇	昨夜吹雪強し 雪二寸程積虫(ル?) 虫虫(今日?)雪降 二寸程積ル (当春川原平村の獵師孫六が熊4つ狩取る・御賞鳥目3貫文と熊皮1枚下さるはずだが熊皮は追って下し置かれる)	
1838年	1月26日	天保9年	正月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (青森御蔵米1000俵を1俵56文目・85文目(造酒米)で御払仰せ付ける)	
1838年	1月27日	天保9年	正月2日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル	
1838年	1月28日	天保9年	正月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (御吉例金200両御金奉行より差出す、御謡初)	
1838年	1月29日	天保9年	正月4日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル (大鰐村加賀輔より例年の通り七種差上げる)	
1838年	1月30日	天保9年	正月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル	
1838年	1月31日	天保9年	正月6日	晴	昨夜雪降 二寸程積ル 頃日寒強し	
1838年	2月1日	天保9年	正月7日	晴		
1838年	2月2日	天保9年	正月8日	曇	今日雪降 三寸程積ル (昨7日戌の下刻百沢大堂岩木山御本地仏御惣鉢御出汗・重御神楽重御祈禱を仰せ付ける)	
1838年	2月3日	天保9年	正月9日	曇	昨夜雪降 一寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル	
1838年	2月4日	天保9年	正月10日	曇	今暁丑の刻過ぎより雨降 卯の刻頃止ム 今日雪降 三寸程積ル 下から続く との申し出・預り手形の強制通用を申付ける)	
1838年	2月5日	天保9年	正月11日	曇	昨夜雪降 四寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル (米穀相対買仰せ付け後は通用手形に正金交じりで1俵100目位でなければ買い入れがたいとの報告・小売値段も正金半分に	上に続く
1838年	2月6日	天保9年	正月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル 折々晴	
1838年	2月7日	天保9年	正月13日	晴	昨夜雪降 二寸程積ル	
1838年	2月8日	天保9年	正月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1838年	2月9日	天保9年	正月15日	曇	昨夜雪降 二寸程積ル 今日雪少し降	
1838年	2月10日	天保9年	正月16日	曇	今日雪降 三寸程積ル 下から続く 増館組杉銀村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)	
1838年	2月11日	天保9年	正月17日	曇	昨夜吹雪強し 雪二寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (火災の飯詰組福岡村の百姓に御手当て米1俵下し置かれる・尾別村の百姓も申請したが遅いと断られる、去る14日昼	上に続く
1838年	2月12日	天保9年	正月18日	晴	昨夜雪降 二寸程積ル (去る13日朝俵元新田水野尾村で出火・建家焼失・火元居村預け、闇物資(小豆・米・大豆)を取押えている)	
1838年	2月13日	天保9年	正月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 三寸程積ル	
1838年	2月14日	天保9年	正月20日	曇	昨夜雪降 五寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル	
1838年	2月15日	天保9年	正月21日	快晴	昨夜雪少し降 (不明日に金木組中里村で出火・建家等焼失・火元居村預け、今日御社参御延引)	
1838年	2月16日	天保9年	正月22日	快晴		
1838年	2月17日	天保9年	正月23日	快晴		
1838年	2月18日	天保9年	正月24日	快晴	(去る12日五所川原御蔵の錠前押明け土米12俵盗み出した者あり・揚屋入り、闇物資(塩鱈)が取上げられている)	
1838年	2月19日	天保9年	正月25日	快晴		
1838年	2月20日	天保9年	正月26日	快晴	今暁子の刻過ぎ雨降 即刻止ム (不実の豆腐屋の御印札取上げ戸ペ)	
1838年	2月21日	天保9年	正月27日	晴		
1838年	2月22日	天保9年	正月28日	曇	昨夜吹雪強し 今日雪降 二寸程積ル (御賞、闇物資(酒4斗2升・米2俵・赤小豆1斗1升余・粒油1斗6升3合入り1俵・白米2斗入り12俵4斗入り1俵等々)を御取上げ	
1838年	2月23日	天保9年	正月29日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (鍛冶町の豆腐屋某は預手形を持参の者に小ぶりの正銭持参の客には大ぶりの豆腐を売り払う・仲間中廻り預(何でしょうね)申しつける)	
1838年	2月24日	天保9年	2月1日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1838年	2月25日	天保9年	2月2日	曇	午の刻過ぎより雨降 未の刻過ぎ止ム	
1838年	2月26日	天保9年	2月3日	曇	今暁寅の刻頃地震少し 辰の刻頃小雨降 即刻止ム 今日雪降 二寸程積ル (西館宇膳が御国下がり・到着)	
1838年	2月27日	天保9年	2月4日	曇	昨夜雪降 五寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (去る朔日夜和徳組堅田村で出火・建家種粃等焼失・火元代庄屋慎)	
1838年	2月28日	天保9年	2月5日	曇		

(*) 御取放等の片谷・前田・鳴海某の田畑等を御返し上納金の残金はいずれ上納するよう仰せ付けられる:親類たちが何とかしたのかも)

1838年	3月1日	天保9年	2月6日	晴	
1838年	3月2日	天保9年	2月7日	曇	辰の刻過ぎ小雨降 即刻止ム 午の刻過ぎより折々晴
1838年	3月3日	天保9年	2月8日	曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止ム
1838年	3月4日	天保9年	2月9日	曇	午の刻過ぎより折々晴 (新鯉を積み江戸に向かった御手船八幡丸が仙台沖で破船) 下から続く 米1俵充て下し置かれる)
1838年	3月5日	天保9年	2月10日	曇	戌の刻過ぎより雨降 (去月28日夜浦町組大野村で出火・家財諸道具等残らず焼失・御手当て米1俵下し置かれる、俵元新田水野尾村・金木組中里村の火災の者共に御手当 上に続く
1838年	3月6日	天保9年	2月11日	曇	昨夜より雨今日におよひ未の刻過ぎ止ム 今日雪降 二寸程積ル (所々で盗徒で町預けを逃げた男を入牢) 下から続く 雪船1艘・ぶり子55連・桧尺桎5000枚等々)御取上げ)
1838年	3月7日	天保9年	2月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積ル 今日雪降 二寸程積ル (去る12月23日奥平部崎で黒石米積みの箱館船が破船、闇物資沢山(米12俵・餅米4斗1升・大豆6俵3斗余・小豆3斗5升余・ 上に続く
1838年	3月8日	天保9年	2月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積ル (闇物資沢山(駒2疋等々)、隠し津出で捕まって米を取上げられてもこの度は御用捨となっている)
1838年	3月9日	天保9年	2月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積ル 今日雪降 一寸程積ル (闇物資あり)
1838年	3月10日	天保9年	2月15日	曇	昨夜雪少し降 (闇物資沢山御取上げ、青森町伊藤屋某に米を200俵お払いの上造酒・2斗入りで320樽御役1樽1文目5分上納の上青森湊津出仰せ付ける)
1838年	3月11日	天保9年	2月16日	晴	(去る10日夜広須組芦沼村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓居村預け)
1838年	3月12日	天保9年	2月17日	曇	(所々より盗み徒の5人を入牢)
1838年	3月13日	天保9年	2月18日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積ル 亥の刻頃より東南風吹
1838年	3月14日	天保9年	2月19日	晴	昨夜よりの風今晚丑の刻過ぎ止ム
1838年	3月15日	天保9年	2月20日	曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止ム 戌の刻頃より東南風吹 亥の刻過ぎ止ム
1838年	3月16日	天保9年	2月21日	曇	未の刻頃より雨降 酉の刻過ぎ止ム (土蔵破りの5人を入牢)
1838年	3月17日	天保9年	2月22日	曇	昨夜雪少し降
1838年	3月18日	天保9年	2月23日	曇	昨夜雪少し降
1838年	3月19日	天保9年	2月24日	曇	申の刻頃より雨降 亥の刻過ぎ止ム (鯨ヶ沢町新知町茶屋家業の裏二階で男女が変死)
1838年	3月20日	天保9年	2月25日	曇	申の刻頃より雷雨 雷即刻止ム 雨酉の刻過ぎ止ム (御賞銀5両充)
1838年	3月21日	天保9年	2月26日	晴	
1838年	3月22日	天保9年	2月27日	曇	昨夜雪少し降 午の刻過ぎより折々晴 (両組頭から米で知行を渡すよう申出・預手形で渡す)
1838年	3月23日	天保9年	2月28日	曇	今日霰降 (藤代両組の代官に山上七郎左衛門等の人事異動)
1838年	3月24日	天保9年	2月29日	曇	昨夜吹雪強し 雪二寸程積 今日雪少し降
1838年	3月25日	天保9年	2月30日	晴	
1838年	3月26日	天保9年	3月1日	晴	(横岡元弥倅勝太郎が御目見、小豆坂通り当年深雪にて……、不締の目明を1人扶持と一刀御取放の上手先目明御取放、去る27日浪岡組高屋敷村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1838年	3月27日	天保9年	3月2日	曇	巳の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止 戌の刻頃より東南風強し
1838年	3月28日	天保9年	3月3日	曇	昨夜よりの風今晚丑の刻過ぎ止 卯の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 下から続く 焼失・火元百姓居村預け)
1838年	3月29日	天保9年	3月4日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 午の刻頃より折々晴 (近習坊主・御留守居組等から米渡し正金渡しの申し出・預り手形で……、去月晦日金木組毘沙門村で出火・建家土蔵等 上に続く
1838年	3月30日	天保9年	3月5日	晴	未の刻過ぎより折々曇
1838年	3月31日	天保9年	3月6日	曇	今晚子の刻過ぎより雨降 去るの刻過ぎ止 (去作の儀滅石と申しながら去る巳年(天保4年)の凶歳及び一昨年凶荒には比較致すべき作牀には乏しく……)
1838年	4月1日	天保9年	3月7日	曇	今晚丑の刻頃小雨降 即刻止 (米の直渡しに返すことを御徒・御中小姓の面々も申し立てている)
1838年	4月2日	天保9年	3月8日	曇	昨夜霰少し降 今日霰少し降 午の刻頃より折々晴 (昨夜駒越組深山村で出火・建家1軒焼焼1軒等焼失・火元百姓他村預け、米1俵値段：地域によって異なるが49文目5分～56文目)
1838年	4月3日	天保9年	3月9日	曇	今日霰少し降
1838年	4月4日	天保9年	3月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る7日青森上新町で出火・類焼2軒潰家2軒建馬1疋焼死・火元慎み)
1838年	4月5日	天保9年	3月11日	晴	昨夜雪少し降 (去る6日夜浦町組濱田村で出火・建家建馬等焼失・火元高無居村預け)
1838年	4月6日	天保9年	3月12日	曇	(御朱印今日差し立てられている)
1838年	4月7日	天保9年	3月13日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 午の刻頃より折々晴
1838年	4月8日	天保9年	3月14日	曇	今日雪少し降 巳の刻頃より折々晴 (闇物資(米7斗余・玄米3俵1斗5升・酒4升・大豆1斗2升5合・駒2疋・塩7俵・醤油1斗9升・塩鯉10本)御取上げ)
1838年	4月9日	天保9年	3月15日	晴	(盗賊の宿・手引きの男を入牢) 18日から続く 尾別村で出火・類焼共10軒その外土蔵外馬屋共7軒焼失・火元百姓他村預け)
1838年	4月10日	天保9年	3月16日	晴	戌の刻頃より南風吹 (小山内武左衛門・大道寺族之助・津軽頼母を用人兼帯との人事異動)
1838年	4月11日	天保9年	3月17日	曇	昨夜よりの風今晚子の刻過ぎ止 今晚丑の刻頃より雨時々降 辰の刻過ぎ止 午の刻頃より折々晴 (闇物資(大豆1斗7升・玄餅米5升・米1俵・銭90文目5分)御取上げ)
1838年	4月12日	天保9年	3月18日	晴	(不明日に堅田村で出火・建家穀物等焼失・御手当米1俵下し置かれる、去る13日夜後湯組小橋村で出火・類焼共3軒外馬屋2軒馬3疋等焼失・火元庄屋慎み、去る14日金木組 15日に続く
1838年	4月13日	天保9年	3月19日	晴	
1838年	4月14日	天保9年	3月20日	曇	今晚寅の刻頃雨降 即刻止 未の刻過ぎより折々晴
1838年	4月15日	天保9年	3月21日	曇	今日雪少し降 (人事異動、去る6日濱田村で出火・居宅焼失・火元高無に御手当て米1俵下し置かれる)
1838年	4月16日	天保9年	3月22日	曇	今晚丑の刻頃より西南風吹 巳の刻頃止 辰の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 巳の刻頃雷鳴 即刻止 今日霰降 (一昨20日夕高杉組独鉇村で出火・建家焼失・火元日雇居村預け)
1838年	4月17日	天保9年	3月23日	曇	今日雪少し降 午の刻頃より折々晴 下から続く 去る21日夜横内組久栗坂村で出火・類焼とも40軒程(のちに35軒と訂正)焼失・火元他村預け)
1838年	4月18日	天保9年	3月24日	晴	(7日夜の青森新町の火災で飯料を火事場泥棒にあつた者あり・御米2斗を払出し代銭は町奉行所に、去る20日夜油川組田沢村で出火・類焼1軒土蔵馬屋とも焼失・火元庄屋慎み、 上に続く
1838年	4月19日	天保9年	3月25日	晴	(御宮参り後外東御注進で御人中御玄閣に罷り出で……、去月23日尾崎組沖館村で出火・家財等焼失・火元高無他村預け(どこことなく不自然、闇物資(米2俵・醤油4斗 欄外(*)に続く
1838年	4月20日	天保9年	3月26日	曇	午の刻過ぎより折々晴 酉の刻過ぎより小雨時々降 (去る22日夜広須組玉水村で出火・建家等焼失・火元百姓他村預け(これも例が少ない))
1838年	4月21日	天保9年	3月27日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 亥の刻頃止 (時鐘撞きが病身御暇願ひ・同人子を1両2歩2人扶持下し置かれ時鐘撞きに新規召抱え)
1838年	4月22日	天保9年	3月28日	晴	
1838年	4月23日	天保9年	3月29日	晴	今晚寅の刻過ぎより小雨降 卯の刻過ぎ止(晴 今晚寅刻過ぎより小雨降卯刻過ぎ)
1838年	4月24日	天保9年	4月1日	晴	(去月24日夜横内組宮田村で出火・類焼とも8軒建馬3疋等焼失・火元百姓他村預け)
1838年	4月25日	天保9年	4月2日	晴	(何年か昔の破船・海死記事あり、2月26日夜鮮場行き雇29人を積んだ松前船が宇鉄村で破船・6人海死、去る23日屋十三町船が大時化で戸口下の方に乗上げ破船)
1838年	4月26日	天保9年	4月3日	晴	卯の刻頃小雨降 即刻止 折々曇 (昨夜暮頃御家中宅出火・隣家とも焼失・1人の身上召上永の暇、我意に募り私欲を専に致し賄賂を貪り驕奢等で田中勝衛(元ㄱ役の1人)の御役召放)
1838年	4月27日	天保9年	4月4日	晴	(南溜池で殺生の男を戸ㄱ) 下から続く 村で出火・類焼馬3疋焼失、去月20日岩崎村で新湯船が難船・濡米あり、去る3日屋尾崎組広船村で出火・類焼共3軒焼失 欄外(**)に続く
1838年	4月28日	天保9年	4月5日	晴	未の刻頃より折々曇 (御元ㄱの言で江戸御廻米積取船4艘が青森に入湊中・青森御蔵に御備米なし・御巡検御用もあり藤崎五所川原高杉等の蔵から送る、去月13日夜小橋 上に続く
1838年	4月29日	天保9年	4月6日	曇	今晚寅の刻頃小雨降 即刻止 午の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断
1838年	4月30日	天保9年	4月7日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 巳の刻過ぎ止 (闇物資(南部多葉粉(煙草)103玉・雑駄1疋)御取上げ、去る3日広須組橋村で出火・建家等焼失・火元居村預け、青森で宿の客が病死)

(*)・煙草20玉)を取押える、21日夜横内組久栗坂村で出火・類焼とも35軒焼失)(**)・火元高無他村預け、堀越組小栗山領千山御茶屋廻江酒肴等持参いたし御茶屋之内江隈二入込……、菓種4斗入り俵が66文目4分8厘2毛08相当に付御定法では水油1升が11文目9分5厘9毛に相当・1合につき1文目2分値段で上納を仰せ付けられる、去月27日夜蓬田村の死絶の家から出火)

1838年	5月1日	天保9年	4月8日	晴	(本多東作を諸手足軽頭兼郡奉行に郡奉行手伝山上才助を御使番(勤料10俵)に等の人事異動)
1838年	5月2日	天保9年	4月9日	曇	卯の刻過ぎより小雨時々降 未の刻頃止 下から続く 油川組鶴ヶ坂村で出火・類焼共3軒焼失女子1人焼死・火元他村預け)
1838年	5月3日	天保9年	4月10日	曇	今晩丑の刻頃より小雨時々降 巳の刻過ぎ止 (去る2日屋内真部湊支配長科村の稲荷社が焼失、……者江下し置かれ候賄米半分通正米渡し余は御買上渡し……、去る6日昼 上に続く
1838年	5月4日	天保9年	4月11日	晴	(御使番山上才助を元々手伝(勤料100俵)に等の人事異動、御本陣並びに飛脚宿3ヶ処が類焼し御手当てとして下し置かれる)
1838年	5月5日	天保9年	4月12日	晴	30日から続く 青森町から屋敷物成の金納願い: 十三町は1俵に付47匁8分2厘・青森町は46匁2分積で上納させる、闇物資御取上げ、今26日左関村沖に流れ鯨、昨夜茂森町で男自害)
1838年	5月6日	天保9年	4月13日	快晴	(御元々方の勘定小頭等が御目見以下に役下げ) 29日から続く 去る26日屋木作新田下相野村で出火・類焼とも2軒その他焼失・火元百姓他村預け、去る18日碓ヶ関御山に野火)
1838年	5月7日	天保9年	4月14日	快晴	21日から続く 53・玄米2斗5升・馬2疋・米28俵・煙草20玉等々: 産物・売却時の値段も見える)御取上げ、火災に遭っていた8人に御米2斗充下し置かれる)
1838年	5月8日	天保9年	4月15日	快晴	(人事異動) 17日から続く 類焼共3軒焼失・火元他村預け、家財を焼失の35人に御手当て米2斗充下し置かれる)
1838年	5月9日	天保9年	4月16日	晴	(去る10日夜木造新田亀ヶ岡村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、元御々役田中勝衛を川原平村への牢居を申渡す・その子藤太を知行の内半分召上げ御目見以下御留守居支配に)
1838年	5月10日	天保9年	4月17日	晴	(居宅が焼失の6人の者に御手当て御米1俵充下し置かれる、去月10日出火の田沢村の2人に御手当て米1俵充下し置かれる) 下から続く 木作新田筒木坂村で出火・ 15日に続く
1838年	5月11日	天保9年	4月18日	晴	(人事異動、去る10日夜九時頃飯詰組下松野木村で出火・建家等焼失・火元百姓居村預け、秋田早口から鷹熊胆が入ってる) 下から続く 御取上、去る16日昼九時頃 上に続く
1838年	5月12日	天保9年	4月19日	曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 (闇物資(青大豆395把・胡瓜140本・玄米1俵・米4斗入り3俵・桧2尺桎7000枚・鱈9本・曲わつは(曲げわっぱ)20・小豆1斗余等々 上に続く
1838年	5月13日	天保9年	4月20日	曇	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過ぎ止 午の刻頃より折々晴 未の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨申の刻過ぎ止 (建家等を焼失の後潟組阿弥陀川村の男が御収納御免願い・了)
1838年	5月14日	天保9年	4月21日	曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止 申の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (闇物資(青大豆9丸・唐茄子17・茄子140ほど・胡瓜17本・大角豆350・金柑瓜3つ・青豆1丸・真瓜22本・嶋瓜 14日に続く
1838年	5月15日	天保9年	4月22日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 巳の刻頃止 (人事異動、闇物資(米・酒・桎等)御取上げ、去る19日夜田舎縦組東光寺村で出火・建家焼失・火元高無居村預け)
1838年	5月16日	天保9年	4月23日	晴	(闇物資(鱈24本・売り払い代銭48文目・米・水油・味噌・醬油・須・丹波茶25斤入り4俵)御取上げ) 下から続く 宮崎八十吉預手形を当分御見合せ仰せ付けられる)
1838年	5月17日	天保9年	4月24日	晴	未の刻過ぎ雷雨 即刻止 申の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (闇物資(玄米・布団・刀・糍・鯨10枚等)御取上げ、柏木館野に火事) 下から続く 勘定所に移る、 上に続く
1838年	5月18日	天保9年	4月25日	晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 (昨日の柏木館山の火災は夕八時半過ぎ鎮火・幅50間×8丁位焼失、密造酒の道具を毀している、闇物資(酒4樽等)御取上げ、この度御元方が 上に続く
1838年	5月19日	天保9年	4月26日	快晴	下から続く 昨夜九時頃田舎縦組大根子村で出火・類焼とも2軒焼失・火元百姓他村預け、歩引渡しの内容: 高200石以上5歩・50石以上4歩・20石以上2歩4厘引き・等々)
1838年	5月20日	天保9年	4月27日	晴	未の刻過ぎより折々曇 下から続く 140枚・白米4升・酒5升余・米2俵3斗3升7合等々)御取上げ、昨夜九時頃堀越組松木平村で出火・類焼共5軒焼失・火元百姓他村預け、 上に続く
1838年	5月21日	天保9年	4月28日	曇	申の刻過ぎ小雨降 即刻止 酉の刻頃より雨降 戌の刻頃止 (家中一同に歩引渡し・質素倹約の達。御元方勘定人見習い等10人を引き上げる、闇物資(熊皮・王余魚(鰯) 上に続く
1838年	5月22日	天保9年	4月29日	晴	(勘定人見習い等に御賞、闇物資(玄米・酒・大豆・小豆・竹杖等々)御取上げ、大納戸役の申し出: 御仕裁物上納仕賃が滞る・預手形で支払われても……正銭30目渡す、 13日に続く
1838年	5月23日	天保9年	4月30日	曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止 (金13200両と米31000俵の調達を各町・在に割付け?、闇物資(小豆・大豆・駒・米・塩引・なまこ・味噌・酒・桧2尺桎・粒油等々)を御取上げ、十三町と 12日に続く
1838年	5月24日	天保9年	閏4月1日	晴	(用人大道寺族之助を手廻一番組頭兼帯等の人事異動)
1838年	5月25日	天保9年	閏4月2日	曇	未の刻過ぎより雨時々降 戌の刻頃止 (闇物資(米・桧2尺桎・金頭(魚かな?)300疋・牛蒡30本等々)御取上げ、昨夜富田町長屋辺りで出火)
1838年	5月26日	天保9年	閏4月3日	晴	
1838年	5月27日	天保9年	閏4月4日	曇	卯の刻過ぎより雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜に入同断 (この度鶴ヶ坂御牧再興、去月22日夜十三町で土蔵が切破られる)
1838年	5月28日	天保9年	閏4月5日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 未の刻頃止
1838年	5月29日	天保9年	閏4月6日	晴	(土手町大橋を以来達葉橋とする)
1838年	5月30日	天保9年	閏4月7日	晴	(長勝寺で時疫退散の御祈禱)
1838年	5月31日	天保9年	閏4月8日	曇	辰の刻過ぎ地震少し 未の刻より雨時々降 夜二入同断 下から続く 他村預け、米金調達の催促をしている)
1838年	6月1日	天保9年	閏4月9日	晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 卯の刻頃より東風吹 辰の刻過ぎ止 (酒等の御取上げ多し・売払った値段もある、去る4日夜後潟組大川平村で出火・類焼共2軒焼失・火元 上に続く
1838年	6月2日	天保9年	閏4月10日	曇	巳の刻過ぎ雨降 即刻止 辰の刻過ぎより雨 南風吹 未の刻過ぎ止
1838年	6月3日	天保9年	閏4月11日	晴	今晩寅の刻過ぎ地震少し (人事異動、巡見使御下向に關し飯手代何人か臨時採用)
1838年	6月4日	天保9年	閏4月12日	快晴	(津輕金蔵を還俗・蟄居御免、巡見使御下向に關し担当者の配置あり)
1838年	6月5日	天保9年	閏4月13日	快晴	(以上支配横岡左圭衛門が今晩病死)
1838年	6月6日	天保9年	閏4月14日	快晴	
1838年	6月7日	天保9年	閏4月15日	曇	巳の刻頃地震少し 馬の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1838年	6月8日	天保9年	閏4月16日	曇	昨夜よりの雨今晩丑の刻過ぎ止 卯の刻過ぎより雨時々降 巳の刻頃止 (去る11日昼堀越組大和沢村の柏木館山で野火、闇物資(鱈1本代1文目5分等)御取上げ)
1838年	6月9日	天保9年	閏4月17日	晴	申の刻頃より曇 酉の刻過ぎ雷鳴 卯の刻頃止
1838年	6月10日	天保9年	閏4月18日	曇	今晩丑の刻過ぎ雨降 即刻止 卯の刻頃より雨時々降 午の刻過ぎ止 (人事異動、大坂船の水主が青森湊で?海死)
1838年	6月11日	天保9年	閏4月19日	晴	戌の刻頃より雨時々降
1838年	6月12日	天保9年	閏4月20日	曇	昨夜よりの小雨今日におよび時々降 夜に入同断 (出火で家財等を失った7人に御手当て米2斗充下し置かれる、去る17日夜木作新田下相野村で出火・建家等焼失・火元居村預け)
1838年	6月13日	天保9年	閏4月21日	晴	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過ぎ止 (来月中旬頃御免駕と仰せ出される)
1838年	6月14日	天保9年	閏4月22日	晴	(人事異動、去る19日夜木作新田富港村で出火・類焼とも2軒と小木屋焼失・火元他村預け)
1838年	6月15日	天保9年	閏4月23日	晴	
1838年	6月16日	天保9年	閏4月24日	曇	申の刻より雨時々降 夜に入同断 (人事異動、明25日より時疫退散の御祈禱を長勝寺で)
1838年	6月17日	天保9年	閏4月25日	曇	昨夜よりの雨今晩丑の刻過ぎ止 未の過ぎより雨時々降 夜に入同断 (佐藤栄吉を御手廻格に勤料の内5俵御加増等の人事異動)
1838年	6月18日	天保9年	閏4月26日	曇	昨夜よりの雨今日におよび辰の刻過ぎ止 巳の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止 (この度の調達金を早速上納の塩屋某等に御賞鳥目1貫文積りを以って菓子等を下し置かれる)
1838年	6月19日	天保9年	閏4月27日	晴	
1838年	6月20日	天保9年	閏4月28日	曇	辰の刻頃小雨降 即刻止 (人事異動、去る25日夜赤石組田浦村で出火・類焼2軒・火元他村預け)
1838年	6月21日	天保9年	閏4月29日	曇	辰の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎ止 (闇物資(米・煙草、桧2尺桎等)御取上げ)
1838年	6月22日	天保9年	5月1日	曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止 (七戸金五郎を大間越町奉行に等の人事異動、闇物資(大豆・水油・無刻印松材・馬等)御取上げ)
1838年	6月23日	天保9年	5月2日	晴	
1838年	6月24日	天保9年	5月3日	曇	申の刻頃小雨降 即刻止 戌の刻頃雨降 即刻止 (この度在方に調達米仰せ付けられた・赤米餅米は取替て上納を申し付けた・難しいとのこととどちらでも良いとした)
1838年	6月25日	天保9年	5月4日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 未の刻過ぎ止
1838年	6月26日	天保9年	5月5日	曇	未の刻過ぎより小雨降 即刻止 戌の刻過ぎ雨降 即刻止
1838年	6月27日	天保9年	5月6日	曇	
1838年	6月28日	天保9年	5月7日	晴	
1838年	6月29日	天保9年	5月8日	晴	(雷鳴るに付ご機嫌いい、一昨夜高杉村で出火・御藏無事)
1838年	6月30日	天保9年	5月9日	曇	巳の刻過ぎより雨降 申の刻過ぎ止 (飯料等を焼失の田浦村の者共等に御手当て米2斗充下し置かれる、当江戸御廻船都合5艘が永の滞船・有り合わせの材木を積み入れ送った?)

1838年	7月1日	天保9年	5月10日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止
1838年	7月2日	天保9年	5月11日 晴	(御昇進御祝に付今日より三日間(20日の記述では11日より18日まで)御能、津軽金蔵を馬廻組頭用人兼帯等の人事異動)
1838年	7月3日	天保9年	5月12日 快晴	
1838年	7月4日	天保9年	5月13日 晴	
1838年	7月5日	天保9年	5月14日 曇	
1838年	7月6日	天保9年	5月15日 曇	申の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨夜に入 時々降
1838年	7月7日	天保9年	5月16日 曇	昨夜よりの雨今日におよび 午の刻頃止 (飢饉中に付(江戸城の?)西御丸御炎上に付杉松葉?の類を伐り取り角物にして差上げたいと申し出る・体よく断られたのかな?)
1838年	7月8日	天保9年	5月17日 晴	
1838年	7月9日	天保9年	5月18日 晴	(御能・昼過ぎ相済む)
1838年	7月10日	天保9年	5月19日 晴	
1838年	7月11日	天保9年	5月20日 晴	
1838年	7月12日	天保9年	5月21日 曇	(今日御巡見使弘前御宿)
1838年	7月13日	天保9年	5月22日 曇	(今朝御巡見使弘前御発足、頃日天気不正・丹後者詮索送り返しの触れ、最近御元々勘定奉行と記述される例が多い)
1838年	7月14日	天保9年	5月23日 曇	卯の刻頃より小雨降 未の刻過ぎ止 (人事異動、山上才助等に銀3枚の御昇進御祝ご祝儀を下し置かれる)
1838年	7月15日	天保9年	5月24日 曇	
1838年	7月16日	天保9年	5月25日 晴	
1838年	7月17日	天保9年	5月26日 晴	(南溜池大矢場で射術高覧、盗み徒の男を吟味中揚屋入り、闇物資(米1斗・黒大豆1斗2合等)御取上げ)
1838年	7月18日	天保9年	5月27日 晴	(青田の内笛吹などの触れ)
1838年	7月19日	天保9年	5月28日 晴	(御発駕御料理)
1838年	7月20日	天保9年	5月29日 晴	(明日護穀神で風雨順時の御神楽差上げる)
1838年	7月21日	天保9年	6月1日 晴	(神明・八幡・住吉江日和揚並びに五穀成就の御祈禱を申付ける)
1838年	7月22日	天保9年	6月2日 曇	今晩卯の刻過ぎより小雨時々降 申の刻過ぎ止 未の刻過ぎより東風吹 亥の刻頃止
1838年	7月23日	天保9年	6月3日 曇	折々晴
1838年	7月24日	天保9年	6月4日 晴	今晩卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 (竹嶋渡海の儀に付海岸村江前々より切支丹御制札の場所に渡すよう仰せ付けられた・赤石・広戸村が調落・2枚追加を申し入れる)
1838年	7月25日	天保9年	6月5日 晴	
1838年	7月26日	天保9年	6月6日 晴	
1838年	7月27日	天保9年	6月7日 曇	未の刻頃より小雨時々降 酉の刻過ぎ止 (去る申年(今年は戌年)11月浪人一家を切り殺した浪人の甥を入牢、所々で盗み徒の男を揚屋入り)
1838年	7月28日	天保9年	6月8日 曇	今晩丑の刻頃より東風吹 卯の刻過ぎより南風吹 辰の刻過ぎ止 巳の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止 未の刻頃より南風吹 申の刻過ぎ止 申の刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止
1838年	7月29日	天保9年	6月9日 晴	
1838年	7月30日	天保9年	6月10日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 未の刻頃雨強し 申の刻過ぎ止 (闇物資(米2斗種9斗余・駄1疋水付米2俵等)御取上げ)
1838年	7月31日	天保9年	6月11日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止 申の刻過ぎ小雨降 即刻止 (闇物資(鯉6本・大鯉90枚・大鰯4杯・生鯉300本等)御取上げ)
1838年	8月1日	天保9年	6月12日 曇	今晩寅の刻頃より小雨降 卯の刻過ぎ雨強し 即刻止 午の刻過ぎ小雨降 即刻止
1838年	8月2日	天保9年	6月13日 曇	折々晴 巳の刻過ぎより東風吹 申の刻過ぎ止
1838年	8月3日	天保9年	6月14日 晴	折々曇 辰の刻過ぎより北風吹 午の刻頃止 (明15日神明宮で氣候調和御神楽差上げる、頃日風合宜しからず・百沢寺並びに下居宮で風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1838年	8月4日	天保9年	6月15日 快晴	(当御発駕日限の儀来月10日と仰せ出される、人事異動)
1838年	8月5日	天保9年	6月16日 曇	今晩卯の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断
1838年	8月6日	天保9年	6月17日 曇	昨夜よりの小雨今晩丑の刻過ぎ止 辰の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (闇物資御取上げ、家近き所での揚げ花火停止等の触れ)
1838年	8月7日	天保9年	6月18日 曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 巳の刻過ぎ止 午の刻頃小雨降 即刻止
1838年	8月8日	天保9年	6月19日 曇	折々晴 今晩子の刻頃雨降 即刻止
1838年	8月9日	天保9年	6月20日 晴	申の刻頃むらさめ降 (四社で日和揚風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1838年	8月10日	天保9年	6月21日 曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 未の刻頃止 申の刻頃小雨降 即刻止 (去る4日高杉組熊嶋村で出火・建家飯料等焼失・御手当て米1俵の申し出に2斗下し置かれる)
1838年	8月11日	天保9年	6月22日 晴	折々曇 今晩卯の刻頃小雨降 即刻止 (去る8日夜深浦湊領沢部村で越中船が破船・同夜岩崎村で越中船が破船)
1838年	8月12日	天保9年	6月23日 晴	25日から続く 5厘宛に仰せ付ける、揚屋入の飯料1人に付6合5タ→4合雑用銭は夏は5分5厘→3分冬は6分5厘→4分・牢舎の飯料が4合5タ→3合8タ雑用銭は夏冬2分→1分5厘に変更)
1838年	8月13日	天保9年	6月24日 晴	(人事異動、別段調達金に関し鯉ヶ沢塩屋某を帯刀御免に:この頃帯刀御免・一代郷士など名譽だけの手当あり、酷暑の時分にも係らず薄暑・岩木山下居宮で氣候調和五穀成就の御祈禱)
1838年	8月14日	天保9年	6月25日 晴	(人事異動、頃日薄暑につき本行寺で風雨順時五穀成就の重き御祈禱) 29日から続く 渡す、当新菜種出盛値段平均52文目に相当・水油1升を8文目5分1合売りは8分 23日に続く
1838年	8月15日	天保9年	6月26日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止 下から続く 八幡宮で陽気発動五穀成就の御神楽)
1838年	8月16日	天保9年	6月27日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 即刻止 午の刻過ぎ雷雨 即刻止 申の刻過ぎ雷雨 即刻止 (真那板林でどこかの者縊死、浪岡村の見世先に2歳位の男子捨子・村役に介抱を申付ける、 上に続く
1838年	8月17日	天保9年	6月28日 曇	戌の刻頃雨降 即刻止 (中小姓格御用達が病氣等を理由に御免願・これまでの調達金等は差上げるとのこと・生涯5人扶持とし認める)
1838年	8月18日	天保9年	6月29日 曇	今晩子の刻頃より雨時々降 卯の刻過ぎ 辰の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 (去る11日巳年(今年は戌年)以来他散の者共が大間越に返される・1人に1合積の御蔵米 25日に続く
1838年	8月19日	天保9年	6月30日 曇	折々晴 昨夜よりの小雨今晩卯の刻過ぎ止 午の刻過ぎ小雨降 即刻止 (津軽因幡が江戸で病死、何か籤のようなものの改札が書いてあるが分かん)
1838年	8月20日	天保9年	7月1日 晴	(今朝鎌で人を刺し殺した者を入牢)
1838年	8月21日	天保9年	7月2日 晴	(去る29日の夜八時頃広須組岡部里村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓居村預け)
1838年	8月22日	天保9年	7月3日 晴	酉の刻より小雨時々降 夜に入同断 (筒稲抜き取るな等の触れ、掃除小頭等4人の入牢を申付ける)
1838年	8月23日	天保9年	7月4日 曇	昨夜よりの小雨今晩子の刻頃止 子の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止 酉の刻より小雨時々降 夜に入同断 (郡奉行より御初穂差上げ候)
1838年	8月24日	天保9年	7月5日 曇	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過ぎ止 巳の刻過ぎより小雨時々降 未の刻過ぎ止 (この節御入金道一切なし・御巡見方不時金残りを使えないか御元々勘定奉行が聞いている)
1838年	8月25日	天保9年	7月6日 曇	午の刻頃むらさめ降 申の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断
1838年	8月26日	天保9年	7月7日 晴	昨夜よりの小雨今晩寅の刻頃止 戌の刻過ぎより小雨時々降 (御巡見使御領分中滞りなく御通行済まされる、今日七夕の御礼)
1838年	8月27日	天保9年	7月8日 晴	折々曇 昨夜よりの小雨今晩丑の刻過ぎ止 (御賞、人事異動)
1838年	8月28日	天保9年	7月9日 曇	午の刻過ぎ小雨降 即刻止 (昨年罰を受けた片谷某の旧功を思し召され10人扶持御節句御目見を仰せ付けられる、今朝六時頃御家中宅が出火・居宅焼失)
1838年	8月29日	天保9年	7月10日 晴	(早道は俵子50俵4人扶持?、後湯組の男が薄市村の男に手傷・死亡) 下から続く 見物料1人4分宛、御家中の面々登城の節御徒休息所に刀を懸置くが刀を取替えられ又は紛失あり)
1838年	8月30日	天保9年	7月11日 曇	折々晴 未の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (南溜池大矢場で射術高覧、人事異動、闇物資を取押えたら建石村の家族が残らず時疫……・御聞届け、青森町で角力興行・ 上に続く
1838年	8月31日	天保9年	7月12日 晴	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過ぎ止 未の刻頃西風吹 即刻止 (去月28日青森入津の大坂船から御役御免で米3斗入り190俵荷揚の許可願ひ・このたび限りと了承する)

1838年	9月1日	天保9年	7月13日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (去月29日鯉ヶ沢入津船に乗せる米なし・当新穀を以って積み入れそれまで滞船申付ける・もめる)
1838年	9月2日	天保9年	7月14日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 午の刻頃西南の風吹 即刻止
1838年	9月3日	天保9年	7月15日 快晴	(今日四つ時御囃子)
1838年	9月4日	天保9年	7月16日 晴	午の刻頃急雨(むらさめ)降
1838年	9月5日	天保9年	7月17日 晴	(昨晚踊り見物の御家中?の倅が鍛冶町で明八つ時過ぎ手傷)
1838年	9月6日	天保9年	7月18日 晴	
1838年	9月7日	天保9年	7月19日 曇	今晚子之刻頃小雨降 即刻止 卯之刻過ぎ小雨降 即止 午の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1838年	9月8日	天保9年	7月20日 曇	昨夜よりの雨今日に及 夜に入同断
1838年	9月9日	天保9年	7月21日 曇	昨夜よりの雨今日に及 申の刻頃止 (去る7日夜金木組薄市村の男が深手死亡・人相書き:41歳・せい5尺3寸位等、丹後者詮索送返しの触れ、岩木川出水・駒越渡場両船共往来差留める)
1838年	9月10日	天保9年	7月22日 晴	酉の刻過ぎより雨時々降 (去る12日晩方鯉ヶ沢并天崎で鶏糞・油粕を積んだ越中船が破船)
1838年	9月11日	天保9年	7月23日 曇	巳之刻頃より折々晴 昨夜よりの雨今日に及 辰之刻頃止
1838年	9月12日	天保9年	7月24日 晴	(去る12日朝六時頃深浦湊領風合瀬村前浜島井崎で加州船が破船、去る19日屋金木組長泥新村で出火・類焼借家とも3軒・火元他村預け)
1838年	9月13日	天保9年	7月25日 晴	(当菜種1俵52匁?で水油1升8文目5分の値段定め・しかし当年覚えなき減石・値上げ申請・けられる、賀田村の難漁の旧功の者に御手当て御米1俵と御銭50匁)
1838年	9月14日	天保9年	7月26日 晴	(三ノ丸で駒寄高覧)
1838年	9月15日	天保9年	7月27日 曇	今晚丑の刻過ぎより雨時々降 未の刻過ぎ止 申之刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 (去る5日野内町久栗坂村で住居の仮小屋焼失、昨夜御家中宅で出火・台所廻り等焼失)
1838年	9月16日	天保9年	7月28日 曇	昨夜より之小雨今晚寅の刻過ぎ止 戌之刻過ぎより東南の風吹 亥之刻頃止 (闇物資(玄米1斗・桧1丈5寸角・同6尺木舞・桧皮・2尺桎9100枚・椀140人前等)御取上げ、調達米金関連御賞)
1838年	9月17日	天保9年	7月29日 晴	
1838年	9月18日	天保9年	7月30日 晴	(闇物資(酒1斗2升入り1樽1斗入り1樽)御取上げ)
1838年	9月19日	天保9年	8月1日 快晴	(紙漉町で松前帰りの角力興行願い・札銭は1人前4分5里棧敷銭上1間3匁5分下1間2匁5分ツツ)
1838年	9月20日	天保9年	8月2日 快晴	(苔実差出す、明後4日御初米差上げる、御徒目付対馬某とその家内が手錠の上……)
1838年	9月21日	天保9年	8月3日 晴	午の刻頃より折々曇 戌の刻頃より雨降 (闇物資御取上げ)
1838年	9月22日	天保9年	8月4日 曇	今晚子之刻過ぎより雷鳴強し 丑之刻過ぎ止 昨夜よりの雨今晚子之刻過ぎより丑之刻過ぎ迄強し 今日におよび時々降 申の刻過ぎ止
1838年	9月23日	天保9年	8月5日 曇	午の刻頃より小雨時々降 夜に入同断
1838年	9月24日	天保9年	8月6日 曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 夜に入同断
1838年	9月25日	天保9年	8月7日 曇	折々晴 昨夜よりの小雨今日に及 午の刻過ぎ止 (今晚御家中?の居宅焼失)
1838年	9月26日	天保9年	8月8日 快晴	
1838年	9月27日	天保9年	8月9日 晴	
1838年	9月28日	天保9年	8月10日 曇	巳の刻過ぎより小雨降 未の刻過ぎ止 申の刻過ぎより小雨降 戌の刻過ぎ止
1838年	9月29日	天保9年	8月11日 晴	未の刻より雨時々降 夜に入同断 酉の刻頃より雷鳴時々 (これまで失火にて類焼なくても村預け入寺等にて慎みだったが自分居宅焼失の節は村預け入寺にて慎みに及ばずと申付ける)
1838年	9月30日	天保9年	8月12日 曇	昨夜よりの雷雨今日に及 時々雷雨 午之刻頃止 申之刻過ぎ止
1838年	10月1日	天保9年	8月13日 曇	今晚子之刻頃より雨時々降 午之刻過ぎ止 (去月23日に塩飽の船から盗みの庄内出生男大間越御間所送り返し)
1838年	10月2日	天保9年	8月14日 曇	酉の刻過ぎより雨時々降 (今日鷲之間で剣術高覧、岩木川の鮭留について書いてあるが……)
1838年	10月3日	天保9年	8月15日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過ぎ止 (今日舞台で御能交じり御囃子、御留守居支配横岡左衛門を買物役格に跡式を倅幸太郎に等の人事異動)
1838年	10月4日	天保9年	8月16日 快晴	
1838年	10月5日	天保9年	8月17日 曇	今晚寅之刻過ぎより雨時々降 未之刻過ぎ止 (津軽元太郎(津軽因幡の子)に香典白銀30両)
1838年	10月6日	天保9年	8月18日 晴	酉の刻過ぎより雨時々降 (宮崎八十吉など29人の御元方御用達御免)
1838年	10月7日	天保9年	8月19日 曇	今朝岩木山ニ雪少々初て見ゆる 昨夜よりの雨今晚丑之刻頃止 午之刻過ぎより雨時々降 申之刻過ぎ止 戌之刻過ぎより雨時々降
1838年	10月8日	天保9年	8月20日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 未の刻過ぎ止 戌之刻過ぎ雨降 即刻止 (去る15日夜下飯詰村で出火・建家外馬屋等焼失・火元百姓)
1838年	10月9日	天保9年	8月21日 晴	(乙富銅鉛山で働いている50人余を仙台秋田南部に返す?)
1838年	10月10日	天保9年	8月22日 快晴	(去る17日木造新田下相野村で出火・建家等焼失・火元百姓)
1838年	10月11日	天保9年	8月23日 快晴	今朝霜降 (北之御丸普請のため東御門の牛馬往来申し出る・了承) 下から続く 検見日数を懸けないようにする、調達金を上納した者多数に御賞や・郷士に仰せ付けられたり)
1838年	10月12日	天保9年	8月24日 曇	辰の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (昨年7月に蒔き付けた油草実が仕上がり郡所に2斗上納・試締) 下から続く 落入る、検見人の算者廃止・胸は1汁1菜無酒とする・ 上に続く
1838年	10月13日	天保9年	8月25日 曇	昨夜よりの雨今日に及 夜に入同断 (今日岩木川留より初鮭差上げる、闇物資(濁酒1斗1升・米4斗9升3合・油目80本・鯉87枚等)御取上げ) 下から続く (いさく:凶作)に 上に続く
1838年	10月14日	天保9年	8月26日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻過ぎ止 辰之刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (去る14日小泊港に日向船の橋船が漂着・元船は荷打ちの上沖に留めてある、金木4ヶ組当作鮭が違作 上に続く
1838年	10月15日	天保9年	8月27日 曇	辰之刻過ぎ雷鳴 即刻止 昨夜よりの雨今日に及 時々降 巳之刻過ぎ止 (油川後湯組の当作鮭は今に一切屈穂なし) 下から続く 青森在番の交代の道中賄い御免願い)
1838年	10月16日	天保9年	8月28日 晴	(湯野沢銀山御仕入れ金150両渡し方仰せ付けられる?、上野畑より大根を盗取った男の子?を揚屋入り、三厩詰め御人数の飯料の内10俵紛失・盗んだ者を入牢、浦町組代官が 上に続く
1838年	10月17日	天保9年	8月29日 曇	午の刻過ぎより小雨降 未の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (御膳酒1升68文目に申付ける、去る10日飯田村の御召馬付小人が出火・居宅焼失両隣類焼・押籠)
1838年	10月18日	天保9年	9月1日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 辰之刻過ぎ止 午之刻頃より小雨降 申之刻頃止 (以来類焼無の節押籠等御用捨)
1838年	10月19日	天保9年	9月2日 曇	巳之刻頃より小雨時々降 申之刻過ぎ止 (昨日暮頃下土手町に2歳位の女子捨子・前の店の主に養育させる)
1838年	10月20日	天保9年	9月3日 晴	
1838年	10月21日	天保9年	9月4日 曇	酉の刻過ぎより小雨時々降 (真教寺が弘メ札興行・手札1枚につき4文目宛・札高7000枚売弘・10月朔日開札)
1838年	10月22日	天保9年	9月5日 曇	昨夜よりの小雨今日におよび時々降 申の刻過ぎ止 今日霰少々降
1838年	10月23日	天保9年	9月6日 快晴	(多くの村から検見願い)
1838年	10月24日	天保9年	9月7日 晴	(鯉ヶ沢町の船が松前吉岡村の大根崎と申す中瀬に乗り上げ破船・4人全員無事、闇物資(桧2尺5寸桎4000枚・同6尺木舞300本等)御取上げ)
1838年	10月25日	天保9年	9月8日 晴	(本多東作・山上才助等17人に御料理)
1838年	10月26日	天保9年	9月9日 曇	今晚丑之刻過ぎより小雨時々降 午之刻過ぎ止 (今日浪之間で狂言組仰せ付けられる、詮議中他出差止めの庄屋を検見の際に差支えるとして百姓共から御免願い・庄屋に戻す)
1838年	10月27日	天保9年	9月10日 曇	午之刻過ぎより雨時々降 夜二入同断
1838年	10月28日	天保9年	9月11日 曇	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止ム
1838年	10月29日	天保9年	9月12日 快晴	酉之刻過ぎより雨時々降 戌之刻過ぎより雷鳴 亥之刻頃止 (碇ヶ関より山形まで御鷹1居に付餌が女鶏6羽宛・8居では48羽)
1838年	10月30日	天保9年	9月13日 曇	昨夜より之雨今晚丑之刻頃止 酉之刻頃より小雨時々降 (初鮭2本高岡江御献備)
1838年	10月31日	天保9年	9月14日 曇	昨夜より之小雨今日に及 時々降 辰之刻過ぎ止 未之刻頃小雨降 即刻止 未之刻過ぎ雷鳴 即刻止 申之刻頃より雨時々降 夜に入同断

1838年	11月1日	天保9年	9月15日 晴	昨夜より之雨今晚子之刻頃止 未之刻頃より曇 戌之刻過ぎ小雨降 戌之刻過ぎ止 (人事異動、秋田大館の男が鯉ヶ沢で病死・同人子も村送中岩崎村で病死、去る12日横内組 下に続く
1838年	11月2日	天保9年	9月16日 曇	酉の刻過ぎより小雨降 戌の刻過ぎ止 上から続く 諏訪道村で出火・建家等焼失・火元が今後不締りがないよう申付ける、頃日天気合宜しからず五山で日和揚の御祈禱を仰せ付ける)
1838年	11月3日	天保9年	9月17日 曇	午の刻頃より折々晴 (不明日に出来嶋外ヶ濱で南部船並びに越中船が破船・残らず上陸、闇物資(酒5斗2合(売払代銭200目8分)御取上、天気合不宜五山で日和揚の御祈禱を仰せ付ける)
1838年	11月4日	天保9年	9月18日 快晴	(人事異動、去月24日赤田・広田・広須・木作の4組の川治いの村々が村中・田畑水灌)
1838年	11月5日	天保9年	9月19日 快晴	今晚寅之刻過ぎより小雨時々降 卯之刻過ぎ止
1838年	11月6日	天保9年	9月20日 快晴	
1838年	11月7日	天保9年	9月21日 快晴	
1838年	11月8日	天保9年	9月22日 曇	未之刻過ぎ小雨降 即刻止 酉之刻頃より小雨時々降 (湯野沢銀山の面々に御賞(金200疋・3匁500文・3匁文・2匁500文・2匁文・2貫文・1匁500文・1匁文: 匁は貫と同じかどうか不明))
1838年	11月9日	天保9年	9月23日 曇	昨夜より之小雨今晚寅之刻過ぎ止 辰之刻頃より雨時々降 酉の刻過ぎ止(曇 昨夜より之小雨今晚寅之刻過止辰之刻頃より雨時々降酉の刻過止)
1838年	11月10日	天保9年	9月24日 晴	折々曇
1838年	11月11日	天保9年	9月25日 曇	今晚丑之刻過ぎより雨時々降 辰の刻頃止 申の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 (今日剣術高覧、当月4日松前を出た越中船が長濱の内釜谷で破船・乗合の者別状なし)
1838年	11月12日	天保9年	9月26日 曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 辰之刻過ぎ止 今日霰少々降
1838年	11月13日	天保9年	9月27日 曇	今晚丑之刻過ぎより西南の風強し 寅の刻過ぎ止
1838年	11月14日	天保9年	9月28日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 (人事異動)
1838年	11月15日	天保9年	9月29日 曇	昨夜雪少し降 今日同断
1838年	11月16日	天保9年	9月30日 晴	昨夜雪少し降 申之刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断
1838年	11月17日	天保9年	10月1日 晴	昨夜よりの雨今晚子之刻頃止 (人事異動)
1838年	11月18日	天保9年	10月2日 晴	未之刻過ぎより曇 戌之刻頃小雨降 即刻止 (去月23日夜金木組今泉村で出火・類焼とも2軒焼失・火元は当8月に残らず他散空家)
1838年	11月19日	天保9年	10月3日 晴	酉の刻頃より雨時々降 下から続く 1合売りは4分宛商売を仰せ付ける、去る2日御家中?の家焼失)
1838年	11月20日	天保9年	10月4日 晴	昨夜より之雨今日ニ及 卯の刻過ぎ止 下から続く 去月朔日より晦日まで30日平均米値段が1俵93匁6分6厘6毛で酒1升到付3匁9分3厘7毛に相当・酒1升を3匁9分5厘 上に続く
1838年	11月21日	天保9年	10月5日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積 (闇物資(酒2斗3升(売払代銭69文目)を返している) 下から続く 通る・丁重に扱っている、新酒仮値段を1升到付5文目5分に願ひ出る・ 上に続く
1838年	11月22日	天保9年	10月6日 晴	(御献上の御鷹高覧、闇物資(材木・鮫・鯨・犬皮等)御取上げ、去月29日青森出立三厩より算用師越大間越まで俵物取締御用で御普請役(上下3人)と長崎会所役人(上下4人) 上に続く
1838年	11月23日	天保9年	10月7日 曇	巳之刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (今日御舞台で御能交じり御囃子)
1838年	11月24日	天保9年	10月8日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻頃止 今日霰少々降 巳の刻頃より西風吹 午の刻頃止 (去月12日夜横内組野木館村で出火・居宅等焼失・御手当て米2斗下し置かれる)
1838年	11月25日	天保9年	10月9日 曇	
1838年	11月26日	天保9年	10月10日 曇	今晚子之刻過ぎより小雨時々降 卯の刻頃止 午の刻頃雷鳴即刻止 午の刻過ぎより雨時々降 亥の刻過ぎ止
1838年	11月27日	天保9年	10月11日 曇	昨夜雪降一寸程積 今日雪少し降 (人事異動、御賞、来る15日御発駕)
1838年	11月28日	天保9年	10月12日 曇	今晚子之刻過ぎより小雨時々降 申の刻頃止 今日雪少し降 (青森舘見町大橋新規掛け渡し御入目775匁4分6厘7毛、傷寒の4人を揚屋からだす)
1838年	11月29日	天保9年	10月13日 曇	午の刻頃より折々晴 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、御賞、一昨11日夜赤田組菫蒲川村で出火・建家焼失)
1838年	11月30日	天保9年	10月14日 曇	未の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (人事異動、格段の御慈悲を以って33人を揚屋から出す・16人の揚屋入り御免・死刑相当者4人を永牢・2人を関口から送り返し・34人を出牢)
1838年	12月1日	天保9年	10月15日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻過ぎ止 今日雪少し降 (織田某を元匁役に等の人事異動)
1838年	12月2日	天保9年	10月16日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日吹雪強し 雪三寸程積 (屋形様が今日申の刻過ぎ1日遅れで御発駕、やたら平出の多い文章あり)
1838年	12月3日	天保9年	10月17日 曇	昨夜雪降 三寸程積 午の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 下から続く 不動尊も巳の上刻御出汗)
1838年	12月4日	天保9年	10月18日 曇	昨夜より小雨今日におよび時々降 夜に入同断 (今朝碇ヶ関より遠使:昨日未の刻過ぎ同所御発駕、今18日辰の下刻百沢寺下居宮並びに大堂御本尊御出汗、国上寺の 上に続く
1838年	12月5日	天保9年	10月19日 曇	昨夜より小雨降 今晚丑の刻過ぎ止 今日雪少し降 (御発駕金急速入用に関して御賞、人事異動、造酒家業からの願ひにより諸道具の封印を切っている)
1838年	12月6日	天保9年	10月20日 曇	巳の刻過ぎより折々晴 酉の刻過ぎより小雨時々降 (当8月より大間越あたりに他散の者見える)
1838年	12月7日	天保9年	10月21日 曇	昨夜よりの小雨今晚丑の刻過ぎ止 今日雪少し降 (神某を郡奉行兼役に等の人事異動、去る16日夜駒越組大秋村で出火・建家焼失)
1838年	12月8日	天保9年	10月22日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当月7日の時化で深浦湊で3艘(本庄・秋田・平沢船)が破船・全員無事、重病の4人を出牢)
1838年	12月9日	天保9年	10月23日 晴	今日冷 昨夜雪少し降
1838年	12月10日	天保9年	10月24日 晴	昨夜雪少し降 下から続く 酒田船から米4斗5升入り1俵を120目値段で50俵と150俵を荷揚げ)
1838年	12月11日	天保9年	10月25日 快晴	(穂稻切取等の無宿を召捕り揚屋入り、昨夜御家中宅?で出火・居宅焼失、当新穀御払い米初相場85匁立、新酒仮値段を1升到付き4文目5分値段に仰せ付ける、曇月湊で 上に続く
1838年	12月12日	天保9年	10月26日 晴	未の刻過ぎより曇
1838年	12月13日	天保9年	10月27日 晴	申の刻過ぎ小雨降 則刻止 (闇物資御取上げ) 下から続く 御蔵の錠が破られ御米1俵3斗2合紛失・犯人?を手配)
1838年	12月14日	天保9年	10月28日 曇	午の刻頃小雨降 則刻止 今日雪少し降 酉の過ぎより小雨時々降 (当御収納米の内蒸米納仰せ付けられたき旨再三の申し出あり・止むを得ないとして一部を認める、今別町の 上に続く
1838年	12月15日	天保9年	10月29日 曇	昨夜よりの小雨今晚丑の刻過ぎ止 今日雪少し降
1838年	12月16日	天保9年	10月30日 晴	(出盛り30日平均相場が1俵50目8分に相当するので水油1升10文目に相当・当新粒油は11月朔日より来2月中1升10文目に申付ける、(新米が入っても)運配を続けざるを得ないらしい)
1838年	12月17日	天保9年	11月1日 晴	今日冷 今晚丑の刻過ぎより雨時々降 午の刻過ぎ止 今日雪少々降 (去る25日夜四ツ時半時赤石組舞戸村で出火・類焼借家共3軒焼失・火元不届きに付御代官にて他村預け、近年雪不漁)
1838年	12月18日	天保9年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (昨夜暮六時頃駒越組国吉村で出火・建家稲草等焼失・火元百姓、蒸米の上納願ひが多い・何故かな、蟹田町の者共が山の木の伐取願・木がなく断る)
1838年	12月19日	天保9年	11月3日 晴	
1838年	12月20日	天保9年	11月4日 曇	今日雪少し降
1838年	12月21日	天保9年	11月5日 晴	今晚寅の刻過ぎより小雨降 卯の刻過ぎ止 (先夜御家中宅出火・何軒か焼失?、松前に御米4000俵を1俵80目立で送る)
1838年	12月22日	天保9年	11月6日 曇	午の刻頃より折々晴 戌の刻頃より雨時々降 亥の刻過ぎより東南風強し
1838年	12月23日	天保9年	11月7日 曇	昨夜よりの風今晚丑の刻過ぎ止 雨卯の刻頃止 (一昨27日屋形様山形駅御止宿・昨1日逗留)
1838年	12月24日	天保9年	11月8日 曇	今日雪二寸程積 (闇物資等(酒・室・折敷65枚・靴等)御取上げ、去月晦日夜八時頃横内組原別村で出火・類焼とも2軒焼失・火元庄屋積み、去る6日夜本丁(本町)で出火・早速取消す)
1838年	12月25日	天保9年	11月9日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (昨8日鯉ヶ沢七ツ石町で出火・類焼とも3軒焼失・火元慎み、黒石より米2000俵の津出願ひ・存外の違作で止める、米・大豆・麦・餅米・蕎麦・粟・稗・酒・ 欄外(*)に続く
1838年	12月26日	天保9年	11月10日 晴	亥の刻過ぎ小雨降 即刻止 (酒道具等取押える、当7月7日夜揚屋から7人逃げる・6人を召捕る、盗み多数の仙台出生男を碇ヶ関口送り返し)
1838年	12月27日	天保9年	11月11日 晴	未の刻より曇 申の刻過ぎより雨降 夜に入同断 (闇物資御取上げ、所々に火を附けた駒越組国吉村の娘を入牢)
1838年	12月28日	天保9年	11月12日 曇	昨夜よりの雨今日におよび戌の刻過ぎ止
1838年	12月29日	天保9年	11月13日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1838年	12月30日	天保9年	11月14日 曇	昨夜雪降 一寸程積 (御献上鱒を見分)
1838年	12月31日	天保9年	11月15日 晴	未の刻過ぎより曇

(*)味噌・醤油・酢・水油・菜種・荳種の15品をこの度改めて津出御差留め、米145924石位内99000石位が廃田畑並びに稗田成其の外田畑仕付荒当毛諸品成共平均6歩7厘6毛・残って46920石余?)

1839年	1月1日	天保9年	11月16日	曇	今暁丑の刻過ぎより雨降 夜に入同断 下から続く 御手当て向きも石高俵子金給扶持ごとにある・渡す日も示してある、今17日卯の刻百沢寺下居宮並びに大堂御本尊御出汗)
1839年	1月2日	天保9年	11月17日	曇	昨夜よりの雨今日二およひ辰の刻過ぎ止 申の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (附火等に疑わしい男8人を揚屋入り、正米は来る21日渡より4合積をもって渡方仰せ付けられる 上に続く
1839年	1月3日	天保9年	11月18日	曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 丑の刻過ぎより西南風吹 寅の刻過ぎ止 今日穀少し降 (平賀六ヶ組に御收納皆済まで代官を増員して督励?、油川村で盗賊共3人捕える・入牢)
1839年	1月4日	天保9年	11月19日	晴	昨夜雪少し降 (先頃出牢の男が盗徒・不届きに付入牢、去る15日夜浪岡組高屋敷村で出火・建家1軒焼失・火元高無、去る9日夜後潟組左堰村で出火・建家等焼失・火元高無)
1839年	1月5日	天保9年	11月20日	晴	昨夜雪少し降 22日から続く 十三町御蔵を切破り米2俵盗の男・入牢の処病死、闇物資(稗13俵1斗5升・小豆3斗2升・栓皮18坪等)御取上げ、火災被害者に御米2斗宛下し置かれる)
1839年	1月6日	天保9年	11月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (火附4人?を入牢、去る12日夜田舎館組畑中村で土蔵を切破り盗み徒の男を入牢、(面扶持にしたので)人別書上げを厳しくしている)
1839年	1月7日	天保9年	11月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る18日夜高杉組宮館村で出火・稲乳焼失・火元百姓、一昨19日夜駒越組鳥井之村(鳥井野村)で出火・建家等焼失・火元高無、 20日に続く
1839年	1月8日	天保9年	11月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1839年	1月9日	天保9年	11月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (この度小泊浜に塩釜御取立・相応の出石に相成る・所々の間屋21人を申付ける)
1839年	1月10日	天保9年	11月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る19日夜四ツ時頃春日町で出火・建家外馬屋等焼失、5・6軒以下焼失の御手当米は申出るなど申付ける、十三町前後の潟残らず11月15日に氷張る)
1839年	1月11日	天保9年	11月26日	晴	折々曇 昨夜雪少し降 (御元々勘定奉行申し出で候:この節御入金道一切御座なく候……) 下から続く 17日広田組村々で出水・稲草田乳に致し置き候分流失、 欄外(*)に続く
1839年	1月12日	天保9年	11月27日	晴	昨夜雪少し降 (去る16日夜舞戸村御代官役所前郷蔵切破り米を盗み取った男2人を召捕る・入牢、去る25日暁本町1丁目で雪囲い少々燃え上がる、昨夜御家中宅が焼失、去る 上に続く
1839年	1月13日	天保9年	11月28日	晴	午の刻頃より折々曇 (附火の疑いのある7人を揚屋入り、去る25日夜五時過ぎ赤石組田浦村で出火・類焼とも7軒焼失)
1839年	1月14日	天保9年	11月29日	曇	今日雪少し降 (寺院の内に罷越乱ヶ間敷女の他出差留め、当作跡案外の不熟作・一統氣力を徒失い極窮之細民共多くは他散又は死亡に至る・上納御取延等の手立を郡奉行が申し立てる)
1839年	1月15日	天保9年	12月1日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪少し降 (弘前等数ヶ所に火をつけた北横町の男を入牢・同道して盗みの男揚屋入り)
1839年	1月16日	天保9年	12月2日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1839年	1月17日	天保9年	12月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (代官山上七郎左衛門が不調法・御日見以上御留守居支配に役下げ) 下から続く 昨夜火附の者を取押える)
1839年	1月18日	天保9年	12月4日	曇	昨夜吹雪強し 雪三寸程積 今日雪降 二寸程積 (鯉ヶ沢御蔵にこの節御收納130俵余 下から続く 10日朝まで氷張る・去年より日数に引合い13日遅く節に引合32日遅い 上に続く
1839年	1月19日	天保9年	12月5日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (去る2日夜浪岡組吉内村で出火・建家等焼失・火元高無、去月22日夜より23日朝迄十三潟が大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月9日夜より 上に続く
1839年	1月20日	天保9年	12月6日	晴	折々曇 昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降
1839年	1月21日	天保9年	12月7日	晴	(去る25日夜四時頃金木組今泉村で出火・類焼共4軒並びに牛2疋焼斃・火元百姓他村預け、亀甲御蔵庇の内に袖乞の者共寝泊・御蔵廻の者に不寝番を申付ける、秋田出生火付親子を入牢)
1839年	1月22日	天保9年	12月8日	晴	昨夜雪少し降 (去月28日夜赤石組広戸村で出火・類焼共5軒稲草焼失火元の男子焼死・火元他村預け、昨夜四半時頃建詰町?裏通りで出火・木部屋2ヶ所焼失)
1839年	1月23日	天保9年	12月9日	晴	(御家中の面々が養女呼取といつて実は引取らず御扶持を受取っているとのうわさ・縁結き向きを御役に知らせるようにする?)
1839年	1月24日	天保9年	12月10日	晴	昨夜雪降 一寸程積
1839年	1月25日	天保9年	12月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1839年	1月26日	天保9年	12月12日	晴	昨夜雪少し降
1839年	1月27日	天保9年	12月13日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1839年	1月28日	天保9年	12月14日	曇	昨夜雪少し降 (赤石組田浦村で不明日に出火・類焼とも9軒焼失・御米2斗宛下し置かれる)
1839年	1月29日	天保9年	12月15日	晴	(赤石組舞戸村で不明日に出火・類焼とも25軒焼失・御手当て米2斗宛下し置かれる:昨日の記事も同様日付なし、去る12日夜広田組組館詰村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓)
1839年	1月30日	天保9年	12月16日	曇	昨夜吹雪強し 雪二寸程積 今日吹雪強し 雪一寸程積曇
1839年	1月31日	天保9年	12月17日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (今日郡奉行江相渡し候別紙左の通り:(良く分からないが)昨年の不納分も来る正月中に上納するよう)
1839年	2月1日	天保9年	12月18日	曇	午の刻頃小雨降 即刻止 下から続く 足軽目付の検分の上和徳村専修庵に葬る)
1839年	2月2日	天保9年	12月19日	曇	今暁子の刻過ぎより小雨時々降 巳の刻頃止 (博打乱暴の男揚屋入り、袖乞の者共人数に応じ椿町畑地に小屋を建てる・1人に黒米1合の積を以って下し置かれる、病死の者は 上に続く
1839年	2月3日	天保9年	12月20日	晴	昨夜吹雪強し 雪尅寸積 (屋形棟去月9日御着府、去る15日戸沢某を御用人に・御手廻格佐藤栄吉を御馬廻番頭格俵子5俵1人扶持勤労増日記役に等の人事異動)
1839年	2月4日	天保9年	12月21日	晴	昨夜雪少し降 (御館神・和徳稲荷宮・白狐寺稲荷・草彦?稲荷宮・築館稲荷宮並びに住吉宮の6ヶ所に来年の五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1839年	2月5日	天保9年	12月22日	晴	(去る18日夜八時頃藤崎組太田村で出火・建家等焼失) 下から続く 米を取る者あり・詮議中逃亡、去月17日より広田組高瀬村など6ヶ村で出水・稲草田乳を流失・御收納御免)
1839年	2月6日	天保9年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (来る正月分御家中渡し御米2500俵不足・25日までに弘前御蔵に欠目のない上納を郡奉行に申し付ける) 下から続く 臨時方手附と偽り 上に続く
1839年	2月7日	天保9年	12月24日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る12日夜赤石組岩崎村で出火・類焼とも4軒・火元他村預け、20日飯詰組俵元村で出火・火元百姓) 下から続く 焼失・火元他村預け、 上に続く
1839年	2月8日	天保9年	12月25日	晴	昨夜雪少し降 (去る13日夜後潟組宇鉄村で出火・類焼共4軒焼失・火元漁師他村預け、去る18日夜青森博労町で出火・類焼1軒、去る22日夜八時頃油川村で出火・類焼共6軒 上に続く
1839年	2月9日	天保9年	12月26日	晴	
1839年	2月10日	天保9年	12月27日	晴	(人事異動、亀甲町の附火男召捕る・入牢、盗み徒の浪人の子を召捕る・吟味中揚屋入り)
1839年	2月11日	天保9年	12月28日	曇	未の刻過ぎより小雨降 夜に入同断 (寺社役ならびに右筆物書小使等々に御手当(2歩・銀5両・金仁朱・400文・1歩仁朱・菅々文・800文・300文・金100疋等)、今朝蔵館村大日尊に御出汗)
1839年	2月12日	天保9年	12月29日	晴	昨夜よりの小雨今暁子の刻過ぎ止 (多数に御賞の代りに御酒御吸物むしり肴等、火消しの節に格別差働いた髪結い・火消しに御酒代(鳥目120文・90文・60文)下し置かれる)
1839年	2月13日	天保9年	12月30日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る27日夜油川組細越村で出火・28日木作新田大開村で百姓家出火)
1839年	2月14日	天保10年正月1日	曇	昨夜雪少し降 午の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止	
1839年	2月15日	天保10年正月2日	晴	昨夜雪少し降	
1839年	2月16日	天保10年正月3日	曇	今日雪少し降 (御吉例金を御金奉行が差出す・明日立ちの飛脚で差登	
1839年	2月17日	天保10年正月4日	曇	今日雪少し降 (昨夜5時過ぎ藤田某の居宅焼失)	
1839年	2月18日	天保10年正月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (去る3日朝六時過ぎ高伯寺内陣不動尊が御出汗)	
1839年	2月19日	天保10年正月6日	晴		
1839年	2月20日	天保10年正月7日	曇	今日雪降 一寸程積 (今日七種、去る3日夜高杉組糠坪村で出火・百姓建家焼失、旧冬22日夜浦町組大野に夜盗に入り夫婦に手傷を負わせた男を入牢)	
1839年	2月21日	天保10年正月8日	晴	昨夜雪少し降	
1839年	2月22日	天保10年正月9日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (去る4日夜木造新田柴田村で出火・1軒焼失)	
1839年	2月23日	天保10年正月10日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1839年	2月24日	天保10年正月11日	晴	(去る6日夜堀越組小栗山村で建家焼失・同日夜浪岡組五本松村で百姓の建家焼失・去る9日夜俵元新田米田村で百姓建家焼失・同日夜駒越組中野村で高無建家焼失、 欄外(**)に続く	
1839年	2月25日	天保10年正月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積	
1839年	2月26日	天保10年正月13日	曇	昨夜吹雪強し 雪三寸程つもる 今日雪降 二寸程積 (昨12日七時半時過ぎ高伯寺内陣不動尊等が御出汗)	
1839年	2月27日	天保10年正月14日	快晴	下から続く 五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)	
1839年	2月28日	天保10年正月15日	曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過ぎ止 (御館神・和徳稲荷宮・白狐寺稲荷宮・草彦稲荷宮・築館稲荷宮・並びに住吉宮に五穀成就の御祈禱を仰せ付ける、護穀神宮で武運長久 上に続く	

(*) 昨夜九時過ぎ東長町で出火・類焼とも7軒焼失・火元絞油蠟燭家業入寺積み、鳴海栄作が調達金100両を差上げる・代々御目見郷土の家に仰せ付ける)

(**) この度10000俵上納を仰せ付けられた・蒸米・生米・雑穀・米金も……成丈米納じたいし候様御代官江茂能々……)

(*)昨夜九時過ぎ東長町で出火・類焼とも7軒焼失・火元絞油蠟燭家業入寺憤み、鳴海栄作が調達金100両を差上げる・代々御目見郷土の家に仰せ付ける)

(**)この度10000俵上納を仰せ付けられた・蒸米・生米・雑穀・米金も……成丈米納二いたし候様御代官江茂能々……)

1839年	3月1日	天保10年正月16日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積	
1839年	3月2日	天保10年正月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (時間通りに出勤退庁すべしとの申し出で:出勤は朝五時半・退下は八ツ時)	
1839年	3月3日	天保10年正月18日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る12日夜赤石組日照田村で出火・建家穀物等焼失)	
1839年	3月4日	天保10年正月19日	晴	(当年格別の御米不足:御借り上米の早期収納・濁酒造等の禁止を申し遣らす) 2月10日から続く 中畑村で出火・類焼3軒、闇物資御取上・押込20日多数、大円寺仁王尊又々御出汗)	
1839年	3月5日	天保10年正月20日	曇	今晩寅の刻過ぎより小雨降 卯の刻過ぎ止 未の刻頃より雨時々降 戌の刻過ぎ止 (去る11月五所川原村で他人の女房を絞殺・盗み徒の男を入牢、御救いとして杉松の伐り取願・認めない)	
1839年	3月6日	天保10年正月21日	曇	今晩丑の刻頃より西南風吹 辰の刻過ぎ止 今日雪少し降 (牢舎の6人が傷寒(最近では風邪)で卒死、闇物資御取上げ) 下から続く 2人を入牢・揚屋入り、去る6日夜大鰐村で出火)	
1839年	3月7日	天保10年正月22日	晴	昨夜雪少し降 今晩子の刻頃より西南の風吹 卯の刻過ぎ止 2月5日から続く 居鯖屋を戸メ、揚屋を出て盗み徒の男を入牢、酒屋共に罷り越し酒を強請り飲んでいた 上に続く	
1839年	3月8日	天保10年正月23日	晴	申の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 下から続く 入り等、去る3日夜金木組嘉瀬村の土蔵を切破り米糶盗み・2人を入牢、来2月分の御家中御手当ては御金御不都合・延期)	
1839年	3月9日	天保10年正月24日	曇	昨夜よりの小雨今晩子の刻過ぎ止 巳の刻過ぎ地震少し (去る12日晩後湯組奥内村で出火・建家建馬3疋穀物等焼失、検見検地の節飾りを示した者共の米御取上の上揚屋 上に続く	
1839年	3月10日	天保10年正月25日	快晴	下から続く 一緒に再開田のための借金で苦労している) 28日から続く 34人乗り南部船が破船・全員無事)	
1839年	3月11日	天保10年正月26日	晴	昨夜雪少し降 下から続く 赤石組黒崎村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、極難の蟹田町の者共に小国村より松伐出しを許す、郡所役三上某が江戸の勘定人と 上に続く	
1839年	3月12日	天保10年正月27日	曇	(昨夜六ツ半頃御家中大沢某の居宅焼失、去る20日夜木造新田筒木坂村百姓家で出火・建家米穀等焼失、去る21日夜増館組日鹿沢村で高無家出火・建家焼失、去る17日夜 上に続く	
1839年	3月13日	天保10年正月28日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積 (去る22日夜後湯組阿弥陀川村で出火類焼1軒・去る25日夜赤田組境村寄せ郷五丁ノ目村で出火建家等焼失、12月3日平館湊領に 25日に続く	
1839年	3月14日	天保10年正月29日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 下から続く 御祈禱を仰せ付ける、護殺神に御武運長久五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)	
1839年	3月15日	天保10年	2月1日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る25日夜広須組吉出村で百姓家出火建家米穀等焼失・一昨27日夜尾崎組原田村で出火類焼あり火元他村預け、御館神等6ヶ所に五穀成就の 上に続く	
1839年	3月16日	天保10年	2月2日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 (去る28日駒越組黒土村で出火建家焼失、去る28日夜大鰐組長峰村寄せ郷九十九森村で出火類焼5軒等焼失・火元他村預け、取押え物件:丸太・駒・鐮・杵等々)	
1839年	3月17日	天保10年	2月3日 曇	申の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止 去王雪少し降 (近く立上の丸屋十蔵支配人柏屋佐助に下され物・弘前織袴地1反干し鑑鈍等、5日の記述で生涯2人扶持を下し置かれる)	
1839年	3月18日	天保10年	2月4日 曇	昨夜雪少し降 卯の刻過ぎより小雨時々降 馬の刻過ぎ止 (去る2日夜九時頃尾崎組柏木町村で出火類焼共2軒焼失・火元他村預け、去月24日後湯組中沢村で出火建家等焼失)	
1839年	3月19日	天保10年	2月5日 晴	昨夜雪少し降 下から続く 他郡御入米の上夫食拝借等の御沙汰が必要との申し出あり) 8日から続く 30軒焼失・呵置く、近所出火の節戸の水汲に抵抗の 正月22日に続く	
1839年	3月20日	天保10年	2月6日 快晴	(誓願寺出火・本堂等焼失・禁足) 下から続く 乱妨の男を揚屋入り、その村所により候えども大体平年200坪1人役にて4俵上りの所去年は……民食行き届き申さず…… 上に続く	
1839年	3月21日	天保10年	2月7日 曇	今日雪少し降 (一昨5日夜大鰐村で出火・34軒位等々焼失・(9日の記述で)火元他村預け、去る朔日夜九時頃浦町組新町野村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、非道取引 上に続く	
1839年	3月22日	天保10年	2月8日 晴	(去る朔日夜浦町組新町野村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、去月26日赤石組舞戸村支配田浦村で神職出火・建家1軒馬1疋焼失、去月朔日夜脇元村で出火・類焼共 2月5日に続く	
1839年	3月23日	天保10年	2月9日 曇	今日雪少し降 未の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 (九十九森村火災の被災者に御手当米2斗宛下し置かれる、去る朔日夜赤石組裡里村で出火・建家馬等焼失、 欄外(*)に続く	
1839年	3月24日	天保10年	2月10日 曇	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過ぎ止 (馬盗打殺身火を入牢、男3人卒死、大円寺境内の仁王尊が御出汗) 下から続く 2軒焼失・火元他村預け、去る7日夜駒越組 正月19日に続く	
1839年	3月25日	天保10年	2月11日 曇	今晩寅の刻頃より小雨時々降 申の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより雨時々降 (去月20日晩赤石組深谷村・去月26日同組舞戸村寄せ郷館村・去る5日夜油川組新城村で出火・類焼共 上に続く	
1839年	3月26日	天保10年	2月12日 晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより西南の風邪吹 (去る7日木作新田上牛湯村で出火・類焼共3軒・火元百姓他村預け、闇物資御取上げ)	
1839年	3月27日	天保10年	2月13日 曇	昨夜よりの風今晩丑の刻過ぎ止 昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (百沢下居宮で御出汗)	
1839年	3月28日	天保10年	2月14日 曇	今日雪少し降 (盗み徒の男2人を入牢)	
1839年	3月29日	天保10年	2月15日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (金木両組村々で先達より時疫並びに腹痛流行に付究民共多病死仕候間……) 下から続く 黒石表で盗み徒附火に疑わしい男を入牢)	
1839年	3月30日	天保10年	2月16日 曇	今日雪少し降 (去る8日夜浦町組濱田村で出火・建家等焼失、堀五郎左衛門が病死) 19日から続く 出火建家馬1疋焼失・去る17日夜尾崎組で百姓家出火建家等焼失、 上に続く	
1839年	3月31日	天保10年	2月17日 曇	戌の刻過ぎより雨降 夜に入同断 (旧臘24日屋形棟が御鷹の雁を拝領、人事異動) 下から続く 松前衆拵(稼ぎの意)に渡海する者多し・日々20人30人にも及ぶ、山の木伐り取り願ひ)	
1839年	4月1日	天保10年	2月18日 曇	昨夜よりの雨今晩卯の刻過ぎ止 今晩寅の刻過ぎ雷鳴 即刻止 今日雪少し降 (去る11月出木嶋村で土蔵破りの一味の男が病身で入牢を保留していたら去る5日病死、便船で 上に続く	
1839年	4月2日	天保10年	2月19日 晴	昨夜雪少し降 申の刻過ぎ小雨降 即刻止 (去る13日赤石組田浦村で出火・類焼共4軒焼失・火元他村預け) 下から続く 馬3疋等焼失・去る15日夜木造新田牛湯村で 16日に続く	
1839年	4月3日	天保10年	2月20日 曇	今晩寅の刻頃より西風吹 卯の刻過ぎ止 寅の刻過ぎより雨降 辰の刻過ぎ止 (去る15日夜俵元新田若山村で出火建家穀物等焼失・去る13日夜広須組再質村で百姓家出火建家 上に続く	
1839年	4月4日	天保10年	2月21日 快晴	昨夜雪少し降 (大鰐組唐牛村の6日の被災者に御手当て米2斗宛下し置かれる)	
1839年	4月5日	天保10年	2月22日 晴	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 亥の刻過ぎ雷鳴 即刻止 (昨晩八時頃寺徳寺で出火類焼浄龍寺・和尚禁足) 25日から続く 去る17日赤石組中村で出火・建家等焼失)	
1839年	4月6日	天保10年	2月23日 晴	昨夜よりの雨今晩丑の刻過ぎ止 昨夜雪少し降 戌の刻過ぎより小雨時々降 夜二入同断 下から続く 最勝院の境内で杉15本宛を切り出させる・小杉を150本宛植える条件で)	
1839年	4月7日	天保10年	2月24日 晴	今晩子の刻過ぎ雷鳴 即刻止 昨夜よりの小雨今晩丑の刻過ぎ止 酉の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (一昨夜五時過ぎ土手町で出火・類焼共9軒・火元入寺の上積み、貞昌寺 上に続く	
1839年	4月8日	天保10年	2月25日 曇	今晩子の刻過ぎ雷鳴 即刻止 昨夜よりの雨今晩卯の刻過ぎ止 (去る18日夜浪岡組柳久保村で出火類焼3軒・去る19日夜大鰐組高畑村で出火類焼共3軒・火元共に他村預け、 22日に続く	
1839年	4月9日	天保10年	2月26日 曇	昨夜雪少し降 今日同断	
1839年	4月10日	天保10年	2月27日 晴	昨夜雪少し降 下から続く 去る20日金木組高根村・23日夜大鰐組葉師堂村で出火、去る22日夜早瀬野村で出火類焼共2軒・火元他村預け、御家中取持ち田地の小作人が死絶え……)	
1839年	4月11日	天保10年	2月28日 曇	今日雪少し降 未の刻頃より小雨降 申の刻過ぎ止 (早期皆済(の代官?)に御賞、駄馬今20疋他領に御払、去る21日夜赤田組中野村で百姓家出火・類焼共8軒・火元他村預け、 上に続く	
1839年	4月12日	天保10年	2月29日 快晴	(昨28日百沢寺で出火寺廻り焼失・坊主禁足) 3月2日から続く 都合18・9軒)	
1839年	4月13日	天保10年	2月30日 快晴	(酒造り・小売共を押込めにしている) 下から続く 護殺神で武運長久五穀成就の御祈禱、赤石組代官から木の伐り取り願ひ・止むを得ないと認めている、こんな例が多数)	
1839年	4月14日	天保10年	3月1日 快晴	(去月21・22日の町内火災に関して御賞、去る25日夜尾崎組沖館村で3軒出火建家等焼失、御手廻組の盗み徒の弟を町同心が召捕り揚屋入り、6ヶ所で五穀成就の御祈禱・ 上に続く	
1839年	4月15日	天保10年	3月2日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (木の伐取り願ひ・建馬の他払い願ひが多い) 3月5日から続く 30日夜藤崎組深味村で出火・一昨3日夜油川村で出火・ 2月29日に続く	
1839年	4月16日	天保10年	3月3日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 辰の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (今晩七時頃青森安方町で出火・類焼29軒潰れ家3軒明六時頃鎮火・火元積み、高伯寺大日尊が今日八時過ぎ御出汗)	
1839年	4月17日	天保10年	3月4日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過ぎ止 今日雪少し降 (猥の野火附けを御停止の触れ、揚屋・牢舎の者の飯料を1日3合・2合5夕等に減らす、去る29日浪岡組二双子村で出火・建家焼失)	
1839年	4月18日	天保10年	3月5日 曇	午の刻過ぎより時々雨降 酉の刻過ぎ止 (種粉を差出した14人を郷士等にす) 3月8日から続く 1軒・2日夜増館組福館村で出火類焼共3軒・共に火元他村預け、去月 3月2日に続く	
1839年	4月19日	天保10年	3月6日 曇	今日雪少し降 下から続く 脇元村で出火・類焼共30軒・内22軒に御米3石下し置かれる、丹後者の詮索送返し触れ、御鷹の雁御拝領に付座当盲女361人に15文宛配当90目2分5厘)	
1839年	4月20日	天保10年	3月7日 曇	(去月26日夜九時頃広須組善積村・去月30日夕八時頃出火・建て家等焼失、去る5日夜大鰐村で出火・潰家焼失とも53軒・内50軒に御米7石下し置かれる、去る朔日夜金木組 上に続く	
1839年	4月21日	天保10年	3月8日 曇	昨夜よりの雨今日におよび時々降 巳の刻頃止 巳の刻過ぎより西南の風時々吹 夜に入同断 未の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (去る朔日夜木作新田下福原村類焼 3月5日に続く	
1839年	4月22日	天保10年	3月9日 晴	昨夜よりの風今晩丑の刻過ぎ止 雨卯の刻過ぎ止 戌の刻過ぎより小雨時々降 (木の伐り取り願ひ多数)	
1839年	4月23日	天保10年	3月10日 曇	昨夜よりの雨卯の刻過ぎ止 午の刻過ぎより小雨時々降 戌の刻過ぎ止	
1839年	4月24日	天保10年	3月11日 晴	申の刻過ぎより小雨時々降 夜二入同断 (木の伐り取り願ひ多い)	
1839年	4月25日	天保10年	3月12日 曇	昨夜よりの小雨今日におよび時々降 巳の刻過ぎ止 午の刻頃より晴	
1839年	4月26日	天保10年	3月13日 晴		
1839年	4月27日	天保10年	3月14日 快晴	(去る19日夜浪岡組本郷村で出火・類焼共6軒焼失・火元他村預け、椿仕立て方手附の福真文之助の御役拔) 下から続く 本町村で出火・類焼共2軒・火元百姓他村預け)	
1839年	4月28日	天保10年	3月15日 曇	未の刻過ぎより小雨降 即刻止 (人事異動、80人余に御買ひ越し米船揚取扱(加担)を仰せ付ける) 下から続く 類焼共2軒・火元百姓他村預け、去る13日夜大光寺組 上に続く	
1839年	4月29日	天保10年	3月16日 曇	午の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断 (高杉組十腰内村の悪者共の頭を入牢) 下から続く 火災は都合20軒土蔵2ヶ所・火元他村預け、去る14日夜浪岡組竹鼻村で出火・ 上に続く	
1839年	4月30日	天保10年	3月17日 曇	今晩丑の刻過ぎより西南風吹 寅の刻止 昨夜よりの雨今日におよび時々降 夜に入同断 (去る8日夜木作新田越水村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け、3日油川村の 上に続く	

(*) 3日夜浪岡組上十川村高無家で出火・家焼失、去る4日夜広須組永田村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、5日夜駒越組国吉村で高無家出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、密造酒売買の5人を20日押し込め等、この節御払米値段・沖役・駄賃銭を加えると1俵に付98文目3分3リ値段、去る6日夜大鰐組唐牛村百姓出火・類焼共6軒焼失、木の伐り取り願ひが多いが……)

1839年	5月1日	天保10年	3月18日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 午の刻過より晴 未の刻過より地震少し (去る13日夜浦町組牛潟村で出火、不明日に鰯ヶ沢町で小屋焼失類焼1軒、銀70目立・稗4俵で税の米1俵とする)
1839年	5月2日	天保10年	3月19日 晴	未の刻過地震少し (施行小屋での病死倒死の者を和徳村専修庵に葬って来たが満杯)
1839年	5月3日	天保10年	3月20日 曇	未の刻頃地震少し (米50俵差上げた男に生涯3人扶持、小泊領砂山より穿出した古鈔(玉の名と書いてあるが分からない・銭か)の代銭を下し置かれる、鰯が大量に取り押さえられている)
1839年	5月4日	天保10年	3月21日 快晴	(極究の村々から木の伐り取り願ひ)
1839年	5月5日	天保10年	3月22日 曇	巳の刻過小雨降 即刻止 未の刻過より小雨時々降 夜に入同断 (昨夜六時過ぎ福寿院が出火・坊主禁足)
1839年	5月6日	天保10年	3月23日 晴	昨夜よりの小雨寅の刻過止 (御買越米取扱等に御賞相当の酒肴)
1839年	5月7日	天保10年	3月24日 晴	申の刻過より小雨時々降 夜に入同断
1839年	5月8日	天保10年	3月25日 晴	昨夜より小雨 今晚丑の刻過止 下から続く 木の伐り出しを許している)
1839年	5月9日	天保10年	3月26日 曇	未の刻頃より雨時々降 夜に入同断 下から続く 上納米1俵の代:粟1俵・蕎麦9斗・麦7斗・大豆2俵・小豆6斗・稗4俵にて上納を申付ける、酒2斗6升の売払い代銭が93文目、 上に続く
1839年	5月10日	天保10年	3月27日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ卯の刻過止 午の刻過より小雨時々降 夜に入同断 (去る16日朝赤石組日照田村で出火・類焼共4軒等焼失・火元他村預け、色々悪者が出ている、 上に続く
1839年	5月11日	天保10年	3月28日 晴	昨夜よりの小雨今晚寅の刻過止 (人事異動、預けられて逃げられた男を押込5日) 下から続く 御館神和徳稲荷等6ヶ所で五穀成就の・護穀神で武運長久五穀成就の御祈禱)
1839年	5月12日	天保10年	3月29日 晴	申の刻過より雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜に入同断 (木の伐取り願ひ多い) 下から続く 百姓他村預け、去月24日夜藤崎村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け、 上に続く
1839年	5月13日	天保10年	4月1日 曇	卯の刻過雷鳴 即刻止 昨夜よりの雨今日におよひ時々降 巳の刻頃止 今日折々晴 酉の刻過より小雨時々 (去月23日夜増館組目鹿沢村村で出火・類焼共3軒焼失・火元 上に続く
1839年	5月14日	天保10年	4月2日 快晴	昨夜よりの小雨今晚卯の刻頃止 (小盗みなど不屈きな大工を入牢、去る28日夜藤崎村で出火・類焼1軒・火元他村預け、昨夜御家中宅で出火)
1839年	5月15日	天保10年	4月3日 快晴	
1839年	5月16日	天保10年	4月4日 快晴	(先納米を皆納の者共を代々郷士等に、明5日御下向金2000両を道中8日振りで登す、杉伐り取り願ひ・代小杉1800本植付で許す) 下から続く 脇元村の被災者に木の伐採を許可)
1839年	5月17日	天保10年	4月5日 快晴	(先納米の皆済者に御賞、去月26日朝後潟組瀬辺地村で出火・類焼2軒・火元他村預け、盗み徒の男を入牢、去月27日屋駒越組国吉村で出火・類焼1軒・火元他村預け、2月の 上に続く
1839年	5月18日	天保10年	4月6日 なし	(日記は保存されているが天氣の記述なし) 下から続く 土蔵を伐り破り盗みの男を入牢)
1839年	5月19日	天保10年	4月7日 曇	申の刻過小雨降 即刻止 (明8日金1000両登す、廃田の粃がなくて苦労している) 下から続く 火元入寺の上慎、去る4日夜浦町組荒川村で出火・建家等焼失、所々の 上に続く
1839年	5月20日	天保10年	4月8日 曇	巳の刻過ぎ小雨降 則刻止 (去る2日夜堀越組川合村で出火・類焼共5軒焼失・火元他村預け、昨夜八時頃御家中の勝手廻り焼失、今晚7時頃西大工町で出火・類焼2軒潰家1軒 上に続く
1839年	5月21日	天保10年	4月9日 曇	今晚卯の刻頃小雨降 即刻止 巳の刻頃より小雨時々降 申の刻過止
1839年	5月22日	天保10年	4月10日 晴	今晚丑の刻刻過より西南の風強し 卯の刻過ぎ止(刻刻はそう書いてある) (去る7日屋金木村で出火・類焼3軒・火元他村預け、木の伐り取り願ひ・代小杉を植えさせて許可)
1839年	5月23日	天保10年	4月11日 曇	午の刻頃より雨時々降 戌の刻頃止 (去る5日夕方八時半広須組堅固新村で出火・建家等焼失・火元百姓、岩木川出水・駒越渡場往来差留め・今五時頃より両船とも通路相成る)
1839年	5月24日	天保10年	4月12日 快晴	(銭の意味で「鈔」としている例がある、味噌を例年の三ヶを今年は面扶持なので後払いでなく下し置かれる)
1839年	5月25日	天保10年	4月13日 晴	(越後からの買越米500石で1250両・1俵115文目立)
1839年	5月26日	天保10年	4月14日 晴	
1839年	5月27日	天保10年	4月15日 曇	今晚寅の刻過より雨時々降 辰の刻過止 (御買越米船揚げ取扱15人先納米皆済等多数に御賞もどき、強盗等の悪事をした男を入牢、後潟組御代官・蟹田町奉行が御救木伐り取願ひ・了承)
1839年	5月28日	天保10年	4月16日 晴	下から続く 闇物資米1俵ほど御取上げ)
1839年	5月29日	天保10年	4月17日 快晴	(去る10日夜赤石組横磯村で・去る10日朝金木組高根村で出火・類焼共4軒・2軒焼失・火元共に他村預け、去る10日朝堀越村で出火建家焼失、去る5日小泊村領に鯨寄せる、 上に続く
1839年	5月30日	天保10年	4月18日 曇	今晚卯の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止 (去る14日夜大光寺組李平村で出火・建家等焼失)
1839年	5月31日	天保10年	4月19日 曇	(去る14日夜浦町組大別内村で出火・類焼共5軒焼失・火元他村預け)
1839年	6月1日	天保10年	4月20日 曇	卯の刻過ぎ小雨降 即刻止 (闇物資御取上げ)
1839年	6月2日	天保10年	4月21日 快晴	
1839年	6月3日	天保10年	4月22日 晴	(今19日昼九時頃大間越町で出火・類焼共8軒焼失・火元慎み) 26日から続く 出火・建家等焼失、旅人の金銀奪ひ取り町の土蔵を切破り盗みの碇ヶ間の男を入牢)
1839年	6月4日	天保10年	4月23日 晴	下から続く 類焼数軒・火元禁足)
1839年	6月5日	天保10年	4月24日 快晴	今晚寅の刻過より雨降 卯の刻頃止 (今晚八時過ぎ御家中が台所等焼失、去る19日夜長留新村で出火・建家等焼失、去る21日夜四つ半時蓮心寺(多分青森)境内で出火・ 上に続く
1839年	6月6日	天保10年	4月25日 晴	(去る20日夜広須組柴田村で出火・類焼共3軒焼失・火元百姓他村預け、北浮田村領赤平濱で越後船が破船・客59人全員無事、昨23日昼八つ半時頃柏木館山に野火・長20間位幅15間位)
1839年	6月7日	天保10年	4月26日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜に入同断 (津軽金蔵を御家老職・渡辺将監を御城代にとの人事異動、去る21日夜金木組尾別村で出火・類焼共2軒・火元他村預け、尾崎組沖館村で 22日に続く
1839年	6月8日	天保10年	4月27日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 夜に入同断 (人事異動、去る24日夜藤崎村で百姓出火・建家等焼失)
1839年	6月9日	天保10年	4月28日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 夜に入同断 (津軽多膳と工藤田兵衛を御用人にとの人事異動、御賞もどき沢山) 下から続く 護穀神で武運長久五穀成就の御祈禱)
1839年	6月10日	天保10年	4月29日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 夜に入同断 下から続く 2斗宛下し置かれる、去月17日暮六時頃十三湊領釜谷で箱館船が難船、御館神等6ヶ所で五護穀成就の・ 上に続く
1839年	6月11日	天保10年	5月1日 曇	昨夜よりの雨今日におよひ時々降 午の刻頃止 (去る25日夜広須組繁田村で百姓出火・建家等焼失、揚屋の男2人傷寒・病死、極究の大間越町火災の被災者8人に御救米 上に続く
1839年	6月12日	天保10年	5月2日 快晴	
1839年	6月13日	天保10年	5月3日 快晴	(昨夜八時頃御家中の居宅焼失・類焼あり、同時刻にもう1軒焼失・類焼あり)
1839年	6月14日	天保10年	5月4日 快晴	
1839年	6月15日	天保10年	5月5日 快晴	(去る18日昼九時頃より鰯ヶ沢沖で大風・漁船8艘中2艘が難船・4人海死)
1839年	6月16日	天保10年	5月6日 快晴	
1839年	6月17日	天保10年	5月7日 曇	辰の刻過より小雨時々降 申の刻過止
1839年	6月18日	天保10年	5月8日 曇	今晚丑の刻過より雨降 卯の刻頃止
1839年	6月19日	天保10年	5月9日 曇	今晚丑の刻過より小雨降 寅の刻過止
1839年	6月20日	天保10年	5月10日 曇	未の刻過より小雨降 申の刻過止 (去る6日夜大光寺組本町村で百姓家出火)
1839年	6月21日	天保10年	5月11日 曇	今晚寅の刻過より小雨降 卯の刻過止 辰の刻頃小雨降 則刻止 (去る3日夜駒越組大秋村で出火・建家等焼失)
1839年	6月22日	天保10年	5月12日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 酉の刻過止 (山の木の伐り出し願ひ多数)
1839年	6月23日	天保10年	5月13日 曇	午の刻過より小雨時々降 夜に入同断 下から続く 鬼袋村で出火・建家焼失、去る7日夜九時頃鰯ヶ沢七ツ石町で出火・類焼4軒潰家1軒・火元慎み)
1839年	6月24日	天保10年	5月14日 曇	昨夜より小雨今日に及時々降 巳の刻過止 午の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (去る4日夜赤石組浜横沢村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、去る6日夜赤石組 上に続く
1839年	6月25日	天保10年	5月15日 晴	
1839年	6月26日	天保10年	5月16日 曇	午の刻過より雨時々降 夜に入同断 下から続く 焼失・火元他村預け、同日夜赤石組舞戸村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、木の伐り出し願ひ多い)
1839年	6月27日	天保10年	5月17日 晴	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 (去る9日夜三厩町で出火・類焼2軒・火元慎み、去る11日夜赤田組板屋野木村で出火・建家焼失、同日夜広田組喰川村で出火・類焼共2軒 上に続く
1839年	6月28日	天保10年	5月18日 快晴	(頼母・多膳が江戸急登り仰せ付けられる)
1839年	6月29日	天保10年	5月19日 曇	卯の刻過より小雨降 即刻止 午の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (昨夜八時頃御家中宅で出火、青田の内笛吹くなどの触れ)
1839年	6月30日	天保10年	5月20日 曇	今晚丑の刻過より小雨降 卯の刻過止 (山の木の伐り取り願ひ)

1839年	7月1日	天保10年	5月21日 曇	巳の刻過より雨時々降 未の刻過止 (頼母・多膳が今日出立、油川村出火で焼失の者19軒に御手当て米3石下し置かれる)
1839年	7月2日	天保10年	5月22日 晴	(深浦・大間越町で建馬他払いを認める)
1839年	7月3日	天保10年	5月23日 曇	未の刻過より小雨時々降 夜に入同断 酉の刻過雷鳴 即刻止 下から続く 差控え、4月屋形様が黒石の左近将監様を養子に隠居願ひ)
1839年	7月4日	天保10年	5月24日 晴	昨夜の小雨今暁丑の刻過止 (去月15日大道寺族之助を家老職に佐藤栄吉を御家老付き表右筆に等の人事異動多数、河野六郎・山鹿次郎作の蟄居御免・当分の内重役出会い 上に続く
1839年	7月5日	天保10年	5月25日 快晴	戌の刻頃より雨時々降 (人事異動)
1839年	7月6日	天保10年	5月26日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 夜に入同断
1839年	7月7日	天保10年	5月27日 曇	昨夜よりの雨辰の刻過止 (無刻印の材木御取上げ)
1839年	7月8日	天保10年	5月28日 曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 亥の刻過より雨降 (正覚院で盗まれたものを売った胡乱の男を吟味中入牢)
1839年	7月9日	天保10年	5月29日 曇	昨夜よりの雨今日に及卯の刻過止
1839年	7月10日	天保10年	5月30日 晴	午の刻過むらさ雨(むらさめ?)降 即刻止 下から続く 五穀成就の御祈禱・護穀神で御武運長久五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1839年	7月11日	天保10年	6月1日 曇	卯の刻過より雨降 夜に入同断 (人事異動、石渡川4歩半の出水・馬船小船往来なり兼ねる、去月19日左近将監様が大隅守に改める、木の伐り取り願ひ、御館神等6ヶ所に 上に続く
1839年	7月12日	天保10年	6月2日 曇	昨夜よりの雨今日に及 夜に入同断 (岩木川出水・駒越渡し場往来差止め・今五時頃より長船通路相成る)
1839年	7月13日	天保10年	6月3日 曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 巳の刻過より雨時々降 夜に入同断 (工藤与助を御側御用人に等の人事異動、岩木川出水・今朝五時頃より両船とも通路相成る)
1839年	7月14日	天保10年	6月4日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 午の刻過より小雨時々降 戌の刻過止
1839年	7月15日	天保10年	6月5日 晴	戌の刻過より小雨降 (去月23日夜熊野宮御本社入口の錠が壊され神鏡1面盗み取られる)
1839年	7月16日	天保10年	6月6日 曇	昨夜よりの小雨今暁丑の刻頃止 辰の刻過より雨降 未の刻過止 申の刻より雨降 夜に入同断 (両社並びに下居宮最勝院百沢寺で日和揚の御祈禱を仰せ付ける)
1839年	7月17日	天保10年	6月7日 曇	昨夜よりの雨今日に及 戌の刻頃止 申の刻頃より西南の風強し 酉の刻頃止 (岩木川出水7歩・8歩・落水、頃日雨天続きで水湛1200町歩ほど、護穀神に明日日和揚神事差上げる)
1839年	7月18日	天保10年	6月8日 曇	巳の刻過より小雨降 午の刻過止
1839年	7月19日	天保10年	6月9日 晴	辰の刻過地震少し (盗みの男を揚屋入り)
1839年	7月20日	天保10年	6月10日 晴	
1839年	7月21日	天保10年	6月11日 晴	(吟味中入牢が2人、御買越米を早速仰せ付けの高を上納した7人に御賞もどき、闇物資御取上げ)
1839年	7月22日	天保10年	6月12日 快晴	(あちこちで木の伐り出し願ひ)
1839年	7月23日	天保10年	6月13日 快晴	
1839年	7月24日	天保10年	6月14日 晴	未の刻過むらさ雨 則刻止
1839年	7月25日	天保10年	6月15日 快晴	(御賞もどき)
1839年	7月26日	天保10年	6月16日 曇	未の刻過より小雨降 申の刻過止 (御賞もどき、火付けといわれるもの2人を召捕り入牢) 下から続く 隠し荷揚げの男の荷物御取り上げの上押込め15日)
1839年	7月27日	天保10年	6月17日 晴	午の刻過むら雨降 則刻止 (当年は松前表の鯡不漁で日雇いもなし・秋田南部から渡海の者は送り返している・御国より渡海の者は(藩のバックアップがあり?)扱いが少し違う、 上に続く
1839年	7月28日	天保10年	6月18日 快晴	
1839年	7月29日	天保10年	6月19日 快晴	
1839年	7月30日	天保10年	6月20日 曇	卯の刻過小雨時々降 巳の刻過止 (買越米等で御賞もどき・一代郷士・帯刀御免・菓子・上下等々、木の伐り出し願ひ多い)
1839年	7月31日	天保10年	6月21日 曇	今暁寅の刻過より小雨降 則刻止 巳の刻過より小雨降 未の刻頃止 (預けられた盗人に逃げられた男3人に戸ノ15日・預けられた馬2疋に逃げられた代庄屋に戸ノ10日、木の伐り取り願ひ)
1839年	8月1日	天保10年	6月22日 晴	申の刻過より雨時々降 夜に入同断 (闇物資御取上げ、盗み徒の男が火付けも?入牢の上拷問したいとの申し出、鷹銀売買の男入牢、帯刀の上役筋といって廻郷の男を揚り屋入り)
1839年	8月2日	天保10年	6月23日 晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 6月28日から続く 足軽を揚屋入り、四社に風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける、家老津軽金蔵・(元ノ役)黒滝主殿の御役職召し放たれ慎み)
1839年	8月3日	天保10年	6月24日 曇	辰の刻過より小雨時々降 午の刻過止 未の刻過より雷雨 雷即刻止 雨時々降 夜に入同断
1839年	8月4日	天保10年	6月25日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 夜に入同断 酉の刻過より雷鳴 戌の刻頃止 (岩木川出水・駒越渡し場今八ツ時頃より往来止まる、山の木伐り取願ひ)
1839年	8月5日	天保10年	6月26日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (駒越渡し場今朝六半時より両船とも通路に相成る) 下から続く 引合15日早く(節に引合)17日早い)
1839年	8月6日	天保10年	6月27日 曇	午の刻過より小雨時々降 夜に同断 (大鰐村加賀助兵左衛門より御初穂差出す・去年は閏4月15日植付78日目に差出し当年は4月24日植付63日目に差上げる・当年は日数に 上に続く
1839年	8月7日	天保10年	6月28日 曇	昨夜よりの小雨今日に及時々降 夜に同断 (丹後者詮索送り返しの触れ、住吉宮護穀神で日和上げ御祈禱を仰せ付ける) 下から続く 付ける、博打の詮議中御城付 23日に続く
1839年	8月8日	天保10年	6月29日 曇	昨夜よりの小雨今日に及時々降 午の刻過止 申の刻頃より雨降 夜に入同断 (四社に風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける、明朔日下居宮で日和揚御神楽仰せ 上に続く
1839年	8月9日	天保10年	7月1日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 午の刻過止 (屋形様名改めの御祝儀で座当盲女共都合722人に15文宛(180目5分)下し置かれる、御館神等5ヶ所に五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1839年	8月10日	天保10年	7月2日 曇	未の刻過より雨降 申の刻過止 (買入米手配に関して永久3人扶持年頭御目見、岩木川出水で駒越渡し場通路差し止めが長船通路相成る、火付け土蔵切破り等の男召捕り入牢)
1839年	8月11日	天保10年	7月3日 曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 (鷹銀商売の男2人を入牢)
1839年	8月12日	天保10年	7月4日 曇	辰の刻過小雨降 即刻止 酉の刻頃より雨時々降 (境内の木の伐り出し願ひあり)
1839年	8月13日	天保10年	7月5日 晴	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻頃止 (御用達4人?に5人扶持宛増)
1839年	8月14日	天保10年	7月6日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜に同断 (津軽頼母の御用人兼帯御免)
1839年	8月15日	天保10年	7月7日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 午の刻頃止 午の刻過西南の風吹 申の刻過止 (去る4日暁赤田組板屋野木村で出火・建家焼失)
1839年	8月16日	天保10年	7月8日 晴	折々曇 亥の刻過より雨時々降
1839年	8月17日	天保10年	7月9日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 巳の刻過止 (濁酒隠し売り等の男3人の濁酒御取上げ20日戸ノ等)
1839年	8月18日	天保10年	7月10日 晴	
1839年	8月19日	天保10年	7月11日 晴	巳の刻過よりむら雨降
1839年	8月20日	天保10年	7月12日 晴	
1839年	8月21日	天保10年	7月13日 晴	
1839年	8月22日	天保10年	7月14日 晴	
1839年	8月23日	天保10年	7月15日 曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止
1839年	8月24日	天保10年	7月16日 曇	巳の刻過雨降 即刻止 戌の刻過より小雨時々降
1839年	8月25日	天保10年	7月17日 晴	昨夜よりの小雨今暁子の刻過止 卯の刻過小雨降 即刻止 (御初米実り候に付来る20日差上げたいと御代官より申し出)
1839年	8月26日	天保10年	7月18日 快晴	
1839年	8月27日	天保10年	7月19日 快晴	
1839年	8月28日	天保10年	7月20日 晴	(代官等に御賞もどき・人事異動)
1839年	8月29日	天保10年	7月21日 晴	(慈雲院境内の杉林に50歳くらいの男縊死)
1839年	8月30日	天保10年	7月22日 曇	巳の刻過より小雨降 即刻止 午の刻過より雨降 (木の伐り取り願ひ数件)
1839年	8月31日	天保10年	7月23日 晴	

1839年	9月1日	天保10年	7月24日 快晴	
1839年	9月2日	天保10年	7月25日 曇 今暁子の刻過より雷雨 雷丑の刻過止 雨時々降 (御買越米割当高皆納の者たち11人に御賞もどき)	
1839年	9月3日	天保10年	7月26日 曇 昨夜よりの雨今日二及時々降 巳の刻過止	
1839年	9月4日	天保10年	7月27日 快晴	
1839年	9月5日	天保10年	7月28日 快晴	
1839年	9月6日	天保10年	7月29日 晴	
1839年	9月7日	天保10年	7月30日 快晴 (去る23日夜赤石組中村で高無家出火・建家焼失)	
1839年	9月8日	天保10年	8月1日 晴 申の刻過小雨降 即刻止 (多くの者(紛らわしき南鐐使い・馬盗み打殺し・強盗殺人等々)詮議中入牢、闇物資御取上げ)	
1839年	9月9日	天保10年	8月2日 晴 (闇物資(今回は材木が多い)御取上げ) 下から続く との条件、小笠原良八・間山鉄五郎・奈良庄司等の倅に5人扶持宛の養い扶持を下し置かれる)	
1839年	9月10日	天保10年	8月3日 晴 下から続く 御家老職に田井友衛を手廻組頭御家老職手伝いに、役下げ・永の暇も多い) 6日から続く 等引上げ、多くの昔の重役の蟄居等御免・重役に出入り禁止	上に続く
1839年	9月11日	天保10年	8月4日 晴 戌の刻過よ梨小雨時々降(晴 戌の刻過より小雨時々降) (山の木の切り取り願い、去月22日高倉駿河を御城代格御家老手伝いに等の人事異動、去月20日津軽多膳を御前で	上に続く
1839年	9月12日	天保10年	8月5日 晴 昨夜より小雨今日二及 卯之刻頃止 (人事異動、去月6日侍従様が柳島の下屋敷に御引移り、一昨3日夜九時頃百沢寺で出火・仮小屋焼失)	
1839年	9月13日	天保10年	8月6日 晴 (御館神等6ヶ所に五穀成就の・護穀神に武運長久五穀成就の御祈禱を仰せ付ける、黒滝主殿の半知召上げ隠居・その他にも格下げ多数、山上才助の御元々手伝い御免勤料	3日に続く
1839年	9月14日	天保10年	8月7日 晴 (山上弥兵衛が倅才助の件で御奉公遠慮)	
1839年	9月15日	天保10年	8月8日 晴 (闇物資(今回も材木が多い)御取上げ、山の木の伐り出し願い)	
1839年	9月16日	天保10年	8月9日 晴 卯の刻過ぎ小雨降 則刻止 (人事異動、火付け等で疑わしい男と賈銀の2人を入牢)	
1839年	9月17日	天保10年	8月10日 晴	
1839年	9月18日	天保10年	8月11日 晴 未の刻過急に雨降 (山上弥兵衛に遠慮御免)	
1839年	9月19日	天保10年	8月12日 晴 (白取数馬を御馬廻組頭に等の人事異動、御元々勘定奉行申し出で候という言葉がまだある、10日夜土手町に男子捨子・同町の者に養育させる、八幡宮の神輿通行延期)	
1839年	9月20日	天保10年	8月13日 曇 未の刻過ぎより小雨降 申の刻過止 (山上才助等の遠慮御免)	
1839年	9月21日	天保10年	8月14日 曇 卯の刻過より雨時々降 夜二人同断	
1839年	9月22日	天保10年	8月15日 晴 昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 (不明日に三殿簾沖合いで松前船破船・乗員2人無事、頃日に至り稲草過分虫付に相成る・護穀神で虫除けの御祈禱を仰せ付ける)	
1839年	9月23日	天保10年	8月16日 晴 申の刻過小雨降 則刻止 申の刻過ぎ雷鳴 則刻止 (多数の面々が遠慮御免)	
1839年	9月24日	天保10年	8月17日 晴 今暁寅の刻過より雨降 卯の刻過止	
1839年	9月25日	天保10年	8月18日 晴	
1839年	9月26日	天保10年	8月19日 曇 巳の刻過より小雨降 午の刻過止	
1839年	9月27日	天保10年	8月20日 快晴 (闇物資(魚・酒三尺桶1(1石3斗1升入り)瓶2(2斗3升入り):この酒の売払い代銭344文目・身欠き鮒・塩引)御取上げ)	
1839年	9月28日	天保10年	8月21日 曇 午の刻過より雷雨 雷未の刻過止 申の刻過雨止 (鰻ヶ沢町奉行・十三町奉行の人事異動、蟹田町大橋が6月2日の出水で西の方9間流れる、闇物資沢山取上げ)	
1839年	9月29日	天保10年	8月22日 晴 卯の刻過小雨降 則刻止 巳之刻過地震少し 今日岩木山に初て雪少し見ゆる (和田某古郡某が一粒金丹の調合を仰せ付けられる(臘胎腎・阿芙蓉などの成分あり))	
1839年	9月30日	天保10年	8月23日 快晴 下から続く 8毛4に相当し2文目2分値段に・1合売りは2分4厘に仰せ付ける、当月4日権現崎で脇元村の船が破船・乗り合いの者無事、屋形様15日江戸発駕)	
1839年	10月1日	天保10年	8月24日 快晴 (去る8月14日に出奔し人別帳外の男が庄内領で病死、旧穀相場1俵に付53文目より48文目位・新穀売出来相場1俵二付36文目位、御定法割合仕れば酒1升到付2文目2分2厘	上に続く
1839年	10月2日	天保10年	8月25日 快晴 (去月27日島田某を御用人に等の人事異動、この度御元方席御止仰せ付けられる)	
1839年	10月3日	天保10年	8月26日 快晴	
1839年	10月4日	天保10年	8月27日 快晴 今朝霜降 (山上才助が勤料御役料の引き上げは当然としてその前に御使番で10人扶持……両立番共相勤めるよう仰せ付ける、去る12日奥瀬某が御馬廻組頭格御用人にとの人事異動)	
1839年	10月5日	天保10年	8月28日 快晴 (御賞もどき)	
1839年	10月6日	天保10年	8月29日 曇 巳の刻過より雨時々降 申の刻過止 下から続く 公儀御書付、江戸で相当数の人事異動)	
1839年	10月7日	天保10年	9月1日 晴 (太田某が帰参40俵3人扶持・他に20俵2人扶持勤料を下し置かれ御手廻格勘定奉行手伝いに、近來上方筋で金値段が下落・1両に付銀60目以下の相場にとしてはならない?との	上に続く
1839年	10月8日	天保10年	9月2日 快晴 戌の刻頃より雨降	
1839年	10月9日	天保10年	9月3日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 (今日(屋形様が)碇ヶ関御着座、山の木の伐り出し願い)	
1839年	10月10日	天保10年	9月4日 晴 酉の刻過より雨降 (屋形様着城タハツ時過・通った部屋が順に書いてある)	
1839年	10月11日	天保10年	9月5日 晴 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 今暁子の刻過雷鳴 即刻止 (深浦町奉行に桜庭某等の人事異動)	
1839年	10月12日	天保10年	9月6日 曇 辰の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (御元締席廃止に伴い織田某を勘定奉行にとの人事異動)	
1839年	10月13日	天保10年	9月7日 曇 昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止 (服装を軽くするようにとの大目付触れ、小鮒1万2千枚を御肴屋に集めている)	
1839年	10月14日	天保10年	9月8日 曇 寅の刻過より雨時々降 卯の刻過より雷時々 未の刻過雨降 夜に入同断	
1839年	10月15日	天保10年	9月9日 晴 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 亥の刻頃より雷雨強シ 下から続く 乱暴の髪結いを入牢)	
1839年	10月16日	天保10年	9月10日 曇 昨夜よりの雷今暁子の刻頃止 雨時々降 寅の刻過止 辰の刻過より雨時々降 申の刻過止 戌の刻過より雨時々降 今日霰少々降 (去月28日夜名主代宅に鳶口付の十手で	上に続く
1839年	10月17日	天保10年	9月11日 曇 昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 (木を伐り荒し皮を剥いた件が沢山あり)	
1839年	10月18日	天保10年	9月12日 晴 (去る巳の年以來違作に付き死亡の者早速取り調べるよう郡奉行町奉行九浦町奉行に申付ける、去月29日後湯組四戸橋村で出火・類焼1軒あり、御救いとして木の伐り取り願い・断っている)	
1839年	10月19日	天保10年	9月13日 曇 今暁寅の刻頃より雨降 卯の刻過止	
1839年	10月20日	天保10年	9月14日 曇 午の刻過より雨時々降 申の刻過止 申の刻頃雷鳴 即刻止 (去る11日夜広須組上木造村で殺人事件)	
1839年	10月21日	天保10年	9月15日 晴 (八幡宮祭礼、人事異動)	
1839年	10月22日	天保10年	9月16日 晴 今暁寅の刻過より小雨降 卯の刻過止 (人事異動、闇物資取上げ(担当に下し置かれる))	
1839年	10月23日	天保10年	9月17日 曇 (御賞(金100疋・南鐐1片)	
1839年	10月24日	天保10年	9月18日 曇 辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 酉の刻過小雨降 即刻止 (小山内武左衛門の御用人兼帯御免)	
1839年	10月25日	天保10年	9月19日 快晴 (去る16日夜一ノ渡村で出火・建家等焼失、この度施行小屋御引き払い・本所江送り返す)	
1839年	10月26日	天保10年	9月20日 晴 寅の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨卯の刻過止	
1839年	10月27日	天保10年	9月21日 晴 (人事異動)	
1839年	10月28日	天保10年	9月22日 快晴 (御附御側御用人衆入用御用立切二付……紙・形墨・筆を要求している)	
1839年	10月29日	天保10年	9月23日 快晴 (博打などで沢山捕まっているが大赦以前のことして御用捨)	
1839年	10月30日	天保10年	9月24日 晴 (江戸に家族毎移転の用人河野六郎の引越し旅費:金27兩と銭1貫345文目2分、闇物資(2尺5寸桎1200枚・駒・白米・酒等々)御取上げ)	
1839年	10月31日	天保10年	9月25日 曇 今暁丑の刻過より小雨降 卯の刻過止 今日雪少し降	

1839年	11月1日	天保10年	9月26日 曇	(去る20日明頃金木組薄市村で落雷出火・居宅等焼失、来月朔日より大学より開講)	下から続く	相沢村牢居の上田惣蔵等の牢居蟄居御免、非常の大赦により殺人者でも御免多数)
1839年	11月2日	天保10年	9月27日 晴	戌の刻過より雨降	(去る24日高杉組宮館村で出火・建家等焼失、毛内有右衛門等に重役出合苦しからずと仰付ける)	下から続く 小泊?沖で松前船破船・乗員別状なし、 上に続く
1839年	11月3日	天保10年	9月28日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止	(津軽主水を手廻一番組頭・珍田祐之助を勘定奉行郡奉行兼役・間山菊翁(刑死した鉄五郎の倅)等を50俵に召出等の人事異動、御賞、当月14日	上に続く
1839年	11月4日	天保10年	9月29日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	
1839年	11月5日	天保10年	9月30日 晴			
1839年	11月6日	天保10年	10月1日 快晴	(人事異動、御賞(金500疋・銀3両・鳥目500文など)、去る26日夜猿賀組長崎村で出火・建家等焼失)		
1839年	11月7日	天保10年	10月2日 快晴			
1839年	11月8日	天保10年	10月3日 曇	今暁子の刻頃より雨降	卯の刻頃止	(宇佐美平左衛門の御役御免)
1839年	11月9日	天保10年	10月4日 晴			
1839年	11月10日	天保10年	10月5日 晴			
1839年	11月11日	天保10年	10月6日 快晴			
1839年	11月12日	天保10年	10月7日 曇	今暁丑の刻頃より雨降	卯の刻過止	巳の刻過より小雨降 午の刻過止 (隠し炭釜などが見つかって御用捨沢山)
1839年	11月13日	天保10年	10月8日 快晴	(笹森案次郎を勘定奉行に等の人事異動、乙富銅鉛山の穿居小屋の鍛冶場取り出火・居小屋7軒類焼)		
1839年	11月14日	天保10年	10月9日 快晴	(去る4日夜増館組久井名館村で百姓が出火・穀物等焼失、油川浪岡増館金木並びに同新田の高5818石の御収納米8700俵余が赤米?:意味不明で書いている)		
1839年	11月15日	天保10年	10月10日 快晴	(厳しい儉約を申渡す、御賞(金100疋・南鐐3片・銀3両・鳥目1貫文等)、去る7日夜駒越組五所村で百姓出火・稲乳等焼失、諸組村々の御山で伐り荒し皮剥ぎ沢山・御取上の上不埒御容赦)		
1839年	11月16日	天保10年	10月11日 晴	亥の刻過より雨時々降	(人事異動、去る9日夜田舎館組馬場尻村で高無出火・建家1軒焼失、野火が入った所70ヶ所ほど・期間等不明、無刻印木の取押え多数)	
1839年	11月17日	天保10年	10月12日 晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止	(御米1俵平均48文目4分9厘8毛(弘前44文目5分7厘3毛・青森54文目5分6厘8毛・鰯ヶ沢46文目3分5厘2毛)内1文目御定め役・差引47文目2分9厘8毛)	
1839年	11月18日	天保10年	10月13日 晴			
1839年	11月19日	天保10年	10月14日 晴			
1839年	11月20日	天保10年	10月15日 快晴	(不明日に横内組大別内村で出火・建家等焼失)	18日から続く	来る21日渡より4合扶持渡を歩引き渡(50石相当で4歩引き(現代の言葉では4割引きの意)など)とする)
1839年	11月21日	天保10年	10月16日 快晴	下から続く	下し置かれる、盗み徒の3人を吟味中入牢)	
1839年	11月22日	天保10年	10月17日 曇	今日午の刻過より小雨降	戌の刻頃止	(本多東作を用人に等の人事異動、当年熟作に候得共廃田稗仕付虫付等にて莫大之御減石……………100石に50目の割合で御手当てを
1839年	11月23日	天保10年	10月18日 晴	(新穀1俵の定価は35文目とする・借用米1俵の返済は1石返し?等いろいろ書いてあるが点羽(案に対する上司の意見?)も付き意味不明、伐り荒し無刻印で取押えの木多数、		15日に続く
1839年	11月24日	天保10年	10月19日 曇	辰の刻過より小雨時々降	午の刻過止	
1839年	11月25日	天保10年	10月20日 曇	未の刻過より小雨降	(当月2日新潟船が鳥井崎浜で破船・6人全員無事)	
1839年	11月26日	天保10年	10月21日 曇	今日雪少し降		
1839年	11月27日	天保10年	10月22日 晴	昨夜雪少し降	(酒の隠し売りを摘発・酒のほか升・3升入り瓶・上戸・空き樽等を押える)	
1839年	11月28日	天保10年	10月23日 晴	下から続く	不動尊並びに二童子御出汗・今朝辰の下刻百沢下居宮並びに御本尊の総体御出汗・五山等で御祈禱神楽等を仰せ付ける)	
1839年	11月29日	天保10年	10月24日 曇	今暁丑の刻過より雨時々降	今暁寅の頃より東南の風強し	卯の刻頃止 雨巳の刻過止 今日雪少し降 (山本三郎左衛門を御使番にとの人事異動、今朝辰の上刻国上寺の
1839年	11月30日	天保10年	10月25日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(今日剣術高覧)
1839年	12月1日	天保10年	10月26日 曇	今日雪少し降	戌の刻過より雨時々降	(初雪の御機嫌伺い、大道寺鞆負を御手廻組に役下げ)
1839年	12月2日	天保10年	10月27日 曇	昨夜よりの雨申の刻頃止	(米146071石位内65574石位が廃田畑並びに仕付荒稗田成諸品成当毛引きとも・点羽平均4歩4厘9毛・残って80490石余ほかに1530石余・ $\times$ 82000石余)	
1839年	12月3日	天保10年	10月28日 曇	今暁寅の刻より雨降	卯の刻過止	今日雪少し降 (山上才助に勤料10人扶持を下し置かれる等の人事異動、横岡幸太郎あり)
1839年	12月4日	天保10年	10月29日 曇	今日雪降	一寸程積	
1839年	12月5日	天保10年	10月30日 曇	昨夜風吹強し	雪五寸程積	今日雪少し降
1839年	12月6日	天保10年	11月1日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	
1839年	12月7日	天保10年	11月2日 晴	(剣術・和術高覧)		
1839年	12月8日	天保10年	11月3日 晴			
1839年	12月9日	天保10年	11月4日 晴	酉の刻過小雨降	則刻止	
1839年	12月10日	天保10年	11月5日 曇	今日雪少し降	(去月3日夜深浦風合瀬前浜で越後船が破船、野内御関所御門脇東側柵立8間風倒)	
1839年	12月11日	天保10年	11月6日 晴			
1839年	12月12日	天保10年	11月7日 曇	今日雪少し降	(金木組薄市村今泉村の他散の者共段々帰村に付き…………)	
1839年	12月13日	天保10年	11月8日 曇	昨夜雪少し降	(当6月出水の金木新田6ヶ村853人に1日1合5タの御救い・ $\times$ て44俵下し置かれる)	
1839年	12月14日	天保10年	11月9日 曇	酉の刻過より雨時々降	(ほとんどの罪人が大赦前として無罪となる)	
1839年	12月15日	天保10年	11月10日 曇	昨夜よりの雨今日に及	去るの刻過ぎ止	(去る5日浦町組荒川村で出火・類焼あり、火元他村預け)
1839年	12月16日	天保10年	11月11日 曇	昨夜雪少し降	今日雪降	一寸程積 (津軽金蔵の御役儀召放ち隠居・黒滝主殿の隠居他出差留め等の人事異動)
1839年	12月17日	天保10年	11月12日 晴	昨夜雪少し降	(今日八半時高伯寺本尊大日尊が御出汗)	
1839年	12月18日	天保10年	11月13日 曇	昨夜雪降	一寸程積	
1839年	12月19日	天保10年	11月14日 曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降 五寸程積 (今日剣術高覧)
1839年	12月20日	天保10年	11月15日 晴	(去る8日田沢村で高無が出火)		
1839年	12月21日	天保10年	11月16日 晴			
1839年	12月22日	天保10年	11月17日 晴			
1839年	12月23日	天保10年	11月18日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	
1839年	12月24日	天保10年	11月19日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(今日剣術和術高覧)
1839年	12月25日	天保10年	11月20日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(今日剣術和術高覧、去る8日夜赤石組深谷村で出火・火元村預け)
1839年	12月26日	天保10年	11月21日 曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降 (津軽主水に200石加増・工藤伝兵衛を馬廻組頭格に等々多数に人事異動)
1839年	12月27日	天保10年	11月22日 晴	(当10月新穀出合御蔵米1俵34文目値段…………)		
1839年	12月28日	天保10年	11月23日 曇	今日雪少し降		
1839年	12月29日	天保10年	11月24日 曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(当新穀存外御減石に付き造酒屋共来月朔日より造酒御差留)
1839年	12月30日	天保10年	11月25日 曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降 二寸程積 (去る18日夜金木村で出火・建家馬2疋焼失)
1839年	12月31日	天保10年	11月26日 曇	昨夜雪降	二寸程積	亥の刻過地震少々

1840年	1月1日	天保10年	11月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	辰の刻頃地震少々		
1840年	1月2日	天保10年	11月28日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	(須賀川御本陣より居宅普請に付御金拝借願い・御手当て金3両下し置かれる)		
1840年	1月3日	天保10年	11月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降			
1840年	1月4日	天保10年	11月30日	晴				
1840年	1月5日	天保10年	12月1日	曇	今日雪少し降			
1840年	1月6日	天保10年	12月2日	晴	昨夜雪少し降			
1840年	1月7日	天保10年	12月3日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降			
1840年	1月8日	天保10年	12月4日	曇	昨夜吹雪強 今日雪降 三寸程積			
1840年	1月9日	天保10年	12月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積	(24日夜中まで十三湯前後とも氷張り申さず船船通路相成り申さざる旨11月25日付にて・分からん)		
1840年	1月10日	天保10年	12月6日	晴	下から続く	送る、去月18日朝より19日朝までに十三湯大湊川尻より小俣川まで残らず氷張る、去年は11月22日の夜より23日朝までに氷張・日数に引合4日早く節に引合13日早い)		
1840年	1月11日	天保10年	12月7日	曇	今日雪降 八寸程積	(不明日に浦町組荒川村で出火・類焼あり、去る4日高杉組賀田村で出火・建家焼失、明日立飛脚で山吹銀4貫30目(湯野沢銀3貫700目・尾太銀330目)	上に続く	
1840年	1月12日	天保10年	12月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 五寸程積	下から続く 米340俵代銭17貫目(御印付1俵50目立))		
1840年	1月13日	天保10年	12月9日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降	(森岡山城が去月朔日大阪よりの道中島井本駅で病死、大鰐組虹貝村の盗み徒男入牢、金1000両の代米2240俵(御印付1俵50目立にて)・	上に続く	
1840年	1月14日	天保10年	12月10日	晴	昨夜雪少し降	(山の木の伐り取願い・代杉植付で許す)		
1840年	1月15日	天保10年	12月11日	晴	(人事異動、薬師堂村でその昔多数(26人?)が申し合わせ1人(又は3人くらい)に乱暴した件が有った様だが不埒御用捨)			
1840年	1月16日	天保10年	12月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	(造酒御差留・酒道具封印、森岡民部に御香典白銀30両下し置かれる、御用達手形の偽者を作った長柄の者の御給分召上げ永の暇)		
1840年	1月17日	天保10年	12月13日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少し降			
1840年	1月18日	天保10年	12月14日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 四寸程積			
1840年	1月19日	天保10年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積			
1840年	1月20日	天保10年	12月16日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降	下から続く 是有合せなく上納しだい渡す)		
1840年	1月21日	天保10年	12月17日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	(当春熊を狩取った川原平村の獵師孫六に鳥目3貫文と無位の熊皮1枚・砂子瀬村の獵師兼に鳥目6貫文と無位の熊皮2枚下し置かれる・但し熊皮	上に続く	
1840年	1月22日	天保10年	12月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	(100人以上に御賞もどき)		
1840年	1月23日	天保10年	12月19日	曇	昨夜雪少し降	(廣銀売払い口入の御持ち鍵中間を掃除小人に役下げ・大抵は大赦以前に付ご容赦となるのですが)		
1840年	1月24日	天保10年	12月20日	晴	(米1俵の手形で6斗を運んだ者の米2斗御取上げ・過料銭1貫200文を30日の内に上納させる・取上げた2斗は差し押さえた面々に下し置かれる、類似例(米酒炭等)複数)			
1840年	1月25日	天保10年	12月21日	晴	(齊藤忠吉を碓ヶ関町奉行兼役に等の人事異動、不明日に三厩詰合い郷友が同所の御飯屋御備米(2石2斗程)盗み取りそれぞれ売払う)			
1840年	1月26日	天保10年	12月22日	晴	昨夜雪降 四寸程積	下から続く 赤石組200俵・赤田組936俵 〆12401俵)		
1840年	1月27日	天保10年	12月23日	晴	下から続く	・木造新田1227俵・和徳組959俵・堀越組1209俵・猿賀組850俵・大鰐組684俵・尾崎組1000俵・大光寺組840俵・駒越組200俵・高杉組300俵・藤代組740俵・	上に続く	
1840年	1月28日	天保10年	12月24日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少し降	(10月28日野内の間道を通った酒2斗余を御取上・30日押込)	下から続く 浪岡組748俵・増館組527俵・常盤組659俵・広須組1324俵	上に続く
1840年	1月29日	天保10年	12月25日	晴	(当御収納米皆済・増館・常盤・浪岡・高杉・和徳・堀越・猿賀・広田・広須・木造新田・大光寺・尾崎・大鰐都合13組、当御借上米皆納並びに是迄上納之上御代官申出表・皆納		上に続く	
1840年	1月30日	天保10年	12月26日	曇	昨夜雪少し降 今日風吹強し 雪八寸程積	下から続く 2分商売を仰せ付け、新潟(からの移入)米2000俵代金1762両2分・この代米4018俵余只し御印付1俵50目立両替114匁立で)		
1840年	1月31日	天保10年	12月27日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降	(奥瀬一学の御用人兼役御免等の人事異動、酒値段当年限り格段の御沙汰を以て御定法に1割増し酒1升到付き1文目9分8厘・1合売りは	上に続く	
1840年	2月1日	天保10年	12月28日	晴	(人事異動、御賞、広須量組御代官より御救い米願い・当日より来る7月中まで1日1人に1合5タの734俵3斗8升4合を下し置かれる、他領者の隠し鱈御取上げ立ち入り禁止、	欄外(*)に続く		
1840年	2月2日	天保10年	12月29日	曇	今日雪少し降	(大赦に付き多数の出奔者(139人?)の御国徘徊護免とする)		
1840年	2月3日	天保11年正月1日		曇	昨夜雪降強し 雪五寸程積			
1840年	2月4日	天保11年正月2日		晴	昨夜雪降 一寸程積			
1840年	2月5日	天保11年正月3日		晴	昨夜雪少し降	(御吉例金200両を御金奉行が差出す、今晚御詣初		
1840年	2月6日	天保11年正月4日		曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	(大鰐村加賀輔より七種差上げる)		
1840年	2月7日	天保11年正月5日		晴	昨夜雪少し降			
1840年	2月8日	天保11年正月6日		晴	昨夜雪少し降			
1840年	2月9日	天保11年正月7日		晴				
1840年	2月10日	天保11年正月8日		曇	昨夜雪降 三寸程積	(昨7日百沢寺大堂御本地佛御惣鉢に御出汗・昨年通り下居宮で重御神楽大堂で重御祈禱)		
1840年	2月11日	天保11年正月9日		晴	昨夜雪降 二寸程積			
1840年	2月12日	天保11年正月10日		晴	昨夜雪降 二寸程積	(去る7日御馬廻与力の弟が茂森町で手傷)		
1840年	2月13日	天保11年正月11日		晴	(高倉駿河を御家老に等の人事異動)			
1840年	2月14日	天保11年正月12日		晴				
1840年	2月15日	天保11年正月13日		晴				
1840年	2月16日	天保11年正月14日		曇	今日雪少し降			
1840年	2月17日	天保11年正月15日		曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 四寸程積	(人事異動)		
1840年	2月18日	天保11年正月16日		曇	昨夜雪降 三寸程積			
1840年	2月19日	天保11年正月17日		曇	昨夜雪降 二寸程積			
1840年	2月20日	天保11年正月18日		晴				
1840年	2月21日	天保11年正月19日		晴				
1840年	2月22日	天保11年正月20日		晴	(来正月より7月も出の御救い米(1日1人1合)長富村193人に149俵3升7合・長泥村151人に117俵5升9合を下し置かれる)			
1840年	2月23日	天保11年正月21日		晴	今日雪少し降			
1840年	2月24日	天保11年正月22日		晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降	(江戸で人事異動)		
1840年	2月25日	天保11年正月23日		晴	今日雪少し降			
1840年	2月26日	天保11年正月24日		晴	今日雪少し降	(赤石組升形新村に御救い米(この節より当7月中)12石4升9合(30俵4升9合)下し置かれる)		
1840年	2月27日	天保11年正月25日		晴	今日雨少し降			
1840年	2月28日	天保11年正月26日		曇	昨夜雪少し降 今朝雪吹強 雪三寸程積 今日雪少し降			
1840年	2月29日	天保11年正月27日		曇	昨夜雪少し降 今日雪降 四寸程積			

(*) 御家中渡し歩引に対応の中間銭歩引来年9月中迄・上中間110文目を55文目・中95文目を47文目5分・下80目を40目・小物55文目を27匁5分・在方並びに九浦町弘前町より出中間増銭1人に付110文目を45文目に、去る20日晚赤石組浜横村で出火・建家等焼失、去る21日青森小火、大鰐組久吉村の142人に正月より7月中迄の御救米73俵1斗9升4合を下し置かれる、繁勤者に御手當)

1840年	3月1日	天保11年正月28日	晴	(人事異動)
1840年	3月2日	天保11年正月29日	曇	昨夜雪少降 卯之刻雨降 巳之刻過止 尤午之刻頃より晴
1840年	3月3日	天保11年正月30日	晴	昨夜雪少降 今日雪少降
1840年	3月4日	天保11年 2月1日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降
1840年	3月5日	天保11年 2月2日	晴	昨夜雪少降
1840年	3月6日	天保11年 2月3日	晴	
1840年	3月7日	天保11年 2月4日	晴	
1840年	3月8日	天保11年 2月5日	晴	
1840年	3月9日	天保11年 2月6日	快晴	
1840年	3月10日	天保11年 2月7日	曇	今日巳之刻頃雨降 則刻止 申之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (闇物資(玄米2俵・無刻印の木(中にぶなという仮名)あり)御取上げ)
1840年	3月11日	天保11年 2月8日	晴	昨夜より之雨卯之刻過止
1840年	3月12日	天保11年 2月9日	曇	今日午之刻過より小雨降 酉之刻過止 (闇物資(黒大豆3斗6升・蕨30枚)御取上げ、御用番(老中)脇坂様に報告:古田新田平均5分7厘8毛の御損耗)
1840年	3月13日	天保11年 2月10日	曇	
1840年	3月14日	天保11年 2月11日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1840年	3月15日	天保11年 2月12日	晴	
1840年	3月16日	天保11年 2月13日	晴	
1840年	3月17日	天保11年 2月14日	曇	今晚子之刻過より小雨時々降 申之刻過止 ((知行)高144石1斗6合この反別12町1畝28歩)
1840年	3月18日	天保11年 2月15日	曇	申之刻頃西南之風強し (11月17日夜土手町で銭100目余その他を盗んだ女に3鞭弘前御構い居村徘徊は迄どおり)
1840年	3月19日	天保11年 2月16日	曇	昨雪降 三寸程降 今日雪吹強
1840年	3月20日	天保11年 2月17日	晴	
1840年	3月21日	天保11年 2月18日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (当2月より7月中1日1人に付1合5タで福井新村など5村の282人に御救い米74石4斗4升8合)
1840年	3月22日	天保11年 2月19日	晴	
1840年	3月23日	天保11年 2月20日	快晴	
1840年	3月24日	天保11年 2月21日	快晴	
1840年	3月25日	天保11年 2月22日	曇	巳之刻より雨降 夜二入同断 (田井友衛が到着)
1840年	3月26日	天保11年 2月23日	曇	昨夜より之雨今日に及 未之刻過止
1840年	3月27日	天保11年 2月24日	晴	
1840年	3月28日	天保11年 2月25日	曇	今晚丑之刻過より雨降り 午之刻過止 今日雪少降 (久しぶりに上乘下乗の指名あり)
1840年	3月29日	天保11年 2月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少降 下から続く 岩木川出水・駒越渡往来差止める・今朝六半時馬船通路相成る)
1840年	3月30日	天保11年 2月27日	晴	今日雪少降 (昨年熟作と申しながら御収蔵に至り過分の御減石・面扶持から歩引にしたが歩引の増を行う・是迄の6歩引を8歩引・5歩5厘引を7歩引・半減渡を6歩引等とする、 上に続く
1840年	3月31日	天保11年 2月28日	快晴	(人事異動、湯野沢銀山が湛湯(坑内に水が溜まっていたのでしょうか))
1840年	4月1日	天保11年 2月29日	曇	今日午之刻過より雨降 則刻止
1840年	4月2日	天保11年 2月30日	快晴	
1840年	4月3日	天保11年 3月1日	快晴	
1840年	4月4日	天保11年 3月2日	曇	卯之刻過より小雨時々降 未の刻過止 (去月29日夜和徳組高崎村で出火・建家等焼失)
1840年	4月5日	天保11年 3月3日	晴	
1840年	4月6日	天保11年 3月4日	晴	申の刻過より雨降 酉の刻過止
1840年	4月7日	天保11年 3月5日	晴	昨夜申之刻過より雨降 酉の刻過止 (去月15日夜松前餅場行きの船7艘が破船・乗り合いの者別状なし、赤石組舁形新村に種粃4石1斗4合拝借を仰せ付ける)
1840年	4月8日	天保11年 3月6日	快晴	
1840年	4月9日	天保11年 3月7日	快晴	(去る4日駒越組砂子瀬村の獵師市兵衛等6人組が熊を狩取る)
1840年	4月10日	天保11年 3月8日	曇	今日午の刻過より雨降 (青森常燈相燈さず旨……、去る5日昼猿賀組袋村で出火・類焼4軒・火元他村預け、去月27日金木組今泉村跡明家で出火・類焼5軒その他焼失)
1840年	4月11日	天保11年 3月9日	快晴	昨夜の雨今晚寅の刻頃止 (人事異動、岩木川出水で駒越渡場昨夜四時頃より往来差留める)
1840年	4月12日	天保11年 3月10日	晴	未の刻過より雨時々降 亥の刻過止 戌の刻頃雷鳴 則刻過止 (篠崎東四郎を御中小姓格にとの人事異動、御賞)
1840年	4月13日	天保11年 3月11日	晴	(去る8日朝六時前浦町組荒川村宗全寺が出火・類焼共2軒等焼失・14日の記述で火元禁足)
1840年	4月14日	天保11年 3月12日	晴	(当月7日朝より翌8日迄十三湯大湊川尻より小侯川まで残らず氷明ける)
1840年	4月15日	天保11年 3月13日	晴	
1840年	4月16日	天保11年 3月14日	晴	未の刻過より曇 小雨降 (去る18日大鰐組虹貝村の獵師を含む7人組が熊を狩取る、去る10日駒越組川原平村の獵師孫六等の7人が熊を狩取る)
1840年	4月17日	天保11年 3月15日	晴	(去る11日猿賀組浅瀬石村の獵師の2人組が熊を狩取る、去る13日駒越組川原平村の獵師孫六等の7人が熊を狩取る)
1840年	4月18日	天保11年 3月16日	晴	(片谷清次郎揚げ屋敷の品物をごまかして?多数に御給分召上げなどの罰)
1840年	4月19日	天保11年 3月17日	快晴	
1840年	4月20日	天保11年 3月18日	晴	今日午之刻過地震少々
1840年	4月21日	天保11年 3月19日	快晴	
1840年	4月22日	天保11年 3月20日	曇	今日巳の刻過より小雨降 下から続く で山火事・国上寺境内付近まで燃える)
1840年	4月23日	天保11年 3月21日	晴	(岩木川出水・駒越渡場今六ツ時より往来差止める、石渡川四歩半の出水・馬船小船とも往来相成り兼ねる、闇物資(枳・銭60匁程・木・大豆・白米)御取上げ、一昨19日碓ヶ関山 上に続く
1840年	4月24日	天保11年 3月22日	晴	(当正月茂森町で口論乱暴の御手廻与力の弟と乱暴された御留守居支配の他出差止め)
1840年	4月25日	天保11年 3月23日	晴	今晚丑の刻過雨降 則刻止
1840年	4月26日	天保11年 3月24日	曇	未の刻過雨降 則刻止 酉の刻過より小雨時々降 (金木組今泉村で出火・類焼共5軒に御手当て米1軒に2斗ツツ下し置かれる、岩木川出水・駒越渡場昨朝五時より往来差留める)
1840年	4月27日	天保11年 3月25日	曇	昨夜より之雨今晚寅之刻頃止 (金木組金木野開発は去る未年申年(今年は子年)新田方で御普請3町3反余を開発・その後不熟作続きで順調には進んでいない)
1840年	4月28日	天保11年 3月26日	晴	
1840年	4月29日	天保11年 3月27日	曇	今日未の刻頃より雨降 戌の刻過止
1840年	4月30日	天保11年 3月28日	曇	今日酉の刻過より風吹 戌の刻過止 (岩木川出水・駒越渡場今六時頃より往来差留める)

1840年	5月1日	天保11年	3月29日 曇	今暁丑の刻頃より小雨降 巳の刻過止 (今日鎗術高覧)
1840年	5月2日	天保11年	4月1日 晴	(人事異動、山上弥兵衛の孫娘が……、金木新田9ヶ村に旧冬に続き御救米30俵下し置かれる)
1840年	5月3日	天保11年	4月2日 曇	巳の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (闇物資御取上げ、盗みの男を揚屋から入牢、青森御蔵米1俵が40目立)
1840年	5月4日	天保11年	4月3日 曇	今日卯の刻過より小雨時々降 戌の刻過止
1840年	5月5日	天保11年	4月4日 晴	(闇物資(水油・無刻印の木)御取上げ)
1840年	5月6日	天保11年	4月5日 曇	(鎗術高覧、十三町に止宿中の松前箱館の男が病死、木の伐り荒しがあった山下の村中に過料錢15貫400文等・庄屋にも、無刻印の証御取上げ)
1840年	5月7日	天保11年	4月6日 曇	今日未の刻過より雨降 即刻止 酉の刻過より小雨時々降 未の刻過雷鳴 即刻止
1840年	5月8日	天保11年	4月7日 曇	昨夜よりの小雨今暁卯の刻過止 午の刻過より雨降 酉の刻過止 (鯨ヶ沢江馬骨積入船2艘入津)
1840年	5月9日	天保11年	4月8日 晴	
1840年	5月10日	天保11年	4月9日 晴	(下馬場で馬術高覧、夜中に漁に出た男2人の漁道具取り押さえる・返す、悪銀取扱の男入牢、闇物資(麻糸目方3貫500目包・無刻印材、青森御蔵米1俵38文目立)
1840年	5月11日	天保11年	4月10日 快晴	(御関札弘前檢にて幅9寸丈3尺7寸だったが文化年中丈幅増・そんな木がなくなっている)
1840年	5月12日	天保11年	4月11日 快晴	
1840年	5月13日	天保11年	4月12日 晴	
1840年	5月14日	天保11年	4月13日 曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 (御国他散の者共が(江戸の)掃除方に入り込み永々差置き候ては御外聞にも相拘り候に付早速御国下がり仰せ付けらるべきだが……)
1840年	5月15日	天保11年	4月14日 曇	巳の刻頃より雨降 午の刻過止
1840年	5月16日	天保11年	4月15日 曇	(飯詰村は近年の不熟作で格別衰微・人馬減少・去る申年以來家数等も三ヶ二通り相減る・年貢の減少を認める・同様の件は尾崎組小国村にも)
1840年	5月17日	天保11年	4月16日 晴	
1840年	5月18日	天保11年	4月17日 曇	午の刻過急雨降 申の刻過より雷鳴 即刻止 時々雨降 夜に入同断 (闇物資(酒)御取上げ、赤石組風合瀬村は打ち続く不熟作で死に絶え他散が多い・年貢下げを認める)
1840年	5月19日	天保11年	4月18日 曇	昨夜よりの雨今暁子の刻頃止 巳の刻過より雨時々降 戌の刻過止 (津軽屋三平700石17人扶持の隠居を認め隠居料15人扶持・その子三右衛門に300石を下し置かれる、江戸で人事異動)
1840年	5月20日	天保11年	4月19日 曇	
1840年	5月21日	天保11年	4月20日 晴	(人事異動、闇物資(白米・橋船)御取上げ、大赦以前の罪で御用捨が相変わらず多い)
1840年	5月22日	天保11年	4月21日 晴	酉の刻過より雨時々降
1840年	5月23日	天保11年	4月22日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 (馬術高覧)
1840年	5月24日	天保11年	4月23日 晴	(御発駕御日限来月11日と仰せ出される、各地で山の伐り荒し・御取上げ過料等)
1840年	5月25日	天保11年	4月24日 曇	午の刻過より小雨時々降 (歩引増渡の一部変更あり)
1840年	5月26日	天保11年	4月25日 曇	卯の刻過より小雨降 辰の刻頃止 下から続く 隠し荷揚げの男に簀御取り上げの上6鞭居村徘徊はまで通り、盗賊が盗んだ品を売払った男に押込20日)
1840年	5月27日	天保11年	4月26日 晴	(去る12月より盗みの男2人に3鞭宛弘前御構の上・黒石表に送返し居村徘徊は迄通り、悪金銀取り組みの男2人に6鞭宛居町徘徊は迄通り、鯨758本(売払い代錢176匁3分3厘)を 上に続く
1840年	5月28日	天保11年	4月27日 快晴	(金比羅抜け参りの赤石組横沢村の男が越後の国で病死)
1840年	5月29日	天保11年	4月28日 快晴	
1840年	5月30日	天保11年	4月29日 曇	辰の刻過より雨降 夜に入同断 (鯨ヶ沢御蔵米御印付1俵39文目5分立)
1840年	5月31日	天保11年	5月1日 晴	昨夜よりの雨今日ニ及時々降 辰之刻過止 (沢兵部を大目付に等の人事異動、去月24日夜鯨ヶ沢七ツ石町で出火・類焼共2軒焼失・火元慎、伐り荒し木御取上げ)
1840年	6月1日	天保11年	5月2日 晴	下から続く 徘徊は迄通り、盗みと売払いの男2人に3鞭宛弘前御構い)
1840年	6月2日	天保11年	5月3日 曇	今日未の刻過より小雨降 (湯野沢銀山の水抜き25日までに残らず減水、断りなく境内の雑木を伐った坊主と寺役人に禁足15日と押込20日、稲を盗み取った男2人に3鞭宛居村 上に続く
1840年	6月3日	天保11年	5月4日 快晴	
1840年	6月4日	天保11年	5月5日 晴	
1840年	6月5日	天保11年	5月6日 晴	
1840年	6月6日	天保11年	5月7日 晴	
1840年	6月7日	天保11年	5月8日 快晴	
1840年	6月8日	天保11年	5月9日 晴	(盛雲院裏通りで町娘病死)
1840年	6月9日	天保11年	5月10日 晴	(山吹銀目方2貫350目湯之沢出銀にて今日紙御蔵江上納)
1840年	6月10日	天保11年	5月11日 晴	(人事異動、山上弥兵衛等に老年の所出精相勤めとして御酒御吸物を下し置かれる)
1840年	6月11日	天保11年	5月12日 快晴	(五半時御馬上にて御発駕)
1840年	6月12日	天保11年	5月13日 晴	辰の刻過急雨降
1840年	6月13日	天保11年	5月14日 快晴	
1840年	6月14日	天保11年	5月15日 晴	(去る11日夜広田村で出火・3軒焼失・火元不明)
1840年	6月15日	天保11年	5月16日 快晴	
1840年	6月16日	天保11年	5月17日 快晴	(人事異動、無刻印の木を御取上げ)
1840年	6月17日	天保11年	5月18日 曇	午の刻過より雨降 夜二入同断 (目屋野沢当出流木古木新木にて都合970巻5歩4厘4毛当月9日までに買入相済む・翌10日より川入に相成る)
1840年	6月18日	天保11年	5月19日 曇	昨夜より雨今日ニ及時々降 午の刻過止 (去る11日(18日と記述)の広田村の火元判明他村預け)
1840年	6月19日	天保11年	5月20日 曇	今暁子の刻過より小雨時々降 (灰吹き銀昨日湯ノ沢より300目・今日110文目・今日尾太より上納192文目・ㄥ600両、尾太より上納分を除くと400両ならて御座なく……:文目と両の関係が不明)
1840年	6月20日	天保11年	5月21日 曇	今暁子の刻過より小雨時々降 巳之刻過止
1840年	6月21日	天保11年	5月22日 晴	申の刻過より雨時々降 夜二入同断
1840年	6月22日	天保11年	5月23日 曇	昨夜より之雨今日ニ及時々降 巳の刻過止 (盗みの男に○鞭居村徘徊は迄通り、盗みの男に6鞭弘前御構い居村徘徊は迄通り、盗品売りの男に3鞭居村徘徊は迄通り)
1840年	6月23日	天保11年	5月24日 晴	(丸木舟を拾い乗回した男に過料錢1貫200文、先年送り返し後又立ち入り隠皮製法の男を送り返す・その前に乞食小屋前を引き回し面体見知らせる)
1840年	6月24日	天保11年	5月25日 快晴	
1840年	6月25日	天保11年	5月26日 快晴	
1840年	6月26日	天保11年	5月27日 曇	今暁寅の刻過より雨時々降 夜二入同断
1840年	6月27日	天保11年	5月28日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及時々降 酉刻頃止
1840年	6月28日	天保11年	5月29日 晴	(赤石村と鯨ヶ沢の間に盗賊・3・4人殺害されたとのことで暮れになると一切往来差留め・デマらしい)
1840年	6月29日	天保11年	6月1日 快晴	(川の御手入れに御賞、新金銀吹き立て追々出来・文政の度吹き直し金銀取持ちの者……)
1840年	6月30日	天保11年	6月2日 快晴	

1840年	7月1日	天保11年	6月3日 曇	今日未の刻過より雨時々降 夜に同断
1840年	7月2日	天保11年	6月4日 晴	昨夜よりの雨今晚丑の刻頃止 (和徳組撫牛子村に村方の者大勢が押し込み乱暴・2人を捕らえる、3月に南部者を取り逃がした百田村の男共に過料銭1匁200文)
1840年	7月3日	天保11年	6月5日 晴	午の刻頃急雨降 即刻止
1840年	7月4日	天保11年	6月6日 曇	辰の刻過より小雨時々降 未の刻過止 (盗みの4人中捕まった2人に3鞭宛弘前御構い居村徘徊是迄通り)
1840年	7月5日	天保11年	6月7日 曇	
1840年	7月6日	天保11年	6月8日 快晴	(御領分中青田の内笛吹くなどの触れ)
1840年	7月7日	天保11年	6月9日 快晴	
1840年	7月8日	天保11年	6月10日 快晴	(所々の店先で乱暴し酒肴を掠取った御家中の家来4人を吟味中揚屋入り、悪銀取扱の証拠なく5人を出牢)
1840年	7月9日	天保11年	6月11日 快晴	
1840年	7月10日	天保11年	6月12日 快晴	
1840年	7月11日	天保11年	6月13日 快晴	
1840年	7月12日	天保11年	6月14日 曇	今日巳の刻過より雨時々降 夜に入同断 (屋形様が2日朝千住之駅を御発駕・御着府、去月23日江戸で人事異動)
1840年	7月13日	天保11年	6月15日 曇	今晚子の刻過雷鳴 即刻止 昨夜よりの雨今日に及時々降 夜に入同断
1840年	7月14日	天保11年	6月16日 曇	昨夜よりの雨時々降 巳の刻過止 未の刻頃より小雨降 申の刻頃止
1840年	7月15日	天保11年	6月17日 曇	未の刻過より雷雨 雷即刻止 雨申の刻過止
1840年	7月16日	天保11年	6月18日 曇	今晚寅の刻過雷雨 即刻止 巳の刻過より雷鳴強し (牢舎入りの飯料を1日1人に付2合5タを3合・揚屋3合を3合5タに増す、今昼九時過ぎ八幡宮後通り杉に雷火・燃上る・八時過ぎ鎮火)
1840年	7月17日	天保11年	6月19日 晴	午の刻過雷鳴 未の刻過止
1840年	7月18日	天保11年	6月20日 快晴	
1840年	7月19日	天保11年	6月21日 快晴	
1840年	7月20日	天保11年	6月22日 快晴	
1840年	7月21日	天保11年	6月23日 快	戌の刻頃小雨降 即刻止 (闇物資(大豆粒油菜種)取押え一部御取上げ過料銭1匁500文)
1840年	7月22日	天保11年	6月24日 快晴	今晚寅の刻頃小雨降 即刻止
1840年	7月23日	天保11年	6月25日 快晴	
1840年	7月24日	天保11年	6月26日 快晴	
1840年	7月25日	天保11年	6月27日 快晴	(傷害の男を戸 匁10日)
1840年	7月26日	天保11年	6月28日 快晴	(南溜池での雑喉(雑魚)釣停止、諸組村々廃田当仕付増差し引き残り今に6000町歩程……、山吹銀目方1匁800目の湯野沢出銀を明日立ちの飛脚で江戸に送る)
1840年	7月27日	天保11年	6月29日 快晴	(去る4月十三町で衣類書物16品と金117両2歩等を盗んだ男が病死・金子82両2歩2朱そのほかは山中に埋め置く・被害者に返す、漆実5斗入り1俵を20目6分で買い入れる)
1840年	7月28日	天保11年	6月30日 快晴	(江戸屋敷に有った他散の者共が昨晩到着、金木御藏勤め申無刻印の証6500枚を宿元に送った2人の御奉公遠慮・証御取上、酒で傷害の御持鍵を掃除小人に役下げ・療治料18文目御払)
1840年	7月29日	天保11年	7月1日 曇	午の刻過より雷雨 則刻止 (江戸屋敷から連れ帰った他散の者で蓮川村の座当の妻が仙台領関駅で出産・親子4人を同所に預けた・迎え登りの申請あり)
1840年	7月30日	天保11年	7月2日 晴	
1840年	7月31日	天保11年	7月3日 晴	(人違いで訴えた男に3鞭居町徘徊是まで通り、硯箱内の忍び引出より115両見出し黙って買い取った男に15鞭居町徘徊是まで通り)
1840年	8月1日	天保11年	7月4日 快晴	(今日御初穂差出す・去年は4月24日植付63日目で差上げ今年は5月7日植付54日目で差上げる・去年より日数に引合9日早く節に引合7日早い、去月朔日御蔵町で土倉切破りあり・入牢)
1840年	8月2日	天保11年	7月5日 快晴	(ねふた喧嘩口論停止の触れ)
1840年	8月3日	天保11年	7月6日 晴	下から続く 過料銭92貫600文・庄屋達にも罰)
1840年	8月4日	天保11年	7月7日 曇	今日午の刻頃小雨降 則刻止 下から続く 時過より往来差留・八時頃より馬船通路に相成る、石渡川4歩半の出水・馬船小船往来差留め、昨年の盗木890本を御取上げ・ 上に続く
1840年	8月5日	天保11年	7月8日 曇	今晚丑の刻過より雨時々降 (当年の菜種値段は1俵に付43文目8分3厘5毛:菜種油1升に付代8文目3分3厘7毛に相当・1合売り8分4厘に仰せ付けられる、駒越渡場馬船今四半 上に続く
1840年	8月6日	天保11年	7月9日 曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 酉の刻過止 (石渡川今日八時頃より船通路相成る、左関清水内真部3ヶ村に預け置いた盗杣の木品御取上げ)
1840年	8月7日	天保11年	7月10日 晴	
1840年	8月8日	天保11年	7月11日 快晴	(当月14日より紙漉町で7日間の角力(相撲)興行・札銭1人前4分上棧敷4文目下棧敷2文目宛)
1840年	8月9日	天保11年	7月12日 曇	未の刻より小雨降 申の刻過止 亥の刻過より雷雨強し 下から続く 藤崎村仮橋夕八時過ぎ残らず流失・人馬往来差留める)
1840年	8月10日	天保11年	7月13日 曇	昨夜よりの雷雨今日二及 辰の刻頃雷止 雨夜二入 午の刻頃雷鳴 則刻止 (岩木川6歩半・7歩半位の出水・防方2組は出る、歩付板流失、駒越町で家1軒流失、平川出水・ 上に続く
1840年	8月11日	天保11年	7月14日 曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻頃止 辰の刻過より小雨時々降 戌の刻止 (昨夜の雨で駒越町で3軒が被害)
1840年	8月12日	天保11年	7月15日 曇	
1840年	8月13日	天保11年	7月16日 晴	
1840年	8月14日	天保11年	7月17日 晴	未の刻過より小雨降 則刻止 下から続く それより埋御門より御手道具頭案内にて西之郭四之北それより西之郭御武具蔵前それより武者屯御門より退下致し候)
1840年	8月15日	天保11年	7月18日 曇	(今日退下懸御家老御用人大目付御裏廻中之口より御目付案内にて北坂下橋先迄それより御本城御広敷御玄関迄それより中之口前御玄関前それより御裏通乾御櫓下迄 上に続く
1840年	8月16日	天保11年	7月19日 曇	今晚寅の刻過より小雨時々降 午の刻過止 申の刻過より雨降 夜二入同断 (去る13日で水湛446町歩余(広須組52町歩余・木造新田102町歩余・金木組同新田292町歩余))
1840年	8月17日	天保11年	7月20日 晴	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 (岩木川の仮橋流失今六時より馬船往来差留める・石渡川4歩半の出水馬船小船とも往来差留める、盗杣の男入牢、丹後者の詮索送り返しの触れ)
1840年	8月18日	天保11年	7月21日 晴	
1840年	8月19日	天保11年	7月22日 晴	(往来の者に不法衣類剥取り酒屋共より酒寝徒取りの御家中の子?召捕り揚屋入り)
1840年	8月20日	天保11年	7月23日 快晴	
1840年	8月21日	天保11年	7月24日 快晴	(今日御初米13俵差上げる・去年は4月24日植付7月15日鎌入れて植付日より80日・当年は5月7日植付7月21日に鎌入れて74日で去年に比べ日数で6日早く説に引合6日早い)
1840年	8月22日	天保11年	7月25日 快晴	
1840年	8月23日	天保11年	7月26日 快晴	(仙台領関駅に預け置いた蓮川村の座当1家4人が去る22日到着)
1840年	8月24日	天保11年	7月27日 快晴	
1840年	8月25日	天保11年	7月28日 快晴	
1840年	8月26日	天保11年	7月29日 快晴	(盗の男を吟味中揚屋入り)
1840年	8月27日	天保11年	8月1日 曇	今晚寅の刻過より小雨時々降 未の刻過ぎ止
1840年	8月28日	天保11年	8月2日 曇	(百沢寺より苔の実差し上げる)
1840年	8月29日	天保11年	8月3日 快晴	(去月12日田井友衛が御役職召放・慎み)
1840年	8月30日	天保11年	8月4日 快晴	
1840年	8月31日	天保11年	8月5日 快晴	

1840年	9月1日	天保11年	8月6日	快晴	
1840年	9月2日	天保11年	8月7日	快晴	
1840年	9月3日	天保11年	8月8日	快晴	(無刻印の木品御取上げ)
1840年	9月4日	天保11年	8月9日	曇	午の刻過より雨降 未の刻過止
1840年	9月5日	天保11年	8月10日	曇	辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 午の刻過より快 (去月19日夜大風で野内御閑所並びに御用座敷吹き剥げる)
1840年	9月6日	天保11年	8月11日	晴	
1840年	9月7日	天保11年	8月12日	快晴	
1840年	9月8日	天保11年	8月13日	快晴	(酒などに難癖乱暴の御持鍵中間の子に3鞭弘前町徘徊はまで通り親引渡し、桧盗伐の男2人に6鞭宛居村徘徊はまで通り・類似の関係者多数に過料)
1840年	9月9日	天保11年	8月14日	快晴	下から続く 雨時々降 酉の刻過止
1840年	9月10日	天保11年	8月15日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻過止 巳の刻過より雨時々降 午の刻雷鳴 即刻止 雨申の刻頃止 酉の刻過より雨時々降 昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 卯の刻頃より 上に続く
1840年	9月11日	天保11年	8月16日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止
1840年	9月12日	天保11年	8月17日	晴	(駒越渡し場出水で往来差留め・今四時頃より長船通路相成る)
1840年	9月13日	天保11年	8月18日	晴	(本町で金銀目利と称して紙に包んだ砥石を渡した掃除小人の隠居を召捕り揚屋入り、当春駒越組獵師孫六が熊7疋狩取る・御酒代6貫文熊皮2枚下し置かれる)
1840年	9月14日	天保11年	8月19日	曇	今晚寅の刻頃より雨降 申の刻過止
1840年	9月15日	天保11年	8月20日	晴	
1840年	9月16日	天保11年	8月21日	曇	今晚丑の刻過より雨時々降 夜に入同断
1840年	9月17日	天保11年	8月22日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻過雷鳴 即刻止 雨申の刻過止 (駒越川出水にて昨夕七時過より往来差留める、傷寒(風邪)の揚屋中の4人を宿下がり)
1840年	9月18日	天保11年	8月23日	晴	
1840年	9月19日	天保11年	8月24日	晴	卯の刻過より小雨降 即刻止
1840年	9月20日	天保11年	8月25日	晴	
1840年	9月21日	天保11年	8月26日	曇	午の刻頃小雨降 即刻止 申の刻過小雨降 即刻止 (3月5日夜亀甲町等に盗みの男に6鞭弘前御構い)
1840年	9月22日	天保11年	8月27日	晴	
1840年	9月23日	天保11年	8月28日	晴	(当7月13日洪水の幕府届け:屋敷欠崩建家流3ヶ所・街道欠崩20ヶ所・流失橋大小29ヶ所等々)
1840年	9月24日	天保11年	8月29日	晴	今晚子の刻頃より雨降 即刻止
1840年	9月25日	天保11年	8月30日	曇	今日午の刻過雷鳴 即刻止
1840年	9月26日	天保11年	9月1日	晴	亥の刻過より雨時々降
1840年	9月27日	天保11年	9月2日	曇	昨夜よりの雨卯の刻過止 巳の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1840年	9月28日	天保11年	9月3日	曇	昨夜よりの小雨今日及 申の刻過より止 (御家中の妻が咽喉に傷をつけ病死)
1840年	9月29日	天保11年	9月4日	晴	
1840年	9月30日	天保11年	9月5日	曇	今晚寅の刻過小雨降 則刻止 巳の刻過より雨降 申の刻過より止 (去る12日田井友衛知行の内200石召上げられ蜚居)
1840年	10月1日	天保11年	9月6日	曇	未の刻過より雷雨 即刻止 雨時々降 夜二入止
1840年	10月2日	天保11年	9月7日	快晴	今朝岩木山初て雪見ゆる 昨夜より之雨今晚寅の刻過より止 (間物資(米)御取上げ・庄屋役取り放し過料錢1匁500文)
1840年	10月3日	天保11年	9月8日	晴	今朝霜降 (今日勘定奉行江相渡し候書付左の通り:当年御国表豊作に候得共御勝手方御絞合油断なく取扱候様仰せ出され候)
1840年	10月4日	天保11年	9月9日	晴	今朝霜降 (竹内又市を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動)
1840年	10月5日	天保11年	9月10日	曇	今晚丑の刻過より雨降 夜に入止
1840年	10月6日	天保11年	9月11日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 夜二入同断
1840年	10月7日	天保11年	9月12日	曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過より止 (鯉ヶ沢御蔵米1500俵を御印付1俵36文目立に御払)
1840年	10月8日	天保11年	9月13日	快晴	(駒越渡場往来差留めの所今日四時過より両船とも通路相成る)
1840年	10月9日	天保11年	9月14日	快晴	酉の刻頃より小雨降 則刻止
1840年	10月10日	天保11年	9月15日	快晴	(鯉ヶ沢町奉行に釜范福次郎等を等の人事異動、来る21日より新穀渡しの処当年は豊作とは申しながら今もって廃田畑も少なからず……、穀物類並びに酒味噌類の津出仰せ付ける)
1840年	10月11日	天保11年	9月16日	快晴	(津軽金蔵病氣・快気までの内一間所より差し出し養生を仰せ付ける) 下から続く 住居がなく松元木2300本伐り取り願い・(ないので)断る)
1840年	10月12日	天保11年	9月17日	曇	今晚丑の刻過より雨時々降 辰の刻過止 未の刻過より雨降 夜二入止 (昨夜五半時頃御家中居宅小火、大鰐組折紙新田?高野新田?両村の者共他散の処残らず帰村・ 上に続く
1840年	10月13日	天保11年	9月18日	晴	(大病(痢病)に付入牢中の男宿下がり、金300両と山吹(銀)4貫目(湯之沢出銀)江戸に登す)
1840年	10月14日	天保11年	9月19日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (岩木川出水・今日五時頃より駒越渡し場長船馬船共往来差留める)
1840年	10月15日	天保11年	9月20日	曇	(御払漆目形87貫500目代10貫937文目5分の内2貫目相渡し残り8貫937文目5分弘前3御蔵の内より1俵25文目積俵値段を以って350俵……)
1840年	10月16日	天保11年	9月21日	晴	酉の刻頃より小雨降 戌の刻過止 (御印附米1俵に付36文目)
1840年	10月17日	天保11年	9月22日	晴	酉の刻過より雨降 亥の刻頃止
1840年	10月18日	天保11年	9月23日	快晴	
1840年	10月19日	天保11年	9月24日	晴	戌の刻頃より雨時々降 戌の刻過雷鳴強し 即刻止 (去る13日柏木組瀧井袋の内の用水堰で傷害(水争いか)事件)
1840年	10月20日	天保11年	9月25日	快晴	昨夜よりの雨今晚子の刻止 (侍従様(隠居した先代の屋形様)御用の鮎ウルカを登す)
1840年	10月21日	天保11年	9月26日	曇	亥の刻頃雷鳴 則刻止
1840年	10月22日	天保11年	9月27日	晴	
1840年	10月23日	天保11年	9月28日	晴	酉の刻過より小雨時々降 (初鯉2尾御台所頭が御用番に差上げる)
1840年	10月24日	天保11年	9月29日	晴	昨夜よりの雨今晚子の刻過止 酉の刻頃より風雨 風亥の刻過止 (去る10・11日増館組7ヶ村と高杉組で出水・稲草苅立置き候処12000嶋余流失)
1840年	10月25日	天保11年	10月1日	曇	今日雷降 夜より雨 今日に及時々降 未乃刻過止
1840年	10月26日	天保11年	10月2日	晴	戌の刻過より小雨時々降
1840年	10月27日	天保11年	10月3日	曇	昨夜よりの小雨今日に及時々降 申の刻過止
1840年	10月28日	天保11年	10月4日	曇	申の刻過より小雨時々降 亥の刻過止
1840年	10月29日	天保11年	10月5日	快晴	(当8月乙富山から大阪に差登銅20箇を積んだ船が去月29日夜鯉ヶ沢前浜で破船)
1840年	10月30日	天保11年	10月6日	快晴	(過酒の鯉ヶ沢湊目付(御手廻)2人を御留守居組に役下げ・御徒目付を御目見以下御留守居支配に役下げ)
1840年	10月31日	天保11年	10月7日	快晴	今晚子の刻頃小雨降 則刻止 (昨晩六時過茂森町で小火)

1840年	11月1日	天保11年	10月8日 快晴 (去る15日江戸で人事異動・去る(9月)10日大風雨の節格別骨折りに御賞(銀2両・金3朱・金2朱))	
1840年	11月2日	天保11年	10月9日 曇 今暁丑の刻より雨降 卯の刻過止 未の刻過より小雨時々降 戌の刻過止 (去月29日夜青森湊で3艘・鯨ヶ沢湊で7艘破船・乗員に別状なし)	
1840年	11月3日	天保11年	10月10日 曇	
1840年	11月4日	天保11年	10月11日 曇	
1840年	11月5日	天保11年	10月12日 快晴 (来る14日立ち江戸御登金として1150両・久し振りの金額)	
1840年	11月6日	天保11年	10月13日 晴 下から続く 当御収納米の内より粳7000石を御貯え粳に仰せ付ける)	
1840年	11月7日	天保11年	10月14日 曇 今暁寅の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (当月10日よりの米の平均値段から酒1升到付き1文目3分8厘7毛に相当・1升売りを1文目4分に1合売りは1文5厘に仰せ付ける、	上に続く
1840年	11月8日	天保11年	10月15日 晴 昨夜よりの小雨今暁丑の刻頃止 (堀五郎左衛門を御手廻三番組頭に等の人事異動、国上寺不動尊・二童子惣鉢御出汗・五山に御祈禱を仰せ付ける)	
1840年	11月9日	天保11年	10月16日 晴 (昨夜九時頃東長町に腹に刀傷の病人・今朝相果、用人須藤半兵衛・奥瀬一学・宇佐美平左衛門の御役召放ち慎み)	
1840年	11月10日	天保11年	10月17日 晴 酉の刻過より小雨時々降 下から続く 3分4厘内1文目2分御定役・差引34文目1分4厘)	
1840年	11月11日	天保11年	10月18日 晴 昨夜よりの小雨今暁子の刻過止 (去月29日金井ヶ沢で大坂船が破船、弘前御蔵米1俵32文目7分6厘5毛・青森38文目5分8厘7毛・鯨ヶ沢34文目6分8厘2毛・3ヶ所平均35文目	上に続く
1840年	11月12日	天保11年	10月19日 曇 辰の刻過より小雨時々降 未の刻止 酉の刻過より小雨時々降 亥の刻過止 (去月29日夜麩木村前浜に能代船が破船・2人海死・深浦町浄念寺に葬置く)	
1840年	11月13日	天保11年	10月20日 曇 今暁丑の刻過より小雨時々降 卯の刻頃止 (無牛子村で土地争い?もめている、昨19日四つ半時蔵館村大日尊が御出汗)	
1840年	11月14日	天保11年	10月21日 快晴	
1840年	11月15日	天保11年	10月22日 晴 酉の刻頃より雨降 亥の刻過止 (青森より三厩迄御定運賃100石に付237文目5分)	
1840年	11月16日	天保11年	10月23日 晴 今暁丑の刻過より小雨時々降 卯の刻過止 (所々で盗みの男2人に3鞭宛弘前御構い居村徘徊はまで通り)	
1840年	11月17日	天保11年	10月24日 快晴	
1840年	11月18日	天保11年	10月25日 晴 下から続く 大豆6000俵を御印代1俵に付6文目立で津出)	
1840年	11月19日	天保11年	10月26日 曇 今暁丑の刻過より小雨時々降 夜に入止 酉の刻過より東風強し 下から続く 大振りにする、(去る10月以前に)米1俵代85文目の処106文目値段にて取立て……、	上に続く
1840年	11月20日	天保11年	10月27日 曇 昨夜よりの風今暁丑の刻過止 昨夜よりの小雨今日に及 辰の刻過止 (野内御関所口より送返の者共を取逃がした男に過料1貫200文、大豆相場下値・豆腐寸法古来の通り	上に続く
1840年	11月21日	天保11年	10月28日 曇 未の刻過より小雨時々降 夜に入止 (堀越組猿賀組大罽3ヶ組田舎館組藤崎組浪岡3ヶ組外ヶ浜4ヶ組の御蔵仕付高60266石2斗6合・内2694石9升8合当毛引)	
1840年	11月22日	天保11年	10月29日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 卯の刻過より小雨降 未の刻頃止 今日申の刻過より小雨時々降 夜に入止 (不明日に鯨ヶ沢町に真切様の物で傷害の者あり)	
1840年	11月23日	天保11年	10月30日 曇 昨夜よりの小雨今日に及時々降 夜に入同断	
1840年	11月24日	天保11年	11月1日 晴 昨夜よりの小雨今暁寅の刻過止	
1840年	11月25日	天保11年	11月2日 曇 巳の刻過より小雨時々降 戌の刻過止 (卸か小売か分からないが米1俵21文目)	
1840年	11月26日	天保11年	11月3日 曇 未の刻過より小雨降 申の刻過止 酉の刻過より雨降 (昨2日申の下刻百沢下居宮御惣鉢御出汗・下居宮で重き御神楽大堂で重き御祈禱を仰せ付けられる)	
1840年	11月27日	天保11年	11月4日 晴 昨夜よりの雨今暁子の刻過止 (闇物資(米)御取上げ球煙草は返す・過料1貫800文宛)	
1840年	11月28日	天保11年	11月5日 曇 午の刻頃より雨降 申の刻過止 (当年の荏種油は1升到付き7文目1分8厘7毛に相当・7文目2分値段に1合売り7分2厘に申付ける、野火を入れた多くの村の庄屋等に過料)	
1840年	11月29日	天保11年	11月6日 晴 (手拭商売に不正の男に9鞭親引渡し居町徘徊はまで通り・関係者にも罰) 下から続く 月峯院鳳松院蘭庭院福寿院陽光院の7ヶ寺を隠居)	
1840年	11月30日	天保11年	11月7日 快晴 (和徳高杉藤代赤石赤田広田金木同新田柏木の9ヶ組の御蔵仕付高35884石6升2合・内2251石8斗7升6合当毛引、この度長勝寺は以下に不心得の僧あり・盛雲院京徳寺	上に続く
1840年	12月1日	天保11年	11月8日 晴 申の刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1840年	12月2日	天保11年	11月9日 晴 昨夜の小雨今暁丑の刻過止	
1840年	12月3日	天保11年	11月10日 晴 昨夜雪降 一寸程積る	
1840年	12月4日	天保11年	11月11日 曇 辰の刻頃より雨降 酉の刻過止 下から続く 2550兩位之処江御米9000俵両濱御蔵元より御渡し仰せ付けられ候えば……)	
1840年	12月5日	天保11年	11月12日 曇 昨夜雪降 二寸程積る 今日雪降 三寸程積 (去月4日より々18日まで日々新穀附相場平均値段米1俵代29匁3分3厘、去る春新潟からの御買越米2150俵代金並びに利息都合	上に続く
1840年	12月6日	天保11年	11月13日 曇 (盗みで入牢出牢の男が又盗みで3鞭弘前御構い居町徘徊はまで通り、目鹿沢村の男に傷害の男に12鞭・9鞭・過料居村徘徊はまで通り)	
1840年	12月7日	天保11年	11月14日 曇 辰の刻過より雨降 夜二入止	
1840年	12月8日	天保11年	11月15日 曇 昨夜よりの雨今日二及 夜二入止 (他領杣子等迄雇って生木1000本余を盗み杣の男達が出奔して家屋敷等欠所・関係の庄屋五人組に過料、御印附御蔵米1俵に付33文目……)	
1840年	12月9日	天保11年	11月16日 曇 昨夜よりの雨今日及 申の刻過止ム (須藤半兵衛知行の内200石召上げ蟄居・奥瀬一学蟄居・宇佐美平左衛門知行の内200石召上げ隠居等の人事異動)	
1840年	12月10日	天保11年	11月17日 晴 下から続く 御印付830俵余、(意味不明だが)鯨ヶ沢より津出の大豆5000俵の御印代1俵6文目立・両濱当新穀御印米1俵10文目大豆1俵8匁に仰せ付けられる)	
1840年	12月11日	天保11年	11月18日 晴 (当豊作に付きこの節より津出御役定め:酒2斗入り1樽御役3匁5分・味噌同1樽4文目・醤油同1樽3文目・白酒同1樽3文目5分・粳4斗入り1呎同7文目、金241両と錢20目の代米	上に続く
1840年	12月12日	天保11年	11月19日 晴 昨夜行き降 一尺程積る 今日雪少し降る (津軽直記(用人?)昨夜病死)	
1840年	12月13日	天保11年	11月20日 曇 今暁丑のこく過より小雨時々降 夜二入止 (去月26日野内勤番所が所々痛損)	
1840年	12月14日	天保11年	11月21日 晴 (高杉組鬼沢村で廃田の検見願いが遅れて……、駒越組白沢大秋岡村から田畑共位下げ願ひ・当年より7年間認める・位下げとは百姓にかけの税を下げることで内容不明・同様例が他にも)	
1840年	12月15日	天保11年	11月22日 曇 昨夜よりの小雨今暁卯の刻頃止	
1840年	12月16日	天保11年	11月23日 曇 卯の刻過より小雨時々降 未の刻過止 (8月13日に砥石で金子様の物を拵え取替えた男に3鞭弘前御構い、7月2日夜に米を隠輸送の男に6鞭居村徘徊は迄通り、盗みの男に3鞭弘前御構い)	
1840年	12月17日	天保11年	11月24日 曇 昨夜吹雪強し 二寸程積 今日雪ふり 三寸程積	
1840年	12月18日	天保11年	11月25日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少々降	
1840年	12月19日	天保11年	11月26日 曇 今暁寅の刻過より小雨降 辰の刻過止 今日雪少し降 (去月13日越後船に酒50樽隠し津出の船問屋の濱手代等2人に12鞭宛青森町払い・関係者にも過料等)	
1840年	12月20日	天保11年	11月27日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1840年	12月21日	天保11年	11月28日 曇 昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積る (人事異動)	
1840年	12月22日	天保11年	11月29日 曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降	
1840年	12月23日	天保11年	11月30日 晴 昨夜雪降	
1840年	12月24日	天保11年	12月1日 曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1840年	12月25日	天保11年	12月2日 曇 昨夜雪少し降	
1840年	12月26日	天保11年	12月3日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (家老西館宇膳の御役職召し放ち慎み)	
1840年	12月27日	天保11年	12月4日 曇 昨夜吹雪強 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (藤田百世を勘定奉行兼役に等の人事異動)	
1840年	12月28日	天保11年	12月5日 曇 今日雪降 三寸積	
1840年	12月29日	天保11年	12月6日 曇 卯の刻過より小雨時々降 申の刻過止	
1840年	12月30日	天保11年	12月7日 曇	
1840年	12月31日	天保11年	12月8日 晴 (人事異動)	

1841年	1月1日	天保11年	12月9日	晴	(諸白(酒)1升1文目9分・並1升が1文目7分に申付ける)
1841年	1月2日	天保11年	12月10日	晴	昨夜雪少し降 (去る2日朝まで十三湯前後共残らず氷張る)
1841年	1月3日	天保11年	12月11日	曇	今日雪少し降 (去る8日九ツ時過東長町で小火)
1841年	1月4日	天保11年	12月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (茨城屋(の分家?)を家老宅に呼び2年前に江戸で借りた5000両の元利に米6700石を渡すので来春の御下向金3000両の拝借を頼んでいる)
1841年	1月5日	天保11年	12月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積
1841年	1月6日	天保11年	12月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積
1841年	1月7日	天保11年	12月15日	曇	今日雪少し降 (無刻印の木品を37人以上より御取上げ過料・炭枳等も同様、久渡寺役人今和助という者が積取りの者大勢が入り込み伐り荒したのを咎めないとして軽く怒られている)
1841年	1月8日	天保11年	12月16日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (5月14日盗みの御手廻の出奔中の叔父に6鞭弘前払い、御家中の祖母と密通等の不屈き男に9鞭弘前徘徊はまで通り、盗品 欄外(*)に続く)
1841年	1月9日	天保11年	12月17日	曇	今日雪降 三寸程積 (去る11日朝より12日朝までに十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月18日朝より19日朝までで当年は日数に引合23日遅く節に引合12日遅い)
1841年	1月10日	天保11年	12月18日	晴	昨夜吹雪強し 雪一寸程積 今日雪少し降 (酢の津出値段2斗入り1樽の御役銭2文目5分)
1841年	1月11日	天保11年	12月19日	曇	今日雪少し降 (古河領中田御本陣が当7月の出水で家屋敷水損・御手当金1000疋下し置かれる)
1841年	1月12日	天保11年	12月20日	晴	昨夜雪少し降
1841年	1月13日	天保11年	12月21日	曇	昨夜雪少し降 一寸程積
1841年	1月14日	天保11年	12月22日	曇	今日雪降 四寸程積 昨夜雪少し降 (当7月10日十腰内村で殺人事件があり変死の見分無く取り片付けた庄屋等の関係者に過料・殺人者は牢死、願出なしに伐り出した木を御取上げ・過料)
1841年	1月15日	天保11年	12月23日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 四寸程積 (近年生蠟値段格別高値・1斤8文目5分乃至10文目余まで・10文目懸蠟燭1挺に付3分4厘9毛に相当候間3分5厘・5文目懸1挺は1分8厘値段とする)
1841年	1月16日	天保11年	12月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (山の木の伐り取願いを了承した例もあるが多数の木の伐り荒しあり・過料)
1841年	1月17日	天保11年	12月25日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1841年	1月18日	天保11年	12月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1841年	1月19日	天保11年	12月27日	曇	巳ノ刻過地震強し 則刻止 昨夜雪少し降 今日同断 (当9月洪水の節増館組水湛7ヶ村で稲草10000束余流失御収納御免願い・日数がたち一部だけ認める)
1841年	1月20日	天保11年	12月28日	晴	
1841年	1月21日	天保11年	12月29日	曇	今日雪少し降 (西館字膳の知行の内100石召上げ隠居、山の伐り荒し関係者に過料、年頭飛脚で金300両と山吹銀目形2貫500目(湯野沢出銀)御登せ)
1841年	1月22日	天保11年	12月30日	晴	
1841年	1月23日	天保12年正月1日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1841年	1月24日	天保12年正月2日	曇	昨夜吹雪強し 雪一寸程積 今日雪少し降	
1841年	1月25日	天保12年正月3日	晴	(御金奉行顔吉例金差上げる・明日立ち飛脚で差登、江戸で人事異動)	
1841年	1月26日	天保12年正月4日	晴		
1841年	1月27日	天保12年正月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1841年	1月28日	天保12年正月6日	曇	昨夜雪少々降 今日雪降 四寸程積	
1841年	1月29日	天保12年正月7日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (今日七種の御祝儀)	
1841年	1月30日	天保12年正月8日	曇		
1841年	1月31日	天保12年正月9日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 三寸程積	
1841年	2月1日	天保12年正月10日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少々降	
1841年	2月2日	天保12年正月11日	曇	昨夜雪少々降 未の刻頃地震少し 今日雪少し降 (毛内平格の知行200石に100石加増で毛内有右衛門を御用人にとの人事異動)	
1841年	2月3日	天保12年正月12日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪少し降	
1841年	2月4日	天保12年正月13日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1841年	2月5日	天保12年正月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1841年	2月6日	天保12年正月15日	晴	(内東外御門外橋朽損に付……)	
1841年	2月7日	天保12年正月16日	晴	昨夜雪少し降	
1841年	2月8日	天保12年正月17日	晴	昨夜雪少し降	
1841年	2月9日	天保12年正月18日	曇	今日雪少し降 (去る15日暁木造新田近野村で百姓が出火・建家等焼失)	
1841年	2月10日	天保12年正月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1841年	2月11日	天保12年正月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少々降	
1841年	2月12日	天保12年正月21日	晴	昨夜雪少し降 (田村雄太の知行の内50石召上げ御手廻組にとの人事異動)	
1841年	2月13日	天保12年正月22日	晴		
1841年	2月14日	天保12年正月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1841年	2月15日	天保12年正月24日	曇	昨夜雪降 九寸程積 今日雪降 四寸程積	
1841年	2月16日	天保12年正月25日	晴		
1841年	2月17日	天保12年正月26日	晴		
1841年	2月18日	天保12年正月27日	曇	昨夜雪少し降 今日吹雪 二寸程積 (旧臘26日屋形様が御鷹の雁拝領、酒値段の御定めで1升到付き1文目3分1厘に相当・1升を1文目3分・1合を8文に商売申付ける、江戸で人事異動)	
1841年	2月19日	天保12年正月28日	晴	昨夜吹雪強し 雪六寸程積 今日雪少し降 (去月22日久栗坂前濱に松前船が破船・乗り合い人別状なし、南鐐並びに1朱銀不通用・その先は分からない)	
1841年	2月20日	天保12年正月29日	快晴		
1841年	2月21日	天保12年閏正月1日	晴	(人事異動)	
1841年	2月22日	天保12年閏正月2日	曇	昨夜雪三寸程積 今日雪少し降	
1841年	2月23日	天保12年閏正月3日	晴	昨夜雪降 一寸程積	
1841年	2月24日	天保12年閏正月4日	曇	今日雪少し降	
1841年	2月25日	天保12年閏正月5日	晴		
1841年	2月26日	天保12年閏正月6日	曇	昨夜雪少し降 今日吹雪強し 雪二寸程積	
1841年	2月27日	天保12年閏正月7日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (岩崎元次郎を郡奉行に等の人事異動)	
1841年	2月28日	天保12年閏正月8日	晴	昨夜雪少し降	
(*) 売払い等の男に6鞭居町徘徊はまで通り、悪金銀取組の男に6鞭居村徘徊はまで通り、当2月黒石町で木綿を35・6反盗んだ男に15鞭居村徘徊はまで通り、御救木を不埒に取扱った6人の木品取上げ6鞭(5人には3鞭充)、金子・酒肴無心乱暴の長柄の者を掃除小人に役下げ)					

1841年	3月1日	天保12年閏正月9日	快晴	
1841年	3月2日	天保12年閏正月10日	快晴	
1841年	3月3日	天保12年閏正月11日	快晴	
1841年	3月4日	天保12年閏正月12日	晴	
1841年	3月5日	天保12年閏正月13日	曇	今日雪少し降 (去年正月7日茂森町で大小もぎ取られ打擲され深手の御留守居支配を武士道に拘り御目見以下御留守居支配に役下げ・乱暴の御馬廻与力の弟は兄預け他出差し止め)
1841年	3月6日	天保12年閏正月14日	曇	昨夜雪少し降 辰之刻過より小雨 巳の刻頃止 (今泉・塩谷等4人に並合10人扶持下しおかれ御用達仰せ付けられる・一方ではこれまでの御用達を続けられない者達も出ている)
1841年	3月7日	天保12年閏正月15日	曇	今日雪少し降
1841年	3月8日	天保12年閏正月16日	曇	
1841年	3月9日	天保12年閏正月17日	曇	
1841年	3月10日	天保12年閏正月18日	晴	
1841年	3月11日	天保12年閏正月19日	晴	
1841年	3月12日	天保12年閏正月20日	曇	午の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (御賞)
1841年	3月13日	天保12年閏正月21日	曇	昨夜の雨今日ニ及時々降 巳の刻頃止 (岩木川洪水・駒越渡場往来差留める・落水、当年限りで弘前の諸白(高級酒?)1升2文目・並1升1文目8分・青森では1升2文目6分に申し付ける)
1841年	3月14日	天保12年閏正月22日	晴	昨夜雪少し降 (昨21日昼九時半頃より藤崎村領の平川の仮橋流失・人馬往来差止める、桧2間(14尺?)6寸角400本と同5寸角600本でこの石 ㄨ 411石6斗7升・材木の石数が見える)
1841年	3月15日	天保12年閏正月23日	晴	
1841年	3月16日	天保12年閏正月24日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (石渡川落水・馬船小船とも往来相成る)
1841年	3月17日	天保12年閏正月25日	晴	(乱暴狼藉の御持筒足輕の弟を兄預け他出差留め、去る22日夜五時半頃土手町で小火?)
1841年	3月18日	天保12年閏正月26日	晴	
1841年	3月19日	天保12年閏正月27日	曇	(一昨25日朝尾崎組町居村で出火・建家等焼失)
1841年	3月20日	天保12年閏正月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御馬付小人が茂森町の後家を打擲揚屋入り)
1841年	3月21日	天保12年閏正月29日	曇	今日雪少し降
1841年	3月22日	天保12年閏正月30日	晴	申の刻過小雨降 則刻止
1841年	3月23日	天保12年	2月1日 曇	今日雪少し降
1841年	3月24日	天保12年	2月2日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1841年	3月25日	天保12年	2月3日 曇	今日雪少し降
1841年	3月26日	天保12年	2月4日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (去月19日夜深泊村前浜で南部船が破船・乗合人数別状なし、元藩主の御妾が亡くなり座当共への配当1人に付15文宛計92匁2分5厘)
1841年	3月27日	天保12年	2月5日 晴	(鶴田村の田家所の者が病身になり御家中?が御番透きに罷り下り耕作したいとの願いを認める)
1841年	3月28日	天保12年	2月6日 快晴	
1841年	3月29日	天保12年	2月7日 曇	申の刻過より雨時々降 夜に入同断
1841年	3月30日	天保12年	2月8日 曇	昨夜より雨降 今晩寅の刻過止 (久渡寺参詣途中で鳶口様の物で負傷者あり、酒田の米相場が安くなり金10両に付40俵3歩2厘・1俵27文目7分7厘)
1841年	3月31日	天保12年	2月9日 曇	昨夜雪少し降 午の刻過小雨降 則刻止
1841年	4月1日	天保12年	2月10日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1841年	4月2日	天保12年	2月11日 快晴	昨夜雪少し降 (住民の難渋につき木の伐り取りを認めている)
1841年	4月3日	天保12年	2月12日 快晴	昨夜雪少し降 (黒石藩主が上弘中(高岡・長勝寺・報恩寺・革秀寺葉の拝礼)の弘前止宿人数が39人)
1841年	4月4日	天保12年	2月13日 快晴	
1841年	4月5日	天保12年	2月14日 快晴	(大御所様今(16日の記述で1月晦日)辰の下刻薨御)
1841年	4月6日	天保12年	2月15日 快晴	
1841年	4月7日	天保12年	2月16日 快晴	(去る九月より江戸御廻米35000石外二侍従様御賄い料3900石都合38900石)
1841年	4月8日	天保12年	2月17日 曇	午の刻過より小雨時々降 夜入同断
1841年	4月9日	天保12年	2月18日 曇	昨夜より小雨今晩寅の刻過止 卯の刻頃より雨降 申の刻過止
1841年	4月10日	天保12年	2月19日 晴	
1841年	4月11日	天保12年	2月20日 晴	(津軽主水に御加増200石・野呂典司を物頭格に等の人事異動)
1841年	4月12日	天保12年	2月21日 快晴	(蠟燭隠し売りの男の蠟燭御取り上げの上過料銭75文目・関係の五軒組合の4人にも過料銭18文目5分宛)
1841年	4月13日	天保12年	2月22日 晴	辰の刻頃より小雨降 則刻止
1841年	4月14日	天保12年	2月23日 快晴	(人事異動)
1841年	4月15日	天保12年	2月24日 晴	
1841年	4月16日	天保12年	2月25日 快晴	
1841年	4月17日	天保12年	2月26日 快晴	
1841年	4月18日	天保12年	2月27日 晴	(不明日に藤崎組飯田村で女が棒で敲かれる)
1841年	4月19日	天保12年	2月28日 晴	辰の刻頃小雨降 則刻止 亥の刻頃小雨降 (今晩(去る7日)津軽多膳病死)
1841年	4月20日	天保12年	2月29日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及時々降 申の刻過止
1841年	4月21日	天保12年	3月1日 晴	(人事異動、御賞、石渡川4歩半の出水・両船とも往来なり兼ねる)
1841年	4月22日	天保12年	3月2日 曇	卯の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (去月27日後潟組大川平村の獵師松蔵が痛損の小熊狩取る・役筋見分の上早速御片付けを申付ける)
1841年	4月23日	天保12年	3月3日 快晴	
1841年	4月24日	天保12年	3月4日 快晴	
1841年	4月25日	天保12年	3月5日 曇	今晩巳の刻ころより雨時々降 辰の刻頃止
1841年	4月26日	天保12年	3月6日 曇	
1841年	4月27日	天保12年	3月7日 晴	
1841年	4月28日	天保12年	3月8日 快晴	
1841年	4月29日	天保12年	3月9日 晴	
1841年	4月30日	天保12年	3月10日 曇	今晩寅の刻過より雨降 申の刻過止

1841年	5月1日	天保12年	3月11日 晴	(岩木川出水・駒越渡場両船共往来差留める、昨年御印付米1俵に付35文目立仮見込みで御渡し・然る所旧冬より諸国共米価下落・青森御蔵米1俵28文目立鰯ヶ沢27文目立に仰せ付ける)
1841年	5月2日	天保12年	3月12日 曇	巳の刻過より小雨時々降 亥の刻過止 (この節十三湯船々通路宜ニ付金木・八幡両御蔵米を鰯ヶ沢御蔵江小廻仰付ける、岩木川出水・駒越渡場往来差留め・落水で馬船長船共通路相成る)
1841年	5月3日	天保12年	3月13日 晴	今晩子の刻頃より雨時々降 卯の刻過止 (間道抜け所々で盗みの男に12鞭引前御構い、雨隠し積の男を取り逃がした者共に3鞭宛居町徘徊是迄通り・関係名主戸ノ10日、欄外(*)に続く)
1841年	5月4日	天保12年	3月14日 曇	(去る10日朝十三町で出火・4間×30間の普請小屋焼失)
1841年	5月5日	天保12年	3月15日 快晴	(寺田慶次郎を蟹田町奉行に等の人事異動、去る12日(2月)昨年の御損耗は3分5里(熟作ではあったが打ち続く凶作で廃田が多く7月に出水もあり)と幕府に報告)
1841年	5月6日	天保12年	3月16日 晴	午の刻過小雨降 即刻止
1841年	5月7日	天保12年	3月17日 曇	午の刻過小雨降 未の刻過止 (石渡川落水・両船共往来相成る、去る酉年(今年は丑年)に差立てた大問屋家業並びに米屋家業をこの度一統御止め)
1841年	5月8日	天保12年	3月18日 曇	巳の刻過より雨降 未の刻過止 酉の刻過雨降 良刻止
1841年	5月9日	天保12年	3月19日 曇	辰の刻頃小雨降 良刻止 (去月7日死亡の多膳に関し津軽多禄に香典白銀30両下し置かれる、)
1841年	5月10日	天保12年	3月20日 晴	
1841年	5月11日	天保12年	3月21日 晴	
1841年	5月12日	天保12年	3月22日 晴	(去る14日夜九時過ぎ青森下米町横小路で小火・火元慎み、今日九時半頃より小沢村領より原ヶ平村領にわたり野火(7丁×2丁半)・八時半頃までに鎮火)
1841年	5月13日	天保12年	3月23日 晴	
1841年	5月14日	天保12年	3月24日 曇	午の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (秋田の飛脚宿津軽屋が引越しに付拝借願ひ・御手当て金20両下し置かれる)
1841年	5月15日	天保12年	3月25日 快晴	(去る17日金木組下前村に女鯨が流れ寄せる)
1841年	5月16日	天保12年	3月26日 快晴	
1841年	5月17日	天保12年	3月27日 快晴	(今日退出がけ御家老並びに御用人中御郭廻御先格の通り・右終わって埋御門より罷り出で外馬場で当御献上御馬見分、去る20日昼九つ時過ぎ和徳組柏木館山に野火・八つ時過ぎ鎮火)
1841年	5月18日	天保12年	3月28日 快晴	
1841年	5月19日	天保12年	3月29日 曇	辰の刻頃より雨降 申の刻過止 下から続く 富田町で出火・小屋焼失、一昨28日藤代組范中村で出火・百姓居宅等焼失)
1841年	5月20日	天保12年	3月30日 快晴	(生鮮隠し荷上の秋田船の鮮御取上げ(鮮180疋入り9呎この売払い代銀89文目1分)・関係者にも罰、一昨28日夜広田組川山村で出火・百姓建家穀物等焼失、一昨28日昼 上に続く)
1841年	5月21日	天保12年	4月1日 快晴	(山形某を十三町奉行にとの人事異動)
1841年	5月22日	天保12年	4月2日 快晴	
1841年	5月23日	天保12年	4月3日 快晴	
1841年	5月24日	天保12年	4月4日 快晴	(来る28日御発駕)
1841年	5月25日	天保12年	4月5日 快晴	(去月晦日屋横内組野尻村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、去月12日の夜鰯ヶ沢で大雨・舞戸川出水・橋流失)
1841年	5月26日	天保12年	4月6日 快晴	(去月13日洪水で当出流木の内124巻余流失)
1841年	5月27日	天保12年	4月7日 曇	(出雲守殿(黒石藩主)の道中金400両の処江御印附米1200俵御渡し仰せ付けられ候処極々省略致し候ても行届き兼ね候間……米価が安くなっている?)
1841年	5月28日	天保12年	4月8日 快晴	(酒値段当年限り1合売り1分5厘・1升売りは是まで通りと仰せ付ける) 下から続く 15か年で70万8千本を植付けようにする、3月28日屋形様江戸御発駕)
1841年	5月29日	天保12年	4月9日 晴	(去月21日江戸発の関札役が18日振りで昨日到着、青森で大坂の商人?が病死) 下から続く 雑木を盗伐り過料の上納を命じられたが払えない・過料銭上納御免の上 上に続く
1841年	5月30日	天保12年	4月10日 晴	(碇ヶ関出流木を秋田に売る話で詐欺まがい・病死者ありぐちゃぐちゃ) 下から続く 無刻印の松角丸太385本寄せる、木造新田牛潟・車力・富苞3村の者共が屏風山から 上に続く
1841年	5月31日	天保12年	4月11日 晴	(大物を含む屋敷替えあり、人事異動、玉田某が御用達御免願、袖乞の者を本所に送り返す・盗人は許す・それを買った男3人を戸ノ20日、去る13日浅虫村より野内領の海岸に 上に続く)
1841年	6月1日	天保12年	4月12日 曇	今晩丑の刻過より雨時々降 申の刻過止
1841年	6月2日	天保12年	4月13日 曇	巳の刻過小雨ふり 則刻止 未の刻過より雷鳴 酉の刻頃止 (知行御書き出しに御賞:銀子1枚・銀子2枚・金100疋・銀3両・鳥目500文)
1841年	6月3日	天保12年	4月14日 曇	午の刻過小雨ふり 則刻止 未の刻過より雨降 申の刻止 (人事異動、山の木の伐り取願・了承したりしなかったり)
1841年	6月4日	天保12年	4月15日 曇	午の刻過より雨降 未の刻過止 (今朝卯の刻過ぎ碇ヶ関御発駕、御着城未の刻過ぎ・通った部屋の順が書いてある、明日立ちの飛脚で金300両・山吹銀目形2貫目(湯之沢出銀)を登す)
1841年	6月5日	天保12年	4月16日 曇	午の刻頃より小雨ふり 申の刻過止 戌の刻過雨ふり (御登せ金300両を増やし400両にしている)
1841年	6月6日	天保12年	4月17日 曇	昨夜の雨今晚寅の刻過止 巳の刻頃より小雨降 申の刻過止
1841年	6月7日	天保12年	4月18日 快晴	(去る15日碇ヶ関に先詰めで罷り越す御家老代の駕籠脇を乗打ちの足軽目付を長柄の者に役下げ)
1841年	6月8日	天保12年	4月19日 快晴	(去る13日の洪水で碇ヶ関村山神堂下大留が流失)
1841年	6月9日	天保12年	4月20日 晴	(諸白1升を2匁4分値段に仰せ付ける)
1841年	6月10日	天保12年	4月21日 晴	(人事異動、土地の売買等で揉めている:飢饉・死に絶え等で所有があいまいになった例もあるんだろうな、盗み袖男を取り逃がした五人組に過料1貫500文・関係者にも罰)
1841年	6月11日	天保12年	4月22日 晴	(信州より牛買・御役銭1疋につき5文目充て大問越御関所で取り立てる、三厩・宇鉄・高杉・狼森・一の渡村で桧等と切株・木品取上げ過料等・庄屋等の関係者にも罰)
1841年	6月12日	天保12年	4月23日 曇	午の刻過小雨ふり 則刻止
1841年	6月13日	天保12年	4月24日 曇	
1841年	6月14日	天保12年	4月25日 曇	卯の刻過小雨ふり 則刻止 午の刻過より小雨時々ふり 夜に同断 (人事異動)
1841年	6月15日	天保12年	4月26日 曇	昨夜よりの小雨今日に及時々ふり 夜に入同断
1841年	6月16日	天保12年	4月27日 曇	昨夜よりの小雨今日に及ひ時々ふり夜に同断(曇 昨夜よりの小雨今日荷及ひ時々ふり夜に同断)
1841年	6月17日	天保12年	4月28日 晴	昨夜よりの小雨今晩卯の刻過止 (粒油1石に付御印代4文目充て上納とする)
1841年	6月18日	天保12年	4月29日 晴	(白取一馬に預けられている津軽金蔵が東山と改名、金272両2歩の引当て米1250俵、鰯ヶ沢からの御印附き1俵24文目5分立)
1841年	6月19日	天保12年	5月1日 快晴	(津軽多禄を大寄合に竹内又市を御用人に等の人事異動)
1841年	6月20日	天保12年	5月2日 快晴	(2月11日の出水で各地で材木流失・十三町潟添いに無刻印木見当て御取上げ)
1841年	6月21日	天保12年	5月3日 晴	
1841年	6月22日	天保12年	5月4日 晴	(尾花沢駅柴崎倉之助江下され方15人扶持・半減にて1ヶ年33俵7升5合……)
1841年	6月23日	天保12年	5月5日 晴	
1841年	6月24日	天保12年	5月6日 快晴	(閏正月12日に茂森町の後家に手傷を負わせた下御馬屋附小人の御給分召上げ三里四方追放) 下から続く 付近の村の者共が塩引隠し取る・詮議)
1841年	6月25日	天保12年	5月7日 晴	(去月25日夕八時頃後潟組広瀬村で百姓家出火・建家等焼失、多数の伐り株があり管理者?に過料、無刻印の柁と男2人を捕まえたら逃亡等々) 下から続く 船が破船・ 上に続く
1841年	6月26日	天保12年	5月8日 曇	巳の刻過小雨降 即刻止 未の刻過より小雨時々降 (去る3日暮六時頃金木組高根村の鍛冶場より出火・建家等焼失類焼1軒・火元他村預け、去る9月赤石組月屋村前浜に能代 上に続く)
1841年	6月27日	天保12年	5月9日 曇	昨夜よりの小雨今晩寅の刻過止 辰の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (入金の道がなく酒造り上納金の内半分を前納させている、御印附米と御買上値段の差額で何かを……分かん)
1841年	6月28日	天保12年	5月10日 曇	下から続く 申さざる族あり・早く出せとの触れ)
1841年	6月29日	天保12年	5月11日 晴	今晚寅の刻頃より小雨降 卯の刻過止 (侍従様御用・鮎70匹(赤石村で塩漬け仕立て)・鮎ウルカ(鮎のはらわた)5升、去年8月御改切支丹証文並びに人別増減書上を今に差出し 上に続く)
1841年	6月30日	天保12年	5月12日 曇	午の刻過小雨時々降 申の刻過止 (尾上村で9人を召捕りに行き6人召捕る・揚り屋入り・喧嘩かな、無刻印柁に関して過料1貫800文・関係者にも戸ノ等)

(*) 富田村御小納戸仕込みの人参を盗み売った男に3鞭弘前御構い居村徘徊はまで通り)

1841年	7月1日	天保12年	5月13日	曇	(銭85文目語取った男に3鞭居村徘徊は迄通り、博打小盗の男2人に18鞭居村払い、去る4月に御刑法が行われ又盗みの男に6鞭・盗品売り男に3鞭居村徘徊は迄通り、無刻印	下に続く
1841年	7月2日	天保12年	5月14日	曇	上から続く	枉に関し6鞭居町徘徊はまで通り、去る6月御蔵町の土蔵打破り盗みの男に27鞭7里四方追放・この同類に逃げられた3人に21鞭宛3里四方追放、盗みの男に3鞭弘前払い)
1841年	7月3日	天保12年	5月15日	曇	(人事異動)	
1841年	7月4日	天保12年	5月16日	晴		
1841年	7月5日	天保12年	5月17日	晴		
1841年	7月6日	天保12年	5月18日	快晴	(津出の白米御印500俵1俵5文目7分立・玄米1000俵御印1俵5文目立で御払い仰せ付けられる)	
1841年	7月7日	天保12年	5月19日	曇	午の刻頃小雨降	(青田の内笛吹くなどの触れ)
1841年	7月8日	天保12年	5月20日	曇	巳の刻過より小雨降	午の刻過止 (弘前表の米価一昨・昨日兩日の下相場22文目5分・米の御買上値段は22文目4分立に仰せ付けられる)
1841年	7月9日	天保12年	5月21日	晴	未の刻過小雨降	則刻止
1841年	7月10日	天保12年	5月22日	曇	卯の刻頃より小雨降	則刻止 辰の刻より小雨降 巳の刻過止
1841年	7月11日	天保12年	5月23日	晴		
1841年	7月12日	天保12年	5月24日	晴		
1841年	7月13日	天保12年	5月25日	曇	(来る27日渡より御買上値段は1俵23文目4分立に仰せ付けられる)	
1841年	7月14日	天保12年	5月26日	晴		
1841年	7月15日	天保12年	5月27日	晴		
1841年	7月16日	天保12年	5月28日	晴	(今日南溜池大矢場で射芸高覧)	
1841年	7月17日	天保12年	5月29日	曇	辰の刻頃小雨降	則刻止 未の刻頃より雨時々降 夜入同断
1841年	7月18日	天保12年	6月1日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降	酉の刻過止 (人事異動、御用達前田某・今泉某が追々身上手薄に相成り御用達御免、百姓地を町人等が内々に譲り受けたら返せとの公儀御書付あり)
1841年	7月19日	天保12年	6月2日	晴		
1841年	7月20日	天保12年	6月3日	晴		
1841年	7月21日	天保12年	6月4日	曇	(来る5日革秀寺に御参詣仰せ出され候処の節岩木川水不足につき駒越渡場船橋にて御通行仰せ付けらるべきかの郡奉行から申し出がありその通り申付ける)	
1841年	7月22日	天保12年	6月5日	曇	今晚寅の刻過より小雨時々降	巳の刻頃止
1841年	7月23日	天保12年	6月6日	曇	(今日南溜池で射芸高覧)	
1841年	7月24日	天保12年	6月7日	曇	申の刻過小雨降	則刻止 (今日大矢場で射芸高覧)
1841年	7月25日	天保12年	6月8日	曇		
1841年	7月26日	天保12年	6月9日	曇	今晚丑の刻頃より小雨時々降	酉の刻過止 (御用人毛内有右衛門を御馬廻組頭格に等の人事異動(先月のことかな))
1841年	7月27日	天保12年	6月10日	晴	(三厩町で盗み袖で鞭刑にされた者あり・名代を立てたいとのこと・2両でチツクリ(アイヌかな)という男に頼み口外しないようにその他にも手を回す・不届きに付名主以下3人揚屋入り)	
1841年	7月28日	天保12年	6月11日	晴	酉の刻より雨降	
1841年	7月29日	天保12年	6月12日	曇	昨夜の雨今晚寅の刻過止	丑の刻過より雨時々降 (山の伐り荒し・大赦以前なので木を残らず御取上げの上不埒御用捨)
1841年	7月30日	天保12年	6月13日	曇		
1841年	7月31日	天保12年	6月14日	曇	雷雨	雷則刻止 雨申の刻頃止 (午の刻過松森町後通りで一番町の男が縊死)
1841年	8月1日	天保12年	6月15日	晴		
1841年	8月2日	天保12年	6月16日	快晴		
1841年	8月3日	天保12年	6月17日	快晴		
1841年	8月4日	天保12年	6月18日	快晴		
1841年	8月5日	天保12年	6月19日	快晴		
1841年	8月6日	天保12年	6月20日	晴	(大鰐村加賀助・兵左衛門より初穂差上げる・去年は5月7日植付54日目に差出し当年は4月18日植付61日目に差出す・当年は日数に引き合い7日遅く節に引合8日遅い)	
1841年	8月7日	天保12年	6月21日	曇	辰の刻過より	午の刻過止 (頃日天気不正・四社で風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1841年	8月8日	天保12年	6月22日	晴		
1841年	8月9日	天保12年	6月23日	曇		
1841年	8月10日	天保12年	6月24日	晴		
1841年	8月11日	天保12年	6月25日	曇	卯の刻過雨降	則刻 辰の刻過より雨降 午の刻過止
1841年	8月12日	天保12年	6月26日	晴	(江戸で去月38日伴野文四郎を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動)	
1841年	8月13日	天保12年	6月27日	晴	(元宇鉄上宇鉄村等で山の伐り荒し・過料)	
1841年	8月14日	天保12年	6月28日	晴	今晚卯の刻過より雨降	則刻止 (毛内・土門・竹内の3用人の奥通を仰せ付ける)
1841年	8月15日	天保12年	6月29日	晴	申の刻過雷雨	則刻止 (祢婦たの儀御家中壮年の子弟並びに召使の者入交じり喧嘩口論等に及び申さざるよう……)
1841年	8月16日	天保12年	6月30日	快晴	(5月15日より6月15日までの菜種相場平均から算出した菜種油値段は1升につき5文目4分5厘9毛に相当・1升を5文目5分に商売いたすよう申付ける)	
1841年	8月17日	天保12年	7月1日	曇	寅の刻過より雨降	卯の刻過止 辰の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (添田有方を大組足輕頭に等の人事異動)
1841年	8月18日	天保12年	7月2日	快晴		
1841年	8月19日	天保12年	7月3日	曇	未の刻過小雨時々降	酉の刻過止
1841年	8月20日	天保12年	7月4日	晴	下から続く	御家中の御切米を受け取り売った男に3鞭弘前御構い、去月19日夜和徳町等で盗みの男に6鞭弘前御構い)
1841年	8月21日	天保12年	7月5日	晴	(惣組田方出穂歩通り惣平均:早稲8部余・中稲5部7厘・晚稲3部1厘・ $\times$ 平均5部6厘余、閏正月27日茂森町の諸手足輕宅に盗みに入った男に3鞭弘前御構い、謀書を以って	上に続く
1841年	8月22日	天保12年	7月6日	晴	酉の刻過より雨降	(売女同様の女2人に大場御構い5里四方追放・その親の家業取放し弘前払い・女共を取寄せた後家を戸 $\times$ 他出差留め)
1841年	8月23日	天保12年	7月7日	晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止	(南鍬銀等の通用御停止)
1841年	8月24日	天保12年	7月8日	晴		
1841年	8月25日	天保12年	7月9日	快晴	(去る27日松前よりの鰯ヶ沢船が鳥井崎沖で破船・5人中2人が翌28日七つ頃出来嶋江流寄せる、青森湊より酒200樽津出・御印代1樽(2斗入り)に付3文目5分、無作法を禁じている)	
1841年	8月26日	天保12年	7月10日	曇	巳の刻過より小雨時々降	夜入同断 (今日御用人竹内又市江戸登り、御賞、紙御蔵有り合せの熊皮:上位熊皮6枚・中位6枚・下位7枚・下々位8枚・無位2枚)
1841年	8月27日	天保12年	7月11日	曇	昨夜の雨今日に及時々降	申の刻過止 (浪岡・中野・相沢村で流行の病)
1841年	8月28日	天保12年	7月12日	曇	午の刻過小雨時々降	夜入同断
1841年	8月29日	天保12年	7月13日	曇	昨夜の雨今晚卯の刻過止む	
1841年	8月30日	天保12年	7月14日	晴		
1841年	8月31日	天保12年	7月15日	快晴		

1841年	9月1日	天保12年	7月16日	快晴	
1841年	9月2日	天保12年	7月17日	快晴	(今日大鰐村加賀助兵左衛門が初米差上げる)
1841年	9月3日	天保12年	7月18日	晴	(これまで御初米13俵宛献上であつたが当年より14俵差上げるようにする(侍従様8俵・上々様1俵・屋形様1俵・高岡1俵・薬王院御仮殿1俵・長勝寺と革秀寺に1俵宛)
1841年	9月4日	天保12年	7月19日	曇	申の刻過より雨降り 夜入同断
1841年	9月5日	天保12年	7月20日	曇	昨夜の雨今日二及時々降 酉の刻頃止 丑の刻頃雷鳴強 (来る21日より摺り米渡しで買い上げの方法等があるらしいが分からない)
1841年	9月6日	天保12年	7月21日	晴	
1841年	9月7日	天保12年	7月22日	曇	今日申の刻過より雨降 夜入同断
1841年	9月8日	天保12年	7月23日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 夜入同断 申の刻過雷鳴 則刻止
1841年	9月9日	天保12年	7月24日	晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 酉の刻過小雨降 戌の刻頃止
1841年	9月10日	天保12年	7月25日	曇	未の刻過より小雨降
1841年	9月11日	天保12年	7月26日	曇	
1841年	9月12日	天保12年	7月27日	晴	
1841年	9月13日	天保12年	7月28日	曇	(森岡民部を用人帯刀(兼帯の書き間違いでしょうな)に等の人事異動、玉田某の御用達御免)
1841年	9月14日	天保12年	7月29日	曇	今晚子の刻より雨降 夜入同断 (鯨ヶ沢津出御印1000俵・1俵5文目6分)
1841年	9月15日	天保12年	8月1日	快晴	
1841年	9月16日	天保12年	8月2日	晴	(熊野宮下社家久保門弥が富弘札興行・手札1枚に付き2文目で札数5000枚売弘来る20日改札・認める)
1841年	9月17日	天保12年	8月3日	晴	
1841年	9月18日	天保12年	8月4日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (当5月山役人廻山で伐り荒し有(差渡し2寸・3寸・尺2寸まで)・御取り上げの上過料)
1841年	9月19日	天保12年	8月5日	曇	昨夜よりの雨今日及時々降 巳の刻過止
1841年	9月20日	天保12年	8月6日	晴	
1841年	9月21日	天保12年	8月7日	晴	
1841年	9月22日	天保12年	8月8日	晴	今日急雨降 下から続く 500俵を1俵6文目5分立にて御払い)
1841年	9月23日	天保12年	8月9日	晴	(去月10日小泊領崩れ山で小泊船が破船6人全員無事・去月11日4人乗りの十三町船が磯松倉沖合いで難船4人全員無事、去月11日越後船が神崎村前浜で難船、青森津出白米 上に続く)
1841年	9月24日	天保12年	8月10日	曇	戌の刻過より小雨時々降
1841年	9月25日	天保12年	8月11日	曇	昨夜の雨今日に及時々降 辰の刻過止 (当大坂御廻船として雇入れた船が長州下関で難船)
1841年	9月26日	天保12年	8月12日	晴	
1841年	9月27日	天保12年	8月13日	曇	巳の刻過雨降 即刻止 亥の刻過より雨降
1841年	9月28日	天保12年	8月14日	曇	昨夜の雨今日二及 卯の刻過止 辰の刻過より雨降 巳の刻頃止 今日霰降 今朝岩木山に雪見ゆる
1841年	9月29日	天保12年	8月15日	晴	(神輿通御(八幡宮の祭礼だろうな))
1841年	9月30日	天保12年	8月16日	晴	(去る10日暮ころ鯨ヶ沢町で木造新田の百姓が打擲され負傷)
1841年	10月1日	天保12年	8月17日	曇	
1841年	10月2日	天保12年	8月18日	曇	今晚子の刻過小雨降 即刻止 巳の刻過より小雨時々降
1841年	10月3日	天保12年	8月19日	快晴	昨夜の雨今晚寅の刻過止
1841年	10月4日	天保12年	8月20日	快晴	(当月4日広戸村で深浦船と能代船が破船・乗り合い別状なし)
1841年	10月5日	天保12年	8月21日	晴	酉の刻過より雨降
1841年	10月6日	天保12年	8月22日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 亥乃刻過ぎより小雨降
1841年	10月7日	天保12年	8月23日	晴	昨夜の雨今晚子の刻過ぎ 申乃刻過より小雨降 酉の刻過止 (鞭に代理を立てようとした三厩町の男(6月10日に記述)に6鞭居町徘徊はまで通り)
1841年	10月8日	天保12年	8月24日	晴	(宇和野で御備立内習高覧)
1841年	10月9日	天保12年	8月25日	快晴	(此の頃弘前の所々に袖乞の者見える・富田村の明き郷蔵に入れ手当の上本所に)
1841年	10月10日	天保12年	8月26日	快晴	
1841年	10月11日	天保12年	8月27日	晴	
1841年	10月12日	天保12年	8月28日	快晴	(当春熊狩りの〇〇に鳥目6貫文下々位の熊皮2枚・長次松蔵には3貫文宛熊皮1枚宛下し置かれる)
1841年	10月13日	天保12年	8月29日	晴	申の刻過より時々雨降 夜二入同断 (明日立ちの飛脚で山吹銀1貫500目を江戸に登す)
1841年	10月14日	天保12年	8月30日	曇	昨夜よりの小雨今晚丑乃刻頃止
1841年	10月15日	天保12年	9月1日	曇	
1841年	10月16日	天保12年	9月2日	快晴	(鞭の代理に立とうとした三厩町の男ジツクリに押込め20日・庄屋に戸々20日) 9月4日から続く 右同断)・実俵長サ4尺5寸等々の記述あり)
1841年	10月17日	天保12年	9月3日	快晴	(去る9月13日洪水の防ぎ伐り中で手向いをしなかった福館村の男に切りつけた滝居村の男に27鞭7里四方追放・被害者の盗み伐りは大赦以前でお咎めなし・庄屋等には過料戸々等)
1841年	10月18日	天保12年	9月4日	快晴	(初鮭1尺差上げる、享和2戌年御定御収納縄俵寸法:縦縄4尋半(太サ廻1寸5歩・1尋5尺3寸之定)・横同11尋(太サ同1寸9歩・尋キ右同断)・口縄16尋(太サ廻8歩・尋キ 9月2日に続く)
1841年	10月19日	天保12年	9月5日	曇	申の刻過より雨時々降 夜入同断
1841年	10月20日	天保12年	9月6日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 巳の刻過止
1841年	10月21日	天保12年	9月7日	晴	亥の刻過より雨降
1841年	10月22日	天保12年	9月8日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 夜入同断
1841年	10月23日	天保12年	9月9日	曇	昨夜よりの雨今晚丑之刻頃止 卯の刻過より雨時々降 巳之刻過止 戌之刻頃より雨時々降 (昨晚六時半時松森町裏通りの小屋焼失隣家の小屋も類焼(8月26日付で申し出))
1841年	10月24日	天保12年	9月10日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 未の刻頃止 (去る5日横内組幸畑村で出火・百姓家等焼失)
1841年	10月25日	天保12年	9月11日	曇	今晚丑の刻頃より小雨降 即刻止 未の刻頃より雨時々降 夜入同断 (9月21日より新穀渡しだが是までは平均3歩5厘6毛歩引きを来月新穀渡しより平均3歩引き抑せ付けられる・意味不明)
1841年	10月26日	天保12年	9月12日	曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 午の刻頃小雨降 即刻止
1841年	10月27日	天保12年	9月13日	曇	今日午の刻過小雨降 則刻止 申の刻過より小雨時々降 夜入同断 (借用の刀野羽織を博打で取られた男に3鞭居町徘徊はまで通り)
1841年	10月28日	天保12年	9月14日	曇	昨夜よりの小雨今日二及時々降 午の刻過止
1841年	10月29日	天保12年	9月15日	晴	
1841年	10月30日	天保12年	9月16日	曇	今晚丑之刻過より雨降 寅之刻過止 巳之刻頃より雨時々降 未之刻過止
1841年	10月31日	天保12年	9月17日	曇	未の刻頃より雨時々降 夜入同断 未の刻頃雷鳴 即刻止

1841年	11月1日	天保12年	9月18日 曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 戌の刻頃止 今暁丑の刻頃過より西南の風強し 寅の刻過止
1841年	11月2日	天保12年	9月19日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜入同断 申の刻過雷鳴 即刻止
1841年	11月3日	天保12年	9月20日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止
1841年	11月4日	天保12年	9月21日 曇	今暁子の刻過より雨時々降 申の刻過止
1841年	11月5日	天保12年	9月22日 曇	今暁寅の刻過より雨降 巳の刻頃止 午の刻過より小雨時々降 (人事異動、御賞、頃日天気不正に付き丹後者の詮索送り返しの触れ)
1841年	11月6日	天保12年	9月23日 快晴	昨夜よりの小雨今暁子の刻過止 (当5月5日尾上村で若者共が力試し中に傷害事件・2人に15鞭宛居村徘徊是まで通り・関係者にも鞭戸ノ等の罰)
1841年	11月7日	天保12年	9月24日 晴	戌の刻過より雨降 亥の刻過止 (對馬刑部を馬廻組頭格用人にとの人事異動)
1841年	11月8日	天保12年	9月25日 曇	今暁寅の刻過より小雨時々降 午の刻過止
1841年	11月9日	天保12年	9月26日 曇	
1841年	11月10日	天保12年	9月27日 曇	今暁丑の刻頃小雨降 即刻止 今日雪少し降
1841年	11月11日	天保12年	9月28日 曇	午の刻過小雨降 夜入同断 (人事異動)
1841年	11月12日	天保12年	9月29日 曇	昨夜よりの小雨今日二及時々降 酉の刻過止
1841年	11月13日	天保12年	10月1日 曇	昨夜雪降り 一寸ほとつもる 今日雪少しふる (初雪御機嫌伺い)
1841年	11月14日	天保12年	10月2日 曇	昨夜の雪少し降 今日雪少し降 (西坂御門柱根朽入に付……)
1841年	11月15日	天保12年	10月3日 曇	
1841年	11月16日	天保12年	10月4日 晴	酉の刻より雨時々降 亥の刻過止 戌の刻頃雷鳴 即刻やむ
1841年	11月17日	天保12年	10月5日 晴	
1841年	11月18日	天保12年	10月6日 曇	今暁寅の刻より雲ふり未の刻過より風雨強し 亥の刻過やむ 雨亥の刻過やむ
1841年	11月19日	天保12年	10月7日 晴	(御容赦になり遠慮となっているが御家中が金を貸している)
1841年	11月20日	天保12年	10月8日 快晴	
1841年	11月21日	天保12年	10月9日 晴	戌の刻過より雨時々降 (盗み木の男に過料錢1貫文、当7月16日夜唐牛村で石川村と碓ヶ関町の者共が喧嘩・双方に手傷、山の伐り荒しに取上げの上御過料)
1841年	11月22日	天保12年	10月10日 曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 今日雪少し降 (無刻印の木を持っていて過料関係者にも)
1841年	11月23日	天保12年	10月11日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (一昨亥の年利足(利息)月3歩より高利を申し受けず候様御れだし仰せ付けられ候得共今に相止申さず……、……際限なく米価下落……)
1841年	11月24日	天保12年	10月12日 曇	今暁丑の刻過より小雨時々降 巳の刻過止 今日霰少し降 (御廻米もなく過分の出金の津輕屋に御手当て20兩下し置かれる)
1841年	11月25日	天保12年	10月13日 曇	今日雪少しふる (金500兩と山吹銀目形1貫100目を25日付で江戸のぼり、博打盗みの男に3鞭弘前御構い、5月に刑法を行われ又盗みの男に3鞭弘前町御構い・3鞭と7里四方追放)
1841年	11月26日	天保12年	10月14日 晴	昨夜雪少し降 (去月28日江戸で本所の道普請を申し付けられている)
1841年	11月27日	天保12年	10月15日 曇	昨夜雪降 二寸程積る 今日雪ふり 二寸ほと積る (酒造屋1軒につき250俵宛御貸付、頬冠りするなどのお触れ)
1841年	11月28日	天保12年	10月16日 曇	巳の刻頃小雨ふる 則刻やむ
1841年	11月29日	天保12年	10月17日 曇	辰の刻過ぎ小雨ふる 即刻やむ (屋形様御不例に付が続いている、両濱より津出物当10月より御印定:小豆1俵御役5文目・味噌2斗入り1樽3文目・醬油同1文目5分・酒同2文目・酢同1文目)
1841年	11月30日	天保12年	10月18日 曇	酉の刻過より小雨時々ふる 下から続く 7月10日上総沖で難船・御米穀荷打ちの上房州館山湊に入津・去月14日品川沖に入津)
1841年	12月1日	天保12年	10月19日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過やむ 午の刻過より小雨時々ふる 夜に入同断 (米價格別下値に付諸上納錢を米納にとの申し出・米1俵20目立に付上納させる、当御廻船遠州船が 上に続く
1841年	12月2日	天保12年	10月20日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々ふる 戌の刻やむ
1841年	12月3日	天保12年	10月21日 曇	今日雪ふる 五寸程積る
1841年	12月4日	天保12年	10月22日 曇	昨夜雪ふる 八寸程積る 今日雪少しふり (流木隠し揚げの数人に過料流木御取上げ・庄屋)にも罰
1841年	12月5日	天保12年	10月23日 曇	
1841年	12月6日	天保12年	10月24日 晴	申の刻過より時々雨ふり 夜に入り同断 (人事異動、当月5日より19日まで日々新穀附け相場平均値段は米1俵代21文目8分7厘)
1841年	12月7日	天保12年	10月25日 曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過やむ (仙台中吉田某が千葉平弥に砲術伝授相済み帰國に付銀子10枚相送る)
1841年	12月8日	天保12年	10月26日 曇	
1841年	12月9日	天保12年	10月27日 曇	今暁子の刻頃より小雨時々降 辰の刻過止 (昨今年熟作には候得共……当新穀渡しより平均3歩引き御借上げ……)
1841年	12月10日	天保12年	10月28日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪少しふり (人事異動)
1841年	12月11日	天保12年	10月29日 曇	昨夜雪少しふり 戌の刻過より小雨時々ふり 下から続く 公儀から厳しい俵約を仰せ出される:天保の改革か、浪岡藤崎等の御蔵米15000俵を青森などに濱下げしている)
1841年	12月12日	天保12年	10月30日 曇	昨夜よりの雨今日におよふ 辰の刻止 今日雪少し降 下から続く 御定法を以って割合の処1升到付き4文目6分8厘に相当・1升を4文目7分1合売りは4分4文に申し付ける、 上に続く
1841年	12月13日	天保12年	11月1日 曇	今日雪ふり 三寸程積 (人事異動、荏油値段定の儀は例年9月15日より10月15日まで売出し平均の上値段定の処当年は売出し不足で9月20日より10月20日まで売出し平均の上 上に続く
1841年	12月14日	天保12年	11月2日 曇	昨夜雪吹強し 雪一寸程積 今日雪吹強し 雪二寸程積 (去月晦日夜金木御蔵が残らず焼失、去月晦日夜赤田組小幡村で百姓家稲草等焼失)
1841年	12月15日	天保12年	11月3日 曇	今日雪少しふり
1841年	12月16日	天保12年	11月4日 曇	今日雪少しふり (当御収納米の内より御貯糶20000俵を亀甲御蔵に上納を仰せ付ける)
1841年	12月17日	天保12年	11月5日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪降 二寸程積
1841年	12月18日	天保12年	11月6日 晴	昨夜雪少しふり
1841年	12月19日	天保12年	11月7日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪少しふり (御蔵米3蔵平均1俵に付23文目4分7厘(弘前21文目1分・青森25文目7分5厘6毛・鰯ヶ沢23文目5分5厘5毛)内1文目2分が御定め役・差引22文目2分7厘)
1841年	12月20日	天保12年	11月8日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少しふり (御家中に石高別に味噌・篠巻味噌(意味不明)を貸渡している、金木御蔵の焼失米2246俵余、青森御蔵米2500俵を1俵25文目立にて御払い・扱い料5分)
1841年	12月21日	天保12年	11月9日 晴	(盗みで度々湯屋入りの男が懲りないので当分の内入牢、繁勤の役職ごとに流木貸し渡し)
1841年	12月22日	天保12年	11月10日 曇	今日雪少しふり (去る5日夕七時頃より6日朝五時頃まで十三湊大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る)
1841年	12月23日	天保12年	11月11日 晴	昨夜雪ふり 三寸程積
1841年	12月24日	天保12年	11月12日 曇	昨夜雪ふり 二寸程積 今日雪降 六寸程積
1841年	12月25日	天保12年	11月13日 晴	昨夜雪少しふり (今別町には田畑一切なし・毎年300俵宛御払い米・当年分は青森御蔵より1俵23文目で御払い申付ける)
1841年	12月26日	天保12年	11月14日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 申の刻過地震少々 (山吹銀目方1貫300目明日登す)
1841年	12月27日	天保12年	11月15日 晴	昨夜雪少し降 (御献上齋高覧)
1841年	12月28日	天保12年	11月16日 晴	昨夜雪少しふり (借金は多く米値段が下がり苦労している)
1841年	12月29日	天保12年	11月17日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪少し降
1841年	12月30日	天保12年	11月18日 晴	(鰯ヶ沢差継御印付米1俵23文目5分5厘で御払い)
1841年	12月31日	天保12年	11月19日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 四寸程積 (去る16日屋尾崎組石郷村で高無出火・居宅等焼失、青森御蔵米御印付米1俵24文目又は24匁5分立)

1842年	1月1日	天保12年	11月20日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少しふ里 (去る16日屋尾崎組石郷村で高無出火・居宅等焼失、青森御蔵米御印付米1俵24文目又は24匁5分立)
1842年	1月2日	天保12年	11月21日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積 (本多東作を馬廻組頭格に等の人事異動、去る16日屋尾崎組石郷村で高無出火・居宅等焼失、青森御蔵米御印付米1俵24文目又は24匁5分立)
1842年	1月3日	天保12年	11月22日	晴	昨夜雪降 五寸程積
1842年	1月4日	天保12年	11月23日	曇	昨夜雪ふり 三寸程積 今日雪少しふ里
1842年	1月5日	天保12年	11月24日	曇	今日雪降 一寸程積 (当年10月より来年9月までの湊口出御役銭:白酒2斗入り1樽2文目・糶4斗入り1俵4文目)
1842年	1月6日	天保12年	11月25日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積
1842年	1月7日	天保12年	11月26日	晴	
1842年	1月8日	天保12年	11月27日	曇	昨夜雪少しふ里 今日雪少しふ里 (御献上鱈高覧、去る16日青森湊の松前船で越後の水主が病死)
1842年	1月9日	天保12年	11月28日	晴	
1842年	1月10日	天保12年	11月29日	曇	今日雪少しふ里 (当6月2日夜北御丸御菜園に忍び入り鉢植え盗み取った男を300日の牢居・その後鞭かな?、隠宿の7人を戸ノ20日・この名主共五軒組合の者共に戸ノ5日)
1842年	1月11日	天保12年	11月30日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積
1842年	1月12日	天保12年	12月1日	晴	昨夜雪ふる 三寸ほとつもる 今日雪少々ふる (人事異動、去月13日赤石組大然村で高無出火・建家等焼失馬1疋焼斃)
1842年	1月13日	天保12年	12月2日	晴	(町に預けていた盗み徒の男が雪隠で縊死)
1842年	1月14日	天保12年	12月3日	晴	(去る10月26日夜中泉村の土蔵に忍び入り金品を盗み取った男に30鞭10里四方追放大場御構い・この仲間を碇ヶ関送り返し)
1842年	1月15日	天保12年	12月4日	曇	下から続く 不動尊御出汗・御神楽を仰せ付け五山に御祈禱を仰せ付ける、今日蔵館高伯寺大日尊が御出汗・金100疋渡し方の上御祈禱を仰せ付ける、明日の御仕置き用の人数等あり)
1842年	1月16日	天保12年	12月5日	曇	今晚寅の刻頃より小雨時々ふる 午の刻頃やむ (今5日巳之中刻下居宮御惣鉢御出汗・下居宮で御神楽大堂で重き御祈禱を仰せ付け五山にも御祈禱を仰せ付ける、今日古懸 上に続く
1842年	1月17日	天保12年	12月6日	曇	今日雪ふる 二寸ほと積る 今日雪吹強し (去る子年11月16日に兄を殺害し自害と申し立てた馬屋付小人を町中引き回し取上御仕置場で刎首獄門)
1842年	1月18日	天保12年	12月7日	曇	昨夜雪ふる 二寸ほと積る 今日雪少し婦る
1842年	1月19日	天保12年	12月8日	曇	昨夜雪少しふる 今日雪少しふる
1842年	1月20日	天保12年	12月9日	晴	(大組3組御預御鉄砲150挺の内80挺並びに其の外御道具痛損……)
1842年	1月21日	天保12年	12月10日	快晴	
1842年	1月22日	天保12年	12月11日	晴	(津軽多録を馬廻組頭に等の人事異動)
1842年	1月23日	天保12年	12月12日	曇	今日雪少しふる
1842年	1月24日	天保12年	12月13日	晴	今日雪少しふる
1842年	1月25日	天保12年	12月14日	曇	
1842年	1月26日	天保12年	12月15日	曇	昨夜雪降 二寸程つもる 今日雪 一寸程積
1842年	1月27日	天保12年	12月16日	曇	今日雪少し婦る
1842年	1月28日	天保12年	12月17日	曇	今日雪少し婦る
1842年	1月29日	天保12年	12月18日	曇	昨夜雪 五寸程積る 今日雪降り 五寸ほと積る
1842年	1月30日	天保12年	12月19日	曇	昨夜雪ふり 一尺三寸程積 今日巳の刻過地震少し 今日雪ふる 二寸程積る
1842年	1月31日	天保12年	12月20日	曇	(杉山源吾を留守居組頭・堀五郎左衛門を用人兼帯に等の人事異動)
1842年	2月1日	天保12年	12月21日	晴	
1842年	2月2日	天保12年	12月22日	曇	昨夜雪ふる 二寸ほと積る 下から続く 役下げ、謀印手形使用の御家中の身上召上げ永の暇)
1842年	2月3日	天保12年	12月23日	晴	昨夜雪ふり 三寸ほと積る (去々月晦日油川で隠し米を手形なしに通った男に3鞭米は御取上げ他の品物お返し・類似もある、検地の際に不正をした検地人を御目見以下に 上に続く
1842年	2月4日	天保12年	12月24日	晴	(人事異動、麿田畑の仕付増を仰せ付けられている)
1842年	2月5日	天保12年	12月25日	晴	
1842年	2月6日	天保12年	12月26日	晴	(去る11月21日朝五十石町で盗みの男に3鞭弘前御構い、親の了承を得ずに隠れていた娘?に9鞭親引渡し) 下から続く 御免等の人事異動、御手当(銀2両・5両・9両・鳥目等)
1842年	2月7日	天保12年	12月27日	曇	昨夜雪ふり 一寸ほとつもる 今晚寅の刻頃小雨ふり 即刻やむ 今日雪吹強く雪一寸ほとつもる (堀五郎左衛門を加判の列に・山上才助等の御省略中の勤料引上げ在勤 上に続く
1842年	2月8日	天保12年	12月28日	曇	今日雪ふり 一寸ほとつもる (人事異動、当造酒値段酒1升1文目1分4厘に相当・1升売りは1文目1分5厘1合売りは1文8文充てに仰せ付ける)
1842年	2月9日	天保12年	12月29日	曇	昨夜雪吹強 雪三寸ほとつもる (質素を重ねて仰せ出されている)
1842年	2月10日	天保13年正月1日		曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1842年	2月11日	天保13年正月2日		晴	
1842年	2月12日	天保13年正月3日		曇	昨夜雪少し降 辰の刻過より雨時々降 午の刻過止 今日雪少し降 (御吉例金200両を御金奉行が差出す、今晚御謡初)
1842年	2月13日	天保13年正月4日		曇	(恒例の通り大鰐村加賀助より七草(昔は七種と書いていたような気がする)差上げる)
1842年	2月14日	天保13年正月5日		晴	
1842年	2月15日	天保13年正月6日		曇	
1842年	2月16日	天保13年正月7日		曇	昨夜風強し (七種の御祝儀、旧臘28日暮れ前より鰯ヶ沢町で大時化・前戸川の橋柱が抜け上がる・浜御蔵等破損)
1842年	2月17日	天保13年正月8日		曇	巳の刻過より小雨時々降 亥の刻過止
1842年	2月18日	天保13年正月9日		曇	
1842年	2月19日	天保13年正月10日		晴	今日雪少し降
1842年	2月20日	天保13年正月11日		曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (人事異動)
1842年	2月21日	天保13年正月12日		晴	
1842年	2月22日	天保13年正月13日		晴	(去る24日暁分知津軽出雲守居屋敷長屋より出火、昨26日江戸の杉山等3人が不動として役下げ・去る23日御徒目付外崎某が過酒御秘事相漏らし等で御留守居支配に役下げ)
1842年	2月23日	天保13年正月14日		晴	
1842年	2月24日	天保13年正月15日		晴	(人事異動)
1842年	2月25日	天保13年正月16日		晴	
1842年	2月26日	天保13年正月17日		晴	
1842年	2月27日	天保13年正月18日		曇	今晚丑の刻過より雨時々降 卯の刻過止 午の刻頃小雨降 則刻止
1842年	2月28日	天保13年正月19日		曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降

1842年	3月1日	天保13年正月20日	曇	申の刻過より雨時々降 夜に入同断
1842年	3月2日	天保13年正月21日	曇	昨夜よりの雨今日におよひ辰之刻頃止 今日雪少し降
1842年	3月3日	天保13年正月22日	快晴	(青森御蔵米22文目5分立で2500俵御払い申付ける)
1842年	3月4日	天保13年正月23日	晴	(表右筆に山上良蔵あり)
1842年	3月5日	天保13年正月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (大間越町で羽州の男病死・身寄りの者なく不届き物につき追放したもので持っていた錢を庵主に使わす、衣類を盗んだ男を揚屋入り)
1842年	3月6日	天保13年正月25日	晴	
1842年	3月7日	天保13年正月26日	曇	今日雪少し降
1842年	3月8日	天保13年正月27日	晴	昨夜雪少し降
1842年	3月9日	天保13年正月28日	晴	(難並びにもてあそひ人形之類八寸已上(以上)無用たるべく候右以下之分者(は)……等と質素を申渡している)
1842年	3月10日	天保13年正月29日	曇	今日雪少し降 (御賞)
1842年	3月11日	天保13年正月30日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御賞、当年の御賞渡し味噌値段:錢10文目に付き9貫70目渡し)
1842年	3月12日	天保13年 2月1日	晴	(山上才助等4人の勤料御引上げ等に関連して当番も御免)
1842年	3月13日	天保13年 2月2日	晴	
1842年	3月14日	天保13年 2月3日	晴	(金木組長泥村は年々水湛・廃田等がある村々に移りたいとの申し出・これを認め庄屋に錢100目御米3俵その他5人にも御錢100目宛御米2俵宛下し置かれる)
1842年	3月15日	天保13年 2月4日	曇	(赤石組の男が山の杉10本の伐り出し願ひ・小杉100本植えることで認める)
1842年	3月16日	天保13年 2月5日	曇	昨夜戌之刻過小雨降 則刻止
1842年	3月17日	天保13年 2月6日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 未之刻頃地震少々
1842年	3月18日	天保13年 2月7日	晴	昨夜雪少々降
1842年	3月19日	天保13年 2月8日	晴	
1842年	3月20日	天保13年 2月9日	晴	
1842年	3月21日	天保13年 2月10日	晴	
1842年	3月22日	天保13年 2月11日	快晴	
1842年	3月23日	天保13年 2月12日	快晴	
1842年	3月24日	天保13年 2月13日	快晴	
1842年	3月25日	天保13年 2月14日	快晴	
1842年	3月26日	天保13年 2月15日	曇	今日雪少々降
1842年	3月27日	天保13年 2月16日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積
1842年	3月28日	天保13年 2月17日	晴	
1842年	3月29日	天保13年 2月18日	晴	今暁子刻頃より小雨時々降 寅の刻過止 (御賞、国吉村の男から杉150本?伐り取り願ひ・相当する苗を植付ける条件で許す・類似がもっとある)
1842年	3月30日	天保13年 2月19日	快晴	(去る16日夜大鰐根吹上村で出火・居宅等焼失、この節諸国とも米価引上げ候様子相聞こえ候・御印代1俵5文目だったものを6文目立に(当面?)申付ける)
1842年	3月31日	天保13年 2月20日	曇	
1842年	4月1日	天保13年 2月21日	晴	
1842年	4月2日	天保13年 2月22日	曇	今日未之刻過小雨降 則刻止 (大豆津出御印代を御米御印同様に1俵5文目を7文目立に申付ける) 下から続く 朝まで残らず氷明ける・去年に比較して1日早く節に引合13日早い)
1842年	4月3日	天保13年 2月23日	曇	下から続く 前後共残らず明け・船舶通路相成る、郡奉行の報告では当月17日暮より18日朝までに十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず明ける・昨年は2月18日より19日 上に続く
1842年	4月4日	天保13年 2月24日	曇	昨夜申之刻過より小雨時々降 夜二入同断 昨夜より之雨今日二及 辰之刻頃止 今日小雨時々降 未之刻過止 (十三町奉行の報告では去る18日朝迄十三湯の氷十三町の 上に続く
1842年	4月5日	天保13年 2月25日	曇	今日小雨時々降 (不通の駒越渡場が長船馬船とも通路相成る、山吹銀1貫目を明日立ちの町飛脚(少なくとも公用では初出?)で江戸に登す、両浜津出御印1俵6文目を7文目立に申付ける)
1842年	4月6日	天保13年 2月26日	晴	
1842年	4月7日	天保13年 2月27日	曇	
1842年	4月8日	天保13年 2月28日	曇	酉の刻頃より小雨時々降 (人事異動)
1842年	4月9日	天保13年 2月29日	曇	昨夜より之小雨今日二及 巳之刻過止
1842年	4月10日	天保13年 2月30日	曇	辰之刻頃より小雨時々降 (金木組長泥村の廃村のことが書いてある)
1842年	4月11日	天保13年 3月1日	曇	
1842年	4月12日	天保13年 3月2日	快晴	(5人の町民に10人扶持で御用達に、御発駕入用金4000両としている・御用達等から上納させる?)
1842年	4月13日	天保13年 3月3日	快晴	
1842年	4月14日	天保13年 3月4日	快晴	
1842年	4月15日	天保13年 3月5日	快晴	
1842年	4月16日	天保13年 3月6日	晴	(今日剣術高覧)
1842年	4月17日	天保13年 3月7日	晴	(今6日昼九時頃鰻ヶ沢町富根町木戸外乞食小屋で出火・御蔵2ヶ所とも焼失)
1842年	4月18日	天保13年 3月8日	曇	卯の刻過より小雨時々降 (岩木川出水・両船とも往来差留める。去る5日の夜大光寺村の高無が出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け、三ノ丸掃除門通北東方土居……(御門でなくなんだ))
1842年	4月19日	天保13年 3月9日	晴	(今日剣術高覧)
1842年	4月20日	天保13年 3月10日	晴	(木・切株が見つかり木品御取上げ・関係者に過料又は御用捨)
1842年	4月21日	天保13年 3月11日	晴	(6日昼の鰻ヶ沢町の出火は野火より乞食小屋に移ったもの、参勤の服装などの定めが書いてある、法立寺に禁足)
1842年	4月22日	天保13年 3月12日	曇	今暁寅の刻過より小雨時々降 辰の刻頃止 (一昨10日柏木組松倉村で高無出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け、文政8年には銀1枚を(江戸銀)43文目で渡した・御国銀で渡すよう申付ける)
1842年	4月23日	天保13年 3月13日	晴	(所々14ヶ所で盗み徒の男に15・9・6・3・鞭弘前御構い等と累犯の2人乞食手下に、隠し米輸送の男3人の馬等を御取り上げの上6鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)
1842年	4月24日	天保13年 3月14日	快晴	
1842年	4月25日	天保13年 3月15日	快晴	(去る13日暮頃常盤組十川村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け)
1842年	4月26日	天保13年 3月16日	快晴	(この度富田御屋敷御茶屋並びに常盤山とも御取壊し仰せ付けられる・その後の有効利用計画もある)
1842年	4月27日	天保13年 3月17日	晴	
1842年	4月28日	天保13年 3月18日	曇	午の刻過より小雨降 (堀五郎左衛門を家老職手伝い城代格・森岡金吾を手廻組頭用人兼帯・貴田十郎左衛門を大目付に等の人事異動)
1842年	4月29日	天保13年 3月19日	快晴	
1842年	4月30日	天保13年 3月20日	晴	(今日付け即日立ちの道中7日振りの飛脚足輕兩人差し立てる?)

1842年	5月1日	天保13年	3月21日 快晴 (今日剣術高覧を齒痛で延引)
1842年	5月2日	天保13年	3月22日 曇 午の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (去る19日油川組淹村で出火・仮住居中の外馬屋等焼失、鰐ヶ沢御蔵焼失残り米上が3035俵中が2301俵・上1俵を22文目・中1俵10文目5分で御払い)
1842年	5月3日	天保13年	3月23日 晴
1842年	5月4日	天保13年	3月24日 快晴
1842年	5月5日	天保13年	3月25日 快晴
1842年	5月6日	天保13年	3月26日 快晴 (御発駕日限来月13日と仰せ付けられる)
1842年	5月7日	天保13年	3月27日 曇 巳の刻頃より小雨時々ふ里 酉の刻過止 (津出御印20000俵で1俵につき5分充ての扱料であれば1000兩らしいのだ)
1842年	5月8日	天保13年	3月28日 曇 今暁子の刻頃より雨降 寅の刻過止 辰の刻過小雨ふ里 即刻止
1842年	5月9日	天保13年	3月29日 快晴
1842年	5月10日	天保13年	4月1日 曇 (人事異動)
1842年	5月11日	天保13年	4月2日 快晴 (当年駒越組川原平村獵師孫六が熊6疋狩取り上納・鳥目6貫文を格段の御沙汰で7貫文下し置かれ下々位の熊皮2枚を下し置かれる)
1842年	5月12日	天保13年	4月3日 晴 (昨夜五ツ時過ぎ御家中宅で出火・居宅焼失)
1842年	5月13日	天保13年	4月4日 晴 (刻印のない木・雪船を御取上げ入札払いとし関係者に戸へ)
1842年	5月14日	天保13年	4月5日 曇 今日午の刻過より雨降 夜に入戌の刻過止
1842年	5月15日	天保13年	4月6日 晴 (盗み伐りの木を取り押さえ過料(雑木18棚で過料錢540目・同13棚に390目・40駄に過料錢120目))
1842年	5月16日	天保13年	4月7日 晴 (尾崎組町居村領本免田方の1町15歩の場所土地宜しからず且油荒地通りにて年々御検地御検見に……)
1842年	5月17日	天保13年	4月8日 曇 午の刻過より雨降 戌の刻過止
1842年	5月18日	天保13年	4月9日 曇 午の刻頃より雷雨 雷申の刻頃止 雨時々ふ里寅の刻過止
1842年	5月19日	天保13年	4月10日 晴 (御郡内馬牛・馬21844疋(駒9169・駄12675)・牛447疋(牡256・牝191)・黒石領馬750疋・同平内馬564疋・同牛17疋・他に村々父馬67疋・御家中役馬稽古馬51疋)
1842年	5月20日	天保13年	4月11日 快晴 (足立某を馬廻組頭に等の多数の人事異動、佐藤栄吉倅弓太郎等24人を今日御目見) 下から続く 当年船払底につき御廻船雇いが難しいらしい)
1842年	5月21日	天保13年	4月12日 曇 午の刻頃より雨ふ里申の刻過止 (御用人中退出懸中之口より御玄關前それより外南御門外まで御掃除見分、(多分隠居したものを再任用等の)人事異動、芝居札料1人前4分、 上に続く
1842年	5月22日	天保13年	4月13日 快晴 (四時過ぎ御発駕)
1842年	5月23日	天保13年	4月14日 曇
1842年	5月24日	天保13年	4月15日 曇 卯の刻頃より雨時々ふ里午の刻過止 申の刻頃小雨ふ里即刻止 (人事異動)
1842年	5月25日	天保13年	4月16日 晴 今暁寅の刻過より小雨降 卯の刻過止 (田中勝衛の川原平村における牢居御免・倅宅で蟄居)
1842年	5月26日	天保13年	4月17日 快晴
1842年	5月27日	天保13年	4月18日 曇
1842年	5月28日	天保13年	4月19日 曇 未の刻頃小雨ふ里則刻止
1842年	5月29日	天保13年	4月20日 快晴
1842年	5月30日	天保13年	4月21日 快晴 (木の盗伐・御取上げ過料)
1842年	5月31日	天保13年	4月22日 曇 巳の刻過より小雨時々ふ里夜に入同断 (木の盗伐・御取上げ過料)
1842年	6月1日	天保13年	4月23日 晴 昨夜よりの小雨今日に及び卯の刻過止 (盗み博打男に3鞭弘前御構い・博打のみにには過料)
1842年	6月2日	天保13年	4月24日 晴 (人事異動)
1842年	6月3日	天保13年	4月25日 曇
1842年	6月4日	天保13年	4月26日 曇 午の刻過ぎ小雨ふ里 即刻止
1842年	6月5日	天保13年	4月27日 曇
1842年	6月6日	天保13年	4月28日 晴
1842年	6月7日	天保13年	4月29日 曇 午の刻頃より小雨時々降 申の刻過止 酉の刻頃より雨時々ふ里
1842年	6月8日	天保13年	4月30日 曇 昨夜よりの雨今日に及び 夜に入同断
1842年	6月9日	天保13年	5月1日 曇 昨夜よりの雨今日 及二時々降 辰の刻過止 (高杉友衛を御持筒頭に等の人事異動)
1842年	6月10日	天保13年	5月2日 曇 巳の刻頃小雨降 則刻止 (丹後者詮議・送り返しの触れ、御貸し渡し味噌錢10文目代に付9貫に申付ける)
1842年	6月11日	天保13年	5月3日 晴 午の刻過急雨降 則刻止
1842年	6月12日	天保13年	5月4日 快晴
1842年	6月13日	天保13年	5月5日 曇 午の刻頃小雨降 即刻止
1842年	6月14日	天保13年	5月6日 快晴 (御米350石を積んで去月晦日鰐ヶ沢を出帆の船が同夜男鹿沖で破船亀田御領上新谷村に流れ寄せる)
1842年	6月15日	天保13年	5月7日 曇 午の刻頃より小雨時々降 申の刻過止
1842年	6月16日	天保13年	5月8日 曇 (常盤山表御門を亀甲御蔵御門大破の修理に)
1842年	6月17日	天保13年	5月9日 快晴
1842年	6月18日	天保13年	5月10日 快晴
1842年	6月19日	天保13年	5月11日 晴
1842年	6月20日	天保13年	5月12日 晴 (去月晦日月屋村領沖合いで深浦船が破船・4人中3人海死)
1842年	6月21日	天保13年	5月13日 曇 卯の刻過地震少 辰の刻過小雨降 即刻止 午の刻頃子雨降 則刻止 申の刻頃雷雨 雷則止 雨時々降 夜二入り同断
1842年	6月22日	天保13年	5月14日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 巳の刻過より小雨降 戌の刻過止 (去月晦日屋形様が御老中様方御廻勤遊ばされ午の下刻御着府)
1842年	6月23日	天保13年	5月15日 晴 酉の刻頃より雨時々降
1842年	6月24日	天保13年	5月16日 曇 昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 (松前への出稼ぎ1人から御役錢2文目充て取り立てることとする)
1842年	6月25日	天保13年	5月17日 曇 午の刻頃地震少 午の刻過ぎ小雨時々降 夜二入同断 (附木屋共が硫黄90俵取出し方申し出る・武具蔵御用分と師範家入用分共都合95貫目を附木屋共手をもって取り出させる)
1842年	6月26日	天保13年	5月18日 曇 昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 午の刻過より小雨降 未の刻頃止 (御家中渡し御買米1俵24文目立だったが21文目4分立に申付ける、米大豆の津出御印代1俵7文目を文目立にする)
1842年	6月27日	天保13年	5月19日 曇 今暁寅の刻頃地震少
1842年	6月28日	天保13年	5月20日 曇 今暁卯の刻過より雷雨 則刻止 雨辰の刻過止 巳の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (無刻印の木を使った鍛台91挺・鋤台4挺を売員の商人4人から御取上げ入札払い・それぞれ戸へ)
1842年	6月29日	天保13年	5月21日 曇 (大阪御廻船が出来嶋沖で破船・筒子坂村前浜で越中船が破船・ともに乗員無事)
1842年	6月30日	天保13年	5月22日 曇 (出雲守様の帰国の行列・御家中37人通雇い33人乗馬1疋)

1842年	7月1日	天保13年	5月23日 晴	(杉を18本盗伐一部売払いの男に3鞭居村徘徊はまで通り・この無刻印の木を買った男に過料1貫200文木品御取上げ)
1842年	7月2日	天保13年	5月24日 晴	(人事異動、西坂御門柱根継(ねつぎ:腐った柱の交換工事?)仰せ付けられ……)
1842年	7月3日	天保13年	5月25日 快晴	(尾崎組広船村と唐竹村の山争いに一応の決着、当年は諸国の廻船が私底・御雇船都合できかねる、当月7日にしけで大坂への1350石積の御雇船が出羽庄内沖合いで破船)
1842年	7月4日	天保13年	5月26日 晴	午の刻過地震少し
1842年	7月5日	天保13年	5月27日 曇	酉の刻過より小雨時々降 夜に入同断 (当月6日御留守居支配三上某が浦町組小館村の男に手傷・在方の者共不屈きとして無罪、夜宮の節の花火等取扱の触れ)
1842年	7月6日	天保13年	5月28日 曇	昨夜よりの小雨今日ニ及 時々降 午の刻頃止 (藤代組手代に山上丹次郎、米積取船が男鹿沖合いで破船の上亀田御領新屋村に漂着(既報かも))
1842年	7月7日	天保13年	5月29日 曇	今暁寅の刻過ぎ東風時々 夜二入同断
1842年	7月8日	天保13年	6月1日 曇	昨夜よりの東風今暁卯の刻止 申の刻頃雨降 夜に入り同断 (御小納戸山御止の上元主に御返し・当年より御役錢上納・入合で揉めて御小納戸山にした乳井薬師堂の場合は……)
1842年	7月9日	天保13年	6月2日 曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 (当春より諸勧進の者多く入込む・各関の町奉行に丹後者以外茂吟味を申遣わず、去月24日四番江戸御廻船1950石積が青森出帆、米屋に米1000俵貸し出す)
1842年	7月10日	天保13年	6月3日 曇	巳の刻頃より小雨時々ふり申の刻頃やむ
1842年	7月11日	天保13年	6月4日 曇	辰の刻頃より雨ふり 未の刻過止 午の刻過雷鳴 即刻止 (青田の内笛吹くなどの触れ、松前表の工藤忠兵衛に一粒金丹5粒下し置かれる)
1842年	7月12日	天保13年	6月5日 曇	卯の刻過より雨降 巳乃刻過止 (長勝寺御位牌所より御位牌盗み出した僧侶の弟子達3人を吟味中揚屋入り、五山に日和揚御祈祷を仰せ付ける)
1842年	7月13日	天保13年	6月6日 曇	
1842年	7月14日	天保13年	6月7日 曇	午の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (当年両都廻米:江戸表江30000石(定例廻米高53342石)大阪表江26400石(定例廻米高37250石))
1842年	7月15日	天保13年	6月8日 曇	昨夜よりの小雨今暁寅乃刻頃止 巳の刻過より小雨ふり酉の刻頃止 (去月23日青森出帆の江戸御廻船が27日に御米1500俵余荷打ち・当月4日南部領鮫浦に入津・勘定小頭等派遣)
1842年	7月16日	天保13年	6月9日 晴	
1842年	7月17日	天保13年	6月10日 晴	
1842年	7月18日	天保13年	6月11日 曇	(多田郡作が先祖の名三左衛門と改名、去月晦日深浦湊領月谷村沖合で松前船破船・4人中3人海死)
1842年	7月19日	天保13年	6月12日 曇	午の刻頃雨降 即刻やむ
1842年	7月20日	天保13年	6月13日 晴	
1842年	7月21日	天保13年	6月14日 曇	未の刻過より雨ふり 夜に入同断 (打擲死に至らしめた青森の男が出奔・人相書きを持って御詮議)
1842年	7月22日	天保13年	6月15日 晴	昨夜よりの雨今暁寅乃刻止 (山上弥兵衛(肩書きなし)が昨夜病死)
1842年	7月23日	天保13年	6月16日 曇	
1842年	7月24日	天保13年	6月17日 晴	
1842年	7月25日	天保13年	6月18日 晴	申乃刻過地震少し
1842年	7月26日	天保13年	6月19日 曇	卯の刻頃より雨時々ふり酉の刻過止
1842年	7月27日	天保13年	6月20日 晴	(揚屋入りの者共飯料並びに諸雑用一式是迄御元より立替渡之处此度御止之上在町にて引き受け差出方仰せ付けられる)
1842年	7月28日	天保13年	6月21日 快晴	
1842年	7月29日	天保13年	6月22日 晴	(彌婦た(ねぶた)の喧嘩等の禁令)
1842年	7月30日	天保13年	6月23日 晴	
1842年	7月31日	天保13年	6月24日 晴	
1842年	8月1日	天保13年	6月25日 晴	巳乃刻頃より東風強し 夜に入同断 (各組への御預鉄砲の多くが痛損)
1842年	8月2日	天保13年	6月26日 晴	昨夜よりの東風今日におよび申の刻過やむ
1842年	8月3日	天保13年	6月27日 快晴	(大鰐村加賀助が初穂差出す、6月14日記述の出奔人の人相書き:年齢26歳・せい5尺位・病後に髪ザン切(久しぶりの濁点)等々)
1842年	8月4日	天保13年	6月28日 晴	酉乃刻過小雨降 即刻止 下から続く 出火・類焼共23軒土蔵2ヶ所焼失・火元他村預け、他領者を入れない方策が書いてある)
1842年	8月5日	天保13年	6月29日 曇	辰の刻過雨降 即刻止 酉乃刻過小雨降 戌の刻過止 下から続く 水油1升に付き4文目8分5厘に相当・1合売りは5毛切捨て4分8厘に申付ける、昨29日暁赤石組舞戸村で 上に続く
1842年	8月6日	天保13年	7月1日 曇	(5月15日より6月15日までの売出菜種月相場日数30日御定平均之値段定め仰せ付けられ候得共当年は盛り時節後に御座候間5月26日より6月26日までで御定法を適用すると 上に続く
1842年	8月7日	天保13年	7月2日 曇	今日卯の刻頃より小雨降 辰の刻過止 午の刻頃より雷雨 雷即刻止 申の刻頃雨止
1842年	8月8日	天保13年	7月3日 曇	申の刻過小雨時々降る 夜に入同断 (昨2日朝大組足軽が妻を殺害自身も腹と咽に手傷、今日外北御堀に女水死・5日の記述で茂森町の日雇いの女房)
1842年	8月9日	天保13年	7月4日 曇	昨夜よりの小雨今暁寅の刻過止 卯の刻過より雨時々降 未の刻過止 酉の刻頃より小雨降 戌の刻過止 (頃日天気不正・四社に御祈祷を仰せ付ける)
1842年	8月10日	天保13年	7月5日 晴	
1842年	8月11日	天保13年	7月6日 曇	申の刻頃より雨降 即刻止
1842年	8月12日	天保13年	7月7日 晴	(野火を入れた28ヶ村の庄屋に過料600文充等・関係する五人組に50文充等)
1842年	8月13日	天保13年	7月8日 晴	
1842年	8月14日	天保13年	7月9日 晴	(杉山源吾等多数に繁勤として御手当て)
1842年	8月15日	天保13年	7月10日 快晴	
1842年	8月16日	天保13年	7月11日 晴	酉の刻過より雨時々ふり 夜に入同断 (御持筒足軽福眞文之助が病死・その子万次郎を金3歩2人扶持動料1歩で御持鍵中間に新規召抱え、菜種の津出御印代5斗入り1呎に付き8文目)
1842年	8月17日	天保13年	7月12日 曇	昨夜よりの雨今日に及時々降 巳の刻過止
1842年	8月18日	天保13年	7月13日 晴	
1842年	8月19日	天保13年	7月14日 晴	(先月29日舞戸村の火災の類焼23軒中10軒に御手当て御米1俵充)
1842年	8月20日	天保13年	7月15日 曇	午の刻過より雷雨時々強し 夜に入同断
1842年	8月21日	天保13年	7月16日 晴	昨夜よりの雷雨今暁丑の刻過止
1842年	8月22日	天保13年	7月17日 晴	
1842年	8月23日	天保13年	7月18日 晴	午の刻過むら雨降 頃日残暑強し
1842年	8月24日	天保13年	7月19日 曇	午の刻過より小雨時々降 夜に入同断 未の刻過雷鳴 即刻止
1842年	8月25日	天保13年	7月20日 曇	昨夜よりの小雨今日に及び時々降 丑の刻過止 申の刻過小雨ふり 即刻止 戌の刻過小雨降 即刻止 (御初米14俵差出す)
1842年	8月26日	天保13年	7月21日 晴	
1842年	8月27日	天保13年	7月22日 曇	午の刻過小雨降 即刻止 (在町の者共岩木山参詣の帰りに家に猿に入り込み大勢で踊りたてる)
1842年	8月28日	天保13年	7月23日 曇	午の刻過より小雨ふり 即刻止 (去年10月晦日失火の金木御蔵立会いに御手廻退役親婦し・御蔵奉行2人(多分御馬廻組)は御留守居組に役下げ)
1842年	8月29日	天保13年	7月24日 晴	
1842年	8月30日	天保13年	7月25日 曇	今暁卯の刻頃より小雨降 辰の刻頃止 巳の刻過より小雨時々ふり 未の刻過止 (証・木舞御貸渡:800石以上30000枚600本・50石俵子70俵金10両以上3000枚100本・等々)
1842年	8月31日	天保13年	7月26日 晴	

1842年	9月1日	天保13年	7月27日 晴	(去る7日鯉ヶ沢出帆の米760石を積んだ船が秋田領戸賀沖で破船米打ち捨て・勘定小頭等派遣)
1842年	9月2日	天保13年	7月28日 快晴	
1842年	9月3日	天保13年	7月29日 晴	
1842年	9月4日	天保13年	7月30日 快晴	
1842年	9月5日	天保13年	8月1日 快晴	(津出御印米1俵5文目大豆4文目小口御印は5分増に申付ける)
1842年	9月6日	天保13年	8月2日 快晴	(7月3日記述の足軽が死亡)
1842年	9月7日	天保13年	8月3日 快晴	
1842年	9月8日	天保13年	8月4日 快晴	(江戸で人事異動)
1842年	9月9日	天保13年	8月5日 快晴	
1842年	9月10日	天保13年	8月6日 晴	
1842年	9月11日	天保13年	8月7日 曇	巳の刻過より小雨時々ふり 夜に入同断
1842年	9月12日	天保13年	8月8日 曇	昨夜よりの小雨今日におよふ 時々ふり 夜に入同断 (去月17日大間越正道尻前浜に予州松山の船が破船)
1842年	9月13日	天保13年	8月9日 曇	昨夜よりの小雨今日二およひ時々ふり(曇 昨夜よりの小雨今日二およひ時々ふり)
1842年	9月14日	天保13年	8月10日 晴	(人事異動)
1842年	9月15日	天保13年	8月11日 晴	
1842年	9月16日	天保13年	8月12日 晴	下から続く 過より雨降夜に(変体仮名)入同断
1842年	9月17日	天保13年	8月13日 曇	卯の刻過より小雨ふり 則刻やむ 巳の刻頃より里小雨降 則刻やむ 申乃刻過より雨降 夜に入同断(曇 卯の刻過より小雨ふり則刻やむ巳の刻頃より里小雨降則刻やむ申乃刻 上に続く
1842年	9月18日	天保13年	8月14日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻過やむ 卯の刻過雷鳴 即刻止 辰の刻過小雨降り 即刻止 申の刻過雨時々ふり 戌の刻過止
1842年	9月19日	天保13年	8月15日 快晴	
1842年	9月20日	天保13年	8月16日 快晴	
1842年	9月21日	天保13年	8月17日 快晴	
1842年	9月22日	天保13年	8月18日 曇	
1842年	9月23日	天保13年	8月19日 曇	申の刻頃より小雨時々ふり 戌の刻過やむ (戸賀沖で破船し勘定小頭見分の結果:沈米取上げ高1061俵(積入れ1900俵中)内10歩1村方に差し遣わし残りの955俵を入札・1俵平均86文積)
1842年	9月24日	天保13年	8月20日 曇	午の刻過より雨降 未の刻過止
1842年	9月25日	天保13年	8月21日 晴	下から続く 大炊頭様からの御廻状之寫(異国船渡来の節……)あり
1842年	9月26日	天保13年	8月22日 曇	巳の刻過より小雨ふり 午乃刻過やむ (当5月高崎村の庵室に女2人連れ込み庵主と酒を飲んだ諸手足軽を御給分5俵召上げ御旗警護に役下げ、去る9日御到来の土井 上に続く
1842年	9月27日	天保13年	8月23日 曇	辰の刻過より小雨時々ふり申の刻頃やむ
1842年	9月28日	天保13年	8月24日 曇	
1842年	9月29日	天保13年	8月25日 晴	(御白砂御門番・武者屯御門番・中辻番人・内南・外南の5ヶ所は御系譜御通の節下座仕り候様尤麻上下着用仕るよう・御通りの節諸御門大扉開けるよう仰せ付けられる)
1842年	9月30日	天保13年	8月26日 晴	(去る10月に刑法を行われ立ち帰って博打の男に6鞭弘前御構い・関係者にも3鞭居町徘徊はまで通り等の罰、去る8月・5月に米1俵等盗みの男3人に3鞭弘前御構い)
1842年	10月1日	天保13年	8月27日 晴	
1842年	10月2日	天保13年	8月28日 曇	今晩丑の刻頃より雨降 亥の刻過止
1842年	10月3日	天保13年	8月29日 曇	戌の刻過より小雨時々ふり
1842年	10月4日	天保13年	9月1日 曇	昨夜よりの小雨今晚丑の刻頃止 申の刻過ぎより小雨ふり即刻止
1842年	10月5日	天保13年	9月2日 曇	(今日二之丸御宝蔵より御系譜差出す・御金蔵脇御門より菊の間御上段に差し置く)
1842年	10月6日	天保13年	9月3日 曇	卯の刻過より小雨ふり西の刻頃止 (御系譜差立つ)
1842年	10月7日	天保13年	9月4日 曇	未の刻過より里小雨ふり申の刻過止
1842年	10月8日	天保13年	9月5日 曇	申の刻頃より雨時々ふり夜に入同断
1842年	10月9日	天保13年	9月6日 曇	昨夜よりの雨今日に及び時々ふり 申の刻過止
1842年	10月10日	天保13年	9月7日 曇	卯の刻頃より小雨時々ふり 夜に入同断
1842年	10月11日	天保13年	9月8日 曇	昨夜より小雨時々ふり 今晩子の刻過止 午の刻頃より小雨ふり 即刻止
1842年	10月12日	天保13年	9月9日 曇	今晩子の刻過より雨ふり 寅の刻過止 雷雨 雷午の刻頃より未の刻頃止 雨申の刻過止
1842年	10月13日	天保13年	9月10日 曇	午の刻過小雨ふり即刻止 (御発駕御用等2000両を調達した御用達10人に御賞を下し置かれる)
1842年	10月14日	天保13年	9月11日 晴	
1842年	10月15日	天保13年	9月12日 晴	今晩子の刻頃より雨ふり 雷鳴即刻止 丑の刻頃雨止
1842年	10月16日	天保13年	9月13日 快晴	
1842年	10月17日	天保13年	9月14日 快晴	(諸国の神社仏閣に抜け参りが多いらしい・当人はもちろん村役五軒組合の者共まで……)
1842年	10月18日	天保13年	9月15日 快晴	
1842年	10月19日	天保13年	9月16日 曇	
1842年	10月20日	天保13年	9月17日 晴	今晩丑の刻過ぎより雨降 寅の刻過止
1842年	10月21日	天保13年	9月18日 快晴	今日岩木山に雪初めて見える(快晴 今日岩木山二雪初而見へ累) (衣類盗みの男を吟味中揚屋入り)
1842年	10月22日	天保13年	9月19日 晴	
1842年	10月23日	天保13年	9月20日 晴	亥の刻より雨ふり (良く分からないが去る冬茨城屋万太郎から借りた金が米10760石分?残っている・一部返したのかな?) 下から続く 等もこれから調べるらしい)
1842年	10月24日	天保13年	9月21日 晴	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 (異国船渡来の節取計方の儀この度御改め(先月22日記述?)に付海岸防御の備え人数増……鉄砲石火矢等の員数其の外……海岸の絵図浅深 上に続く
1842年	10月25日	天保13年	9月22日 晴	
1842年	10月26日	天保13年	9月23日 晴	(博打等の御留守居支配の御給分召上げ永の暇)
1842年	10月27日	天保13年	9月24日 曇	巳の刻頃より雨ふり 未の刻頃止 亥の刻頃より里小雨ふり
1842年	10月28日	天保13年	9月25日 晴	昨夜よりの雨今晚丑の刻頃止
1842年	10月29日	天保13年	9月26日 晴	(細工賽取扱の博打男に3鞭居町徘徊はまで通り・この仲間2人を弘前払い)
1842年	10月30日	天保13年	9月27日 曇	卯の刻過より雨時々ふり夜に入同断 酉の刻過雷鳴 即刻 亥の刻頃西南風強し
1842年	10月31日	天保13年	9月28日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 (異国船渡来の節取計い方の儀……備えの人数……鉄砲石火矢等の員数……台場遠見番所の類までこれから調べる、外南御門左右の土堀に白壁……)

1842年	11月1日	天保13年	9月29日 曇	申の刻過より雨降 戌の刻過止
1842年	11月2日	天保13年	9月30日 晴	(雨濱より津出物当10月より御印定め:小豆1俵御役4文目・糶1俵同断・味噌2斗入り1樽2文目5分・醬油1樽1文目・酒2斗入り1樽1文目5分・白酒2斗入り1樽2文目・酢2斗入り1樽1文目)
1842年	11月3日	天保13年	10月1日 晴	
1842年	11月4日	天保13年	10月2日 晴	(去年10月金銭貸借の高利を規制した・それでも高利を受取るものもあり・利息引き戻しの上……:最近のテレビ広告で弁護士がこんなことを請け負っているね)
1842年	11月5日	天保13年	10月3日 曇	今暁子の刻過より雨降 辰の刻頃止 申の刻過小雨降 即刻止 (新町橋下に捨子の死骸あり)
1842年	11月6日	天保13年	10月4日 晴	酉の刻頃より雨時々降 亥の刻過止 亥の刻過雷鳴 即刻止
1842年	11月7日	天保13年	10月5日 曇	子の刻過より雨降 即刻止
1842年	11月8日	天保13年	10月6日 曇	昨夜雪少々降 今日雪少々降 (去る6月2日夜北御丸御菜園から鉢植を盗んだ元雇薦に30鞭10里四方追放大場御構い)
1842年	11月9日	天保13年	10月7日 晴	申の刻過より雨降 夜二入同断 酉の刻過より雷鳴 亥の刻頃止
1842年	11月10日	天保13年	10月8日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止
1842年	11月11日	天保13年	10月9日 曇	昨夜雪少々降 今日雪少々降
1842年	11月12日	天保13年	10月10日 晴	
1842年	11月13日	天保13年	10月11日 曇	辰の刻過より小雨時々降 申の刻過止 酉の刻過小雨降 即刻止
1842年	11月14日	天保13年	10月12日 曇	今日雪少々降
1842年	11月15日	天保13年	10月13日 晴	
1842年	11月16日	天保13年	10月14日 晴	
1842年	11月17日	天保13年	10月15日 曇	今暁子の刻より雨時々降 申の刻過止 (江戸で人事異動、御系譜に関し京登りの御家老(大道寺旅之助)付き表右筆佐藤榮吉が御貸人ともここ元(江戸)出立)
1842年	11月18日	天保13年	10月16日 晴	
1842年	11月19日	天保13年	10月17日 曇	昨夜雪少々降 今日雪少降 (文政8年に異国船打ち払いを仰せだされたが享保寛政の御政事に復し何事によらず御仁政……いろいろ手続きが書いてある)
1842年	11月20日	天保13年	10月18日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (当年熟作だが公務等で差し迫っており少しだけ返すとの通達:1000石の6歩引きを4歩8厘2毛引きに・100石の4歩5厘引きを3歩6厘1毛引きに・ 欄外(*)に続く
1842年	11月21日	天保13年	10月19日 曇	
1842年	11月22日	天保13年	10月20日 曇	辰の刻より雨降 巳の刻頃止 巳の刻過より雷鳴 未の刻過止 午の刻過地震少し (酒1升到付1文目8厘5毛に相当・1文目9厘に1合売りは7文に申付け)
1842年	11月23日	天保13年	10月21日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今20日申?ノ下刻下居宮並びに大堂御本尊御総体御出汗・下居宮で重き御神楽並びに大堂で重き御祈禱を仰せ付ける・五山にも御祈禱を仰せ付ける)
1842年	11月24日	天保13年	10月22日 快晴	下から続く 無位10文目5分を15文目に)
1842年	11月25日	天保13年	10月23日 晴	酉の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨亥の刻過止 下から続く 皮の値段(1枚)を上げる:上位25文目を50目・中位21文目を40目・下位17勾を30目・下々位13文目を25文目・ 上に続く
1842年	11月26日	天保13年	10月24日 曇	今日雪少しふ里 (荳種油値段は御定法で水油1升到付き4文目6厘7毛余に相当・1升を4文目7厘に1合売りは4分に申付け、近年熊狸不足熊胆御差支え・狩取り増を申し付け 上に続く
1842年	11月27日	天保13年	10月25日 曇	昨夜雪ふ里 七寸程積 今日雪ふ里 二寸程積 (当大坂御廻船が6月9日に雲州三保ヶ関沖合いで荷打ち・大坂浩(詰?つまらない誤字が多い)勘定小頭が見分)
1842年	11月28日	天保13年	10月26日 曇	昨夜雪三寸程積 今日雪二寸程積 (預った甲冑を返さなかった在出身男に3鞭弘前住居御差留め)
1842年	11月29日	天保13年	10月27日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪壹寸程積 (去月16日5人乗り鯨ヶ沢船が赤石村前浜で破船・乗員無事)
1842年	11月30日	天保13年	10月28日 晴	昨夜雪少し降 (人事異動、8日より22日まで日々新穀付相場平均値段が21文目2分)
1842年	12月1日	天保13年	10月29日 晴	
1842年	12月2日	天保13年	11月1日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (人事異動、死亡した山上弥兵衛の勤料が差し引かれている、去月22日銀1朱1兩90目定価仰せ付けられ候処……分らない)
1842年	12月3日	天保13年	11月2日 曇	辰乃刻頃より雨時々降 未乃刻過止 酉乃刻頃より小雨降り 戌乃刻過止 (去月29日夜増館組富柳村で百姓家出火・建家外馬屋米糶馬2疋を焼失)
1842年	12月4日	天保13年	11月3日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (山吹銀750目明日立ち便で御登せ申付け)
1842年	12月5日	天保13年	11月4日 曇	今日雪少し降 (青森御印付米1俵23文目立で10000俵を商人?に売る・代金2000両余を早速納めさせる)
1842年	12月6日	天保13年	11月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 辰の刻頃地震少し (狩取った鶴の値段大1羽50目・中1羽40目下し置かれる)
1842年	12月7日	天保13年	11月6日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1842年	12月8日	天保13年	11月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1842年	12月9日	天保13年	11月8日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1842年	12月10日	天保13年	11月9日 曇	昨夜亥の刻頃より雨降
1842年	12月11日	天保13年	11月10日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 (御献上鮭不漁、黒石役人から申し出:年内2300石来春2000石津出・そのように申付け)
1842年	12月12日	天保13年	11月11日 晴	(住民税の減免措置?、青森御蔵御印付1俵25文目立)
1842年	12月13日	天保13年	11月12日 晴	申の刻過より小雨時々降り夜二入同断 下から続く 御印付米800俵を1俵24匁立で拝借申付け、先納米・米銭不渡の分等について取り扱いあり)
1842年	12月14日	天保13年	11月13日 晴	申の刻過より小雨降 則刻止 下から続く 節に引合9日早い、各蔵より青森御蔵に55000俵・鯨ヶ沢御蔵に83000俵・ゞて138000俵御蔵下げ、前田常次郎が近年不如意・ 上に続く
1842年	12月15日	天保13年	11月14日 晴	(十三湯去る8日朝迄前後とも氷張る、8日夕より9日昼迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月5日夕より6日朝まで氷張・当年は日数に引合3日遅く 上に続く
1842年	12月16日	天保13年	11月15日 曇	午の刻頃より雨降 未の刻過止 申の刻過小雨降 即刻止 (各地で鮭不漁、去る10日赤茶村の男が白銀村の男に打擲され翌11日死亡)
1842年	12月17日	天保13年	11月16日 晴	
1842年	12月18日	天保13年	11月17日 曇	今日辰の刻過西南の風強 巳の刻頃止 午の刻過より雨降り 未の刻頃止
1842年	12月19日	天保13年	11月18日 曇	昨夜雪降り 一寸程積 今日雪少し降
1842年	12月20日	天保13年	11月19日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少降
1842年	12月21日	天保13年	11月20日 快晴	
1842年	12月22日	天保13年	11月21日 晴	
1842年	12月23日	天保13年	11月22日 曇	今暁子乃刻頃より雨降り 寅乃刻過止
1842年	12月24日	天保13年	11月23日 晴	
1842年	12月25日	天保13年	11月24日 曇	今暁丑乃刻頃より小雨降 卯乃刻過止 巳乃刻頃より小雨時々降り (御備用十里望遠鏡を8両で御買入・当年は3・4両渡す)
1842年	12月26日	天保13年	11月25日 曇	今日雪少し降 (今21日朝十三町弁天崎に西大工町の大工倒死)
1842年	12月27日	天保13年	11月26日 晴	昨夜雪少し降
1842年	12月28日	天保13年	11月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1842年	12月29日	天保13年	11月28日 晴	昨夜雪少し降 (来月朔日御用向き相済出立の津軽屋三右衛門(の手代)に御手当て10両下し置かれる、衣類着用に関する軽い禁令)
1842年	12月30日	天保13年	11月29日 晴	
1842年	12月31日	天保13年	11月30日 曇	今暁子乃刻頃より雨時々降 寅乃刻過止 辰乃刻頃より雨時々降 未乃刻過止 (十三前後湯が湯明(一時的か))
				(*) 10石の1歩4厘引きを1歩1厘2毛引きに・2人扶持以下は歩引き御用捨、人事異動)

1843年	1月1日	天保13年	12月1日	晴	昨夜雪少しふ里 今日雪少し降	
1843年	1月2日	天保13年	12月2日	曇	昨夜雪少しふ里 今日雪少しふ里	
1843年	1月3日	天保13年	12月3日	晴	昨夜雪少しふ里 下から続く 御買上願い・太鼓を除き35両で買い入れる・この節15両渡し残りは明年、去月12日夜東長町三国屋に盗賊・青森町河南屋平太郎を手配)	
1843年	1月4日	天保13年	12月4日	曇	巳の刻過より小雨時々ふ里 申の刻過止 (笠原太郎作(家老笠原近江の孫)が生活のため長柄鍵9本100文目筒1丁10文目筒1丁6文目筒1丁3文目5分筒2丁陣太鼓1張を	上に続く
1843年	1月5日	天保13年	12月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 八寸程積 (両濱津出御印米豆とも1俵4文目立を5文目立に、2500俵を1俵24文目5分立で御払い、久渡寺の山に人が入り役人今和助が	欄外(*)に続く
1843年	1月6日	天保13年	12月6日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積	
1843年	1月7日	天保13年	12月7日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふ里	
1843年	1月8日	天保13年	12月8日	晴	(献上の鱈見分、今日山吹銀1貫目湯沢より上納・今日立ち飛脚で登らせる)	
1843年	1月9日	天保13年	12月9日	晴	昨夜雪降 二寸程積	
1843年	1月10日	天保13年	12月10日	曇	(十三前後の湯今3日朝までに残らず氷張る、米銭取立て過ぎと言われた庄屋の庄屋役取返し)	
1843年	1月11日	天保13年	12月11日	快晴	(人事異動、借金550両の替りに青森御印付1俵24文目立を以って2567俵御渡し方仰せ付ける)	
1843年	1月12日	天保13年	12月12日	快晴	(3文目5分玉筒10丁の代両650目で御買上、追剥ぎ?をした町同心の次男を親預け他出禁止)	
1843年	1月13日	天保13年	12月13日	曇		
1843年	1月14日	天保13年	12月14日	曇	今晚子の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 (今身の上刻国上寺の不動尊御惣体御出汗・二童子も同様・五山で御祈禱などを仰せ付ける)	
1843年	1月15日	天保13年	12月15日	曇	昨夜雪少しふ里 今日雪少々ふ里 (御賞、広須・木造両組の廃田畑に遊民・在町の者共に手当てを与え入植を勧めている)	
1843年	1月16日	天保13年	12月16日	曇	昨夜雪少々ふ里 今日雪少々降	
1843年	1月17日	天保13年	12月17日	曇	今日雪少々降 二寸程積	
1843年	1月18日	天保13年	12月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少々ふ里 (去月10日浪岡御蔵に御収納に行った男が喧嘩・死亡、犯人3人の人相書き:背(せい)常体・5尺位・5尺位・その他衣類等)	
1843年	1月19日	天保13年	12月19日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1843年	1月20日	天保13年	12月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1843年	1月21日	天保13年	12月21日	晴	昨夜雪降 六寸程積 今日雪少し降	
1843年	1月22日	天保13年	12月22日	晴	昨夜雪少し降	
1843年	1月23日	天保13年	12月23日	晴	昨夜雪少し降	
1843年	1月24日	天保13年	12月24日	晴	昨夜雪少し降	
1843年	1月25日	天保13年	12月25日	曇	昨夜雪少し降 (10文目玉筒も6文目玉筒も1丁の代金が2両2歩・明年御買上?、流木1巻180目立) 下から続く 廻し停止、江戸で人事異動)	
1843年	1月26日	天保13年	12月26日	曇	昨夜雪少し降 今晚寅の刻過より小雨時々降 夜二入同断 (米穀(値段)追々引立・津出御印米1俵7文目・大豆1俵6文目立値段上げ申し付ける、異国船紛敷帆の立方いたし乗り	上に続く
1843年	1月27日	天保13年	12月27日	曇	昨夜よりの小雨今日二及ひ時々降 夜二入同断 (去月25日屋形様御鷹の雁御拝領、近年紙漉草払底、取上げた鯖198疋の代銭18文目6分2厘、秋田久保田領から間道を	欄外(**)に続く
1843年	1月28日	天保13年	12月28日	曇	昨夜よりの小雨今晚卯の刻頃止 (御賞、人事異動、(12月3日記述の)青森町河南屋の人相書き:背(せい)5尺3寸位、当月6日より25日までの米値段平均1俵18文目1歩	欄外(***)に続く
1843年	1月29日	天保13年	12月29日	晴		
1843年	1月30日	天保14年正月1日	曇	今晚子の刻過より小雨時々降 申の刻過止		
1843年	1月31日	天保14年正月2日	曇	昨夜雪ス 一寸程積 今日雪少し降		
1843年	2月1日	天保14年正月3日	曇	(御金奉行が御吉例金差上げる		
1843年	2月2日	天保14年正月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1843年	2月3日	天保14年正月5日	晴			
1843年	2月4日	天保14年正月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1843年	2月5日	天保14年正月7日	曇	昨夜雪少し降 (旧臘26日後湯組小国村で出火・類焼共2軒建て馬等焼失・火元他村預け)		
1843年	2月6日	天保14年正月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1843年	2月7日	天保14年正月9日	晴			
1843年	2月8日	天保14年正月10日	快晴			
1843年	2月9日	天保14年正月11日	曇	昨夜雪少し降 申の刻頃地震少し		
1843年	2月10日	天保14年正月12日	曇	申の刻過より雨降 亥の刻頃止 (東長町の矢場で御弓射初)		
1843年	2月11日	天保14年正月13日	晴	酉の刻過より雨降 夜二入同断 (今朝八幡宮で御鉄砲打初、今八時頃鍛冶町で男が縊死)		
1843年	2月12日	天保14年正月14日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 午の刻過より小雨時々降 戌の刻過止		
1843年	2月13日	天保14年正月15日	晴	昨夜雪少し降 (去る3日夜後湯組大川平村で出火・類焼2軒外蔵穀物等焼失・火元他村預け)		
1843年	2月14日	天保14年正月16日	晴	昨夜雪少し降		
1843年	2月15日	天保14年正月17日	曇	今日雪少し降 (篠巻(綿)の値段が上方からまだ来ない・1把3文目積で仮御差引)		
1843年	2月16日	天保14年正月18日	晴			
1843年	2月17日	天保14年正月19日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1843年	2月18日	天保14年正月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (去る14日朝赤石組支配出来嶋村で百姓家種粃等焼失、大豆津出御印1俵6文目立を7文目立に申付ける)		
1843年	2月19日	天保14年正月21日	晴	昨夜雪少し降 (江戸で多数の者が門限を破り役下げなどになっている)		
1843年	2月20日	天保14年正月22日	晴	昨夜雪少し降		
1843年	2月21日	天保14年正月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積		
1843年	2月22日	天保14年正月24日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積		
1843年	2月23日	天保14年正月25日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 八寸程積		
1843年	2月24日	天保14年正月26日	曇	今日雪降 五寸程積		
1843年	2月25日	天保14年正月27日	晴			
1843年	2月26日	天保14年正月28日	快晴			
1843年	2月27日	天保14年正月29日	快晴	今日酉の刻過より小雨降 夜入同断		
1843年	2月28日	天保14年正月30日	曇	昨夜よりの小雨今晚寅の刻過止 未の刻過より雨降 申の刻過止		

(*) 手抜と怒られている。10月7日に御屋形様の名乗りを順承と改名・承は禁字、近衛様御落胤梅津某と名乗る男が捕まる・この手紙の差出人が家老大道寺族之助宛先は用人毛内有右衛門様)

(**) 入って盗みの寺の弟子を碇ヶ関送り返し、秋田から他散の者を呼び返している、当月7日夜間米4俵と駒2疋御取上げ、流木隠し上げ等の男に過料)

(***) 1厘で酒1升到付き1文目2分7毛に相当・1升を1文目2分に1合売りは8文に申付ける、流木過伐等に木品炭等取上げ過料、来正月4日立ちの御飛脚で湯ノ沢山吹銀1 〆目御登す)

1843年	3月1日	天保14年	2月1日 曇	昨夜雪少し降 巳の刻頃小雨降 即刻止 (人事異動)
1843年	3月2日	天保14年	2月2日 曇	今日卯の刻過より小雨時々降 未の刻過止
1843年	3月3日	天保14年	2月3日 晴	
1843年	3月4日	天保14年	2月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 申の刻過より西南の風邪強し 戌の刻頃止 酉の刻過より雨降 夜入同断
1843年	3月5日	天保14年	2月5日 曇	昨夜よりの雨今晚子の刻過止 雪降 一寸程積 今日雪少し降 (味噌値段が書いてあるが分からない)
1843年	3月6日	天保14年	2月6日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1843年	3月7日	天保14年	2月7日 晴	昨夜雪少し降 (酒値段は米値段からの御定法で酒1升到付き1文目2分8毛余に相当・1升は1文目2分に1分(合?)売りは8文に申付ける、乙富山下山八光山で喧嘩殺人・犯人入牢とする)
1843年	3月8日	天保14年	2月8日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (廃田畑の開発に年季休み(納税猶予?)をしていたがその期間が過ぎても続けてほしいとの願い出多数・NOと言いながら手を打ったのかな?)
1843年	3月9日	天保14年	2月9日 晴	
1843年	3月10日	天保14年	2月10日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1843年	3月11日	天保14年	2月11日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (在医・同鍼医に御賞)
1843年	3月12日	天保14年	2月12日 晴	(薬王院橋下に赤子の死骸あり、出雲守殿(黒石藩主)勝手向到って差支え・お定め通り1250石渡し臨時入用は別段拝借(2000石)を仰せ付ける、山吹銀1貫目を来る19日の御登申付ける)
1843年	3月13日	天保14年	2月13日 曇	
1843年	3月14日	天保14年	2月14日 曇	昨夜雪少し降 未の刻過小雨降 即刻止 今日雪少し降
1843年	3月15日	天保14年	2月15日 快晴	((12月12日記述の)町同心の次男預けは親が手余し・当分揚屋入りとする、江戸で人事異動)
1843年	3月16日	天保14年	2月16日 曇	今日雪少し降
1843年	3月17日	天保14年	2月17日 曇	昨夜雪少し降 未の刻過小雨降 即刻止 (去月11日関口吉郎を御用人に兼帯との人事異動、深浦湊口よりの味噌津出の御役は2斗入り1樽につき当年格別の沙汰を以て2匁5分宛とする)
1843年	3月18日	天保14年	2月18日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る7月6日湯野沢で湯眩(湯まぐれ)死の者(サイ大小12個等持参)あり・住所不明で無届で仮葬した湯守を戸々30日その手伝い?女を 欄外(*)に続く
1843年	3月19日	天保14年	2月19日 晴	昨夜雪少し降り
1843年	3月20日	天保14年	2月20日 曇	今日雪少し降
1843年	3月21日	天保14年	2月21日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1843年	3月22日	天保14年	2月22日 晴	昨夜雪少し降
1843年	3月23日	天保14年	2月23日 晴	
1843年	3月24日	天保14年	2月24日 曇	今晚寅の刻過より小雨降 辰の刻過止
1843年	3月25日	天保14年	2月25日 曇	今日雪少し降 (米2俵が1駄であるが弘前町中で4俵積んだ往来あり・距離も短いので3俵までは御免とする、御用達鳴海栄作が内通不如意・これまでの下され方50俵引上げの上御用達御免)
1843年	3月26日	天保14年	2月26日 曇	今晚寅の刻過より雨時々降 巳の刻頃止 巳の刻頃雷鳴 則刻止 午の刻過雷鳴 即刻止 今日雪少し降 申の刻頃より西南の風強し 酉の刻過止
1843年	3月27日	天保14年	2月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1843年	3月28日	天保14年	2月28日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (松伐株28本の2村に過料5貫600文、松伐株犯人逃亡とか過料等がある)
1843年	3月29日	天保14年	2月29日 快晴	
1843年	3月30日	天保14年	2月30日 快晴	(江戸銀座納め湯野沢出銀不足・尾太山の方も急にうまくは行かないみたい、四社並びに五山に風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)
1843年	3月31日	天保14年	3月1日 快晴	(去る11月江戸で拝領の御鷹の雁を今日頂戴仰せ付けられる(賞味期限は?)、昨29日暁和徳組小沢村で百姓家出火・類焼共2軒馬3疋焼失・火元他村預け)
1843年	4月1日	天保14年	3月2日 曇	今日辰の刻頃より小雨時々降 夜入同断 (鍛冶町専吉宅で八人芸(盲人が行うこわいろ?)の興行を許す・札銭は1人に付3分宛とする)
1843年	4月2日	天保14年	3月3日 曇	昨夜よりの雨今日及時々降 戌の刻過止
1843年	4月3日	天保14年	3月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当御下向の19日振りの道中割りあり・来月21日御発駕と仰せ出される)
1843年	4月4日	天保14年	3月5日 晴	
1843年	4月5日	天保14年	3月6日 曇	今日巳の刻過より雨時々降 夜入同断
1843年	4月6日	天保14年	3月7日 曇	昨夜よりの小雨今日二及 辰の刻頃止 今日雪少し降 (今日立ち9日振りの飛脚を足軽目付付添で御金500両差登す
1843年	4月7日	天保14年	3月8日 晴	昨夜雪少し降
1843年	4月8日	天保14年	3月9日 晴	
1843年	4月9日	天保14年	3月10日 快晴	(銭10文目代に付味噌目方8貫600目だったものを8貫200目立で御貸し渡し申し付ける)
1843年	4月10日	天保14年	3月11日 曇	今日辰の刻過より小雨時々降 申の刻過雷鳴 即刻止 酉の刻過小雨止
1843年	4月11日	天保14年	3月12日 曇	昨夜雪少し降 西南の風強し 今日小雨時々降
1843年	4月12日	天保14年	3月13日 晴	(検地吟味の節手段の庄屋と五人組(4人)に3鞭宛居村徘徊是まで通り・関係者にも過料等の罰)
1843年	4月13日	天保14年	3月14日 快晴	
1843年	4月14日	天保14年	3月15日 快晴	
1843年	4月15日	天保14年	3月16日 晴	
1843年	4月16日	天保14年	3月17日 快晴	(寛政暦をこの度京都で改暦宣下(ここも平出)・新暦号は天保壬寅元暦、去る14日夜常盤組中嶋村で出火・類焼共4軒等焼失・火元他村預け)
1843年	4月17日	天保14年	3月18日 曇	
1843年	4月18日	天保14年	3月19日 曇	今晚子の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (娘妹等8人ほどが不埒・これらを取寄せ小宿同様の仕振りの男押込)
1843年	4月19日	天保14年	3月20日 晴	
1843年	4月20日	天保14年	3月21日 快晴	
1843年	4月21日	天保14年	3月22日 快晴	酉の刻過より雨時々ふり 夜二入同断 (價銀使い?の男出牢)
1843年	4月22日	天保14年	3月23日 曇	昨夜の雨今日に及時々降 夜に入同断 (去る4日江戸発の御宿取が今日到着・屋形様は来る18日御発駕)
1843年	4月23日	天保14年	3月24日 晴	昨夜の雨今晚卯の刻頃止
1843年	4月24日	天保14年	3月25日 曇	昨夜午(午にしか見えません)の刻頃より雨時々降 卯の刻過止
1843年	4月25日	天保14年	3月26日 曇	今晚寅の刻過地震強し 辰の刻過より西南の風強し 未の刻過止 酉の刻過地震少し
1843年	4月26日	天保14年	3月27日 曇	卯の刻過より小雨時々降 辰の刻過地震少し (松前志摩守様の御下向の同勢162人、荏種5斗入り1呎5文目6分・水油2斗入り1樽御役10文目・菜種1呎8文目御金蔵に上納するよう申付ける)
1843年	4月27日	天保14年	3月28日 快晴	
1843年	4月28日	天保14年	3月29日 晴	戌の刻過地震少し 酉の刻過地震少し
1843年	4月29日	天保14年	3月30日 晴	(去る11月15日夜人を打擲した男に過料1貫800文と1貫200文、不明日に江指(江差)船が小泊湊濱セツ瀧前浜で破船・乗員5人無事)
1843年	4月30日	天保14年	4月1日 快晴	今晚寅の刻過地震少し

(*) 押込30日、去る6月よりこの節までの江戸御登せ金が5320両、明日湯野沢より相納め候分の山吹銀500目を御登せたのかな)

1843年	5月1日	天保14年	4月2日 快晴 (人事異動) 下から続く 銭4貫910文目・甲冑1領銭1貫785文目・甲冑1領銭1貫698文目)
1843年	5月2日	天保14年	4月3日 快晴 今晩寅の刻頃地震少し 午の刻地震少し 下から続く 鞍2背に付金4両・甲冑1領(離れ品とも)93両・大楯上3枚剥蝶銭206文目1分7厘・頬当金1両・供具足12領 上に続く
1843年	5月3日	天保14年	4月4日 快晴 (不明日に越中船(6人乗り)が鯉ヶ沢湊支配長濱の内出来嶋村前浜で・敦賀船が長濱の内牛潟村領で破船、御家中武具の御買上:3文目5分玉筒10挺に付銭2貫830目・ 上に続く
1843年	5月4日	天保14年	4月5日 曇
1843年	5月5日	天保14年	4月6日 晴 (御着城前方(九ツ時過)系譜御到着・未の刻過ぎ御着城)
1843年	5月6日	天保14年	4月7日 晴 (木造新田館岡村領長濱の内に寄せ鯨・御役銭上納御免の上下し置かれる)
1843年	5月7日	天保14年	4月8日 曇 今晩卯の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (青森博労町の明き屋敷から子供たちが3両3歩1朱拾い出し届ける)
1843年	5月8日	天保14年	4月9日 晴
1843年	5月9日	天保14年	4月10日 晴
1843年	5月10日	天保14年	4月11日 快晴 (来る13日立ちの刑部御貸人荷物宰料之者に山吹銀目形1貫200目御預け江戸登りを申付ける)
1843年	5月11日	天保14年	4月12日 晴
1843年	5月12日	天保14年	4月13日 曇 午の刻頃より雨降 酉の刻頃止
1843年	5月13日	天保14年	4月14日 晴 (あちこちの山が荒られ時には犯人を捕まえては逃げられる等山関係事件沢山あり・村人庄屋に過料等で決着)
1843年	5月14日	天保14年	4月15日 曇 (人事異動)
1843年	5月15日	天保14年	4月16日 曇 卯の刻過より小雨時々降 未の刻頃止
1843年	5月16日	天保14年	4月17日 曇 辰の刻過より雨時々降 午の刻過止
1843年	5月17日	天保14年	4月18日 晴 (去月26日の地震で甲屋某の酒蔵痛損)
1843年	5月18日	天保14年	4月19日 快晴
1843年	5月19日	天保14年	4月20日 快晴 (5両の三ヶー引きは3両1歩ト銭9文目3分4厘なんだそうな)
1843年	5月20日	天保14年	4月21日 快晴 (家老高倉駿河が積気(しゃっき:胃けいれんか)・御用取扱当分御免)
1843年	5月21日	天保14年	4月22日 曇 今日未の刻頃小雨降 則刻止 (高倉駿河今日病死、高倉駿河与力12人を引取り御留守居当分支配にする)
1843年	5月22日	天保14年	4月23日 曇 戌の刻過より小雨時々降 今晩寅の刻過止 酉の刻過より小雨時々降 戌の刻頃止
1843年	5月23日	天保14年	4月24日 快晴
1843年	5月24日	天保14年	4月25日 快晴
1843年	5月25日	天保14年	4月26日 快晴 (武具を御家中から御買上(積表(意味不明)の半分):望遠鏡1両1歩・鞭86匁1分、入牢中の男を積気で出牢・腰縄付で新(親?)類五軒組合見継・同村庄屋も時々吟味等の条件)
1843年	5月26日	天保14年	4月27日 曇 卯の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1843年	5月27日	天保14年	4月28日 曇 昨夜よりの雨今晩卯の刻過止 未の刻頃地震少し (松前非常大筒方が100目より300目の大筒を宇和野で試し打ちを申し出る)
1843年	5月28日	天保14年	4月29日 曇 卯の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1843年	5月29日	天保14年	5月1日 曇 昨夜よりの雨今日に及 小雨時々降 (人事異動、鯉ヶ沢塩屋武右衛門に10人扶持下し置かれ御用達仰せ付け、昨夜深浦で越中船の男が病死・浄念寺に葬る、山上才助倅鉄太郎御目見)
1843年	5月30日	天保14年	5月2日 曇 昨夜よりの雨今晩卯の刻頃止 (楠美某を町奉行兼役に等の人事異動)
1843年	5月31日	天保14年	5月3日 曇 午の刻過より雨時々降 夜二入同断 (今日宇和野で(大砲の)内習(打ち習う:打ち方を身に付けるか)高覧)
1843年	6月1日	天保14年	5月4日 曇 昨夜よりの雨今日及時々降 申の刻頃止
1843年	6月2日	天保14年	5月5日 晴 (16・17日に宇和野で大筒・連城炮・弓術・火矢の高覧予定)
1843年	6月3日	天保14年	5月6日 晴
1843年	6月4日	天保14年	5月7日 曇 (御家中溝江某から甲冑1領買入れ:40両1歩2朱)
1843年	6月5日	天保14年	5月8日 曇
1843年	6月6日	天保14年	5月9日 晴 下から続く 定例廻米高37250石)内8000石が御家中扶持米・18400石が払米)
1843年	6月7日	天保14年	5月10日 晴 (高覧予定に棒火矢(ぼうひや:火矢の一種らしいのですが……)も入れる) 下から続く 53342石)内18000石が御家中扶持米・12000石が払米、同じく大坂廻米26400石 上に続く
1843年	6月8日	天保14年	5月11日 曇 今晩寅の刻頃地震少し 寅の刻過より小雨降 辰の刻過止 (高倉敏次郎(駿河の子)に御使山上才助を以って香典白銀30両下し置かれる、当年の江戸廻米3万石(定例廻米高 上に続く
1843年	6月9日	天保14年	5月12日 曇 午の刻過小雨降 即刻止 (小山内儀兵衛他出差し止め・三上清吾と本町村伴右衛門も召捕り揚屋入り、山吹銀1貫目と金500両を来る16日立の飛脚で登す)
1843年	6月10日	天保14年	5月13日 晴 子の刻過雨降 即刻止 (真綿煙草を不当に取引した男に3鞭居町徘徊はまで通り・この仲間に戸ヅ)
1843年	6月11日	天保14年	5月14日 快晴 (この度200目玉筒並びに300目玉筒の車台出来)
1843年	6月12日	天保14年	5月15日 曇 辰の刻頃より小雨降 巳の刻過止 (仙台の男から牛牡牝40疋買入れ希望・御役銭5文目宛を申付ける)
1843年	6月13日	天保14年	5月16日 曇 (北御蔵・亀甲御蔵の(御蔵立会い:18日の記録による)2人と御蔵奉行4人が御奉公遠慮、去年7月2日に女房を殺し自害した大組足輕三上某の家財を家内の者共に下し置かれる)
1843年	6月14日	天保14年	5月17日 曇
1843年	6月15日	天保14年	5月18日 快晴
1843年	6月16日	天保14年	5月19日 晴
1843年	6月17日	天保14年	5月20日 晴 (松前詰め中に病死の跡の諸手足輕が病死・格段の御沙汰を以って同人子に20俵2人扶持外10俵勤料下し置かれ則役新規召抱え)
1843年	6月18日	天保14年	5月21日 晴 今晩寅の刻より小雨降 卯の刻過止 (今日宇和野で火矢並びに大筒高覧・何故か非常組頭あり)
1843年	6月19日	天保14年	5月22日 快晴
1843年	6月20日	天保14年	5月23日 快晴
1843年	6月21日	天保14年	5月24日 快晴
1843年	6月22日	天保14年	5月25日 快晴 (去る22日鯉ヶ沢町で傷害事件、御用達になった鯉ヶ沢町の塩屋が苗字を戸沼と改める)
1843年	6月23日	天保14年	5月26日 快晴
1843年	6月24日	天保14年	5月27日 晴
1843年	6月25日	天保14年	5月28日 曇 未の刻頃より雷鳴時々 未の刻過雨降 申の刻頃雨強 同刻過止 (質屋の利息を月2歩半に下げる)
1843年	6月26日	天保14年	5月29日 曇 午の刻過雷鳴 即刻止 午の刻頃雨降 未の刻過止
1843年	6月27日	天保14年	5月30日 曇 未の刻頃小雨降 即刻止 (今日した馬場で高覧、撫牛子村に水戸出生の男が止宿し先年送り返す・この節改名して立ち返っている・碇ヶ関口送り返し)
1843年	6月28日	天保14年	6月1日 晴 (人事異動、去月27日昼横内村で出火・類焼24軒・火元高無他村預け、山上鉄太郎に月並出仕を仰せ付けられる)
1843年	6月29日	天保14年	6月2日 晴 酉の刻過地震少し 戌の刻過より雨降 夜二入同断
1843年	6月30日	天保14年	6月3日 曇 昨夜よりの雨今晩寅の刻過止 卯の刻過より雨降 辰の刻過止 巳の刻過より雨降 申之刻過止 (役人の振りをして在方で金子を無心した御家中の弟が大場御構い7里四方追放)

1843年	7月1日	天保14年	6月4日 曇	(松前の子モロと申す場所に異国船見えるとの報・江戸にも8日振りの飛脚を立てる、去る12月5日に中村良吉が出奔・家財は妻子に下し置かれる)	
1843年	7月2日	天保14年	6月5日 快晴	今暁寅の刻過地震少し	
1843年	7月3日	天保14年	6月6日 快晴		
1843年	7月4日	天保14年	6月7日 快晴	(鷺の間で剣術高覧、御当用金並びに江戸御登せ金共差支え必至・御用達共へ繰り出しを申し付けたいが旧冬より調達しており……)	
1843年	7月5日	天保14年	6月8日 晴		
1843年	7月6日	天保14年	6月9日 晴	(津軽東山・津軽頼母・棟方晴吉・田村勇太を一問所で憤み申し付ける) 下から続く 親類等は御奉公遠慮等を申し出ても御用捨としている、青田の内笛吹くなどの触れ)	
1843年	7月7日	天保14年	6月10日 曇	午の刻頃小雨降 酉の刻過止 (この度思召しで明11日に武之助殿に二之丸御住居を仰せ付けられる、一問所3個(又は4個)の予算が2貫385文目8分、昨日申付けの憤みの	上に続く
1843年	7月8日	天保14年	6月11日 曇	今暁酉の刻過より小雨時々降 (一問所中の津軽東山は中風で歩行困難・両便などの節取扱の者が抱えずには相成り申さず・一問所に2人が入り手助けすることとする)	
1843年	7月9日	天保14年	6月12日 曇	(棒火矢7筋出来(棒火矢の内容を想像させる情報あり)・打揚を仰せ付ける)	
1843年	7月10日	天保14年	6月13日 晴		
1843年	7月11日	天保14年	6月14日 晴	(来る15日出立の太田某に預けて江戸登金600兩・山吹銀目形1貫目)	
1843年	7月12日	天保14年	6月15日 曇	(連城砲打ち方重ねて御座なく候?)	
1843年	7月13日	天保14年	6月16日 曇	巳の刻過より小雨降 午の刻頃止	
1843年	7月14日	天保14年	6月17日 晴		
1843年	7月15日	天保14年	6月18日 曇	(今日宇和野で非常御備え高覧・大筒高覧)	
1843年	7月16日	天保14年	6月19日 晴		
1843年	7月17日	天保14年	6月20日 曇		
1843年	7月18日	天保14年	6月21日 快晴		
1843年	7月19日	天保14年	6月22日 快晴		
1843年	7月20日	天保14年	6月23日 快晴	(松前奥蝦夷地エトロフ江異国船が着き漂流人6人上陸致させるとの報あり・8日振りの飛脚を立て町奉行より佐竹様にも通す)	
1843年	7月21日	天保14年	6月24日 快晴	(去る21日夜横内組作道村支配茶屋町で出火・類焼共26軒焼失)	
1843年	7月22日	天保14年	6月25日 快晴		
1843年	7月23日	天保14年	6月26日 快晴	(今日外馬場で馬術高覧)	
1843年	7月24日	天保14年	6月27日 快晴	(照り続きに付五山に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)	
1843年	7月25日	天保14年	6月28日 快晴		
1843年	7月26日	天保14年	6月29日 快晴		
1843年	7月27日	天保14年	7月1日 快晴		
1843年	7月28日	天保14年	7月2日 快晴	(屋敷内で花火をするなどの触れ、頃日に至り照り続き田方湯水・長勝寺に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)	
1843年	7月29日	天保14年	7月3日 快晴		
1843年	7月30日	天保14年	7月4日 快晴	(現在動いている鉱山は湯野沢・乙富・天ヶ平の3山のみ・その他の山は積極的に幕府の役人に見せるなどの指示)	
1843年	7月31日	天保14年	7月5日 快晴	(顕休院(津軽信著)様の100回御忌の大赦に伴い多くの者が出牢・過料の上納御免等)	
1843年	8月1日	天保14年	7月6日 晴	酉の刻頃より小雨時々降 (陣笠かぶりの5・6人が木刀で祢ふた取潰すとの風聞・名前を取り糾すよう大目付江申し遣わす)	
1843年	8月2日	天保14年	7月7日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 卯の刻過雨降 巳の刻過止	
1843年	8月3日	天保14年	7月8日 曇	未の刻頃より雨降 即刻止 下から続く 嵩(高)凡700石積位の異国船1艘相見え午未の風にて艀居候処まもなく辰巳の方江向き艀去り候旨の報告あり)	
1843年	8月4日	天保14年	7月9日 曇	午の刻頃より雨時々降 (松前東蝦夷地子モロ場所の内ハナサキ漁場沖合凡(およそ)二里程相隔去月(5月か)19日巳の中刻頃櫓3本帆数大小7つ程艀の方二旗様の物相建船	上に続く
1843年	8月5日	天保14年	7月10日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 未の刻頃止	
1843年	8月6日	天保14年	7月11日 晴	(去月21日焼失の作道支配茶屋町の27軒に御手当て御米1俵宛下し置かれる) 下から続く 渡されていたが昨年は御省略で半分に・これを戻す)	
1843年	8月7日	天保14年	7月12日 晴	(御献上の御鷹不足で苦労している、菜種値段から水油1升到付き4文目7分2厘7毛に相当・1升を4文目7分3厘・1合売りは4分7厘に申付ける、今別等町同心稽古玉葉年中70放宛	上に続く
1843年	8月8日	天保14年	7月13日 晴		
1843年	8月9日	天保14年	7月14日 晴		
1843年	8月10日	天保14年	7月15日 晴		
1843年	8月11日	天保14年	7月16日 曇	今日巳の刻頃雨降 未の刻頃止 午の刻頃雷鳴 即刻止	
1843年	8月12日	天保14年	7月17日 晴	(御賞)	
1843年	8月13日	天保14年	7月18日 快晴		
1843年	8月14日	天保14年	7月19日 快晴		
1843年	8月15日	天保14年	7月20日 快晴		
1843年	8月16日	天保14年	7月21日 曇	卯の刻過より雨降 午の刻過止 巳の刻頃雷鳴 即刻止 午の刻頃雷鳴 即刻止	
1843年	8月17日	天保14年	7月22日 晴	酉の刻過より雨降 戌の刻過止	
1843年	8月18日	天保14年	7月23日 曇	卯の刻頃より雨降 申の刻過止	
1843年	8月19日	天保14年	7月24日 晴	(この度御勝手方小頭に預けて山吹銀目形1貫300目登す)	
1843年	8月20日	天保14年	7月25日 晴		
1843年	8月21日	天保14年	7月26日 晴	(外馬場で駒寄せ高覧、津軽出雲守殿との利用例あり・一応よその殿様だから様つきだと思うのだが)	
1843年	8月22日	天保14年	7月27日 快晴	昨夜亥の刻頃小雨降 即刻止	
1843年	8月23日	天保14年	7月28日 曇	(御収納米皆済の代官に御賞・1番藤代組南鐐3片宛・2番高杉組金100疋・3番和徳組金100疋・土用中の水練稽古に御賞(銀2兩)、去る14日夜四半頃和徳町御蔵前広小路で傷害事件)	
1843年	8月24日	天保14年	7月29日 晴		
1843年	8月25日	天保14年	8月1日 晴		
1843年	8月26日	天保14年	8月2日 晴	今暁丑の刻頃より雨降 寅の刻過止 (去月21日の大雨で小泊村山根通りで建家土蔵漁船とも山推崩破損・人馬怪我なし)	
1843年	8月27日	天保14年	8月3日 快晴		
1843年	8月28日	天保14年	8月4日 晴	今暁卯の刻過地震少 酉の刻過より雨降 (加賀助と平左衛門が例年の通り御初米14俵差上げる・去年は7月17日の鎌入れまで植付より81日今年は7月27日の鎌入れまで79日なんだそうな)	
1843年	8月29日	天保14年	8月5日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 巳の刻頃より雨降 午の刻頃止	
1843年	8月30日	天保14年	8月6日 快晴	今暁丑の刻頃より雨降 卯の刻過止 下から続く 乗組み前浜に上陸・元船は艀去・この6人は越中の国の漂流者の由)	
1843年	8月31日	天保14年	8月7日 晴	午の刻過ぎ急雨降 (武具奉行等に御賞、去る2日堀越組門外村で暴行傷害事件、当5月23日東蝦夷地エトロフ場所沖合に異国船1艘見える・この船から橋船2艘に和人共斗6人	上に続く

1843年	9月1日	天保14年	8月8日 晴	(人事異動、津出御印代これまで7文目立を当作豊熟に従い5文目立に申し付ける)
1843年	9月2日	天保14年	8月9日 快晴	
1843年	9月3日	天保14年	8月10日 晴	
1843年	9月4日	天保14年	8月11日 快晴	(菜種津出御印1叭6文目5分立で500叭津出)
1843年	9月5日	天保14年	8月12日 晴	今暁丑の刻頃雨降 則刻止
1843年	9月6日	天保14年	8月13日 快晴	(出雲守にずっと殿が付いている、翌日には様がついていた)
1843年	9月7日	天保14年	8月14日 快晴	(大坂御廻船多宝丸で抜米(廻船の船が不足で乗員の質が悪い船も混じっていたらしい))
1843年	9月8日	天保14年	8月15日 快晴	(八幡宮神輿通御二付五つ時御供揃えて三之丸御物見所江御出)
1843年	9月9日	天保14年	8月16日 曇	今暁寅の刻頃小雨降 則刻止 申の刻過より雨降 夜二入同断
1843年	9月10日	天保14年	8月17日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 巳の刻頃雨降 則刻止 酉の刻過より雨時々降 (去る9日金井ヶ沢に入津の加州宮腰の船頭が11日に病死)
1843年	9月11日	天保14年	8月18日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 午の刻過小雨降 則刻止 (路用馬銀等について書いてあるが分からない)
1843年	9月12日	天保14年	8月19日 曇	巳の刻小雨降 則刻止
1843年	9月13日	天保14年	8月20日 曇	今暁子の刻過小雨降 即刻止
1843年	9月14日	天保14年	8月21日 曇	今暁寅の刻頃小雨降 則刻止
1843年	9月15日	天保14年	8月22日 快晴	
1843年	9月16日	天保14年	8月23日 晴	
1843年	9月17日	天保14年	8月24日 晴	
1843年	9月18日	天保14年	8月25日 曇	今暁丑の刻頃小雨降 則刻止 (御用達3人仰せ付けられる・10人扶持、江戸で金繰りが大変らしい)
1843年	9月19日	天保14年	8月26日 晴	子の刻頃小雨降 即刻止
1843年	9月20日	天保14年	8月27日 晴	(1人だけの家老が海岸御固所見分の御供に出る・その間の代行を示してある・日常の家老の仕事が分かる、過分の出金・米調達等に精勤として御用達12人に御酒御吸い物等の御賞)
1843年	9月21日	天保14年	8月28日 晴	今朝卯の刻過小雨降 則刻止 (今日朝六半時御供揃えて海岸御固所御順質に出立、金銀銅鉛山見分の公儀役人が来る・宿と見分の山の予定あり・湯野沢乙富のみ)
1843年	9月22日	天保14年	8月29日 快晴	
1843年	9月23日	天保14年	8月30日 快晴	(去る26日昼九半時横内組合子沢村で出火・類焼共2軒農具等焼失・火元他村預け) 下から続く 1枚宛下し置かれる・ただし熊皮がなく入手次第とする)
1843年	9月24日	天保14年	9月1日 曇	(当春駒越組砂子瀬村の狛師市兵衛・赤石組松原村の狛師長次・横内組滝沢村の狛師万之・田舎館組扱大川原村の狛師弁蔵?が熊3疋宛狩り取る・鳥目3貫文宛と下々位の熊皮 上に続く)
1843年	9月25日	天保14年	9月2日 晴	(去月20日セツ石濱下で破船の御廻船の御米を鰯ヶ沢漁船が2162俵取上げる)
1843年	9月26日	天保14年	9月3日 曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (大筒300目玉・筒200目玉100文目玉大石火矢迄3挺?を2放宛試打ちの申し出あり・1放宛了とした?)
1843年	9月27日	天保14年	9月4日 曇	昨夜よりの雨今日に及 未の刻止 申の刻頃より雨降 酉の刻頃止
1843年	9月28日	天保14年	9月5日 晴	(どこかで泉州船の水主が病死、乙富山の出銅1箇300目積)
1843年	9月29日	天保14年	9月6日 曇	申の刻頃小雨降 則刻止
1843年	9月30日	天保14年	9月7日 曇	
1843年	10月1日	天保14年	9月8日 曇	今暁寅の刻より小雨降 卯の刻頃止 辰の刻過小雨降 則刻止 申の刻頃小雨降 則刻止
1843年	10月2日	天保14年	9月9日 曇	
1843年	10月3日	天保14年	9月10日 曇	(屋形様今日八半時御帰城(8月28日出発))
1843年	10月4日	天保14年	9月11日 曇	今暁寅の刻頃より雨降 即刻止 辰の刻頃より小雨時々降
1843年	10月5日	天保14年	9月12日 曇	昨夜よりの雨今日に及
1843年	10月6日	天保14年	9月13日 晴	
1843年	10月7日	天保14年	9月14日 晴	
1843年	10月8日	天保14年	9月15日 晴	戌の刻頃より雨降 亥の刻雷鳴 則刻止 (武田元司の導道(道場)の屋根廻り大破・桧2尺5寸雅12000枚・6尺木舞360本の拝借願い・代銭176匁6分を年賦で返金する)
1843年	10月9日	天保14年	9月16日 晴	昨夜よりの雨卯の刻頃止
1843年	10月10日	天保14年	9月17日 晴	(今日初鮭差上げる、去月28日蟹田町より送り返し中の秋田男が戸門村で病死、御郡代金?並びに銀座上納金?など滞っている、山吹銀1貫360目を明日立ち御飛脚で登す)
1843年	10月11日	天保14年	9月18日 晴	今暁丑の刻頃より雨降 卯の刻頃止 戌の刻頃より雨降
1843年	10月12日	天保14年	9月19日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 午の刻過より雨降 申の刻頃止 戌の刻過より雨降
1843年	10月13日	天保14年	9月20日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 卯の刻過より雨降 巳の刻過止 今朝岩木山江雪見得る (御用人森岡民部の御役御免・慎)
1843年	10月14日	天保14年	9月21日 快晴	昨夜亥の刻過より小雨時々降 今朝卯の刻頃止
1843年	10月15日	天保14年	9月22日 快晴	下から続く 船も九十九里沖合いで難船・御米600俵位荷打ち・房州に入津)
1843年	10月16日	天保14年	9月23日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜に入同断 (7月に芝居見物中の人の銭財布を切り取った男に3鞭弘前御構い) 下から続く 浦に入津、去月13日御国表出帆の御廻船の筑前
1843年	10月17日	天保14年	9月24日 曇	昨夜よりの雨今日に及ぶ 辰の刻頃止 (鮭漁不足・岩木川平川浅瀬石川で鯉漁(読み方も意味も分からない)御差留との御目付触れ) 26日から続く 荷打ち仙台小湊
1843年	10月18日	天保14年	9月25日 曇	今暁丑の刻過より雨降 卯の刻過止 巳の刻過より雨降 即刻止 申の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (作事方の御用材盗み取りの鳶の者等の3人を揚屋入り)
1843年	10月19日	天保14年	9月26日 曇	昨夜よりの雨今日卯の刻過止 午の刻過より雨降 即刻止 申の刻頃より雨時々降 夜に入同断 酉の刻頃雷鳴 即刻止 (当御廻船の筑後船が7月23日夜御米8・900俵
1843年	10月20日	天保14年	9月27日 曇	昨夜の雨今日に及 午の刻過止 (松前よりの越中の漂流人を22日に青森止宿野内口江出立、税金の関係か他国の船と偽った例が多い)
1843年	10月21日	天保14年	9月28日 曇	卯の刻過より小雨降 即刻止 辰の刻頃より小雨降 即刻止 申の刻頃小雨降 即刻止
1843年	10月22日	天保14年	9月29日 快晴	
1843年	10月23日	天保14年閏9月1日	曇	申の刻過より雨ふり 夜に入同断 (人事異動)
1843年	10月24日	天保14年閏9月2日	曇	昨夜よりの雨今日に(人偏のような書き方)及び時々降
1843年	10月25日	天保14年閏9月3日	曇	申の刻頃雷鳴 則刻止 酉の刻頃より雨ふり 酉の刻雷鳴 則刻止
1843年	10月26日	天保14年閏9月4日	曇	昨夜より雨今日に及 時々降 申の刻頃雷鳴 即刻止 夜に入同断 (御献上の御鷹高覧、過料の期限は30日だが遅滞の者あり・遅れさせるなどの指示、丹後者の詮索送り返しの触れ)
1843年	10月27日	天保14年閏9月5日	曇	昨夜より之雨今日におよび時々ふり 夜に入同断
1843年	10月28日	天保14年閏9月6日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々ふり 夜に入同断 巳の刻頃雷鳴 即刻止 午の刻頃雷鳴 即刻止
1843年	10月29日	天保14年閏9月7日	曇	昨夜よりの雨今日におよび時々ふり (9月21日深浦出帆の当御廻船が時化で難船荷打ち・27日に秋田船川に入船・見分に勘定小頭等派遣)
1843年	10月30日	天保14年閏9月8日	曇	今日巳ノ刻頃雨降 即刻止 申ノ刻頃より雨降
1843年	10月31日	天保14年閏9月9日	曇	昨夜よりの雨今日におよび卯の刻頃止 辰の刻頃より小雨時々降 巳の刻頃止

1843年	11月1日	天保14年閏9月10日	曇	酉の刻より雨降 夜に入同断 (今日鷺の間で剣術高覧、御発駕金3000両など17200両が来年春までに必要・わからないが金繰りをしている)
1843年	11月2日	天保14年閏9月11日	曇	昨夜よりの雨今日二および申の刻止 亥の刻頃より雨時々ふ里 下から続く 金1両に付き112文目だったのを104文目・1歩に付き26文目・仁(2)朱に付13文目に仰せ付ける)
1843年	11月3日	天保14年閏9月12日	曇	昨夜よりの雨今日二および卯の刻過止 申の刻過より雨降 戌の刻過頃止 戌の刻過より西南の風邪強し ((領外の多数の金を借りている)商人に紋服・扶持等を下し置かれる、
1843年	11月4日	天保14年閏9月13日	晴	昨夜よりの風今晚寅の刻過止 上に続く
1843年	11月5日	天保14年閏9月14日	曇	辰の刻頃より小雨ふり即刻止 巳の刻過より雨降 申の刻過止 亥の刻過より雨ふ里
1843年	11月6日	天保14年閏9月15日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止
1843年	11月7日	天保14年閏9月16日	曇	辰の刻過より小雨時々ふ里 申の刻止 下から続く 往来差留の算用師峠を往来させた小泊村の庵主に禁足5日)
1843年	11月8日	天保14年閏9月17日	曇	未の刻過ぎ小雨降 即刻止 申の刻頃より小雨ふ里 酉の刻頃止 (去る13日明六時頃金井ヶ沢関村前浜で10人乗りの越後船が破船・乗合いに怪我なし、3月に旅僧を止宿させ
1843年	11月9日	天保14年閏9月18日	曇	亥の刻頃より雨降 (去月4日御廻船の筑前船が荷打ち(535俵)・7日房州館山に入津・勘定小頭が見分・去月24日品川沖に入津) 上に続く
1843年	11月10日	天保14年閏9月19日	曇	昨夜よりの雨今日二および時々ふ里
1843年	11月11日	天保14年閏9月20日	曇	昨夜雪少しふ里 今日雪少しふ里 (今日詰座敷で鎗術高覧)
1843年	11月12日	天保14年閏9月21日	曇	卯の刻過より小雨時々降 巳の刻過止
1843年	11月13日	天保14年閏9月22日	曇	巳の刻頃雨降 則刻止 (久栗坂村の漁師が亀(甲2尺7寸に2尺5寸くらい)を上げる、7月21日の大雨で後潟組各村の橋が流失・御手入)
1843年	11月14日	天保14年閏9月23日	快晴	(青森湊目付等7人が不調法として役下げ等になっている)
1843年	11月15日	天保14年閏9月24日	快晴	(今日鷺の間で剣術高覧、去る18日夜飯詰組神山村で稲乳焼失、今日立御徒目付預けで山吹銀850目江戸に登す)
1843年	11月16日	天保14年閏9月25日	快晴	(御献上鮭は当年格別不漁)
1843年	11月17日	天保14年閏9月26日	快晴	
1843年	11月18日	天保14年閏9月27日	曇	辰の刻過より雨降 酉の刻過止 (盗伐が見られるが大赦以前として……、当御廻船の遠州船が当月6日に三厩湊で痛損・修理に40両拝借作事を申付ける)
1843年	11月19日	天保14年閏9月28日	曇	(当月2日の大風で後潟組野田村で街道が浪欠け)
1843年	11月20日	天保14年閏9月29日	快晴	
1843年	11月21日	天保14年閏9月30日	快晴	
1843年	11月22日	天保14年	10月1日 曇	(手廻組頭に津軽多禄・御手廻四番組に山上才助の倅鉄太郎等の多数の人事異動、多数の御賞)
1843年	11月23日	天保14年	10月2日 曇	昨夜亥の刻頃より雨降
1843年	11月24日	天保14年	10月3日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過止 下から続く 当御廻船2艘が荷打ちの上上総奥津と申すところに入津・勘定小頭等派遣)
1843年	11月25日	天保14年	10月4日 曇	辰の刻過より雨降 午の刻過止 今日雪少し降 (兼ねて仰せ出され候射芸・馬術の高覧は御取延仰せ出される:これまでの高覧も度々取延体調を見てという感じだった、
1843年	11月26日	天保14年	10月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (大坂御廻船が荷打ちの上江差表江入津・見分に勘定小頭等派遣・荷打ち残御米700石ほど・冬で大坂には行けないとして鯨ヶ沢に差し戻す) 上に続く
1843年	11月27日	天保14年	10月6日 曇	今日雪降 五寸程積 (御郡代?並びに銀座上納金?1654両を8日に御徒目付付添で御登すよう申付ける、両替112文目
1843年	11月28日	天保14年	10月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (酒1升を1文目2分・1合を8文宛にと酒屋共が申し出る・仰せ付けがたい旨申し遣わす)
1843年	11月29日	天保14年	10月8日 曇	昨夜雪少々降 今日同断
1843年	11月30日	天保14年	10月9日 曇	
1843年	12月1日	天保14年	10月10日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日卯の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 (当2月晦日乙富下タ山八光山で喧嘩殺人の最上出生の男を碇ヶ関送り返し)
1843年	12月2日	天保14年	10月11日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 (新穀津出御印代:米1俵5文目・大豆1俵5文目) 下から続く 1文目・白酒2斗入り1樽2文目)
1843年	12月3日	天保14年	10月12日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (当卯年10月より来る辰の9月までの諸湊より津出御印代:小豆1俵5文目・粃1俵4文目・醤油2斗入り1樽1文目5分・味噌2斗入り1樽2文目・酢2斗入り1樽
1843年	12月4日	天保14年	10月13日 曇	今日雪少し降 (去る子年(今年は卯年:3年前?)入牢し病気で親類五軒組合見継(みつぎ:援助)になっていた久井名館村の男に6鞭居村払い) 上に続く
1843年	12月5日	天保14年	10月14日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 一尺位積
1843年	12月6日	天保14年	10月15日 晴	昨夜雪少し降 (各所の湊目付を任命、酒値段1升を1文目2分・1合を8文宛に申付ける)
1843年	12月7日	天保14年	10月16日 曇	今晩子之刻頃より小雨降 戌の刻過やむ 下から続く 遠冲合いで難船・秋田領男鹿浦松川江入津・勘定小頭の見聞では荷打ち430俵・濡れ米194俵・明春積登りとして困い置く)
1843年	12月8日	天保14年	10月17日 曇	今日雪少しふ里 (当8月17日に酒の上で傷害の男に押込20日、当月12日夜当御廻船遠州船が松前城下江潤懸中に出火・焼失、大坂御廻船の900石積み福寿丸が7月24日夜
1843年	12月9日	天保14年	10月18日 曇	昨夜雪八寸程積 今雪少々ふ里 (当6月より二ノ丸御住居御門日夜中……) 上に続く
1843年	12月10日	天保14年	10月19日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 21日から続く 8毛・内御定め役1文目2分で差引23文目5分7厘2毛となる)
1843年	12月11日	天保14年	10月20日 曇	昨夜雪少しふ里 今日雪降 二寸程積 (本多東作感冒・竹内又市風氣に付仕出し、御留守居支配赤石愛太郎の母が不行状で親類預け他出差留め)
1843年	12月12日	天保14年	10月21日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふ里 下から続く ・26文目1分2厘9毛(24匁2分6厘3毛)・この3ヶ所平均26匁6分7厘7毛(24匁7分7厘2毛):.昨年(の落札平均は22文目1分
1843年	12月13日	天保14年	10月22日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (両替112文目の弘前・青森・鯨ヶ沢御蔵米1俵値段(両替104文目立に直した場合):25文目2分8厘(23文目4分7厘5毛)・28文目6分2厘1毛(26匁5分7厘8毛)
1843年	12月14日	天保14年	10月23日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 五寸程積 (廃田を手段した(復興田を廃田のままとして税を逃れた?)水沼村庄屋を大赦以前として庄屋役取り放し9鞭居村徘徊はまで通り・滞納分納税)
1843年	12月15日	天保14年	10月24日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積
1843年	12月16日	天保14年	10月25日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 八寸程積 (当大坂御廻船1500石積み幸徳丸が9月5日房州秋穂浦で破船(10月4日記載事項かな))
1843年	12月17日	天保14年	10月26日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少しふ里
1843年	12月18日	天保14年	10月27日 曇	昨夜雪少しふ里 今日右同断 (広田組高瀬村・川山村の大規模な開発の話が出ている)
1843年	12月19日	天保14年	10月28日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (20年間実貞の庄屋に御賞)
1843年	12月20日	天保14年	10月29日 晴	
1843年	12月21日	天保14年	11月1日 曇	今日未の五刻日食七歩下右よりかけ初申の六刻上と右の間二納る 但終日雲 蝕不見得 (人事異動、年内2300石・来春2000石の黒石米の津出御免)
1843年	12月22日	天保14年	11月2日 曇	
1843年	12月23日	天保14年	11月3日 曇	昨夜雪少し降 今日同断
1843年	12月24日	天保14年	11月4日 曇	昨夜雪少し降 (御台所より初鱈差し出す、別段役が取り押さえ預けられた盗人を取り逃がした庄屋に過料1貫900文、今日剣術高覧)
1843年	12月25日	天保14年	11月5日 晴	今日酉之刻頃小雨ふ里 即刻止
1843年	12月26日	天保14年	11月6日 晴	(当大坂廻船が去々月(閏9月か)深浦を22日に出帆した所時化に逢い(蝦夷地)江差湊に落船・1650俵を入れる蔵を借りている)
1843年	12月27日	天保14年	11月7日 曇	今晚寅の刻過小雨降 辰の刻頃止 (鷺の間で剣術高覧、去月12日より同26日まで新石日々附相場平均値段(1俵):22文目3厘)
1843年	12月28日	天保14年	11月8日 曇	辰の刻過より小雨降り 即刻止 亥の刻過より雨ふ里 夜二入同断
1843年	12月29日	天保14年	11月9日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 今日雪ふり 一寸程積 (浪人跡の者が在在を徘徊・ねだりがましき儀などあり・止宿させるな合力するなどの触れ)
1843年	12月30日	天保14年	11月10日 曇	昨夜雪少しふ里 今日同断 (小泊脇元下前3か村の者共の鮮場行きの飯米はこの節半金上納残りは帰帆しだい上納とする・1俵を25文目立の仮値段とする)
1843年	12月31日	天保14年	11月11日 晴	昨夜雪ふり 三寸程積 今日雪少し降 (御家中の母等の高年者に銀(20両・15両・7両等)・料理などを下し置かれる)

1844年	1月1日	天保14年	11月12日	晴	今日雪少しふ里 下から続く 出帆しても又船川に戻りお米1250俵浮囲い濡れ米1000俵余もそのまま明春まで?)	
1844年	1月2日	天保14年	11月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (9月9日に鰺ヶ沢湊を出帆の当大坂御廻船3625俵積が三厩・平館に落船・入津、壬(閏)の省略形:初見)9月3日の時化で4日に船川に入船 上に続く	
1844年	1月3日	天保14年	11月14日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 未の刻頃より雨降 申の刻頃やむ (去る酉年(今年は卯年)10月より当閏9月中お借り入れの調達金は51891石?分からないが惨憺たる物)	
1844年	1月4日	天保14年	11月15日	曇	昨夜雪少しふ里 (古懸不動尊御出汗・神楽を行わせ五山で御祈禱を仰せ付ける) 下から続く 御常用大御時計痛損・御時計師に419文目5分で修復させる)	
1844年	1月5日	天保14年	11月16日	晴	昨夜雪少し降 (南部から馬を盗み……の男2人に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者にも戸ヱ等の罰) 下から続く 同下々半切れ100枚に付き1文目3分(紙の値段は珍しい)、 上に続く	
1844年	1月6日	天保14年	11月17日	曇	未の刻過より西南風強 即刻止 申の刻頃より雨降 夜二入同断 (紙御蔵御有合せに付この度御家中希の面々に代銭上納の上御払:御国漣鼠下半切れ100枚に付き1文目7分 上に続く	
1844年	1月7日	天保14年	11月18日	曇	昨夜よりの雨今晚子之刻過止 今日雪少し降 二寸程積 (今15日朝までに十三湯が前後とも氷閉さず、土手町で無刻印の檢皮等摘発・犯人逃亡・刻印の上入れ払いとする)	
1844年	1月8日	天保14年	11月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 右同断	
1844年	1月9日	天保14年	11月20日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 1日遅く節に引合21日遅い)	
1844年	1月10日	天保14年	11月21日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (御手廻組頭喜多村監物を用人兼帯の人事異動、去る10日夜より翌11日迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻まで氷張る・当年は日数に引合 上に続く	
1844年	1月11日	天保14年	11月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少しふり (御用材盗出の鷹等を揚屋から出す・鷹の者は御給分召上げ永の暇鷹は解雇?盗伐のあった村々に過料等、津出御印1文目上げ1俵6文目とする)	
1844年	1月12日	天保14年	11月23日	晴	昨夜雪少し降 (銀に金を焼付け小判として使った男を大赦以前として5里四方追放・過料等の罰)	
1844年	1月13日	天保14年	11月24日	曇	今日雪少し降 (朝鮮人参目形12匁6分13本入りが金40両・目形1分につき33文目1厘6毛に相当)	
1844年	1月14日	天保14年	11月25日	晴	昨夜雪少し降 (人事異動)	
1844年	1月15日	天保14年	11月26日	曇	今日雪少し降 (去る24日夜御家中の木部屋焼失)	
1844年	1月16日	天保14年	11月27日	曇	今日雪少し降 今日右同断	
1844年	1月17日	天保14年	11月28日	快晴	(盗みの秋田男を碇が関口送り返し・その際乞食小屋に廻し乞食に面体見せ置く、他国者を止宿させた・預けの男に逃げられた等でそれなりの罰)	
1844年	1月18日	天保14年	11月29日	曇	今日雪少し降	
1844年	1月19日	天保14年	11月30日	晴		
1844年	1月20日	天保14年	12月1日	曇	今日雪少し降 (人事異動)	
1844年	1月21日	天保14年	12月2日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 下から続く 以前として御用捨・殺人者は逃亡し人相書きで證議)	
1844年	1月22日	天保14年	12月3日	晴	(所々で盗みの男に3鞭弘前御構い、喧嘩で殺された男の妻が無届けで内済にし米金を貰い9鞭・それを助けた被害者の従弟に3鞭・共に居町徘徊はまで通り・関係者は大赦 上に続く	
1844年	1月23日	天保14年	12月4日	曇	今晚子之刻過地震少し 今日雪少し降 (青森町の金沢屋を10人扶持御用達にする、前田常次郎が勝手方不如意・米を貸し付けている、2軒の御用達御免)	
1844年	1月24日	天保14年	12月5日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 一寸程積 (浄瑠璃並びに祭文?にて寄せ興行客が入らない・浄瑠璃と寫絵で30日の寄せ興行を申付ける・札銭は1人に付3分とする	
1844年	1月25日	天保14年	12月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1844年	1月26日	天保14年	12月7日	曇	(飛脚の荷物が重すぎる・並飛脚には大の御状箱1・9日振は中の御状箱1・8日振は小の御状箱1・7日振6日振は格別・目方は可成文3貫目まで?、多くの商人から御米の拝借願い)	
1844年	1月27日	天保14年	12月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (蠟燭御蔵に蠟燭不足・生蠟300貫目を1斤6文目値段で購入申付ける、米大豆高値・味噌8貫目……分からん)	
1844年	1月28日	天保14年	12月9日	曇	今晚子之刻頃より小雨降 寅之刻過止 今日雪少し降 (造酒家業誓願寺前岩見屋等に御褒美、長勝寺から位牌を盗み取った盛雲院隠居の弟子を斬罪)	
1844年	1月29日	天保14年	12月10日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1844年	1月30日	天保14年	12月11日	曇	今日雪少し降 (松前表で焼失の御廻船の上乗を揚屋・下乗を他出差留親類見継・船頭腰縄付で揚屋・水主9人を本縄付で入牢とする) 下から続く 大豆は1文目増で6文目に申付ける)	
1844年	1月31日	天保14年	12月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (大赦以前の博打で御用捨あり、大坂御廻米積の船が松前領小嶋沖合で遭難・御米荷打の上江戸表に入津、米津出御印2文目増で8文目・ 上に続く	
1844年	2月1日	天保14年	12月13日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降	
1844年	2月2日	天保14年	12月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (大赦以前の檢の切株等が見つかり御用捨・それ以降については過料等の罰)	
1844年	2月3日	天保14年	12月15日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、多数に御賞、他領名目の船を乗り回すものあり)	
1844年	2月4日	天保14年	12月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (所々で盗みの袖乞2人に3鞭宛弘前御構い、当6月浦町村庵寺で博打の4人に3鞭宛居町徘徊はまで通り、所々で盗みの男を母に引渡し)	
1844年	2月5日	天保14年	12月17日	晴		
1844年	2月6日	天保14年	12月18日	晴		
1844年	2月7日	天保14年	12月19日	晴		
1844年	2月8日	天保14年	12月20日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 三寸程積	
1844年	2月9日	天保14年	12月21日	晴	昨夜雪少し降	
1844年	2月10日	天保14年	12月22日	曇	(当春以来砲術師範家5軒……)	
1844年	2月11日	天保14年	12月23日	曇	(森岡民部の慎み御免・親類見継の上蟄居・見継人の外近親たりとも対面差留め・家督は追って沙汰と仰せ付けられる)	
1844年	2月12日	天保14年	12月24日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1844年	2月13日	天保14年	12月25日	晴	(高年者に御酒代等を下し置かれる)	
1844年	2月14日	天保14年	12月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1844年	2月15日	天保14年	12月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (御賞(銀5両・銀4両・鳥目800文・銀3両・鳥目750文・鳥目400文・金100疋・金200疋・銀1両・鳥目1貫700文・鳥目1貫200文・鳥目150文))	
1844年	2月16日	天保14年	12月28日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞(銀子1枚・金100疋・金200疋・南鐐3片・鳥目700文・鳥目500文・鳥目300文))	
1844年	2月17日	天保14年	12月29日	曇	今日雪少し降	
1844年	2月18日	天保15年正月1日		晴		
1844年	2月19日	天保15年正月2日		快晴		
1844年	2月20日	天保15年正月3日		快晴 (今晚御謡初)		
1844年	2月21日	天保15年正月4日		晴 (今日も御謡初?、大鰐村加賀助より七草差上げる)		
1844年	2月22日	天保15年正月5日		曇	未の刻過小雨ふり 即刻止	
1844年	2月23日	天保15年正月6日		曇	今日雪少し降	
1844年	2月24日	天保15年正月7日		曇	昨夜雪ふり 一寸程積り 今日雪少しふり	
1844年	2月25日	天保15年正月8日		晴	昨夜雪少し降	
1844年	2月26日	天保15年正月9日		曇	今日雪少し降	
1844年	2月27日	天保15年正月10日		曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (昨29日夜四時頃北浮田村飛龍宮が出火・御堂鳥井等焼失)	
1844年	2月28日	天保15年正月11日		曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (人事異動、去る2日昼飯詰村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)	
1844年	2月29日	天保15年正月12日		晴	昨夜雪少し降 酉の刻頃より小雨降 戌の刻頃止	

1844年	3月1日	天保15年正月13日	晴	
1844年	3月2日	天保15年正月14日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1844年	3月3日	天保15年正月15日	曇 (人事異動)	
1844年	3月4日	天保15年正月16日	快晴	
1844年	3月5日	天保15年正月17日	快晴	
1844年	3月6日	天保15年正月18日	快晴	
1844年	3月7日	天保15年正月19日	晴	
1844年	3月8日	天保15年正月20日	快晴 昨夜雪少し降 (酒1升到付1文目3分5厘・1合売りは9文に売り出しを申付ける、9月6日鰯ヶ沢出帆大坂御廻米1100石積大丸が但州〇山沖で難船荷打ち、今暁神明宮御神楽殿が雪潰れ)	
1844年	3月9日	天保15年正月21日	曇 巳の刻頃より小雨時々降 夜に入同断	
1844年	3月10日	天保15年正月22日	曇 昨夜より乃雨今日ニ及 巳の刻頃止 辰の刻頃泥降(泥降でしょうが酒降にも読めるような書き方です:何があったのでしょうか例えば黄砂?)	
1844年	3月11日	天保15年正月23日	快晴 昨夜雪少し降 二寸程積	
1844年	3月12日	天保15年正月24日	快晴 昨夜雪少し降 (鷺の間で剣術高覧・大寄合以上の面々見物)	
1844年	3月13日	天保15年正月25日	快晴 (松前家から簡業御払の要望が来ている)	
1844年	3月14日	天保15年正月26日	曇 昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 七寸程積	
1844年	3月15日	天保15年正月27日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (今日鎗術高覧・大寄合以上の面々見物)	
1844年	3月16日	天保15年正月28日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1844年	3月17日	天保15年正月29日	快晴 酉の刻頃より小雨降 即刻止	
1844年	3月18日	天保15年正月30日	晴	
1844年	3月19日	天保15年	2月1日 晴 (人事異動、文政13寅年四役出合い見分の漆木133万3790本・今もって文化年中に仰せ付けられた300万本には届かない)	
1844年	3月20日	天保15年	2月2日 晴 昨夜酉乃刻過より雨時々降 子の刻過止	
1844年	3月21日	天保15年	2月3日 曇 卯の刻過より小雨時々降	
1844年	3月22日	天保15年	2月4日 曇 昨夜よりの雨今日ニ及 時々降り 巳の刻過止 午の刻頃より小雨降 則刻止 (今日剣術和術高覧、合船入用の桧10本の伐り出しを申し付ける)	
1844年	3月23日	天保15年	2月5日 晴 (御省略に関する人事異動)	
1844年	3月24日	天保15年	2月6日 曇 (今日長刀高覧)	
1844年	3月25日	天保15年	2月7日 晴 昨夜戌の刻頃より雨時々ふり丑の刻頃止 (赤石愛太郎の不行状の母を浦町組荒川村に移している)	
1844年	3月26日	天保15年	2月8日 晴 昨夜雪少し降 (鷺の間で剣術高覧、角材にした際に刻印を削り落したとの言い訳が通っている)	
1844年	3月27日	天保15年	2月9日 快晴	
1844年	3月28日	天保15年	2月10日 快晴	
1844年	3月29日	天保15年	2月11日 晴 (去る6日朝より7日朝まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は2月7日より8日で当年は日数に引合1日早く説に引合19日遅い)	
1844年	3月30日	天保15年	2月12日 晴	
1844年	3月31日	天保15年	2月13日 晴 (野火付けるなどの触れ)	
1844年	4月1日	天保15年	2月14日 晴 (鷺の間で剣術高覧、十三湯前後が残らず氷明ける) 下から続く 通り・その仲間2人にも過料600文宛)	
1844年	4月2日	天保15年	2月15日 曇 昨夜雪少し降り 昨夜亥の刻頃より雨降り 今日辰の刻頃止 今日雪少し降り 午の刻頃より雨降り 未の刻過止 (代官加勢に御賞・人事異動、盗みの男に3鞭居村徘徊はまで 上に続く	
1844年	4月3日	天保15年	2月16日 曇 今日雪少し降り	
1844年	4月4日	天保15年	2月17日 曇 昨夜雪少し降り 今日雪少し降り	
1844年	4月5日	天保15年	2月18日 晴 (今日剣術高覧)	
1844年	4月6日	天保15年	2月19日 快晴 (今日和術棒術高覧)	
1844年	4月7日	天保15年	2月20日 快晴	
1844年	4月8日	天保15年	2月21日 晴	
1844年	4月9日	天保15年	2月22日 曇 今暁卯乃刻過より雨降り 巳乃刻頃止	
1844年	4月10日	天保15年	2月23日 曇 午の刻過より小雨時々降り 酉の刻過止	
1844年	4月11日	天保15年	2月24日 快晴 ((閏9月22日記述の)亀を上げた漁師どもに去る午年の例にならない御酒代1貫文下し置かれる)	
1844年	4月12日	天保15年	2月25日 快晴 (剣術和術高覧)	
1844年	4月13日	天保15年	2月26日 曇 今日午の刻過より雨降り 酉の刻頃止 (去月24日御構地に立入りの上又窃盗の男に3鞭弘前御構い)	
1844年	4月14日	天保15年	2月27日 曇 今日申の刻雪少し降 (出雲守殿より町奉行に川鯉1尺宛送る、御手廻小嶋繁太郎・館田村百姓五郎市の2人が19日出奔人相書きで手配・背5尺2寸位等等)	
1844年	4月15日	天保15年	2月28日 曇 今暁寅の刻頃より小雨降り 巳の刻頃止 (喜多村監物を城代格家老職手伝いと的人事異動、紙御蔵手付動中の私曲の男を入牢)	
1844年	4月16日	天保15年	2月29日 曇 今暁卯の刻より雨時々降 夜二入同断 今日雪少し降り	
1844年	4月17日	天保15年	2月30日 曇 昨夜雪少し降 一寸程積り (剣術高覧、雇われて御給人(藩から給与を受ける者?)が催促人として派遣される例がある・心得違いとの触れ、博打で揚屋の男に3鞭居村徘徊はまで通り)	
1844年	4月18日	天保15年	3月1日 曇 今日巳の刻過より雨降り 亥の刻頃止 (人事異動、熊野宮(袋宮寺の方)の御神鏡等が盗まれている)	
1844年	4月19日	天保15年	3月2日 曇 (三ノ御郭之内東御門脇より南の方大手御門迄……、御本城御裏通西ノ御郭江下候坂之辺南の方江平一面二(その他の場所にも)矢柄竹植付ル様に仰せ付ける)	
1844年	4月20日	天保15年	3月3日 晴 (人事異動)	
1844年	4月21日	天保15年	3月4日 曇 今日辰の刻より雨降 (頃日天気不正に付き丹後者詮索・見当て次第早速送り返すようにとの触れ)	
1844年	4月22日	天保15年	3月5日 曇 昨夜より之雨今日ニ及時々降り (熊野宮から盗まれた品が今朝袋宮寺の玄関に残らず差し置かれていた)	
1844年	4月23日	天保15年	3月6日 曇 昨夜よりの雨今暁子の刻止 未の刻過雨降り 夜二入 戌の刻止	
1844年	4月24日	天保15年	3月7日 晴	
1844年	4月25日	天保15年	3月8日 晴 (牢奉行工藤某の倅が棒術和術縄術とも皆伝・無勤料で町同心明跡に見習い申付ける)	
1844年	4月26日	天保15年	3月9日 快晴 下から続く 昨晩六半頃白狐寺で出火・勝手廻り焼失)	
1844年	4月27日	天保15年	3月10日 晴 申の刻頃より雨降り 夜二入同断 下から続く なで下から穿出され助かる、松前様の家来が道中で不祥事(今別町奉行報告)、去月晦日箱館で出火・8・9分通り焼失、 上に続く	
1844年	4月28日	天保15年	3月11日 晴 昨夜より之雨今暁寅の刻頃止 今日卯の刻頃より小雨降り 辰の刻頃止 (去月24日昼九時頃横内村領酸ヶ湯小屋江雪などで(雪崩のこと)走り落ち湯治人の内6人即死・3人は 上に続く	
1844年	4月29日	天保15年	3月12日 快晴 (松前家から簡業御払の要望が来ている・焰焔(えんしょう:焰硝:硝酸カリウム)埃の穿取り方は25・6年ないがまだある・大中小芥子で他払い値段平均7文目9分8厘4毛? 欄外(*)に続く	
1844年	4月30日	天保15年	3月13日 曇 卯の刻過ぎより小雨ふり 巳の刻過止	

(*)簡業20斤を1斤に付き8文目で簡業調合の上差し遣わす、昨夜四時頃太鼓嶺御用が火元見届け御用の帰途負傷、秋田大久保の菅原某(世話になる宿?)に御手当金5両下し置かれる)

1844年	5月1日	天保15年	3月14日 晴	(一昨11日夜増館組久井名館村で出火・火元百姓を阿置く)
1844年	5月2日	天保15年	3月15日 快晴	(矢棒録(矢炮録:炮録火矢)の稽古を仰せ付けられる・5丁場・8丁場・10丁場・木筒10貫目(赤雲光・大白烟・白烟柳・玉烟柳)、独鈷村の一昨年の傷害事件等を大赦以前で御用捨等)
1844年	5月3日	天保15年	3月16日 快晴	
1844年	5月4日	天保15年	3月17日 曇	巳の刻過より小雨時々ふり 夜二入同断 (屋敷内の木を届けなく伐り取り家作して過料600文等)
1844年	5月5日	天保15年	3月18日 曇	昨夜よりの雨今暁子の刻過止
1844年	5月6日	天保15年	3月19日 快晴	下から続く 過料銭100貫余等々、先回の分にこの度上納分を合わせ山吹銀3貫800目を登す)
1844年	5月7日	天保15年	3月20日 曇	申の刻過より雨ふり 夜二入同断 (奇応丸?2剂調合・朝鮮人参目形2文目4分より金箔40枚迄5口を申出の通り御蔵渡申付けける、差渡し1寸から2寸の切株2000本余あり・村に 上に続く
1844年	5月8日	天保15年	3月21日 晴	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止
1844年	5月9日	天保15年	3月22日 曇	未の刻過より雨降り 夜二入同断 (春日町裏通りに変死(24日の記事で縊死)の者あり)
1844年	5月10日	天保15年	3月23日 曇	昨夜よりの雨卯の刻過止 未の刻過より小雨ふり 酉の刻過止
1844年	5月11日	天保15年	3月24日 曇	未の刻頃地震少し (岩木川出水・駒越渡し場馬船今五半時頃より往来差止る)
1844年	5月12日	天保15年	3月25日 曇	今日申の刻頃より雨ふり 夜二入同断
1844年	5月13日	天保15年	3月26日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々ふり 夜二入同断
1844年	5月14日	天保15年	3月27日 曇	昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止 (御当発駕来る18日と仰せ出される)
1844年	5月15日	天保15年	3月28日 晴	
1844年	5月16日	天保15年	3月29日 快晴	
1844年	5月17日	天保15年	4月1日 快晴	(人事異動、……11日夕より12日朝迄5尺5寸籌4本清酒残らず分幕江入替え隣家江取賦隠居隠し居り……:籌とは醸造用の酒樽のこと?)
1844年	5月18日	天保15年	4月2日 曇	(大坂から昨年の御廻米の減石について窮状が来ている)
1844年	5月19日	天保15年	4月3日 曇	(小嶋嘉兵衛(相馬大作事件の当事者)御尋ねの御用あり手鎖の上他出差留め親類見継・齋藤某も召捕られ入牢・関係しているのかどうか分からないが数人が出奔:後で見ると全員が関係)
1844年	5月20日	天保15年	4月4日 晴	下から続く 公儀に呼び出されている)
1844年	5月21日	天保15年	4月5日 曇	今日卯の刻過雨ふ里 辰の刻頃止 申の刻過より雨ふり 夜に入同断 (御留守居支配が昨晚病気で傷害事件・手鎖の上養生させたいとのことで手鎖を貸す、大光寺庄屋等が 上に続く
1844年	5月22日	天保15年	4月6日 曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止
1844年	5月23日	天保15年	4月7日 曇	(去る4日夜日沼村の男が境関村で手負い、頃日天気不正に付き護穀神で日和揚の御祈禱を仰せ付けける)
1844年	5月24日	天保15年	4月8日 曇	巳の刻過より小雨時々降 酉の刻過止 戌の刻過より雨ふ里
1844年	5月25日	天保15年	4月9日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々ふ里 申の刻過止 (去る8月9日に博打の土堂村蒔苗村三ツ森村の10人に3鞭宛居村徘徊はまで通り・関係五軒組合8人に過料銭900文充)
1844年	5月26日	天保15年	4月10日 晴	
1844年	5月27日	天保15年	4月11日 晴	(小嶋嘉兵衛などを江戸に手鎖付山駕籠で送る手続きの案文あり)
1844年	5月28日	天保15年	4月12日 曇	辰の刻過より雨ふ里 夜に入同断 (小嶋嘉兵衛と齋藤源八郎を江戸に送る駕籠が古く御買上)
1844年	5月29日	天保15年	4月13日 晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止
1844年	5月30日	天保15年	4月14日 快晴	(御持鍵宿にて男が手負い、当2月20日出奔の大光組百姓の人相書:年齢37歳・背(せい)5尺位等々)
1844年	5月31日	天保15年	4月15日 快晴	(毛内有右衛門産褥御免、公儀御呼出人の取扱方などあり)
1844年	6月1日	天保15年	4月16日 快晴	(江戸での答弁のモデルあり・三奉行は300石御役本分の通り等々:凡そ倍ですな)
1844年	6月2日	天保15年	4月17日 曇	今暁子の刻過より雨時々ふ里 申の刻過止 (去月26日深浦澗口に大坂船が難船、不明日に青森湊で能州船の水主が病死)
1844年	6月3日	天保15年	4月18日 曇	申の刻頃より小雨時々ふ里 夜に入同断 (小嶋嘉兵衛等が今日江戸へ出立)
1844年	6月4日	天保15年	4月19日 曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々ふ里 申の刻過やむ
1844年	6月5日	天保15年	4月20日 晴	(去る14日赤石組一ツ森村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け)
1844年	6月6日	天保15年	4月21日 晴	(この度御試に西の郭に赤石組沢部村より穿出した御矢竹植付ける、駒越渡の長船新規合船のため長勝寺黒門脇より杉3本伐り取る)
1844年	6月7日	天保15年	4月22日 曇	卯の刻頃地震少し 未の刻過より小雨ふり 夜に小さめ時々ふ里 (去る6日出水・流木)
1844年	6月8日	天保15年	4月23日 晴	
1844年	6月9日	天保15年	4月24日 快晴	(揚屋内の男病死)
1844年	6月10日	天保15年	4月25日 曇	(当2月12日昼頃碇ヶ関領大落前沢の内岩屋沢雪などで(なだれ)落ち欠崩れ(長100間位幅40間位)・右(その)水溜(長サ200間位幅20間位深サ5間位))
1844年	6月11日	天保15年	4月26日 晴	
1844年	6月12日	天保15年	4月27日 曇	申の刻過小雨ふ里 戌の刻過止
1844年	6月13日	天保15年	4月28日 晴	
1844年	6月14日	天保15年	4月29日 晴	
1844年	6月15日	天保15年	4月30日 快晴	
1844年	6月16日	天保15年	5月1日 晴	(人事異動、御賞、浅虫村の湯小屋で秋田浪人に手傷を負わされた青森寺町の女あり、去月28日俵元新田浅井村で百姓家出火・外馬屋も焼失)
1844年	6月17日	天保15年	5月2日 晴	(浅虫で怪我をした女を野内御関所を早速通す)
1844年	6月18日	天保15年	5月3日 曇	
1844年	6月19日	天保15年	5月4日 曇	
1844年	6月20日	天保15年	5月5日 晴	
1844年	6月21日	天保15年	5月6日 晴	
1844年	6月22日	天保15年	5月7日 晴	
1844年	6月23日	天保15年	5月8日 快晴	
1844年	6月24日	天保15年	5月9日 曇	
1844年	6月25日	天保15年	5月10日 曇	昨夜戌刻頃小雨降 即刻止 今日申之刻頃より小雨降 酉之刻過やむ
1844年	6月26日	天保15年	5月11日 晴	
1844年	6月27日	天保15年	5月12日 快晴	(附木屋どもが硫黄62俵取出し願ひ・御武具蔵御用30貫目と紙御蔵御用20貫目の取出し方を申付けける) 下から続く 川尻辺りで荷打ち14日品川沖に入津)
1844年	6月28日	天保15年	5月13日 曇	未之刻過より小雨降 夜二入同断 (去る卯年収納・当辰年江戸廻米30000石(定例53342石)・当辰年大坂廻米22930石(定例37250石)、去る9日当御廻船野州船が常陸の国 上に続く
1844年	6月29日	天保15年	5月14日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 巳之刻過より雨降 申之刻過止
1844年	6月30日	天保15年	5月15日 晴	

1844年	7月1日	天保15年	5月16日 晴	(南溜池大矢場で御家中の射芸御名代として御家老見分)	
1844年	7月2日	天保15年	5月17日 晴	申の刻頃より小雨ふり (昨日残りの射芸見分)	
1844年	7月3日	天保15年	5月18日 曇	昨夜より之小雨今暁寅之刻過止 巳之刻頃より雨ふり (金価104文目のはずが青森で112文目立・もめている)	
1844年	7月4日	天保15年	5月19日 曇	申之刻過より小雨降 酉之刻過止 下から続く との仰せ付け・他の出奔中の百姓共も巳の松の吟味のためであるが出奔している今日より10日限りで尋ねだせとのこと・他は無罪)	
1844年	7月5日	天保15年	5月20日 曇	(御不例に付御献上蕨の御名代として御家老中が見分) 下から続く 9日小嶋繁太郎は奥州無宿巳之松事与助の吟味で呼出したが当2月19日出奔した5日限りで尋ね出せ	上に続く
1844年	7月6日	天保15年	5月21日 晴	昨夜戌之刻頃小雨降 即刻止 (外馬場で御名代として馬術見分) 下から続く 村役町役共えは明日罷り出るようその節小嶋繁太郎を知る者を召連れるよう申付けられる・	上に続く
1844年	7月7日	天保15年	5月22日 晴	(駒込村領山下等に切株・過料・5月6日江戸に御呼出の面々到着・8日小嶋嘉兵衛と斎藤源八郎が御奉行所に罷り出る・源八郎は揚屋入り申し付けられ嘉兵衛にはお尋ねなし・	上に続く
1844年	7月8日	天保15年	5月23日 曇	巳之刻過より小雨降 即刻止 未之刻過より雨降 夜二入同断	
1844年	7月9日	天保15年	5月24日 曇	昨夜より之雨今日二および 午之刻過止 (青田の内笛吹くなどの触れ)	
1844年	7月10日	天保15年	5月25日 晴	戌之刻頃より雨ふり	
1844年	7月11日	天保15年	5月26日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳之刻過止	
1844年	7月12日	天保15年	5月27日 曇	午之刻過より小雨降 即刻止 (外馬場で御名代御家老が馬術見分)	
1844年	7月13日	天保15年	5月28日 晴	(御賞・町奉行所から留書きが盗み取られている、村に附火と訴えられ入牢中の作道村支配茶屋町補助女房を出牢)	
1844年	7月14日	天保15年	5月29日 晴		
1844年	7月15日	天保15年	6月1日 快晴	(去月27日秣刈に行き小栗山の男が口論・怪我)	
1844年	7月16日	天保15年	6月2日 曇	巳之刻過より小雨時々ふり (外馬場で馬術を御名代として御家老見分)	
1844年	7月17日	天保15年	6月3日 曇		
1844年	7月18日	天保15年	6月4日 曇	今暁寅之刻頃雨降 辰之刻頃止	
1844年	7月19日	天保15年	6月5日 晴	辰之刻過地震少し	
1844年	7月20日	天保15年	6月6日 晴	今暁丑之刻過より雨降 寅之刻過止	
1844年	7月21日	天保15年	6月7日 晴	(御名代御家老中が馬術見分)	
1844年	7月22日	天保15年	6月8日 曇	午之刻過雨降 即刻止 (赤石組細ヶ平村の偽銀取扱の詮議中に出奔し戻った男2人を入牢)	
1844年	7月23日	天保15年	6月9日 快晴	(昨6日公儀御呼出し御用の面々が下着・大豆御印7文目立を1俵5文目立二申付ける・送り返した秋田者を送り返す・胡乱の者止宿の男に過料1貫500文・関係者にも過料等)	
1844年	7月24日	天保15年	6月10日 快晴	(去る6日夕堀越組取上村の百姓が以下支配の二男に獄でたたかれ手傷・犯人は親預け他出差留)	
1844年	7月25日	天保15年	6月11日 快晴	(日時不明に八幡御蔵(4間×20間)倒損・領内のどこかの湊で大坂御廻船神力丸が水船になる)	
1844年	7月26日	天保15年	6月12日 快晴	(御用疏黄50貫目附木屋疏黄62俵の取立て相済む)	
1844年	7月27日	天保15年	6月13日 快晴		
1844年	7月28日	天保15年	6月14日 快晴	(この節紙御蔵に有合せの熊皮17枚(上位5枚・中4・下5・下々2・無位1)・去る丑年(今年は辰年)より昨年まで獵師共に下し置かれる内10枚が不渡り・下々位は獵師に渡すよう申付ける)	
1844年	7月29日	天保15年	6月15日 快晴	(去年江戸廻り御廻船に乗り組み松前表で乗船焼失の水主7人を出牢の上揚屋入り)	
1844年	7月30日	天保15年	6月16日 晴		
1844年	7月31日	天保15年	6月17日 快晴	(去る3日夜田野沢村沖で越後船が破船、去月22日鰯ヶ沢出帆の大坂御廻船神力丸が沖合いで水船になり船中橋船で深浦江上陸・本船は行方不明)	
1844年	8月1日	天保15年	6月18日 快晴	(御郭周りに落書で怒られている)	
1844年	8月2日	天保15年	6月19日 快晴		
1844年	8月3日	天保15年	6月20日 快晴	(小泊村領御山に切株125本等・村の者五軒組合庄屋等に過料合わせて35貫文位、屋形様当御参府御不例に付き追々御日延べ仰せ出されている)	
1844年	8月4日	天保15年	6月21日 快晴	下から続く 去る卯年菜種買入値段平均(1俵)26文目5分・この節買入値段22文目位)	
1844年	8月5日	天保15年	6月22日 快晴	(青森湊口常燈新規取立の積りにて去る未年(今年は辰年)より水主1人に付20文充て船の大小に拘らず役世銭同様問屋共手を以って当年迄10ヵ年取り立て……もめている、	上に続く
1844年	8月6日	天保15年	6月23日 快晴	(他領者を長々止宿させた大光寺村の男に6鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料送り返し等、江戸から役下げの成田甚吉等を手鎖等厳重な警固の下に送り返している)	
1844年	8月7日	天保15年	6月24日 曇	巳之刻過雨降 即刻止 (去る18日浦町組堤村の夜宮で子供芝居舞台潰れ下で子供が死亡)	
1844年	8月8日	天保15年	6月25日 曇	今暁卯之刻頃より里雨ふり 辰之刻頃止 (成田甚吉を一問所入り・長柄の者宮沢栄八を召捕り揚屋入り)	
1844年	8月9日	天保15年	6月26日 晴		
1844年	8月10日	天保15年	6月27日 晴		
1844年	8月11日	天保15年	6月28日 快晴		
1844年	8月12日	天保15年	6月29日 晴	(御馬廻より代官加勢の男2人が御用钱内済等不埒・御奉公遠慮)	
1844年	8月13日	天保15年	6月30日 晴	(御初穂差し上げる、山本三郎左衛門が病死)	
1844年	8月14日	天保15年	7月1日 快晴	(去る午年より8ヵ年の間究民に施薬45000丁余の在医に御賞金300疋など、屋形様少々御不例、御家中渡米2500俵を米屋4人に拝借申付ける)	
1844年	8月15日	天保15年	7月2日 快晴		
1844年	8月16日	天保15年	7月3日 快晴	(去月17日(以前)に小嶋嘉兵衛が江戸出立を許される・仙台領を廻り墓参して帰りたいとの願いの通り仰せ付ける)	
1844年	8月17日	天保15年	7月4日 曇	午の刻頃地震少し 即刻過雨ふり 即刻止 未の刻過雨ふり 即刻止 (忖婦た他町往来差留を申し遣わす)	
1844年	8月18日	天保15年	7月5日 快晴	(水練指南の4人に御賞(銀2両宛))	
1844年	8月19日	天保15年	7月6日 晴	下から続く 頃より大雨で大水・白沢橋御仮屋裏通り仮橋等流失・昨10日昼9時過大橋流失・八時過一段水勢強く暮頃より水引夜分より落水)	
1844年	8月20日	天保15年	7月7日 晴	(今暁八時頃松森町で出火・隣家2軒類焼・火元日雇い憤申付け置く) 下から続く 碇ヶ関では去る8日より雨天・翌9日夜中より大雨・昨10日朝五時過より出水引続四ツ時	上に続く
1844年	8月21日	天保15年	7月8日 曇	今日辰の刻頃雨降り 即刻止 午之刻頃雨ふり 即刻止 (小嶋嘉兵衛が昨晚帰着) 11日から続く 昨日の洪水で藤崎村仮橋が残らず流失、駒越渡場一時往来差留め、	上に続く
1844年	8月22日	天保15年	7月9日 曇	今暁子の刻雨降り 即刻止 未の刻頃小雨ふり 則刻止 下から続く 1200石積の大坂御廻船も積み込めていない)	
1844年	8月23日	天保15年	7月10日 曇	今暁子の刻過小雨ふり 巳の刻頃止 午の刻頃雨強し 申の刻過止 (駒越川7歩余の出水・防方仰せ付けられ暮頃落水、去月6日青森入津の江戸御廻船の御米積入れ延引中・	上に続く
1844年	8月24日	天保15年	7月11日 曇	辰の刻頃より雨降 午の刻過止 (昨10日の出水で石川村一村田畑水損住家数十軒流失・大橋残らず流失・上の方村々数十軒押流す・落水位次第取調べ報告するとの代官報告、	8日に続く
1844年	8月25日	天保15年	7月12日 晴	14日から続く 赤田組水湛田方64丁5反・畑方76丁7反、広田組村々の水湛田方204町5反・畑方107町3反、多くの村の水湛も見える)	
1844年	8月26日	天保15年	7月13日 曇	今暁卯之刻過より雷雨時々 未之刻過止 (10日洪水で広須両組村々に一切破損なし、湯ノ沢銀山敷口山崩れで潰れ・大煙拔より川水押入り・居小屋橋等流失・死者2怪我人2)	
1844年	8月27日	天保15年	7月14日 曇	(10日の増水(平水よりの高さ増):岩木川1丈1尺位・平川1丈2尺位(大鰐村領で1丈8尺位)・金木川1丈4尺位・薄市川今泉川相内川1丈2尺位・嘉瀬川等8尺位より9尺位迄、	12日に続く
1844年	8月28日	天保15年	7月15日 曇	(八幡館村領大羽川大口に水死者の者1人あり)	
1844年	8月29日	天保15年	7月16日 曇	今暁寅の刻過雨降り 辰の刻過止 (田畑とも川欠け水湛砂押上り:和徳組68町・堀越組129町潰れ家1軒・後湯組橋が数ヶ所流失)	
1844年	8月30日	天保15年	7月17日 快晴	((10日の洪水で)碇ヶ関より石川村迄の橋々残らず流失) 下から続く 流れ50人位流失100人は流生・田方20町位流失)・蔵館村建家5軒・碇ヶ関村建家2軒 欄外(*)に続く	
1844年	8月31日	天保15年	7月18日 晴	(本長峰村で流失家9軒・石川村13軒傷家20軒・宿川原村8軒男女2人痛家23軒馬2疋・大鰐村多数(建家62軒・潰家2軒・不残痛家・湯小屋26軒・馬屋木小屋共50軒・男女150人が	上に続く

(*) 痛家2軒・唐牛村田畑等、去る10日の洪水に伴う猿糞・田舎館・赤田・藤代・金木組の被害は調査中)

1844年	9月1日	天保15年	7月19日 晴	(浅瀬石川の10日の出水は温湯村で9尺5寸、在目付けを名乗って盗みなどの男に3鞭居村徘徊是まで通り・この仲間は出奔?)
1844年	9月2日	天保15年	7月20日 晴	(去る18日暁藤崎村で出火・類焼共5軒焼失・火元他村預け、10日の洪水で石渡仮橋(42間ニ8尺)御蔵町入口橋(10間に8尺)流失・他に破損なし)
1844年	9月3日	天保15年	7月21日 曇	今暁子の刻過小雨降 寅の刻過(曇今暁子の刻過小雨降寅の刻過)
1844年	9月4日	天保15年	7月22日 曇	今暁寅の刻過より小雨時々降り 辰の刻過止 午の刻過より小雨時々ふり 酉の刻頃止
1844年	9月5日	天保15年	7月23日 曇	今暁丑ノ刻頃雨ふり 則刻止 卯之刻頃雨ふり 則刻止 亥の刻過より雨ふり(曇今暁丑ノ刻頃雨ふり則刻止卯之刻頃雨ふり則刻止亥の刻過より雨ふり)
1844年	9月6日	天保15年	7月24日 曇	昨夜より之雨今日ニ及ひ時々ふり (頃日天気不正に付き下居宮並びに古懸不動尊で日和揚の御祈禱を仰せ付ける)
1844年	9月7日	天保15年	7月25日 晴	(人事異動)
1844年	9月8日	天保15年	7月26日 晴	(中村良吉が江戸から手錠腰縄付で錠前付駕籠で到着・入牢)
1844年	9月9日	天保15年	7月27日 晴	(御馬廻与力吉町某の弟に傷を負わせた御持鍵中間を掃除小人に役下げ、黒滝主殿・神儀右衛門を一問所で慎み)
1844年	9月10日	天保15年	7月28日 曇	(藤代村辰弥より例年の通り御初米14俵差上げる、洪水で被害を受けた湯ノ沢銀山が廃山を申し出ている)
1844年	9月11日	天保15年	7月29日 曇	申の刻過より小雨時々ふり 夜二入同断
1844年	9月12日	天保15年	8月1日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 卯之刻過止
1844年	9月13日	天保15年	8月2日 晴	
1844年	9月14日	天保15年	8月3日 曇	
1844年	9月15日	天保15年	8月4日 曇	
1844年	9月16日	天保15年	8月5日 曇	昨夜戌之刻頃小雨降 即刻止 亥の刻頃より雨時々ふり (卯辰両年(今年は辰年)の開発増:廃田3580町歩余中773町歩余・畑方1360町歩余中337町歩余)
1844年	9月17日	天保15年	8月6日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々ふり 夜二入同断 (日付が6月6日となっているが干支にずれがなく8月の記述誤り)
1844年	9月18日	天保15年	8月7日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々ふり 夜二入同断
1844年	9月19日	天保15年	8月8日 曇	昨夜より之雨今日及 時々ふり 夜入同断
1844年	9月20日	天保15年	8月9日 晴	昨夜より之雨今日ニ及 卯之刻過止 (最勝院の寺庵に近所の子供達が門板毀し境内に入り込み徒・見当て次第取押えろとの高札を出す)
1844年	9月21日	天保15年	8月10日 晴	申之刻過より小雨降 酉之刻過止 (人事異動) 下から続く 金木村1貫700文(流失家1軒水押上げ等24人)・薄市村と相内村500文宛(流失家1軒宛)、この度の出水の溺死49人)
1844年	9月22日	天保15年	8月11日 曇	今暁子の刻過より雨降 巳之刻頃止 下から続く 4貫文(水押上り家12軒)・松館村700文(流失同様1軒水押上り1軒)・追子野木村1貫700文(流失同様1軒水押上り4軒)・ 上に続く
1844年	9月23日	天保15年	8月12日 晴	(去る2日夜髿ヶ沢町で盗みの富根町(秋田県のはず)の男が捕まる・入牢) 下から続く 両村5貫文(水押上り家8軒)・石川村10貫文(流失13軒水押上がり等20軒)・岩館村 上に続く
1844年	9月24日	天保15年	8月13日 快晴	8月17日から続く 52軒)・大鰐村30貫文(流失家65軒痛潰れ家とも24軒)・宿川原村10貫文(流失家8軒水押上り家23軒)・小金崎村5貫文(水押上り家17軒)・八幡館鯖石 上に続く
1844年	9月25日	天保15年	8月14日 晴	今暁子の刻より雨降 卯之刻頃止 下から続く 変死させ病死と取り計らった庄屋に村役取放し9鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料等)
1844年	9月26日	天保15年	8月15日 曇	今暁寅之刻頃小雨降 即刻止 辰之刻頃より小雨時々ふり 未之刻刻頃止(後から3文字目と4文字目は同じ文字) (多数の人事異動) 下から続く 加担させようとして 上に続く
1844年	9月27日	天保15年	8月16日 晴	今暁卯之刻頃地震少し (大坂御館入中原莊兵衛跡式を是迄の知行高500石を倅莊十郎に香典銀2枚・鹿嶋屋要輔の高100石20人扶持香典銀1枚を下し置かれる、甥を悪事に 上に続く
1844年	9月28日	天保15年	8月17日 曇	巳之刻頃より小雨降 未之刻頃止 (深浦湊で松前船の水主(越後人)が病死・確認の上宝泉寺に葬る) 下から続く 家14軒)・蔵館村15貫文(流失家5軒水押上り家 8月13日に続く
1844年	9月29日	天保15年	8月18日 曇	卯之刻頃より雨ふり 夜二入同断 (三橋左十郎を用人に役知50石遣わず、去月10日の洪水で川合土場で材木2132本中1957本流失?) 下から続く (流失家10軒水押上り 上に続く
1844年	9月30日	天保15年	8月19日 曇	昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 辰之刻過より小雨時々ふり 酉之刻過止 (洪水見舞い?:碓ヶ関島目3貫文(流失家3他)・もちのき村1貫500文(水押上り4軒)・長峰村島目10貫文 上に続く
1844年	10月1日	天保15年	8月20日 晴	(人事異動、御賞、公儀お届けの田畑損耗御届:古新田5歩8厘損耗・流失橋大小240ヶ所・破損橋大小68ヶ所・流失破損水門17ヶ所・流失破損用水樋196挺等・川欠188ヶ所・ 欄外(*)に続く
1844年	10月2日	天保15年	8月21日 晴	午の刻頃むらさめふり(村雨降) (今日江戸に御免駕)
1844年	10月3日	天保15年	8月22日 快晴	
1844年	10月4日	天保15年	8月23日 快晴	
1844年	10月5日	天保15年	8月24日 曇	今暁丑之刻頃より雨降 卯之刻頃止 午之刻頃雨強し 未之刻過止
1844年	10月6日	天保15年	8月25日 快晴	
1844年	10月7日	天保15年	8月26日 快晴	
1844年	10月8日	天保15年	8月27日 快晴	(御名代として家老が剣術見分)
1844年	10月9日	天保15年	8月28日 快晴	
1844年	10月10日	天保15年	8月29日 快晴	
1844年	10月11日	天保15年	8月30日 曇	今暁子の刻過ぎ地震強し 卯之刻頃止 午の刻頃より雨降 氷(雹でしようね)ふり 申之刻頃止 (明日山吹銀目形1貫目を江戸に登す)
1844年	10月12日	天保15年	9月1日 快晴	
1844年	10月13日	天保15年	9月2日 快晴	(来る21日よりの御扶持渡しのみなし・とにかく先納申し付けている)
1844年	10月14日	天保15年	9月3日 曇	今暁寅の刻過地震強 卯の刻過ぎより雨時々ふり 戌の刻頃止 (帰国した秋田男を追いかけ早瀬野口間道で捕まった娘に12鞭居町徘徊はまで通り)
1844年	10月15日	天保15年	9月4日 快晴	
1844年	10月16日	天保15年	9月5日 晴	下から続く 水主どもは碓ヶ関口送り返し領分への立ち入り禁止)
1844年	10月17日	天保15年	9月6日 曇	午の刻過雨時々降 酉の刻過止 (去年江戸廻船ので水主どもと馴合い松前で米を売り船を焼失させた上乘を御給分召放永の暇弘前より3里四方追放・下乗役下げ・船頭と7人の 上に続く
1844年	10月18日	天保15年	9月7日 晴	今暁卯の刻頃小雨ふり即刻止 (去月25日青森出帆の御廻船の遠州船が当月13日大風雨に遭難・御米500俵荷打ちの上豆州網代湊に入津・勘定小頭等を見分に派遣)
1844年	10月19日	天保15年	9月8日 快晴	
1844年	10月20日	天保15年	9月9日 快晴	(去月19日夜の大時化で元宇鉄村の丸木舟が流失)
1844年	10月21日	天保15年	9月10日 快晴	(青森湊で大坂船の水主が病死、金價不満も出ているが昨年の通り112勾立とする)
1844年	10月22日	天保15年	9月11日 快晴	(金價昨年迄の通り金1両に付112勾立・1歩につき28文目・仁朱に付14文目立とする)
1844年	10月23日	天保15年	9月12日 快晴	(名代の家老が剣術見分、今日召捕方で小栗山山中に派遣された町同心どもの2人が手傷を負う・(翌日の記述で)手向かったのは土手町中村某の乱心の倅常蔵・召捕揚屋入り)
1844年	10月24日	天保15年	9月13日 晴	亥之刻頃より小雨ふり 即刻止 丑ノ刻頃より雨時々降
1844年	10月25日	天保15年	9月14日 曇	今日岩木山初而雪見得る 昨夜より之雨今日ニ及 時々ふり (高岡江御献備の初鮭2尾御台所頭が差出す)
1844年	10月26日	天保15年	9月15日 曇	昨夜よりの雨今日ニおよびお時々ふり 未の刻過止 酉の刻過より雨時々ふり (来る21日より新割渡のところ御検見もまだで……)
1844年	10月27日	天保15年	9月16日 曇	昨夜より之雨今日ニおよび時々ふり
1844年	10月28日	天保15年	9月17日 曇	昨夜よりの雨今日ニおよび時々ふり 申の刻頃止
1844年	10月29日	天保15年	9月18日 曇	今暁寅之刻過より小雨時々ふり 巳之刻頃やむ
1844年	10月30日	天保15年	9月19日 曇	午之刻頃小雨降 即刻止
1844年	10月31日	天保15年	9月20日 曇	今暁寅之刻頃より小雨ふり 辰の刻頃止 今日雪ふり 一寸程積

(*) 山崩93ヶ所・街道欠崩118ヶ所・流失家113軒・破損家297軒・流死53人(男21女32)・馬2疋・流失湯小屋20軒・同破損49軒・田畑の水湛等(田方936町余畑420町余)・湯ノ沢銀山で男山崩死2人)

1844年	11月1日	天保15年	9月21日 曇	午之刻頃小雨ふり 即刻止 (去る12日小栗山嶺で召捕りの際手傷の町同心が死亡・御手当て銭50目下し置かれる、粃3600俵を摺り立てると2356俵1斗3升になるとのこと)
1844年	11月2日	天保15年	9月22日 晴	
1844年	11月3日	天保15年	9月23日 曇	申之刻過より雨時々降 夜二入同断
1844年	11月4日	天保15年	9月24日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々ふり 夜二入同断 今日あられ(霰)少々ふり (名代として家老が剣術見分)
1844年	11月5日	天保15年	9月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳之刻過止
1844年	11月6日	天保15年	9月26日 快晴	
1844年	11月7日	天保15年	9月27日 快晴	
1844年	11月8日	天保15年	9月28日 快晴	
1844年	11月9日	天保15年	9月29日 曇	午之刻過より雨ふり 申之刻頃やむ
1844年	11月10日	天保15年	10月1日 快晴	(8月25日夜高杉組賀田村の百姓家に3人が忍び込む) 下から続く 農具の貸し出しを申し出る、津出御印代(1俵):米8文目・大豆7文目とする)
1844年	11月11日	天保15年	10月2日 晴	(去月10日屋形様が御着府、大鰐組村々流失家等の者共に差当たりとして:酒2斗入り6樽・塩4斗入り4俵・身欠き鯉30把・2斗入り桶106郡所より相渡す、御用達4人が味噌・塩補助 上に続く
1844年	11月12日	天保15年	10月3日 晴	
1844年	11月13日	天保15年	10月4日 晴	
1844年	11月14日	天保15年	10月5日 曇	未の刻頃小雨降 即刻止 (御家老が御名代として剣術見分、大鰐組久吉村でも7月の洪水被害が大きく杉50本松100本の伐り取りを仰せ付ける)
1844年	11月15日	天保15年	10月6日 晴	
1844年	11月16日	天保15年	10月7日 曇	今暁丑ノ刻小雨ふり 則刻止 巳の刻過より雨時々降り 午の刻過止 巳の刻過雪少ふり (去月16日江戸で堀五郎左衛門を御家老職に伴野文四郎・加藤清兵衛を御用人にとの人事異動)
1844年	11月17日	天保15年	10月8日 曇	昨夜雪ふり 一寸程積り 今日雪少しふり (当4月浅虫村で女に傷をつけた秋田出生の71歳男を碓ヶ関口送返し当領立入禁止・傷つけられた女は青森の兄宅に押込30日、 欄外(*)に続く
1844年	11月18日	天保15年	10月9日	(久しぶりの空欄です・日記が保存されていない)
1844年	11月19日	天保15年	10月10日 曇	今暁子の刻過より雨時々ふり 卯の刻過止 (酒・荳金値段を上げてくれとの要望があり断っている、狼森村から杉200本伐り取願ひ・150本の伐り出しを申付ける)
1844年	11月20日	天保15年	10月11日 曇	未の刻過より雨降り 酉の刻頃止 (7月9・10日の洪水被害の公儀報告内容(8月20日の記述とほぼ同じ)あり)
1844年	11月21日	天保15年	10月12日 晴	(松前東蝦夷地モロラン場所江異国船1艘相見える・一番手人数差し向け江戸に8日振り(早飛脚)の飛脚)
1844年	11月22日	天保15年	10月13日 曇	巳の刻頃より小雨ふり 未の刻頃止 酉之刻過より雨時々ふり 戌の刻頃より西南之風邪強し
1844年	11月23日	天保15年	10月14日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 風卯の刻過止
1844年	11月24日	天保15年	10月15日 晴	(人事異動、米津出御印5文目値段増で1俵13文目・大豆7文目を8文目に申し付ける)
1844年	11月25日	天保15年	10月16日 晴	
1844年	11月26日	天保15年	10月17日 曇	今暁子の刻頃より雨時々ふり 卯の刻頃止 (12日立ちの飛脚で報告のモロラン沖合いの異国船1艘は見えなくなったとの報告を江戸に送る) 下から続く 41文目5分7厘8毛)
1844年	11月27日	天保15年	10月18日 曇	昨夜雪少しふり 今日同断 (各御蔵米(1俵):弘前41文目5分2厘7毛・青森47文目5分8厘5毛・鯉ヶ沢39文目2分2厘3毛・3ヶ所平均42匁7分7厘8毛内1文目2分お定め役・差引 上に続く
1844年	11月28日	天保15年	10月19日 晴	
1844年	11月29日	天保15年	10月20日 曇	今日未の刻過より雨ふり 夜二入同断 下から続く 火元他村預け、今日午の上刻百沢下居宮並びに大堂御本尊が御出汗・重御神楽重御祈禱を仰せ付ける・五山に御祈禱申し遣わす)
1844年	11月30日	天保15年	10月21日 曇	昨夜より之雨今暁子の刻過止 巳の刻頃より小雨ふり 午の刻過止 申の刻過より雨時々ふり 夜二入同断 (去る18日夜広須組上木作村で出火・類焼7軒稲乳建馬等焼失・ 上に続く
1844年	12月1日	天保15年	10月22日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 辰の刻過より小雨ふり 即刻止 (奇特の庄屋2人に御賞、石渡川出水・馬船小船往來なり兼ねる、去る4日より18日までの新穀付け相場平均値段:31文目6分)
1844年	12月2日	天保15年	10月23日 曇	午の刻頃雨降り 則刻止 (古懸不動尊御出汗・五山に御祈禱申し遣わす)
1844年	12月3日	天保15年	10月24日 曇	巳の刻過より雨降り 夜二入同断 ((22日付の報告では)頃日の雨天で平川浅瀬石川出水・藤崎渡し場往來差留める・23日より往來相成る)
1844年	12月4日	天保15年	10月25日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻頃止 (今日御家老が御名代として剣術見分)
1844年	12月5日	天保15年	10月26日 晴	
1844年	12月6日	天保15年	10月27日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止 辰の刻頃小雨ふり 即刻止
1844年	12月7日	天保15年	10月28日 曇	(荳種油値段が9月21日より10月21日まで売り出しつけ相場(ごちゃごちゃあるが省略)34文目5厘水油1升到付6文目7分2厘5毛に相当・1升売り6文目8分1合売りは6分8厘に申し付ける)
1844年	12月8日	天保15年	10月29日 晴	(江戸への飛脚内容:去る21日松前東蝦夷地モロラン沖合いに異国船1艘・翌22日颯去)
1844年	12月9日	天保15年	10月30日	(久しぶりの空欄です・日記が保存されていない)
1844年	12月10日	天保15年	11月1日 曇	未の刻頃より雨降り 酉の刻頃止 未の刻過雷鳴 則刻止
1844年	12月11日	天保15年	11月2日 曇	
1844年	12月12日	天保15年	11月3日 曇	今暁子ノ刻過より雨時々ふり 申の刻過止 下から続く 銭4貫990目を下し置かれる、田畑当御収蔵仮積:米133900石余(163664石余内29764石余が当毛引き等))
1844年	12月13日	天保15年	11月4日 曇	今暁子の刻過より西南の風強し 卯の刻頃止 昨夜雪少々ふり 今日雪ふり 一寸程積 (高値で売った青森の酒屋を戸ヰ、当7月洪水被害の大鰐組村々に御米124俵3斗と 上に続く
1844年	12月14日	天保15年	11月5日 曇	昨夜雪降り 二寸程積り 今日雪ふり 一寸程積り (御家老が名代で剣術見分、米相場から酒値段は1升到付1文目5分8厘余に相当・1升は1文目5分1合売りは10文ツツに 欄外(**)に続く
1844年	12月15日	天保15年	11月6日 晴	申の刻過小雨降り 即刻止 酉の刻過より雨時々降 下から続く 5蔵の米61000俵は來春湯開け次第鯉ヶ沢に小廻・五所川原等7蔵の172300俵の米は青森下げ申し付ける)
1844年	12月16日	天保15年	11月7日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 辰の刻過雷鳴 即刻止 巳の刻過より雨降り 酉の刻頃止 未の刻過より西南の風邪強し 申の刻過止 同刻過雷鳴強し 酉の刻頃止 (木造等 上に続く
1844年	12月17日	天保15年	11月8日 曇	下から続く 5文目位の小筒5挺あり、廣銀をつった男は病死・存命なら引回しの上礫、その仲間の斎藤孫八郎は遠島・小嶋嘉兵衛の倅もこの仲間らしいが出奔で見当たらない)
1844年	12月18日	天保15年	11月9日 曇	昨夜雪降り 一尺程積り 今日雪少しふり 下から続く 腰より焼筆様のもので鯨の如くなる形相認(したた)め手真似にて鋳?突候様仕方致し候・食料等の要望は不明・ 上に続く
1844年	12月19日	天保15年	11月10日 曇	昨夜雪少し降り 下から続く モロランと申すところに1艘翌6日滞船・橋舟3艘が出てくる・紆余曲折があり乗込む・50人ほどの乗員だが言語不明・一人が小半紙様のものに 上に続く
1844年	12月20日	天保15年	11月11日 曇	昨夜雪少し降り 今日同断 下から続く 豆州網代湊に入津・勘定小頭等を立会いに派遣、去る5日1000石位の大きさで帆柱3本帆九つの異国船が東蝦夷地エトモ御場所 上に続く
1844年	12月21日	天保15年	11月12日 曇	昨夜雪降り 二寸程積り 辰の刻頃より雨降 午の刻頃止 今日雪少しふり (奥州伊達郡和泉田村に伊勢参宮途中の大秋村百姓の子が病死、当御廻船遠州船が房州沖で遭難 上に続く
1844年	12月22日	天保15年	11月13日 曇	昨夜雪少し降り
1844年	12月23日	天保15年	11月14日 曇	昨夜雪少し降 今日雪ふり 一寸程積
1844年	12月24日	天保15年	11月15日 曇	昨夜雪降 一寸程積り 今日雪ふり 一尺程積
1844年	12月25日	天保15年	11月16日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪ふり 三寸程積り
1844年	12月26日	天保15年	11月17日 曇	昨夜吹雪強し 一尺程積 今日雪ふり 七寸程積り (米味噌を差出した大鰐村の社家長利某等々に御賞、青森御蔵米3000俵を1俵33文目立にて御買い上げ)
1844年	12月27日	天保15年	11月18日 曇	昨夜雪ふり 一寸程積 今日雪ふり 二寸程積り
1844年	12月28日	天保15年	11月19日 晴	
1844年	12月29日	天保15年	11月20日 曇	今日雪少しふり
1844年	12月30日	天保15年	11月21日 曇	今日雪少しふり
1844年	12月31日	天保15年	11月22日 曇	今日雪少しふり (去る12日タより13日朝までに十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月10日タより11日朝までで日数に引き合い今年が2日遅く節に引合9日早い)

(*)一野渡・小沢・原ヶ平の三ヶ村が管理する山に盗伐・過料107貫350文としたが御用捨願ひ・格別の御沙汰で3ヶ1御用捨)

(**)申付ける、外ヶ浜4ヶ組と赤石組を除き1俵32文目立て米納を・除いた組には銭納を申し付ける)

1845年	1月1日	天保15年	11月23日	曇	今日雪ふり 一寸程積	
1845年	1月2日	天保15年	11月24日	曇		
1845年	1月3日	天保15年	11月25日	曇	昨夜雪少しふり 今日同断 戌ノ刻過より雨ふり	
1845年	1月4日	天保15年	11月26日	曇	昨夜より之雨今日ニ及び時々ふり 未之刻過止 (当冬買御印付相場米1俵値段:青森40目立・鰯ヶ沢39文目立では庄内・秋田の米に対抗できないのでそれぞれ38文目5分・37文目5分とする)	
1845年	1月5日	天保15年	11月27日	曇	昨夜雪ふり 一寸程積り 今日雪少しふり	
1845年	1月6日	天保15年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積り 今日雪少しふり	
1845年	1月7日	天保15年	11月29日	曇	昨夜雪降 一寸程積り	
1845年	1月8日	天保15年	12月1日	晴		
1845年	1月9日	天保15年	12月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 (岩木川の内駒越渡し場仮橋昨朝日八時半頃より人馬相通り候)	
1845年	1月10日	天保15年	12月3日	晴	昨夜雪降 四寸程積 下から続く その子に30俵22人扶持下し置かれる)	
1845年	1月11日	天保15年	12月4日	晴	下から続く 翌22日辰巳の方遠沖江颯去(ハンキョとでも読むのでしょうか)・でもその間に松前藩の役人達が異国船に乗り移る・内容の報告あり、大阪御館入某が死亡 上に続く	
1845年	1月12日	天保15年	12月5日	曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 戌之刻過止 (去月21日東蝦夷地エトモ御場所之内ヲエナウシ勤番所台場出島江異国船1艘見える・凡そ千石位帆柱3本帆9つが大黒嶋内江滞船・ 上に続く	
1845年	1月13日	天保15年	12月6日	快晴	西の刻過より小雨時々ふり	
1845年	1月14日	天保15年	12月7日	曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 戌の刻過止 (高野長英と申すものが出火で牢屋から解き放たれたが帰らない・人相書きで手配している)	
1845年	1月15日	天保15年	12月8日	晴	昨夜雪ふる	
1845年	1月16日	天保15年	12月9日	曇	今日(虫虫)降	
1845年	1月17日	天保15年	12月10日	晴	昨夜雪降 壹(虫)程積	
1845年	1月18日	天保15年	12月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降り (人事異動、御賞)	
1845年	1月19日	天保15年	12月12日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (両濱に駄下げの遅れ等でもめている)	
1845年	1月20日	天保15年	12月13日	曇	昨夜雪少々降	
1845年	1月21日	天保15年	12月14日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1845年	1月22日	天保15年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 辰の刻頃より雨降 巳の刻頃止 今日雪少しふり (去る8日夜野内町で外馬屋から出火・火元の家に別条なく類焼3軒・火元に慎申付ける、前田常次郎難避……)	
1845年	1月23日	天保15年	12月16日	曇	昨夜雪一寸程積 今日雪ふり 二寸程積 下から続く 5貫600文目・146文目・6文目玉1900・諸手足軽12組に8貫833文目・638文目6分・3匁5分玉6356(7カ年割上納とあるが意味不明))	
1845年	1月24日	天保15年	12月17日	曇	昨夜雪少し降 午の刻過より小雨ふり 申の刻頃止 (野稽古の節三組拝借分:大組足軽3組に筒簀目形20貫370文目・口葉264匁3分・6文目玉9150・御持筒足軽3組に(同順で) 上に続く	
1845年	1月25日	天保15年	12月18日	晴	(人事異動)	
1845年	1月26日	天保15年	12月19日	曇	巳の刻過より雨降 申の刻頃止	
1845年	1月27日	天保15年	12月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1845年	1月28日	天保15年	12月21日	曇	今日雪少しふり (斎藤甚五兵衛の次男賈銀使いの源八郎が遠島を申し付けられる・引廻し磔になるべき主犯は病死・小嶋嘉兵衛の倅繁太郎等は出奔中)	
1845年	1月29日	天保15年	12月22日	快晴	昨夜雪降 二寸程積 巳の刻過地震少し	
1845年	1月30日	天保15年	12月23日	快晴		
1845年	1月31日	天保15年	12月24日	快晴	(当7月洪水に伴う損耗の公儀報告:古新田4歩2厘9毛の御損耗)	
1845年	2月1日	天保15年	12月25日	快晴		
1845年	2月2日	天保15年	12月26日	曇	今日雪少し降	
1845年	2月3日	天保15年	12月27日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (12月16日津軽大隅守(弘前藩主)が江戸城西御丸御白書院で四品仰せ付けられる)	
1845年	2月4日	天保15年	12月28日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 (4御蔵立会い4人・4御蔵奉行8人に御賞(金子100疋充)、当9月の小栗山の乱心者取り押さえに活躍の男に御賞(金子300疋)・その他に御賞)	
1845年	2月5日	天保15年	12月29日	晴	(去る13日江戸表に於いて年号弘化と改元) 下から続く 渡したら食料を買いたいらしく米の袋と銀錢様の物を差出す・3斗5升入り5俵を遣わし出航させる・28日未明巳午の方に帆)	
1845年	2月6日	天保15年	12月30日	晴	午の刻(虫虫)吹雪強し 申の刻頃止 雪五寸程積 下から続く 乗の小船が来て1人上陸し幅3寸位長さ3尺位の木9本程希(のぞむ)様子に差渡し5寸長さ2間位のトドラツを 上に続く	
1845年	2月7日	弘化2年	正月1日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 下から続く 鉄砲はないとのこと・薪嵩一坪半ほど小船に積入れ異国船に乗りつけ早々の出帆を示す・同日申の中刻頃異国船より7人 上に続く	
1845年	2月8日	弘化2年	正月2日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今暁子之刻過雪鳴 即刻止 今日雪降 五寸程積 下から続く 仕方をした・薪を遣るのですぐ出帆するよう示す・異国人共うなつき申し候・手真似で 上に続く	
1845年	2月9日	弘化2年	正月3日	晴	(晦日の大風で御城中所々根返り風折れ松合わせて11本あり・小栗山村の並木の松8本原ヶ平村に26本が根返り風折れ) 下から続く 手真似(てまね)で薪取りと積込の 上に続く	
1845年	2月10日	弘化2年	正月4日	晴	下から続く (まがかり:船の停泊)・翌27日未明にも滞船・勤番の家来並びに通弁番人役蝦夷人共召し連れ異国船に乗移る・凡そ30人余が乗組み通弁も言語相分らず 上に続く	
1845年	2月11日	弘化2年	正月5日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く ・10月26日申の上刻頃東蝦夷地アツケン勤番所前凡そ24・5丁相隔て船嵩1000石位帆柱3本帆5つ懸けた異国船が1艘潤懸 上に続く	
1845年	2月12日	弘化2年	正月6日	晴	昨夜雪降 三寸程積 (当10月26日東蝦夷地クスリ勤番所前浜より凡そ2里程沖合いに帆柱3本帆9つ懸けた船嵩凡そ1000石位の異国船が卯辰の方に追々遠くなり見えなくなった 上に続く	
1845年	2月13日	弘化2年	正月7日	晴	昨夜雪降 一寸程積	
1845年	2月14日	弘化2年	正月8日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (旧臘晦日夕七つ時申酉の大風で油川湊支配十三森村で出火・火元の母焼死)	
1845年	2月15日	弘化2年	正月9日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1845年	2月16日	弘化2年	正月10日	曇	昨夜雪少し降	
1845年	2月17日	弘化2年	正月11日	晴		
1845年	2月18日	弘化2年	正月12日	曇	今日雪少し降	
1845年	2月19日	弘化2年	正月13日	曇	今日雪少し降	
1845年	2月20日	弘化2年	正月14日	晴		
1845年	2月21日	弘化2年	正月15日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (人事異動、山吹銀1貫目を明16日立の飛脚で江戸に登す)	
1845年	2月22日	弘化2年	正月16日	晴		
1845年	2月23日	弘化2年	正月17日	晴		
1845年	2月24日	弘化2年	正月18日	晴		
1845年	2月25日	弘化2年	正月19日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積	
1845年	2月26日	弘化2年	正月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御手船米通丸の急遽御手入で小泊より4人十三より20人の船大工を青森に集める、和徳村の廻小人が屋敷内で鉄砲で小鳥を打取る・格段の御沙汰で押込)	
1845年	2月27日	弘化2年	正月21日	晴	昨夜雪降 一寸程積 酉之刻過より雨降 (旧臘晦日の大風による黒石領の被害:倒木9本、去月晦日の大風で浅虫村領で南部船2艘が破船・3人以上死亡)	
1845年	2月28日	弘化2年	正月22日	曇	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止 今日雪少し降	

1845年	3月1日	弘化2年	正月23日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪吹強し 雪二寸程積	
1845年	3月2日	弘化2年	正月24日	曇	昨夜雪吹強し 雪二寸程積 今日雪吹強し 雪一寸程積 (十三潟の潟明けを待って小廻船で鯉ヶ沢に御蔵に回すはずの八幡御蔵の米が新規御取立生湯きの壁で……駄下げに)	
1845年	3月3日	弘化2年	正月25日	晴		
1845年	3月4日	弘化2年	正月26日	晴		
1845年	3月5日	弘化2年	正月27日	晴		
1845年	3月6日	弘化2年	正月28日	快晴	(大組与力に横岡幸太郎)	
1845年	3月7日	弘化2年	正月29日	快晴		
1845年	3月8日	弘化2年	2月1日	曇	(旧冬の大豆御印代8文目を8文目5分に申付ける)	
1845年	3月9日	弘化2年	2月2日	曇	今日雪少し降 (御下向金を10日17日の2回に別け3000両を江戸に登す)	
1845年	3月10日	弘化2年	2月3日	快晴		
1845年	3月11日	弘化2年	2月4日	快晴	(鍛冶町の大工の子が江戸で召捕られ7月に引き渡されたが屋敷内から欠落)	
1845年	3月12日	弘化2年	2月5日	快晴	(旧臘御栄進に付座当頭が381人に15文宛95匁2分5厘下さるよう申し出る)	
1845年	3月13日	弘化2年	2月6日	快晴	今晚寅之刻過小雨降 即刻止	
1845年	3月14日	弘化2年	2月7日	晴	(御蔵米を駄下げせず青森で買って?……、これに関連したか御代官の人事異動)	
1845年	3月15日	弘化2年	2月8日	快晴		
1845年	3月16日	弘化2年	2月9日	曇	今晚寅之刻頃より小雨時々降 辰之刻過止	
1845年	3月17日	弘化2年	2月10日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (近來熊(胆)不漁)	
1845年	3月18日	弘化2年	2月11日	快晴	昨夜雪少し降	
1845年	3月19日	弘化2年	2月12日	曇	未の刻過より雨ふり 子之刻頃止	
1845年	3月20日	弘化2年	2月13日	快晴		
1845年	3月21日	弘化2年	2月14日	晴	今晚寅之刻頃より雨降 卯之刻過止 (去る11日夜堀越組松木平村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け)	
1845年	3月22日	弘化2年	2月15日	曇		
1845年	3月23日	弘化2年	2月16日	晴	(江戸で人事異動(年末くらのことから:飛脚の回数を減らしているのかな?))	
1845年	3月24日	弘化2年	2月17日	晴		
1845年	3月25日	弘化2年	2月18日	晴	(御名代として家老が和術見分、鉄の種類性質あり)	
1845年	3月26日	弘化2年	2月19日	晴	申之刻過より雨ふり 夜二入同断 下から続く 笠原寅之助等の塾居御免)	
1845年	3月27日	弘化2年	2月20日	曇	昨夜より雨今日二及 夜に入同断 (人事異動、去る15日駒越組川原平村の獺師頭孫六?が9人組で熊3疋狩取る、岩木川出水・駒越渡両船差留める・石渡川も同断、奥瀬一学	上に続く
1845年	3月28日	弘化2年	2月21日	曇	昨夜より之雨今晚丑之刻過止 下から続く 早い、玄圭院様の百回御忌に伴う大赦該当者の選択をしている)	
1845年	3月29日	弘化2年	2月22日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (去る14日タより翌15日朝迄に十三潟大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷明ける・去年は2月6日より7日迄残らず氷明け日数に引合8日遅く節に引合3日	上に続く
1845年	3月30日	弘化2年	2月23日	晴		
1845年	3月31日	弘化2年	2月24日	曇	未之刻頃より小雨降 申之刻過止	
1845年	4月1日	弘化2年	2月25日	曇	未之刻過より雨降 亥之刻頃止	
1845年	4月2日	弘化2年	2月26日	曇	卯之刻過より雨時々降 申之刻過止	
1845年	4月3日	弘化2年	2月27日	晴	酉之刻過地震少し 戌之刻頃小雨降り 則刻止 (今晚小嶋嘉兵衛が病死)	
1845年	4月4日	弘化2年	2月28日	晴		
1845年	4月5日	弘化2年	2月29日	晴	申之刻過小雨降り 則刻止 下から続く 昨28日百沢寺寺庵等が種蒔苗代辺りまで登山・雷鳴の様に音響き金蔵の後口より黒雲の様に煙立ち所々硫黄湧き出している)	
1845年	4月6日	弘化2年	2月30日	晴	(去る辰年(去年)猿賀増館常盤組並びに藤崎三ヶ組は早損で案外の減石・内容あり、当大坂御廻米並びに御差向け石共12300石・他に昨年の積み残し550石・13000石を差登す、	上に続く
1845年	4月7日	弘化2年	3月1日	曇	辰之刻頃より雨降 午之刻過止 (去月23日朝までに十三前後の潟が残らず明ける、去月29日本町五丁目で辻斬・負傷・犯人逃走)	
1845年	4月8日	弘化2年	3月2日	曇	巳之刻過より小雨降 則刻止 亥之刻頃より雨降 夜二入同断	
1845年	4月9日	弘化2年	3月3日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻頃止 巳之刻過より雨時々降 申之刻過止	
1845年	4月10日	弘化2年	3月4日	曇		
1845年	4月11日	弘化2年	3月5日	曇	巳之刻頃より雨ふり 夜二入同断 (当新菜種値段を去る夏御定めの1升3文目7分9厘に7分1厘相増し1升を4文目5分に申付ける)	
1845年	4月12日	弘化2年	3月6日	曇	昨夜より之雨今日二及時々降 夜二入同断	
1845年	4月13日	弘化2年	3月7日	曇	昨夜より之雨今晚寅之刻頃止 今日雪少し降 (常々美服の家を戸へ)	
1845年	4月14日	弘化2年	3月8日	曇	昨夜雪少し降り 今日同断 未之刻頃地震少し (御家老中が名代として鍵術・長刀見分、一昨6日朝六時頃親方町で夜番が手傷、岩木山の硫黄吹出し状況の報告あり)	
1845年	4月15日	弘化2年	3月9日	曇	巳之刻頃より雨ふり 即刻止 今日雪少し降り	
1845年	4月16日	弘化2年	3月10日	晴	(御名代として御家老が剣術見分 (御家中等に御手当て) 下から続く 日光経由で21日振りの行程あり)	
1845年	4月17日	弘化2年	3月11日	晴	戌之刻頃より小雨時々降 夜二入同断 下から続く 陸奥国津軽郡の古新田平均の損耗は4分2厘9毛と幕府に報告した、屋形様は来月(3月)27日に江戸発駕予定とのこと・	上に続く
1845年	4月18日	弘化2年	3月12日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 辰之刻過止 (昨夜五時過ぎ長坂町小路通りで御家中の倅と以下支配等が喧嘩がましき儀あり・親引取り他出差留め親類見継、去る7月の洪水に伴う	上に続く
1845年	4月19日	弘化2年	3月13日	晴		
1845年	4月20日	弘化2年	3月14日	晴		
1845年	4月21日	弘化2年	3月15日	晴	申之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (当三馬屋詰を者頭高杉友衛換使山上才助とする、人事異動)	
1845年	4月22日	弘化2年	3月16日	曇	昨夜より之雨今日二及同断 夜二入同断	
1845年	4月23日	弘化2年	3月17日	曇	昨夜より之雨今日二御及同断 巳之刻過止	
1845年	4月24日	弘化2年	3月18日	曇	亥之刻頃より西南之風強し 子之刻過止 (御家老が御名代として鍵術と大長刀を見分)	
1845年	4月25日	弘化2年	3月19日	曇	巳之刻頃小雨ふり 即刻止	
1845年	4月26日	弘化2年	3月20日	快晴	(江戸で人事異動)	
1845年	4月27日	弘化2年	3月21日	晴	(大行院境内西通小杉の中に縊死の男あり)	
1845年	4月28日	弘化2年	3月22日	曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動、不倫の女が居たり博打打ちが居たり大赦もからみでわけが分からない)	
1845年	4月29日	弘化2年	3月23日	曇	昨夜より之雨今日二及時々降 夜二入同断	
1845年	4月30日	弘化2年	3月24日	曇	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止	

1845年	5月1日	弘化2年	3月25日 晴
1845年	5月2日	弘化2年	3月26日 曇 昨夜亥之刻頃より小雨時々降 夜二入同断
1845年	5月3日	弘化2年	3月27日 曇 昨夜より之雨今日ニ及時々降 亥之刻頃止 (頃日天氣不正に付き丹後者詮索・送返しの触れ)
1845年	5月4日	弘化2年	3月28日 晴
1845年	5月5日	弘化2年	3月29日 快晴 (一昨年9月作事方より材木盗み取りの男5人に大赦前として10里四方追放大場御構い等・材木を通した北御門当番の御馬廻与力2人は御奉公遠慮)
1845年	5月6日	弘化2年	4月1日 晴 (昨14日(3月)昼八時頃大間越明神宮並びに秋田御領御境堂が秋田御領分よりの野火の様子で焼失)
1845年	5月7日	弘化2年	4月2日 晴
1845年	5月8日	弘化2年	4月3日 曇 辰之刻過より雨時々降 夜二入同断
1845年	5月9日	弘化2年	4月4日 曇 昨夜より之雨今日ニ及時々降 夜二入同断
1845年	5月10日	弘化2年	4月5日 曇 昨夜より之雨今日ニ及 辰之刻過止 (岩木川出水両船差留め・その後落水し往来可能と昨日の報告)
1845年	5月11日	弘化2年	4月6日 快晴
1845年	5月12日	弘化2年	4月7日 快晴 (2町歩余の隠仕付で21俵余を收穫し村で配分した庄屋五人組に大赦以前として村役取放ち不埒御用捨、この日に限らず罪状が延々と書かれた後で大赦により微罪となる例が多い)
1845年	5月13日	弘化2年	4月8日 快晴
1845年	5月14日	弘化2年	4月9日 晴 申之刻過より雨降 即刻止 (昨8日八半時過松森町で花田某の裏小屋焼失)
1845年	5月15日	弘化2年	4月10日 晴 下から続く 本人又は俵達は知行召上げげ永の暇、三上清吾・宮沢栄八の身上召上げ永牢、中村良吉を牢前で斬罪・妻子共は親類御徒預け他出差留とする)
1845年	5月16日	弘化2年	4月11日 晴 (蠟燭の値段があるが分からない、津軽東山・津軽頼母・森岡民部・棟方晴吉・小山内儀兵衛・黒滝主殿・成田甚吉・田村勇太・今儀左衛門に不屈きの筋あり一間所で慎、これらの 上に続く)
1845年	5月17日	弘化2年	4月12日 晴 (多くの御家中が御奉公遠慮を申し出ている・親類関係が分かる) 下から続く 屋形様が去月27日江戸御発駕、侍従様を出羽守に屋形様を越中守と改称)
1845年	5月18日	弘化2年	4月13日 快晴 (去月23日に喜多村監物を御家老職に等の人事異動、一昨年乳井市郎左衛門が白沢駅で病死した際取持ちの金子を私曲した掃除小人など2人に永の暇7里四方追放、 上に続く)
1845年	5月19日	弘化2年	4月14日 快晴
1845年	5月20日	弘化2年	4月15日 快晴
1845年	5月21日	弘化2年	4月16日 曇 巳之刻頃より雨ふり 即刻止 午之刻頃より雨降 即刻止
1845年	5月22日	弘化2年	4月17日 快晴
1845年	5月23日	弘化2年	4月18日 快晴 (屋形様今朝六半時過ぎ碇ヶ関を御発駕・タ八時過ぎ御着城)
1845年	5月24日	弘化2年	4月19日 晴
1845年	5月25日	弘化2年	4月20日 晴
1845年	5月26日	弘化2年	4月21日 曇 辰之刻頃より雨時々降 未之刻過止 (片谷清次郎が相当に困っている)
1845年	5月27日	弘化2年	4月22日 快晴 (去る4日夜岩崎村弁天崎で松前船が破船・6人中2人死亡)
1845年	5月28日	弘化2年	4月23日 快晴
1845年	5月29日	弘化2年	4月24日 快晴
1845年	5月30日	弘化2年	4月25日 曇 巳之刻過小雨降 即刻止 戌之刻頃より雨降 夜二入同断
1845年	5月31日	弘化2年	4月26日 曇 今暁丑之刻過雷鳴 昨夜より之雨今日ニ及び 巳之刻過止 下から続く ・冬3俵ツツ)・大木流木(夏は月3本・冬は5本ツツ)・附木燈真小6把宛(夏冬なし)、身分によりこの半分などに)
1845年	6月1日	弘化2年	4月27日 曇 今暁寅之刻頃雨降 即刻止 辰之刻過雨降 即刻止 (一間所に大身を預った親類への渡し方・米3斗(1日1升積)・銭60目(1日2文目積)・水油月に9合宛・焚炭(夏は月2俵 上に続く)
1845年	6月2日	弘化2年	4月28日 快晴
1845年	6月3日	弘化2年	4月29日 快晴 (昨タ七時過ぎ長柄の者の娘が風呂帰りに髪を切取られる、去る9月21日夜青森町で越後の清助と申す者より金子260両等を盗んだ秋田出生の男を秋田表に御引渡し)
1845年	6月4日	弘化2年	4月30日 晴 (先の嫡子が賈金の件で出奔し病気で死亡した小嶋嘉兵衛の跡に常々教戒が悪いとしながらも婿養子嘉次郎に相違なく200石御留守居組に仰せ付ける)
1845年	6月5日	弘化2年	5月1日 曇 (津軽右近を御手廻組頭に等の人事異動) 下から続く 53300石)内18000石が家中扶持米12000石が払米・大坂廻米:13300石(定例37550石)内8000石が家中扶持米5300石が払米)
1845年	6月6日	弘化2年	5月2日 晴 (この節下米日々値段引立申候間御家中渡今1文目5分相増都合32文目5分立江前々之通4分増御買上之儀……意味不明です、去る辰年収納当巳年江戸廻米:米30000石(定例 上に続く)
1845年	6月7日	弘化2年	5月3日 曇
1845年	6月8日	弘化2年	5月4日 快晴
1845年	6月9日	弘化2年	5月5日 曇 午之刻過より雨時々降 酉之刻過止
1845年	6月10日	弘化2年	5月6日 晴
1845年	6月11日	弘化2年	5月7日 曇 午之刻頃小雨降 即刻止 (外馬場で馬術高覧)
1845年	6月12日	弘化2年	5月8日 曇 今暁丑之刻頃より雨降 寅之刻過止
1845年	6月13日	弘化2年	5月9日 曇
1845年	6月14日	弘化2年	5月10日 曇
1845年	6月15日	弘化2年	5月11日 曇 巳之刻過より小雨時々降 戌之刻頃止 (西の郭御矢場で射芸高覧)
1845年	6月16日	弘化2年	5月12日 曇
1845年	6月17日	弘化2年	5月13日 晴
1845年	6月18日	弘化2年	5月14日 快晴 (当3月13日片堀町で泥酔脇差を抜き暴れた御鍵師を戸ノ御扶持方召上げ永の暇)
1845年	6月19日	弘化2年	5月15日 快晴
1845年	6月20日	弘化2年	5月16日 快晴
1845年	6月21日	弘化2年	5月17日 快晴
1845年	6月22日	弘化2年	5月18日 曇
1845年	6月23日	弘化2年	5月19日 曇 今暁丑之刻頃より雨降 卯之刻頃止
1845年	6月24日	弘化2年	5月20日 曇 巳之刻過より雨時々降 (去る亥年(今年は巳年)より紙御蔵で不正な品出入りあり・多分調査継続中、去る15日昼九時頃野内町端に年齢50歳位の女が1人倒死)
1845年	6月25日	弘化2年	5月21日 曇 昨夜より之雨今暁寅之刻過ぎ 辰之刻過より雨降 未之刻過止 申之刻頃より雨ふり 戌之刻過止 (度々盗み等で大赦を受けその後も間道を超え所々で盗みをしていた男を 乞食手に渡す)
1845年	6月26日	弘化2年	5月22日 曇 (人事異動、賈手紙で品を掠め取り大赦があり揚屋出・この仲間も)
1845年	6月27日	弘化2年	5月23日 曇 (去る11月作事方より檢板を盗みだした男に6鞭弘前御構い)
1845年	6月28日	弘化2年	5月24日 曇 (今日西の郭で射芸高覧、作事奉行花田某を御使番格に等の人事異動、青田の内笛吹くなどの触れ)
1845年	6月29日	弘化2年	5月25日 快晴
1845年	6月30日	弘化2年	5月26日 快晴

1845年	7月1日	弘化2年	5月27日 快晴 (今日西の郭御矢場で射芸高覧)
1845年	7月2日	弘化2年	5月28日 曇 今晚丑之刻頃より雨降 巳之刻頃止 (侍従様より屋形様へ無心・赤根沢石3俵・碁石浜石5俵・銭浜石3俵(5斗入りにて))
1845年	7月3日	弘化2年	5月29日 曇 巳之刻過より雨時々ふり
1845年	7月4日	弘化2年	5月30日 晴 卯之刻過小雨ふり 則刻止
1845年	7月5日	弘化2年	6月1日 快晴 (人事異動)
1845年	7月6日	弘化2年	6月2日 晴 (鉛2箇目形32貫目(代600目)江戸御家中の砲術稽古用として御廻船便で送る、下居宮の屋根周りの銅を剥ぎ取った神主を他出差留め)
1845年	7月7日	弘化2年	6月3日 曇 今晚丑之刻過より雨降 巳之刻頃止 下から続く 中追放の御構い場所は武威・山城・摂津・和泉・大和・肥前・東海道筋・木曾路・下野・日光道中・甲斐・駿河・陸奥国)
1845年	7月8日	弘化2年	6月4日 曇 辰之刻過小雨ふり 即刻止 (今日外馬場で御家中役馬稽古高覧、遠島を仰せ付けられ揚屋にいた廣金使いの斎藤某が出火で揚屋を出されて鎮火後戻る・神妙として中追放・ 上に続く
1845年	7月9日	弘化2年	6月5日 曇
1845年	7月10日	弘化2年	6月6日 曇 午之刻過より雨ふり 未之刻過止
1845年	7月11日	弘化2年	6月7日 曇 今晚丑之刻過より雨降 寅之刻頃止 (山吹銀目形1貫目を来る8日に江戸に登す)
1845年	7月12日	弘化2年	6月8日 晴
1845年	7月13日	弘化2年	6月9日 快晴
1845年	7月14日	弘化2年	6月10日 快晴 (今日六時半揃で西の郭で射芸御高覧、年頭御目見町人前田常次郎が病死)
1845年	7月15日	弘化2年	6月11日 快晴
1845年	7月16日	弘化2年	6月12日 快晴
1845年	7月17日	弘化2年	6月13日 快晴
1845年	7月18日	弘化2年	6月14日 快晴
1845年	7月19日	弘化2年	6月15日 曇 今晚卯の刻頃より雨降 午の刻頃止 未の刻頃より雨降
1845年	7月20日	弘化2年	6月16日 晴 (去年7月の洪水で被害の湯野沢銀山を休山とする、早瀬野山金山昨年より試穿)
1845年	7月21日	弘化2年	6月17日 晴
1845年	7月22日	弘化2年	6月18日 曇 亥の刻頃より雨時々降
1845年	7月23日	弘化2年	6月19日 曇 昨夜より之雨今日ニ及時々降
1845年	7月24日	弘化2年	6月20日 曇 今晚子之刻過より雨降 巳之刻頃止
1845年	7月25日	弘化2年	6月21日 晴
1845年	7月26日	弘化2年	6月22日 晴 (炭上納並びに値段増の儀申し出:天保三年兩組御買上炭1俵に付2文目4分中村山炭は1俵に付2文目8分なんだそうな)
1845年	7月27日	弘化2年	6月23日 快晴 (博打をした(であろう)御家中多数に役下げ永の暇等)
1845年	7月28日	弘化2年	6月24日 曇 巳之刻頃より雨降 午之刻頃止
1845年	7月29日	弘化2年	6月25日 快晴 頃日暑強し (去る23日紺屋町小店に女子捨子・乳持ちの者共江養育申付ける)
1845年	7月30日	弘化2年	6月26日 曇 午之刻過小雨降 即刻止
1845年	7月31日	弘化2年	6月27日 曇 辰之刻過より雨降 午之刻過止 今晚丑之刻頃より雷鳴 寅之刻頃止 午之刻過雷鳴強し 即刻止 (人事異動)
1845年	8月1日	弘化2年	6月28日 曇 今晚丑之刻頃より雨降 寅之刻頃止
1845年	8月2日	弘化2年	6月29日 曇 今晚丑之刻頃雨降 寅之刻過止 今日辰之刻過より雨降 午之刻過止 申之刻頃雨降 夜二入同断
1845年	8月3日	弘化2年	7月1日 曇 昨夜より之雨今晚丑之刻過止
1845年	8月4日	弘化2年	7月2日 晴 (祢ふた江差渡し1尺5寸以上の太鼓を持参するなどの触れ)
1845年	8月5日	弘化2年	7月3日 快晴
1845年	8月6日	弘化2年	7月4日 快晴
1845年	8月7日	弘化2年	7月5日 快晴 (昨晚五時過ぎ茂森町から出火・半焼も含め24軒焼失その外潰家1軒・火元穀物家業入寺の上慎)
1845年	8月8日	弘化2年	7月6日 快晴
1845年	8月9日	弘化2年	7月7日 快晴
1845年	8月10日	弘化2年	7月8日 快晴 (頃日天気宜しく米相場下がり米1俵28文目くらいに相成る・御蔵米相場不釣合いに付2文目引き下げ31文目江前々の通り4分増御買い上げ)
1845年	8月11日	弘化2年	7月9日 曇 未之刻頃より雨降
1845年	8月12日	弘化2年	7月10日 晴 昨夜よりの雨卯之刻過止 (御初穂郡奉行より差上げる)
1845年	8月13日	弘化2年	7月11日 晴 (大鰐組古懸村御山の秣場で古懸岩館両村の大勢が揉み合い・双方で16人が手傷、昨夜亀甲町に生後14・5日の女捨子・貰い乳にし捨てられた家に預け置く)
1845年	8月14日	弘化2年	7月12日 晴 (本行寺末庵高館山中法藏庵が法藏院と院号を免許される)
1845年	8月15日	弘化2年	7月13日 曇 今晚丑之刻頃より雨降 未之刻頃止
1845年	8月16日	弘化2年	7月14日 曇 午之刻頃小雨降 則刻止 (上仙院(先々代津輕寧親)様十三回御忌で大赦)
1845年	8月17日	弘化2年	7月15日 快晴 酉之刻頃より雨降
1845年	8月18日	弘化2年	7月16日 曇 昨夜より之小雨今晚子之刻過止 酉之刻過より雨時々降
1845年	8月19日	弘化2年	7月17日 曇 昨夜より之雨今晚寅の刻頃止 辰之刻頃より雨降 (頃日天気不勝に付丹後者詮索送り返しの触れ)
1845年	8月20日	弘化2年	7月18日 曇 昨夜より之雨今朝卯之刻過止 (人事異動)
1845年	8月21日	弘化2年	7月19日 晴
1845年	8月22日	弘化2年	7月20日 曇 酉之刻頃より雨降 夜二入同断 (下居宮屋根の板銅剥がしを自白しない神主を吟味中揚屋入りとする)
1845年	8月23日	弘化2年	7月21日 曇 昨夜より之雨今日卯之刻頃止
1845年	8月24日	弘化2年	7月22日 快晴
1845年	8月25日	弘化2年	7月23日 晴 (用人三橋左十郎が(多分旅先で養生中)昨夜病死、当2月29日夜酒の上で御家中に傷を負わせた佐藤某を隠居・養子願いを認める、同日と3月6日類似の徒斬りの男たちの外出差留め御免)
1845年	8月26日	弘化2年	7月24日 曇 今晚寅之刻頃より小雨時々降 卯之刻頃止 (頃日天気不正に付き五山で風雨順時五穀成就御祈禱を仰せ付ける、相談の上小売米を差留めた穀物家業に戸⤵、江戸で人事異動)
1845年	8月27日	弘化2年	7月25日 晴 (水稽古指南に御賞)
1845年	8月28日	弘化2年	7月26日 曇 巳之刻過より東風吹 夜二入同断
1845年	8月29日	弘化2年	7月27日 晴 昨夜より之風今日ニ及 夜二入同断 (岩木山登山に往來の見物人や在町家に入り込み大勢で踊りたて狼藉の者あり・これを止めるよう町奉行等に申し遣わす)
1845年	8月30日	弘化2年	7月28日 曇 昨夜より之風今日ニ及 辰之刻頃止 辰之刻過より小雨降 即刻止 未之刻過小雨降 即刻止 (頃日天気不勝に付下居宮並びに大堂で日和揚重キ御祈禱を仰せ付ける、 欄外(*)に続く
1845年	8月31日	弘化2年	7月29日 曇 卯之刻頃より小雨降 巳之刻頃止
			(*) 作赫治定まで両濱御廻船の外津出差留め)

1845年	9月1日	弘化2年	7月30日 曇	卯の刻頃小雨降	即刻止	
1845年	9月2日	弘化2年	8月1日	快晴	(人事異動)	
1845年	9月3日	弘化2年	8月2日	快晴		
1845年	9月4日	弘化2年	8月3日	快晴		
1845年	9月5日	弘化2年	8月4日	快晴		
1845年	9月6日	弘化2年	8月5日	快晴	(美服着用で詮議が何人か居る、皮剥ぎ木があり取上げ)	
1845年	9月7日	弘化2年	8月6日	曇	戌之刻過より雨時々降	夜二入同断 下から続く 武者屯御定書きに定めがある)
1845年	9月8日	弘化2年	8月7日	曇	昨夜より之雨今暁卯の刻頃止	巳之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (越前敦賀の御屋敷表御門並びに御長屋数年御手入なく痛損・大坂表より指図させる、西之郭への通行は 上に続く
1845年	9月9日	弘化2年	8月8日	曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降	(横内村6軒の火災(日時不明)の被害者に御米1俵宛下し置かれる)
1845年	9月10日	弘化2年	8月9日	晴		
1845年	9月11日	弘化2年	8月10日	曇	今暁寅之刻頃より小雨時々降	申之刻頃より止 未の刻頃雷鳴 即刻止 (御初米例の通り差上げる、外北御門外橋が明後12日皆出来)
1845年	9月12日	弘化2年	8月11日	快晴		
1845年	9月13日	弘化2年	8月12日	晴	(このたび菜種2000俵津出・御印代1呎9文目立に申付ける、人事異動)	
1845年	9月14日	弘化2年	8月13日	曇	巳之刻過小雨降	即刻やむ
1845年	9月15日	弘化2年	8月14日	快晴	(今暁八時過ぎ御家中宅の鼠穴より出火・木部屋並びに勝手廻り焼失・飛び火で隣家類焼)	
1845年	9月16日	弘化2年	8月15日	快晴	(今日八幡宮神輿通御・御供揃で三ノ丸御物見所江御出・御屋形御庭口より入り候に付……、先頃天気不正に付米穀津留・その後晴天打ち続き作畧も相取り津開仰せ付けられる)	
1845年	9月17日	弘化2年	8月16日	快晴		
1845年	9月18日	弘化2年	8月17日	曇	午の刻頃より雨降	夜二入同断
1845年	9月19日	弘化2年	8月18日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止	午之刻頃より小雨降
1845年	9月20日	弘化2年	8月19日	晴		
1845年	9月21日	弘化2年	8月20日	曇	今暁子之刻過より雨降	丑の刻過止 辰の刻頃雨降 巳の刻過止 午之刻過雨ふり 未之刻過止
1845年	9月22日	弘化2年	8月21日	曇	今暁丑之刻頃より小雨降	未の刻頃止
1845年	9月23日	弘化2年	8月22日	曇		
1845年	9月24日	弘化2年	8月23日	曇	今暁丑之刻過より雨降	辰之刻頃止 (悪銀使用の御馬廻格表右筆山口某の身上召上げ永の暇・弟預け他出禁止、御留守居支配も御持鍵中間に役下げ)
1845年	9月25日	弘化2年	8月24日	快晴		
1845年	9月26日	弘化2年	8月25日	曇	未之刻過より雨降	申之刻過止
1845年	9月27日	弘化2年	8月26日	快晴		
1845年	9月28日	弘化2年	8月27日	快晴	(両濱米津出御印代11文目を9文目5分に下げる)	
1845年	9月29日	弘化2年	8月28日	曇		
1845年	9月30日	弘化2年	8月29日	曇	辰之刻頃より雨降	酉之刻過止
1845年	10月1日	弘化2年	9月1日	曇	今暁寅之刻頃雨降	即刻止 (人事異動)
1845年	10月2日	弘化2年	9月2日	晴	(鳥井崎沖で南部船が難船・関村領に入津、去月5日夜青森町で出火・類焼数十軒・火元入寺の上慎)	
1845年	10月3日	弘化2年	9月3日	曇	卯之刻頃雨降	即刻止 辰之刻頃雨時々降 夜二入同断 下から続く 男を碇ヶ関送り返し)
1845年	10月4日	弘化2年	9月4日	曇	今朝岩木山二初雪見ゆる	昨夜より之雨今日二および時々降 夜二入同断 今日霰降 申之刻過より雷鳴時々 亥之刻過止 (豊巻村より初鮭差上げる、秋田上院内出生の盗み 上に続く
1845年	10月5日	弘化2年	9月5日	曇	昨夜より之雨今日二及 寅之刻過止	辰之刻過より雨時々降 未之刻過止 (仙台湯野原御飛脚宿の家作で15両拝借願い・5両を下し置かれる)
1845年	10月6日	弘化2年	9月6日	晴		
1845年	10月7日	弘化2年	9月7日	曇	巳之刻過小雨降	即刻やむ 未之刻過小雨降 即刻止
1845年	10月8日	弘化2年	9月8日	曇	午之刻過雨降	申之刻過止 (秋田出生の盗賊を止宿させた男2人を揚屋入り、附木屋共が硫黄穿出しを申し出る・先例の通り申しつける)
1845年	10月9日	弘化2年	9月9日	晴	(当作体畧案外の劣作)	
1845年	10月10日	弘化2年	9月10日	快晴		
1845年	10月11日	弘化2年	9月11日	快晴		
1845年	10月12日	弘化2年	9月12日	快晴	(昨11日七時過ぎ紙漉町並びに富田清水あたりで鍛冶町の若者共と和徳町の若者共が喧嘩・双方で9人負傷)	
1845年	10月13日	弘化2年	9月13日	快晴		
1845年	10月14日	弘化2年	9月14日	晴		
1845年	10月15日	弘化2年	9月15日	快晴	(人事異動、去る7月7日夜誰かが乱心し適切に対応した者達に昇任・御賞、当年の漆の御国御用を差し引いた30樽を鰯ヶ沢より津出・7貫目入り1樽に付出御役8文目に申付ける)	
1845年	10月16日	弘化2年	9月16日	晴		
1845年	10月17日	弘化2年	9月17日	快晴	(昨16日屋高杉組高屋村で秣釜より出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け)	
1845年	10月18日	弘化2年	9月18日	曇	今暁寅之刻頃雨降	即刻止 辰之刻過より雨降 巳之刻過止 (人事異動、御検見引きも相すまず新割渡して支給せず来る21日よりこれまでの歩通で仮渡し・明年は閏月もあり13ヶ月割)
1845年	10月19日	弘化2年	9月19日	曇	申之刻頃より雨降	夜二入同断
1845年	10月20日	弘化2年	9月20日	曇	昨夜より之雨今日二及 夜二入同断	(去月12日東蝦夷地エトロフ鳴の内フウレヘツ勤番所よりの報告では坤(ひつじさる)の方2里程相隔て異国船が1艘通り過ぎた)
1845年	10月21日	弘化2年	9月21日	曇	昨夜より之雨今日二及	卯之刻頃止 (人事異動、御賞)
1845年	10月22日	弘化2年	9月22日	晴	(30人扶持は御養扶持二付段取引御座無く候間130石相当二相成候二付……)	
1845年	10月23日	弘化2年	9月23日	曇	今暁寅之刻頃より雨時々降	戌之刻頃やむ
1845年	10月24日	弘化2年	9月24日	曇	巳の刻過より雨時々降	申の刻頃止
1845年	10月25日	弘化2年	9月25日	快晴		
1845年	10月26日	弘化2年	9月26日	快晴	戌の刻頃より雨降	
1845年	10月27日	弘化2年	9月27日	快晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止	下から続く 深浦を出た当大阪御廻船が6月3日長州津之嶋沖合いで大時化に合い御米431俵荷打ち)
1845年	10月28日	弘化2年	9月28日	曇	今暁子之刻頃より雨時々降	卯之刻頃止 (初鮭2本を来月高岡に献上、正金渡しの中小姓から米が高値で生活が苦しいとして米渡しの要望がある、御米2325俵鉛46匁を積み 上に続く
1845年	10月29日	弘化2年	9月29日	快晴		
1845年	10月30日	弘化2年	9月30日	曇	今暁子之刻過より雨降	巳之刻過やむ 午之刻過より小雨時々降 申之刻過止 酉之刻過より雨時々降 夜二入同断
1845年	10月31日	弘化2年	10月1日	曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降	申之刻頃止 (人事異動)

1845年	11月1日	弘化2年	10月2日 曇	今暁子之刻過より雨ふり 卯之刻頃止
1845年	11月2日	弘化2年	10月3日 快晴	下から続く 榎30000枚木舞600本・100石150俵20両以上に榎5000枚木舞150本・御目見以下袴役に榎1000枚等々、米津出御印代1俵に付8文目とする)
1845年	11月3日	弘化2年	10月4日 曇	今暁寅之刻頃雨降 即刻止 辰之刻過より雨時々降 酉之刻頃止 未之刻過より雨風強し 夜二入同断 (公儀御尋者の人相書あり、御家中江榎木舞御賞し渡し:800石以上に 上に続く
1845年	11月4日	弘化2年	10月5日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 昨夜より之風今日及 未之刻過止
1845年	11月5日	弘化2年	10月6日 曇	今暁丑之刻頃より時々雨降 夜二同断
1845年	11月6日	弘化2年	10月7日 曇	昨夜之雨今日ニ及ひ時々ふり
1845年	11月7日	弘化2年	10月8日 曇	今日雪少し降 (一粒金丹の製法を伝える者のリストあり)
1845年	11月8日	弘化2年	10月9日 曇	今日雪少しふり (今日初雪御機嫌伺い)
1845年	11月9日	弘化2年	10月10日 曇	辰之刻頃小雨降 即刻止 (来年9月迄の津出御印代:酒2斗入り1樽2文目5分・小豆1俵6文目5分・靴1俵5文目5分・醤油2斗入り1樽2文目5分・味噌同3文目5分・白酒同3文目・酢同1文目5分)
1845年	11月10日	弘化2年	10月11日 晴	(人事異動)
1845年	11月11日	弘化2年	10月12日 快晴	
1845年	11月12日	弘化2年	10月13日 快晴	
1845年	11月13日	弘化2年	10月14日 快晴	(当月4日鰯ヶ沢町の大風で手附番所破損・潰家痛家とも5軒・波除破損56軒(間?))
1845年	11月14日	弘化2年	10月15日 晴	酉之刻過より雨ふり 戌之刻頃止
1845年	11月15日	弘化2年	10月16日 晴	
1845年	11月16日	弘化2年	10月17日 曇	卯之刻頃より雨降 辰之刻頃止 同刻頃雷鳴 即刻止
1845年	11月17日	弘化2年	10月18日 晴	今日雹少し降
1845年	11月18日	弘化2年	10月19日 晴	
1845年	11月19日	弘化2年	10月20日 曇	(高伯寺大日尊が今四時半頃御出汗・御祈禱を仰せ付ける)
1845年	11月20日	弘化2年	10月21日 曇	今日未之刻頃より雨時々降 酉之刻頃止
1845年	11月21日	弘化2年	10月22日 快晴	
1845年	11月22日	弘化2年	10月23日 曇	辰之刻過より小雨時々降 未之刻過止 (道中(江戸迄の)筋当年不熟作にて旅籠並びに諸色格別高値……、江戸表に目形2貫50目の山吹銀を登す)
1845年	11月23日	弘化2年	10月24日 曇	巳之刻過より小雨ふり 午之刻過止 (去る16日夜横内組八重田村で1軒・17日暁同組幸畑村で類焼共5軒焼失し駄馬2疋焼斃・類焼の有った方の火元は他村預け)
1845年	11月24日	弘化2年	10月25日 曇	
1845年	11月25日	弘化2年	10月26日 曇	昨夜雪少降 午之刻頃雨降 未之刻過止 午之刻頃雷鳴 即刻止 今日雪少し降
1845年	11月26日	弘化2年	10月27日 曇	昨夜雪少し降り 今日同断 (津出御印代1俵当たり8文目を3文目増の11文目立に申付ける)
1845年	11月27日	弘化2年	10月28日 晴	昨夜雪 五寸程積 (去る10日夜24日まで15日間の米相場:米1俵34文目4分)
1845年	11月28日	弘化2年	10月29日 曇	昨夜雪少降 今日同断 (西館内記の知行の内300石召上げ、御蔵米内貸等不筋の御蔵奉行等の10人に慥・関係者に戸丒等の罰) 下から続く 3分3厘8毛・御定役1文目2分)
1845年	11月29日	弘化2年	11月1日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日右(本書では左の意)同断 (御蔵米平均(1俵)値段46匁3分3厘8毛(弘前44匁3分1厘5毛・青森51文目1分3厘9毛・鰯ヶ沢43匁5分3厘1毛・平均46文目 上に続く
1845年	11月30日	弘化2年	11月2日 曇	昨夜雪ふり 壱寸程積 今日雪少しふり (白米並びに餅米津出御印代より白米は合銀(あいぎん:手数料)4文目増の15文目立・餅玄米は7文目増の18文目立に白餅米は 欄外(*)に続く
1845年	12月1日	弘化2年	11月3日 曇	昨夜雪少し降 今日同断
1845年	12月2日	弘化2年	11月4日 曇	(御家中の禁足中の弟野呂某が出奔)
1845年	12月3日	弘化2年	11月5日 曇	下から続く 去る10月青森湊目付で御印のない米の津出が不適切だった2人を御留守居組に・足軽目付を諸手足軽に役下げ・関係者にも罰・逃亡者もある)
1845年	12月4日	弘化2年	11月6日 曇	昨夜雪少しふり 今日同断 (今日四時半頃高伯寺大日尊が御出汗・先例の通り御祈禱を仰付ける、博打並びに旅人止宿の男2人に6鞭3鞭居町徘徊は迄通り関係者に戸丒等、 上に続く
1845年	12月5日	弘化2年	11月7日 曇	昨夜雪少しふり 今日同断 (今日剣術高覧、去月16日夜並びに17日の被災者6人に御手当て米1俵ツツ下し置かれる、昨1升を1文目7分5厘・1合売りは11文目売り出すよう申付ける)
1845年	12月6日	弘化2年	11月8日 晴	昨夜雪少し降 (津出御印値段:玄米1俵11文目→14文目・白米1俵15文目→16文目・大豆10文目、和徳堀越大鰯尾崎大光寺猿賀田舎館常盤8ヶ組の御検見:高59414石 欄外(**)に続く
1845年	12月7日	弘化2年	11月9日 曇	午之刻過雨ふり 未之刻過止
1845年	12月8日	弘化2年	11月10日 曇	昨夜雪少しふり 今日同断 (駒越赤石広須木造4ヶ組の御検見:高24685石5斗2升9合内毛引4446石8斗2升2合)
1845年	12月9日	弘化2年	11月11日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふり (津軽多禄が遠慮御免、剣術高覧、味噌賞し渡し代銭10文目に味噌目形6貫300文目、諸上納銭代米1俵30目立を33文目立にする)
1845年	12月10日	弘化2年	11月12日 曇	昨夜雪少しふり (弘前以北の7蔵から151500俵を青森下げ・石渡以西の4蔵から67500俵を鰯ヶ沢江駄下げ・金木八幡両蔵から16000俵を来春湯明後鰯ヶ沢江小廻で送るよう申付ける)
1845年	12月11日	弘化2年	11月13日 曇	今日雪少しふり (少々御不例に付剣術の高覧を御延引)
1845年	12月12日	弘化2年	11月14日 曇	今日雪少しふり (剣術高覧御延引、荏種油1升を7文目2分1合売りは7分2厘に仰せ付ける)
1845年	12月13日	弘化2年	11月15日 曇	昨夜雪ふり 二寸程積 今日雪少しふり (藤崎柏木増館飯詰俵元金木同新田7ヶ組御検見:高38527石6斗7升内当毛引6747石4斗5升7合)
1845年	12月14日	弘化2年	11月16日 曇	今日雪降 六寸程積
1845年	12月15日	弘化2年	11月17日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふり (当6月10日に揚屋から男に逃げられた町同心を勤料5俵差し引き御城付足軽に役下げ)
1845年	12月16日	弘化2年	11月18日 曇	昨夜雪降 五寸程積 風吹強し
1845年	12月17日	弘化2年	11月19日 曇	昨夜雪ふり 三寸ほとつもる(程積)
1845年	12月18日	弘化2年	11月20日 晴	昨夜雪少し降
1845年	12月19日	弘化2年	11月21日 曇	昨夜雪少しふり 今日雪降 二寸程積
1845年	12月20日	弘化2年	11月22日 晴	昨夜雪少しふり
1845年	12月21日	弘化2年	11月23日 晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積
1845年	12月22日	弘化2年	11月24日 晴	昨夜雪少しふり
1845年	12月23日	弘化2年	11月25日 晴	巳之刻過地震強し
1845年	12月24日	弘化2年	11月26日 曇	昨夜雪ふり 二寸程積 今日同断
1845年	12月25日	弘化2年	11月27日 曇	昨夜雪ふり 二寸程積 今日同断 (御台所頭より初鱈差出す、昨26日蔵館村大日尊が御出汗・御祈禱を仰せ付けられる)
1845年	12月26日	弘化2年	11月28日 曇	昨夜雪少しふり 今日同断 (人事異動)
1845年	12月27日	弘化2年	11月29日 晴	今日雪少しふり
1845年	12月28日	弘化2年	11月30日 晴	昨夜雪少しふり
1845年	12月29日	弘化2年	12月1日 曇	(津軽多禄御役御免等の人事異動)
1845年	12月30日	弘化2年	12月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御収納附諸上納銭代米33文目値段に仰せ付け候処34文目に申付ける)
1845年	12月31日	弘化2年	12月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (当8月7日夜妻を殺害の上自害した御家中の子の身上召上げとはせず御目見以下御留守居支配5人扶持とする・これを隠した親類は御留守居組等に役下げ)

(*)9文目増の20目立に申し付ける、高杉藤代広田赤田4ヶ組の当御検見:高35802石3斗2升内毛引4443石5斗2升8合)

(**)5斗6升7合内当毛引6869石8斗7升2合)

1846年	1月1日	弘化2年	12月4日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1846年	1月2日	弘化2年	12月5日	曇	今日雪降 二寸程積 (当新穀御印付米1俵青森45文目鰺ヶ沢44文目値段を以って……)	
1846年	1月3日	弘化2年	12月6日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 35000把代146貫55文目)	
1846年	1月4日	弘化2年	12月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一尺程積 雪吹強し (小山内外衛の妻子妹等9人を4家に別けて養育することを認めている、昨年の綿の買入値段50目玉1把に付4文目1分7厘3毛に付 上に続く	
1846年	1月5日	弘化2年	12月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1846年	1月6日	弘化2年	12月9日	曇	昨夜雪少し降	
1846年	1月7日	弘化2年	12月10日	晴		
1846年	1月8日	弘化2年	12月11日	晴	昨夜雪少し降 (人事異動、去年分を含め代官等に御賞)	
1846年	1月9日	弘化2年	12月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 五寸程積 (山吹銀1貫100目差登す)	
1846年	1月10日	弘化2年	12月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 四寸程積	
1846年	1月11日	弘化2年	12月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 下から続く 一間所から自由に出入させた両親も弘前払い)	
1846年	1月12日	弘化2年	12月15日	曇	(武具蔵の矢竹50本の代銭1文目6分6厘を御金蔵に上納、去月27日褓月湊領奥平部村磯辺に波に引き込まれた40歳位の男水死、一間所から忍び出て盗みの男を弘前払い・ 上に続く	
1846年	1月13日	弘化2年	12月16日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 等に手傷を負わせた男2人を大赦以前として揚屋出、流木炭を渡すが有合せが無く一部は金で渡している)	
1846年	1月14日	弘化2年	12月17日	曇	昨夜雪少し降 (去る11日鰯漁に出た野内湊支配久栗坂村の漁師2人が海死、10月4日の大嵐で歌舞伎芝居小屋の屋根廻り吹剥ける、去る12月桑野木田村酒屋で乱暴・庄屋 上に続く	
1846年	1月15日	弘化2年	12月18日	晴	(人事異動、御賞、津軽屋の手代が御用相済み19日出立・御手当て先例通り金15両下し置かれる、米屋共身上潰れで止家業の者多く出来・望みの者2人にも問題あり、 欄外(*)に続く	
1846年	1月16日	弘化2年	12月19日	晴		
1846年	1月17日	弘化2年	12月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積	
1846年	1月18日	弘化2年	12月21日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1846年	1月19日	弘化2年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 (御用達18人に御賞)	
1846年	1月20日	弘化2年	12月23日	曇	巳之刻過雨降 則刻止 (今晩一間所に蟄居中の成田甚吾が病死・葬送は夜に入り目立たぬようにと申し遣わす)	
1846年	1月21日	弘化2年	12月24日	曇	今日雪吹強し 雪三寸程積 昨夜西南之風強し	
1846年	1月22日	弘化2年	12月25日	曇	昨夜雪少し降 今日同断	
1846年	1月23日	弘化2年	12月26日	曇	(人事異動、御賞、当4月よりこの節までの別段締役並びに御徒目付町同心共が取押えた品を入札払いにし14人に配当している、当7月より武之助様の御薬代等を提出している)	
1846年	1月24日	弘化2年	12月27日	曇	今暁子之刻過より雨降 寅之刻頃止 昨夜亥之刻頃東南風強し (人事異動、当6月13日大円寺の夜宮に茶屋で食い逃げの男を弘前払い)	
1846年	1月25日	弘化2年	12月28日	快晴	(人事異動、御賞)	
1846年	1月26日	弘化2年	12月29日	曇		
1846年	1月27日	弘化3年	正月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積	
1846年	1月28日	弘化3年	正月2日	晴	(今日巳之下刻国上寺不動尊が御出汗・五山に御祈祷等を仰せ付ける)	
1846年	1月29日	弘化3年	正月3日	快晴	昨夜雪少し降 (御古例金200両を御金奉行が差出す、漁師頭が御嘉例の通り平目を差出す、今晚御謡初)	
1846年	1月30日	弘化3年	正月4日	晴	(大鰯村より七草差上げる)	
1846年	1月31日	弘化3年	正月5日	晴		
1846年	2月1日	弘化3年	正月6日	晴		
1846年	2月2日	弘化3年	正月7日	晴	(七種の御祝儀)	
1846年	2月3日	弘化3年	正月8日	晴		
1846年	2月4日	弘化3年	正月9日	晴	昨夜雪少し降 今日雨時々降	
1846年	2月5日	弘化3年	正月10日	晴	昨夜より之雨今暁寅之刻過止	
1846年	2月6日	弘化3年	正月11日	晴	昨夜雪少し降 (多数に人事異動)	
1846年	2月7日	弘化3年	正月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (今朝東長町の矢場で御弓射初)	
1846年	2月8日	弘化3年	正月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今朝八幡宮で御鉄砲打初)	
1846年	2月9日	弘化3年	正月14日	晴	昨夜雪少し降 (御出崎御用先で過酒の上かさつ(がさつ)な振る舞いを注意されている)	
1846年	2月10日	弘化3年	正月15日	曇	昨夜雪少し降 今日吹雪強し 雪三寸程積 (登城の時刻を守れとの触れ)	
1846年	2月11日	弘化3年	正月16日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1846年	2月12日	弘化3年	正月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1846年	2月13日	弘化3年	正月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1846年	2月14日	弘化3年	正月19日	晴		
1846年	2月15日	弘化3年	正月20日	晴	(人事異動)	
1846年	2月16日	弘化3年	正月21日	晴		
1846年	2月17日	弘化3年	正月22日	晴	(馬屋町橋下に捨子(死亡))	
1846年	2月18日	弘化3年	正月23日	晴		
1846年	2月19日	弘化3年	正月24日	曇	今日雪少し降 (12月16日に江戸で河野六郎が病死)	
1846年	2月20日	弘化3年	正月25日	曇	今暁子の刻過より雨降 卯の刻過止 今日雪少し降 (一間所内の福嶋(元津軽)東山が大病・一間所から出し孫千之助等の付添いを許す)	
1846年	2月21日	弘化3年	正月26日	曇	昨夜雪降 三寸程積 風吹強 今日雪降 二寸程積 風吹強 (福嶋東山病死・実孫千之助に引き取らせる・尤夜に入り密かに引取るよう申し遣わす)	
1846年	2月22日	弘化3年	正月27日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (御太刀壱振り新規出来代16文目・(多分渡し方を半分にしていたので)8文目渡し方仰せ付けられる)	
1846年	2月23日	弘化3年	正月28日	晴	(人事異動)	
1846年	2月24日	弘化3年	正月29日	快晴		
1846年	2月25日	弘化3年	正月30日	晴	申の刻過より雨降 夜に入同断 (増館組女鹿沢村の庵主が南部者として野内口送返し)	
1846年	2月26日	弘化3年	2月1日	曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 今日雪少し降	
1846年	2月27日	弘化3年	2月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積 ふ婦に濁点き(吹雪)強し 今日雪降 三寸程積 ふ婦に濁点き強し (六尺酒桶15本を1本27文目で越後に鰺ヶ沢より送り出す)	
1846年	2月28日	弘化3年	2月3日	晴	今日雪少し降	

(*) 当津出御印代並びに御役銭酒2斗入り1樽3文目(但し当10月より2文目5分の処)白酒2斗入り1樽3文目5分(但し当10月より3文目の処))

1846年	3月1日	弘化3年	2月4日	晴	
1846年	3月2日	弘化3年	2月5日	晴	
1846年	3月3日	弘化3年	2月6日	快晴	
1846年	3月4日	弘化3年	2月7日	快晴	
1846年	3月5日	弘化3年	2月8日	晴 今日雪少し降	
1846年	3月6日	弘化3年	2月9日	晴	
1846年	3月7日	弘化3年	2月10日	快晴	
1846年	3月8日	弘化3年	2月11日	快晴	
1846年	3月9日	弘化3年	2月12日	快晴	
1846年	3月10日	弘化3年	2月13日	快晴	
1846年	3月11日	弘化3年	2月14日	曇 未の刻過より雨ふ里 申の刻過やむ	
1846年	3月12日	弘化3年	2月15日	閏9月11日	
1846年	3月13日	弘化3年	2月16日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (下居宮屋根の銅板盗み取りの神主を揚屋から出し蟄居・関係する銅御銭御取り上げの上大赦以前であり関係者にも軽い罰)	
1846年	3月14日	弘化3年	2月17日	快晴 (昨年類焼の横手駅御本陣から50両拝借願・御手当金3両下し置かれる、篠巻綿の値段判明・昨年同様50目玉1把4文目1分7厘9毛・35000把代146貫265文目、不熟の村に杉を伐取らせる)	
1846年	3月15日	弘化3年	2月18日	晴 (不漁続きの村に杣取り申しつける)	
1846年	3月16日	弘化3年	2月19日	曇	
1846年	3月17日	弘化3年	2月20日	曇 昨夜雪少し降	
1846年	3月18日	弘化3年	2月21日	晴	
1846年	3月19日	弘化3年	2月22日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1846年	3月20日	弘化3年	2月23日	曇 昨夜吹雪強し 雪四寸程積 今日雪降 三寸程積 下から続く 江戸の火災で津軽屋等々が類焼・それなりの下されもの、佐竹様御領分坊沢村に飯詰村の男が病死)	
1846年	3月21日	弘化3年	2月24日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふ里 (火術稽古(日付不明):10貫目玉木筒3・10貫目横打仕掛1・100目玉短筒にて仕懸?打雑木板羽棒火矢など13番まで、本年正月15・16日	上に続く
1846年	3月22日	弘化3年	2月25日	快晴	
1846年	3月23日	弘化3年	2月26日	快晴	
1846年	3月24日	弘化3年	2月27日	快晴 (青森売出米相場1俵に付35文目5分江御蔵米之開き2文目入1俵二付37文目5分位:意味不明)	
1846年	3月25日	弘化3年	2月28日	晴	
1846年	3月26日	弘化3年	2月29日	晴	
1846年	3月27日	弘化3年	3月1日	曇 今日午の刻過より雨時々ふ里 申之刻過止 (人事異動、久渡寺境内に日々大勢入り込み諸木伐り荒しあり・厳しく究明との触れ)	
1846年	3月28日	弘化3年	3月2日	晴	
1846年	3月29日	弘化3年	3月3日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少しふ里 (長勝寺升形脇・新町川端丁脇通・北横町大橋脇道其の外に片付けさせる・その他にも高礼を建てる)	
1846年	3月30日	弘化3年	3月4日	快晴 (去月6日主上崩御(しゅじょうほうぎょ:天皇が亡くなったこと:主上・崩御共平出又は欠字である所が田舎者)・鳴り物等停止)	
1846年	3月31日	弘化3年	3月5日	快晴	
1846年	4月1日	弘化3年	3月6日	曇 今暁丑の刻頃より雨降 午の刻頃止	
1846年	4月2日	弘化3年	3月7日	快晴 (荏菜種無通でつけ下げた男共に過料等)	
1846年	4月3日	弘化3年	3月8日	快晴	
1846年	4月4日	弘化3年	3月9日	快晴 下から続く 者共が古懸村領秣場で岩館村のもの共と争論・双方に手傷の件を内済とする)	
1846年	4月5日	弘化3年	3月10日	曇 今日申の刻過より雨降 夜に入同断 (鯨ヶ沢港より津出の御役定:木履10足に付1文目・下駄10足に付1文目・足駄10足に付1文目、去る7月古懸村の者共並びに国上寺門前の	上に続く
1846年	4月6日	弘化3年	3月11日	曇 昨夜よりの雨今日に及び 時々降り 申の刻過止	
1846年	4月7日	弘化3年	3月12日	快晴 下から続く 是まで通り・この仲間7人にも3鞭宛居村徘徊はまで通り・2人に過料・川下げに使い取り押さえの船:平田船120石積み1艘・その他詳細あり)	
1846年	4月8日	弘化3年	3月13日	快晴 (去る8月百沢より帰る節大組足輕に酒の上で不法を働いた男に18鞭射町払い・浅手を負い打留めなかった大組足輕は役下げ、無通米穀川下げの穂積村の男に6鞭居村徘徊	上に続く
1846年	4月9日	弘化3年	3月14日	快晴	
1846年	4月10日	弘化3年	3月15日	快晴	
1846年	4月11日	弘化3年	3月16日	曇 巳の刻過小雨降 則刻止 午の刻過小雨降 則刻止 酉の刻過より雨降 夜に同断	
1846年	4月12日	弘化3年	3月17日	曇 昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 (剣術高覧)	
1846年	4月13日	弘化3年	3月18日	快晴	
1846年	4月14日	弘化3年	3月19日	晴	
1846年	4月15日	弘化3年	3月20日	晴	
1846年	4月16日	弘化3年	3月21日	曇 辰の刻頃より雨降 戌の刻頃止 (御差留めものの荏種400呎を御国御用に差支えないか油屋共の詮議の上津出・1呎8文目立て3貫200目)	
1846年	4月17日	弘化3年	3月22日	晴 (内南御門・外東御門という用語がある)	
1846年	4月18日	弘化3年	3月23日	晴	
1846年	4月19日	弘化3年	3月24日	曇	
1846年	4月20日	弘化3年	3月25日	晴 (山口某など多数の江戸勝手が弘前に家内引越しを命じられている、藤崎村の御蔵駄下げ米を御收納米に取替った5人に押隠居の上永く他出差留め・戸ノ等の罰)	
1846年	4月21日	弘化3年	3月26日	曇 昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻頃止	
1846年	4月22日	弘化3年	3月27日	曇 午の刻過村雨降 則刻止 (剣術高覧) 下から続く 4分(虫虫虫)損耗御座候……、御国引越しを命じられた御留守居組門馬某と親が出奔)	
1846年	4月23日	弘化3年	3月28日	快晴 (江戸で荷物を盗み取った諸手足輕を揚屋入、侍従様御賄料3600石高江500石増・都合4100石とする、弘前に引越しを命じられた者達の勤料等を大幅差引、古田新田平均	上に続く
1846年	4月24日	弘化3年	3月29日	快晴	
1846年	4月25日	弘化3年	3月30日	快晴 今暁子の刻過より雨降 卯の刻過止 (一昨28日暮油川村で出火・類焼共7軒焼失・火元高無他村預け)	
1846年	4月26日	弘化3年	4月1日	曇 今日午の刻過より雨降 (多数の人事異動、御賞)	
1846年	4月27日	弘化3年	4月2日	曇 馬ノ刻頃小雨降 即刻止 申の刻頃より雨降 夜二入同断	
1846年	4月28日	弘化3年	4月3日	曇 昨夜より之雨今暁寅之刻過止 辰之刻頃小雨降 即刻止 未之刻過小雨降 即刻止	
1846年	4月29日	弘化3年	4月4日	曇	
1846年	4月30日	弘化3年	4月5日	曇 申の刻頃より小雨時々降	

1846年	5月1日	弘化3年	4月6日	晴	
1846年	5月2日	弘化3年	4月7日	曇	今日卯之刻過より雨降 辰の刻過止 巳の刻頃雪降 一寸程積 未の刻過より雨降 夜二入同断 (抱山から願出もなく木を伐り出した庄屋等の役職御取り放し過料1貫800文充て等々)
1846年	5月3日	弘化3年	4月8日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過止
1846年	5月4日	弘化3年	4月9日	快晴	
1846年	5月5日	弘化3年	4月10日	曇	今日未の刻過小雨降 即刻止 下から続く 歩行相成兼候段品能相断罷り通り候様……)
1846年	5月6日	弘化3年	4月11日	曇	今晚寅の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (去月23日江戸出立の元町村船水音太郎が昼分手錠夜中足枷の上駕籠で到着・中田御閑所罷り通り候節は手錠を枷し病氣にて 上に続く
1846年	5月7日	弘化3年	4月12日	快晴	(元町村乙太郎(船水音太郎でしような)を入牢、去る11月27日北御蔵から知行米渡しの際にせ手形あり)
1846年	5月8日	弘化3年	4月13日	晴	(宇和野で早衡(はやご・紙に火薬を詰めた薬莖に相当するもの)・火術高寛)
1846年	5月9日	弘化3年	4月14日	曇	今晚寅の刻過より小雨時々降 夜に入同断
1846年	5月10日	弘化3年	4月15日	曇	昨夜之雨今晚寅の刻頃止 今日卯の刻過より小雨時々降 午之刻頃止 (人事異動)
1846年	5月11日	弘化3年	4月16日	曇	今日寅之刻頃小雨降 即刻止 (天気不正に付き丹後者詮索・送り返しの触れ)
1846年	5月12日	弘化3年	4月17日	曇	(人事異動)
1846年	5月13日	弘化3年	4月18日	曇	今晚丑之刻頃小雨降 即刻止 辰之刻過小雨降 即刻止
1846年	5月14日	弘化3年	4月19日	快晴	
1846年	5月15日	弘化3年	4月20日	晴	未の刻頃より西南の風強し (人事異動、御賞、外馬場で御建馬高寛)
1846年	5月16日	弘化3年	4月21日	曇	
1846年	5月17日	弘化3年	4月22日	曇	今日辰之刻頃小雨降 即刻止 申之刻頃小雨降 則刻止 (御賞)
1846年	5月18日	弘化3年	4月23日	晴	
1846年	5月19日	弘化3年	4月24日	快晴	(四時過御機嫌能く御参駕・武之助様(若殿様)は御玄閑御敷出迄御見送り)
1846年	5月20日	弘化3年	4月25日	曇	卯之刻過より雨時々降 申之刻過止 (領内の漆の実の量などあり)
1846年	5月21日	弘化3年	4月26日	晴	下から続く 大坂売口銭其御元入之分・差引17貫500目御利益)
1846年	5月22日	弘化3年	4月27日	曇	今晚寅之刻過より雨降 未之刻過止 辰之刻頃東風強し 申の刻頃より雨降 夜に入同断 (鉛50箇代33貫250目但し大坂値段1箇665文目・内15貫750目御買上代並びに濱下貢 上に続く
1846年	5月23日	弘化3年	4月28日	晴	昨夜より之雨今晚丑之刻頃止 (25日昼四時頃十三町で出火・類焼23軒)
1846年	5月24日	弘化3年	4月29日	曇	申之刻頃より雨降 夜に入同断
1846年	5月25日	弘化3年	5月1日	曇	昨夜より之雨今晚寅之刻過止 (人事異動、御賞)
1846年	5月26日	弘化3年	5月2日	晴	(去月15日朝浪岡組高館村で出火・類焼共3軒・火元高無他村預け、去月29日石川村で京都仙宗寺の使が切害される・市外は塩詰めにして仮埋め庄屋に預ける)
1846年	5月27日	弘化3年	5月3日	晴	
1846年	5月28日	弘化3年	5月4日	晴	
1846年	5月29日	弘化3年	5月5日	快晴	
1846年	5月30日	弘化3年	5月6日	晴	
1846年	5月31日	弘化3年	5月7日	曇	申之刻頃雨降 戌之刻過止 (3月28日に油川村の火災の被災者7人に御手当て米1俵充下し置かれる)
1846年	6月1日	弘化3年	5月8日	曇	今日卯之刻過雷鳴 即刻止 午之刻過より雨降 戌之刻過止 午之刻過雷鳴 則刻止 (御賞、無通の水油を取押えの土手町の室谷と鰺ヶ沢町の塩屋に戸ノ・関係者にも罰)
1846年	6月2日	弘化3年	5月9日	曇	今晚寅之刻頃より雨降 卯之刻過止 辰之刻過より雨降 夜二入同断 (不明日に尾崎組町居尾崎両村の者共用水引き入れ方で争論・負傷者あり)
1846年	6月3日	弘化3年	5月10日	曇	昨夜より之雨今日二及 卯之刻過止
1846年	6月4日	弘化3年	5月11日	快晴	(漆御定め役7貫目入り1樽に付き8文目で鰺ヶ沢湊口から11樽津出)
1846年	6月5日	弘化3年	5月12日	快晴	
1846年	6月6日	弘化3年	5月13日	快晴	
1846年	6月7日	弘化3年	5月14日	快晴	
1846年	6月8日	弘化3年	5月15日	快晴	(人事異動、この節売出米不足・来る21日渡より御買上値段増35文目立に:御家中には年3回?に別けて主に米が支給される・これを藩が買入れる値段を上げたということ)
1846年	6月9日	弘化3年	5月16日	曇	卯之刻過より小雨時々降 午之刻頃止 戌之刻過雷鳴 則刻止 (何が有ったのか書いていないが江戸で鎌田某が不束・死亡、関係者も罰せられている)
1846年	6月10日	弘化3年	5月17日	曇	今晚丑之刻過より雨時々降 巳之刻頃止
1846年	6月11日	弘化3年	5月18日	晴	(去月23日江戸御廻船が蟹田湊で破損・修理に40両貸し運賃で上納させる)
1846年	6月12日	弘化3年	5月19日	快晴	
1846年	6月13日	弘化3年	5月20日	快晴	
1846年	6月14日	弘化3年	5月21日	快晴	(去る5日深浦沖に無人の流船・佐川羽茂郡多田村の船)
1846年	6月15日	弘化3年	5月22日	曇	未之刻過より雨時々降 夜二入同断 (御名代として御家老中馬術見分)
1846年	6月16日	弘化3年	5月23日	晴	昨夜より之雨今晚寅之刻頃止 (悪金使用男に24鞭5里四方追放、願い無く弘前に住み博打宿の男に3鞭弘前御構・博打の2人に3鞭居町徘徊是迄通り・関係者に過料戸ノ・軽多等御取上げ)
1846年	6月17日	弘化3年	5月24日	晴	(昨晩五半頃三牢並びに番所とも焼失・牢舎11人の者共は別条無く揚屋に移す)
1846年	6月18日	弘化3年	5月25日	曇	卯之刻過より小雨時々降 未之刻過止 (去る13日屋形様が御着府)
1846年	6月19日	弘化3年	5月26日	晴	(武之助様が五時御供揃えで江戸表に出立)
1846年	6月20日	弘化3年	5月27日	曇	酉之刻過より小雨時々降 夜に入同断
1846年	6月21日	弘化3年	5月28日	曇	昨夜より之小雨今日二及 時々降 巳之刻頃止
1846年	6月22日	弘化3年	5月29日	晴	
1846年	6月23日	弘化3年	5月30日	晴	
1846年	6月24日	弘化3年	閏5月1日	快晴	下から続く 犯人不明で各庄屋と村人に過料)
1846年	6月25日	弘化3年	閏5月2日	曇	今晚子之刻過より雨降 巳の刻過止 (外馬場で御家老が名代として馬術見分、今四つ半時頃より岩木川出水・駒越渡し場の両船とも往来差止、多くの山で木の皮剥ぎ等・ 上に続く
1846年	6月26日	弘化3年	閏5月3日	晴	
1846年	6月27日	弘化3年	閏5月4日	曇	未之刻過雷鳴 夜二入同断 (人家近きところで花火子筒等打ち放すなどの触れ)
1846年	6月28日	弘化3年	閏5月5日	曇	卯の刻過より雨時々降 夜に入同断
1846年	6月29日	弘化3年	閏5月6日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻頃止 (今明ヶ七時半頃岩木川出水・明ヶ六時頃6歩になる・落水)
1846年	6月30日	弘化3年	閏5月7日	曇	(御家中の家来が大小等盗み出す)

1846年	7月1日	弘化3年	閏5月8日	曇	(岩木川出水・駒越渡場の両船とも往来差止・今八つ頃両船とも通路相成る)	
1846年	7月2日	弘化3年	閏5月9日	晴		
1846年	7月3日	弘化3年	閏5月10日	曇	今日未の刻頃より雨降 即刻止 (外馬場で御名代として馬術見分、御山伐荒して碇ヶ関町名主と碇ヶ関村庄屋その他に過料戸ㄨ)	
1846年	7月4日	弘化3年	閏5月11日	曇	未の刻過雷鳴 即刻止 (昨夜御家中の居宅焼失、去る7日深浦町で洪水)	
1846年	7月5日	弘化3年	閏5月12日	曇	未の刻過雷鳴 即刻止 (今日大矢場で御名代として射芸見分)	
1846年	7月6日	弘化3年	閏5月13日	曇	巳の刻過より小雨時々ふり 申の刻頃止 下から続く 十三町の被災者に家木御手当てとして下し置かれる)	
1846年	7月7日	弘化3年	閏5月14日	曇	巳の刻過より小雨時々ふり 申の刻頃止 (去る5日夜の出水で不動林土場より三世寺土場江の御用材筏廻の内738本流散・289本流失) 下から続く 28日記述の 上に続く	
1846年	7月8日	弘化3年	閏5月15日	晴	(貯え枳増で代官16人に御賞・手代65人百姓781人にも酒等を下し置かれる、無通で荏種を付下げた男の荏種10呎中4呎御取上げ戸ㄨ20日・関係者に過料銭900文等、4月 上に続く	
1846年	7月9日	弘化3年	閏5月16日	晴		
1846年	7月10日	弘化3年	閏5月17日	快晴	下から続く 5分立で御買入の上1俵49文目値段御払)を売れば564貫972匁(金5044両1歩余)となり1581両1歩の御利益になる・らしい:米が値上がりして高く売れるとのこと)	
1846年	7月11日	弘化3年	閏5月18日	快晴	(青田の内笛吹くなどの触れ、御備米代金3462両余……御米11428俵(青森米5000俵を1俵34文目5分立で御買入50目立にて御払・鰯ヶ沢米6428俵を1俵33文目 上に続く	
1846年	7月12日	弘化3年	閏5月19日	快晴		
1846年	7月13日	弘化3年	閏5月20日	快晴		
1846年	7月14日	弘化3年	閏5月21日	晴		
1846年	7月15日	弘化3年	閏5月22日	晴	(今日大矢場で御名代として家御老中が射芸見分、4月25日の十三町の火災に関して御賞)	
1846年	7月16日	弘化3年	閏5月23日	晴	(今日大矢場で御名代として家御老中が射芸見分)	
1846年	7月17日	弘化3年	閏5月24日	晴		
1846年	7月18日	弘化3年	閏5月25日	快晴	(去月10月24日に柏木村で盗みの庄内鶴ヶ岡出生の男を碇ヶ関口送り返し)	
1846年	7月19日	弘化3年	閏5月26日	晴		
1846年	7月20日	弘化3年	閏5月27日	曇	卯の刻過より雨ふり 巳の刻過止 申の刻過より雷雨 亥の刻頃止	
1846年	7月21日	弘化3年	閏5月28日	晴	(岩木川出水・今六時より両船とも往来差止める)	
1846年	7月22日	弘化3年	閏5月29日	曇	卯の刻過より雨降り 辰の刻頃止	
1846年	7月23日	弘化3年	6月1日	曇	今日未之刻頃より雷雨 申之刻過止	
1846年	7月24日	弘化3年	6月2日	曇	午の刻過雨降 即刻止	
1846年	7月25日	弘化3年	6月3日	曇	今日申之刻頃より雷雨 酉之刻頃止	
1846年	7月26日	弘化3年	6月4日	快晴		
1846年	7月27日	弘化3年	6月5日	晴		
1846年	7月28日	弘化3年	6月6日	曇	申の刻頃小雨ふり 即刻止 (盗みの男を揚屋から出し6鞭弘前町払い、昨年川原平村領山より盗仙の男に9鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)	
1846年	7月29日	弘化3年	6月7日	晴	申の刻頃雨ふり 即刻止 申の刻過雷鳴 即刻止 (土園(?)並びに算木立を御家老中見分)	
1846年	7月30日	弘化3年	6月8日	晴		
1846年	7月31日	弘化3年	6月9日	快晴		
1846年	8月1日	弘化3年	6月10日	快晴		
1846年	8月2日	弘化3年	6月11日	快晴	(当年両都御廻米高の御勘定書届け:江戸廻米定例53342石を30000石(家中扶持米18000・払米12000)・大坂廻米定例37250石を12000石(家中扶持米8000・払米4000))	
1846年	8月3日	弘化3年	6月12日	快晴	(代官の人事異動、境関村街道に37・8歳の帯刀の男が肩先を切られ倒死)	
1846年	8月4日	弘化3年	6月13日	快晴	(昨12日堀越組境関村の死人は尾上村西谷某の倅と判明)	
1846年	8月5日	弘化3年	6月14日	快晴	下から続く 差上げ当年は5月20日植付55日目に差上げる・今年は12日早く節に引合い6日早い)	
1846年	8月6日	弘化3年	6月15日	快晴	(4月29日に切害された男の出生地の松前に死骸引取りの手配をしている・犯人は新城村出生の男、大鰐村加賀助が御初米出穂差出す・去年は5月3日植付67日目に 上に続く	
1846年	8月7日	弘化3年	6月16日	快晴		
1846年	8月8日	弘化3年	6月17日	曇	未之刻過より小雨ふり 則刻止 戌刻頃より雨ふり 則刻止	
1846年	8月9日	弘化3年	6月18日	曇	辰の刻過雨ふり 即刻止	
1846年	8月10日	弘化3年	6月19日	快晴	(去月28日外南御門当番の御馬廻与力2人が御目付の指図に従わず横)	
1846年	8月11日	弘化3年	6月20日	快晴	(昨19日暮大円寺土手桶屋町坂之上で喧嘩・脇差による負傷者あり)	
1846年	8月12日	弘化3年	6月21日	晴	(過酒の御馬附小人を押込)	
1846年	8月13日	弘化3年	6月22日	晴	午の刻過村雨ふり 即刻止 亥の刻頃より小雨ふり 即刻止 同刻過より東風強し(深浦湊で大坂船の水主が病死)	
1846年	8月14日	弘化3年	6月23日	曇	昨夜之風今日二及 夜二入同断 下から続く 喧嘩するなどの触れ、川端町付近で夜四つ時過ぎ乱暴者・腰の物を抜放つ・小さき木太刀で2人を押え手傷も負う・犯人は揚屋入り)	
1846年	8月15日	弘化3年	6月24日	曇	昨夜よりの風今日二及 辰之刻頃止 即刻より小雨ふり 巳之刻頃止 (当月3日16日の夜勘定所より銅大葉告・上納方日々御有合書上帳3冊等が盗まれる、祢婦たの節 上に続く	
1846年	8月16日	弘化3年	6月25日	晴	今晩丑ノ刻過雨ふり 即刻止 下から続く トシモへ川端まで相越す・破船の上異国人7人上陸7人海死とのこと・フウレヘツ勤番所に召連れ番人付置くとの松前家からの報告あり)	
1846年	8月17日	弘化3年	6月26日	晴	(去る21日小沢村の山に薪取りに行った御家中に見習い奉公の男が打擲され半死半生・昨夜五ツ時過ぎ死亡) 下から続く 翌12日勤番所より蝦夷人通辞召連れ 上に続く	
1846年	8月18日	弘化3年	6月27日	曇	今晩寅の刻頃雨ふり 即刻止 卯の刻過雨ふり 即刻止 下から続く 1里半ほど相隔て字モシエと申す処海岸に火煙・異国人4・5人上陸が見えた・ルヘツ番家に進注 上に続く	
1846年	8月19日	弘化3年	6月28日	快晴	(祢婦た・盆踊りの節に壮年の婦人に出ないよう・脇差を帯びて踊りに入らないよう触れ) 下から続く 東蝦夷地エトロフ嶋の内ルヘツ御場所東浦見張番所より 上に続く	
1846年	8月20日	弘化3年	6月29日	快晴	下から続く 29日西蝦夷地ソウヤ御持場の内字ノツシヤフ崎と申す所沖合い2里ほど隔て異国船1艘見える・翌晦日明け方西北の方に見えなくなる、去月11日 上に続く	
1846年	8月21日	弘化3年	6月30日	快晴	(御家中の家来共が小沢山に入り乱暴(26日の記述の逆)あり・内済にしたのかな?) 下から続く 帰帆も出来ない・フウレヘツ勤番所に召し連れ番人付け置く、当5月 上に続く	
1846年	8月22日	弘化3年	7月1日	快晴	(不明日に三蔵町観音堂坂下に倒死の者、江戸で人事異動、当5月13日東蝦夷地エトロフ嶋の内東浦字モシエと申す処に異国人7人が上陸した・元船破船飢渴の様子で 上に続く	
1846年	8月23日	弘化3年	7月2日	快晴	(去る9月紙漉町で喧嘩の男8人を戸ㄨ・押込め)	
1846年	8月24日	弘化3年	7月3日	快晴		
1846年	8月25日	弘化3年	7月4日	快晴		
1846年	8月26日	弘化3年	7月5日	快晴	(御初米献上とは書いていないが、5月18日植付73日目の7月朔日録入去年は5月3日植付91日目の8月5日録入・今年は18日早く節に引合16日早い)	
1846年	8月27日	弘化3年	7月6日	快晴		
1846年	8月28日	弘化3年	7月7日	快晴	下から続く 9文目位・御買上値段を1俵31文目立?にする)	
1846年	8月29日	弘化3年	7月8日	快晴	(碇ヶ関町は定め宿継で凶災前は馬100疋位いた・最近では23・4疋で継立に差支える・馬10疋増に4貫目拝借させる、この節売出米日々相場下落・1俵27文目より 上に続く	
1846年	8月30日	弘化3年	7月9日	快晴	(昨日報告の大落前沢野火が再出火、閏5月21日御米3950俵御用材等を積んだ青森湊出帆の江戸廻船が6月17日夜南山瀬大雨で仙台気仙沖辺りで荷打ち・ 欄外(*)に続く	
1846年	8月31日	弘化3年	7月10日	晴	(当春熊狩取り方格別として獵師4人に熊皮・鳥目を下し置かれる、大落前沢の野火が今七時過ぎ鎮火)	
					(*) 当月朔日南部佐井浦に入津)	

1846年	9月1日	弘化3年	7月11日 曇	辰の刻頃雨ふり 即刻止 (博打内で多数に乱暴し腰縄つきで預け中逃亡の喜良市村の男を12鞭居村徘徊はまで通り・博打の3人は逃亡)
1846年	9月2日	弘化3年	7月12日 曇	辰の刻頃より小雨時々ふり 午の刻過止
1846年	9月3日	弘化3年	7月13日 晴	
1846年	9月4日	弘化3年	7月14日 快晴	(漆の山実里実とも6250俵程代銭おおよそ100貫目余・不足している、年中御入用生蠟おおよそ4000斤程代200両位で十分ある)
1846年	9月5日	弘化3年	7月15日 快晴	
1846年	9月6日	弘化3年	7月16日 快晴	
1846年	9月7日	弘化3年	7月17日 曇	午の刻過より小雨ふり 即刻止 申の刻過雨ふり 酉の刻過止 下から続く 1升売りは5文目5分1合売りは5分5厘に申付ける)
1846年	9月8日	弘化3年	7月18日 曇	辰の刻過より雨ふり 即刻止 辰の刻過雷鳴 即刻止 申の刻過より雨ふり 夜二入同断 (閏5月20日より30日売出附相場平均之上割合仕候処1升5文目5分3毛に相当・上に続く
1846年	9月9日	弘化3年	7月19日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 申の刻頃雨ふり 即刻止
1846年	9月10日	弘化3年	7月20日 快晴	
1846年	9月11日	弘化3年	7月21日 晴	(御広敷御番人加勢等に御賞、牢揚屋内の者共数人を病気で宿下がり)
1846年	9月12日	弘化3年	7月22日 快晴	(去る20日より21日朝まで当番の御馬廻与力加勢が四ノ北御門の鉄砲が行方不明と報告、江戸御廻船が江戸を出帆してもなかなか着いていない)
1846年	9月13日	弘化3年	7月23日 快晴	(江戸で荷物を盗んだ諸手足軽の御給分召上げ5里四方追放大場御構い・この仲間の掃除小人に9鞭居町徘徊はまで通り)
1846年	9月14日	弘化3年	7月24日 快晴	
1846年	9月15日	弘化3年	7月25日 曇	今暁子の刻過より小雨ふり 寅の刻頃止 辰の刻頃より雨ふり 巳の刻過止
1846年	9月16日	弘化3年	7月26日 晴	
1846年	9月17日	弘化3年	7月27日 晴	
1846年	9月18日	弘化3年	7月28日 曇	辰の刻過より雨時々ふり 申の刻過止
1846年	9月19日	弘化3年	7月29日 曇	申の刻頃より小雨ふり 即刻止 (藤代組八代村と船水村の間に倒死の男あり・打擲の跡あり)
1846年	9月20日	弘化3年	7月30日 曇	下から続く 船中手段(不正)あり・捕り手差し向け17人全員を召捕る)
1846年	9月21日	弘化3年	8月1日 曇	今暁子の刻過より雨時々降 寅の刻過止 辰の刻過より小雨降 巳の刻過止 午の刻過小雨降 即刻止 (荷打ちの上南部佐井浦に入津(7月9日記述)の見分の結果 上に続く
1846年	9月22日	弘化3年	8月2日 曇	未の刻過より小雨降 申の刻過止 (来る5日より晴天3日角力興行・札銭1人に付5分宛)
1846年	9月23日	弘化3年	8月3日 晴	
1846年	9月24日	弘化3年	8月4日 曇	
1846年	9月25日	弘化3年	8月5日 晴	(碓ヶ関町の者共が旅人に対しゆすりがましき儀あり)
1846年	9月26日	弘化3年	8月6日 晴	
1846年	9月27日	弘化3年	8月7日 曇	
1846年	9月28日	弘化3年	8月8日 曇	辰の刻過より雨時々降 午の刻過止 (6月29日利根川洪水で江戸辺り水湛・7月7日兵庫湊で繋船百五六十艘破船等で米価値上がり・御印付米1俵41文目立にて御払い申付ける)
1846年	9月29日	弘化3年	8月9日 曇	
1846年	9月30日	弘化3年	8月10日 晴	
1846年	10月1日	弘化3年	8月11日 快晴	
1846年	10月2日	弘化3年	8月12日 晴	(藤代組青女子村川原空き地に神楽料と号し5町余の畑あり・村役共も承知、大赦以前のことで数十人に軽い罰)
1846年	10月3日	弘化3年	8月13日 快晴	
1846年	10月4日	弘化3年	8月14日 曇	
1846年	10月5日	弘化3年	8月15日 曇	午の刻過より雨降 夜二入同断 (硫黄80俵を穿取る惣附木屋共に御武具蔵御用30貫目紙御蔵御用20貫目計50貫目を合わせて穿取らせる)
1846年	10月6日	弘化3年	8月16日 曇	昨夜よりの雨今日二及 巳の刻頃止 (所々で盗みの男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1846年	10月7日	弘化3年	8月17日 晴	
1846年	10月8日	弘化3年	8月18日 晴	(去る13日前田某が浪岡村で百姓に手傷を負わせる、杣取許可外の木を伐り荒らした早瀬野八幡館両村の者共に過料42貫文・庄屋共に過料1貫800文宛、他にも類似例)
1846年	10月9日	弘化3年	8月19日 曇	(白神崎より三里程隔て辰巳之方沖合に異国船1艘見えると去る16日江戸に届けたと通報あり、去月下旬より江戸で出水・侍従様去る朔日御上屋敷江御立ち退き)
1846年	10月10日	弘化3年	8月20日 曇	申の刻頃より雨降 夜に入同断 (佐井浦に入った御廻船の船頭は逃亡・上乗りは病氣死亡など多くを召捕ってはいない)
1846年	10月11日	弘化3年	8月21日 晴	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 (牢屋御普請中の雇鳶は先例通り1日1文目・歩引なしに1日1升の膳を下し置かれる、牢屋の表門は幅3尺高さ4尺を幅8尺高さ6尺にする)
1846年	10月12日	弘化3年	8月22日 曇	(米穀津出御印代:米1俵に8文目・大豆1俵に7文目、検見人控手に御手廻山上鉄太郎あり)
1846年	10月13日	弘化3年	8月23日 晴	
1846年	10月14日	弘化3年	8月24日 快晴	(当御検見立会いの控手に横岡勝太郎(御徒代目付)あり)
1846年	10月15日	弘化3年	8月25日 快晴	
1846年	10月16日	弘化3年	8月26日 曇	
1846年	10月17日	弘化3年	8月27日 晴	(御用人中が外馬場で御立駒御見分)
1846年	10月18日	弘化3年	8月28日 曇	巳の刻過より雨降 未之刻頃止
1846年	10月19日	弘化3年	8月29日 晴	
1846年	10月20日	弘化3年	9月1日 曇	辰の刻過小雨降 即刻止 午の刻過雨降 即刻止 (人事異動)
1846年	10月21日	弘化3年	9月2日 晴	今暁丑之刻頃より雨降 寅之刻頃止
1846年	10月22日	弘化3年	9月3日 曇	巳之刻過より雨降 酉之刻過止 巳之刻頃雷鳴 即刻止
1846年	10月23日	弘化3年	9月4日 晴	
1846年	10月24日	弘化3年	9月5日 晴	
1846年	10月25日	弘化3年	9月6日 曇	巳之刻過小雨降 即刻止 戌之刻過より雨降
1846年	10月26日	弘化3年	9月7日 快晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 今朝岩木山二雪見る (別段御用に御賞(金2朱・銀5両))
1846年	10月27日	弘化3年	9月8日 快晴	戌の刻頃より雨降
1846年	10月28日	弘化3年	9月9日 快晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 卯の刻過より小雨降 即刻止 (米価引下り24文目より25文目4・5分迄・御買上値段不釣合・3文目下げ28文目立に仕り御買上は前々の通り4分増)
1846年	10月29日	弘化3年	9月10日 曇	今暁丑の刻過より雨降 辰の刻頃止 午の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1846年	10月30日	弘化3年	9月11日 曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻頃止
1846年	10月31日	弘化3年	9月12日 曇	

1846年	11月1日	弘化3年	9月13日 曇	巳の刻頃より雨降 巳の刻頃西南之風強 (今日の大風で二ノ丸御広敷屋祢廻等に被害あり)
1846年	11月2日	弘化3年	9月14日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止
1846年	11月3日	弘化3年	9月15日 晴	下から続く 勘定小頭と御徒目付を検分に出す)
1846年	11月4日	弘化3年	9月16日 快晴	(先年勘定奉行から御手廻になった田中某が不取締として隠居仰せ付けられる、当御廻船の江戸船が去る19日よりの大風で常州平潟浦で破船・上乘と水主が海死 上に続く
1846年	11月5日	弘化3年	9月17日 快晴	
1846年	11月6日	弘化3年	9月18日 快晴	
1846年	11月7日	弘化3年	9月19日 曇	辰の刻過より雨時々降 戌の刻過止
1846年	11月8日	弘化3年	9月20日 晴	下から続く 30石未満1歩8厘引き・5石以上9石まで7厘引き等々)
1846年	11月9日	弘化3年	9月21日 曇	卯の刻過小雨降 即刻止 戌の刻過雨降 (牧野左次郎門弟の算木立土園?を御家老中が御名代として見分) 下から続く 200石未満?2歩3厘引き・25石以上 上に続く
1846年	11月10日	弘化3年	9月22日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 巳の刻頃より西南の風強し 酉の刻過止 (この度仰せ付けられた歩引き割合:1200石以上3歩4厘引き・50石以上 上に続く
1846年	11月11日	弘化3年	9月23日 曇	(5月2日記述で殺された男の出生地が南部大畑と判明し死骸受け取りに来る)
1846年	11月12日	弘化3年	9月24日 曇	
1846年	11月13日	弘化3年	9月25日 曇	巳の刻過より小雨降 未の刻過止 (当4月14日御家中の倅が酒に酔い紺屋町で刀を不振り回し暴れる、28日御登せ金3600両を両目付に預けて江戸に)
1846年	11月14日	弘化3年	9月26日 晴	酉の刻頃より雷雨 即刻止
1846年	11月15日	弘化3年	9月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1846年	11月16日	弘化3年	9月28日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1846年	11月17日	弘化3年	9月29日 晴	
1846年	11月18日	弘化3年	9月30日 晴	亥の刻頃より小雨時々降 (浪人と称し帯刀その後医者との真似の男を野内口より送り返し)
1846年	11月19日	弘化3年	10月1日 曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 巳の刻過止 下から続く 白酒2斗入り1樽御役銭3文目・味噌2斗入り1樽御役銭3文目・酢2斗入り1樽御役銭1文目)
1846年	11月20日	弘化3年	10月2日 快晴	(当年10月より来年9月まで諸濱口より津出御印代・御定め役:酒2斗入り1樽御印代3文目・糶1俵御役銭5文目(是迄5文目5分)・醤油2斗入り1樽御役銭2匁5分・ 上に続く
1846年	11月21日	弘化3年	10月3日 曇	卯の刻過より雨降 辰の刻過止 今日雪少し降 (所々盗みの男に9鞭弘前払い・貸家等の関係者にも若干の罰、御構い地に入り盗みの男に9鞭乞食手江引渡し)
1846年	11月22日	弘化3年	10月4日 曇	昨夜雪少し降 巳の刻過地震少し (津出御印代:米1俵8文目・餅米1俵16文目・大豆は追って)
1846年	11月23日	弘化3年	10月5日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (付け入料?の歩引きが示されている:高40人扶持は72石8斗とのこと)
1846年	11月24日	弘化3年	10月6日 晴	(当6月19日夜喧嘩手傷の兩人に憤、当8月12日夜過酒で刀を抜き暴れた諸手誓固に憤、当6月20日夜古学校御門巻金等を盗みの御家中の弟を兄預け)
1846年	11月25日	弘化3年	10月7日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (今晚七つ時湯屋から逃亡の油川組新城村庄屋の倅を人相書きで手配:22歳ふけ候方・背5尺1寸位・面鉢角顔あばた少々あり等々)
1846年	11月26日	弘化3年	10月8日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 今日雪少し降り (御名代として御家老中が剣術見分)
1846年	11月27日	弘化3年	10月9日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1846年	11月28日	弘化3年	10月10日 曇	午の刻過より雨降 申の刻過止
1846年	11月29日	弘化3年	10月11日 晴	戌の刻過より雨降 (御名代として御家老中が剣術見分、並御飛脚は昼ばかり往来夜は止宿のはず……)
1846年	11月30日	弘化3年	10月12日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止
1846年	12月1日	弘化3年	10月13日 快晴	
1846年	12月2日	弘化3年	10月14日 快晴	申の刻過より小雨降 酉の刻過止 酉の刻頃雷鳴 即刻止 (当御収蔵飯積り148000石余(163200石余中15200石程(当諸品成並びに田畑当毛引共))
1846年	12月3日	弘化3年	10月15日 快晴	(御名代として御家老中が剣術見分、先だって人相書きで手配の新城村の男が捕まる)
1846年	12月4日	弘化3年	10月16日 快晴	戌の刻過より雨降 下から続く 鯨ヶ沢御蔵米40目2厘3毛弘前御蔵米40目1分2厘1毛))
1846年	12月5日	弘化3年	10月17日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 今日雪少し降 (当一番米相場:1俵41文目6分2厘2毛(3蔵平均42文目8分2厘2毛内1文目2分が御定役・青森御蔵米48文目3分2厘2毛 上に続く
1846年	12月6日	弘化3年	10月18日 快晴	(米穀津出御印値段:白米1俵14文目・大豆1俵10文目・玄餅米1俵16文目・餅白米18文目)
1846年	12月7日	弘化3年	10月19日 曇	
1846年	12月8日	弘化3年	10月20日 曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断 (御名代として御家老中が剣術見分、牢舎の内から逃亡された当番の牢奉行加勢に憤)
1846年	12月9日	弘化3年	10月21日 曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 (この節日々売出来追々引き立て27文目迄に相成る・ご家中御貢上値段を1文目増し都合29匁立とする)
1846年	12月10日	弘化3年	10月22日 曇	昨夜雪少し降 戌の刻過より小雨降 亥の刻過止
1846年	12月11日	弘化3年	10月23日 曇	(昨22日夜御武具蔵より品々が盗まれる)
1846年	12月12日	弘化3年	10月24日 曇	(御廻船の上乗りで水死の大組足輕の倅に俵子6俵2人扶持並びに勤料そのまま下し置かれ即役:6俵2人扶持では足輕未満・勤務中の死亡で子に勤料(多分24俵)を与えた)
1846年	12月13日	弘化3年	10月25日 曇	今晚寅の刻過より小雨ふり 即刻止 (御名代として御家老中が剣術見分)
1846年	12月14日	弘化3年	10月26日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1846年	12月15日	弘化3年	10月27日 晴	(紙御蔵が切り破られ品々盗まれる)
1846年	12月16日	弘化3年	10月28日 曇	今日午の刻頃より雨降 夜二入同断 酉の刻過雷鳴 即刻止 (西御門番人以前の通り……、去る11日夜北之丸御番所に悪者忍び入り品々盗み取る)
1846年	12月17日	弘化3年	10月29日 曇	昨夜より(虫虫……虫虫)の刻頃止 今日雪少し降り 未之刻頃より西南の風強し 酉の刻過止
1846年	12月18日	弘化3年	11月1日 曇	
1846年	12月19日	弘化3年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (御名代として御家老中が剣術並びに和術見分)
1846年	12月20日	弘化3年	11月3日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (内東御門前石橋をありきたりの板橋にする話あり) 下から続く 御家中貸渡し味噌増銭10文目代に付味噌目形6貫430目)
1846年	12月21日	弘化3年	11月4日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 6文目8分4文1合売りは6分5文に申付ける、12尺紐40万枚5尺木舞を希の者に貸渡し(規格はずれ?)、 上に続く
1846年	12月22日	弘化3年	11月5日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 (当年9月17日より10月16日まで30日附け相場平均御定法を以って割合仕せ候処油1升6匁8分6厘に相当・1升売りは 上に続く
1846年	12月23日	弘化3年	11月6日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1846年	12月24日	弘化3年	11月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1846年	12月25日	弘化3年	11月8日 晴	亥の刻頃より雨降 (御名代として御家老中が剣術見分)
1846年	12月26日	弘化3年	11月9日 曇	昨夜よりの雨今晚卯の刻頃止 今日吹雪強し 雪二寸程積
1846年	12月27日	弘化3年	11月10日 快晴	昨夜雪少し降 下から続く 置かれる・下乗りも同様で昇任)
1846年	12月28日	弘化3年	11月11日 曇	辰の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (当大坂御廻船の上乗川村某が兵庫湊で抜米賄絡金を差出されたが仰付けを守りこれを上納の上委細申し出る・御賞金5両下し 上に続く
1846年	12月29日	弘化3年	11月12日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (9月16日より10月15日迄売出米相場が1俵26匁9分6厘余・酒1升到付1文目5分2厘7毛に相当・1升売りは1文目6分1合売りは10文に商売仰せ付ける)
1846年	12月30日	弘化3年	11月13日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (博打盗みの男に6鞭弘前御構い・博打宿盗品受け取り逃亡の男に9鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)
1846年	12月31日	弘化3年	11月14日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (荏種油1升到を6匁5分に引き下げの申し出・御聞届け1合売りは6分5厘に商売仰せ付ける)

1847年	1月1日	弘化3年	11月15日	曇	未の刻より小雨時々降 酉の刻過止 (先達て御郭内所々で諸道具が盗まれ対策を評議している)
1847年	1月2日	弘化3年	11月16日	晴	(一昨年8月似せ役人下役になり金子掠め取り(30鞭相当の罪だが大赦以前であり)等の男に10里四方追放大場御構いとする・関係者にも軽い罰)
1847年	1月3日	弘化3年	11月17日	晴	(去る6日七時頃より翌7日昼九時頃迄十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月14日タより翌15日朝迄に・当年は日数に引合8日早く節に引合10日遅い)
1847年	1月4日	弘化3年	11月18日	晴	(諸手足軽藤田某を召捕る)
1847年	1月5日	弘化3年	11月19日	晴	戌の刻過ぎより小雨降 則刻止 (藤田某の家から4ヶ所御紛失品残らず出る)
1847年	1月6日	弘化3年	11月20日	曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (揚屋内の藤田某が今暁七時頃縊死)
1847年	1月7日	弘化3年	11月21日	快晴	(人事異動、藤田某は御城内の盗みで生きていれば獄門相当・自害しており死骸塩詰に及ばずとのこと)
1847年	1月8日	弘化3年	11月22日	快晴	
1847年	1月9日	弘化3年	11月23日	曇	今暁子之刻過より雨降 夜二入同断 未之刻過より東風強し 夜二入同断 (牢に入っているべき息子・祖父を病気で預った御家中が病気が治って出奔され慎2件)
1847年	1月10日	弘化3年	11月24日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜に入同断 昨夜より之風今暁丑之刻頃止 辰之刻過より雨降 夜に入同断
1847年	1月11日	弘化3年	11月25日	晴	昨夜より之雨今暁丑之刻過止 (去る17日朝十三湯前後とも残らず氷張る、牢屋出来、先頃北之丸江者祢橋(はね橋)脇柵立の小門錠抜き取り悪者忍び入る)
1847年	1月12日	弘化3年	11月26日	曇	巳之刻過より雨降 申之刻過止 (当4月29日石川村で南部大畑の男を切り殺した新城村庄屋の子を町中引き回しの上取上御仕置場で磔)
1847年	1月13日	弘化3年	11月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1847年	1月14日	弘化3年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1847年	1月15日	弘化3年	11月29日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1847年	1月16日	弘化3年	11月30日	晴	
1847年	1月17日	弘化3年	12月1日	晴	(人事異動、惣組貯枳の儀去る丑年より昨巳年まで5ヵ年で組貯村貯共73000余の高に候えども……他の町にも似た記述あるが分からない)
1847年	1月18日	弘化3年	12月2日	晴	
1847年	1月19日	弘化3年	12月3日	曇	今日雪少し降
1847年	1月20日	弘化3年	12月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、浅虫村で越後の男から金子260両等を盗んだ他領者を永牢とする、去月6日国上寺門前で出火の男の戸ノ御免)
1847年	1月21日	弘化3年	12月5日	晴	(婿養子が認められ武之助様を以来若殿様と称す)
1847年	1月22日	弘化3年	12月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 五寸程積
1847年	1月23日	弘化3年	12月7日	晴	
1847年	1月24日	弘化3年	12月8日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1847年	1月25日	弘化3年	12月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積
1847年	1月26日	弘化3年	12月10日	曇	
1847年	1月27日	弘化3年	12月11日	曇	今日雪降 七寸程積
1847年	1月28日	弘化3年	12月12日	曇	昨夜雪降 四寸程積
1847年	1月29日	弘化3年	12月13日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積
1847年	1月30日	弘化3年	12月14日	快晴	
1847年	1月31日	弘化3年	12月15日	曇	
1847年	2月1日	弘化3年	12月16日	快晴	昨夜雪降 一尺程積 (当10月6日当番の節新城村元助出奔当夏牢屋当番の節出火の牢奉行加勢(町同心警固)松本某を長柄の者に役下げ・牢番は慎)
1847年	2月2日	弘化3年	12月17日	快晴	昨夜雪少し降
1847年	2月3日	弘化3年	12月18日	快晴	(人事異動)
1847年	2月4日	弘化3年	12月19日	曇	酉の刻頃より雨降
1847年	2月5日	弘化3年	12月20日	曇	昨夜より之雨今暁子之刻頃止
1847年	2月6日	弘化3年	12月21日	曇	未之刻頃より雨降 戌之刻過止 (当御検見方に御賞、在浦々江罷下り候諸役人賄い方・御用人以上・山奉行以上・御目見以上・御目見以下別に朝夕昼等の別あり)
1847年	2月7日	弘化3年	12月22日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1847年	2月8日	弘化3年	12月23日	曇	今日雪降 三寸程積 (無刻印の木を預けたら薪にした等の持子沢村等の9人に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者に過料)
1847年	2月9日	弘化3年	12月24日	曇	昨夜雪降 一尺程積
1847年	2月10日	弘化3年	12月25日	晴	
1847年	2月11日	弘化3年	12月26日	晴	下から続く 翌辰年9月に112文目立に戻した・来月朔日より他邦の相場に従い金1両を104文目立1歩は26文目仁朱は13文目に通用させるようにする)
1847年	2月12日	弘化3年	12月27日	晴	戌之刻過より雨降 (文政12年に金1両を112匁立の定価に仰せ付けられ候・諸国相庭(相場)と釣合い申さず・去る卯年(今年は午年)閏9月に定価を104文目立に引下げ 上に続く
1847年	2月13日	弘化3年	12月28日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻頃止 今日雪少し降 (御蔵立会い・御蔵奉行・その他の納入関係者にに御賞・御酒代を下し置かれる)
1847年	2月14日	弘化3年	12月29日	曇	
1847年	2月15日	弘化4年	正月1日	晴	
1847年	2月16日	弘化4年	正月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1847年	2月17日	弘化4年	正月3日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積 (御吉例金を御金奉行が持参)
1847年	2月18日	弘化4年	正月4日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積
1847年	2月19日	弘化4年	正月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積
1847年	2月20日	弘化4年	正月6日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積
1847年	2月21日	弘化4年	正月7日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (七種の御祝儀、屋形様が昨年11月28日に上使を以って御鷹の雁拝領・この御祝儀に11日登城の触れ、江戸で人事異動)
1847年	2月22日	弘化4年	正月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1847年	2月23日	弘化4年	正月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1847年	2月24日	弘化4年	正月10日	晴	(ト伝流師範の小山平司が死亡後その子の儀三郎が幼年(門弟?)小山某・川越某が教授等を行いこのたび皆伝となり師範にする)
1847年	2月25日	弘化4年	正月11日	曇	(御弓師・御矢師より御弦・御征矢差上げる、勘定小頭阿保某に御賞金150疋)
1847年	2月26日	弘化4年	正月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (東長町矢場で御弓射初め)
1847年	2月27日	弘化4年	正月13日	晴	(八幡宮で御鉄砲打初め)
1847年	2月28日	弘化4年	正月14日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降

1847年	3月1日	弘化4年	正月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積	
1847年	3月2日	弘化4年	正月16日	晴	下から続く 附相場29文目立がこの節引き上がり31文目立相場になった・御家中渡米御買上の儀は4分上にて31文目4分に申し付ける)	
1847年	3月3日	弘化4年	正月17日	曇	未之刻頃より雨降 酉之刻頃止 (去る麦蒔附が μ て508町2反3畝歩で一昨年より36町1反1歩相増す、粟種は442町5反7畝歩で一昨年より23町4反8畝歩相増す、御蔵米	上に続く
1847年	3月4日	弘化4年	正月18日	快晴		
1847年	3月5日	弘化4年	正月19日	晴		
1847年	3月6日	弘化4年	正月20日	晴		
1847年	3月7日	弘化4年	正月21日	快晴	(来る28日3000両(御下向金3000両の内2000両・2・3両月御常用金の内1000両)を江戸に登す)	
1847年	3月8日	弘化4年	正月22日	曇	午の刻過より雨降 戌之刻過止	
1847年	3月9日	弘化4年	正月23日	曇	昨夜雪少し降 今日同断	
1847年	3月10日	弘化4年	正月24日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (来る29日江戸に帰る津軽屋手代に先例の通り御手当て下し置かれる)	
1847年	3月11日	弘化4年	正月25日	晴		
1847年	3月12日	弘化4年	正月26日	曇		
1847年	3月13日	弘化4年	正月27日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (4月に紀州で神楽を差上げる総名代2人(普通は商人と百姓となっていた)が本年は郡所物書(御家中)と和徳町名主)	
1847年	3月14日	弘化4年	正月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (当両都廻船上乗下乗は船数が47艘の見込み・昨年の出残りも加え47人宛とする)	
1847年	3月15日	弘化4年	正月29日	晴	昨夜雪少し降	
1847年	3月16日	弘化4年	正月30日	快晴	昨夜雪少し降 戌之刻過より雨時々降 (去る11月に江戸で拝領の御鷹の雁肉を明朔日に大寄合以上並びに大目付御側役御錠口役等に頂戴仰せ付けられる)	
1847年	3月17日	弘化4年	2月1日	晴	昨夜より之雨今晩寅之刻頃止 今暁子之刻過より雷鳴 丑之刻頃止 酉之刻頃西南之風邪強し (人事異動、去る11月朔日松前で主人の御家中を殺して逃亡の男の	欄外(*)に続く
1847年	3月18日	弘化4年	2月2日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (時鐘撞の給分が金1両2歩2人扶持、江戸で人事異動)	
1847年	3月19日	弘化4年	2月3日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積 (御家中の倅が暴れそれを不当に捕縛した町同心の両方に罰、勤務が不適切な複数御家中を役下げ等)	
1847年	3月20日	弘化4年	2月4日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積	
1847年	3月21日	弘化4年	2月5日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日同断 (杉皮剥ぎの木品取上げ過料)	
1847年	3月22日	弘化4年	2月6日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積	
1847年	3月23日	弘化4年	2月7日	晴	昨夜雪降 二寸程積	
1847年	3月24日	弘化4年	2月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1847年	3月25日	弘化4年	2月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積	
1847年	3月26日	弘化4年	2月10日	晴		
1847年	3月27日	弘化4年	2月11日	曇		
1847年	3月28日	弘化4年	2月12日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (去る2日浪岡組高屋敷村百姓家で出火・建家外馬穀物等焼失、無断で炭焼きの者共の道具取押え過料、山に伐り荒し等に罰・大赦もからんで複雑)	
1847年	3月29日	弘化4年	2月13日	晴		
1847年	3月30日	弘化4年	2月14日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (御家老中が御名代として剣術見分、非常御備用征矢1800本の矧方仰せ付けられたが羽が払底し矢師に買い入れさせる)	
1847年	3月31日	弘化4年	2月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (貯籾の惣高が300,000俵余になりそう、仁王尊御出汗・報恩寺十一面観音御出汗・百沢下居宮御出汗・古懸不動尊御出汗・御祈祷等)	
1847年	4月1日	弘化4年	2月16日	晴		
1847年	4月2日	弘化4年	2月17日	曇	未之刻頃より雨降 酉之刻頃止	
1847年	4月3日	弘化4年	2月18日	快晴		
1847年	4月4日	弘化4年	2月19日	晴		
1847年	4月5日	弘化4年	2月20日	晴	(当年御貸渡綿25400把……)	
1847年	4月6日	弘化4年	2月21日	快晴	昨夜雪少し降 (去る12日夕より翌13日朝迄十三湯の大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷明る・昨年は2月6日夜より翌7日朝迄に氷明け当年は日数に引合6日遅く節に引合4日早い)	
1847年	4月7日	弘化4年	2月22日	曇	卯之刻頃より雨降 戌之刻過止	
1847年	4月8日	弘化4年	2月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 此の類焼65軒庵寺2ヶ所・五所川原御蔵危うかったが屋根廻り剥ぎ取り別状なし)	
1847年	4月9日	弘化4年	2月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (去る19日までに十三前後の湯残らず氷明る、昨22日夕八時頃広田組喰川村で出火・大都(大よそ?)64・5軒類焼・暮六時鎮火・	上に続く
1847年	4月10日	弘化4年	2月25日	晴	(人事異動、御給人子弟の割付奉公を嫌って在町に養子等の手段を講じているらしい)	
1847年	4月11日	弘化4年	2月26日	曇		
1847年	4月12日	弘化4年	2月27日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (菜種値段が去る夏御定め通りの通り1升が5文目5分に立ち戻る・この度限り当夏限りで菜種値段定めまで1升二付5文目8分2文・1合売りは5分5文に申付ける)	
1847年	4月13日	弘化4年	2月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (筒台とも出来代6貫目筒にて195両・13貫目筒にて75両、野戦筒(150目・代金18両2分この附台13両2分)・同(500目・代金60両	欄外(**)に続く
1847年	4月14日	弘化4年	2月29日	晴	昨夜雪少し降	
1847年	4月15日	弘化4年	3月1日	快晴	(人事異動、御賞)	
1847年	4月16日	弘化4年	3月2日	快晴		
1847年	4月17日	弘化4年	3月3日	快晴	酉之刻過より小雨時々降 (人事異動)	
1847年	4月18日	弘化4年	3月4日	晴	昨夜より之雨今晩寅之刻頃止	
1847年	4月19日	弘化4年	3月5日	曇	巳之刻頃より雨時々降 戌之刻過止 (石渡川4歩半の出水・両船とも往来差止める)	
1847年	4月20日	弘化4年	3月6日	晴	(岩木川出水・両船とも往来相止む・石渡川落水、御閑所間道往復盗みの男に21鞭3里四方追放)	
1847年	4月21日	弘化4年	3月7日	曇	未之刻過より雨降 夜二入同断	
1847年	4月22日	弘化4年	3月8日	曇	昨夜より之雨今日二及時々降 夜二入同断 (昨年暮れ屋形様の御鷹の雁拝領に関して座当盲女に御祝儀(371人に15文宛計92文目7分5厘))	
1847年	4月23日	弘化4年	3月9日	晴	昨夜より之雨今晩丑之刻頃止	
1847年	4月24日	弘化4年	3月10日	快晴	(人事異動)	
1847年	4月25日	弘化4年	3月11日	快晴	(去月22日喰川村の類焼共68軒に御米68俵を下し置かれる)	
1847年	4月26日	弘化4年	3月12日	曇	辰之刻過より小雨降 午之刻頃止 未之刻頃より雨降 夜二入同断	
1847年	4月27日	弘化4年	3月13日	晴	昨夜より之雨今暁子之刻頃止 (御構地に立入りの男に3鞭5里四方追放・これを止宿させた男に戸 μ) 下から続く 外東御門・三之北御門・四之北御門も同様)	
1847年	4月28日	弘化4年	3月14日	晴	(御馬廻りと力が外4箇所御門番所に備えの火消し道具に痛損紛失ありと報告・外南水張り菴18が5ツ・藁太(わらた?)10が5本・長熊手8が5本・長鎌9が5本になっている、	上に続く
1847年	4月29日	弘化4年	3月15日	快晴	(人事異動)	
1847年	4月30日	弘化4年	3月16日	曇	(博打盗みの御家中?勘当の子に12鞭弘前町御構い・この関係者に3鞭居村徘徊はまで通りなどの罰)	
(*)人相書きあり、金2300両(御下向金3000両の内の1000両・3・4月御常用金の残り)と山吹銀目形1貫500目を来る10日に江戸に登す)						
(**)この附台11両)・13貫目筒(モルール?・代金60両この附台15両)・6貫目筒(ホーイツスル代金130両この附台65両)、22日喰川村の火元鍛冶は他村預け・類焼共70軒焼失、江戸で人事異動)						

1847年	5月1日	弘化4年	3月17日	曇	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止	巳之刻頃より雨時々降	申の刻過止	酉の刻頃より雨降		
1847年	5月2日	弘化4年	3月18日	晴	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止	(昨年7月末に八大村合で川村の小三郎の子丑蔵が変死した件について吟味している)				
1847年	5月3日	弘化4年	3月19日	曇	西の刻過より雨降					
1847年	5月4日	弘化4年	3月20日	曇	昨夜より之雨今日二及	巳之刻頃止	酉の刻頃より小雨時々降			
1847年	5月5日	弘化4年	3月21日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	巳之刻頃止	下から続く		
1847年	5月6日	弘化4年	3月22日	快晴	(御家老中が御名代として剣術和術見分、昨21日昼四時頃平館村10丁程沖合いに檣(ほばしら)3本長さ30間位の異国船1艘澗懸(間がかり:停泊の意)の報告・道中7日					上に続く
1847年	5月7日	弘化4年	3月23日	晴						
1847年	5月8日	弘化4年	3月24日	晴						
1847年	5月9日	弘化4年	3月25日	快晴	(異国船退散の報あり)					
1847年	5月10日	弘化4年	3月26日	曇	午之刻過より小雨降					
1847年	5月11日	弘化4年	3月27日	晴	申之刻過止					
1847年	5月12日	弘化4年	3月28日	快晴	(青森湊より5斗入り700呎を5文目立て津出)					
1847年	5月13日	弘化4年	3月29日	晴	申之刻過雷鳴					
1847年	5月14日	弘化4年	3月30日	曇	昨夜より之小雨今晚寅之刻過止					
1847年	5月15日	弘化4年	4月1日	曇	今晚丑之刻過より小雨時々降					
1847年	5月16日	弘化4年	4月2日	晴	(牢屋お取立てにて御賞等)					
1847年	5月17日	弘化4年	4月3日	快晴	(御家老中が御名代として和術棒術剣術見分、来月(4月)7日御発駕と仰せ出される、江戸で人事異動)					
1847年	5月18日	弘化4年	4月4日	晴	今晚寅之刻頃より雨降					
1847年	5月19日	弘化4年	4月5日	快晴	卯之刻頃止					
1847年	5月20日	弘化4年	4月6日	曇	卯之刻過より雨降					
1847年	5月21日	弘化4年	4月7日	晴	(御家老中が御名代として剣術和術見分)					
1847年	5月22日	弘化4年	4月8日	晴	(当年綿下値・1把3文目立て貸し渡す)					
1847年	5月23日	弘化4年	4月9日	晴						
1847年	5月24日	弘化4年	4月10日	曇	今晚寅之刻頃より雨降					
1847年	5月25日	弘化4年	4月11日	曇	午之刻頃止					
1847年	5月26日	弘化4年	4月12日	晴	申之刻頃雨降					
1847年	5月27日	弘化4年	4月13日	曇	夜二入同断					
1847年	5月28日	弘化4年	4月14日	曇	昨夜より之雨已之刻頃止					
1847年	5月29日	弘化4年	4月15日	快晴						
1847年	5月30日	弘化4年	4月16日	快晴						
1847年	5月31日	弘化4年	4月17日	晴	(御家老中が御名代として剣術見分、附木屋共入用の硫黄70俵のついでに御用硫黄50貫目も穿らせる)					
1847年	6月1日	弘化4年	4月18日	晴	下から続く					
1847年	6月2日	弘化4年	4月19日	晴	濱に上陸・帰帆を諭したところ船に乗り帰る・午下刻頃南の方に去る)					
1847年	6月3日	弘化4年	4月20日	晴	(屋形様御道中去る10日喜連川駅で出水のため逗留)					
1847年	6月4日	弘化4年	4月21日	快晴	下から続く					
1847年	6月5日	弘化4年	4月22日	晴	卯下刻頃蝦夷地〇〇知内村沖合いに船嵩凡千石積位の異国船1艘相見える・橋舟7人乗りが同所					
1847年	6月6日	弘化4年	4月23日	快晴	上に続く					
1847年	6月7日	弘化4年	4月24日	快晴	未之刻過東風強し					
1847年	6月8日	弘化4年	4月25日	曇	(御家老中が御名代として剣術見分、御家中渡し御買上は4分増で33文目4分とする・1俵とは書いてないが1俵でしょう)					
1847年	6月9日	弘化4年	4月26日	晴	去月20日					
1847年	6月10日	弘化4年	4月27日	晴	上に続く					
1847年	6月11日	弘化4年	4月28日	晴	(去月21日の異国船は同日八時頃橋船で7人が漕寄せる・手真似で尋ねたら風待ち・交易もしたい様子・酒を与えて返す・22日24日にも橋船が漕ぎ寄せる・交易は断る、					
1847年	6月12日	弘化4年	4月29日	快晴	上に続く					
1847年	6月13日	弘化4年	5月1日	曇	(將軍宣下で大赦?多くの罪人が許されている、去る17日夜五半時頃後潟組中小国村で出火・類焼共26軒其の外外馬屋等焼失・火元他村預け)					
1847年	6月14日	弘化4年	5月2日	曇	未之刻過より雨時々降					
1847年	6月15日	弘化4年	5月3日	曇	夜に入同断					
1847年	6月16日	弘化4年	5月4日	曇	昨夜より之雨今日二及					
1847年	6月17日	弘化4年	5月5日	曇	卯之刻過止					
1847年	6月18日	弘化4年	5月6日	晴	(屋形様御着城夕方八半時、着座までの部屋の順序が分かる)					
1847年	6月19日	弘化4年	5月7日	曇	(人事異動、飛脚の賞目を成文(なるたけ)3貫目より多くならないよう注意している)					
1847年	6月20日	弘化4年	5月8日	曇	申之刻過より雨降					
1847年	6月21日	弘化4年	5月9日	曇	夜二入同断					
1847年	6月22日	弘化4年	5月10日	曇	(人事異動)					
1847年	6月23日	弘化4年	5月11日	曇	昨夜より之雨今日二及					
1847年	6月24日	弘化4年	5月12日	快晴	辰之刻過止					
1847年	6月25日	弘化4年	5月13日	快晴	午之刻頃小雨降					
1847年	6月26日	弘化4年	5月14日	快晴	雷鳴					
1847年	6月27日	弘化4年	5月15日	快晴	則刻止					
1847年	6月28日	弘化4年	5月16日	曇	今晩丑之刻過雷雨					
1847年	6月29日	弘化4年	5月17日	晴	則刻止					
1847年	6月30日	弘化4年	5月18日	晴	(去月17日の中小国村の被災者に御手当て米1俵充26俵下し置かれる、郡所物書2人に熊皮を与える提案がありに例になるとして御手当て30日宛とする)					
					(昨4日七つ頃相良町で喧嘩・双方負傷)					
					下から続く					
					(三千石と二千石相当)が風が変りうろうろ・同4日朝六半時頃同じ船が福嶋村吉岡村(こちらは津軽海峡の西)沖合いに2艘見える・未申の方に颯去る)					
					卯之刻過より雨降					
					申之刻頃止					
					(内南御門外箱番所……) 下から続く					
					箱館汐首崎台場より沖合4里程隔て(汐首と青森県大間間は約20km)3本樁立之異国船2艘					
					上に続く					
					(去月25日朝五時頃松前領白神崎より凡そ2里程隔てた辰巳の方沖合いに3本樁之異国船1艘・東風にて未申の方に・去月20日知内村前浜に来た船かもしれない、去る3日朝					
					上に続く					

1847年	7月1日	弘化4年	5月19日 晴	卯之刻頃小雨降 則刻止	
1847年	7月2日	弘化4年	5月20日 快晴	(青田の内笛吹くなどの触れ)	
1847年	7月3日	弘化4年	5月21日 曇	寅之刻過より雨降 酉之刻過止 戌之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (当2月6日夜隠津出未遂の男(10人位)に過料等の罰)	
1847年	7月4日	弘化4年	5月22日 曇	昨夜より之雨今晚丑之刻過止 (揚屋中の男2人が病気で宿下がりを申付けける)	
1847年	7月5日	弘化4年	5月23日 曇		
1847年	7月6日	弘化4年	5月24日 曇	戌之刻頃より雨降 今晚寅之刻頃止	
1847年	7月7日	弘化4年	5月25日 快晴		
1847年	7月8日	弘化4年	5月26日 晴		
1847年	7月9日	弘化4年	5月27日 曇	未之刻過より雨降 申之刻過止 酉之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (外馬場で馬術高寛)	
1847年	7月10日	弘化4年	5月28日 晴	昨夜より之雨今晚寅之刻頃止	
1847年	7月11日	弘化4年	5月29日 曇	未之刻過より雨降 申之刻過止 (西之郭埋御門外に古物置……、当御廻船の内筑前船が去月6日岩城小名濱沖で荷打ち・去月19日品川江入津・詮議申付けける)	
1847年	7月12日	弘化4年	6月1日 晴	(人事異動、御賞、俵子御切米・勤料等の渡す時期の変遷が書いてある)	
1847年	7月13日	弘化4年	6月2日 快晴	今晚卯之刻頃小雨降 則刻止	
1847年	7月14日	弘化4年	6月3日 曇	申之刻過より雨降 夜二入同断 (人名を偽り間道を通った藤崎村の男に12鞭居村徘徊是まで通り、去る6月3日13日の泊まり番に慎・役下げ等の罰)	
1847年	7月15日	弘化4年	6月4日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 巳之刻過止 申之刻頃より雨降 夜二入同断 (御賞)	
1847年	7月16日	弘化4年	6月5日 晴	昨夜より之雨今晚寅之刻頃止 (去る大坂御廻船の手段(不正くらのい意)を見抜けなかった上乘の勤料10俵差し引き役下げ)	
1847年	7月17日	弘化4年	6月6日 晴		
1847年	7月18日	弘化4年	6月7日 晴	(頃日天気不正・丹後者詮索送り返しの触れ)	
1847年	7月19日	弘化4年	6月8日 曇	未之刻頃より雨降 酉之刻過止	
1847年	7月20日	弘化4年	6月9日 晴	下から続く 長音を表す「一」(原本では縦棒)は初出)	
1847年	7月21日	弘化4年	6月10日 曇	今朝辰之刻過より雨時々降 未之刻過止 (御召馬附小人が昼は手錠夜中は足枷で今日(去月21日の飛脚)江戸出発) 下から続く (代金130両この台金65両):	上に続く
1847年	7月22日	弘化4年	6月11日 曇	今日巳之刻頃より雨降 午之刻頃止 (御賞(銀5両・金100疋)、江戸表で高島流大砲2挺出来・150目野戦筒(代金18両2歩この付台金13両2歩)・ホーイツスル6貫目筒	上に続く
1847年	7月23日	弘化4年	6月12日 曇	(荏種100呎御印代5文目宛で津出を申付けける)	
1847年	7月24日	弘化4年	6月13日 快晴		
1847年	7月25日	弘化4年	6月14日 曇	戌之刻過より雨降 夜二入同断	
1847年	7月26日	弘化4年	6月15日 曇	昨夜より之雨今晚丑之刻過止 (近年の凶荒で駒越組大秋白沢赤石組風合瀬の3ヶ村で死絶え他散の者多かった……)	
1847年	7月27日	弘化4年	6月16日 快晴	(今日七半時過高伯寺大日尊惣体にて御出汗・先例の通り御祈禱を仰せ付けける)	
1847年	7月28日	弘化4年	6月17日 快晴		
1847年	7月29日	弘化4年	6月18日 晴	今晚寅之刻頃より雨降 辰之刻過止 戌之刻過より雨降 亥之刻過止	
1847年	7月30日	弘化4年	6月19日 曇	(当4月3日申の上刻頃松前領東蝦夷地エトロフより3里程沖合に船嵩凡そ千石積位の櫓3本立帆五つ懸け候異国船が1艘亥子の方より酉の方遠沖颯去)	
1847年	7月31日	弘化4年	6月20日 晴		
1847年	8月1日	弘化4年	6月21日 曇	今朝辰之刻頃小雨降 即刻止 (五山に日和上げの御祈禱を仰せ付けける)	
1847年	8月2日	弘化4年	6月22日 曇	今晚丑之刻頃より雨時々降 卯の刻頃止 巳之刻過より雨降 午之刻頃止	
1847年	8月3日	弘化4年	6月23日 晴	下から続く より25・6町相隔で颯去、当廻米:江戸30000石(家中扶持米18000・払米12000)定例廻米53342石・大坂12000石(家中扶持米8000・払米4000)定例廻米37250石)	
1847年	8月4日	弘化4年	6月24日 晴	下から続く 時過婁月高野崎沖合いに異国船1艘が酉の方より寅卯の方江颯通る、去月19日巳の中刻頃松前志摩守御領分小嶋沖に異国船・未の中刻頃白神崎	上に続く
1847年	8月5日	弘化4年	6月25日 晴	(昨年閏5月に東蝦夷地エトロフ嶋に漂着の異国人を去月17日エトロフ出帆長崎表に移送中・去る3日箱館洞出帆、祢婦多之節口論等するな等の触れ、去月19日夕八半	上に続く
1847年	8月6日	弘化4年	6月26日 曇	申之刻頃より小雨降 戌之刻過止	
1847年	8月7日	弘化4年	6月27日 快晴		
1847年	8月8日	弘化4年	6月28日 快晴		
1847年	8月9日	弘化4年	6月29日 晴		
1847年	8月10日	弘化4年	6月30日 曇	申之刻過より雨降 則刻止	
1847年	8月11日	弘化4年	7月1日 曇	今晚子之刻過より雨降 申之刻頃止 (用人工藤伝兵衛を御馬廻組頭兼帯に等の人事異動)	
1847年	8月12日	弘化4年	7月2日 晴	(去る6月23日新町裏通り田圃で喧嘩を取鎮めた御徒に御賞、大鰐村の加賀助と兵左衛門が御初米出穂(4月22日植付68日目)差上げる・去年は5月20日植付55日目で差上げる)	
1847年	8月13日	弘化4年	7月3日 曇	申之刻過雨降 則刻止 (去る6月23日新町川端町通り田圃で喧嘩の男2人に9鞭宛弘前町徘徊是まで通り) 下から続く 売りは5文目6分6厘1合売りは5分4文に申し付けける)	
1847年	8月14日	弘化4年	7月4日 晴	(人事異動、隠し商売の男2人に木綿御取上の上過料・関係者にも罰、5月25日より6月25日まで菜種売出月相場30日平均では水油1升到付5文目6分6厘5毛に相当・1升	上に続く
1847年	8月15日	弘化4年	7月5日 晴		
1847年	8月16日	弘化4年	7月6日 曇	申之刻頃より小雨降 酉之刻頃止 (前田吉郎叔父定吉に切りつけた浪岡村の男に18鞭居村払い)	
1847年	8月17日	弘化4年	7月7日 曇	今晚丑之刻過より雨時々降 未之刻過止 (当3月大間越町同心警固が小熊狩取り上納、御賞)	
1847年	8月18日	弘化4年	7月8日 快晴		
1847年	8月19日	弘化4年	7月9日 晴	下から続く 溺死・勘定小頭御徒目付等派遣、(孝明天皇?)御即位二付……も平出:田舎者)	
1847年	8月20日	弘化4年	7月10日 晴	(川合土場で大量の木の取扱不正、御蔵米2402俵等を積み6月11日青森出帆の当御廻船遠州船が18日晩宮戸嶋沖合いで破船・御米其の外残らず海失・上乘と船頭	上に続く
1847年	8月21日	弘化4年	7月11日 晴	申之刻過雨ふり 即刻止 (戸田某を馬廻組頭に等の人事異動、御賞(銀3両))	
1847年	8月22日	弘化4年	7月12日 曇	今晚丑之刻頃雨ふり 寅之刻頃止 午之刻頃より雨ふり 夜二入同断 (当4月28日松前エトロフ沖合いに異国船1艘・颯去、当春出来の牢屋根廻り雨漏り多数・修理させる)	
1847年	8月23日	弘化4年	7月13日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 (昨10日昼青森町で男女が相対死(心中)、岩木川出水・駒越渡し場で両船とも往来差し止め)	
1847年	8月24日	弘化4年	7月14日 曇	昨夜より之雨今晚辰之刻頃止 未之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (頃日天気不正・長勝寺に風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付けける)	
1847年	8月25日	弘化4年	7月15日 曇	昨夜より之雨今日及び時々降 未之刻頃止	
1847年	8月26日	弘化4年	7月16日 晴		
1847年	8月27日	弘化4年	7月17日 晴		
1847年	8月28日	弘化4年	7月18日 曇	午之刻頃より小雨降 未之刻頃止 (御賞(銀1枚・金1両・金300疋・金仁朱・金100疋・銀5両)、江戸で人事異動)	
1847年	8月29日	弘化4年	7月19日 晴		
1847年	8月30日	弘化4年	7月20日 晴		
1847年	8月31日	弘化4年	7月21日 晴	戌之刻頃より雨ふり	

1847年	9月1日	弘化4年	7月22日 曇	昨夜より之雨今暁丑之刻過止 未之刻過より雨ふり 申之刻頃止 (大鰐組長峰村八幡宮境内に倒死の者)
1847年	9月2日	弘化4年	7月23日 晴	(浅瀬石川の流失木を隠上の男共3人に30鞭10里四方追放27鞭7里四方追放・関係庄屋等の役取放し3鞭・15鞭・過料居村徘徊はまで通り等の(重複があるうが240人位に)罰)
1847年	9月3日	弘化4年	7月24日 曇	(当春熊狩取り方で表彰:駒越組村市村獅師下々位熊皮2枚御酒代6貫文・同組砂子瀬村獅師と猿賀組袋村の獅師下々位の熊皮1枚御酒代3貫文ツツ下し置かれる、 欄外(*)に続く
1847年	9月4日	弘化4年	7月25日 曇	午之刻過より雨ふり 未之刻頃止
1847年	9月5日	弘化4年	7月26日 曇	巳之刻過より小雨ふり 申之刻過止 戌之刻頃より雨ふり
1847年	9月6日	弘化4年	7月27日 曇	昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 巳刻頃より雨ふり 午之刻頃止 (御初米差出す) 下から続く 19日遅く節に引合11日遅い)
1847年	9月7日	弘化4年	7月28日 曇	巳之刻頃より雨降 未之刻頃止 (人事異動、去る午年(昨年)の御初米は5月20日植付71日目の7月1日鎌入れ・当年は4月22日植付90日の7月23日鎌入れ・日数に引合 上に続く
1847年	9月8日	弘化4年	7月29日 曇	卯之刻過雷雨 雷即刻止 雨辰之刻頃止
1847年	9月9日	弘化4年	7月30日 晴	酉之刻頃より雨ふり 夜に入同断
1847年	9月10日	弘化4年	8月1日 曇	昨夜より之雨今日ニ及ひ 巳之刻過止 戌之刻過より雨降 (人事異動、青森御蔵米を1俵38文目5分立で御払い申付け)
1847年	9月11日	弘化4年	8月2日 晴	昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 (当江戸御廻船の筑前船が岩城小名浜沖合いで不明日に難船・最寄の湊に入らず品川に入り上乘・下乗に慎)
1847年	9月12日	弘化4年	8月3日 曇	酉之刻過より雨ふり 子之刻過雷鳴 即刻止
1847年	9月13日	弘化4年	8月4日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止 巳之刻過雨ふり 午之刻頃止
1847年	9月14日	弘化4年	8月5日 快晴	
1847年	9月15日	弘化4年	8月6日 快晴	
1847年	9月16日	弘化4年	8月7日 快晴	(山の伐り荒しに過料)
1847年	9月17日	弘化4年	8月8日 晴	
1847年	9月18日	弘化4年	8月9日 晴	
1847年	9月19日	弘化4年	8月10日 曇	今暁丑之刻頃小雨降 即刻止 未之刻過雷鳴 即刻止 (去る28日よりの大雨で金木組高根村の萱家1軒山築崩潰家・御手当て米1俵下し置かれる)
1847年	9月20日	弘化4年	8月11日 曇	午之刻頃より雨時々ふり 戌之刻過止 (当5月28日未の上刻頃松前東蝦夷地エトロフ勤番所より5里程沖合いに船嵩凡そ二千石積位の異国船・丑寅の風で亥子の 欄外(**)に続く
1847年	9月21日	弘化4年	8月12日 晴	
1847年	9月22日	弘化4年	8月13日 曇	午の刻頃小雨ふり 即刻止 (当5月江戸で女と相对死仕損じた召馬付小人の御給分召上げ3里四方追放)
1847年	9月23日	弘化4年	8月14日 晴	
1847年	9月24日	弘化4年	8月15日 晴	今暁寅之刻頃より雨ふり 卯之刻過止 (五時御供揃で三之丸御屋形御出(八幡宮の祭礼))
1847年	9月25日	弘化4年	8月16日 曇	未之刻過雨ふり 即刻止
1847年	9月26日	弘化4年	8月17日 晴	(下場場で馬術高覧)
1847年	9月27日	弘化4年	8月18日 晴	
1847年	9月28日	弘化4年	8月19日 曇	卯之刻過より雨ふり 申之刻過止
1847年	9月29日	弘化4年	8月20日 晴	
1847年	9月30日	弘化4年	8月21日 快晴	
1847年	10月1日	弘化4年	8月22日 晴	(杉を伐り荒らした男に過料、金比羅抜参りの五人組に過料600文ツツ、盗みの男に過料)
1847年	10月2日	弘化4年	8月23日 曇	申之刻過より雨時々ふり 夜二入同断 (大間越間道を通って金比羅に抜け参り江戸屋敷に助けを求めたの男とその仲間を12鞭宛・盗みの男に3鞭いずれも居村徘徊はまで通り)
1847年	10月3日	弘化4年	8月24日 曇	昨夜より之雨今日ニ及ひ時々ふり 今朝岩山山二雪初めて見ゆる 雨申の刻過止 (当春熊3疋狩取の後潟組小国村の獅師に3貫文と下々位の熊皮1枚下し置かれる)
1847年	10月4日	弘化4年	8月25日 晴	
1847年	10月5日	弘化4年	8月26日 曇	卯之刻過より雨時々ふり 夜二入同断
1847年	10月6日	弘化4年	8月27日 晴	昨夜より之雨今日ニおよび卯之刻過止
1847年	10月7日	弘化4年	8月28日 曇	辰之刻過雨ふり 巳之刻過止 (当7月広田組澤川鶴ヶ岡両村が兩日の霖雨で数日水湛・検見を求める)
1847年	10月8日	弘化4年	8月29日 曇	午之刻過より雨降 未之刻過止 戌之刻過より雨時々ふり (増館組福左内村の2人が鶴を狩り取り上納) 9月3日から続く 是まで通り・代官等の担当者を役下げ等)
1847年	10月9日	弘化4年	9月1日 晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 (初鯉を御台所頭が差し出す) 下から続く 腰縄つきで掃除小人を江戸に送るようにする)
1847年	10月10日	弘化4年	9月2日 曇	今暁子之刻頃より雨降 寅之刻過止 巳之刻過より雨時々ふり 夜二入同断 (19日に継送りで帰国中の松前男が三厩町で病死、火付け盗賊改めからの指示で手鎖 上に続く
1847年	10月11日	弘化4年	9月3日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止 巳之刻頃雨ふり 即刻止 (天保15年の大鰐水難の御救い木を8000本余伐り荒らした庄屋五人組(2人)等に村役取放し6鞭居村徘徊 8月29日に続く
1847年	10月12日	弘化4年	9月4日 快晴	(小泊湊支配脇元村から鮮場に出かけた8人乗りの船が正月22日夜9時頃西ヒカタ之風で松前で残らず海死)
1847年	10月13日	弘化4年	9月5日 曇	(江戸に送る掃除小人の取扱が書かれている、去る4日近衛屋敷に石川村の百姓が近衛様に願いの筋ありと参上・不可能と諭すと浅い切腹・腰縄つきで大坂表に送る)
1847年	10月14日	弘化4年	9月6日 曇	巳之刻過小雨時々降 申之刻過止 戌之刻頃より雨時々降
1847年	10月15日	弘化4年	9月7日 晴	昨夜より之雨今暁寅の刻過止
1847年	10月16日	弘化4年	9月8日 快晴	(6月14日無通の菜種6呎附下げの男2人の菜種御取上げ20日戸 〆・過料銭600文)
1847年	10月17日	弘化4年	9月9日 晴	酉之刻頃より雨ふり 子の刻過止 (御賞)
1847年	10月18日	弘化4年	9月10日 晴	(昨夜六半時頃傷害事件あり、木の伐り荒らしがあり村に過料)
1847年	10月19日	弘化4年	9月11日 快晴	(昨日の傷害事件関係者か花田某を手配)
1847年	10月20日	弘化4年	9月12日 晴	今暁丑之刻過より雨ふり 卯之刻頃止 (去る9日手傷の足軽が今朝病死)
1847年	10月21日	弘化4年	9月13日 快晴	(盗み袖の男2人に6鞭宛居村徘徊はまで通り)
1847年	10月22日	弘化4年	9月14日 曇	辰之刻頃より雨時々ふり 未之刻頃止 (金貨は104文目立だったが108文目に引上げ・金1歩は27文目仁朱は13文目5分立の上明15日から通用とする)
1847年	10月23日	弘化4年	9月15日 曇	今暁丑之刻頃より雨ふり 辰之刻頃止 (小野某を十三町奉行に等の人事異動、当春平館に異国人上陸の件で多数に御賞等、手配の花田某の人相書き:年齢22歳・背5尺3寸位等)
1847年	10月24日	弘化4年	9月16日 曇	酉の刻頃より小雨時々降 亥の刻過止
1847年	10月25日	弘化4年	9月17日 快晴	
1847年	10月26日	弘化4年	9月18日 快晴	
1847年	10月27日	弘化4年	9月19日 快晴	亥の刻過より小雨時々ふり
1847年	10月28日	弘化4年	9月20日 曇	昨夜より之雨今日ニ及時々ふり 夜二入同断 (近衛様に願ひ損なった石川村の百姓が手錠の上到着・入牢)
1847年	10月29日	弘化4年	9月21日 曇	昨夜より之雨今暁卯之刻過止 酉之刻過より雨降
1847年	10月30日	弘化4年	9月22日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申之刻過止
1847年	10月31日	弘化4年	9月23日 晴	

(*) 百沢並びに下居宮に風雨順時五穀成就の御祈禱を仰せ付ける)

(**)方に颯去、去月6日午の下刻頃松前西蝦夷地ソウヤ勤番所より3里ほど沖合いに船嵩2千石積位3本櫓の異国船1艘が午未の風で子丑の方に向かう・未の下刻頃丑寅の方に颯去)

1847年	11月1日	弘化4年	9月24日 快晴
1847年	11月2日	弘化4年	9月25日 晴
1847年	11月3日	弘化4年	9月26日 曇 今暁子之刻過より雨時々ふり 午の刻頃止
1847年	11月4日	弘化4年	9月27日 晴 下から続く 男を押し込め、昨夜四半時頃和徳町枡形付近で出火・類焼あり、木の伐り荒らしの庄屋名主等に過料、大組足輕の盗みの子を弘前払い)
1847年	11月5日	弘化4年	9月28日 曇 (当春前浜鰯並びに松前鰯を濱手より買入れ附け上げの男9人の代金御取上げ過料錢1貫200文ツツ(鰯だが春の話)、青森町で数日女を相手し弘前町で切腹の 上に続く
1847年	11月6日	弘化4年	9月29日 快晴
1847年	11月7日	弘化4年	9月30日 曇 (染屋家業をしていた足輕を役下げ・染屋道具御取上げ)
1847年	11月8日	弘化4年	10月1日 快晴 戌之刻過より雨ふり (人事異動、隠染の男とその関係者に過料) 3日から続く ホウイツスル筒1挺野戦筒1挺出来・輸送困難で雛形を送るのでお国許で作るとのこと)
1847年	11月9日	弘化4年	10月2日 曇 昨夜より之雨今暁寅之刻過止 亥之刻頃雷鳴 即刻止 今日雪降 一寸程積 (初雪に付御機嫌伺い、当大坂御廻船(米1000石・鉛50箇積)が長州矢玉浦で破船・相当量海失)
1847年	11月10日	弘化4年	10月3日 晴 亥之刻過より雨時々ふり (新穀津出御印値段:玄米1俵7文目・白米1俵9文目・餅米1俵14文目・餅白米1俵16文目、両濱津出御印45888俵(青森10800・鰯ヶ沢35088)、 1日に続く
1847年	11月11日	弘化4年	10月4日 晴 昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 下から続く 小豆当分の間津出留め、昨日大坂より近衛家に乗り込んだ石川村百姓が到着)
1847年	11月12日	弘化4年	10月5日 快晴 (当10月より来申9月中の御印ならひ御役錢:酒2斗入り1樽御印代3文目・糎1俵御役錢5文目・醤油2斗入り1樽2文目5分・味噌同3文目5分・白酒同3匁5分・酢同1文目 上に続く
1847年	11月13日	弘化4年	10月6日 晴
1847年	11月14日	弘化4年	10月7日 晴
1847年	11月15日	弘化4年	10月8日 曇 未之刻頃小雨ふり 申之刻過止 (尾崎組4ヶ所の矢竹がこの夏花咲枯れ竹に相成る・何か手当てを申し付けている)
1847年	11月16日	弘化4年	10月9日 曇 戌之刻過より小雨時々ふり
1847年	11月17日	弘化4年	10月10日 晴 昨夜より之小雨今暁寅之刻頃止
1847年	11月18日	弘化4年	10月11日 曇
1847年	11月19日	弘化4年	10月12日 晴 (山役人を詐称した男2人を預けられ取逃がした7人に過料錢1貫800文ツツ・五人組1人に過料錢600文)
1847年	11月20日	弘化4年	10月13日 快晴 戌之刻頃より小雨時々降 (山役人を詐称し捕まって逃亡の男に18鞭居町払い)
1847年	11月21日	弘化4年	10月14日 曇 昨夜よりの雨今日二及 辰之刻過止 午之刻頃より時々雨ふり 夜二人同断
1847年	11月22日	弘化4年	10月15日 曇 昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻過止 (人事異動)
1847年	11月23日	弘化4年	10月16日 晴
1847年	11月24日	弘化4年	10月17日 晴
1847年	11月25日	弘化4年	10月18日 晴
1847年	11月26日	弘化4年	10月19日 晴
1847年	11月27日	弘化4年	10月20日 快晴 (人事異動)
1847年	11月28日	弘化4年	10月21日 曇 辰之刻過より雨ふり (御賞金100疋)
1847年	11月29日	弘化4年	10月22日 曇 昨夜より之雨今日二及 時々降 昨夜亥之刻過より東風強し 下から続く 文目立の処2文目増本文の通り)・白餅米18文目と申付ける)
1847年	11月30日	弘化4年	10月23日 晴 下から続く 12文目(但是迄7文目立之処5文目増本文の通り)・白米14文目・大豆10文目(但し昨年の通り当年も10文目立申上げ候)・玄餅米16文目(但し是迄14 上に続く
1847年	12月1日	弘化4年	10月24日 晴 (剣術高覧、小国村の焼失2軒に松生木150本宛伐取らせる、当月5日より19日までの日々新穀附相場平均値段が米1俵代34文目、両濱米穀津出御印値段(1俵):玄米 上に続く
1847年	12月2日	弘化4年	10月25日 曇 (9月6日より当月5日まで30日平均米値段が1俵31文目9分・御定法で酒1升が1文目7分2厘余に相当・1升売は1文目7分2厘に1合売は是迄の通り11文に申付ける、 欄外(*)に続く
1847年	12月3日	弘化4年	10月26日 曇 今日雪少し降 申之刻過より西南の風強ス 酉の刻過止 (西南の風強スのスは津軽弁とすれば初出)
1847年	12月4日	弘化4年	10月27日 曇 昨夜雪降 二寸程積 (剣術高覧、内東御門外橋朽損に付御掛替の上石橋に御立直し仰せ付ける)
1847年	12月5日	弘化4年	10月28日 曇 今日雪少し降 昨夜子之刻頃より雨降 午之刻過止 下から続く 43文目7分3厘5毛)
1847年	12月6日	弘化4年	10月29日 曇 昨夜雪降 三寸程積 下から続く 1合売は6分2文に申付ける、米一番相場平均46匁3分7毛内1文目2分御定役(弘前44文目3分3厘9毛・青森50目8分4厘7毛・鰯ヶ沢 上に続く
1847年	12月7日	弘化4年	10月30日 曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪少しふり (9月25日より10月24日まで30日の荏種1呎相場平均値段31文目7分6厘6毛余・水油1升6匁2分8厘余に相当・1升売は6文目2分8厘 上に続く
1847年	12月8日	弘化4年	11月1日 曇 昨夜より之雨今日に及び 辰之刻過止 (人事異動、古米を混ぜて新米として売った米屋3人を戸メ、去月26日大風で御家中の屋根廻り吹き剥げる、当御廻船が銚子沖で荷打ち)
1847年	12月9日	弘化4年	11月2日 晴 下から続く 21日小沢村山中?で御家中の家来を打擲死亡させた2人を30・27鞭10里四方・7里四方追放、これらの関係者も処分)
1847年	12月10日	弘化4年	11月3日 曇 午之刻頃小雨ふり 即刻止 (当5月4日御家中の家来2人に手傷を負わせた掃除小人を御給分召放3里四方追放、盗品買入等の男に3鞭居町徘徊はまで通り、去る6月 上に続く
1847年	12月11日	弘化4年	11月4日 晴 戌之刻過より雨時々降 (紙御蔵御払い御国産人参代:大1両7文目・中1両5文目8分・小1両4文目・その他)
1847年	12月12日	弘化4年	11月5日 曇 昨夜より之雨今暁寅の刻過止 辰之刻過より小雨時々ふり (剣術高覧、ホウイツスル筒の儀は……、去る2日七時ころ大鰯組石川村で出火・類焼共3軒焼失・火元代官にて呵置く)
1847年	12月13日	弘化4年	11月6日 曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積
1847年	12月14日	弘化4年	11月7日 曇 昨夜雪降 二寸程積
1847年	12月15日	弘化4年	11月8日 曇 昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積 (剣術和術高覧、人事異動)
1847年	12月16日	弘化4年	11月9日 晴
1847年	12月17日	弘化4年	11月10日 晴 今暁子之刻頃より小雨ふり 卯之刻頃止 (飛脚等の節御家中荷物と称して寺社や町方の注文物等を預る例があるらしい、御即位・禁裏・勅答の用語が出てくるが平出)
1847年	12月18日	弘化4年	11月11日 晴
1847年	12月19日	弘化4年	11月12日 曇 昨夜雪少しふり 今日雪降 二寸程積
1847年	12月20日	弘化4年	11月13日 晴
1847年	12月21日	弘化4年	11月14日 晴
1847年	12月22日	弘化4年	11月15日 晴 (6月晦日?朝鮮国全羅道之内萬頂と申す処に異様の船2艘来泊・仏蘭国の人と申し出る・1艘は船を損じた模様で6・700人ほどが上陸し野陣を張る)
1847年	12月23日	弘化4年	11月16日 晴 亥之刻過より雨時々ふり (一間所の今儀右衛門が病死)
1847年	12月24日	弘化4年	11月17日 曇 昨夜よりの雨今暁寅之刻頃止 午之刻頃より雨時々ふり 申の刻過止 (御会所頭が初鱈差出す)
1847年	12月25日	弘化4年	11月18日 曇 昨夜雪降一寸程積 今日雪右(本書では左の意)同断 (新田方御用達など10人が藩への預けが多く難渋身上潰れしている)
1847年	12月26日	弘化4年	11月19日 曇 昨夜雪少しふり 今日雪降 三寸程積
1847年	12月27日	弘化4年	11月20日 曇 昨夜雪降 四寸程積 今日雪少しふり
1847年	12月28日	弘化4年	11月21日 曇 昨夜雪少しふり
1847年	12月29日	弘化4年	11月22日 曇 今暁子之刻頃より雨ふり 寅之刻過止 未之刻頃より雨時々ふり 戌の刻頃止
1847年	12月30日	弘化4年	11月23日 曇 今日雪降 一寸程積
1847年	12月31日	弘化4年	11月24日 晴 (当勢洲太々御用登りの2人が信州善光寺駅で変難に遭う・神楽料等残らず焼失江戸に申し立てる・都合金95両2歩銭606文を貸し渡す、最勝院が権僧正に任官) (*)和徳堀越猿賀尾崎大光寺藤崎柏木常盤田舎館飯詰金木同新田の12ヶ組の当御検見大回り検分引高:御蔵仕付高55648石4斗1升1合・内2822石1斗3升9合当毛引・浪岡 下に続く 油川後潟浦町横内の5ヶ組の仕付高32087石5斗3升5合の内3520石8斗8升5合毛引・駒越高杉藤代赤石広須木作広田赤田増館9ヶ組の仕付高35360石5斗2升1合内2883石1斗7升6合毛引)

1848年	1月1日	弘化4年	11月25日	晴	(ホーイツスル6貫目筒の儀は……、いつのことか不明だが大鰐組石川村の稲草焼失に2人の上納等の御免)	27日から続く	引合4日遅い、杉皮剥ぎの村人庄屋に過料)
1848年	1月2日	弘化4年	11月26日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 巳之刻過より雨ふり 未之刻頃止 (3月に平館に異国船が来た際の3番手の成田左兵衛を御使番格に役下げ)		
1848年	1月3日	弘化4年	11月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (20日夕より翌21日朝迄に十三湯大湊川尻より小侯川尻迄残らず氷張る・去年は11月6日夕より翌7日昼迄・今年は日数に引合14日節に	25日に続く	
1848年	1月4日	弘化4年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日同断 (初鰐2本高岡に御献備)		
1848年	1月5日	弘化4年	11月29日	曇	昨夜雪少しふり		
1848年	1月6日	弘化4年	12月1日	晴	昨夜雪降 四寸程積 (死亡した座当頭城豊の替わりに城直(官位四ツ(本来は五ツ官以上らしいが)2人扶持))		
1848年	1月7日	弘化4年	12月2日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (一間所の棟方晴吉黒瀧主殿田村勇太がそれぞれ病氣・薬を与えている)		
1848年	1月8日	弘化4年	12月3日	曇	昨夜雪少し降 今日同断 (御構い地に立ち入り盗みの男に3鞭乞食手下に、盗みの男に12鞭居村徘徊是まで通り)		
1848年	1月9日	弘化4年	12月4日	曇	昨夜雪少し降 (金調達等を頼まれた町人?多数に御賞)		
1848年	1月10日	弘化4年	12月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る18日夜藤代組石渡村で稲草焼失・御収納米等の上納御免)		
1848年	1月11日	弘化4年	12月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積		
1848年	1月12日	弘化4年	12月7日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降		
1848年	1月13日	弘化4年	12月8日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (山の無届伐り荒しに炭材木等の御取上げと過料)		
1848年	1月14日	弘化4年	12月9日	曇	昨夜雪少し降 今晩丑之刻過地震強し 即刻止 (地震に付御機嫌伺い、城内外の土堀等が崩れる)		
1848年	1月15日	弘化4年	12月10日	曇	今日雪降 三寸程積 (当夏水湛の広田組茂川村等3村に御救米と種粃を下し置かれている)		
1848年	1月16日	弘化4年	12月11日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (人事異動)		
1848年	1月17日	弘化4年	12月12日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降		
1848年	1月18日	弘化4年	12月13日	晴	下から続く 金100両を貸し付けている)		
1848年	1月19日	弘化4年	12月14日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (去る2日朝迄十三湯前後共氷閉じる、駒越組相内村で居宅焼失・家木伐取り申し付ける、不手繰りの尾太湯野沢両山仕込取扱に	上に続く	
1848年	1月20日	弘化4年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (諸手足軽頭に山中兵部等の人事異動)	下から続く	逃亡7カ年松前で過ごした男に9鞭弘前御構い庄屋引渡し)
1848年	1月21日	弘化4年	12月16日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (去る8月に御刑法を行われ間もなく盗みの男に6鞭庄屋引渡し、追放の御構地に入り盗みの男に6鞭4里四方追放、盗みで捕まり	上に続く	
1848年	1月22日	弘化4年	12月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一尺程積		
1848年	1月23日	弘化4年	12月18日	晴	昨夜雪降 五寸程積 (当大坂御廻船の下乗が8月5日佐渡国小氷湊で上乘が大坂表に上着して9月13日に共に病死・廻船は無事)		
1848年	1月24日	弘化4年	12月19日	曇	巳之刻頃より雨時々降 夜二入同断		
1848年	1月25日	弘化4年	12月20日	曇	昨夜より之雨今日二及 卯之刻過止 今日雪少降 (用向きが相済み津軽屋音三郎が25日出立・御手当金15両を下し置かれる)	下から続く	牢居300日30鞭10里四方追放等)
1848年	1月26日	弘化4年	12月21日	晴	(御家中家から大小等を盗み出し火付け殺人等の脅しの御家中の元家来を300日牢居・後は不明、古吉村過伐りの21本代銭1貫98文目4分貫銭で65貫908文余・庄屋に	上に続く	
1848年	1月27日	弘化4年	12月22日	晴	今日雪少し降 (御賞)		
1848年	1月28日	弘化4年	12月23日	晴	(御蔵立会(御手廻組のはず)の勤務が不締まりとして御目見以上御留守居支配に役下げ・御蔵奉行(御馬廻組)も役下げ等)		
1848年	1月29日	弘化4年	12月24日	晴			
1848年	1月30日	弘化4年	12月25日	曇	今晩寅之刻頃より小雨降 卯之刻過止 巳之刻頃より吹雪強し 雪降 七寸程積 (収納が早い御代官に御賞(350疋・100疋))		
1848年	1月31日	弘化4年	12月26日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 七寸程積 (御賞(金300疋・金200疋))		
1848年	2月1日	弘化4年	12月27日	晴			
1848年	2月2日	弘化4年	12月28日	晴	(人事異動、当御検見の山上鉄太郎等に御賞)		
1848年	2月3日	弘化4年	12月29日	晴			
1848年	2月4日	弘化4年	12月30日	晴	(ホウイツスル6貫目大筒車台等を作るのに苦労している・御免駕前までに出来を目指す)		
1848年	2月5日	弘化5年	正月1日	曇	昨夜雪少し降		
1848年	2月6日	弘化5年	正月2日	晴	昨夜雪少し降 (江戸で人事異動)		
1848年	2月7日	弘化5年	正月3日	晴	(御吉例金200両を御金奉行が差出す、漁師頭2人がひらめ3枚充差し上げる、今日御謡初)		
1848年	2月8日	弘化5年	正月4日	晴	(恒例の通り大鰐村より七草(七種と書く時もある)差上げる)		
1848年	2月9日	弘化5年	正月5日	晴			
1848年	2月10日	弘化5年	正月6日	曇	今日雪少し降 戌之刻過雪少し鳴 即刻止		
1848年	2月11日	弘化5年	正月7日	晴	昨夜雪少し降 (七種の御礼)		
1848年	2月12日	弘化5年	正月8日	晴			
1848年	2月13日	弘化5年	正月9日	晴			
1848年	2月14日	弘化5年	正月10日	曇	未之刻頃より小雨時々降		
1848年	2月15日	弘化5年	正月11日	晴	(野上修理を旗奉行に等の人事異動)		
1848年	2月16日	弘化5年	正月12日	曇			
1848年	2月17日	弘化5年	正月13日	曇	今日雪降 四寸程積り		
1848年	2月18日	弘化5年	正月14日	曇	今日雪少し降		
1848年	2月19日	弘化5年	正月15日	晴			
1848年	2月20日	弘化5年	正月16日	晴			
1848年	2月21日	弘化5年	正月17日	晴			
1848年	2月22日	弘化5年	正月18日	晴			
1848年	2月23日	弘化5年	正月19日	晴			
1848年	2月24日	弘化5年	正月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1848年	2月25日	弘化5年	正月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1848年	2月26日	弘化5年	正月22日	曇			
1848年	2月27日	弘化5年	正月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降		
1848年	2月28日	弘化5年	正月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積		
1848年	2月29日	弘化5年	正月25日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (江戸で人事異動)		

1848年	3月1日	弘化5年	正月26日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降	
1848年	3月2日	弘化5年	正月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1848年	3月3日	弘化5年	正月28日 快晴		
1848年	3月4日	弘化5年	正月29日 晴		
1848年	3月5日	弘化5年	2月1日 曇	昨夜雪降 一寸程積 (去る18日夜赤石組久田村で出火・類焼共2軒焼失建馬焼斃・火元他村預け、最勝院の権僧正は勅許されているのだ・でも勅許も平出)	
1848年	3月6日	弘化5年	2月2日 曇	昨夜雪少し降 卯之刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1848年	3月7日	弘化5年	2月3日 晴	昨夜よりの小雨今暁寅の刻止 今日雪少し降	
1848年	3月8日	弘化5年	2月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1848年	3月9日	弘化5年	2月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1848年	3月10日	弘化5年	2月6日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 長峰村八幡宮境内に50歳くらいの男倒死(病死))	
1848年	3月11日	弘化5年	2月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 今暁子之刻頃より東南の風強し 寅之刻過止 (人事異動、去る7月青森塩町で抱え子が咽突き死亡青森町の男は切腹死亡、大鰐組	上に続く
1848年	3月12日	弘化5年	2月8日 晴	昨夜雪降 一寸程積	
1848年	3月13日	弘化5年	2月9日 快晴		
1848年	3月14日	弘化5年	2月10日 晴	昨夜雪少し降	
1848年	3月15日	弘化5年	2月11日 快晴	(昨夜津軽主水(御手廻組頭)病死)	
1848年	3月16日	弘化5年	2月12日 晴		
1848年	3月17日	弘化5年	2月13日 晴		
1848年	3月18日	弘化5年	2月14日 曇	今日雪少し降	
1848年	3月19日	弘化5年	2月15日 晴	(当正月16日暁方飯詰組神山村庄屋宅に仁朱金10切れと銭?(金偏に分)一握り位ふる・当月2日まで昼夜に限らずふり銭高8文目くらいとなる)	
1848年	3月20日	弘化5年	2月16日 快晴		
1848年	3月21日	弘化5年	2月17日 快晴		
1848年	3月22日	弘化5年	2月18日 晴	(15日の件を役筋が見分した結果を書いている、酒屋共の酒道具造高を改めている:意図不明、江戸に金3000両登す(27日と書いてある))	
1848年	3月23日	弘化5年	2月19日 晴	申ノ刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1848年	3月24日	弘化5年	2月20日 曇	昨夜よりの雨今暁丑ノ刻過止 今日卯ノ刻頃より雨降 夜二入同断 (郡所物書きに御賞(金100疋))	
1848年	3月25日	弘化5年	2月21日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻頃止 今日雪少し降	
1848年	3月26日	弘化5年	2月22日 曇	未ノ刻より雨降 酉之刻過止 (沖合いで拾った船(長さ4尋1尺5寸・口2尺7寸の丸木舟等)を申出なしに取持の3人に船御取上げの上3鞭居村徘徊はまで通り・過料銭1貫800文充)	
1848年	3月27日	弘化5年	2月23日 晴	(昨日記入分の一部あり)	
1848年	3月28日	弘化5年	2月24日 晴	(後湯組内真部村・左堰村で大量の伐り荒し・54人に4貫200文から15貫文の過料、庄屋にも過料・逃亡も、湯口村悪戸村にも同様の件あり・同様の扱い・取上げた木は入札払い)	
1848年	3月29日	弘化5年	2月25日 晴	(小栗山村と松木平村で山争いをしている・両村庄屋に過料銭600文充、桧7尺鼠尾(ねずこ:鼠子という樹木があるが判らない)28本等の意味不明用語あり・過料銭1貫500文)	
1848年	3月30日	弘化5年	2月26日 曇	丑ノ刻過より雨降 夜二入同断 (無刻印木400本余り取持ちの小橋村の男に21鞭3里四方追放居村御構い・木品御取上げ入札払い)	
1848年	4月1日	弘化5年	2月27日 曇	昨夜よりノ雨及今日 午ノ刻頃止ム	
1848年	4月2日	弘化5年	2月28日 曇	巳ノ刻頃より小雨降 午之刻過止 (去る大坂御廻船が長州見鳴で破船・大坂詰合いが検分・下乗助命上乘海死)	
1848年	4月3日	弘化5年	2月29日 曇	巳之刻過より雨降 申之刻頃止	
1848年	4月4日	弘化5年	2月30日 曇	未之刻過より小雨時々降 酉之刻頃過止 (十三湯の前後が22日迄に氷明ける)	
1848年	4月5日	弘化5年	3月1日 快晴		
1848年	4月6日	弘化5年	3月2日 晴		
1848年	4月7日	弘化5年	3月3日 曇	今日申之刻頃より雨降 夜二入同断	
1848年	4月8日	弘化5年	3月4日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻頃より西南の風強し 夜二入同断 (岩木川石渡川4歩半の出水・駒越渡場の両船とも五時頃より往来差止める・八半時落水)	
1848年	4月9日	弘化5年	3月5日 曇	昨夜より之風雨今暁卯之刻頃止	
1848年	4月10日	弘化5年	3月6日 晴		
1848年	4月11日	弘化5年	3月7日 快晴	(当年御貸渡し綿の値段あり・米値段金値段が複雑で分らない)	
1848年	4月12日	弘化5年	3月8日 快晴		
1848年	4月13日	弘化5年	3月9日 快晴		
1848年	4月14日	弘化5年	3月10日 曇	未之刻過より小雨時々降 夜二入同断 下から続く 板小橋をこの度石橋に掛け渡す・普請中仮橋を渡すが牛馬は通れないと申付ける)	
1848年	4月15日	弘化5年	3月11日 曇	昨夜よりの雨今暁寅之刻頃止 (一昨年三厩詰の節の武器嗜み良い等として山上才助等に(銀2枚・金200疋・銀5両・鳥目600文)御賞等を下しおかれる、内東御門前の	上に続く
1848年	4月16日	弘化5年	3月12日 曇	卯之刻頃より雨時々降 午之刻過止	
1848年	4月17日	弘化5年	3月13日 快晴		
1848年	4月18日	弘化5年	3月14日 快晴		
1848年	4月19日	弘化5年	3月15日 晴		
1848年	4月20日	弘化5年	3月16日 晴		
1848年	4月21日	弘化5年	3月17日 曇		
1848年	4月22日	弘化5年	3月18日 晴	今暁寅之刻頃より小雨降 卯之刻頃止	
1848年	4月23日	弘化5年	3月19日 晴		
1848年	4月24日	弘化5年	3月20日 快晴	下から続く これに付御領内非常30騎(士大將が御馬廻組頭戸田清右衛門:是までの桜庭等は足輕頭で本格的軍団?)等の出張を仰せ付けられる)	
1848年	4月25日	弘化5年	3月21日 晴	(昨20日三厩沖江異国船5艘相見得る・去る20日三厩詰め交代の桜庭某に途中より直ちに出張を仰せ付ける・27日出発予定の検使齋藤某も今暁出立仰せ付ける、	上に続く
1848年	4月26日	弘化5年	3月22日 曇	今暁卯之刻過より雨時々降 未之刻過止 (海岸非常備えの足輕頭2人が今暁六時過ぎ・組頭清右衛門が昼九時前出立)	
1848年	4月27日	弘化5年	3月23日 晴	下から続く 三番手扣(ひかえ:控)も仰せ付けられる、持筒足輕頭の佐田鞆負を大組足輕頭に等の人事異動)	
1848年	4月28日	弘化5年	3月24日 晴	(三厩沖の異国船5艘が去る21日颯去(はんきょでしようか)・翌22日釜ノ沢村沖より六丁澗村沖に5艘が澗懸、工藤伝兵衛(用人でもある)隊も追加派遣(暮れ六時頃出立)	上に続く
1848年	4月29日	弘化5年	3月25日 晴		
1848年	4月30日	弘化5年	3月26日 曇		
1848年	4月30日	弘化5年	3月27日 晴	(異国船が去る25日夕出帆したとの報告・工藤伝兵衛・戸田清右衛門に弘払を申し遣わす、人事異動)	

1848年	5月1日	弘化5年	3月28日	晴	
1848年	5月2日	弘化5年	3月29日	快晴	
1848年	5月3日	嘉永元年	4月1日	快晴 (人事異動)	
1848年	5月4日	嘉永元年	4月2日	快晴 (この節売買綿値段1把3文目内外)	
1848年	5月5日	嘉永元年	4月3日	晴	
1848年	5月6日	嘉永元年	4月4日	晴 (江戸で御門の門限破りが出ている・門番とその責任者(諸手足軽警固)は御国下がりの上江戸上方登り差し止め、昨15日年号を改元・嘉永と仰せ出される)	
1848年	5月7日	嘉永元年	4月5日	曇 午之刻過より小雨時々降 申之刻頃止 (津止であった菜種を1畝に付き御印代8文目5分で1000畝・荏種も1畝に付き御印代5文目立で4貫250目上納の上津出を申付けける)	
1848年	5月8日	嘉永元年	4月6日	晴	
1848年	5月9日	嘉永元年	4月7日	晴	
1848年	5月10日	嘉永元年	4月8日	曇 今暁子ノ刻頃より雨時々降 丑ノ刻頃雷鳴 則刻止 雨寅之刻過止	
1848年	5月11日	嘉永元年	4月9日	快晴	
1848年	5月12日	嘉永元年	4月10日	快晴	
1848年	5月13日	嘉永元年	4月11日	晴	
1848年	5月14日	嘉永元年	4月12日	快晴	
1848年	5月15日	嘉永元年	4月13日	晴	
1848年	5月16日	嘉永元年	4月14日	晴	
1848年	5月17日	嘉永元年	4月15日	晴 亥之刻頃より小雨時々降 (人事異動)	
1848年	5月18日	嘉永元年	4月16日	曇 昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 巳之刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1848年	5月19日	嘉永元年	4月17日	曇 昨夜より之雨今日及 辰之刻過止 (金2680両を来る26日に江戸に登す)	
1848年	5月20日	嘉永元年	4月18日	晴 (内東御門外石橋二出来・御家老中御用人中見分)	
1848年	5月21日	嘉永元年	4月19日	晴	
1848年	5月22日	嘉永元年	4月20日	曇 申之刻頃より雨降 則刻止	
1848年	5月23日	嘉永元年	4月21日	快晴	
1848年	5月24日	嘉永元年	4月22日	曇 未之刻過より小雨降 則刻止 (去月29日当大坂御廻船の十三町船が十三町前浜で破船、去る8月3日青森堤町で喧嘩・双方親元預け・相手の治療費を負担)	
1848年	5月25日	嘉永元年	4月23日	晴 (今日桜庭善左衛門宅でホーイツスル大筒鑄立ニ付御家老中等が罷り越す……張番足軽兩人御目付江申しつける)	
1848年	5月26日	嘉永元年	4月24日	晴	
1848年	5月27日	嘉永元年	4月25日	快晴	
1848年	5月28日	嘉永元年	4月26日	快晴 (一昨24日藤嶋江異国人共7人上陸・この注進が途中の鷹野崎よりは出帆のように見受けたとのこと)	
1848年	5月29日	嘉永元年	4月27日	晴 酉之刻過より雨時々降 夜に入同断	
1848年	5月30日	嘉永元年	4月28日	曇 昨夜より之雨今日及 巳之刻過止 未之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (北之御丸御膳水井戸に砂敷立る)	
1848年	5月31日	嘉永元年	4月29日	曇 昨夜より之雨今日二及 辰刻過止 巳之刻頃より小雨時々降 申之刻頃止 (人事異動)	
1848年	6月1日	嘉永元年	5月1日	快晴 (人事異動)	
1848年	6月2日	嘉永元年	5月2日	快晴 (御徒御定め人数63人中欠員が7人・御徒頭が見分・採用を仰せ付けられる、使番山上才助が報恩寺に検使に出ている)	
1848年	6月3日	嘉永元年	5月3日	曇 今日午之刻過より雨時々降 戌之刻過止	
1848年	6月4日	嘉永元年	5月4日	晴 亥之刻過より雨時々降 (今日剣術高覧、山上才助の検使報告あり、去月3日国上寺門前で出火・戸⌘)	
1848年	6月5日	嘉永元年	5月5日	曇 昨夜より之雨今日二及 申之刻頃止 (人事異動)	
1848年	6月6日	嘉永元年	5月6日	晴 (2日記述の報恩寺に止宿切腹した僧が病死)	
1848年	6月7日	嘉永元年	5月7日	曇 (油川・今別等の蔵の米が異国船関係の人数で不足している・対策を採る)	
1848年	6月8日	嘉永元年	5月8日	曇 巳之刻過小雨降 則刻止 (去る2日内東御門番の御手廻り力が勤め方等閑として御奉公遠慮)	
1848年	6月9日	嘉永元年	5月9日	晴	
1848年	6月10日	嘉永元年	5月10日	晴 (今日剣術高覧) 下から続く 預った村役は他出差し止めだが田畑耕作の時季で他出免許・関係の村民・庄屋・五軒組合には過料1貫500文等)	
1848年	6月11日	嘉永元年	5月11日	曇 未之刻過より小雨降 則刻止 (大坂勘定奉行萩原某太田某に御召御紋形御上下1具と銀子5枚宛下し置かれる・関係者に御賞、人事異動、盗松の男が預けられて逃亡・ 上に続く	
1848年	6月12日	嘉永元年	5月12日	晴	
1848年	6月13日	嘉永元年	5月13日	曇 下から続く 見え・追々颯去、丁寧にみると異国人の服装身形等が見える)	
1848年	6月14日	嘉永元年	5月14日	曇 未之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (昨日8時過茂森新町の石灰焼から出火・類焼5軒半潰れ家4軒・火元入寺の上慎) 下から続く 白神崎沖合に異国船が 上に続く	
1848年	6月15日	嘉永元年	5月15日	曇 昨夜より之雨辰之刻過止 (人事異動) 17日から続く 松前様居所沖合に2艘白神崎沖合に2艘同所付赤石沖合に1艘・同5・6日吉岡村沖合に1艘充・同7日 上に続く	
1848年	6月16日	嘉永元年	5月16日	曇 (当2月14日本町の後家方で酒の上で乱暴傷をつけた男に3鞭居町徘徊是まで通り、乱暴して証文を作らせそれを返せと脅した男に24鞭5里四方追放・関係者に過料錢1貫500文)	
1848年	6月17日	嘉永元年	5月17日	晴 下から続く 異国船が見え颯去、3月26日箱館附立待台場沖合に1艘・同27日知内村沖合に1艘・同28日立待台場沖合に1艘・同29日知内村沖合に1艘・去月3日 15日に続く	
1848年	6月18日	嘉永元年	5月18日	晴 下から続く 4里程隔て3艘・同月12日権現崎沖合に1艘・翌13日龍濱崎前浜に2艘・同14日昼鷹野崎沖合に1艘・去月16日龍濱崎大筒台場沖合3里半程に2艘の 上に続く	
1848年	6月19日	嘉永元年	5月19日	快晴 21日から続く 異国船への対応状況がある・津軽出雲守領分のことも、去月6日朝三厩沖に2艘・同7日朝宇田村沖合に1艘・去月12日昼龍濱崎沖合に1艘その沖 上に続く	
1848年	6月20日	嘉永元年	5月20日	晴 巳之刻過より雷鳴 未之刻過止 (米屋不足で難洪・町奉行に望みの者を探させていたが苦勞している、御家中に御賞として下されるお料理の品数が階級別に書かれている)	
1848年	6月21日	嘉永元年	5月21日	快晴 下から続く 3貫目鉄砲玉2の御下げ方願いが済み出立) 23日から続く 追々遠沖に颯去、4月3日に幕府に報告した3月20日から三厩沖に來た 5艘の 19日に続く	
1848年	6月22日	嘉永元年	5月22日	晴 (その筋に召捕られ預った子を取逃がした皮師に愼:皮師は人別正民員外之者に付……、野戦筒(1挺車台小道具共・但し玉目150目)・13貫目鉄砲玉2・6貫目鉄砲玉4・ 上に続く	
1848年	6月23日	嘉永元年	5月23日	快晴 (盗難に遭い不法に訴人に訴人し罰を与えた男に3鞭居村徘徊是まで通り、江戸で人事異動、去月9日松前伊勢守様御居所より辰巳の方3里程隔て異国船1艘が見える・ 21日に続く	
1848年	6月24日	嘉永元年	5月24日	快晴 (先頃の三厩に來た異国船対策の参加者120人余に御賞等、昨夜五半時椿町で出火・類焼3軒小屋1ヶ所焼失・火元入寺の上慎)	
1848年	6月25日	嘉永元年	5月25日	曇 未之刻過より小雨降 則刻止 下から続く 用語あり、4月5日石崎村沖合に1艘・21日大間越沖合・24日襲月並びに赤石村沖合・同日タ十三湊沖合・去月24 欄外(*)に続く	
1848年	6月26日	嘉永元年	5月26日	快晴 (出張中に役録を尋ねられたら:士大将2000石・者頭300石・目付検使等の役付き200石・平士100石150石と答えるとのこと、高嶋龍砲術に使うのかなホンヘン玉なる 上に続く	
1848年	6月27日	嘉永元年	5月27日	快晴 (御賞)	
1848年	6月28日	嘉永元年	5月28日	快晴 (9日振りと申付けられた飛脚が早着して御酒代鳥目700文下し置かれる)	
1848年	6月29日	嘉永元年	5月29日	晴	
1848年	6月30日	嘉永元年	5月30日	快晴 (頃日天気続き村々渴水・護穀神に於いて明日風雨順時御神楽を差上げる)	

(*) 三厩沖に4艘異国船が見える・この内24日の船は去月28日報告の物と同じらしい、この種の届けの手続きがわずらわしく省略するようにした?)

1848年	7月1日	嘉永元年	6月1日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 午の刻過止 (人事異動、御賞)
1848年	7月2日	嘉永元年	6月2日 曇	(俗人が稲荷と称し祈祷して戸ノ30日)
1848年	7月3日	嘉永元年	6月3日 快晴	
1848年	7月4日	嘉永元年	6月4日 快晴	(手段米を積んだ松前船が油川湊に預けられている・船頭・水主とも逃げ去っている、百沢下居宮・長勝寺に風雨順時の御祈祷を仰せ付ける)
1848年	7月5日	嘉永元年	6月5日 晴	今晩寅の刻過小雨降 則刻止
1848年	7月6日	嘉永元年	6月6日 曇	今晩子の刻頃小雨降 卯の刻頃止 下から続く 余儀なく小屋を建て食料薪を与え番人を突け置き幕府に報告・異国人の人相等(身の丈5尺4・5寸より6尺等)の記述もある)
1848年	7月7日	嘉永元年	6月7日 曇	今晩卯の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 下から続く 前浜等に橋舟3艘で異国人15人上陸・手真似(てまね)によると破船し乗員20人が海死食料が希とのこと・ 上に続く
1848年	7月8日	嘉永元年	6月8日 曇	今日未の刻頃より小雨降 則刻止 (青田の内笛吹くなどの触れ) 下から続く 沖合等に異国船が見え・追々颯去、7日同御領分西在小砂子(北海道の地名?) 上に続く
1848年	7月9日	嘉永元年	6月9日 曇	卯の刻頃より雨時々降 酉の刻過止 (黒石藩主が長勝寺と報恩寺に御香典金200疋充献される) 下から続く 去月4日より6日まで白神崎箱館附台場汐首台場 上に続く
1848年	7月10日	嘉永元年	6月10日 曇	巳の刻頃より小雨時々降 未之刻頃止 (7人の御徒を新に仰せ付ける) 下から続く 53342石)・大坂廻米12000石(家中扶持米8000・払米4000・定例37250石)、 上に続く
1848年	7月11日	嘉永元年	6月11日 曇	午の刻過より小雨降 未の刻過止 (今日剣術高覧) 下から続く 幕府から御預けを仰せ付く、当年江戸廻米30000石(内家中扶持米18000・払米12000・定例 上に続く
1848年	7月12日	嘉永元年	6月12日 快晴	(高杉御蔵の立会・御蔵奉行に御賞金100疋・関係者に御酒代、身延参りの油川組3内村の男が病気で江戸屋敷門前に・その後病死、本多東作と加藤清兵衛が 上に続く
1848年	7月13日	嘉永元年	6月13日 曇	午の刻過より雨降 申の刻過止 (廣手形で隣家に金を催促した男に15鞭居町徘徊はまで通り)
1848年	7月14日	嘉永元年	6月14日 快晴	今晩寅の刻過より雨降 卯の刻頃止
1848年	7月15日	嘉永元年	6月15日 快晴	(武芸格別として御賞・御酒御吸物を多数に下し置かれる)
1848年	7月16日	嘉永元年	6月16日 晴	
1848年	7月17日	嘉永元年	6月17日 晴	(篠崎某の倅が関流並びに高嶋流砲術師範に推薦されたが、師範家が多すぎと門弟の取立てだけが許される?、多数の女が行状宜しからずと押込めになっている)
1848年	7月18日	嘉永元年	6月18日 快晴	
1848年	7月19日	嘉永元年	6月19日 快晴	
1848年	7月20日	嘉永元年	6月20日 快晴	
1848年	7月21日	嘉永元年	6月21日 晴	
1848年	7月22日	嘉永元年	6月22日 快晴	
1848年	7月23日	嘉永元年	6月23日 快晴	
1848年	7月24日	嘉永元年	6月24日 曇	(当大坂御廻船の内彦右衛門船が33俵の御米を陸揚げ抜米・これを摘発した上乗下乗に御酒代として鳥目を下し置かれる)
1848年	7月25日	嘉永元年	6月25日 曇	今晩丑之刻過より雨降 卯之刻過止 辰之刻過より雨時々降 申之刻過止 (去月下旬赤石組出来嶋村領に鯨寄せる・肉の中に異国人漁道具ハナレ2本あり・御代官より差上げる)
1848年	7月26日	嘉永元年	6月26日 曇	
1848年	7月27日	嘉永元年	6月27日 曇	卯之刻過より雨降 巳之刻過止
1848年	7月28日	嘉永元年	6月28日 快晴	亥之刻過より雨降 夜二入同断 (ホウイツスル大筒車台共出来・御家老等が退出より御武具蔵に罷り出でる)
1848年	7月29日	嘉永元年	6月29日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 下から続く 出水・駒越渡場の両船共通路差止め)
1848年	7月30日	嘉永元年	7月1日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 未之刻頃止 申之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (御家中への貸渡し篠巻綿が6000把ほど余る・望みの者を求めている、岩木川 上に続く
1848年	7月31日	嘉永元年	7月2日 晴	昨夜より之小雨今晩卯之刻過止 (岩木川5歩5厘より落水し4歩になる)
1848年	8月1日	嘉永元年	7月3日 曇	未の刻過より雨降 則刻止
1848年	8月2日	嘉永元年	7月4日 晴	(菜種が4斗入り1俵40日程(水油1升に付7文目余に相成る)の値段……)
1848年	8月3日	嘉永元年	7月5日 快晴	(6月25日まで30日付け相場平均では菜種油1升6匁5分に相当・1合売りは6分5厘に申しつける)
1848年	8月4日	嘉永元年	7月6日 快晴	
1848年	8月5日	嘉永元年	7月7日 快晴	(初穂を郡奉行より差出す、今晚一夜「祢婦た」を許す?)
1848年	8月6日	嘉永元年	7月8日 快晴	(先頃三廐沖に異国船が漂着した節の急出張者・精勤者多数に御料理等を下し置かれる)
1848年	8月7日	嘉永元年	7月9日 快晴	
1848年	8月8日	嘉永元年	7月10日 晴	(他入〇之分・御玉張〇商売仰せ付けられ・という〇(金偏に通)の用語がある:意味不明)
1848年	8月9日	嘉永元年	7月11日 曇	卯之刻頃より小雨降 辰之刻過止 (去る5日小泊沖合に異国船2艘・松前白神崎方面に颯去・松前から見える、去る朔日箱館附汐首見崎台場沖合に異国船1艘・卯辰の方に颯去)
1848年	8月10日	嘉永元年	7月12日 晴	(午前様御逝去に付座当に御手当て127文目3分3厘)
1848年	8月11日	嘉永元年	7月13日 晴	申之刻過雨降 夜二入同断 申之刻頃雷鳴
1848年	8月12日	嘉永元年	7月14日 快晴	昨夜より之雨今晩寅の刻過止
1848年	8月13日	嘉永元年	7月15日 晴	
1848年	8月14日	嘉永元年	7月16日 晴	申之刻過小雨降 則刻止
1848年	8月15日	嘉永元年	7月17日 曇	今晩子の刻過より小雨降 則刻止
1848年	8月16日	嘉永元年	7月18日 晴	
1848年	8月17日	嘉永元年	7月19日 晴	今晩子の刻過雨降 寅之刻過止 (弘前売出米が盆前から段々引下げに至り上米1俵25文目より7文目位の相場・御家中御買上値段を3匁5分引下げ30目で御買上とする)
1848年	8月18日	嘉永元年	7月20日 晴	(津軽圖書を諸手足軽頭に等の人事異動)
1848年	8月19日	嘉永元年	7月21日 快晴	(塩値段1升到付6分に申付ける)
1848年	8月20日	嘉永元年	7月22日 快晴	(丸屋銭屋丸屋の3人から5000両の金を借りているのかな?)
1848年	8月21日	嘉永元年	7月23日 晴	(喧嘩の上出奔の男に3鞭居町徘徊はまで通り・喧嘩で負傷し死亡の諸手足軽の子を御持鍵仲間に新規召抱え)
1848年	8月22日	嘉永元年	7月24日 快晴	(明25日に3貫目大筒ハントモルチルの鑄立方に取掛かる、去る19日夕七時半頃内真部湊支配前田村の男が海岸で長さ1尺廻1尺3寸萌黄色ちやん懸木筒様の物1本拾い取る)
1848年	8月23日	嘉永元年	7月25日 曇	辰之刻頃より小雨時々降 午之刻過止 (明後27日御初米差上げる、秋田早口村の者共が弘前藩領に入り薪取り炭焼きの契約をしている)
1848年	8月24日	嘉永元年	7月26日 曇	午ノ刻頃雷鳴 則刻止 未ノ刻頃より小雨降 申ノ刻過止 戌ノ刻頃より雨降 子之刻頃止
1848年	8月25日	嘉永元年	7月27日 曇	今晩子の刻過より雨降 寅之刻過止 辰ノ刻過より雨降 夜二入同断 (御初米14俵御代官が持参、異国船渡来出張者多数に御酒代等、3貫目ハントモルチル大筒鑄立方相済む)
1848年	8月26日	嘉永元年	7月28日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 (水練稽古指南の4人に御賞(銀3両)、当作牀格別・米津出御印1俵12文目を8文目5分・白米14文目を10文目5分に御引下げ)
1848年	8月27日	嘉永元年	7月29日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断 下から続く 去月2日申ノ刻頃西蝦夷地リイシリ嶋ノツカと申すところに異国人1人が橋船で漂着・ソウヤ勤番所に引き取る)
1848年	8月28日	嘉永元年	7月30日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 辰の刻過止 下から続く 1艘通過、当5月29日午の上刻頃西蝦夷地ソウヤ沖合に・去月10日午ノ上刻同所に異国船が近づく、 上に続く
1848年	8月29日	嘉永元年	8月1日 晴	(御賞、去月24日夕七時過ぎ龍濱崎沖合を南部の方に向け・翌25日朝大間越沖合いに酉成の方に・同26日昼九時半頃三廐より松前の方を南部に向けそれぞれ異国船 上に続く
1848年	8月30日	嘉永元年	8月2日 晴	(百沢寺より苔実差上げる)
1848年	8月31日	嘉永元年	8月3日 晴	

1848年	9月1日	嘉永元年	8月4日 快晴		
1848年	9月2日	嘉永元年	8月5日 曇	今晩寅之刻過小雨降 則刻止 午之刻頃小雨降 則刻止	
1848年	9月3日	嘉永元年	8月6日 曇	今晩寅之刻過雨降 午之刻過止	
1848年	9月4日	嘉永元年	8月7日 晴	(江戸へ4500両送るらしい・この中で米520石が520両に見られる部分がある、去る7月に早瀬野間道を忍び通り乞食頭に預けられて逃亡の男を乞食手下に仰せ付ける)	
1848年	9月5日	嘉永元年	8月8日 快晴		
1848年	9月6日	嘉永元年	8月9日 晴	亥之刻過より雨降 夜二入同断 下から続く 30目4分を28文目4分で買い上げる)	
1848年	9月7日	嘉永元年	8月10日 晴	昨夜より之雨今晩卯之刻過止 辰之刻頃小雨降 則刻止 (岩木川出水・駒越渡場両船差止める、出米追々下落・4斗に付上米26文目より7文目・御家中御買上米の	上に続く
1848年	9月8日	嘉永元年	8月11日 晴	戌之刻頃より雷雨強し 則刻止 (今八時頃より岩木川両船共通路に相成る)	
1848年	9月9日	嘉永元年	8月12日 曇	昨夜より之雨今晩子之刻過止 午之刻過より雨降	
1848年	9月10日	嘉永元年	8月13日 曇		
1848年	9月11日	嘉永元年	8月14日 晴	(紙漉町で興行の江戸相撲興行札の値段1人に付はまでの7文目を1文目でもめて9分に申付けている)	
1848年	9月12日	嘉永元年	8月15日 曇		
1848年	9月13日	嘉永元年	8月16日 曇	午之刻頃より雨降 夜に入同断	
1848年	9月14日	嘉永元年	8月17日 曇	昨夜より之雨今晩卯之刻過止 巳之刻過より雨降	
1848年	9月15日	嘉永元年	8月18日 曇	昨夜より之雨今晩寅之刻頃止 巳之刻過より雨降 午之刻過止	
1848年	9月16日	嘉永元年	8月19日 曇	辰之刻過小雨降 則刻止	
1848年	9月17日	嘉永元年	8月20日 曇	午之刻頃小雨降 則刻止 (大目付貴田十郎右衛門が病死) 下から続く 去月7日松前様居所の沖合に異国船が南部尻矢崎に向かう)	
1848年	9月18日	嘉永元年	8月21日 快晴	23日から続く コタンからの報告で去月11日北蝦夷地の内シラヌシ(ほとんど樺太南端で西向きの町・ソウヤから最も近い港)漁会所沖合に異国船1艘見えた、	上に続く
1848年	9月19日	嘉永元年	8月22日 曇	巳之刻過より雨降 午之刻過止 酉之刻過より雨降 (両濱津出御印1俵8文目5分を米価下落に付7文目5分・白米は2文目減申付ける)	
1848年	9月20日	嘉永元年	8月23日 曇	昨夜より之雨今晩卯之刻過止 巳之刻過より雨降 夜二入同断 (去月14日タ三厩領龍濱崎沖合に異国船が南部佐井之方に・同16日昼松前矢越の方に通過、クシュン	21日に続く
1848年	9月21日	嘉永元年	8月24日 曇	昨夜より之雨今晩卯之刻過止 辰之刻過より小雨降 午之刻頃止 (去る11日夜金木村役所郷蔵焼失・2644俵余中ほとんど全部焼失が被害)	
1848年	9月22日	嘉永元年	8月25日 晴		
1848年	9月23日	嘉永元年	8月26日 曇	午之刻過より雨降 夜に入同断	
1848年	9月24日	嘉永元年	8月27日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降	
1848年	9月25日	嘉永元年	8月28日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 亥之刻過止 (去月22日夜五時頃藤崎組藤崎村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け)	
1848年	9月26日	嘉永元年	8月29日 晴	下から続く 渡場長船馬船共往來差止め・タ七つ頃より通路相成る、和徳組小沢村の男が畑に植えた杉350本伐取願ひ・認める)	
1848年	9月27日	嘉永元年	9月1日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 今晩丑之刻過より雷雨強 辰之刻過止 (人事異動、天気不勝に付き丹後者詮索送り返しに触れ、岩木川出水・今朝五時頃より駒越	上に続く
1848年	9月28日	嘉永元年	9月2日 晴	今晩子之刻過小雨降 則刻止	
1848年	9月29日	嘉永元年	9月3日 曇	辰之刻過小雨時々降 未之刻過止	
1848年	9月30日	嘉永元年	9月4日 晴	(人事異動) 7日から続く 異国船1艘宛見える)	
1848年	10月1日	嘉永元年	9月5日 快晴	下から続く 御城付足輕に役下げ・関係しなかった御召馬口取も役下げ)	
1848年	10月2日	嘉永元年	9月6日 曇	今晩子之刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (江戸の馬屋で勘定人を打擲した御召馬口取小頭の御給分召上げ永の暇弘前追放・打擲された勘定人の俵子10俵召上げ	上に続く
1848年	10月3日	嘉永元年	9月7日 曇	昨夜より之雨今晩卯之刻過止 未之刻頃より小雨時々降 下から続く 罷越す白米3斗入り4俵与える・26日颯去、去月29日三厩沖晦日高野崎昨日龍濱崎沖に	4日に続く
1848年	10月4日	嘉永元年	9月8日 晴	昨夜之雨今晩寅之刻頃止 (去月14日16日箱館附立待合場沖合・同1519日異国船見える、6月23日北蝦夷地ノトロ崎に異国人34人が上陸・内12人がシラヌシ漁会所に	上に続く
1848年	10月5日	嘉永元年	9月9日 晴	今晩寅之刻より小雨降 卯之刻頃止	
1848年	10月6日	嘉永元年	9月10日 晴		
1848年	10月7日	嘉永元年	9月11日 晴		
1848年	10月8日	嘉永元年	9月12日 晴		
1848年	10月9日	嘉永元年	9月13日 曇	今晩子之刻過より雨時々降 辰之刻頃止	
1848年	10月10日	嘉永元年	9月14日 曇	今晩丑之刻過より雨時々降 辰之刻過止 未之刻過小雨降 則刻止	
1848年	10月11日	嘉永元年	9月15日 快晴	(添田有方を手廻組頭に高杉知衛を大目付に等の人事異動)	
1848年	10月12日	嘉永元年	9月16日 晴		
1848年	10月13日	嘉永元年	9月17日 曇	巳之刻過より小雨降 申之刻過止 酉之刻過より雨時々降	
1848年	10月14日	嘉永元年	9月18日 快晴	昨夜より之雨今晩寅之刻過止	
1848年	10月15日	嘉永元年	9月19日 晴		
1848年	10月16日	嘉永元年	9月20日 曇		
1848年	10月17日	嘉永元年	9月21日 晴	(歩引渡しで難渋しているだろうから間月分を増し渡すとのこと)	
1848年	10月18日	嘉永元年	9月22日 晴		
1848年	10月19日	嘉永元年	9月23日 晴		
1848年	10月20日	嘉永元年	9月24日 晴	未之刻過地震少し 酉之刻過より雷 風雨強し 戌之刻頃雷雨止	
1848年	10月21日	嘉永元年	9月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断	
1848年	10月22日	嘉永元年	9月26日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 昨夜霰少し降 今日霰降 今朝岩木山雪初而見へ	
1848年	10月23日	嘉永元年	9月27日 晴	(株枿簪(棕櫚簪か)御買ひ下げ1本値段:上代4文目2分7厘・並代3文目5分6厘・大手簪代2文目3分7厘など)	
1848年	10月24日	嘉永元年	9月28日 快晴	下から続く 遠見番所沖合に異国船それぞれ1艘見える、同23日夕八時頃三厩沖に異国船2艘まもなく1艘見える)	
1848年	10月25日	嘉永元年	9月29日 快晴	下から続く 橋舟を西在(西蝦夷地のこと?)根部田村に漕ぎ寄せ7人が魚釣・手真似(手まね)で追い返す、去月19日朝龍濱崎台場沖合・同日昼西浜通り月屋村	上に続く
1848年	10月26日	嘉永元年	9月30日 快晴	(一昨26日夜・去る8月20日夜に神宮寺に盗賊が入る) 10月2日から続く 酢2斗入り1樽1文目・小豆当分津止、去月朔日松前志摩守居所前沖合に異国船1艘・	上に続く
1848年	10月27日	嘉永元年	10月1日 曇	辰之刻過小雨降 巳之刻頃止 (広田某を諸手足輕頭に等の人事異動、御賞、当新穀津出御印代1俵:玄米7文目・白米9文目・餅米13文目・白餅米15文目)	
1848年	10月28日	嘉永元年	10月2日 曇	卯之刻頃より雨時々降 申之刻過止 (御印代:酒2斗入り1樽3文目・糶1俵5文目・醤油2斗入り1樽2文目5分・味噌2斗入り1樽3文目5分・白酒2斗入り1樽3文目5分・	9月30日に続く
1848年	10月29日	嘉永元年	10月3日 曇		
1848年	10月30日	嘉永元年	10月4日 晴	(去月16日土手町の往来宿で江戸の寺の僧と自称の男が病死・同行者は行方不明、去月21日内南御門当番の御手廻与力2人が下座せず御奉公遠慮)	
1848年	10月31日	嘉永元年	10月5日 曇	昨夜子之刻過より雨時々降 寅之刻頃止 申之刻頃より雨降 (医学の学歴を藩に届けるようにしている)	

1848年	11月1日	嘉永元年	10月6日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 亥之刻頃止	
1848年	11月2日	嘉永元年	10月7日	曇	巳之刻過より雨降 則刻止	
1848年	11月3日	嘉永元年	10月8日	快晴		
1848年	11月4日	嘉永元年	10月9日	快晴	亥之刻過より雨時々降 今暁寅之刻過止	
1848年	11月5日	嘉永元年	10月10日	快晴	(平館村新台場御取立の見分に佐野茂助を派遣、沢山の寺に禁足免許・田舎への移動を命じている)	
1848年	11月6日	嘉永元年	10月11日	曇	昨夜亥之刻過より之雨今日ニ及 時々降 子之刻頃より雷鳴時々 申之刻過止 今日雪少し降 下から続く 5文目宛・小僧1人に3文目)	
1848年	11月7日	嘉永元年	10月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (初雪に付御家老等が御機嫌伺、長勝寺御位牌堂修復出来・出席僧に御布施:長勝寺銀1枚・京徳寺等の和尚16人に7文目宛・長老4人に 上に続く	
1848年	11月8日	嘉永元年	10月13日	曇	亥之刻過より雨時々降	
1848年	11月9日	嘉永元年	10月14日	晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止	
1848年	11月10日	嘉永元年	10月15日	晴	(御賞、当春異国船漂着に骨折りの80人に御酒代を下し置かれる)	
1848年	11月11日	嘉永元年	10月16日	曇	辰之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (御家中の弟が喧嘩負傷・双方憤み)	
1848年	11月12日	嘉永元年	10月17日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 (江戸御常用御国地払御登せ金14000両の内2000両御登せ済み・残りの内4000両を来る20日に両目付附添で登せを申付ける)	
1848年	11月13日	嘉永元年	10月18日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 下から続く 有ったが未出版とのこと)	
1848年	11月14日	嘉永元年	10月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (松前方御用として万国地球など何冊かの本を買っている・蕃船旗章図(当時でも外洋船には国旗を掲げていたのしょうな)も買い下げ希望も 上に続く	
1848年	11月15日	嘉永元年	10月20日	曇	昨夜雪少し降 (この節売り出し米1俵二拾三(23)文目5分迄の相場・御家中渡し御買上28文目立では不釣合い・27文目立の上4分増とし21日渡より御買上)	
1848年	11月16日	嘉永元年	10月21日	晴	(大筒鑄立て方入用の錫目形96貫目を御買い下げ・代銭192両、両濱米穀津出(1俵)御印代:玄米10文目・白米12文目・餅米14文目・餅)白米16文目・大豆7文目とする)	
1848年	11月17日	嘉永元年	10月22日	曇	今暁子之刻過より小雨時々降 辰之刻過止 (8月19日松前志摩守様御居所前沖合に・同月23日巳の中刻頃と午の中刻頃にもそれぞれ異国船が1艘見える)	
1848年	11月18日	嘉永元年	10月23日	曇	辰之刻過より雨時々降	
1848年	11月19日	嘉永元年	10月24日	曇	昨夜雪少し降 (出雲守殿収納米の内定例津出4300石の内400石を江戸扶持米・残り3900石を津出とする)	
1848年	11月20日	嘉永元年	10月25日	晴		
1848年	11月21日	嘉永元年	10月26日	曇	今暁子之刻過雨降 申之刻過止	
1848年	11月22日	嘉永元年	10月27日	晴	亥之刻過より雨降 則刻止	
1848年	11月23日	嘉永元年	10月28日	晴	昨夜雪少し降 (金十両4人扶持は知行56石・俵子80俵・30石6人扶持に相当するのだそうな)	
1848年	11月24日	嘉永元年	10月29日	曇	巳之刻過より雨時々降 (一昨27日暮れ方より神明宮下社家の倅が行方不明)	
1848年	11月25日	嘉永元年	10月30日	曇	昨夜より之雨未之刻過止 (昨日記述の行方不明者は他人に手傷を負わせていて3里四方追放:実行できないが、その相手は慎)	
1848年	11月26日	嘉永元年	11月1日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去月27日より当月26日迄相場日数30日平均で水油1升に付6匁5分6厘に相当・1升売り6匁5分6厘・1合売りは6分5厘に申し付ける)	
1848年	11月27日	嘉永元年	11月2日	晴	下から続く 元庄屋に共に30鞭10里四方追放大場御構い、姦通乱暴の男に9鞭と3鞭居村徘徊是まで通り、御閑所を山越で入った青森男に12鞭居町徘徊 欄外(*)に続く	
1848年	11月28日	嘉永元年	11月3日	晴	酉之刻頃より雨降 亥之刻頃雷鳴 則刻止 (暇を出された御家中家から大小を盗み取り家内打殺す等の脅しをした諸手警固の二男・仰せ付けより21本過伐の久吉村の 上に続く	
1848年	11月29日	嘉永元年	11月4日	晴	下から続く (高杉御蔵15000・五所川原御蔵33000・木作御蔵27000・床前御蔵10000)・来春湯明後鰯ヶ沢御蔵江小廻し22000俵(金木御蔵10000・八幡御蔵7000・十三御蔵5000))	
1848年	11月30日	嘉永元年	11月5日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (青森下がり132000俵(東御蔵15000・北御蔵20000・亀甲御蔵10000・浪岡御蔵27000・板屋野木御蔵33000・藤崎御蔵27000)・鰯ヶ沢下げ85000俵 上に続く	
1848年	12月1日	嘉永元年	11月6日	快晴		
1848年	12月2日	嘉永元年	11月7日	曇	未之刻過より小雨降 申之刻頃小雨降 則刻止	
1848年	12月3日	嘉永元年	11月8日	曇	午之刻過より小雨時々降	
1848年	12月4日	嘉永元年	11月9日	晴		
1848年	12月5日	嘉永元年	11月10日	曇	今日雪少し降 (去る7日夜広田組鶴ヶ丘村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け、当御参府を12月まで在邑が御願いの通り認められた)	
1848年	12月6日	嘉永元年	11月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御賞)	
1848年	12月7日	嘉永元年	11月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1848年	12月8日	嘉永元年	11月13日	晴	(一昨年8月似せ役人の御家中(以上支配)の身上召上げ永の暇・関係者にも役下げ等の罰)	
1848年	12月9日	嘉永元年	11月14日	曇	巳之刻頃より雨降 夜二入同断	
1848年	12月10日	嘉永元年	11月15日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 (松前非常御用係を常置(白取数馬・津軽大炊之助、土門・土岐・長尾・館山)	
1848年	12月11日	嘉永元年	11月16日	曇	今日雪少し降	
1848年	12月12日	嘉永元年	11月17日	曇	(百沢寺再建に要した費用(普請・神仏像御下げ台等を含む)金2507両余)	
1848年	12月13日	嘉永元年	11月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積	
1848年	12月14日	嘉永元年	11月19日	曇	(砲術執行のため肥後藩の御家中田原某とその門弟計3人が来ている・長逗留しないよう申し遣わしている)	
1848年	12月15日	嘉永元年	11月20日	曇	今暁子之刻過より雨時々降 今日雪少し降 (大豆津出御印1俵代7文目を8文目とする) 下から続く 用金14000両の内残り4000両の内3000両を登す・あと1000両)	
1848年	12月16日	嘉永元年	11月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 真田流等の砲家諸流儀12流と火水中術が見え師家17名の中に肥後藩の御家中田原某が入っている、来る27日江戸常 上に続く	
1848年	12月17日	嘉永元年	11月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (今日棒術和術高覧、佐々木弥太八の井上左太夫様御免状・6貫目ホウイツスル・3貫目モルツイル・野戦筒玉目150目位等の記述、 上に続く	
1848年	12月18日	嘉永元年	11月23日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積	
1848年	12月19日	嘉永元年	11月24日	晴	昨夜雪降 二寸程積	
1848年	12月20日	嘉永元年	11月25日	晴	(今般在方より米30000俵御買上・値段が安くなっているなどクレームがついている)	
1848年	12月21日	嘉永元年	11月26日	晴	昨夜雪降 二寸程積	
1848年	12月22日	嘉永元年	11月27日	晴	昨夜雪少し降 (大坂廻船の上乗りを終えて帰る諸手足軽が秋田表で病死・その子を長柄の者に新規召抱え)	
1848年	12月23日	嘉永元年	11月28日	晴	昨夜雪少し降 午之刻地震少し	
1848年	12月24日	嘉永元年	11月29日	晴	子之刻頃地震少し 昨夜雪少し降	
1848年	12月25日	嘉永元年	11月30日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	
1848年	12月26日	嘉永元年	12月1日	晴	(人事異動、御賞ではなく酒代、来る4日立ちで地払い代年間14000両の残りの1000両その他で3000両を登す)	
1848年	12月27日	嘉永元年	12月2日	曇	今日午之刻過より雨時々降 夜二入同断	
1848年	12月28日	嘉永元年	12月3日	曇		
1848年	12月29日	嘉永元年	12月4日	曇	今日雪少し降 (去月27日夕より翌28日朝迄十三渦の大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月20日夕より翌21日朝迄で当年は日数に引合6日遅く節に引合5日早い)	
1848年	12月30日	嘉永元年	12月5日	曇	(去月27日夜六半時頃広須組富港村で出火・類焼共2軒焼失午1疋焼斃・火元百姓他村預け)	
1848年	12月31日	嘉永元年	12月6日	曇	今日雪少し降	
(*)是まで通り・関係者にも過料等の罰、半紙等を盗んだ勘定所小使の御給分召上げ永の暇弘前払い)						

1849年	1月1日	嘉永元年	12月7日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1849年	1月2日	嘉永元年	12月8日	曇	辰之刻過雨 時々降 夜二入同断	
1849年	1月3日	嘉永元年	12月9日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 辰之刻過止 (去る亥・子・丑年(今年は申年)に保存中の品を盗まれた紙御蔵奉行等が罰せられている・品物値段等が記載されている)	
1849年	1月4日	嘉永元年	12月10日	曇	下から続く 錆立ることを報告している	
1849年	1月5日	嘉永元年	12月11日	晴	(組村貯郷蔵破損の手入の11人に酒肴を下し置かれる、人事異動、11月朔日幕府に1貫目筒・玉目6貫目玉ホウイツスル筒・玉目3貫目ハントモルチール筒各1挺を弘前で	上に続く
1849年	1月6日	嘉永元年	12月12日	晴		
1849年	1月7日	嘉永元年	12月13日	曇	昨夜より之雨今晚卯之刻頃止	
1849年	1月8日	嘉永元年	12月14日	曇	昨夜より之雨今晚丑之刻頃止 今日雪少し降 (御賞)	
1849年	1月9日	嘉永元年	12月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 三寸程積 (人事異動、当春の異国船対応関係に御賞、剣術和術高覧)	
1849年	1月10日	嘉永元年	12月16日	曇	昨夜雪少し降 (昨15日九時頃御家中の倅が切腹・死亡、去る12月29日夜紙漉町で牢奉行の倅と口論・殺人の男を9鞭居町徘徊はまで通り)	
1849年	1月11日	嘉永元年	12月17日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積	
1849年	1月12日	嘉永元年	12月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動)	
1849年	1月13日	嘉永元年	12月19日	曇	今日雪降 二寸程積 (碓ヶ関街道の並木松を貰い受けた男2人・杉盗み伐りの男2人に3鞭居町・居村徘徊はまで通り、このほかの関係者にも過料等)	
1849年	1月14日	嘉永元年	12月20日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (盗み杣の罰が延々と書いてあるが……)	
1849年	1月15日	嘉永元年	12月21日	曇	辰之刻過より雨時々降 申之刻過止 (亀甲御蔵立会と2人の奉行その他に御賞(銀各1枚その他))	
1849年	1月16日	嘉永元年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 今晚丑之刻頃西南之風強シ 今日雪降 二寸程積 吹雪強シ (12人の御用達に御賞、当暮より来る9月中御用達共え15000両の調達を申付ける?)	
1849年	1月17日	嘉永元年	12月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積	
1849年	1月18日	嘉永元年	12月24日	曇	昨夜雪降 二寸程積	
1849年	1月19日	嘉永元年	12月25日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (桜庭善左衛門宅で今日ホウイツスル錆立て方相済む、秋田出生の盗みの男を乞食小屋引き廻しの上碓ヶ関口送り返し)	
1849年	1月20日	嘉永元年	12月26日	曇	(御賞(金100疋・銀3両)、異国船が松前・南部・津軽の領海にきた際は毎回連絡していたが子細ない場合はお届けに及ばず?)	
1849年	1月21日	嘉永元年	12月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1849年	1月22日	嘉永元年	12月28日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、18日朝十三湯前後とも残らず氷張る)	
1849年	1月23日	嘉永元年	12月29日	曇	今日雪降 二寸程積	
1849年	1月24日	嘉永2年	正月1日	曇	今日雪少し降	
1849年	1月25日	嘉永2年	正月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	
1849年	1月26日	嘉永2年	正月3日	曇	昨夜雪少し降 (御古例金200両を御金奉行が差出す、今日御謡初二付八時半過ぎ御家老等が罷り出る、人事異動)	
1849年	1月27日	嘉永2年	正月4日	晴		
1849年	1月28日	嘉永2年	正月5日	晴		
1849年	1月29日	嘉永2年	正月6日	曇	今日雪少し降	
1849年	1月30日	嘉永2年	正月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1849年	1月31日	嘉永2年	正月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1849年	2月1日	嘉永2年	正月9日	晴		
1849年	2月2日	嘉永2年	正月10日	晴		
1849年	2月3日	嘉永2年	正月11日	晴	(人事異動)	
1849年	2月4日	嘉永2年	正月12日	晴		
1849年	2月5日	嘉永2年	正月13日	曇	巳の刻頃より小雨時々降 申の刻過止 戌の刻頃より雷雨 即刻止	
1849年	2月6日	嘉永2年	正月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積	
1849年	2月7日	嘉永2年	正月15日	曇	昨夜吹雪強シ 雪三寸程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1849年	2月8日	嘉永2年	正月16日	晴		
1849年	2月9日	嘉永2年	正月17日	晴		
1849年	2月10日	嘉永2年	正月18日	晴	(人事異動)	
1849年	2月11日	嘉永2年	正月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積	
1849年	2月12日	嘉永2年	正月20日	晴	昨夜雪降 一寸程積	
1849年	2月13日	嘉永2年	正月21日	快晴	下から続く 相当・1升売りは1文目6分1合売りは10文宛に申付ける)	
1849年	2月14日	嘉永2年	正月22日	曇	巳之刻過より小雨時々降 (今日桜庭善左衛門宅で500目野戦筒の錆立て相済む、去る12月11日より当月11日迄寒30日売出米附相場では酒1升が1文目5分7厘余に	上に続く
1849年	2月15日	嘉永2年	正月23日	曇	今日風吹強シ	
1849年	2月16日	嘉永2年	正月24日	曇	昨夜雪降 四寸程積 昨夜風吹強シ	
1849年	2月17日	嘉永2年	正月25日	曇		
1849年	2月18日	嘉永2年	正月26日	晴		
1849年	2月19日	嘉永2年	正月27日	晴	昨夜雪少し降 (刻印のない木品を売買の男2人に過料・庄屋2人にも過料)	
1849年	2月20日	嘉永2年	正月28日	晴	昨夜雪少し降 (来月朔日日蝕に付登城の面々出仕御用捨)	
1849年	2月21日	嘉永2年	正月29日	快晴		
1849年	2月22日	嘉永2年	正月30日	曇	今日雪少し降 (人事異動)	
1849年	2月23日	嘉永2年	2月1日	晴	今日五時三分より日蝕 9分半 四時八分に終 (今日日蝕二付表方御礼御用捨)	
1849年	2月24日	嘉永2年	2月2日	曇	今日雪降 六寸程積	
1849年	2月25日	嘉永2年	2月3日	曇	昨夜雪降 三寸程積 申の刻頃より雨降 酉の刻頃止	
1849年	2月26日	嘉永2年	2月4日	晴	(鰺ヶ沢の商人がはたはた数俵塩引50本等を土産にどこかに持ち込む・御取り上げの上戸 〆等の罰、炭186俵も取り押えられている)	
1849年	2月27日	嘉永2年	2月5日	晴	(不明日に後潟組叟月村の船が破船・乗組みの3人全員海死)	
1849年	2月28日	嘉永2年	2月6日	曇	今日雪降 三寸程積	

1849年	3月1日	嘉永2年	2月7日 晴	昨夜雪降 二寸程積 (人事異動、御賞)
1849年	3月2日	嘉永2年	2月8日 晴	
1849年	3月3日	嘉永2年	2月9日 曇	
1849年	3月4日	嘉永2年	2月10日 晴	
1849年	3月5日	嘉永2年	2月11日 晴	
1849年	3月6日	嘉永2年	2月12日 曇	未の刻頃より小雨降 即刻止 申の刻過より雨降 戌の刻過止
1849年	3月7日	嘉永2年	2月13日 曇	(去る9月に薪割で乱暴した御目見以下御留守居支配の知行の内20石召上げ償)
1849年	3月8日	嘉永2年	2月14日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1849年	3月9日	嘉永2年	2月15日 晴	(去る午年(今年は酉年)より二ノ丸御太鼓櫓入用の水油を御省略・年間渡し高の内5升3合を減らし夏冬の区別なく1ヶ月9合の年間1斗8合・今2升増を申付ける)
1849年	3月10日	嘉永2年	2月16日 晴	
1849年	3月11日	嘉永2年	2月17日 快晴	
1849年	3月12日	嘉永2年	2月18日 快晴	
1849年	3月13日	嘉永2年	2月19日 晴	(津軽屋三平が倅三右衛門を離縁・諸事三平が勤める、人事異動)
1849年	3月14日	嘉永2年	2月20日 曇	
1849年	3月15日	嘉永2年	2月21日 晴	酉の刻過より小雨降 亥の刻過止
1849年	3月16日	嘉永2年	2月22日 曇	昨夜雪少し降 今暁寅の刻過より小雨降 巳の刻頃止
1849年	3月17日	嘉永2年	2月23日 曇	未の刻過より雨降 夜二入同断 酉の刻過雷鳴強し 戌の刻過雷鳴止 雨子の刻頃止
1849年	3月18日	嘉永2年	2月24日 晴	(乳井薬師堂両村御で争い御引上山で薬師堂村の男が盗伐・3人を捕らえる)
1849年	3月19日	嘉永2年	2月25日 快晴	(21日タより翌22日朝迄十三潟の大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は2月21日タより翌22日までに氷明ける・当年は遅速無く節に引合10日早い)
1849年	3月20日	嘉永2年	2月26日 晴	28日から続く 12文目・白米12文目の処14文目・餅米14文目の処16文目・餅白米16文目の処18文目とする)
1849年	3月21日	嘉永2年	2月27日 快晴	(去月2日奥州作山駅?に30歳くらいの津軽出身と称する坊主が病死、旧冬居宅焼失の横内組戸山馬屋尻村に入用木375本(全焼50本宛)の切り取りを申付ける)
1849年	3月22日	嘉永2年	2月28日 晴	(郡奉行に後藤門之丞等の人事異動、12月に桜庭某が鑄立のホウイツスル鑄損に相成る・自分物入りで鑄直す、両濱米穀津出御印代1俵値段:玄米10文目の処 26日に続く)
1849年	3月23日	嘉永2年	2月29日 晴	
1849年	3月24日	嘉永2年	3月1日 曇	今暁丑の刻頃より小雨降 巳の刻過止 (人事異動)
1849年	3月25日	嘉永2年	3月2日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (大豆津出値段8文目とする)
1849年	3月26日	嘉永2年	3月3日 曇	今暁子の刻過より雨降 巳の刻過止 亥の刻過より雨降 (今25日朝迄十三潟前後共残らず氷明ける)
1849年	3月27日	嘉永2年	3月4日 曇	今暁丑の刻過より雨降 夜に入同断
1849年	3月28日	嘉永2年	3月5日 晴	昨夜より之雨今暁寅の刻過頃止
1849年	3月29日	嘉永2年	3月6日 晴	酉の刻過より雨降 寅の刻過止
1849年	3月30日	嘉永2年	3月7日 快晴	(人事異動)
1849年	3月31日	嘉永2年	3月8日 晴	
1849年	4月1日	嘉永2年	3月9日 曇	午の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1849年	4月2日	嘉永2年	3月10日 曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降
1849年	4月3日	嘉永2年	3月11日 曇	酉の刻頃より雨降 夜二入同断 今暁子の刻頃より南風強 (人事異動)
1849年	4月4日	嘉永2年	3月12日 晴	
1849年	4月5日	嘉永2年	3月13日 快晴	
1849年	4月6日	嘉永2年	3月14日 快晴	
1849年	4月7日	嘉永2年	3月15日 快晴	(桜庭某の500目野戦筒皆出来・今日上納、岡勘解由を碇ヶ関町奉行に等の人事異動)
1849年	4月8日	嘉永2年	3月16日 晴	
1849年	4月9日	嘉永2年	3月17日 曇	巳の刻過より小雨降 未の刻過止 (和徳組原ヶ平村用水溜池に6・7歳の子が水死)
1849年	4月10日	嘉永2年	3月18日 曇	(馬骨鶏糞の津出の申し出あり・馬骨の津出は天気不正を招くと差し止めを求めている・来早春にするように申付ける)
1849年	4月11日	嘉永2年	3月19日 曇	酉の刻過より雨時々降 夜に入同断 戌の刻過より東風強
1849年	4月12日	嘉永2年	3月20日 曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻頃止 今日雪少し降
1849年	4月13日	嘉永2年	3月21日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1849年	4月14日	嘉永2年	3月22日 晴	
1849年	4月15日	嘉永2年	3月23日 晴	
1849年	4月16日	嘉永2年	3月24日 晴	酉の刻過より雨時々降
1849年	4月17日	嘉永2年	3月25日 曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降 巳の刻過止 (金木新田芦菔焼払い順年・4月朔日頃風会い見合わせ焼き払うよう申付ける)
1849年	4月18日	嘉永2年	3月26日 曇	辰の刻過より小雨降 午の刻過止
1849年	4月19日	嘉永2年	3月27日 晴	
1849年	4月20日	嘉永2年	3月28日 晴	(金井ヶ沢台場を先日見分の場所に引移すこととする)
1849年	4月21日	嘉永2年	3月29日 晴	(今日宇和野で篠崎某の砲術見分)
1849年	4月22日	嘉永2年	3月30日 晴	(大間越台場がこの度御引移り・去る17日皆出来)
1849年	4月23日	嘉永2年	4月1日 快晴	(人事異動)
1849年	4月24日	嘉永2年	4月2日 快晴	下から続く 今日四時頃幅50間余長100間余でほぼ鎮火)
1849年	4月25日	嘉永2年	4月3日 晴	(元上納方御金蔵手代の御旗警護を他出差し止め・関係者の揚屋入り・家財封印、岩木嵩硫黄山出火・防ぎ方手配) 下から続く 昨3日出火の硫黄山の火は 上に続く
1849年	4月26日	嘉永2年	4月4日 曇	昨夜亥の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 昨夜の雨今日二及 時々降 申の刻頃止 西南の風強 (岩木川出水・今九時頃より駒越渡場長船馬船共往来差止、 上に続く)
1849年	4月27日	嘉永2年	4月5日 晴	(剣術高覧、岩木川出水・駒越渡場往来差止め今五時頃より両船とも通路相成る)
1849年	4月28日	嘉永2年	4月6日 晴	(硫黄山焼跡:長80間幅50間位)
1849年	4月29日	嘉永2年	4月7日 曇	巳の刻過より雨降 申の刻過止 (中山道出材木を三世寺に筏廻しの途中に不埒あり・頭取4人を腰縄つきで他村預けとする)
1849年	4月30日	嘉永2年	4月8日 曇	(茂森町の男が誓願寺墓所で縊死)

1849年	5月1日	嘉永2年	4月9日	晴	
1849年	5月2日	嘉永2年	4月10日	快晴	(身分不相応の葬儀をしたとして慎・戸メ等の罰)
1849年	5月3日	嘉永2年	4月11日	晴	(6貫目ホウイツスル1挺磨き方相済み今日上納・500目野戦筒車代金具共皆出来今日上納)
1849年	5月4日	嘉永2年	4月12日	晴	
1849年	5月5日	嘉永2年	4月13日	快晴	(出奔後度々間道を通り原子村庄屋に不法の男に12鞭弘前徘徊是迄通り)
1849年	5月6日	嘉永2年	4月14日	快晴	(人事異動)
1849年	5月7日	嘉永2年	4月15日	晴	
1849年	5月8日	嘉永2年	4月16日	曇	今暁卯の刻過より雨降 雷鳴 寅の刻頃雷鳴止 雨卯の刻過止 今日小雨時々降
1849年	5月9日	嘉永2年	4月17日	快晴	(泥酔前後不覚の御目見以下御留守居支配を御城付足輕に役下げ、江戸で人事異動)
1849年	5月10日	嘉永2年	4月18日	快晴	今日巳の刻頃地震少し
1849年	5月11日	嘉永2年	4月19日	快晴	
1849年	5月12日	嘉永2年	4月20日	快晴	(魚の隠荷上げの2人に魚御取り上げの上過料1貫500文充、去月28日夜後潟村濱先で手段米7俵の代庄屋に過料錢600文、紺屋灰隠焼きの男に過料錢1貫800文)
1849年	5月13日	嘉永2年	4月21日	曇	卯の刻過より小雨降 酉の刻過止 (頃日原ヶ平一ノ渡兩村領御山に弘前歩行人多く入り込む・見咎めても悪口雑言・このような者は搦捕るとのお触れあり)
1849年	5月14日	嘉永2年	4月22日	晴	(御賞(銀5兩・金100疋)、薄市土場の木を筏で盗んだ男共に過料等)
1849年	5月15日	嘉永2年	4月23日	曇	今暁丑之刻頃より小雨時々降
1849年	5月16日	嘉永2年	4月24日	曇	昨夜よりの雨今日(虫)及 時々降
1849年	5月17日	嘉永2年	4月25日	曇	今暁子の刻過より(虫)雨時々降 (原ヶ平村の溜池に水死の男子の件に関して和徳村せんと同村仮子常を指名手配している)
1849年	5月18日	嘉永2年	4月26日	曇	
1849年	5月19日	嘉永2年	4月27日	快晴	(下曽根塾に入り砲術稽古を命じられた者数人)
1849年	5月20日	嘉永2年	4月28日	快晴	
1849年	5月21日	嘉永2年	4月29日	曇	申の刻過より小雨降 今暁卯の刻頃止
1849年	5月22日	嘉永2年	閏4月1日	曇	(人事異動、御賞)
1849年	5月23日	嘉永2年	閏4月2日	晴	
1849年	5月24日	嘉永2年	閏4月3日	曇	昨夜亥の刻過より小雨時々降 卯の刻過止
1849年	5月25日	嘉永2年	閏4月4日	曇	
1849年	5月26日	嘉永2年	閏4月5日	曇	
1849年	5月27日	嘉永2年	閏4月6日	晴	
1849年	5月28日	嘉永2年	閏4月7日	曇	今暁子の刻頃より小雨時々降 辰の刻頃止 (去る朔日夜九時頃横内組宮田村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け)
1849年	5月29日	嘉永2年	閏4月8日	曇	申の刻頃より雨降 酉の刻過止 申の刻頃より雷鳴 酉の刻頃止 (去る昨日夕八時頃月屋村沖合いに1艘・同3日朝龍濱崎大筒台場沖合いに異国船1艘見える)
1849年	5月30日	嘉永2年	閏4月9日	曇	
1849年	5月31日	嘉永2年	閏4月10日	快晴	今暁子の刻頃より雨降 卯の刻頃止
1849年	6月1日	嘉永2年	閏4月11日	晴	
1849年	6月2日	嘉永2年	閏4月12日	快晴	
1849年	6月3日	嘉永2年	閏4月13日	曇	今暁丑の刻過より雨時々降 申の刻過止
1849年	6月4日	嘉永2年	閏4月14日	曇	巳の刻頃より雨時々降 午の刻過止 巳の刻頃より雷鳴 午の刻過止
1849年	6月5日	嘉永2年	閏4月15日	曇	巳の刻過より雨降 未の刻過止 (人事異動)
1849年	6月6日	嘉永2年	閏4月16日	曇	午の刻過より雨降 未の刻過止 未の刻頃西南の風強し 午の刻過雷鳴 即刻止
1849年	6月7日	嘉永2年	閏4月17日	晴	(6貫目ホウイツスル車台皆出来・上納、去る10日夜九時頃大鰐組嶋田村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)
1849年	6月8日	嘉永2年	閏4月18日	曇	
1849年	6月9日	嘉永2年	閏4月19日	快晴	
1849年	6月10日	嘉永2年	閏4月20日	晴	
1849年	6月11日	嘉永2年	閏4月21日	晴	(近年鉄値段高値に相成り鍛冶屋共難渋……)
1849年	6月12日	嘉永2年	閏4月22日	快晴	下から続く 一昨年盗みで弘前御構いの男が御構い地に入り又盗みで6鞭弘前御構い)
1849年	6月13日	嘉永2年	閏4月23日	晴	申の刻過より雨降 夜二入同断 (明24日高嶋流大筒打ち方の小屋懸に人夫必要というが今植付時期・御取延にとの和徳組代官の申し出・来月の節句後に延ばす、 上に続く
1849年	6月14日	嘉永2年	閏4月24日	曇	昨夜よりの雨今日二及ひ辰の刻過止 巳の刻過小雨降 則刻止 (この節御葉園芍薬花盛り・傷をつけるのをを咎めたら乱暴番人は氣絶・犯人は逃亡(翌日の記述も含め))
1849年	6月15日	嘉永2年	閏4月25日	曇	午の刻過小雨時々降 申の刻過止
1849年	6月16日	嘉永2年	閏4月26日	快晴	
1849年	6月17日	嘉永2年	閏4月27日	快晴	(この度質屋利息以前の通り2歩に仰せ付けられ候間……)
1849年	6月18日	嘉永2年	閏4月28日	快晴	(手配されていた(4月25日記述)和徳村せんと仮子常が見つかった)
1849年	6月19日	嘉永2年	閏4月29日	晴	下から続く ・同17日屋四時過ぎ藤嶋村沖合いに3艘・同日四半頃龍濱崎台場沖合に3艘・同21日夕七半時頃龍濱崎台場沖合に1艘が見える)
1849年	6月20日	嘉永2年	5月1日	晴	(人事異動) 下から続く 払米4000石・定例37250石)と幕府に報告、異国船が去月8日夕八時頃龍濱崎台場沖合に1艘・去月16日朝五時頃同所沖合いに1艘 上に続く
1849年	6月21日	嘉永2年	5月2日	晴	(御家中等の美服等の奢り停止の触れ、去る申年収納当酉年江戸廻米30000石(家中扶持米18000石払米1200石0・定例53342石)・大坂廻米12000石(家中扶持米8000石 上に続く
1849年	6月22日	嘉永2年	5月3日	曇	午の刻過より雨時々降 申の刻過止
1849年	6月23日	嘉永2年	5月4日	曇	(和徳村せんと仮子常が秋田表より引付け候旨申出で候間吟味中揚屋入り、三之北御門外橋皆出来)
1849年	6月24日	嘉永2年	5月5日	快晴	
1849年	6月25日	嘉永2年	5月6日	曇	申の刻過より雨降 夜二入同断
1849年	6月26日	嘉永2年	5月7日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻頃止 (去月29日前に小泊湊領阿曾内という所に鯨寄せる・この中に「放連」1本見当てる・長さ3尺5寸くらいで日本の品でない・持ち帰る)
1849年	6月27日	嘉永2年	5月8日	曇	
1849年	6月28日	嘉永2年	5月9日	曇	申の刻過小雨降 即刻止 酉の刻過小雨降 即刻止
1849年	6月29日	嘉永2年	5月10日	曇	巳の刻過より小雨時々降 未の刻頃止
1849年	6月30日	嘉永2年	5月11日	曇	

1849年	7月1日	嘉永2年	5月12日 快晴	
1849年	7月2日	嘉永2年	5月13日 晴	(今日宇和野で延び延びになっていた篠崎進等の砲術高覧(2日に記述で「退矯筒」というものがあった)、浪人の盗みの子に3鞭弘前御構い)
1849年	7月3日	嘉永2年	5月14日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 巳の刻過止 (去月金木組藤枝村の神楽の節賭博打擲死亡させた御手廻りを御役免吟味中他出差留めとする)
1849年	7月4日	嘉永2年	5月15日 晴	(幼年の盗みの男に贖錢3貫600文を30日以内に上納するようにとの判決:親が払うのかな)
1849年	7月5日	嘉永2年	5月16日 晴	下から続く ・餅米18文目を14文目・白餅米10文目(こう書いてある・古文書らしい)を16文目・大豆8文目に下げるよう申付ける)
1849年	7月6日	嘉永2年	5月17日 晴	(青田の内笛吹くなどの触れ、去る13日夜金木組脇元村で出火・類焼共68軒焼失、米穀別て豊作入船不足・津出御印(1俵):玄米14文目を10文目・白米16文目を12文目 上に続く)
1849年	7月7日	嘉永2年	5月18日 晴	下から続く 半頃鷹野崎沖合いにも・これと同じか同日昼四時頃三馬屋沖合にも1艘見える・同6日昼九時頃龍濱崎沖合いに1艘相見える)
1849年	7月8日	嘉永2年	5月19日 曇	酉の刻過より小雨降 亥の刻頃止 下から続く 朔日朝五時頃・同日夕八時頃・同5日朝五時頃龍濱崎沖合にそれぞれ1艘見える・これと同じか去月5日朝五時 上に続く
1849年	7月9日	嘉永2年	5月20日 曇	下から続く 積み以下の小船)3艘・丸木漁船7艘焼失、異国船が当3月24日夕八時過鷹野崎大筒台場沖合に2艘・同27日夕八時頃龍濱崎台場沖合に1艘・去月 上に続く
1849年	7月10日	嘉永2年	5月21日 快晴	(御家中同士の屋敷地の賃借がありもめている・75坪の地代が年々米1斗5升、14日付けで報告の脇元村の大火は家68軒・土蔵8ヶ所・三葉船(さんばぶね:100石 上に続く)
1849年	7月11日	嘉永2年	5月22日 曇	(御金紛失出奔の御給人2人が南部表で捕まる・手錠・足枷・駕籠で送らせる)
1849年	7月12日	嘉永2年	5月23日 曇	辰の刻過より雨降 即刻止 申の刻過より小雨降 即刻止
1849年	7月13日	嘉永2年	5月24日 晴	
1849年	7月14日	嘉永2年	5月25日 晴	戌の刻過より雨時々降 夜に入同断 (13日脇元村の火元は他村預け、小豆150俵を御役錢1俵6文目で津出(津止めでなかった?)、脇元村の68軒に御手当て68俵下し置かれる)
1849年	7月15日	嘉永2年	5月26日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 酉の刻過止
1849年	7月16日	嘉永2年	5月27日 曇	未の刻過より小雨時々降 夜入同断
1849年	7月17日	嘉永2年	5月28日 曇	昨夜よりの小雨今日二及ひ 時々降 未の刻頃止 (気候不順に付四社に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)
1849年	7月18日	嘉永2年	5月29日 曇	
1849年	7月19日	嘉永2年	5月30日 曇	午の刻過より小雨時々降
1849年	7月20日	嘉永2年	6月1日 曇	午之刻過より小雨時々降 夜に入同断 (人事異動)
1849年	7月21日	嘉永2年	6月2日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 未之刻過止 (江戸で29歳の養母を他家に幼女に出す話あり・当然もめている)
1849年	7月22日	嘉永2年	6月3日 快晴	
1849年	7月23日	嘉永2年	6月4日 晴	
1849年	7月24日	嘉永2年	6月5日 晴	
1849年	7月25日	嘉永2年	6月6日 晴	(高嶋流砲術見分に宇和野に用人が罷り出る)
1849年	7月26日	嘉永2年	6月7日 曇	午之刻過より雨時々降
1849年	7月27日	嘉永2年	6月8日 曇	今晩子之刻過より雨降 卯之刻頃止 卯之刻過より小雨降 巳之刻過止 (当5月藤枝村で馬医を打殺した3人の人相書き:背中背丈夫なる方・背5尺位・背5尺4寸位等)
1849年	7月28日	嘉永2年	6月9日 晴	
1849年	7月29日	嘉永2年	6月10日 晴	(大坂から買い入れの一文目墨の値段が1文目であったのが1文目2分になっている)
1849年	7月30日	嘉永2年	6月11日 晴	
1849年	7月31日	嘉永2年	6月12日 晴	(不明日に大組足軽横山某が筒葉調合の節怪我し死亡・その子にはそれなりの待遇で新規召抱え)
1849年	8月1日	嘉永2年	6月13日 晴	
1849年	8月2日	嘉永2年	6月14日 曇	未之刻過より雨降 則刻止
1849年	8月3日	嘉永2年	6月15日 晴	
1849年	8月4日	嘉永2年	6月16日 晴	
1849年	8月5日	嘉永2年	6月17日 快晴	(江戸で人事異動)
1849年	8月6日	嘉永2年	6月18日 晴	(17日金木組在医の倅が発狂し抜刀・1人即死2人が重症、御武具蔵に御供え御用意鉛が935貫目・5カ年で2000貫目に増やす様にする)
1849年	8月7日	嘉永2年	6月19日 快晴	
1849年	8月8日	嘉永2年	6月20日 曇	(大鰐より初穂差出す、17日入前崎ノ瀬に御用銅等を積んだ南部船が破船)
1849年	8月9日	嘉永2年	6月21日 曇	巳之刻過より雨時々降 夜二入同断
1849年	8月10日	嘉永2年	6月22日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 辰之刻過止 (来る27日出立の便で山吹銀目形2貫目を登す)
1849年	8月11日	嘉永2年	6月23日 曇	未之刻過雨降 夜二入同断
1849年	8月12日	嘉永2年	6月24日 曇	昨夜より之雨今日二及 申之刻過止 下から続く 二付五山で風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける)
1849年	8月13日	嘉永2年	6月25日 曇	卯之刻過より小雨時々降 巳之刻頃止 (去る20日屋赤石組大然村で出火・類焼共3軒焼失・火元高無他村預け、黒石下町の男が境松村?の小屋で縊死、頃日天気不勝 上に続く)
1849年	8月14日	嘉永2年	6月26日 晴	
1849年	8月15日	嘉永2年	6月27日 快晴	(人事異動)
1849年	8月16日	嘉永2年	6月28日 曇	今晩子之刻過雨降 則刻止 辰之刻過より小雨降 卯之刻過止
1849年	8月17日	嘉永2年	6月29日 曇	(25日に記述の縊死男は博打の結果であった・博打の関係者5人を揚屋に入れる)
1849年	8月18日	嘉永2年	7月1日 快晴	
1849年	8月19日	嘉永2年	7月2日 快晴	
1849年	8月20日	嘉永2年	7月3日 快晴	(閏4月23日御菜園見物に行き花を持ち咎められ乱暴した男に軽い罰)
1849年	8月21日	嘉永2年	7月4日 快晴	
1849年	8月22日	嘉永2年	7月5日 快晴	
1849年	8月23日	嘉永2年	7月6日 快晴	
1849年	8月24日	嘉永2年	7月7日 快晴	
1849年	8月25日	嘉永2年	7月8日 快晴	
1849年	8月26日	嘉永2年	7月9日 快晴	
1849年	8月27日	嘉永2年	7月10日 快晴	(水練稽古指南に御賞)
1849年	8月28日	嘉永2年	7月11日 快晴	下から続く 鯉ヶ沢で晴天3日の角力興行(札錢1人2分5厘))
1849年	8月29日	嘉永2年	7月12日 快晴	(当菜種灯油値段は当附相場30日平均の上御定法を以って割合すると水油1升7文目7分9厘余に相当・水油1升を7文目5分1合売り7分5厘に申付ける、来る14日より 上に続く)
1849年	8月30日	嘉永2年	7月13日 相製	
1849年	8月31日	嘉永2年	7月14日 快晴	(御留守居与力の妻が発狂・自傷)

1849年	9月1日	嘉永2年	7月15日	快晴	
1849年	9月2日	嘉永2年	7月16日	快晴	
1849年	9月3日	嘉永2年	7月17日	快晴	
1849年	9月4日	嘉永2年	7月18日	快晴	(人事異動)
1849年	9月5日	嘉永2年	7月19日	晴	
1849年	9月6日	嘉永2年	7月20日	快晴	(御初米稔り候に付明21日差上げたいとの申し出)
1849年	9月7日	嘉永2年	7月21日	曇	午の刻過より小雨降 未の刻過止 (初米のことは書いていない)
1849年	9月8日	嘉永2年	7月22日	曇	午の刻過より雨時々降 夜に入同断
1849年	9月9日	嘉永2年	7月23日	曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過ぎ止 辰の刻頃より雨時々降 夜に入同断 下から続く 白米1俵12文目を10文目にする)
1849年	9月10日	嘉永2年	7月24日	曇	昨夜よりの雨今日に及び時々降 辰の刻過止 今晩丑の刻頃雷鳴 即刻止 (当作弥増・北国筋の米価引下げ・両濱入船格別不足・米津出御印1俵10文目を8文目 上に続く
1849年	9月11日	嘉永2年	7月25日	曇	巳の刻過より小雨降 午の刻過止 同刻雷鳴 即刻止 亥の刻過より雨時々降 寅の刻頃止 (当月7日暮止宿の松前の僧が8日朝六時原別村で病死)
1849年	9月12日	嘉永2年	7月26日	晴	
1849年	9月13日	嘉永2年	7月27日	快晴	
1849年	9月14日	嘉永2年	7月28日	快晴	
1849年	9月15日	嘉永2年	7月29日	快晴	
1849年	9月16日	嘉永2年	7月30日	曇	今晩寅の刻過より雨降 夜に入同断
1849年	9月17日	嘉永2年	8月1日	曇	昨夜より之雨今晩卯之刻過止
1849年	9月18日	嘉永2年	8月2日	曇	申之刻過小雨降 則刻止
1849年	9月19日	嘉永2年	8月3日	晴	下から続く 申渡した・これに戻している、大赦の対象にならなかった者:笠原近江・福嶋(津軽)頼母等の弘化の変の関係者、大赦の中に田中勝衛など多数あり)
1849年	9月20日	嘉永2年	8月4日	曇	今晩子の刻過より雨時々降 卯之刻頃止 (上仙院(津軽寧親)の法事で大赦をするらしい・昔は当日御菩提寺に引連れ住僧が申渡した・最近は牢前で牢奉行等が 上に続く
1849年	9月21日	嘉永2年	8月5日	曇	(大赦続いている:昨日は大赦案今日は実行などダブっているのかもしれない)
1849年	9月22日	嘉永2年	8月6日	曇	亥の刻過より雨時々降
1849年	9月23日	嘉永2年	8月7日	晴	昨夜より之雨今日二及 時々降 辰之刻過止 (人事異動)
1849年	9月24日	嘉永2年	8月8日	曇	辰之刻過より雨降 午之刻頃止 (昨日五時過ぎ鍛冶町に止宿中の角力2人が切りつけられる)
1849年	9月25日	嘉永2年	8月9日	晴	
1849年	9月26日	嘉永2年	8月10日	晴	
1849年	9月27日	嘉永2年	8月11日	曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断
1849年	9月28日	嘉永2年	8月12日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻頃止 未之刻過より雨時々降 夜二入同断 (毛内有右衛門の用人兼帯御免等の人事異動)
1849年	9月29日	嘉永2年	8月13日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳之刻頃止
1849年	9月30日	嘉永2年	8月14日	晴	
1849年	10月1日	嘉永2年	8月15日	曇	巳之刻過より雨降 夜二入同断 (今日八幡宮神輿通御・五時御供揃え三之丸御屋形に入り高覧)
1849年	10月2日	嘉永2年	8月16日	晴	昨夜より之雨今晩寅之刻頃止
1849年	10月3日	嘉永2年	8月17日	晴	今晩子の刻頃より雨時々降 寅之刻過止
1849年	10月4日	嘉永2年	8月18日	曇	申之刻頃より小雨時々降 戌之刻過止 (楠美悠作に用人役知100石等の人事異動、去る5日卯の上刻津軽甲斐守様江戸表で病死)
1849年	10月5日	嘉永2年	8月19日	曇	巳之刻過小雨降 則刻止
1849年	10月6日	嘉永2年	8月20日	晴	(去月5日昼九半時頃小泊村沖合に2艘・同日夕七半時過龍・濱崎大筒台場沖合いにも異国船2艘見える)
1849年	10月7日	嘉永2年	8月21日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻頃止
1849年	10月8日	嘉永2年	8月22日	晴	申之刻過より雨時々降 夜二入同断
1849年	10月9日	嘉永2年	8月23日	曇	昨夜よりの小雨今日二及び辰之刻過止
1849年	10月10日	嘉永2年	8月24日	快晴	(牢奉行加勢に御賞、閏4月下旬筒薬調合の節怪我した大組足軽が昨夜死亡)
1849年	10月11日	嘉永2年	8月25日	晴	申之刻過より小雨降 夜二入同断
1849年	10月12日	嘉永2年	8月26日	晴	昨夜より之雨今晩卯之刻頃止
1849年	10月13日	嘉永2年	8月27日	曇	今朝岩木山江初而雪見ゆる
1849年	10月14日	嘉永2年	8月28日	快晴	
1849年	10月15日	嘉永2年	8月29日	晴	
1849年	10月16日	嘉永2年	9月1日	曇	午の刻過小雨降 則刻止
1849年	10月17日	嘉永2年	9月2日	曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止 酉の刻過より雨降 戌の刻頃より雷鳴 亥の刻頃雷鳴止 雨夜二入同断
1849年	10月18日	嘉永2年	9月3日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断
1849年	10月19日	嘉永2年	9月4日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜二入同断
1849年	10月20日	嘉永2年	9月5日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 丑の刻頃地震少々 雨申の刻止 (検見人に山上鉄太郎あり)
1849年	10月21日	嘉永2年	9月6日	快晴	(盗伐所持の男を3里四方追放)
1849年	10月22日	嘉永2年	9月7日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 卯の刻頃地震少々 (御賞)
1849年	10月23日	嘉永2年	9月8日	晴	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止 戌の刻過地震少々
1849年	10月24日	嘉永2年	9月9日	快晴	
1849年	10月25日	嘉永2年	9月10日	晴	戌の刻頃雷鳴 即刻止 戌の刻過より雨時々降
1849年	10月26日	嘉永2年	9月11日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 辰の刻過雷鳴 則刻止 雨午の刻頃止 (人事異動)
1849年	10月27日	嘉永2年	9月12日	曇	
1849年	10月28日	嘉永2年	9月13日	曇	今晩丑の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1849年	10月29日	嘉永2年	9月14日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断
1849年	10月30日	嘉永2年	9月15日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻頃止 (北原惣蔵を用人・桜庭兵右衛門を大目付に等の人事異動、小廻船が松前に廻り米の輸送に遅れ・廻米を先にするよう申付ける)
1849年	10月31日	嘉永2年	9月16日	曇	

1849年	11月1日	嘉永2年	9月17日 晴	
1849年	11月2日	嘉永2年	9月18日 晴	(四ノ北御門外箱番所……)
1849年	11月3日	嘉永2年	9月19日 曇	
1849年	11月4日	嘉永2年	9月20日 曇	辰の刻過より小雨時々降 夜に入同断
1849年	11月5日	嘉永2年	9月21日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 (この節売出古米1俵24文目位・御家中御買上値段を今1文目引上げ26文目立でお買い上げとする)
1849年	11月6日	嘉永2年	9月22日 曇	巳の刻過より雨時々降
1849年	11月7日	嘉永2年	9月23日 曇	昨夜よりの雨今日に及 申の刻過止 下から続く 沖合に1艘異国船見える、江戸で人事異動)
1849年	11月8日	嘉永2年	9月24日 曇	(8月15日侍從様御餉料4100石を4500石にする、去月23日昼四半時頃龍濱崎大筒台場沖合に2艘・同24日昼九半時頃同所沖合に1艘・同26日夕七半時過同所 上に続く
1849年	11月9日	嘉永2年	9月25日 曇	
1849年	11月10日	嘉永2年	9月26日 晴	
1849年	11月11日	嘉永2年	9月27日 晴	(当江戸御廻船の上乗の長柄の者が抜米を適切に報告して御城付足輕に役上げ・下乗も掃除小頭格に役上げ)
1849年	11月12日	嘉永2年	9月28日 晴	
1849年	11月13日	嘉永2年	9月29日 晴	下から続く 餅米14文目・白餅米16文目・大豆7文目)
1849年	11月14日	嘉永2年	9月30日 曇	申の刻過より雨時々降 夜に入同断 (隠荷揚げの秋田能代の2人の品物取上げ入津差し止め出帆させる、当新穀津出御印代(1俵):玄米8文目・白米10文目・ 上に続く
1849年	11月15日	嘉永2年	10月1日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 今日霰少し降 (多田三左衛門を旗奉行に等の人事異動)
1849年	11月16日	嘉永2年	10月2日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻頃止 (人事異動) 下から続く 藤崎柏木赤田金木藤代高杉の12ヶ組の仕付田方45793石6斗2升2合内当作毛引き2275石5斗8升6合)
1849年	11月17日	嘉永2年	10月3日 曇	下から続く 廢田を開く・当年も人寄役に打ち混じり?47町歩余を開増・この百姓に2人扶持を下し置かれ帯刀御免とする、堀越大鰐尾崎大光寺猿賀田舎館 上に続く
1849年	11月18日	嘉永2年	10月4日 曇	辰の刻過小雨降 則刻止 (人事異動) 下から続く 酢2斗入1樽3匁5分・小豆当分津出御差止め、広須組出野里村の百姓が一昨年・昨年と59町歩余の 上に続く
1849年	11月19日	嘉永2年	10月5日 晴	(当月よりの御印代並びに御役銭:酒2斗入1樽3文目・糶1俵(以下御役銭)5文目・醬油2斗入1樽2文目5分・味噌2斗入1樽3匁5分・白酒2斗入1樽3文目5分・ 上に続く
1849年	11月20日	嘉永2年	10月6日 晴	
1849年	11月21日	嘉永2年	10月7日 曇	今晚子の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (常盤増館浪岡浦町油川後潟の17ヶ組(7組にしか見えない)の仕付高35263石2斗2升3合内引高2331石1斗1升6合)
1849年	11月22日	嘉永2年	10月8日 曇	昨夜よりの小雨今晚寅の刻過止 (平館詰だった山上才助に武器嗜みが良いとして銀子2枚下し置かれる・他にも類似例)
1849年	11月23日	嘉永2年	10月9日 晴	
1849年	11月24日	嘉永2年	10月10日 晴	
1849年	11月25日	嘉永2年	10月11日 晴	
1849年	11月26日	嘉永2年	10月12日 曇	今日雪降 三寸程積 (初雪に付御機嫌伺い)
1849年	11月27日	嘉永2年	10月13日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (手段米の男に大赦以前として所払いの上外ヶ浜4ヶ組浦々住居御構い・関係者への罰は御用捨)
1849年	11月28日	嘉永2年	10月14日 曇	酉の刻頃より雨降 夜に入同断
1849年	11月29日	嘉永2年	10月15日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 下から続く (今年は酉年)より渡世穿を仰せ付けられたが休山を申し出る)
1849年	11月30日	嘉永2年	10月16日 晴	下から続く 10文に申付ける、江戸で人事異動、カルロンナーテ筒雛形1挺但し玉目70目・短筒1挺但し玉目50目を津輕に送る手続きをしている、去る巳年 上に続く
1849年	12月1日	嘉永2年	10月17日 晴	(当新酒飯値段:去月5日より当月4日まで30日間の売出米附相場平均の上御定法を以って割合すれば酒1升が1文目5分8厘に相当・1升を1文目5分8厘1合売を 上に続く
1849年	12月2日	嘉永2年	10月18日 曇	午の刻過より雨降 夜に入同断
1849年	12月3日	嘉永2年	10月19日 曇	昨夜よりの雨今晚卯の刻過止 未の刻過雨降 則刻止
1849年	12月4日	嘉永2年	10月20日 晴	
1849年	12月5日	嘉永2年	10月21日 快晴	(去る14日暮頃深浦町で酒の上で喧嘩一方は今朝死亡・犯人出奔)
1849年	12月6日	嘉永2年	10月22日 晴	(去る16日晚深浦町の男が赤石組広戸村で縊死・先日深浦町で喧嘩し死に至らしめた男)
1849年	12月7日	嘉永2年	10月23日 晴	
1849年	12月8日	嘉永2年	10月24日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 四寸程積 (上位熊皮3枚で代料150目)
1849年	12月9日	嘉永2年	10月25日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降
1849年	12月10日	嘉永2年	10月26日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1849年	12月11日	嘉永2年	10月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (広須組下繁田村の田方40町歩家数19軒)
1849年	12月12日	嘉永2年	10月28日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1849年	12月13日	嘉永2年	10月29日 曇	今日雪少し降 酉の刻過より雨降 戌の刻過止 (格段のご沙汰を以って酒1升を1文目6分1合売りは頃日仰せ付けの通り10文に申付ける)
1849年	12月14日	嘉永2年	10月30日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜に入同断
1849年	12月15日	嘉永2年	11月1日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 (人事異動)
1849年	12月16日	嘉永2年	11月2日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (去月15日より当月14日迄30日間の荏種売出附相場平均の上御定法を以って割合すると水油1升8文目5分3厘に相当・1合を8分に申し付ける)
1849年	12月17日	嘉永2年	11月3日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 比較し30日早く節に比較し11日早い)
1849年	12月18日	嘉永2年	11月4日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (去月27日タより翌28日朝迄十三潟大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月27日タより28日朝まで氷張る・日数に 上に続く
1849年	12月19日	嘉永2年	11月5日 曇	今日雪少し降 (今日剣術和術高寛、二天二刀流の柳沢家中が剣術修行に来ている・長逗留しないよう申付ける、この度4万俵の御買上・去年は豊作でも3万俵に 欄外(*)に続く
1849年	12月20日	嘉永2年	11月6日 晴	下から続く 甲辰八月七日・裏二〇(土の下に衣に之繞(しん)によう)雰囲気としては遠に近い)寺内寄進之)
1849年	12月21日	嘉永2年	11月7日 晴	(今日剣術高寛) 下から続く 31文目とする、十腰内村社司長見貞司申し出で候・鰐口ノ銘渡り七寸・奉納大檀那津輕惣領主宮内大輔藤原臣信建・慶長九年 上に続く
1849年	12月22日	嘉永2年	11月8日 曇	昨夜雪少し降 (昨年まで御買上炭1俵に付2文目4分充:当年は炭釜減り平均1俵に付2文目5分に申付ける、代官からの申出により在方より御買上米値段1俵を 上に続く
1849年	12月23日	嘉永2年	11月9日 晴	
1849年	12月24日	嘉永2年	11月10日 晴	
1849年	12月25日	嘉永2年	11月11日 曇	午の刻過より雨降 申の刻過止 (両濱米穀津出御印(1俵):玄米15文目・白米17文目・餅米17文目・白餅米19文目・大豆12文目に申付ける)
1849年	12月26日	嘉永2年	11月12日 曇	辰の刻過より雨降 夜に入同断 未の刻過雷鳴 則刻止
1849年	12月27日	嘉永2年	11月13日	#VALUE!
1849年	12月28日	嘉永2年	11月14日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 勘弁してもらうことで元金を返す)
1849年	12月29日	嘉永2年	11月15日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (天保7年に加州丸屋から借りた銀高64貫583文目5分・この金1009両ト永11文目4分・この利1654両と永60目8分9厘・利息1654両余を 上に続く
1849年	12月30日	嘉永2年	11月16日 晴	
1849年	12月31日	嘉永2年	11月17日 曇	昨夜雪降 五寸程積 (*)苦労している・御買上値段は2文目ずつ相増し31文目立又は30目立に:分らん)

1850年	1月1日	嘉永2年	11月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (10文目玉筒この度3人(宇野・二唐・国友)に新規薪張り方仰せ付ける、御蔵米(1俵)30目立では不釣合・31文目立に申付ける)
1850年	1月2日	嘉永2年	11月19日	曇	今晩丑の刻頃より雨降 申の刻頃より止
1850年	1月3日	嘉永2年	11月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (古懸不動尊御出汗・五山に御祈禱を仰せ付ける)
1850年	1月4日	嘉永2年	11月21日	曇	昨夜雪少し降
1850年	1月5日	嘉永2年	11月22日	曇	昨夜雪降 七寸程積 風吹強し
1850年	1月6日	嘉永2年	11月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 八寸程積
1850年	1月7日	嘉永2年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (松枝村の座当が土手町で八人芸(鳴り物8人の役を1人で演ずる芸)7日興行・札銭は1人3分宛)
1850年	1月8日	嘉永2年	11月25日	曇	今日雪降 二寸程積 (人事異動)
1850年	1月9日	嘉永2年	11月26日	曇	今日雪降 六寸程積
1850年	1月10日	嘉永2年	11月27日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 五寸程積
1850年	1月11日	嘉永2年	11月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、十腰内村観音堂社司長見某(多分11月8日記述の鰐口を盗まれた神官でも観音堂は仏教のはず)が慎御免)
1850年	1月12日	嘉永2年	11月29日	晴	
1850年	1月13日	嘉永2年	12月1日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動)
1850年	1月14日	嘉永2年	12月2日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積
1850年	1月15日	嘉永2年	12月3日	曇	今日雪少し降
1850年	1月16日	嘉永2年	12月4日	曇	今日雪降 三寸程積 (御用達共の調達をこの節より来9月中まで15000両上納を申付ける)
1850年	1月17日	嘉永2年	12月5日	曇	昨夜雪少し降 (去月29日夜九時金井ヶ沢湊御番所向かいから出火・大風甚だしく湊御番所他6軒焼失)
1850年	1月18日	嘉永2年	12月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 五寸程積 (受取った金包の中を確認しなかった上納方御金蔵の御旗誓固の御給分召上げ永の暇)
1850年	1月19日	嘉永2年	12月7日	晴	(永井某を勘定奉行に等の人事異動)
1850年	1月20日	嘉永2年	12月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去月25日朝までに十三湯前後とも残らず氷張る)
1850年	1月21日	嘉永2年	12月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積
1850年	1月22日	嘉永2年	12月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (高嶋流砲術の稽古に江戸のぼりの篠崎進に付人1人付ける)
1850年	1月23日	嘉永2年	12月11日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降
1850年	1月24日	嘉永2年	12月12日	快晴	
1850年	1月25日	嘉永2年	12月13日	晴	
1850年	1月26日	嘉永2年	12月14日	曇	昨夜雪少し降 辰の刻過小雨降 即刻止 今日雪少し降 (江戸で近衛様より一粒金丹御所望・早速御登方仰せつける) 下から続く 21年目に御座候この前は文政12年)
1850年	1月27日	嘉永2年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 (当春薄雪にて(材木の)山出し不容易・柚子人夫共制道行き届いたとして御賞、湯野沢銀山関係者に御賞・御手当て、伊勢両宮御遷座は古来より 上に続く
1850年	1月28日	嘉永2年	12月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1850年	1月29日	嘉永2年	12月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積
1850年	1月30日	嘉永2年	12月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞(銀5両・銀3両)、御備糶当年内収め候分とも都合15万4千俵・最早積み入れる御蔵なし・一部御家中渡とする)
1850年	1月31日	嘉永2年	12月19日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1850年	2月1日	嘉永2年	12月20日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (御賞金150疋、人事異動) 下から続く 泊めた御家中に御奉公遠慮・関係者にも罰)
1850年	2月2日	嘉永2年	12月21日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪少し降 (御賞金100疋、人事異動、桜庭某宅で300目玉筒1挺鑄立方相済む、御中老頭は金12両2人扶持他に勤料1両1人扶持位、他領者を 上に続く
1850年	2月3日	嘉永2年	12月22日	晴	(寒中売出米附相場平均御定法を以って割り出すと酒1升が1文目7分1厘・当年限りで1升を1文目7分5厘1合売りは11文に申付ける、御中老頭の支度料も出している)
1850年	2月4日	嘉永2年	12月23日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (和徳村の男の妻と密通し出奔の際その子を水死させた新里村の男と密通の妻にそれぞれ10里四方追放大場御構い(当6月の大赦により))
1850年	2月5日	嘉永2年	12月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞)
1850年	2月6日	嘉永2年	12月25日	晴	
1850年	2月7日	嘉永2年	12月26日	晴	今晩寅の刻過より雨降 卯の刻頃止
1850年	2月8日	嘉永2年	12月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積
1850年	2月9日	嘉永2年	12月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (竹内又市を馬廻頭格・佐野茂助を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動)
1850年	2月10日	嘉永2年	12月29日	晴	昨夜戌の刻過地震強し
1850年	2月11日	嘉永2年	12月30日	快晴	
1850年	2月12日	嘉永3年	正月1日	快晴	(人事異動、去月21日夜青森から出た大泊村の船が大時化で3人全員が海死)
1850年	2月13日	嘉永3年	正月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積
1850年	2月14日	嘉永3年	正月3日	晴	昨夜雪降 四寸程積 (御吉例金200両を御金奉行が差出す、今日御謡初二付八半時過より御家老御用人大目付罷出)
1850年	2月15日	嘉永3年	正月4日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積
1850年	2月16日	嘉永3年	正月5日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降
1850年	2月17日	嘉永3年	正月6日	曇	今日雪少し降 (江戸で人事異動)
1850年	2月18日	嘉永3年	正月7日	曇	今日雪少し降
1850年	2月19日	嘉永3年	正月8日	晴	
1850年	2月20日	嘉永3年	正月9日	快晴	
1850年	2月21日	嘉永3年	正月10日	快晴	
1850年	2月22日	嘉永3年	正月11日	晴	昨夜雪少し降 (津軽大炊助を手廻組頭に等の多数の人事異動)
1850年	2月23日	嘉永3年	正月12日	曇	今日雪少し降
1850年	2月24日	嘉永3年	正月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1850年	2月25日	嘉永3年	正月14日	晴	
1850年	2月26日	嘉永3年	正月15日	快晴	(今朝御家中の倅が病氣と相見え切腹・死亡)
1850年	2月27日	嘉永3年	正月16日	快晴	
1850年	2月28日	嘉永3年	正月17日	快晴	

1850年	3月1日	嘉永3年	正月18日	快晴	
1850年	3月2日	嘉永3年	正月19日	曇	今暁子之刻頃より雨降 寅之刻頃止
1850年	3月3日	嘉永3年	正月20日	晴	昨夜雪少し降 西風強し
1850年	3月4日	嘉永3年	正月21日	快晴	
1850年	3月5日	嘉永3年	正月22日	快晴	
1850年	3月6日	嘉永3年	正月23日	快晴	昨夜雪少し降
1850年	3月7日	嘉永3年	正月24日	快晴	(去る21日晚紺屋町の小店に女子捨子・乳持ちの者に養育申付ける)
1850年	3月8日	嘉永3年	正月25日	快晴	
1850年	3月9日	嘉永3年	正月26日	快晴	
1850年	3月10日	嘉永3年	正月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積
1850年	3月11日	嘉永3年	正月28日	快晴	
1850年	3月12日	嘉永3年	正月29日	曇	今日雪少し降
1850年	3月13日	嘉永3年	正月30日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1850年	3月14日	嘉永3年	2月1日	曇	
1850年	3月15日	嘉永3年	2月2日	晴	
1850年	3月16日	嘉永3年	2月3日	曇	申之刻過より雨降 亥之刻頃止 (江戸詰め中言行宜しからざる大組警固・足輕に勤料の内俵子10俵差引役下げ)
1850年	3月17日	嘉永3年	2月4日	曇	未之刻頃より雨時々降 夜二入同断
1850年	3月18日	嘉永3年	2月5日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止 今日雪少し降 (二之御丸未申の御櫓大破・屋根は銅出合迄瓦葺に出来)
1850年	3月19日	嘉永3年	2月6日	快晴	昨夜雪降 一寸程積
1850年	3月20日	嘉永3年	2月7日	快晴	酉之刻過より雨降 (山で皮剥ぎ木14本程見付る・乳井薬師堂両村の住民庄屋等の関係者に過料)
1850年	3月21日	嘉永3年	2月8日	曇	昨夜より之雨辰之刻頃止 申之刻過より雨降 亥之刻過止
1850年	3月22日	嘉永3年	2月9日	晴	
1850年	3月23日	嘉永3年	2月10日	快晴	
1850年	3月24日	嘉永3年	2月11日	曇	今日雪降 四寸程積
1850年	3月25日	嘉永3年	2月12日	昨夜雪降	七寸程積 戌之刻頃雷鳴 戌之刻過より雨時々降 (変な構成だがこのようになっている)
1850年	3月26日	嘉永3年	2月13日	晴	今暁寅之刻過雷鳴 昨夜雪少し降
1850年	3月27日	嘉永3年	2月14日	晴	
1850年	3月28日	嘉永3年	2月15日	晴	
1850年	3月29日	嘉永3年	2月16日	曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断 (広田平作を御使番格に役下げ)
1850年	3月30日	嘉永3年	2月17日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻頃止
1850年	3月31日	嘉永3年	2月18日	晴	(秋田領大久保綴子釈迦内白沢の4つの宿場から牛馬御払い願ひ・減馬になり他払いは苦しい・揉めている)
1850年	4月1日	嘉永3年	2月19日	晴	下から続く 氷明ける・去年と引合10日遅い、流木の値段:銭10文目代に付き大木に直し平均7本・御家老衆に100目代・御目見以上に10文目代宛等の御払い)
1850年	4月2日	嘉永3年	2月20日	快晴	(未申御櫓御手入れに付同所の武器を入れ置く場所なし・御玄関前御櫓に棚を作り入れ置く、去る12日暮れ頃より翌13日朝迄十三潟大湊川尻より小俣川尻まで残らず 上に続く
1850年	4月3日	嘉永3年	2月21日	晴	(人事異動)
1850年	4月4日	嘉永3年	2月22日	曇	卯之刻過より雨降 (岩木川出水・駒越渡し場今六時頃より両船とも往来差止め)
1850年	4月5日	嘉永3年	2月23日	晴	戌之刻過より雨時々降 下から続く その外に荒れ田畑大よそ1000町歩余あり・鮭場への出稼ぎを一部差し止める、今朝五時頃より岩木川の両船共通路に相成る)
1850年	4月6日	嘉永3年	2月24日	曇	昨夜より之雨今暁子之刻過止 酉之刻過より雨時々降(最初の文字は雲です・書き間違いかな) (外浜通りは勿論広須・木作・金木・同新田・飯詰・俵元新田・赤田 上に続く
1850年	4月7日	嘉永3年	2月25日	曇	昨夜より之雨今日二及 卯之刻過止 今日雪少し降 (御家中が一間所取立て入用の拝借を申し出る・代料379匁7分2厘7毛、茂森町で町民が掃除小人に打擲され死亡)
1850年	4月8日	嘉永3年	2月26日	晴	下から続く 4人・徒歩徒歩目付11人中5人・挾箱2挺・替馬1疋・供馬2疋の内1疋・騎馬供2人の内1人但しこの1人は歩行を召し連れる等の減少を幕府に申し入れている)
1850年	4月9日	嘉永3年	2月27日	快晴	(秋田久保田の津軽屋某に御払馬40疋御払い、去る19日朝迄十三潟前後共残らず氷明ける、江戸で人事異動、勝手向不如意として府内の供連を駕籠脇侍10人中 上に続く
1850年	4月10日	嘉永3年	2月28日	快晴	
1850年	4月11日	嘉永3年	2月29日	快晴	
1850年	4月12日	嘉永3年	3月1日	快晴	(楠美悠作を荘司と改名、田井隼人・工藤伝太郎を諸手足輕頭に等の人事異動) 下から続く 炭5250俵1俵2文目8分宛・二口ノ16貫650目)
1850年	4月13日	嘉永3年	3月2日	曇	未之刻過より小雨時々降 夜二入同断 (非常三十騎三番手御備御武器御取揃に蔵なし・どこかに造るよう申付ける、炭小釜6枚で御役炭750俵1俵2文目6分宛・御買上 上に続く
1850年	4月14日	嘉永3年	3月3日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 巳之刻過小雨降 即刻止 下から続く 200文充・この代銭26文目8分6厘は御取上げ)
1850年	4月15日	嘉永3年	3月4日	曇	未之刻頃より雨降 酉之刻過止 (湯屋共が流木高値として当2月中迄湯銭1人に付7文充・まだ値段が高く7文充を継続する、塩鯖576疋を隠れ運びの男2人に過料1貫 上に続く
1850年	4月16日	嘉永3年	3月5日	曇	午之刻過より雨時々降 酉之刻過止 (今日鍬術高覧)
1850年	4月17日	嘉永3年	3月6日	曇	今暁子之刻頃より雨降 卯之刻頃止 下から続く 不埒として碇ヶ関町名主等に戸ノ等の罰)
1850年	4月18日	嘉永3年	3月7日	晴	(菜種灯油値段1升8文目1合売りは8分に申付ける、未申やぐら修復に付き(早道の)道具を内南御門2階に移す、秋田出生の僧が相乗沢で寒死した件で取扱が 上に続く
1850年	4月19日	嘉永3年	3月8日	晴	(理由が分らないが指名手配:年齢34歳背5尺3寸位・年齢32歳背5尺4寸位等々、今日鎗術長刀高覧)
1850年	4月20日	嘉永3年	3月9日	快晴	
1850年	4月21日	嘉永3年	3月10日	快晴	(今朝斎藤某の居宅と稽古所が焼失、御馬飼料代はまで1日1疋に付2文目5分充・これを3文目に増額)
1850年	4月22日	嘉永3年	3月11日	快晴	(人事異動、鎗術高覧、去る9日夕駒越組水木在家村で出火・祖母焼死・火元高無)
1850年	4月23日	嘉永3年	3月12日	快晴	
1850年	4月24日	嘉永3年	3月13日	曇	今暁子之刻頃より雨降 寅之刻頃止
1850年	4月25日	嘉永3年	3月14日	快晴	
1850年	4月26日	嘉永3年	3月15日	曇	今暁丑之刻頃より小雨時々降 辰之刻過止 (去る12日金木組深郷田村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け、去る12日猿賀組尾上村で出火・類焼共10軒その外焼失)
1850年	4月27日	嘉永3年	3月16日	晴	酉之刻過より雨時々降 夜二入同断
1850年	4月28日	嘉永3年	3月17日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入同断
1850年	4月29日	嘉永3年	3月18日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 夜二入同断 (去る15日鑄物師桜庭某が鑄立てた300目玉筒3挺皆出来・明後20日差出す)
1850年	4月30日	嘉永3年	3月19日	曇	昨夜より之雨今暁丑之刻過止 巳之刻過より小雨時々降 申之刻頃止

1850年	5月1日	嘉永3年	3月20日	晴	
1850年	5月2日	嘉永3年	3月21日	快晴	
1850年	5月3日	嘉永3年	3月22日	快晴	
1850年	5月4日	嘉永3年	3月23日	快晴	
1850年	5月5日	嘉永3年	3月24日	快晴	(去る16日昼油川組白畑野村で出火・類焼共4軒焼失・火元百姓他村預け、去る15日夜浦町組荒川村で出火・類焼共2軒焼失・火元大工他村預け)
1850年	5月6日	嘉永3年	3月25日	快晴	
1850年	5月7日	嘉永3年	3月26日	快晴	
1850年	5月8日	嘉永3年	3月27日	曇	辰之刻過より小雨時々降 夜二入同断
1850年	5月9日	嘉永3年	3月28日	曇	昨夜より之雨今暁子之刻過止 辰之刻過より雨時々降 午之刻過止
1850年	5月10日	嘉永3年	3月29日	快晴	
1850年	5月11日	嘉永3年	3月30日	晴	
1850年	5月12日	嘉永3年	4月1日	快晴	(人事異動)
1850年	5月13日	嘉永3年	4月2日	快晴	
1850年	5月14日	嘉永3年	4月3日	快晴	
1850年	5月15日	嘉永3年	4月4日	快晴	(人事異動)
1850年	5月16日	嘉永3年	4月5日	快晴	(赤石組沓ツ森村の16歳から50年間獵師で今年も熊を刈り取った獵師に御酒代鳥目1貫500文・共同作業中怪我をした小又鬼に療治料を下し置かれる)
1850年	5月17日	嘉永3年	4月6日	快晴	
1850年	5月18日	嘉永3年	4月7日	晴	下から続く 闇物資(ほや・加藤鮫・玉子焼き)を運んでいた藤代村寄せ郷筒子先村の男に過料1貫200文)
1850年	5月19日	嘉永3年	4月8日	曇	昨夜戌之刻過より小雨時々降 今日二及 辰之刻過止 (当御発駕来る27日と仰せ付けられる、16日出火の白畑野村の4軒に御手当て米1俵充下し置かれる、当正月 上に続く
1850年	5月20日	嘉永3年	4月9日	快晴	下から続く 富柳村で出火・類焼共3軒焼失・火元百姓他村預け)
1850年	5月21日	嘉永3年	4月10日	曇	申之刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (去月12日夜猿賀組尾上高木村の類焼潰家11軒に御手当て米1俵充但し潰屋2軒に半俵充下し置かれる、去る7日暮増館組 上に続く
1850年	5月22日	嘉永3年	4月11日	曇	昨夜より之雨今日及 時々降 未之刻頃止 (御賞、御白砂前御門・内南御門御番所の修復は御発駕の後とする)
1850年	5月23日	嘉永3年	4月12日	曇	巳之刻過より雨降 午之刻過止 午之刻頃雷鳴 即刻止 (珍田某を長柄奉行格に等の人事異動、御賞、当3月9日に鯖石村で秋田領の男が打擲され死亡)
1850年	5月24日	嘉永3年	4月13日	快晴	(人事異動、何者か知らないが金姫様が度々出てくる、江戸で出奔・門限破り多数、去る4日夕七半時頃三厩今別高野崎大筒台場沖合に・南部焼山辺り江鰐通、 欄外(*)に続く
1850年	5月25日	嘉永3年	4月14日	晴	(当2月上磯で木綿の隠し売り?の男に過料銭100目品物御取上げ・関係五人組等にも罰)
1850年	5月26日	嘉永3年	4月15日	晴	(用人對馬刑部の御役御免等多数の人事異動)
1850年	5月27日	嘉永3年	4月16日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻過止 (博打の債権取に雇われ男を縊死に至らしめた男3人に3鞭居町(村)徘徊是まで通り・関係五軒組合庄屋にも過料)
1850年	5月28日	嘉永3年	4月17日	晴	申之刻頃地震少し
1850年	5月29日	嘉永3年	4月18日	晴	
1850年	5月30日	嘉永3年	4月19日	曇	寅之刻過より雨時々降 夜二入同断
1850年	5月31日	嘉永3年	4月20日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断
1850年	6月1日	嘉永3年	4月21日	晴	昨夜より之雨今暁子之刻過止 (逃亡の男の人相書き・年齢25歳・背5尺位)
1850年	6月2日	嘉永3年	4月22日	曇	寅之刻頃より雨時々降 午之刻過止
1850年	6月3日	嘉永3年	4月23日	快晴	(多数に人事異動、御用達武田某が病死・長男が既に死亡し孫が成長するまで次男に10人扶持を下し置かれ御用達とする、御賞)
1850年	6月4日	嘉永3年	4月24日	曇	今暁丑之刻過より雨時々降 夜二入同断 (この度御着領御具足出来につき明珍・三浦・正阿彌・増田等に御賞(金300疋～1両))
1850年	6月5日	嘉永3年	4月25日	曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻過止
1850年	6月6日	嘉永3年	4月26日	曇	辰之刻頃より雨降 (人事異動)
1850年	6月7日	嘉永3年	4月27日	晴	(加州木谷某よりの借金・銀138貫607文目余(この金2132両余)・この利息197貫204文目余(この金3033両余)の利息を切り捨て返済する(似た話し有ったな))
1850年	6月8日	嘉永3年	4月28日	晴	戌之刻過より雨降 夜二入同断 (屋形様今日四時過ぎ御発駕)
1850年	6月9日	嘉永3年	4月29日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 戌之刻過止
1850年	6月10日	嘉永3年	5月1日	晴	(出町某を勘定奉行に等の人事異動、御賞)
1850年	6月11日	嘉永3年	5月2日	晴	
1850年	6月12日	嘉永3年	5月3日	晴	
1850年	6月13日	嘉永3年	5月4日	曇	巳之刻過より小雨降 申之刻過止
1850年	6月14日	嘉永3年	5月5日	曇	未之刻頃より雨降 亥之刻頃止
1850年	6月15日	嘉永3年	5月6日	曇	
1850年	6月16日	嘉永3年	5月7日	曇	今暁寅之刻頃より小雨降 卯之刻頃止 9日から続く 四時頃龍濱崎を1艘異国船が鰐通、屋形様が道中で日延べしらしい)
1850年	6月17日	嘉永3年	5月8日	晴	(在方難洪の者に施薬の赤石組大宮村の在医に御賞、嚴重御停止の抜け参りをして何か問題を起こした男あり・大赦との関係で……、江戸山門起立料御返納……分らん)
1850年	6月18日	嘉永3年	5月9日	曇	今暁寅之刻頃より雨降 巳之刻頃止 下から続く 同日夕七時頃小泊村沖合に2艘松前矢越の方に鰐通、去月27日朝六時頃深浦沖に2艘・同日昼 7日に続く
1850年	6月19日	嘉永3年	5月10日	快晴	下から続く 4艘が箱館に向け鰐通、同日夕七半時頃鰐ヶ沢沖合を2艘翌夕七時頃戌亥の方に鰐去、同24日昼四時頃十三浦沖合に2艘戌亥の方に鰐通、 上に続く
1850年	6月20日	嘉永3年	5月11日	快晴	下から続く 三馬屋沖合に3艘同夕七時頃曇月沖合に3艘がいずれも松前矢越の方に鰐通、去る23日昼九時頃深浦沖合に2艘・同日夕八時過三馬屋沖合に 上に続く
1850年	6月21日	嘉永3年	5月12日	快晴	下から続く 龍濱崎沖合に2艘が松前矢越の方え鰐通・同屋九時過三厩沖を2艘が松前エサン崎の方に鰐通、同21日昼九時過龍濱崎沖合に3艘同夕八時過 上に続く
1850年	6月22日	嘉永3年	5月13日	曇	下から続く 龍濱崎沖合に箱館に向け鰐去・同日夕八時頃三厩沖合を箱館に向け鰐去、同七半時過三厩沖に2艘が松前矢越の方え鰐通、20日昼四半時頃 上に続く
1850年	6月23日	嘉永3年	5月14日	曇	辰之刻頃より雨時々降 酉之刻過止 下から続く 払米4000・定例高37250石)と幕府に報告、去る15日昼九時頃と15日昼九時頃小泊村沖合に1艘・この船が 上に続く
1850年	6月24日	嘉永3年	5月15日	曇	今暁子之刻過より小雨時々降 戌之刻過止 (当戌年江戸廻米・米30000石(家中扶持米18000・払米12000・定例高53342石・大坂廻米12000石(家中扶持米8000・ 上に続く
1850年	6月25日	嘉永3年	5月16日	曇	今暁子之刻頃より雨時々降 酉之刻過止 午之刻過より雷鳴 未之刻過止
1850年	6月26日	嘉永3年	5月17日	曇	卯之刻過より小雨降 巳之刻頃止 未之刻頃より雨時々降 夜二入同断
1850年	6月27日	嘉永3年	5月18日	曇	昨夜よりの雨今暁寅之刻頃止
1850年	6月28日	嘉永3年	5月19日	晴	
1850年	6月29日	嘉永3年	5月20日	曇	
1850年	6月30日	嘉永3年	5月21日	曇	寅之刻過より小雨降 巳之刻頃止

(*) 同5日朝六時頃石崎村4・5丁沖合いに潤懸翌朝六半時頃松前エサン(の崎に鰐去、去る8日夕八半時頃小泊村沖合に2艘・同日七時頃龍濱崎沖合に2艘同刻曇月沖合と 下に続く
 藤嶋台場沖合に1艘充鰐通、同9日昼四時頃三厩沖合同刻龍濱崎沖合を箱館に向け2・3艘鰐通、同日同刻松前弁天口より龍濱崎沖合で5艘南部佐井口に向け異国船が鰐通)

1850年	7月1日	嘉永3年	5月22日 曇	卯之刻過より小雨時々降 巳之刻過止
1850年	7月2日	嘉永3年	5月23日 曇	
1850年	7月3日	嘉永3年	5月24日 晴	
1850年	7月4日	嘉永3年	5月25日 曇	(上村だった浪岡村が昨年まで9年間中村に位下げ・期間が切れ上村にしようとしたら人口も減り今後3年間中村にしておいてとの陳情)
1850年	7月5日	嘉永3年	5月26日 快晴	
1850年	7月6日	嘉永3年	5月27日 快晴	
1850年	7月7日	嘉永3年	5月28日 快晴	(青田の内笛吹くなどの触れ)
1850年	7月8日	嘉永3年	5月29日 晴	
1850年	7月9日	嘉永3年	6月1日 晴	(昔八幡館村の男が秋田長面袋村の男を打擲・金30両払うことで内済・その後死亡したためかもめている)
1850年	7月10日	嘉永3年	6月2日 曇	申之刻頃より雨降 亥之刻過止
1850年	7月11日	嘉永3年	6月3日 曇	未之刻過より小雨降 申之刻過止
1850年	7月12日	嘉永3年	6月4日 曇	午之刻過より雨降 夜二入同断 (去る18日老中様方御廻勤の上屋形様御着府、江戸で人事異動) 下から続く 昨年又3朱引下げ1歩2朱・これを1歩に引き下げる)
1850年	7月13日	嘉永3年	6月5日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 巳之刻過止 (丹後者詮索・送り返しの触れ、常例調達臨時調達共去る末年まで(今年は戌年)利息2歩の処同年5朱引下げ1歩2朱 上に続く)
1850年	7月14日	嘉永3年	6月6日 曇	巳之刻過より小雨時々降 申之刻過止
1850年	7月15日	嘉永3年	6月7日 曇	巳之刻過より小雨時々降 未之刻過止
1850年	7月16日	嘉永3年	6月8日 曇	(秋田の男を打擲・死亡させた男は家出行方不明である)
1850年	7月17日	嘉永3年	6月9日 曇	未之刻過より雨時々降 夜二入同断
1850年	7月18日	嘉永3年	6月10日 曇	昨夜より之雨今曉子之刻過止 午之刻過より雨時々降 夜二入同断 (御用達上野某が御免願ひ・了とする)
1850年	7月19日	嘉永3年	6月11日 曇	昨夜より之雨今曉丑之刻過止 巳之刻過より雨時々降 申之刻過 (欠けている様な気がするがこう書いている) (乳井・薬師同僚村の争いで山を取上げられたがまだ揉めている)
1850年	7月20日	嘉永3年	6月12日 曇	今曉丑之刻頃より雷雨 雷寅之刻過止 雨時々降 夜二入同断 (天気不正に付き四社に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)
1850年	7月21日	嘉永3年	6月13日 曇	昨夜より之雨今曉寅之刻過止
1850年	7月22日	嘉永3年	6月14日 曇	午之刻過より雨降 未之刻過止 (秋田の医者をし宿させた男2人と庄屋を戸丩)
1850年	7月23日	嘉永3年	6月15日 曇	今曉丑之刻過より小雨時々降 申之刻過止 (秋田の男を死亡させた男を松前に召捕り人を派遣する、津軽屋三平の高700石17人扶持なんだそうな)
1850年	7月24日	嘉永3年	6月16日 曇	辰之刻過より雨時々降 未之刻頃止
1850年	7月25日	嘉永3年	6月17日 快晴	(秋田の男を死亡させた男の人相書き: 年齢25歳背5尺位等々)
1850年	7月26日	嘉永3年	6月18日 曇	
1850年	7月27日	嘉永3年	6月19日 曇	今曉子之刻過より雨時々降 夜二入同断
1850年	7月28日	嘉永3年	6月20日 快晴	昨夜より之雨今曉寅之刻過止
1850年	7月29日	嘉永3年	6月21日 曇	巳之刻過より雨時々降 未之刻過止
1850年	7月30日	嘉永3年	6月22日 晴	(薪取りで大和澤山に入り込み見咎めた山下の村人に悪口を言うものあり・搦捕るとの触れ)
1850年	7月31日	嘉永3年	6月23日 曇	未之刻過より雨降 則刻止
1850年	8月1日	嘉永3年	6月24日 曇	辰之刻過雨降 則刻止
1850年	8月2日	嘉永3年	6月25日 快晴	(時鐘撞を金1両2歩2人扶持新規御召抱え)
1850年	8月3日	嘉永3年	6月26日 曇	卯之刻過より雨降 夜二入同断
1850年	8月4日	嘉永3年	6月27日 曇	昨夜より之雨今日及 巳之刻過止 (頃日打続天気不正・五山に風雨順時の重き御祈禱を仰せ付ける)
1850年	8月5日	嘉永3年	6月28日 曇	巳之刻過小雨降 則刻止
1850年	8月6日	嘉永3年	6月29日 快晴	7月2日から続く 駒越組川原平村の獵師孫六に下々位の熊皮2枚御酒代6貫文下し置かれる、石渡川出水・馬船小船とも往来成兼ねる)
1850年	8月7日	嘉永3年	6月30日 曇	申之刻頃より小雨降 則刻止 (染物屋共の希望により染物巧者の越後者の長逗留を許す)
1850年	8月8日	嘉永3年	7月1日 晴	(大鰐村加賀助兵左衛門が御初米出穂差上げる・去年は閏4月6日に植付65日目・当年は4月24日植付66日目・当年は1日遅く節に引合1日早い)
1850年	8月9日	嘉永3年	7月2日 曇	昨夜より之雨今日ニ及び申之刻過止 (当春熊刈り取り方出精・赤石組一ツ森村獵師辰蔵と同組杉原村の獵師長治に下々位の熊皮1枚宛御酒代3貫文宛 6月29日に続く)
1850年	8月10日	嘉永3年	7月3日 曇	未之刻過より小雨降 申之刻過止 (藤崎川出水往来差止め・今四時半頃より馬船通路相成る)
1850年	8月11日	嘉永3年	7月4日 曇	辰之刻過より小雨降 則刻止 (下居宮並びに大堂で風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける、他領者の青森蓮心寺を帰国させる)
1850年	8月12日	嘉永3年	7月5日 晴	(去月12日に出水に関して御賞)
1850年	8月13日	嘉永3年	7月6日 曇	申之刻過より小雨降 則刻止 酉之刻頃より雨時々降 夜に入同断
1850年	8月14日	嘉永3年	7月7日 曇	昨夜より之雨今曉寅之刻過止 巳之刻過より雨時々降 申之刻過止 (青森新組足軽がある) 下から続く 6毛余切捨て1升売りは6匁5分1合売りは6分5厘に申付ける)
1850年	8月15日	嘉永3年	7月8日 快晴	(北岡太淳?・和田玄良に一粒金丹3劑調合を仰せ付ける、去月5日より当月4日まで売出菜種附相場平均御定法を以って割合すると水油1升到付6匁5分6毛余 上に続く)
1850年	8月16日	嘉永3年	7月9日 曇	申之刻過小雨降 則刻止
1850年	8月17日	嘉永3年	7月10日 晴	
1850年	8月18日	嘉永3年	7月11日 晴	(去月26日三厩で越中の船が破船・1人海死、本町の亀山屋が湯野沢銀山の穿立てを申し立てている)
1850年	8月19日	嘉永3年	7月12日 曇	(杉の皮剥ぎ等が大赦以前の罪として大鰐組薬師堂村の男多数が放免されている)
1850年	8月20日	嘉永3年	7月13日 曇	午之刻過より雨降 未之刻過止
1850年	8月21日	嘉永3年	7月14日 快晴	
1850年	8月22日	嘉永3年	7月15日 快晴	(2間6寸角1本の御払い代5文目5分(仕上代2文目4分・今別より十三迄船廻賃8分7厘5毛・十三潟添より三世寺迄筏廻賃1文目2分・利益5分2厘5毛)
1850年	8月23日	嘉永3年	7月16日 快晴	
1850年	8月24日	嘉永3年	7月17日 快晴	
1850年	8月25日	嘉永3年	7月18日 快晴	(当3月に火災で伯母を焼死させた男の妻に押込20日・その夫に過料1貫200文)
1850年	8月26日	嘉永3年	7月19日 快晴	
1850年	8月27日	嘉永3年	7月20日 快晴	
1850年	8月28日	嘉永3年	7月21日 快晴	
1850年	8月29日	嘉永3年	7月22日 晴	申之刻過より雨降 夜に入同断 (信州の社司夫婦を泊めた男2人に過料1貫200文)
1850年	8月30日	嘉永3年	7月23日 曇	昨夜より之雨今曉卯之刻過止
1850年	8月31日	嘉永3年	7月24日 曇	今日巳之刻過より小雨時々降 申之刻過止 (秋田の男を死亡させた男を松前で召捕り入牢、盗伐出奔の者の庄屋に過料1貫200文)

1850年	9月1日	嘉永3年	7月25日 晴	
1850年	9月2日	嘉永3年	7月26日 晴	申の刻過より雨降 夜に入同断
1850年	9月3日	嘉永3年	7月27日 曇	昨夜より之雨今日巳之刻頃止
1850年	9月4日	嘉永3年	7月28日 快晴	(福嶋(元津軽)千之助・森岡富太郎をそれぞれ高200石で召出す)
1850年	9月5日	嘉永3年	7月29日 曇	未之刻過より小雨降 酉之刻過止 戌之刻頃より雷雨 雷則刻止
1850年	9月6日	嘉永3年	8月1日 曇	昨夜より之雨今日に及 辰の刻過止 (三千石堰悪水放穿替之儀に付別紙の通り相済む)
1850年	9月7日	嘉永3年	8月2日 曇	卯の刻過より雨降 巳の刻過止 酉の刻過迄雷雨強し
1850年	9月8日	嘉永3年	8月3日 曇	昨夜より之雷雨今暁卯之刻過止 戌之刻過小雨降 則刻止 下から続く 9日3日目(93日目?)の7月28日鎌入れ・日数に引合3日遅く節に引合同じ?)
1850年	9月9日	嘉永3年	8月4日 曇	卯の刻頃小雨降 則刻止 酉の刻過より雨時々降 夜に入同断 (御初米御代官が差出す・去年は閏4月16日植付90日目の7月17日鎌入れ・当年は4月24日植付 上に続く)
1850年	9月10日	嘉永3年	8月5日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 (米津出御印1俵代17文目立の処13文目に白米15文目に変更、江戸で人事異動)
1850年	9月11日	嘉永3年	8月6日 曇	今暁寅の刻過より小雨時々降 今日に及 辰の刻過止
1850年	9月12日	嘉永3年	8月7日 曇	未の刻過ぎより小雨時々降 夜に入同断 申の刻頃より東風強し 夜に入同断
1850年	9月13日	嘉永3年	8月8日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 昨夜より之風今日卯之刻頃止
1850年	9月14日	嘉永3年	8月9日 晴	酉の刻過より小雨降 則刻止
1850年	9月15日	嘉永3年	8月10日 曇	卯の刻頃より雷雨強し 辰の刻頃雷止 午の刻頃雨止 未の刻過小雨降 則刻止
1850年	9月16日	嘉永3年	8月11日 曇	酉の刻過より雨降 夜に入同断 (昨年三蔵詰・武器関係者・松前に男を召捕りに派遣の御家中に御賞)
1850年	9月17日	嘉永3年	8月12日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻過止
1850年	9月18日	嘉永3年	8月13日 晴	
1850年	9月19日	嘉永3年	8月14日 晴	
1850年	9月20日	嘉永3年	8月15日 晴	
1850年	9月21日	嘉永3年	8月16日 晴	酉の刻過より雨降 夜に入同断
1850年	9月22日	嘉永3年	8月17日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止
1850年	9月23日	嘉永3年	8月18日 晴	(何故か3人も死亡している・流行病?)
1850年	9月24日	嘉永3年	8月19日 曇	酉の小刻過より雨降 夜二入同断
1850年	9月25日	嘉永3年	8月20日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜に入同断 (尾太山がそれなりに動いているらしい)
1850年	9月26日	嘉永3年	8月21日 晴	昨夜より之雨今暁子の刻頃止 (米津出御印代1俵13文目の処18文目・白米20文目に申付ける)
1850年	9月27日	嘉永3年	8月22日 晴	下から続く 当3月作事方に細工に行き木挽き共の鋸4挺を盗んだ男に3鞭弘前御構い)
1850年	9月28日	嘉永3年	8月23日 晴	(今日大矢場で射術御名代見分、大赦以前の盗袖悪金受取の男2人の木品御取上げの上10里四方追放大場御構い・関係する脇道番人等に役下げ等の罰、 上に続く)
1850年	9月29日	嘉永3年	8月24日 曇	午之刻過より小雨時々降 夜二入同断
1850年	9月30日	嘉永3年	8月25日 曇	昨夜よりの雨今日及 午の刻過止
1850年	10月1日	嘉永3年	8月26日 快晴	29日から続く 龍濱崎沖合に異国船1艘松前小嶋口より矢越の方に飄通)
1850年	10月2日	嘉永3年	8月27日 曇	今暁子の刻過より雨降 夜に入同断 下から続く 12月まで下し置かれる、赤田組等5ヶ組の見地の立会いに横岡勝太郎がある)
1850年	10月3日	嘉永3年	8月28日 曇	昨夜より之雨今日及 酉の刻頃止 辰之刻過雷鳴 即刻止 (天保7年に三つ子が生まれ15歳まで扶持を下し置かれていた・去る巳年9月松吉1人になり今年15歳・ 上に続く)
1850年	10月4日	嘉永3年	8月29日 快晴	(去る秋より御蔵米の吟味が不適切な石渡御蔵立会・御蔵奉行に憤・儀を作る担当も取放、大坂御館入山中某が死亡・高550石10人扶持、去月4日夕七時頃 26日に続く)
1850年	10月5日	嘉永3年	8月30日 快晴	
1850年	10月6日	嘉永3年	9月1日 晴	(人事異動、水練教授の御徒に御賞)
1850年	10月7日	嘉永3年	9月2日 晴	(去月26日の大雨で鯉ヶ沢町の酒蔵が痛損、海岸所々別段締り役交代15ヶ所37人、二ノ御廓坤(未申)之方御櫓台石1ヶ所孕候に付築直シを幕府に申し出7月25日認められる)
1850年	10月8日	嘉永3年	9月3日 曇	卯之刻過より雨降 夜二入同断 (米津出御印1俵18文目立の処30目・白米20目立の処33文目に値段上げ申しつける)
1850年	10月9日	嘉永3年	9月4日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止
1850年	10月10日	嘉永3年	9月5日 曇	(小野派一刀流・神道無念流の剣術使いが来ている、今日外場で御立馬を御家老中が見分)
1850年	10月11日	嘉永3年	9月6日 晴	下から続く 申付ける・御家中渡しお買い上げは4分増で36文目4分に申付ける)
1850年	10月12日	嘉永3年	9月7日 曇	今暁子の刻過より雨時々降 辰の刻過止 下から続く 藻川鶴ヶ丘は当春より数度の水湛・御検地御検見願い、町方米値段引上げ・31文目立の処を36文目に 上に続く)
1850年	10月13日	嘉永3年	9月8日 曇	(去る3日の出水で和徳組堅田大久保和徳清野袋向外瀬・藤代組中崎三世寺小山・赤石支配浮田北浮田南浮田山崎湯船の村方で稲草少なからず流失、広田組 上に続く)
1850年	10月14日	嘉永3年	9月9日 晴	
1850年	10月15日	嘉永3年	9月10日 曇	辰の刻過より雨降 夜二入同断
1850年	10月16日	嘉永3年	9月11日 曇	昨夜よりの雨今日及 巳の刻過止
1850年	10月17日	嘉永3年	9月12日 晴	(今日外馬場で馬術見分、座当盲女の人別調べが難渋しているらしい)
1850年	10月18日	嘉永3年	9月13日 曇	(今日大矢場で射術見分、幕府から熊胆の無心あり・これまでは文化12年10月の3具・天保2年7月に3具・天保九年7月に2具を献上している)
1850年	10月19日	嘉永3年	9月14日 快晴	
1850年	10月20日	嘉永3年	9月15日 晴	(御献上熊胆見分、当6月12日の出水で目屋野沢当流木61巻(薪材の量を表す単位で長さ4尺の木を高さ1丈(10尺)幅2丈に積み重ねたものか)7厘2毛流失)
1850年	10月21日	嘉永3年	9月16日 曇	(預けられていた中村良吉の妻が病死)
1850年	10月22日	嘉永3年	9月17日 快晴	(今日外馬場で馬術見分、御献上熊胆を江戸に登す)
1850年	10月23日	嘉永3年	9月18日 曇	巳の刻過より小雨降 午の刻過止 (山上才助等10人を各組大廻・山上鉄太郎等31人を御検見人とする)
1850年	10月24日	嘉永3年	9月19日 快晴	下から続く 勘弁してもらいその払い方の計画が書いてある、町方米値段追々引上り36文目立の処39文目立に御家中渡御買上は4分増の39文目4分に申付ける)
1850年	10月25日	嘉永3年	9月20日 曇	今暁寅の刻頃より雨降 夜に入同断 (乞食共の馬上軽業興行を許す・見物料1人に付3分宛、元利1356両余の大坂大和屋からの借金を元金634両3歩余のみで 上に続く)
1850年	10月26日	嘉永3年	9月21日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 酉の刻過止 (粒油700呎を津出)
1850年	10月27日	嘉永3年	9月22日 快晴	(今日外馬場で馬術見分、当夏度々出水・流木払底)
1850年	10月28日	嘉永3年	9月23日 快晴	
1850年	10月29日	嘉永3年	9月24日 快晴	
1850年	10月30日	嘉永3年	9月25日 曇	
1850年	10月31日	嘉永3年	9月26日 快晴	(出奔した不屈者を止宿させた瀬辺地村の男に9鞭居村徘徊はまで通り・預けられた男に出奔された庄屋等に過料)

1850年	11月1日	嘉永3年	9月27日 快晴 (御備籾積込場所が無く3ヶ所新規御取立て、去月26・7日の大雨で酒蔵が潰れた鰺ヶ沢町の酒屋の醸造150石を100石に減らす、各村の流木伐取過木が	10月1日に続く
1850年	11月2日	嘉永3年	9月28日 晴 申の刻過より雨降 酉の刻過止 (酒値段1升到付2文目1分・1合売りは2分1文に申付ける)	
1850年	11月3日	嘉永3年	9月29日 曇 未の刻過より小雨降 酉の刻頃止 (御印1俵:玄米30目・白米33文目・玄餅米36文目・白餅米40目・大豆は追って、当正月21日屋袖乞女を脇差で威した男に9鞭弘前払い)	
1850年	11月4日	嘉永3年	10月1日 晴 9月27日から続く 早瀬野村3巻・宿川原村3巻9歩2厘5毛・嶋田村5巻9歩1厘5毛・虹貝村5巻2歩8厘・八幡館村29巻5歩9厘8毛あり・過伐の分御取り上げの上過料14貫目位)	
1850年	11月5日	嘉永3年	10月2日 曇 未の刻過より雨降 戌の刻過止	
1850年	11月6日	嘉永3年	10月3日 曇 未の刻過より雨降 則刻止 下から続く 2文目5分を4文目・白酒3文目5分を8文目・酢1文目を1文目5分・小豆は当分津出御差留め)	
1850年	11月7日	嘉永3年	10月4日 晴 下から続く 流失、当10月より来年9月中の御印代御役:酒2斗入り1樽3文目を8文目・糶1俵5文目を8文目・味噌(以下2斗入り1樽)3文目5分を5文目5分・醤油	上に続く
1850年	11月8日	嘉永3年	10月5日 曇 今晚丑の刻過より雨降 申の刻過止 寅の刻過より雷鳴 卯の刻過止 (当年度々の出水・去月3日出水で和徳堀越藤代高杉赤石の5ヶ組で17町6反歩余の刈稻が	上に続く
1850年	11月9日	嘉永3年	10月6日 晴	
1850年	11月10日	嘉永3年	10月7日 曇 巳の刻頃より小雨時々降 申の刻過止 (金(1両)値段が108文目であったが町々では100目内との風説あり)	
1850年	11月11日	嘉永3年	10月8日 曇 巳の刻過より雨時々降 申の刻過止	
1850年	11月12日	嘉永3年	10月9日 曇	
1850年	11月13日	嘉永3年	10月10日 曇 巳の刻過より小雨降 即刻止 (去月17日江戸発の病氣に付添下がりの諸手足軽石郷岡某が瀬上宿で24日に付添下がり持ち金を盗み出奔)	
1850年	11月14日	嘉永3年	10月11日 晴 申の刻過より雨降 夜に入同断	
1850年	11月15日	嘉永3年	10月12日 晴 昨夜より之雨今晚寅之刻過止 戌之刻過より西南之風強し	
1850年	11月16日	嘉永3年	10月13日 曇 昨夜雪降 二寸程積 昨夜より之風申の刻過止	
1850年	11月17日	嘉永3年	10月14日 曇 昨夜雪降 四寸程積 (御鯉鈍仕立入用小麦当新穀出時1俵45文目で売買・追々値段引立この節は1俵58文目5分、御鯉鈍目方100目に付き代銭2文目5分の2割増に申付ける)	
1850年	11月18日	嘉永3年	10月15日 曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1850年	11月19日	嘉永3年	10月16日 曇	
1850年	11月20日	嘉永3年	10月17日 晴	
1850年	11月21日	嘉永3年	10月18日 晴	
1850年	11月22日	嘉永3年	10月19日 晴	
1850年	11月23日	嘉永3年	10月20日 晴 (当新米値段出米不足御蔵値段39文目立を42文目立にする・御家中渡し御買上代は4分増の42匁4分に申付ける、来る25日登せ金4000両)	
1850年	11月24日	嘉永3年	10月21日 曇 今晚子の刻過より雨時々降 卯の刻過止 午の刻頃より雨降 酉の刻過止 (去る18日晚七つ時頃大鰯組蔵館村で出火・類焼共24軒焼失・建馬1疋等焼失・火元他村預け)	
1850年	11月25日	嘉永3年	10月22日 曇 昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (当月6日より同20日迄日々新穀附相場平均値段:米1俵代44文目)	
1850年	11月26日	嘉永3年	10月23日 曇 昨夜雪降 八寸程積 今日雪少し降	
1850年	11月27日	嘉永3年	10月24日 曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1850年	11月28日	嘉永3年	10月25日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1850年	11月29日	嘉永3年	10月26日 晴	
1850年	11月30日	嘉永3年	10月27日 晴 下から続く 餅白米40目を51文目・大豆御印代は追ってと申付ける)	
1850年	12月1日	嘉永3年	10月28日 晴 (当大坂御廻船の不正手段を申し出た上乗下乗をそれぞれ役上げ、当新米津出御印値段(1俵):米30目を45文目・白米33文目を47文目・餅米36文目を49文目・	上に続く
1850年	12月2日	嘉永3年	10月29日 晴 下から続く 内1文目2分が御定役(弘前御蔵米1俵95文目8分7厘9毛・青森110文目7分8厘9毛・鰺ヶ沢81文目7分4厘9毛))	
1850年	12月3日	嘉永3年	10月30日 曇 申の刻過より雨降 夜に入同断 (去月3日夜の出水で金木御別領山の筏登りの出材1263本中620本が流散内391本流失、米一番相場平均1俵96匁1分3厘9毛	上に続く
1850年	12月4日	嘉永3年	11月1日 曇 昨夜よりの雨今日に及 申の刻過止 (去月25日より当月25日まで30日間の荏種値段で割合すれば水油1升が6匁9分余に相当・1升売は6文目9分1合売は7分に申付ける)	
1850年	12月5日	嘉永3年	11月2日 晴 (胡乱の夫婦を永々と止宿させ女房が変死した浅虫村の宿・庄屋に過料、西国並びに中国北国とも洪水並びに風蝗之損毛ある由の風説、当年の御備籾は上納御免?)	
1850年	12月6日	嘉永3年	11月3日 晴	
1850年	12月7日	嘉永3年	11月4日 晴	
1850年	12月8日	嘉永3年	11月5日 曇 未の刻過より小雨時々降 酉の刻過止 (「戸山坊主」という米を……)	
1850年	12月9日	嘉永3年	11月6日 曇	
1850年	12月10日	嘉永3年	11月7日 曇 辰の刻過より小雨時々降 未の刻過止 (御賞(10月28日記述の上乗下乗)、去月18日晚の蔵館の火災の焼失1軒に米1俵・潰れ家3軒に2斗宛の御手当てを下し置かれる)	
1850年	12月11日	嘉永3年	11月8日 晴 (先年より矢竹林を仕立て上納の深浦町同心に酒代を下し置かれ植増を申付ける、ホウロク(焙烙火矢?)筒鑄立相済み……)	
1850年	12月12日	嘉永3年	11月9日 晴 亥の刻頃より雨降 夜二入同断	
1850年	12月13日	嘉永3年	11月10日 曇 昨夜よりの雨降 今日及 時々降 酉の刻頃止	
1850年	12月14日	嘉永3年	11月11日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (殊に南部松前表で米払底の由・隠津出取締りの目付を派遣する、この度3貫目虎ノ子筒等を作るよう申し付ける、この節の米の相場は42文目)	
1850年	12月15日	嘉永3年	11月12日 曇 昨夜雪少し降 (去る2日夜普請方席で金子紛失)	
1850年	12月16日	嘉永3年	11月13日 曇 昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積	
1850年	12月17日	嘉永3年	11月14日 晴 昨夜雪降 一寸程積 (去月13日江戸船17人乗りが深浦前浜で破船、御蔵米値段1俵42文目を48文目にし御家中御買上げは48文目4分に申付ける、江戸で人事異動)	
1850年	12月18日	嘉永3年	11月15日 曇 昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (片谷清治郎が質座再興御金拝借願ひ・これまででも何度か出しているが不調)	
1850年	12月19日	嘉永3年	11月16日 晴 昨夜雪降 三寸程積 18日から続く 作事普請方の作事小使加勢が捕まる、昨17日暮六時高伯寺大日尊が御出汗・先例の通り御祈祷、田中勝衛を一間所に入れる)	
1850年	12月20日	嘉永3年	11月17日 曇 昨夜雪降 一寸程積 (この節在方より売出米不足・町方の小売米差支える、田中某藤沢屋某諸手足軽中田某に詮議の筋ありとして他出差し止め等)	
1850年	12月21日	嘉永3年	11月18日 晴 昨夜雪少し降 (昨年の鮮場行き的人数が約1400人余・3分の1に申付け・糶米は是まで1人に付3俵2斗を3俵とし1俵は無役2俵は御印代上納とする、2日(記述は12日)の	16日に続く
1850年	12月22日	嘉永3年	11月19日 晴 下から続く 預った諸入用1ヶ月分の渡し方(米大の月で1斗5升など)がある)	
1850年	12月23日	嘉永3年	11月20日 晴 (この節小麦1俵55文目) 下から続く 引合8日遅い、この度値下げ:金1両に付100目・金1歩に付25文目・金2朱に付12文目5分に申し触れる、田中勝衛を	上に続く
1850年	12月24日	嘉永3年	11月21日 曇 今日雪降 五寸程積 (去る16日夕より翌17日朝迄十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月27日夜より翌28日朝迄・当年は12日早く節に	上に続く
1850年	12月25日	嘉永3年	11月22日 曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1850年	12月26日	嘉永3年	11月23日 晴	
1850年	12月27日	嘉永3年	11月24日 晴 (……西御門内糞垣式間半位武者屯御門番所向坂上柵御門取払い仮賣戸にて……御本城御金蔵脇邊堀小柵御門並びに……)	
1850年	12月28日	嘉永3年	11月25日 曇 昨夜雪降 一寸程積	
1850年	12月29日	嘉永3年	11月26日 晴 昨夜雪少し降 28日から続く 野沢出流木先年1巻に付23文目値段下・天保12年1巻に付き13文目宛値段増仰せ付けられ・分らん今いくら?)	
1850年	12月30日	嘉永3年	11月27日 曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (断りなく封印を切って糶を取り替えた相内村の庄屋の庄屋役取り放し過料20俵(大抵は金なのに珍しい))	
1850年	12月31日	嘉永3年	11月28日 曇 今日雪少し降 (歩引き御返しの望みは叶えられず100石に付15目位の御手当てとする、検伐返秋田山子のせいにした大鰯村の男2人に過料1貫500文、目屋	26日に続く

1851年	1月1日	嘉永3年	11月29日	晴	申の刻過より小雨時々降 亥の刻頃止 (松の盗伐と隠鉄吹ききの男に6鞭居村徘徊はまで通り・関係する庄屋五人組等に過料等の罰)
1851年	1月2日	嘉永3年	12月1日	晴	(人事異動、丹後者で腕の良い蒔絵塗り職人・蒔絵技術の伝授が済み次第帰国を申付ける、座当頭から御手当願・座当共43人に鳥目1貫文宛(716文目6分6厘)下し置かれる)
1851年	1月3日	嘉永3年	12月2日	晴	昨夜雪少し降
1851年	1月4日	嘉永3年	12月3日	曇	今日雪降 六寸程積
1851年	1月5日	嘉永3年	12月4日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 四寸程積 (御定法で割合の酒1升到付2文目3分3毛に相当・酒1升到付2文目4分5厘1合売りは2分5厘に申付ける)
1851年	1月6日	嘉永3年	12月5日	晴	(御印付御払い米の値段1俵95文目2分)
1851年	1月7日	嘉永3年	12月6日	晴	昨夜雪少し降 (去年6月17日に築館章吉を切害しその弟と自分の妻に深手を負わせた金木村の男に町中引廻の上刎首獄門)
1851年	1月8日	嘉永3年	12月7日	晴	(人事異動、去月27日朝迄十三湯前後共氷閉に相成る)
1851年	1月9日	嘉永3年	12月8日	晴	(江戸で人事異動)
1851年	1月10日	嘉永3年	12月9日	晴	
1851年	1月11日	嘉永3年	12月10日	晴	(人事異動)
1851年	1月12日	嘉永3年	12月11日	曇	今晩午の刻頃より小雨降 申の刻過止(読み方に間違いはないと思うが矛盾あり)
1851年	1月13日	嘉永3年	12月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積
1851年	1月14日	嘉永3年	12月13日	晴	
1851年	1月15日	嘉永3年	12月14日	晴	昨夜雪少し降
1851年	1月16日	嘉永3年	12月15日	晴	
1851年	1月17日	嘉永3年	12月16日	晴	
1851年	1月18日	嘉永3年	12月17日	晴	昨夜雪少し降 (御賞(銀3両・金200疋・同150疋・同100疋))
1851年	1月19日	嘉永3年	12月18日	晴	
1851年	1月20日	嘉永3年	12月19日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1851年	1月21日	嘉永3年	12月20日	晴	昨夜雪少し降 (この度(去月29日阿部伊勢守江駕籠訴した)田中勝衛の家来と斎藤某の弟を手錠足枷で御国下がりやを仰せ付ける・道中の心得書きあり)
1851年	1月22日	嘉永3年	12月21日	晴	
1851年	1月23日	嘉永3年	12月22日	晴	(津軽出雲守の在所表菩提所並びに代々廟所なし・報恩寺?)
1851年	1月24日	嘉永3年	12月23日	晴	申の刻過より小雨時々降 夜に入同断 (不明日に茂森町で家人を打擲死亡させ病死として内済にした男を21鞭3里四方追放・関係者にも過料等の罰)
1851年	1月25日	嘉永3年	12月24日	曇	昨夜より之雨今日寅之刻頃止 (江戸で人事異動)
1851年	1月26日	嘉永3年	12月25日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (江戸で人事異動)
1851年	1月27日	嘉永3年	12月26日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (去る9日屋形様が上使を以って御鷹の雁を拝領あそばされる)
1851年	1月28日	嘉永3年	12月27日	晴	下から続く 1合売りは2分4文に申し付ける)
1851年	1月29日	嘉永3年	12月28日	晴	(神熊吉を長柄奉行格に等の人事異動、御賞、当年一体の出石相減り米価格別高値にて売出米不足……この度は臨時御沙汰で売出米値段に拘らず酒1升2文目6分 上に続く
1851年	1月30日	嘉永3年	12月29日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る16日屋形様が侍従に仰せ付けられる、御賞・御酒代等)
1851年	1月31日	嘉永3年	12月30日	曇	
1851年	2月1日	嘉永4年	正月1日	曇	
1851年	2月2日	嘉永4年	正月2日	曇	今日雪少し降
1851年	2月3日	嘉永4年	正月3日	晴	昨夜雪降 一寸程積
1851年	2月4日	嘉永4年	正月4日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1851年	2月5日	嘉永4年	正月5日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1851年	2月6日	嘉永4年	正月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程降(積の誤りでしょうな)
1851年	2月7日	嘉永4年	正月7日	晴	昨夜雪少し降 (七種の御祝儀のため御由緒の面々登城)
1851年	2月8日	嘉永4年	正月8日	晴	昨夜雪少し降 亥の刻頃より雪吹強し
1851年	2月9日	嘉永4年	正月9日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今暁子の刻過東南風強し 今日雪少し降
1851年	2月10日	嘉永4年	正月10日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1851年	2月11日	嘉永4年	正月11日	曇	昨夜雪少し降 午の刻過地震強し
1851年	2月12日	嘉永4年	正月12日	曇	今暁卯の刻頃地震少し 今日雪少し降
1851年	2月13日	嘉永4年	正月13日	晴	昨夜雪少し降
1851年	2月14日	嘉永4年	正月14日	晴	
1851年	2月15日	嘉永4年	正月15日	晴	(人事異動、去る2日夕金木組小泊村で出火・類焼共6軒焼失潰家3軒土蔵1ヶ所牝牛1疋焼失・火元他村預け)
1851年	2月16日	嘉永4年	正月16日	曇	今日雪少し降
1851年	2月17日	嘉永4年	正月17日	晴	
1851年	2月18日	嘉永4年	正月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 八寸程積
1851年	2月19日	嘉永4年	正月19日	曇	今日雪少し降
1851年	2月20日	嘉永4年	正月20日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積
1851年	2月21日	嘉永4年	正月21日	曇	今日雪少し降
1851年	2月22日	嘉永4年	正月22日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 四寸程積 (江戸で人事異動)
1851年	2月23日	嘉永4年	正月23日	晴	昨夜雪降 二寸程積
1851年	2月24日	嘉永4年	正月24日	晴	昨夜雪降 四寸程積
1851年	2月25日	嘉永4年	正月25日	晴	(江戸で人事異動)
1851年	2月26日	嘉永4年	正月26日	晴	
1851年	2月27日	嘉永4年	正月27日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜に入同断
1851年	2月28日	嘉永4年	正月28日	曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻過止 今日雪少し降 (人事異動)

1851年	3月1日	嘉永4年	正月29日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1851年	3月2日	嘉永4年	正月30日	晴	昨夜雪降 一寸程積
1851年	3月3日	嘉永4年	2月1日	曇	(人事異動、去月2日小泊村の火災に御救い米(焼失の6軒に1俵ツツ潰れ家3軒に2斗積))
1851年	3月4日	嘉永4年	2月2日	晴	昨夜雪少し降 (格段の御沙汰を以って下社家14人に御手当て鳥目1貫文ツツ下し置かれる)
1851年	3月5日	嘉永4年	2月3日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 今暁子の刻頃より西南の風強し 丑の刻過止
1851年	3月6日	嘉永4年	2月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積
1851年	3月7日	嘉永4年	2月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (飛脚の延着がないようにとの触れが出ている・重い荷物は預ける無茶な日程を申し付けるで……)
1851年	3月8日	嘉永4年	2月6日	晴	
1851年	3月9日	嘉永4年	2月7日	曇	今日雪降 五寸程積 (近來銭払底にて……、座当頭申し出で御昇進・御鷹の雁拝領で座当盲女368人にそれぞれ15文宛下し置かれる)
1851年	3月10日	嘉永4年	2月8日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降
1851年	3月11日	嘉永4年	2月9日	曇	今日雪少し降
1851年	3月12日	嘉永4年	2月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積
1851年	3月13日	嘉永4年	2月11日	晴	(流木を隠し上げ隠し置いた男3人に過料1貫200文宛・申し出なかった村人にも過料1貫200文)
1851年	3月14日	嘉永4年	2月12日	晴	
1851年	3月15日	嘉永4年	2月13日	曇	今日雪少し降 (杣子共と相談の上盗杣の男2人に大赦以前として10里四方追放大場御構い・代庄屋・手代(これは御家中)は取り放しの上7里四方追放・関係者も3里四方追放)
1851年	3月16日	嘉永4年	2月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1851年	3月17日	嘉永4年	2月15日	晴	(7日に記述した飛脚の例・朔日に江戸を立った9日振りの飛脚が(9日に着くべきものを)今日未の刻到着、神田仲町に鑄立を依頼していた玉目150目ドライブス筒2挺の完成を幕府に報告)
1851年	3月18日	嘉永4年	2月16日	晴	
1851年	3月19日	嘉永4年	2月17日	晴	今日雪少し降 (この度小泊並びに蓑月台場にこれまでの300目筒(24日記述)を350目玉筒に引替)
1851年	3月20日	嘉永4年	2月18日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻過止 未の刻過雷鳴 即刻止 今日雪少し降 (岡勘解由を十三町奉行に等の人事異動)
1851年	3月21日	嘉永4年	2月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積
1851年	3月22日	嘉永4年	2月20日	曇	昨夜雪降 二寸程積
1851年	3月23日	嘉永4年	2月21日	快晴	(昨20日夜高杉組賀田村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)
1851年	3月24日	嘉永4年	2月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積 (格別の沙汰で酒1升到付き2文目7分5厘1合売りは2分5文に申し付ける)
1851年	3月25日	嘉永4年	2月23日	晴	(この度金1両に付104文目・1歩は26文目・仁朱は13文目定価に仰せ付ける)
1851年	3月26日	嘉永4年	2月24日	晴	(唐銅の350目筒3挺・500目筒の配置(小泊蓑月台場と非常御備え・蟹田鰯ヶ沢台場と非常御備え)を決める)
1851年	3月27日	嘉永4年	2月25日	曇	辰の刻過より雨降 午の刻頃止
1851年	3月28日	嘉永4年	2月26日	曇	午の刻過より雨降 申の刻頃止 午の刻過東南の風強し 申の刻頃止
1851年	3月29日	嘉永4年	2月27日	晴	
1851年	3月30日	嘉永4年	2月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (一昨年4月の岩木嵩硫黄平出火対応に御賞等)
1851年	3月31日	嘉永4年	2月29日	曇	
1851年	4月1日	嘉永4年	2月30日	曇	
1851年	4月2日	嘉永4年	3月1日	晴	今暁子の刻頃より西風強し 卯の刻頃止
1851年	4月3日	嘉永4年	3月2日	晴	
1851年	4月4日	嘉永4年	3月3日	曇	卯の刻過より雨降 巳の刻過止
1851年	4月5日	嘉永4年	3月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (今日御流儀剣術御名代見分)
1851年	4月6日	嘉永4年	3月5日	曇	今日雪少し降
1851年	4月7日	嘉永4年	3月6日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 申の刻頃止 (杣子共と相談の上盗杣の男に大赦以前として10里四方追放大場御構い)
1851年	4月8日	嘉永4年	3月7日	晴	(今日剣術御名代見分、人事異動、今晦日まで十三湯前後とも氷明ける、江戸で人事異動、江戸で門限破り多発)
1851年	4月9日	嘉永4年	3月8日	晴	今暁卯の刻頃より雨降 辰の刻頃止
1851年	4月10日	嘉永4年	3月9日	快晴	
1851年	4月11日	嘉永4年	3月10日	曇	今暁丑の刻過より雨降 巳の刻頃止 (今日剣術御名代見分)
1851年	4月12日	嘉永4年	3月11日	快晴	(横岡勝太郎を御徒目付本役に等の人事異動)
1851年	4月13日	嘉永4年	3月12日	晴	(昨年11月に作事方より金子盗み取った作事小使い加勢を入牢)
1851年	4月14日	嘉永4年	3月13日	晴	
1851年	4月15日	嘉永4年	3月14日	曇	酉の刻過より小雨時々降 (今日剣術御名代見分)
1851年	4月16日	嘉永4年	3月15日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (上納炭を早く(夏中に大半)するよう申し付ける)
1851年	4月17日	嘉永4年	3月16日	晴	
1851年	4月18日	嘉永4年	3月17日	晴	(流木高値に付湯屋共難渋・2月中1人7文を当9月中までと申し付ける)
1851年	4月19日	嘉永4年	3月18日	晴	(今日剣術御名代見分)
1851年	4月20日	嘉永4年	3月19日	晴	今暁丑の刻頃小雨降 寅の刻頃止
1851年	4月21日	嘉永4年	3月20日	快晴	下から続く 津軽出雲守が上下117人で碇ヶ関に着いている)
1851年	4月22日	嘉永4年	3月21日	卯の刻過より雨降	午の刻過止 卯の刻頃地震少し 巳の刻過地震少し(晴とか曇などの記述なし)(砲の鑄立担当が増えている、松前伊豆守が同勢160人で青森に
1851年	4月23日	嘉永4年	3月22日	曇	(江戸人を止宿させ軍談座敷興行をさせた鰯ヶ沢町の男2人・木造村の男2人その他に戸ノ等の罰)
1851年	4月24日	嘉永4年	3月23日	晴	
1851年	4月25日	嘉永4年	3月24日	晴	(諸白醬油1升を2文目並醬油1升を1文目7分に申し付ける、鰯隠揚の男共から売払い代金御取上げ過料銭1貫200文など)
1851年	4月26日	嘉永4年	3月25日	晴	
1851年	4月27日	嘉永4年	3月26日	曇	卯の刻過より雨降 未の刻過止
1851年	4月28日	嘉永4年	3月27日	晴	(今日剣術御名代見分、人事異動、屋形様来月3日御発駕と仰せ出される)
1851年	4月29日	嘉永4年	3月28日	曇	巳の刻過より雨降 午の刻過止 (大玉津出御印はまで15文目の処13文目にする)
1851年	4月30日	嘉永4年	3月29日	晴	

1851年	5月1日	嘉永4年	4月1日 晴	(人事異動、三世寺土場より鍛冶町土場への通賃銭ヒ(同の意味か)2尺5寸杵1000枚に付1分増都合7分・ヒ6尺木舞100本に付1分5厘増都合7分5厘・芦1ヰに付1分増	3日に続く
1851年	5月2日	嘉永4年	4月2日 曇	巳の刻頃より雨降 申の刻頃止 (今日剣術和術御名代見分、500目玉筒2挺(筒尺4尺5寸目形102貫340目・退矯形筒尺5尺目形91貫340目)出来)	
1851年	5月3日	嘉永4年	4月3日 曇	卯の刻過より雨少々風強し 申の刻過止 1日から続く 都合7分に改める、去る23日夜猿賀組追子野木村で出火・建家潰家共15軒小屋外馬屋12軒等が焼失・火元他村預け)	
1851年	5月4日	嘉永4年	4月4日 晴	(郡奉行成田某を長柄奉行格に等の人事異動、公儀御尋者の人相書きあり)	
1851年	5月5日	嘉永4年	4月5日 曇		
1851年	5月6日	嘉永4年	4月6日 曇	今暁卯の刻過より雨降 巳の刻過止	
1851年	5月7日	嘉永4年	4月7日 晴	戌の刻過より雨時々降 (当月?16日に道中8日振りの御国元江の御飛脚が(大組足軽)3日延着・8貫900目もの御状箱預け軽尻馬1疋下し置かれ候に付叱り置かず)	
1851年	5月8日	嘉永4年	4月8日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 亥の刻過止 (今日櫓術長刀御名代見分)	
1851年	5月9日	嘉永4年	4月9日 曇	辰の刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1851年	5月10日	嘉永4年	4月10日 曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 今暁卯の刻頃地震少し	
1851年	5月11日	嘉永4年	4月11日 晴		
1851年	5月12日	嘉永4年	4月12日 曇	(御郭廻所々に落書き・止めろとの触れ)	
1851年	5月13日	嘉永4年	4月13日 晴		
1851年	5月14日	嘉永4年	4月14日 晴	(去月23日猿賀組追子野木村の火災の焼失家に1俵潰家に2斗積りを以って御手当てを下し置かれる)	
1851年	5月15日	嘉永4年	4月15日 曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断 (3日屋形様御発、江戸で藤岡某を御長柄奉行格に等の人事異動)	
1851年	5月16日	嘉永4年	4月16日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 戌の刻過止 (昨年12月に江戸で喧嘩の御召馬口取の御給分召上げ永の暇・関係者は押込)	
1851年	5月17日	嘉永4年	4月17日 曇	(去月8日夕八時頃龍濱崎に松前小嶋方面に向かう異国船1艘)	
1851年	5月18日	嘉永4年	4月18日 晴		
1851年	5月19日	嘉永4年	4月19日 快晴	(当江戸御廻船で上乘と下乗の意見が合わない・詮議をすることとする)	
1851年	5月20日	嘉永4年	4月20日 快晴		
1851年	5月21日	嘉永4年	4月21日 快晴	亥の刻頃より小雨降 (昨15日昼九時半頃小泊湊支配脇元村の漁師小屋より出火・漁師小屋3軒焼失)	
1851年	5月22日	嘉永4年	4月22日 曇	昨夜よりの小雨今暁寅の刻過止 今暁子の刻頃より西南風強し 卯の刻頃止 (岩木川出水・駒越渡場往来差止め・今七時頃馬船共通路相成る)	
1851年	5月23日	嘉永4年	4月23日 晴		
1851年	5月24日	嘉永4年	4月24日 快晴	(旧冬町々困窮の者共え補助米差出した奇特な御用達に御酒等を下し置かれる)	
1851年	5月25日	嘉永4年	4月25日 晴		
1851年	5月26日	嘉永4年	4月26日 晴		
1851年	5月27日	嘉永4年	4月27日 曇	未の刻過より小雨降 戌の刻過止 (桧伐り荒しがあつた村の担当者に過料4貫800文・庄屋五人組惣百姓共にも過料)	
1851年	5月28日	嘉永4年	4月28日 晴		
1851年	5月29日	嘉永4年	4月29日 快晴	酉の刻過より雨降 戌の刻過止 酉の刻過雷鳴 即刻止 (昼四時過ぎ御本城石垣の草取りの鶯の者が石垣より転げ落ち死亡)	
1851年	5月30日	嘉永4年	4月30日 快晴	(荏種2斗入り500呎を御役銭2貫500目を御金蔵に上納の上津出を申し付ける) 下から続く 中沢続濱町分余位焼失)	
1851年	5月31日	嘉永4年	5月1日 快晴	(今日御着城、人事異動、赤石組裡里村の畑から形替銭穿出し差上げる、昨29日夜五時頃深浦町中沢山街道萱乳穂より出火・大風で湊手附番所並びに	上に続く
1851年	6月1日	嘉永4年	5月2日 晴	巳之刻過地震強し 則刻止 酉之刻過より雨降 戌之刻頃止 (平館台場え御備え仰せ付けられた川口宿で鑄立のカルロンナーテ玉目7貫500目筒1挺を御廻船で御下げ)	
1851年	6月2日	嘉永4年	5月3日 晴	今暁寅之刻過雨降 卯之刻過止 (何かの逃亡者を渡したのか今別町の男に船御取り上げの上12鞭居町徘徊はまで通り)	
1851年	6月3日	嘉永4年	5月4日 快晴		
1851年	6月4日	嘉永4年	5月5日 快晴	(松森町松木屋を御用達に追加する)	
1851年	6月5日	嘉永4年	5月6日 快晴		
1851年	6月6日	嘉永4年	5月7日 快晴	(深浦町の火災(5月1日記述)の取潰類焼は44軒)	
1851年	6月7日	嘉永4年	5月8日 晴	(今日宇和野で両組頭御備立内習高覧)	
1851年	6月8日	嘉永4年	5月9日 晴		
1851年	6月9日	嘉永4年	5月10日 晴		
1851年	6月10日	嘉永4年	5月11日 快晴	(今日宇和野で両松前非常御備立内習に付高覧)	
1851年	6月11日	嘉永4年	5月12日 快晴	(御徒希望者は大手先御用所御長屋に出頭するように申し遣わす)	
1851年	6月12日	嘉永4年	5月13日 快晴		
1851年	6月13日	嘉永4年	5月14日 快晴		
1851年	6月14日	嘉永4年	5月15日 快晴	(佐藤栄吉の日記役並びに表右筆兼役御免金300疋下し置かれこれまでの勤料を差し引く等の人事異動)	
1851年	6月15日	嘉永4年	5月16日 快晴	下から続く 大坂廻米12000石(家中扶持米8000・払い米4000・定例廻米高37250))	
1851年	6月16日	嘉永4年	5月17日 快晴	(頃日天気打ち続き格別湯水・風雨順時御神楽を神明宮に差し上げる) 下から続く 当年江戸廻米30000石(家中扶持米18000・私米12000・定例廻米高53342)・	上に続く
1851年	6月17日	嘉永4年	5月18日 曇	今暁子之刻頃より雨降 午之刻頃止 (御本城裏通り石垣内の松を穿取りその他は是まで通りと仰せ付けられる、大豆津出御印代13文目立を11文目立に申し付ける、	上に続く
1851年	6月18日	嘉永4年	5月19日 晴	下から続く 肴の闇売4人に売払い代金御取り上げの上過料等、剣術高覧、御本城裏通欠崩れ御手入の仕様(炎天雨天共傘御免等)を示している)	
1851年	6月19日	嘉永4年	5月20日 曇	卯之刻過より雨時々降 夜二入同断 (今日剣術高覧、去戌(今年は亥年)5月9日に浅草で他人の妻を殺害した男の人相書き・29歳中丈中肉右の足短く等々、	上に続く
1851年	6月20日	嘉永4年	5月21日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申之刻過止 (松前表より牢抜けした男5人の人相書き・年齢39歳中背より高き方等々)	
1851年	6月21日	嘉永4年	5月22日 曇	(郷蔵を協力して建てた浦町横内組の庄屋36人に200文積を以って御酒肴を下し置かれる)	
1851年	6月22日	嘉永4年	5月23日 曇	下から続く 岩木嵩より御用分並びに附木屋共入用硫黄を取り出す)	
1851年	6月23日	嘉永4年	5月24日 晴	(今日剣術高覧、8日の御備立内習で変隊の節号報がうまく伝わらなかったらしく御奉公遠慮伺いを5人が出し全員許されている・西洋式調練が始まり成功しなかった?、	上に続く
1851年	6月24日	嘉永4年	5月25日 曇	未之刻頃より雨降 酉之刻過止 (今日剣術高覧、大鰐組居土村の男の母が100歳・鳥目3貫文下し置かれる)	
1851年	6月25日	嘉永4年	5月26日 晴		
1851年	6月26日	嘉永4年	5月27日 真の刻過ぎより雨降		
1851年	6月27日	嘉永4年	5月28日 晴	申之刻過より雨降 夜二入同断	
1851年	6月28日	嘉永4年	5月29日 曇	昨夜よりの雨今日及び時々降 申之刻過止 辰之刻過雷鳴 巳之刻過止	
1851年	6月29日	嘉永4年	6月1日 晴	(薄田某を郡奉行御役料50俵等の人事異動、去月29日深浦濱町の火災の39軒中29軒は困窮・御銭1人に100目積りで都合2貫900目をお手当てとして下し置かれる)	
1851年	6月30日	嘉永4年	6月2日 曇	巳之刻過より小雨降 午之刻過止 (今日剣術高覧)	

1851年	7月1日	嘉永4年	6月3日 晴	
1851年	7月2日	嘉永4年	6月4日 曇	午之刻過より雨降 夜二入同断 下から続く 今明ヶ六半時頃より往来差止める)
1851年	7月3日	嘉永4年	6月5日 曇	昨夜より之雨今暁丑之刻頃止 (薩摩様にて出来の車船図式並びに雛形御渡しなされる・大工頭に三厩で経費等も含め検討させる、岩木川出水・駒越渡場長船馬船とも 上に続く
1851年	7月4日	嘉永4年	6月6日 曇	辰之刻過より小雨降 未之刻過止
1851年	7月5日	嘉永4年	6月7日 曇	
1851年	7月6日	嘉永4年	6月8日 曇	巳之刻過より雨降 午之刻頃止
1851年	7月7日	嘉永4年	6月9日 曇	
1851年	7月8日	嘉永4年	6月10日 曇	(御賞、去月11日の宇和野で両松前非常御備立内習の節大工町の男が馬にけられ怪我・御手当鳥目3貫文下し置かれる)
1851年	7月9日	嘉永4年	6月11日 快晴	
1851年	7月10日	嘉永4年	6月12日 晴	(御賞、青田の内笛吹くなどの触れ)
1851年	7月11日	嘉永4年	6月13日 晴	
1851年	7月12日	嘉永4年	6月14日 曇	
1851年	7月13日	嘉永4年	6月15日 晴	(小嶋嘉次郎を御手廻に等の多数の人事異動)
1851年	7月14日	嘉永4年	6月16日 曇	卯之刻過より雨降 午之刻過止
1851年	7月15日	嘉永4年	6月17日 晴	
1851年	7月16日	嘉永4年	6月18日 晴	亥之刻過より雨降 夜二入同断 (油川より弘前迄の駄賃:2尺5寸桎3000枚1駄3文目(千枚に付2文目1分・その外9分)・6尺木舞300本1駄(百本に付2文目9分・その他1文目1分))
1851年	7月17日	嘉永4年	6月19日 曇	昨夜より之雨今日及び卯之刻過止
1851年	7月18日	嘉永4年	6月20日 快晴	(祢婦たは喧嘩口論ない様に大振りにするなどの触れ)
1851年	7月19日	嘉永4年	6月21日 快晴	
1851年	7月20日	嘉永4年	6月22日 快晴	(明日三之丸紙御蔵裏靱御蔵並びに外東脇より新規御取立の靱御蔵高覧)
1851年	7月21日	嘉永4年	6月23日 曇	巳之刻過より雨降 申之刻過止
1851年	7月22日	嘉永4年	6月24日 快晴	(今日剣術和術高覧、去年8月3日頃江戸者が岩木登山望みで来る・他領者として断られその夜から病氣・江戸に継送りの節逃げ去り添え書きもどこかに取り落とし・分らん)
1851年	7月23日	嘉永4年	6月25日 快晴	(今日剣術和術高覧)
1851年	7月24日	嘉永4年	6月26日 曇	未之刻頃雷鳴 即刻止
1851年	7月25日	嘉永4年	6月27日 快晴	
1851年	7月26日	嘉永4年	6月28日 曇	(今日槍術高覧)
1851年	7月27日	嘉永4年	6月29日 快晴	
1851年	7月28日	嘉永4年	7月1日 晴	(人事異動)
1851年	7月29日	嘉永4年	7月2日 晴	(今日槍術高覧)
1851年	7月30日	嘉永4年	7月3日 快晴	
1851年	7月31日	嘉永4年	7月4日 晴	
1851年	8月1日	嘉永4年	7月5日 快晴	
1851年	8月2日	嘉永4年	7月6日 晴	(御払い米残り分一万三・四千俵も御座あり候・高く売りたいらしいが値段がどんどん変わって何をしているのか分らん)
1851年	8月3日	嘉永4年	7月7日 曇	巳之刻過より雨降 未之刻過止 (江戸で人事異動、カルロンナーテ筒(玉目7貫500目車台等の小道具とも)1挺・50目玉筒1挺を江戸より陸奥国津軽まで廻船で送る許可あり)
1851年	8月4日	嘉永4年	7月8日 曇	巳之刻過より雨降 申之刻過止
1851年	8月5日	嘉永4年	7月9日 曇	
1851年	8月6日	嘉永4年	7月10日 晴	(人事異動、出雲守6月初旬より病氣月末には重病、飛脚の貫目増・川留め等の対応を書いている・いまさら?)
1851年	8月7日	嘉永4年	7月11日 晴	
1851年	8月8日	嘉永4年	7月12日 晴	(御初穂差上げる、両濱津出1俵御値段:玄米45文目を30目・白米47文目を32文目・餅米49文目を34文目・白餅米51文目を36文目・大豆11文目のままと申し付ける)
1851年	8月9日	嘉永4年	7月13日 曇	未之刻過より雨時々降 夜二入同断
1851年	8月10日	嘉永4年	7月14日 晴	昨夜より之雨今暁寅之刻過止
1851年	8月11日	嘉永4年	7月15日 曇	未之刻過より風雨強し 則刻止 (津軽出雲守様代々の位牌は黒石保福寺(曹洞宗)・これを報恩寺(天台宗)に変えるらしい、津軽出雲守末期養子本次郎とする)
1851年	8月12日	嘉永4年	7月16日 曇	辰之刻過より小雨降 午之刻過止 下から続く 下げ1俵を42文目立に御家中渡しお買い上げは4分増の42文目4分とする)
1851年	8月13日	嘉永4年	7月17日 曇	卯之刻過より小雨降 巳之刻過止 (一昨15日晚六半時頃本町で出火・類焼半潰6軒土蔵木部屋2軒焼失・火元入寺の上慎、米価格別下落・御蔵米値段今6文目 上に続く
1851年	8月14日	嘉永4年	7月18日 曇	辰之刻過小雨降 則刻止 (頃日天気不正・丹後者詮索返しの触れ、去る3日夜七夕祭で喧嘩・抜打に切られ傷口天窓左之方1ヶ所背中1ヶ所存命覚束なし・内済にはしていない)
1851年	8月15日	嘉永4年	7月19日 晴	
1851年	8月16日	嘉永4年	7月20日 晴	(小山某を十三町奉行に等の人事異動 (不筋の組手代4人を取放し慎) 下から続く 関係五人組にも過料)
1851年	8月17日	嘉永4年	7月21日 曇	辰之刻過より雨時々降 午之刻過止 下から続く 冬になって雪船で運ぶか途中の橋の強度は等で揉めている、昨年手段米の油川の男に過料銭75文目・ 上に続く
1851年	8月18日	嘉永4年	7月22日 曇	巳之刻過より小雨時々降 未之刻過止 (仙台沢目御飛脚宿が先年類焼・12両の拝借願ひ・御手当てを3両下し置かれる、7貫500目筒が平館でなく青森に着く 上に続く
1851年	8月19日	嘉永4年	7月23日 晴	下から続く 同1基外二……)
1851年	8月20日	嘉永4年	7月24日 快晴	(江戸で足軽具足70領を買い・20領は御当用金の中で50領は代金150両で御買入、このたび報恩寺に安置された津軽出雲守代々の位牌は幅1尺3寸位2基2尺位 上に続く
1851年	8月21日	嘉永4年	7月25日 曇	巳之刻過より小雨時々降 未之刻過止 (津軽本次郎の江戸登りの行列あり、目屋沢沢流木着木・水揚げ手順に至り兼ね賃渡し定日の8月朔日を15日に延期)
1851年	8月22日	嘉永4年	7月26日 曇	(賃金取り組みの3人を手配)
1851年	8月23日	嘉永4年	7月27日 曇	未之刻頃より雨降 申之刻過止 (今日長刀高覧、御馬廻与力三浦某町同心藤田某を他出差留め)
1851年	8月24日	嘉永4年	7月28日 曇	辰之刻過小雨降 則刻止 (長尾某を大間越町奉行に等の人事異動)
1851年	8月25日	嘉永4年	7月29日 曇	午之刻過より雷雨 即刻止 申之刻頃雨降 即刻止
1851年	8月26日	嘉永4年	7月30日 晴	(今日西ノ郭御矢場で射芸高覧)
1851年	8月27日	嘉永4年	8月1日 晴	(人事異動)
1851年	8月28日	嘉永4年	8月2日 快晴	
1851年	8月29日	嘉永4年	8月3日 快晴	
1851年	8月30日	嘉永4年	8月4日 快晴	
1851年	8月31日	嘉永4年	8月5日 快晴	(津軽本次郎は13日出府)

1851年	9月1日	嘉永4年	8月6日 快晴 (御預け人小山内某が病死) 下から続く 1合売6分5厘に申し付ける)	
1851年	9月2日	嘉永4年	8月7日 晴 酉之刻頃より雨時々降 (人事異動、去月26日より当月26日迄日数30日売相場平均の上御定法で割合すると水油1升到付6匁4分7厘余に相当・1升売6文目5分 上に続く	
1851年	9月3日	嘉永4年	8月8日 曇 昨夜より之雨今晚寅之刻過止 (長利薩摩が従五位下の勅許を受ける・官許申立もなく不届きだが……と書いてある・勅許が平出で勅許に田舎大名ごときが物を言える?)	
1851年	9月4日	嘉永4年	8月9日 曇	
1851年	9月5日	嘉永4年	8月10日 曇 今晚子之刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 玄米30目を20目・白米32文目を22文目・餅米34文目を24文目・白餅米36文目を26文目に申し付ける)	
1851年	9月6日	嘉永4年	8月11日 曇 昨夜より之雨今晚寅之刻頃止 巳之刻過より雨時々降 未之刻頃止 (御蔵米1俵42文目を40目に・御家中御買上の分は40目4分に申し付ける、津出1俵御印代: 上に続く	
1851年	9月7日	嘉永4年	8月12日 曇 午之刻過より雨降 則刻止	
1851年	9月8日	嘉永4年	8月13日 晴	
1851年	9月9日	嘉永4年	8月14日 曇 今晚寅之刻過より雨降 則刻止 (18日に御初米差上げたいとのこと・18日には記述なし)	
1851年	9月10日	嘉永4年	8月15日 曇 卯之刻過より雨時々降 未之刻頃止 子之刻頃地震少し (今日八幡宮御祭礼神輿通行・五時過御供揃えで三之丸に入る)	
1851年	9月11日	嘉永4年	8月16日 曇 未之刻過より小雨降 申之刻過止	
1851年	9月12日	嘉永4年	8月17日 曇	
1851年	9月13日	嘉永4年	8月18日 晴 (津出御印代をさらに下げる:玄米15文目・白米17文目・餅米19文目・白餅米21文目に申し付ける)	
1851年	9月14日	嘉永4年	8月19日 曇 (御家中中畑某の弟が乱心・兄の家来を切り殺す・殺人者は一間所に入れ置く)	
1851年	9月15日	嘉永4年	8月20日 晴 (工事関係者に「むすり」肴等を下し置かれている・むしるの津軽弁が単なる間違いか?、今辰ノ上刻報恩寺の十一面観音が御出汗・銀5両御渡しの上加持御祈禱を仰せ付ける)	
1851年	9月16日	嘉永4年	8月21日 曇	
1851年	9月17日	嘉永4年	8月22日 曇 (今日西之郭で射芸高覧)	
1851年	9月18日	嘉永4年	8月23日 晴 (当勢洲登りが御神楽に間に合わなかったらしい)	
1851年	9月19日	嘉永4年	8月24日 曇 今晚寅之刻頃より雨降 辰之刻頃止 (津軽出雲守様御用の者1人が手錠で江戸から駕籠で碓ヶ関を通る)	
1851年	9月20日	嘉永4年	8月25日 曇 今晚子之刻過より雨降 巳之刻過止 (今朝西之郭御矢場で砲術高覧)	
1851年	9月21日	嘉永4年	8月26日 曇 今晚寅之刻過より雨降 夜二入同断 (今朝西之郭御矢場で砲術高覧)	
1851年	9月22日	嘉永4年	8月27日 曇 昨夜より之雨今晚寅之刻過止 辰之刻頃より雨時々降 申之刻過止	
1851年	9月23日	嘉永4年	8月28日 曇 午之刻頃より雨時々降 申之刻過止 未之刻過雷鳴 則刻止 (人事異動、津軽本次郎が唯今出立)	
1851年	9月24日	嘉永4年	8月29日 晴 今朝岩木山江雪初て見ゆる (今日六時過御揃えで西濱御廻所大筒台場御見分に御出で)	
1851年	9月25日	嘉永4年	9月1日 快晴 下から続く 五人組は鞭に替えて購銭3貫600文:普通の過料は1貫200文だから多額)	
1851年	9月26日	嘉永4年	9月2日 曇 未之刻過雷雨 則刻止 雨西之刻頃止 下から続く (無届)米小豆を取押え村内で配分した深泊・ニツ谷村の五人組等12人に3~9鞭又は過料(70歳以上の 上に続く	
1851年	9月27日	嘉永4年	9月3日 曇 亥之刻頃雨降 則刻止 (当春置忘れた風呂敷を盗み取った男3人に3鞭居村徘徊はまで通り・庄屋に過料1貫500文、昨年10月石濱村前沖に溺懸中の船から手段 上に続く	
1851年	9月28日	嘉永4年	9月4日 快晴 (平館台場の篠崎進の高嶋流試打ち見学に40人以上集合中、酒津出御印代2斗入1樽8文目立を3匁5分・糶1俵御役戦4文目立を7文目・醤油2斗入1樽5文目 欄外(*)に続く	
1851年	9月29日	嘉永4年	9月5日 快晴	
1851年	9月30日	嘉永4年	9月6日 晴	
1851年	10月1日	嘉永4年	9月7日 晴 下から続く 小泊村領御山に狢小屋を造ろうと無届けで桧を伐取った袋村(小泊村から50kmは有ろうか)の獵師に過料銭1貫200文)	
1851年	10月2日	嘉永4年	9月8日 曇 今晚子之刻過より雨時々降 夜二入同断 (去月20日深浦で江戸船が破船・水主2人便船乗3人海死・3人の死骸上がる、御山伐荒の小泊村の者共に多少の過料、 上に続く	
1851年	10月3日	嘉永4年	9月9日 晴 昨夜より之雨今晚寅之刻過止 下から続く 当作豊熟・津出1俵御印値段:玄米17文目を12文目・白米19文目を14文目・餅米21文目を16文目・白餅米11文目 欄外(**)に続く	
1851年	10月4日	嘉永4年	9月10日 曇 辰之刻頃小雨降 則刻止 (先年松前表に出張し同地で病死の280余人を同所法源寺に葬り墓所もある・彼岸の法要の申し出・使僧に3両を下し置かれ後日回答とする、 上に続く	
1851年	10月5日	嘉永4年	9月11日 晴	
1851年	10月6日	嘉永4年	9月12日 曇 巳の刻過より雨降 午の刻頃止	
1851年	10月7日	嘉永4年	9月13日 曇 辰の刻過小雨降 則刻止 (今月5日迄30日間の売出米相場平均の上御定法を以て割合すると酒1升1文目8分5厘に相当・当分の間1升を2文目・1合売りは2分に申付ける)	
1851年	10月8日	嘉永4年	9月14日 曇	
1851年	10月9日	嘉永4年	9月15日 快晴 (屋形様が西濱通り大筒台場御見分から御帰城、去る13日夜金木組今泉村で出火・類焼共15軒焼失馬1疋焼斃・火元高無他村預け)	
1851年	10月10日	嘉永4年	9月16日 快晴	
1851年	10月11日	嘉永4年	9月17日 曇 今晚寅の刻過より雨時々降 夜二入同断 巳の刻過より雷鳴 則刻止 (津軽出雲守病死らしい報、平館台場の試打ちは9日より15日まで)	
1851年	10月12日	嘉永4年	9月18日 曇 昨夜よりの雨今日に及時々降 夜に入同断 今日霰降	
1851年	10月13日	嘉永4年	9月19日 晴 昨夜よりの雨今晚子の刻過止	
1851年	10月14日	嘉永4年	9月20日 曇 辰之刻過より雨降 巳之刻過止 (大鰐組居土村に100歳の母・稀なる高年に付生涯2人扶持下し置かれる、人事異動、津軽本次郎が津軽出雲守の急嫡養子となる)	
1851年	10月15日	嘉永4年	9月21日 晴 (一戸某を御使番格に福嶋(旧姓津軽)千之助を御手廻組に等の人事異動)	
1851年	10月16日	嘉永4年	9月22日 晴 (御料理頂戴・御能見物の御長柄奉行格以上73人の人名がある、沖懸し手段(許可無く物資を運ぶ?)の江差の船頭に今後の入津差留め)	
1851年	10月17日	嘉永4年	9月23日 快晴 (御料理事並びに御能)	
1851年	10月18日	嘉永4年	9月24日 曇 巳の刻過ぎより小雨時々降 夜二入同断 (御能)	
1851年	10月19日	嘉永4年	9月25日 曇 昨夜よりの子だめ辰之刻過止 (江戸の金姫様(何者?)不快・逝去)	
1851年	10月20日	嘉永4年	9月26日 晴	
1851年	10月21日	嘉永4年	9月27日 快晴	
1851年	10月22日	嘉永4年	9月28日 晴 (人事異動、去る21日夜木作村で出火・類焼共14軒借家2軒焼失・火元他村預け)	
1851年	10月23日	嘉永4年	9月29日 晴	
1851年	10月24日	嘉永4年	9月30日 晴	
1851年	10月25日	嘉永4年	10月1日 曇 申の刻過より雨時々降 夜二入同断 (隠炭釜の長平村の者共に過料60目に炭8俵(1斗5升入り)御取上げ・庄屋にも過料銭600文)	
1851年	10月26日	嘉永4年	10月2日 曇 昨夜より之雨今日に及時々降 夜に入同断	
1851年	10月27日	嘉永4年	10月3日 曇 昨夜より之雨今日二及時々降 夜二入同断 下から続く 金3000疋明年より年々1000疋宛回向料を渡すこととする)	
1851年	10月28日	嘉永4年	10月4日 曇 昨夜よりの雨今日二及時々降 夜に入同断 下から続く 津軽出雲守が去月24日江戸で死去、蝦夷地で死亡し墓地がある松前町法源寺にこの度は 上に続く	
1851年	10月29日	嘉永4年	10月5日 曇 昨夜より之雨今日に及び時々降 申の刻頃止 (当4月18日夜酒に酔い追子野木村庄屋宅に不法を言い刀を抜いた御馬廻与力の弟を他出差留め兄預け、 上に続く	
1851年	10月30日	嘉永4年	10月6日 晴 今晚子之刻頃雨降 則刻止 下から続く 玄米9文目・白米11文目・餅米15文目・白餅米17文目とする)	
1851年	10月31日	嘉永4年	10月7日 曇 今晚子之刻頃より雨時々降 辰之刻頃止 (3貫目ホウイツスル1挺筒尺2尺6寸7歩目形69貫120目を鑄筒師桜庭某が出来、当新穀津出御印1俵10月より: 上に続く	
			(*)5分立を3文目・味噌2斗入り1樽8文目立を4文目・白酒2斗入1樽変更なく5文目・酢3斗入1樽1文目5分とする、青森御蔵米1俵53文目を48文目立・鰯ヶ沢では更に1文目下とする)	
			(**)を18文目・大豆8文目とする、御蔵米1俵40目を36文目に御家中綿し御買上は36文目4分とする)	

1851年	11月1日	嘉永4年	10月8日	晴	
1851年	11月2日	嘉永4年	10月9日	晴	
1851年	11月3日	嘉永4年	10月10日	晴	戌之刻過より雨時々降 亥之刻過雷雨強し 雷則刻止 雨今暁寅之刻過止 (金姫様は強制的に隠居させられた先代御屋形の妻?その血縁関係者名あり)
1851年	11月4日	嘉永4年	10月11日	曇	
1851年	11月5日	嘉永4年	10月12日	曇	今暁子之刻過より小雨降 寅之刻過止
1851年	11月6日	嘉永4年	10月13日	晴	
1851年	11月7日	嘉永4年	10月14日	晴	
1851年	11月8日	嘉永4年	10月15日	晴	
1851年	11月9日	嘉永4年	10月16日	晴	今暁子之刻過より雨降 寅之刻過止
1851年	11月10日	嘉永4年	10月17日	晴	
1851年	11月11日	嘉永4年	10月18日	曇	今暁子之刻過より雨時々降 卯之刻過止
1851年	11月12日	嘉永4年	10月19日	曇	下から続く 20日位の男子捨子・同町の者に預け置く
1851年	11月13日	嘉永4年	10月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 六寸程積 (今日初雪の御機嫌伺い申上げる、歩引渡し継続・12月に100石に200目積の御手当てを下さる、去る16日夜御蔵町に出生後 上に続く
1851年	11月14日	嘉永4年	10月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (……御白砂前御櫓入り御用物残らずこの度御取立御蔵江取賦……)
1851年	11月15日	嘉永4年	10月22日	晴	昨夜雪少し降
1851年	11月16日	嘉永4年	10月23日	曇	(一昨21日屋四半時頃尾崎組柏木町村で出火・如来並びに仏具焼失庵主焼死)
1851年	11月17日	嘉永4年	10月24日	曇	
1851年	11月18日	嘉永4年	10月25日	晴	(去る23日夜大鰐組三ツ目内村寄郷居土村で出火・類焼共7軒稲乳も焼失)
1851年	11月19日	嘉永4年	10月26日	晴	
1851年	11月20日	嘉永4年	10月27日	晴	申之刻過より雨時々降 子之刻頃止 (御武具奉行申し立て候御白砂前御櫓江御武具並びに御日記入れ置かれ候……)
1851年	11月21日	嘉永4年	10月28日	曇	(当作跡近年稀なる豊熟・蔵に苦労している)
1851年	11月22日	嘉永4年	10月29日	晴	
1851年	11月23日	嘉永4年	11月1日	晴	(闇物資(魚類)摘発・売払い代錢御取上げの上過料、金姫様御逝去に付き座当盲女とも366人に(1人につき15文ツツ)錢5貫490文を下し置かれる)
1851年	11月24日	嘉永4年	11月2日	曇	(御蔵米1俵37文目を33文目に御家中渡し御買上は33文目4分とする・但し古米の儀はこれまでの通り居(据え)置き34文目4分御座候)
1851年	11月25日	嘉永4年	11月3日	曇	
1851年	11月26日	嘉永4年	11月4日	曇	今暁子之刻過より雨降 申之刻過止 下から続く 置かれる、去月16日夜和徳町で出火・裏小屋と隣家の裏小屋を焼失・火元戸ノ・御中陰中に付き7日増しの17日とする)
1851年	11月27日	嘉永4年	11月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (当春熊狩取方出精の川原平と村市村の猟師に下々位の熊皮1枚御酒代5貫文・下々位と無位の熊皮1枚宛御酒代6貫文を下し 上に続く
1851年	11月28日	嘉永4年	11月6日	曇	戌之刻過より雨時々降 夜に入同断
1851年	11月29日	嘉永4年	11月7日	曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻過止
1851年	11月30日	嘉永4年	11月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1851年	12月1日	嘉永4年	11月9日	曇	今日雪少し降
1851年	12月2日	嘉永4年	11月10日	曇	申之刻過より雨雪降 戌之刻過止 (酒仮値段1升を2文目としてきたが御定法では今年は1升が1文目7分4厘9毛に相当・1升を1文目8分5厘に1合売りは11文に申付けける)
1851年	12月3日	嘉永4年	11月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1851年	12月4日	嘉永4年	11月12日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1851年	12月5日	嘉永4年	11月13日	曇	未之刻過より雨降 夜二入同断
1851年	12月6日	嘉永4年	11月14日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止
1851年	12月7日	嘉永4年	11月15日	曇	昨夜雪降 二尺程積 今日雪少し降
1851年	12月8日	嘉永4年	11月16日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1851年	12月9日	嘉永4年	11月17日	曇	卯之刻過より雨時々降 夜二入同断 亥之刻頃南風強し 雷鳴 則刻止 下から続く 御買上は4分増に御買上げ・在方よりの御買上米20000俵も35文目立とする)
1851年	12月10日	嘉永4年	11月18日	曇	昨夜より之雨今暁子之刻過止 今日雪少し降 (3貫目ホウイツスル車台並びに龍濱小泊御備1貫目筒車台鉄具廻出来、来る21日より1俵新古共35文目立に御家中 上に続く
1851年	12月11日	嘉永4年	11月19日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 17日早い、去月23日夜居土村の焼失7軒に2俵痛家7軒に1俵充御手当米下し置かれる)
1851年	12月12日	嘉永4年	11月20日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (去る11日夕より翌12日朝迄に十三湯の大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月16日夕より翌17日朝迄で当年は5日早く節に引合 上に続く
1851年	12月13日	嘉永4年	11月21日	曇	(当新荏種水油値段定め、去月11日より当月11日迄30日売出附相場平均御定法を以って割合仕らせ候処水油1升7文目5分8厘相当・1升売はこのまま1合売は7分5厘に申付けける)
1851年	12月14日	嘉永4年	11月22日	曇	今日雪少し降 (深浦御備500目玉大石火矢筒車台という用語あり、湯野沢銀山寒水沢金山との用語あり)
1851年	12月15日	嘉永4年	11月23日	曇	今日雪降 二尺程積
1851年	12月16日	嘉永4年	11月24日	晴	(津出1俵御印代：玄米12文目・白米14文目・餅米16文目・白餅米18文目とする)
1851年	12月17日	嘉永4年	11月25日	晴	
1851年	12月18日	嘉永4年	11月26日	曇	酉之刻過より雨降 亥之刻過止
1851年	12月19日	嘉永4年	11月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (8月3日に御米1375俵鉛90箇等を積んで鰺ヶ沢を出た大坂廻船が9月28日深浦洞で破船)
1851年	12月20日	嘉永4年	11月28日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (緘糸(おとし糸・鍍をつなぐ糸)織り方入用の菅糸(すげいと・一本のままの生糸)目形10文目の値段錢15文目8分2厘3毛)
1851年	12月21日	嘉永4年	11月29日	曇	
1851年	12月22日	嘉永4年	11月30日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 下から続く 19000俵を鰺ヶ沢に送るよう申付けける)
1851年	12月23日	嘉永4年	12月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (各地の御蔵から駄下げ：青森に113000俵(藤崎浪岡等から)・鰺ヶ沢に102000俵(五所川原木造等から)・他に湯明後小廻船で 上に続く
1851年	12月24日	嘉永4年	12月2日	晴	(今はないが仕上がり次第の炭値段1俵に付3文目5分(配分御家老衆100俵・大目付50俵・御目付30俵・御日記役10俵・勘定人5俵等々)
1851年	12月25日	嘉永4年	12月3日	晴	(昨朝日御持鍵中間宅で出火・同人押込)
1851年	12月26日	嘉永4年	12月4日	晴	
1851年	12月27日	嘉永4年	12月5日	晴	(「ヒ1本」という用語が三日月御祭事の御備物として茶碗1・茶碗鉢1・三宝1・机1と並んである・匙のことか)
1851年	12月28日	嘉永4年	12月6日	曇	
1851年	12月29日	嘉永4年	12月7日	晴	
1851年	12月30日	嘉永4年	12月8日	晴	
1851年	12月31日	嘉永4年	12月9日	晴	

1852年	1月1日	嘉永4年	12月10日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1852年	1月2日	嘉永4年	12月11日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (賀田御困筒葉干立で御賞)	
1852年	1月3日	嘉永4年	12月12日	晴	昨夜雪降 四寸程積 戌の刻頃雷鳴強く則刻止 (老年の大坂御館入茨城屋の知行高100石32人扶持を倅に下し置かれる)	
1852年	1月4日	嘉永4年	12月13日	曇	昨夜雪少し降	
1852年	1月5日	嘉永4年	12月14日	晴	下から続く 御廻米二至り値段下げ過分の御損失二相成……)	
1852年	1月6日	嘉永4年	12月15日	曇	今日雪少し降 (東・石渡・浪岡・五所川原の御蔵立会と御蔵奉行に御賞、人事異動、「戸山坊主米」は夏分に至り婦希立強く(意味不明)且又下米の処より両都	上に続く
1852年	1月7日	嘉永4年	12月16日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	
1852年	1月8日	嘉永4年	12月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1852年	1月9日	嘉永4年	12月18日	晴	21日から続く 49日御忌に伴う大赦関連で入牢中の者21人・揚屋入り中の者24人?あり)	
1852年	1月10日	嘉永4年	12月19日	晴	下から続く 御留守居支配に、駕籠訴をした男は牢居・その親諸手足軽の勤料差し引き御城付足輕に役下げ)	
1852年	1月11日	嘉永4年	12月20日	曇	今日雪少し降 (御献上の鱈名代にて見分、公辺に駕籠訴をさせた御預け中の田中勝衛を永牢とする・その子馬廻与力の知行召上げ新に7人扶持御目見以下	上に続く
1852年	1月12日	嘉永4年	12月21日	晴	昨夜雪少し降 (人事異動、去る朔日茂森新町で出火・格別働いた者共に御酒代を下し置かれる、従五位下に叙された長利薩摩の服装等が示されている、	18日に続く
1852年	1月13日	嘉永4年	12月22日	曇	今日雪少し降	
1852年	1月14日	嘉永4年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1852年	1月15日	嘉永4年	12月24日	曇	今日雪少し降 (当時(最近くらの意)小麦格別高値で附相場1俵78文目・この度限り40目懸け1把に付卸売7分小売8分5厘に申出あり了とする)	
1852年	1月16日	嘉永4年	12月25日	曇	昨夜雪少し降 (大赦・弘前徘徊御免等が4人のみ)	
1852年	1月17日	嘉永4年	12月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 七寸程積 (人事異動、御賞) 下から続く 大組足輕6人雪下げ御手伝い申付け、御蔵米1俵33文目・御家中御買上は1俵に付4分増とする)	
1852年	1月18日	嘉永4年	12月27日	曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 七寸程積 (この度の降敷二而厚雪二相成り候二付き御城付(足輕)5人・長柄之者9人・御持鎗3人・御仲間3人・諸手足輕13人・御持筒3人・	上に続く
1852年	1月19日	嘉永4年	12月28日	曇	昨夜雪降 一尺五寸程積 今日雪降 八寸程積 (人事異動、御賞)	
1852年	1月20日	嘉永4年	12月29日	曇	昨夜雪降 九寸程積 今日雪少し降 (去年松前の鰯場行きの人数を3ヶ1にしたが不満や逃げ道があり悩んでいるらしい)	
1852年	1月21日	嘉永5年	正月1日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	1月22日	嘉永5年	正月2日	晴		
1852年	1月23日	嘉永5年	正月3日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 (今晚御謡初、松前様城築用材1丈より2丈物迄9619本石に直し5200石目余等の注文・他は後日とし追手門入用材のみを認めている)	
1852年	1月24日	嘉永5年	正月4日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積 (恒例の通り大鰐村より七種差上げる)	
1852年	1月25日	嘉永5年	正月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1852年	1月26日	嘉永5年	正月6日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	1月27日	嘉永5年	正月7日	曇	昨夜雪少し降 今日吹雪強 雪一尺程積	
1852年	1月28日	嘉永5年	正月8日	曇	今日雪少し降	
1852年	1月29日	嘉永5年	正月9日	晴		
1852年	1月30日	嘉永5年	正月10日	曇	辰の刻過より雨降 申の刻頃止	
1852年	1月31日	嘉永5年	正月11日	曇	今日雪少し降 (斎藤幸吉を城付足輕頭に等の人事異動、御賞)	
1852年	2月1日	嘉永5年	正月12日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1852年	2月2日	嘉永5年	正月13日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1852年	2月3日	嘉永5年	正月14日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	2月4日	嘉永5年	正月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1852年	2月5日	嘉永5年	正月16日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	2月6日	嘉永5年	正月17日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	2月7日	嘉永5年	正月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1852年	2月8日	嘉永5年	正月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1852年	2月9日	嘉永5年	正月20日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1852年	2月10日	嘉永5年	正月21日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 下から続く 昨年巻張の非常御備え300目退矯筒が力試しの節痛筒：職人が自分物入りで作り直したいといったが……)	
1852年	2月11日	嘉永5年	正月22日	晴	(昨年12月15日まで30日間の売出米附相場では酒1升が1文目6分8厘8毛に相当・1升を1文目8分1合売りは居り?(据え置くの意味だろうが分からない)11文に申付ける、	上に続く
1852年	2月12日	嘉永5年	正月23日	曇		
1852年	2月13日	嘉永5年	正月24日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日吹雪強し	
1852年	2月14日	嘉永5年	正月25日	晴	昨夜雪降 八寸程積	
1852年	2月15日	嘉永5年	正月26日	曇		
1852年	2月16日	嘉永5年	正月27日	曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1852年	2月17日	嘉永5年	正月28日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪降 一尺程積 (人事異動)	
1852年	2月18日	嘉永5年	正月29日	晴	昨夜雪少し降	
1852年	2月19日	嘉永5年	正月30日	曇	昨夜雪少し降 (この日の干支は辛亥)	
1852年	2月20日	嘉永5年	2月1日		(1ヶ月間日記の保存なし)	
1852年	2月21日	嘉永5年	2月2日			
1852年	2月22日	嘉永5年	2月3日			
1852年	2月23日	嘉永5年	2月4日			
1852年	2月24日	嘉永5年	2月5日			
1852年	2月25日	嘉永5年	2月6日			
1852年	2月26日	嘉永5年	2月7日			
1852年	2月27日	嘉永5年	2月8日			
1852年	2月28日	嘉永5年	2月9日			
1852年	2月29日	嘉永5年	2月10日			

1852年	3月1日	嘉永5年	2月11日	
1852年	3月2日	嘉永5年	2月12日	
1852年	3月3日	嘉永5年	2月13日	
1852年	3月4日	嘉永5年	2月14日	
1852年	3月5日	嘉永5年	2月15日	
1852年	3月6日	嘉永5年	2月16日	
1852年	3月7日	嘉永5年	2月17日	
1852年	3月8日	嘉永5年	2月18日	
1852年	3月9日	嘉永5年	2月19日	
1852年	3月10日	嘉永5年	2月20日	
1852年	3月11日	嘉永5年	2月21日	
1852年	3月12日	嘉永5年	2月22日	
1852年	3月13日	嘉永5年	2月23日	
1852年	3月14日	嘉永5年	2月24日	
1852年	3月15日	嘉永5年	2月25日	
1852年	3月16日	嘉永5年	2月26日	
1852年	3月17日	嘉永5年	2月27日	
1852年	3月18日	嘉永5年	2月28日	
1852年	3月19日	嘉永5年	2月29日	
1852年	3月20日	嘉永5年	2月30日	(ここまで嘉永5年2月分の保存なし)
1852年	3月21日	嘉永5年	閏2月1日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (この日の干支は壬午で30日の欠に相当する)
1852年	3月22日	嘉永5年	閏2月2日	曇 昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (この度未申御矢倉御普請に付同所入れ置き御武具を明後4日より御白砂御矢倉並びに丑寅御矢倉に移す)
1852年	3月23日	嘉永5年	閏2月3日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1852年	3月24日	嘉永5年	閏2月4日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降 (近年和合構と申す無尽相企み過分の高利を……停止を申付ける)
1852年	3月25日	嘉永5年	閏2月5日	曇 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1852年	3月26日	嘉永5年	閏2月6日	晴
1852年	3月27日	嘉永5年	閏2月7日	晴 (青森湊手附共が隠買女と馴合不正あり) 下から続く 手附共の風儀宜しからず)
1852年	3月28日	嘉永5年	閏2月8日	曇 今暁丑の刻過より雨降 寅の刻頃止 未の刻過より霰降 (差留の串柿・橙・九年母(くねんぼ:比較的大きな柑橘類の一種)・薩摩芋が船揚げされている、鰯ヶ沢湊 上に続く
1852年	3月29日	嘉永5年	閏2月9日	曇 今日雪少し降
1852年	3月30日	嘉永5年	閏2月10日	晴
1852年	3月31日	嘉永5年	閏2月11日	快晴
1852年	4月1日	嘉永5年	閏2月12日	晴
1852年	4月2日	嘉永5年	閏2月13日	晴
1852年	4月3日	嘉永5年	閏2月14日	曇 巳の刻過より雨降 午の刻過止 (昨10日昼金井ヶ沢台場御焰硝蔵になって(雪崩)突潰・中の武器等は無事で庄屋の土蔵に預け置く)
1852年	4月4日	嘉永5年	閏2月15日	曇 卯の刻頃より小雨降 午の刻頃止 (大和沢山に大勢が雪船(雪中重量物(石・材木等)の運搬に使う大きな櫓)を引き木を伐る道具を持って入り込んでいる・雪船停止とする)
1852年	4月5日	嘉永5年	閏2月16日	晴
1852年	4月6日	嘉永5年	閏2月17日	曇
1852年	4月7日	嘉永5年	閏2月18日	曇 (昨14日夜和徳村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け)
1852年	4月8日	嘉永5年	閏2月19日	曇 辰の刻過より小雨降 戌の刻頃止 (江戸で今井源次郎を御長柄奉行格に等の人事異動、侍従様(隠居した前藩主)の賄料4500石を5500石に増やす)
1852年	4月9日	嘉永5年	閏2月20日	曇 昨夜雪少し降 今日雪少し降
1852年	4月10日	嘉永5年	閏2月21日	晴
1852年	4月11日	嘉永5年	閏2月22日	快晴 (去る16日夜木作新田大開村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)
1852年	4月12日	嘉永5年	閏2月23日	快晴
1852年	4月13日	嘉永5年	閏2月24日	快晴 (浪岡3組で「戸山坊主」と申す稲草植付けたいと書面で申し出た・この米は御廻米に成難く兼て仰せ付けの通り自分飯料売米は格別・御収納分は植付けないよう申し付ける)
1852年	4月14日	嘉永5年	閏2月25日	快晴 (不明日に常盤組十川村で旅僧が病死)
1852年	4月15日	嘉永5年	閏2月26日	快晴
1852年	4月16日	嘉永5年	閏2月27日	快晴
1852年	4月17日	嘉永5年	閏2月28日	快晴 (御賞)
1852年	4月18日	嘉永5年	閏2月29日	快晴
1852年	4月19日	嘉永5年	3月1日	晴 (人事異動、菜種油1升を6文目7分・1合売りを6分4文に申付ける)
1852年	4月20日	嘉永5年	3月2日	曇 昨夜子の刻頃より雨時々降 辰の刻過止
1852年	4月21日	嘉永5年	3月3日	曇
1852年	4月22日	嘉永5年	3月4日	曇 昨夜亥の刻頃より雨時々降 下から続く 氷明ける・去年は3月5日夕より翌6日朝迄に氷明け当年は6日早く節に引き合い12日遅い)
1852年	4月23日	嘉永5年	3月5日	曇 昨夜よりの雨今暁卯之刻過止 (昨夜和徳町で出火・類焼5軒焼失・火之見櫓番が鐘撞かず慎、去月28日夕より翌29日朝迄十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず 上に続く
1852年	4月24日	嘉永5年	3月6日	晴
1852年	4月25日	嘉永5年	3月7日	曇 今朝雪少し降 未の刻過より雨降 酉の刻過止 (昨夜四時過ぎ和徳町で出火・類焼4件・火元入寺の上慎(5日記述の件か?))
1852年	4月26日	嘉永5年	3月8日	曇 今日雪少し降 (人事異動)
1852年	4月27日	嘉永5年	3月9日	曇 午の刻過より小雨降 未の刻過止 下から続く 流木1巻は大木149.1本に相当するのか)
1852年	4月28日	嘉永5年	3月10日	快晴 (銭10文目に付き大木(流木)7本積りを以って御払い・尤巻渡しの方は(流木)1巻213文目立に仰せ付けられる:意味が分らず書いている・巻という単位を知りたくて、 上に続く
1852年	4月29日	嘉永5年	3月11日	晴
1852年	4月30日	嘉永5年	3月12日	晴 (御賞(銀3両))

1852年	5月1日	嘉永5年	3月13日	曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 午の刻過止	
1852年	5月2日	嘉永5年	3月14日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 今日西南の風強し 辰の刻過止	
1852年	5月3日	嘉永5年	3月15日	晴	(人事異動、去る2日赤石村領山中で川原平村の猟師の連れが熊に食いつかれる・先例もあり療治料錢100目下し置かれる) 下から続く 引き続き御手廻御馬廻組を出す)	
1852年	5月4日	嘉永5年	3月16日	曇	今日辰の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (石渡川5歩の出水・両船とも往来相成り兼ねる・岩木川も今七時頃より往来差止め・9歩5厘の出水となり水防に足輕組・ 上に続く	
1852年	5月5日	嘉永5年	3月17日	晴	(岩木川今朝五時半時4歩5厘に落水、去る11日夜後潟組清水村で出火・類焼共2軒外馬屋焼失・火元百姓他村預け)	
1852年	5月6日	嘉永5年	3月18日	快晴	(去る10日夜九時頃浪岡組上十川村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け、昨夜一間所内の男が逃亡)	
1852年	5月7日	嘉永5年	3月19日	曇	巳の刻過より雨時々降 未の刻過止	
1852年	5月8日	嘉永5年	3月20日	晴	((18日記述の)一間所から逃げた男が隣松寺で捕まり揚屋入り)	
1852年	5月9日	嘉永5年	3月21日	曇	巳の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (山上才助に俵子10俵1人扶持動料下し置かれる等の人事異動)	
1852年	5月10日	嘉永5年	3月22日	晴	下から続く 餅米16文目を14文目・白餅米18文目を16文目に値下げ、古懸不動尊御出汗・御神楽料等を渡し五山に御祈禱を仰せ付ける)	
1852年	5月11日	嘉永5年	3月23日	曇	今日申の刻過より雨降 夜に入同断 (病死者3人・他に記事なし) 下から続く 米価追々弱気・津出1俵御印代:玄米12文目を10文目・白米14文目を12文目・ 上に続く	
1852年	5月12日	嘉永5年	3月24日	曇	昨夜より之雨今日に及ぶ 時々降 巳の刻過止 (27日に御能があり見物仰せ付けられた御家中(御留守居組以上とその嫡子?)氏名が列記されている、上方筋で 上に続く	
1852年	5月13日	嘉永5年	3月25日	曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (漆木12000本位・この出漆324貫目位:後は意味不明で拾はない、去る21日和徳村で飼犬に喰われ大怪我の婦人あり・飼主他出差留め)	
1852年	5月14日	嘉永5年	3月26日	曇	昨夜より之雨卯の刻過止 下から続く 今別沖合1里半程を・同日朝六時半頃三馬屋沖合2里程に異国船1艘が松前又は南部佐井の方に向かう、同日同刻 欄外(*)に続く	
1852年	5月15日	嘉永5年	3月27日	快晴	(御能) 下から続く 異国船が申の方より子の方に・同日夕八時半時深浦沖合い1里半ほど隔て子丑の方に通る、同13日朝六時頃高野崎沖合10丁程・同刻 上に続く	
1852年	5月16日	嘉永5年	3月28日	快晴	(御能(今日より翁なし)、篠崎進の門弟稽古のため8文目玉ケウヘル筒10挺御買い下げ仰せ付けられる、去月10日昼九時頃大間越沖合5里ほど隔て櫓3本の 上に続く	
1852年	5月17日	嘉永5年	3月29日	快晴		
1852年	5月18日	嘉永5年	3月30日	晴	(この度未申御矢倉御建て直し仰せ付けられ候間……)	
1852年	5月19日	嘉永5年	4月1日		(1ヶ月間日記の保存なし)	
1852年	5月20日	嘉永5年	4月2日			
1852年	5月21日	嘉永5年	4月3日			
1852年	5月22日	嘉永5年	4月4日			
1852年	5月23日	嘉永5年	4月5日			
1852年	5月24日	嘉永5年	4月6日			
1852年	5月25日	嘉永5年	4月7日			
1852年	5月26日	嘉永5年	4月8日			
1852年	5月27日	嘉永5年	4月9日			
1852年	5月28日	嘉永5年	4月10日			
1852年	5月29日	嘉永5年	4月11日			
1852年	5月30日	嘉永5年	4月12日			
1852年	5月31日	嘉永5年	4月13日			
1852年	6月1日	嘉永5年	4月14日			
1852年	6月2日	嘉永5年	4月15日			
1852年	6月3日	嘉永5年	4月16日			
1852年	6月4日	嘉永5年	4月17日			
1852年	6月5日	嘉永5年	4月18日			
1852年	6月6日	嘉永5年	4月19日			
1852年	6月7日	嘉永5年	4月20日			
1852年	6月8日	嘉永5年	4月21日			
1852年	6月9日	嘉永5年	4月22日			
1852年	6月10日	嘉永5年	4月23日			
1852年	6月11日	嘉永5年	4月24日			
1852年	6月12日	嘉永5年	4月25日			
1852年	6月13日	嘉永5年	4月26日			
1852年	6月14日	嘉永5年	4月27日			
1852年	6月15日	嘉永5年	4月28日			
1852年	6月16日	嘉永5年	4月29日			
1852年	6月17日	嘉永5年	4月30日		(ここまで嘉永5年4月分の保存なし)	
1852年	6月18日	嘉永5年	5月1日	晴	(篠崎進の親が隠居・跡式金10両5人扶持を下し置かれ御中小姓格に仰せ付けられる	
1852年	6月19日	嘉永5年	5月2日	曇	辰之刻過より小雨時々降 未之刻頃止	
1852年	6月20日	嘉永5年	5月3日	曇		
1852年	6月21日	嘉永5年	5月4日	曇	未之刻頃より雨時々降 酉之刻過止	
1852年	6月22日	嘉永5年	5月5日	曇	巳之刻頃雷雨 雷午之刻過止 雨未之刻過止	
1852年	6月23日	嘉永5年	5月6日	晴		
1852年	6月24日	嘉永5年	5月7日	晴		
1852年	6月25日	嘉永5年	5月8日	曇	巳之刻過小雨降 即刻止 (この度御祝に付猟師共26人に錢300文積りの御酒御魚を下し置かれる)	
1852年	6月26日	嘉永5年	5月9日	快晴	未之刻過地震少し	
1852年	6月27日	嘉永5年	5月10日	曇	午之刻過より小雨時々降 申之刻過止	
1852年	6月28日	嘉永5年	5月11日	曇	午之刻過より小雨降 即刻止 (御賞)	
1852年	6月29日	嘉永5年	5月12日	曇	卯之刻過より小雨降 即刻止	
1852年	6月30日	嘉永5年	5月13日	晴		
(*) 龍濱崎沖合いに異国船3艘が松前箱館の方に向かう、一昨10日江戸で門限破り度々の御手廻を御留守居組に役下げ)						

1852年	7月1日	嘉永5年	5月14日 曇	今晚寅之刻頃より雨降 巳之刻過止 月食皆既 夜四時左の方よりかけ初九時三步甚しく八時六歩 右の下におはる 下から続く 定例53342石)・ 欄外(*)に続く
1852年	7月2日	嘉永5年	5月15日 曇	下から続く 玉目150目2挺トントロケウヘール筒玉目8文目10挺を御廻船で下げる、去る亥年收納当年江戸廻米30000石(18000石家中扶持米・12000石払い米・ 上に続く
1852年	7月3日	嘉永5年	5月16日 晴	(去月3日朝五時頃龍濱崎沖合1里程に異国船2艘が松前白神の方より福山の方に・同日朝五半時頃藤嶋沖合3里程に異国船2艘が南部領佐井の方に通る、タイハス筒 上に続く
1852年	7月4日	嘉永5年	5月17日 快晴	
1852年	7月5日	嘉永5年	5月18日 晴	
1852年	7月6日	嘉永5年	5月19日 曇	巳之上刻過より小雨降 申之刻過止
1852年	7月7日	嘉永5年	5月20日 曇	今晚寅之刻頃より小雨時々降 巳之刻頃止
1852年	7月8日	嘉永5年	5月21日 晴	(足軽等が江戸上下の際路用不足で道中の駅から借財の上返さない者がある・借入金がある場合は返すように等の申付け)
1852年	7月9日	嘉永5年	5月22日 快晴	(人事異動)
1852年	7月10日	嘉永5年	5月23日 晴	
1852年	7月11日	嘉永5年	5月24日 曇	辰之刻過小雨降 即刻止 申之刻頃より小雨降 (青田の内笛吹くなどの触れ)
1852年	7月12日	嘉永5年	5月25日 曇	昨夜より之雨時々降 午之刻過止
1852年	7月13日	嘉永5年	5月26日 曇	卯之刻頃より雨降 夜二入同断
1852年	7月14日	嘉永5年	5月27日 曇	昨夜より之雨今晚子之刻頃止 (革秀寺の撞鐘鑄立て二付開眼)
1852年	7月15日	嘉永5年	5月28日 曇	(御賞、人事異動)
1852年	7月16日	嘉永5年	5月29日 曇	卯之刻過より雨降 申之刻過止 (毛内兵格の親有右衛門が病死)
1852年	7月17日	嘉永5年	6月1日 曇	辰之刻過より小雨時々降 申之刻過止 (御賞)
1852年	7月18日	嘉永5年	6月2日 曇	巳之刻頃より小雨降 即刻止
1852年	7月19日	嘉永5年	6月3日 曇	巳之刻過より小雨降 夜二入同断
1852年	7月20日	嘉永5年	6月4日 晴	昨夜より之小雨今晚寅之刻過止
1852年	7月21日	嘉永5年	6月5日 晴	下から続く 天保2人より同6年まで都合49冊を交代下がりの留め書表右筆に預け(弘前に)下げる)
1852年	7月22日	嘉永5年	6月6日 曇	卯之刻過より小雨時々降 申之刻過止 (去月19日屋形様が御老中様方御廻勤の上御着府(日記が保存されていない4月晦日発駕)、(江戸の)御日記清書相済み候分 上に続く
1852年	7月23日	嘉永5年	6月7日 晴	戌之刻頃より雨降 (後藤門之丞と山田登に新田開発を仰せ付けている) 下から続く (御持鍵)の旅行中の所持品が記述されている、トントロケヘール筒?あり)
1852年	7月24日	嘉永5年	6月8日 曇	昨夜より之雨今晚子之刻過止 巳之刻過より雨時々降 申之刻過止 (当4月朔日林町?で出火・御屋敷内の飛火に対処で御賞(銀1両)、羽州本庄町で病死の御家中 上に続く
1852年	7月25日	嘉永5年	6月9日 晴	
1852年	7月26日	嘉永5年	6月10日 曇	午之刻過小雨降 則刻止 (当3月16日の岩木川出水に関し御賞、去月22日浦町組高田村で虫祭の節3人に打擲され男が死亡・犯人の1人逃亡・人相書・年齢45歳・背5尺2寸等々)
1852年	7月27日	嘉永5年	6月11日 曇	巳之刻過小雨降 即刻止
1852年	7月28日	嘉永5年	6月12日 快晴	
1852年	7月29日	嘉永5年	6月13日 曇	午之刻過より雷鳴強く未之刻頃雲少し降 申之刻頃雷止
1852年	7月30日	嘉永5年	6月14日 快晴	
1852年	7月31日	嘉永5年	6月15日 晴	
1852年	8月1日	嘉永5年	6月16日 晴	
1852年	8月2日	嘉永5年	6月17日 晴	
1852年	8月3日	嘉永5年	6月18日 快晴	(人事異動)
1852年	8月4日	嘉永5年	6月19日 曇	丑の刻過雷 則刻止
1852年	8月5日	嘉永5年	6月20日 快晴	(当月13日より今村某宅門前で太鼓を鳴らし石打ちの者あり・18日夜五つ時20人程が来て乱暴・負傷、江戸で人事異動、玉目3貫600目ナハホントカノン1挺川口宿で鑄立方申付ける)
1852年	8月6日	嘉永5年	6月21日 快晴	(人事異動)
1852年	8月7日	嘉永5年	6月22日 晴	
1852年	8月8日	嘉永5年	6月23日 曇	
1852年	8月9日	嘉永5年	6月24日 曇	卯之刻頃より雨時々降 午之刻過止
1852年	8月10日	嘉永5年	6月25日 快晴	
1852年	8月11日	嘉永5年	6月26日 晴	戌之刻頃雨降 即刻止
1852年	8月12日	嘉永5年	6月27日 曇	今晚子之刻頃より雨降 辰之刻過止 (菜種値段当月初頃42文目その後38文目この節は51文目となっている)
1852年	8月13日	嘉永5年	6月28日 晴	
1852年	8月14日	嘉永5年	6月29日 快晴	
1852年	8月15日	嘉永5年	7月1日 快晴	(御初穂差上げる、人事異動)
1852年	8月16日	嘉永5年	7月2日 快晴	(水練指南の御徒に御賞(銀3両))
1852年	8月17日	嘉永5年	7月3日 晴	卯之刻過より西南風吹 巳之刻頃止
1852年	8月18日	嘉永5年	7月4日 晴	卯之刻頃雨降 即刻止 (誰かさんの位牌が報恩寺に届き座当盲女共357人に15文宛下し置かれる)
1852年	8月19日	嘉永5年	7月5日 快晴	
1852年	8月20日	嘉永5年	7月6日 晴	
1852年	8月21日	嘉永5年	7月7日 晴	午之刻過小雨降 即刻止 (昨晚祢婦た見物の御家中が在府町で30人位に切りかけられ負傷)
1852年	8月22日	嘉永5年	7月8日 曇	巳之刻過より雨降 夜二入同断
1852年	8月23日	嘉永5年	7月9日 曇	昨夜より之雨今日午之刻過止
1852年	8月24日	嘉永5年	7月10日 晴	(報恩寺御位牌所御手入後出来に伴う御布施:銀1枚導師報恩寺・銭7文目寺庵4人・同5文目末寺1人所化1人・同3文目小僧1人・同2文目道心2人)
1852年	8月25日	嘉永5年	7月11日 曇	申之刻頃雨降 夜二入同断 (来る14日より晴天7日の角力興行・1人に付4分宛上座敷1間3文目下座敷1間2文目宛とする、鯉ヶ沢でも角力興行1人に付札銭3分)
1852年	8月26日	嘉永5年	7月12日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 未之刻過止 (当月昨日まで30日間の菜種相場平均は御定法で水油1升に付8匁4分1厘余に相当・1升を8文目5分1合売り8分5厘に申付ける)
1852年	8月27日	嘉永5年	7月13日 曇	(江戸で人事異動)
1852年	8月28日	嘉永5年	7月14日 晴	
1852年	8月29日	嘉永5年	7月15日 曇	巳之刻過より小雨降 未之刻過止
1852年	8月30日	嘉永5年	7月16日 曇	今晚子之刻過より雨降 巳之刻杉止
1852年	8月31日	嘉永5年	7月17日 晴	

(*) 大坂廻米12000石(8000石家中扶持米・4000石払い米・定例37250石)、腰痛の屋形様が江戸城内で杖の使用を許されている)

1852年	9月1日	嘉永5年	7月18日 快晴	
1852年	9月2日	嘉永5年	7月19日 曇	卯之刻過雨降 則刻止 (江戸で人事異動)
1852年	9月3日	嘉永5年	7月20日 曇	午之刻頃より雨降 申之刻過止 (他領者を止宿の宿を戸へ)
1852年	9月4日	嘉永5年	7月21日 曇	(青森町で秋田出生の乞食共の晴天7日の軽業興行・札銭1人に付3分宛、……切支丹御改証文人別書差出方は例年8月中に限り……)
1852年	9月5日	嘉永5年	7月22日 曇	午之刻過より雨時々降 夜二入同断 (来る24日御初米差上げる、御家中の子弟が2人揚屋入り)
1852年	9月6日	嘉永5年	7月23日 晴	昨夜より之雨卯之刻過止 (当2月借金取りの男を足駄で打擲の追子野木の男に9鞭居村徘徊はまで通り・療治料は犯人の親に払わせている)
1852年	9月7日	嘉永5年	7月24日 曇	巳之刻過より雨時々降 酉之刻頃止 (去年は5月16日植付8月9日鎌入れて82日間であった・今年は4月29日植付7月18日鎌入れて78日間で4日早く節に引合2日早い)
1852年	9月8日	嘉永5年	7月25日 曇	今晚寅之刻過より雨時々降 夜二入同断
1852年	9月9日	嘉永5年	7月26日 晴	昨夜より之雨今晚子之刻過止 (昨夜八半時頃大組足軽が海蔵寺で切腹自害)
1852年	9月10日	嘉永5年	7月27日 晴	
1852年	9月11日	嘉永5年	7月28日 晴	(昨年の三廐詰めに御賞)
1852年	9月12日	嘉永5年	7月29日 晴	
1852年	9月13日	嘉永5年	7月30日 晴	今晚子之刻過雨降 即刻止
1852年	9月14日	嘉永5年	8月1日 晴	(人事異動、このたびに未申櫓の御建て直しで構造も変わったのかな、炭37500俵・代90貫860目・平均1俵2文目4分4厘6毛6・御家中貸渡しは1俵を2文目3分とする)
1852年	9月15日	嘉永5年	8月2日 晴	
1852年	9月16日	嘉永5年	8月3日 快晴	(玉目13貫700目モルチール筒(迫撃砲・臼砲:破裂する玉かな)1挺を川口宿で鑄立てる事を幕府に届ける)
1852年	9月17日	嘉永5年	8月4日 晴	戌之刻過より雨降 亥之刻過止 下から続く 申付ける、この節御有靱167151俵3斗6升)
1852年	9月18日	嘉永5年	8月5日 曇	卯之刻頃より雨降 巳之刻頃止 午之刻過より雨降 酉之刻頃止 (御賞、博打の男共が大赦以前と許されている、青森御印付1俵39文目鯔ヶ沢で38文目で御払い 上に続く
1852年	9月19日	嘉永5年	8月6日 曇	巳之刻過より雨時々降 夜二入同断
1852年	9月20日	嘉永5年	8月7日 曇	昨夜より之雨今晚寅之刻過止 巳之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (福真万次郎を御用所小使にとの人事異動) 下から続く 白餅米16文目を13文目に申付ける)
1852年	9月21日	嘉永5年	8月8日 曇	昨夜より之雨今日巳之刻頃止 (青森町で乞食の軽業興行・札銭1人につぎ3分、両濱1俵津出御印代:玄米10文目を7文目・白米12文目を9文目・餅米14文目を11文目・ 上に続く
1852年	9月22日	嘉永5年	8月9日 晴	戌之刻過より雨降 夜二入同断
1852年	9月23日	嘉永5年	8月10日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降 夜二入同断 (木造新田6ヶ村領長濱江難船等の節前々より度々不埒あり・懸合に6人を申付ける)
1852年	9月24日	嘉永5年	8月11日 曇	昨夜より之雨及今日 申之刻頃止
1852年	9月25日	嘉永5年	8月12日 晴	
1852年	9月26日	嘉永5年	8月13日 快晴	(御家中武藤某の曾祖父を召捕り手錠の上駕籠で揚屋入り)
1852年	9月27日	嘉永5年	8月14日 晴	
1852年	9月28日	嘉永5年	8月15日 曇	今晚子之刻頃より雨時々降
1852年	9月29日	嘉永5年	8月16日 曇	昨夜より之雨今日及ひ申之刻過止
1852年	9月30日	嘉永5年	8月17日 曇	今晚丑之刻過より雨時々降 辰之刻過止
1852年	10月1日	嘉永5年	8月18日 曇	(松前に自分の船で旅人を渡した名主の役御取上げ・大赦以前で罰なし・関係者も同様・渡った男は当分揚屋入り)
1852年	10月2日	嘉永5年	8月19日 晴	
1852年	10月3日	嘉永5年	8月20日 快晴	
1852年	10月4日	嘉永5年	8月21日 晴	
1852年	10月5日	嘉永5年	8月22日 曇	申之刻過より雨降 夜二入同断
1852年	10月6日	嘉永5年	8月23日 曇	昨夜より之雨今日巳之刻過止 (両濱津出(1俵)御印代:玄米7文目を9文目・白米9文目を11文目・餅米11文目を13文目・白餅米13文目を15文目に申付ける)
1852年	10月7日	嘉永5年	8月24日 晴	
1852年	10月8日	嘉永5年	8月25日 曇	午之刻過雨降 則刻止 申之刻過より雷雨 亥之刻頃雷雨止 (兼平天満宮は950年御忌?)
1852年	10月9日	嘉永5年	8月26日 曇	今晚寅之刻頃より雨降 巳之刻頃止 (一昨年11月2日に作事普請方より金子を盗み取った作事小使い加勢の野呂某を大赦以前として家財欠所300日牢居・関係者にも罰)
1852年	10月10日	嘉永5年	8月27日 曇	
1852年	10月11日	嘉永5年	8月28日 快晴	
1852年	10月12日	嘉永5年	8月29日 曇	今晚寅之刻過地震少し
1852年	10月13日	嘉永5年	9月1日 快晴	今晚丑の刻頃雨降 卯の刻過止 (郡奉行三上喜左衛門を町奉行兼役加増20石等の人事異動)
1852年	10月14日	嘉永5年	9月2日 曇	午之刻過より雨時々ふり戌之刻過止 未の刻過より西南の風強し 酉の刻頃止 (萱町の日雇い・本町の髪結いの妻が美服として両家を戸へ15日)
1852年	10月15日	嘉永5年	9月3日 曇	未の刻過より雨時々ふり戌の刻頃止 今朝岩木山初而雪見ゆ 下から続く 御楽屋前に木の3間が3脚・乾御矢倉下に竹の3間同2間半同2間の3脚)
1852年	10月16日	嘉永5年	9月4日 快晴	(御城中廻り階子備え数:御白砂前に木の3間が3脚・中之口前に木の2間半が1脚・御台所前に木の3間半が3挺と2間半が1挺の4脚・御小姓組部屋前に竹の3間が1脚・ 上に続く
1852年	10月17日	嘉永5年	9月5日 快晴	
1852年	10月18日	嘉永5年	9月6日 曇	午の刻過より小雨ふり 即刻止
1852年	10月19日	嘉永5年	9月7日 曇	今晚寅の刻過より雨降 午の刻頃止 (家老喜多村監物病死・与力12人を引取り御留守居当分支配とする)
1852年	10月20日	嘉永5年	9月8日 快晴	(武器御手入れ等で御賞(銀3両))
1852年	10月21日	嘉永5年	9月9日 快晴	
1852年	10月22日	嘉永5年	9月10日 曇	未の刻過より小雨時々降 酉の刻頃止 (先年12月27日江戸詰合中にお金200両を盗み出奔の会所小使等2人に大赦以前として牢居家財欠所・関係者にも軽い罰)
1852年	10月23日	嘉永5年	9月11日 晴	(当御検見方(赤田組)に山上鉄太郎あり)
1852年	10月24日	嘉永5年	9月12日 快晴	(去月3日屋形様が上使を以って御鷹の雲雀御拝領、江戸で人事異動、去月7日昼九時過ぎ三廐沖合を異国船1艘が南部佐井口に向け通る)
1852年	10月25日	嘉永5年	9月13日 快晴	酉の刻過雷雨 即刻止
1852年	10月26日	嘉永5年	9月14日 晴	
1852年	10月27日	嘉永5年	9月15日 快晴	酉の刻過より雨降 戌の刻過止 (去月3日上使を以って拝領の御鷹の雲雀御拝領遊ばされるに付登城(昨日の記事では頂戴))
1852年	10月28日	嘉永5年	9月16日 晴	今晚丑の刻過より小雨降 寅の刻過止
1852年	10月29日	嘉永5年	9月17日 快晴	(小野若狭が吉田表で長利薩摩同様官位の沙汰に及ばれたき旨同所役人より京都御留守居迄来状あり・必要なら添状を送るのでそれなしには無用と断っている)
1852年	10月30日	嘉永5年	9月18日 快晴	
1852年	10月31日	嘉永5年	9月19日 快晴	

1852年	11月1日	嘉永5年	9月20日 晴	酉の刻頃より雨時々降 亥の刻頃止 (当3月10日夜下総国で主人等2人を殺害した召使男の人相書きあり)
1852年	11月2日	嘉永5年	9月21日 晴	
1852年	11月3日	嘉永5年	9月22日 曇	卯の刻過より小雨時々降 午の刻過止 (当年菜種売出なく1俵60目余・水油1升を10文目・1合売は1文目に申付ける)
1852年	11月4日	嘉永5年	9月23日 晴	
1852年	11月5日	嘉永5年	9月24日 快晴	(御留守居組赤石愛太郎が荒川村に預けていた不行跡の母が去る20日暮れ六時頃殺害される・犯人は町同心手で召捕り入牢を申付ける)
1852年	11月6日	嘉永5年	9月25日 曇	午の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (不明日に木作新田車力村領千貫崎十三街道東之方松山に変死の男あり・逃亡の愛太郎母の殺人犯かと荒川村の村役を見分に遣わす)
1852年	11月7日	嘉永5年	9月26日 曇	今晩子の刻頃小雨降 則刻止 酉の刻過より小雨時々降 下から続く 熊皮1枚と御酒代3貫文を村市村円?慶・大然村三九郎・松原村長治・大川原村弁済?に下し置かれる)
1852年	11月8日	嘉永5年	9月27日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及時々降 巳の刻頃止 今日初而雪少しふり (御廻船下乗り19度の長柄の者を御目見以下御留守居支配にとの人事異動、熊狩取りの獵師に下々位の 上に続く
1852年	11月9日	嘉永5年	9月28日 曇	巳の刻頃小雨降 即刻止 申の刻過より雨降 夜に入同断 (天保12年(1841年頃)の日記出来?)
1852年	11月10日	嘉永5年	9月29日 曇	昨夜よりの雨今晩子の刻過止
1852年	11月11日	嘉永5年	9月30日 曇	辰の刻頃より雨降
1852年	11月12日	嘉永5年	10月1日 快晴	(去月3日屋形様が御鷹の雲雀拝領に関して座当盲女359人に15文ツツ5貫385文を御祝儀として下し置かれる)
1852年	11月13日	嘉永5年	10月2日 晴	
1852年	11月14日	嘉永5年	10月3日 晴	今晩子の刻過より雨降 丑刻過止む
1852年	11月15日	嘉永5年	10月4日 快晴	(この節下タ米値段追々引上げ御蔵米35文目立を40目とし御家中渡しお買い上げは4分増の40目4分に申付ける)
1852年	11月16日	嘉永5年	10月5日 晴	下から続く 3文目・白酒2斗入1樽3文目5分を4文目・酢2斗入1樽1文目を1文目5分にそれぞれ引き上げる)
1852年	11月17日	嘉永5年	10月6日 曇	辰の刻過より小雨時々降 午の刻過止 下から続く 酒2斗入1樽3文目を3文目5分・糴1俵5文目を6文目・醬油2斗入1樽2文目5分を3文目・味噌2斗入1樽2文目を 上に続く
1852年	11月18日	嘉永5年	10月7日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今日種田流(鎗術)並びに剣術御名代が見分) 下から続く 玄米12文目・白米14文目・餅米14文目・白餅米16文目、津出御役銭: 上に続く
1852年	11月19日	嘉永5年	10月8日 曇	昨夜雪降 一尺程積 今日雪降 五寸程積 (赤石愛太郎の母殺害者吉之進の人相書き: 年齢34・5歳・背中一円手首迄ホリアザあり等々、当新穀1俵津出御印値段: 上に続く
1852年	11月20日	嘉永5年	10月9日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降
1852年	11月21日	嘉永5年	10月10日 晴	(今日剣術を御名代が見分)
1852年	11月22日	嘉永5年	10月11日 曇	申の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 下から続く 藤崎5ヶ組の大廻仕付高34523石5斗3升・内2438石2斗3升7合が当毛引き、古懸不動尊御出汗・神楽料等の手配をする)
1852年	11月23日	嘉永5年	10月12日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断 (和徳堀越大鰐尾崎大光寺猿賀6ヶ組の大廻検分表42968石1升9合・内3636石4斗1合が当毛引き、常盤増館浪岡田舎館 上に続く
1852年	11月24日	嘉永5年	10月13日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 巳の刻過止 今日雪少し降 午の刻頃より西南の風強し 酉の刻過止
1852年	11月25日	嘉永5年	10月14日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今日長刀見分、去月2日比丘尼亀尾(何者?)が病死)
1852年	11月26日	嘉永5年	10月15日 曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 三寸程積 (喜多村監物病死に付喜多村富弘方に御香典白銀30兩下し置かれる)
1852年	11月27日	嘉永5年	10月16日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1852年	11月28日	嘉永5年	10月17日 晴	酉の刻過より雨降 亥の刻頃止 (山上鉄太郎親才助が今晩病死、当7月5日夜在府町で申し合わせて小山内宇太郎に手傷を負わせた多分子供9人?に他出差し止め等の罰)
1852年	11月29日	嘉永5年	10月18日 曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (斎藤熊蔵・石山八十八鰻ヶ沢町・深浦町奉行に等の人事異動、大坂廻船の抜米を摘発した上乗下乗に御賞・昇格)
1852年	11月30日	嘉永5年	10月19日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止 午の刻頃雨降 酉の刻頃止 下から続く 45文目立とし御家中渡し御買い上げは4分増の45文目4分に申付ける)
1852年	12月1日	嘉永5年	10月20日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 仕れば1升2文目8厘余に相当・1升を2文目2分5厘1合売は2分2文に申付ける、当新穀初相場48文目立・3文目引下げ 上に続く
1852年	12月2日	嘉永5年	10月21日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る18日夜後潟組蓬田村で出火・類焼共11人の者共建家並びに土蔵稲草焼失・火元他村預け、当新酒仮値段は御定法で割合 上に続く
1852年	12月3日	嘉永5年	10月22日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当月17日迄30日間の荏種売値段段を御定法で割合すると水油1升到付12文目9分余に相当・1升を12文目9分1合売りは1文目2分5文に申し付ける)
1852年	12月4日	嘉永5年	10月23日 曇	
1852年	12月5日	嘉永5年	10月24日 曇	巳の刻頃より雨時々降 酉の刻過止 (御家中の祖母が岩木川で水死)
1852年	12月6日	嘉永5年	10月25日 曇	卯の刻過より雨時々降 夜二入同断 (御大工の御給分25俵2人扶持、来月朔日日食に付五時以前に登城するよう触れ(日食は9分半余で朝4時7分8時3分おはる)との事)
1852年	12月7日	嘉永5年	10月26日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻過止 酉の刻頃雨降 戌の刻頃止
1852年	12月8日	嘉永5年	10月27日 曇	(人事異動、漆仕立て増御用懸代官10人漆守手代上席9人を指名する・漆仕立ての者共の名が50ページくらいに書き連ねてある)
1852年	12月9日	嘉永5年	10月28日 曇	今日雪少し降 (青森町奉行に桜庭某等の人事異動)
1852年	12月10日	嘉永5年	10月29日 曇	今日雪少し降
1852年	12月11日	嘉永5年	11月1日 晴	昨夜雪少し降 日食9分半余 朝四時7分右の上よりかけ初屋九時5分甚しく八時3分左の上におはる(終る)
1852年	12月12日	嘉永5年	11月2日 曇	
1852年	12月13日	嘉永5年	11月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (江戸で人事異動)
1852年	12月14日	嘉永5年	11月4日 晴	
1852年	12月15日	嘉永5年	11月5日 曇	午の刻頃より雨時々降 酉の刻過止 (当年御献上鮭格別不漁、炭釜1枚より1日の出炭は8俵・月に10日休み20日焼出で5枚で10ヶ月で焼き出し8000俵)
1852年	12月16日	嘉永5年	11月6日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1852年	12月17日	嘉永5年	11月7日 曇	昨夜雪少し降 (当新穀津出(1俵)御印値段: 玄米12文目を20目・白米14文目を22文目・餅米14文目を22文目・白餅米16文目を24文目に申付ける)
1852年	12月18日	嘉永5年	11月8日 曇	巳の刻頃より小雨時々ふり 申の刻過止
1852年	12月19日	嘉永5年	11月9日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1852年	12月20日	嘉永5年	11月10日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (栽培していた人参の目形・値段等が書いてある: 人参の単位は両(重量40目＝斤)・この1両を品質により銀の1文目から5文目8分としている)
1852年	12月21日	嘉永5年	11月11日 晴	昨夜雪降 五寸程積
1852年	12月22日	嘉永5年	11月12日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (昨9日桑野木田村浄円寺が出火・本堂等焼失・15日の記述で禁足)
1852年	12月23日	嘉永5年	11月13日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積
1852年	12月24日	嘉永5年	11月14日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少しふり (去る10日暮れ六時半頃浦町組原別村で出火・類焼共2軒焼失・焼失稲乳は役人が見分・火元他村預け)
1852年	12月25日	嘉永5年	11月15日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (歩引渡しで難渋を理解したか100石につき150目の御手当てを下し置かれる)
1852年	12月26日	嘉永5年	11月16日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1852年	12月27日	嘉永5年	11月17日 晴	(内南大橋高欄廻り朽損、御家中(勘定人だから御目身以上)の娘が青森で隠売女)
1852年	12月28日	嘉永5年	11月18日 晴	(賈金作り犯の関係者として呼び出された6人を江戸に送る手続きを始める・付添役29人・延々と賈金の使用状況あり)
1852年	12月29日	嘉永5年	11月19日 晴	下から続く 御家中御買上は4分増に申付ける)
1852年	12月30日	嘉永5年	11月20日 晴	(賈金関係で出奔者の人相書き: 年齢46歳背5尺3寸位・年齢46歳若き方背高さ5尺位鼻ひぐき方(これは津軽弁かな?)等々、米価1俵に付2文目引下げ43匁に 上に続く
1852年	12月31日	嘉永5年	11月21日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積 (去る13日夕より14日朝迄十三潟大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月11日より12日朝迄氷張る、 欄外(*)に続く

(*)去年より3日遅く節に引合22日遅い)

1853年	1月1日	嘉永5年	11月22日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積	
1853年	1月2日	嘉永5年	11月23日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (公辺御呼出の者共牢前繰出し)	
1853年	1月3日	嘉永5年	11月24日	晴		
1853年	1月4日	嘉永5年	11月25日	曇	今日雪少し降	
1853年	1月5日	嘉永5年	11月26日	晴	下から続く 国産方御止め後以前の通り郡所取扱に仰せ付けられ……)	
1853年	1月6日	嘉永5年	11月27日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (今22日朝まで十三湯前後とも氷閉二相成、賈金関係者の人相書:年齢41歳中肉にて背5尺位等々、楮畑の儀は去る天保十亥年に	上に続く
1853年	1月7日	嘉永5年	11月28日	曇	(山上鉄太郎等の御検見方に御賞)	
1853年	1月8日	嘉永5年	11月29日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積	
1853年	1月9日	嘉永5年	11月30日	曇	今日雪少し降	
1853年	1月10日	嘉永5年	12月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 (津軽図書を御手廻組頭用人兼帯にとの人事異動)	
1853年	1月11日	嘉永5年	12月2日	曇	今日雪少し降 (仙台領の宿の家作に御手当て金3兩下し置く、御印1俵値段:玄米20目を14文目・白米22文目を16文目・餅米22文目を16文目・白餅米24文目を18文目に値下げ)	
1853年	1月12日	嘉永5年	12月3日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	
1853年	1月13日	嘉永5年	12月4日	曇	昨夜雪少し降 戌の刻頃小雨降 即刻止	
1853年	1月14日	嘉永5年	12月5日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今暁子の刻頃より雨時々ふり 辰の刻過雪鳴 即刻止 下から続く 斬罪・関係者は大赦以前として御用捨)	
1853年	1月15日	嘉永5年	12月6日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (一昨年3月9日に秋田の男達と喧嘩し1人を死亡させた八幡館村の男と当正月28日離縁の女を剃刀で殺害の男を取上で	上に続く
1853年	1月16日	嘉永5年	12月7日	曇	昨夜雪吹強し 雪五寸程積 今日雪降 四寸程積	
1853年	1月17日	嘉永5年	12月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1853年	1月18日	嘉永5年	12月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	1月19日	嘉永5年	12月10日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (米価追々引下げ1俵42文目御家中渡し御買上42文目4分)	
1853年	1月20日	嘉永5年	12月11日	曇	今日雪少し降 (送り帰され又戻って帯刀の越後の男を乞食小屋引回し見知らせの上入り込み禁止とする)	
1853年	1月21日	嘉永5年	12月12日	曇	昨夜雪降 三寸程積 (鯉ヶ沢町で傷害の3人を召捕り揚屋入り)	
1853年	1月22日	嘉永5年	12月13日	晴		
1853年	1月23日	嘉永5年	12月14日	曇	今日雪少し降 (湯ノ沢銀山下役……) 下から続く 白米16文目を14文目・餅米は白米と同じ・白餅米18文目を16文目に申付ける)	
1853年	1月24日	嘉永5年	12月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (人事異動) 下から続く 酢2斗入1樽1文目5分を1文目に値段下げ申付ける、両濱津出1俵御印値段:玄米14文目を12文目・	上に続く
1853年	1月25日	嘉永5年	12月16日	晴	(御印代酒2斗入1樽3文目5分を2文目5分・御役銭糶1俵6文目を5文目・醤油2斗入1樽3文目を2文目5分・味噌2斗入1樽3文目を2文目・白酒2斗入1樽4文目を3文目・	上に続く
1853年	1月26日	嘉永5年	12月17日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々ふり巳の刻過止 今日雪少し降	
1853年	1月27日	嘉永5年	12月18日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (漆役(名字帯刀御免)・漆小仕立(福館村手代對馬筒木板村の庄屋肩書きなし多数など)70人などを申付ける)	
1853年	1月28日	嘉永5年	12月19日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1853年	1月29日	嘉永5年	12月20日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積 (御印付御蔵米1俵青森49文目鯉ヶ沢48文目立とする)	
1853年	1月30日	嘉永5年	12月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積	
1853年	1月31日	嘉永5年	12月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1853年	2月1日	嘉永5年	12月23日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 下から続く 大豆津出御印1俵10文目とする)	
1853年	2月2日	嘉永5年	12月24日	曇	昨夜雪少し降 (去る20日夕赤石組田浦村で出火・類焼共7軒焼失・火元高無他村預け、去る20日暮れ舞戸村領坂ノ下田浦村で出火・借家とも8軒焼失(左と同じか)、	上に続く
1853年	2月3日	嘉永5年	12月25日	晴		
1853年	2月4日	嘉永5年	12月26日	曇	今日雪少し降 下から続く 尾太山に關し「煙毒」との用語あり)	
1853年	2月5日	嘉永5年	12月27日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (御備靱摺方掛合いに精勤として・多くの御蔵の立会並びに奉行に御賞(金500疋・金100疋・金200疋・金1両・鳥目300～600文)、	上に続く
1853年	2月6日	嘉永5年	12月28日	曇	今日雪少し降 (唐物抜け荷に関する注意の御書付あり、御献上の鮭格別不漁	
1853年	2月7日	嘉永5年	12月29日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (津軽越中守拝領中屋敷(品川領戸越村)を浜町に相對替え)	
1853年	2月8日	嘉永6年	正月1日	晴	昨夜雪少し降 (12月25日まで30日間の売出米値段を御定法で割合すると酒1升に付2文目1厘余・酒1升を2文目2分1合売りは2分1文に申付ける)	
1853年	2月9日	嘉永6年	正月2日	快晴		
1853年	2月10日	嘉永6年	正月3日	晴		
1853年	2月11日	嘉永6年	正月4日	晴		
1853年	2月12日	嘉永6年	正月5日	曇	今日雪少し降	
1853年	2月13日	嘉永6年	正月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	2月14日	嘉永6年	正月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	2月15日	嘉永6年	正月8日	晴		
1853年	2月16日	嘉永6年	正月9日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	2月17日	嘉永6年	正月10日	晴	昨夜雪少し降	
1853年	2月18日	嘉永6年	正月11日	曇	今日雪少し降 未の刻過小雨降 則刻止	
1853年	2月19日	嘉永6年	正月12日	快晴		
1853年	2月20日	嘉永6年	正月13日	晴	(江戸で人事異動、去る11日(12月11日)上使御使番を以て御鷹の雁拝領・御登城御礼、ケヘール筒(洋式先込め銃)出来との文言がある)	
1853年	2月21日	嘉永6年	正月14日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降	
1853年	2月22日	嘉永6年	正月15日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	2月23日	嘉永6年	正月16日	晴		
1853年	2月24日	嘉永6年	正月17日	晴		
1853年	2月25日	嘉永6年	正月18日	曇		
1853年	2月26日	嘉永6年	正月19日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪少し降	
1853年	2月27日	嘉永6年	正月20日	晴	(内南杉大橋御普請を当下向前に出来るように計画する・仮橋はその西の方に懸ける、去年11月3日に養母を殺害し逃げた男の人相書き:年齢35歳ふけ候方中肉中背等)	
1853年	2月28日	嘉永6年	正月21日	晴	(人事異動、廃田畑開墾の御代官加勢に御賞(金300疋)、昨夜五半時頃堀越組新里村で出火・類焼共3軒焼失・火元高無他村預け)	

1853年	3月1日	嘉永6年	正月22日	曇	昨夜雪少し降	
1853年	3月2日	嘉永6年	正月23日	晴		
1853年	3月3日	嘉永6年	正月24日	曇	昨夜雪少し降 (御賞、江戸稽古登り中の二唐松右衛門にケヘール筒2挺と和筒3挺の作成を申付ける)	
1853年	3月4日	嘉永6年	正月25日	曇	巳の刻頃より雨降 午の刻過止 午の刻頃雷鳴 雷即刻止 今日雪少し降	
1853年	3月5日	嘉永6年	正月26日	晴		
1853年	3月6日	嘉永6年	正月27日	晴		
1853年	3月7日	嘉永6年	正月28日	快晴	(御賞(金100疋))	
1853年	3月8日	嘉永6年	正月29日	晴	酉の刻過より小雨時々降 夜に入同断	
1853年	3月9日	嘉永6年	正月30日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 未の刻頃止 (去る24日暁青森御飯屋3つの御蔵屋根廻りが大風で吹剥げる、旧臘11日江戸で拝領の御鷹の雁を明朔日頂戴・高岡江献備)	
1853年	3月10日	嘉永6年	2月1日	晴	(御鯉鈍目形100目に付き代2文目4分を5割増の3文目6分値段に申付ける、12月24日記述の赤石組田浦村の火災の類焼家8軒に御米1俵潰家2軒に2斗宛御手当て下し置かれる)	
1853年	3月11日	嘉永6年	2月2日	曇	昨夜雪吹強し 雪三寸程積 今日雪降 五寸程積	
1853年	3月12日	嘉永6年	2月3日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1853年	3月13日	嘉永6年	2月4日	晴	(屋形様の御鷹の雁拝領に關して座当共に御配当89文目7分5厘下し置かれる)	
1853年	3月14日	嘉永6年	2月5日	快晴	(山方吟味役と山方締り役に尾太銅山の鉛に關し御賞(金100疋宛)・その他にも御賞(金3歩・同2歩・鳥目2貫800文・同2貫500文・同1貫500文・銀5両・銀3兩等々))	
1853年	3月15日	嘉永6年	2月6日	曇	今日雪少し降	
1853年	3月16日	嘉永6年	2月7日	曇	今日雪降 三寸程積	
1853年	3月17日	嘉永6年	2月8日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当兩都御廻船36艘の見込み・上乘下乗を推薦させる)	
1853年	3月18日	嘉永6年	2月9日	晴		
1853年	3月19日	嘉永6年	2月10日	晴	昨夜雪少し降 (……十八本度玉並びにハント玉150放値段下値に付……)	
1853年	3月20日	嘉永6年	2月11日	晴	昨夜雪少し降	
1853年	3月21日	嘉永6年	2月12日	快晴		
1853年	3月22日	嘉永6年	2月13日	曇	今暁子之刻過より雨降 申之刻過止 今暁寅之刻過雷鳴 則刻止	
1853年	3月23日	嘉永6年	2月14日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (佐野茂助を御用人に50石御加増等の人事異動、公儀御呼出の鰻ヶ沢町平助が去る14日・松木平村の助次郎が17日病死)	
1853年	3月24日	嘉永6年	2月15日	晴		
1853年	3月25日	嘉永6年	2月16日	晴		
1853年	3月26日	嘉永6年	2月17日	曇	午の刻過より小雨時々降 戌の刻過止	
1853年	3月27日	嘉永6年	2月18日	曇	(山上鉄太郎を御手廻故才助御給分に下し置かれる)	
1853年	3月28日	嘉永6年	2月19日	晴		
1853年	3月29日	嘉永6年	2月20日	快晴	(隠売女女芸者茶屋等12人を戸へ)	
1853年	3月30日	嘉永6年	2月21日	曇		
1853年	3月31日	嘉永6年	2月22日	曇		
1853年	4月1日	嘉永6年	2月23日	晴		
1853年	4月2日	嘉永6年	2月24日	晴		
1853年	4月3日	嘉永6年	2月25日	曇	申之刻過より雨時々降 夜二入同断	
1853年	4月4日	嘉永6年	2月26日	晴	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止	
1853年	4月5日	嘉永6年	2月27日	快晴	昨夜雪少し降 下から続く 1貫200文等を申付ける、若殿様(武之助)が去る15日御目見仰上げられる・御礼や人員配置が書いてある)	
1853年	4月6日	嘉永6年	2月28日	快晴	(水油値段を格別菜種高値に付当年限り1升を12文目1合1文目2分に申付ける、隠津出の越後新潟の船頭と水主を御米御取上げ帰帆以後当領立入禁止・関係者に過料	上に続く
1853年	4月7日	嘉永6年	2月29日	快晴	(唐牛昌考が牛痘種御買い下げを申し出る・申付ける)	
1853年	4月8日	嘉永6年	3月1日	曇	酉の刻過より雨時々降	
1853年	4月9日	嘉永6年	3月2日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 酉の刻頃止 巳の刻過雷鳴 則刻止 戌の刻頃地震少し (去月25日十三湍前後とも残らず氷明ける)	
1853年	4月10日	嘉永6年	3月3日	晴	5日から続く 去月24日朝までに十三湍大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は閏2月29日朝までに氷明ける・当年は5日早く節に引き合い19日早い)	
1853年	4月11日	嘉永6年	3月4日	晴	戌の刻頃より小雨時々降 (12月5日夜大坂御館入り山中新十郎の居宅が類焼・当藩の借財が65000両でありそれなりに対応しているらしい)	
1853年	4月12日	嘉永6年	3月5日	曇	昨夜より之小雨及今日 時々降 巳之刻過止 (能州輪島塗の商人多数が御国許に入り込み売捌いている・会津塗を含み一手商以外の者は以来御国入り差し止めとする、	3日に続く
1853年	4月13日	嘉永6年	3月6日	曇	昨夜雪少し降	
1853年	4月14日	嘉永6年	3月7日	曇		
1853年	4月15日	嘉永6年	3月8日	曇	今日雪少し降 (各地の漆役13人(全員苗字付)に10石宛御免引き、去る6日夜鰻ヶ沢町で出火・子供の17日(忌)に付墓前で花火供養をしたもの・犯人戸へ5日)	
1853年	4月16日	嘉永6年	3月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積	
1853年	4月17日	嘉永6年	3月10日	曇	(去る3日夜広須組鶴見里村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け)	
1853年	4月18日	嘉永6年	3月11日	曇	今暁寅之刻過より雨時々降 午之刻過止 (人事異動、若殿様御目見仰せ上げに關し座当共1人に15文宛89文目5分5厘下し置かれる)	
1853年	4月19日	嘉永6年	3月12日	晴	(去る9日夜四時頃木作新田上丑潟村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け)	
1853年	4月20日	嘉永6年	3月13日	晴		
1853年	4月21日	嘉永6年	3月14日	曇	今暁丑之刻過小雨降 則刻止 (去る24日屋形様が御発駕を来月27日と仰せ出される、江戸で人事異動、公儀御呼出の者の内鰻ヶ沢町専吉が浅草溜で病死)	
1853年	4月22日	嘉永6年	3月15日	快晴	(山上鉄太郎が親才助拝領の御召御紋形御上下着用願いを申し出る・願いの通り仰せ付ける、森岡民部を一問所に預っていた多田三左衛門が病死)	
1853年	4月23日	嘉永6年	3月16日	快晴	下から続く 両組炭と同様1俵2文目5分値段で家中に御払い申付ける)	
1853年	4月24日	嘉永6年	3月17日	快晴	(人事異動、三ノ御丸御錢蔵壁破り・外壁並びに壁一尺五寸四方位1ヶ所右下方江五寸四方位1ヶ所切り破り候江共内板切破り兼ね錢に別状なし、高値の薄市炭2690俵を	上に続く
1853年	4月25日	嘉永6年	3月18日	晴	(松前伊豆守様が御下向で青森町本陣村林某宅に止宿している)	
1853年	4月26日	嘉永6年	3月19日	晴		
1853年	4月27日	嘉永6年	3月20日	曇	今暁寅之刻過より雨時々降 未之刻過止 (昨年虫付等で格別劣昨にて……村々から10017俵錢10貫目拝借願い・2018俵を貸し出している)	
1853年	4月28日	嘉永6年	3月21日	曇	未の刻過より雨降 申之刻過止	
1853年	4月29日	嘉永6年	3月22日	曇		
1853年	4月30日	嘉永6年	3月23日	曇	巳之刻過より雨時々降	

1853年	5月1日	嘉永6年	3月24日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止
1853年	5月2日	嘉永6年	3月25日 晴	戌之刻過より雨時々降
1853年	5月3日	嘉永6年	3月26日 曇	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止
1853年	5月4日	嘉永6年	3月27日 快晴	(江戸で人事異動、大砲打方必要の品に付舶来セコト御買入仰付ける、去る12月朔日上方御館入りの内御扶持下され候面々の内当時御用向きもなく当分下され方お断り仰付けられる)
1853年	5月5日	嘉永6年	3月28日 晴	(昨27日屋形様御発駕・来月15日御着城予定)
1853年	5月6日	嘉永6年	3月29日 曇	辰之刻過より雨時々降
1853年	5月7日	嘉永6年	3月30日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻過止
1853年	5月8日	嘉永6年	4月1日 晴	(人事異動)
1853年	5月9日	嘉永6年	4月2日 晴	(江戸から11400両の送金依頼(内容あり)・3000両は送金済み5000両は今回送金残り3730両は今後との事)
1853年	5月10日	嘉永6年	4月3日 晴	下から続く 蜷貝町本家47借家16土蔵1・ヱ本家272軒借家135軒土蔵10ヶ所木小屋数百ヶ所その他を焼失)
1853年	5月11日	嘉永6年	4月4日 快晴	(人事異動、一昨2日夜五半時青森町で大火・大町米町濱町蜷貝町が焼失) 下から続く 本家112借家62土蔵2・米町本家72借家32土蔵4・濱町本家47借家25土蔵3・ 上に続く
1853年	5月12日	嘉永6年	4月5日 晴	(去る2日夜大鰐組高野新田村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け、昨夜青森の大火の火元は大町木綿屋米沢屋・南風烈しく今朝六時半頃鎮火・類焼軒数:大町 上に続く
1853年	5月13日	嘉永6年	4月6日 曇	午之刻過より小雨時々降 夜二入同断
1853年	5月14日	嘉永6年	4月7日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断
1853年	5月15日	嘉永6年	4月8日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 午之刻過止 (町中湯銭は去月中1人に付7文・流木高値で8月中迄7文に申付ける、18日江戸発の御関札役が今日到着)
1853年	5月16日	嘉永6年	4月9日 曇	戌之刻過より雨時々降
1853年	5月17日	嘉永6年	4月10日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜に入同断 (山田登を漆方御用懸に等の人事異動、着城当日より胴長太鼓に釣替える、屋形様の下向を27日から1日早め26日・御不例に付晦日とする)
1853年	5月18日	嘉永6年	4月11日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申之刻頃止 (大砲打ち方必要セコト(秒時計のことか)等の御買上代等326両3歩と銭6文目3分5厘を金がないが思し召しなので江戸に送ることとする)
1853年	5月19日	嘉永6年	4月12日 晴	(若殿様の御方並・御袖留・御前髪髪の3回の祝儀に關し座当共359人に鳥目15文宛都合3回分269文目2分5厘下し置かれる
1853年	5月20日	嘉永6年	4月13日 晴	
1853年	5月21日	嘉永6年	4月14日 晴	(改修中の未申の御矢倉の屋根にチャン(緑青)を塗る提案あり從來どおり棚葺そのままに申付ける)
1853年	5月22日	嘉永6年	4月15日 曇	未の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1853年	5月23日	嘉永6年	4月16日 曇	昨夜より之小雨今日二及 時々降 午之刻頃止
1853年	5月24日	嘉永6年	4月17日 曇	今暁寅之刻頃雨降 則刻止 巳之刻過より小雨時々降 申の刻頃止
1853年	5月25日	嘉永6年	4月18日 快晴	
1853年	5月26日	嘉永6年	4月19日 快晴	下から続く 相見え南部領尻谷之方に颯通、江戸で人事異動、江戸で若殿様の御祝として多数に御祝儀下し置かれる)
1853年	5月27日	嘉永6年	4月20日 快晴	戌の刻頃より雷雨 雷則刻止 雨時々降 (鯉ヶ沢町新地町で酒の上で傷害の男を親預け・関係者を役下げ等、2月15日タハツ半頃三厩沖合2里半程に三本櫓の異国船一艘 上に続く
1853年	5月28日	嘉永6年	4月21日 晴	昨夜よりの雨今暁寅之刻頃止 戌の刻頃より雨時々降 亥の刻頃より雷鳴 (去月24日若殿様に御合力金として2000石進められる旨勘定奉行に申し使わす)
1853年	5月29日	嘉永6年	4月22日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 巳の刻過止 昨夜よりの雷鳴今暁子の刻過止 (不明日に小沢村の三左衛門が縊死)
1853年	5月30日	嘉永6年	4月23日 曇	(二之丸御宝蔵切り破り所々で盗みの男に3鞭居町徘徊是まで通り) 下から続く 亥年は4文目・亥年から子年は3文目8分5厘・子年から4文目2分)
1853年	5月31日	嘉永6年	4月24日 快晴	(西御郭御矢倉下に摘草の者が往来する、御馬1疋の飼料代御定2文目5分(大豆1俵10文目位の節の御定らしい)・その後去る酉年(今年は丑年)から戌年は3文目・戌年から 上に続く
1853年	6月1日	嘉永6年	4月25日 快晴	巳の刻過地震少し
1853年	6月2日	嘉永6年	4月26日 晴	
1853年	6月3日	嘉永6年	4月27日 晴	(青森大火の火元の入寺愼を来月4日御免)
1853年	6月4日	嘉永6年	4月28日 快晴	(去る25日昼九時半頃飯詰組高野村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け、鯉ヶ沢湊口より御差止の会津塗を荷揚げした者がある)
1853年	6月5日	嘉永6年	4月29日 快晴	
1853年	6月6日	嘉永6年	4月30日 晴	
1853年	6月7日	嘉永6年	5月1日 快晴	(去る三厩詰の際の武器のたしなみが良いと田井某大道寺某等に銀子2枚を下し置かれる・その他にも御賞(金300疋・200疋)、青森町大火の被災者に御手当米500俵下し置かれる)
1853年	6月8日	嘉永6年	5月2日 晴	(高田村の火祭りの節喧嘩で村の男を打擲した男に過料銭900文等・この際出奔の男は大谷山で死亡か)
1853年	6月9日	嘉永6年	5月3日 曇	下から続く 下し置かれる、油川より宇鉄迄当時(現在の意)有船776艘・これは文化初年の111艘より668艘?増えている・この船で俵物を上げると……、野内等の漁船数もある)
1853年	6月10日	嘉永6年	5月4日 曇	巳の刻過小雨降 則刻止 (当春大鰐組居土村の猟師の二男が赤石組岩崎領で熊を追駆中に転落死・吊料(吊料と書くべき所をこのように書く場合もあるらしい)銭100目を 上に続く
1853年	6月11日	嘉永6年	5月5日 晴	
1853年	6月12日	嘉永6年	5月6日 快晴	
1853年	6月13日	嘉永6年	5月7日 快晴	申の刻過雷鳴 亥の刻頃止 酉之刻過雨降 亥の刻過止 酉の刻過地震少し
1853年	6月14日	嘉永6年	5月8日 晴	
1853年	6月15日	嘉永6年	5月9日 快晴	
1853年	6月16日	嘉永6年	5月10日 快晴	(赤石組晴山村で隠炭・過料300目炭208俵御取上げなど、関係庄屋にも過料、古小豆300俵を1俵に付御印値段6文目5分立で津出を申付ける)
1853年	6月17日	嘉永6年	5月11日 快晴	(当春より不正続きで消苗多い・稗種植える所もある、鯉ヶ沢沼硝蔵5尺に6尺に御取建仰せ付けられる)
1853年	6月18日	嘉永6年	5月12日 晴	(大光寺尾崎猿賀3ヶ組御代官・手代に御賞等) 下から続く 江戸で人事異動)
1853年	6月19日	嘉永6年	5月13日 晴	申の刻過より雨降 戌の刻過止 (当丑年江戸廻米30000石(家中扶持米18000・払米12000・定例高53342石)・大坂廻米10000石(家中扶持米8000・払米2000・定例高37250石)、 上に続く
1853年	6月20日	嘉永6年	5月14日 晴	(賈金関係で呼び出された者達の付添人数を選んでいる) 下から続く 御役所土蔵仲間小屋など焼失)
1853年	6月21日	嘉永6年	5月15日 曇	卯の刻頃より雨降 夜に入同断 (去る12日昼四時頃尾太山南蛭床屋山吹銀入用灰焼場所(床屋は床家の古文書らしい誤記:溶釜炉?)より出火・折節西風烈しく南蛭金場並びに 上に続く
1853年	6月22日	嘉永6年	5月16日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 申の刻過小雨降 則刻止
1853年	6月23日	嘉永6年	5月17日 快晴	
1853年	6月24日	嘉永6年	5月18日 晴	(この度公儀御呼び出しの者唯今半牢繰り出し)
1853年	6月25日	嘉永6年	5月19日 晴	
1853年	6月26日	嘉永6年	5月20日 快晴	
1853年	6月27日	嘉永6年	5月21日 快晴	(青田の内笛吹くなとの触れ)
1853年	6月28日	嘉永6年	5月22日 快晴	
1853年	6月29日	嘉永6年	5月23日 曇	今暁丑の刻過より雨降 卯の刻過止
1853年	6月30日	嘉永6年	5月24日 曇	酉の刻過雨降 則刻止

1853年	7月1日	嘉永6年	5月25日 晴	(人事異動、去る子年○(金ヘンに色という漢字でカンナと読み漆を採るために木に刻みつけた傷らしい)入木14575本・当丑年13648本:漆を増やしている)
1853年	7月2日	嘉永6年	5月26日 晴	酉の刻頃小雨降 則刻止
1853年	7月3日	嘉永6年	5月27日 晴	
1853年	7月4日	嘉永6年	5月28日 晴	卯の刻過雨降 則刻止
1853年	7月5日	嘉永6年	5月29日 晴	
1853年	7月6日	嘉永6年	6月1日 快晴	
1853年	7月7日	嘉永6年	6月2日 曇	
1853年	7月8日	嘉永6年	6月3日 快晴	
1853年	7月9日	嘉永6年	6月4日 快晴	
1853年	7月10日	嘉永6年	6月5日 晴	(当新菜種値段下値・当月より水油1升8文目5分・1合売りは8分5厘に申し付ける)
1853年	7月11日	嘉永6年	6月6日 晴	
1853年	7月12日	嘉永6年	6月7日 快晴	(当丑年102歳の生涯2人扶持の佐五左衛門の母が病死)
1853年	7月13日	嘉永6年	6月8日 快晴	(白川駅飛御宿から座敷出来て御金100両拝借願い・御手当金5両下し置かれる)
1853年	7月14日	嘉永6年	6月9日 快晴	
1853年	7月15日	嘉永6年	6月10日 快晴	
1853年	7月16日	嘉永6年	6月11日 快晴	未の刻頃より雨降 雷鳴 申の刻過止 (槍の柄は2間柄で大抵3朱位1丈で2朱位、此の頃に至り照続二付五山で風雨順時重き御祈禱を仰せ付けられる)
1853年	7月17日	嘉永6年	6月12日 曇	未の刻過より雨降 則刻止 未の刻頃雷鳴 則刻止
1853年	7月18日	嘉永6年	6月13日 晴	未の刻頃雷鳴 則刻止
1853年	7月19日	嘉永6年	6月14日 晴	
1853年	7月20日	嘉永6年	6月15日 曇	未の刻頃より雨降 則刻止
1853年	7月21日	嘉永6年	6月16日 快晴	下から続く 御用人9人に60俵ツツ・三奉行作事奉行等16人に30俵ツツ貸渡す、此頃照続二付百沢下居宮並びに大堂で風雨順時重き御祈禱を仰せ付けられる)
1853年	7月22日	嘉永6年	6月17日 快晴	(江戸に稽古登りの山田貞一が昨夜到着、薄市炭の御払残り1869俵を1俵に付2文目3分で家老衆2人に100俵ツツ・御城代に80俵ツツ・三組頭11人に40俵ツツ・ 上に続く
1853年	7月23日	嘉永6年	6月18日 快晴	(この節照続田方湯水二付在四社で雨乞いの御祈禱を仰せ付けられる) 下から続く 警固とも30人・旗差の者共6人・大筒方手伝いの足軽3人)する)
1853年	7月24日	嘉永6年	6月19日 晴	下から続く 昨9日異国船が内海に乗り入れる・本多東作隊を編成(番頭・役旗奉行・役長柄奉行・兵士19人・御医者1人・大筒方3人・勘定小頭御徒目付等4人・足軽が 上に続く
1853年	7月25日	嘉永6年	6月20日 晴	(佐藤栄吉が今晚病死) 下から続く 台共2・鉄500目玉筒1挺・同台1・鉄10文目玉筒3挺・鉄8文目玉ヶへール筒2挺・4貫500目鉄実丸50・4貫500目鉄空丸50・3貫目鉄空丸50 上に続く
1853年	7月26日	嘉永6年	6月21日 快晴	(屋形様御腹瀉で御発駕御延引、浦賀御閑所を通った武器弾薬等:4貫500目玉唐銅カノン筒1挺・銅二重車代1輛・13貫700目玉唐銅モルチール筒1挺・同台並びに辻(すべり) 上に続く
1853年	7月27日	嘉永6年	6月22日 快晴	
1853年	7月28日	嘉永6年	6月23日 快晴	(浦賀表に渡来の異国船が去る12日退船、此の頃所々で御祈禱したが今もって照続く・長勝寺で雨乞いの重き御祈禱を仰せ付けられる、屋形様が病気で動けないで居る)
1853年	7月29日	嘉永6年	6月24日 晴	午の刻過雷鳴 則刻止 (当年の菜種は上の種で45文目次で39文目位)
1853年	7月30日	嘉永6年	6月25日 曇	未の刻過より雷鳴 申の刻過止 酉の刻過雨降 則刻止
1853年	7月31日	嘉永6年	6月26日 曇	未の刻頃より雷鳴 申の刻過止 未の刻過ぎより雨時々降 戌の刻過止
1853年	8月1日	嘉永6年	6月27日 晴	今晚丑の刻過雨降 則刻止 (人事異動)
1853年	8月2日	嘉永6年	6月28日 晴	(人事異動)
1853年	8月3日	嘉永6年	6月29日 快晴	下から続く 大赦以前として10里四方追放大場御構いとする)
1853年	8月4日	嘉永6年	6月30日 曇	午の刻頃より小雨降 未の刻過止 (手段米をした地域の庄屋に過料銭600文、償金使いの人相書き:年齢61歳背5尺3寸位等々、作事普請方から金子26両3歩を盗み取った男を 上に続く
1853年	8月5日	嘉永6年	7月1日 晴	
1853年	8月6日	嘉永6年	7月2日 快晴	(若殿様関連人事異動)
1853年	8月7日	嘉永6年	7月3日 快晴	
1853年	8月8日	嘉永6年	7月4日 快晴	下から続く 異国船渡来に関し御目見以上の供登の際甲冑持参すべしとの達しあり)
1853年	8月9日	嘉永6年	7月5日 快晴	(赤石愛太郎が9月の母の殺人犯らしいものを大館で発見・召捕り連行したいと15日殺人の暇を申し出る・町目付と町同心を同道させる) 下から続く ・大船1艘、 上に続く
1853年	8月10日	嘉永6年	7月6日 快晴	下から続く 去月2日夜五半時過青森大火の幕府への報告:家466軒・土蔵10ヶ所・木小屋数100ヶ所・浦番所2ヶ所・同長屋1ヶ所・手船道具入小屋1ヶ所・帆船雪荷?1ヶ所 上に続く
1853年	8月11日	嘉永6年	7月7日 快晴	(水練教授方の御徒に御賞(銀2両ツツ)) 下から続く 公儀御呼出の夕顔関村の男牢死・差添登りの舞戸村役が病死、1日早着の足軽2人に御酒代鳥目1貫500文ツツ、 上に続く
1853年	8月12日	嘉永6年	7月8日 快晴	(大鰐村加賀助と兵左衛門より初米の出穂差上げる・4月29日植付61日目遅速なし・節に引合3日早い、頃日御堀沿で釣並びに打網等の者あり・心得違いの触れ、人事異動、 上に続く
1853年	8月13日	嘉永6年	7月9日 快晴	(盗賊と知って留め置き碇ヶ関口忍び通った男2人に24鞭五里四方追放・盗みの男2人に6鞭3鞭居村徘徊是まで通り・関係者に過料等の罰)
1853年	8月14日	嘉永6年	7月10日 快晴	今晚寅之刻過雨降 則刻止
1853年	8月15日	嘉永6年	7月11日 快晴	
1853年	8月16日	嘉永6年	7月12日 曇	巳の刻頃より雨時々降 夜に入間断 (当江戸詰合の内甲冑取持ちは横山某など7人のみ)
1853年	8月17日	嘉永6年	7月13日 曇	昨夜よりの雨今晚丑之刻頃止 未の刻頃小雨降 則刻止
1853年	8月18日	嘉永6年	7月14日 晴	
1853年	8月19日	嘉永6年	7月15日 快晴	
1853年	8月20日	嘉永6年	7月16日 快晴	村雨少々降
1853年	8月21日	嘉永6年	7月17日 快晴	(御賞(銀3両))
1853年	8月22日	嘉永6年	7月18日 快晴	(米価追々引下・(1俵を)39文目・御家中渡し御買上3文目引下げ39文目4分とする)
1853年	8月23日	嘉永6年	7月19日 快晴	(去る16日夜紺屋町上番前の2人が手傷を受ける、嘉瀬村の山を一昨年11月以前に伐り荒し野火を入れた男や見逃した男達に大赦以前として過料3貫600文等々の罰)
1853年	8月24日	嘉永6年	7月20日 快晴	下から続く 兵士前50領・与力前30領・足軽前50領と申付ける)
1853年	8月25日	嘉永6年	7月21日 快晴	(南部領百姓共七戸並びに野辺地まで蜂起の風説・野内町奉行所に大組足軽と諸手足軽(警護1人を含む)11人を町奉行配下に入れる、江戸の登りの甲冑:者頭前6領・ 上に続く
1853年	8月26日	嘉永6年	7月22日 快晴	
1853年	8月27日	嘉永6年	7月23日 晴	
1853年	8月28日	嘉永6年	7月24日 晴	
1853年	8月29日	嘉永6年	7月25日 曇	申の刻頃雨降 則刻止 今晚子の刻過小雨降 則刻止 (来る27日御初米差上げるとの申し出あり)
1853年	8月30日	嘉永6年	7月26日 快晴	
1853年	8月31日	嘉永6年	7月27日 快晴	(野内町奉行所に派遣の足軽を帰す、多分初米上がる)

1853年	9月1日	嘉永6年	7月28日 晴	(当年の初米は5月7日植付7月22日鎌入りで75日目・昨年は4月29日植付7月18日鎌入れで78日・去年に比べ3日早く節に引き合い6日早い)
1853年	9月2日	嘉永6年	7月29日 曇	今暁子の刻過より雨時々降 丑の刻過より雷鳴時々 申の刻過雷雨止
1853年	9月3日	嘉永6年	8月1日 晴	(人事異動)
1853年	9月4日	嘉永6年	8月2日 快晴	
1853年	9月5日	嘉永6年	8月3日 晴	
1853年	9月6日	嘉永6年	8月4日 曇	午の刻頃より雨降 未の刻頃止 (去月22日公方様薨御(幕府第十二代將軍家慶が死んだということ)、後湯組一本木村の角力見物で喧嘩・今別の男が刀傷で死亡・深手)
1853年	9月7日	嘉永6年	8月5日 晴	
1853年	9月8日	嘉永6年	8月6日 晴	8日から続く 用人まで申し出るように、去月29日朝五時頃相馬川出水・角丸太等が322本位流失)
1853年	9月9日	嘉永6年	8月7日 曇	未の刻過より雨降 申の刻過止 (公邊より御渡しになる合衆国書翰(しょかん:手紙)寫御渡しの儀に付明8日九浦町奉行以上・兵学師範家を残らず登城させる)
1853年	9月10日	嘉永6年	8月8日 曇	申の刻頃より雨降 夜に入同断 (御家老口達(意識):この度浦賀表に渡来のアメリカ船よりの書翰の和訳が届いた・国家の一大事であり腹蔵なく当月20日までに月番 6日に続く
1853年	9月11日	嘉永6年	8月9日 曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 午の刻頃より雨降 申の刻過止
1853年	9月12日	嘉永6年	8月10日 晴	
1853年	9月13日	嘉永6年	8月11日 快晴	
1853年	9月14日	嘉永6年	8月12日 晴	
1853年	9月15日	嘉永6年	8月13日 曇	今暁丑の刻頃より雨時々降 申の刻過止
1853年	9月16日	嘉永6年	8月14日 晴	申の刻過より雨時々降 夜に入同断
1853年	9月17日	嘉永6年	8月15日 晴	昨夜よりの雨今暁丑の刻頃止 (人事異動、御賞、流木を隠し上げるなどの触れ)
1853年	9月18日	嘉永6年	8月16日 曇	辰の刻過小雨降 即刻止 (和合構え?で高利貸し付け……多数が僕、御用研師が預った大小を安物に取り替えて上納……:時代ですな)
1853年	9月19日	嘉永6年	8月17日 快晴	(御家中渡御買上2文目引下げ37文目立・これに4分増で来る21日渡よりお買い上げを申付ける)
1853年	9月20日	嘉永6年	8月18日 晴	今暁寅の刻過より雷雨 雪雨降 卯の刻頃止 (熟作の菜種の売出しが不足・買占め人を詮索する・どの部署が詮索するかもめている?)
1853年	9月21日	嘉永6年	8月19日 快晴	
1853年	9月22日	嘉永6年	8月20日 晴	
1853年	9月23日	嘉永6年	8月21日 晴	
1853年	9月24日	嘉永6年	8月22日 曇	辰の刻頃より雨時々降 午の刻過止
1853年	9月25日	嘉永6年	8月23日 快晴	
1853年	9月26日	嘉永6年	8月24日 曇	巳の刻過より雨時々降 未の刻頃止 (8日に申渡しに異国船よりの書翰についての存知寄りが今もって申し出なし・有無を報告するよう仰せ付けている、塩硝1斤上で6文目・下で4文目5分)
1853年	9月27日	嘉永6年	8月25日 晴	(今24日青森町で病気の男が他家で自害死)
1853年	9月28日	嘉永6年	8月26日 快晴	(今日大矢場で御名代御家老が射術見分) 下から続く 日限来る29日と仰せ出される、公邊より口達:儉約に努め防禦武備に力を用いよとのこと、江戸で人事異動)
1853年	9月29日	嘉永6年	8月27日 快晴	(似せ金で江戸送りの3人が藩に御引渡し・長々入牢、去月10日昼九半時頃龍濱崎沖合い2里ほどに三本櫓の異国船一艘が松前小嶋の方より丑寅の方に颯通、屋形様御下向 上に続く
1853年	9月30日	嘉永6年	8月28日 曇	
1853年	10月1日	嘉永6年	8月29日 曇	未の刻頃小雨降 即刻止
1853年	10月2日	嘉永6年	8月30日 曇	未の刻過雨降 即刻止 (今日南沼池大矢場で御名代(家老)が射芸見分)
1853年	10月3日	嘉永6年	9月1日 曇	(人事異動、青森の御台場に4貫500目カノン並びに13貫モルチール2挺御備え予定・準備している)
1853年	10月4日	嘉永6年	9月2日 曇	卯の刻頃より雨降 午の刻過止 ((似せ金事件の付添が江戸で病死してこの後任を選んだが)近日登りの族(家中)に同道したいとの申し出・認める)
1853年	10月5日	嘉永6年	9月3日 曇	卯の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 岩木山江雪初而見ゆる (大館に居た赤石愛太郎の母の殺人容疑者は別人・謝礼などして帰る)
1853年	10月6日	嘉永6年	9月4日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 午の刻頃止 (7月1日江戸発の7日振りの飛脚(大組足軽・諸手足軽)の道中の逗留がはっきりしない申し出・動料の内5俵ツツ引下げ役下げ)
1853年	10月7日	嘉永6年	9月5日 曇	午の刻過より雨時々降 申の刻頃止
1853年	10月8日	嘉永6年	9月6日 曇	午の刻頃雨降 即刻止
1853年	10月9日	嘉永6年	9月7日 快晴	(人事異動)
1853年	10月10日	嘉永6年	9月8日 快晴	(今日外馬場で馬術御名代が見分、この度塩硝焚増し方仰せ付けられ候に付……) 下から続く 御取上げのみ、御手廻山上鉄太郎等を御検見本手に仰せ付ける)
1853年	10月11日	嘉永6年	9月9日 快晴	(一手販売が決まる前に注文していた輪島塗が髹ヶ沢・深浦に入っている・余儀なしとしてこの度限り荷揚げ) 下から続く 同1巻但し長2丈高4尺5寸)・大赦以前として 上に続く
1853年	10月12日	嘉永6年	9月10日 曇	卯の刻頃小雨降 即刻止 (尾崎村で割木棒切取押える(1巻但長2丈高3尺8寸・同1巻但長2丈高5尺・同1巻但長1丈2尺高5尺・同1巻但長2丈高4尺5寸・ 上に続く
1853年	10月13日	嘉永6年	9月11日 晴	(所持する船の登録をごまかし過料2人・他領名目で乗り回す船もある)
1853年	10月14日	嘉永6年	9月12日 快晴	(今日外馬場で御名代御家老が馬術見分)
1853年	10月15日	嘉永6年	9月13日 快晴	(江戸で異国船渡来の節御人数差出す砌の士大將に加藤清兵衛を等の人事異動) 下から続く 江戸で人事異動)
1853年	10月16日	嘉永6年	9月14日 快晴	(今暁間宮求馬が病死、5月18日より6月18日まで30日間の菜種油平均相場と御定法では水油1升到付8文目1分8厘余に相当・1升を8文目5分に居(すえ?)値段に申付ける、 上に続く
1853年	10月17日	嘉永6年	9月15日 快晴	(今日外馬場で御名代御家老が馬術見分) 下から続く 大暑に相成り候処望み人の族何れも冷氣に相成り候節(種法仕りたき旨にて種貯えおき候処この節に至り種枯燥……)
1853年	10月18日	嘉永6年	9月16日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 仰せ付けられ候牛痘種法仕り候処いずれも宜しく発生仕りそれより種を取り段々取続き罷り有り候処当夏に至り格別 上に続く
1853年	10月19日	嘉永6年	9月17日 曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻頃止 (流木高値で去月湯銭1人につき7文ツツ申し受けた・当年は水不足で流木が流れてこず高値・これ迄の通り7文ツツとする、当正月御渡し 上に続く
1853年	10月20日	嘉永6年	9月18日 曇	未の刻過より小雨時々降 戌の刻過止 (今日八時過ぎ屋形様御着城)
1853年	10月21日	嘉永6年	9月19日 快晴	
1853年	10月22日	嘉永6年	9月20日 晴	申の刻頃より小雨時々降 夜に入同断 (塩硝(焰硝)不足で(砲術)師範家7家にも作らせるかもめている?)
1853年	10月23日	嘉永6年	9月21日 曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 戌の刻過止 (人事異動)
1853年	10月24日	嘉永6年	9月22日 曇	今暁寅の刻頃より小雨時々降 未の刻過止 (両濱津出御印(1俵):玄米18文目を23文目・白米20目を25文目・餅米20目を25文目・白餅米22文目を27文目に値段上げ申しつける)
1853年	10月25日	嘉永6年	9月23日 曇	
1853年	10月26日	嘉永6年	9月24日 晴	今暁丑の刻頃より雨降 卯の刻頃止 (八幡宮祭礼・神輿通御・屋形様が御供揃いで三之丸に入り高覧)
1853年	10月27日	嘉永6年	9月25日 曇	
1853年	10月28日	嘉永6年	9月26日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜に入同断
1853年	10月29日	嘉永6年	9月27日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 申の刻過止 下から続く 1900両余の内500両を返し1400両余は10ヵ年年賦にし髹ヶ沢御印付の米3000俵を……判らん・不満があれば原文を見て!)
1853年	10月30日	嘉永6年	9月28日 晴	(津軽図書を家老に等の多数の人事異動、去る22日昼四時頃金木組薄市村で出火・類焼共3軒焼失・火元借宅居村預け、越前三国から借金取りが来ている・利息切捨て元金 上に続く
1853年	10月31日	嘉永6年	9月29日 晴	

1853年	11月1日	嘉永6年	10月1日 晴	(長崎慶助を者頭格・佐藤弓太郎を御馬廻三番組に等の人事異動)	下から続く	公儀より諸大名の大船製造御免の通達あり)
1853年	11月2日	嘉永6年	10月2日 曇	卯の刻頃より小雨時々降 戌の刻頃止 (所々の村が難洪に付御手山の袖取りを許している)	下から続く	龍濱崎沖合4里程に三本櫓の異国船一艘が丑寅の方に去る、上に続く
1853年	11月3日	嘉永6年	10月3日 曇	(江戸近海に異国船渡来の節の非常御人数30騎は鉄砲専用の御備組で全員鉄砲を用いる、御家中の二三男に至る迄幼長に拘らず砲術稽古を仰せ付ける。去月19日朝五時頃		上に続く
1853年	11月4日	嘉永6年	10月4日 曇	辰の刻頃より雨時々降 申の刻頃止	下から続く	1樽2文目5分・以下御役銭・糶1俵5文目・醬油2斗入り1樽2文目・白酒2斗入り1樽3文目・酢2斗入り1樽1文目)
1853年	11月5日	嘉永6年	10月5日 晴	(青森から御米3875俵を積み入れた江戸御廻船の遠州船が南部鍛ヶ崎で潤懸中に糶米の内11俵を陸上げ売払う・報告した上下乗に御酒代下し置かれる、御印代:酒2斗入り		上に続く
1853年	11月6日	嘉永6年	10月6日 晴	(沢山悪いことをした無宿者を大赦以前として10里四方追放)		
1853年	11月7日	嘉永6年	10月7日 晴			
1853年	11月8日	嘉永6年	10月8日 晴	(当秋津出御印(1俵):玄米15文目・白米17文目・餅米17文目・白餅米19文目)		
1853年	11月9日	嘉永6年	10月9日 快晴	(去月28日酉の刻江戸発の7日振りの飛脚が10日ぶりに今日到着・急用の出来だろうが無茶な飛脚・日照時間が短い季節に日が暮れた後も1日に数えている)		
1853年	11月10日	嘉永6年	10月10日 曇	午の刻過小雨降 則刻止 申の刻過より雨時々降 夜に入同断 (松前行き焰硝2貫500目入り4樽冲出)		
1853年	11月11日	嘉永6年	10月11日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 今日霰少しふり (人事異動)		
1853年	11月12日	嘉永6年	10月12日 曇	今日雪少し降 (高嶋流の伝授を受けた阿部某千葉某が申し出:ホンベン(ボンベン:大砲の破綻弾か)玉並びに実丸タライハス(判りません)共外師範家同様……)		
1853年	11月13日	嘉永6年	10月13日 晴			
1853年	11月14日	嘉永6年	10月14日 曇	巳の刻過より小雨降 即刻止 (佐竹様御家中が砲術の研修に来ている)		
1853年	11月15日	嘉永6年	10月15日 晴	戌の刻過より雨降 夜に入同断 (御賞、唐牛昌考の牛痘種法のことを書いてある、一昨13日朝五時頃横内組久栗坂村で出火・類焼共64軒焼失・火元他村預け)		
1853年	11月16日	嘉永6年	10月16日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断		
1853年	11月17日	嘉永6年	10月17日 曇	昨夜よりの雨今晚子の刻過止 (山田登を大寄合格用人手伝いに等の人事異動)		
1853年	11月18日	嘉永6年	10月18日 晴	(この節町々売り出し米1俵35文目より36文目まで・御家中お買上米2文目引下げ38文目立江4分増御買上げ申付ける)		
1853年	11月19日	嘉永6年	10月19日 晴			
1853年	11月20日	嘉永6年	10月20日 曇	(松前西蝦夷地唐太(樺太)之内江異国人上陸越年の体二相見え候旨追々風説あり、武備等で借金を返せず悩んでいる)		
1853年	11月21日	嘉永6年	10月21日 曇	(御賞、去月15日より30日間平均の米値段と御定法では酒1升が1文目8分8厘余に相当・酒1升を2文目1合売りを2分に申付ける)		
1853年	11月22日	嘉永6年	10月22日 曇	巳の刻頃より雨時々降 未の刻過止 (山田登を御用人にとの人事異動、御目見以上の嫡子並びに二三男の年齢等を調べさせる・改名養子等は御目付に届けるようにする)		
1853年	11月23日	嘉永6年	10月23日 曇	今日雪少し降		
1853年	11月24日	嘉永6年	10月24日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (初雪に付御家老中御用人中御機嫌伺い、泉州境に鉄砲出来方仰せ付けられていた・吟味に合田某(砲術師範?)を派遣する)		
1853年	11月25日	嘉永6年	10月25日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積		
1853年	11月26日	嘉永6年	10月26日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	下から続く	内5406石4斗2升6合が当毛引き)
1853年	11月27日	嘉永6年	10月27日 晴	昨夜雪少し降 (他領に武器を出すの触、和徳以西16ヶ組の大廻見分引高:表高64151石5斗6升8合内4357石6斗4升4毛が当毛引き、浪岡以東10ヶ組の表高60103石9斗6升9合		上に続く
1853年	11月28日	嘉永6年	10月28日 曇	卯の刻過より雨時々降 未の刻過止 (砲術師範家それぞれに焰硝50貫目などの作成を申し付けていたが道具がない小屋がない等で混乱している)		
1853年	11月29日	嘉永6年	10月29日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (小さい枡を使った油売りに6鞭居町徘徊はまで通り) 下から続く		白餅米を16文目に値段下げ申しつける)
1853年	11月30日	嘉永6年	10月30日 曇	下から続く	この補充方法や砲術早放稽古等をどうするか等で頑張っている、松前表米価追々引下げ津出御印(1俵):玄米15文目を12文目・白米と餅米17文目を14文目・	上に続く
1853年	12月1日	嘉永6年	11月1日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (御馬廻組頭高倉敏次郎を用人兼帯に等の人事異動、御賞、安永の度御省略で諸手足軽1組20人を18人に大組足軽1組50人を45人にした・		上に続く
1853年	12月2日	嘉永6年	11月2日 曇	昨夜雪降 八寸程積 今日雪降 三寸程積 (御中小姓(他の組の類似とは思ふが)にも可成丈(なるべくたけ:成るべく)砲術稽古を申し付けている)		
1853年	12月3日	嘉永6年	11月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (去月29日夜木造新田館岡村で出火・類焼共2軒稲草焼失・火元高無他村預け、秋田領から炭を三万俵ほど入れている・輸送計画?)あり)		
1853年	12月4日	嘉永6年	11月4日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (松前奥地唐太島之内クシュンコタンと申す所々異国船上陸一件に付広田組喰川村の大工から事情聴取・帰村させる)		
1853年	12月5日	嘉永6年	11月5日 晴	昨夜雪少し降		
1853年	12月6日	嘉永6年	11月6日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降		
1853年	12月7日	嘉永6年	11月7日 晴	昨夜雪少し降 9日から続く	江戸で人事異動、江戸に(から?)松皮火縄筒薬等を差下すよう仰せ付ける、今般内海(東京湾)御警衛のため西洋法二よる御台場御取立)	
1853年	12月8日	嘉永6年	11月8日 晴	(江戸から年内に20000両程御登せ方申し来り候・先頃972両を為替送り・その後集金的手段なし……(手配は判らないが)来る10日3000両送る)		
1853年	12月9日	嘉永6年	11月9日 曇	申の刻より小雨ふり (御持筒足軽も安永9年に1組30人を27人に減少・これを増員する、倅並びに二三男で盛壯の者30人位に3人扶持を与えてとの提案あり否定される、		7日に続く
1853年	12月10日	嘉永6年	11月10日 曇	昨夜よりの小雨今晚子の刻過止 今日雪少し降 (泉州境に注文?した鉄砲・胸付10文目玉筒300挺・退矯(多分発射後砲身が下がるということ)100目玉筒75挺・同300目玉筒75挺……)		
1853年	12月11日	嘉永6年	11月11日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (家中の武器・馬等の所持状況を調べて、米価(1俵)34文目立・御家中御買上は4分増に引下げる)		
1853年	12月12日	嘉永6年	11月12日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降		
1853年	12月13日	嘉永6年	11月13日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (小泊番番中過酒言行取り乱しの足軽目付を諸手足軽に役下げ)		
1853年	12月14日	嘉永6年	11月14日 晴	亥の刻過より雨降 (三上喜左衛門を勘定奉行兼役に等の人事異動)		
1853年	12月15日	嘉永6年	11月15日 曇	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止 今日雪少し降		
1853年	12月16日	嘉永6年	11月16日 曇	今日雪少し降 (去月22日深浦町同心が漁事に出て海死が見えない・御給分召上げられる)		
1853年	12月17日	嘉永6年	11月17日 曇	(尾太山出鉛昨年328箇余だそうな) 下から続く	鯉ヶ沢へ駄下げ・金木御蔵等の19500俵を明春湯明けの処にて小廻りの上鯉ヶ沢御蔵納……申し付ける)	
1853年	12月18日	嘉永6年	11月18日 曇	昨夜雪少し降 (足軽補充の人事異動、米価(1俵)32文目立御家中御買上は4分増に2文目引き下げる、浪岡御蔵等の米91500俵を青森へ駄下げ・五所川原御蔵等の112000俵を		上に続く
1853年	12月19日	嘉永6年	11月19日 晴			
1853年	12月20日	嘉永6年	11月20日 曇	昨夜酉の刻過より雨降 戌の刻過止 (山上鉄太郎を今別町奉行に等の人事異動、境で作った300目筒1挺値段代8×110文目余に御座候) 下から続く		大坂に鉄砲代金等を送っている)
1853年	12月21日	嘉永6年	11月21日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (去月6日より30日間の荏種相場平均と御定法では水油1升が9文目4分4厘7毛余に相当・水油1升を10文目1合売りを1文目に仰せ付ける、		上に続く
1853年	12月22日	嘉永6年	11月22日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (去る7日若殿様叙爵・大隅守と称する、江戸で河野・篠崎の砲術稽古を申請許可されている)		
1853年	12月23日	嘉永6年	11月23日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (木作新田筒木坂村と牛湯村で村界論あり・大赦以前で……)		
1853年	12月24日	嘉永6年	11月24日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (長柄の者福眞今八の子善八?等70人が御雇小人に召抱えられている) 下から続く		節に引合9日早い、長柄の者等20人を大組足軽に)
1853年	12月25日	嘉永6年	11月25日 曇	昨夜雪降 三寸程積 戌の刻過より雨降 (当月14日夕より翌15日朝迄十三渦の大湊川尻より小俣川尻迄残らず水張る・去年は11月13日夕より翌14日朝迄・今年は1日遅く		上に続く
1853年	12月26日	嘉永6年	11月26日 曇	昨夜よりの雨今日に及 巳の刻頃止 今日雪降 二寸程積		
1853年	12月27日	嘉永6年	11月27日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (長柄の者等を諸手足軽への人事異動、両濱津出御印(1俵)代:玄米12文目を14文目・白米と餅米14文目を16文目・白餅米16文目を18文目に申し付ける)		
1853年	12月28日	嘉永6年	11月28日 曇	昨夜雪少し降 (砲術師範の面々の門弟の退矯稽古所がない・いろいろ探しているがどうなったのか筆者にはわからない)		
1853年	12月29日	嘉永6年	11月29日 曇	午の刻過ぎり雨ふり 夜に入同断 (兼平弁之助の半知召上げ隠居他出差留め・笠原近江を預った豊島修理助の知行召上げ新たに100俵下し置かれる・その他にも罰、笠原一族が動いた?)		
1853年	12月30日	嘉永6年	12月1日 曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 今日雪少し降 (佐々木久次郎を今別町奉行に等の人事異動、猥二(多分みだりに)蕃語を用いるなどの公儀御書付)		
1853年	12月31日	嘉永6年	12月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (人事異動、9月15日より30日間の平均米値段が36文目3分4厘・御定法で割合すると酒1升が1文目5分8厘余に相当・1升を1文目8分		欄外(*)に続く
				(*)1合を11文に申し付ける、焰硝(江戸で20貫目代1貫282文目・御国で600目)・鉛(江戸で2箇が1貫384文目・御国で600目)を馬に載せて江戸に送る)		

1854年	1月1日	嘉永6年	12月3日	曇	戌の刻過より雨時々降
1854年	1月2日	嘉永6年	12月4日	曇	昨夜よりの雨今日に及び時々降 亥の刻過止 巳の刻過雷鳴 則刻止
1854年	1月3日	嘉永6年	12月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 子の刻頃雨 南風強し 卯の刻過止 (人事異動)
1854年	1月4日	嘉永6年	12月6日	曇	巳の刻頃より雨時々降 戌の刻過止 (御国の御家中100石に500目充の御手当て・江戸京坂表では100石に金5兩の御手当てを下し置かれる)
1854年	1月5日	嘉永6年	12月7日	晴	(今日御目見以上登城御家老口達・異国船の儀につき公儀からも厳重な達しあり・武備に勤め儉約に努めよ・100石に付500目の御手当てを下さる)
1854年	1月6日	嘉永6年	12月8日	曇	今晩子の刻より雨時々降 夜に入同断 (足輕増員の人事異動、古懸不動尊御出汗・諸事先例の通り仰せ付ける・五山に御祈禱を仰せ付ける)
1854年	1月7日	嘉永6年	12月9日	曇	昨夜より之雨今晚寅の刻過止 今日雪少し降 下から続く 出火・類焼共4軒焼失、津出御印代(1俵):玄米14文目を18文目・白米と餅米16文目を20目に申し付ける)
1854年	1月8日	嘉永6年	12月10日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積 (測量方増員の人事異動、家中・武器等の領外持出を規制、今3日朝迄十三湯前後共残らず氷張る、去る7日夜九時過ぎ堀越組福田村で 上に続く
1854年	1月9日	嘉永6年	12月11日	晴	昨夜雪少し降 (小山才八を町奉行に等の人事異動、仮令祝事であっても1汁2菜・年賀不要等の儉約の触れ、売り出し米追々下落・御家中御買上米1俵30目立に4分増に申し付ける)
1854年	1月10日	嘉永6年	12月12日	曇	昨夜雪少し降 今日辰の刻過より雨降 酉の刻過止 (御城付足輕増員の人事異動)
1854年	1月11日	嘉永6年	12月13日	晴	昨夜雪少し降 (上仙院様(昔の屋形様寧親)21回御忌に付牢舎並びに揚屋の10人位を赦免・検討は100人を超えるか、去る23日將軍(家定)宣下
1854年	1月12日	嘉永6年	12月14日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (足輕増員の人事異動)
1854年	1月13日	嘉永6年	12月15日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (人事異動、御賞、御家中等の子弟で17歳以上は御備え組に入れるとの触れ)
1854年	1月14日	嘉永6年	12月16日	曇	(手段米の手助け等の十三町奉行等の役人に給分召上げ役下げ等)
1854年	1月15日	嘉永6年	12月17日	曇	今日卯の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (衣服等奢侈増長に関する28ページ位にわたる注意、339俵の手段米の男に大赦以前として15鞭欠所3里四方追放等の罰・類似多数あり)
1854年	1月16日	嘉永6年	12月18日	晴	
1854年	1月17日	嘉永6年	12月19日	晴	(博打の常習者3人に3鞭居村徘徊是まで通り)
1854年	1月18日	嘉永6年	12月20日	晴	
1854年	1月19日	嘉永6年	12月21日	曇	卯の刻過より雨時々降 亥の刻過止 (若殿様叙爵に関して座当どもに御配当1人に15文充下し置かれる)
1854年	1月20日	嘉永6年	12月22日	曇	今日雪少し降 (御賞(銀3兩))
1854年	1月21日	嘉永6年	12月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1854年	1月22日	嘉永6年	12月24日	晴	
1854年	1月23日	嘉永6年	12月25日	晴	(当8月一本木村で三浦某に切付られ手傷の男が9月に発狂同様になり死亡)
1854年	1月24日	嘉永6年	12月26日	晴	(人事異動、御家中の族所持の甲冑並びに鉄砲を2月に高覧)
1854年	1月25日	嘉永6年	12月27日	晴	(江戸の非常御備えの配置などの作業が続いている、諸品借上げ返さなかった湊目付2人を退役(親に返す))
1854年	1月26日	嘉永6年	12月28日	晴	(人事異動、御賞、津軽大炊之助が平八郎と改名)
1854年	1月27日	嘉永6年	12月29日	晴	
1854年	1月28日	嘉永6年	12月30日	曇	巳の刻過より雨降 未の刻頃止 (大組足輕3組・御旗警固2組・御持筒足輕3組・御城付足輕3組・諸手足輕12組に対する大筒(合田熊吉等の先生の名前から想像して)の訓練計画あり)
1854年	1月29日	嘉永7年	正月1日	晴	
1854年	1月30日	嘉永7年	正月2日	曇	昨夜雪少し降 今日氷雪降
1854年	1月31日	嘉永7年	正月3日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積 (今晚御諒初・太夫に銀子1枚同別人に金200疋下し置かれる)
1854年	2月1日	嘉永7年	正月4日	曇	今日辰の刻頃より雨降 申の刻過止
1854年	2月2日	嘉永7年	正月5日	曇	昨夜雪少し降 巳の刻過より雨降 申の刻過止
1854年	2月3日	嘉永7年	正月6日	曇	今日雪少し降
1854年	2月4日	嘉永7年	正月7日	曇	(七種の御祝儀・御由緒の面々登城)
1854年	2月5日	嘉永7年	正月8日	曇	今日雪降 三寸程積
1854年	2月6日	嘉永7年	正月9日	晴	昨夜雪少し降
1854年	2月7日	嘉永7年	正月10日	曇	今日雪少し降
1854年	2月8日	嘉永7年	正月11日	晴	(用人高倉敏次郎に御手廻組頭兼帯等の人事異動)
1854年	2月9日	嘉永7年	正月12日	晴	
1854年	2月10日	嘉永7年	正月13日	曇	
1854年	2月11日	嘉永7年	正月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1854年	2月12日	嘉永7年	正月15日	晴	
1854年	2月13日	嘉永7年	正月16日	曇	今日雪少し降
1854年	2月14日	嘉永7年	正月17日	曇	今日雪少し降
1854年	2月15日	嘉永7年	正月18日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1854年	2月16日	嘉永7年	正月19日	晴	
1854年	2月17日	嘉永7年	正月20日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (上々様御警衛登として御中小姓5人御徒5人が出立)
1854年	2月18日	嘉永7年	正月21日	晴	(寒30日の売出し米の平均で御定法で割合すると酒1升が1文目5分6厘9毛余に相当・酒1升を1文目7分1合をこれ迄通り11文に申し付ける、御家中に割付召抱えの若等の名前年齢を調べている)
1854年	2月19日	嘉永7年	正月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1854年	2月20日	嘉永7年	正月23日	晴	昨夜雪少し降 (上々様御警衛登として9人が出立、大坂表で10文目の鉄砲300挺を注文したはずが行違いで大筒62挺も作り代金6600両・金繰りにうろうろ・判らん)
1854年	2月21日	嘉永7年	正月24日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (砲術教授方(合田・長谷川)の手伝い4人宛を仰せ付ける、千葉某・阿部某が5貫目の木筒出来仰せ付けられる)
1854年	2月22日	嘉永7年	正月25日	曇	昨夜雪降 七寸程積 今日雪少し降
1854年	2月23日	嘉永7年	正月26日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (大筒方として11人が江戸に出立)
1854年	2月24日	嘉永7年	正月27日	晴	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (去る9月9日藤代組中崎村川原地で鉄砲を打ち放した郡所小頭格に慎)
1854年	2月25日	嘉永7年	正月28日	晴	昨夜雪少し降 (大筒方で江戸登りが3人出立)
1854年	2月26日	嘉永7年	正月29日	晴	(隠津出で取押さえた男を逃がした松神村の男と庄屋に3鞭居村徘徊是まで通り・五軒組合に過料銭6貫文・木品とりあげ)
1854年	2月27日	嘉永7年	2月1日	晴	(御用達どもを11人増やしている)
1854年	2月28日	嘉永7年	2月2日	晴	

1854年	3月1日	嘉永7年	2月3日 晴	今暁子の刻過より小雨降 卯の刻頃止 (隠津出の計画に加わった十三町同心3人の御給分召上げ永の暇)
1854年	3月2日	嘉永7年	2月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、中田御関所を硝石150貫目・鉛160貫目を通すために阿部伊勢守にお願い書を出し指図を得たことを示している)
1854年	3月3日	嘉永7年	2月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (御賞、人事異動、当年の両都廻船35艘の見込み)
1854年	3月4日	嘉永7年	2月6日 晴	
1854年	3月5日	嘉永7年	2月7日 曇	今暁寅の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1854年	3月6日	嘉永7年	2月8日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断
1854年	3月7日	嘉永7年	2月9日 曇	昨夜よりの雨辰の刻過止 (鯉ヶ沢町所々で盗みの男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1854年	3月8日	嘉永7年	2月10日 晴	今日申の刻過ぎより雨時々降 夜に入同断
1854年	3月9日	嘉永7年	2月11日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止
1854年	3月10日	嘉永7年	2月12日 晴	
1854年	3月11日	嘉永7年	2月13日 晴	(御城代渡辺将監病死、博打男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1854年	3月12日	嘉永7年	2月14日 曇	(非常に付御廻船上乗(足軽が普通)の人繰りがつかない・以上支配以下支配から仰せ付けることとする)
1854年	3月13日	嘉永7年	2月15日 曇	西の刻過より雨時々降 (一昨11日昼九時頃大鰐組唐牛村で出火・類焼共14軒その他焼失・火元高無他村預け、去る10日十三湯前後とも残らず氷明ける)
1854年	3月14日	嘉永7年	2月16日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断
1854年	3月15日	嘉永7年	2月17日 曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止
1854年	3月16日	嘉永7年	2月18日 曇	(御家中御貢上米値段を32文目立に4分増に申し付ける)
1854年	3月17日	嘉永7年	2月19日 曇	今日雪少し降
1854年	3月18日	嘉永7年	2月20日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (去る15日朝横内組久栗坂村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け、永の暇を与えられ欠員の十三町の警固並びに町同心を召抱える)
1854年	3月19日	嘉永7年	2月21日 曇	今日未の刻過より雨時々降 (当月10日夕より翌11日朝迄十三湯の大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷明ける・去年は24日朝迄に氷明で当年は12日早く節に引合い25日早い、 欄外(*)に続く
1854年	3月20日	嘉永7年	2月22日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻頃止
1854年	3月21日	嘉永7年	2月23日 曇	昨夜雪少し降 今日巳の刻過より雨時々降 (人事異動、多数の甲冑御手入方等に御賞)
1854年	3月22日	嘉永7年	2月24日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (非常御用懸4人を御免、倅の婚姻の節奢りがましい儀があった代官加勢の役引取り役下げ)
1854年	3月23日	嘉永7年	2月25日 晴	(長崎表に(去年11月以前には着ていた)渡来の魯西亜船が正月8日に平穩に退帆)
1854年	3月24日	嘉永7年	2月26日 晴	
1854年	3月25日	嘉永7年	2月27日 晴	
1854年	3月26日	嘉永7年	2月28日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜に入同断 (俟約を延々と申し付けている)
1854年	3月27日	嘉永7年	2月29日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1854年	3月28日	嘉永7年	2月30日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1854年	3月29日	嘉永7年	3月1日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1854年	3月30日	嘉永7年	3月2日 晴	(碓ヶ関街道並木松守を置く)
1854年	3月31日	嘉永7年	3月3日 快晴	申の刻過より雨時々降 戌の刻頃止 (南鐙上銀を持って1朱銀を吹きたてる)
1854年	4月1日	嘉永7年	3月4日 快晴	
1854年	4月2日	嘉永7年	3月5日 快晴	
1854年	4月3日	嘉永7年	3月6日 曇	卯の刻過より雨時々降 夜に入同断
1854年	4月4日	嘉永7年	3月7日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 申の刻過止
1854年	4月5日	嘉永7年	3月8日 晴	
1854年	4月6日	嘉永7年	3月9日 晴	
1854年	4月7日	嘉永7年	3月10日 晴	(去る6日晚横内組諏訪道村で出火・類焼共2軒等焼失・火元百姓他村預け、江戸御警衛登りの面々37人が着いている、大坂で注文の10文目玉筒300挺を江戸に通す手続きをしている)
1854年	4月8日	嘉永7年	3月11日 晴	(この度御家中並びに九浦支配に至るまで御軍役製作の儀仰せ付けられ候(国民皆兵?)処……、去る2日夜尾崎組唐船村で出火・類焼共11軒焼失、砲術の流儀が混在してもめている)
1854年	4月9日	嘉永7年	3月12日 晴	(諸組足軽の砲術稽古入用の焰硝・鉛の目方:御持筒3組(5貫286文目6分6厘・8貫666文目6分6厘)・御城付3組(2貫目・2貫700目)・大組3組(10貫目・32貫目)・諸手12組 欄外(**)に続く
1854年	4月10日	嘉永7年	3月13日 曇	今暁寅の刻過より小雨時々降 卯の刻過止
1854年	4月11日	嘉永7年	3月14日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1854年	4月12日	嘉永7年	3月15日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 今日霰少し降
1854年	4月13日	嘉永7年	3月16日 曇	今日雪少し降
1854年	4月14日	嘉永7年	3月17日 晴	昨夜雪少し降 (昨2日昼八時頃大間越町で出火・類焼共23軒焼失・暮六時鎮火・火元入寺の上慎)
1854年	4月15日	嘉永7年	3月18日 晴	(南部家中を泊め旅の案内等をした男達に戸ノ等)
1854年	4月16日	嘉永7年	3月19日 快晴	(大星場出来に取り掛かる、博打の男3人に3鞭居村(町)徘徊はまで通り)
1854年	4月17日	嘉永7年	3月20日 曇	午の刻過より雨時々降 未の刻過ぎ止
1854年	4月18日	嘉永7年	3月21日 晴	(江戸で人事異動)
1854年	4月19日	嘉永7年	3月22日 晴	(……西之郭街道御手入中埋御門開閉の儀……)
1854年	4月20日	嘉永7年	3月23日 曇	寅の刻過より雨時々降 夜に入同断 (この度渡来の亜墨利加せんより申し立ての赴きもあり……ペリー艦隊は既に来ている)
1854年	4月21日	嘉永7年	3月24日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 午の刻頃止 (今日剣術高覧)
1854年	4月22日	嘉永7年	3月25日 曇	子の刻過雨時々降 巳の刻頃止 (去る12日大間越町で出火・類焼あり・火元日雇い入寺)
1854年	4月23日	嘉永7年	3月26日 晴	
1854年	4月24日	嘉永7年	3月27日 曇	丑の刻頃より雨時々降 (去る14日赤石組風合瀬村で野火焼・それより居宅4軒類焼)
1854年	4月25日	嘉永7年	3月28日 晴	(去る17日木作新田筒木坂村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け)
1854年	4月26日	嘉永7年	3月29日 晴	(和徳村専修庵観音堂再建等に頭取いたし不筋多い御徒を御目見以下御留守居支配に役下げ:御目見以上の侍が田舎のお寺の工事等に携わることがあるものかな)
1854年	4月27日	嘉永7年	4月1日 曇	今暁卯之刻頃より雨時々降 未之刻過止 (津軽右近を城代に等の人事異動) 下から続く 貸付ようとしたが10月23日よりの風雨で水湛同25日より雪吹きで品不足となる)
1854年	4月28日	嘉永7年	4月2日 晴	(漆の木の増加に努力中、この度諸組星場稽古入用諸式五増倍渡し仰せ付けられ候処……、一代限りの小使い等168人の殆どを永代とする、 芦を3750ノ取り半分を御家中に 上に続く
1854年	4月29日	嘉永7年	4月3日 晴	(隠角力興行の一本木村代庄屋を御役取放しの上3鞭居村徘徊はまで通り、伊勢への抜け参り男に9鞭居村徘徊はまで通り、一本木村で角力見物に関して1人殺害1人 欄外(***)に続く
1854年	4月30日	嘉永7年	4月4日 晴	(今日剣術高覧)

(*) 江戸から桧皮火縄300房の要求に御不都合に付150房送る) (**) (10貫400目・15貫目)・御手筒(1貫100目・1貫400目)・御旗2組(2貫350目・2貫733匁3分)、惣ノ焰硝31貫136文目6分6厘代700目5分7厘・鉛60貫499文目9分9厘代1貫131文目3分5厘、1年間の訓練には鉛4121貫960目・焰硝994貫888文目) (***) 傷害の御城付足軽を減俸役下げ・関係者に過料等の罰)

1854年	5月1日	嘉永7年	4月5日 快晴 (人事異動、蘭学のための江戸登り希望者が複数あり)
1854年	5月2日	嘉永7年	4月6日 快晴
1854年	5月3日	嘉永7年	4月7日 晴 (竹森某の星場(銃砲の訓練場所)に徒者が入り紛失物あり)
1854年	5月4日	嘉永7年	4月8日 晴 (異国船が渡来したが平穩であったので両組御中小姓御徒大筒方の面々面を一先ず御国下がりとする)
1854年	5月5日	嘉永7年	4月9日 曇 午の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (長崎役人の家来が南部で金子盗み逃亡) 下から続く 十三の小廻り船が不足、駒越組新岡領に杉の伐り荒し・村に過料銭5貫600文)
1854年	5月6日	嘉永7年	4月10日 曇 昨夜より之雨今日に及ひ時々降 午之刻頃止 今日あられ降 (去る6日昼今別領宇田沢より野火・同町70軒位焼失・内百姓家30軒・同七時頃一本木村に飛び移り郷蔵等を残すのみ、 上に続く
1854年	5月7日	嘉永7年	4月11日 快晴 (人事異動、去る6日夜広田組石岡村で出火・類焼共3軒焼失・唐傘柳村での類焼2軒・火元百姓他村預け)
1854年	5月8日	嘉永7年	4月12日 快晴
1854年	5月9日	嘉永7年	4月13日 晴 (寺院江女手引きの諸手警固の10俵召上げ長柄の者に役下げ、寺院に罷り越し不行状の御持警箇固の妻離縁の上大場御構い弘前より7里四方追放)
1854年	5月10日	嘉永7年	4月14日 晴 下から続く 100石目(が)850目御座候・薄土土場有り合せの内を100石目に付き820目値段で御払い申し付ける)
1854年	5月11日	嘉永7年	4月15日 晴 (人事異動、(9日記述の)金子480両盗み出奔の男の人相書き: 当36歳・背5尺不足・角顔にて少々あばた等々、簡業調合の硫黄が多すぎて附け木屋共の手に余る、桧御定め値段 上に続く
1854年	5月12日	嘉永7年	4月16日 曇 巳の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止
1854年	5月13日	嘉永7年	4月17日 晴 (今別町の火災(10日記述)内容: 家76軒・土蔵1ヶ所・板倉19ヶ所・長屋8ヶ所・船32艘・他に御制札1ヶ所、大坂御廻米当年は1500石(御扶持米))
1854年	5月14日	嘉永7年	4月18日 晴
1854年	5月15日	嘉永7年	4月19日 快晴 (試に作った100目火矢筒並びに同タイハス(不明)1挺が出来、郭内で盗みの男に6鞭弘前御構い)
1854年	5月16日	嘉永7年	4月20日 快晴 (今日剣術高覧、社司が殴り合い?)
1854年	5月17日	嘉永7年	4月21日 晴 (この度松前箱館江渡来の異国船を平穩に取扱う様の達しがあり武芸稽古(刀鍵を第一に)を続けることとする)
1854年	5月18日	嘉永7年	4月22日 曇 今日申の刻頃より雨降 夜に入同断 (20日剣術高覧)
1854年	5月19日	嘉永7年	4月23日 曇 昨夜よりの雨今日及 時々降 亥の刻頃止
1854年	5月20日	嘉永7年	4月24日 快晴 (今日剣術高覧)
1854年	5月21日	嘉永7年	4月25日 快晴
1854年	5月22日	嘉永7年	4月26日 晴 今日酉の刻過より小雨時々降 (伊豆下田湊と松前箱館で異国船に薪水等の下され方お聞き届けとの公儀御書付が昨14日達した、禁裏炎上に付明後13日より3日鳴り物停止)
1854年	5月23日	嘉永7年	4月27日 曇 昨夜よりの小雨今暁寅の刻過止 (桑田某の皮製甲冑出来・代1貫367文目8分3厘3毛に御座候・3歩は下し置かれ残りの957文目4分8厘は知行米から差し引く)
1854年	5月24日	嘉永7年	4月28日 晴 (今日剣術高覧、秋田引越し炭平均1俵2文目9分5厘)
1854年	5月25日	嘉永7年	4月29日 快晴
1854年	5月26日	嘉永7年	4月30日 晴
1854年	5月27日	嘉永7年	5月1日 快晴 (人事異動)
1854年	5月28日	嘉永7年	5月2日 快晴 (髪結いが酒機嫌で誤って腫れ物につける附子(ぶす又はぶし・トリカブトの根を乾燥させた毒物)を飲み即夜死亡)
1854年	5月29日	嘉永7年	5月3日 快晴
1854年	5月30日	嘉永7年	5月4日 晴 (三上喜左衛門の漆方御用懸御免等の人事異動)
1854年	5月31日	嘉永7年	5月5日 快晴 (去月29日広須組下古川村の男が岩木川で水死の小熊拾上げる・腐り候て役筋立会で焼き捨てる)
1854年	6月1日	嘉永7年	5月6日 快晴
1854年	6月2日	嘉永7年	5月7日 曇 辰の刻頃より小雨降 午の刻頃止
1854年	6月3日	嘉永7年	5月8日 曇 今暁子の刻頃より小雨降 寅の刻頃止
1854年	6月4日	嘉永7年	5月9日 曇 今日辰の刻頃小雨降 即刻止 下から続く 1軒に付1俵を下し置かれる)
1854年	6月5日	嘉永7年	5月10日 快晴 (当春浦賀表江渡来の垂墨利加船が平穩に退船した・然る処御領分並びに松前表江渡来も……武芸稽古に励めとの達、去月6日後湯組一本木村で類焼17軒・御手当て米 上に続く
1854年	6月6日	嘉永7年	5月11日 曇 今日午の刻過小雨降 即刻止 (一文賽婦りという博打があったらしく参加者が戸々等の罰、諸組村々の内昨年早損にて減石・郡所備え粃の内1160俵余を貸し付ける)
1854年	6月7日	嘉永7年	5月12日 曇 申の刻過より雨時々降 (今日剣術高覧、漆役18人の御免引き10石等の増(米を10石取れるはずの田を無税に?: 判らん、寺社夜宮の節人家近くで花火又は小筒等打ち放し停止の触れ)
1854年	6月8日	嘉永7年	5月13日 曇 昨夜より之雨及今日 午之刻頃より雷鳴 霰降 雨西之刻頃止
1854年	6月9日	嘉永7年	5月14日 曇
1854年	6月10日	嘉永7年	5月15日 晴 (秋田銅山より小泊村に用牛の外牡牝入り交じり30疋買入希望あり・了承する、去る2日赤石愛太郎が出奔・御給分召上げ)
1854年	6月11日	嘉永7年	5月16日 晴
1854年	6月12日	嘉永7年	5月17日 晴 (昨13日巳之中刻橋雲寺寺沢の方に雷鳴・大雨霰・杉江落雷) 下から続く 返すのかなあ、漆小仕立に77人増?申し付ける)
1854年	6月13日	嘉永7年	5月18日 晴 (今日剣術高覧、去月晦日山田登の御役召し放ち慎み・剣術師範でありその稽古は見合わせ、江戸表砲術稽古入用御家中の族江1人に付鉛目方700目筒業3斤宛御貸し渡し……: 上に続く
1854年	6月14日	嘉永7年	5月19日 曇 未の刻過小雨降 即刻止
1854年	6月15日	嘉永7年	5月20日 曇 午の刻頃小雨降 即刻止
1854年	6月16日	嘉永7年	5月21日 晴 (青田の内笛吹くなどの触れ、上々様御警衛の13人が江戸から帰着、御徒の御定め人数が70人なのだそうです)
1854年	6月17日	嘉永7年	5月22日 曇 今日巳の刻過より小雨降 卯之刻頃止 (今日剣術高覧、御国下がりを申し付けられた山田登が到着)
1854年	6月18日	嘉永7年	5月23日 晴 (手段米が数俵の油川の男6人に15鞭宛居村徘徊はまで通り・この五人組に過料銭1貫500文宛・庄屋2人に過料銭900文宛の罰)
1854年	6月19日	嘉永7年	5月24日 曇 今日申之刻過より雨降 夜二入同断 (……曲物類御停止之處曲師共難渋二付……)
1854年	6月20日	嘉永7年	5月25日 晴 昨夜より之雨今暁寅之刻過止
1854年	6月21日	嘉永7年	5月26日 晴 (御警衛登りの御徒4人が到着)
1854年	6月22日	嘉永7年	5月27日 快晴 今暁寅の刻頃より雨降 即刻止 (大筒方の2人も帰る)
1854年	6月23日	嘉永7年	5月28日 快晴
1854年	6月24日	嘉永7年	5月29日 曇 今暁寅之刻過より雨時々降 申之刻過止 (山田登の知行30石召上げ倅を御留守居組に)
1854年	6月25日	嘉永7年	6月1日 晴 (喜多村富弥を御手回り組頭に等の多数の人事異動)
1854年	6月26日	嘉永7年	6月2日 晴 (今日棒術和術高覧)
1854年	6月27日	嘉永7年	6月3日 晴
1854年	6月28日	嘉永7年	6月4日 曇 巳之刻過より雨時々降 午之刻頃より雷鳴時々 (江戸から大筒方がばらばらに続々帰っている)
1854年	6月29日	嘉永7年	6月5日 曇 昨夜より之雨今暁寅之刻頃止 今日巳之刻頃雨時々降
1854年	6月30日	嘉永7年	6月6日 曇 昨夜より之雨今日二及ひ時々降 酉之刻過雷鳴強し 則刻止

1854年	7月1日	嘉永7年	6月7日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降 午之刻過止 (今日剣術和術高覧、御用所より半紙反古御下の上並半切漉立て上納を仰せ付けられる・半紙反古1枚目二付並半切750枚、 欄外(*)に続く
1854年	7月2日	嘉永7年	6月8日 曇	午之刻過小雨降 則刻止 (11日出発の御判物御朱印が御白砂御門・武者屯御門・中辻(門があったのか)・内南御門・内東御門・外南御門番は御通りの節節番人手を突き罷りあるよう申し付ける)
1854年	7月3日	嘉永7年	6月9日 曇	今日午之刻過小雨降 即刻止
1854年	7月4日	嘉永7年	6月10日 曇	午之刻過より小雨時々降 (御朱印登りの行列編成あり、葉王院下馬札御取替え:これ迄の北向きを南向きに御取立)
1854年	7月5日	嘉永7年	6月11日 曇	昨夜より之小雨今暁寅之刻過止 (御朱印登りが今日出立)
1854年	7月6日	嘉永7年	6月12日 晴	(公儀役人から砲術打ち方を誉められた御目見以下御留守居支配等に御賞(金100疋・銀5両)、今日剣術高覧、当3月に松前の者蔵館村で病死・連絡する)
1854年	7月7日	嘉永7年	6月13日 曇	辰之刻頃より雨時々降
1854年	7月8日	嘉永7年	6月14日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降 申之刻過止
1854年	7月9日	嘉永7年	6月15日 快晴	(一戸八五郎を勘定奉行に等の人事異動)
1854年	7月10日	嘉永7年	6月16日 晴	
1854年	7月11日	嘉永7年	6月17日 曇	今暁子之刻頃より雨時々降 (岩木川六歩半の出水・今八時頃より長船馬船とも往来差止める) 下から続く 蒔付けのない1町7反歩は1反歩10文目の手当てを下し置かれる)
1854年	7月12日	嘉永7年	6月18日 曇	昨夜より之雨今暁卯之刻過止 辰之刻過より雨降 (昨夜岩木川が8歩の出水、富田村領石森江この度大星場取立て・潰地になる内菜種麦蒔付けのある7反6畝歩は1反歩15文目 上に続く
1854年	7月13日	嘉永7年	6月19日 曇	昨夜より之雨今日二及時々降 下から続く 明年より捨て箸串の作成御差し止めに關し富田町土手町等の箸搔(はしがき?:木や竹を削って箸串を作る職業?)共よりクレームあり)
1854年	7月14日	嘉永7年	6月20日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ時々降 未之刻過雷鳴 申之刻過止 (頃日天気不正・丹後者詮索見当てれば早速送り返すよう触れ、去る11日價金容疑者へ付き添いの者達が帰着、 上に続く
1854年	7月15日	嘉永7年	6月21日 晴	(大鰐より初茄子差上げる、今日鎗術高覧)
1854年	7月16日	嘉永7年	6月22日 晴	(岩木川の出水による通路が四つ時頃より再開、去る17日の出水で石川村領大橋流失通行不能・郡奉行にて境関(相当下流)馬船引き上らせ方の儀御代官江申し付けおき候旨これを達す)
1854年	7月17日	嘉永7年	6月23日 晴	申之刻過より雨時々降
1854年	7月18日	嘉永7年	6月24日 晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止
1854年	7月19日	嘉永7年	6月25日 晴	(今日鎗術長刀高覧)
1854年	7月20日	嘉永7年	6月26日 晴	戌之刻頃より雨時々降 (場所柄も弁えず境内で召使の者共が鉄砲稽古(負傷者あり)した橋雲寺を禁足)
1854年	7月21日	嘉永7年	6月27日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ 時々降 7月2日から続く 津出御印代:玄米18文目立を13文目・白米と餅米20目を15文目・白餅米22文目を17文目に申し付ける)
1854年	7月22日	嘉永7年	6月28日 曇	昨夜より之雨辰の刻過止 戌之刻過より雨時々降 (頃日天気不正二付五山に風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける)
1854年	7月23日	嘉永7年	6月29日 曇	昨夜より之雨今日二及ひ 時々降 下から続く 仰せ付ける、付木屋共に硫黄目形300貫目を1貫目二付代銭3文目5分で上納するよう申し付ける)
1854年	7月24日	嘉永7年	6月30日 曇	昨夜より之雨酉の刻過止 (青森湊目付が鯨ヶ沢廻り御廻船2艘に御手当てを申請・金1000疋宛御賞、夜宮・盆踊り・冠婚葬祭・禰婦た等々の奢構敷き儀を差し止めるよう町奉行に 上に続く
1854年	7月25日	嘉永7年	7月1日 快晴	(人事異動、多数を御徒又はその見習いに採用、代官及び手代に御賞(金350疋鳥目700文同500文)、十三で去月17日の出水で丸太161本流失)
1854年	7月26日	嘉永7年	7月2日 曇	辰の刻過より雨降 未の刻過止 午の刻過雷鳴 即刻止 (今日鎗術長刀高覧、当御買上流木高912巻余の内去月16・17日の岩木川出水で369巻位流散、両濱米(1俵) 6月27日に続く
1854年	7月27日	嘉永7年	7月3日 快晴	(不届きの御徒の動料の内5俵召上げ長柄の者に役下げ)
1854年	7月28日	嘉永7年	7月4日 晴	(当月14日より角力興行・札銭は上棧敷3文目下棧敷2文目とする、駄下げ米400俵を不正に取扱った者共に過料等の罰、当4月に野火で焼失の今別町に松生木8000本の伐り取りを申し付ける)
1854年	7月29日	嘉永7年	7月5日 快晴	
1854年	7月30日	嘉永7年	7月6日 曇	午の刻過より雷雨 雷則刻止 雨時々降 夜に入同断
1854年	7月31日	嘉永7年	7月7日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 巳の刻過止 (来る14日より青森町で角力興行・札銭は1人に付4文目に仰せ付ける)
1854年	8月1日	嘉永7年	7月8日 晴	(御賞、このたび出来の大星場を用人2人が見分、頃日天気不正二付百沢下居宮並びに大堂で風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける)
1854年	8月2日	嘉永7年	7月9日 晴	
1854年	8月3日	嘉永7年	7月10日 晴	(南部者と秋田者が盗み傷害・他国者だから国に送り返したのだから関係者にも罰) 下から続く 水戸城下で母の敵として元吉と申す者を打留める・御使番等を受取人として派遣する)
1854年	8月4日	嘉永7年	7月11日 曇	丑の刻過より小雨時々降 (他国者を止宿させた者とその関係者に戸メ等の罰、領分三馬屋に備置く松前警固人数100人がこの節交代(6月7日の報告)、去る19日赤石愛太郎が 上に続く
1854年	8月5日	嘉永7年	7月12日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 (御願いの通り屋形様の御参府は秋まで延ばす)
1854年	8月6日	嘉永7年	7月13日 晴	(去月28日岩木川出水に關し骨折りの代官手代人夫等400人くらい?に酒とむすり魚(むしり魚かな・とすれば津軽弁?)1種等を下し置かれる)
1854年	8月7日	嘉永7年	7月14日 晴	
1854年	8月8日	嘉永7年	7月15日 曇	辰の刻頃より小雨降 未の刻頃止 (青森御仮屋構に焰硝蔵取り立てる、鯉ヶ沢御蔵米を積んだ遠州の当江戸御廻船が十三湊傾で破船・地払いの上御金で送ることとする)
1854年	8月9日	嘉永7年	7月16日 晴	
1854年	8月10日	嘉永7年	7月17日 快晴	
1854年	8月11日	嘉永7年	7月18日 快晴	
1854年	8月12日	嘉永7年	7月19日 曇	
1854年	8月13日	嘉永7年	7月20日 曇	卯の刻頃より雨降 辰の刻頃止 (鉄砲代を除いても来る4月中まで大坂御入用1200両余・当年4000石差し向けるが……、奢構敷(おごりがましき?)商人?を戸メ)
1854年	8月14日	嘉永7年	7月21日 快晴	(砲術稽古出精の蟹田町同心5人に御手当て)
1854年	8月15日	嘉永7年	7月22日 曇	辰の刻頃より雨降 巳の刻頃止
1854年	8月16日	嘉永7年	7月23日 曇	午の刻頃雨降 即刻止
1854年	8月17日	嘉永7年	7月24日 晴	(悪者共の宿をした秋田出生の男を帰国させる・妻子の同行も許す・関係者に過料等)
1854年	8月18日	嘉永7年	7月25日 晴	
1854年	8月19日	嘉永7年	7月26日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 申の刻過止 (南部の男(7月10日の男)牢死・南部藩に連絡)
1854年	8月20日	嘉永7年	7月27日 晴	
1854年	8月21日	嘉永7年	7月28日 快晴	
1854年	8月22日	嘉永7年	7月29日 晴	(祭礼の酒の上で傷害の男に27鞭7里四方追放)
1854年	8月23日	嘉永7年	7月30日 晴	今日酉の刻過雨降 即刻止
1854年	8月24日	嘉永7年	閏7月1日 曇	戌の刻過より雨降 (人事異動、改名、水練稽古等に御賞(銀3兩ツツ・金100疋・金200疋)、15年以上勤めた廻り小人40人余を永代に、赤石愛太郎の長大な行列あり)
1854年	8月25日	嘉永7年	閏7月2日 曇	昨夜より之雨今日辰の刻過止 (竹森某の塩硝(焰硝)調査小屋を桜林の内・品川町入口枡形の内等検討したが決められない・篠崎進の調査場合は八幡宮裏通りとする)
1854年	8月26日	嘉永7年	閏7月3日 晴	今暁子の刻頃より雨降 卯の刻頃止
1854年	8月27日	嘉永7年	閏7月4日 晴	下から続く その関係者に戸メ)
1854年	8月28日	嘉永7年	閏7月5日 曇	申の刻過地震少し 酉の刻過より雨時々降 (御賞、諸芸高覧の硯見物を仰せ付けられている大寄合以上もこの際扇を用いるなどの申付けあり、他国者を止宿させた青森の男と 上に続く
1854年	8月29日	嘉永7年	閏7月6日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過止 (不届きな青森御手船方の御目見以下御留守居支配(勘定人加勢)を御給分の内俵子5俵召上げ御旗警護に役下げ)
1854年	8月30日	嘉永7年	閏7月7日 晴	(御賞、現在御呵中の山田登に内裏炎上の際の御礼が届いていてどうしようとし出でている、岩木山登山で騒ぎ立てるなどの触れ)
1854年	8月31日	嘉永7年	閏7月8日 快晴	

(*) 300目筒27等76挺の関所通行書類あり、去る11日昼四半時過ぎ鷹野崎沖から亥の方に1艘・同日同刻三馬屋沖に澗切居候異国船1艘が翌朝五時頃出帆西の方に向かう)

1854年	9月1日	嘉永7年	閏7月9日	曇	巳の刻頃より雨降 則刻止	
1854年	9月2日	嘉永7年	閏7月10日	曇		
1854年	9月3日	嘉永7年	閏7月11日	快晴	(大船製造二付いては異国船二紛れざるよう日本惣船印は白地日の丸幟(国際法に定める国旗の始まり)相用い候様仰せ付けられる)	
1854年	9月4日	嘉永7年	閏7月12日	晴	丑の刻過地震少し 寅の刻頃より雨降 卯の刻過止	
1854年	9月5日	嘉永7年	閏7月13日	快晴	下から続く 同じ船か澗切居暮頃まで漂流し松前箱館の方に飄行・同22日朝五時頃霧はれると沖合3里ほど隔て瀾懸の様子であったが昼九時過ぎより東風で松前城下の方に向かう)	
1854年	9月6日	嘉永7年	閏7月14日	晴	(旅人(医者)を止宿の油川村の明誓寺を禁足・関係者にも過料等の罰、御賞、去月20日夕八半時過ぎ橋3本の異国船が南部領焼山の方ニ見得寅の方江通る・同21日朝五時頃	上に続く
1854年	9月7日	嘉永7年	閏7月15日	曇	巳の刻頃より雨降 則刻止 (野呂典司を御馬廻組頭格に等の人事異動)	
1854年	9月8日	嘉永7年	閏7月16日	晴		
1854年	9月9日	嘉永7年	閏7月17日	曇	巳の刻過より雨時々降 夜に入同断	
1854年	9月10日	嘉永7年	閏7月18日	曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申の刻頃止 (今日暁八半時の御供揃えて東海岸台場高覧に御出)	
1854年	9月11日	嘉永7年	閏7月19日	快晴	(弘前売出し米下落・御家中御買上を2文目引下げ来る21日渡より1俵32文目立・これに4分増て御買上を申付ける)	
1854年	9月12日	嘉永7年	閏7月20日	快晴	午の刻過地震少し	
1854年	9月13日	嘉永7年	閏7月21日	快晴	(来る24日御初米差上げる、下石川村の男と喧嘩し打擲怪我をさせた美濃の国の男を碇ヶ関口送返し当領立入禁止・送返しの節乞食小屋引き回し等を行う・関係者にも過料等の罰)	
1854年	9月14日	嘉永7年	閏7月22日	曇	午の刻過より小雨時々降 申の刻過止 (25日夜10日の内鰻ヶ沢町で芝居興行・札銭1人に付4分充) 下から続く 去月25日に受取った赤石愛太郎は江戸迄の道中で脇差で自害・29日死亡)	
1854年	9月15日	嘉永7年	閏7月23日	曇	巳の刻過ぎより小雨時々降 酉の刻頃止 (夜分忍び入り盗みをしていない男に3鞭弘前御構い、無刻印の木を買い筏廻しの男と関係者2人に3鞭ツツ居村徘徊はまで通り、水戸で	上に続く
1854年	9月16日	嘉永7年	閏7月24日	曇	今暁子の刻過より雨時々降 夜に入同断 戌の刻過雷鳴 則刻止 (御初米・去年は5月7日植付7月22日鎌入れで75日・当年は5月6日植付閏7月17日鎌入れで101日・去年より26日遅い)	
1854年	9月17日	嘉永7年	閏7月25日	曇	昨夜より之雨今日に及時々降	
1854年	9月18日	嘉永7年	閏7月26日	快晴		
1854年	9月19日	嘉永7年	閏7月27日	曇	巳の刻過より小雨降 則刻止 (乞食共が軽業等の興行をしている・札1人で3分の例)	
1854年	9月20日	嘉永7年	閏7月28日	晴	(松前家中の倅を町役に断らずに止宿させて戸メ・名主にも、鰻ヶ沢町舞戸村の米の買占め業者とその関係者に戸メ過料)	
1854年	9月21日	嘉永7年	閏7月29日	晴	(昨28日古懸不動尊御出汗・いつもの通り御神楽等申し付ける)	
1854年	9月22日	嘉永7年	8月1日	曇		
1854年	9月23日	嘉永7年	8月2日	晴		
1854年	9月24日	嘉永7年	8月3日	快晴	(先月18日出発の屋形様が台場高覧から帰城)	
1854年	9月25日	嘉永7年	8月4日	快晴		
1854年	9月26日	嘉永7年	8月5日	快晴		
1854年	9月27日	嘉永7年	8月6日	快晴	(成田孫六を目付に等の人事異動)	
1854年	9月28日	嘉永7年	8月7日	晴		
1854年	9月29日	嘉永7年	8月8日	曇	今暁子の刻過より雨時々降 寅の刻頃止 (越後・加賀・能登・若狭・越前・酒田の銀主14人に挨拶状と龍門(多分龍文・帯袴に用いた織物の誤記)等の贈り物をしている)	
1854年	9月30日	嘉永7年	8月9日	晴	下から続く 三上喜左衛門に奥通り仰せ付けられる、佐竹様の江戸登りは名代嫡子岩見が17日出立・屋形様の江戸登りと日程確認に來ている)	
1854年	10月1日	嘉永7年	8月10日	曇	寅の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 (今日大星場で御名代家老が砲術見分) 下から続く 尤動料の内俵子5俵を差し引く、横岡勝太郎弟仁左衛門等に御賞、	上に続く
1854年	10月2日	嘉永7年	8月11日	曇	巳の刻頃雨降 則刻止 (坊主頭高杉某を御茶道頭兼役等の人事異動(例:諸手足輕岡某が数年砲術格別出精芸道も宜しく候に付御目見以下御留守居支配申し付ける・	上に続く
1854年	10月3日	嘉永7年	8月12日	晴	(内裏・禁裏共平出)	
1854年	10月4日	嘉永7年	8月13日	快晴	(屋形様が今日四時御発駕(佐竹様とほとんど一致:体調で一日延ばすなんてことは出来ないね))	
1854年	10月5日	嘉永7年	8月14日	快晴	(御家中の家来として他領者を入領を禁止していた・江戸勝手者の者に御国下がりを命ずると家来は江戸者?となる・御国者の掃除小人を貸すようにする、手段米の飛鳥村の3人に過料)	
1854年	10月6日	嘉永7年	8月15日	曇	(毛内平格を諸手足輕頭に等の人事異動)	
1854年	10月7日	嘉永7年	8月16日	曇		
1854年	10月8日	嘉永7年	8月17日	曇	(去る11日金木組下前村で出火・類焼共25軒等焼失・火元他村預け、唐牛昌考が牛刀種伝授申し受け候間開業したい郡内に御触れ出しの申し出・藩としては触れないと仰せ付ける)	
1854年	10月9日	嘉永7年	8月18日	曇	昨夜寅の刻過雨降 則刻止	
1854年	10月10日	嘉永7年	8月19日	晴	(無刻印の木で外馬屋を取り立てた男に6鞭居村徘徊はまで通り、7月5日6日夜に祢婦多(ねぶた)で抜き身・木刀等を振り回し乱暴した御馬廻与力の倅の他出差止め親預け・他に4人も同様)	
1854年	10月11日	嘉永7年	8月20日	曇		
1854年	10月12日	嘉永7年	8月21日	晴		
1854年	10月13日	嘉永7年	8月22日	晴	今暁丑の刻過雨降 則刻止 (山門起立料年々参千両納之他七千両新借之口返納方之儀……判りません)	
1854年	10月14日	嘉永7年	8月23日	快晴	(昨年12月11日夜親方町湯屋で着類を盗み取った男に3鞭弘前御構い) 下から続く 夕七時過ぎ薄縁等が盗まれる)	
1854年	10月15日	嘉永7年	8月24日	快晴	(鰻ヶ沢町奉行から悪者の居町徘徊差し止め依頼あり・その親に戸メ7日とする?、この外にも同奉行から一間所入り等の申し出でがあり何かヒステリック、北之丸御菜園から	上に続く
1854年	10月16日	嘉永7年	8月25日	快晴	(今日星場で砲術・御名代として拙者(具体的な書き手が見える例)見分・大寄合以上の面々見物)	
1854年	10月17日	嘉永7年	8月26日	快晴	(豊田村神楽の帰りに乗馬のまま通ろうとした芦沼村の男を咎め打擲傷害の社人に5里四方追放し傷治療費を払わせる・傷を受けた男は過料1貫800文)	
1854年	10月18日	嘉永7年	8月27日	曇	戌の刻過より雨降 (祭文語り寄興行願い・札銭前々の通り1人につき3分宛、昨夜御家中宅が出火・隣家類焼、軽い罪状の場合裁判を郡奉行のみのように簡略化?分らない)	
1854年	10月19日	嘉永7年	8月28日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 巳の刻過止 (度々盗みの男を乞食手下に、預けの者に逃げられた5人に過料銭1貫200文宛、預けの者に逃げられた男戸メ2人、江戸大坂	欄外(*)に続く
1854年	10月20日	嘉永7年	8月29日	曇	戌の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (御名代として家老が砲術見分、盗みの日雇い男に3鞭弘前御構い)	
1854年	10月21日	嘉永7年	8月30日	曇	昨夜よりの雨今日午の刻頃止 (鰻ヶ沢富根町で独楽並びに猿遣い興行願い・札銭1人につき3分)	
1854年	10月22日	嘉永7年	9月1日	晴	戌の刻頃より雨降 (御賞)	
1854年	10月23日	嘉永7年	9月2日	曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻頃多 今朝岩木山江雪初めて見ゆる (御名代として家老が砲術見分)	
1854年	10月24日	嘉永7年	9月3日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻頃止	
1854年	10月25日	嘉永7年	9月4日	晴		
1854年	10月26日	嘉永7年	9月5日	曇	今暁丑の刻過より雨時々降 辰の刻過止 (御名代として家老が砲術見分)	
1854年	10月27日	嘉永7年	9月6日	快晴		
1854年	10月28日	嘉永7年	9月7日	曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (黒石藩から600両の拝借願い・断ったら600石の津出願い・前例にしないとして認めたのかな?)	
1854年	10月29日	嘉永7年	9月8日	曇	昨夜よりの雨今日及 巳の刻過止 亥の刻頃より雨時々降	
1854年	10月30日	嘉永7年	9月9日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 戌之刻頃止 (この度長崎表江英吉利船4艘渡来・稔やかに候旨公儀御書付模写1通を御用懸等に渡す、天保からの五両金の通用停止)	
1854年	10月31日	嘉永7年	9月10日	晴	(御名代として家老が射芸見分)	

(*) 御廻米:江戸30000石(家中扶持米18000・払い米12000)・大坂廻米15000石(すべて家中扶持米))

1854年	11月1日	嘉永7年	9月11日 曇	今晚丑の刻より雨時々降 巳の刻過止	
1854年	11月2日	嘉永7年	9月12日 晴	(御名代として家老が弓術見分)	
1854年	11月3日	嘉永7年	9月13日 晴	戌の刻過より雨時々降 (深浦湊支配轟木村領に佐竹様御廻船が破船) 下から続く 節は箱館奉行より達し次第人数差出すように・南部美濃守にも同様通知するとの御書付)	
1854年	11月4日	嘉永7年	9月14日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 午の刻頃より雨時々降 夜二入同断 下から続く 筆頭老中からの呼出しで・箱館表の御固めの儀は是まで通り松前伊豆守であるが非常の 上に続く	
1854年	11月5日	嘉永7年	9月15日 (天候なし)	昨夜よりの雨時々降今日二及 巳の刻過止 (去る8日御老中様方御廻勤後屋形様着府、人事異動、閏7月朔日の殺人者の人相書きが来ている、江戸で人事異動、8月晦日 上に続く	
1854年	11月6日	嘉永7年	9月16日 曇	午の刻過雷雨 雷則刻止 雨未の刻頃止	
1854年	11月7日	嘉永7年	9月17日 晴	戌の刻過より雨時々降 (堀越村柳守が百姓共と庄屋宅に行き騒ぎ立てる・柳守取放)	
1854年	11月8日	嘉永7年	9月18日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断	
1854年	11月9日	嘉永7年	9月19日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 夜二入同断	
1854年	11月10日	嘉永7年	9月20日 曇	昨夜よりの雨今晚子の刻頃止 丑の刻頃より雨時々降 (去る夏菜種買の12人に過料銭1貫500文宛、この節新米1俵29文目・御家中御買上米1俵30目立江4分増で申し付ける)	
1854年	11月11日	嘉永7年	9月21日 曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (自食物入りで漆を仕立てた板屋野木村の2人に名字帯刀御免)	
1854年	11月12日	嘉永7年	9月22日 曇	昨夜よりの雨今晚卯の刻頃止 (盗み杣で追放の病気の男を願いにより居村徘徊御免)	
1854年	11月13日	嘉永7年	9月23日 快晴		
1854年	11月14日	嘉永7年	9月24日 快晴		
1854年	11月15日	嘉永7年	9月25日 晴	(御名代として家老が馬術見分、悪巧の青森御蔵拵頭取放し、酒2斗入り1樽の御印代5分・以下御役銭糶1俵2文目・醤油2斗入り3文目・味噌2斗入り2文目・白酒2斗入り3文目・酢2斗入り1文目)	
1854年	11月16日	嘉永7年	9月26日 快晴		
1854年	11月17日	嘉永7年	9月27日 曇	戌の刻過より雨時々降 (大和沢山下4村に杣取跡の末木伐取り仰せ付ける)	
1854年	11月18日	嘉永7年	9月28日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1854年	11月19日	嘉永7年	9月29日 曇		
1854年	11月20日	嘉永7年	10月1日 晴	(去る12月腰縄付で預けられた男を取り逃がした瀬辺地村の4人に過料銭1貫200文宛、俵子15俵の諸手足軽が病死し松前表で病死の者の孫であるとしてその子を御旗警固即役としている)	
1854年	11月21日	嘉永7年	10月2日 晴		
1854年	11月22日	嘉永7年	10月3日 晴	酉の刻頃より雨時々降 下から続く 甲冑の代金は50両大小は17両との数値あり)	
1854年	11月23日	嘉永7年	10月4日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜に入同断 今日雪少し降 (賈金の件で公儀御呼出しの相内太田村庄屋が去月2日江戸表出立23日に到着、甲冑・大小の買戻しの話が複数ある・ 上に続く	
1854年	11月24日	嘉永7年	10月5日 曇	昨夜よりの雨卯の刻過止 戌の刻過地震少し (人事異動、7月20日殺人の肥後国浪人の人相書き)	
1854年	11月25日	嘉永7年	10月6日 快晴		
1854年	11月26日	嘉永7年	10月7日 快晴	戌の刻頃雨降 亥の刻過止 (松前から焰硝100貫目の津出願い・了承、御名代として家老が馬術見分)	
1854年	11月27日	嘉永7年	10月8日 晴	(……1貫目2貫目船打筒2挺分台鉄物並びに500目筒台鉄者その外カノン2挺分……、人事異動)	
1854年	11月28日	嘉永7年	10月9日 快晴		
1854年	11月29日	嘉永7年	10月10日 快晴	(今日家老が御用人中大目付同行の上学問所で素読等の試を行う、江戸で人事異動)	
1854年	11月30日	嘉永7年	10月11日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 申の刻過止 (人事異動)	
1854年	12月1日	嘉永7年	10月12日 晴	昨夜雪少し降 (御朱印到着の際の作法あり・外南・内南・武者屯・御白砂御門は大扉開く等々)	
1854年	12月2日	嘉永7年	10月13日 晴		
1854年	12月3日	嘉永7年	10月14日 晴	17日から続く 御買上値段これまでより2文目増の32文目立に4分増で御買上申し付ける)	
1854年	12月4日	嘉永7年	10月15日 曇	今晚寅の刻過より雨降 辰の刻頃止 申の刻過より雨降 夜に入同断 下から続く 水油1升につき5文目7厘余に相当・5文目4文(分?)1合売りは5分に申し付ける)	
1854年	12月5日	嘉永7年	10月16日 曇	今晚寅の刻過地震少し 昨夜よりの雨今日に及 時々降 未の刻過止 今日雪降 一寸程積 (御判物御朱印到着、去月11日より30日間の荏種の平均値段を御定法で割合すると 上に続く	
1854年	12月6日	嘉永7年	10月17日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (55歳の御用人本多東作の驚龍御免) 下から続く ・鯉ヶ沢43文目3分3厘6毛)内1文目2分御定役・差引44文目6分5厘、御家中 14日に続く	
1854年	12月7日	嘉永7年	10月18日 晴	昨夜雪降 一寸程積 (去る8日夜村木方裏通り小屋の柱2000枚盗難) 下から続く 750目、御蔵3ヶ所平均入札値段1俵45文目8分5厘(弘前43文目9分1厘2毛・青森50目3分1毛 上に続く	
1854年	12月8日	嘉永7年	10月19日 晴	酉の刻頃より雨降 夜に入同断 下から続く 1合売りは是まで通り11文で商売するよう申し付ける、明年入用の筒薬が15000斤(斤は質量の単位だが用途で異なる)この代63貫 上に続く	
1854年	12月9日	嘉永7年	10月20日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 午の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (去月15日より30日間の米売出し相場を御定法で割合すれば酒1升1文目6分1厘余に相当・酒1升を1文目7分5厘 上に続く	
1854年	12月10日	嘉永7年	10月21日 曇	昨夜よりの雨今日に及 酉の刻過止 (御収納米取り掛かり中は焰硝の取り方御差留め、来る24日金2000両(内1000両御預り手形)を江戸に差登)	
1854年	12月11日	嘉永7年	10月22日 晴	昨夜雪少し降 (御名代として家老が鋤術見分、詮議中他出差留めの石郷岡某が21日暮れ六時頃出奔)	
1854年	12月12日	嘉永7年	10月23日 晴		
1854年	12月13日	嘉永7年	10月24日 晴	昨夜雪降 一寸程積 午の刻頃地震少し	
1854年	12月14日	嘉永7年	10月25日 曇	午の刻頃より雨降 未の刻過ぎ止 (今日家老が学問所で素読等の試を行う・まだ残っている、新穀相場1俵代35文目・この値段で御家中拝借者の代を差し引き申し付ける)	
1854年	12月15日	嘉永7年	10月26日 晴		
1854年	12月16日	嘉永7年	10月27日 晴	(今日家老が御用人中大目付同行の上学問所で素読等の試を行う、賈金で江戸登りの面々の旅費500両近く(藩から貸していたのでしょうね)を各村町から上納させる)	
1854年	12月17日	嘉永7年	10月28日 晴	(娘に借用の御制禁の品を着用させた青森の男に20日戸の・娘は30日押し込め)	
1854年	12月18日	嘉永7年	10月29日 晴		
1854年	12月19日	嘉永7年	10月30日 曇	巳之刻過より雨時々降 酉之刻過止 (御朱印を預かり下向の面々に御手当)	
1854年	12月20日	嘉永7年	11月1日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (御用多忙として後藤門之丞?に銀子2枚下し置かれる、毛内平格が先祖の名有右衛門と改名)	
1854年	12月21日	嘉永7年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 四寸程積 (今日家老が御名代として槍術見分)	
1854年	12月22日	嘉永7年	11月3日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 四寸程積 (焼失の稲を過分に申し出た庄屋等3人に12・12・9鞭居村徘徊是まで通り)	
1854年	12月23日	嘉永7年	11月4日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 五寸程積 (十三の小廻船が破船等で不足・明春より一部米の輸送を減らす、三之丸御屋形で頃日品々紛失)	
1854年	12月24日	嘉永7年	11月5日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 七寸程積 (今朝一間所中の元家老笠原近江が病死)	
1854年	12月25日	嘉永7年	11月6日 晴	昨夜雪降 五寸程積 (所々で盗みの男に3鞭庄屋江引渡し) 下から続く 来る10日立ちで金2000両を御登)	
1854年	12月26日	嘉永7年	11月7日 曇	昨夜雪降 二寸程積 午の刻頃より雨降 夜二入同断 (今日家老が御名代として槍術並びに長太刀見分、去る朔日金木組今泉村で出火・類焼共3軒その他焼失・火元他村預け、 上に続く	
1854年	12月27日	嘉永7年	11月8日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 下から続く 居町徘徊是まで通り・大赦以前として関係者に軽い罰)	
1854年	12月28日	嘉永7年	11月9日 晴	(昨夜御用人北原惣蔵が病死、昨年5月の江戸廻船に水主と馴染合い船に乗込み上方見物を目指す女がいた・房州沖合で上乗に見つかり上陸を申付けられた・この女に9鞭 上に続く	
1854年	12月29日	嘉永7年	11月10日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積	
1854年	12月30日	嘉永7年	11月11日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積	
1854年	12月31日	嘉永7年	11月12日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (今日家老が御名代として大長刀見分)	

1855年	1月1日	嘉永7年	11月13日	曇	今日雪降	五寸程積	下から続く	付き4文目5分二御買上仰せ付けられる)	
1855年	1月2日	嘉永7年	11月14日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪少し降	(岩木山硫黄平より花硫黄穿つくし大坂表より御買下げ・値段は格別高値・元寺町に黒硫黄から花硫黄にする手法を知る者があり目方1貫目に	上に続く
1855年	1月3日	嘉永7年	11月15日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降	三寸程積	(高100石二付150目積の御手当てを下し置かれる、人事異動)
1855年	1月4日	嘉永7年	11月16日	晴	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少し降		
1855年	1月5日	嘉永7年	11月17日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降	四寸程積	
1855年	1月6日	嘉永7年	11月18日	曇	昨夜雪降	七寸程積	今日雪降	一寸程積	
1855年	1月7日	嘉永7年	11月19日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪降	二寸程積	
1855年	1月8日	嘉永7年	11月20日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	(当月9日夕より翌10日朝まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月15日朝までで昨年に引合い5日早く節に引合い14日遅い)	
1855年	1月9日	嘉永7年	11月21日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降	(約1ヶ月ぶりに調べたら三之丸御屋形から釘隠(くぎかくし・長押などに打った釘の頭を隠すための飾り金具)などが盗まれている)	
1855年	1月10日	嘉永7年	11月22日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降		
1855年	1月11日	嘉永7年	11月23日	晴					
1855年	1月12日	嘉永7年	11月24日	快晴					
1855年	1月13日	嘉永7年	11月25日	晴					
1855年	1月14日	嘉永7年	11月26日	曇	今暁子之刻頃より雨時々降	夜二入中断	下から続く	重き追放・大川村久次郎は過料3貫文・一太郎他2人は欠所)	
1855年	1月15日	嘉永7年	11月27日	曇	昨夜より之雨今日二及び時々降	午之刻過止	(江戸で人事異動、去月(多分9月)18日大坂安治川口江異国船・人数を差出す、似せ金の件決着・舞戸村次郎遠嶋・鰐ヶ沢次兵衛は	上に続く	
1855年	1月16日	嘉永7年	11月28日	曇	昨夜雪降	五寸程積	今日雪降	三寸程積	(十三湯前後今16日朝まで残らず氷張る)
1855年	1月17日	嘉永7年	11月29日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降	二寸程積	(浅瀬石の鳴海栄作の門に金貸さなければ……という紙を張ったのかな?大赦以前で弘前払い)	
1855年	1月18日	嘉永7年	12月1日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降	二寸程積	(人事異動、平館詰で武具嗜み宜しいとして2人に銀子2枚下し置かれる、多くの村の50人に漆小仕立て申し付ける)	
1855年	1月19日	嘉永7年	12月2日	晴					
1855年	1月20日	嘉永7年	12月3日	曇	今日雪少し降				
1855年	1月21日	嘉永7年	12月4日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降	四寸程積		
1855年	1月22日	嘉永7年	12月5日	晴	昨夜雪降	一寸程積			
1855年	1月23日	嘉永7年	12月6日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1855年	1月24日	嘉永7年	12月7日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(阿蘭陀(オランダ)国の儀は従来通商御免であつたが垂墨利加(アメリカ)同様とする、赤石愛太郎の持参品あり・家内もなく親類に渡す、他領者を止宿の者に罰)		
1855年	1月25日	嘉永7年	12月8日	晴	昨夜雪少し降				
1855年	1月26日	嘉永7年	12月9日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1855年	1月27日	嘉永7年	12月10日	晴	昨夜雪降	一寸程積	(所々で盗み酒偽名で歩き回った足軽の倅を他出差し止め親預け、千ヶ寺(全国の多くのお寺に参ること)にて御国入りの夫婦を止宿させた藤崎村の寺を禁足)		
1855年	1月28日	嘉永7年	12月11日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	戌之刻頃地震少し	(御召馬就小人で出奔した者の親を三之丸の釘隠等の盗みで入牢、江戸でこの節度々地震、江戸で人事異動)
1855年	1月29日	嘉永7年	12月12日	曇			(御用金を盗み取り逐電の小物源兵衛(4月15日の人相書きあり)が当8月に江州道で召取られる、去月19日屋形様が上使を以って御鷹の雁御拝領)		
1855年	1月30日	嘉永7年	12月13日	曇					
1855年	1月31日	嘉永7年	12月14日	晴	昨夜雪少し降	下から続く	満水にて……水戸口懸役相内村の某は来たが当年は当番でないなど等閑……)		
1855年	2月1日	嘉永7年	12月15日	晴	巳之刻過より小雨降	午之刻過止	今日雪少し降	(御代替りに付御法令の写今日1役1人江相渡す、人事異動、十三水戸口が去月23日より29日まで塞がり町中下々通迄	上に続く
1855年	2月2日	嘉永7年	12月16日	曇	今日雪少し降	(浦々より取立ての年賦金を私曲した勘定人加勢御目見以上御留守居支配の給分召上げ御沙汰中入牢、脅迫博打をし武者修行と称し松前に渡った御家中の高祖父を永揚屋入り)			
1855年	2月3日	嘉永7年	12月17日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少し降	(赤石組大然村・同組大童子村・駒越組川原平村の狛師に鳥目3貫文宛並びに下々位熊皮1枚宛下し置かれる)	
1855年	2月4日	嘉永7年	12月18日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪降	三寸程積	(人事異動) 下から続く 御家中御買上値段2文目引下げ(1俵)30目立江4分増に申し付ける)
1855年	2月5日	嘉永7年	12月19日	晴	下から続く	十三町では350俵積平田船6艘を新規合船し御金300両拝借・運賃で10ヶ年返済を申し出る・御備え用にもなるので200両拝借の上5ヶ年で上納を申し付ける、	上に続く		
1855年	2月6日	嘉永7年	12月20日	曇	未之刻頃より雨時々降	戌之刻過止	(御賞(銀3両)、青森町の松前様本陣の村林某から借金願い・酒で返す由、十三から小廻で鰐ヶ沢に廻す米の半分を駄下げとする案があり	上に続く	
1855年	2月7日	嘉永7年	12月21日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降		
1855年	2月8日	嘉永7年	12月22日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降	今日地震少し	(御賞、寒30日売出米平均で御定法で割合すると酒1升1文目5分4厘余に相当・1升を1文目6分5厘1合売りは10文に商売するよう申し付ける)
1855年	2月9日	嘉永7年	12月23日	曇	巳之刻過より雨時々降	(帯刀の上御用と称して工人より銭を取立てた大工と木挽きに15鞭居町徘徊はまで通り・関係者に3鞭等の罰)	下から続く	小泊村の梅五郎と	欄外(*)に続く
1855年	2月10日	嘉永7年	12月24日	曇	昨夜より之雨今日辰之刻過止	今日雪少し降	(北・八幡・高杉御蔵の立会と奉行拵頭等に御賞、一昨年の検見の節不埒の荒川村等の13人に格段の沙汰で過料1貫800文宛、	上に続く	
1855年	2月11日	嘉永7年	12月25日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1855年	2月12日	嘉永7年	12月26日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降		
1855年	2月13日	嘉永7年	12月27日	曇	昨夜雪少し降	(御賞(銀5両3両)、勘定人を御目見以上に等の人事異動、賈金関連で夕顔関村の百姓の元居住地に存命に候えば斬罪との捨捨を晒す)			
1855年	2月14日	嘉永7年	12月28日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	(砲術稽古教授の3人(金300疋)・教授手伝い5人(200疋)に御賞、去る16日若殿様が四品仰せ付けられる、年号を安政と御改め)	
1855年	2月15日	嘉永7年	12月29日	晴	昨夜雪少し降	(十三町の船持ちが小廻米輸送の前に松前に行きたいとの申し立て・3月20日までには変えるとの事・認める)			
1855年	2月16日	嘉永7年	12月30日	曇	今日雪少し降				
1855年	2月17日	安政2年	正月1日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降		
1855年	2月18日	安政2年	正月2日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降	二寸程積		
1855年	2月19日	安政2年	正月3日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降		
1855年	2月20日	安政2年	正月4日	曇					
1855年	2月21日	安政2年	正月5日	曇	今日未之刻頃雷鳴	則刻止	去る之刻過より雨時々降	戌之刻過止	
1855年	2月22日	安政2年	正月6日	曇	今日雪降	一寸程積			
1855年	2月23日	安政2年	正月7日	晴	(深浦町(同心)警固に深浦で小羽廻船が破船の際に世話になったと能代の内田某からの礼状が届いている)				
1855年	2月24日	安政2年	正月8日	晴					
1855年	2月25日	安政2年	正月9日	曇	今暁丑之刻頃より雨降	申の刻頃止	今日雪少し降		
1855年	2月26日	安政2年	正月10日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1855年	2月27日	安政2年	正月11日	曇	酉の刻過より雨時々降	夜二入中断	(「曇 酉之刻過より雨時々降 夜に入中断」ではないのです:真賞)		
1855年	2月28日	安政2年	正月12日	曇	昨夜よりの雨今日二および巳の刻頃止				

(*) 申す者が松前より青森に送り届けられる・前浜で漁中に風が変わり沖に流され三国の船に助けられた由・実は松前の鮮取に雇われての帰りに沖之口御改めなしに乗船等々相当に胡散臭い・庄屋等が怒られる、当月13日に前浜で漁をしていた松前の漁師2人が大吹雪に遭い1人が死亡1人が小泊領に乗り上げ助命、屋形様が御鷹の雁拝領に關し座當共に御配当1人に付15文・89文目2分5毛下し置かれる)

1855年	3月1日	安政2年	正月13日	曇	昨夜雪少し降	下から続く	1両から12両2朱)、(将軍代替りの)諸国巡見は海岸御手当て等の問題地震等があり巳年(今年は卯年)まで延引仰せ出される)				
1855年	3月2日	安政2年	正月14日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少し降	(去る10日夕八時頃柳島から出火・北西の大風飛び火あり柳島御殿並びに御長屋類焼・家中の面々65人?に御手当て(銭2貫300文・	上に続く		
1855年	3月3日	安政2年	正月15日	晴	昨夜雪少し降	(人事異動)					
1855年	3月4日	安政2年	正月16日	快晴							
1855年	3月5日	安政2年	正月17日	快晴							
1855年	3月6日	安政2年	正月18日	快晴							
1855年	3月7日	安政2年	正月19日	快晴	(秋田川口村の御休所の家作出来につき50両拝借願いがある・御手当て金3両下し置かれる)						
1855年	3月8日	安政2年	正月20日	快晴	(去る13日夜金木組相内村で馬草煮釜から出火・十三町など近郷の者も駆けつけける・類焼共13軒焼失・火元百姓他村預け、この度年号改元に伴い御印紙並びに切手紙の認め方を変更する)						
1855年	3月9日	安政2年	正月21日	曇	亥の刻過地震少し	(昨20日朝尾崎組新屋村で出火・類焼共3軒と男子焼死・火元高無他村預け、御判物付添下りに前例を調べ御手当て(金1歩・銭1貫500文・900文・700文・300文)下し置かれる)					
1855年	3月10日	安政2年	正月22日	晴							
1855年	3月11日	安政2年	正月23日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降					
1855年	3月12日	安政2年	正月24日	曇	下から続く	用人口達、今年の御廻船は35艘の見込み)					
1855年	3月13日	安政2年	正月25日	曇	未の刻頃より雨時々降	夜二入同断	下から続く	ホンベン(ボンベン又はホンベン・破裂弾)炮烙(焼いた玉)の類は除き実丸打ちの分は早放(早撃ち)専一に稽古するよう	上に続く		
1855年	3月14日	安政2年	正月26日	曇	昨夜よりの雨今暁子之刻過止	昨夜雪少し降	今日同断	28日から続く	木作村裏通りに弘前等の役者が集まり小屋掛けの上花踊り・役者庄屋等に過料等の罰、	上に続く	
1855年	3月15日	安政2年	正月27日	曇	今暁寅の刻頃より雨降	辰の刻過止	(去る11月江戸で拝領の鷹の雁肉を大寄合格以上と御側役等に明28日四時以前登城の上頂戴仰せ付けける・高岡に献備仰せ付けられる)				
1855年	3月16日	安政2年	正月28日	晴	(人事異動、土岐渡人二男を赤石愛太郎の名跡として高100石御馬廻組とする、去る20日大間越山で焚き木取りの2人が熊を狩取り差上げる・生捕りの小熊は下し置かれる、				26日に続く		
1855年	3月17日	安政2年	正月29日	曇	卯之刻過より雨降	未之刻過止	(江戸で人事異動)				
1855年	3月18日	安政2年	2月1日	曇	今日雪少し降	(御賞)	下から続く	3日遅い、福島頼母(旧姓津軽)・森岡民部・棟方晴吉・田村勇太等の一問所の場所が倅宅に替わっている)			
1855年	3月19日	安政2年	2月2日	晴	(棟方秀一・小山内・黒滝・田村等に御養い扶持増、正月22日夕より翌23日朝迄十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷明ける・去年は2月11日朝迄で当年は17日早く節に引合い				上に続く		
1855年	3月20日	安政2年	2月3日	曇	卯之刻過より雨時々降	申之刻頃止					
1855年	3月21日	安政2年	2月4日	晴	(去月28日朝迄に十三湯前後共残らず氷明ける、浪岡組浪岡村と中野村の山争いあり、11月4日5日に紀州熊野で前代未聞の大地震・新宮田辺両所浦々地震津波等にて人家多く損)						
1855年	3月22日	安政2年	2月5日	快晴	(松前藩より人命救助等で御礼(金銭を含む)が来ている、秋田能代と仙北出生の祭文語りが青森表で30日間寄興行、若殿様四品に関して座当共に89文目2分5厘下し置かれる)						
1855年	3月23日	安政2年	2月6日	快晴	(去る8月17日小栗山神社に美服で参詣した者共の3人に慎み)						
1855年	3月24日	安政2年	2月7日	曇	(鳴海栄作方に金子無心の紙面を認めて……という御家中の叔父?に3鞭弘前払いとせずはまで通り揚屋入り、借金返済が金・米・利息等が混じり合っている・福眞には理解不能)						
1855年	3月25日	安政2年	2月8日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降	(去る12月縄付きの盗み男を取り逃がした鰻ヶ沢富根町の6人に戸々15日)				
1855年	3月26日	安政2年	2月9日	晴							
1855年	3月27日	安政2年	2月10日	晴	(今日家老が御名代として剣術見分、秋田久保田津軽屋等から御金拝借願い・馬70疋を払い出す用意がある・行列方でまとめるよう申し付ける)						
1855年	3月28日	安政2年	2月11日	晴							
1855年	3月29日	安政2年	2月12日	曇	午之刻過地震少し	未之刻頃より雨時々降	夜二入同断	申之刻頃より東風強シ	夜二入同断	(学問所医学会の欠席者多い・御用人から紙に書いた小言)	
1855年	3月30日	安政2年	2月13日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	未之刻頃止	昨夜より之風今暁子之刻過止	巳之刻過より西南之風強シ	申之刻頃止	(家老津軽図書が御留守詰登で唯今出立)
1855年	3月31日	安政2年	2月14日	晴	(三之御丸に忍び込んだ盗賊等の召捕りに働いた男4人に3貫文・1貫文・800文を下し置かれる・目明しへの取立ては差し障りがありしない)						
1855年	4月1日	安政2年	2月15日	快晴							
1855年	4月2日	安政2年	2月16日	晴	(江戸で人事異動、去月29日夜大川端松前伊豆守様御屋敷より出火・同所御下屋敷の東側御土蔵等に若干の被害)						
1855年	4月3日	安政2年	2月17日	曇	辰之刻頃より雨降	夜二入同断	(今日家老が御名代として剣術見分)				
1855年	4月4日	安政2年	2月18日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断				
1855年	4月5日	安政2年	2月19日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断	下から続く	夜金木組宮川村で出火・類焼共24軒外馬屋等焼失・火元百姓他村預け)		
1855年	4月6日	安政2年	2月20日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断	(今日家老が御名代として剣術見分、去る16日夜大鰐組鯖石村で出火・類焼共3軒外馬屋等焼失・火元御代官より他村預け、去る15日		上に続く	
1855年	4月7日	安政2年	2月21日	曇	昨夜より之雨今暁卯之刻頃止	下から続く	碇ヶ関42.57・大間越16.84・野内26.5・蟹田33.36・今別61.95・在町浦寺社門前50.52・領内の総戸数が分ればそれぞれの戸数・人口が推定できる)				
1855年	4月8日	安政2年	2月22日	晴	(今日家老が御名代として剣術見分、不埒な堀越組手代を取放)	下から続く	戸数割にした表:弘前988.68文目・在8貫266.24・青森539.77・鰻ヶ沢215.72・深浦93.72・十三64.49・			上に続く	
1855年	4月9日	安政2年	2月23日	晴	下から続く	(御扶持米に直し9人扶持と1合5タ))・黒滝主殿田村勇太には米が半分になっている(暖房等に差がなく薄い粥を与える?福眞)、金100両(10貫400目を)を領内の				上に続く	
1855年	4月10日	安政2年	2月24日	快晴	(今日家老が御名代として剣術見分)	下から続く	・銭60目・流木5文目(但し冬分)・焚炭3俵(但し冬分)・明油9合(代4文目5分)・ノ99文目5分(代米1石3斗2升6合			上に続く	
1855年	4月11日	安政2年	2月25日	快晴	(大間越の男が松前で入手の蝦夷地の正図を差上げる・御酒代鳥目500文下し置かれる、森岡民部福島頼母棟方晴吉の1人1ヶ月分諸渡し:米3斗(但し1俵30目立代22文目5分)					上に続く	
1855年	4月12日	安政2年	2月26日	快晴	(所々で盗みの男4人を3鞭弘前払い(弘前生まれでないものは弘前御構い・1人は若年なのか誰かに引き渡されている))	下から続く	用人?加藤清兵衛の屋敷を19間×29間余とする)				
1855年	4月13日	安政2年	2月27日	快晴	(今日家老が御名代として剣術見分、去る24日浪岡村で出火・建家建馬類焼共2軒・火元百姓他村預け、去る23日飯詰組水野尾村で出火・類焼共5軒等焼失・火元百姓他村預け、					上に続く	
1855年	4月14日	安政2年	2月28日	快晴	(人事異動)						
1855年	4月15日	安政2年	2月29日	快晴							
1855年	4月16日	安政2年	2月30日	快晴	(今日家老が御名代として剣術見分)						
1855年	4月17日	安政2年	3月1日	曇	今暁子之刻過より雨時々降	未之刻過止	(人事異動、御賞)				
1855年	4月18日	安政2年	3月2日	快晴	亥之刻過より雨降	卯之刻頃止	酉之刻過より雨降	(三蔵詰の行状宜しからざる諸手足軽2人を勤料7俵等を差し引き御城付足軽に役下げ)			
1855年	4月19日	安政2年	3月3日	快晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止						
1855年	4月20日	安政2年	3月4日	晴	(昨値段1升売1文目5分1合売11文に商売申し付ける)						
1855年	4月21日	安政2年	3月5日	曇	未之刻過より雨降	夜二入同断					
1855年	4月22日	安政2年	3月6日	曇	昨夜より之雨今日二及	辰之刻過止	(博打の男に3鞭居村徘徊はまで通り・同類を親預け他出差留め)				
1855年	4月23日	安政2年	3月7日	曇	未之刻過より雨降	酉之刻過止	(今日家老が御名代として剣術見分、去月11日夜金木新田長泥濘に積み立て置いた御用声の1400ノが焼失・少しづつ減らして御貸し渡し)				
1855年	4月24日	安政2年	3月8日	晴							
1855年	4月25日	安政2年	3月9日	快晴							
1855年	4月26日	安政2年	3月10日	晴	(今日家老が御名代として剣術見分、人事異動)						
1855年	4月27日	安政2年	3月11日	快晴							
1855年	4月28日	安政2年	3月12日	快晴							
1855年	4月29日	安政2年	3月13日	快晴	今暁子之刻過より雨時々降	寅之刻頃止	下から続く	江戸表より申し来り候)			
1855年	4月30日	安政2年	3月14日	曇	(今日家老が御名代として剣術見分、米価今もって高値・金給の面々が米拝借願い、青森町奉行からの蝦夷地の風説:西在乙部村東在木古内村まで島々一圍上知仰せ出され候断					上に続く	

1855年	5月1日	安政2年	3月15日 曇	今暁丑之刻過より雨降 寅之刻過止 巳之刻過雨降 則刻止 巳の刻過地震甚し (今日家老が御名代として剣術見分、欠所者の財産: 畑屋敷15歩・田方16歩・萱家(3間4尺×4間半)・仏壇等々)
1855年	5月2日	安政2年	3月16日 快晴	(飼馬を行方不明(隠し売った?)にした男とその仲間に3鞭宛居村徘徊是まで通り、江戸で人事異動、去る22日江戸で東西蝦夷地西在乙部東在木古内迄鳴々一円御用に付 欄外(*)に続く
1855年	5月3日	安政2年	3月17日 曇	西之刻過小雨降 則刻止 (今日家老が御名代として馬術見分、人事異動)
1855年	5月4日	安政2年	3月18日 曇	午の刻頃小雨降 則刻止 (若殿様は三之丸御屋形に住居とする、去る12月の柳島御屋敷類焼で骨折りの足軽目付等に御賞ではなく銭を渡している)
1855年	5月5日	安政2年	3月19日 曇	卯之刻頃より雨時々降 夜二入同断 西之刻頃雷鳴 則刻止 (御馬廻元嫡子などが博打窃盗知能犯などの悪事・罰は揚屋入り?)
1855年	5月6日	安政2年	3月20日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻過止
1855年	5月7日	安政2年	3月21日 快晴	(今日家老が御名代として馬術見分、人事異動)
1855年	5月8日	安政2年	3月22日 晴	
1855年	5月9日	安政2年	3月23日 曇	未之刻頃より小雨時々降 西之刻過止
1855年	5月10日	安政2年	3月24日 曇	辰之刻頃より雨降 巳之刻過止 下から続く 爰元(こもも: 当地の意味)にて巻き直すと数十両……砲身の作り方が想像できる)
1855年	5月11日	安政2年	3月25日 曇	申之刻頃小雨降 則刻止 下から続く 受領の際に試し打ち済み・江州国友産の100目筒1挺代39両2歩2朱ト永86文・境表で出来の300目筒1挺代95両・同100目筒代50両・ 上に続く
1855年	5月12日	安政2年	3月26日 快晴	(若殿様が26日に御発駕・御判物(将軍が交代してた際の新たな安堵状)持参) 下から続く ・境表にて出来の100目300目筒共都合3挺が昨年試し打ちの節痛損・何れも 上に続く
1855年	5月13日	安政2年	3月27日 曇	午の刻過より雨時々降 夜二入同断 (今日家老が御名代として算木立(多分さんぎと読み計算道具・まさか占いの道具ではあるまい)見分、御賞、江州表で出来御下げの100目筒 上に続く
1855年	5月14日	安政2年	3月28日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻頃止 (今日家老が御名代で算木立講釈見分、旧冬御判物付添下がり銀子2枚下し置かれる、3文目5分筒1挺代3両2歩ト10文目・上方表で2両1歩余)
1855年	5月15日	安政2年	3月29日 晴	
1855年	5月16日	安政2年	4月1日 曇	辰之刻過小雨降 則刻止 (家老等が三之丸御屋形御普請所見分、去る寅10月遠州の殺人者の人相書き: 年齢27歳中文より少し低き方等々)
1855年	5月17日	安政2年	4月2日 快晴	(今日家老が御名代として算木立見分)
1855年	5月18日	安政2年	4月3日 晴	
1855年	5月19日	安政2年	4月4日 快晴	(今日家老が御名代として算木立見分)
1855年	5月20日	安政2年	4月5日 快晴	(去月29日後潟組中沢村で出火・類焼共5軒その他焼失・火元他村預け、大組足軽が大星場で稽古していると見物人が多く訓練が出来ない・立ち入り禁止とする)
1855年	5月21日	安政2年	4月6日 快晴	
1855年	5月22日	安政2年	4月7日 曇	巳之刻頃より雨時々降 夜に入同断 (今日家老が御名代として算木立見分)
1855年	5月23日	安政2年	4月8日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰之刻過止
1855年	5月24日	安政2年	4月9日 曇	
1855年	5月25日	安政2年	4月10日 晴	(今日家老が御名代として算木立(実行している面々が(山鹿流)兵学の者・図上の軍事訓練か)見分、人事異動)
1855年	5月26日	安政2年	4月11日 晴	申之刻頃小雨降 即刻止 (今日家老が御名代として算木立見分、3月18日に江戸で若殿様御昇進御祝儀を家臣25人に下し置かれる、江戸で人事異動)
1855年	5月27日	安政2年	4月12日 曇	今暁卯之刻過より雨時々降 午之刻頃止 (江戸より弓を65張下げている・手続きあり) 下から続く 心得等をご家中に示している)
1855年	5月28日	安政2年	4月13日 曇	未之刻過雨降 則刻止 西之刻頃雷雨 則刻止 (度々手段米の奥内村の男に15鞭外ヶ浜4ヶ組払いの上浦々住居御構い) 下から続く 計画?、殆どの蝦夷地上知・警固の 上に続く
1855年	5月29日	安政2年	4月14日 晴	(口宣御用に付上京の大組足軽に御酒代1貫文下し置かれる(口宣は勅命の伝達である・宣は平出にして尊敬を表している・でも本来は台頭とすべき所)、屏風山に木を植える 上に続く
1855年	5月30日	安政2年	4月15日 晴	(人事異動、若殿様が湊駅まで届いている)
1855年	5月31日	安政2年	4月16日 快晴	(今日未の刻若殿様が着城)
1855年	6月1日	安政2年	4月17日 快晴	
1855年	6月2日	安政2年	4月18日 快晴	(公儀の書付で寺院の梵鐘を大砲小銃に鋳直すべし・新規の仏像は木製陶器などにとの申し出がある: 福真にも類似の思い出がある、御中小姓御番入用品の例あり)
1855年	6月3日	安政2年	4月19日 曇	今日申之刻過より小雨時々降
1855年	6月4日	安政2年	4月20日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降
1855年	6月5日	安政2年	4月21日 快晴	(綿1把に付平均2文目6分、昨年11月の桂光院様の200回御忌大赦の内容が書いてある・意味不明)
1855年	6月6日	安政2年	4月22日 快晴	(不明日に種里村山神宮焼失・奈良某が社職遠慮)
1855年	6月7日	安政2年	4月23日 曇	
1855年	6月8日	安政2年	4月24日 曇	今暁卯之刻頃より小雨降 則刻止 午之刻頃より雨時々降 夜二入同断 下から続く 西蝦夷地スツタに出張陣屋を置き等の指示が公儀から)
1855年	6月9日	安政2年	4月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻過止 下から続く 定例37250)、蝦夷地警衛の場所割が決まり箱館千代ヶ台に陣屋それまではお寺に・陣屋は虚飾に流されるな・ 上に続く
1855年	6月10日	安政2年	4月26日 曇	下から続く 見え松前箱館口江向かう、当卯年江戸廻米: 米30000石(家中扶持米18000・払米12000: 定例53342石、同大坂廻米: 12000石(家中扶持米8000・払米4000・ 上に続く
1855年	6月11日	安政2年	4月27日 曇	(江戸で人事異動、時計師九戸某を時計並びに望遠鏡詮索登り・この度高橋某同道で蒸気船並びにキヤマン細工詮索仰せ付けられ……、去月12日龍濱崎沖合いに異国船2艘が 上に続く
1855年	6月12日	安政2年	4月28日 曇	辰之刻過より雨降 午之刻頃止 (昨27日夕七時頃御家中夫妻が自害?)
1855年	6月13日	安政2年	4月29日 晴	(住民に不届きをした御家中(5月1日の記述で御手廻組)を御留守居組に役下げ)
1855年	6月14日	安政2年	5月1日 曇	(人事異動)
1855年	6月15日	安政2年	5月2日 快晴	
1855年	6月16日	安政2年	5月3日 晴	(大赦で御免になった川倉村・相内村の男が又盗み3鞭宛居村(町)徘徊是まで通り)
1855年	6月17日	安政2年	5月4日 曇	
1855年	6月18日	安政2年	5月5日 晴	(公儀よりの人相書きあり: 中文中肉等)
1855年	6月19日	安政2年	5月6日 曇	
1855年	6月20日	安政2年	5月7日 晴	(御賞(金300疋))
1855年	6月21日	安政2年	5月8日 晴	
1855年	6月22日	安政2年	5月9日 晴	西之刻過雨降 即刻止 (酒に酔い蕎麦屋で人を叩いた日雇いに3鞭居町徘徊これまで通り)
1855年	6月23日	安政2年	5月10日 晴	(人事異動、鞭刑以下過料戸メ等に相当する分は三奉行限りで処理・多少の分は申し上げるとの申し出・申し付ける)
1855年	6月24日	安政2年	5月11日 晴	(御判物付き添い下がり御賞?(銀子1枚・南鐐3片)、昨10日大鰐組乳井・薬師堂両村の者共が喧嘩・薬師堂村に死亡者)
1855年	6月25日	安政2年	5月12日 晴	(去る8日夜四つ半時頃浦町組大別内村で出火・類焼共2軒焼失・火元代官にて他村預け) (このあと13日までの間に白紙1枚閉じられてある・事情不明)
1855年	6月26日	安政2年	5月13日 晴	(去る亥年(今年は卯年で4年前)9月に破船した加賀船から紅花を盗み取った100人位に30鞭居村徘徊是まで通り等の罰・婦人は15鞭で残りは銭等の例も)
1855年	6月27日	安政2年	5月14日 快晴	(去月22日朝六半時頃龍濱崎沖合いに異国船3艘(櫓3本が2艘と2本が1艘)松前失越の方に・同日朝五時頃三馬屋沖に異国船3艘が漂流し昼九半時頃失越の方に・ 欄外(**)に続く
1855年	6月28日	安政2年	5月15日 曇	寅之刻過より雨降 夜二入同断 (石黒道歴にも一粒金丹の調合を仰せ付ける、薬師堂村の男を槍で突き殺した乳井村の3人を特定・内1人は逃亡中)
1855年	6月29日	安政2年	5月16日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳之刻頃止 (早着の飛脚に鳥目3貫文)
1855年	6月30日	安政2年	5月17日 快晴	(薬師堂村の男が突き殺されて乳井村の2人を揚屋入り)

(*) 上知・蝦夷地警固は追って沙汰するとの御書付が出る、屋形様が体調不良で若殿様が来る26日御国許に御発駕仰せ出される)

(**) 同日昼四時頃鷹野崎沖に3艘見え松前失越の方に向かう、佐竹様より蝦夷地警衛に関する協力願い、釜菰某を勝麟太郎塾に入れている)

1855年	7月1日	安政2年	5月18日 快晴 (大坂の大砲鑄造関連の御賞300疋)
1855年	7月2日	安政2年	5月19日 晴 (両組頭御備立高覧)
1855年	7月3日	安政2年	5月20日 晴
1855年	7月4日	安政2年	5月21日 晴
1855年	7月5日	安政2年	5月22日 晴 卯之刻過小雨降 則刻止 (乳井村の逃亡者の人相書き:年齢39歳・平顔にてあばた(珍しく濁点あり)・背高サ5尺位等々)
1855年	7月6日	安政2年	5月23日 曇 卯之刻過より雨時々降 酉之刻頃止
1855年	7月7日	安政2年	5月24日 快晴 (青田の内笛吹くなどの触れ)
1855年	7月8日	安政2年	5月25日 晴 酉之刻過より雨時々降
1855年	7月9日	安政2年	5月26日 昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻過止(日照関係記述なし)(家中の勤当の弟に6鞭弘前徘徊これまで通り)
1855年	7月10日	安政2年	5月27日 晴
1855年	7月11日	安政2年	5月28日 晴 (南溜池大矢場で射芸高覧)
1855年	7月12日	安政2年	5月29日 快晴 (人家近くで花火・小筒等打ち放すなどの触れ)
1855年	7月13日	安政2年	5月30日 快晴
1855年	7月14日	安政2年	6月1日 晴 (人事異動)
1855年	7月15日	安政2年	6月2日 曇 子の刻頃より小雨降 辰の刻頃止 (大矢場で射芸大的前高覧)
1855年	7月16日	安政2年	6月3日 曇 申の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1855年	7月17日	安政2年	6月4日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 未の刻頃止 申の刻過より雨降 酉の刻頃止 (揚屋に松前から(盗み?)の御家中が居る・捕まえ品を返した御礼菓子代金300疋が来る)
1855年	7月18日	安政2年	6月5日 曇
1855年	7月19日	安政2年	6月6日 曇 辰の刻過小雨降 即刻止
1855年	7月20日	安政2年	6月7日 晴 (去る2日昼八時頃後湯で出火・類焼共6軒焼失・火元他村預け)
1855年	7月21日	安政2年	6月8日 晴 (今日馬術高覧)
1855年	7月22日	安政2年	6月9日 晴
1855年	7月23日	安政2年	6月10日 曇 下から続く 沖館詰村の先庄屋等多数に過料)
1855年	7月24日	安政2年	6月11日 曇 今晩子の刻頃より雨時々降 未の刻過止 卯の刻過雷鳴 即刻止 (箱館台場5ヶ所この度同所詰御役方江引渡し、広田組沖館詰村と川山村の范の取り合いは川山村の勝ち・ 上に続く
1855年	7月25日	安政2年	6月12日 快晴 (御賞、人事異動)
1855年	7月26日	安政2年	6月13日 快晴
1855年	7月27日	安政2年	6月14日 快晴
1855年	7月28日	安政2年	6月15日 快晴 (御賞)
1855年	7月29日	安政2年	6月16日 曇 (甲冑を秋田領に出す口銭を受取り偽名で関所を出入りした男に9鞭弘前徘徊はまで通り・関所抜けの手伝い男に9鞭・その他は軽罰)
1855年	7月30日	安政2年	6月17日 曇 寅の刻過より小雨降 辰の刻頃止 (篠崎進申し出候:トントロ出来品並びに諸道具御買下の儀申出剣銃隊御差立て仰せ付けられ候儀に御座候えば必用の品につき……)
1855年	7月31日	安政2年	6月18日 晴 (今日馬術高覧、去ル15日深郷田村八幡宮参詣帰りに金木新田川内村・福浦村の男2人が死亡と手傷)
1855年	8月1日	安政2年	6月19日 曇 未の刻過より雨降 申の刻頃止 (金木組福浦村の男を傷害致死容疑で手配、間道を通り秋田表往復の男2人に12鞭)
1855年	8月2日	安政2年	6月20日 晴 下から続く 小泊村沖合に櫓3本同2艘(櫓の数不明?)が丑寅の方に通る・同日夕七時過ぎ龍濱崎並びに藤嶋村沖合に2艘見え松前小嶋の方より矢越の方に通る)
1855年	8月3日	安政2年	6月21日 晴 (人事異動) 下から続く 沖合に櫓2本の異国船1艘屋九時過ぎ丑寅の方に通る・同日朝五半時頃龍濱崎沖合に異国船屋九時頃松前矢越の方に通る・同26日夕七時頃 上に続く
1855年	8月4日	安政2年	6月22日 晴 卯之刻頃雨降 則刻止 (この度本行寺末法藏庵の本堂等を役筋立会いの上取り壊す) 下から続く 沖合に1艘見え申酉の方に向かう、当4月17日朝六半時頃小泊村 上に続く
1855年	8月5日	安政2年	6月23日 快晴 下から続く 龍濱崎沖を松前小嶋の方より矢越の方に通る・同8日朝六半時頃龍濱崎並びに藤嶋村沖合に1艘が松前矢越の方より小嶋の方に通る・同日朝五時頃小泊村 上に続く
1855年	8月6日	安政2年	6月24日 曇 午之刻過より雷雨 雷則刻止 雨未之刻過止 下から続く 沖合に1艘見え松前城下の方に通る・同6日朝六時頃小泊村沖合に1艘見え丑寅の方に通る・同日朝五時頃 上に続く
1855年	8月7日	安政2年	6月25日 晴 (去月4日朝五時頃龍濱崎沖に櫓3本の異国船が松前矢越の方より小嶋の方に通る・同5日屋九時頃宇田村沖合に1艘見え夕八時刻松前箱館の方に通る・同日夕七半時頃鷹野崎 上に続く
1855年	8月8日	安政2年	6月26日 曇 巳之刻過小雨降 即刻止 (腰縄つきで預けられた男を取り逃がした親類五人組などに21鞭居村徘徊はまで通り・庄屋に過料)
1855年	8月9日	安政2年	6月27日 快晴
1855年	8月10日	安政2年	6月28日 晴 (大振りの祢婦多を作るな等の触れ)
1855年	8月11日	安政2年	6月29日 曇 卯之刻頃小雨降 即刻止
1855年	8月12日	安政2年	6月30日 晴 (大鰐村の加賀助・兵左衛門より御初米出穂差出す)
1855年	8月13日	安政2年	7月1日 晴 (長柄奉行格郡奉行後藤門之丞の金給を70俵4人扶持・勤料は是まで通り等の人事異動、新田開発等で銀3枚等を下し置かれる、7月13日より青森善知鳥宮境内で相撲興行・札銭は1人前4分宛)
1855年	8月14日	安政2年	7月2日 曇 (赤石禮次郎が墓参に江戸登り出立)
1855年	8月15日	安政2年	7月3日 晴 申の刻過地震少し
1855年	8月16日	安政2年	7月4日 曇 辰の刻過より雨降 夜に入同断 (14日より紙漉町の屋敷で角力興行・札銭4分上棧敷3文目下棧敷2文目に申し付ける、誰かの200回御忌で大赦:本所徘徊御免2人)
1855年	8月17日	安政2年	7月5日 曇 昨夜よりの雨今日及 時々降 夜に入同断 (昨4日岩木川出水・樋口表矢来押破り流木流散)
1855年	8月18日	安政2年	7月6日 曇 昨夜よりの雨今日及 時々降 未の刻過止
1855年	8月19日	安政2年	7月7日 快晴 (若殿様御不例・両社五山下居宮深砂宮で平癒の重御祈禱)
1855年	8月20日	安政2年	7月8日 快晴
1855年	8月21日	安政2年	7月9日 快晴 (常々行状の悪い御留守居支配を隠居・倅に20俵2人扶持御目見以下御留守居支配に)
1855年	8月22日	安政2年	7月10日 快晴 12日から続く 御目見以上20目代10俵・御目見以下流木15文目代)
1855年	8月23日	安政2年	7月11日 晴 (漆小仕立の3人に名字帯刀、十三町近年衰微いたし重立ちの者潰れに及び候……、この度簡葉400貫目を砲術師範家7軒に調合仰せ付けられる・1軒に付目方57貫目余に相当)
1855年	8月24日	安政2年	7月12日 快晴 (炭流木貸渡:御家老衆流木400目代焚炭100俵・大寄合200目代60俵・御長柄奉行100目代35俵・御目付60目代20俵・今別町奉行45文目代18俵・御中小姓35文目代16俵・ 10日に続く
1855年	8月25日	安政2年	7月13日 快晴
1855年	8月26日	安政2年	7月14日 快晴
1855年	8月27日	安政2年	7月15日 晴 (水練教授方等10人に御賞(銀5両)、浪岡組代官より上村を中村に下げる申し立て2か年に限り認める、此の頃押切船2艘出来……)
1855年	8月28日	安政2年	7月16日 曇 未の刻過雨降 申の刻過止 下から続く 今朝本行寺の弟子が辻斬り被害)
1855年	8月29日	安政2年	7月17日 曇 午の刻過より雨降 酉の刻過止 (去月朔日より晦日までの相場平均の上御定法で割合すれば水油1升6文目8厘7毛に相当・水油1升を6文目1分6厘1合売りは6分1文に申し付ける、 上に続く
1855年	8月30日	安政2年	7月18日 快晴
1855年	8月31日	安政2年	7月19日 晴 (伊勢の海の年回到当たり吊(多分弔の意)角力興行・札銭1人に付3分宛、この節上米26文目・御家中御買上米30目立を1俵28文目立に4分増に申し付ける)

1855年	9月1日	安政2年	7月20日	快晴	下から続く	頃龍濱崎沖碇泊の異国船から橋船2艘異人16人が上陸所々に色塗り測量の様子で台場にも罷り越す・同日屋四時頃この蒸気船の橋船1艘6人が上陸	欄外(*)に続く				
1855年	9月2日	安政2年	7月21日	晴	(人事異動)	下から続く	蒸気船1艘が三馬屋澗口沖に碇泊・七半時頃橋船1艘下し異国人10人乗り組み上陸・5人は市中往来・暮れ六時頃元船に漕ぎ帰る、同17日朝五半時	上に続く			
1855年	9月3日	安政2年	7月22日	曇	(去月16日昼四半時頃櫓3本の異国船1艘が小泊村沖に見え子丑の方に通る・同日夕七時頃龍濱崎沖に櫓3本の異国船1艘碇泊し櫓2本の蒸気船は三馬屋沖に通る、同日同刻過			上に続く			
1855年	9月4日	安政2年	7月23日	快晴							
1855年	9月5日	安政2年	7月24日	快晴	(奢がましい儀停止を触れている)						
1855年	9月6日	安政2年	7月25日	快晴	(来る28日御初米差上げる、若殿様御不例に付登山参りの者共の御堀端より郡所蔵屋敷まで太鼓打ち差留めを申し付ける)						
1855年	9月7日	安政2年	7月26日	快晴	下から続く	当年は日数に引合い13日早く節に引合い9日早い)					
1855年	9月8日	安政2年	7月27日	曇	今日巳の刻頃より小雨時々降	夜二入同断	下から続く	以上登城の触れ、御初米去る寅年5月6日植付閏7月17日鎌入で101日目・当年は4月22日植付7月20日鎌入で88日目	上に続く		
1855年	9月9日	安政2年	7月28日	晴	今暁子の刻頃雨風強	昨夜よりの雨今暁寅乃刻頃止	(佐田鞆負を御留守居組頭御役知50石増・福島千之助を御使番・山上鉄太郎を蟹田町奉行に等の人事異動、明29日御目見	上に続く			
1855年	9月10日	安政2年	7月29日	晴	(若殿様昨晩申之下刻御逝去、道中7日振り当日立ちの飛脚を江戸表え差立てる)						
1855年	9月11日	安政2年	8月1日	快晴	(昨26日十三町で出火・東風烈しく類焼12軒・火元入寺の上憤)						
1855年	9月12日	安政2年	8月2日	晴							
1855年	9月13日	安政2年	8月3日	曇	辰の刻過より雨降	則刻止					
1855年	9月14日	安政2年	8月4日	快晴	(……上方米価追々下落・この節より玄米(1俵)10文目を8文目・白米12文目を10文目・餅米も同様・白餅米14文目を12文目とする、この度は御中陰中で百沢寺より苔の実差し上げない)						
1855年	9月15日	安政2年	8月5日	快晴							
1855年	9月16日	安政2年	8月6日	曇	巳の刻過より小雨降	則刻止					
1855年	9月17日	安政2年	8月7日	晴							
1855年	9月18日	安政2年	8月8日	曇	午の刻過より雨時々降	夜二入同断					
1855年	9月19日	安政2年	8月9日	晴	昨夜よりの(多分「雨」が抜けている)今暁子の刻過止						
1855年	9月20日	安政2年	8月10日	晴							
1855年	9月21日	安政2年	8月11日	晴							
1855年	9月22日	安政2年	8月12日	曇	申の刻過より雨降	酉の刻過止	(今日報恩寺に御葬送・三之丸御屋形より御出棺)				
1855年	9月23日	安政2年	8月13日	曇	今暁子の刻過より雨時々降	夜二入同断					
1855年	9月24日	安政2年	8月14日	晴	昨夜よりの雨今暁寅乃刻過止	(江戸で人事異動、昨2日上使を以って屋形様が御鷹の雲雀御拝領)					
1855年	9月25日	安政2年	8月15日	晴							
1855年	9月26日	安政2年	8月16日	曇	今暁寅の刻頃より雨時々降	夜二入同断	下から続く	御家中から4文目増で御買上とする)			
1855年	9月27日	安政2年	8月17日	曇	昨夜よりの雨今日二及	巳の刻頃止	(尾太山で去る寅年(今年は卯年)5月より当4月中出船は400箇余・銀の吹き立ても書いてあるが判らない)	下から続く	1俵27文目立に	上に続く	
1855年	9月28日	安政2年	8月18日	晴	(去月21日夜増館組吉野田村の男を打ち殺し出奔の男3人の人相書:年齢36歳中丈中肉等・年齢34歳丈5尺1寸位中肉等・年齢29歳丈5尺3寸位等、当作鉢豊熟・米価追々引下げ・					上に続く	
1855年	9月29日	安政2年	8月19日	晴							
1855年	9月30日	安政2年	8月20日	曇	今日午の刻過より雨降	夜に入同断	(熊狩取り出精として御酒代と熊皮:駒越組砂子瀬村・同組川原平村・大鰐組居土村獺師の3人に下々位の熊皮1枚と鳥目3貫文宛)				
1855年	10月1日	安政2年	8月21日	曇	昨夜よりの雨今日に及	巳の刻頃止					
1855年	10月2日	安政2年	8月22日	晴							
1855年	10月3日	安政2年	8月23日	曇	未の刻頃より雨時々降	夜二入同断					
1855年	10月4日	安政2年	8月24日	曇	昨夜のより雨今日二及	時々降	午の刻過止(こう書いてある)				
1855年	10月5日	安政2年	8月25日	晴							
1855年	10月6日	安政2年	8月26日	晴	下から続く	夜廻番に慎み)	28日から続く	同日2朝六半時頃龍濱崎沖に同2艘見え箱館の方え行く、同3日夕七時頃小泊村沖に同4艘見え翌4日朝には見えない)			
1855年	10月7日	安政2年	8月27日	晴	亥の刻過より雨降	(昨年11月8日作事材木方で証盗取られる・夜廻に慎み、去月9日作事材木方で二尺五寸桎1000枚並びにこけら(柿と書いてあるが間違い)桎1000枚行方不明・				上に続く	
1855年	10月8日	安政2年	8月28日	曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降	未の刻過止(人事異動)	下から続く	九時頃箱館の方江行く、去月朔日夕七時頃龍濱崎沖を同3艘が松前小嶋の方より箱館の方江通る、	26日に続く	
1855年	10月9日	安政2年	8月29日	晴	下から続く	異国船が1艘・鷹野崎沖に滞懸・同27日朝五時頃橋船1艘7・8人乗りを下したが上陸せず四時頃箱館の方江行く、同日朝六時頃3本櫓の異国船が奥平部村沖に屋				上に続く	
1855年	10月10日	安政2年	8月30日	晴	下から続く	小泊村沖に3本櫓の異国船1艘・橋船で七ツ石と申す嶋に7人が上陸・まもなく漕ぎ戻る・同26日朝五時頃松前城下の方え行く、同日昼九時頃三馬屋沖に2本櫓の				上に続く	
1855年	10月11日	安政2年	9月1日	晴	(人事異動、外夷防御に西洋銃陣修行すべし・弓組も銃隊修行をとの公儀御書付、勝麟太郎が長崎御用・、釜范庄左衛門を家来分として罷登るよう仰せ付けられる、6月25日朝六時頃					上に続く	
1855年	10月12日	安政2年	9月2日	快晴							
1855年	10月13日	安政2年	9月3日	晴	申の刻頃より雨降	夜入同断					
1855年	10月14日	安政2年	9月4日	曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止						
1855年	10月15日	安政2年	9月5日	曇	下から続く	去月22日・23日・24日・25日・26日・27日・28日・29日・晦日の同船の動向あり、深浦・小泊・鯉ヶ沢で船が見えたとの報告あり:延々と続けたがここまでが7月22日の記事)					
1855年	10月16日	安政2年	9月6日	快晴	酉の刻過より雨時々降	9日から続く	上陸し布袋式ツに草色々摘み取り七時頃漕ぎ戻る・異国船は今も碇泊中である、5月16日上陸の節の中国語風の門答あり・省略、			上に続く	
1855年	10月17日	安政2年	9月7日	快晴	昨夜よりの雨今暁子の刻過止	(大光寺組手代2人と荒田村庄屋が自分物入りで焙硝製法の上上納した・3人に酒代3貫文宛下し置かれる・上焙硝目方14貫550目代363文目7分5厘)					
1855年	10月18日	安政2年	9月8日	曇	今暁丑之刻頃より雨時々降	未の刻頃止	(黒石領貴船宮神主の二男が(禅宗)海蔵寺弟子に仰せ付けられる)				
1855年	10月19日	安政2年	9月9日	快晴	下から続く	三馬屋沖江碇泊・前から居た船と合流・橋船2艘に23人乗組み式ツ石に上陸鳥を打取り2艘共元船え漕ぎ戻る・八半時頃3本櫓の異船より3人乗り橋船が			9月6日に続く		
1855年	10月20日	安政2年	9月10日	快晴	下から続く	又来て兜岩に上り草等を取り戻る、同21日屋四半時頃橋船の3人が磯際より砂拾い漕ぎ戻る、同日朝五半時頃松前小嶋の方より櫓2本の蒸気船1艘屋九時頃				上に続く	
1855年	10月21日	安政2年	9月11日	晴	下から続く	異船より橋船1艘3人乗組内1人上陸・役人が前後に付き添い算用師と申す沢目に入り鳥など打取る・鉄砲3発打っても迎えが来ず漁船で元船に送る、八半時				上に続く	
1855年	10月22日	安政2年	9月12日	曇	下から続く	磯草等をきつ摘み元船に戻る・3人の内2人は14・5才に見える、	同20日朝六時頃大淵沖に滞船の蒸気船は松前白神の方え去る、18日屋三馬屋江碇泊之			上に続く	
1855年	10月23日	安政2年	9月13日	晴	下から続く	行った・六時頃元船に漕ぎ戻る、同日四時頃三馬屋に碇泊之異国船より橋船1艘3人乗組みが上陸し1斗入位の樽に砂を拾い3つ八半時頃6斗入り位の布袋に				上に続く	
1855年	10月24日	安政2年	9月14日	快晴	16日から続く	他の2艘も脇元村に15・6人上陸測量等を行う・通りかかった商人から菓子を求め代銀沓つ出したがこの商人は受取らなかった・何故か出した1歩銀は持って				上に続く	
1855年	10月25日	安政2年	9月15日	晴	(8月20日に蝦夷地警衛等に名代津軽本次郎当年18歳(黒石藩主かな?)を遣わしたいと幕府に申し出ている)						
1855年	10月26日	安政2年	9月16日	晴	18日から続く	元船に漕ぎ戻り出帆、同日朝六半時頃小泊村沖に蒸気船見え五時頃権現崎沖より十三から脇元村黒崎に碇泊・四時頃橋船2艘が下前村に15・6人上陸				14日に続く	
1855年	10月27日	安政2年	9月17日	曇	今暁子の刻過より雨時々降	亥の刻過止	(黒石様江戸表急速登らせ金手繰り相成難く……弘前藩が何とかしているみたい、御家中御買上米1俵値段を2文目引下げ25文目立に4分増とする)				
1855年	10月28日	安政2年	9月18日	晴	戌の刻頃より雨時々降	下から続く	橋船1艘6人乗が上陸・大筒役の者が罷り出早速出帆を申し入れたが聞かず大筒役の者が前後に付き添う・草花等を取り屋九時頃			16日に続く	
1855年	10月29日	安政2年	9月19日	曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降	夜二入同断	欄外(*)から続く	漕ぎ戻り松前矢越の方え行く、同日屋四時頃蒸気船1艘が龍濱崎より三馬屋沖に来る、爰月沖に碇泊・	上に続く	
1855年	10月30日	安政2年	9月20日	曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降	未の刻過止	今朝岩木山江雪初而見ゆる(北之御丸御蔵中古井戸埋立ての儀は再吟味とする、収納が早かった代官等に御賞)			
1855年	10月31日	安政2年	9月21日	晴	申の刻過より雨時々降	夜入同断	(今日八幡宮神輿通御・御家老等が六時半過ぎ追々三之丸江罷り出る)				
(*)内2人は10文目玉筒位の鉄砲を1挺宛持つ・付き添う・その後8人乗りが上陸し一部帰って鉄砲持った6人?に付き添う・途中鉄砲で鳥を打取る・夕七半時橋船が来て元船に漕ぎ戻る、											
同19日朝六時頃三馬屋碇泊の1艘退帆・もう1艘は滞船、同日同刻宇鉦村沖に櫓3本の蒸気船1艘潤懸・五時過ぎ橋船1艘10人が龍濱崎に上陸測量の様子・夕七時刻元船に											9月19日に続く

(*)内2人は10文目玉筒位の鉄砲を1挺宛持つ・付き添う・その後8人乗りが上陸し一部帰って鉄砲持った6人?に付き添う・途中鉄砲で鳥を打取る・夕七半時橋船が来て元船に漕ぎ戻る、
 同19日朝六時頃三馬屋碇泊の1艘退帆・もう1艘は滞船、同日同刻頃宇鉄村沖に櫓3本の蒸気船1艘滞懸・五時過ぎ橋船1艘10人が龍濱崎に上陸測量の様子・夕七時刻元船に
 9月19日に続く

1855年	11月1日	安政2年	9月22日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断	
1855年	11月2日	安政2年	9月23日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申刻頃止 (御留守居支配が病屈で変死・御定法は身上召上げだが娘に婿で御持鍵中間に新規召抱え)	
1855年	11月3日	安政2年	9月24日 晴		
1855年	11月4日	安政2年	9月25日 曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻頃止	
1855年	11月5日	安政2年	9月26日 晴	酉の刻過より雨降 夜二入同断	
1855年	11月6日	安政2年	9月27日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 未の刻過止 (砲術稽古出精・射芸宜しいとして多数に御酒弓の弦等を下し置かれている)	
1855年	11月7日	安政2年	9月28日 快晴		
1855年	11月8日	安政2年	9月29日 晴	下から続く 御役3文目・味噌2斗入1樽居り御役2文目・白酒2斗入1樽3文目を御役2文目5分・酢2斗入1樽居り御役1文目に申し付ける)	
1855年	11月9日	安政2年	9月30日 曇	今晩丑の刻過より雨時々降 亥の刻過止 (御印代並びに御役銭・酒2斗入1樽2文目5分を御印代2文目に・糶1俵5文目を御役4文目5分に・醬油2斗入1樽居り(どう読むのか不変の意) 上に続く	
1855年	11月10日	安政2年	10月1日 曇	(漆御蔵に有った蠟14812斤5歩を1斤4文目5分1厘値段で金繰り?)	
1855年	11月11日	安政2年	10月2日 晴	(今日星場で御名代が砲術見分、米価過分下落・当兩濱御印代・玄米1俵これまで8文目を6文目・白米・餅米10文目を8文目・白餅米12文目を10文目に申し付ける)	
1855年	11月12日	安政2年	10月3日 曇		
1855年	11月13日	安政2年	10月4日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降	
1855年	11月14日	安政2年	10月5日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降 (御鷹の雲雀拝領の御祝儀御配当1人に15文357人分89文目2分5厘下し置かれる:1文目は6文となる)	
1855年	11月15日	安政2年	10月6日 曇	申の刻過より雨時々降 亥の刻過止	
1855年	11月16日	安政2年	10月7日 晴	(来る10日より30日の内祭文並びに常盤津興行・札銭1人前3分宛、4日屋形様御名代として本次郎様江戸発足予定、盆中に踊り姿で徒をした御家中の家来を主人元に押し込め)	
1855年	11月17日	安政2年	10月8日 晴	(今日星場で御名代が砲術見分)	
1855年	11月18日	安政2年	10月9日 曇	卯の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 下から続く 申し出あり・測量の要請には穩かに断るよう・亜墨利加より測量願いの和解も送るとの通達あり)	
1855年	11月19日	安政2年	10月10日 晴	(阿蘭陀(オランダ)の儀は勿論魯西亜(ロシア)亜墨利加(アメリカ)二国は長崎下田箱館三港江渡来御差免・英吉利は長崎箱館二港江渡来差免相成り候処亜墨利加より測量願いの 上に続く	
1855年	11月20日	安政2年	10月11日 快晴	(今日星場で御名代の御家老中が鉄砲隊の御見分) 下から続く 江戸表で大地震・御屋敷廻り所々倒損・負傷者あり)	
1855年	11月21日	安政2年	10月12日 曇	今晩丑の刻過より雨時々降 夜二入同断 (代官加勢の福眞今八等に御酒代1貫文等が下し置かれる、新酒飯値段1升を1文目4分5厘1合入りは1分5厘に申し付ける、去る2日夜五半時 上に続く	
1855年	11月22日	安政2年	10月13日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 午の刻過止	
1855年	11月23日	安政2年	10月14日 曇	今日雪少し降 (江戸の地震被害対策として大工等を送る・金を送る)	
1855年	11月24日	安政2年	10月15日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (先年松前御固場所に本道外科の兩人を差し置いたが……、大工等の江戸への出立17日25人・19日13人・21日15人・23日12人、北之御丸御蔵内古井戸は埋立とする)	
1855年	11月25日	安政2年	10月16日 曇	(今日星場で御名代の拙者共が鉄砲隊の見分)	
1855年	11月26日	安政2年	10月17日 晴	(今日星場で御名代の拙者共が鉄砲隊の見分、江戸登りの鷹の者に大小15腰拝借申し付ける)	
1855年	11月27日	安政2年	10月18日 晴	(2日の江戸の地震で御家中(坊主?)2人死亡)	
1855年	11月28日	安政2年	10月19日 晴	(2日の江戸の地震で濱長御殿で2人死亡・怪我人も多く人を送れとの要請) 下から続く 大地震、御家中御買上米値段1俵23文目立江4分増に申し付ける)	
1855年	11月29日	安政2年	10月20日 曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同断 (荏種値段では水油1升が5文目7分5厘に相当・これを認め1合売りは5分4文に申し付ける、津軽本次郎様は朔日に名代を言い渡され2日に 上に続く	
1855年	11月30日	安政2年	10月21日 曇	昨夜よりの雨今晩寅之刻過止 昨夜雪少し降 今日雪降 一寸程積 (松前箱館詰合の勘定小頭岩沢某が9日病死)	
1855年	12月1日	安政2年	10月22日 晴	酉の刻過より雨時々降 (今日星場で御名代の拙者共が鉄砲隊の見分)	
1855年	12月2日	安政2年	10月23日 晴	昨夜よりの雨今晩寅之刻過止 酉之刻過より雨降	
1855年	12月3日	安政2年	10月24日 d音	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 酉の刻過止	
1855年	12月4日	安政2年	10月25日 曇	午の刻頃より雨降 申の刻過止	
1855年	12月5日	安政2年	10月26日 晴		
1855年	12月6日	安政2年	10月27日 晴		
1855年	12月7日	安政2年	10月28日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降 申之刻過止 辰の刻頃より西南の風強し (人事異動)	
1855年	12月8日	安政2年	10月29日 晴	(松前の男女を十三町に密かに上陸させた船頭を格段の沙汰で御用捨、人事異動、去る2日夜の江戸の地震で潰れ死の面々合計80人怪我人28人、(4日の予定が)去る12日津軽本次郎殿江戸出立)	
1855年	12月9日	安政2年	11月1日 曇	今晩寅の刻過より雨時々降 巳の刻過止	
1855年	12月10日	安政2年	11月2日 曇	(糶米と言って米を売り買いたした御廻船の船頭に一応無罪・摘発した上乗下乗に御酒代3貫文下し置かれる・確かに船中で指摘するのは命懸けだな、10月29日記述以外に死亡9人)	
1855年	12月11日	安政2年	11月3日 曇	今日雪少降	
1855年	12月12日	安政2年	11月4日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 四寸程積 (今日御名代の拙者共が種田流槍術見分)	
1855年	12月13日	安政2年	11月5日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 一寸程積 (人事異動)	
1855年	12月14日	安政2年	11月6日 曇	今晩卯の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止 (本次郎様紺5日御在着、今6日午の上刻報恩寺中十一面観音が御出汗・銀5両御渡しの上加持祈祷を仰せ付ける)	
1855年	12月15日	安政2年	11月7日 曇	(今日御名代の拙者共が槍術見分、御賞)	
1855年	12月16日	安政2年	11月8日 曇	今日雪少降 (湯屋共より近年流米高値として今までどおり1人前7文に居り値段の要望・米価諸色値段が下がっているが認める)	
1855年	12月17日	安政2年	11月9日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積	
1855年	12月18日	安政2年	11月10日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (今日御名代の拙者共が詰座敷で槍術見分、当時米価格別下落・町中日雇い賃などの引き下げを申し付ける)	
1855年	12月19日	安政2年	11月11日 曇	(昨年北の丸御菜園並びに三之丸で盗み・8月18・9日頃三之丸御屋形から釘隠し30ばかり等を盗んだ御召馬附小人の親に500日牢居の上取上村御仕置場で30鞭十里四方追放大場御構い)	
1855年	12月20日	安政2年	11月12日 晴	酉の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 仰付けたところ28文目にとの申出あり・25文目立で御買上申し付ける)	
1855年	12月21日	安政2年	11月13日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申の刻頃止 今日雪少降 戌の刻過より雨時々降 (昨年の御振合(相場くらの意味でしょうか)をもって在方より30000俵御買入・1俵24文目立で 上に続く	
1855年	12月22日	安政2年	11月14日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 酉の刻頃止 (今日御名代の拙者共が槍術見分)	
1855年	12月23日	安政2年	11月15日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1855年	12月24日	安政2年	11月16日 晴		
1855年	12月25日	安政2年	11月17日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 知らせない、御手筒足軽共がこの度篠崎進方入門の上ヶヘール調練を申し付ける)	
1855年	12月26日	安政2年	11月18日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (今日御名代の拙者共が詰座敷で大長刀見分、本次郎殿が名代として着任したことを松前表箱館御奉行に通知・但し南部表に 上に続く	
1855年	12月27日	安政2年	11月19日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今晩寅の刻頃より雨降 午の刻頃止 今日雪少し降	
1855年	12月28日	安政2年	11月20日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (漆小仕立21人を任命・漆約5人を代替わりその倅にする)	
1855年	12月29日	安政2年	11月21日 晴		
1855年	12月30日	安政2年	11月22日 晴	(町同心が湯屋で盗んだ脇差等の売買で御家中の倅どもを親預けその他関係者多数は不埒御用捨)	
1855年	12月31日	安政2年	11月23日 晴		

1856年	1月1日	安政2年	11月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積	今日雪降 三寸程積		
1856年	1月2日	安政2年	11月25日	曇	昨夜雪降 七寸程積	(御用達加担の2人を御用達に昇任させる)		
1856年	1月3日	安政2年	11月26日	晴	今日雪少し降			
1856年	1月4日	安政2年	11月27日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降 二寸程積 (今日御名代の拙者共が種田流槍術見分)		
1856年	1月5日	安政2年	11月28日	曇	昨夜雪降 三寸程積	今日雪降 二寸程積 下から続く 41軒に5俵宛など)		
1856年	1月6日	安政2年	11月29日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降 (秋田引越炭1700俵余あり・御目見以下には行渡らない・長柄奉行以上に1俵2文目5分立で希の族に貸す:御家老城代衆40俵宛・諸導場(道場?) 上に続く		
1856年	1月7日	安政2年	11月30日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降 下から続く 翌24日朝迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月9日タより翌10日朝までで当年は14日遅く節に引合い2日遅い)		
1856年	1月8日	安政2年	12月1日	曇	昨夜雪降 二寸程積	(去々月2日の江戸大地震に伴いこの末も厳しく御省略を仰せ出される、この度も医者に本道外科の両方を学ばせている・軍医の養成だな:福眞、去月23日タより 上に続く		
1856年	1月9日	安政2年	12月2日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪降 一寸程積		
1856年	1月10日	安政2年	12月3日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降 一寸程積		
1856年	1月11日	安政2年	12月4日	晴	昨夜雪降 一寸程積	(人事異動)		
1856年	1月12日	安政2年	12月5日	晴				
1856年	1月13日	安政2年	12月6日	曇	今日雪少し降			
1856年	1月14日	安政2年	12月7日	晴	昨夜雪少し降			
1856年	1月15日	安政2年	12月8日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降 (十三湯前後とも去月28日までに一円氷張る、江戸大地震の御家中の丸潰れ人数110人・半潰れ大痛人数402人?)		
1856年	1月16日	安政2年	12月9日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降		
1856年	1月17日	安政2年	12月10日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降		
1856年	1月18日	安政2年	12月11日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降 (人事異動、秋田湊駅の者から馬140疋御払い願ひ・100疋御払い)		
1856年	1月19日	安政2年	12月12日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降		
1856年	1月20日	安政2年	12月13日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降		
1856年	1月21日	安政2年	12月14日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降		
1856年	1月22日	安政2年	12月15日	曇	昨夜雪降 一寸程積	(北御蔵・高杉御蔵・板屋野木御蔵・木造御蔵・石渡御蔵の立会い・奉行に御賞・関係者にも御酒代、昨13日昼誓願寺前の百姓の妻が病屈で鯉節包丁で咽に傷)		
1856年	1月23日	安政2年	12月16日	曇	昨夜雪少し降	今日雪降 一寸程積		
1856年	1月24日	安政2年	12月17日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降		
1856年	1月25日	安政2年	12月18日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降 下から続く 十里四方追放大場御構ひ)		
1856年	1月26日	安政2年	12月19日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪降 一寸程積 (漆取集め等に出精の各組手代に御酒代を下し置く、勘定人加勢勤務中に私曲の御留守居支配を大赦以前として家財欠所の上 上に続く		
1856年	1月27日	安政2年	12月20日	曇	昨夜雪少し降	(歩引き渡し継続100石につき100目積りの御手当てと口達)		
1856年	1月28日	安政2年	12月21日	曇	昨夜雪降 一寸程積			
1856年	1月29日	安政2年	12月22日	曇	昨夜雪降 一寸程積	今日雪少し降		
1856年	1月30日	安政2年	12月23日	曇	今日雪少し降			
1856年	1月31日	安政2年	12月24日	晴	昨夜雪少し降	(御賞)		
1856年	2月1日	安政2年	12月25日	晴				
1856年	2月2日	安政2年	12月26日	晴				
1856年	2月3日	安政2年	12月27日	曇	昨夜雪少し降	(御賞、人事異動、ケヘール調練稽古格別行届きとして篠崎進等数人に御賞、当10月18日小泊村から漁に出た5人乗り三羽船が水船に・19日常州船に救助される)		
1856年	2月4日	安政2年	12月28日	晴	(諸寺院の鐘の大砲小銃への鑄直しは抵抗されているみたい)			
1856年	2月5日	安政2年	12月29日	曇	昨夜雪降 三寸程積	(米値段から計算すると酒値段1升は1文目2分4厘8毛に相当・1升を1文目4分に1合売りは是までの通り9文居り値段に申し付ける)		
1856年	2月6日	安政3年	正月1日	曇	今日雪降 二寸程積			
1856年	2月7日	安政3年	正月2日	晴	昨夜雪少し降	(古懸不動尊御出汗・御神楽料等遣わし五山に御祈禱を仰せ付ける)		
1856年	2月8日	安政3年	正月3日	晴				
1856年	2月9日	安政3年	正月4日	曇	今日雪少し降			
1856年	2月10日	安政3年	正月5日	曇	昨夜雪降 三寸程積	今日雪降 四寸程積		
1856年	2月11日	安政3年	正月6日	曇	昨夜雪降 五寸程積	今日吹雪強し 雪七寸程積		
1856年	2月12日	安政3年	正月7日	晴	昨夜雪降 二寸程積	(七種の御祝儀)		
1856年	2月13日	安政3年	正月8日	晴				
1856年	2月14日	安政3年	正月9日	晴				
1856年	2月15日	安政3年	正月10日	晴	酉の刻過ぎより雨降			
1856年	2月16日	安政3年	正月11日	曇	昨夜より之雨今日に及 巳の刻過止 今日雪少し降 (江戸で地震関連の質素儉約・死亡者の跡継ぎ等忙しい)			
1856年	2月17日	安政3年	正月12日	曇	今日雪少し降			
1856年	2月18日	安政3年	正月13日	曇	昨夜雪降 四寸程積	今日雪降 五寸程積 今暁丑の刻過地震少し		
1856年	2月19日	安政3年	正月14日	曇	今日雪少し降	下から続く 手本にここ元の職方に作らせるようにする)		
1856年	2月20日	安政3年	正月15日	晴	昨夜雪少し降 (御弓師御屋共より例年の通り御弦並びに御矢差上げる御祝儀として鳥目1貫文充下し置かれる)	下から続く 輪足の儀は一通り御買い下げの上これを 上に続く		
1856年	2月21日	安政3年	正月16日	曇	今暁子の刻過より雨時々降 巳の刻過止 午の刻頃より西南の風強し 今日雪少し降 辰の刻頃雷鳴 則刻止 下から続く 御預けの儀トントロ入は申し出の通り御買い下げ・ 上に続く			
1856年	2月22日	安政3年	正月17日	曇	昨夜より之風今暁寅の刻過止 昨夜雪降 二寸程 今日雪降 三寸程積 (篠崎進の申出:トントロ入24ケウエル輪足右同トントロ1万門弟稽古入用に付江戸表より御買い下げの上 上に続く			
1856年	2月23日	安政3年	正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積	今日雪降 二寸程積		
1856年	2月24日	安政3年	正月19日	晴				
1856年	2月25日	安政3年	正月20日	晴	昨夜雪降 二寸程積			
1856年	2月26日	安政3年	正月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積	今日雪少し降 (人事異動)		
1856年	2月27日	安政3年	正月22日	晴				
1856年	2月28日	安政3年	正月23日	晴				
1856年	2月29日	安政3年	正月24日	晴	今日雪少し降	(石炭の有無を詮索していたらしいが領内で見当て申さず……)		

1856年	3月1日	安政3年	正月25日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1856年	3月2日	安政3年	正月26日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1856年	3月3日	安政3年	正月27日	晴	下から続く 洋式帆船の図が届くということです	
1856年	3月4日	安政3年	正月28日	曇	辰の刻過より小雨降 未の刻頃止 (人事異動)	下から続く 図1巻其表御用所江御備下仰せ付けられる(正月15日付):いつ届いたかはともかく弘前藩の御用所に 上に続く
1856年	3月5日	安政3年	正月29日	晴	(江戸で人事異動、スクーザル船(スクナー船:マスト2本以上の西洋型帆船で安政2年にロシアのブチャーチン一行が津波で船を壊され伊豆で日本人人工に作らせたことに始まる)	上に続く
1856年	3月6日	安政3年	正月30日	快晴	(当8月2日(8月14日に記述あり)に拝領の雲雀肉を去る26日(多分12月)御用人中並びに御留守居御側役御錠口役江頂戴仰せ付けられる?)	
1856年	3月7日	安政3年	2月1日	晴	(釜范某に勘定奉行兼役等の人事異動、御賞)	下から続く 親福嶋・森岡・棟方・黒滝・田村の親類宅の一間所を倅宅にとの意見も却下・多数の囚人の罪状等がわかる・出牢等は少数)
1856年	3月8日	安政3年	2月2日	曇	今晚卯之刻頃より雨降 申之刻過止 (人事異動、松前に木品の輸送途中で売払った十三町の3人捕らえ吟味中腰縄付で親類に預ける、有孝院様御法会に付大赦:御使番千之助の	上に続く
1856年	3月9日	安政3年	2月3日	晴		
1856年	3月10日	安政3年	2月4日	晴	下から続く 下乗は長柄の者から御城付足輕に昇任勤料増9俵下し置かれる)	
1856年	3月11日	安政3年	2月5日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (人事異動、去る江戸廻船野遠州船の上乗・下乗が船中の者共の米隠売りを着否や申し出る・御留守居支配に昇任御賞金500疋下し置かれ・	上に続く
1856年	3月12日	安政3年	2月6日	曇		
1856年	3月13日	安政3年	2月7日	曇	昨夜雪少し降 (寺回り大破で境内の木を伐り荒らした独鉈村の坊主を禁足)	
1856年	3月14日	安政3年	2月8日	晴	昨夜雪降 一寸程積	
1856年	3月15日	安政3年	2月9日	晴		
1856年	3月16日	安政3年	2月10日	晴	今晚子の刻頃より小雨降 寅の刻過止 (禁裏炎上今般の地震に関し公儀が……内容より禁裏も平出)	
1856年	3月17日	安政3年	2月11日	晴		
1856年	3月18日	安政3年	2月12日	晴	酉之刻頃より小雨降 即刻止	
1856年	3月19日	安政3年	2月13日	曇	(境内の林に伐り荒しがあり犯人不明の新宮寺を禁足)	
1856年	3月20日	安政3年	2月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分、去る8月2日江戸で拝領の御鷹の雲雀の頂戴仰せ付けられ候間明15日登城の指示:15日に記事なし)	
1856年	3月21日	安政3年	2月15日	晴	昨夜雪少し降	
1856年	3月22日	安政3年	2月16日	晴		
1856年	3月23日	安政3年	2月17日	曇	(長柄の者福眞今八を御城付足輕に等の人事異動)	
1856年	3月24日	安政3年	2月18日	晴		
1856年	3月25日	安政3年	2月19日	晴		
1856年	3月26日	安政3年	2月20日	曇	卯の刻頃より小雨降 巳の刻過止	
1856年	3月27日	安政3年	2月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (人事異動、大豆御印1俵8文目に値段上げ申し付ける)	
1856年	3月28日	安政3年	2月22日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降 (人事異動、弘前で行っていた祭文語等を21日より30日間青森で興行・札銭の儀は1人前3分ツツ)	
1856年	3月29日	安政3年	2月23日	曇		
1856年	3月30日	安政3年	2月24日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降	
1856年	3月31日	安政3年	2月25日	曇	(去る10月松前箱館へ輸送中の板を売払った十三町の船頭は代金36両余を払い受領書が届いてから)	
1856年	4月1日	安政3年	2月26日	曇	下から続く 若党2→2小者1→1郷仲間4→3人・御用人若党2→2小物1→1郷仲間2→1人・等々、さる8月6日駒越町で井戸掘り代え中に銭100目位穿出す・土地の所有者に下し置かれる)	
1856年	4月2日	安政3年	2月27日	曇	辰の刻過より雨時々降 未の刻過止 今日雪少し降 (御給人の子弟を奉公人に使っていたが召抱えの者が多く払底減らす・御家老衆若党3→2小者1→1郷仲間9→4人・御城代衆	上に続く
1856年	4月3日	安政3年	2月28日	曇	昨夜雪少し降 辰の刻過より雨時々降 戌の刻頃止	
1856年	4月4日	安政3年	2月29日	曇		
1856年	4月5日	安政3年	3月1日	晴		
1856年	4月6日	安政3年	3月2日	晴		
1856年	4月7日	安政3年	3月3日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1856年	4月8日	安政3年	3月4日	快晴		
1856年	4月9日	安政3年	3月5日	快晴		
1856年	4月10日	安政3年	3月6日	快晴		
1856年	4月11日	安政3年	3月7日	曇	辰の刻過より雨降 午の刻過止 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分、江戸で人事異動、去る(2月?)15日佐竹様御居屋敷類焼に付御見舞い松板1000枚を遣わされる)	
1856年	4月12日	安政3年	3月8日	晴		
1856年	4月13日	安政3年	3月9日	晴		
1856年	4月14日	安政3年	3月10日	曇	辰の刻過より雨時々降 申の刻過止 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分)	
1856年	4月15日	安政3年	3月11日	曇	午の刻頃より雨降 未の刻頃止 酉の刻過より雨時々降 下から続く 小俣川尻迄残らず氷明ける・去年は正月23日朝までで当年は41日遅く節に引合い29日遅い)	
1856年	4月16日	安政3年	3月12日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻頃止 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分、十三湯前後とも今6日朝まで残らず氷明く、当月3日より5日夕迄十三湯大湊川尻より	上に続く
1856年	4月17日	安政3年	3月13日	曇	卯の刻過より雨時々降 未の刻頃止	
1856年	4月18日	安政3年	3月14日	曇	申の刻過より小雨降 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分、この節雪が消え大豆坂通り人馬往来なる・高田通継立方仰せ付ける)	
1856年	4月19日	安政3年	3月15日	曇	(三蔵詰め者頭を当年より仰せ付けられない)	
1856年	4月20日	安政3年	3月16日	快晴		
1856年	4月21日	安政3年	3月17日	曇	未の刻過より小雨降 酉の刻過止 (今日詰座敷で御名代御家老中が剣術見分)	
1856年	4月22日	安政3年	3月18日	曇	未の刻頃小雨降 則刻止 (古懸村庄屋を大罽組手代に等の人事異動)	
1856年	4月23日	安政3年	3月19日	曇	(去る亥年(今年は辰年)9月加賀領六渡寺村の船が破船の場より紅花盗み取り牢舎の男に30鞭居村徘徊是まで通り)	
1856年	4月24日	安政3年	3月20日	曇	巳の刻頃より雨降 則刻止	
1856年	4月25日	安政3年	3月21日	晴		
1856年	4月26日	安政3年	3月22日	曇	未の刻頃より雨時々降 夜に入同断 (今日詰座敷で御名代御家老が和術見分、人事異動、咒咀(呪詛)をし松前表に出奔の男を召捕りたいと手配)	
1856年	4月27日	安政3年	3月23日	曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 夜に入同断	
1856年	4月28日	安政3年	3月24日	曇	昨夜よりの雨今日辰の刻頃止	
1856年	4月29日	安政3年	3月25日	快晴	(大罽組久吉村から永久三ツ成の申し出・五ヵ年のみ認める)	
1856年	4月30日	安政3年	3月26日	曇	申の刻過地震少し 申の刻過より雨降 夜に入同断 (町で品々を語取った男に6鞭弘前御構い)	

1856年	5月1日	安政3年	3月27日 曇	昨夜よりの雨今日に及 卯の刻過止 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分)
1856年	5月2日	安政3年	3月28日 曇	
1856年	5月3日	安政3年	3月29日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜に入同断
1856年	5月4日	安政3年	4月1日 晴	昨夜より之雨今暁寅之刻頃止
1856年	5月5日	安政3年	4月2日 晴	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分)
1856年	5月6日	安政3年	4月3日 快晴	
1856年	5月7日	安政3年	4月4日 曇	(昨年5月乳井薬師堂両村の喧嘩の殺人者の名目でその弟を差出した男揚屋入り・殺人者入牢)
1856年	5月8日	安政3年	4月5日 快晴	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分)
1856年	5月9日	安政3年	4月6日 晴	(昨夜六つ半時過ぎ遍照寺納所に切付られ女が手傷、青森で盗み(蒲団1枚30日に質入)の男に3鞭居村徘徊はまで通り)
1856年	5月10日	安政3年	4月7日 曇	(今日詰座敷で御名代御家老が和術棒術見分、昨年喧嘩の乳井薬師同村の者共を腰縄付き村預けにしていた・農事の季節で農事の他他出差し止め腰縄免許とする)
1856年	5月11日	安政3年	4月8日 快晴	(無許可で木綿等を触れ売りの男に御取り上げの上過料銭100目・関係する五人組名主にも過料と戸〆、梵鐘67口・半鐘168口の目方など調べさせている?)
1856年	5月12日	安政3年	4月9日 曇	巳之刻頃より雨時々降 午之刻頃雷鳴 則刻止 雨未之刻過止 申之刻頃地震少し (今日宇和野で御名代の御家老中が御備立て内習見分・大寄合以上の面々見物)
1856年	5月13日	安政3年	4月10日 曇	午之刻過より小雨時々降 酉之刻頃止 (漁船に米酒等を積んで上磯方面に行き魚を買い入れている者がある・停止を仰せ付ける)
1856年	5月14日	安政3年	4月11日 晴	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術和術見分、3月23日に御用金を盗み出奔の箱館詰勘定所小使いを蝦夷地で召捕る、本次郎様が海防の名代の仕事せず御宮参りなどをしている)
1856年	5月15日	安政3年	4月12日 曇	未之刻頃小雨降 則刻止 (御備立て内習見分に關し御賞)
1856年	5月16日	安政3年	4月13日 晴	(昨年11月の出水時の流木14本を隠し置いた十三町の男に3鞭居町徘徊はまで通り・関係者にも戸〆等)
1856年	5月17日	安政3年	4月14日 快晴	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分、昨11日昼四つ時頃浪岡村で出火・類焼共3軒焼失・火元高無他村預け)
1856年	5月18日	安政3年	4月15日 曇	(江戸で人事異動)
1856年	5月19日	安政3年	4月16日 快晴	(無許可で商売の男に3鞭居町徘徊はまで通り・類似の別人に戸〆30日)
1856年	5月20日	安政3年	4月17日 曇	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術和術見分、本次郎様が海防の名代の仕事せず御宮参りなどをしている)
1856年	5月21日	安政3年	4月18日 晴	(今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分、人事異動、御賞、岩木嵩硫黄山出火・諸手者頭を防ぎ方に派遣・今五つ頃の見分では幅80間長さ30間余になる・今日七時過ぎ硫黄山鎮火)
1856年	5月22日	安政3年	4月19日 晴	
1856年	5月23日	安政3年	4月20日 曇	
1856年	5月24日	安政3年	4月21日 曇	酉之刻頃より小雨降 亥之刻頃止
1856年	5月25日	安政3年	4月22日 晴	戌之刻頃小雨降 則刻止 (他領者を止宿させた男2人に過料1貫200文宛・関係者にも過料、箱館表で金子を盗み取り捕まった(4月11日に記述)勘定所小使いを藤崎村で取り逃がす・人相書きあり)
1856年	5月26日	安政3年	4月23日 晴	
1856年	5月27日	安政3年	4月24日 晴	亥之刻過より雨降 夜二入同断
1856年	5月28日	安政3年	4月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻頃止
1856年	5月29日	安政3年	4月26日 晴	
1856年	5月30日	安政3年	4月27日 快晴	(当松前スツ・(寿都)詰め)の梨田某が松前アブラと申すところで病死)
1856年	5月31日	安政3年	4月28日 曇	辰之刻頃より雨時々降 夜二入同断 (今日大星場で諸組足輕砲術早放し打ち方並びにケヘール訓練を御名代御家老中が見分・大寄合以上見物)
1856年	6月1日	安政3年	4月29日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 酉之刻頃止
1856年	6月2日	安政3年	4月30日 晴	
1856年	6月3日	安政3年	5月1日 曇	巳之刻過より小雨降 午之刻過止 (御賞、人事異動、諸組諸支配の者共が(中間を嫌い?)子供の年齢をごまかしたり届けなかったりしている)
1856年	6月4日	安政3年	5月2日 曇	今暁子之刻過より雨降り 巳之刻頃止 (駒越組五代・兼平・如来瀬・鳥井野4ヶ村の秣場でもめている)
1856年	6月5日	安政3年	5月3日 曇	未之刻頃より雨降 申の刻過止 未之刻過雷鳴 則刻止
1856年	6月6日	安政3年	5月4日 晴	(御賞、他領者を止宿させた男に過料1貫200文・同類庄屋にも過料)
1856年	6月7日	安政3年	5月5日 快晴	
1856年	6月8日	安政3年	5月6日 晴	戌之刻頃より雷雨
1856年	6月9日	安政3年	5月7日 晴	昨夜より之雷雨今暁丑之刻頃止
1856年	6月10日	安政3年	5月8日 快晴	
1856年	6月11日	安政3年	5月9日 曇	卯之刻過より雨時々降 夜二入同断
1856年	6月12日	安政3年	5月10日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 巳之刻過止
1856年	6月13日	安政3年	5月11日 曇	辰之刻過より小雨降 午之刻頃止
1856年	6月14日	安政3年	5月12日 曇	今暁寅之刻頃より雨時々降 巳之刻過止 (昨晚御家中宅出火・隣家も焼失)
1856年	6月15日	安政3年	5月13日 晴	(江戸で人事異動、江戸で御門限破り多い)
1856年	6月16日	安政3年	5月14日 晴	(漆仕立ての小仕立てで庄屋4人とその他の小仕立ての9人に苗字帯刀御免漆役・多くの漆役に御免引の増)
1856年	6月17日	安政3年	5月15日 快晴	(山川某を十三町奉行に等の人事異動、秋田津軽屋より馬70疋御払い願ひ、柏木組村々より御役銭上納御免願ひ・来る午の9月中まで2ヶ年間認める:意味が分からないが書いている)
1856年	6月18日	安政3年	5月16日 快晴	今暁寅の刻頃地震少し
1856年	6月19日	安政3年	5月17日 快晴	(病気が下り中の江戸表変事のための鳶の者が道中で病死)
1856年	6月20日	安政3年	5月18日 快晴	
1856年	6月21日	安政3年	5月19日 快晴	
1856年	6月22日	安政3年	5月20日 晴	(今日外馬場で御名代御家老中が馬術を見分・大寄合以上見物、一昨年より松森町で建て看板の上御国人参を売っている・目方1両の値段を5文目を4文目5分に等に引き下げる)
1856年	6月23日	安政3年	5月21日 曇	午之刻過より小雨時々降 戌之刻頃止 亥之刻頃より雨時々降
1856年	6月24日	安政3年	5月22日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申之刻頃止
1856年	6月25日	安政3年	5月23日 曇	午之刻頃より小雨時々降 酉之刻頃止
1856年	6月26日	安政3年	5月24日 曇	(今日外馬場で御名代御家老中が馬術を見分・大寄合以上見物)
1856年	6月27日	安政3年	5月25日 晴	(浦御触が大間越に着く・関係のないところに伝えたらしく瀬戸内方面の物)
1856年	6月28日	安政3年	5月26日 晴	
1856年	6月29日	安政3年	5月27日 晴	
1856年	6月30日	安政3年	5月28日 曇	辰之刻頃より雨時々降 申之刻頃止 (佐藤某を勘定奉行にとの人事異動)

1856年	7月1日	安政3年	5月29日 曇	未之刻過雨降 則刻止
1856年	7月2日	安政3年	6月1日 曇	今暁子之刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動)
1856年	7月3日	安政3年	6月2日 曇	昨夜より之雨今日ニ及時々降 夜二入同断 (流木当分定例御貸し渡し銭10文目に付き大木9本等: 良く判らん)
1856年	7月4日	安政3年	6月3日 曇	昨夜より之雨今日ニ及時々降 夜二入同断
1856年	7月5日	安政3年	6月4日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 午之刻頃止
1856年	7月6日	安政3年	6月5日 曇	巳之刻頃より雨時々降 夜二入同断 午之刻頃雷鳴 則刻止 (青田の内笛吹くなどの触れ、御手廻の倅石岡某を召捕り揚屋入り)
1856年	7月7日	安政3年	6月6日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 巳之刻過止
1856年	7月8日	安政3年	6月7日 晴	
1856年	7月9日	安政3年	6月8日 晴	未之刻頃村雨降 (竹森某の星場で砲術を御名代御家老中が見分)
1856年	7月10日	安政3年	6月9日 曇	今暁子之刻頃より雨時々降 巳之刻過止 下から続く 沖合に櫓2本の異国船1艘が亥の方より丑の方え通る、同29日昼九時半頃宇田村沖に櫓3本の異国船1艘が箱館の方に通る)
1856年	7月11日	安政3年	6月10日 曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 江戸で人事異動、去月(4月)13日朝五時半頃深浦沖に櫓3本の異国船1艘が申酉の方より丑寅の方え通る、同日昼九時頃霽月 上に続く
1856年	7月12日	安政3年	6月11日 曇	昨夜より之雨今暁卯之刻頃止 (竹森某の星場で砲術を御名代御家老中が見分) 下から続く 定例53342石)・同大坂: 米12000石(家中扶持米8000・払米4000・定例37250石)、 上に続く
1856年	7月13日	安政3年	6月12日 晴	(スツ・(寿都)詰め物頭館山某が15日出立、当4月の岩木嵩之硫黄出火に関する御賞) 下から続く 卯年収納当辰年江戸廻米: 米30000石(家中扶持米18000・払米12000・ 上に続く
1856年	7月14日	安政3年	6月13日 晴	申之刻過より雨時々降 夜二入同断 (竹森某の干し場で砲術を御名代御家老中が見分、今暁より別段廻り18人仰せ付ける) 下から続く 三廐で手傷を負い死亡している、去る 上に続く
1856年	7月15日	安政3年	6月14日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 申之刻過止 (会津若松の小山某と下人が甲冑12領を持参し売払いに来る・断り早速出立させる、去月10日出立の松前スツ・御陣屋御取立要員が 上に続く
1856年	7月16日	安政3年	6月15日 晴	(人事異動、御賞)
1856年	7月17日	安政3年	6月16日 晴	(竹森某の星場で砲術を御名代御家老中が見分)
1856年	7月18日	安政3年	6月17日 快晴	
1856年	7月19日	安政3年	6月18日 曇	
1856年	7月20日	安政3年	6月19日 晴	(竹森某の星場で砲術を御名代御家老中が見分)
1856年	7月21日	安政3年	6月20日 快晴	(4月に江戸から交代下がり中の坊主が出奔)
1856年	7月22日	安政3年	6月21日 快晴	(人事異動、不明日に金木組野崎村で発狂の者が殺人・法などが書いてあるが結局永年とする)
1856年	7月23日	安政3年	6月22日 晴	
1856年	7月24日	安政3年	6月23日 快晴	
1856年	7月25日	安政3年	6月24日 快晴	(今暁より別段廻り6人増加) 下から続く 通り入口辺江仮番所1ヶ所置き足軽目付2人をタセ時より置くようにする・北之郭にも常附小人2人を置く・その他の御郭内も廻るようにする)
1856年	7月26日	安政3年	6月25日 晴	(西の郭御締り向きはこれ迄新番所西御門堀留番所の3ヶ所で御持筒足軽6人が御本城時半江合手木之上不寝相廻候・裏通り御締二廻り方茂相廻兼候に付当分の間西之郭長堤 上に続く
1856年	7月27日	安政3年	6月26日 快晴	(御家中の屋敷内も見廻らせる)
1856年	7月28日	安政3年	6月27日 快晴	
1856年	7月29日	安政3年	6月28日 快晴	
1856年	7月30日	安政3年	6月29日 快晴	
1856年	7月31日	安政3年	6月30日 快晴	(祢婦た之大振・喧嘩等停止の触れ)
1856年	8月1日	安政3年	7月1日 快晴	下から続く 追加する、菜種水油が1升につき4文目7分7厘に相当・1合売りは4分5文に申し付ける)
1856年	8月2日	安政3年	7月2日 曇	午の刻過小雨降 即刻止 申の刻頃より雨時々降 戌の刻頃より雷鳴 亥の刻過雷止 (当分の間町同心加勢に長柄の者7人御持ち鍵中間より8人を申し付ける、別段廻りに16人 上に続く
1856年	8月3日	安政3年	7月3日 晴	昨夜より雨 今暁卯の刻過止
1856年	8月4日	安政3年	7月4日 快晴	(江戸で人事異動)
1856年	8月5日	安政3年	7月5日 快晴	(他国者の召捕りに活躍した2人に御賞)
1856年	8月6日	安政3年	7月6日 曇	午の刻頃より雷雨強し 雷申の刻過止 雨時々降り夜に入同断 (やたら用心向きを気にしている)
1856年	8月7日	安政3年	7月7日 曇	昨夜よりの雨今暁寅の刻過止 巳の刻過より雷雨 雷即刻止 雨午の刻過止 亥の刻頃より雨降り (昨6日八時頃田舎館組東光寺村に落雷・百姓家焼失娘兩人焼死)
1856年	8月8日	安政3年	7月8日 曇	昨夜よりの雨今暁卯の刻過止 午の刻過雷雨 即刻止 雨時々降り夜に入同断 (松前スツ・(寿都)詰め途中アブラにて病死の梨田某の倅にこれまでの勤料で買物役格に、用心向き増強中)
1856年	8月9日	安政3年	7月9日 曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 下から続く 去年より2日早く節に引合い2日早い)
1856年	8月10日	安政3年	7月10日 晴	(青森善知鳥(うとう)宮で相撲興行・札銭1人に付4分宛の申請を3文宛、大鰐村加賀助兵左衛門より御初米出穂差上げる・去年は4月21日植付68日目当年は5月4日植付66日目・ 上に続く
1856年	8月11日	安政3年	7月11日 快晴	(人事異動、御賞、流木1巻に付220目立て御買上・御家中へは1巻240目で貰す?)
1856年	8月12日	安政3年	7月12日 快晴	
1856年	8月13日	安政3年	7月13日 快晴	
1856年	8月14日	安政3年	7月14日 快晴	
1856年	8月15日	安政3年	7月15日 快晴	
1856年	8月16日	安政3年	7月16日 快晴	
1856年	8月17日	安政3年	7月17日 快晴	
1856年	8月18日	安政3年	7月18日 快晴	
1856年	8月19日	安政3年	7月19日 快晴	辰の刻過地震少し
1856年	8月20日	安政3年	7月20日 曇	今暁子の刻地震少し 未の刻過より雷雨 雷即刻止 雨時々降 戌の刻過止
1856年	8月21日	安政3年	7月21日 曇	午の刻頃より雷雨 未の刻過止
1856年	8月22日	安政3年	7月22日 曇	今暁丑の刻過ぎ雷雨 寅の刻過止 下から続く (鉄空丸192)と500目唐銅筒2挺(鉄実丸200)の浦賀御開所通りを許される、蝦夷地警固箱館詰め人数200人の交代が済んだ)
1856年	8月23日	安政3年	7月23日 晴	巳の刻過地震少し 午の刻頃地震少し 同刻過地震少し 亥の刻地震少し (去る20日七時過大光寺組小和森村で雷火・建家外馬屋焼失、この度御廻船で6貫目唐銅筒1挺 上に続く
1856年	8月24日	安政3年	7月24日 曇	巳の刻過ぎ雷雨 雷即刻止 雨午の刻過止 (本次郎様が出立している、昨23日屋柏木組牡丹森村で地震による潰家1軒 下から続く 1枚等々: 生活が想像できる)
1856年	8月25日	安政3年	7月25日 快晴	巳の刻頃地震少し 子の刻頃地震少し 同刻過地震少し 丑の刻頃地震少し (贖金1件で欠所々の3人の財産を入札払に・畑屋敷15歩田方16歩萱家(3間4尺×4間半)小皿 上に続く
1856年	8月26日	安政3年	7月26日 曇	午の刻過雨降り 即刻止 卯の刻過地震強し 寅の刻過地震少し
1856年	8月27日	安政3年	7月27日 晴	卯の刻過地震少し 辰の刻過地震少し 同刻地震少し 巳の刻過地震少し 未の刻過地震少し 戌の刻過地震少し
1856年	8月28日	安政3年	7月28日 曇	今暁寅の刻頃地震少し 辰の刻頃小雨降り即刻止 (今23日昼九時半頃の地震で十三町で所々の鴨居が放れ・砂割り水湧き出す・青森町で郷蔵と津軽本次郎様御蔵が潰れる)
1856年	8月29日	安政3年	7月29日 曇	午の刻過より雨降り 夜二入同断
1856年	8月30日	安政3年	8月1日 曇	昨夜より之雨今暁寅の刻過止 巳の刻過地震少し (23日昼の青森の地震倒潰の詳細: 安方町貯蔵(4間×20間)・博方町の酒蔵(5間×12間)・津軽本次郎様御蔵(4間×12間))
1856年	8月31日	安政3年	8月2日 曇	

1856年	9月1日	安政3年	8月3日 曇	申の刻過小雨降 酉の刻過止	
1856年	9月2日	安政3年	8月4日 曇	今晩寅の刻頃より雨時々降り酉の刻頃止 午の刻頃雷鳴 即刻止	
1856年	9月3日	安政3年	8月5日 晴		
1856年	9月4日	安政3年	8月6日 快晴		
1856年	9月5日	安政3年	8月7日 曇	未の刻過より雨時々降り 夜に入同断 (御賞、明8日御初米差上げたいとのこと、用心向きも良くなり夜廻りを一部止めている)	
1856年	9月6日	安政3年	8月8日 曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 未の刻過止 (御初米・去年は4月22日植付7月20日鎌入れで88日目今年は5月4日植付8月3日鎌入れで同じく88日目・節に引き合い当年が1日遅い)	
1856年	9月7日	安政3年	8月9日 曇	未の刻過より雨時々降り 戌の刻過止 (5月下旬より江戸の御姫様御不例・五山などに祈祷を仰せ付けている、文中に御家老中並びに拙者共より御全快護祈祷の上……:筆者が用人である証拠)	
1856年	9月8日	安政3年	8月10日 曇	戌の刻過地震少し	
1856年	9月9日	安政3年	8月11日 晴	今晩丑の刻過地震少し (御制禁の衣類を着たとして東長町の蕎麦切り屋を戸へ衣類御取上げ、当6月朔日に出水の広須兩組等の水湛:田方へ1122町7反余)	
1856年	9月10日	安政3年	8月12日 晴	(古学校にケヘール訓練場出来、朔日清水観音堂の工事中に磬(けい:打ち鳴らす仏具か)様の物や唐金の仏像等を掘り出す)	
1856年	9月11日	安政3年	8月13日 晴		
1856年	9月12日	安政3年	8月14日 快晴	今晩子の刻過小雨降り即刻止	
1856年	9月13日	安政3年	8月15日 曇	(別段増廻の一部?16人を廃止、町同心加勢の一部?4人引取る) 下から続く 付ける、12日記述の唐金の仏像等を差出すよう命じている)	
1856年	9月14日	安政3年	8月16日 晴	(今日大矢場で御名代として御家老中が射芸見分) 下から続く 21文目4分に申し付ける、津出御印1俵代:玄米8文目→6文目・白米10文目→8文目・餅米は変更なしに申し	上に続く
1856年	9月15日	安政3年	8月17日 曇	子の刻過より小雨降り 寅の刻過止 巳の刻過より雨降り 未の刻頃止 (今日大矢場で御名代の御家老中が射芸見分、町々売出し米追々下落・御家中御買上げ1俵23文目4分を	上に続く
1856年	9月16日	安政3年	8月18日 晴		
1856年	9月17日	安政3年	8月19日 晴		
1856年	9月18日	安政3年	8月20日 快晴		
1856年	9月19日	安政3年	8月21日 快晴	下から続く 24文目・惣へ102貫144文目、簡葉目方へ30貫14文目・星場稽古の7980放は1放に付2文目5分宛込める・長丁場用の2660放は1放に付4文目宛込める)	
1856年	9月20日	安政3年	8月22日 晴	戌の刻過小雨降 即刻止 (訓練用の御入目:774文目3分8厘9毛(ケヘール8文目玉7980放・同8文目玉2660放(遠丁打ち方稽古用?)・へ10640放)、この目形85貫120目鉛目形17貫	上に続く
1856年	9月21日	安政3年	8月23日 晴		
1856年	9月22日	安政3年	8月24日 晴	戌の刻過地震少し (大館家中から注文の甲冑が出来差し遣わす)	
1856年	9月23日	安政3年	8月25日 曇	今晩丑ノ刻頃地震少し 卯ノ刻過より雨時々降り 午ノ刻頃止 (別段廻り方23人(多分全員)御止め・その他も止めているのかな?)	
1856年	9月24日	安政3年	8月26日 曇	今晩丑ノ刻頃より雨降 辰の刻過止	
1856年	9月25日	安政3年	8月27日 晴	(菜種水油1升代4文目7分7厘1合売り4分5文を1升代5文目2分1合売り5分2文の申し出・追って沙汰するとしたのかな?)	
1856年	9月26日	安政3年	8月28日 曇	卯ノ刻過小雨降 即刻止	
1856年	9月27日	安政3年	8月29日 晴		
1856年	9月28日	安政3年	8月30日 晴		
1856年	9月29日	安政3年	9月1日 曇	申ノ刻過より雨時々降 夜二入同断	
1856年	9月30日	安政3年	9月2日 曇	昨夜よりノ雨今日時々降 未ノ刻過止	
1856年	10月1日	安政3年	9月3日 晴		
1856年	10月2日	安政3年	9月4日 曇		
1856年	10月3日	安政3年	9月5日 晴		
1856年	10月4日	安政3年	9月6日 快晴		
1856年	10月5日	安政3年	9月7日 快晴	(去月25日の夜五時過ぎより江戸表で大風雨・御上屋敷濱町屋敷御向屋敷に多くの潰損等)	
1856年	10月6日	安政3年	9月8日 快晴	(秋田湊の男(行列の宿?)から松村3000石目御払い願ひ・格段の沙汰で余木1000石目を100石目に付き850目値段で御払い仰せ付ける)	
1856年	10月7日	安政3年	9月9日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入同断	
1856年	10月8日	安政3年	9月10日 曇	昨夜より之雨今日二及 辰ノ刻頃止	
1856年	10月9日	安政3年	9月11日 曇	今日岩木山江初而雪降 亥ノ刻頃より雨時々降 (酒狂い乱暴の御家中の倅に他出差留、去月21日夜足軽目付に深手(今晩死亡)を負わせた出奔の御家中の弟を吟味中入牢)	
1856年	10月10日	安政3年	9月12日 曇	昨夜より之雨今晩寅之刻頃止 巳之刻過地震少し 午ノ刻過同断 戌ノ刻過より雨時々降	
1856年	10月11日	安政3年	9月13日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 申ノ刻過止 戌ノ刻過地震少し	
1856年	10月12日	安政3年	9月14日 曇	(江戸で人事異動、去月28日細川越中守様御四男寛五郎様嫡養子御賞受け御使者は大道寺族之助に仰せ付けた)	
1856年	10月13日	安政3年	9月15日 曇	今晩子の刻過より雨降 未ノ刻過止	
1856年	10月14日	安政3年	9月16日 曇	今晩子の刻頃より雨時々降 戌ノ刻過止 (去る11月依頼された板類を途中で売り払った十三町の男に代金御取り上げの上15鞭居町徘徊是まで通り)	
1856年	10月15日	安政3年	9月17日 曇	下から続く 励め、土門八蔵を御旗奉行に等の多数の人事異動、元寺町の男の硝石仕込み場所でもめている)	
1856年	10月16日	安政3年	9月18日 晴	(今日御目見以上登城御自筆拝見:血統を重視し大隅守を養子とし四品にまで昇進したのに昨秋病死残念至極・この度細川越中守より養子取究め申すにつき是まで通り忠勤に	上に続く
1856年	10月17日	安政3年	9月19日 晴	(今日大星場で御名代御家老中が大簡見分)	
1856年	10月18日	安政3年	9月20日 快晴		
1856年	10月19日	安政3年	9月21日 快晴	酉の刻過より地震少し	
1856年	10月20日	安政3年	9月22日 晴	酉の刻頃より雨降 亥の刻頃地震少し (去る3日江戸発の(家老)津軽図書が唯今到着) 下から続く 博打とその宿の男に6鞭弟に引渡し、これらの博打に参加喧嘩等の者共に相当の罰)	
1856年	10月21日	安政3年	9月23日 曇	巳ノ刻過雷鳴 即刻止 今晩子の刻過地震少し 昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断 (盗みの男に3鞭弘前払い、当3月元寺町で博打の3人に3鞭ツツ居町徘徊是まで通り、	上に続く
1856年	10月22日	安政3年	9月24日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断	
1856年	10月23日	安政3年	9月25日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 酉ノ刻頃止 (江戸詰め中不筋の門番3人を諸手足軽から長柄の者に役下げ)	
1856年	10月24日	安政3年	9月26日 曇	申の刻過より雨降 夜二入同断	
1856年	10月25日	安政3年	9月27日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻頃止 (今日外馬場で御名代御家老中が馬術見分・大寄合格以上が見物)	
1856年	10月26日	安政3年	9月28日 曇	未の刻過より雨降 夜二入同断 辰の刻過地震少し	
1856年	10月27日	安政3年	9月29日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 和徳町で見つかる・2挺を1両3歩の代金で受取ったもの・関所を通して返す手続きは分らない)	
1856年	10月28日	安政3年	9月30日 曇	卯ノ刻過雷鳴 即刻止 昨夜より之雨今日二及 時々降 (悪者共召捕りに骨折りとして59人に御賞(金200疋・銀3両・鳥目3貫文・鳥目700文など)、大館家中が盗まれた鉄砲が	上に続く
1856年	10月29日	安政3年	10月1日 曇	昨夜より之雨今日二及 巳之刻過止 (人事異動、御賞等が多数に(銀3枚・銀1枚・鳥目2貫文・金100疋・銀3両等々)・この中に大筒・鉄砲に出精した家中の弟二男等が含まれている)	
1856年	10月30日	安政3年	10月2日 晴		
1856年	10月31日	安政3年	10月3日 曇	亥ノ刻過より雨降	

1856年	11月1日	安政3年	10月4日 晴	昨夜より之雨今晚卯ノ刻頃止	
1856年	11月2日	安政3年	10月5日 曇	(今日外馬場で御名代御家老中が馬術見分・大寄合格以上が見物)	
1856年	11月3日	安政3年	10月6日 曇	巳ノ刻過より雨降 夜二入同断	
1856年	11月4日	安政3年	10月7日 曇	昨夜より之雨今日辰ノ刻過止 戌ノ刻頃より雨降 亥ノ刻過止 (江戸で人事異動、本年8月25日夜の江戸の大風雨での潰れ家水押上の面々98人に御手当)	
1856年	11月5日	安政3年	10月8日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 今晚丑の刻頃より西風強し 午の刻過ぎ止 (御収納が早い代官・手代に御賞、去る朔日常盤組十川村で田方50町歩余が水湛・収納を春迄取り延べ願ひ・認める)	
1856年	11月6日	安政3年	10月9日 曇	辰ノ刻頃より雨時々降	
1856年	11月7日	安政3年	10月10日 曇	昨夜雪少し降 今日同断	
1856年	11月8日	安政3年	10月11日 晴	昨夜雪少し降	
1856年	11月9日	安政3年	10月12日 曇		
1856年	11月10日	安政3年	10月13日 曇		
1856年	11月11日	安政3年	10月14日 晴	(今日外馬場で御名代御家老中が馬術見分、去月12日夜浅瀬石村鳴海久兵衛方に強盗・盗まれた品が書いてある：男子供給1・大小1腰(大備州長船忠光)等々)	
1856年	11月12日	安政3年	10月15日 曇	午の刻過より雨降 未の刻過止 (砲術見分の節出精として諸手足軽福眞万次郎御城附足軽福眞今八等各組足軽327人・御持鍵仲間77人・御家中でない弟等14人に御酒代下し置かれる)	
1856年	11月13日	安政3年	10月16日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1856年	11月14日	安政3年	10月17日 曇	午ノ刻頃より雨降 申ノ刻過止	
1856年	11月15日	安政3年	10月18日 晴		
1856年	11月16日	安政3年	10月19日 晴		
1856年	11月17日	安政3年	10月20日 晴	亥ノ刻頃より雨時々降 (今日外馬場で御名代御家老中が桑田忠作門弟の(馬術?)見分)	
1856年	11月18日	安政3年	10月21日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 未ノ刻過止 (今別町の造酒屋にこの度限りで1俵に付27文目1分6厘5毛値段で100俵を今別御藏より渡す)	
1856年	11月19日	安政3年	10月22日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 午の刻頃より雨降 未の刻過止	
1856年	11月20日	安政3年	10月23日 晴		
1856年	11月21日	安政3年	10月24日 曇	午ノ刻過小雨降 即刻止 (昨年9月百沢村で土蔵を伐り破り文銭1貫目を盗み取った百沢御宮小人の子を召捕り揚屋入り)	
1856年	11月22日	安政3年	10月25日 晴	(中別所村庄屋宅に住民を呼び出し脅した諸手足軽を御城付足軽に役下げ、当8月7日夜酒狂いで脇差を抜いた御徒小頭を憤)	
1856年	11月23日	安政3年	10月26日 晴	下から続く 御家中の弟を吟味中他出差留め)	
1856年	11月24日	安政3年	10月27日 曇	今晚丑の刻過より雨時々降 巳の刻頃止 戌の刻頃より雨降 亥の刻過止 下から続く 仮値段1升に付1文目3文5厘1合売りは1分5厘に申付ける、当8月2人を勾引した 上に続く	
1856年	11月25日	安政3年	10月28日 曇	未ノ刻過雨降 即刻止 (昨25日夜四時頃十三町北ノ方より出火・折悪く亥子之風殊の外烈敷東西両側社司共家数100軒・今晚六時頃鎮火・火元入寺の上憤、人事異動、新酒 上に続く	
1856年	11月26日	安政3年	10月29日 曇	今日雪降 一寸程積	
1856年	11月27日	安政3年	10月30日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降	
1856年	11月28日	安政3年	11月1日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止	
1856年	11月29日	安政3年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1856年	11月30日	安政3年	11月3日 曇	下から続く 北之丸御門下番・西之郭新辻番・西御門番・堀留辻番・二之丸中辻番の人数を増加させている)	
1856年	12月1日	安政3年	11月4日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (今日詰座敷で御名代御家老中が鎗術見分) 6日から続く 関係施設名等：御金蔵前辻番・御櫓下辻番・御白砂前御門番・北坂下御門下番・ 上に続く	
1856年	12月2日	安政3年	11月5日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今晚丑の刻過より雨時々降 申の刻頃止 今日雪少し降 (江戸で人事異動、江戸から町大工20人増を命じられる)	
1856年	12月3日	安政3年	11月6日 曇	今晚寅の刻頃地震少し 昨夜雪少し降 11日から続く 土居通りより新番所後通り堀より頃日の通り乗越え入り込み候由・風呂敷包みや抜き身の脇差などの遺留品沢山・ 4日に続く	
1856年	12月4日	安政3年	11月7日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積 (今日詰座敷で御名代御家老中が槍術見分：3日前と文字が違う)	
1856年	12月5日	安政3年	11月8日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積 (御手廻組頭喜多村監物を用人兼帯に等の人事異動、去月25日夜十三町大火の100軒に御救い200俵下し置かれる)	
1856年	12月6日	安政3年	11月9日 曇	亥の刻頃より雨降 下から続く 金に別状なし、荏種水油1升到付6匁6分5厘に相当・1升はこの値段1合売は6分4文に申付ける、当3月3日江戸東御門の出入を取繕った諸手警固を押込)	
1856年	12月7日	安政3年	11月10日 曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 申之刻頃止 今日雪少し降 亥之刻過より西南之風強し (今日詰座敷で御名代御家老中が槍術見分、今朝四時前御本城御金蔵の錠の辛棒切れ 上に続く	
1856年	12月8日	安政3年	11月11日 曇	昨夜より之風今日に及ひ辰の刻過止 今日雪少し降 (御金蔵封印切れ錠は真棒切れ内錠は鍵入口より破れ右下に鑿1挺あり・有り金別状なし) 下から続く 西御門脇 6日に続く	
1856年	12月9日	安政3年	11月12日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 巳の刻過地震少し (今晚八時過ぎ頃御金蔵近辺に鉄様の物で切りつける音・御白砂近辺で見失う・御日記蔵後辺の土堀乗越え逃げ去った足跡・ 上に続く	
1856年	12月10日	安政3年	11月13日 曇	今日雪少し降	
1856年	12月11日	安政3年	11月14日 曇	(今日詰座敷で御名代図書(御家老津軽図書であるが)日記中では呼び捨て)が槍術見分、御本城に忍び込んだ通路が書いてある)	
1856年	12月12日	安政3年	11月15日 曇	巳の刻過より雨降 午の刻過止	
1856年	12月13日	安政3年	11月16日 快晴		
1856年	12月14日	安政3年	11月17日 快晴	酉の刻過より雷雨時々降 (13日に見分の所高岡御宝蔵の雨覆いから盗賊・御大小等盗み手続を残している)	
1856年	12月15日	安政3年	11月18日 晴	昨夜よりノ雷 今晚丑の刻過ぎ止 雨寅の刻過ぎ止 (今日詰座敷で御名代御家老中が長刀見分、諸寺院梵鐘取り潰しに関し文書あり)	
1856年	12月16日	安政3年	11月19日 曇	戌の刻過より雨時々降 寅の刻頃止	
1856年	12月17日	安政3年	11月20日 曇	今日雪降 二寸程積	
1856年	12月18日	安政3年	11月21日 曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (今日詰座敷で御名代御家老中が長刀見分)	
1856年	12月19日	安政3年	11月22日 曇	昨夜より之雨今日に及ひ時々降 申の刻過止 今日雪少し降 (御徒目付申出で候西御門外終夜廻方仰せ付けられ……)	
1856年	12月20日	安政3年	11月23日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (去る6月15日夜深郷田八幡宮祭礼の途中に新川と申す処で酒狂ひの上男を打殺しもう1人に怪我をさせた金木新田の男に取上御仕置き場で斬罪)	
1856年	12月21日	安政3年	11月24日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 五寸程積	
1856年	12月22日	安政3年	11月25日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積	
1856年	12月23日	安政3年	11月26日 晴	今晚丑の刻過地震少し	
1856年	12月24日	安政3年	11月27日 晴	亥の刻頃より雨時々降	
1856年	12月25日	安政3年	11月28日 曇	昨夜より之雨今日に及 辰の刻過止 (久渡寺門前の寺役人今某・最勝院弟子を手配、今某は27日久渡寺居間で切腹・生存) 下から続く 久渡寺の今某の親が切腹死亡)	
1856年	12月26日	安政3年	11月29日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (足軽目付に深手を負わせた男を匿った赤石組広戸村庄屋の役御取上げ揚屋入り、久渡寺に医者が行っている) 下から続く 公儀書付、 上に続く	
1856年	12月27日	安政3年	12月1日 晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (歩引を続け100石に付100目積の御手当てとの口達、將軍代替りの諸国巡検は猶予されていたが更に多くの災害があり午年より戌年迄5年間猶予との 上に続く	
1856年	12月28日	安政3年	12月2日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (来る6日出立の津軽屋の手代に御手当金15両下し置かれる)	
1856年	12月29日	安政3年	12月3日 曇	卯の刻過より小雨時々降 夜二入同断	
1856年	12月30日	安政3年	12月4日 曇	今晚丑の刻過地震少し 昨夜よりの雨今日二及 時々降 申ノ刻過止 (久渡寺の今某の死骸を町奉行に引取る) 下から続く 6日遅く節に引合い4日早い)	
1856年	12月31日	安政3年	12月5日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 (御用達並びに加担(計18人)に御賞、去月29日夕より翌朔日まで十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず氷張る・去年は11月24日朝までで当年は 上に続く	

1857年	1月1日	安政3年	12月6日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 下から続く 重罪・塩詰めにして御仕置場で磔も考えたが御本城の御金蔵を切り破ったと捨札に書けない・取上御仕置場に取り捨てることとする)
1857年	1月2日	安政3年	12月7日	曇	今日雪少降 (当6月14日熊野宮の夜宮で南横町萱町の若者共が喧嘩・御家中を含め押込め等の罰、死んだ今某は高岡御宝蔵の大小を盗み取り御本城御金蔵を二度切り破った 上に続く
1857年	1月3日	安政3年	12月8日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1857年	1月4日	安政3年	12月9日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (昨夜今某の死骸は牢屋番人が取上御仕置場に運び乞食手で同所に埋める)
1857年	1月5日	安政3年	12月10日	晴	申の刻過より雨時々降 夜二入同断 (秋田大久保等の(多分宿屋)2軒から御払い馬願い・20疋宛許す)
1857年	1月6日	安政3年	12月11日	曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 夜二入同断 (去々月25日十三町の火災に補助をした3人等に御酒御吸物を下し置かれる)
1857年	1月7日	安政3年	12月12日	曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻頃止 今日雪少降
1857年	1月8日	安政3年	12月13日	曇	今日雪少降
1857年	1月9日	安政3年	12月14日	晴	今日雪少降
1857年	1月10日	安政3年	12月15日	曇	今日雪少降 (御賞(銀3両))
1857年	1月11日	安政3年	12月16日	曇	今日雪少降 (箱館表で金子を盗んだ男を藤崎村で逃がした長柄の者を掃除小人に役下げ・逃げられた際の番人(御城付足軽福眞今八の子兵太)は親元に引取の上嫡子にしないよう申付ける)
1857年	1月12日	安政3年	12月17日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 一寸程積 (去月28日北川六左衛門を大寄合格御用人手伝いに・23日に兼松某隠居・加藤某が御役召放し等の人事異動、19日に線?姫様が御逝去)
1857年	1月13日	安政3年	12月18日	曇	今日雪降 二寸程積 (成田三太夫を大寄合格御用人手伝いに等の人事異動)
1857年	1月14日	安政3年	12月19日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (御用人高倉相模の御役召放慎仰せ付けられる)
1857年	1月15日	安政3年	12月20日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (御備廻摺方に御賞(金1両・300疋)、御本城並びに西御門外の不寝番に薪炭代……)
1857年	1月16日	安政3年	12月21日	曇	昨夜雪吹強し 雪三寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞)
1857年	1月17日	安政3年	12月22日	晴	昨夜雪少降
1857年	1月18日	安政3年	12月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1857年	1月19日	安政3年	12月24日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少降 下から続く 白餅米12文目とする)
1857年	1月20日	安政3年	12月25日	晴	昨夜雪少降 (御蔵立会・巻之者等に御賞(金100疋・鳥目700文・500文・400文) 下から続く 共氷閉じる、津出御印代1俵を夫々2文目上げ玄米8文目・白米餅米10文目・上に続く
1857年	1月21日	安政3年	12月26日	曇	昨夜吹雪強し 雪六寸程積 今日吹雪強し 雪五寸程積 下から続く 赤石組松原村獵師長治と黒崎村文八に下々位の熊皮と鳥目3貫文宛下し置かれる、今17日朝十三町前後上に続く
1857年	1月22日	安政3年	12月27日	曇	昨夜吹雪強し 雪四寸程積 今日雪降 三寸程積 (瑞祥院様の御法事関係者に御賞、射芸見分の節皆中等の多数に弦13筋等の御賞、その他にも御賞(金100疋・銀6両)、熊狩取り上に続く
1857年	1月23日	安政3年	12月28日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、別役役に御賞(金100疋・銀5両)、箱館詰の面々にも御賞)
1857年	1月24日	安政3年	12月29日	曇	昨夜雪少降 今日雪降 三寸程積
1857年	1月25日	安政3年	12月30日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積
1857年	1月26日	安政4年	正月1日	晴	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1857年	1月27日	安政4年	正月2日	晴	
1857年	1月28日	安政4年	正月3日	晴	
1857年	1月29日	安政4年	正月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1857年	1月30日	安政4年	正月5日	晴	
1857年	1月31日	安政4年	正月6日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 四寸程積
1857年	2月1日	安政4年	正月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 三寸程積 (今日七種の御祝儀、去る5日青森寺町で失火・類焼2軒潰家1軒半潰1軒・火元入寺慎)
1857年	2月2日	安政4年	正月8日	曇	昨夜吹雪強 雪八寸程積 今日雪少し降
1857年	2月3日	安政4年	正月9日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積 (一昨7日百沢寺内陣で残らず露噴出す・下居宮で御神楽・大堂並びに五山に御祈禱を仰せ付ける
1857年	2月4日	安政4年	正月10日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降
1857年	2月5日	安政4年	正月11日	晴	
1857年	2月6日	安政4年	正月12日	曇	今日雪少し降 午之刻頃雨降 未之刻過止 (歩引き渡しを続ける・100石に付金1両の御手当てとのこと、江戸で人事異動)
1857年	2月7日	安政4年	正月13日	晴	(今日御鉄砲打初)
1857年	2月8日	安政4年	正月14日	晴	
1857年	2月9日	安政4年	正月15日	晴	(人事異動、御賞)
1857年	2月10日	安政4年	正月16日	晴	昨夜雪少し降
1857年	2月11日	安政4年	正月17日	曇	今日雪少し降 (御賞、黒石から4300石の内残っていた1260石の津出を申し付ける)
1857年	2月12日	安政4年	正月18日	晴	(高倉相模の慎御免塾居・家督800石は残すので養子を申し立てるよう申し付ける)
1857年	2月13日	安政4年	正月19日	曇	今日雪少し降
1857年	2月14日	安政4年	正月20日	晴	昨夜雪少し降
1857年	2月15日	安政4年	正月21日	晴	(人事異動)
1857年	2月16日	安政4年	正月22日	晴	
1857年	2月17日	安政4年	正月23日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積
1857年	2月18日	安政4年	正月24日	曇	昨夜吹雪強し 雪五寸程積 今日雪降 二寸程積 (久渡寺役人今某の見継を命じられていてその父を自害させた庄屋と親類4人に過料銭1貫800文宛の罰)
1857年	2月19日	安政4年	正月25日	晴	
1857年	2月20日	安政4年	正月26日	晴	
1857年	2月21日	安政4年	正月27日	曇	巳之刻頃より雨降 午之刻頃止 (今某の家内の者を欠所(財産没収)とする・10枚に渡る財産目録(味噌6斗入り2樽棹23俵等))
1857年	2月22日	安政4年	正月28日	曇	未之刻過より雨時々降 夜二入同断 (酒1升到付1文目2分3厘2毛余に相当・1升を1文目3分4厘1合売り9文に申し付ける)
1857年	2月23日	安政4年	正月29日	曇	昨夜より之雨今暁寅之刻過止 今日雪少降 (江戸で人事異動))
1857年	2月24日	安政4年	2月1日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (津軽図書の御家老職御免御手廻組頭上席に等の人事異動)
1857年	2月25日	安政4年	2月2日	晴	昨夜雪少し降 (町奉行小山才八を勘定奉行に等の人事異動、諸手足軽の妹が酌取りなどして押込め・今某が酒を飲んだ場所に居たらしい)
1857年	2月26日	安政4年	2月3日	曇	(村方の者の手段に組したとして山役人?2人を御目見以上御留守居組に役下げ)
1857年	2月27日	安政4年	2月4日	曇	昨夜雪少し降 今日同断
1857年	2月28日	安政4年	2月5日	晴	昨夜雪少し降

1857年	3月1日	安政4年	2月6日 晴	下から続く	殺した容疑者3人中1人が逃亡中で刑が決まらず是まで通り牢居・その他の宿下がり腰縄付き五軒組合見継や農事の他他出留め等の者は格段の御沙汰を以って御用捨とする)
1857年	3月2日	安政4年	2月7日 曇	今日雪降 四寸程積	(親孝行の日雇に御褒美御米3俵下し置かれる、他にも御賞、人事異動、今日七時過ぎ元寺町の屋敷内で御家中が町人を討ち果たす、薬師堂村の男を突き 上に続く
1857年	3月3日	安政4年	2月8日 曇	昨夜雪降 五寸程積	今日雪降 三寸程積 (人事異動)
1857年	3月4日	安政4年	2月9日 晴		
1857年	3月5日	安政4年	2月10日 晴	卯之刻頃地震少し	
1857年	3月6日	安政4年	2月11日 晴		
1857年	3月7日	安政4年	2月12日 晴	(去る夏物騒の節夜回り嚴重……埋御門外廻方……95人に御賞(金100疋・銀4両・銀3両・銀5両・鳥目1貫文・500文・300文・700文・1貫500文)	
1857年	3月8日	安政4年	2月13日 曇	酉之刻過より小雨降 亥之刻頃止	
1857年	3月9日	安政4年	2月14日 曇	今日雪少し降 (和徳組百田村の年々収納一番皆済の者に鳥目2貫文下し置かれる)	
1857年	3月10日	安政4年	2月15日 晴	昨夜雪降 四寸程積 (一昨年の平館詰・箱館表急渡海的面々に御賞(銀子2枚・銀子7枚・御料理等)、山上七郎左衛門の隠居とその子儀三郎を御目見以上御留守居支配に等の人事異動)	
1857年	3月11日	安政4年	2月16日 曇	今日雪少し降 (江戸で家老大道寺族之助に200石加増等の人事異動)	
1857年	3月12日	安政4年	2月17日 快晴		
1857年	3月13日	安政4年	2月18日 晴		
1857年	3月14日	安政4年	2月19日 曇	未之刻過小雨降 則刻止	
1857年	3月15日	安政4年	2月20日 曇	今日雪少し降	
1857年	3月16日	安政4年	2月21日 曇	昨夜雪少し降 今日同断 (人事異動、御賞)	
1857年	3月17日	安政4年	2月22日 晴	下から続く 2人に2鞭居村徘徊はまで通り・関係の庄屋五人組3鞭居村徘徊はまでどおり・他にも過料1貫800文等の罰)	
1857年	3月18日	安政4年	2月23日 曇	今晚寅之刻過より小雨時々降 午之刻頃止 今日雪少し降 (去る丑年(今年は巳年)山中に小屋懸けの上盗伐・見付かって内済を頼んだ男3人に18鞭居村御払い・山の管理者 上に続く	
1857年	3月19日	安政4年	2月24日 晴	(人事異動)	
1857年	3月20日	安政4年	2月25日 晴		
1857年	3月21日	安政4年	2月26日 晴	昨夜雪少し降	
1857年	3月22日	安政4年	2月27日 曇	卯の刻過より雨降 申之刻頃止 (去る夏物騒の節等に夜回り精勤として20人に御賞(銀5両)、人事異動) 下から続く 10→11文目立・白餅米12→13文目立・大豆7→8文目立に申し付ける)	
1857年	3月23日	安政4年	2月28日 晴	(人事異動、後藤門之丞が漆仕立に関連して多数の名字帯刀御免や御免引高の変更を申し立て実施している、上方位価追々引上げ・津出1俵御印値段:玄米8→9文目立・白米と餅米 上に続く	
1857年	3月24日	安政4年	2月29日 曇	今日雪少し降	
1857年	3月25日	安政4年	2月30日 晴	昨夜雪少し降 (親孝行等奇々な浪岡組中野村の夫婦に御褒美御米3俵下し置かれる	
1857年	3月26日	安政4年	3月1日 晴	昨夜雪少し降	
1857年	3月27日	安政4年	3月2日 曇		
1857年	3月28日	安政4年	3月3日 曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪少降	
1857年	3月29日	安政4年	3月4日 晴	(本次郎殿(次の行で様)が近く弘前に来るらしい)	
1857年	3月30日	安政4年	3月5日 晴		
1857年	3月31日	安政4年	3月6日 曇		
1857年	4月1日	安政4年	3月7日 曇	昨夜雪少降 今日雪降 二寸程積 未の刻過より小雨降 酉の刻頃止 (津軽本次郎殿が両寺に拝礼に来ている、御賞、人事異動)	
1857年	4月2日	安政4年	3月8日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (三馬屋詰中度々御扱いの大組足軽を勤料10俵召上げ御城付足軽に役下げ、土地の女と密通の2人を押込)	
1857年	4月3日	安政4年	3月9日 曇	今日雪二寸程積	
1857年	4月4日	安政4年	3月10日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	
1857年	4月5日	安政4年	3月11日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物、御賞、丹後者詮索送り返しに触れ)	
1857年	4月6日	安政4年	3月12日 晴	昨夜雪少降 (原ヶ平村が領山伐り荒しに付過料銭12貫20文の申渡しを受けた・村の家数12軒で上納手段なし伐荒し1本に付小杉10本の1120本植付けで許して欲しいと庄屋が申出る・了とする)	
1857年	4月7日	安政4年	3月13日 晴	下から続く その他焼失・火元百姓他村預け)	
1857年	4月8日	安政4年	3月14日 晴	(今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物、預かっていた手段米の男に逃げられた3人と代庄屋に過料、去る9日夜浦町組荒川村で出火・類焼共4軒 上に続く	
1857年	4月9日	安政4年	3月15日 晴		
1857年	4月10日	安政4年	3月16日 晴		
1857年	4月11日	安政4年	3月17日 快晴	下から続く 小侯川尻まで残らず氷明ける・去年は3月3日より同5日夕七時頃まで氷明当年は8日遅く節に引き合い3日早い)	
1857年	4月12日	安政4年	3月18日 曇	巳の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物、当月12日より同13日朝五時頃迄に十三潟大湊川尻より 上に続く	
1857年	4月13日	安政4年	3月19日 晴	(岩木川今朝六時半頃より8歩余石渡川6歩の出水・駒越渡場の両船共今六時頃より往来差止める・大組足軽頭御持筒足軽頭諸手足軽頭に組を引き連れ水防を仰せ付ける・間もなく?落水)	
1857年	4月14日	安政4年	3月20日 快晴	(非常継立(蝦夷地が工事等で騒がしい)の分の運送料は1駄に付5文目5分人夫1人2文目5分に申し立てたが蹴られる、佐竹の兵が大館より三厩を通るのを支援をすることで了解している)	
1857年	4月15日	安政4年	3月21日 快晴	酉の刻過より小雨時々降 (去る17日夜大光寺組田中村で出火・建家等焼失・火元百姓を代官にて呵置く、岩木川出水に付往来差止め・今朝四時頃より通路相成る)	
1857年	4月16日	安政4年	3月22日 晴	昨夜よりの小雨今晚寅の刻頃止 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物、人事異動、箱館御奉行竹内下野守殿(様じゃないかね?)より御呼出に付……)	
1857年	4月17日	安政4年	3月23日 曇	辰の刻頃より小雨時々降 酉の刻頃止	
1857年	4月18日	安政4年	3月24日 快晴	(人事異動、昨19日夜蟹田町で出火・類焼共5軒焼失・馬2疋焼死火元入寺の上僧、砲術師範家7軒に焰硝目方30貫目・鉛目方16貫目宛下し置かれ門弟共に調査・稽古させている)	
1857年	4月19日	安政4年	3月25日 快晴		
1857年	4月20日	安政4年	3月26日 曇	申の刻過より雨降 夜に入同断 (久渡寺の今某の仲間と疑われて捕まっていた百沢寺寺庵西福坊住職が無罪釈放)	
1857年	4月21日	安政4年	3月27日 曇	昨夜よりの雨今日二及ひ時々降 夜に入同断	
1857年	4月22日	安政4年	3月28日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分、去る24日家出の新寺町の女が圓明寺の裏で病死、一昨25日夕新寺町で辻斬り?)	
1857年	4月23日	安政4年	3月29日 晴	(御家中の甥?の辻斬りを召捕る)	
1857年	4月24日	安政4年	4月1日 曇	辰の刻頃より雨時々降 未の刻頃止 巳の刻過より雷鳴強し 午の刻過止 (本次郎様7日発足と申し来る、綿1把を2文目3分立で御家中に渡すよう申し付ける)	
1857年	4月25日	安政4年	4月2日 曇	今晚子の刻過ぎより雨時々降 午の刻過(止を書き忘れ?) (御城付足軽福眞今八を勤料増で諸手足軽に等の人事異動、本次郎様より町奉行に川鯉1尺宛相贈られ候、兼平村等の秣場争に判決)	
1857年	4月26日	安政4年	4月3日 曇	今晚寅の刻過より小雨時々降 申の刻過止	
1857年	4月27日	安政4年	4月4日 曇	未の刻過小雨降 即刻止 酉の刻頃小雨降 即刻止 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物、人事異動、御賞、昨3日八つ時田町で出火・類焼2軒)	
1857年	4月28日	安政4年	4月5日 快晴	(昨日の火元掃除小人を押込、去る秋范元水湛に付芦の御家中への貸し渡し等を減らす)	
1857年	4月29日	安政4年	4月6日 快晴	(一昨13日上使を以って屋形様の御国許江之御暇が認められ公方様より縮緬10巻白銀20枚を拝領している、江戸で人事異動)	
1857年	4月30日	安政4年	4月7日 快晴	(今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分)	

1857年	5月1日	安政4年	4月8日 快晴 (勘定奉行手伝い永野某を御小姓組の頭に等の人事異動)	11日から続く	同僚に切付ける、今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物)
1857年	5月2日	安政4年	4月9日 快晴 (去ル酉年(今年は巳年)9月18・9日頃三之丸御屋形江忍び入り釘隠し30ばかり等を盗み取った御召馬付小人の親に30鞭10里四方追放大場御構い)		
1857年	5月3日	安政4年	4月10日 晴 (昨夜三上喜左衛門が病死、昨7日津軽本次郎様一行113人が碇ヶ関到着翌日出発、2月13日増川町川尻に水死の者・松前の飛脚と判明し松前等に報告)		
1857年	5月4日	安政4年	4月11日 曇 未の刻過より小雨時々降 夜に入同断 (人事異動、スツ・詰先行等の家中に御賞(銀2枚・金300疋)、昨夜御家中?宅で木部屋焼失、昨10日笹森町で火防当番が	8日に続く	
1857年	5月5日	安政4年	4月12日 曇 昨夜よりの小雨今日および時々降 夜に入同断 (松前御固場に関して御賞)		
1857年	5月6日	安政4年	4月13日 曇 昨夜よりの雨今日ニおよび時々降 未の刻頃止		
1857年	5月7日	安政4年	4月14日 曇		
1857年	5月8日	安政4年	4月15日 曇 未の刻過より雨降 夜に入同断 (人事異動、今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物)		
1857年	5月9日	安政4年	4月16日 曇 昨夜よりの雨今日におよび時々降 夜に入同断		
1857年	5月10日	安政4年	4月17日 曇 昨夜よりの雨今日におよび時々降 辰の刻頃止		
1857年	5月11日	安政4年	4月18日 曇		
1857年	5月12日	安政4年	4月19日 曇 申の刻頃より雨降 夜に入同断		
1857年	5月13日	安政4年	4月20日 曇 昨夜よりの雨今日におよび時々降 酉の刻過止		
1857年	5月14日	安政4年	4月21日 晴 (人事異動)		
1857年	5月15日	安政4年	4月22日 快晴 (清水観音堂より昨年穿出された2体の仏像の開帳に関し神楽殿を作っていたらまたまた金銅の佛像1体掘出す)		
1857年	5月16日	安政4年	4月23日 快晴 (江戸で人事異動、屋形様の御暇は疝痢と痔疾にて延引(4月11日付))		
1857年	5月17日	安政4年	4月24日 快晴		
1857年	5月18日	安政4年	4月25日 晴 今日卯の刻過地震少し (今日詰座敷で御名代として家老が和術見分、清水観音から新に堀出された金銅仏の開帳希望がある)		
1857年	5月19日	安政4年	4月26日 晴		
1857年	5月20日	安政4年	4月27日 曇 今暁卯の刻過より雨時々降 寅の刻頃止		
1857年	5月21日	安政4年	4月28日 快晴 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分)		
1857年	5月22日	安政4年	4月29日 晴		
1857年	5月23日	安政4年	5月1日 曇 今暁丑の刻過より雨降		
1857年	5月24日	安政4年	5月2日 曇 昨夜より之雨今日に及 辰の刻過止 (今日詰座敷で御名代として家老が剣術見分)		
1857年	5月25日	安政4年	5月3日 快晴		
1857年	5月26日	安政4年	5月4日 曇 申の刻過より小雨降 即刻止		
1857年	5月27日	安政4年	5月5日 曇		
1857年	5月28日	安政4年	5月6日 曇		
1857年	5月29日	安政4年	5月7日 晴 (昨年の瑞祥院様の御法事の御用懸に銀子2枚・5枚(御賞とは書いていない))		
1857年	5月30日	安政4年	5月8日 快晴		
1857年	5月31日	安政4年	5月9日 晴		
1857年	6月1日	安政4年	5月10日 快晴 (増川村で水死した松前の飛脚の取扱の往復書簡あり)		
1857年	6月2日	安政4年	5月11日 晴		
1857年	6月3日	安政4年	5月12日 快晴 戌の刻過より雨降 即刻止 (薪之儀は1巻に付是迄280目値段・当年柄336文目値段にて御払い仰せ付けられる)		
1857年	6月4日	安政4年	5月13日 快晴		
1857年	6月5日	安政4年	5月14日 快晴 未の刻頃雷鳴 即刻止 酉の刻過より雷雨 雷即刻止 雨亥の刻過止		
1857年	6月6日	安政4年	5月15日 晴 (甲冑の手入れ等で多数に御賞、人事異動)		
1857年	6月7日	安政4年	5月16日 曇		
1857年	6月8日	安政4年	5月17日 快晴		
1857年	6月9日	安政4年	5月18日 晴 (人事異動)		
1857年	6月10日	安政4年	5月19日 晴		
1857年	6月11日	安政4年	5月20日 曇 巳の刻過より雨時々降 亥の刻過止 (人事異動、御家中御買上米値段を是までの21文目から23文目立是に4分増の上御買上申し付ける)		
1857年	6月12日	安政4年	5月21日 晴		
1857年	6月13日	安政4年	5月22日 曇 今暁丑の刻過より雨時々降 午の刻過止		
1857年	6月14日	安政4年	5月23日 晴		
1857年	6月15日	安政4年	5月24日 快晴 (昨22日夜奈良岡某が出火・類焼あり・社職遠慮)		
1857年	6月16日	安政4年	5月25日 快晴 (漆仕立増御用懸等にに御賞、人事異動)		
1857年	6月17日	安政4年	5月26日 快晴 下から続く 出火・類焼共2軒等焼失・火元百姓他村預け)		
1857年	6月18日	安政4年	5月27日 快晴 (津出御印(1俵)値段:玄米9文目→11文目・白米餅米11文目→13文目・白餅米13文目→15文目立に申し付ける)	下から続く	男居村預け、去る20日昼浦町組小館村で 上に続く
1857年	6月19日	安政4年	5月28日 快晴 (今日学問所で御名代として家老が試・御用人中と大目付罷出る、御賞、去る25日昼赤石組大然村で出火・類焼共9軒熊皮2枚等焼失1人焼死・火元百姓他村預け母を焼死させた	上に続く	
1857年	6月20日	安政4年	5月29日 快晴		
1857年	6月21日	安政4年	5月30日 快晴 (今日学問所で御名代として家老が試・御用人中と大目付罷出る)		
1857年	6月22日	安政4年	閏5月1日 曇 午の刻過より雨降 未の刻頃止		
1857年	6月23日	安政4年	閏5月2日 晴 (人事異動)		
1857年	6月24日	安政4年	閏5月3日 晴		
1857年	6月25日	安政4年	閏5月4日 晴 戌の刻過より雨降 (武芸の師弟多数に出精として御賞)		
1857年	6月26日	安政4年	閏5月5日 曇 昨夜よりの雨卯の刻過止 (今某が捨てたという御刀等は久渡寺周辺に見えない、人事異動、御用達並びにその加勢に御紋形御上下などの御賞)		
1857年	6月27日	安政4年	閏5月6日 晴		
1857年	6月28日	安政4年	閏5月7日 曇 (去月晦日夜油川組新城村で出火・類焼共11軒焼失・火元百姓他村預け)		
1857年	6月29日	安政4年	閏5月8日 曇 今暁寅の刻頃より雨時々降 午の刻過止 (今年ノ下刻報恩寺の十一面観音が御出汗・銀5両御渡しの上加持祈禱を仰せ付ける)		
1857年	6月30日	安政4年	閏5月9日 曇 午の刻過より雨降 申の刻過ぎ止		

1857年	7月1日	安政4年	閏5月10日	曇	今晩丑の刻頃西南の風邪強し 寅の刻過止 (町奉行申出候:本町五丁目亀甲町等は今以て成立至り兼ね是迄通り居下げ三之一御免並びに中役江位下げ仰せ付け……、この方向を承認)	
1857年	7月2日	安政4年	閏5月11日	快晴	下から続く 申し出る、当巳年江戸廻米:米30000石(家中扶持米18000・払い米12000・定例廻米高53342石)・大坂廻米16200石(家中扶持米8000・払い米8200・定例廻米高37250石))	
1857年	7月3日	安政4年	閏5月12日	快晴	(江戸で人事異動、公儀が3貫目玉唐銅筒など9挺と鉄丸丸大小1978鉄空丸大小290を江戸より津軽まで船送り御裏印を浦賀関所に渡す、5月11日にも御屋形様が帰国延引を 上に続く	
1857年	7月4日	安政4年	閏5月13日	快晴		
1857年	7月5日	安政4年	閏5月14日	曇	卯の刻過より雨降 午の刻過止	
1857年	7月6日	安政4年	閏5月15日	曇	(人事異動)	
1857年	7月7日	安政4年	閏5月16日	快晴		
1857年	7月8日	安政4年	閏5月17日	曇	卯の刻過より雨時々降 夜に入同断	
1857年	7月9日	安政4年	閏5月18日	曇	昨夜よりの雨今日に及 辰の刻過止 (人事異動、御賞・御酒代)	
1857年	7月10日	安政4年	閏5月19日	晴	下から続く 打ち(庶民・家中共に)に慎等・松前の女を止宿させた男共に過料600文等の罰)	
1857年	7月11日	安政4年	閏5月20日	快晴	(青田の内笛吹くなどの触れ) 下から続く 御城付足輕に役下げ・他の関係者に慎、博打で預けの三男に逃げられた御馬廻り番頭格を老年に付御奉公遠慮・他の博打 上に続く	
1857年	7月12日	安政4年	閏5月21日	曇	卯の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (去る10月11日に高岡の錠前切破られた関係者に慎、11月9日御本城御金蔵前辻番所当番と11日夜御白砂前番所当番の御持筒足輕を 上に続く	
1857年	7月13日	安政4年	閏5月22日	曇		
1857年	7月14日	安政4年	閏5月23日	曇	午の刻過より雨時々降 夜に入同断 (一昨年7月差引銭の件で藤田某に切り付けた浪岡村の男に18鞭所払い)	
1857年	7月15日	安政4年	閏5月24日	曇	昨夜より之雨今日に及び 卯の刻過止 (今日宇和野遠丁で御名代として御家老中が松前非常3手のボンペン打方御見分)	
1857年	7月16日	安政4年	閏5月25日	快晴		
1857年	7月17日	安政4年	閏5月26日	快晴		
1857年	7月18日	安政4年	閏5月27日	快晴	(今日南溜池大矢場で御名代として御家老中が射芸御見分)	
1857年	7月19日	安政4年	閏5月28日	曇	(駿府勤番の本次郎様より入用鉛50貫目御払いの申し出・代銭937文目2分を上納させて御払い、深浦御仮屋境内の矢竹見継の者に御酒代)	
1857年	7月20日	安政4年	閏5月29日	晴	未の刻過地震少し (27日の残を御家老中が見分)	
1857年	7月21日	安政4年	6月1日	晴		
1857年	7月22日	安政4年	6月2日	晴	下から続く 江戸で砲術師範の篠崎進を御中小姓格から御馬廻組に等の人事異動)	
1857年	7月23日	安政4年	6月3日	快晴	(両社に風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける・御料物は歩引きなしで1社に2両宛計4両渡し方仰せ付ける、昨2日夜紺屋町日雇い方に裏口より入り込み乱妨・4人?手傷、 上に続く	
1857年	7月24日	安政4年	6月4日	快晴		
1857年	7月25日	安政4年	6月5日	快晴	酉の刻頃より雨時々降 (不明日に青森町勤兵衛船が八丈島江漂流している、薬王院が申し出るには東照宮陽明門御手入皆出来……)	
1857年	7月26日	安政4年	6月6日	曇	昨夜よりの雨今日及時々降 夜二入同断 申の刻頃雷鳴 即刻止	
1857年	7月27日	安政4年	6月7日	曇	昨夜よりの雨今日及時々降 夜二入同断 (人事異動、両濱津出御印:玄米15文目→20目・白米と餅米17→22・白餅米19→24文目に変更する)	
1857年	7月28日	安政4年	6月8日	曇	昨夜よりの雨今日二及時々降 午の刻過止 (御出入町医桑田玄達の子がこの度蝦夷地江罷り下り牛痘療治仕るよう箱館御奉行より仰せ渡される、岩木川7歩の出水・水防体制を取った頃落水)	
1857年	7月29日	安政4年	6月9日	快晴	(7日より平川出水・尾崎組岩館村その他稲草等押し流す・石川村仮橋残らず流失、岩木川の出水は今五時頃より長船並びに馬船とも通路相成る)	
1857年	7月30日	安政4年	6月10日	快晴		
1857年	7月31日	安政4年	6月11日	曇	未の刻過より小雨降 申の刻過止	
1857年	8月1日	安政4年	6月12日	曇	卯の刻過より小雨時々降 午の刻過止 (7日の出水で赤田組で田方415町歩位畑方124町歩位・広須両組で田方654町反?9町歩位水湛)	
1857年	8月2日	安政4年	6月13日	晴		
1857年	8月3日	安政4年	6月14日	晴	(7日の洪水で平川沿いの小金崎八幡館石川堀越新里福村領まで46人役位田方石砂押上がり稲草押し流す・広田組村々で田方898町8反歩畑方179町7反歩水湛、南溜池で釣り停止の触れ)	
1857年	8月4日	安政4年	6月15日	晴		
1857年	8月5日	安政4年	6月16日	曇	今晩寅の刻過より小雨降 辰の刻頃止 下から続く その他水門等切り破る)	
1857年	8月6日	安政4年	6月17日	曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (去る5日より8日までの大雨で金木両組で田方589町歩水湛・大鰐村大橋唐牛村小橋水切り柱1本流失・長嶺村領福嶋大橋苦木村大橋流失・ 上に続く	
1857年	8月7日	安政4年	6月18日	曇	昨夜よりの雨今日及時々降 午の刻過止 (五山に風雨順時五穀成就の重御祈禱を仰せ付ける)	
1857年	8月8日	安政4年	6月19日	晴		
1857年	8月9日	安政4年	6月20日	晴	(スツ・詰め物頭館山某が一昨日帰着・今日報告、御家中御買上米値段を28文目立江4分増とする)	
1857年	8月10日	安政4年	6月21日	曇	巳の刻過小雨降 即刻止 (水練稽古指南に御賞銀2両宛、薬王院に御布施(導師薬王院に銀1枚・寺庵3人に銭7文目宛・所化1人に銀1両・小僧1人に銭3文目・道心4人に銭2文目宛)	
1857年	8月11日	安政4年	6月22日	快晴	(洋式船を作り動かす石炭の探索・ハッテウ(ハッテラ:鯨)作成を進める、蒸気船は莫大な資金を要し遠方往来はともかく松前往復は……、江戸で人事異動、この度鉄銭箱館通宝を鑄立てる)	
1857年	8月12日	安政4年	6月23日	快晴		
1857年	8月13日	安政4年	6月24日	快晴	(御賞)	
1857年	8月14日	安政4年	6月25日	快晴		
1857年	8月15日	安政4年	6月26日	晴	(野呂某(御馬廻)が家内不和合等不締りとして隠居)	
1857年	8月16日	安政4年	6月27日	曇	巳の刻過より雨時々降 申の刻頃止 未の刻過雷鳴 即刻止	
1857年	8月17日	安政4年	6月28日	晴	(桜庭平次郎を郡奉行に山上鉄太郎を碇ヶ関町奉行に等々の人事異動)	
1857年	8月18日	安政4年	6月29日	晴		
1857年	8月19日	安政4年	6月30日	晴	(当時の菜種値段45文目余・水油1升に付仮値段7文目とする)	
1857年	8月20日	安政4年	7月1日	快晴		
1857年	8月21日	安政4年	7月2日	曇	午の刻過小雨降 即刻止 (前金で菜種の買占めがあり止めるよう仰せ付けている、御用所に差出す書類は四半時までに出色・それ以降は翌日に出せとの指示)	
1857年	8月22日	安政4年	7月3日	曇	今晩丑の刻頃より雨降 寅の刻頃止	
1857年	8月23日	安政4年	7月4日	曇	午の刻過より小雨時々降 夜二入同断 (南溜池で釣りするなどの触れ、駿府加番の本次郎殿から助成金の申請あり・ゴタゴタ・700両貸しているのかな?)	
1857年	8月24日	安政4年	7月5日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降 夜二入同断 (大鰐村加賀助と兵左衛門から御初米出穂差上げる・去年は5月4日植付66日目当年は5月23日植付72日目・今年は6日遅く節に引合い14日遅い)	
1857年	8月25日	安政4年	7月6日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降 夜二入同断	
1857年	8月26日	安政4年	7月7日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 男を撲殺・逃げ去った夫を人相書き(年齢23歳・中背より少し高い方等)で手配)	
1857年	8月27日	安政4年	7月8日	曇	昨夜よりの小雨今日二及 卯の刻過止 (長尾貞蔵を鯉ヶ沢町奉行に等の人事異動、去月4日金木組の女房を密通して逃げた男が小泊村領で見つかり捕まる・連れ帰る途中夫が 上に続く	
1857年	8月28日	安政4年	7月9日	快晴	下から続く 出生伊勢海利助27回忌に付弔(吊)角力、青森勤兵衛船が八丈島に漂着したので帰国費用104両ほどを御立替渡ししている、江戸で人事異動、寛五郎様を若殿様と称する)	
1857年	8月29日	安政4年	7月10日	快晴	(来る13日より青森善知鳥宮で晴天7日の角力興行・札銭は1人に付3分宛、築地講武所構内に軍艦教授所を開く・阿蘭陀より献上の蒸気船で操練の生徒を募集している、御国 上に続く	
1857年	8月30日	安政4年	7月11日	晴		
1857年	8月31日	安政4年	7月12日	曇	(御賞)	

1857年	9月1日	安政4年	7月13日	曇	辰の刻頃小雨降 即刻止
1857年	9月2日	安政4年	7月14日	晴	
1857年	9月3日	安政4年	7月15日	曇	
1857年	9月4日	安政4年	7月16日	晴	
1857年	9月5日	安政4年	7月17日	晴	巳の刻頃小雨降 即刻止
1857年	9月6日	安政4年	7月18日	晴	
1857年	9月7日	安政4年	7月19日	曇	
1857年	9月8日	安政4年	7月20日	曇	辰の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 (御徒格御鉄砲師宇野某が病死・倅に金3両2人扶持を下し置かれ御鉄砲師に仰せ付ける)
1857年	9月9日	安政4年	7月21日	曇	昨夜よりの小雨今日に及 時々降 未の刻過止
1857年	9月10日	安政4年	7月22日	曇	申の刻頃より雨時々降 夜に入同断
1857年	9月11日	安政4年	7月23日	曇	昨夜より之雨今日に及 時々降 午の刻頃止
1857年	9月12日	安政4年	7月24日	晴	(岩木川の出水の際の流木を隠し上げる(面体を隠し帯刀で)者がある・停止、正金渡しの旅がこの節の米価高騰で拝借米願い・断っている)
1857年	9月13日	安政4年	7月25日	晴	
1857年	9月14日	安政4年	7月26日	晴	
1857年	9月15日	安政4年	7月27日	晴	今暁丑之刻頃雷雨 雷即刻止 雨卯乃刻頃止 (椿畑30町歩余を御預けの内1町歩も椿を仕立てていない・15町歩を引上げて人參畑にしようとしたら……)
1857年	9月16日	安政4年	7月28日	晴	(御手廻与力黒瀧仁十郎が箱館詰合中動向心を入猶又ボール雛形(何でしょうね?)出来方格別行届相勤候二付御賞として金200疋下し置かれる)
1857年	9月17日	安政4年	7月29日	晴	酉の刻頃より雨時々降 (昨28日高岡の御宝蔵の封印が切り捨てられる・鯺ヶ沢町の男が寝ていた?召捕り揚屋入り)
1857年	9月18日	安政4年	8月1日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々雨 夜二入同断 (当作鉢定まる・津出1俵御印代:玄米20目→15文目・白米と餅米22→17文目・白餅米24→19文目に申付ける)
1857年	9月19日	安政4年	8月2日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜二入同断
1857年	9月20日	安政4年	8月3日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻過止
1857年	9月21日	安政4年	8月4日	曇	辰の刻過小雨降 即刻止 (御初米去年は5月4日植付8月3日鎌入れ当年は5月23日植付7月25日鎌入れ・この間の日数で今年は4日遅く節に引合い12日遅い)
1857年	9月22日	安政4年	8月5日	快晴	
1857年	9月23日	安政4年	8月6日	曇	申の刻過より雨時々降 夜二入同断 酉の刻頃雷鳴 雷即刻止 (是までの屋形様を「殿様」と言うようにした)
1857年	9月24日	安政4年	8月7日	曇	昨夜よりの雨今暁子の刻頃止 巳の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 午の刻頃より雷鳴 即刻止 (若殿様の御名乗りを承烈(後ろの文字にテルとのふり仮名あり)とする)
1857年	9月25日	安政4年	8月8日	晴	
1857年	9月26日	安政4年	8月9日	晴	亥の刻頃より雷雨 雷即刻止 雨時々降
1857年	9月27日	安政4年	8月10日	曇	昨夜よりの雨今暁丑の刻過止 巳の刻過より雨降 午の刻過止
1857年	9月28日	安政4年	8月11日	曇	今暁子の刻頃より雨時々降 卯の刻過止 酉の刻過小雨降 即刻止
1857年	9月29日	安政4年	8月12日	晴	
1857年	9月30日	安政4年	8月13日	晴	
1857年	10月1日	安政4年	8月14日	快晴	今日卯の刻過地震少し
1857年	10月2日	安政4年	8月15日	快晴	(あちこちで祭文寄興行等をしている)
1857年	10月3日	安政4年	8月16日	晴	
1857年	10月4日	安政4年	8月17日	曇	辰の刻頃より雨時々降 酉の刻頃止
1857年	10月5日	安政4年	8月18日	曇	
1857年	10月6日	安政4年	8月19日	晴	
1857年	10月7日	安政4年	8月20日	晴	
1857年	10月8日	安政4年	8月21日	曇	巳の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1857年	10月9日	安政4年	8月22日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻過止
1857年	10月10日	安政4年	8月23日	晴	
1857年	10月11日	安政4年	8月24日	晴	(間道があり野内御関所の場所を替えたいとの申し出あり・早瀬野口三ツ目内ローノ渡口相馬口等間道は沢山あり山下村々の漆守数人に見張らせる)
1857年	10月12日	安政4年	8月25日	晴	(7月29日に高岡御宝蔵の封印を切った男は狂気の者と判明・贖銭4貫200文を上納の上親に引渡し、当年正月に八丈島に漂着した青森勤兵衛船の乗員名簿・漂流経路等あり)
1857年	10月13日	安政4年	8月26日	快晴	
1857年	10月14日	安政4年	8月27日	曇	(秋田の津軽屋から御金拝借願い・払い馬も仰せ付けているので断る)
1857年	10月15日	安政4年	8月28日	曇	巳の刻過より雨時々降 夜二入同断
1857年	10月16日	安政4年	8月29日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 夜二入同断
1857年	10月17日	安政4年	8月30日	曇	
1857年	10月18日	安政4年	9月1日	晴	(冥加のため村貯糶1950俵余を差出した代々年頭御目見郷土等に御料理と御干菓子等を下し置かれる、江戸で去る10日喜多村監物を御家老職手伝御城代格にとの人事異動)
1857年	10月19日	安政4年	9月2日	曇	
1857年	10月20日	安政4年	9月3日	晴	
1857年	10月21日	安政4年	9月4日	曇	未の刻過より雨降 申の刻過止 申の刻頃より雷鳴 即刻止
1857年	10月22日	安政4年	9月5日	曇	
1857年	10月23日	安政4年	9月6日	晴	(今日宇和野で田井隼人が箱館詰の節に調練した面々を御家老中が見分・他の門弟の砲術も見分)
1857年	10月24日	安政4年	9月7日	曇	卯の刻頃より雨降 辰の刻頃止
1857年	10月25日	安政4年	9月8日	快晴	
1857年	10月26日	安政4年	9月9日	快晴	
1857年	10月27日	安政4年	9月10日	曇	午の刻過雨降 未の刻過止 未の刻頃より地震少し
1857年	10月28日	安政4年	9月11日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 卯の刻過雷鳴 則刻止 申の刻頃霰降 酉の刻過雷鳴 則刻止 雨夜二入同断
1857年	10月29日	安政4年	9月12日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 巳の刻過雷鳴 則刻止
1857年	10月30日	安政4年	9月13日	曇	昨夜よりの雨今日に及 時々降 午の刻過止
1857年	10月31日	安政4年	9月14日	快晴	

1857年	11月1日	安政4年	9月15日 晴	(今日八幡宮御祭礼・神輿通御に付三之丸江五ツ時前御家老等が罷り出でる)	
1857年	11月2日	安政4年	9月16日 快晴	下から続く 書いてあるが意味不明)1冊が届いている、江戸で人事異動)	
1857年	11月3日	安政4年	9月17日 曇	卯の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (米相場と御定法では酒1升が1文目6分2厘3毛に相当・1升を1文目7分2厘1合売は11文宛に申し付ける、海軍教授所修行の観則書(このように	上に続く
1857年	11月4日	安政4年	9月18日 曇	(去る14日夜金木組相内村で出火・類焼共12軒焼失・火元他村預け、御家中米1俵32文目立に4分加えて御買上申し付ける、江戸で人事異動・銀子・金150疋等を下し置かれている)	
1857年	11月5日	安政4年	9月19日 晴	(盗みをしていないというのが不届きの男に3鞭居町徘徊はまで通り、村人に断りなく木を伐り村人を打擲した男に3鞭居村徘徊はまで通り)	
1857年	11月6日	安政4年	9月20日 曇	今日雪少し降 (去る11日大坂の船客が雷火、菜種の買占めがある、殿様不快に付当冬中まで滞府の触れ、御側御用人北川某を御用人兼帯にとの人事異動)	
1857年	11月7日	安政4年	9月21日 曇	(人事異動、御賞とは書いていないが銀子・金300疋等を多数に下し置かれる、乞食共難渋に付曲乗り軽業興行を認める・見物料1人に付3分宛)	
1857年	11月8日	安政4年	9月22日 晴	(昨14日夜九ツ頃相内村で出火・家数12軒焼失)	
1857年	11月9日	安政4年	9月23日 曇	未の刻過より雨時々降 夜二入同断 (去る6日江戸発の家老大道寺族之助が唯今到着) 下から続く 白酒2斗入り1樽3文目5分→4・酢2斗入り1樽1→1文目5分に申し付ける)	
1857年	11月10日	安政4年	9月24日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 御印代:酒2斗入り1樽2文目→3文目・糶1俵4→4文目5分・醤油2斗入り1樽3文目居り・味噌2斗入り1樽2→2文目5分・	上に続く
1857年	11月11日	安政4年	9月25日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 午の刻頃止 (江戸で福土某を者頭格用人手伝にとの人事異動、勘定所仕立飛脚で早着の掃除小人に昇任等、青森で軽業等興行・札銭3分宛、	上に続く
1857年	11月12日	安政4年	9月26日 晴		
1857年	11月13日	安政4年	9月27日 曇		
1857年	11月14日	安政4年	9月28日 曇	今日雪少し降 (先の射芸御見分で成績の良かった家中に弦13筋等を下される、松前詰で砲術出精の足軽等に勤料増)	
1857年	11月15日	安政4年	9月29日 曇	今日雪少し降 (酒の上で他領者を打擲の男に9鞭居村徘徊はまで通り、出火の上類焼の隣家の母を焼死させた大然村の男に15鞭居村徘徊はまで通り)	
1857年	11月16日	安政4年	9月30日 晴	(篠崎進が師匠の下菅根金三郎から規矩を無心されている・送る手続きをしている)	
1857年	11月17日	安政4年	10月1日 晴	(田井隼人を御持筒足軽頭に等の人事異動)	
1857年	11月18日	安政4年	10月2日 晴	(去月28日夜金木組脇元村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、軽業興行の2日延長願ひ・了、願ひにより秋田久保田の津軽屋に明春駒100疋御払い申し付ける)	
1857年	11月19日	安政4年	10月3日 快晴	(7月11日に早瀬野間道を忍通り捕まった男を預り取り逃がした高無に3鞭居村徘徊はまで通り・関係者にも罰)	
1857年	11月20日	安政4年	10月4日 曇	辰の刻過より雨時々降 未の刻頃止 (この節の荏種値段(1俵なのかな?)64・5文目・燈油仮値段1升につき10文目1合売りを1文目に申し付ける)	
1857年	11月21日	安政4年	10月5日 曇	戌の刻過より西南乃風強 亥の刻過止 下から続く 用水樋流失13・水門破損4・川欠172・山崩1・街道欠崩22・人馬怪我なし等)	
1857年	11月22日	安政4年	10月6日 快晴	(金1000兩を江戸に輸送中の勘定小頭と勘定人が道中白沢駅で300両盗難に逢う、当6月7日出水の公儀報告:水漕3749町余(田方3266町余)・橋流失33ヶ所・同破損36・	上に続く
1857年	11月23日	安政4年	10月7日 曇	未の刻より雨時々降 申の刻過止 (当新穀(1俵)御印代:玄米12文目・白米と餅米14文目・白餅米16文目に申し付ける)	
1857年	11月24日	安政4年	10月8日 快晴		
1857年	11月25日	安政4年	10月9日 曇		
1857年	11月26日	安政4年	10月10日 曇	今日雪少し降 (炭1俵代3文目)	
1857年	11月27日	安政4年	10月11日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (去る4日朝後潟組広瀬村で出火・類焼共18軒その他焼失・火元高無他村預け)	
1857年	11月28日	安政4年	10月12日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (昨10日夜六時半頃駒越村で出火・類焼共13軒建馬2疋等焼失・火元百姓他村預け・稲草の焼失は足軽目付が見分)	
1857年	11月29日	安政4年	10月13日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 亥の刻頃止	
1857年	11月30日	安政4年	10月14日 晴	(佐竹家中梅津某と名乗り南部家老中野某一味の森岡武勇の者34・5人が秋田鶴形村辺りに忍び居るとの報を持って大間越関所を通りたがる・詮議したら全体馬鹿同様の者・碇ヶ関から返す)	
1857年	11月31日	安政4年	10月15日 曇	今晚寅の刻頃より雨降 卯の刻過止 (竹内某を御旗奉行にとの人事異動、御賞)	
1857年	12月2日	安政4年	10月16日 晴		
1857年	12月3日	安政4年	10月17日 曇	午の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 (尾太並びに八光山の不締りに関し多数を召還している)	
1857年	12月4日	安政4年	10月18日 曇	今日雪少し降 (去月14日被災の金木組相内村の12軒に御手当て米12俵下し置かれる)	
1857年	12月5日	安政4年	10月19日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降	
1857年	12月6日	安政4年	10月20日 晴	昨夜雪少し降 (家中買上米は1俵35文目立・これに4分加えて買い上げを申し付ける)	
1857年	12月7日	安政4年	10月21日 曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る4日被災の後潟組広瀬村の18軒に御手当て米18俵下し置かれる)	
1857年	12月8日	安政4年	10月22日 曇	昨夜雪少し降 今日雪降 四寸程積 (今18日朝五ツ時頃十三町で出火・類焼共3軒焼失・火元慎、去る12日夜親方町で他人の女房を強姦した3人を入牢)	
1857年	12月9日	安政4年	10月23日 晴		
1857年	12月10日	安政4年	10月24日 曇	未の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (外科眼科の医師の倅に本道兼帯を仰せ付ける)	
1857年	12月11日	安政4年	10月25日 晴	(江戸御出入り町医桑田某が当年松前表で種痘療治・過半が残ったので支援を求められて断ったのかな?)	
1857年	12月12日	安政4年	10月26日 曇		
1857年	12月13日	安政4年	10月27日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (人事異動、当新荏種平均値段を御定法で割合すると1升到付12文目4分6厘5毛に相当・1升到付12文目4分に1合売り1文目2分2文に仰せ付ける)	
1857年	12月14日	安政4年	10月28日 晴		
1857年	12月15日	安政4年	10月29日 曇	今日雪少し降	
1857年	12月16日	安政4年	11月1日 晴	昨夜雪少し降 (近々垂墨利加使節が出府に付持ち場持ち場を掃除し大勢で見物等するなどの公儀御書付、22日記述の十三町の火災の被災者には御手当て米が出ない・類焼5軒以上とのこと)	
1857年	12月17日	安政4年	11月2日 曇	昨夜雪少し降 辰の刻頃小雨降 即刻止 今日雪少し降	
1857年	12月18日	安政4年	11月3日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 下から続く 入り・跡目は掃除小人に)	
1857年	12月19日	安政4年	11月4日 晴	(飛脚に出精の掃除小人に勤料増:北方領土が騒がしくなり足軽が払底して飛脚の格が下がった?、当4月江戸下がり中同道の諸手足輕に切付けた(全快)諸手足輕を隠居一間所	上に続く
1857年	12月20日	安政4年	11月5日 晴		
1857年	12月21日	安政4年	11月6日 晴		
1857年	12月22日	安政4年	11月7日 晴	(今日御名代として家老中が種田流槍術見分・大寄合以上の面々見物)	
1857年	12月23日	安政4年	11月8日 曇	昨夜雪少し降 今日午の刻過より雨時々降 申の刻過止	
1857年	12月24日	安政4年	11月9日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1857年	12月25日	安政4年	11月10日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (今日御名代として家老中が槍術見分・大寄合以上の面々見物) 12日から続く 御仕置とする、養父を薪割りで打擲死亡に至らしめた男を牢前で斬罪とする)	
1857年	12月26日	安政4年	11月11日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (去る3日タより4日朝迄に十三の大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は12月朔日朝迄に残らず氷張り当年は26日早く節に引合い8日早い)	
1857年	12月27日	安政4年	11月12日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 下から続く (今年(巳年)9月17日夜常源寺の金子90両窃盗容疑で拷問責しその一部しか認めない男をいずれにしても不届きとして 10日に続く	上に続く
1857年	12月28日	安政4年	11月13日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (当3月25日新寺町で脇差を抜いて喧嘩の青森町同心の御給分召上げ永の暇焼屋入り・仲間の大組足輕を御城付足輕に役下げ、去る卯年	上に続く
1857年	12月29日	安政4年	11月14日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (今日御名代として家老中が槍術見分・大寄合以上の面々見物、御定法では酒1升が1文目8分5厘8毛に相当・1升を1文目9分5厘	欄外(*)に続く
1857年	12月30日	安政4年	11月15日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (稽古出精の大筒隊鉄砲隊(家中の第四男などを含む)106人?に御賞(全員銀3両))	
1857年	12月31日	安政4年	11月16日 快晴		

(*)1合売りは2分に申し付ける、殿様から来年参勤の時節まで滞府養生願ひを出し認められる、江戸で人事異動)

1858年	1月1日	安政4年	11月17日	晴	昨夜雪少し降	
1858年	1月2日	安政4年	11月18日	晴	(今日御名代として家老中が槍術見分・大寄合以上の面々見物、十三湯が前後共昨15日迄に一円氷閉之、米1俵を37文目立に4分加えて家中から買上げを申し付ける)	
1858年	1月3日	安政4年	11月19日	晴		
1858年	1月4日	安政4年	11月20日	晴		
1858年	1月5日	安政4年	11月21日	晴	(蒔苗某を大組足輕頭に等の人事異動)	
1858年	1月6日	安政4年	11月22日	曇	昨夜雪降 三寸程積 辰の刻過より小雨時々降 巳の刻過止 (今日御名代として家老中が長刀見分)	
1858年	1月7日	安政4年	11月23日	曇	未の刻過より小雨時々降 亥の刻頃止	
1858年	1月8日	安政4年	11月24日	晴	(今日御名代として家老中が長刀見分) 下から続く 薪割りで打擲死亡に至らしめた男を斬罪)	
1858年	1月9日	安政4年	11月25日	晴	下から続く 意見した妹婿に深手を負わせ死亡に至らしめ出奔の御家中の伯父を取上御仕置き場で斬罪、11月13日記述の常源寺の金子90両?窃盗犯・養父を 上に続く	
1858年	1月10日	安政4年	11月26日	晴	(他人の女房と夫婦になる約束で当6月4日に共に逃げ翌5日小泊村で取押えた夫を突き殺した男を町中引回しの上刎首獄門・逃げた妻は行方不明、他出差留め中の8月21日夜 上に続く	
1858年	1月11日	安政4年	11月27日	晴	下から続く 20石召上げ隠居・倅を30石御目見以上に)	
1858年	1月12日	安政4年	11月28日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 三寸程積 (若殿様が登城御目見している・贈り物等あり) 下から続く 元寺町で酒の上で町人を打捨てた(2月7日記述)御家中の 上に続く	
1858年	1月13日	安政4年	11月29日	曇	戌の刻過地震少し (一昨年より昨年迄の東御蔵立会(御手廻)が不締りとして御給分の内金2両召上げ御目見以上御留守居支配に・御蔵奉行(御馬廻)も減給なしに同様、 上に続く	
1858年	1月14日	安政4年	11月30日	曇		
1858年	1月15日	安政4年	12月1日	曇	今日雪少し降 (木村某を御旗奉行格に等の人事異動、御賞)	
1858年	1月16日	安政4年	12月2日	快晴		
1858年	1月17日	安政4年	12月3日	晴		
1858年	1月18日	安政4年	12月4日	曇	今日雪少し降	
1858年	1月19日	安政4年	12月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (当9月萱町の男を永々差置き焼死させた相内村の男に過料銭1貫800文・同じく永々差し置いた相内村の男に過料銭1貫200文)	
1858年	1月20日	安政4年	12月6日	曇	今日雪降 五寸程積 (度々手段米の後潟村の男に15鞭所払い外ヶ浜四ヶ組御構い・関係の庄屋に過料900文五人組に1貫500文宛の過料)	
1858年	1月21日	安政4年	12月7日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1858年	1月22日	安政4年	12月8日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積	
1858年	1月23日	安政4年	12月9日	晴	今日雪少し降 下から続く 七組者頭・三奉行・御目付・四浦町奉行・五浦町奉行が拝見、11日記述の山吹銀を受け取った茂森新町の男に過料銭100目・関係者に過料や戸(ノ)	
1858年	1月24日	安政4年	12月10日	晴	昨夜雪少し降 12日から続く 亜墨利加使節(多分ハリス)が登城御目見の節差出した書翰の和解である、御城代・御用人・御側御用人・大目付・御側役・三組頭・御備方・ 上に続く	
1858年	1月25日	安政4年	12月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪三寸程積 (漆仕立出精の者共に高20石御免引・名字帯刀・御免引き増、尾太山の床大工が諸色代として(くすねた?)山吹銀を差出す・これを取り逃がす)	
1858年	1月26日	安政4年	12月12日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去月2日松平陸奥守様より御廻達:亜墨利加より差上げの書簡和解並びに使節拝礼の節の口上の趣の和解の2冊が届く、去月21日 10日に続く	
1858年	1月27日	安政4年	12月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積	
1858年	1月28日	安政4年	12月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1858年	1月29日	安政4年	12月15日	曇	昨夜雪降 九寸程積 今日雪少し降	
1858年	1月30日	安政4年	12月16日	快晴		
1858年	1月31日	安政4年	12月17日	晴	今日雪少し降 (流木1巻二付10文目位値段引下げ・湯屋共が7文に申し出たが6文宛に申し付ける、一昨14日木造村で本行寺配下実相寺の寺廻(本尊仏具等まで)焼失)	
1858年	2月1日	安政4年	12月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (御賞でなく銀子何枚かを多数に下し置かれている、福嶋千之助に100石加増等の、永く奇特の者共に御酒代、漆仕立出精の11人に名字帯刀御免)	
1858年	2月2日	安政4年	12月19日	晴		
1858年	2月3日	安政4年	12月20日	曇	今日雪少し降 (人事異動、牢医・別段役・代官等に御賞(銀7両・金100疋・鳥目500文等))	
1858年	2月4日	安政4年	12月21日	晴	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (17日記述の木造村実相寺の禁足免許)	
1858年	2月5日	安政4年	12月22日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (福嶋千之助・森岡富太郎・棟方晴吉を一問所入り親類見継御免の上塾居、その他の多数の罪状を調べている・大赦なのかな)	
1858年	2月6日	安政4年	12月23日	晴	(一昨年より昨年迄の八幡御蔵立会(御手廻)に過渡し取継あり半知召上げ御留守居支配に役下げ・御蔵奉行にも相当の罰、黒滝主殿・田村雄太の一問所の預け先が代っている)	
1858年	2月7日	安政4年	12月24日	晴	昨夜雪少し降 (多くの御蔵立会い並びに御蔵奉行に御賞)	
1858年	2月8日	安政4年	12月25日	晴	(多くの御蔵の巻頭(米俵に作る頭・不正も不可能ではない?)等に御酒代、人事異動)	
1858年	2月9日	安政4年	12月26日	快晴	下から続く (夏3本)・附木燈真(燈心か?)小6把・水油9合・他金2両、不屈きの青森御印書を永の暇の上他出差し留め)	
1858年	2月10日	安政4年	12月27日	晴	(御賞(銀3両)御酒代(鳥目1貫500文)、黒滝主殿・田村勇太の預けに関する諸渡(月々):米大の月1斗5升(小の月1斗4升5合)・炭銭30目・焚炭冬3俵(夏2俵)・流木(大木)冬5本 上に続く	
1858年	2月11日	安政4年	12月28日	晴	(人事異動、当造酒本値段を1升到付2文目1分に造酒屋共が要望・1升売りを1文目9分5厘に1合売りは2分に申し付ける)	
1858年	2月12日	安政4年	12月29日	快晴		
1858年	2月13日	安政4年	12月30日	曇	昨夜雪降 ○○程積 今日雪少し降	
1858年	2月14日	安政5年	正月1日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪降 一寸程積	
1858年	2月15日	安政5年	正月2日	快晴		
1858年	2月16日	安政5年	正月3日	曇	卯の刻過地震 (12月16日に若殿様が叙爵・土佐守となる)	
1858年	2月17日	安政5年	正月4日	晴		
1858年	2月18日	安政5年	正月5日	快晴		
1858年	2月19日	安政5年	正月6日	晴	昨夜雪少し降	
1858年	2月20日	安政5年	正月7日	快晴		
1858年	2月21日	安政5年	正月8日	快晴		
1858年	2月22日	安政5年	正月9日	曇	卯之刻過より小雨時々降 午之刻過止 今日雪少し降	
1858年	2月23日	安政5年	正月10日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1858年	2月24日	安政5年	正月11日	晴		
1858年	2月25日	安政5年	正月12日	曇	今日雪少し降	
1858年	2月26日	安政5年	正月13日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1858年	2月27日	安政5年	正月14日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1858年	2月28日	安政5年	正月15日	晴	(今日四時過ぎ森町(御家中家)で出火・勝手廻焼失)	

1858年	3月1日	安政5年	正月16日	快晴	
1858年	3月2日	安政5年	正月17日	曇	寅之刻過より雨時々降 戌之刻頃止
1858年	3月3日	安政5年	正月18日	曇	今日雪少し降
1858年	3月4日	安政5年	正月19日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1858年	3月5日	安政5年	正月20日	晴	昨夜雪少し降
1858年	3月6日	安政5年	正月21日	快晴	(去る16日夜堀越村で出火・類焼共2軒外馬屋等焼失・火元百姓他村預け)
1858年	3月7日	安政5年	正月22日	曇	今日雪少し降
1858年	3月8日	安政5年	正月23日	曇	今日雪少し降
1858年	3月9日	安政5年	正月24日	曇	今日雪少し降
1858年	3月10日	安政5年	正月25日	晴	
1858年	3月11日	安政5年	正月26日	晴	昨夜雪少し降
1858年	3月12日	安政5年	正月27日	快晴	下から続く 変わっている、25年勤めた・46年勤めた庄屋と五人組に御酒代鳥目500文と1貫文下し置かれる、油川より蓬田あたりの手段米を押さえるために苦労している)
1858年	3月13日	安政5年	正月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積 (当四月の勢洲における太々御神楽差上げる代表が決まる・町奉行所物書と柏木組の手代・何時から気付かなかったが平民?から武家(の下の方)に 上に続く
1858年	3月14日	安政5年	正月29日	曇	昨夜雪少し降
1858年	3月15日	安政5年	2月1日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 (江戸で人事異動・多数に銀子等を下し置かれる、歩引渡し継続御手当て高100石に付金1両との口達)
1858年	3月16日	安政5年	2月2日	晴	昨夜雪少し降 (上方米価追々引上げ津出御印代(1俵):玄米12文目→15文目・白米と餅米14→17文目・白餅米16文目→19文目・大豆新に?7文目に申し付ける)
1858年	3月17日	安政5年	2月3日	曇	
1858年	3月18日	安政5年	2月4日	曇	今暁子之刻頃より雨降 寅之刻過止 今日雪少降 巳之刻過西南之風強し (砲術稽古をゆるがせにするなどの御用人の覚書、昨期日田舎館組畑中村で出火・類焼共2軒焼失・火元他村預け)
1858年	3月19日	安政5年	2月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1858年	3月20日	安政5年	2月6日	晴	
1858年	3月21日	安政5年	2月7日	晴	(漆の仕立て方適切な庄屋等9人に帯刀御免の上苗字を許す、座当頭佐和一城仙が若殿様ご結納・御叙爵等4度分の御配当を申し出る・1人につき15文宛60文計405文目を申し付ける)
1858年	3月22日	安政5年	2月8日	晴	(隠し津出の手段:夜中に帆を隠し漁船のふりをして時刻を見計らい陸に近づく・米の取引が終れば帆を立てて逃げるらしい)
1858年	3月23日	安政5年	2月9日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 下から続く 往來に付秋田領境迄送った者)
1858年	3月24日	安政5年	2月10日	曇	今日雪降 三寸 (当両都御廻船42艘の見込み・上乘りは昨年ので残り6人を差し引き36人……下乗りも人選) 下から続く 外で倒死・去月9日夫婦が胡乱の躰で深浦町を 上に続く
1858年	3月25日	安政5年	2月11日	晴	昨夜雪降 二寸程積 (宇佐美某を者頭格に等多数の人事異動、廃田450町歩開増等の百姓に一代郷士を申し付ける・同様例数件、去月14日仙台国分町の男が大間越御関所 上に続く
1858年	3月26日	安政5年	2月12日	曇	(秋田大久保の津軽屋から馬払い出し願い・止む無く駒50疋御払い仰せ付ける)
1858年	3月27日	安政5年	2月13日	晴	
1858年	3月28日	安政5年	2月14日	曇	今暁子之刻過より雨時々降 寅之刻頃止
1858年	3月29日	安政5年	2月15日	晴	(人事異動)
1858年	3月30日	安政5年	2月16日	快晴	(去る4月10里四方追放され弘前に立ち入り又盗みの男に3鞭10里四方追放、大変な乱暴者に15鞭居村徘徊はまで通り・乱暴を押さえなかった村の男2人に3鞭宛居村徘徊はまで通り)
1858年	3月31日	安政5年	2月17日	快晴	(人事異動)
1858年	4月1日	安政5年	2月18日	快晴	
1858年	4月2日	安政5年	2月19日	曇	巳之刻過より雨降 申之刻頃止
1858年	4月3日	安政5年	2月20日	快晴	(早瀬野村等(間道がある)の漆役9人に旅人吟味方申し付ける)
1858年	4月4日	安政5年	2月21日	晴	(人事異動)
1858年	4月5日	安政5年	2月22日	快晴	(御賞(銀7両))
1858年	4月6日	安政5年	2月23日	快晴	
1858年	4月7日	安政5年	2月24日	曇	申之刻過より雨降 亥之刻過止
1858年	4月8日	安政5年	2月25日	晴	(人事異動、山師共の申入れ:流木御買入値段は1巻を250目に願いたい・去りながら1本も流失なしの場合は10文目値下げ・100巻以上流失の節は損分を半々に願いたい、どう扱われたか不明)
1858年	4月9日	安政5年	2月26日	晴	
1858年	4月10日	安政5年	2月27日	快晴	(人事異動、馬廻組頭竹内某が病死、去る25日昼浪岡村で出火・類焼共4軒焼失・火元高無他村預け、昨26日大鰐組石川村で出火・建家19軒建馬1疋等焼失・火元不明)
1858年	4月11日	安政5年	2月28日	快晴	
1858年	4月12日	安政5年	2月29日	快晴	
1858年	4月13日	安政5年	2月30日	快晴	(大鰐組石川村の26日の火元は2人とし共に他村預け、去る26日昼大鰐組石川村で又また出火・類焼共6軒焼失・朝の出火の節の焼け木柄を取り片付けて置いた所より燃え移ったもの)
1858年	4月14日	安政5年	3月1日	快晴	(流木高値・湯銭1人7文に仰せ付ける、去る18日夕より翌19日朝迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻まで残らず水明ける・去年は3月13日朝迄に明け・当年は24日早く節に引き合い1日遅い)
1858年	4月15日	安政5年	3月2日	曇	午の刻過より小雨時々降 戌の刻頃止 (人事異動)
1858年	4月16日	安政5年	3月3日	曇	今暁丑の刻頃西南の風強し
1858年	4月17日	安政5年	3月4日	晴	亥の刻過地震少し
1858年	4月18日	安政5年	3月5日	快晴	
1858年	4月19日	安政5年	3月6日	曇	申の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1858年	4月20日	安政5年	3月7日	曇	昨夜より之小雨今日二及 時々降 亥の刻過止 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物) 下から続く 共に高嶋流ヶヘール調練を1月に3度宛稽古仰せ付ける)
1858年	4月21日	安政5年	3月8日	曇	午の刻過より小雨時々降 酉の刻過止 (御姫様を若御前様と称し奉る、水油1升を12文目4分にとの申出・1升9文目1合を9分に申し付ける、江戸で人事異動、江戸詰合の7組足軽 上に続く
1858年	4月22日	安政5年	3月9日	晴	(胡乱な秋田者を泊めた男に過料3貫文・関係する庄屋五人組に戸メ、この秋田男が遠近歩いているらしくあちこちの寺や家が戸メ)
1858年	4月23日	安政5年	3月10日	快晴	(去る5日浪岡組上十川村で出火・類焼共2軒建馬2疋焼失・火元百姓他村預け)
1858年	4月24日	安政5年	3月11日	曇	
1858年	4月25日	安政5年	3月12日	曇	辰の刻過より小雨時々降 夜二入同断
1858年	4月26日	安政5年	3月13日	曇	昨夜より之小雨今暁丑之刻頃止
1858年	4月27日	安政5年	3月14日	晴	酉の刻頃より雨降 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物、去月26日石川村の焼失25軒と潰家2軒に御手当米願い・焼失の25軒に25俵潰家には御手当て申し付けない)
1858年	4月28日	安政5年	3月15日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 巳の刻過止 (西館宇膳を御手廻組頭に等多数の人事異動、武芸出精等で多数に御賞)
1858年	4月29日	安政5年	3月16日	曇	巳の刻過より雨時々降 酉の刻頃止 未の刻頃雷鳴 則刻止
1858年	4月30日	安政5年	3月17日	晴	亥の刻過西南之風強し 酉の刻過より小雨時々降 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物)

1858年	5月1日	安政5年	3月18日 曇 昨夜よりの小雨今日二及 辰の刻過止 (御賞)
1858年	5月2日	安政5年	3月19日 快晴
1858年	5月3日	安政5年	3月20日 快晴 亥の刻頃小雨降 則刻止 (米価追々引立・1俵を38文目立に4分増で御家中から買い上げるようにする)
1858年	5月4日	安政5年	3月21日 曇 午の刻過より小雨降 未の刻頃止
1858年	5月5日	安政5年	3月22日 快晴 (人事異動、昨夜四時頃和徳町で出火・類焼潰家共35軒・火元燈心売り入寺の上慎)
1858年	5月6日	安政5年	3月23日 快晴 下から続く 類焼共11軒外に村貯郷蔵(村貯粃230俵3斗4升余)焼失・火元百姓他村預け)
1858年	5月7日	安政5年	3月24日 快晴 未の刻過地震少し (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物、御手廻組頭添田有方を御用人兼帯との人事異動、一昨20日昼広田組藻川村で出火・ 上に続く
1858年	5月8日	安政5年	3月25日 曇 辰の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (大湯某を御持筒足軽頭に等の人事異動、御賞)
1858年	5月9日	安政5年	3月26日 晴 (所々で盗みの出稼ぎ男に12鞭村役引渡し)
1858年	5月10日	安政5年	3月27日 晴 (今晩八時頃紺屋町で出火・類焼潰家とも10軒あり・火元入寺の上慎)
1858年	5月11日	安政5年	3月28日 曇 未の刻頃小雨ふり 則刻止 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物)
1858年	5月12日	安政5年	3月29日 曇
1858年	5月13日	安政5年	4月1日 晴 (人事異動、別段廻12人(御手廻6・御馬廻6)を申し付ける、去年6月晦日の殺人者の公儀人相書き:年齢30歳・肉太り高き方・面体長く色白く頬こけ候方々等々)
1858年	5月14日	安政5年	4月2日 晴 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物、青森で酒井下野守様の家来の家来?が病死・蓮心寺に仮葬)
1858年	5月15日	安政5年	4月3日 快晴 (今日宇和野で御名代御家老が両組頭御備立内習を見分・大寄合格以上見物)
1858年	5月16日	安政5年	4月4日 快晴 (御賞)
1858年	5月17日	安政5年	4月5日 曇 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物、植付けていない椿畑を人参畑にする話が延々とある・税のかからない作物を勝手に植えて飢えをしのいだのかな?)
1858年	5月18日	安政5年	4月6日 快晴
1858年	5月19日	安政5年	4月7日 曇 申の刻頃より小雨降 夜二入同断 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術見分・大寄合格以上見物) 下から続く 出火・類焼共9軒潰家痛家共3軒・火元百姓他村預け)
1858年	5月20日	安政5年	4月8日 曇 昨夜より之雨今日二及 辰の刻過止 午の刻頃より雨降 夜二入同断 (当松前詰スツ・詰の者頭並びに検使に御自筆拝見仰せ付ける・者頭は来る12日出立、去る4日夕飯詰村で 上に続く
1858年	5月21日	安政5年	4月9日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 江戸で米価高値、江戸で人事異動、ケヘル筒1挺に付金6両1歩仁朱2文目)
1858年	5月22日	安政5年	4月10日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 巳の刻頃止 (今日詰座敷で御名代御家老が剣術和術見分・大寄合格以上見物、去月20日夜の和徳町の類焼35軒の地子銀を5ヵ年御免、当年 上に続く
1858年	5月23日	安政5年	4月11日 晴 (公儀を始め異国形の日本船を通行の筋は浦触を差出していた・今後は白地に日の丸幟を立てる、昨年格別減石飯料差支え12440俵余の拝借願い・有合米と備粃4840俵余を貸し出す)
1858年	5月24日	安政5年	4月12日 晴 (御賞)
1858年	5月25日	安政5年	4月13日 曇 午の刻頃より小雨降 未の刻過止 (女をたなき(津軽弁?担ぐ?)申すべき旨複数の男が白狐寺鳥居前の女を取押え……500日・300日牢居・購い銭24貫文等の罰)
1858年	5月26日	安政5年	4月14日 快晴 (椿畑15町歩を人参畑に引入れる件でまだ揉めている、広田組藻川村の(3月20日の)11軒に御手当て米11俵下し置かれる)
1858年	5月27日	安政5年	4月15日 晴 (出町某を長柄奉行格にとの人事異動、弓術・馬術等の師匠に御賞、両親に孝心の夫婦に御褒美米3俵、所々で盗みの男子の親に購い銭3貫600文)
1858年	5月28日	安政5年	4月16日 曇 巳の刻過より雨降 酉の刻頃止 下から続く 御手当て銭100目下し置かれる)
1858年	5月29日	安政5年	4月17日 曇 午の刻過より雨降 酉の刻頃止 (今日外馬場で御名代御家老が馬術見分・大寄合以上見物、去月25日紺屋町の火災に働いた男が怪我死亡・火消組の者共が葬・妻子に 上に続く
1858年	5月30日	安政5年	4月18日 曇 未の刻過より雷雨 雷申の刻頃止 雨酉の刻過止 (去る4日飯詰村火災の類焼1軒に付1俵宛御手当て米9俵下し置かれる・半潰れ3軒には御手当てなし)
1858年	5月31日	安政5年	4月19日 曇 卯の刻過より雨時々降 未の刻過止
1858年	6月1日	安政5年	4月20日 晴 (米価が上がり金給の面々に役職ごとに米を1斗7升~2升5合を渡す)
1858年	6月2日	安政5年	4月21日 曇 (今日外馬場で御名代御家老が馬術見分・大寄合以上見物、去る18日夕堀越組一ノ渡村で雷火で建家焼失)
1858年	6月3日	安政5年	4月22日 曇 午の刻過より雨降 申の刻頃止 (人事異動)
1858年	6月4日	安政5年	4月23日 晴
1858年	6月5日	安政5年	4月24日 曇 (今日外馬場で御名代御家老が馬術見分・大寄合以上見物、柳守に御賞や御免引き増)
1858年	6月6日	安政5年	4月25日 曇 辰の刻頃雨降 則刻止
1858年	6月7日	安政5年	4月26日 快晴 (松前表に女を勾引の日雇いの女房に3鞭居町徘徊はまで通り・関係者に慎、昨年11月26日夜御家中宅から脇差4本盗み取った掃除小人の御給分召上げ永の暇3里四方追放)
1858年	6月8日	安政5年	4月27日 晴 (大坂までの路用高(条件によりいろいろ)あり)
1858年	6月9日	安政5年	4月28日 曇 巳の刻頃より雨降 戌之刻過止 (去月25日今夜町の被災者焼失8軒に5ヵ年・潰れ家は3ヵ年の居下出人夫御免)
1858年	6月10日	安政5年	4月29日 曇 未の刻頃より雨時々降 戌の刻過止
1858年	6月11日	安政5年	5月1日 曇 (去る3日諸手足軽福眞万次郎がケヘル筒御下し宰料(宰領)で罷り下る・此処許で西洋銃隊訓練……、掃除小人3人が豕4疋の附添下がり)
1858年	6月12日	安政5年	5月2日 曇 (近年熊の狩取数が減少・辰年16疋・巳年8疋・当年8疋)
1858年	6月13日	安政5年	5月3日 快晴
1858年	6月14日	安政5年	5月4日 快晴 (青銅製短葛農?の作成は明年まで見合わせこの代わりケヘル筒増を仰せ付ける、江戸表御買い下げケヘル筒9挺分60兩余を要する)
1858年	6月15日	安政5年	5月5日 快晴
1858年	6月16日	安政5年	5月6日 晴
1858年	6月17日	安政5年	5月7日 晴 (今日外馬場で御名代御家老中が馬術見分・大寄合以上見物、去る4日夜ハツ時過向外瀬村で出火・建家外馬屋と類焼隣の小屋・火元百姓他村預け)
1858年	6月18日	安政5年	5月8日 曇 午の刻頃雨降 即刻止 (福眞万次郎等が宰領してきた御御物都合8箇が碇ヶ関の事務処理でもめている)
1858年	6月19日	安政5年	5月9日 快晴
1858年	6月20日	安政5年	5月10日 曇 午の刻過より雨時々降 夜二入同断
1858年	6月21日	安政5年	5月11日 曇 今晩丑の刻過より雷鳴強し 則刻止 昨夜よりの雨今日二及 時々降 巳の刻過止 (附木屋共入用の硫黄90俵を例年の通り岩木嵩より取出し申し付ける・山役人1人付き添い)
1858年	6月22日	安政5年	5月12日 晴 亥の刻頃より雨時々降 (出張途中に火事を消した御家中に御賞銀3両、人事異動)
1858年	6月23日	安政5年	5月13日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 下から続く 九浦町奉行・御備方・御藏立会等、御賞でなく金等を下し置かれる、無断で他領者を止宿させた・品物を買った男達に戸ペ)
1858年	6月24日	安政5年	5月14日 曇 昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 下から続く 書付の拝見を仰せ付けられた者:御城代・御用人・大目付・御側御用人・御側役・三組頭・七組者頭・三奉行・御目付・ 上に続く
1858年	6月25日	安政5年	5月15日 晴 (去る12月13・15・27日堀田備中守様御渡しのア蘭陀魯西亜条約書並びに亜墨利加使節より差上げ候書付の和解其外応接書等が松平陸奥守から御廻達にて到来・これらの 上に続く
1858年	6月26日	安政5年	5月16日 晴
1858年	6月27日	安政5年	5月17日 曇 午の刻過より雨時々降 未の刻過止 (町奉行が小田桐覚蔵が(黒石の)家老職になったとの申し出)
1858年	6月28日	安政5年	5月18日 曇 下から続く 勘定小頭等を押し込めと申渡す)
1858年	6月29日	安政5年	5月19日 曇 下から続く 53342石)・大坂廻米18000石(家中扶持米8000・払い米10000・定例37250石)、江戸で人事異動、去る巳年8月20日野州白沢宿で熟睡中に金子を盗み取られた 上に続く
1858年	6月30日	安政5年	5月20日 曇 卯の刻過より雨時々降 夜二入同断 (地船を他領名目で乗回す者が増えている、江戸で人事異動、去る巳年収納当年江戸廻米30000石(家中扶持米18000・払い米12000・定例 上に続く

1858年	7月1日	安政5年	5月21日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及	時々降	夜二入同断	(水練に力を入れている・武芸同様……、5月2日青森出帆の筑前の江戸御廻船が荷打の上18日に八戸鮫ノ浦に入津・見分に勘定小頭等を派遣)
1858年	7月2日	安政5年	5月22日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及	卯の刻過止	(青田の内笛吹くなどの触れ、南溜池で釣するなどの触れ、今午之下刻報恩寺中十一面観音が御出汗・銀5両渡し加持祈祷)	
1858年	7月3日	安政5年	5月23日 曇	申の刻頃より雨時々降	夜二入同断	(昨年平館詰合で過酒の男を御留守居組に役下げ)	下から続く 修行登りを仰せ付ける)
1858年	7月4日	安政5年	5月24日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及	時々降	申の刻頃止	(頃日天気不正・御領分中の丹後者詮索・送返しに触れ、近年は諸藩とも西洋流砲術専一に取用いる時節・和流砲術家より(西洋流) 上に続く
1858年	7月5日	安政5年	5月25日 曇	未の刻頃より小雨降	即刻止	(別段廻方廃止・12人に御賞金50疋宛)	
1858年	7月6日	安政5年	5月26日 曇	未の刻過より雨降り	申の刻過止		
1858年	7月7日	安政5年	5月27日 曇				
1858年	7月8日	安政5年	5月28日 快晴	戌の刻過地震強し	(人事異動、御賞、当春駒越組川原平村の獵師孫六が熊を狩取り熊皮5枚上納・鳥目6貫文と下々位の熊皮2枚下し置かれる)		
1858年	7月9日	安政5年	5月29日 快晴				
1858年	7月10日	安政5年	5月30日 曇	巳の刻頃より雨時々降	未の刻過止	(屋敷内で花火を投げるな等の触れ、明朝日四時頃御備え方取扱以上に登城の触れ)	
1858年	7月11日	安政5年	6月1日 快晴	(3月20日の勅答の写あり、勅答・叡慮・宸襟も平出、人事異動、御用達等に御賞)			
1858年	7月12日	安政5年	6月2日 曇	今晚寅の刻過より雨時々降	申の刻頃止		
1858年	7月13日	安政5年	6月3日 曇	辰の刻過より雨時々降	未の刻頃止		
1858年	7月14日	安政5年	6月4日 晴				
1858年	7月15日	安政5年	6月5日 曇	(御用状を紛失し早速申し出なかった長柄の者を押込)			
1858年	7月16日	安政5年	6月6日 曇	未の刻頃小雨降	則刻止	(尾太銅鉛山懸け合いに精励として山方吟味役等に御手当て(金200疋から鳥目300文)・鉛吹き釜大工等の労働者?217人に御酒代などを下し置かれる)	
1858年	7月17日	安政5年	6月7日 曇	午の刻過より雨時々降	酉の刻頃止	(人事異動)	
1858年	7月18日	安政5年	6月8日 曇	(天気不正続きの所より稲草江虫付く・惣組御代官の申し出で明後10日神明宮で風雨順時五穀成就の御神楽を申し付ける)			
1858年	7月19日	安政5年	6月9日 曇	戌の刻過より雨降			
1858年	7月20日	安政5年	6月10日 曇	昨夜より之雨今日ニ及	時々降	亥の刻頃止	(米価追々下落・この節より1俵34文目立江4分増で(御家中から)御買上げ申し付ける)
1858年	7月21日	安政5年	6月11日 曇	午の刻過より雨時々降	申の刻頃止	(来る13日発の御使いで金4000両(但し為替手形)を江戸に送る、天気不正に付四社に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)	
1858年	7月22日	安政5年	6月12日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降	夜二入同断		
1858年	7月23日	安政5年	6月13日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及	時々降	夜二入同断	下から続く 値上げの申し立てあり)
1858年	7月24日	安政5年	6月14日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及	時々降	申の刻頃止	(天気不正続きに付稲草江虫付く・惣組御代官の申し出で明後16日護穀神で風雨順時五穀成就の御神楽を申し付ける、饅饅値段の 上に続く
1858年	7月25日	安政5年	6月15日 曇	未の刻過より雨降	酉の刻頃止	(人事異動、過分の高利で錢を用立て借り手の娘を青森表の遊女屋に売払った疑いのある諸手警固の実父を吟味中子供預け他出差留め)	
1858年	7月26日	安政5年	6月16日 曇	未の刻過より小雨時々降	戌の刻頃止	(頃日天気不正に付五山に風雨順時五穀成就の重き御祈禱を仰せ付ける)	
1858年	7月27日	安政5年	6月17日 曇	午の刻過より小雨降	則刻止	申の刻頃雨降	即刻止
1858年	7月28日	安政5年	6月18日 曇	未の刻頃より雨降	申の刻頃止	(御姫様(誰か知らない)の尊称を若御前様とする、当年御家中御貸渡し篠巻綿大都33000把の内5000把残った・100石に付10把迄御貸し渡し申しつける)	
1858年	7月29日	安政5年	6月19日 曇	酉の刻過より雨降	戌の刻頃止		
1858年	7月30日	安政5年	6月20日 晴	亥の刻頃より雷雨	(松前の鮓場出舥に海岸からばかりでなく出ている)		
1858年	7月31日	安政5年	6月21日 曇	昨夜より之雷雨今晚丑之刻頃止	辰之刻過より雨時々降	酉之刻頃止	(革秀寺で御位牌所御手入済み御布施・革秀寺に銀1枚・和尚8人に錢7文目宛・長老3人に錢5文目宛・小僧1人に錢3文目)
1858年	8月1日	安政5年	6月22日 晴				
1858年	8月2日	安政5年	6月23日 晴				
1858年	8月3日	安政5年	6月24日 快晴				
1858年	8月4日	安政5年	6月25日 快晴	(諸国寺院の梵鐘を以って大小砲に鑄直し候様……公辺仰せ出されもあり……、昨今年熊狩り取り胆皮上納格別不足)			
1858年	8月5日	安政5年	6月26日 曇	卯の刻過より雨時々降	申の刻頃止		
1858年	8月6日	安政5年	6月27日 快晴				
1858年	8月7日	安政5年	6月28日 晴	亥の刻頃雨降	則刻止	(浜町御殿の御普請が江戸職に引き継がれる)	
1858年	8月8日	安政5年	6月29日 曇	下から続く	五穀成就の重御祈禱仰せ付ける)		
1858年	8月9日	安政5年	7月1日 曇	卯の刻過より雨降	夜に入同断	(この節江戸表で米価高値、福村館跡江焰硝御藏1棟取建てを仰せ付けられる、人事異動、御賞、頃日天気不正に付長勝寺に風雨順時	
1858年	8月10日	安政5年	7月2日 晴	昨夜よりの雨今晚卯の刻過止	亥の刻頃小雨降	即刻止	(割付奉公に関し20ページくらい書いてある)
1858年	8月11日	安政5年	7月3日 快晴				
1858年	8月12日	安政5年	7月4日 曇	辰の刻頃より雨降	巳の刻過止	酉の刻過より雨時々降	亥の刻頃止
1858年	8月13日	安政5年	7月5日 晴	8日から続く	福村館跡を御清めの御祈禱)		
1858年	8月14日	安政5年	7月6日 晴	下から続く	当年は4月27日植付69日目で3日早く節に引合9日早い)		
1858年	8月15日	安政5年	7月7日 快晴	(当月14日より晴天5日の間青森善知鳥宮で角力興行・札錢1人6分の申立を4分とする、南溜池穿替えの話あり、大鰐村加賀助等が初穂差上げる・去年は5月23日植付72日目			上に続く
1858年	8月16日	安政5年	7月8日 快晴	(人事異動、秋田の男女等を止宿させた相内・中里・金木・五所川原・舞戸・田野沢・風合瀬・木造・浮田・牛潟・等々の20人位に過料1貫800文ツツ等・関係庄屋等にも罰、			5日に続く
1858年	8月17日	安政5年	7月9日 晴				
1858年	8月18日	安政5年	7月10日 快晴	(人事異動、長柄之者が薩摩家中より伝授された地雷火並びに千挺砲を先頃宇和野で見分・奇特の者として大組足輕に昇任させる)			
1858年	8月19日	安政5年	7月11日 快晴				
1858年	8月20日	安政5年	7月12日 快晴	(去月3日より当月3日までの当新菜種相場平均を御定法で割合すると水油1升到付7文目6分2厘余に相当・1升を7文目6分1合売りは7分4文に申し付ける)			
1858年	8月21日	安政5年	7月13日 快晴				
1858年	8月22日	安政5年	7月14日 晴				
1858年	8月23日	安政5年	7月15日 (天候の記録なし)	今晚子の刻頃小雨降	即刻止	辰の刻過より小雨時々降	亥の刻頃止
1858年	8月24日	安政5年	7月16日 快晴				
1858年	8月25日	安政5年	7月17日 快晴	巳の刻過地震少し	(江戸で人事異動、去る18日柳島御屋敷で西洋銃隊訓練を御名代の若殿様高覧・24日剣術和術高覧)		
1858年	8月26日	安政5年	7月18日 快晴				
1858年	8月27日	安政5年	7月19日 快晴				
1858年	8月28日	安政5年	7月20日 快晴	(去る15日夜赤石組沢部村で仏壇より出火・類焼共6軒その他焼失・火元他村預け、御国(於久仁:何者か知らない)様が御出府の話が多い)			
1858年	8月29日	安政5年	7月21日 快晴	(人事異動、間道で捕まった長科村の男が出奔、南溜池の水練稽古のための穿上計画の入夫4万人(この配分・割合は面白い)			
1858年	8月30日	安政5年	7月22日 快晴	(亜墨利加仮条約江神奈川において調印に関する公儀御書付けを渡すとして重役?に24日の登城通知、北岡某より医学館再建の提言)			
1858年	8月31日	安政5年	7月23日				

1858年	9月1日	安政5年	7月24日	晴	午の刻過より雨時々降	酉の刻過止	(亜墨利加仮条約調印に関する公儀御書付けを渡す・やはり台頭はない、人事異動)	
1858年	9月2日	安政5年	7月25日	快晴				
1858年	9月3日	安政5年	7月26日	快晴				
1858年	9月4日	安政5年	7月27日	快晴	(明28日初米差上げる(予定)、去る21日夜金木組下前村で出火・類焼共7軒等焼失・火元他村預け)			
1858年	9月5日	安政5年	7月28日	曇	未の刻過小雨時々降	夜入同断	(御初米・去年は5月23日植付7月25日鎌入れで92日目当年は4月27日植付7月25日鎌入れで87日目・当年は5日早く節に引合11日早い)	
1858年	9月6日	安政5年	7月29日	晴				
1858年	9月7日	安政5年	8月1日	晴	今晚丑の刻頃より雨降	卯の刻過止	(渡辺次太夫を御手廻組頭に等の人事異動)	
1858年	9月8日	安政5年	8月2日	晴	(南溜池穿上げの御払い役等を決める・その他の人事異動)			
1858年	9月9日	安政5年	8月3日	晴	亥の刻頃より雨降	(米の値段下げ:玄米15文目→13文目・白米と餅米17→15・白餅米19→17文目に申し付ける)		
1858年	9月10日	安政5年	8月4日	曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降	未の刻頃止 (近年下土手町なんとなく不商ひに相成……)	
1858年	9月11日	安政5年	8月5日	晴				
1858年	9月12日	安政5年	8月6日	快晴				
1858年	9月13日	安政5年	8月7日	快晴	下から続く	御中屋敷を横川御中屋敷に移転)		
1858年	9月14日	安政5年	8月8日	晴	(御賞、津出御印(1俵)値段:玄米13文目→20目・白米と餅米15→22文目・白餅米17→24文目に引上げ申付けける・加賀辺り不作の風聞、7月15日の報告で本所三ノ橋通り	上に続く		
1858年	9月15日	安政5年	8月9日	曇	午の刻過より小雨時々降	夜二入同断	下から続く 御用人手伝にとの人事異動)	
1858年	9月16日	安政5年	8月10日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断 (人事異動、高利で返せない男の娘を売払った男(諸手足輕警固の親)が他出差留め中出奔、去月20日江戸で河野某を大寄合格	上に続く
1858年	9月17日	安政5年	8月11日	曇	昨夜より之雨寅の刻頃止	(去月15日沢部村の火事の6軒に格段の御沙汰で御手当てで米6俵下し置かれる)		
1858年	9月18日	安政5年	8月12日	快晴	(去月21日下前村の火災の7人に格段の沙汰で御手当てで米7俵下し置かれる)			
1858年	9月19日	安政5年	8月13日	快晴				
1858年	9月20日	安政5年	8月14日	晴				
1858年	9月21日	安政5年	8月15日	曇	(人事異動)			
1858年	9月22日	安政5年	8月16日	曇	酉の刻過より小雨降	戌の刻頃止		
1858年	9月23日	安政5年	8月17日	曇	巳の刻過小雨降	則刻止		
1858年	9月24日	安政5年	8月18日	曇	卯の刻過より小雨降	未の刻過止	(砲術千打遍懸?(1000発打った?)大組足輕4人に奇特として御酒代鳥目3貫文宛下し置かれる)	
1858年	9月25日	安政5年	8月19日	晴	(江戸で人事異動、昨8日巳の下刻公方様(13代將軍家定)が薨御、去る6日江戸で御馬廻御小納戸介大里某を拘束番人を付ける)			
1858年	9月26日	安政5年	8月20日	快晴	下から続く	餅米22→27・白餅米24文目→29文目)		
1858年	9月27日	安政5年	8月21日	快晴	(医学館の任務・構成人数等の概要が決まる、御蔵米1俵を34文目立→36文目立とする・御家中御買上は4分増の36文目4分立、津出(1俵)御印代:玄米20目→25文目・白米と	上に続く		
1858年	9月28日	安政5年	8月22日	曇	午の刻過より雨降	酉の刻過止	(一昨20日昼大鰐組長峰村で出火・類焼共10軒他に木小屋3軒外馬屋9軒痛家4軒等焼失)	
1858年	9月29日	安政5年	8月23日	曇	未之刻過小雨降	則刻止	辰之刻頃地震少し 下から続く 付ける、焰硝師から耕田山(八甲田山)の内より硫黄穿出し願ひ、認める)	
1858年	9月30日	安政5年	8月24日	曇	卯の刻過小雨降	則刻止	(目屋野沢出流木が今年は皆着・流木961巻2歩9厘3毛・1巻が207文目9分7厘余・一昨年迄の通り10文目代に付大木10本積を以て御貸し渡し申し	上に続く
1858年	10月1日	安政5年	8月25日	晴				
1858年	10月2日	安政5年	8月26日	曇				
1858年	10月3日	安政5年	8月27日	晴	酉の刻頃より雨降	(今日三之丸御馬場で御名代として御家老中が射芸見分・大寄合以上の面々見物)		
1858年	10月4日	安政5年	8月28日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断 (砲術千打遍懸?(1000発打った?)諸手足輕に奇特として御酒代鳥目3貫文下し置かれる)	
1858年	10月5日	安政5年	8月29日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	未の刻過止	
1858年	10月6日	安政5年	8月30日	晴	(今日三之丸御馬場で御名代として御家老中が射芸見分・大寄合以上の面々見物)			
1858年	10月7日	安政5年	9月1日	快晴				
1858年	10月8日	安政5年	9月2日	快晴	(木造村で晴天3日の弔い角力興行・札前1人前3分宛)			
1858年	10月9日	安政5年	9月3日	快晴	(青森で祭文淨瑠璃語興行・札前1人前3分宛、弘前でも大輕業・札前1人前3分宛、間道を通して抜け参りの館前村の男に12鞭居村徘徊はまで通り)			
1858年	10月10日	安政5年	9月4日	曇	今晚卯の刻頃より小雨降	辰の刻過止	亥の刻頃より雨降 ((去月20日)大鰐組長峰村火災の類焼共10軒に御手当てで米10俵下し置かれる・潰れ家には手当てなし)	
1858年	10月11日	安政5年	9月5日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	未の刻頃止 (御賞、材木御払代上納銭18貫35文目余が滞った小泊村の男に止むを得ずさらに松生木5000石目の伐取沖出しを仰付けさらに100両を貸し出す)	
1858年	10月12日	安政5年	9月6日	快晴				
1858年	10月13日	安政5年	9月7日	快晴	下から続く	5貫目代60目・黒鉄砲豆に而は1斗代15文目、この他御老中様方に・若年寄様に・田安様にそれぞれ量が変わっているが献上物あり・他の関係者にはない)		
1858年	10月14日	安政5年	9月8日	曇	辰の刻過小雨降	則刻止	(近年鮭が捕れず献上物を他の金品にする・御本丸に鮭5本に替えて白銀2枚:金では1両2歩・干鰯鮓目形3貫目代72文目・干狗背(ぜんまい)目形	上に続く
1858年	10月15日	安政5年	9月9日	快晴	(英吉利・仏蘭西・露西亜との条約を亜墨利加同様にする・した?、中国角力が興行を終え大間越から帰国・その途中の大間越で2日間の相撲興行・札銭1人前4分宛とする)			
1858年	10月16日	安政5年	9月10日	曇	申の刻頃より雨時々降	夜二入同断	(南部三戸の給人(御家中身分)が煙草を持ち入替わり立代り領内に立入る・情報収集?、当6月27日大行院の夜宮で花火をした男を押込め)	
1858年	10月17日	安政5年	9月11日	曇	昨夜より雨今日二及	時々降	午之刻頃止 (家老族之助が唯今江戸登、60人位を漆小仕立に仰せ付ける、この度江戸表で暴瀉(ぼうしゃ:激しく下痢をする)病流行・防除の御祈禱を仰せ付ける)	
1858年	10月18日	安政5年	9月12日	曇	卯之刻頃より小雨時々降	夜二入同断	(松前伊豆守様が今6日八半時頃同勢162人で三厩御着岸)	
1858年	10月19日	安政5年	9月13日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	夜二入同断 今晚丑之刻頃より雷鳴 寅之刻頃止 下から続く 御受取り・品川御台場並びに彼の国船で空砲打放す筈)	
1858年	10月20日	安政5年	9月14日	曇	昨夜より之雨今晚丑之刻頃止	下から続く	同じく16日下田に仏蘭西船も渡来引き続き入津、英吉利国の軍艦3艘が7月4日品川沖に入津、近々英吉利より献貢の蒸気船	上に続く
1858年	10月21日	安政5年	9月15日	晴	(8月13日仏蘭西国軍艦3艘が品川沖に来る、6月13日亜墨利加国の蒸気船2艘が下田湊に入津・同所の官吏(ハリスでしょうか?)乗組1艘が17日小柴沖(横浜市金沢区?)に入津、	上に続く		
1858年	10月22日	安政5年	9月16日	晴				
1858年	10月23日	安政5年	9月17日	曇	今晚丑の刻頃より雷雨	雷則刻止	雨時々降 (下前村の男が西蝦夷地で漁業をしていた・領主が替わり何故か船を取上げられ揉めている)	
1858年	10月24日	安政5年	9月18日	曇	昨夜より之雨今日二及	時々降	酉之刻頃止 (米か追々引立・1俵に付38文目立江4分増で御買上仰せ付けられる)	
1858年	10月25日	安政5年	9月19日	快晴	(常盤津語興行30日・札銭1人前3分宛とする、賽細工等をして松前表から南部・秋田に渡り当4月に岩崎あたりから御国入りの男に12鞭家元引渡し)			
1858年	10月26日	安政5年	9月20日	快晴	(人事異動、御内証様御死去に付座当どもに配当(15文宛101文目2分5厘))			
1858年	10月27日	安政5年	9月21日	晴	(北岡某が合衆について13ページにわたり申し出ている、乞食共助成の為の輕業興行の札銭3文目→4文目とする、那須与一殿……、江戸で人事異動・去月10日から28日までに8人病死)			
1858年	10月28日	安政5年	9月22日	曇	辰之刻頃より雨時々降	酉之刻過止	(人事異動)	
1858年	10月29日	安政5年	9月23日	晴				
1858年	10月30日	安政5年	9月24日	曇	午之刻頃より小雨時々降	夜二入同断		
1858年	10月31日	安政5年	9月25日	曇	昨夜より之雨今日二及	辰之刻頃止	(人事異動)	

1858年	11月1日	安政5年	9月26日 曇	今晚寅之刻頃より雨時々降 未之刻頃止	9月28日から続く	白酒同4→7・酢同1.5文目居りに申し付ける)
1858年	11月2日	安政5年	9月27日 曇	午之刻過より雨降 夜二入同断	丑之刻頃より雷鳴 寅之刻過止	(大館の宿屋から払い馬願い・駄下げ米に難渋しており断る、大行院が暴瀉病消除御祈禱の御守り札を差上げる)
1858年	11月3日	安政5年	9月28日 曇	昨夜より之雨今日二及	時々降 夜二入同断	巳之刻過雷鳴 則刻止 (御印代酒2斗入1樽3文目→6文目・以下御役銭靴1俵4.5→8・醬油2斗入1樽3→3.5・味噌同2.5→3・
1858年	11月4日	安政5年	9月29日 曇	昨夜より之雨今日二及	卯の刻過止	今晚丑の刻過西南の風強し 寅の刻過止 (当5月盜難知らないのに祈禱して犯人を割り出した男に6鞭居村徘徊はまで通り、関係者にも過料)
1858年	11月5日	安政5年	9月30日 曇	午の刻過小雨降	則刻止	
1858年	11月6日	安政5年	10月1日 晴	(瑞祥院様(多分初代為信)様御霊屋御手入御出来に付御布施・革秀寺銀1枚・和尚10人に銭7文目宛・長老3人に同5文目宛・小僧1人に同3文目)		
1858年	11月7日	安政5年	10月2日 晴			
1858年	11月8日	安政5年	10月3日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜に入同断	下から続く	1升到付2文目1分・1合売りは2分1文に申し付ける)
1858年	11月9日	安政5年	10月4日 晴	昨夜よりの雨今晚丑の刻過止	(南横町の時鐘付の御給分を銭60目2人扶持に引上げる)	下から続く 売出米の相場で御定法で割合すると酒1升到付2文目2毛余に相当・
1858年	11月10日	安政5年	10月5日 曇	辰の刻頃小雨降 則刻止	(参府で松前伊豆守が青森に・同勢169人、御本陣村林屋等に下され物あり、軽業興行を3日延長・雨天続きで鳴り物停止期間があったので、9月中	上に続く
1858年	11月11日	安政5年	10月6日 快晴			
1858年	11月12日	安政5年	10月7日 快晴	(御賞、御本城御裏通り埋御門柵立並びに御北之丸柵立朽損に付……、江戸本所横川端と本所三ノ橋通御中屋敷交換の御祝儀として座当共405人に15文宛として101文目2分5厘の御配当)		
1858年	11月13日	安政5年	10月8日 曇	午の刻頃より雨時々降 夜二入同断	亥の刻頃雷鳴 則刻止	(何かの仏事布施として耕春院に金200疋・長老小僧に銀10両直し43文目・銀1両は銀4.3文目なのかな?)
1858年	11月14日	安政5年	10月9日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止		
1858年	11月15日	安政5年	10月10日 曇	戌の刻頃より雨降 (福村館跡に煙硝蔵御取立に関し最勝院に金100疋渡し方の上火防御祈禱を仰せ付ける)		
1858年	11月16日	安政5年	10月11日 曇	昨夜よりの雨今日に及	時々降 夜に入同断	(昨年6月に決着が付いたはずの秣場で如來瀬鳥井野両村が揉め事・十腰内村でも十面沢林崎板屋野木村の者共の同様の揉め事)
1858年	11月17日	安政5年	10月12日 曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降 酉の刻頃止	(当新穀津出御印(1俵)代・玄米20目・白米と餅米22文目・白餅米24文目と申し付ける)
1858年	11月18日	安政5年	10月13日 晴			
1858年	11月19日	安政5年	10月14日 曇			
1858年	11月20日	安政5年	10月15日 晴	(盗みで預けになっていた女が度々逃げ去ったので庄屋等に過料)		
1858年	11月21日	安政5年	10月16日 晴	戌の刻過より雨時々降 子の刻過雷鳴 則刻止		
1858年	11月22日	安政5年	10月17日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止		
1858年	11月23日	安政5年	10月18日 曇			
1858年	11月24日	安政5年	10月19日 晴			
1858年	11月25日	安政5年	10月20日 曇	(御買上米値段新古平均はまで通り1俵38文目4分立て御買上申し付ける)		
1858年	11月26日	安政5年	10月21日 曇	(割付奉公の人数が足りず子供の年齢を精査訂正している、唐金橋出来)		
1858年	11月27日	安政5年	10月22日 快晴	(福村城跡に煙硝御蔵新規御取立に付同村百姓を帯刀御免の上苗字相名乗り俵子5俵2人扶持下し置かれ煙硝御蔵守に仰せ付ける・(席)次第は賀田煙硝御蔵守次順に仰せ付ける)		
1858年	11月28日	安政5年	10月23日 晴			
1858年	11月29日	安政5年	10月24日 晴	(江戸表で製法仰せ付けられたトントロ(ドンドル:雷業?)粉目形37文目5分箱入りで……)		
1858年	11月30日	安政5年	10月25日 曇	亥の刻頃より雨時々降 (湯銭7文宛を流木値段が下がった等の理由で4月より前々の通り6文宛に申し付ける、心懸けの宜しくない青森町同心の御給分召上げ永の暇)		
1858年	12月1日	安政5年	10月26日 曇	昨夜よりの雨今日二及	時々降 夜二入同断	下から続く 附相場、鰯ヶ沢等3ヶ所平均(米1俵)71文目9分1厘7毛内1文目2分御定役引:一番相場は1俵70目7分1厘7毛)
1858年	12月2日	安政5年	10月27日 曇	昨夜よりの雨今日二及	辰の刻過止	(数度補助米を差出した青森の男に御賞、去る12日夕十三水戸際で松前からの借船が破船・7人中3人海死、米1俵代43文目が当新穀
1858年	12月3日	安政5年	10月28日 曇	今晚寅の刻頃より小雨降 卯の刻過止	(当新在油30日間平均相場と御定法で割合すると1升到付6文目7分8厘3毛に相当・1升売6文目7分8厘1合売6分5文に申付ける、早道の者を指名手配)	上に続く
1858年	12月4日	安政5年	10月29日 曇	下から続く	教育のための添学頭の指名を申し立てる、去る朔日より8日までに江戸屋敷で5人病死)	
1858年	12月5日	安政5年	11月1日 曇	昨夜雪降 三寸程積	今日雪少し降	(御蔵立会い・奉行に御賞、今般仏蘭西使節が来て英吉利之振合いを以って仮条約を取替す・9月6日退帆、北岡某が医学館で医者 of 再
1858年	12月6日	安政5年	11月2日 曇	昨夜雪少降	(10月28日指名手配(川村某)の人相書きあり・年齢33歳肉太く丈低き方等々、帰宅したので捕らえ揚屋入り・すぐ入牢)	上に続く
1858年	12月7日	安政5年	11月3日 曇			
1858年	12月8日	安政5年	11月4日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	(今日詰座敷で御名代の家老が剣術見分・大寄合以上の面々見物)	下から続く 以下省略して一番少ないのが足軽目付や海岸方下役まで7文目代宛)
1858年	12月9日	安政5年	11月5日 快晴	昨夜雪少降	(当出流木皆着で別段御払:御家老御城代衆に半巻宛・三組頭に四半巻宛・御用人御側御用人中に70目代宛・寺社奉行大目付に40目代宛・郡奉行等に30目宛・	上に続く
1858年	12月10日	安政5年	11月6日 曇	巳の刻過より雨時々降 戌の刻頃雷鳴 則刻止	(盗み・無銭飲食等の男に9鞭親元引渡し)	
1858年	12月11日	安政5年	11月7日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	(今日詰座敷で御名代の家老が槍術見分・大寄合以上の面々見物)	
1858年	12月12日	安政5年	11月8日 曇	昨夜雪降 二寸程積	今日雪少降	(昨7日福村城跡に煙硝御蔵出来)
1858年	12月13日	安政5年	11月9日 快晴	(南溜池御普請皆出来)		
1858年	12月14日	安政5年	11月10日 晴	昨夜雪降 一寸程積	(今日詰座敷で御名代の家老が槍術見分・大寄合以上の面々見物)	
1858年	12月15日	安政5年	11月11日 曇	昨夜雪降 二寸程積	今日雪降 三寸程積	(人事異動、一粒金丹を作成してきた家柄の松山玄三に一粒金丹の作成を許す)
1858年	12月16日	安政5年	11月12日 曇	昨夜吹雪強し	雪一尺五寸程積	今日雪少降
1858年	12月17日	安政5年	11月13日 晴			
1858年	12月18日	安政5年	11月14日 晴	(今日詰座敷で御名代の家老が槍術見分・大寄合以上の面々見物)		
1858年	12月19日	安政5年	11月15日 晴	昨夜雪降 三寸程積	(人事異動、御賞(銀3両))	
1858年	12月20日	安政5年	11月16日 曇	(2日御代替初ての御祝儀に殿様若殿様御登城・侍従様より御使者)	18日から続く	去月27日鍛冶町で松前出生の女を切害の川村某の御給分召上げ)
1858年	12月21日	安政5年	11月17日 晴	昨夜雪少降	(交代下がりの喜多村監物到着、今日詰座敷で御名代の家老が長刀見分・大寄合以上の面々見物、水練指南の御徒等12人に御賞(金150疋宛))	
1858年	12月22日	安政5年	11月18日 晴	(流木が皆着し矢来の元石普請等の担当者3人に御賞(金500疋宛:これは大金)、明後20日四時頃に幹部を集める達、御家中御買上米1俵40目4分立に御買上げ申し付ける、	16日に続く	
1858年	12月23日	安政5年	11月19日 晴			
1858年	12月24日	安政5年	11月20日 曇	昨夜雪少降	(今日詰座敷で御名代の家老が長刀見分・大寄合以上の面々見物、口達:歩引渡し継続・高100石に150目積りの御手当て、桜田右兵衛が今晚病死、五重塔の修理の話がある)	
1858年	12月25日	安政5年	11月21日 曇	昨夜雪少降	下から続く	三厩湊より公儀衆などが度々往来・旅人に食べさせる米銭がない・米1000俵と金400両の拝借願い・木の伐り出しを認めているらしいのだが……)
1858年	12月26日	安政5年	11月22日 曇	昨夜雪少降 今日雪少降	(去る14日夕より翌15日朝迄十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月4日朝迄に残らず氷張る・当年は11日遅く節に引合い遅速なし、	上に続く
1858年	12月27日	安政5年	11月23日 曇	今日雪少降	下から続く	間5月に御引上げの上人参畑に仰せ付け荒田村吉五郎に預けたが是迄の畑作人が難渋を申唱え(送り仮名は「ひ」)……)
1858年	12月28日	安政5年	11月24日 曇	昨夜雪降 二寸程積	今日雪少降	(当8月に千打遍懸をした諸手足軽中村某が又達成し御酒代鳥目3貫文下し置かれる、人事異動、御賞(銀3両)、椿樹のうち15町歩を昨年
1858年	12月29日	安政5年	11月25日 晴	(人事異動、御買上米1俵44文目立に)		
1858年	12月30日	安政5年	11月26日 晴	(盗みで追放中に母の看病に忍び帰り盗みの掃除小人に9鞭3里四方追放・母は押込、捕えた闇物資輸送者に逃げられた6人に3鞭居村徘徊はまで通り・関係庄屋にも罰)		
1858年	12月31日	安政5年	11月27日 晴			

1859年	1月1日	安政5年	11月28日	晴	
1859年	1月2日	安政5年	11月29日	曇	
1859年	1月3日	安政5年	11月30日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (人事異動) 12月2日から続く この度將軍宣下、当4月秋田領檜山駅で同役到手傷を負わせ自害した事件を隠密に処理した御中小姓3人に去月29日(慎)
1859年	1月4日	安政5年	12月1日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (人事異動、秋の射芸見分で出精の約40人以上に(ほとんど重複の気がするが書いてある数はこの倍くらい)弓弦(8~20筋)下し置かれる、御賞(金200疋))
1859年	1月5日	安政5年	12月2日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (御賞(金300疋・金1両、平均45文目立にて御買入米申付け、殿様が箱館蝦夷地警衛で向後10月中参勤2月御暇を公儀から仰せ付けられる、 11月30日に続く
1859年	1月6日	安政5年	12月3日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (去年箱館に出た際不相応の供立の大組足輕頭添田某を寄合格に御役下、去る8月千両を江戸送りで500両を盗み取られた相沢某を御留守居組に役下・他にも罰)
1859年	1月7日	安政5年	12月4日	曇	昨夜雪少降 (人事異動)
1859年	1月8日	安政5年	12月5日	曇	昨夜雪二寸程積 今日雪少降
1859年	1月9日	安政5年	12月6日	晴	
1859年	1月10日	安政5年	12月7日	曇	(人事異動、去月23日若殿様が四品・殿様・御大老井伊掃部頭様・御老中様方に御廻勤)
1859年	1月11日	安政5年	12月8日	曇	(竹内彦太郎を御馬廻組頭に等の人事異動)
1859年	1月12日	安政5年	12月9日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (去月江戸大火の際類焼の津輕富次郎に御手当金5両下し置かれる、在方御買入米44文目立に申付け)
1859年	1月13日	安政5年	12月10日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1859年	1月14日	安政5年	12月11日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞)
1859年	1月15日	安政5年	12月12日	晴	亥の刻過地震少し (江戸詰合いの節精勤の木工等3人に御賞(金200疋・鳥目700文・同1貫文))
1859年	1月16日	安政5年	12月13日	晴	
1859年	1月17日	安政5年	12月14日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、御賞、家中から余米を買い上げているのかな?)
1859年	1月18日	安政5年	12月15日	曇	昨夜雪降 四寸程積
1859年	1月19日	安政5年	12月16日	曇	今晚寅之刻過より雨時々降 申之刻過止
1859年	1月20日	安政5年	12月17日	曇	昨夜雪降 一寸程積 卯之刻過地震少し (24日出立の津輕屋の手代に御手当て15両を下し置かれる)
1859年	1月21日	安政5年	12月18日	曇	昨夜吹雪強し 雪五寸程積 今日雪少し降 (親孝行の百姓等3人に御褒美米3俵宛、人事異動)
1859年	1月22日	安政5年	12月19日	曇	
1859年	1月23日	安政5年	12月20日	晴	(人事異動(松前での病死者の子孫を特別に扱っている)、所々で盗徒の13歳の女の子に購銭3貫600文)
1859年	1月24日	安政5年	12月21日	曇	辰之刻過小雨降 則刻止 (人事異動、多くの御蔵立会と御蔵奉行・経学出精者等に御賞(金200疋・100疋)・関係者に御酒代(鳥目500~300文))
1859年	1月25日	安政5年	12月22日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降 (漆役漆小仕立16人を帯刀御免苗字を名乗らせ漆役とする・一部は高の御免引きのみ)
1859年	1月26日	安政5年	12月23日	曇	昨夜雪少降 今日雪少降
1859年	1月27日	安政5年	12月24日	快晴	
1859年	1月28日	安政5年	12月25日	晴	昨夜雪降 一寸程積 (去る昨日將軍宣下、江戸で人事異動、近衛大納言に殿をつけている) 27日から続く 金1両3分宛の配当となる)
1859年	1月29日	安政5年	12月26日	曇	(12歳の女を松前に売り渡した親子に12鞭家元引渡し、赤い羅紗様の物盗み質入の男に3鞭弘前御構、抜参り御閑所口忍び通りの男に9鞭居村徘徊是まで通り)
1859年	1月30日	安政5年	12月27日	曇	昨夜雪降 六寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動、津出御印代大豆1俵12文目と申付け) 下から続く 押さえると御払代が銭799文目5分の半分で399匁7分: 25日に続く
1859年	1月31日	安政5年	12月28日	晴	昨夜雪少降 今日雪少降 (人事異動、御収納の3番まで等に御賞並びに酒代を下し置かれる、所々別段役等が取押えた米等を先例通り半分下されている・米31俵を2人で 上に続く
1859年	2月1日	安政5年	12月29日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少降
1859年	2月2日	安政5年	12月30日	曇	
1859年	2月3日	安政6年	正月1日	曇	昨夜雪少降
1859年	2月4日	安政6年	正月2日	晴	
1859年	2月5日	安政6年	正月3日	晴	
1859年	2月6日	安政6年	正月4日	晴	
1859年	2月7日	安政6年	正月5日	曇 今日雪少し降	
1859年	2月8日	安政6年	正月6日	快晴	
1859年	2月9日	安政6年	正月7日	快晴 (今日七種の御祝儀)	
1859年	2月10日	安政6年	正月8日	快晴	
1859年	2月11日	安政6年	正月9日	曇 卯の刻頃より小雨降 辰の刻過止 今日雪少し降	
1859年	2月12日	安政6年	正月10日	曇 昨夜雪少し降	
1859年	2月13日	安政6年	正月11日	曇 昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 三寸程積	
1859年	2月14日	安政6年	正月12日	曇 昨夜雪吹強し 雪三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1859年	2月15日	安政6年	正月13日	曇 昨夜雪少降 今日雪少降	
1859年	2月16日	安政6年	正月14日	晴	
1859年	2月17日	安政6年	正月15日	快晴 (御弓師御矢師が例年の通り御弦並びに御矢差上げる・御祝儀として鳥目1貫文宛下し置かれる)	
1859年	2月18日	安政6年	正月16日	晴 今日雪少し降	
1859年	2月19日	安政6年	正月17日	曇 (御蔵米1俵を43文目立に御家中御買上は来る21日より43文目4分立に申付け)	
1859年	2月20日	安政6年	正月18日	晴	
1859年	2月21日	安政6年	正月19日	晴	
1859年	2月22日	安政6年	正月20日	快晴	
1859年	2月23日	安政6年	正月21日	快晴 (御家中の娘など3人の女を他出差留めとしている)	
1859年	2月24日	安政6年	正月22日	晴 昨夜雪降 一寸程積 今日雪少降	
1859年	2月25日	安政6年	正月23日	晴	
1859年	2月26日	安政6年	正月24日	曇	
1859年	2月27日	安政6年	正月25日	曇	
1859年	2月28日	安政6年	正月26日	曇	

1859年	3月1日	安政6年	正月27日	快晴（当両都廻船は42艘の見込み）	下から続く	白米と餅米22文目→25文目・白餅米24文目→27文目に申し付ける）			
1859年	3月2日	安政6年	正月28日	曇	午の刻頃より雨時々降	亥の刻過止（人事異動、当9月13日に親に傷を負わせた男の人相書：年齢27歳・中文・中肉で色黒き方等、両濱津出1俵御印代：玄米20目→23文目・上に続く			
1859年	3月3日	安政6年	正月29日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1859年	3月4日	安政6年	正月30日	曇	昨夜雪降	二寸程積	今日雪少降		
1859年	3月5日	安政6年	2月1日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1859年	3月6日	安政6年	2月2日	曇	昨夜雪少し降	今日雪少し降			
1859年	3月7日	安政6年	2月3日	快晴					
1859年	3月8日	安政6年	2月4日	曇					
1859年	3月9日	安政6年	2月5日	曇	昨夜雪降	三寸程積	今日雪少降（松前に女子を勾引疑いの男2人を揚屋入り）		
1859年	3月10日	安政6年	2月6日	快晴	（一昨年新城村の焼失11軒に桧生木50本宛下し置かれた・明春杣取と山役人を騙し盗伐・死罪相当だが居宅焼失助勢であることから品物を御取上げの上42貫文宛の過料・関係者にも罰）				
1859年	3月11日	安政6年	2月7日	快晴	（青森で祭文浄瑠璃語り興行・札銭3分宛、將軍宣下・口宣の宣も平出又は欠字、江戸で人事異動）				
1859年	3月12日	安政6年	2月8日	晴	（この度大円寺前に新規に懸けた橋の名を7候補の中から日暮橋と命名する、町方貯糶13005俵2斗・銭60貫64文目5分・米110俵：どんな数値なのか判らずに書いている）				
1859年	3月13日	安政6年	2月9日	快晴					
1859年	3月14日	安政6年	2月10日	快晴					
1859年	3月15日	安政6年	2月11日	晴	（長柄奉行格郡奉行後藤門之丞に30俵加増等多数の人事異動）				
1859年	3月16日	安政6年	2月12日	曇	昨夜雪降	一寸程積	今日雪少し降（廻山中に取り押さえた品代11貫31文目4分の内950目を山役人11人に下し置かれる）		
1859年	3月17日	安政6年	2月13日	曇	今日雪降	一寸程積			
1859年	3月18日	安政6年	2月14日	晴	（江戸で殿様から土佐守家督願いを出している、江戸で御家督御用懸等の人事異動）				
1859年	3月19日	安政6年	2月15日	快晴	（明後17日に御目見以上惣与力までに登城の触れ、去る11日昼新城村で出火・類焼共2軒焼失・火元高無他村預け。今朝蓬萊橋普請小屋が出火・泊り番杖突某が焼死）				
1859年	3月20日	安政6年	2月16日	快晴	（盗みの兄弟に3鞭宛弘前御構い、松前に女子を勾引に近い御目見以下御留守居支配を掃除小人に役下げ・類似・関係者あり、松前表に数度往来町預け中逃去った男に18鞭弘前町払い）				
1859年	3月21日	安政6年	2月17日	快晴					
1859年	3月22日	安政6年	2月18日	快晴	（人事異動、去る巳（今年は未）10月12日夜新寺町で女に乱暴した（安政4年10月22日記述）2人に30鞭宛十里四方追放大場御構い（死罪でなければ最高刑か?）・その親にも押込）				
1859年	3月23日	安政6年	2月19日	快晴					
1859年	3月24日	安政6年	2月20日	曇	卯の刻過より雨時々降	酉の刻頃止	（御代替の諸国巡見は天災が打ち続き来る戌の年（今年は未）まで5年間猶予、今日7日殿様隠居・若殿様御家督の報）		
1859年	3月25日	安政6年	2月21日	曇	（毛内有右衛門を御持筒足輕頭に等の人事異動）				
1859年	3月26日	安政6年	2月22日	曇	今晚酉の刻頃より雨時々降	戌の刻頃止	（蓬萊橋の擬宝珠を新たに作る・昔の物は慶長寛文の品で是を作事方に残し新たな銘は安政六己未年2月吉日とする）		
1859年	3月27日	安政6年	2月23日	晴	（殿様→大殿様・若殿様→殿様と尊称を変更する）				
1859年	3月28日	安政6年	2月24日	快晴	（当スツ・詰め物頭と検使に自筆拝見仰せ付けられる、100歳の高年祖母に生涯2人扶持下し置かれる）				
1859年	3月29日	安政6年	2月25日	快晴	今晚寅の刻頃より雨降	即刻止	（両濱津出御印1俵代：玄米23文目→25文目・白米と餅米25文目→27文目・白餅米27文目→29文目に申し付ける）		
1859年	3月30日	安政6年	2月26日	快晴	今晚子の刻頃より雨時々降	酉の刻過止			
1859年	3月31日	安政6年	2月27日	晴	（公儀衆等の人数増で青森に旅籠屋4軒作る件でいろいろ揉めている）	下から続く	早い、去る23日夕木造新田車力村で出火・類焼共3軒その他焼失・火元代官にて他村預け）		
1859年	4月1日	安政6年	2月28日	晴	（外崎某を諸手足輕頭役知50石等の人事異動、去る22日より23日朝迄十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷明ける・去年は2月19日朝迄で当年は4日遅く節に引合い13日	上に続く			
1859年	4月2日	安政6年	2月29日	快晴	戌の刻過より雨降	亥の刻過止	（去る6月12日夜他家に忍び込み子に箸掻真切で深手を負わせた男に24鞭兄預け、秋田出生として八戸家中の二男を泊めた庄屋等に過料1貫800文宛）		
1859年	4月3日	安政6年	3月1日	曇	（高屋某を御旗奉行にとの人事異動）				
1859年	4月4日	安政6年	3月2日	曇	昨夜雪降	三寸程積	卯の刻過より雨降	辰の刻過止（酒値段1升に付き5厘増・1合売りは是までの通り2分1文に申付ける）	
1859年	4月5日	安政6年	3月3日	快晴	（去月25日十三湯前後とも残らず湯明）				
1859年	4月6日	安政6年	3月4日	快晴					
1859年	4月7日	安政6年	3月5日	曇					
1859年	4月8日	安政6年	3月6日	曇	午の刻過より雨時々降	戌の刻過止			
1859年	4月9日	安政6年	3月7日	晴					
1859年	4月10日	安政6年	3月8日	曇	午の刻過小雨降	則刻止	（箱館詰物頭と検使が御自筆拝見・明後10日一番立ち出立、模範的な庶民2人に御賞（米3俵・鳥目3貫文）		
1859年	4月11日	安政6年	3月9日	快晴					
1859年	4月12日	安政6年	3月10日	快晴	（この度の家督に付き御祝儀座当1人に付き15文ツ・下し置かれる）				
1859年	4月13日	安政6年	3月11日	快晴	（当年91歳の浪岡組五本松村の百姓に御酒代鳥目2貫文）				
1859年	4月14日	安政6年	3月12日	快晴					
1859年	4月15日	安政6年	3月13日	快晴	下から続く	御座1枚・蒔銭36文・鳥目500文）			
1859年	4月16日	安政6年	3月14日	曇	申の刻過より雨時々降	夜に入同断	（北之御丸橋新規懸渡し……・内東御門前石橋の御例を以って……渡し方：神酒2升・寿留女10枚・昆布10枚・洗米3合6夕・並大奉10枚・上に続く		
1859年	4月17日	安政6年	3月15日	曇	昨夜より之雨今日に及	時々降	未の刻過止（南溜池土居西側より白狐寺門前迄松桜植付ける）	下から続く	女2人を送り込んだ男女に15鞭9鞭宛居町徘徊はまで通り）
1859年	4月18日	安政6年	3月16日	曇	申の刻過より雨時々降	夜に入同断	（手段米の小嶋村の娘に米御取り上げの上15鞭居村払い外ヶ浜4ヶ組浦々住居御構い・関係者にも9鞭・過料1貫200文等の罰、松前表に	上に続く	
1859年	4月19日	安政6年	3月17日	曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止				
1859年	4月20日	安政6年	3月18日	曇	辰の刻過より雨時々降	夜に入同断	（21日渡より(1俵)47文目立・御家中御買上は4分増に申付ける）		
1859年	4月21日	安政6年	3月19日	曇	昨夜より之雨今日に及	時々降	午の刻過止		
1859年	4月22日	安政6年	3月20日	曇	（古学校構の内ケヘル調練致し候よう篠崎進江仰せ付けられ居り候処……）				
1859年	4月23日	安政6年	3月21日	快晴	（内習並びに内々習の節宇和野で出精の非常御手廻兵士加勢等主として大筒隊鉄砲隊の230人位に御賞、人事異動）	下から続く	10里四方追放大場御構（2月18日申渡しの仲間）		
1859年	4月24日	安政6年	3月22日	晴	（人事異動、当月11日江戸発で松前伊豆守様が碓ヶ関口と弘前を通して下向・草取り等を命じている、3月朔日等に江戸で人事異動、去る巳年10月12の夜女に乱暴の男に30鞭	上に続く			
1859年	4月25日	安政6年	3月23日	快晴	（松前に女を渡し礼を貰った女に6鞭夫引渡し）				
1859年	4月26日	安政6年	3月24日	快晴	巳の刻過地震少し	（カルハニ(ガルバーニ?)伝火器本兵法士懸門弟共伝授致したく試を3人が申し出る・高嶋流と製法相談の上……）			
1859年	4月27日	安政6年	3月25日	曇					
1859年	4月28日	安政6年	3月26日	曇	卯の刻過より雨時々降	酉の刻過止	（松前様が初めて弘前を通り各種手配・24ページ位）		
1859年	4月29日	安政6年	3月27日	快晴	（町奉行申出候練屋藤兵衛儀先年江戸表にて御国下がり願いの通り仰せ付けられ藤兵衛並びに妾篠田雲鳳娘あい下人勝蔵都合4人が去る16日に本町に着く）				
1859年	4月30日	安政6年	3月28日	快晴	（人事異動、今日昼八半時過御家中斉藤某宅で出火・類焼あり、御城中廻り土壁……・安政の大獄で世情不安として緊急の防御工作をしているのだろうか）				

1859年	5月1日	安政6年	3月29日 曇	午の刻頃より小雨時々降 申の刻過止	
1859年	5月2日	安政6年	3月30日 曇	午の刻過より小雨降 亥の刻過止 (当御発駕日限来月15日の予定との通知あり)	
1859年	5月3日	安政6年	4月1日 曇	丑の刻頃より雨時々降 夜二入同断 未の刻雷鳴 即刻止 (人事異動、品川沖に入津の英吉利船が退帆、公儀の軍艦の旗印を示している、晦日暮六時過錠ヶ関御本陣に松前様到着)	
1859年	5月4日	安政6年	4月2日 曇	昨夜よりの雨今日巳の刻頃止	
1859年	5月5日	安政6年	4月3日 晴		
1859年	5月6日	安政6年	4月4日 快晴		
1859年	5月7日	安政6年	4月5日 曇	(一昨3日夕喜良市山杣取懸合いの居宅焼失、トントロ製入用緑器土?が宇鉄村辺りにある、手段米のことが色々書いてある)	
1859年	5月8日	安政6年	4月6日 快晴		
1859年	5月9日	安政6年	4月7日 快晴	(昨2日七時頃松前様御同勢193人が青森御本陣村林屋に御着き、去る4日黒石表で軽業を見物の男が酒の上で過言・役筋が十手で押さえ町預け中一昨5日に死亡)	
1859年	5月10日	安政6年	4月8日 快晴	(別段廻り12人(御手廻・御馬廻)任命)	
1859年	5月11日	安政6年	4月9日 快晴	今晩寅の刻過雨降 即刻止	
1859年	5月12日	安政6年	4月10日 曇	今晩寅の刻過ぎ雨降 即刻止 (女子を松前に勾引等の話が出ている・登場人物場所が交じり合ってわからない・西大工町に福眞今八宅がある)	
1859年	5月13日	安政6年	4月11日 曇	卯の刻過より雨時々降 酉の刻過止 (御家中貸渡し声を減らしている:高800石以上6匁→4匁・(一部省略)200石以上2匁半→1匁3把・(省略)御目見以上1匁半→1匁)	
1859年	5月14日	安政6年	4月12日 曇		
1859年	5月15日	安政6年	4月13日 晴	(木の伐り荒し犯人をしかと見定めないまま犯人とし変死(この場合自殺)させた山守に6鞭・関係者11人に過料1貫800文等の罰)	
1859年	5月16日	安政6年	4月14日 晴	(石灰隠焼き等闇商売に罰)	
1859年	5月17日	安政6年	4月15日 快晴		
1859年	5月18日	安政6年	4月16日 快晴		
1859年	5月19日	安政6年	4月17日 晴		
1859年	5月20日	安政6年	4月18日 快晴		
1859年	5月21日	安政6年	4月19日 晴		
1859年	5月22日	安政6年	4月20日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 辰の刻頃止	
1859年	5月23日	安政6年	4月21日 晴	(来る24日江戸御発駕と仰せ出される)	
1859年	5月24日	安政6年	4月22日 曇	今晩丑の刻頃より雨時々降 夜二入同断	
1859年	5月25日	安政6年	4月23日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 巳の刻頃止 下から続く 串砲1箱・その他色々ある)	
1859年	5月26日	安政6年	4月24日 晴	(一昨20日夕高杉組中別所村で出火・類焼共2軒焼失・火元百姓他村預け) 下から続く 歳暮御小袖2・十二正月の内塩鱈5と塩鯊5・在邑年暑中煎海鼠1箱・在邑年寒中	上に続く
1859年	5月27日	安政6年	4月25日 晴	(弘前売り出し米不足・追々米価高値しかし・御蔵米1俵47文目立→44文目立に御家中御買上は44文目4分に申付け) 下から続く 十一月の内御鷹5連と塩引鮭5尺・	上に続く
1859年	5月28日	安政6年	4月26日 晴	(公方様江の年中献上物の覚:年頭御太刀馬代黄金10両・端午御帷子単物2・六七月の内御馬2疋(隔年献上)・七八月の内漬蕨2樽・八朔御太刀馬代黄金10両・重陽御子袖2・	上に続く
1859年	5月29日	安政6年	4月27日 晴	(他領からの薬売りを停止しているのかな?護穀神より桶屋町の通りに大鳥居を建てている・普請中牛馬往来留め)	
1859年	5月30日	安政6年	4月28日 晴		
1859年	5月31日	安政6年	4月29日 晴		
1859年	6月1日	安政6年	5月1日 快晴	(人事異動)	
1859年	6月2日	安政6年	5月2日 曇	今晩寅の刻頃より雨降 巳の刻頃止	
1859年	6月3日	安政6年	5月3日 曇	今日申の刻頃より雨降 亥の刻頃止	
1859年	6月4日	安政6年	5月4日 曇	(江戸で硫黄の目形23貫目で金1両・80匁を(売るために)江戸に送る)	
1859年	6月5日	安政6年	5月5日 曇		
1859年	6月6日	安政6年	5月6日 晴	(4月24日殿様が江戸発駕、江戸で人事異動)	
1859年	6月7日	安政6年	5月7日 曇	(当3月箱館詰めで病死の子3歳(当然数え年)を給分そのまま召抱える、御手元金より5000両御下げの上高100石に付き金3両をお手当てとして下し置かれる)	
1859年	6月8日	安政6年	5月8日 晴		
1859年	6月9日	安政6年	5月9日 晴	下から続く 緑○(緑譽?:りょくばん:硫酸第一鉄の七水塩の俗称?)の場所を探している)	
1859年	6月10日	安政6年	5月10日 快晴	(三時(約6時間)早着の飛脚諸手足軽2人に御酒代鳥目1貫文下し置かれる、去る8日昼九時頃猿賀組八幡崎村で出火・類焼共9軒その他焼失・火元他村預け、石炭(石灰?)と	上に続く
1859年	6月11日	安政6年	5月11日 晴	巳の刻過地震少し (昨晩不調法の御徒を御給分の内10俵召上げ御城付足輕に御役下げ、米価諸式高値に付座当共に銭1貫文宛783文目3分3厘を御救御手当てとして下し置かれる)	
1859年	6月12日	安政6年	5月12日 曇	未の刻過地震少し (他入龍吐水(りゅうとすい:ポンプでしょうか)代金7両を土手町大工が5両で作る・水鉄砲水勢8間走りの処他入39文目を30目・売払いさせる)	
1859年	6月13日	安政6年	5月13日 快晴	(今日未の刻殿様御着城)	
1859年	6月14日	安政6年	5月14日 快晴		
1859年	6月15日	安政6年	5月15日 晴		
1859年	6月16日	安政6年	5月16日 晴		
1859年	6月17日	安政6年	5月17日 曇	卯の刻頃より雨時々降 巳の刻過止 (大鰐村より院元(隠元?)差上げる、緑譽土を探しに宇鉄村赤倉嶽等を探索、御入部(殿様の初のお国入り)に付式武少輔殿より使者御祝儀)	
1859年	6月18日	安政6年	5月18日 晴	(多数の人事異動、多数の御賞、入部に伴う香典等)	
1859年	6月19日	安政6年	5月19日 晴		
1859年	6月20日	安政6年	5月20日 曇	卯の刻過より雨時々降 夜二入同断 (人事異動、御料理等)	
1859年	6月21日	安政6年	5月21日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 夜二入同断	
1859年	6月22日	安政6年	5月22日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 巳の刻頃止 (御用達共からの先納米代47520両・1俵36文目立として146440俵余を借りている?)	
1859年	6月23日	安政6年	5月23日 晴	下から続く 御門番・外南御門番の下座を申付け・行列の並びの様子あり)	
1859年	6月24日	安政6年	5月24日 快晴	(四社に社参・昨21日夜青森濱町より出火・御蔵9ヶ所御米共類焼) 下から続く 焼失家数の記載なし、御判物登りの節御白砂御門番・武者屯御門番・中辻番人・内南	上に続く
1859年	6月25日	安政6年	5月25日 快晴	(両御寺に参詣、21日夜五時頃濱町の出火は東風烈しく大町米町鍛冶町寺町柳町新町安方町類焼・御蔵9ヶ所御米大凡27000俵位御膳米482俵等焼失・御蔵6ヶ所は別状なし・	上に続く
1859年	6月26日	安政6年	5月26日 晴		
1859年	6月27日	安政6年	5月27日 曇	午の刻頃雷鳴 即刻止 午の刻過より雨降 申の刻過止 (この度ケヘイール筒105挺御下げに付間部下総守様等に御願い書を出し指図を受ける、昇進等で御賞を多数に下し置かれる)	
1859年	6月28日	安政6年	5月28日 晴	(類焼した青森町奉行所を濱町の八戸屋にする)	
1859年	6月29日	安政6年	5月29日 曇	未の刻頃より雨降 夜二入同断 (青森町大火の御救い駄下げ米の内1000俵等を下し置くよう申し付ける:奉行所は焼け何軒焼けたか判らないゴタゴタが想像される)	
1859年	6月30日	安政6年	6月1日 曇	昨夜より之雨今日ニ及 時々降 未之刻頃止 (人事異動、病氣月数の儀10ヶ月限り・御定め限月に拘らず永々引籠もり……)	

1859年	7月1日	安政6年	6月2日 快晴 (去る8日の八幡崎村の火災の9軒に格段の御沙汰で1軒に1俵宛御米9俵の御手当てを下しおかれる)
1859年	7月2日	安政6年	6月3日 快晴 (今日宇和野で松前非常手内習高覧)
1859年	7月3日	安政6年	6月4日 曇 辰之刻頃地震少し (大鰐村より真瓜差上げる、御賞、座当頭から殿様入部の御祝儀配当の申し出・先例の通り1人に付き15文・405人分101文目2分5厘下し置かれる)
1859年	7月4日	安政6年	6月5日 曇 (御賞、青田の内笛吹くなどの触れ、この度外ヶ浜通り別段役を油川を除き引き払う)
1859年	7月5日	安政6年	6月6日 曇 卯の刻過より小雨時々降 申の刻頃止 下から続く 大火で54330俵余あった米が26744俵余焼失・これからの支払い予定もあり3100俵と粃49俵しか残らない・入札払い)
1859年	7月6日	安政6年	6月7日 快晴 (秋田大久保駅の菅原某等から御払い馬願い・50疋御払い申付ける、昨3日夕大鰐組早瀬野村で出火・類焼共9軒焼失潰家痛家共7軒・火元他村預け、(5月21日の)青森の 上に続く
1859年	7月7日	安政6年	6月8日 快晴 (ハツテラ皆出来) 18日から続く 銭5貫400文、関係する宿とその五軒組合に過料銭30目)
1859年	7月8日	安政6年	6月9日 晴 17日から続く 青森大火で類焼・宿が必要で御印附米1俵57文目値段で300俵拝借仰せ付ける、美服の城附足輕に慎)
1859年	7月9日	安政6年	6月10日 曇 辰之刻過より雨降 夜二入同断 (松前表に飯炊きなどでわたる者あり・それを御家中が集めている例あり・停止の仰せ付け、漆小仕立等の任命御免引高の増等200人位)
1859年	7月10日	安政6年	6月11日 曇 昨夜より之雨辰之刻頃止 (この度の内習に関し5人に御賞(金50疋宛)、人事異動)
1859年	7月11日	安政6年	6月12日 曇 午の刻頃より小雨時々降 夜二入同断 下から続く 置かなければ黒焼にする度々投文をした板屋野木村の男に30鞭10里四方追放大場御構い)
1859年	7月12日	安政6年	6月13日 曇 昨夜より之小雨今日二及 辰之刻頃止 (御引上げ山で杉木伐荒しの薬師堂村の7人に6鞭宛居村徘徊是まで通り・庄屋に過料1貫800文、村の端松の下に金子二三十両を置き 上に続く
1859年	7月13日	安政6年	6月14日 晴 (当年江戸廻米30000石(家中扶持米18000・払米12000:定例53342石)・大坂廻米14000石(家中扶持米8000・払米6000:定例37250石)、江戸で御賞)
1859年	7月14日	安政6年	6月15日 曇 卯の刻過より小雨時々降 巳之刻頃止 (公儀の相書き:年齢25歳・丈高き方等、水車にて粃摺り立之儀再三評議……早速試し摺りをさせる)
1859年	7月15日	安政6年	6月16日 快晴 (土手町で盗みの足輕の三男に3鞭弘前町御構い、割付奉公中に出奔し松前で跡場働き鯉ヶ沢に戻り盗み徒博打の男に12鞭弘前町御構い、博打の男に3鞭居町徘徊是まで通り)
1859年	7月16日	安政6年	6月17日 快晴 戌の刻過より雨降 (登城遅れの停止の触れ、年齢17歳以上の御家中並びに諸組諸支配子弟共迄南溜池で水練並びにハツテラ乗廻稽古を仰せ付ける、公儀衆等の宿が 9日に続く
1859年	7月17日	安政6年	6月18日 曇 昨夜より之雨今日二及 時々降 酉の刻頃止 (人事異動、御賞、杉を隠伐の大鰐村中に過料・庄屋等にも、弘前で娘を勾引松前江差に奉公させた小泊村の男に(過料?) 8日に続く
1859年	7月18日	安政6年	6月19日 曇 午の刻過より雨時々降 夜二入同断 下から続く 新町本家143借家30・寺町柳町本家110借家25・安方町本家63借家12潰家9・鍛冶町本家35借家27潰家5)
1859年	7月19日	安政6年	6月20日 曇 昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 (今日馬術高覧、去月21日夜青森の大火は本家646軒借家258軒潰家14軒・大町本家116借家85・米町本家111借家50・濱町本家68借家29・ 上に続く
1859年	7月20日	安政6年	6月21日 快晴 (無提灯で夜中往来するなどの触れ、去る3日出火の早瀬野村の火災の9軒に1俵宛半焼1軒に2斗都合9俵2斗をを御手当米と下し置かれる) 下から続く 大円寺五重塔内で御出汗)
1859年	7月21日	安政6年	6月22日 快晴 (去月青森の大火に被災した滝屋等が御米拝借願い・3軒に2800俵拝借仰せ付ける、期限が来た借金を青森で米焼失等の理由で24人に繰延べ依頼・羽二重等を送っている、 上に続く
1859年	7月22日	安政6年	6月23日 曇 未の刻過雨降 則刻止 (今日大谷場から南溜池のハツテラ乗廻高覧) 下から続く 丑寅御矢倉・三之御丸の内追手通・西坂通・外東御門・別な場所を下御台所入口御門)
1859年	7月23日	安政6年	6月24日 曇 午の刻過より雨時々降 夜二入同断 (今日外馬場で馬術高覧) 26日から続く 詞のみ:西之御郭同所御矢倉・二之御丸之内内南御門外杉大橋・内東御門・未申御矢倉・ 上に続く
1859年	7月24日	安政6年	6月25日 曇 昨夜より之雨今日二及 時々降 夜二入同断 (米価高値に付金給の面々に手当、大振手込細工の祢婦た停止の触れ、人事異動、箱館新田開発御用掛が夫婦と家族5人を連れ出している)
1859年	7月25日	安政6年	6月26日 曇 昨夜よりの雨今日二及 巳の刻頃止 (酒の上喧嘩傷をつけた尾太山金名子に3鞭・関係者にも罰) 下から続く 北之御丸之内西側北側柵立丸太其侶にて穿立・以下名 24日に続く
1859年	7月26日	安政6年	6月27日 曇 卯の刻過より小雨降 辰の刻頃止 (青森大火関連の御賞) 下から続く 未申御物見下土堀より下り柵立丸太其侶穿建・武者屯御門脇土堀より下り柵立左右共角柱穿建・ 上に続く
1859年	7月27日	安政6年	6月28日 快晴 (御郭廻り柵立を検討している、御本城の内御裏埋御門内坂上仕切柵立2ヶ所土台居角柱・御武芸所より御楽屋江取付柵立角柱にて穿立・御金蔵前石垣上柵立土台居角柱・ 上に続く
1859年	7月28日	安政6年	6月29日 晴
1859年	7月29日	安政6年	6月30日 快晴
1859年	7月30日	安政6年	7月1日 晴 (入部道中に出精として銀子7枚等下し置かれる、人事異動、多数に御賞、山上鉄太郎の倅の与惣吉が御目見)
1859年	7月31日	安政6年	7月2日 曇 巳の刻頃より雨時々降 (人事異動)
1859年	8月1日	安政6年	7月3日 曇 (去月類焼の金沢屋から米2000俵拝借願い・御印付米1俵57文目立で700俵の拝借を仰せ付ける)
1859年	8月2日	安政6年	7月4日 曇 昨夜よりの雨辰の刻過止 (人事異動、青森大火に火元判る・入寺、丹後者詮索・送り返しの触れ、四社に風雨順時の御祈禱を仰せ付ける)
1859年	8月3日	安政6年	7月5日 曇 卯の刻過より小雨降 辰の刻過止 (去月16日十三町の店先に100日程の男子捨子・店が拾上げ養育、当年御家中御資渡綿大凡33000把の内5000把位残る・100石に10把積りで希望者に)
1859年	8月4日	安政6年	7月6日 曇 未の刻過より雨時々降 夜二入同断 亥の刻過止
1859年	8月5日	安政6年	7月7日 晴
1859年	8月6日	安政6年	7月8日 快晴 (青森大火の住居を作る材木等の計数があるらしいのだが判らない) 下から続く 御目見以上御留守居支配に新規召抱え5両2人扶持)
1859年	8月7日	安政6年	7月9日 快晴 (御判物付添登りの中に御徒目付横岡勝太郎あり、蝦夷地警固箱館詰人数200人並びにスツ・詰人数100人がこの節(5月17日付)交代相済む、砲術出精の御馬廻弟を 上に続く
1859年	8月8日	安政6年	7月10日 快晴
1859年	8月9日	安政6年	7月11日 晴 (箱館詰の武具嗜み良いとして御賞) 下から続く 札銭1人に付4分宛、頃日天気合宜しからず五山に風雨順時重御祈禱を仰せ付ける)
1859年	8月10日	安政6年	7月12日 晴 (人事異動、当新菜種昨10日迄30日附相場平均御定法で割合すると灯油1升到付6文目3分7厘に相当・1合売り6分2文に申し付ける、鯉ヶ沢で14日より晴天7日の芝居興行・ 上に続く
1859年	8月11日	安政6年	7月13日 快晴
1859年	8月12日	安政6年	7月14日 快晴
1859年	8月13日	安政6年	7月15日 快晴 (人事異動)
1859年	8月14日	安政6年	7月16日 晴
1859年	8月15日	安政6年	7月17日 曇 (高齢の御家中に御小遣いかな?、人事異動)
1859年	8月16日	安政6年	7月18日 快晴
1859年	8月17日	安政6年	7月19日 晴 下から続く 祖母に御米3俵と生涯1人扶持)
1859年	8月18日	安政6年	7月20日 晴 (用人工藤伝兵衛を手廻組頭格に釜泡多門を大寄合格御用人手伝に等多数の人事異動、箱館並びにスツ・詰め高齢の祖母など多数に御賞等の下され金銀鳥目・101歳の 上に続く
1859年	8月19日	安政6年	7月21日 快晴
1859年	8月20日	安政6年	7月22日 曇
1859年	8月21日	安政6年	7月23日 曇
1859年	8月22日	安政6年	7月24日 曇
1859年	8月23日	安政6年	7月25日 曇 辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断
1859年	8月24日	安政6年	7月26日 曇 昨夜よりの雨今日及 時々降 夜二入同断 西南の風強し (今日三之丸で駒高覧)
1859年	8月25日	安政6年	7月27日 曇 昨夜よりの雨今日二及 雨時々降 辰の刻過止 (昨夜九ツ時頃鯉ヶ沢町で出火・類焼共10軒焼失今晝七ツ時頃鎮火)
1859年	8月26日	安政6年	7月28日 快晴 (今日南溜池で水練高覧)
1859年	8月27日	安政6年	7月29日 曇 巳の刻過より小雨時々降 戌の刻過止 (昨年試漕ぎをした紙漕ぎが本格的生産したいとして道具出来料60両の拝借願い・貸す)
1859年	8月28日	安政6年	8月1日 快晴 (当6月より神奈川・長崎・箱館で魯(露西亞)・仏(仏蘭西)・英(英吉利)・蘭(阿蘭陀)・亜墨利加の5カ国と商人共勝手に商売して可・兵書城郭陣列甲冑等は御法度)
1859年	8月29日	安政6年	8月2日 快晴 (造道村で晴天5日の相撲興行・札銭4分宛)
1859年	8月30日	安政6年	8月3日 快晴
1859年	8月31日	安政6年	8月4日 曇 巳の刻過より小雨時々降 申の刻過止

1859年	9月1日	安政6年	8月5日 曇	卯の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (人事異動)
1859年	9月2日	安政6年	8月6日 晴	(江戸で人事異動、去月21日青森大火の公儀報告:家904軒・役所3ヶ所・土蔵36ヶ所・制札場1ヶ所・町役所1ヶ所・寺1ヶ所・橋1ヶ所・焼潰家14軒・人馬怪我なし)
1859年	9月3日	安政6年	8月7日 晴	(富根町前浜で相撲興行・札銭1人前3分5厘宛、去月29日大間越御開所外食川尻脇前濱に海死の者寄せる・秋田男鹿の内四五六村の男と判明・庵に土葬)
1859年	9月4日	安政6年	8月8日 晴	昨夜よりの雨今晚寅の刻頃止 (人事異動、去月24日碓ヶ関町の火災の被災者10人に1俵宛御手当て米下し置かれる)
1859年	9月5日	安政6年	8月9日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 申の刻過止
1859年	9月6日	安政6年	8月10日 曇	(木造新田越水村と赤石組支配北浮田村の秣刈り取り方の場所揉み合い、申し出でなしに松前スツ・に奉公に出した親に過料銭1貫200文・庄屋にも過料600文)
1859年	9月7日	安政6年	8月11日 晴	
1859年	9月8日	安政6年	8月12日 曇	卯の刻過より雨時々降 夜二入同断 (去月24日碓ヶ関の火元は碓ヶ関に庵寺で慎)
1859年	9月9日	安政6年	8月13日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 申の刻頃より西南の風強し(今晚暮れ頃より大風) 下から続く 1人前4分上棧数3文目下棧数2文目5分宛)
1859年	9月10日	安政6年	8月14日 曇	今晚寅の刻頃風止 昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 酉の刻頃止 (岩木川6歩半の出水・今七時半頃より往来差留める・その後落水、明15日より晴天7日の相撲興行・ 上に続く
1859年	9月11日	安政6年	8月15日 晴	(今日八幡宮神輿通御・三之丸江出る、来る17日御初米差上げる申し付ける)
1859年	9月12日	安政6年	8月16日 晴	20日から続く 4日遅い、隠し津出米の南部者に格別の沙汰として米(白米10俵2斗1升白餅米1斗8升)御取上げ船等は返し当領に立ち入らないよう申付ける・関係領民多数に過料)
1859年	9月13日	安政6年	8月17日 快晴	(大鰐村加賀助兵左衛門より御初米差上げる、人事異動、御召馬並びに三馬屋御建駒飼料1疋に付3文目8分6厘宛→4文目2分4厘6毛に申付ける、岩木川出水で往来差止・今五半時解除)
1859年	9月14日	安政6年	8月18日 快晴	下から続く 勘定人の給分30俵召上げ隠居・養子を認め20俵2人扶持御城付足軽に)
1859年	9月15日	安政6年	8月19日 曇	辰の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (青森の正覚寺の新住職を認めないという行動の4人に21鞭宛3里四方追放・18鞭宛所払い・事情・罰等26ページほどにわたる、不届きな 上に続く
1859年	9月16日	安政6年	8月20日 曇	昨夜よりの雨今日及 卯の刻過止 (去年の御初米は4月27日植付7月25日鎌入れの87日目・今年は5月8日植付8月11日鎌入れの92日目で去年に引合5日遅く節に引合 16日に続く
1859年	9月17日	安政6年	8月21日 曇	(喜多村監物を家老職に等の人事異動、御賞、御達書・神奈川長崎箱館で外国商人より買った書籍は運上役所に差出し改印を受けろ・無印は御制禁の宗門事に渡る書籍とみなし厳料とする)
1859年	9月18日	安政6年	8月22日 晴	今晚卯の刻頃より小雨降 則刻止
1859年	9月19日	安政6年	8月23日 晴	
1859年	9月20日	安政6年	8月24日 曇	卯の刻過より雨時々降 巳の刻過止
1859年	9月21日	安政6年	8月25日 曇	(今日大星場で大筒隊・鉄砲隊並びに其の外の訓練を高覧)
1859年	9月22日	安政6年	8月26日 曇	(昨日の残り高覧)
1859年	9月23日	安政6年	8月27日 晴	(今日大星場砲術高覧は御不例で延引)
1859年	9月24日	安政6年	8月28日 快晴	(広居某が当28日より30日寄興行・札銭1人につき3分宛、深浦湊で松前船水主が病死・浄念寺に土葬する)
1859年	9月25日	安政6年	8月29日 晴	(去る20日より青沼某預かりの馬(末広?)が肺病を相煩い今朝斃馬・取り片付立会足軽目付並びに御厩御浄加持修験1人が前々の通り御厩江相詰める)
1859年	9月26日	安政6年	9月1日 晴	(人事異動、御賞)
1859年	9月27日	安政6年	9月2日 晴	(事情は判らないが練屋藤兵衛に5人扶持を渡している、青森で類焼の金沢屋から又米2000俵拝借願ひ・1俵57文目立で是までの300俵に700俵を加えて拝借申付ける)
1859年	9月28日	安政6年	9月3日 曇	巳の刻過より雨降 則刻止
1859年	9月29日	安政6年	9月4日 晴	(人事異動)
1859年	9月30日	安政6年	9月5日 晴	(去月14日金木組中里村に泊めた摂州の僧が28日に病死、複数の湯屋から衣類盗み子供から風呂敷包みを騙し取った男を乞食手下にする、御徒望みの者を大手先武芸所で見分)
1859年	10月1日	安政6年	9月6日 晴	
1859年	10月2日	安政6年	9月7日 曇	卯の刻過より雨時々降 戌の刻過止
1859年	10月3日	安政6年	9月8日 晴	(御賞、人事異動、盗み徒の秋田出生の男を二度と入らないよう仰せ付けて乞食小屋引き回し面体見知らせて鰐ヶ沢口より送り返す・これを留め置いた男に過料銭1貫200文・関係者にも罰)
1859年	10月4日	安政6年	9月9日 晴	
1859年	10月5日	安政6年	9月10日 曇	(御台所頭より初鮭差出す、人事異動)
1859年	10月6日	安政6年	9月11日 晴	(来る申年閏年・御家中渡し13ヶ月割り……、大円寺五重塔零落に付き……)
1859年	10月7日	安政6年	9月12日 曇	(式部少輔様より町奉行共江川鮭1尺宛貰う、一昨年10月12日夜の暴行事件の犯人の1人(御馬廻の二男)を10里四方追放大場御構いとする)
1859年	10月8日	安政6年	9月13日 曇	辰の刻過より小雨降 即刻止 下から続く 江戸表で暴瀉病流行に対する御祈禱を五山に仰せ付ける)
1859年	10月9日	安政6年	9月14日 曇	午の刻過より小雨降 即刻止 (御賞、手段米で入牢の男2人の吟味が済み出牢の上御片付まで揚屋入り・吟味済の男を揚屋から出し腰縄付きで親類五軒組合見廻とする、 上に続く
1859年	10月10日	安政6年	9月15日 快晴	(当7月26日広戸村領海で秋田土崎港の船が破船・水主の内3人海死) 下から続く 盗み徒の男に3鞭居村徘徊是まで通り)
1859年	10月11日	安政6年	9月16日 曇	今晚寅の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (母に給させたくて代官所前郷蔵戸前切破り6度にわたり米6俵を盗み出した男に30鞭10里四方追放・番人2人に過料1貫800文宛、 上に続く
1859年	10月12日	安政6年	9月17日 快晴	(御賞、人事異動)
1859年	10月13日	安政6年	9月18日 曇	巳の刻頃より小雨降 則刻止
1859年	10月14日	安政6年	9月19日 曇	卯の刻過より小雨降 則刻止
1859年	10月15日	安政6年	9月20日 快晴	
1859年	10月16日	安政6年	9月21日 晴	申の刻過より雨降 戌の刻頃止 (御賞(金50疋・銀4兩)や酒代、去る19日夜木造り村で灰捨て場より出火・裏借家とも9軒焼失・火元百姓他村預け)
1859年	10月17日	安政6年	9月22日 快晴	亥の刻頃より雨時々降
1859年	10月18日	安政6年	9月23日 曇	昨夜よりの雨今日及時々降 夜二入同断 酉の刻頃より雷鳴 亥の刻頃止 (山上鉄太郎を大光寺組に等御検見58組?を申付ける)
1859年	10月19日	安政6年	9月24日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 亥の刻過止 (青森の大火で台場御備簡の地車等が焼失・大砲は台場に居切に付地車不用として代出来を見合わせる)
1859年	10月20日	安政6年	9月25日 快晴	(亜墨利加医の妾になり母の病氣見舞いに美服で帰村し行方不明になった浦町村の男の孫娘あり・次に帰村次第……、町々湯屋共湯銭6文宛を7文宛に値上げ願ひ・3月中まで認める)
1859年	10月21日	安政6年	9月26日 快晴	
1859年	10月22日	安政6年	9月27日 晴	(江戸で人事異動、当7月27日暮6時頃神奈川横浜で何者かが露西亞人を殺害に及び逃げ去る、人事異動、去月26日から去る25日迄並びに去る朔日から8日までに江戸家中17人が病死)
1859年	10月23日	安政6年	9月28日 曇	辰の刻過より雨時々降 夜二入同断 (昨年正月大間越御開所外井戸之沢と申すところに仙台国分町の男別死・問い合わせたが不明で持金等で庵地に埋葬)
1859年	10月24日	安政6年	9月29日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 夜二入同断 (当3月本町で盗みの男に3鞭弘前御構ひ、当御供下がり中に福嶋駅で不法の御家中4人を御留守居組等に役下げ)
1859年	10月25日	安政6年	9月30日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 夜二入同断
1859年	10月26日	安政6年	10月1日 曇	昨夜よりの雨今晚寅之刻過止 今日午の刻過より雨降 (山形某を郡奉行に等の人事異動、水練稽古で多数に御賞)
1859年	10月27日	安政6年	10月2日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 卯之刻過止 (今日剣術高覧・大寄合以上見物、乞食共助成のため晴天7日の大軽技興行・見物料1人に付き3分宛とする)
1859年	10月28日	安政6年	10月3日 曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断
1859年	10月29日	安政6年	10月4日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 (佐々木某を御使番にとの人事異動、米価を御定法で割合すると酒1升が2文目4分9厘余に相当・1升を2文目5分に商売仰せ付ける)
1859年	10月30日	安政6年	10月5日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰之刻頃止 (黒石町の井戸に毒薬を入れた容疑で托鉢僧が捕まる・申し出の通り容疑なし・胡乱な姿で往来しないよう申付ける)
1859年	10月31日	安政6年	10月6日 快晴	(南部の男と組んで手段米の油川組田沢村・油川村の男に12鞭宛所払外ヶ浜4ヶ組浦々共住居御構ひ・関係者には過料)

1859年	11月1日	安政6年	10月7日 曇	卯之刻過より雨時々降 酉之刻頃止 (今日剣術高覧・大寄合以上見物)	下から続く ドントロの入用に用立られる、赤根沢の水銀は採算が採れない・等々の報告)
1859年	11月2日	安政6年	10月8日 晴	(他領産合葉御差留につき……) 11日から続く	深浦大間越も不明確・宇鉄村明礬岩は岩間に挟まり甚だ少ない・下前村の明礬蔵は製法が改善されれば緑礬として 上に続く
1859年	11月3日	安政6年	10月9日 曇	辰之刻過より雨時々降 夜二入同断	下から続く 松平肥後守・佐竹右京大夫・酒井左衛門尉・南部美濃守並びに其の方に分けて守らせる・其の一部を与えるとの書付をいただく)
1859年	11月4日	安政6年	10月10日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 午之刻頃止 (人事異動、昨10日卯之下刻報恩寺の十一面観音が御出汗・銀5両御渡しの上加持祈祷を仰せ付け、蝦夷地を松平陸奥守・	上に続く
1859年	11月5日	安政6年	10月11日 快晴	(人事異動、軽業見物料を大軽業で道具建も物入りなので3分ではなく4分宛にする、廻山の石郷岡某の報告:耕田山に石炭なし・大然村ヤロシケ沢等には品質の悪い石炭・	8日に続く
1859年	11月6日	安政6年	10月12日 曇	(人事異動)	
1859年	11月7日	安政6年	10月13日 曇	未之刻過より小雨時々降 亥之刻過止	
1859年	11月8日	安政6年	10月14日 曇	午之刻過より小雨時々降 (今日剣術高覧・大寄合以上見物)	
1859年	11月9日	安政6年	10月15日 曇	辰之刻過より小雨時々降 午之刻過止 (領外の葉差止めで水戸からの葉売りを追返す・水戸藩には江戸から別途御挨拶、子供に預けた親が憤まず揚屋入り)	
1859年	11月10日	安政6年	10月16日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降	
1859年	11月11日	安政6年	10月17日 曇	酉之刻頃地震少し (兼平石山取り方に雇われていた男が怪我し死亡・嘉永4年二之御丸角堀の事故の例にならない御手当て鳥目6貫文下し置かれる)	
1859年	11月12日	安政6年	10月18日 曇	辰之刻頃小雨降 即刻止 (御賞、人事異動、旧穀1俵47文目立の所当新穀初相場御払1俵53文目立・御家中御買い上げ値段は1俵を53文目4分に申付ける)	
1859年	11月13日	安政6年	10月19日 曇	今晚寅之刻頃より小雨時々降 辰之刻過止 (一昨11日(6月13日付)間部下総守様の呼出で魯西亜仏蘭西英吉利阿蘭陀亜墨利加と御取替の条約書5冊と御書取1通渡される)	
1859年	11月14日	安政6年	10月20日 曇	申之刻過より雨時々降 夜二入同断 (勘定が早かった代官等に御賞・御酒代、人事異動)	
1859年	11月15日	安政6年	10月21日 曇	昨夜より之雨今日二及 時々降 (江戸で人事異動、9月12日江戸で家中2人が病死)	
1859年	11月16日	安政6年	10月22日 晴	(人事異動、米1俵代55文目とする、津出御印代:酒2斗入1樽4文目→10文目・以下御役靴1俵8→12・醬油2斗入1樽3→10・味噌3同3→10目・白酒同5→12・酢同1.5文目→2.5文目に申付ける)	
1859年	11月17日	安政6年	10月23日 快晴		
1859年	11月18日	安政6年	10月24日 晴	今晚寅之刻小雨降 則穀止 (今日御献上の鮭高覧・御不例に付き御家老も不快で月番御用人が、去月19日夜木造村の火災に被災者9軒に1俵宛9俵御手当て下し置かれる)	
1859年	11月19日	安政6年	10月25日 快晴	(人事異動)	
1859年	11月20日	安政6年	10月26日 曇	(トントロ(ドンドル)製法以来1放2文宛に御買入)	
1859年	11月21日	安政6年	10月27日 晴	(今日剣術高覧・大寄合以上見物)	
1859年	11月22日	安政6年	10月28日 曇	卯之刻過雨降 辰之刻頃止	
1859年	11月23日	安政6年	10月29日 晴	(今日八時過ぎ御判物到着、7月11日出帆の御廻船が南部領で破船・勘定小頭等を派遣・色々手当てをしている)	
1859年	11月24日	安政6年	11月1日 曇	戌の刻過より雨時々降 (この度洋銀同位の銀を以って1分銀吹増……)	
1859年	11月25日	安政6年	11月2日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 夜二入同断 (当新穀津出(1俵)御印代:玄米25文目・白米27文目・餅米27文目・白餅米29文目に申付ける)	
1859年	11月26日	安政6年	11月3日 曇	昨夜よりの雨今晚寅の刻過止 戌の刻頃より雨時々降	
1859年	11月27日	安政6年	11月4日 曇	昨夜よりの雨今日二及 卯の刻過止 (今日剣術高覧・大寄合以上見物)	
1859年	11月28日	安政6年	11月5日 晴	下から続く 関係するの複数の娘等に3里四方追放等の罰)	
1859年	11月29日	安政6年	11月6日 晴	(一昨4日夜四半時頃藤代村の灰捨場より出火・建家等焼失・代官より呵置く・役筋見分の上年貢御免とする、不埒な(女がらみ?)御留守居支配を御城付足輕に役下げ・不行状の	上に続く
1859年	11月30日	安政6年	11月7日 晴	(交代後直ちに勘定を差し出した御蔵の立会等に御賞・御酒代、人事異動、当夏薄暑と大風で平年の上納が難しい・戸山坊主(米の品種名か)が大風の前に実り米生の宜しく……)	
1859年	12月1日	安政6年	11月8日 曇	辰の刻過より雨時々降 (人事異動、御定法で割合すると酒1升が2文目4分8厘に相当・1升を申年よりの1分増を加え2文目5分8厘に1合売りを2分4文に申付ける)	
1859年	12月2日	安政6年	11月9日 曇	昨夜よりの雨今日及 時々降 戌の刻頃止	
1859年	12月3日	安政6年	11月10日 晴	(人事異動)	
1859年	12月4日	安政6年	11月11日 曇	今晚丑の刻頃より雨時々降 午の刻過止 (人事異動)	
1859年	12月5日	安政6年	11月12日 曇	(人事異動)	
1859年	12月6日	安政6年	11月13日 晴		
1859年	12月7日	安政6年	11月14日 曇	(大坂御館入茨城屋が代替わり・俵子200俵を倅に仰せ付ける)	
1859年	12月8日	安政6年	11月15日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (家内不和合の御持鍵仲間を掃除小人に役下げ)	
1859年	12月9日	安政6年	11月16日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降	
1859年	12月10日	安政6年	11月17日 晴	昨夜雪少し降 (去月17日御本丸御焼失の旨申しきたり候得共御告等なし、当6月晦日青森湊出帆の材木積み江戸廻船が7月25日南部下風呂領で破船・世話になり御礼状・金銀送る)	
1859年	12月11日	安政6年	11月18日 快晴		
1859年	12月12日	安政6年	11月19日 曇		
1859年	12月13日	安政6年	11月20日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (今日剣術高覧・大寄合以上見物、当秋御米不足に付き……上納糶は1俵に付2斗1升2合上りと2斗3升9合上り……:意味不明)	
1859年	12月14日	安政6年	11月21日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (野呂某を青森町奉行に等の人事異動、御賞、御定法で割合すると水油1升到付き8文目5厘7毛に相当・1升を8文目2分に1合売は8分2文に申し付ける)	
1859年	12月15日	安政6年	11月22日 曇	昨夜雪降 二寸程積	
1859年	12月16日	安政6年	11月23日 曇	今日雪降 二寸程積	
1859年	12月17日	安政6年	11月24日 晴	(越後商人横屋某が百沢寺後本社に釣灯籠寄付・断っている、明25日より鍛冶町で20日間の八人芸興行・札銭1人3分宛)	
1859年	12月18日	安政6年	11月25日 曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪降 三寸程積 (人事異動)	
1859年	12月19日	安政6年	11月26日 快晴	(当箱館詰め兵士代の所を不法の申し分の御家老与力を御目見以下御留守居支配に役下げ)	
1859年	12月20日	安政6年	11月27日 快晴		
1859年	12月21日	安政6年	11月28日 晴	(人事異動)	
1859年	12月22日	安政6年	11月29日 晴		
1859年	12月23日	安政6年	11月30日 晴	(砲術師範家の屋敷内に煙硝蔵を取り立て煙硝を入れているが近辺出火の節危険・野辺に建てる)	
1859年	12月24日	安政6年	12月1日 晴	昨夜雪降 五寸程積 (口達:歩引渡しは続けざるを得ない・高100石に付き150目積の御手当てを下し置かれる、人事異動)	
1859年	12月25日	安政6年	12月2日 晴	昨夜雪降 一寸程積 (今日剣術高覧・大寄合以上見物、天保の度生蠟高値で10文目懸蠟燭1挺2分5厘の所3分5厘に値上げ・当節は格別高値で生蠟1斤に付9文目余・御家中払い渡し半減)	
1859年	12月26日	安政6年	12月3日 曇	昨夜雪少し降 (江戸で人事異動、脇坂中務大輔様に報告:当7月25日並びに8月13日大風雨で田畑平均5歩6厘余の御損耗)	下から続く 迄で今年が9日遅く節に引合2日早い)
1859年	12月27日	安政6年	12月4日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積 (御賞(金100疋・銀4両)・御酒代、去月23日夕より翌24日朝迄に十三湯大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷張る・去年は11月15日朝	上に続く
1859年	12月28日	安政6年	12月5日 曇	(弘化3年改めて浦々町貯えを申付け相当量になっているはず・しかし無益な費えを省き……というような演説あり、蔵館村高伯寺と名乗り家を廻り銭10文宛受取っている偽者がある)	
1859年	12月29日	安政6年	12月6日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 二寸程積	
1859年	12月30日	安政6年	12月7日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動)	
1859年	12月31日	安政6年	12月8日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日同断 (御賞(銀3両)、人事異動、自分物入りで矢竹を植付けた木造組館岡村の男に帯刀御免の上矢竹守を仰せ付け15石御免引き)	

1860年	1月1日	安政6年	12月9日	晴	
1860年	1月2日	安政6年	12月10日	曇	今日雪少し降（御入部初の年頭で省略中ではあるが御松囃子をする様にする、人事異動） 下から続く 当年少なからず破船・明春小泊村等周辺の船も用いて輸送させる）
1860年	1月3日	安政6年	12月11日	曇	寅之刻頃より小雨時々降（御賞（金500疋・金300疋・金1両・金200疋・銀3両）・御酒代、人事異動） 下から続く 6000俵等10500俵は十三より鰺ヶ沢に小廻・十三小廻し船は 上に続く
1860年	1月4日	安政6年	12月12日	晴	亥の刻過地震少し（御賞（銀3両）、人事異動、藤崎御蔵の14000俵浪岡御蔵の25000俵の39000俵を青森下げ・石渡御蔵の10000俵等の108500俵を鰺ヶ沢下げ・金木御蔵の 上に続く
1860年	1月5日	安政6年	12月13日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 三寸程積
1860年	1月6日	安政6年	12月14日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積（御賞（銀3両）・御酒代、人事異動、長崎周りの舶来鉄砲の注文をとっている）
1860年	1月7日	安政6年	12月15日	晴	昨夜雪少し降
1860年	1月8日	安政6年	12月16日	晴	
1860年	1月9日	安政6年	12月17日	晴	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降（人事異動、経書・剣術・槍術御稽古申上げた4人に御祝儀の御歳暮金500疋宛・全部で金5両、御本城御白砂前御櫓敷板江水気登り……床下改善）
1860年	1月10日	安政6年	12月18日	晴	昨夜雪降 五寸程積（乞食の母が稀なる高年・御酒代鳥目1貫500文と御米1俵下し置かれる、御用達並びにその加担20人に御酒・御吸物・引肴等下し置かれる、人事異動、御賞）
1860年	1月11日	安政6年	12月19日	曇	下から続く 廻りの船として明春帰帆の処で200両で買い入れる、当8月に数艘破船の平田船（小廻り）1艘40両として5艘分200両の拝借を申し付ける、流木1巻に付30目値段とする）
1860年	1月12日	安政6年	12月20日	晴	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降（新規合船350石積の入用400両余・200両余の未納で船はまだある・200両で御手船に買わないかとの話・先だって栄通丸が破船しスツ・ 上に続く
1860年	1月13日	安政6年	12月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降（人事異動、青森で正月5日から30日間講釈師興行・札銭3分宛、来年度の御松囃子の伝授に6両3歩2朱を要している）
1860年	1月14日	安政6年	12月22日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程積（人事異動）
1860年	1月15日	安政6年	12月23日	曇	下から続く スツ・領よりセタナイ領境迄下し置かれ乙部村よりセタナイ領警衛仰せ付けられる）
1860年	1月16日	安政6年	12月24日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降（人事異動、今泉鉄山で○（金偏に且）が目形273貫800目・○（金偏に品）が目形152貫目吹立等の記録がある：意味不明、公儀から西蝦夷地の内 上に続く
1860年	1月17日	安政6年	12月25日	晴	（寺社に御賞）
1860年	1月18日	安政6年	12月26日	曇	今日雪少し降（どうでも良いことだけど侍従様（先々代）の後に大殿様（先代）が出てくる）
1860年	1月19日	安政6年	12月27日	曇	今日雪少し降（御蔵立会御蔵奉行17人検見方3人に御賞（金100疋・200疋））
1860年	1月20日	安政6年	12月28日	晴	（知行書き出し担当に下され物、人事異動、用語：トントロ製法、人事異動、甲冑の新製並びに修復に骨折りの21人等に御酒代等多数に御賞）
1860年	1月21日	安政6年	12月29日	晴	（青森御印付1俵64文目鰺ヶ沢63文目立、この度非常の大赦として関係者評議：蟄居は隠居・一間所入りの面々は蟄居等約140ページにわたる検討結果あり）
1860年	1月22日	安政6年	12月30日		（日記が保存されておらず空欄）
1860年	1月23日	安政7年	正月1日	快晴	
1860年	1月24日	安政7年	正月2日	曇	今日雪少し降
1860年	1月25日	安政7年	正月3日	曇	昨夜雪降 四寸程積 今日雪少し降（今晚御謡初・御入部初てに付御松囃子、八人芸の興行を認めたが引風で芸人不足・他の芸を加えることも許す）
1860年	1月26日	安政7年	正月4日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 七寸程積
1860年	1月27日	安政7年	正月5日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪降 二寸程積
1860年	1月28日	安政7年	正月6日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1860年	1月29日	安政7年	正月7日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降（今日七種の御祝儀）
1860年	1月30日	安政7年	正月8日	晴	
1860年	1月31日	安政7年	正月9日	曇	昨夜雪降 一寸程積 今日雪少し降
1860年	2月1日	安政7年	正月10日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1860年	2月2日	安政7年	正月11日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 五寸程積（毛内有右衛門を大組足軽頭に等多数の人事異動、この度御持鍵奉行を仰せ付けられた田井隼人のトントロ製法方指図は是まで通りと仰せ付ける）
1860年	2月3日	安政7年	正月12日	晴	
1860年	2月4日	安政7年	正月13日	曇	未の刻過小雨降 即刻止
1860年	2月5日	安政7年	正月14日	曇	申の刻過より小雨降 酉の刻過止
1860年	2月6日	安政7年	正月15日	晴	（弓師・矢師計5人が御矢並びに御弦差上げる・鳥目1貫文宛下し置かれる）
1860年	2月7日	安政7年	正月16日	晴	
1860年	2月8日	安政7年	正月17日	曇	今日雪降 二寸程積（この度の御本丸炎上に津軽家から御用金に3000両差し加え願ひ、江戸で浜町御殿御普請御用懸等に御賞）
1860年	2月9日	安政7年	正月18日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1860年	2月10日	安政7年	正月19日	曇	今日雪少し降
1860年	2月11日	安政7年	正月20日	晴	昨夜雪降 二寸程積（人事異動）
1860年	2月12日	安政7年	正月21日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降
1860年	2月13日	安政7年	正月22日	曇	今日雪少し降（人事異動）
1860年	2月14日	安政7年	正月23日	曇	今日雪少し降
1860年	2月15日	安政7年	正月24日	曇	今日雪少し降（小野某を鰺ヶ沢町奉行に等の人事異動）
1860年	2月16日	安政7年	正月25日	晴	（御定法で割合すると当寒造り酒1升到付き2文目5分8厘余に相当・1升到付き2文目6分8厘に1合売りは2分5文に申付ける、人事異動）
1860年	2月17日	安政7年	正月26日	曇	午の刻より雨降 即刻止
1860年	2月18日	安政7年	正月27日	曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降（去る18日大秋村領で駒越組村市村の獵師が6人組で熊取る、人事異動）
1860年	2月19日	安政7年	正月28日	晴	（人事異動）
1860年	2月20日	安政7年	正月29日	快晴	
1860年	2月21日	安政7年	正月30日	快晴	子の刻頃より小雨降 寅の刻過止（人事異動、五所川原村等で南部椀売り：五所川原（三ツ椀161具・同小16具・汁椀57具）他の村にも・持ち込んだ者は逃げ去る、造酒御差留めとする）
1860年	2月22日	安政7年	2月1日	快晴	（人事異動、保字銀小玉銀など古い銀を公儀が回収している、年内に作成予定のケウエル筒50挺中30挺の試打ちを4・5日に行う）
1860年	2月23日	安政7年	2月2日	曇	午の刻過より雨降 申の刻頃止
1860年	2月24日	安政7年	2月3日	曇	今日雪降 二寸程積
1860年	2月25日	安政7年	2月4日	曇	昨夜雪少し降 今日雪降 二寸程積
1860年	2月26日	安政7年	2月5日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降
1860年	2月27日	安政7年	2月6日	曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪少し降 下から続く 下し置かれる、不明日に月峰院開山堂板敷下に年齢30歳位の男で袖乞鉢の者御死・足軽目付見分の上取り片付ける）
1860年	2月28日	安政7年	2月7日	快晴	（長尾某を御目付に等の人事異動、深浦御仮屋南の空地に矢竹を植えさせる、座当頭から西蝦夷地の内で地所を拝領関する御手当て申出・1人に付15文宛101文目2分5厘を 上に続く
1860年	2月29日	安政7年	2月8日	晴	（頃日用心向き宜しからず・無提灯で往来するな等の触れ、医学館が他領からの薬を取上げている）

1860年	3月1日	安政7年	2月9日	快晴		
1860年	3月2日	安政7年	2月10日	快晴	(不明日に非人鉢の者が東長町で倒死、今朝(8日朝かも)今某門脇に猿賀村の袖乞倒死、26カ年等の永期間勤めた庄屋に御酒代)	
1860年	3月3日	安政7年	2月11日	曇	巳の刻過より小雨降 酉の刻過止	
1860年	3月4日	安政7年	2月12日	快晴	(近來米価高値・金給の面々に御手当ての米を渡す)	
1860年	3月5日	安政7年	2月13日	晴	下から続く 嫁と称して娘を勾引の黒石町の男を召捕り揚屋入り)	
1860年	3月6日	安政7年	2月14日	曇	午の刻過より雨降 即刻止 辰の刻過地震少し 下から続く 1発1文8歩5厘相当、荷揚げ場でなかった深浦湊での荷揚げを年限を限って認めていたが今後5年間認める、	上に続く
1860年	3月7日	安政7年	2月15日	曇	今日雪少し降 (北岡太淳の勤料の内3人扶持御加増等の人事異動、トントロ製方は迄1製1800発の処以来2000発上納掛合6人にて御賄米42製にて100日分6石下し置かれる・	上に続く
1860年	3月8日	安政7年	2月16日	曇	今日雪少し降 下から続く 医学館より受取ること・等々医学薬学は医学館絶対の申付けあり、去る9日赤石組久田村の猟師共5人が深浦村領で熊狩取る、人事異動)	
1860年	3月9日	安政7年	2月17日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (御賞、人事異動、三奉行申付け:他領合葉御差し止め・合葉の調合は医学館の吟味と印鑑を受けろ・ホルトスウルユス等10品は	上に続く
1860年	3月10日	安政7年	2月18日	晴	(久渡寺境内の山に薪取りが入らぬようにとの触れ、和徳組で用水堰を新に掘って他人の水を盗んだ事件あり、棟方晴吉等の一問所愼を御免の上塾居等とする)	
1860年	3月11日	安政7年	2月19日	快晴		
1860年	3月12日	安政7年	2月20日	曇	今日雪降 三寸程積 (箱館御奉行の密使と申し唱え当海岸通を……召捕る)	
1860年	3月13日	安政7年	2月21日	曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪少し降 (去る3日夜後潟組小橋村で板蔵から脇差衣類等18品盗み取られる)	
1860年	3月14日	安政7年	2月22日	晴		
1860年	3月15日	安政7年	2月23日	晴		
1860年	3月16日	安政7年	2月24日	晴	(去る18日夜広須組上木造村で灰捨場より出火・類焼1軒焼失・火元百姓他村預け、金木広田広須木造4ヶ組村々の去作格別難作・種粃代米1467俵拝借願い・五所川原御蔵米を申出の通り)	
1860年	3月17日	安政7年	2月25日	晴	(浪岡組高館村の法嶺庵と同村の者共が庵地でもめている)	
1860年	3月18日	安政7年	2月26日	曇	下から続く 藩に金を100両貸さないかとの打診・早速雇いスツ・に廻すようにする)	
1860年	3月19日	安政7年	2月27日	曇	今日雪少し降 (人事異動、去る19日夜木造新田吉野村で灰捨て場より出火・火元日雇呵置く、青森の村林屋が松前表より返金の代わりに200石積みの船を150両で買いたいが	上に続く
1860年	3月20日	安政7年	2月28日	曇	昨夜雪降 二寸程積	
1860年	3月21日	安政7年	2月29日	曇	今日雪少し降	
1860年	3月22日	安政7年	3月1日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1860年	3月23日	安政7年	3月2日	曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (人事異動)	
1860年	3月24日	安政7年	3月3日	曇	下から続く この節米価高値・座当頭から錢1人につき1貫文の御手当て願い・錢高783文目3分3厘を下し置かれる)	
1860年	3月25日	安政7年	3月4日	晴	昨夜雪少し降 (御賞、菜種油値段1升6文目3分5厘に申し付ける、江戸で人事異動) 下から続く 大久保の御本陣菅原某が御払馬願い・御手当て2両2歩下し置かれる、	上に続く
1860年	3月26日	安政7年	3月5日	快晴	(剣術高覧、去月25日飯詰組前田野目村の猟師5人組が後潟増川村領で熊狩取る・尤熊胆は北岡某方に製方に差し遣わず、碇ヶ関街道の松並木を伐るなどの触れ、秋田	上に続く
1860年	3月27日	安政7年	3月6日	快晴		
1860年	3月28日	安政7年	3月7日	快晴		
1860年	3月29日	安政7年	3月8日	晴	(去る9月所々で衣類36品盗んだ元町村の男に大赦以前として御用捨親引渡し)	
1860年	3月30日	安政7年	3月9日	晴		
1860年	3月31日	安政7年	3月10日	晴		
1860年	4月1日	安政7年	3月11日	曇	今暁子の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (今日剣術高覧、貯え粃20俵等を差出した十三町等の名主・年寄に御賞)	
1860年	4月2日	安政7年	3月12日	曇	(岩木川出水で駒越渡場の両船通路相止める・今屋四つ頃通路相成る、国上寺の不動尊御出汗・神楽料等を渡す・五山に御祈禱を仰せ付ける)	
1860年	4月3日	安政7年	3月13日	晴	(往來差留の藤崎仮橋が昨12日落水・八時頃より長船馬船とも通路相成る)	
1860年	4月4日	安政7年	3月14日	晴	(去る7月無印形の合葉を売った本町の薬屋を戸×15日薬御取上げ・類似多数、造酒差し止めで酒屋ども難渋・酒値段1升を2文目7分5厘に1合売りは是迄の居値段に申付ける)	
1860年	4月5日	安政7年	3月15日	晴	(青森で大火の節御用荷物等が焼失と手段し1800両余を借財して出奔の男あり・博打・酒や米隠し津出・半分は容疑のみかな?)	
1860年	4月6日	安政7年	3月16日	快晴		
1860年	4月7日	安政7年	3月17日	曇	昨夜よりの雨卯の刻頃止 (御賞、去月16日行駄で(南部に)送り返しのが途中戸門村で死亡)	
1860年	4月8日	安政7年	3月18日	晴	(数年御備立内習等に取扱・武芸・砲術稽古出精として46人に銀(1〜7枚)下し置かれる)	
1860年	4月9日	安政7年	3月19日	快晴	下から続く 馬屋を造る3人に250目宛都合750目の拝借を申付ける、古金を買入れる旅人が御国にも来ているらしい・疑わしい者が居たら申し出るよう申付ける)	
1860年	4月10日	安政7年	3月20日	晴	(御賞、去る17日暮広田組鶴ヶ岡村の灰捨場より出火・建家建馬その他焼失・火元百姓を御代官にて呵置く、去る17日夜広田組喰川村の灰捨て場より出火・建家焼失・火元呵置、	上に続く
1860年	4月11日	安政7年	3月21日	曇	(昨年格別劣作・巳年(今年は申年:安政4年)以来の減石、金山御本陣柴田某から昨年の破損を回復するためのお金70両拝借願い・20両下し置かれる)	
1860年	4月12日	安政7年	3月22日	晴	(御関所を通す際の礼儀?が示されている、今日剣術和術を高覧、柏木組村々難渋・新溜池の造成と期間を限っての田方成下(減税)を申し出る・用水は吟味するとの返事あり)	
1860年	4月13日	安政7年	3月23日	曇	辰の刻過より雨降 酉の刻頃止	
1860年	4月14日	安政7年	3月24日	晴	(去る5日飯詰組前田野目村の猟師組合5人が三蔵領で熊狩取る・熊胆は北岡方に製方に差し遣わず、去る5日猿賀組袋村の猟師組合4人が金木組小泊村で熊狩取る・前と同じ)	
1860年	4月15日	安政7年	3月25日	曇	巳の刻頃小雨降 即刻止 (町奉行2人が式部少輔様より川鯉1尺宛贈られる、去る19日赤石組松原村の猟師組合3人が深浦村領で熊狩取る・熊胆は北岡方に製方に	欄外(*)に続く
1860年	4月16日	安政7年	3月26日	快晴		
1860年	4月17日	安政7年	3月27日	快晴		
1860年	4月18日	安政7年	3月28日	曇	巳の刻過より小雨降 即刻止 (大筒方下役兼蟹田町同心等10人を不埒として愼・戸×等)	
1860年	4月19日	安政7年	3月29日	曇	辰の刻過より雨降 酉の刻頃止	
1860年	4月20日	安政7年	3月30日	晴	(昨19日迄に十三潟前後共残らず氷明ける) 下から続く 去年は2月23日までに氷明・今年は24日遅く節に引合14日遅い)	
1860年	4月21日	万延元年閏3月1日	晴	(西館某を勘定奉行に等の人事異動、200人位に御賞(銀3両・銀2両)・御酒代(鳥目700文・500文)、当月17日より18日迄十三潟大湊川尻より小俣川尻迄残らず氷明ける・	上に続く	
1860年	4月22日	万延元年閏3月2日	晴	戌の刻頃より雨時々降		
1860年	4月23日	万延元年閏3月3日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 巳の刻過雲降(雲と書いてある) 申の刻過止 戌の刻頃より雨時々降 (藤崎川渡が昨2日より長船通路相成る)		
1860年	4月24日	万延元年閏3月4日	曇	昨夜よりの雨今日ニ及 午の刻頃止 巳の刻頃雷鳴 (人事異動、岩木川が2日出水・五時頃往來差留める・3日屋落水四つ半時頃両船通路相成る)		
1860年	4月25日	万延元年閏3月5日	晴	(水戸出生生弘道という蘭学者?が来ている・役立つもので長く逗留させる)		
1860年	4月26日	万延元年閏3月6日	曇	卯の刻過より小雨降 辰の刻頃止		
1860年	4月27日	万延元年閏3月7日	晴	(御賞、人事異動)		
1860年	4月28日	万延元年閏3月8日	晴	(人事異動、御賞、去る12月箱館御奉行の密使と唱え入牢中の篠塚某を碇ヶ関口から秋田返し・乞食小屋引き回し見知らせる)		
1860年	4月29日	万延元年閏3月9日	晴			
1860年	4月30日	万延元年閏3月10日	曇	(人事異動、去月27日夜五ツ半時頃大手御門先御堀に網入れ殺生いたし候者あり・見咎めたら網を置き捨て行方不明・網は御取上げ入札払いとする、高屋主計昨夜病死)		

(*)差し遣わず、紙漉方入用の三俣木をこの度御下しに付漆方木苗畑等に植付ける。大殿様が御上屋敷から横川御中屋敷に転居、江戸で人事異動)

(*)差し遣わず、紙漉方入用の三俣木をこの度御下しに付漆方木苗畑等に植付ける、大殿様が御上屋敷から横川御中屋敷に転居、江戸で人事異動)

1860年	5月1日	万延元年閏3月11日	曇	
1860年	5月2日	万延元年閏3月12日	曇	寅の刻頃より雨時々降 卯の刻過止
1860年	5月3日	万延元年閏3月13日	晴	
1860年	5月4日	万延元年閏3月14日	曇	辰の刻頃小雨降 則刻止 (人事異動、碇ヶ関町奉行山上鉄太郎に15日登城を申し遣わす)
1860年	5月5日	万延元年閏3月15日	曇	(三組の御奉公見習いの際刀鎗の師匠等を確認させる、江戸深川越中島訓練場に御据付の筒は是まで陪臣江は御貸し渡しがなかったが主人よりの願いにより拝借できるようになった)
1860年	5月6日	万延元年閏3月16日	曇	
1860年	5月7日	万延元年閏3月17日	快晴	(今日槍術高覧)
1860年	5月8日	万延元年閏3月18日	晴	
1860年	5月9日	万延元年閏3月19日	快晴	
1860年	5月10日	万延元年閏3月20日	曇	辰の刻過より雨時々降 午の刻頃止 (他領から入る鍋が多く鍋屋が難渋・当分他入御差留め5歩通り値下げ)
1860年	5月11日	万延元年閏3月21日	曇	辰の刻頃雨降 則刻止 (上村で3ヵ年限り中村になっていた浪岡組中野村から中村に位下げ願ひ・当年より3ヶ年間認める)
1860年	5月12日	万延元年閏3月22日	快晴	(今日長刀高覧、去月29日金木新田福井村で大川水除堤破損長泥新村14軒で潰家2軒他に3軒も潰家同様・潰家2軒に1俵宛その他の12軒に2斗宛の合せて8俵の御手当米を下し置かれる)
1860年	5月13日	万延元年閏3月23日	快晴	
1860年	5月14日	万延元年閏3月24日	晴	酉の刻過より雨降 (今日外馬場で役馬稽古を御家老中が見分、人事異動、去る21日国上寺門前の男が鐙様の物で暴れ町同心が捕え揚屋入り、当年の芦生宜しからず……昨年同様とする)
1860年	5月15日	万延元年閏3月25日	曇	昨夜よりの雨今日二及 午の刻頃止 28日から続く 火元他村預け、去る25日夜町油川で出火・55軒焼失・火元他村預け、江戸で人事異動、去る朔日年号を改元)
1860年	5月16日	万延元年閏3月26日	曇	申の刻過より雨時々降 (当月2日御蔵町で川流の一番町の蕎麦切男が赤田組小幡村川原に死骸で上がる) 下から続く 他に痛家4軒・焼失4軒に御手当て米1俵宛4俵下し置かれる)
1860年	5月17日	万延元年閏3月27日	曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻頃止 (硝石造りに斃馬肉入用・大駒駒越高杉3ヶ組の斃馬は持込売りを申付ける、去る15日夜大鰐組乳井村で出火・類焼とも4軒焼失 上に続く
1860年	5月18日	万延元年閏3月28日	晴	(人事異動、剣術・兵学・槍術・砲術・射芸・和術・長刀の師範と門弟に御賞(金150疋～300疋・鳥目2貫文)、去る25日夜大光寺組金屋村の灰捨場より出火・類焼共2軒等焼失・ 25日に続く
1860年	5月19日	万延元年閏3月29日	晴	
1860年	5月20日	万延元年閏3月30日	快晴	(人事異動、昨25日夜四時過町油川で出火・本家53軒借家10軒焼失)
1860年	5月21日	万延元年	4月1日 曇	今晩子の刻頃より雨時々降 (人事異動、改元の年号は万延と触れる) 下から続く 類焼共2軒等焼失・火元百姓他村預け)
1860年	5月22日	万延元年	4月2日 曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (本町五丁目成田屋と新屋村の葛西半十郎が田地の所有でもめている・古い話らしい、去月28日明け猿賀組中川村で味噌煮釜より出火・ 上に続く
1860年	5月23日	万延元年	4月3日 快晴	
1860年	5月24日	万延元年	4月4日 快晴	(今日外馬場で馬術高覧・大寄合以上の面々見物、去る12月箱館表より帰国の節洞懸の船よりアメリカ人の着類並びに金子盗み取り逃げ参った川部村の百姓を揚屋入り)
1860年	5月25日	万延元年	4月5日 曇	卯の刻頃小雨降 則刻止 (鯉ヶ沢町でも屋敷地の所有に関する揉め事がある)
1860年	5月26日	万延元年	4月6日 快晴	
1860年	5月27日	万延元年	4月7日 快晴	(砲家煙硝蔵を富田御屋敷跡と向外瀬領古大星場跡の2ヶ所に取り建てる)
1860年	5月28日	万延元年	4月8日 曇	午の刻頃より雨時々降 申の刻過止 (人事異動、公儀人相書き:当申29歳・中文中肉・鼻筋通小鼻左之方二本く路(ほくろ)有之等々)
1860年	5月29日	万延元年	4月9日 曇	亥の刻頃より雨時々降
1860年	5月30日	万延元年	4月10日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 (海岸村々で隠し売り買いの者多い・去月2日土手町の飴触売が深泊辺りより魚を買い集め馬2疋に積んで捕まり日市に差出す・清算?しようとしたら行方不明)
1860年	5月31日	万延元年	4月11日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止 (人事異動)
1860年	6月1日	万延元年	4月12日 晴	下から続く 御白砂御門の大扉開ける等々の指示あり、去月22日青森出帆の江戸廻船が当月朔日南部大浦に難船の上入津・勘定小頭と御徒目付を派遣)
1860年	6月2日	万延元年	4月13日 曇	子の刻頃より雨時々降 午の刻過止 (15日の御判物到着に関し富田町陰より外南御門迄町同心2人御先払、御門番人通行の節下座・御門番与力麻上下着用、武者屯並びに 上に続く
1860年	6月3日	万延元年	4月14日 快晴	
1860年	6月4日	万延元年	4月15日 晴	(今日箱館詰物頭工藤某が出立、人事異動、御賞・御酒代、去年出奔人調:2家7人、4月朔日より6文ツツを湯屋の申し出により7文ツツとする、所々で盗みの男のを吟味中揚屋入り)
1860年	6月5日	万延元年	4月16日 晴	(今日御判物到着、江戸表で大郷某が一問所から出奔)
1860年	6月6日	万延元年	4月17日 快晴	(今日武器高覧)
1860年	6月7日	万延元年	4月18日 快晴	(今日外馬場で木立要吉門弟の馬術高覧、人事異動、武芸出精として17人に御賞(金200疋))
1860年	6月8日	万延元年	4月19日 晴	下から続く 諸組村々の内昨年柄減石・飯料差支え当耕作相成兼候者共拝借米願ひ・高19860俵の内郡所備6766俵余米残る……・意味不明)
1860年	6月9日	万延元年	4月20日 曇	辰の刻過より雨降 酉の刻頃止 (去る15日夜広須組沼館村の灰捨場より出火・建家村貯穀100俵等焼失・火元御代官にて呵置く、松前箱館スツ・陣屋工事関連で御賞・御酒代、 上に続く
1860年	6月10日	万延元年	4月21日 曇	(砲術稽古出精の小給の者共38人に勤料増)
1860年	6月11日	万延元年	4月22日 快晴	(旧冬雪下になった尾太山仲間2人がこの節死骸として見える・片付ける)
1860年	6月12日	万延元年	4月23日 晴	
1860年	6月13日	万延元年	4月24日 曇	(松前両所(箱館とスツ・)陣屋御取建に精勤等に付き48人に御賞(金500疋・金150疋・金1両2歩・金100疋・金1両・鳥目5貫文・鳥目4貫文・鳥目500文・銀5両等々))
1860年	6月14日	万延元年	4月25日 晴	(今日所々御櫓高覧)
1860年	6月15日	万延元年	4月26日 晴	
1860年	6月16日	万延元年	4月27日 晴	(今日スツ・詰物頭蒔苗某が帰着、大坂表より買付けの仕上がり綿1把に付き3文目2分4毛余に相当・御家中より御差引の仮値段は3文目2分で居値段とする)
1860年	6月17日	万延元年	4月28日 快晴	(今日外馬場で馬術高覧、人事異動)
1860年	6月18日	万延元年	4月29日 晴	
1860年	6月19日	万延元年	5月1日 快晴	(田井隼人を濱町御側御用人に等の人事異動)
1860年	6月20日	万延元年	5月2日 曇	辰の刻頃より雨降 未の刻過止
1860年	6月21日	万延元年	5月3日 晴	
1860年	6月22日	万延元年	5月4日 曇	亥の刻過より (トントロ製法の田井隼人が御役替で……)
1860年	6月23日	万延元年	5月5日 曇	昨夜よりの雨今日二及 巳の刻過止
1860年	6月24日	万延元年	5月6日 晴	
1860年	6月25日	万延元年	5月7日 曇	卯の刻過より雨時々降 申の刻頃止 (人事異動)
1860年	6月26日	万延元年	5月8日 曇	(去冬より売出米が不足中に値段を下げた小売米を差出した男達に御賞等)
1860年	6月27日	万延元年	5月9日 晴	(主人の名を語り金品を語り取った揚屋の男に9鞭弘前町御構の上居村徘徊はまで通り)
1860年	6月28日	万延元年	5月10日 曇	
1860年	6月29日	万延元年	5月11日 曇	卯の刻頃より雨降 午の刻過止 申の刻過より雨降 (御判物付添下がりの福眞万次郎等の8人に御賞御酒代(金100疋・鳥目1貫500文・鳥目700文等)、松前志摩守の同勢245人)
1860年	6月30日	万延元年	5月12日 曇	昨夜よりの雨今日及 巳の刻過止 今晩寅の刻頃より西南の風強し 辰の刻過止

1860年	7月1日	万延元年	5月13日 晴	酉の刻過ぎより雨降 下から続く 隠居した親が浮帯(辞書には見えないが浮き袋のようなものか)を作り差上げる・御酒代鳥目15貫文(大金です)下し置かれる)
1860年	7月2日	万延元年	5月14日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止 (過料は30日内に上納となっているが滞納して大赦があればどうなるかと揉めて?) 下から続く 付ける、町同心の 上に続く
1860年	7月3日	万延元年	5月15日 曇	(山田某を諸手足軽頭格に等の人事異動、御賞のような銀数枚下される、今泉山で吹立てた鉄を銭100目に付き8貫目で2箇貫上げ明珍方鍛方と鉄砲師共江1箇宛御渡し仰せ 上に続く
1860年	7月4日	万延元年	5月16日 曇	
1860年	7月5日	万延元年	5月17日 曇	
1860年	7月6日	万延元年	5月18日 曇	(長柄奉行格都奉行御武具奉行兼後藤門之丞等の武具奉行等5人に金100疋・7人に金2朱・26人に鳥目300文〜500文、人事異動)
1860年	7月7日	万延元年	5月19日 曇	下から続く 5文目1分5厘に申付ける)
1860年	7月8日	万延元年	5月20日 晴	(松前志摩守様の同勢236人・内51人が御本陣(村林平左衛門)泊余は外宿、青田の内笛吹くなどの触れ、御建駒の飼料が格別高値・とても御定め値段で上納できない・1疋に付 上に続く
1860年	7月9日	万延元年	5月21日 晴	(夜宮の節人家近くで火花小筒等を打放すなどの触れ、大円寺五重塔御普請中、小栗山の土地の所有権でもめている・証文に張紙・入墨が認められ耕作者に返している・旧例も示している)
1860年	7月10日	万延元年	5月22日 快晴	(人事異動、来月2日より水練稽古の触れ)
1860年	7月11日	万延元年	5月23日 晴	
1860年	7月12日	万延元年	5月24日 曇	辰の刻過ぎより雨降 夜二入同断 (人事異動)
1860年	7月13日	万延元年	5月25日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 (人事異動、今泉鉄山弥増盛山二相成候江共……、1箇180目値段を以て上納するよう申付ける:鉄の一部は出来嶋等から鉄砂を取り集めるともある)
1860年	7月14日	万延元年	5月26日 曇	申の刻過ぎより雨降 酉の刻過止
1860年	7月15日	万延元年	5月27日 曇	(富田御屋敷跡に2人(阿部・千葉)の煙硝蔵出来) 5月29日から(内容的には6月1日から)続く 去月25日夜五半時頃油川村で出火・家63軒・土蔵制札幌馬屋各1ヶ所と公儀に報告)
1860年	7月16日	万延元年	5月28日 快晴	(山崎某を御城付足軽頭に等の人事異動、大坂廻船の下乗が病気で歩けないとして軽尻馬(からじりうま)を雇う金を借りて帰国・嘘がばれて拝借賃銭213文目1分6厘を10ヶ月割に差し引く)
1860年	7月17日	万延元年	5月29日 曇	申の刻頃より小雨降 則刻止 下から続く 払米・定例廻米高53342石・大坂廻米:米10000石(8000石家中扶持米・払米2000石・定例廻米高37250石)と公儀に報告、 5月27日に続く
1860年	7月18日	万延元年	6月1日 曇	卯の刻過ぎより雨降 辰の刻過止 (人事異動、去月28日江戸で河野某を用入・矢川某を大寄合格に等の人事異動、当卯年江戸廻米:米30000石(18000石家中扶持米・12000石 上に続く
1860年	7月19日	万延元年	6月2日 快晴	(人事異動、85人?に御賞(ほとんど銀3両))
1860年	7月20日	万延元年	6月3日 快晴	
1860年	7月21日	万延元年	6月4日 晴	(人事異動、大赦の対象者を検討している・安政2年に松前からの罪人?を取り逃がした諸手足軽福真今八の倅兵太も検討対象になっている、半分くらいは許されたのかな)
1860年	7月22日	万延元年	6月5日 曇	午の刻頃より小雨降 即刻止 (漆小仕立等に数十人に御免引き増・19人に苗字帯刀御免新たな申付け数十人、御留守居与力が北之丸御門番所で不締り・他出差留め)
1860年	7月23日	万延元年	6月6日 曇	下から続く 松前から帰帆の節アメリカ人の衣類並びに金子を盗み取った男を大赦以前として揚屋から出す)
1860年	7月24日	万延元年	6月7日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 (深浦湊で日和待ち中に勝手な荷揚げ商売がある・鯺ヶ沢の間屋共からクレーム・鯺ヶ沢廻りの船から荷を降ろさせないように申し付ける、 上に続く
1860年	7月25日	万延元年	6月8日 曇	昨夜よりの雨今晩寅の刻頃止 (出精の別段御用に御賞(金100疋)下し置かれる、人事異動)
1860年	7月26日	万延元年	6月9日 曇	申の刻頃雨降 則刻止
1860年	7月27日	万延元年	6月10日 晴	未の刻過ぎより雷鳴 申の刻過止 申の刻頃より雨降 夜二入同断 (去月27日細川越中守様御死去、天気不正に付四社に風雨順時五穀成就之重キ御祈禱を仰せ付ける)
1860年	7月28日	万延元年	6月11日 曇	昨夜よりの雨今日二及 時々降 未之刻頃止 (閏3月4日茂森町覚仙町で変死の男:腰縄つきで預けられたもので雪隠で縊死に見える、津軽式部少輔様破ヶ閣御下り上下99人)
1860年	7月29日	万延元年	6月12日 晴	(人事異動、去る10日猿賀組下浅瀬石村で鼠穴から出火・建家外馬屋2軒等焼失・火元高無を代官にて呵置く、頃日天気合不宣候二付五山に重き御祈禱を申付ける)
1860年	7月30日	万延元年	6月13日 晴	
1860年	7月31日	万延元年	6月14日 曇	(丹後者の詮索送返の触れ、人事異動、五穀神江日和上御神楽差上げる、去る午未両年(昨年一昨年)は目屋野沢出流木が無事土場着・例年御定渡620巻位・余るので配分を検討している)
1860年	8月1日	万延元年	6月15日 晴	(御家老御城代が差上げた菓子:満たれかん大2箱・紅みそれ40、御山の木盗伐の大罾組島田村の男を揚屋入、御家中?宅に忍び入り盗みの男を揚屋入り)
1860年	8月2日	万延元年	6月16日 曇	卯の刻過ぎより雨時々降 辰の刻過雷鳴 則刻止 雨申の刻過止
1860年	8月3日	万延元年	6月17日 曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (人事異動) 下から続く 一間所押し破り出奔・身上召上げ家財欠所)
1860年	8月4日	万延元年	6月18日 晴	(土手町?に止宿中の秋田大館の男が運車出来方心得の者・出来まで止宿させる、青森新組足軽等の人事異動) 下から続く 御留守居組に役下げ・犯人は去る4月27日夜 上に続く
1860年	8月5日	万延元年	6月19日 晴	下から続く 江戸で今井某を大寄合格に等の人事異動、一昨年7月29日江戸の御小納戸の御金275両を盗まれた担当御小納戸を退役親に返す・犯人の遊び仲間を 上に続く
1860年	8月6日	万延元年	6月20日 曇	申の刻過ぎより雨時々降 夜二入同断 (外瀬村領古星場に御取立の砲家5人分の煙硝蔵出来、不相応な衣服を持つ男を大赦前として揚屋を出す・内容は一寸した小説の内容、 上に続く
1860年	8月7日	万延元年	6月21日 曇	昨夜よりの雨今日二及 辰の刻過止 (稽古出精の大筒隊員に御賞(銀3両)、石炭等を探している、自船を越前船とした男に過料銭1貫800文、松前に女子勾引等の者に大赦以前として軽罪)
1860年	8月8日	万延元年	6月22日 快晴	(理由は理解できないが赤石組から馬300疋他払い願ひ?、祢ふたを大きく細かい細工をするなどの触れ、去月12日暮頃稽町に手負の者・喧嘩・和談)
1860年	8月9日	万延元年	6月23日 快晴	
1860年	8月10日	万延元年	6月24日 快晴	
1860年	8月11日	万延元年	6月25日 快晴	(不筋の貯え扱扱いの大光組手代を御取放し(百姓に返す?)慎)
1860年	8月12日	万延元年	6月26日 曇	下から続く 重キ御祈禱を仰せ付ける)
1860年	8月13日	万延元年	6月27日 曇	下から続く 文目5分の上納を申付ける、昨26日夜大光寺組金屋村で出火・隣家等類焼・火元百姓他村預け、頃日天気不正に付両社並びに長勝寺に風雨順時五穀成就の 上に続く
1860年	8月14日	万延元年	6月28日 曇	午の刻頃より小雨降 則刻止 (佐竹様にて出来に相成り候七輪車(何でしょう)出来心得の秋田大館の男に亀甲町大工見習わせる・木品の儀は下され方の上鉄物代1貫145 上に続く
1860年	8月15日	万延元年	6月29日 晴	
1860年	8月16日	万延元年	6月30日 快晴	下から続く 水銀目形3貫目と緑鑾10貫目が輸送中に減って届いている・荷物の捲え方に注意している?)
1860年	8月17日	万延元年	7月1日 晴	(去る14日仙台の旅人が大畑村で男と高論(口論?)手傷を負わせて妻娘同道で当領に入ったとの風説があり南部の目明し等3人が野内関所から入れる、トントロ製法方入用の 上に続く
1860年	8月18日	万延元年	7月2日 晴	
1860年	8月19日	万延元年	7月3日 快晴	下から続く 銅銭40文にて1文目に相当する)
1860年	8月20日	万延元年	7月4日 快晴	昼午の刻頃未申の方に星現 (江戸表で鉄小銭吹立・銅小銭1貫文替え銭小銭100文銭取交1貫548文宛・内1貫500文は持主に48文は両替屋江下されるよう……、 上に続く
1860年	8月21日	万延元年	7月5日 晴	(去月12日の大風で神宮寺深砂宮大鳥井並びに中之鳥井が倒壊・建直しに1貫466文目3分9厘1毛・内386文目2分3厘6毛は中之鳥井分)
1860年	8月22日	万延元年	7月6日 快晴	
1860年	8月23日	万延元年	7月7日 快晴	(昨夜土手町で男2人が青森の者共に傷を追われる・5人を召捕り揚屋入り)
1860年	8月24日	万延元年	7月8日 快晴	(御家中御貸渡し綿30000把位の内5000把程残る・100石に付き10把を希望の者に貸し渡す)
1860年	8月25日	万延元年	7月9日 晴	下から続く 本家26軒・外馬屋13ヶ所・土蔵3ヶ所・他に勤番所焼失)
1860年	8月26日	万延元年	7月10日 快晴	(西洋流砲術訓練の教授方14人(師範の門弟2人宛?)に稽古料2人扶持・その手伝い28人に御手当て下し置かれる、去る6日夜四ツ時頃野内町で出火・嵐烈しく類焼 上に続く
1860年	8月27日	万延元年	7月11日 快晴	(青森善知鳥宮境内で14日より晴天7日相撲興行・札銭前々の通り4分宛、・長勝寺に御布施:導師銀1枚・和尚9人に青銅7文目宛・長老5人に青銅5文目宛・小僧1人に青銅3文目)
1860年	8月28日	万延元年	7月12日 晴	(深浦湊に荷揚げの品物と量を定める、出町某を今泉鉄山御用懸にとの人事異動、間道を忍入った武州の出家を乞食小屋引廻の上砦ヶ関口江送り返す、適切な対応の 欄外(*)に続く
1860年	8月29日	万延元年	7月13日 晴	
1860年	8月30日	万延元年	7月14日 快晴	
1860年	8月31日	万延元年	7月15日 曇	

(*)上乗下乗に御酒代(鳥目5貫文・鳥目4貫文)、去る6日夜の野内町の出火で存命不定の怪我人1人・火元慎)

1860年	9月1日	万延元年	7月16日 快晴
1860年	9月2日	万延元年	7月17日 快晴 (14日暁六時前下十川村で出火・建家並びに外馬屋焼失・火元御代官にて呵置く)
1860年	9月3日	万延元年	7月18日 曇 卯の刻過より雨降 午の刻頃止
1860年	9月4日	万延元年	7月19日 曇 (この度吹き立の新小判・1分判・2分判・2朱金とも4月10日夜通用させ保字・正字小判・1歩並びに2歩判・2朱金と引き換える、人事異動、江戸で掃除小人出奔)
1860年	9月5日	万延元年	7月20日 曇 申の刻過より雨降 夜に入亥の頃止 (今日南溜池で御名代として御家老中水練見分・御酒4斗・鯛8把・鮎(何でしょうね)8掛・真桑瓜200を水練の面々に下し置かれる)
1860年	9月6日	万延元年	7月21日 曇 辰の刻頃小雨降 即刻止 (大組足軽宅から品々を盗み取った男(子供?)を揚屋入り、昨年柄滅石当分津出米御差留・積替え品なく生蠟の類別けても入り不足・津開を仰せ付ける)
1860年	9月7日	万延元年	7月22日 曇 辰の刻頃より雨時々降 午の刻頃止
1860年	9月8日	万延元年	7月23日 晴
1860年	9月9日	万延元年	7月24日 曇
1860年	9月10日	万延元年	7月25日 晴 (去る6日の野内町の焼失26軒に廻3俵宛御手当て下し置かれる)
1860年	9月11日	万延元年	7月26日 晴
1860年	9月12日	万延元年	7月27日 曇 卯の刻過より雨降 (昨夜藤崎御蔵御長屋焼失) 下から続く 当年は4月19日植付7月20日鎌入れで90日目・当年は昨年に引合2日早く節に引合1日早い)
1860年	9月13日	万延元年	7月28日 曇 昨夜よりの雨今日及 時々降 (ケヘール剣(金偏に刃で意味は剣:銃剣かな?)出来方の儀に付委細申し出で直又……、御初米去年は5月8日植付8月11日鎌入れで92日目 上に続く
1860年	9月14日	万延元年	7月29日 曇 昨夜よりの雨今日に及 時々降
1860年	9月15日	万延元年	8月1日 曇 酉の刻過少々雷鳴 昨夜よりの雨今日二及 時々降 午の刻過止 (棟方某を御使番に等多数の人事異動、この度大判吹き直しはまでの大判と引き換え、三之北御門外土堀倒損に付……)
1860年	9月16日	万延元年	8月2日 曇 下から続く 担当の御目見以下御留守居支配も俵子10俵召上げの上役下げ・榎100万枚余木舞5万本の不品・大組与力横岡幸太郎等も御目見以下御留守居支配等に役下げ)
1860年	9月17日	万延元年	8月3日 曇 昨夜よりの雨今日二及時々降 申の刻頃止 6日から続く 見逃した御手廻の倅を隠居・直接担当?の(御目見以下)御留守居支配の勤料10俵召上げ長柄の者江役下げ・ 上に続く
1860年	9月18日	万延元年	8月4日 曇 (別段廻に御賞・廃止、去月29日夜広須組吉岡村の灰捨て場から出火・建家等焼失・火元百姓御代官にて呵置く、松前から煙硝の注文・10貫目入り1樽に付御役10文目宛上納申付ける)
1860年	9月19日	万延元年	8月5日 曇 昨夜よりの雨今日に及 午の刻頃止 (百石町裏通り土淵川沿いに屋敷地を作る?、当春駒越組村市村の猟師が熊3疋取る・鳥目3貫文下々位の熊の皮1枚下し置かれる・熊皮は有合せなし)
1860年	9月20日	万延元年	8月6日 晴 (4月27日一間所を破り出奔の大里某あり・担当者の御徒小頭格等4人を親返し役下げ・足軽代目付けから御城付足軽に役下げ、去る卯年鍛冶町土場の懸け合いで不正を 3日に続く
1860年	9月21日	万延元年	8月7日 曇 (去月6日夜祢婦多の節度土手町で喧嘩で手傷あり、去る2日柏木組夕顔蘭村で傷害事件)
1860年	9月22日	万延元年	8月8日 曇 巳の刻過ぎより雨時々降 申の刻頃止
1860年	9月23日	万延元年	8月9日 晴 (宇和野で両組頭内習高覧)
1860年	9月24日	万延元年	8月10日 晴 (来る12日より晴天5日の相撲興行・1人前1文目1分上棧敷4文目下棧敷3文目5分と申し出る・1人前4分上棧敷3文目下棧敷2文目5分に申付ける)
1860年	9月25日	万延元年	8月11日 晴
1860年	9月26日	万延元年	8月12日 快晴 (御誕生日に付何れも麻上下着用、御発駕日限来月10日と仰せ出される、去月26日青森出帆の当江戸廻船が3日大風雨で荷打ち・南部鮫浦に・勘定小頭等派遣)
1860年	9月27日	万延元年	8月13日 晴
1860年	9月28日	万延元年	8月14日 晴 昨夜酉の刻過より雨降 丑の刻過止
1860年	9月29日	万延元年	8月15日 曇 今晩子の刻過雨時々降 辰の刻頃止 (深浦で米価高値・小者共に補助米・御酒等下し置かれる、30日間の浄瑠璃興行、去月6日の野内町の26軒に3俵宛の手当に御米1俵宛追加する)
1860年	9月30日	万延元年	8月16日 晴
1860年	10月1日	万延元年	8月17日 快晴 (三之丸で弓術高覧、4人扶持年頭御目見練屋藤兵衛儀病死)
1860年	10月2日	万延元年	8月18日 曇 未の刻過雨降 (三之丸御馬場で射芸高覧、御軍艦操練所御手広二相成候に付陪臣有志の者御家人同様勝手次第稽古御差許す、江戸で去月5・8・13・29日と御家中が病死)
1860年	10月3日	万延元年	8月19日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降
1860年	10月4日	万延元年	8月20日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 申の刻過止
1860年	10月5日	万延元年	8月21日 晴 (……29日大手先武芸御見分所……、杉山町を大浦町細小路にと改称、送り返した武州の出家が又忍び入っている・揚屋入りとする)
1860年	10月6日	万延元年	8月22日 晴
1860年	10月7日	万延元年	8月23日 曇 午の刻過小雨降 即刻止
1860年	10月8日	万延元年	8月24日 曇 卯の刻過雨降 則刻止 (百姓達が御蔵に持ち込む米の計り方でもめている・作が悪く緊張感が漂っている)
1860年	10月9日	万延元年	8月25日 曇 亥の刻過より雨時々降 午の刻過止 今朝岩木山江雪初而見へる (改めて高橋某に諸稗の惣改めを申し付ける、式部少輔様より町奉行に川鯉1尺宛贈られる)
1860年	10月10日	万延元年	8月26日 曇 (5月27日青森出帆の御廻船が当月4日仙台領気仙(沼)沖で難船・当月16日南部領鍛ヶ崎江入津・鯨が浦で難船した船の見分に行っていた勘定小頭にもう一仕事させる)
1860年	10月11日	万延元年	8月27日 曇 午の刻頃より雨降 酉の刻頃止 (去る25日昼金木組高根村で出火・類焼共3軒焼失・火元他村預け、御鑑札のない黒石の酒屋3軒の道具封印)
1860年	10月12日	万延元年	8月28日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 午の刻過止 (人事異動、御賞、孝心奇特として御褒美御米2俵3匁下し置かれる)
1860年	10月13日	万延元年	8月29日 曇 (不筋の長柄之者の御給分召上げ永の暇、非常大赦の前の盗み松前往来の男に3鞭居町徘徊はまで通り) 下から続く 玉筒4挺を武州川口宿で鑄立て公儀へ報告、江戸で人事異動)
1860年	10月14日	万延元年	9月1日 曇 今晩寅の刻過より小雨時々降 夜に入 戌の刻過止 (人事異動、江戸で5月25日付で箱館詰人数200人とスツ・詰人数100人の交代が済んだことを公儀に報告している、3貫目 上に続く
1860年	10月15日	万延元年	9月2日 晴
1860年	10月16日	万延元年	9月3日 晴
1860年	10月17日	万延元年	9月4日 曇 巳の刻過より雨時々降 申の刻過止 (砲術皆伝が済んだ長柄之者を御目見以下御留守居支配に申付ける、当春松前鮓場で大泊村の船の水主が海に落ち行方不明)
1860年	10月18日	万延元年	9月5日 曇 (当春松前鮓場で曇月村の船が5月12日フナカクシと申すところで破船・2人海死、古懸(ここで平出)不動尊御出汗・神楽料等を渡す・五山に御祈禱を申し遣わす)
1860年	10月19日	万延元年	9月6日 曇 辰の刻過雨降 則刻止 (10日発駕予定を15日と仰せ出される)
1860年	10月20日	万延元年	9月7日 晴 (山の過伐51本を見逃した山役人警固を動料差引掃除小人に役下げ) 下から続く 当年参府の節5丁増やし今後10挺とする、江戸で人事異動)
1860年	10月21日	万延元年	9月8日 晴 戌の刻頃より雨降 (南溜池土居通りに植付けた松桜を徒伐等するものあり・捕まえるよう申付ける、山本勘助流兵法修行……、昨年江戸から発足の節ケヘール筒5挺持つ・ 上に続く
1860年	10月22日	万延元年	9月9日 曇 昨夜よりの雨今晚丑の刻頃止 巳の刻過より雨降 則刻止 下から続く 他入合衆の越中富山の菓を御国製に仕立隠し売りした菓種家業の男を取放し富山から来た者共を送り返す)
1860年	10月23日	万延元年	9月10日 曇 (椿苗を仕立てる百姓等4人に帯刀御免の上苗字を名乗らせる、遠馬の道筋あり・東外御門より……・悪戸村・瀬戸焼御覧・常盤山後通・袋宮寺前・山道町・荒町・常源寺坂……、 上に続く
1860年	10月24日	万延元年	9月11日 曇 巳の刻頃より小雨降 則刻止 (人事異動、頂戴した稽古馬を馬屋に入れろとの指示、津軽屋太左衛門から(下されると通知があった?)10両では不足との文句・御手当て30両下し置かれる)
1860年	10月25日	万延元年	9月12日 曇 (西洋砲術の繰練が進まず奨励している、高岡御大祭に関し多数に銀子1〜5枚・金100疋を下し置かれる、五重塔の屋根廻りが銅葺か否かでもめている)
1860年	10月26日	万延元年	9月13日 晴 (参勤交代の砌の非常呼集(多分伸びて通行している)に拍子木を3つ持つようにしている)
1860年	10月27日	万延元年	9月14日 快晴 (5月26日に不調法として身上召上げの兼松某の養子が認められる、椿仕立方並びに紙漉御元入金として1500両差上げを申入れた三国屋某に生涯10人扶持下し置かれ帯刀御免)
1860年	10月28日	万延元年	9月15日 晴 戌の刻過より雨時々降 (殿様が今日四時前御発駕)
1860年	10月29日	万延元年	9月16日 曇 昨夜よりの雨今日二及 時々降 午の刻頃止
1860年	10月30日	万延元年	9月17日 晴 (村方御收納米一番皆済の庄屋と百姓に御酒代(1貫500文・1貫文)、10日に家業の男を取放した菓種家業の本町1丁目の名主と五軒組合にも戸ㄨ)
1860年	10月31日	万延元年	9月18日 晴 酉の刻頃より雨降 戌の刻過止 (式部少輔家から砲術稽古の願いが来ている、当6月岩木川出水で目屋野沢で流散木・隠揚げ木20本御取上げ)

1860年	11月1日	万延元年	9月19日 曇	(家中屋敷数所々で盗みの男に3鞭弘前御構)
1860年	11月2日	万延元年	9月20日 曇	今暁子の刻過より雨降 辰の刻頃止 (無届で仙台の男を永く泊めた男に戸ノ15日・名主等にも戸ノ10日)
1860年	11月3日	万延元年	9月21日 晴	
1860年	11月4日	万延元年	9月22日 曇	巳の刻過より小雨降 則刻止 (今泉山で砂鉄吹き立ての処追々盛産に相成候江共他邦鉄入り込み売捌き方……他邦鉄入り込み停止・値段等の願い)
1860年	11月5日	万延元年	9月23日 曇	25日から続く(内容的には27日の分) 去る23日屋四時頃後潟組蓬田村で灰捨て場より出火・外馬屋焼失立馬1疋焼斃・御代官にて火元を呵置く)
1860年	11月6日	万延元年	9月24日 曇	昨夜雪降 五寸程積 今日雪少し降 (売出米を御定法で割合すると酒1升に付2文目3分2毛余に相当・1升を2文目4分に1合売りは2分5厘に申付ける)
1860年	11月7日	万延元年	9月25日 曇	昨夜雪ス 二寸程積 今日雪降 二寸程積 (人事異動) 儀: 江戸表で不埒の掃除小人が手錠で到着・揚屋入り、当5月25日の出水で赤石組で田畑川欠け、 23日に続く
1860年	11月8日	万延元年	9月26日 曇	卯の刻過より雨時々降 亥の刻頃止 (両浜津出御印(1俵) 2俵: 玄米25文目→8文目・白米と餅米27文目→10文目・白餅米29文目→12文目に申し付ける)
1860年	11月9日	万延元年	9月27日 曇	申の刻頃より雨降 夜二入同断 (太白砂糖がこの節格別払底・幸い深浦表に太白積入れた船が入り手付金を渡し約定したが深浦湊は荷揚げできない・今回限りで認める、 25日に続く
1860年	11月10日	万延元年	9月28日 曇	昨夜より之雨今日ニ及ひ午の刻頃止 (砲術稽古の内習等に精勤の斉藤某に御酒御吸物(銀子2枚)、上村である油川組新城村から田方五ツ成り下ヶ願い・3カ年認める? 欄外(*)に続く
1860年	11月11日	万延元年	9月29日 晴	(盗み徒閑所口偽り通りの男に9鞭居村徘徊是まで通り)
1860年	11月12日	万延元年	9月30日 晴	(去月22日青森柿崎上総門前に2ヶ月位の子捨子・拾い取養育する) 下から続く 当7月に焼失した藤崎御蔵長屋の拵頭2人に不しまりとのこともなく軽い処分)
1860年	11月13日	万延元年	10月1日 曇	午の刻過より雨時々降 夜二入同断 (昨年の御収納が早かった代官たちに御賞(金150疋・金2歩2朱・金1歩・鳥目700文・同500文)、軍艦操練所御手広になり有志誰でも差許す、 上に続く
1860年	11月14日	万延元年	10月2日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 午の刻過止
1860年	11月15日	万延元年	10月3日 曇	戌の刻頃小雨降 則刻止 下から続く 呵置き出来米並びに稲草は見分の上御収納御免とする、米御買上値段1俵40日・御家中御買上は40日4分に申付ける)
1860年	11月16日	万延元年	10月4日 晴	(去月6日より加州船が富港村下浜に乗揚ヶ破船・富港辺の者共乱妨・探索人を出す、一昨晦日之夜九ツ時頃大光寺組館山村で出火・建家外馬屋土蔵等焼失・火元を代官にて 上に続く
1860年	11月17日	万延元年	10月5日 快晴	
1860年	11月18日	万延元年	10月6日 曇	申の刻頃より雨時々降 夜二入同断 下から続く 殿様は19日湊駅着23日まで感冒にて逗留、江戸で御門不しまりで何人か罰せられている)
1860年	11月19日	万延元年	10月7日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 辰之刻過止 (式部少輔様から西洋流砲稽古の銃等一式の無心・何とかしみたい、去る4日飯詰組朝日村の山で45歳の男が縊死・役筋見分片付ける、 上に続く
1860年	11月20日	万延元年	10月8日 曇	(交代前に勘定を差出した亀甲御蔵立会と御蔵奉行に御賞(金100疋宛))
1860年	11月21日	万延元年	10月9日 曇	未の刻頃より雨時々降 夜二入同断 (当閏3月に大坂御廻船に乗参り送り返されたが高野山に抜け参りをした深浦町の女に15鞭居村徘徊はまで通り・関係五軒組合にも戸ノノ)
1860年	11月22日	万延元年	10月10日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及ぶ 時々降 夜二入同断 (赤石組支配南浮田村の位下げ(税の減免)を申付ける・期間不明、去る5日夜木造新田館岡村で出火・居宅等焼失・火元呵置く、人事異動)
1860年	11月23日	万延元年	10月11日 曇	昨夜よりの雨今日ニ及 時々降 未の刻頃止 (武器嗜みで御賞(金300疋)、去る8日夜柏木組中泉村で出火・稲草焼失・火元代官にて呵置き稲草は役筋見分)
1860年	11月24日	万延元年	10月12日 曇	(紙漉き座・楮仕立てに力を入れているらしいが担当が多忙で成果は……、人事異動、本町の木綿・正礼家業の者共の商売がうまく行っていない・上方等の触れ売りを停止・取押える)
1860年	11月25日	万延元年	10月13日 曇	昨夜雪降 三寸程積 今日雪降 五寸程積
1860年	11月26日	万延元年	10月14日 曇	(高岡御宮御手入れて御賞(金100疋・銀5両)御酒代(鳥目800文・300文)、野内町の戸数82軒、去月鞭刑の男が当月4日に又盗み・当分入牢)、
1860年	11月27日	万延元年	10月15日 曇	(人事異動、去月28日今別出帆の船が南部領仏ヶ浦と申す処で破船・3人海死)
1860年	11月28日	万延元年	10月16日 曇	今日雪降 三寸程積 (昨夜工藤伝兵衛(用人)が病死)
1860年	11月29日	万延元年	10月17日 曇	(深浦より女を乗せた大坂廻船の上乗り下乗りに御手当て(対応が良かったのでしょうか)) 下から続く 残って64文目1分3厘)
1860年	11月30日	万延元年	10月18日 晴	(当新穀津出御印は上方の米価も判らないが松前表の情報から1俵で: 玄米15文目・白米と餅米17文目・白餅米19文目に申付ける) 下から続く 内1文目2分御定役引き 上に続く
1860年	12月1日	万延元年	10月19日 晴	下から続く 弘前御印御蔵米1俵62文目(64文目立の内御蔵掛仲買口銭並びに抜料とも2文目引き: 意味不明)・青森72文目・鰺ヶ沢62文目・3ヶ所平均65文目3分3厘 上に続く
1860年	12月2日	万延元年	10月20日 曇	申乃刻過より雨時々降 亥の刻過止 (人事異動) 下から続く 1樽7文目居り・味噌2斗入り1樽10文目居り・白酒2斗入り1樽12→9文目・酢2斗入り1樽2文目5分→2文目、 上に続く
1860年	12月3日	万延元年	10月21日 曇	今日雪少し降 (秋田で大豆不作3斗入り1俵が3歩余に付碇ヶ関口より多分隠し出・海岸通も含め出さないようにする) 下から続く 糶4斗入り1俵12→8文目・醤油2斗入り 上に続く
1860年	12月4日	万延元年	10月22日 晴	亥の刻頃雨降 即刻止 (江戸から本を38冊・同時に御日記清書済みの安政4年正月から8月迄(6月を除く)8冊を持ってくる、酒御印代(2斗入り1樽)10文目→7文目・以下御役銭 上に続く
1860年	12月5日	万延元年	10月23日 曇	今暁寅の刻より雨降 卯の刻過止
1860年	12月6日	万延元年	10月24日 曇	昨夜雪少し降 (家出し松前で隠し売女の親たちに戸ノノ30日・名主等にも相当の罰、一間所(座敷牢?)取建て代銭が166匁7分6厘、小児虫薬としてセメンシーナという用語あり)
1860年	12月7日	万延元年	10月25日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 一寸程積 (御定法で割合すると水油1升が6文目7分6厘余に相当・1升売りは6文目7分4文・1合売りは6分5文に申し付ける、博打徒等の男を入牢)
1860年	12月8日	万延元年	10月26日 快晴	下から続く 4月より6文に申付ける、猿賀組浅瀬石村で喧嘩倒死の30歳位の男あり・御家中の弟、参勤に届出がない8文目筒15挺があり中田御閑所で揉めている)
1860年	12月9日	万延元年	10月27日 曇	亥の刻頃より雨降 即刻止 下から続く 通るよう申付ける、6月7月と2度の送り返しに戻った武州男を乞食小屋引廻しの上送り返す、湯銭を3月まではまで通り7文・ 上に続く
1860年	12月10日	万延元年	10月28日 曇	今暁寅の刻過より雨降 卯之刻頃止 今日雪降 七寸程積 (秋田大館から公式に大豆700石買入申し出・20石買入を許し碇ヶ関で1俵に付19文目(御印値段相当)上納の上 上に続く
1860年	12月11日	万延元年	10月29日 曇	今日雪少し降 (今日昼過ぎ下土手町で出火) 下から続く 白餅米19→29匁(久し振りに匁を見たな・文目と意味同じ・混用)、上方で岡大豆1石180文目余・津出御差留め)
1860年	12月12日	万延元年	11月1日 晴	(御賞、人事異動、昨29日屋下土手町に出火・類焼1軒潰家1軒・火元入寺の上慎) 下から続く 出来次第売る、津出御印代1俵: 玄米15匁→25匁・白米と餅米17→27・ 上に続く
1860年	12月13日	万延元年	11月2日 曇	(去月24日夜金井ヶ沢支配田野沢村前浜に朱之丸御城米船積破船・同村の者共不埒之致し方……、人事異動、御目見以上の希の族に刀1本251文目・脇差1本156文目積にて 上に続く
1860年	12月14日	万延元年	11月3日 晴	
1860年	12月15日	万延元年	11月4日 曇	辰之刻頃より小雨降 申之刻頃止
1860年	12月16日	万延元年	11月5日 曇	昨夜雪少し降 今日雪少し降 (高賀野村の男(10月28日記述の殺人容疑者)を召捕り入牢、去る3日夜赤田組福野田村で出火・建家穀物等焼失・火元百姓を呵置き役筋見分)
1860年	12月17日	万延元年	11月6日 晴	(松前の新鯔漁を差し止めてくれといっているのかな?) 下から続く 神楽祈祷を仰せ付ける)
1860年	12月18日	万延元年	11月7日 曇	今暁寅之刻過より雨時々降 亥之刻頃止 (去月15日江戸発の五郎左衛門が到着、人事異動、多数に御賞(殆ど150疋)、今7日巳之中刻百沢下居宮並びに大堂御本尊が御出汗・ 上に続く
1860年	12月19日	万延元年	11月8日 曇	(人事異動、御用所に差出す書付は四半時(午後3時位?)までにとの指示)
1860年	12月20日	万延元年	11月9日 曇	昨夜雪降 三寸程積 (秋田から大豆500俵購入依頼・150俵を1俵に付19匁上納とする)
1860年	12月21日	万延元年	11月10日 曇	今日雪降 三寸程積 (去月18日江戸発の荘司が昨9日到着、加州船の破船場より盗みの16人(2日記述)を揚屋出の上入牢、碇ヶ関から大豆を隠し出した名主等4人を揚屋入り)
1860年	12月22日	万延元年	11月11日 曇	昨夜雪降 二寸程積 今日雪降 二寸程 (交代即日勘定差出の御蔵立会・御蔵奉行に御賞金100疋充下し置かれる、碇ヶ関方面で大豆集め隠し出しの者が多数捕まっている)
1860年	12月23日	万延元年	11月12日 晴	昨夜雪少し降 (人事異動)
1860年	12月24日	万延元年	11月13日 晴	今日雪少し降
1860年	12月25日	万延元年	11月14日 曇	昨夜雪降 二寸程積 (柿崎等2人に10人扶持下し置かれ御用達仰せ付ける)
1860年	12月26日	万延元年	11月15日 曇	(人事異動、昨年スツ・で御手舟破船の見分等の勘定人加勢等に御賞(金300疋)・御酒代(鳥目3貫文等))
1860年	12月27日	万延元年	11月16日 曇	今日雪少し降 (新穀附相場平均1俵45文目二相当・その後値段増し・米1俵代50目とする、在方より30000俵御買入れ予定がとても10000俵より都合できないので)
1860年	12月28日	万延元年	11月17日 曇	昨夜雪少し降 (開発に深く心を入れ奇特として広須組出野里村の男(苗字あり)の田方30人役(にんやく・弘前藩での田畑の計量単位: 具体量不明だが1反強との説あり)御免引き)
1860年	12月29日	万延元年	11月18日 曇	昨夜雪少し降 卯の刻頃小雨降 則刻止 (人事異動、去月8日中泉村の出火に伴う上納御免: 御収納米3石4斗6升5合・銭3文目7分8厘、去月晦日の館山村の出火の 欄外(**)に続く
1860年	12月30日	万延元年	11月19日 曇	
1860年	12月31日	万延元年	11月20日 曇	(人事異動、是まで米1俵42文目立のところに2匁増し44匁立・御家中渡は4分増として明21日渡より御買上げ: 文目と匁を混用している例)

(*)去る17日秋田釈迦内村の夫婦が早瀬野間道を通る・碇ヶ関送り返しとする、諸手足軽からトントロ懸合いに等の人事異動、去る7日深浦湊で水主病死・浄念寺に土葬)

(**)上納御免: 御収納米20石6斗7升3合・銭22文目5分5厘、味噌津出御役銭(1樽)を10文目→20文目と申し付ける)